

取扱説明書



# DORICO PRO<sup>2</sup>

Advanced Music Notation System

Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Lillie Harris, Christina Kaboth, Insa Mingers, Matthias Obrecht, Sabine Pfeifer, Benjamin Schütte, Marita Sladek

この PDF マニュアルでは、目の不自由な方のための高度なアクセシビリティ 機能を提供しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。本書で取扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます(バックアップコピー)。Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的に限り、本書を 1 部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。詳しくは、[www.steinberg.net/trademarks](http://www.steinberg.net/trademarks) をご覧ください。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2020.

All rights reserved.

Dorico\_2.2.20\_ja-JP\_2019-09-19

# 目次

<b>9</b>	<b>はじめに</b>	<b>293</b>	<b>浄書モード</b>
9	プラットフォーム非依存文書	293	浄書モードのプロジェクトウィンドウ
9	表記規則	302	「浄書オプション (Engraving Options)」ダイアログ
11	Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法	304	マスターページ
<b>12</b>	<b>ファーストステップ</b>	321	フロー見出し
12	操作の概要	325	フレーム
20	新規プロジェクトの開始	345	ページレイアウト
22	作曲	367	テキストの形式設定
<b>27</b>	<b>Dorico Pro のコンセプト</b>	382	音楽記号
27	デザイン方針とハイレベルコンセプト	385	音符のスペーシング
28	主要な音楽的コンセプト	395	譜表のスペーシング
<b>32</b>	<b>ユーザーインターフェース</b>	<b>404</b>	<b>再生モード</b>
32	ウィンドウ	404	再生モードのプロジェクトウィンドウ
44	ワークスペースの設定	409	「再生オプション (Playback Options)」ダイアログ
50	「環境設定 (Preferences)」ダイアログ	411	イベントディスプレイ
<b>58</b>	<b>プロジェクトとファイルの処理方法</b>	417	トラック
58	Hub	435	再生ヘッド
62	異なるバージョンの Dorico のプロジェクト	436	楽譜の再生
63	ファイルの読み込みと書き出し	441	再生テンプレート
80	自動保存	442	スウィング再生
82	プロジェクトのバックアップ	448	ミキサー
<b>84</b>	<b>設定モード</b>	450	トランスポートウィンドウ
84	設定モードのプロジェクトウィンドウ	452	エンドポイント
92	「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ	456	エクスペリションマップ
93	「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログ	464	パーカッションマップ
96	プレーヤー、レイアウト、フロー	470	演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション
97	プレーヤー	<b>473</b>	<b>印刷モード</b>
104	アンサンブル	473	印刷モードのプロジェクトウィンドウ
105	インストゥルメント	477	レイアウトの印刷
118	プレーヤーグループ	480	グラフィックファイルとしての書き出し
120	フロー	484	プリンター
123	レイアウト	485	印刷/書き出し用のページ配置
128	ビデオ	487	両面印刷
<b>135</b>	<b>記譜モード</b>	488	ページサイズと用紙サイズ
135	記譜モードのプロジェクトウィンドウ	489	グラフィックファイルの形式
143	「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログ	490	注釈
145	「音符入力オプション (Note Input Options)」ダイアログ	<b>492</b>	<b>記譜に関するリファレンス</b>
146	入力と編集	<b>493</b>	<b>はじめに</b>
148	リズムグリッド	<b>494</b>	<b>臨時記号</b>
149	音符の入力	494	臨時記号の削除
179	MIDI 録音	495	臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける
186	記譜記号の入力	496	浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する
275	編集と選択	496	臨時記号のスタック
284	ガイド	497	オルタードユニゾン
285	配置ツール	498	微分音の臨時記号
291	フローの分割	499	臨時記号の有効範囲ルール

503	<b>アーティキュレーション</b>	580	コード記号の移調
504	アーティキュレーションのコピー	581	コード記号を表示/非表示にする
504	アーティキュレーションの変更	581	コード記号のルートとクオリティーを表示/非表示にする
504	アーティキュレーションの削除	582	コード記号の位置
505	浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する	585	コード記号の異名同音の表記を変更する
505	アーティキュレーションの位置	586	MusicXML ファイルから読み込まれたコード記号
509	再生時のアーティキュレーション		
510	<b>小節</b>	587	<b>音部記号</b>
510	小節/拍の削除	588	音部記号の一般的な配置規則
512	小節の長さの変更	588	プロジェクト全体における音部の間隔のスペーシング
512	空白の小節の幅を変更する	590	音部記号の削除
513	小節の分割	590	音部記号の変更におけるデフォルトのサイズ
514	小節の結合	591	装飾音符に対する音部記号の位置を変更する
515	<b>小節線</b>	591	実音と移調音で異なる音部記号を設定する
517	浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する	592	音部記号の移調
517	小節線のフローごとの記譜オプション	593	<b>オクターブ線</b>
518	調号の変更位置の小節線を変更する	594	浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する
519	小節線の削除	594	オクターブ線の長さを変更する
519	小節線のスペーシング	595	オクターブ線の角度の変更
520	譜表グループをまたぐ小節線	596	オクターブ線の位置
525	<b>小節番号</b>	599	オクターブ線の削除
525	小節番号の外観	599	浄書モードのオクターブ線
531	パートレイアウトでの小節番号	600	タッキングインデックスのプロパティ
532	長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする	602	<b>キュー</b>
532	ガイド小節番号の表示/非表示	602	キューの配置と記譜に関する一般的な表記規則
533	小節番号の位置	603	リズムによるキュー
536	小節番号の変更	605	キューのオクターブを変更する
538	サブ小節番号	606	キューラベルのオクターブ移調を表示/非表示にする
539	小節番号とリピート	606	キューの移動
543	<b>連桁</b>	607	キューの長さの変更
543	手動で音符に連桁を付ける	608	キューの削除
544	不完全連桁の方向を変更する	608	浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する
545	連桁グループ	608	キューの内容
547	譜表に対する連桁の位置	609	キューラベル
547	連桁の傾斜	612	キューの記譜記号
549	中央配置の連桁	613	レイアウト内のキューを表示/非表示にする
550	譜表をまたぐ連桁の作成	614	キューの符尾の方向
554	連桁のでっぱり	615	キューのタイ
554	第2連桁	615	キューの休符
555	連桁内の連符	616	キューの音部変更記号
556	ステムレット	618	キューの表示オプション
557	扇形連桁	620	<b>強弱記号</b>
559	<b>音符と休符のグループ化</b>	620	強弱記号のタイプ
559	拍に従う連桁グループの表記規則	621	浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する
560	拍子のカスタム連桁グループを作成する	621	強弱記号の位置
561	<b>大括弧と中括弧</b>	626	括弧付きの強弱記号の表示
562	第2括弧	626	強弱記号の背景の塗りつぶし
563	小副括弧	627	強弱記号のコピー
564	浄書オプションで大括弧(ブラケット)と中括弧(ブレイス)の設定をプロジェクト全体に適用する	628	強弱記号の削除
564	アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化	628	声部固有の強弱記号
566	カスタムの譜表のグループ化	629	ニエンテのヘアピン
571	<b>コード記号</b>	630	表現テキスト
571	コードの構成要素	631	段階的強弱記号
571	浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する	638	強弱記号のグループ
572	コード記号の外観のプリセット	640	複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号
		642	強弱記号のフォントスタイル
		644	強弱記号の再生オプション

646	<b>フィンガリング</b>	712	歌詞番号
646	フィンガリングの一般的な配置規則	714	日本語の歌詞でのスラー
647	浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する	<b>715</b>	<b>音符</b>
647	フィンガリングを替え指のフィンガリングに変更	715	浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する
648	既存のフィンガリングの変更	717	符頭セット
649	フィンガリングの表示位置の移動	729	音符のサイズを個別に変更する
651	フィンガリングのサイズを変更する	730	音符の位置の移動
651	フィンガリングに囲み線/下線を表示する	731	加線の幅を個別に変更する
652	フィンガリングの表示/非表示	732	付点の統合
653	フィンガリングの削除	733	個々の音符について演奏する弦を指定する
653	フィンガリングのフォントスタイル	<b>735</b>	<b>装飾音</b>
655	親切フィンガリング	735	浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する
656	バルブ式金管楽器のフィンガリング	736	装飾音の音程の変更
658	弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示	737	装飾音の位置
659	MusicXML ファイルから読み込まれたフィンガリング	740	トリル
<b>660</b>	<b>前付け</b>	743	トリルの音程
660	デフォルトのマスターページに使用されるプロジェクト情報	748	再生時のトリル
661	マスターページへの献呈の追加	<b>751</b>	<b>アルペジオ記号</b>
662	プレーヤーリストを追加する	752	アルペジオ記号のタイプの変更
663	マスターページの欄外見出しのテキストの変更	752	アルペジオ記号の終端の外観を個別に変更する
<b>664</b>	<b>装飾音符</b>	753	アルペジオ記号の長さ
665	装飾音符の一般的な配置規則	754	アルペジオ記号の一般的な配置規則
666	装飾音符の位置をプロジェクト全体で変更する	756	浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する
667	装飾音符のサイズ	757	再生時のアルペジオ
667	装飾音符のスラッシュ	<b>760</b>	<b>グリッサンドライン</b>
669	装飾音符の符尾	760	グリッサンドの一般的な配置規則
669	装飾音符の連桁	761	浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する
<b>671</b>	<b>延長記号と休止記号</b>	761	空白の小節をまたぐグリッサンド
671	延長記号と休止記号のタイプ	761	グリッサンドのスタイルの変更
673	浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する	762	グリッサンドのテキストを個別に変更する
673	延長記号と休止記号の位置	763	グリッサンドの表示位置の移動
<b>678</b>	<b>調号</b>	764	グリッサンドのデフォルトの角度をプロジェクト全体で変更する
678	調号の配置	<b>766</b>	<b>ジャズアーティキュレーション</b>
679	調号のタイプ	767	ジャズの装飾音
680	浄書オプションで調号の設定をプロジェクト全体に適用する	768	浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する
680	調性システム	768	ジャズアーティキュレーションの表示位置の移動
690	調号の削除	770	既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する
691	同じ位置の複数の調号	770	スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する
691	調号の位置	771	ジャズアーティキュレーションの削除
694	選択した音符と同時に調号を移調する	<b>773</b>	<b>ページ番号</b>
695	異名同音の調号	774	マスターページでのページ番号の移動
696	予告の調号	774	ページ番号のパラグラフスタイル
<b>697</b>	<b>歌詞</b>	775	ページ番号の数字スタイルの変更
697	歌詞の一般的な配置規則	776	ページ番号を表示/非表示にする
698	浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する	<b>779</b>	<b>ペダル線</b>
698	歌詞のフィルター	780	サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示
699	歌詞のタイプ	785	ペダル線の位置
701	歌詞の音節のタイプ	788	ペダル線の長さの変更
702	既存の歌詞のテキストの変更	789	浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する
702	歌詞の位置	789	ペダル線の開始記号、フック、および延長線
705	歌詞のハイフンと歌詞の延長線		
708	歌詞のラインの削除		
708	歌詞のライン番号		
711	歌詞に使用するフォントスタイルの変更		

794	ペダル線の開始テキスト、延長テキスト、および復元テキスト	847	ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する
796	再生時のペダル線	848	リピート小節線による演奏回数を変更する
797	MusicXML ファイルから読み込まれたペダル線	<b>849</b>	<b>小節リピート記号</b>
<b>798</b>	<b>演奏技法</b>	850	浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する
798	浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する	850	小節リピート領域の繰り返されるフレーズの長さを変更する
799	演奏技法の位置	851	小節リピート領域を移動する
801	演奏技法へのテキストの追加	851	小節リピート領域の長さを変更する
802	テキストの演奏技法の背景の塗りつぶし	852	小節リピート領域の強調表示を表示/非表示にする
803	演奏技法の表示/非表示	852	小節リピート記号のカウント
803	カスタムの演奏技法	857	小節リピート記号のグループ化
812	再生時の演奏技法	<b>859</b>	<b>スラッシュ符頭</b>
<b>813</b>	<b>リハーサルマーク</b>	859	スラッシュ領域
813	リハーサルマークの一般的な配置規則	860	浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する
814	浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する	861	複声部におけるスラッシュ
817	リハーサルマークの位置	863	スラッシュ領域の分割
818	リハーサルマークの削除	864	スラッシュ領域の移動
819	リハーサルマークの順序の変更	864	スラッシュ領域の長さの変更
819	リハーサルマークのシーケンスタイプの変更	865	スラッシュ領域の符尾を表示/非表示にする
820	リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する	865	スラッシュ領域のカウント
821	リハーサルマークのフォントスタイルの編集	<b>869</b>	<b>休符</b>
<b>822</b>	<b>マーカー</b>	869	休符の一般的な配置規則
822	浄書オプションでマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する	870	暗黙の休符と明示的な休符
823	マーカーの垂直位置を変更する	872	休符のフローごとの記譜オプション
823	マーカーに表示されるテキストの変更	872	浄書オプションで休符の設定をプロジェクト全体に適用する
824	マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集	872	休符の色の表示
825	マーカーのリズム上の位置を変更する	873	休符の削除
825	マーカーのタイムコードを変更する	874	空白の小節で小節休符を表示/非表示にする
826	マーカーを重要なマーカーに指定する	874	長休符
826	マーカーを表示/非表示にする	876	休符を垂直に移動する
<b>828</b>	<b>タイムコード</b>	<b>878</b>	<b>スラー</b>
829	タイムコードの開始位置の値を変更する	879	スラーの一般的な配置規則
829	専用の譜表にタイムコードを表示する	883	浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する
830	マーカーのタイムコードの表示/非表示	883	譜表および声部をまたぐスラー
831	タイムコードの表示頻度を変更する	884	入れ子状のスラー
<b>832</b>	<b>リピート括弧</b>	885	スラーの位置の移動
832	リピート括弧でリピート回数の総数を変更する	886	スラーの長さの変更
833	浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する	887	複数の譜表にわたってリンクされたスラー
834	リピート括弧のセグメントの長さの変更	888	スラーのセグメント
835	リピート括弧の位置	889	浄書モードのスラー
837	リピート括弧に表示されるテキストの変更	893	大きなピッチ差をつなぐ短いスラー
837	リピート括弧の最終セグメントの外観を個別に変更する	894	スラーの高さ
838	リピート括弧のフックの長さを変更する	896	スラーの肩のオフセット
839	MusicXML ファイルのリピート括弧	897	スラーのカーブ方向
<b>840</b>	<b>リピートマーカー</b>	899	スラーのスタイル
841	浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する	902	スラーの衝突回避
841	リピートマーカーのパラグラフスタイル	903	組段およびフレーム区切りをまたぐスラー
842	コード/セーニョ記号のサイズの変更	904	再生時のスラー
842	リピートマーカーのインデックスの変更	<b>905</b>	<b>譜表ラベル</b>
843	リピートマーカーに表示されるテキストの変更	906	譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名
844	コードの前に表示される小節線の変更	907	譜表ラベルのパラグラフスタイル
845	リピートマーカーの位置	907	浄書オプションで譜表ラベルの設定をプロジェクト全体に適用する
		909	プロジェクト全体での譜表ラベルの長さの変更
		911	特定の位置の譜表ラベルの長さの変更

912	フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする	992	浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する
913	譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調	993	プロジェクト全体における拍子記号の間隔のスペーシング
914	打楽器キットの譜表ラベル	993	拍子記号のタイプ
<b>916</b>	<b>譜表</b>	995	弱起 (アウフタクト)
916	レイアウトごとの譜表のオプション	996	大きな拍子記号
917	譜表サイズ	998	拍子記号のスタイル
922	譜表線の太さの変更	1002	拍子記号の位置
922	譜表の削除	1005	拍子記号の表示/非表示
923	追加の譜表	1006	拍子記号の削除
927	オッサア譜表	1006	拍子記号のフォントスタイル
934	組段の分割記号	<b>1008</b>	<b>トレモロ</b>
935	組段オブジェクト	1009	タイのつながりの中のトレモロ
937	組段のインデント	1010	トレモロの一般的な配置規則
<b>939</b>	<b>ディヴィジ</b>	1010	トレモロの速さの変更
940	「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログ	1011	トレモロの削除
942	ディヴィジ作成を入力する	1012	トレモロが付いた音符の位置
943	既存のディヴィジ作成を編集する	1012	トレモロストロークの移動
943	ディヴィジ作成を移動する	1013	浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する
944	ディヴィジのパスセージを終了させる	1014	再生時のトレモロ
944	ユニゾン範囲	<b>1016</b>	<b>連符</b>
946	声楽の譜表のディヴィジ	1016	連符の一般的な配置規則
947	ディヴィジの譜表ラベル	1017	浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する
951	再生時のディヴィジ	1017	入れ子状の連符
<b>952</b>	<b>符尾</b>	1018	連符の音符上の記譜記号
952	浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する	1018	既存の音符を連符に変換する
953	符尾の方向	1019	連符から標準の音符に変換する
957	符尾の長さ	1019	連符の位置の移動
958	符尾の非表示	1020	連符の削除
958	オルタードユニゾンの分割された符尾	1020	連符の連桁
<b>960</b>	<b>テンポ記号</b>	1021	連符の角括弧
961	テンポ記号のタイプ	1025	連符の数や比率を示す数字
961	テンポ記号のテキスト	<b>1028</b>	<b>無音程打楽器</b>
963	テンポ記号の位置	1028	打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント
966	段階的テンポ変更の長さの変更	1029	打楽器キット
967	テンポ記号の表示/非表示	1030	浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する
967	テンポ記号の削除	1031	無音程打楽器のフローごとの記譜オプション
968	浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する	1031	打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する
968	テンポ記号の要素	1032	打楽器の音符をゴーストノートとして表示する
969	メトロノームマーク	1032	打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する
972	段階的テンポ変更	1032	打楽器キットの音符の記譜記号
974	テンポの等式	1034	打楽器キットの表示タイプ
<b>976</b>	<b>タイ</b>	1036	無音程打楽器の演奏技法
976	タイの一般的な配置規則	1040	打楽器のレジェンド
978	浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する	1044	打楽器キットにおける声部
978	タイのつながり	1045	再生モードにおける無音程打楽器
978	タイとスラー	1047	ユニバーサルインド太鼓記譜法
979	非標準のタイ	<b>1048</b>	<b>声部</b>
982	タイの削除	1048	複声部の音符位置
982	タイのつながりの分割	1049	声部のフローごとの記譜オプション
983	タイの位置や形状を個別に変更する	1050	声部カラーの表示
984	タイの肩のオフセット	1050	未使用の声部
985	タイの高さ	1051	声部の順番の入れ替え
987	タイのスタイル	1052	他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符
989	タイのカーブ方向	1052	スラッシュ符頭の声部
<b>991</b>	<b>拍子記号</b>	<b>1055</b>	<b>用語</b>
992	拍子記号の一般的な配置規則		





# はじめに

このたびは Dorico Pro をご購入いただきありがとうございます。

Steinberg の楽譜作成アプリケーションを末永くご愛用いただければ幸いです。

Dorico は、コンポーザー、編曲家、楽譜浄書家、出版社、演奏家、教員、学生などを対象ユーザーとした、美しい楽譜を作成できる次世代のアプリケーションです。Dorico は、楽譜を印刷する場合にも、デジタル形式で共有する場合にも最適な、非常に優れたプログラムです。

他のすべての Steinberg 製品と同様、Dorico は、その基礎部分から徹底して、ミュージシャンで構成されたチームによって設計されています。そしてミュージシャンだからこそ、ユーザーのニーズをしっかりと把握しており、使い方が簡単で覚えやすく、優れた結果を得られる製品を作り上げるために努力しています。また、Dorico と既存のワークフローを統合し、さまざまな形式でファイルを読み込んだり書き出したりできます。

Dorico は、ミュージシャンと同じ方法で音楽をとらえ、音楽の要素と実際の演奏に対し、他の楽譜作成アプリケーションよりも深い理解を備えています。独自の設計により、楽譜の入力や編集、スコアレイアウト、リズムの自由度、その他さまざまな関連領域について、これまでにない柔軟性を実現しています。

ぜひ本製品をご活用ください。

Steinberg Dorico チーム一同

## プラットフォーム非依存文書

このマニュアルには、Windows と macOS の両方のオペレーティングシステム用の内容が記載されています。

一方の OS 固有の機能や設定は、その旨が明記されています。記載がない場合は、Windows と macOS の両方に当てはまります。

注意事項:

- このマニュアルでは、macOS のスクリーンショットが使用されています。
- Windows の「**ファイル (File)**」メニューで使用できる機能の一部は、macOS ではプログラム名メニューにあります。

## 表記規則

本書では、表記上およびマークアップの要素を使用して説明しています。

## 表記上の要素

表記上の各要素は、以下の目的で使用されます。

**前提**

手順を開始する前に完了しておくこと、または満たす必要がある条件を示します。

#### 手順

特定の結果を得るために必要な手順を示します。

#### 重要

システムや接続されたハードウェアに影響を及ぼす可能性のある事項、またはデータ損失のリスクを伴う事項を示します。

#### 補足

考慮すべき事項を示します。

#### ヒント

追加の役に立つ情報を示します。

#### 例

例を示します。

#### 結果

手順の結果を示します。

#### タスク終了後の項目

手順を実行したあとに行なう操作または必要事項を示します。

#### 関連リンク

本書に記載のある関連トピックを示します。

## 強調表示

このマニュアルでは、ユーザーインターフェースの要素が強調表示されています。

メニュー、オプション、機能、ダイアログ、ウィンドウなどの名前は太字で表示されています。

---

例

**「プロジェクト情報 (Project Info)」** ダイアログを開くには、**「ファイル (File)」** > **「プロジェクト情報 (Project Info)」** を選択します。

---

太字が大なり記号で区切られている場合は、複数のメニューを連続で開くことを表わします。

---

例

**「設定 (Setup)」** > **「レイアウトオプション (Layout Options)」** を選択します。

---

ファイル名とフォルダーパスは、別々のフォントで表示されます。

---

例

example\_file.txt

---

## キーボードショートカット

キーボードショートカットは、一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。初期設定のキーボードショートカットの多くは修飾キーを使用しますが、修飾キーの一部はオペレーティングシステムによって異なります。

本書では、修飾キーを伴うキーボードショートカットを記述する場合、Windows の修飾キー、macOS の修飾キーの順に記述します。記載例は次の通りです。

---

例

**[Ctrl]/[command]+[Z]** と記載されている場合、Windows では **[Ctrl]** キー、macOS では **[command]** キーを押したままで、**[Z]** キーを押すことを指しています。

---

## Dorico Pro のキーボードショートカット

Dorico Pro のデフォルトのキーボードショートカットは、選択したキーボードのレイアウトによって変わります。

ツールまたは機能にマウスオーバーすると、表示されるメニューの括弧内に、そのツールや機能を有効または無効にするためのキーボードショートカットの情報が表示されます。

以下のいずれかの操作も実行できます。

- 「ヘルプ (Help)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」を選択し、「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウを開いて、すべての使用可能なキーボードショートカットを確認します。
- 「環境設定 (Preferences)」ダイアログで特定の機能やメニュー項目のキーボードショートカットを検索します。このダイアログでは、新しいキーボードショートカットを割り当てたり、デフォルトのキーボードショートカットを変更したりもできます。

関連リンク

[インタラクティブ「Dorico Pro キーボードショートカット \(Dorico Key Commands\)」マップ \(53 ページ\)](#)

[各機能のキーボードショートカットの検索 \(54 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(51 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(55 ページ\)](#)

## Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法

「ヘルプ (Help)」メニューから追加情報にアクセスできます。

このメニューには、Steinberg 社のさまざまな Web サイトへのリンクが表示されます。メニュー項目のいずれかを選択すると、Web ブラウザーが自動的に起動し、該当のページが開きます。開いたページから、サポート情報や互換性情報、FAQ、更新情報、他の Steinberg 製品の情報などにアクセスできます。

Web サイトにアクセスするには、コンピューターに Web ブラウザーがインストールされ、インターネットに接続されている必要があります。

# ファーストステップ

この章は、初めて Dorico Pro を使用する場合の手助けとなります。

初めて Dorico Pro を起動する場合、プロジェクトを開始する前にまずテンプレートを 1 つ開いて Dorico Pro のユーザーインターフェースと機能を確認することをおすすめしますが、この章を飛ばして実際に操作しながら確認しても問題ありません。

以下のセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 最も重要なワークスペースの概要
- 新規プロジェクトの設定
- 作曲およびスコアへの記譜項目の追加
- ページの配置および形式設定
- 作成した楽譜の再生
- 印刷と書き出し

## 操作の概要

以下のセクションでは、ユーザーインターフェースの概要を示し、Dorico Pro の構成について紹介します。

## テンプレートを開く

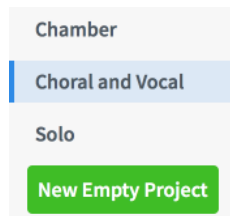
プロジェクトを開始する前に、Dorico Pro のユーザーインターフェースに慣れることをおすすめします。そのためには、まず、プログラムに含まれるテンプレートを 1 つ開きます。

前提

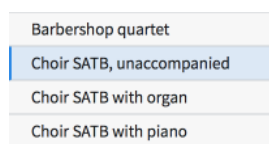
Dorico Pro を起動し、**Hub** が開いた状態にしておきます。

手順

1. **Hub** で、テンプレートグループを 1 つ選択します。たとえば、「合唱および声楽 (Choral and Vocal)」を選択します。



2. リストからテンプレートを 1 つ選択します。



### 3. 「テンプレートから新規作成 (New from Template)」をクリックします。

#### 結果

テンプレートが開きます。テンプレートのプレーヤーがプロジェクトに追加され、譜表が楽譜領域に表示されます。

#### 関連リンク

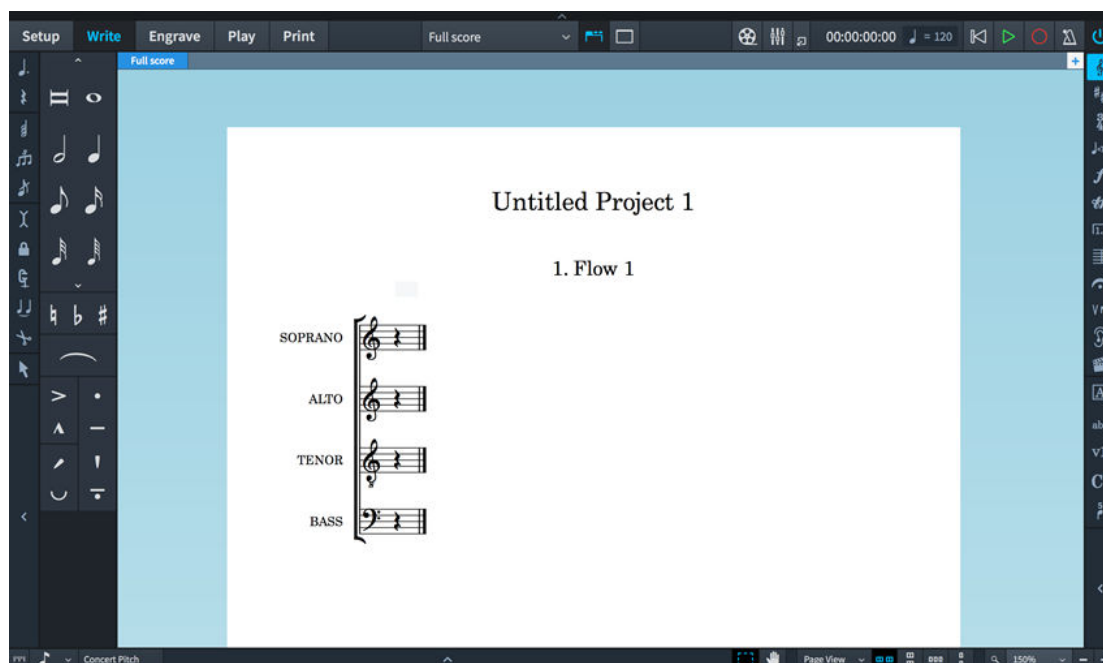
[Hub](#) (58 ページ)

## ユーザーインターフェースのクイックツアー

Dorico Pro のユーザーインターフェースは、スコア作成のワークフローの異なるフェーズを表わす各種モードで構成されています。

すべてのモードで同じ構造のユーザーインターフェースを使用しています。プロジェクトウィンドウの中央には、楽譜を編集するための大きな領域が常に配置されます。各モードでは、プロジェクトウィンドウの左右および下部に、使用するモードに応じた折り畳み可能なパネルが表示されます。パネルの内容は、選択したモードにより変化します。

テンプレートを開くと、最初のビューに記譜モードのプロジェクトウィンドウが表示されます。



テンプレートを開いたときのプロジェクトウィンドウ

プロジェクトウィンドウは、以下の領域で構成されています。

### ツールバー

プロジェクトウィンドウの上部に配置されています。



ツールバー

ツールバーの左側にモードが表示されます。モードを変更すると、ワークスペースと表示されるパネルが変わります。現在のモードは、異なる色で強調表示されます。ツールバーの中央にあるレイアウトオプションで、プロジェクト内の異なるレイアウトに切り替えたり、パネルとタブの表示/非表示を切り替えたりすることができます。

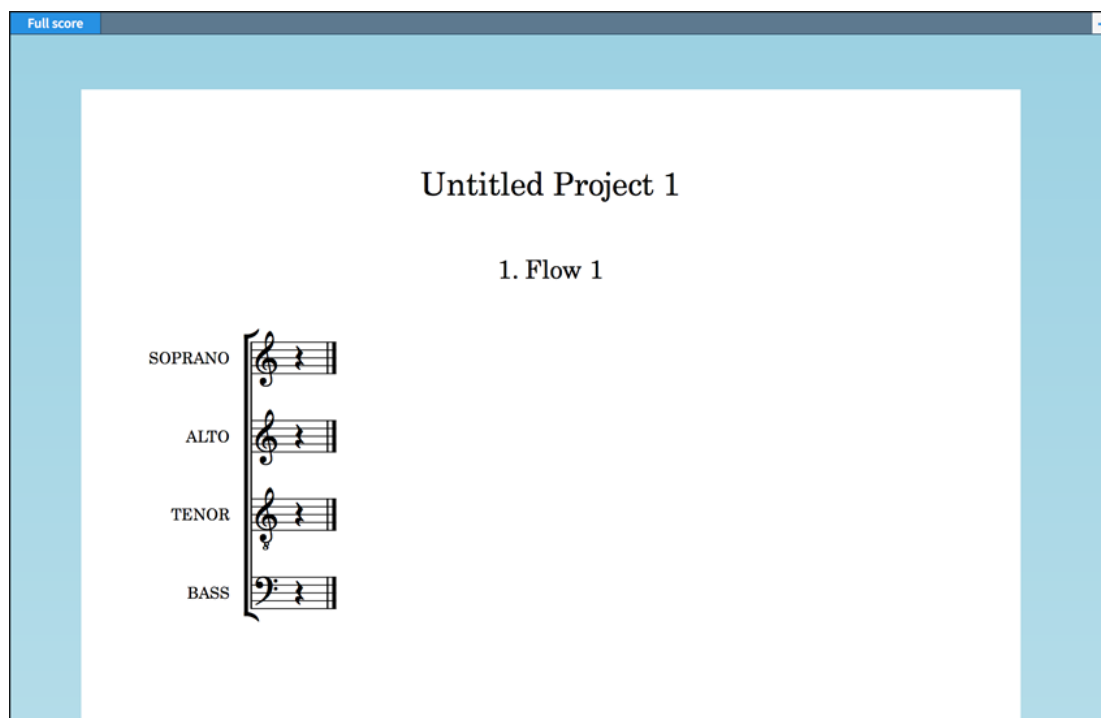
ツールバーの右側では、**ミキサー**を開いたり、さまざまな機能の中でも、再生と録音を行なうための基本的なトランスポートコントロールを使用したりできます。



「ミキサーを表示 (Show Mixer)」ボタン

## 楽譜領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードにおけるプロジェクトウィンドウの大部分を占める領域です。楽譜の設定、入力、編集、形式設定は楽譜領域で行ないます。再生モードでは、楽譜領域はイベントディスプレイと呼ばれ、各音符はイベントとして表示されます。印刷モードでは、楽譜領域は印刷プレビュー領域と呼ばれ、印刷内容や書き出す内容を画像として表示します。

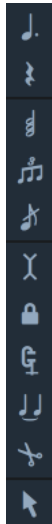


合唱テンプレートから新規作成したプロジェクトの記譜モードの楽譜領域

楽譜領域には、作成したスコアやパートが表示されます。楽譜領域の上部では、複数のレイアウトをタブにわけて表示し、切り替えることができます。Dorico Pro のレイアウトでは、楽譜を異なる形式で表示できます。たとえば、バイオリンのパートとファゴットのパートのように異なるパートのフルスコアがある場合、フルスコアのレイアウトと各パートのレイアウトを切り替えることができます。画面上のスペースを節約したり、個々のレイアウトに対して集中的に作業したりする場合は、タブを非表示にできます。

## ツールボックス

ツールボックスはプロジェクトウィンドウの左右の端にあります。ツールボックスは現在のモードによって含まれるツールおよびオプションが異なりますが、一般的に、音符、記譜項目、フレームを入力および変更したり、対応するパネルに表示するオプションを設定したりできます。



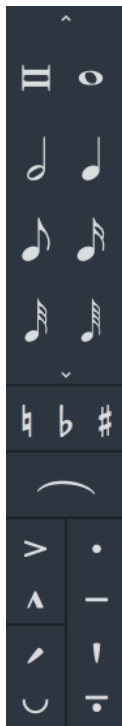
記譜モードの音符ツールボックス



記譜モードの記譜記号ツールボックス

## パネル

Dorico Pro には、すべてのモードでさまざまな機能を持つパネルがあります。テンプレートを開くと、楽譜領域の左側にパネルが表示されます。これは、記譜モードの音符パネルです。音符パネルには、音符を入力する際に最も一般的に使用されるすべてのデュレーション、臨時記号、スラー、アーティキュレーションが含まれています。



記譜モードの音符パネル

## ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部にあるステータスバーで、楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。ステータスバーはモードによって含まれるオプションが異なります。



ステータスバー

関連リンク

[ユーザーインターフェース \(32 ページ\)](#)

[ミキサー \(448 ページ\)](#)

[トランスポートウィンドウ \(450 ページ\)](#)

## モードの機能

モードは、スコアやパートを作成するためのワークフローのフェーズのことです。そのため、含まれるツールボックス、パネル、および機能はモードごとに異なります。

### 設定モード

設定モードでは、プレーヤーおよびプレーヤーのグループを作成し、インストゥルメントを割り当てることができます。また、プロジェクトに異なるレイアウトを定義することで、レイアウトを個別に印刷したり、書き出したりできます。たとえば、フルスコアのレイアウトおよび各パートの個別のレイアウトを印刷したり、書き出したりできます。

楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

設定モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[1]** を押します。
- ツールバーで「**設定 (Setup)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**設定 (Setup)**」を選択します。

### 記譜モード

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

記譜モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[2]** を押します。
- ツールバーで「**記譜 (Write)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**記譜 (Write)**」を選択します。

### 浄書モード

浄書モードでは、記譜モードで入力した楽譜を微調整したり、プロジェクトのページレイアウトを決定したりできます。

このモードは形式設定やレイアウトの外観を決定するモードであるため、音符やアイテムを削除したり、音符の位置やピッチを変更したりすることはできません。

浄書モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[3]** を押します。
- ツールバーで「**浄書 (Engrave)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**浄書 (Engrave)**」を選択します。



## 再生モード

再生モードでは、バーチャルインストゥルメントおよび再生用エフェクトをインストゥルメントと演奏技法に割り当てることができます。個々の音符の再生方法を調節してよりリアルな仕上がりにできます。

再生モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[4]** を押します。
- ツールバーで「**再生 (Play)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**再生 (Play)**」を選択します。

## 印刷モード

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。また、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

印刷モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[5]** を押します。
- ツールバーで「**印刷 (Print)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**印刷 (Print)**」を選択します。

関連リンク

[設定モード](#) (84 ページ)

[記譜モード](#) (135 ページ)

[浄書モード](#) (293 ページ)

[印刷モード](#) (473 ページ)

[再生モード](#) (404 ページ)

## パネルの表示/非表示

1つまたは複数のパネルの表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域をさらに広く表示したい場合に便利です。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、パネルを個別にまたはすべてのパネルをまとめて非表示にします。
  - 左側のパネルの表示/非表示を切り替える場合:  
**[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。  
メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。  
「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。
  - 右側のパネルの表示/非表示を切り替える場合:  
**[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。  
メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。  
「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右のパネルを表示 (Show Right Panel)**」を選択します。
  - 下部のパネルの表示/非表示を切り替える場合:  
**[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。  
メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。  
「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。
  - すべてのパネルの表示/非表示を切り替える場合:  
**[Ctrl]/[command]+[0]** を押します。  
「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」をクリックします。



「ウィンドウ (Window)」 > 「パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)」を選択します。

---

#### 結果

対応するパネルの表示/非表示が切り替わります。パネルの横にチェックマークがあるときはガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

表示されているパネルをすべて非表示にすると、ツールバーの「パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)」ボタンの外観が変わり、以前は表示されていて今は非表示となっているパネルが区別できるようになります。

---

#### 例



パネルが表示されている



すべてのパネルが以前は表示されていて、今は非表示になっている

---

## タブとウィンドウの操作

Dorico Pro では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。

また、Dorico Pro では、複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に同じプロジェクトの複数のレイアウトを表示できます。複数のウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

#### 関連リンク

[ワークスペースの設定 \(44 ページ\)](#)

## 新規タブを開く


新規タブを開いて、同じプロジェクトウィンドウ内に異なるビューまたはレイアウトを表示できます。

各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

タブは、ツールバーと楽譜領域の間にあるタブバーに表示されます。タブが表示されない場合は、ツールバーの「タブを表示 (Show Tabs)」をクリックします。

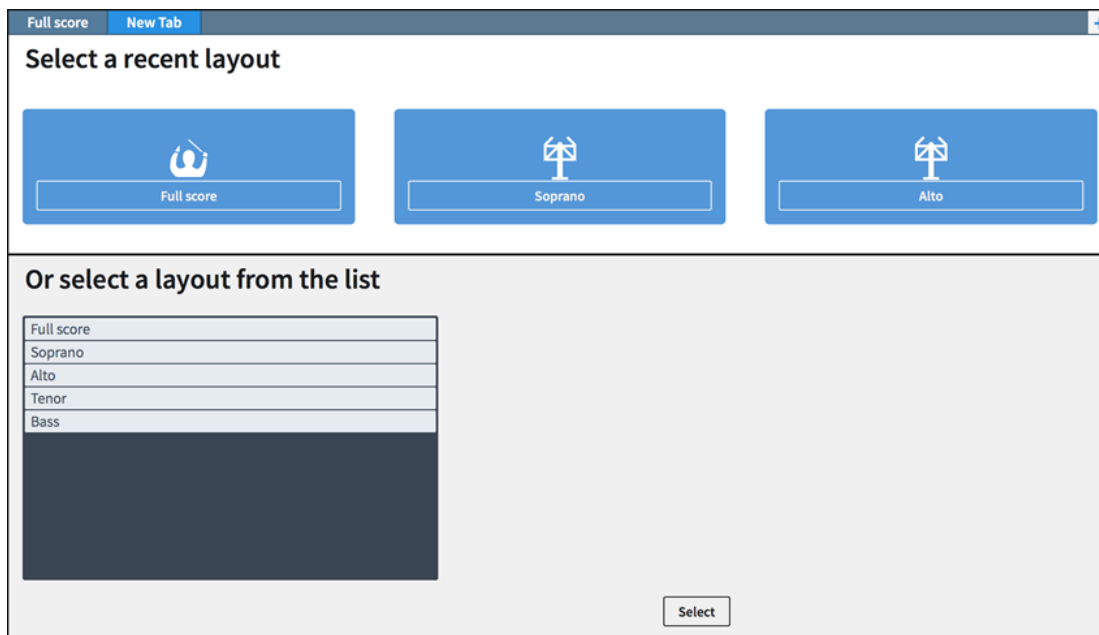


#### 手順

- 新規タブを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - [Ctrl]/[command]+[T] を押します。
    - タブバーの右端にある「新規タブ (New Tab)」をクリックします。  

    - 「ウィンドウ (Window)」 > 「新規タブ (New Tab)」を選択します。
- 

#### 結果

新規タブを開くと、上部にアイコン、下部にレイアウトのリストが表示されます。



新規タブを開いたときに楽譜領域で選択可能なオプション

手順終了後の項目

アイコンをクリックするか、下部のリストからレイアウトを選択できます。または、ツールバーのレイアウトセレクターでレイアウトを選択できます。選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

関連リンク

[タブバー](#) (36 ページ)

[ツールバー](#) (33 ページ)

## 新規ウィンドウを開く

同じプロジェクトを別のウィンドウに開くことができます。これはたとえば、同時に複数のレイアウトで作業する場合に便利です。また、1つのウィンドウでは記譜モード、別のウィンドウでは再生モードのように、複数のウィンドウで同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトウィンドウを開きます。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[T]** を押します。
  - **「ウィンドウ (Window)」 > 「新規ウィンドウ (New Window)」** を選択します。

結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

関連リンク

[複数のプロジェクトウィンドウを開く](#) (48 ページ)

## 新規プロジェクトの開始

Dorico Pro のユーザーインターフェースの概要がつかめたら、楽譜の入力を始めましょう。ここでは、新規プロジェクトの設定方法を説明します。

前提

補足

この章に記載の入力内容と手順で使用されているイメージはすべて、あくまでも参考として提示された一例です。そのため、同じ内容を入力してイメージに表示されている結果を得る必要はありません。

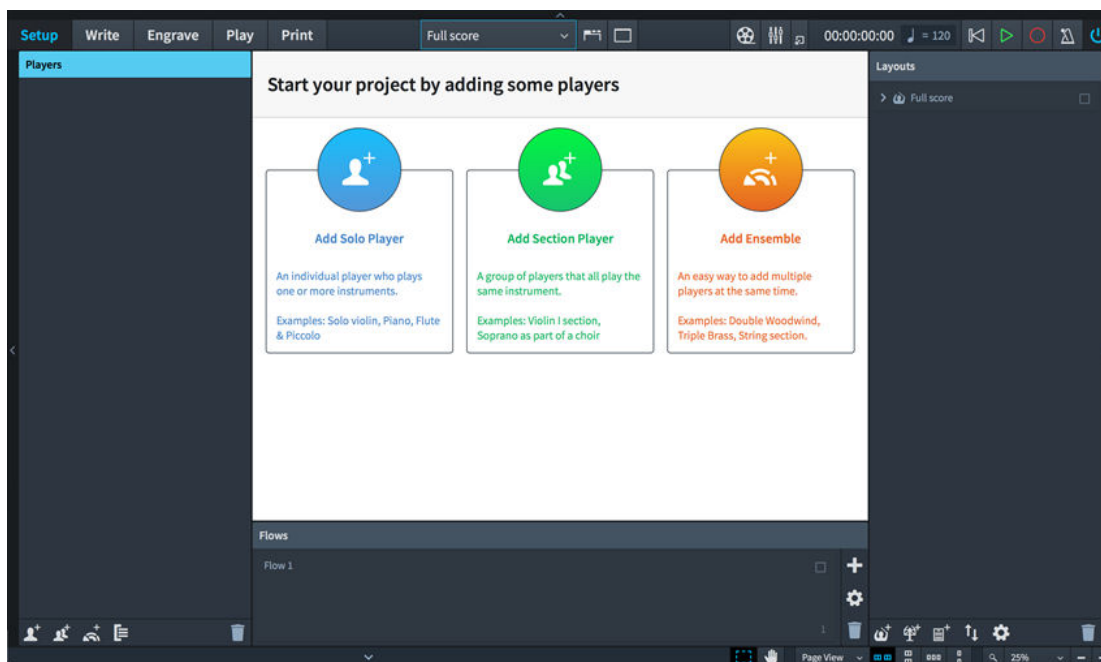
保存せずにテンプレートを閉じて、**Hub** を再び開いておきます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトを開始します。
  - **[Ctrl]/[command]+[N]** を押します。
  - 「**新規空白プロジェクト (New Empty Project)**」をクリックします。

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。



特定のプロジェクトテンプレートを選択せずに新規プロジェクトを開始すると、設定モードが有効になります。このため、プロジェクトを開始してすぐに、プレーヤーを指定しインストゥルメントを割り当てることができます。中央のプロジェクト開始領域は、プレーヤーを追加すると楽譜領域となり、異なるタイプのプレーヤーを含んだプロジェクトを開始できます。右側の「**レイアウト (Layouts)**」パネルには、「**フルスコア (Full score)**」エントリーが表示されます。このエントリーは、すべての新規プロジェクトで使用できます。ウィンドウの下側には、プロジェクトの個別の楽譜の範囲を指定する「**フロー (Flows)**」パネルがあります。

手順終了後の項目

ソロプレーヤーまたはセクションプレーヤーを追加し、インストゥルメントを割り当ててプロジェクトを開始します。各種インストゥルメントを自由に割り当てることができます。この章では、例として1人のピアノプレーヤーのみを追加します。

関連リンク  
[ウィンドウ \(32 ページ\)](#)

## ソロプレイヤーの追加

ここでは、プレイヤーの追加方法とインストゥルメントの割り当て方法を説明します。

前提

新規プロジェクトを開始し、設定モードを開いておきます。

---

手順

1. 「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」をクリックして、インストゥルメントピッカーを開きます。



2. インストゥルメントピッカーの検索フィールドに **piano** と入力します。
  3. 「**追加 (Add)**」をクリックします。
- 

結果

最初のプレイヤーが追加されました。楽譜領域には、該当する音部記号を含む必要なピアノ譜が表示されます。

手順終了後の項目

プロジェクトを保存します。プロジェクトの保存はいつでもできます。

必要に応じて、プロジェクトタイトルを編集したり、プレイヤーを追加したりします。

以下のセクションでは、フローとレイアウトを作成します。作曲を開始する場合は、これらのセクションを飛ばしても問題はありません。

関連リンク  
[作曲 \(22 ページ\)](#)

## フローの作成

フローは、楽章や歌曲など、プロジェクト内の個別の楽譜の範囲のことです。ここでは、フローの作成方法を説明します。

前提

少なくとも 1 人のプレイヤーを設定し、設定モードを開いておきます。

---

手順

- 設定モードのウィンドウの下部にあるフローパネルで、「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックします。



結果

「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックするたびにプロジェクトに新規フローが追加されます。既存のすべてのプレイヤーが新規フローに割り当てられ、新規フローが既存のすべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に追加されます。

手順終了後の項目

フローカードをダブルクリックするとフロー名を変更できます。

「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのチェックボックスをオフにてプレーヤーをフローから除外したり、「**レイアウト (Layouts)**」パネルでレイアウトのチェックボックスをオフにしてフローからレイアウトを除外したりすることもできます。

関連リンク

[フロー \(120 ページ\)](#)

[設定モードでフロー名を変更する \(122 ページ\)](#)

## レイアウトの作成

ページサイズ、余白、譜表サイズなど、1つ以上のフローにある1人以上のプレーヤーの楽譜をどのように表示するかを定義します。ここでは、新規レイアウトの作成方法を説明します。

前提

少なくとも1人のプレーヤーと1つのフローを設定し、設定モードを開いておきます。

複数のプレーヤーが存在するアンサンブルでは、各プレーヤーの個々のパートのレイアウトが必要となる場合があるため、通常、複数のレイアウトを使用します。Dorico Pro では、すべてのプレーヤーとすべてのフローを含むフルスコアのレイアウトと、1人のプレーヤーとすべてのフローをそれぞれ含む個々のパートのレイアウトを自動的に作成します。2人のプレーヤー用の楽譜を含むパートなど、プレーヤーとフローの異なる組み合わせが必要な場合、以下のように任意のレイアウトを作成できます。

手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、「**パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)**」をクリックします。



結果

「**レイアウト (Layouts)**」パネルに空白のパート譜が作成されます。

手順終了後の項目

空白のパートカードするとレイアウト名を変更できます。

「**フロー (Flows)**」パネルでフローのチェックボックスをオンにしてレイアウトにフローを割り当てたり、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのチェックボックスをオンにしてレイアウトにプレーヤーを割り当てたりすることもできます。

## 作曲

プロジェクトの設定が完了したら、作曲を開始できます。

記譜モードでは、音符やその他の記譜記号をスコアに入力できます。

ヒント

Dorico Pro では、コンピューターキーボードのみでほとんどの作業が完了します。マウスやタッチパッドを使用する必要はありません。キーボードショートカットを覚えると、Dorico Pro を非常に効率よく操作できます。最も早い楽譜の入力方法は、MIDI キーボードを使用する方法です。MIDI キーボードを持っていない場合は、コンピューターキーボードを使用できます。もちろん、マウスやタッチパッドも使用できます。

以下のセクションでは、音符と記譜項目の入力方法を説明します。

## 最初の音符の入力

ここでは、音符の入力方法を説明します。最初に拍子記号や調号を追加することなく音符の入力を開始できます。

### 前提

- MIDI キーボードを設定しておきます。

### 補足

MIDI キーボードが設定されていない場合は、コンピューターキーボードで音符の入力を開始できます。

- 設定モードでピアノプレーヤーを 1 人追加しておきます。
- 記譜モードを選択しておきます。

### 手順

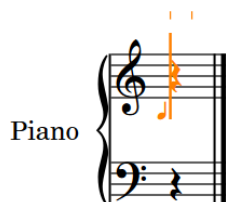
1. ソロプレーヤーを追加したときに調号の横に自動的に挿入された休符を選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。

- [Shift]+[N] または [Return] を押します。
- 休符をダブルクリックします。

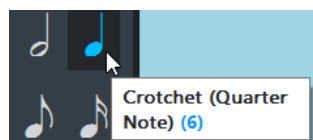
キャレットが有効になり、譜表上に表示されます。



3. 音符パネルでデュレーションを選択します。

### 補足

Dorico Pro の初期設定では、4 分音符が選択されます。



4. MIDI キーボードで音を鳴らしはじめるか、コンピューターキーボードで [A]、[B]、[C]、[D]、[E]、[F]、[G] のキーを押して対応するピッチを入力します。

入力された音よりもピッチを高く、または低くしたい場合は、音域を強制的に変更できます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、[Shift]+[Alt] を押しながら音符を表わすアルファベットを押します。
- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、[Ctrl] (macOS) または [Ctrl]+[Alt] (Windows) を押しながら音符を表わすアルファベットを押します。

### 補足

Macの場合は、**[command]**ではなく、**[Ctrl]**を押してください。

### 結果

入力または再生したピッチは、音符として入力されます。

### 例



最後の音符を入力したあとにキュレットが有効になっている例

### 関連リンク

[記譜モード \(135 ページ\)](#)

[ステップ入力中の音域の選択 \(154 ページ\)](#)

## 拍子記号の追加

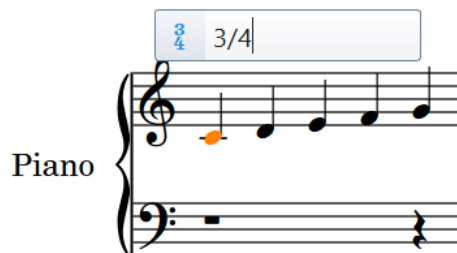
ここでは、譜表の最初に拍子記号を追加する方法を説明します。拍子記号は、メロディを入力する前でも入力した後でも追加できます。

### 前提

**[Esc]**を押してキュレットを無効にしておきます。

### 手順

1. 譜表の最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[M]**を押します。  
譜表の上に拍子記号のポップオーバーが開きます。
3. ポップオーバーに3/4などの一般的な拍子記号を入力します。



4. **[Return]**を押してポップオーバーを閉じます。



結果



拍子記号は音符の左側に自動的に挿入され、小節線が正しい位置に自動的に挿入されます。調号の挿入方法については、次のセクションを参照してください。

## 調号の追加

ここでは、調号の追加方法を説明します。調号を譜表上の任意の位置に追加できます。

新規プロジェクトを作成する場合、初期設定では調号は表示されません。作成する楽譜の種類によって、調号はCメジャー、または特定の調性の中心音を持たないオープンキーを意味する場合があります。

譜表上の任意の場所でキーを変更できます。例として、譜表の最初に異なる調号(たとえば、Dメジャー)を追加する手順を以下のとおり示します。

手順

1. 譜表の最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[K]** を押します。  
譜表の上に調号のポップオーバーが開きます。
3. ポップオーバーに調号を入力します。Dメジャーを入力する場合は、大文字の**D**を入力します。Dマイナーを入力する場合は、小文字の**d**を入力します。



4. **[Return]** を押します。

結果



音部記号と拍子記号の間に調号が挿入されます。また、Dorico Proが必要な箇所へ自動的に臨時記号を追加します。

## 最初の和音の入力

ここでは、コードモードを使用してコンピューターキーボードで和音を入力する方法を説明します。MIDI キーボードを使用する場合は、キーボードから和音を入力できるため、コードモードを使用する必要はありません。この場合、Dorico Pro が自動的に正しい音符を入力します。

### 前提

譜表上で最後の音符または休符を選択し、**[Return]** を押してキャレットを表示しておきます。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、和音の入力を開始します。

- **[Q]** を押します。
- 音符ツールボックスの「和音 (Chords)」をクリックします。



キャレットの上部に「+」記号が表示されます。

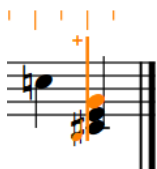


2. 必要に応じて、音符パネルでデュレーションを選択します。

3. **[A]** ~ **[G]** のキーを1つずつ順に押して、和音に含める音符を入力します。たとえば、C メジャーのコードの場合、**[C]**、**[E]** および **[G]** を押します。

Dorico Pro は、初期設定で前の音符の上に新しい音符をそれぞれ追加します。音符の音域は手動で選択できます。

以下は結果の例を示しています。



4. **[Space]** を押して次の音符位置にキャレットを進め、次のコードを入力します。

Dorico Pro は、コード入力が無効になるまで、すべての入力をコードの入力として認識し続けます。

5. 必要に応じてコードの入力を無効にするには、**[Q]** を押すか、音符ツールボックスの「和音 (Chords)」を再度クリックします。

---

### 関連リンク

[ステップ入力中の音域の選択 \(154 ページ\)](#)

# Dorico Pro のコンセプト

以下の項では、Dorico Pro のデザイン方針の概要と基本となるコンセプトについて説明します。

このマニュアルでは、これらのコンセプトについて言及することが多いため、コンセプトを理解しておくことをおすすめします。

## デザイン方針とハイレベルコンセプト

Dorico Pro のような楽譜作成ソフトウェアはデザインについて深く考えて開発する必要があり、そのデザイン方針は楽譜作成アプリケーションをよく使うユーザーにとって特に興味深いかもしれせん。Dorico Pro は、コンピューター上の操作性よりも音楽的なコンセプトを重視した先進的なデザインを採用しており、多くのメリットを提供する製品です。

グラフィックを重視した他の多くの楽譜作成アプリケーションでは、譜表または譜表を作成するインストゥルメントの定義が最上位のコンセプトです。それらのアプリケーションでフルスコアを設定する場合、はじめに正しい数の譜表を追加し、そのあとすぐにレイアウトを決定しなければならなくなります。つまり、2本のフルートが譜表を共有するのか、個別の譜表を持つのかどうか、または使用するトランペットは2本なのか3本なのかをあらかじめ知っておく必要があります。これらの決定項目の多くは、個々のパートを入力、編集、および作成する過程の全体に大きく影響します。

通常、スコアの各組段には、特定の組段において非表示になっている譜表がある場合でも、同じ数の譜表を含める必要があります。つまり、同じインストゥルメントを複数のプレーヤーで演奏する場合には譜表を共有するようにするなど、全体に共通する表記規則を自分で管理する必要があります。このような手法には時間がかかり、必然的にミスの原因となります。

一方 Dorico Pro は、あらかじめ作成されたスコアの設定に楽曲の演奏を従わせるのではなく、実際の楽曲の演奏方法に合わせてスコアを作成できるように設計されており、スコアというものを、実用的な演奏法を柔軟に表現するためのものに落とし込んでいます。

Dorico Pro の最上位のコンセプトが、スコアを演奏する人であるミュージシャンのグループとなっているのはこのためです。スコアは、1つ以上のグループ（二部合唱、オーケストラとオフステージの室内楽アンサンブルなど）に対して作成できます。各グループには、1つ以上のインストゥルメントを演奏する人を表すプレーヤーが1人以上含まれています。プレーヤーは、1つ以上のインストゥルメントを演奏する個人（イングリッシュホルンを持ち替えるオーボエ奏者など）、または全員が同じ楽器を演奏するグループ（バイオリン奏者8人など）のいずれかです。

Dorico Pro と他の楽譜作成アプリケーションの最大の違いは、音楽コンテンツとスコアを表示するレイアウトが独立して存在する点なのです。

スコアのグループによって演奏される実際の楽譜は、1つ以上のフローに属します。フローは、1歌曲全体、ソナタまたはシンフォニーの1楽章、ミュージカルの1曲め、音階練習曲もしくは練習曲など、任意の範囲の独立した楽譜です。フローによっては、プレーヤーが演奏する楽譜を持たない場合があります。たとえば、クラシックの交響曲のゆったりとした楽章ですべての金管楽器プレーヤーが演奏しない場合や、映画用のスコアで特定のプレーヤーが演奏しない場合があります。このような場合でも、フローにはあらゆる組み合わせのプレーヤーを含めることができるため問題ありません。

Dorico Pro のデザイン方針にはいくつかのメリットがあります。最大のメリットは、同じ音楽コンテンツを共有するスコアをさまざまなレイアウトで作成できる点です。たとえば、1つのプロジェクトに、各プレーヤーの楽譜を個別の譜表に記述したフルスコア、ピアノと声楽の譜表のみを含むカスタムスコアレイアウト、および特定のプレーヤーに属する楽譜のみを含めたパート譜を作成できます。

## 主要な音楽的コンセプト

Dorico Pro で効率的に作業するためには、プログラムのコンセプトモデルを理解することが重要です。

このコンセプトモデルは、人が実際にどのように楽譜を書き、どのように演奏するかという、実用的な面に基づいています。

## Dorico Pro のプロジェクト

プロジェクトは、Dorico Pro で作成する個別のファイルです。プロジェクトには、非常に短いものから非常に長いものまで、あらゆるインストゥルメントの組み合わせとさまざまなレイアウトで書かれた複数の楽譜を含めることができます。

たとえば、1つのプロジェクトを作成して、バッハの“平均律クラヴィーア曲集”のすべての前奏曲とフーガを別々のフローに含めることができます。

## Dorico Pro のモード

Dorico Pro のモードは、スコア作成ワークフローのフェーズの論理的な順序を表わしますが、必要に応じていつでも切り替えることができます。

Dorico Pro には以下のモードがあります。

### 設定 (Setup)

プロジェクトのプレーヤーおよびインストゥルメントを設定できます。また、フローの管理やレイアウトの設定もできます。

### 記譜 (Write)

楽譜を書くことができます。音符と休符、調号、拍子記号、および表現記号を挿入できます。

### 浄書 (Engrave)

豊富なコントロールを使用して、プロジェクトのすべてのアイテムを操作したり変更したりできます。ページ、マスターページ、レイアウト、および形式を管理することもできます。

### 再生 (Play)

プロジェクトの再生に関する設定を行なうことができます。VST インストゥルメントを割り当てたり、ミキシングを調節したり、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更したりできます。

### 印刷 (Print)

フルスコア、練習曲のスコア、個別のパート譜など、さまざまな用途向けの印刷ジョブを定義できます。すべての印刷ジョブに対して、ページサイズおよび両面印刷オプションを指定できます。さまざまなファイルタイプ (PNG など) への書き出しなど、その他の出力も管理できます。

関連リンク

[モードの機能](#) (16 ページ)

## Dorico Pro のオプションダイアログ

楽譜の外観および Dorico Pro の機能のデフォルト設定を制御するオプションが、そのタイプと目的によって別々のダイアログに分かれています。

Dorico Pro には、グローバル設定に対する以下のダイアログがあります。

### レイアウトオプション (Layout Options)

ページサイズ、譜表サイズ、小節番号の外観や位置など、レイアウトごとに変わる可能性が高いオプションが含まれます。「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で設定した

オプションは選択しているレイアウトにのみ影響しますが、そのレイアウトのすべてのフローに適用されます。

#### 記譜オプション (Notation Options)

連桁のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなど、フローごとに変わる可能性が高いオプションが含まれます。「**記譜オプション (Notation Options)**」で設定したオプションは選択しているフローにのみ影響しますが、それらのフローが表示されているすべてのレイアウトに適用されます。

#### 音符入力オプション (Note Input Options)

MIDI キーボードを使用したコード記号の作成など、入力の処理方法に関連するオプションが含まれます。「**音符入力オプション (Note Input Options)**」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

#### 浄書オプション (Engraving Options)

音符やアイテムの外観および位置を高精度で制御するオプションが含まれます。たとえば、クレッシェンドをヘアピン表記とテキスト表記のどちらで表示するかを設定したり、連桁内の音程の間隔に従って連桁の傾斜を設定したりできます。「**浄書オプション (Engraving Options)**」には、プロジェクト全体に影響する多くのオプションがあります。ただし、これらのオプションは設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

#### 再生オプション (Playback Options)

再生時に何の音を出すか、また記譜項目の再生方法 (強弱記号の種類による音量の変化を設定する強弱のカーブ、反復を再生するか、フローとフローの間に間隔を空けるかなど) を制御するオプションが含まれます。「**再生オプション (Playback Options)**」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(93 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」 ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」 ダイアログ \(145 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」 ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## Dorico Pro のインストゥルメント

Dorico Pro におけるインストゥルメントとは、ピアノ、フルート、バイオリンなど、個々の楽器を指します。またソプラノやテナーなどのボーカルもインストゥルメントと見なされます。

Dorico Pro には、各インストゥルメントのプロパティに関する情報のデータベースがあります。これには、音域、一般奏法および特殊奏法、記譜の規則、調性、チューニング、音部記号、譜表の数、譜表タイプなどが含まれます。

#### 関連リンク

[インストゥルメント \(105 ページ\)](#)

## Dorico Pro のプレーヤー

Dorico Pro におけるプレーヤーとは、1 人のミュージシャンまたは複数のミュージシャンのことを指します。

- ソロプレーヤーとは、1 つ以上のインストゥルメントを演奏できる 1 人のミュージシャンを指します。たとえば、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、バスドラム、シンバル、トライアングルを演奏する打楽器奏者がソロプレーヤーです。

- セクションプレーヤーとは、同じインストゥルメントを演奏するすべてのミュージシャンを指します。たとえば、バイオリン奏者 8 人からなるバイオリンセクションプレーヤー、混声合唱のソプラノパートのソプラノセクションプレーヤーなどがあります。

#### 補足

セクションプレーヤーは、複数のインストゥルメントを演奏することはできませんが、分奏 (ディヴィジ) することはできます。つまり、セクションプレーヤーを小規模なユニットに分けることができます。これは、一般的に弦楽器で必要とされる機能です。

---

#### 関連リンク

[プレーヤー](#) (97 ページ)

[ディヴィジ](#) (939 ページ)

## Dorico Pro のグループ

グループとは、1 つのまとまりとして扱われるミュージシャンの集合のことです。合唱、オーケストラ、室内楽のアンサンブルなどと同じようなものと考えてください。

一般的なプロジェクトでは、すべての定義されたプレーヤーを含むグループが 1 つだけになる場合がありますが、大規模な楽譜では、演奏部隊を簡単に分けられるよう、必要な数だけグループを定義できます。また、グループへのプレーヤーの割り当ては、特に、指揮者のスコアに表示するプレーヤーの譜表に適切な括弧とラベルを付けるために必要となる場合があります。

---

#### 例

二部合唱およびオルガンの楽譜では、2 つの合唱を個別のグループとして定義できます。これにより、各合唱は、合唱内の各セクションプレーヤー (ソプラノ、アルト、テノール、バス) のラベルに加え、独自のラベルを付けることができます。

エリオット・カーター (Elliott Carter) の “3 群のオーケストラによる交響曲 (A Symphony of Three Orchestras)” などの複雑な楽譜では、各オーケストラを個別のグループとして定義できます。

---

#### 関連リンク

[プレーヤーグループ](#) (118 ページ)

## Dorico Pro のフロー

フローとは、アルバム内の 1 歌曲、ソナタや交響曲の 1 楽章、ステージミュージカルの 1 曲め、数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲など、音楽コンテンツ内で完全に独立している、個別の楽譜の範囲のことです。単一のプロジェクトには、1 つ以上のフローを含めることができます。

各フローには、あらゆるプレーヤーを組み合わせた楽譜を含めることができます。たとえば、古典派の交響曲の第 2 楽章で、金管楽器のプレーヤーがタチェットになることは珍しくありません。この場合、単に第 2 楽章のフローから金管楽器のプレーヤーを削除できます。映画のキューなどでは、一部のキューにおいて特定のプレーヤーが必要とされないことがあります。この場合、該当のフローには演奏するプレーヤーのみを含めることができます。

Dorico Pro では、フローにプレーヤーを正しく割り当てると、個々のパートに対してタチェットシートを自動的に生成できます。

#### 関連リンク

[フロー](#) (120 ページ)

## Dorico Pro のレイアウト

レイアウトでは、ページレイアウトおよび浄書のルールに従って、フローなどの音楽コンテンツを組み合わせることができます。1 つ以上のフローから、1 人以上のプレーヤーのレイアウトを選択できま

す。レイアウトを使用して、ページ番号付き記譜を作成し、印刷したりさまざまな形式へ書き出したりできます。

複数のプレーヤーが存在するアンサンブルの一般的なプロジェクトには、複数のレイアウトが含まれます。たとえば、3つの楽章で構成される弦楽四重奏の楽譜には、4人のソロプレーヤー (バイオリン2人、ヴィオラ1人、チェロ1人) および3つのフロー (各楽章に1つずつ) が含まれます。このようなプロジェクトに必要なレイアウトは以下の5つです。

- 個々のパート (ソロプレーヤー) の3つのフローすべての楽譜を含むレイアウト4つ
- フルスコア (3つのフローすべて、4人のプレーヤーすべての楽譜) を含むレイアウト1つ

各レイアウトでは、譜表サイズ、音符のスペーシング、組段の形式を含む、楽譜の外観に関するあらゆる側面を個別に制御できます。レイアウトはそれぞれ、ページサイズ、余白、全ページに表示されるヘッダー、フッターなどの個別のページレイアウト設定を持つ場合があります。

レイアウトのデフォルトのページ形式設定は、マスターフレームで定義されています。

関連リンク

[レイアウト](#) (123 ページ)

[ページレイアウト](#) (345 ページ)

[マスターページ](#) (304 ページ)

# ユーザーインターフェース

Dorico Pro のユーザーインターフェースは、すべての重要なツールをすぐに使えるようにしながら、できる限り邪魔にならないように設計されています。

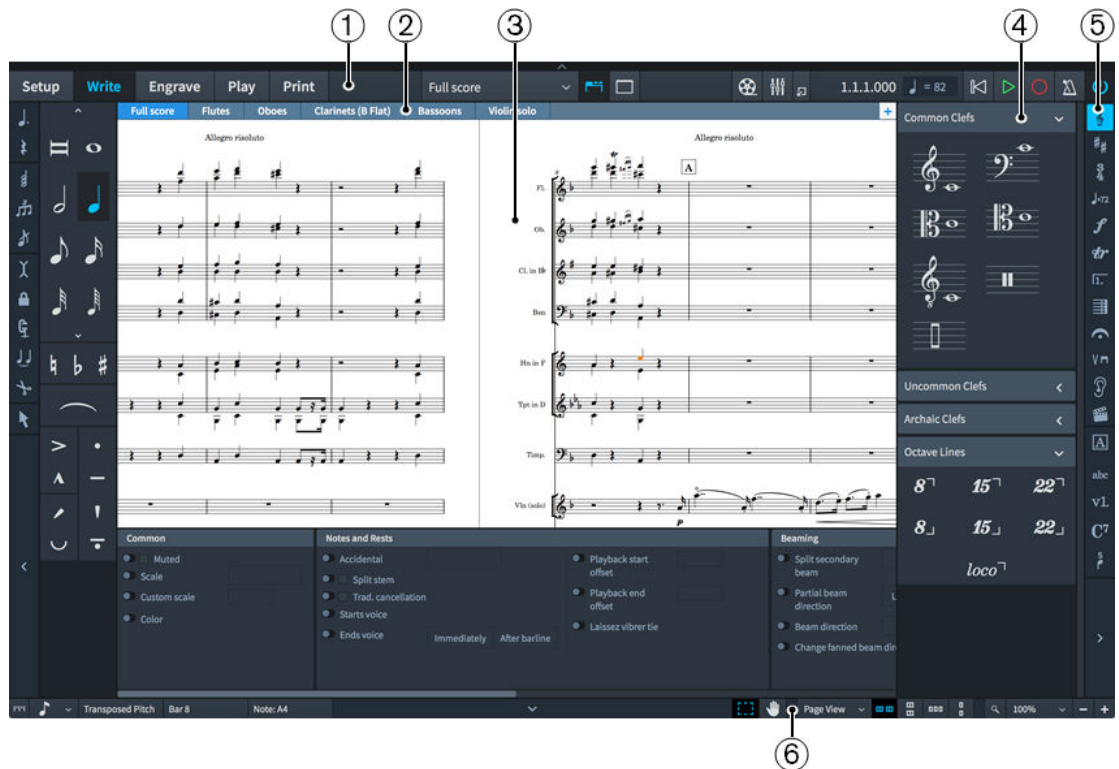
プロジェクトに不要な変更を加えずにインターフェースを操作できます。誤って編集した場合はいつでも元に戻したり、保存せずにプロジェクトを閉じたりできます。

## ウィンドウ

Dorico Pro には、プロジェクトウィンドウとフローティングウィンドウがあります。

### プロジェクトウィンドウ

同じまたは別のプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。プロジェクトウィンドウは、複数の領域で構成されています。



プロジェクトウィンドウ

#### 1 ツールバー

各モードや、ワークスペースオプション、ミキサー、ビデオウィンドウ、および主なトランスポートオプションにアクセスできます。

#### 2 タブバー



設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、現在開いているタブがタブバーに表示されます。楽譜領域を分割して複数のタブを開く場合は、タブグループが表示されます。

### 3 プロジェクト開始領域/楽譜領域/イベントディスプレイ/印刷プレビュー領域

新規空白プロジェクトを設定すると、設定モード、記譜モード、および浄書モードのこの領域にプロジェクト開始領域が表示され、最初のプレーヤーを追加できます。プレーヤーまたはアンサンプルを追加すると、この領域は楽譜領域となり、設定、記譜、編集、および形式設定を行なうスコアの全体または一部を表示します。再生モードでは、スコアの再生をコントロールするエフェクトを表示するイベントディスプレイがこの領域に表示されます。印刷モードでは、プロジェクトがどのように用紙に印刷されるか、またはどのように画像ファイル形式に書き出されるかを印刷プレビュー領域にプレビューとして表示します。

### 4 パネル

楽譜の作成や編集に必要な音符および記譜記号が表示されます。それぞれのパネルには、モードごとに異なるアイテムや機能が含まれます。

### 5 ツールボックス

楽譜の入力や編集に使用できるアイテムやツールにアクセスできます。それぞれのツールボックスには、モードごとに異なるアイテムやツールが含まれます。

### 6 ステータスバー

楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。また、ズームオプションや楽譜領域で選択しているアイテムの概要も表示されます。

## フローティングウィンドウ

Dorico Pro では、ミキサーウィンドウやトランスポートウィンドウなどのフローティングウィンドウを開くことができます。フローティングウィンドウは、メインウィンドウで選択したモードとは関係なく、表示/非表示を切り替えられます。以下のオプションでフローティングウィンドウの表示/非表示を切り替えられます。

### ミキサーを表示 (Show Mixer)



ミキサーウィンドウを開いたり閉じたりします。

### トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)



トランスポートウィンドウを開いたり閉じたりします。

### ビデオを表示 (Show Video)



ビデオウィンドウを開いたり閉じたりします。

関連リンク

[複数のプロジェクトウィンドウを開く \(48 ページ\)](#)

## ツールバー

各モードや、ワークスペースオプションに加え、**ミキサー**および主なトランスポートオプションを選択できます。

ツールバーは、使用するツールに関係なくすべてのモードで使用できます。ツールバーを非表示にする必要がある場合は、ツールバーの上にある展開矢印マークをクリックします。



ツールバーには以下の項目が含まれます。

**1 モード**

プロジェクトウィンドウで選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。メインプロジェクトウィンドウの幅が著しく狭い場合は、モードボタンがメニューに切り替わります。

**2 ワークスペースオプション**

楽譜領域に開くレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりするオプションです。

**3 ビデオを表示 (Show Video)**

ビデオウィンドウを開いたり閉じたりします。

**4 ミキサーを表示 (Show Mixer)**

ミキサーウィンドウを開いたり閉じたりします。

**5 ミニトランスポート**

「再生 (Play)」、「録音 (Record)」、「クリック (Click)」を含む、主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

**6 プロジェクトの有効化 (Activate Project)**

複数のプロジェクトを開いている場合、再生用に有効化されているプロジェクトを示します。

## ワークスペースオプション

ツールバー中央のワークスペースオプションでは、異なるレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりできます。

### レイアウトセレクター



現在のタブに表示するレイアウトを選択できます。

### タブを表示 (Show Tabs)

楽譜領域の上にあるタブバーの表示/非表示を切り替えます。



タブバーが非表示になっている



タブバーが表示されている

### パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)

すべてのパネルの表示/非表示を切り替えます。



パネルが表示されている



すべてのパネルが以前は表示されていて、今は非表示になっている

## ミニトランスポート

ツールバーの右にあるミニトランスポートから、Dorico Pro の主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

### トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)



「トランスポート (Transport)」ウィンドウを開きます。

### タイムディスプレイ

以下のいずれかの形式で、再生ヘッドの位置が表示されます。

- 小節、拍、およびティック
- 経過時間 (時間、分、秒、ミリ秒の順)
- タイムコード (時間、分、秒、フレームの順)

1.1.1.000

小節と拍が表示されたタイム  
ディスプレイ

00:00:00.000

経過時間が表示されたタイム  
ディスプレイ

00:00:00:00

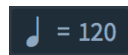
タイムコードが表示されたタイ  
ムディスプレイ

タイムディスプレイをクリックすると、表示形式を切り替えられます。

## テンポ

再生と録音の両方に使用されるテンポが表示されます。再生ヘッドの現在の位置に従って値が、現在のモードに従って外観が変化します。

テンポモードを切り替えるには、「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」をクリックします。

 = 120

固定テンポモードがオンのときのテンポ表示

 86

追従テンポモードがオンの時のテンポ表示

## フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)



フローの最初に再生位置を移動します。

## 再生 (Play)

再生ヘッドの位置で再生を開始/停止します。



再生の停止時



再生中

## 録音 (Record)



MIDI 録音を開始/停止します。

## クリック (Click)



再生および録音中にメトロノームクリックを再生/ミュートします。

## プロジェクトの有効化 (Activate Project)



複数のプロジェクトを開いている場合、再生用に有効化されているプロジェクトを示します。

## ヒント

「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウには、追加のトランスポート機能が含まれます。

## 関連リンク

[トランスポートウィンドウ \(450 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(436 ページ\)](#)

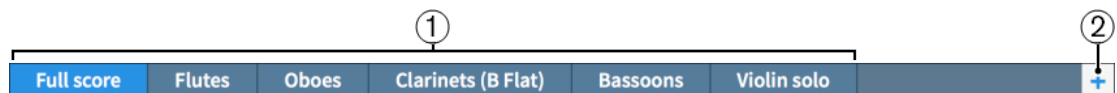
[再生ヘッ드의移動 \(435 ページ\)](#)  
[テンポモードの変更 \(439 ページ\)](#)

## タブバー

Dorico Pro のタブバーを使用すると、同じプロジェクトウィンドウ内で異なるレイアウトを表示できます。タブバーは、ツールバーと楽譜領域の間にあります。

### ヒント

タブバーが表示されていない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」をクリックします。「**タブを表示 (Show Tabs)**」がオンになっている場合、タブが 1 つしか開いていなくてもタブバーは常に表示されます。

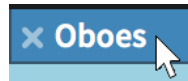


タブバーには以下のものが含まれます。

#### 1 タブ

現在開いているすべてのタブが、開いた順番で左から右へ並べられて表示されます。各タブは、選択したレイアウト名でラベル付けされます。楽譜領域で現在開かれているタブは強調表示されます。

それぞれのタブの上にマウスを合わせると「x」が表示され、クリックするとタブが閉じます。



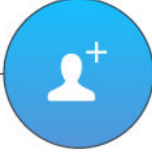
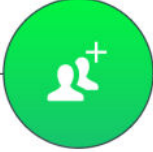

#### 2 新規タブ (New Tab)

新規タブを開きます。タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。

## プロジェクト開始領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、空白プロジェクトを新規作成すると、プロジェクト開始領域がプロジェクトウィンドウの中央に表示されます。プレーヤーを 1 人でも追加すると、楽譜領域が表示されます。

### Start your project by adding some players

 <p><b>Add Solo Player</b></p> <p>An individual player who plays one or more instruments.</p> <p>Examples: Solo violin, Piano, Flute &amp; Piccolo</p>	 <p><b>Add Section Player</b></p> <p>A group of players that all play the same instrument.</p> <p>Examples: Violin I section, Soprano as part of a choir</p>	 <p><b>Add Ensemble</b></p> <p>An easy way to add multiple players at the same time.</p> <p>Examples: Double Woodwind, Triple Brass, String section.</p>
---	---	---

プロジェクト開始領域

プロジェクト開始領域には、最初のプレーヤーカードを追加するためのメニューが表示されます。プレーヤーを追加するには、いずれかのカードをクリックします。

#### ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)

1つ以上のインストゥルメントを割り当てる個人プレーヤーを追加します。

#### セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)

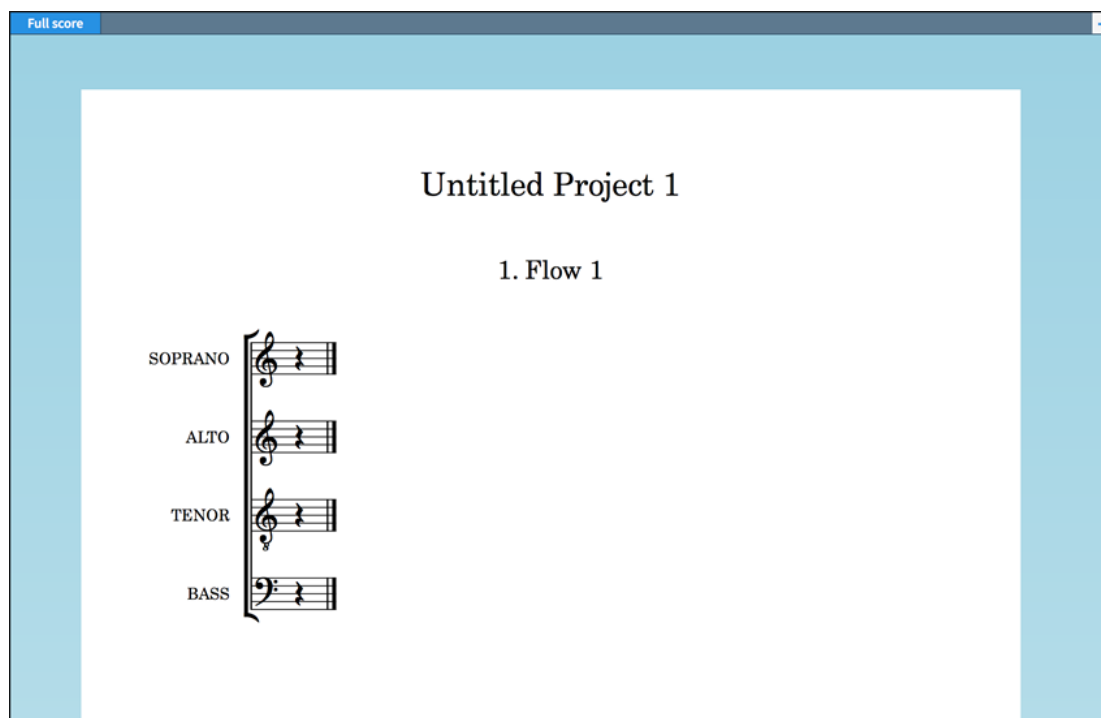
全員が同じインストゥルメントを演奏する演奏者のグループを追加します。

#### アンサンブルを追加 (Add Ensemble)

異なるインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを追加します。追加されるアンサンブルは、演奏者の基本的な組み合わせを表わします。

## 楽譜領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、楽譜領域に編集可能なスコアが表示されます。



スコアのサンプルが表示された楽譜領域

楽譜領域では、複数のビューを切り替えて表示できます。楽譜領域のタブバーを使用すると、プロジェクト内の複数のレイアウトをタブで開いて、レイアウトを切り替えて表示できます。楽譜領域の右側と下部のスクロールバーを使用すると、レイアウト内でスクロールできます。

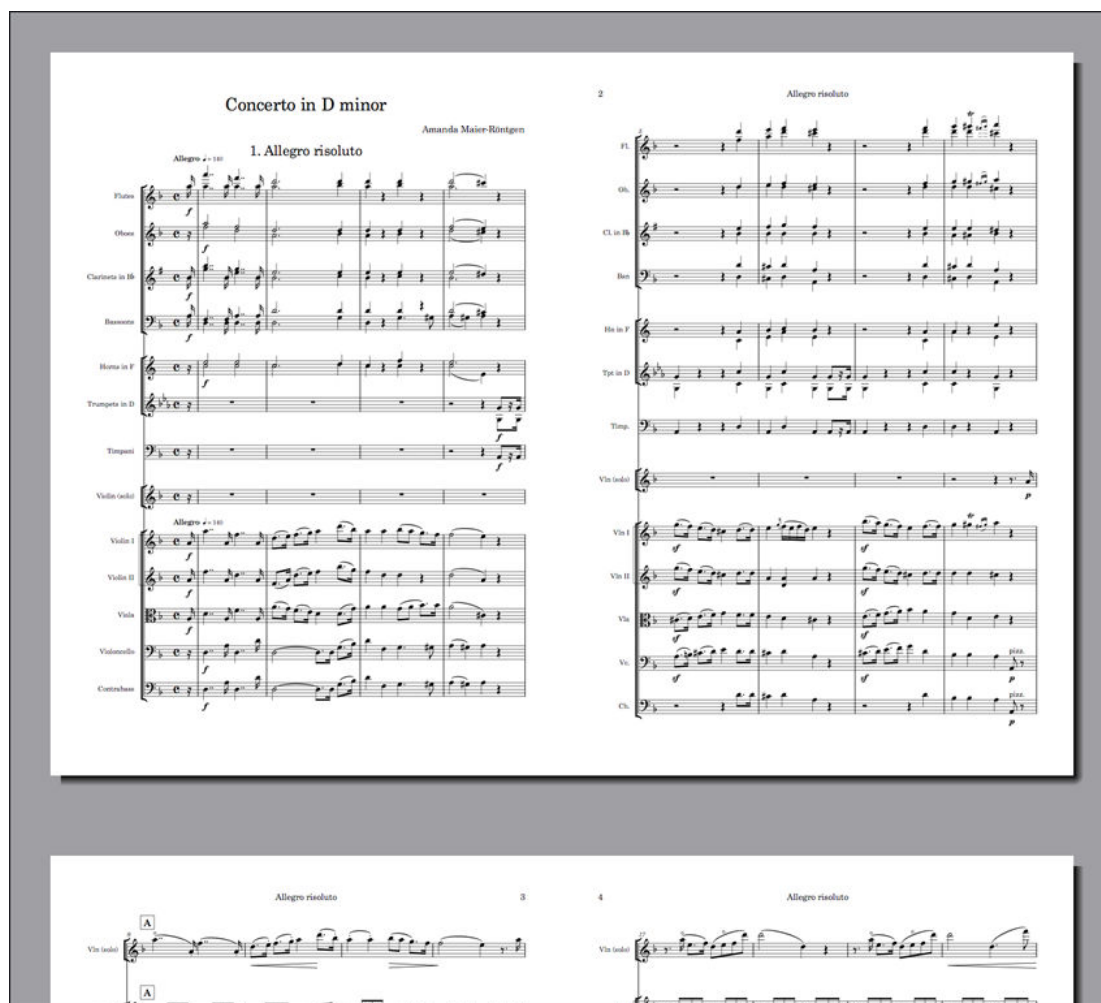
ウィンドウの左右および下部にパネルが開いている場合、楽譜領域のサイズが小さくなります。パネルの表示/非表示は必要に応じて切り替えられます。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(17 ページ\)](#)

## 印刷プレビュー領域

印刷モードの印刷プレビュー領域は、印刷内容や書き出す内容をグラフィックとして表示します。



「2 ページを 1 ページに集約」に設定した場合の印刷プレビュー領域

印刷プレビュー領域では、スクロールしてすべてのページを表示できますが、レイアウトの編集はできません。レイアウトを変更するには、設定モード、記譜モード、または浄書モードに切り替える必要があります。

### 補足

[Home] を押して先頭ページに、[End] を押して最終ページにジャンプできます。

単一の印刷ジョブで複数のレイアウトを印刷する場合、印刷プレビュー領域には最初のレイアウトのみ表示されます。印刷プレビューで各レイアウトのページ配置が期待通りに表示されるか確認したい場合は、印刷する前に各レイアウトを個別に確認する必要があります。

### 関連リンク

[印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(473 ページ\)](#)

## パネル

プロジェクトウィンドウのパネルには、音符、記譜記号、および楽譜の設定、記譜、編集、形式設定に必要な機能が表示されます。



記譜モードのパネル

- 1 左パネル。記譜モードでは、これは音符パネルです。
- 2 右パネル。記譜モードでは、これは記譜パネルです。
- 3 下パネル。記譜モードおよび浄書モードでは、これはプロパティパネルです。

Dorico Pro では、モードごとにパネルの名前および機能が異なります。

### モードとパネル

モード	左パネル	右パネル	下パネル
設定	プレーヤー	レイアウト	フロー
記譜	音符	記譜	プロパティ
浄書	形式設定	ページ	プロパティ
再生	なし	VST インストゥルメン ト/MIDI インストゥルメ ント	なし
印刷	レイアウト	印刷オプション	なし

パネルには、初期設定で表示されるものとそうでないものがあります。パネルを個別に表示したり非表示にしたり、同時にすべてのパネルを表示したり非表示にしたりできます。

関連リンク

- [Dorico Pro のモード \(28 ページ\)](#)
- [パネルの表示/非表示 \(17 ページ\)](#)
- [設定モードのプロジェクトウィンドウ \(84 ページ\)](#)
- [記譜モードのプロジェクトウィンドウ \(135 ページ\)](#)
- [浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(293 ページ\)](#)
- [再生モードのプロジェクトウィンドウ \(404 ページ\)](#)
- [印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(473 ページ\)](#)

## 展開矢印マーク

展開矢印マークは、オブジェクトやメニューを垂直方向または水平方向に展開/折りたたみできることを示します。

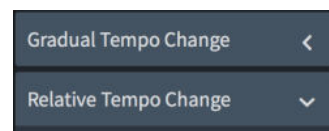
Dorico Pro では、展開矢印マークは、一般的にパネル、セクション、または詳細設定の表示/非表示を切り替えたり、設定モードで、プレーヤーパネルのプレーヤーカードなどのカードの展開/折りたたみを切り替えたりするのに使用されます。



下パネルの展開矢印マーク



プレーヤーカードと関連付けられた楽器の両方の展開矢印マーク



テンポパネルのセクションの展開矢印マーク

関連リンク

- [パネルの表示/非表示 \(17 ページ\)](#)
- [プレーヤーパネル \(85 ページ\)](#)
- [インストゥルメント \(105 ページ\)](#)

## ツールボックス

ツールボックスは記譜モード、浄書モード、および再生モードで使用できます。ツールボックスは現在のモードによって含まれるツールおよびオプションが異なりますが、一般的に、音符、記譜項目、フレームを入力および変更したり、対応するパネルに表示するオプションを設定したりできます。

モードごとに、以下のツールボックスを使用できます。

### 記譜モード

- 音符ツールボックス (ウィンドウの左側)
- 記譜ツールボックス (ウィンドウの右側)

### 浄書モード

- 浄書ツールボックス (ウィンドウの左側)

### 再生モード

- 再生ツールボックス (ウィンドウの左側)

関連リンク

- [音符ツールボックス \(136 ページ\)](#)
- [記譜ツールボックス \(140 ページ\)](#)
- [浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)
- [再生ツールボックス \(405 ページ\)](#)



## ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部のステータスバーから、楽譜領域で使用するビューやページ配置を選択できます。

### 補足

モードによって使用できないオプションがあります。



記譜モードのステータスバー

#### 1 リズムグリッドセレクター

リズムグリッドの値を変更します。この値は、アイテムが移動する間隔など、入力および編集の特定の操作に影響します。

#### 2 ステータス表示

現在のレイアウトや選択アイテムに関する情報が、左から右に以下の3つのセクションで表示されます。

- 現在のレイアウトの移調
- 現在選択しているアイテムが含まれる小節または小節の範囲
- 単一音符のピッチや複数音符の和音など、選択しているアイテムの概要

#### 3 展開矢印マーク

設定モード、記譜モード、および浄書モードで下部のパネルの表示/非表示を切り替えられます。

#### 4 選択ツール

記譜モードおよび浄書モードで、「範囲選択ツール (Marquee Tool)」と「ハンドツール (Hand Tool)」の使用を切り替えることができます。

#### 5 ビュータイプセレクター

設定モードと記譜モードで、楽譜領域で使用するビュータイプを選択できます。

#### 6 ページ配置オプション

個別のページまたは見開きと呼ばれるページのペアを水平方向に配置するか垂直方向に配置するかを選択できます。

#### 7 ズームオプション

楽譜領域とその音楽コンテンツの表示倍率を変更できます。プリセットズームレベルまたはカスタムズームレベルのどちらかを使用できます。

関連リンク

[リズムグリッド](#) (148 ページ)

[ビュータイプ](#) (42 ページ)

[ページビューのページ配置](#) (43 ページ)

[ズームオプション](#) (44 ページ)

## 選択ツール

Dorico Pro では、楽譜領域内のアイテムの選択または移動に使用する選択ツールをステータスバーから選べます。

以下のツールを使用できます。

#### 範囲選択ツール (Marquee Tool)

ドラッグして長方形を描くと、複数の音符や記譜記号を選択できます。



### ハンドツール (Hand Tool)

楽譜領域内のビューを動かすことができます。



#### ヒント

[Shift] を押したままマウスを操作すると、現在選択していない方のツールを一時的に使用できます。

---

## 範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択

記譜モード、浄書モード、および再生モードでは、範囲選択ツールを使用して、特定の範囲内の複数の音符や記譜記号を一度に選択できます。

---

#### 手順

1. ステータスバーで「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」をクリックします。



2. 楽譜領域をクリックして、選択する範囲を囲むようにドラッグします。  
選択される音符と記譜記号を示す灰色の長方形が表示されます。選択する範囲のいずれかの角をクリックし、対角にドラッグすることをおすすめします。
- 

#### 結果

灰色の長方形の範囲に含まれるすべての音符と記譜記号が選択されます。

#### 補足

長方形の範囲内に完全に収まっているアイテムのみが選択されます。ただし、音符またはタイのつながりが部分的に範囲に含まれている場合は、音符またはタイのつながり全体が選択されます。

---

## ビューを動かす

記譜モードおよび浄書モードでは、楽譜領域内のビューを動かすことができます。たとえば、ズームイン時にページの他の部分を表示できます。

---

#### 手順

1. ステータスバーで「**ハンドツール (Hand Tool)**」をクリックします。



2. 楽譜領域の空白部分をクリックしてドラッグします。  
ビューを動かしている間は、マウスポインターが手のアイコンに変わります。
- 

## ビュータイプ

Dorico Pro では、レイアウトを確認するビュータイプが複数あります。各レイアウトで選択したビュータイプは Dorico Pro に保存されるため、ビュータイプを毎回設定しなおす必要はありません。

以下のビュータイプを使用できます。

### ギャラリービュー

楽譜を単一の連続した組段に表示します。また、現在のレイアウトとフローに含まれるすべての楽器の譜表が表示されます。

ギャラリービューは、プロジェクトの音楽コンテンツに集中できるため、楽譜の入力に最適です。

デフォルトでは、すべての譜表の上のすべての小節に小節番号が表示されます。譜表ラベルもすべての譜表に表示され、スクロールに追従して常に表示されます。

#### 補足

ギャラリービューでは、音符のスペーシングは自動で調整されません。つまり、ページや楽曲フレームの幅に合わせて拡大も縮小もされません。ただし、ギャラリービューで変更した音符のスペーシングはページビューにも適用されます。

さらに、ギャラリービューでは垂直方向の衝突回避が自動的に行なわれないため、音符やアイテムが重なって見える場合があります。

#### ページビュー

印刷または書き出しをしたときに表示されるページ番号付きのレイアウトをそのまま表示します。

ページビューは、見開きページや単一ページを確認するのに最適です。見開きページビューでは、パフォーマーがペアになっているページの右側ページの最後でページをめくるだけで済むように、ページめくりを調整できます。単一ページビューは、一連の単一ページとしてレイアウトを印刷する場合に便利です。たとえば、連続用紙や折りたたみ式の用紙を使用するときは、ページの左右を区別しないため、単一ページビューの使用が必要になる場合があります。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトのビュータイプを変更できます。

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(49 ページ\)](#)

## ページビューのページ配置

楽譜領域で使用するページの配置方法を変更できます。

#### 見開き (水平) (Spreads Horizontally)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ左から右に水平方向に並べて配置します。

#### 見開き (垂直) (Spreads Vertically)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ上から下に垂直方向に並べて配置します。

#### 単一ページ (水平) (Single Pages Horizontally)



各ページを個別に左から右に配置します。

#### 単一ページ (垂直) (Single Pages Vertically)



各ページを個別に上から下に配置します。

#### 関連リンク

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(49 ページ\)](#)

## ズームオプション

ステータスバーのズームオプションを使って、楽譜領域のページの表示倍率を変更できます。

### カスタムの表示倍率 (Custom Zoom)

カスタムの表示倍率を設定できるダイアログを開きます。

### 表示倍率を設定 (Set Zoom)

リストからプリセットのズーム倍率を選択できます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトのズーム倍率を変更できます。

### ズームアウト (Zoom Out)

楽譜領域の音符および記譜記号の表示倍率を低下します。

### ズームイン (Zoom In)

楽譜領域の音符および記譜記号の表示倍率を上昇します。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## 楽譜領域でのズームイン/ズームアウト

楽譜領域でのズームレベルを変更できます。たとえば、音符の入力時には全体を見やすくし、外観を調整する際には音符や記譜記号を拡大して表示できます。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ズームインします。
  - [Ctrl]/[command]+[+]** を押します。
  - タッチパッドでピンチアウトします。
  - マウスホイールで上方向にスクロールします。
  - ステータスバーのズームオプションを使用します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、ズームアウトします。
  - [Ctrl]/[command]+[-]** を押します。
  - タッチパッドでピンチインします。
  - マウスホイールで下方向にスクロールします。
  - ステータスバーのズームオプションを使用します。

---

結果

楽譜領域のズームレベルが変更されます。何かを選択している場合は、Dorico Pro は選択部分をズームの中心とします。何も選択していない場合は、Dorico Pro はビューの中央部分をズームの中心とします。

関連リンク

[イベントディスプレイのトラックのズームイン/ズームアウト \(417 ページ\)](#)

## ワークスペースの設定

Dorico Pro では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。

また、Dorico Pro では、複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に同じプロジェクトの複数のレイアウトを表示できます。複数のウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(17 ページ\)](#)

## レイアウトの切り替え

プロジェクトで複数のレイアウトを作成した場合、すべてのモードで楽譜領域に表示するレイアウトを切り替えられます。設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、現在開いているタブのレイアウトのみが切り替わります。

### 補足

レイアウトは、プレーヤーが割り当てられているレイアウト間でのみ切り替えることができます。

---

### 手順

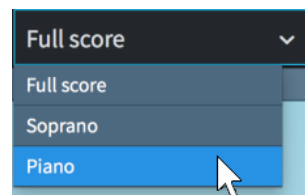
- 以下のいずれかの操作を行なって、別のレイアウトに切り替えます。
  - 次のレイアウトに切り替えるには、**[Shift]+[Alt]+[ ]** を押します。
  - 前のレイアウトに切り替えるには、**[Shift]+[Alt]+[ ]** を押します。
  - レイアウトを開くプレーヤーの譜表上またはピアノロール上のアイテムを選択し、**[W]** を押します。

### 補足

暗黙の休符を選択しても切り替わりません。

---

- ツールバーのレイアウトセクターでレイアウトを選択します。



### 結果

選択したレイアウトが楽譜領域に表示されます。直前にタブで開かれていたレイアウトと新しく選択したレイアウトが入れ替わります。

## 新規タブを開く

同じプロジェクトウィンドウに複数のタブを開くことができます。この機能を使って複数のレイアウトを表示したり、同じレイアウトを異なるビューで確認したりできます。たとえば、フルスコアのレイアウトを1つのタブではページビューで、別のタブではギャラリービューで表示できます。

各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

タブは、ツールバーと楽譜領域の間にあるタブバーに表示されます。タブが表示されない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」をクリックします。



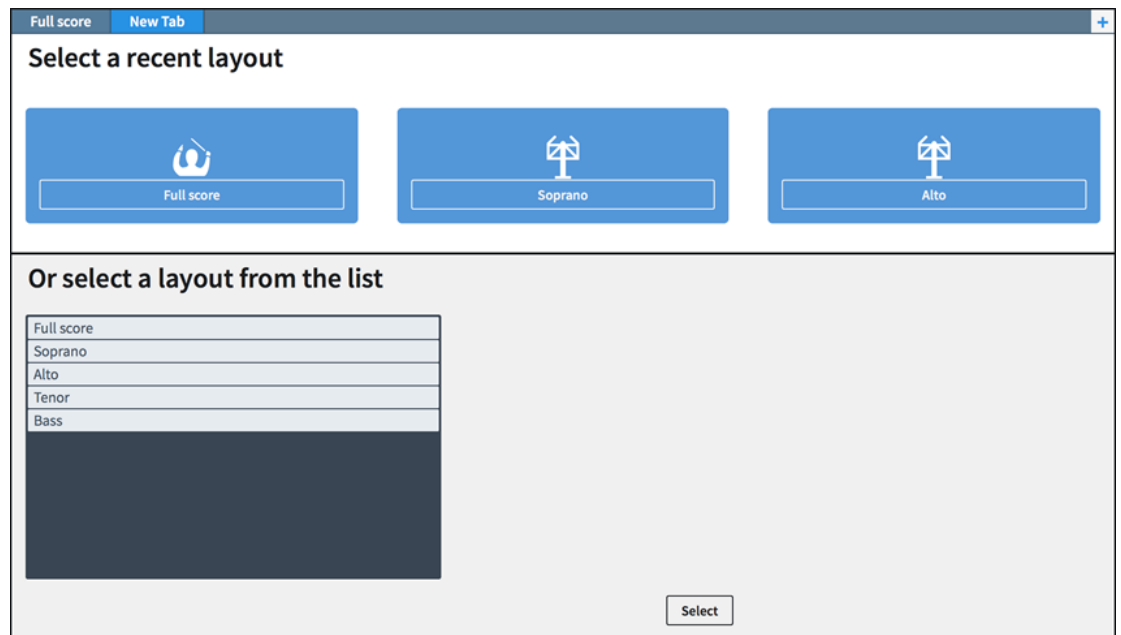
### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、新規タブを開きます。
  - **[Ctrl]/[command]+[T]** を押します。
  - タブバーの右端にある「**新規タブ (New Tab)**」をクリックします。



- 「ウィンドウ (Window)」 > 「新規タブ (New Tab)」を選択します。

新規タブを開くと、上部に最近使用したレイアウト、下部にプロジェクト内の他のレイアウトのリストが表示されます。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、新規タブで開くレイアウトを選択します。
  - 上部のアイコンをクリックします。
  - 下部のリストからレイアウトを選択します。
  - ツールバーのレイアウトセクターでレイアウトを選択します。

---

#### 結果

選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

#### ヒント

同じタブ内でレイアウトを切り替えることもできます。

---

#### 関連リンク

[タブバー \(36 ページ\)](#)

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

## タブを閉じる

不要になったレイアウトの個別のタブを閉じることができます。また複数のタブを一度に閉じることができます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、タブを閉じます。
  - 閉じるタブを選択して、**[Ctrl]/[command]+[W]** を押します。
  - 閉じるタブの上にマウスを合わせて、「**x**」をクリックします。
  - 閉じるタブを右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを閉じる (Close Tab)**」を選択します。

- 閉じたくないタブを右クリックし、コンテキストメニューから「他のタブを閉じる (Close Other Tabs)」を選択します。

#### 補足

ウィンドウに表示されているタブが1つだけの場合、そのタブは閉じることができません。タブが1つだけ開いていてそのタブを非表示にする場合は、メインツールバーで「タブを表示 (Show Tabs)」をオフにします。タブは表示されなくなりますが、対応するレイアウトは表示されたままとなります。

---

#### 結果

タブを1つ選択して閉じた場合、選択したタブおよび対応するレイアウトが閉じます。  
タブを1つ選択して他のタブを閉じた場合、選択したタブ以外のすべてのタブが閉じます。

## タブの切り替え

異なるタブ間で切り替えて、楽譜領域に異なるレイアウトを表示できます。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、タブを切り替えます。
    - [Ctrl]/[command]+[Tab] を押して、開いているすべてのタブを切り替え表示します。
    - [Ctrl]/[command]+[Shift]+[Tab] を押して、開いているすべてのタブを逆順に切り替え表示します。
    - 切り替え先のタブをクリックします。
- 

## タブの順番の変更

タブバー上でタブを別の位置に移動できます。

---

#### 手順

- タブをクリックして新しい位置までドラッグします。  
他のタブが移動して、ドラッグされたタブがどこに配置されるかを示します。
- 

## プロジェクトウィンドウに複数のタブを表示する

プロジェクトウィンドウを分割して、同時に2つのタブを表示できます。分割は垂直または水平方向のいずれかが可能で、異なるレイアウトを上下または左右に並べて表示できます。

プロジェクトウィンドウを分割すると、現在開いているタブが2つのグループに分かれます。タブは別のグループにいつでも移動できます。これによって、たとえば、異なるレイアウトを比較したり、同じレイアウトで2種類のビューを比較したりできます。

---

#### 手順

1. 新規タブグループに移動するレイアウトのタブを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、ウィンドウを分割します。
    - 2つのレイアウトを左右に並べて表示するには、「ウィンドウ (Window)」 > 「垂直分割 (Vertical Split)」を選択します。
    - 2つのレイアウトを上下に並べて表示するには、「ウィンドウ (Window)」 > 「水平分割 (Horizontal Split)」を選択します。
-

#### 結果

プロジェクトウィンドウが分割され、同時に2つのタブが表示されます。選択したタブが新規タブグループに移動します。

## 別のタブグループへのタブの移動

タブを別のタブグループに移動できます。

#### 前提

プロジェクトウィンドウに2つ以上のタブを同時に表示しておきます。

---

#### 手順

- 移動するタブをクリックし、移動先のタブグループにドラッグします。
- 

#### 関連リンク

[新規タブを開く \(45 ページ\)](#)

## 別のウィンドウへのタブの移動

同じプロジェクトの別のウィンドウにタブを移動して、新規ウィンドウに同じレイアウトを表示できます。

#### 補足

- レイアウトは、同じプロジェクトに属している必要があります。タブを異なるプロジェクトのウィンドウに移動しようとしても、レイアウトが属するプロジェクトに新規ウィンドウが作成されません。
  - タブが1つしか開いていない場合は、タブを別のウィンドウに移動することができません。
- 

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 同じプロジェクトの新規ウィンドウにタブを移動するには、タブをクリックしてタブバーから離れた水平方向 (右または左) にドラッグし、放します。
    - 同じプロジェクトの別のウィンドウのタブバーにタブを挿入するには、タブをクリックして、タブバー上にドラッグします。
    - タブを選択して右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab to New Window)**」を選択します。
    - タブを選択し、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab to New Window)**」を選択します。
- 

## 複数のプロジェクトウィンドウを開く

同じプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。これは同時に複数のレイアウトで作業する場合に便利です。また、1つのウィンドウでは記譜モード、別のウィンドウでは再生モードのように、複数のウィンドウで同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

再生中は、同じプロジェクトに属するすべてのウィンドウに再生ヘッドが表示され、再生に合わせてビュワーが移動します。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトウィンドウを開きます。



- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[T] を押します。
  - 「ウィンドウ (Window)」 > 「新規ウィンドウ (New Window)」 を選択します。
- 

#### 結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

#### 関連リンク

[再生ヘッド](#) (435 ページ)

## 全画面表示モードに変更する

プロジェクトウィンドウを画面全体に表示することで、楽譜のスペースを最大限に広げられます。

オペレーティングシステムのデスクトップ要素 (Windows のタスクバー、macOS のシステムメニューバーや Dock など) を隠すこともできます。

Dorico Pro では、ウィンドウの右側、左側、および下部のパネルの表示/非表示を切り替えることで、さらに楽譜のスペースを広げられます。

#### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「全画面表示 (Full Screen)」 を選択します。
- 

#### 手順終了後の項目

表示をもとに戻すには、「ビュー (View)」 > 「全画面表示 (Full Screen)」 を再度選択します。

#### 関連リンク

[パネルの表示/非表示](#) (17 ページ)

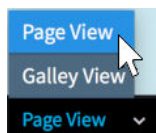
## ギャラリービューまたはページビューへの切り替え

楽譜領域のビュータイプを切り替えることができます。たとえば、プロジェクトのフルート奏者がピッコロに持ち替える場合、ビュータイプをギャラリービューに切り替えることでフルートの譜表に加えてピッコロの譜表も表示できます。

#### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、ギャラリービューまたはページビューに切り替えます。

- [Ctrl]/[command]+[Alt]+[2] を押してギャラリービューに切り替えます。
- [Ctrl]/[command]+[Alt]+[1] を押してページビューに切り替えます。
- ステータスバーのビューセクターで、「ギャラリービュー (Galley View)」または「ページビュー (Page View)」 を選択します。



2. 「ページビュー (Page View)」 を選択した場合は、必要に応じてステータスバーでいずれかのページ配置を選択します。

見開き (水平)  
(Spreads  
Horizontally)



見開き (垂直)  
(Spreads Vertically)



単一ページ (水平)  
(Single Pages  
Horizontally)



単一ページ (垂直)  
(Single Pages  
Vertically)



### 結果

楽譜領域のビュータイプが変更されます。ページビューでは、デフォルトで音符またはアイテムを含む譜表のみが表示されます。空白のパートが複数関連付けられているプレーヤーは、フルスコアでは最初に関連付けられているインストゥルメントの譜表のみが表示されます。

ギャラリービューでは、プロジェクトのすべての譜表が表示されます。ただし、音符のスペーシングの調整や垂直方向の衝突回避は自動的に行なわれないため、音符やアイテムが重なって見える場合があります。

### ヒント

- 「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」 の「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」 ページで、ギャラリービューでのデフォルトの譜表間隔を変更できます。
- 「環境設定 (Preferences)」 の「全般 (General)」 ページの「ビュー (View)」 セクションで、すべてのプロジェクトに使用するデフォルトのビュータイプを変更できます。

### 関連リンク

[ビュータイプ \(42 ページ\)](#)

[ページビューのページ配置 \(43 ページ\)](#)

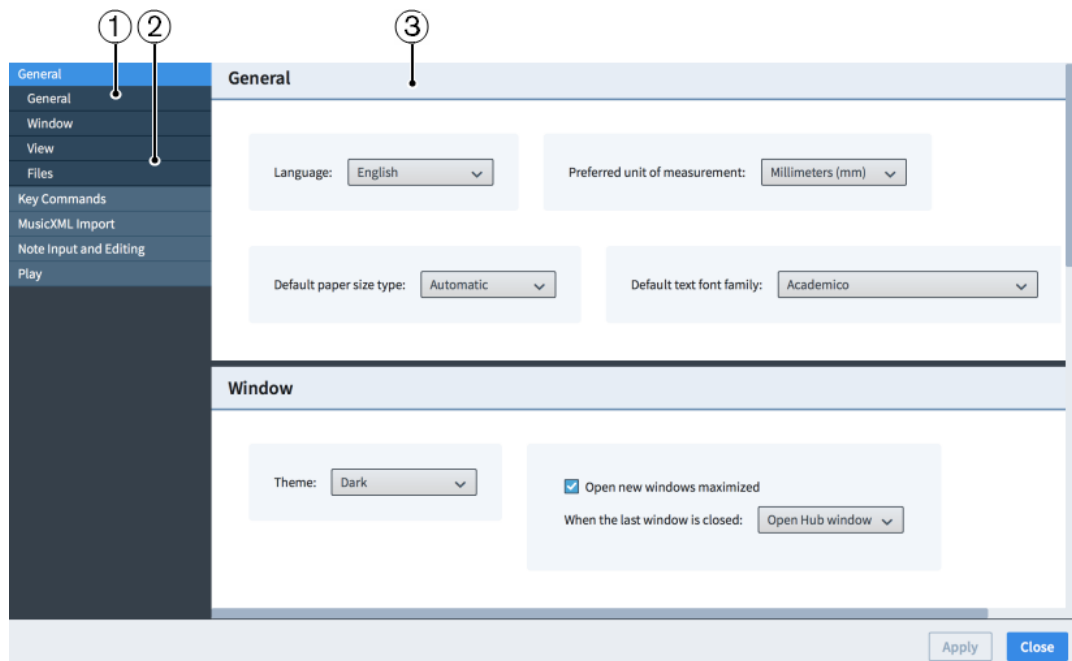
[ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する \(399 ページ\)](#)

## 「環境設定 (Preferences)」 ダイアログ

「環境設定 (Preferences)」 ダイアログで、ワークスペースの設定を行ったり、キーボードショートカットを定義したりできます。

「環境設定 (Preferences)」 を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押します。
- 「Dorico」 > 「環境設定 (Preferences)」 を選択します (macOS)。
- 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」 を選択します (Windows)。



### 環境設定

「環境設定 (Preferences)」 ダイアログには以下のセクションが含まれます。

#### 1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

## 2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

## 3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

### 補足

「**キーボードショートカット (Key Commands)**」 ページのオプションの配置は、「**環境設定 (Preferences)**」 ダイアログの他のページと大きく異なります。このページの詳細については、後述のセクションを参照してください。

---

### 関連リンク

[ビュータイプ \(42 ページ\)](#)

[ズームオプション \(44 ページ\)](#)

[選択ツール \(41 ページ\)](#)

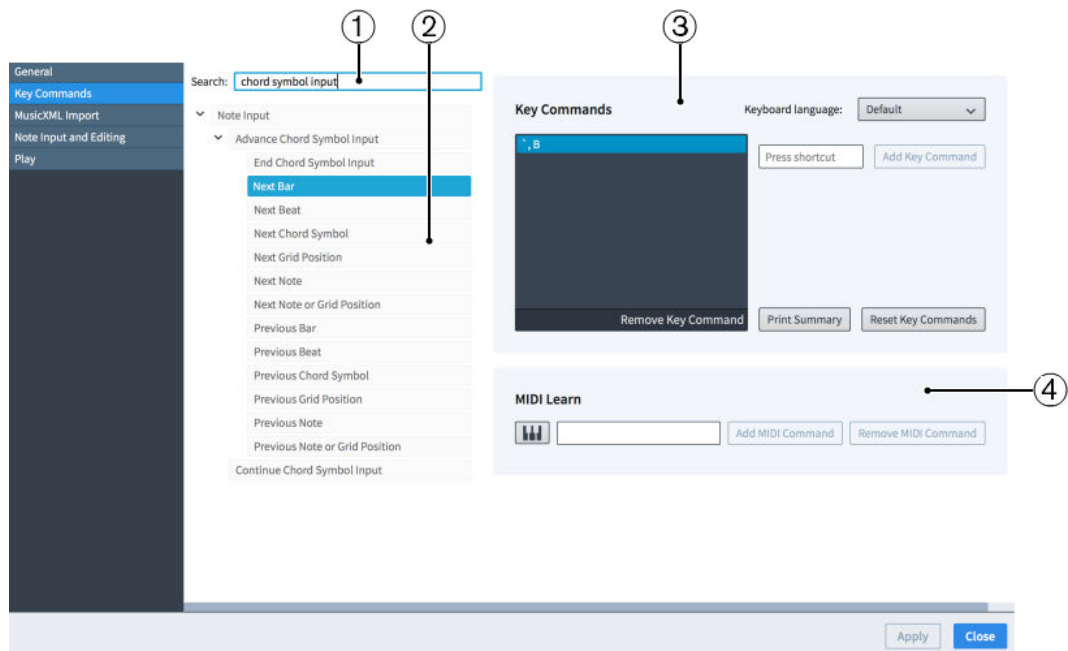
[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(93 ページ\)](#)

## 「環境設定 (Preferences)」 ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」 ページ

「**環境設定 (Preferences)**」 ダイアログの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」 ページでは、キーボードショートカットを割り当てられるすべての項目や機能を確認したり、既存のキーボードショートカットを変更したり、キーボードショートカットがデフォルトで割り当てられていない項目や機能にキーボードショートカットを新たに割り当てたりできます。

Dorico Pro のメインメニューの多くは、メニュー項目にキーボードショートカットが設定されています。また、Dorico Pro の他の機能にもキーボードショートカットを割り当てられます。リズムグリッドの値の変更などの頻繁に使う項目や機能がある場合は、キーボードショートカットが便利です。

- 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」 ページを表示するには、「**環境設定 (Preferences)**」 ダイアログを開き、ページリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」 をクリックします。



「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページ

「キーボードショートカット (Key Commands)」ページには以下のセクションが含まれます。

### 1 検索フィールド

メニュー項目と機能を検索してキーボードショートカットを表示、変更、追加できます。多くのメニュー項目や機能は展開矢印マークによって複数の階層に折りたたまれているため、多くの場合、検索フィールドを使うと目的の項目を最も早く見つけられます。

### 2 メニュー項目と機能

キーボードショートカットを割り当てることができるメニュー項目や機能が表示されます。検索フィールドを使用して、このリストをフィルタリングできます。より詳細なオプションが含まれる項目の横には、展開矢印マークが付いています。

メニューアイテムや機能にマウスを合わせると、ツールヒントが表示されます。これは名前が長い一部の機能において役立ちます。

### 3 「キーボードショートカット (Key Commands)」セクション

割り当て済みのキーボードショートカットのリストで、選択しているメニュー項目または機能にキーボードショートカットが割り当てられているかどうかを確認したり、新しいキーボードショートカットを設定したりできます。入力したキーボードショートカットがすでに別のメニュー項目または機能に割り当てられている場合、そのショートカットは使用できないことを示す警告が表示されます。

各メニュー項目または機能には複数のキーボードショートカットを割り当てることができます。また、「キーボード言語 (Keyboard language)」ポップアップメニューを使用して、言語ごとに異なるキーボードショートカットを割り当てることができます。

- **キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)**

選択したメニュー項目または機能に、入力したキーボードショートカットを割り当てます。

- **キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)**

選択したメニュー項目または機能から、現在選択しているキーボードショートカットを削除します。

- **概要を印刷 (Print Summary)**

Web ブラウザーにオフラインページが開き、現在のキーボードショートカット設定がインタラクティブキーボードに表示されます。

- **キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands)**

すべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットします。

#### 4 「MIDI Learn」 セクション

MIDI コントローラー、MIDI ノート、および MIDI ノートの組み合わせを、メニュー項目や機能の操作に割り当てることができます。

- **MIDI Learn**



Dorico Pro が受信した MIDI 入力データをコマンドとして保存できる状態にします。

- **MIDI コマンドを追加 (Add MIDI Command)**

選択したメニュー項目または機能に、変更または入力した MIDI コントローラーや MIDI ノートを割り当てます。

- **MIDI コマンドを削除 (Remove Key Command)**

選択したメニュー項目または機能から、MIDI コマンドを削除します。

関連リンク

[キーボードショートカットの割り当て \(55 ページ\)](#)

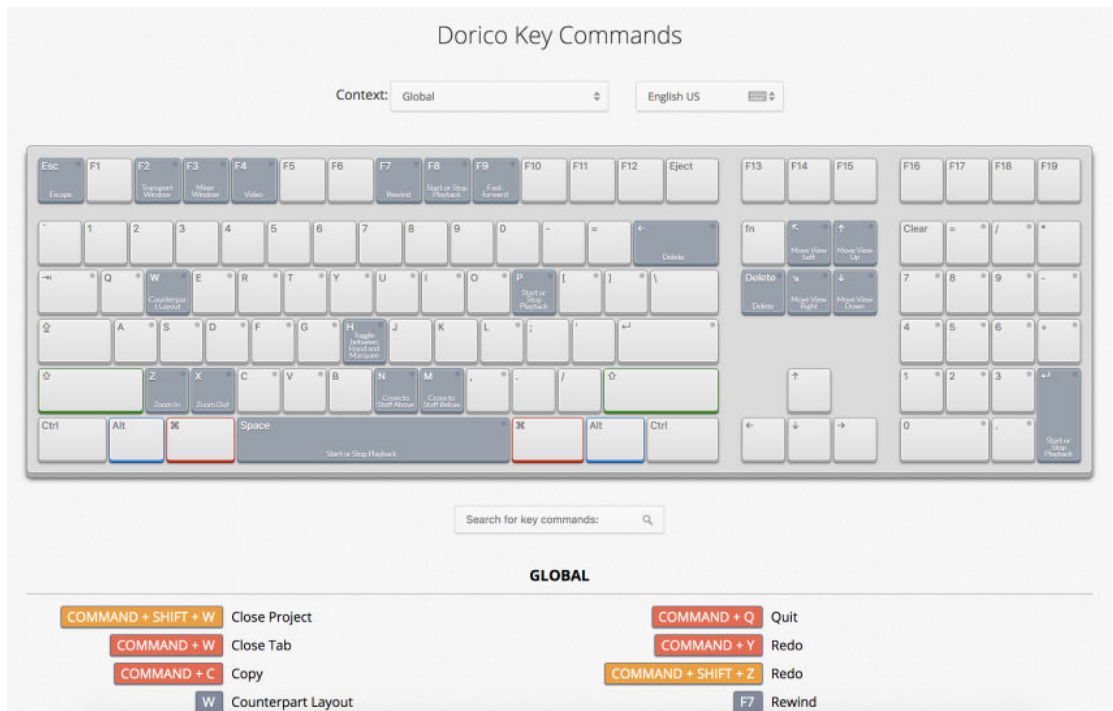
[MIDI コマンドの割り当て \(55 ページ\)](#)

## インタラクティブ 「Dorico Pro キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」 マップ

インタラクティブ 「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」 マップにはコンピューターのバーチャルキーボードが表示されます。キーボードショートカットが割り当てられたキーは強調表示され、使用している修飾キーによって異なる色が付いています。バーチャルキーボードの下に、選択したキーボード言語のすべてのキーボードショートカットが、全般とモード固有のグループに分かれてリストで表示されます。

「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」 マップを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ヘルプ (Help)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」 を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」 を選択し、「環境設定 (Preferences)」 ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」 セクションで、「概要を印刷 (Print Summary)」 をクリックします。



「英語 (English US)」を選択時のインタラクティブキーボードショートカットマップ

「**Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)**」マップが Web ブラウザーで開きます。以下のいずれかの操作を行なえます。

- 使用可能なキーボードショートカットを確認するには、コンテキストを選択します。キーボードショートカットのコンテキストとは、そのキーボードショートカットを使用できるモードのことを指します。「全般 (Global)」のコンテキストに属するキーボードショートカットは、すべてのモードで使用できます。
- 修飾キーと組み合わせてキーボードショートカットとして使用できるキーを強調表示するには、[Shift] など、お使いのキーボードの修飾キーを押すか、バーチャルキーボードの修飾キーをクリックします。複数の修飾キーを押すこともできます。バーチャルキーボードでキーが強調表示され、どの機能が割り当てられているかが表示されます。
- 特定のキーボードショートカットを検索するには、検索フィールドに 1 つ以上の単語を入力します。
- 使用できるキーボードショートカットの概要を確認するには、バーチャルキーボードの下にリスト表示されたショートカットを確認します。キーボードショートカットはそのショートカットを使用できるコンテキストごとにリスト表示されます。

関連リンク

[キーボードレイアウトの変更 \(56 ページ\)](#)

## 各機能のキーボードショートカットの検索

Dorico Pro で機能またはメニュー項目に割り当てられているキーボードショートカットを検索できません。

手順

1. [Ctrl]/[command]+[,] (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. 「**検索 (Search)**」フィールドに、機能の名称を入力します。  
入力した内容に応じてフィルタリングされたエントリーが、検索フィールドの下にリスト表示されます。

4. エントリーを展開して、キーボードショートカットを確認する機能を選択します。  
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。

---

#### 結果

機能に対してキーボードショートカットが設定されている場合、割り当て済みのキーボードショートカットのリストにキーボードショートカットが表示されます。

#### ヒント

インタラクティブキーボードショートカットマップでも機能のキーボードショートカットを検索できます。

---

## キーボードショートカットの割り当て

多くのメニュー項目や機能にキーボードショートカットを割り当てることができます。たとえば、デフォルトではキーボードショートカットが割り当てられていないメニュー項目を頻繁に使用する場合、キーボードショートカットを割り当てることでそのメニュー項目に素早くアクセスできます。既存のキーボードショートカットの変更もできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. 機能の名称を検索して選択します。  
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。
4. すでにキーボードショートカットが設定されている機能の場合、必要に応じて「**キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)**」をクリックします。  
既存のキーボードショートカットを削除せずに新しいショートカットを割り当てると、既存のショートカットと新しいショートカットの両方を使用できます。
5. 「**ショートカットを押してください (Press shortcut)**」入力フィールドをクリックします。
6. コンピューターキーボードで、割り当てるキーボードショートカットを押します。
7. 「**キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)**」をクリックします。  
割り当て済みのキーボードショートカットのリストにキーボードショートカットが追加されます。
8. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したメニュー項目または機能に、入力したキーボードショートカットが割り当てられます。割り当てたキーボードショートカットはすぐに使用できます。

#### 関連リンク

[キーボードショートカットのリセット \(56 ページ\)](#)

## MIDI コマンドの割り当て

MIDI キーボードの特定のキーやボタンを、機能の実行やメニュー項目へのアクセスに割り当てることができます。たとえば、コード記号の入力時に MIDI キーで操作できるようになります。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. MIDI コマンドを割り当てるメニュー項目または機能を選択します。

名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。

4. 「MIDI Learn」 をクリックします。



5. 選択したパラメーターに割り当てる MIDI キーボードのキーまたはボタンを押します。
  6. 「MIDI コマンドを追加 (Add MIDI Command)」 をクリックします。
  7. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから 「閉じる (Close)」 をクリックします。
- 

## キーボードレイアウトの変更

Dorico Pro ではキーボードレイアウトを別の言語のキーボードレイアウトに変更できます。これにより、選択した言語用にあらかじめ定義されたキーボードショートカットを使用できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して 「環境設定 (Preferences)」 を開きます。
  2. ページリストの 「キーボードショートカット (Key Commands)」 をクリックします。
  3. 「キーボード言語 (Keyboard language)」 メニューから別の言語のキーボードレイアウトを選択します。
  4. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから 「閉じる (Close)」 をクリックします。
- 

### 結果

選択した言語のキーボードショートカットはすぐに反映されます。

## キーボードショートカットの削除

機能のキーボードショートカットは個別に削除できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して 「環境設定 (Preferences)」 を開きます。
  2. ページリストの 「キーボードショートカット (Key Commands)」 をクリックします。
  3. 機能の名称を検索して選択します。
  4. 「キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)」 をクリックします。
  5. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから 「閉じる (Close)」 をクリックします。
- 

### 結果

選択した機能からキーボードショートカットが削除されます。

### 関連リンク

[各機能のキーボードショートカットの検索 \(54 ページ\)](#)

## キーボードショートカットのリセット

プロジェクト内のすべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットできます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して 「環境設定 (Preferences)」 を開きます。
2. ページリストの 「キーボードショートカット (Key Commands)」 をクリックします。
3. 「キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands)」 をクリックします。



4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

すべてのカスタムのキーボードショートカットが削除され、デフォルトのキーボードショートカットに戻ります。

## 優先する基準単位の変更

絶対値を使用する「レイアウトオプション (Layout Options)」のページ余白オプションなど、Dorico Pro 全体で使用されるデフォルトの優先する基準単位を変更できます。これは、「浄書オプション (Engraving Options)」や「記譜オプション (Notation Options)」のオプションのように、譜表サイズに関連するオプションには影響しません。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
  3. 「全般 (General)」セクションで、「優先する基準単位 (Preferred unit of measurement)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - ポイント (pt)
    - ミリメートル (mm)
    - インチ (in)
    - センチメートル (cm)
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

# プロジェクトとファイルの処理方法

プロジェクトとファイルの処理方法には、プロジェクトおよびその他の形式のファイルを開いて読み込み/書き出しを行なう他に、自動保存とプロジェクトのバックアップも含まれます。

関連リンク

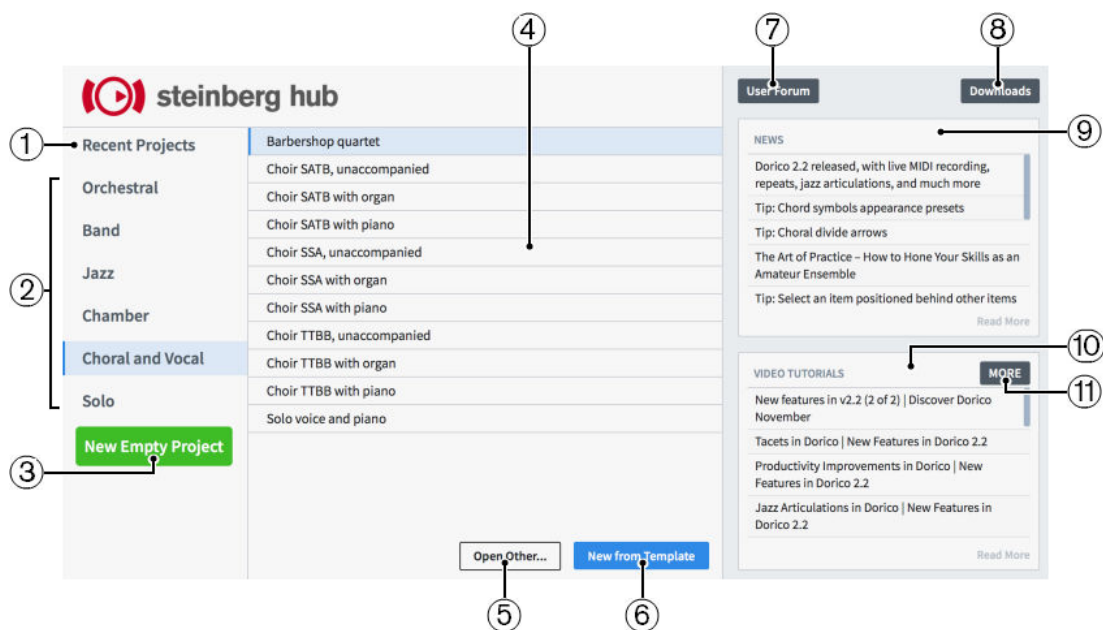
[ファイルの読み込みと書き出し \(63 ページ\)](#)

[自動保存 \(80 ページ\)](#)

[プロジェクトのバックアップ \(82 ページ\)](#)

## Hub

Dorico Pro を起動すると Hub が開きます。Hub は、Dorico の最新情報やチュートリアルを入手したり、プロジェクトを整理したりするのに役立ちます。



Hub には以下のコンテンツが含まれます。

### 1 最近使用したプロジェクト (Recent Projects)

最近使用したプロジェクトに素早くアクセスできます。「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」を選択すると、該当するプロジェクトのリストが表示されます。マウスやタッチパッド、あるいは [↑]/[↓] キーを使用してリストをスクロールできます。

### 2 プロジェクトテンプレートのカテゴリ

使用可能なカテゴリから、適切なプロジェクトテンプレートに素早くアクセスできます。カテゴリを選択すると、使用可能なテンプレートのリストが表示されます。

### 3 新規空白プロジェクト (New Empty Project)

プレーヤーやフローが設定されていない新規のプロジェクトを開始します。

#### 4 リスト

ダイアログの左側で選択している項目に従って、最近使用したプロジェクトまたはプロジェクトテンプレートが表示されます。

#### 5 他のファイルを開く (Open Other)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) でその他のプロジェクトを検索して開くことができます。

#### 6 テンプレートから新規作成 (New from Template) (プロジェクトテンプレートを選択時)

選択したプロジェクトテンプレートを使用して、新規プロジェクトを作成します。このオプションはプロジェクトテンプレートを選択している場合にのみ使用できます。

**選択したプロジェクトを開く (Open Selected Project)** (最近使用したプロジェクトを選択時)

「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」のリストで選択したファイルを開きます。

#### 7 ユーザーフォーラム (User Forum)

Steinberg Web サイトのユーザーフォーラムのページを表示します。

#### 8 ダウンロード (Downloads)

Steinberg Web サイトのダウンロードページへのリンクです。関連するアップデートインストーラーやマニュアルへのリンクがあります。

#### 9 ニュース (News)

Dorico ブログの最新の記事が表示されます。ニュース記事をダブルクリックするか、選択して「続きを読む (Read More)」をクリックすると、記事が Web ブラウザーで表示されます。

#### 10 ビデオチュートリアル (Video Tutorials)

最新の Dorico のチュートリアルが表示されます。ビデオチュートリアルをダブルクリックするか、選択して「続きを読む (Read More)」をクリックすると、記事が Web ブラウザーで表示されます。

#### 11 もっと見る (More)

YouTube の Dorico チャンネルへのリンクです。

関連リンク

[プロジェクトテンプレートのカテゴリによって異なる括弧 \(60 ページ\)](#)

## 新規プロジェクトの開始

Dorico Pro では、複数の方法でプロジェクトを開始できます。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトを開始します。
  - **[Ctrl]/[command]+[N]** を押します。
  - 「ファイル (File)」 > 「新規 (New)」を選択します。
  - Hub で「新規空白プロジェクト (New Empty Project)」をクリックします。

---

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。

## プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始

Dorico Pro には、さまざまなタイプのオーケストラや合唱など、新規プロジェクトを開始するためのプロジェクトテンプレートが複数用意されています。

---

手順

1. Hub で、以下のプロジェクトテンプレートのカテゴリを 1 つ選択します。

- オーケストラ (Orchestral)
  - バンド (Band)
  - ジャズ (Jazz)
  - 室内楽 (Chamber)
  - 合唱および声楽 (Choral and Vocal)
  - ソロ (Solo)
2. リストからプロジェクトテンプレートを選択します。
  3. 「テンプレートから新規作成 (New from Template)」をクリックします。

---

#### 結果

プロジェクトテンプレートが新規プロジェクトウィンドウで開きます。

#### ヒント

「ファイル (File)」 > 「テンプレートから新規作成 (New From Template)」 > [テンプレートのカテゴリ] > [プロジェクトテンプレート] を選択して、テンプレートから新規プロジェクトを開始することもできます。

---

#### 手順終了後の項目

プレーヤーやインストゥルメントを追加したり、テンプレートに含まれていたプレーヤーやインストゥルメントを削除したりして、プロジェクトをカスタマイズできます。

#### 関連リンク

[ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加 \(97 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(107 ページ\)](#)

[プレーヤーの削除 \(104 ページ\)](#)

[インストゥルメントの削除 \(110 ページ\)](#)

## プロジェクトテンプレートのカテゴリによって異なる括弧

新規プロジェクトを開始する際に選択したプロジェクトテンプレートによって、譜表がくくられる括弧は異なります。これはあとでプロジェクトのプレーヤーを変更しても変更されません。たとえば、室内楽のテンプレートを使用してプロジェクトを開始した場合、すべての譜表は大括弧でくくられます。

Dorico Pro で使用できるテンプレートのカテゴリを以下に示します。これらのテンプレートでは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページで、テンプレートに適切なアンサンブルタイプが自動的に選択され、譜表が別々の方法で自動的に括弧でくくられます。

---

#### 補足

- ピアノなど、大譜表を使用する楽器は常に大括弧から除外されます。またそれらの楽器が大括弧でくくられたグループ内に配置された場合は、別の括弧でくくられます。
- 大括弧を表示するには、隣接する楽器が少なくとも2つは必要です。

---

#### オーケストラ (Orchestral)

弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器など、ほとんどの西洋楽器を含む大編成のアンサンブルです。

オーケストラのテンプレートでは、譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。たとえば、隣接する弦楽器は、隣接する木管楽器とは別の括弧でくくられます。

#### バンド (Band)

木管楽器や金管楽器などの管楽器を主に含む大編成のアンサンブルで、場合によっては打楽器や、弦楽器、ギターなどの他の楽器も含まれます。

バンドのテンプレートの種類によって、大括弧でのくくり方も異なります。たとえば、コンサートバンドのテンプレートでは木管楽器と金管楽器が別々の大括弧でくくられますが、プラスバンドのテンプレートでは金管楽器がインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます (ただし、ホルンとトランペットは同じ大括弧に含まれます)。スコア内のその他すべてのインストゥルメントは、インストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。また、打楽器とティンパニは個別に大括弧でくくられます。

### ジャズ (Jazz)

ジャズの演奏に一般的に使用される、人気のアンサンブルです。

小編成のジャズのテンプレートでは、譜表は大括弧でくくられません。大譜表を使用するインストゥルメントには中括弧が表示されます。ビッグバンドのテンプレートでは、「**ビッグバンド (Big band)**」アンサンブルタイプの大括弧が使用されます。

### 室内楽 (Chamber)

一般的に、プレーヤーが少数しかいない小編成のアンサンブルです。

室内楽のテンプレートでは、インストゥルメントファミリーに関係なく、プロジェクト内のすべての譜表が1つの大括弧でくくられます。

### 合唱および声楽 (Choral and Vocal)

人気の合唱編成などの声部を含むアンサンブルです。

合唱および声楽のテンプレートでは、譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。たとえば、隣接する声部の譜表は、伴奏を行なうインストゥルメントとは別の大括弧でくくられます。ただし、声部の譜表は小節線で結合されません。

### ソロ (Solo)

単一のプレーヤーまたはインストゥルメントのみを含むアンサンブルです。

ソロのテンプレートでは、譜表は大括弧でくくられません。大譜表を使用するインストゥルメントには中括弧が表示されます。

### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(564 ページ\)](#)

## プロジェクト/ファイルを開く

Dorico Pro プロジェクトはいつでも開けます。たとえば、開きたいプロジェクトが、Hub の最近使用したプロジェクトのリストに表示されていない場合でも開くことができます。MusicXML および MIDI ファイルを開くこともできます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  - Hub で、「他のファイルを開く (Open Other)」をクリックします。
  - 「ファイル (File)」 > 「開く (Open)」を選択します。
  - 「ファイル (File)」 > 「最近使用したプロジェクト (Open Recent)」 > [プロジェクトファイル名] を選択します。
- エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、開くファイルを探して選択します。
- 「開く (Open)」をクリックします。

---

### 結果

選択した Dorico プロジェクトが開きます。

MusicXML や MIDI ファイルを開くと、MusicXML や MIDI の内容をもとにして Dorico Pro の新規プロジェクトファイルが作成されます。このファイルを Dorico Pro のデフォルトのプロジェクトとして保存できます。

MusicXML ファイルにページサイズ、余白、および譜表サイズの設定が含まれる場合、Dorico Pro はこれらの値を読み込みます。これらの値が含まれない場合は、ファイル内のインストゥルメント数に応じて Dorico Pro が適切な設定を作成します。

#### ヒント

MusicXML や MIDI ファイルを別のプロジェクトとして開くのではなく、既存のプロジェクトに新しいフローとして読み込むこともできます。

---

#### 関連リンク

[Hub \(58 ページ\)](#)

[MusicXML ファイルの読み込み \(67 ページ\)](#)

[MIDI の読み込み \(70 ページ\)](#)

## Hub から最近使用したプロジェクトを開く

Steinberg Hub から、最近使用したプロジェクトを選択して開くことができます。

---

#### 手順

1. Hub で、「**最近使用したプロジェクト (Recent Projects)**」をクリックします。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、最近使用したプロジェクトをリストから選択します。
    - **[↑]/[↓]** を使用してプロジェクトファイル名を選択し、**[Return]** を押してプロジェクトを開きます。
    - プロジェクトファイル名をダブルクリックします。
    - プロジェクトファイル名を選択し、「**選択したプロジェクトを開く (Open Selected Project)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択した Dorico プロジェクトが開きます。

#### 関連リンク

[Hub \(58 ページ\)](#)

## 異なるバージョンの Dorico のプロジェクト

現在とは異なるバージョンの Dorico で保存したプロジェクトを開くことができます。その場合には、行なわれる動作についての警告メッセージが表示されます。

警告メッセージの内容は、開こうとしているプロジェクトがどのバージョンの Dorico で保存されているかによって異なります。

- 旧バージョンで保存されたプロジェクトを開く場合は、保存されている旧バージョン番号、およびプロジェクトが現在のバージョンに更新される旨のメッセージが表示されます。
- 現在よりも新しいバージョンで保存されたプロジェクトを開く場合は、プロジェクトがより新しいバージョンで作成されている旨のメッセージが表示されます。また、新しいバージョンのアイテムと記譜記号が表示されない可能性や、プロジェクトを現在のバージョンで保存するとアイテムと記譜記号が削除される可能性があることも表示されます。

上記のどちらの場合でも、プロジェクトを開くことでデータは破損しません。つまり、保存をしなければ内容や形式は影響を受けません。

「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページにある「**ファイル (Files)**」セクションでは、異なるバージョンのプロジェクトを開く際に表示される警告をオフにできます。同じセクションで、異なるバージョンのプロジェクトは新しい場所に保存することを促すように設定できます。これにより、誤ってプロジェクトを上書きするリスクを低減します。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## ファイルの読み込みと書き出し

外部ファイルとは、Dorico プロジェクトとは形式が異なるファイルで、MIDI、MusicXML やテンポトラックなどがあります。Dorico Pro では、さまざまな種類のファイルの読み込みと書き込みを行なえます。

これは、たとえば異なる楽譜作成ソフトウェアを使用する誰かとプロジェクトを共有する場合や、プロジェクト中の音符、オーディオ、または拍子記号とテンポ情報を他の形式に変換する場合などに有用です。

## フローの読み込み

個々のフローを既存のプロジェクトに読み込むことができます。たとえば、複数の既存の楽曲を出版用に1つのプロジェクトにまとめたり、好みの設定が保存された空白のプロジェクトファイルを読み込んでそれらの設定を再利用したりできます。

---

手順

1. 「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「フロー (Flows)」 を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込むフローのプロジェクトファイルの場所まで移動して選択します。
3. 「開く (Open)」 をクリックして、最初に選択したプロジェクトの「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログを開きます。
4. 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログの「プレーヤーの処理方法 (Player handling)」 で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**
  - **可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**
5. 「フローを読み込む (Import flows)」 リストで、読み込むフローそれぞれのチェックボックスをオンにします。
6. 「OK」 をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
7. また、フローの読み込みを行なうプロジェクトを複数選択した場合は、それぞれのプロジェクトに対し手順 4 から 6 を繰り返します。プロジェクトごとに「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログが自動的に開きます。

---

結果

選択したフローがプロジェクトに読み込まれます。

- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」 を選択している場合、必要なだけの新規プレーヤーが各フローに追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」 を選択している場合、読み込まれたフローと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノソロが含まれるフローをピアノとヴィオラが含まれるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれたフローは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

---

補足

- プロジェクトに読み込んだフローには、プレーヤーは自動的に追加されません。
  - フローを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとする場合、フローを直接開くこともできます。
-

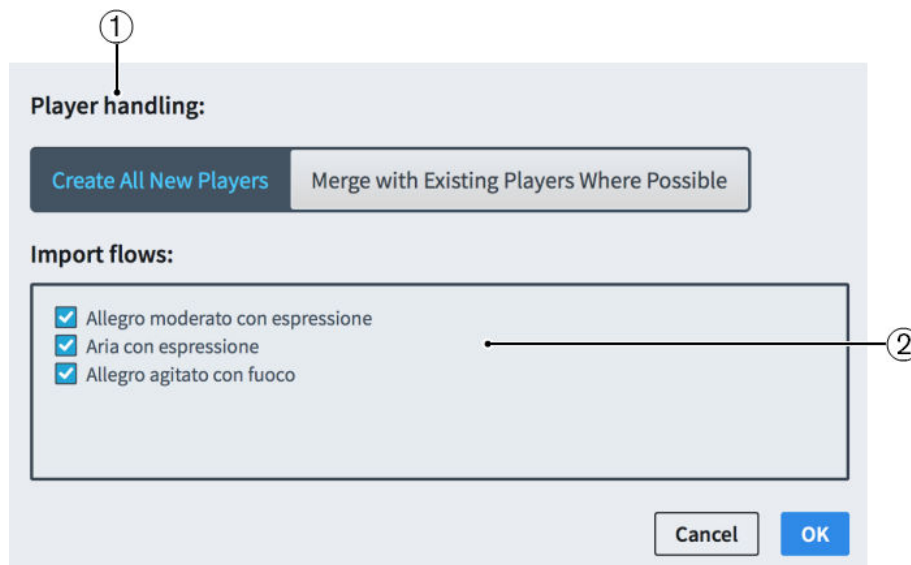
関連リンク

[プロジェクト/ファイルを開く \(61 ページ\)](#)

## 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログ

「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログでは、読み込んだフローのプレイヤーをプロジェクトに既存のプレイヤーにマージするかどうか、および他のプロジェクトの中からのどのフローを読み込むかについて指定できます。

- 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログを開くには、「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**フロー (Flows)**」を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から Dorico プロジェクトを開きます。



「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログ

「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログは以下で構成されます。

### 1 プレーヤーの処理方法 (Player handling)

読み込んだフローをどのようにプレイヤーに割り当てるか指定できます。

- 「**すべて新規のプレイヤーを作成 (Create All New Players)**」は読み込んだフローごとに個別のプレイヤーを追加します。
- 「**可能な場合既存のプレイヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」は、プロジェクト中の既存のプレイヤーと互換性のあるプレイヤーが読み込んだフローにいる場合、両者をマージします。

### 2 フローを読み込む (Import flows)

選択したプロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたフローが読み込み対象となります。

## フローの書き出し


プロジェクトから個々のフローを書き出すことができます。たとえば、サイズの大きいプロジェクトから小さい抜粋を個別に保存することなどができます。

### 補足

この手順では、フローが個別の Dorico プロジェクトとして書き出されます。フローを別のファイル形式、たとえば MusicXML や MP3 で書き出す場合は、他の方法が用意されています。



手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「フロー (Flows)」 を選択して 「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログを開きます。
2. 「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログで、「選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)」 をオンまたはオフにします。
3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」 リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。リストの下にある 「すべて選択 (Select All)」 または 「選択を解除 (Select None)」 を選択することもできます。
4. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」 のオン/オフを切り替えます。
5. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」 をオンにした場合は、「書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)」 リストで書き出すレイアウトに対応するチェックボックスをオンにします。リストの下にある 「すべて選択 (Select All)」 または 「選択を解除 (Select None)」 を選択することもできます。
6. 「書き出し先 (Export to)」 フィールドの横の 「フォルダーを選択 (Choose Folder)」 をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。  

7. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
8. 「開く (Open)」 (macOS)/ 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」 フィールドに新しいパスを入力します。
9. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」 をオン/オフにします。
10. 「OK」 をクリックすると、選択したフローとレイアウトが書き出されてダイアログが閉じます。

関連リンク

[MusicXML ファイルの書き出し \(68 ページ\)](#)

[MIDI の書き出し \(73 ページ\)](#)

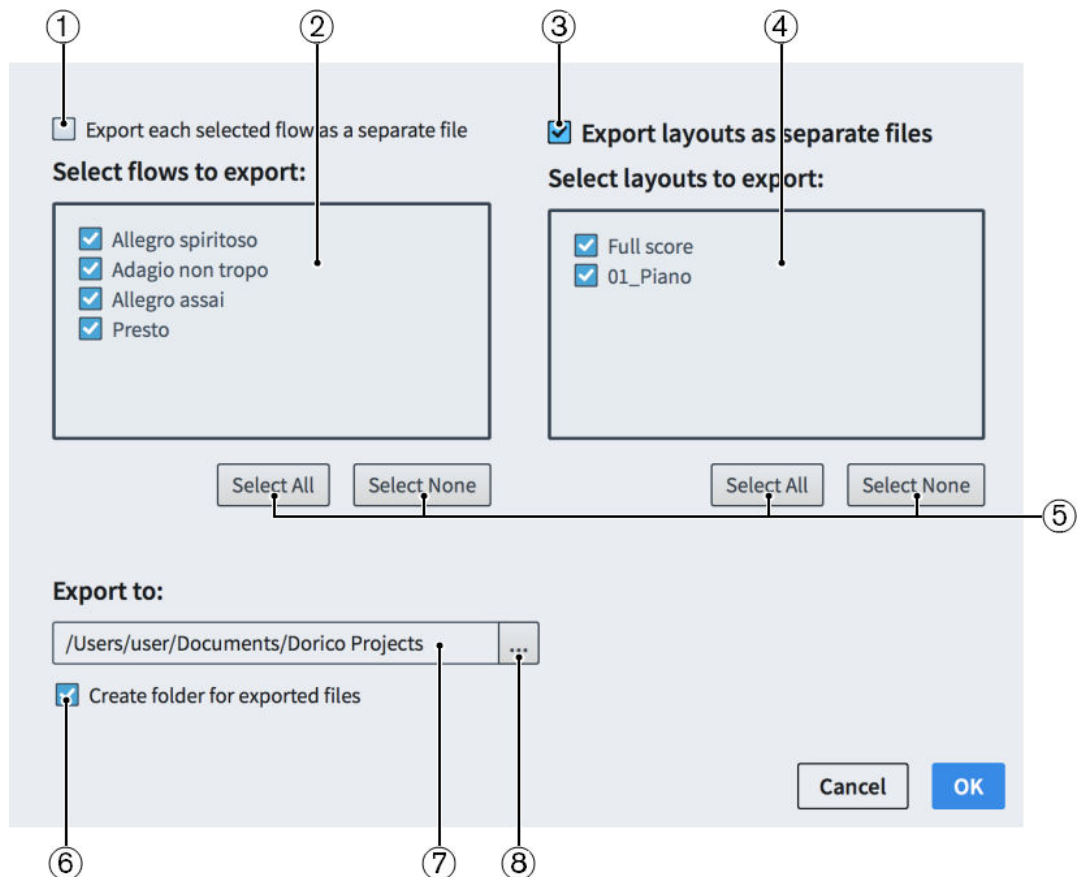
[テンポトラックの書き出し \(76 ページ\)](#)

[オーディオの書き出し \(78 ページ\)](#)

## 「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログ

「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログでは、個々のフローおよびレイアウトを個別の Dorico ファイルに保存できます。

- 「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「フロー (Flows)」 を選択します。



「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログ

「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

- 1 選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)**  
選択したフローすべてを 1 つのファイルに書き出すのではなく、各フローを個別のファイルに書き出しできます。
- 2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**  
プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。
- 3 レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)**  
プロジェクトの各レイアウトを 1 つのファイルではなく個別のファイルとして書き出しできます。
- 4 書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)**  
プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたレイアウトは書き出しされます。「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合のみ、レイアウトを書き出しできます。
- 5 選択オプション**  
対応するリストのすべてのフロー/レイアウトの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを 1 つだけ選択できます。
- 6 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**  
選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。“フローの場所 Smyth - String Quintet”のように、自動作成されるフォルダー名は、“フローの場所”のあとにプロジェクトファイル名が続きます。
- 7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**  
書き出したフローが保存される現在の書き出しパスを表示します。

## 8 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

# MusicXML ファイルの読み込み

MusicXML ファイルは、たとえば異なる楽譜作成ソフトウェアで開始された楽曲の作業を引き継ぐ場合など、個別のフローとして既存の Dorico Pro プロジェクトに読み込まれます。

---

### 手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**MusicXML**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込む MusicXML ファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックして、最初に選択した MusicXML ファイルのための「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログを開きます。
4. 「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログの「**プレーヤーの処理方法 (Player handling)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**
  - **可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**
5. 「**OK**」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
6. また、複数の MusicXML ファイルを選択した場合は、必要に応じて各ファイルに手順 4 から 5 を繰り返します。ファイルごとに「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが自動的に開きます。

---

### 結果

選択した MusicXML ファイルが新規フローとしてプロジェクトに読み込まれます。

- MusicXML ファイルにページサイズ、余白、および譜表サイズの設定が含まれる場合、Dorico Pro はこれらの値を読み込みます。これらの値が含まれない場合は、ファイル内のインストゥルメント数に応じて Dorico Pro が適切な設定を作成します。
- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」を選択している場合、それぞれの MusicXML ファイルの読み込みに必要なだけの新規プレーヤーが追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」を選択している場合、読み込まれた MusicXML ファイルと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノソロが含まれる MusicXML ファイルをピアノとヴィオラが含まれるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれた MusicXML ファイルは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

---

### ヒント

- MusicXML ファイルを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとして開く場合は、MusicXML ファイルを直接開くこともできます。
- 読み込んだ MusicXML ファイルの処理方法に関する環境設定のデフォルトは、「**環境設定 (Preferences)**」の「**MusicXML の読み込み (MusicXML Import)**」ページで変更できます。

---


### 関連リンク

[「フローの読み込みオプション \(Flow Import Options\)」ダイアログ \(64 ページ\)](#)  
[プロジェクト/ファイルを開く \(61 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルの書き出し

たとえばソリストのレイアウトの1つめのフローのみを書き出す場合、フローとレイアウトを個別の MusicXML ファイルとして書き出せます。

手順

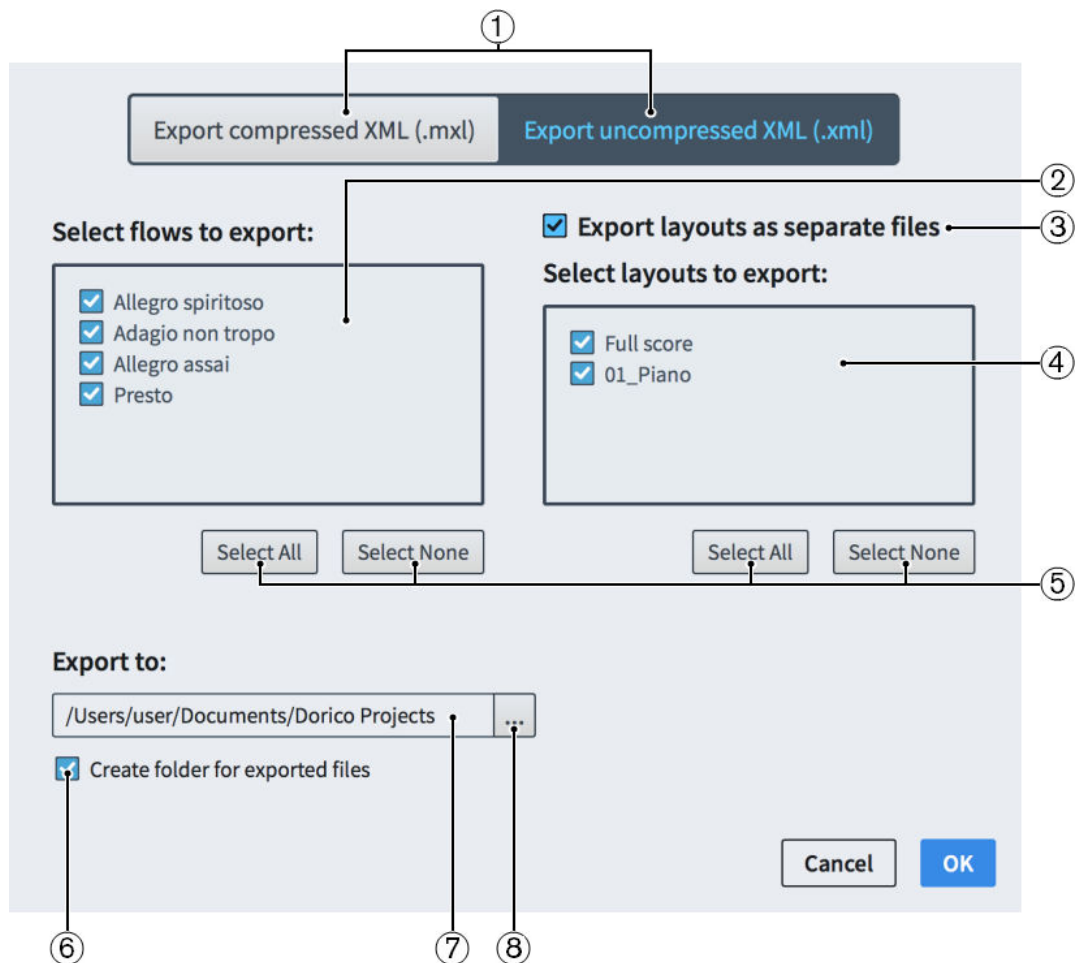
1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MusicXML」を選択して、「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログを開きます。
2. 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログで、以下のいずれかのファイル形式のオプションを選択します。
  - 圧縮された XML ファイル (.mxl) を書き出し (Export compressed XML (.mxl))
  - 非圧縮の XML ファイル (.xml) を書き出し (Export uncompressed XML (.xml))
3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。リストの下にある「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」を選択することもできます。
4. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」のオン/オフを切り替えます。
5. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合は、「書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)」リストで書き出すレイアウトに対応するチェックボックスをオンにします。リストの下にある「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」を選択することもできます。
6. 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。  

7. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
8. 「開く (Open)」 (macOS)/ 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを入力します。
9. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
10. 「OK」をクリックすると、選択したフロー/レイアウトが MusicXML ファイルとして書き出され、ダイアログが閉じます。

---

### 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログ

「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログでは、個々のフローおよびレイアウトを個別の MusicXML ファイルに保存できます。

- 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MusicXML」を選択します。



「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」 ダイアログ

「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」 ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

**1 ファイル形式オプション**

書き出しを行なう MusicXML ファイルの形式を選択できます。圧縮された MusicXML ファイルには非圧縮の MusicXML と同じ情報が含まれますが、ファイルサイズが小さくなります。

**2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

**3 レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)**

プロジェクトの各レイアウトを 1 つのファイルではなく個別のファイルとして書き出しできます。

**4 書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)**

プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたレイアウトは書き出しされます。「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合のみ、レイアウトを書き出しできます。

**5 選択オプション**

対応するリストのすべてのフロー/レイアウトの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを 1 つだけ選択できます。

**6 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。“フローの場所 Smyth - String Quintet”のように、自動作成されるフォルダー名は、“フローの場所”のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

- 7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド  
書き出すファイルの保存先が表示されます。
- 8 フォルダーを選択 (Choose Folder)  
エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## MIDI の読み込み

MIDI ファイルは、たとえば楽曲のセクションの異なるバージョンに対して作業する場合など、個別のフローとして既存の Dorico Pro プロジェクトに読み込めます。

---

### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「MIDI」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込む MIDI ファイルを探して選択します。
  3. 「開く (Open)」をクリックして、最初に選択した MIDI ファイルのための「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログを開きます。
  4. 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログで、必要に応じて設定を変更します。
  5. また、クオンタイズ設定をカスタマイズする場合は、「クオンタイズオプション (Quantize Options)」をクリックして、必要に応じて「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログの設定を変更します。
  6. それから「OK」をクリックしてクオンタイズ設定を保存し、「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログに戻ります。
  7. 「OK」をクリックして「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログを閉じると、最初に選択した MIDI ファイルのための「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」ダイアログが自動的に開きます。
  8. 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」ダイアログの「プレイヤーの処理方法 (Player handling)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - すべて新規のプレイヤーを作成 (Create All New Players)
    - 可能な場合既存のプレイヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)
  9. 「OK」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
  10. また、複数の MIDI ファイルを選択した場合は、必要に応じて各ファイルに手順 4 から 9 を繰り返します。「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」と「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」ダイアログが、ファイルごとに自動的に開きなおします。
- 

### 結果

選択した MIDI ファイルが新規フローとしてプロジェクトに読み込まれます。Dorico Pro は読み込まれた MIDI ノートに対して、正しい異名同音を生成するアルゴリズムを使用します。

- MIDI ファイルに含まれるマーカーと一緒に読み込まれ、MIDI ファイルに SMPTE オフセット値が設定されている場合は、その値がフローの開始位置のタイムコード位置の設定に使用されません。
- 「すべて新規のプレイヤーを作成 (Create All New Players)」を選択している場合、それぞれの MIDI ファイルの読み込みに必要なだけの新規プレイヤーが追加されます。
- 「可能な場合既存のプレイヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)」を選択している場合、読み込まれた MIDI ファイルと既存のプロジェクト間で共通のプレイヤーはマージされます。たとえば、ピアノソロが含まれる MIDI ファイルをピアノとヴィオラが含まれるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれた MIDI ファイルは既存のピアノプレイヤーに追加されます。

## ヒント

MIDI ファイルを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとして開く場合は、MIDI ファイルを直接開くこともできます。

## 関連リンク

[プロジェクト/ファイルを開く \(61 ページ\)](#)

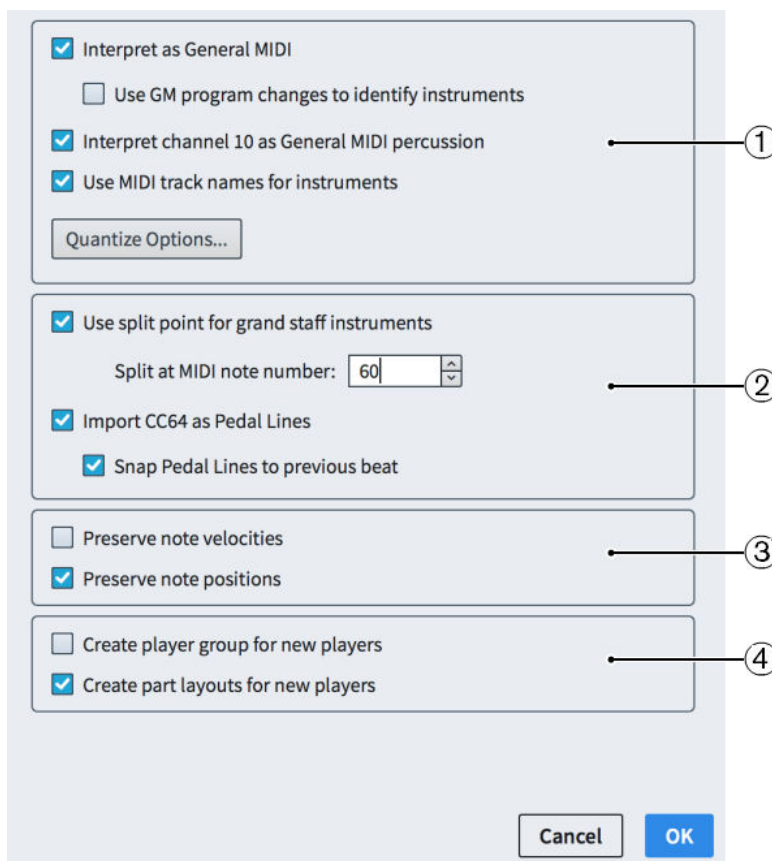
[音符の再クオンタイズ \(182 ページ\)](#)

[MIDI 録音/インポートでのサステインペダルコントローラー 設定の変更 \(185 ページ\)](#)

## 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」 ダイアログ

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」のダイアログでは、MIDI ファイル読み込み時に MIDI データを Dorico プロジェクトに変換するために Dorico Pro が使用する設定をカスタマイズできます。

- 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」>「読み込み (Import)」>「MIDI」を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを開きます。



「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログ

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 インストゥルメントの処理方法

このセクションのオプションでは、読み込まれた MIDI ファイルに基づき Dorico Pro がインストゥルメントを選択し命名する方法を指定します。

「クオンタイズオプション (Quantize Options)」ボタンは、クオンタイズ設定をカスタマイズできる「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログを開きます。

### 2 キーボードの処理方法

このセクションのオプションでは、読み込まれた MIDI ファイルに基づき Dorico Pro がキーボードの楽譜を解釈する方法を指定します。これには、右手の譜表と左手の譜表に音符を分割する位置の MIDI ノートナンバーや、CC64 がペダル線を示すかどうかなどが含まれます。

### 3 演奏の保存

このセクションのオプションでは、MIDI ファイルにおけるオリジナルの演奏を、再生のためにどれだけ保存するか指定できます。これは読み込まれた MIDI ノートの記譜方法に影響するものではありません。それについてはクオンタイズオプションの設定により制御されます。

### 4 プレーヤーの処理方法

このセクションのオプションでは、MIDI ファイル内のインストゥルメントにどのプレーヤーとレイアウトを割り当てるか指定できます。たとえば、オーケストレーションのために MIDI ファイルを既存のプロジェクトに読み込む場合、「新規プレーヤーにプレーヤーグループを作成 (Create player group for new players)」をオンにして、「新規プレーヤーにパートレイアウトを作成 (Create part layouts for new players)」をオフにすることで、独立した1つのプレーヤーグループを追加し、追加のパートレイアウトは作成しないことをおすすめします。

関連リンク

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更](#) (185 ページ)

## 「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログ

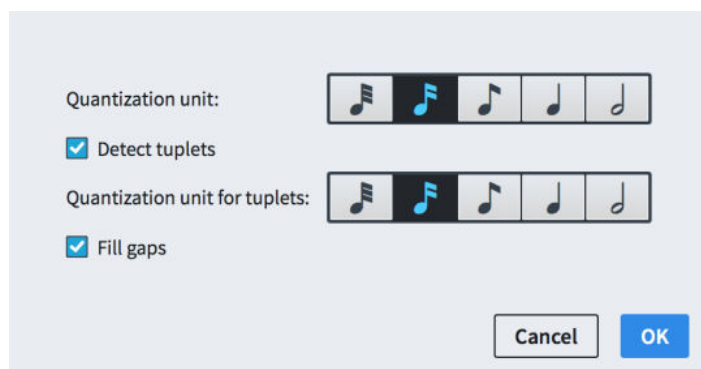
「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログでは、読み込まれた MIDI ファイルおよび MIDI デバイスを使用した録音による音符入力に適用するクオンタイズ設定をカスタマイズできます。

「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログの「クオンタイズオプション (Quantize Options)」をクリックします。
- 環境設定の「再生 (Play)」ページの「録音 (Recording)」サブセクションにある「クオンタイズオプション (Quantization Options)」をクリックします。

### 補足

このダイアログをいずれの方法で開いても設定内容はリンクしています。



「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログ

「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### クオンタイズの単位 (Quantization unit)

音符をクオンタイズする際の拍の最小単位を設定できます。たとえば、読み込むファイルにおいて意図される音符の最小デュレーションが 8 分音符である場合、「クオンタイズの単位 (Quantization unit)」を 8 分音符に設定します。



### 連符を検出 (Detect tuplets)

拍から外れた音符を連符とみなすかどうか制御できます。読み込む MIDI ファイルに意図された連符が存在しないことがわかっている場合は、「**連符を検出 (Detect tuplets)**」をオフにすると、音符は連符として読み込まれません。

### 連符のクオンタイズの単位 (Quantization unit for tuplets)

連符の音符をクオンタイズする際の拍の最小単位を設定できます。たとえば、読み込むファイルにおいて意図される連符の音符の最小デュレーションが 4 分音符である場合、「**連符のクオンタイズの単位 (Quantization unit for tuplets)**」を 4 分音符に設定します。

### 間隔を埋める (Fill gaps)

Dorico Pro に短い音符の間隔を埋めさせるかどうか指定できます。すでに正確にクオンタイズされている楽曲データを読み込む場合は、「**間隔を埋める (Fill gaps)**」をオフにして、音符と休符がクオンタイズされた通りに記譜されるようにすることをおすすめします。

関連リンク

[MIDI 録音 \(179 ページ\)](#)

## MIDI の書き出し

たとえば DAW でオーディオをさらに細かく編集するために、フローを個別の MIDI ファイルとして書き出せます。Dorico Pro から書き出した MIDI ファイルには、デフォルトでプロジェクト内のマーカーが含まれます。

---

### 手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**書き出し (Export)**」 > 「**MIDI**」を選択して「**MIDI を書き出し (Export MIDI)**」ダイアログを開きます。
2. 「**書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。リストの下にある「**すべて選択 (Select All)**」または「**選択を解除 (Select None)**」を選択することもできます。
3. 「**書き出し先 (Export to)**」フィールドの横の「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。  

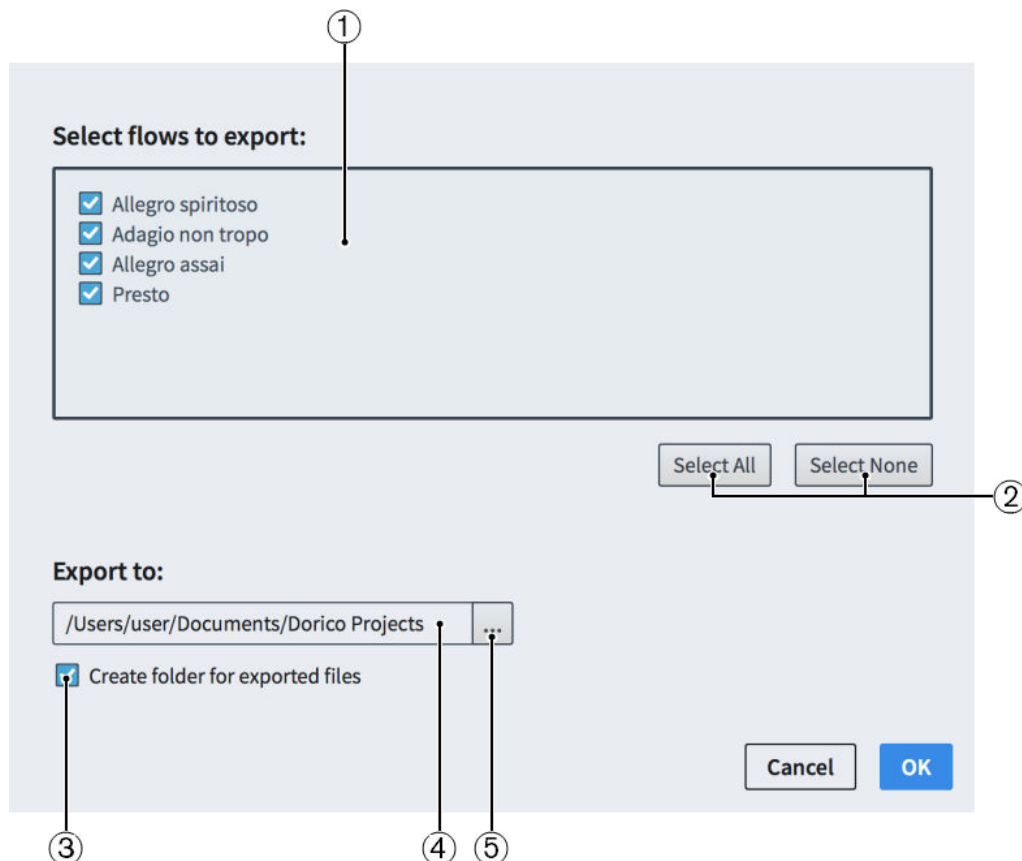
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
5. 「**開く (Open)**」 (macOS)/ 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) をクリックして、「**書き出し先 (Export to)**」フィールドに新しいパスを入力します。
6. 「**ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**」をオン/オフにします。
7. 「**OK**」をクリックすると、選択したフローが MIDI ファイルとして書き出されてダイアログが閉じます。

---

## 「MIDI を書き出し (Export MIDI)」ダイアログ

「MIDI を書き出し (Export MIDI)」ダイアログでは、個々のフローを個別の MIDI ファイルに保存できます。

- 「**MIDI を書き出し (Export MIDI)**」ダイアログを開くには、「**ファイル (File)**」 > 「**書き出し (Export)**」 > 「**MIDI**」を選択します。



「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログ

「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログは以下で構成されます。

- 1 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**  
プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。
- 2 選択オプション**  
プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。
- 3 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**  
選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。“フローの場所 Smyth - String Quintet”のように、自動作成されるフォルダー名は、“フローの場所”のあとにプロジェクトファイル名が続きます。
- 4 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**  
書き出すファイルの保存先が表示されます。
- 5 フォルダーを選択 (Choose Folder)**  
エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## テンポトラックの読み込み

たとえば、映画音楽を作曲していて、フィルム長の変更によりテンポと拍子記号の変更が必要になった場合など、既存のプロジェクトの個々のフローにテンポトラックを読み込みます。これによりフローの音符や記譜記号が上書きされることはありません。

手順

- 1. 「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「Tempo Track」** を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、テンポトラックを読み込む MIDI ファイルを探して選択します。
3. 「開く (Open)」をクリックして「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」ダイアログを開きます。
4. 「読み込み先のフロー (Import into flow)」リストから、テンポトラックを読み込む先のフローを選択します。
5. 「読み込んだ内容で以下を置き換え (Import and replace)」のセクションで、読み込みに含めるテンポトラックの内容のチェックボックスをそれぞれオンにします。
6. また、「マーカー (Markers as)」チェックボックスをオンにしている場合は、必要に応じて以下のいずれかのオプションを選択します。
  - マーカー (Markers)
  - 組段テキスト (System Text)
7. 「マーカー (Markers as)」で「組段テキスト (System Text)」を選択した場合は、必要に応じて「組段テキストマーカーの周囲に境界線を表示 (Show border around system text markers)」をオン/オフにします。
8. 「OK」をクリックすると、テンポトラックが読み込まれてダイアログが閉じます。

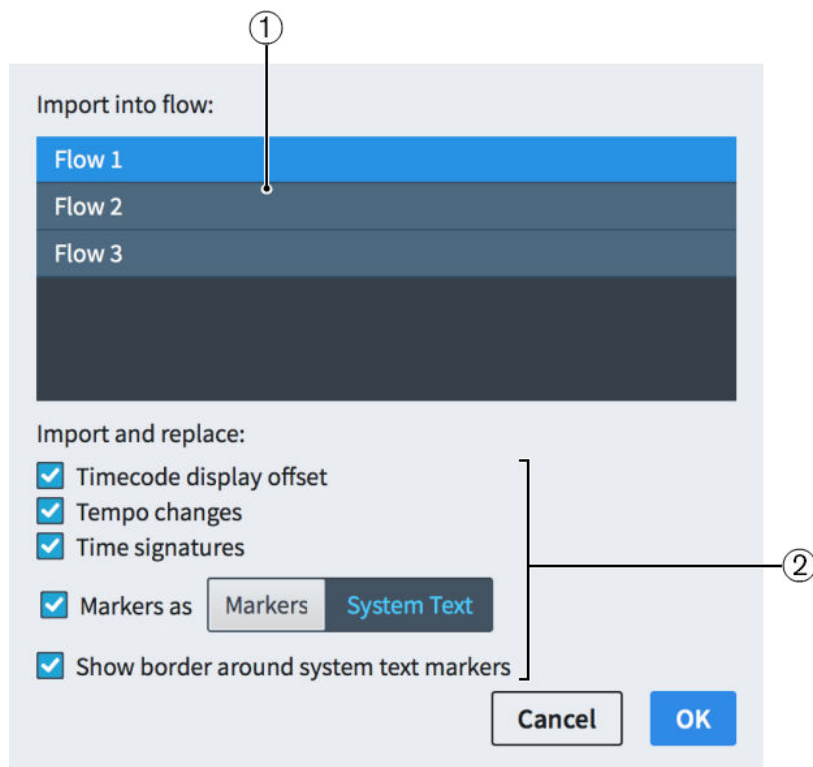
#### 結果

選択したフローにテンポトラックが読み込まれます。選択した内容がすべて既存の楽譜に適用され、音符やテンポ記号が必要に応じて調整されます。

## 「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」ダイアログ

「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」ダイアログでは、プロジェクト中の個々のフローにテンポトラックを読み込んで、テンポトラックのどの内容をフローに適用するか制御できます。

- 「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」>「読み込み (Import)」>「Tempo Track」を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを開きます。



「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」ダイアログ

「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」ダイアログは以下で構成されます。

#### 1 読み込み先のフロー (Import into flow)

プロジェクト内のすべてのフローのリストを表示します。現在選択中のフローは強調表示されます。

##### 補足

テンポトラックは一度に1つのフローにしか読み込めません。

#### 2 読み込んだ内容で以下を置き換え (Import and replace)

テンポトラックのどの内容を読み込み、選択したフローに適用するか制御できます。

- 「タイムコード表示のオフセット (Timecode display offset)」は、フローの開始位置の初期タイムコードポジションを設定します。
- 「テンポ変更 (Tempo changes)」は、フロー中のすべての即時テンポ変更および段階的テンポ変更を MIDI ファイルからのテンポ変更置き換えます。
- 「拍子記号 (Time signatures)」は、フロー中のすべての拍子記号を MIDI ファイルからの拍子記号に置き換えます。
- 「マーカー (Markers as)」は、MIDI ファイルからのすべてのマーカーを「マーカー (Markers)」と「組段テキスト (System Text)」のいずれかとしてフローに追加します。マーカーを「マーカー (Markers)」として読み込むと、フローの既存のマーカーはすべて MIDI ファイルからのマーカーに置き換えられます。一方、マーカーを「組段テキスト (System Text)」として読み込むと、既存のマーカーまたは組段テキストオブジェクトは置き換えられません。
- 「組段テキストマーカーの周囲に境界線を表示 (Show border around system text markers)」をオンにすると、組段テキストオブジェクトとして読み込まれたマーカーに境界線が追加されます。このオプションは「マーカー (Marker as)」で「組段テキスト (System Text)」を選択している場合にのみ使用可能です。

## テンポトラックの書き出し

たとえば、あるフローのテンポ記号と拍子記号を同じプロジェクトの別のフローに適用する場合、フローを個別のテンポトラックとして書き出せます。

### 手順

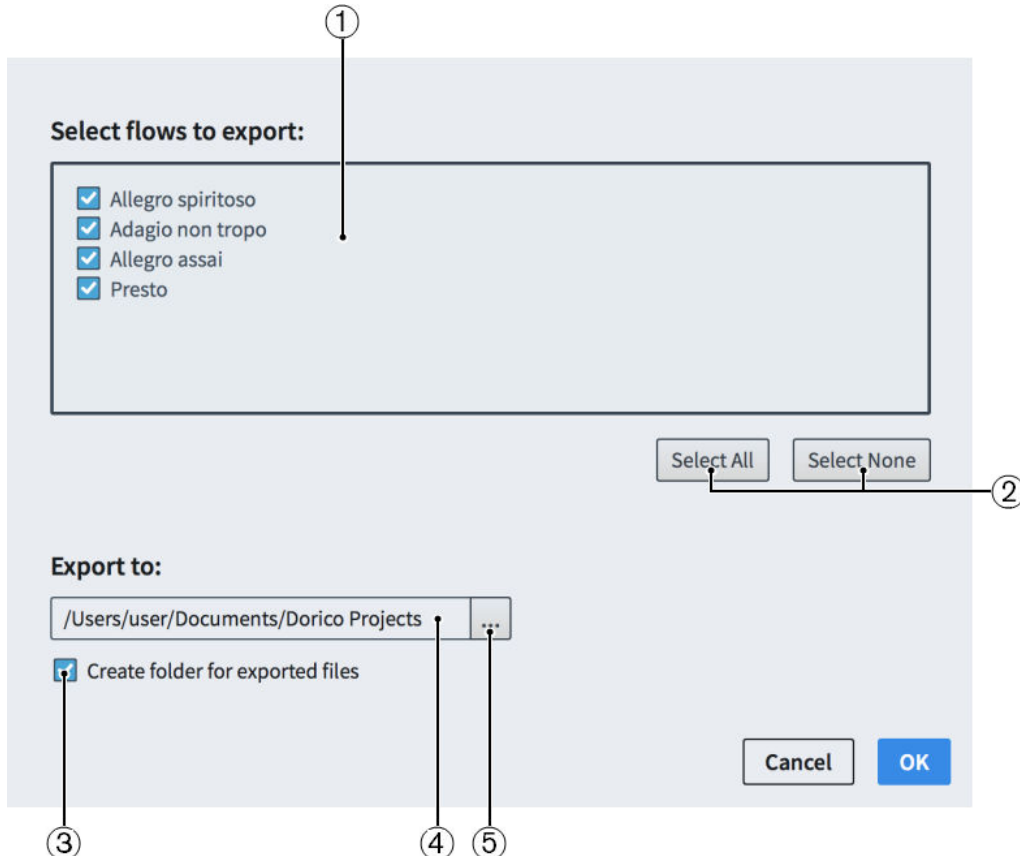
1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Tempo Track」を選択して、「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログを開きます。
2. 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログで、テンポトラックとして書き出すフローそれぞれのチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
3. 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。  

4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
5. 「開く (Open)」 (macOS)/ 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを入力します。
6. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
7. 「OK」をクリックすると、選択したフローがテンポトラックとして書き出されてダイアログが閉じます。

## 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログでは、個々のフローを個別のテンポトラックとして、MIDI ファイル形式で保存できます。

- 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Tempo Track」 を選択します。



「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログは以下で構成されます。

- 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**  
プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。
- 選択オプション**  
プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。
- ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**  
選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。“フローの場所 Smyth - String Quintet”のように、自動作成されるフォルダー名は、“フローの場所”のあとにプロジェクトファイル名が続きます。
- 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**  
書き出すファイルの保存先が表示されます。
- フォルダーを選択 (Choose Folder)**  
エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## オーディオの書き出し

プロジェクトを MP3 または WAV 形式のオーディオファイルとして書き出せます。各フローと各プレーヤーを個別のファイルに書き出すこともでき、たとえば、第 2 フローのソリストのパートのみのモックアップ音源を共有する場合などにこの機能を利用できます。

---

### 手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「オーディオ (Audio)」 を選択して 「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログを開きます。
2. 「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログで、以下のいずれかのファイル形式のオプションを選択します。
  - 圧縮された mp3 ファイル (.mp3) を書き出し (Export compressed mp3 (.mp3))
  - 非圧縮の WAV ファイル (.wav) を書き出し (Export uncompressed WAV (.wav))
3. 「選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)」 をオンまたはオフにします。
4. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」 リストで、オーディオファイルとして書き出すフローのチェックボックスをそれぞれオンにします。リスト最下部には 「すべて選択 (Select All)」 または 「選択を解除 (Select None)」 ボタンもあります。
5. 「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」 をオンまたはオフにします。
6. また、「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」 を選択した場合は、必要に応じて、「書き出しを行なうプレーヤーを選択 (Select players to export)」 リストから書き出しを行なうプレーヤーそれぞれのチェックボックスをオンにします。リスト最下部には 「すべて選択 (Select All)」 または 「選択を解除 (Select None)」 ボタンもあります。
7. 「書き出し先 (Export to)」 フィールドの横の 「フォルダーを選択 (Choose Folder)」 をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。  

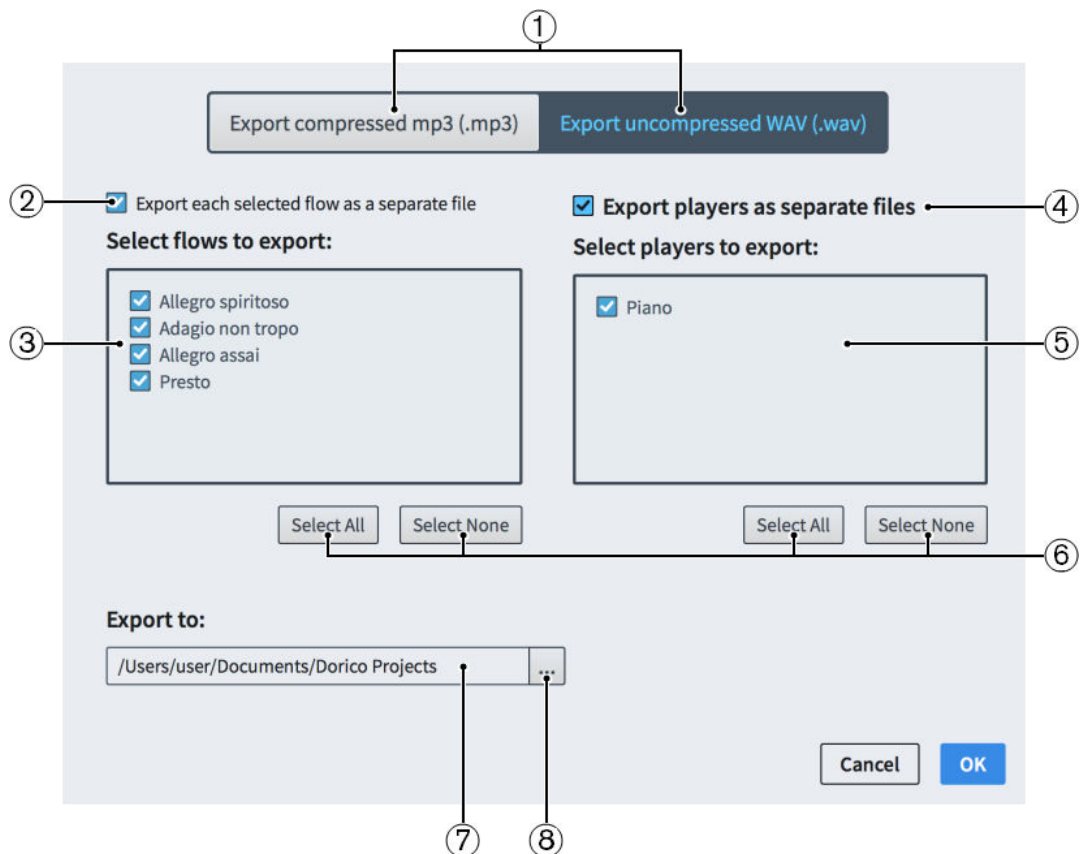
8. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
9. 「開く (Open)」 (macOS) / 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」 フィールドに新しいパスを入力します。
10. 「OK」 をクリックすると、選択したフロー/プレーヤーの選択した形式によるオーディオファイルが書き出され、ダイアログが閉じます。

---

## 「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログ

「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログでは、個々のフローおよびプレーヤーを、MP3 か WAV 形式による個別のオーディオファイルに保存できます。

- 「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Audio」 を選択します。



「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログ

「オーディオを書き出し (Export Audio)」 ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

**1 ファイル形式オプション**

書き出しを行なうオーディオファイルの形式を選択できます。圧縮された MP3 ファイルは WAV ファイルより小さくなりますが、その分オーディオ品質は低下します。

**2 選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)**

プロジェクトの各フローを 1 つのオーディオファイルではなく個別のオーディオファイルとして書き出しできます。

**3 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

**4 プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)**

プロジェクトの全プレーヤーを 1 つのオーディオファイルに書き出すのではなく、各プレーヤーを個別のオーディオファイルに書き出しできます。

**5 書き出しを行なうプレーヤーを選択 (Select players to export)**

プロジェクト内のすべてのプレーヤーのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたプレーヤーが書き出し対象となります。「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」をオンにしている場合のみ利用できます。

**6 選択オプション**

対応するリストのすべてのフロー/プレーヤーの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを 1 つだけ選択できます。

**7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**

書き出したオーディオファイルが保存される現在の書き出しパスを表示します。

**8 フォルダーを選択 (Choose Folder)**

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

## 自動保存

自動保存機能は、現在アクティブなプロジェクトを定期的にバージョンとして保存します。これにより、誤って保存しないままプロジェクトを閉じてしまった場合や、万が一 Dorico Pro やコンピューターがクラッシュした場合でも、大量の作業成果を失う危険性を抑えられます。

初期設定では、Dorico Pro はユーザーアカウントの「ドキュメント (Documents)」フォルダーを初期設定場所とする「Dorico プロジェクト (Dorico Projects)」フォルダー内の「AutoSave」フォルダーを使用します。Dorico Pro はまた、まだ保存操作を行っていない新規プロジェクトも自動保存します。

### 補足

Dorico Pro は、特にサイズの大きいプロジェクトの場合、自動保存実行のために一時的に反応が遅くなる場合があります。

---

### 複数のプロジェクトを開いている場合の自動保存

複数のプロジェクトを開いている場合、自動保存間隔ごとに現在アクティブなプロジェクトのみ自動保存されます。これは、再生のためにアクティブにできるのは一度に1つのプロジェクトのみであるためです。複数のプロジェクトを頻繁に切り替える場合、自動保存間隔は短く設定することをおすすめします。

### 自動保存ファイルの削除

「AutoSave」フォルダーに保存してあるすべてのファイルは、対応するプロジェクトを閉じたとき、および Dorico Pro を終了したときに自動的に削除されます。

### 重要

自動保存されるプロジェクトのみならず、「AutoSave」フォルダー内のすべてのファイルが自動的に削除されます。そのため、メインプロジェクトの保存先フォルダーを「AutoSave」の場所として選んだり、「AutoSave」フォルダーにプロジェクトを保存したりしないことが重要です。

---

### ヒント

プロジェクトの以前のバージョンにアクセスする場合は、プロジェクトのバックアップを使用します。

---

### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[プロジェクトのバックアップ \(82 ページ\)](#)

## 自動保存したプロジェクトの回復

Dorico Pro がクラッシュした場合、そのとき開いていたプロジェクトの自動保存した一番最近のバージョンを回復できます。

---

### 手順

1. Dorico Pro を再起動します。
2. Dorico Pro のスプラッシュスクリーンの後に開く「自動保存したプロジェクトを回復 (Recover Auto-saved Projects)」ダイアログで、自動保存したプロジェクトのうち回復するもののチェックボックスをそれぞれオンにします。



#### 補足

回復を選択しなかった自動保存済みプロジェクトは、ダイアログを閉じるときすべて恒久的に削除されます。

3. 「**選択したプロジェクトを回復 (Recover Selected Projects)**」をクリックして、選択した自動保存済みプロジェクトを回復してダイアログを閉じます。

#### 結果

選択した自動保存済みプロジェクトが回復され、個別のプロジェクトウィンドウで開きます。

#### 手順終了後の項目

自動保存したプロジェクトは、必要に応じて任意の場所のフォルダーに新規ファイル名で恒久的に保存できます。

## 自動保存の頻度の変更

Dorico Pro によるプロジェクトの自動保存の頻度を変更できます。初期設定では、現在アクティブなプロジェクトに対する自動保存の間隔は 5 分です。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**自動保存の間隔 [n] 分 (Auto-save every [n] minutes)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 自動保存の場所の変更

Dorico Pro が自動保存ファイルの保管に使用するフォルダーを変更できます。初期設定では、Dorico Pro はユーザーアカウントの「**ドキュメント (Documents)**」フォルダーを初期設定場所とする「**Dorico プロジェクト (Dorico Projects)**」フォルダー内の「**AutoSave**」フォルダーを使用します。

#### 重要

- Dorico Pro を終了すると「**AutoSave**」フォルダー内のすべてのファイルが自動的に削除されるため、メインの「**Dorico プロジェクト (Dorico Projects)**」フォルダーを自動保存の場所に指定しないことを強くおすすめします。つまり、「**AutoSave**」フォルダーに保存したプロジェクトがある場合、Dorico Pro を終了するとそれらのプロジェクトは削除されます。
- Dorico Pro が指定されたフォルダーに書き込めない場合、プロジェクトを自動保存できません。この場合に警告は発せられないため、自動保存の場所は、お使いのユーザーアカウントでそこに正常にファイルを保存できることが確実でなければ、変更しないことをおすすめします。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**自動保存フォルダー (Auto-save folder)**」フィールドの横の「**選択 (Choose)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、プロジェクトを自動保存するフォルダーの場所まで移動して選択します。
5. 「**開く (Open)**」(macOS)/「**フォルダーの選択 (Select Folder)**」(Windows) をクリックして、「**自動保存フォルダー (Auto-save folder)**」のフィールドに新規パスを入力します。

6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

デフォルトの自動保存フォルダーが変更されます。指定したフォルダーが存在しない場合、Dorico Pro はこれを作成します。

## 自動保存の無効化

たとえば、サイズの大きいプロジェクトでパフォーマンスに大きな影響が生じる場合などに、自動保存を完全に無効化できます。

---

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[,] (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
  3. 「ファイル (Files)」セクションで、「自動保存の間隔 [n] 分 (Auto-save every [n] minutes)」をオフにします。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## プロジェクトのバックアップ

保存操作が行なわれるごとに、Dorico Pro はプロジェクトのバックアップバージョンを保存します。初期設定では、過去 5 件の保存内容がバックアップとして保管されます。

それぞれのデフォルトの場所は、ユーザーアカウントの「ドキュメント (Documents)」フォルダーを初期設定場所とする「Dorico プロジェクト (Dorico Projects)」フォルダー内の、「プロジェクトをバックアップ (Backup Projects)」フォルダー内に作成される、プロジェクトのファイル名に対応した名前のフォルダーの中になります。

## プロジェクトごとのバックアップ数の変更

保存する変更の範囲を拡げる場合は、プロジェクトごとに Dorico Pro が保存するバックアップの数を変更できます。

---

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[,] (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
  2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
  3. 「ファイル (Files)」セクションで、「プロジェクトごとのバックアップ数 (Number of backups per project)」の値を変更します。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## バックアップ場所の変更

Dorico Pro がプロジェクトのバックアップの保管に使用するフォルダーを変更できます。初期設定では、Dorico Pro はユーザーアカウントの「ドキュメント (Documents)」フォルダーを初期設定場所とする「Dorico プロジェクト (Dorico Projects)」フォルダー内の、「プロジェクトをバックアップ (Backup Projects)」フォルダーを使用します。

---

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[,] (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。

3. 「ファイル (Files)」セクションで、「プロジェクトのバックアップフォルダー (Project backup folder)」フィールドの横の「選択 (Choose)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、プロジェクトのバックアップを保存するフォルダーの場所まで移動して選択します。
  5. 「開く (Open)」(macOS)/「フォルダーの選択 (Select Folder)」(Windows) をクリックして、「プロジェクトのバックアップフォルダー (Project backup folder)」フィールドに新規パスを入力します。
  6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクトのバックアップのデフォルトのフォルダーが変更されます。指定したフォルダーが存在しない場合、Dorico Pro はこれを作成します。

# 設定モード

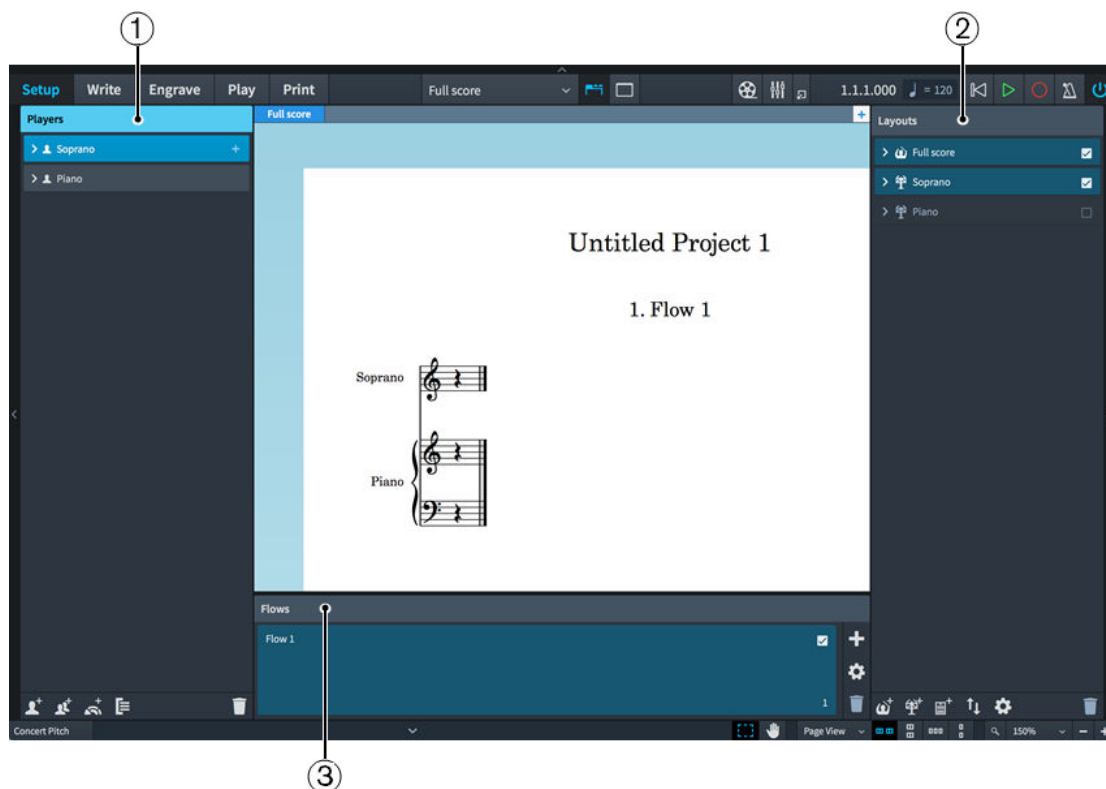
設定モードでは、プロジェクトのプレーヤーとインストゥルメントを決定できます。また、フローの作成と管理、レイアウトの設定、ビデオの追加もできます。

## 設定モードのプロジェクトウィンドウ

設定モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、ステータスバーが表示されます。また、プレーヤーやインストゥルメントの追加、プロジェクトのレイアウトやフローの作成を行なうためのすべてのツールと機能を備えたパネルが表示されます。

設定モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[1] を押します。
- ツールバーで「設定 (Setup)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「設定 (Setup)」を選択します。



設定モードのパネル

設定モードには以下のパネルがあります。

### 1 プレーヤー (Players)

プロジェクトのプレーヤー、インストゥルメント、グループのリストを表示します。初期設定では、プレーヤーはフルスコアレイアウトとそのパートレイアウトの両方、およびすべてのフローに割り当てられます。

## 2 レイアウト (Layouts)

プロジェクト内のレイアウトのリストが表示されます。各プレーヤーに対してフルスコアレイアウトとパートレイアウトが1つずつ自動的に作成されますが、レイアウトは必要に応じて作成したり削除したりできます。初期設定では、レイアウトにはすべてのフローが含まれ、フルスコアレイアウトにはすべてのプレーヤーが含まれます。

## 3 フロー (Flows)

プロジェクト内のフローが左から右へと順番に表示されます。初期設定では、フローにはすべてのプレーヤーが含まれ、すべてのレイアウトにフローが割り当てられます。

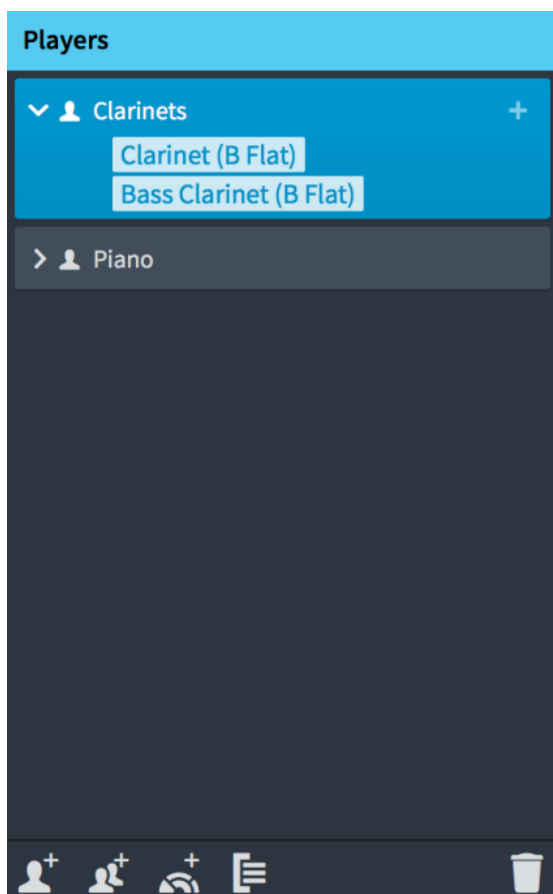
3つのパネルを組み合わせて使うことで、プロジェクト内のプレーヤー、レイアウト、フローを使用する方法と場所を制御できます。いずれかのパネルでアイテムを選択すると、そのパネルと選択したアイテムが別の色で強調表示され、他のパネルのカードにチェックボックスが表示されます。これらのチェックボックスをオン/オフにすることで、プレーヤー、レイアウト、フローに内容をどのように割り当てるかを個別に変更できます。

## プレーヤーパネル

「**プレーヤー (Players)**」パネルには、プロジェクトのプレーヤー、インストゥルメント、グループのリストが表示されます。このパネルは設定モードのウィンドウの左側にあります。

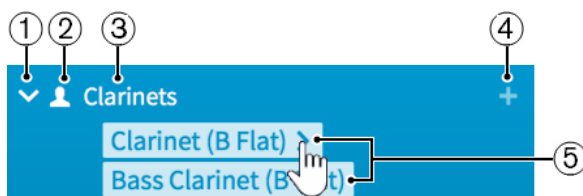
設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。



設定モードの「プレーヤー (Players)」パネル

「プレーヤー (Players)」パネルには、プロジェクトのすべてのグループ、プレーヤー、アンサンブルがプレーヤーカードとして表示されるリストが含まれています。各プレーヤーカードには以下が表示されます。



**1 展開矢印マーク**

プレーヤーカードを展開したり、折りたたんだりします。

**2 プレーヤーのタイプ**

以下のいずれかのプレーヤータイプが表示されます。

- ソロプレーヤー



- セクションプレーヤー



**3 プレーヤー名**

プレーヤー名が表示されます。割り当てられたインストゥルメントの名前を Dorico Pro がプレーヤー名に自動的に追加します。必要に応じてプレーヤー名を変更できます。

**4 インストゥルメントの追加アイコン**

プレーヤーのインストゥルメントを選択するインストゥルメントピッカーを開きます。

## 5 インストゥルメントラベル

プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントにはそれぞれ独自のインストゥルメントラベルがあります。インストゥルメントラベルにマウスポインターを合わせると矢印が表示され、それをクリックするとインストゥルメント名の変更や別のプレーヤーへのインストゥルメントの移動などのオプションを含むメニューが開きます。



パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

### ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)



プロジェクトにソロプレーヤーを追加します。また、「レイアウト (Layouts)」パネルにはそのプレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

### セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)



同じインストゥルメントを演奏する複数の演奏者を示すプレーヤーをプロジェクトに追加します。また、「レイアウト (Layouts)」パネルにはそのプレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

### アンサンブルを追加 (Add Ensemble)



楽器の基本的な組み合わせを示す複数のプレーヤーをプロジェクトに追加します。また、アンサンブルの各プレーヤーのパートレイアウトも自動的に「レイアウト (Layouts)」パネルに追加されます。

### グループを追加 (Add Group)



プロジェクトグループをに追加します。グループには、すべてのタイプのプレーヤーを割り当てることができます。

### プレーヤーを削除 (Delete Player)



「プレーヤー (Players)」パネルから選択したプレーヤーやグループを削除します。

プレーヤーは、レイアウトに表示されるデフォルトの順番でパネルにリスト表示されます。各レイアウトのプレーヤーの順番は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「プレーヤー (Players)」ページの「プレーヤー (Players)」セクションで個別に変更できます。

関連リンク

[プレーヤー \(97 ページ\)](#)

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(89 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

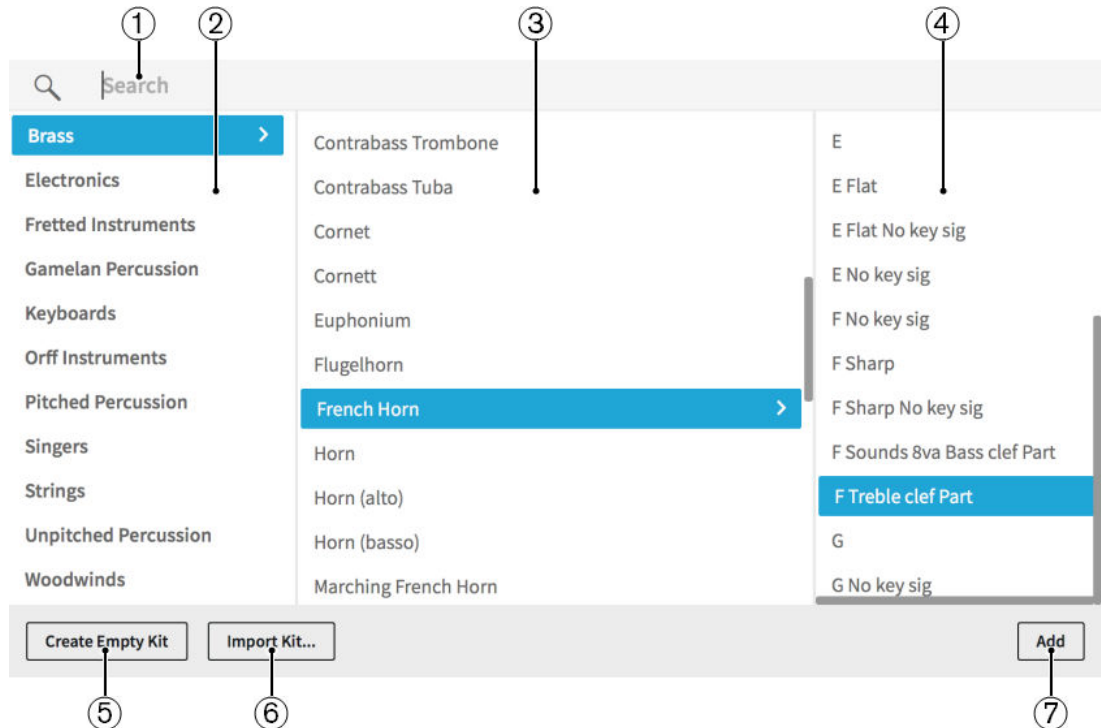
## インストゥルメントピッカー

インストゥルメントピッカーを使用すると、インストゥルメントやアンサンブルを見つけてプロジェクトに追加できます。パートレイアウトが常にト音記号のバージョンがあるフレンチホルンなど、特定の形式設定要件があるインストゥルメントのバージョンが複数含まれています。

設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントピッカーを開くことができます。

- 「プレーヤー (Players)」パネルでソロプレーヤーのカードのプラス記号をクリックします。

- 「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを選択して [Shift]+[I] を押します。
- 「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを右クリックして「インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)」を選択します。
- 新しいプレイヤーまたはアンサンブルを追加します。



インストゥルメントピッカー

インストゥルメントピッカーには以下のセクションおよびオプションがあります。

#### 1 「検索 (Search)」フィールド

検索するインストゥルメント名を直接入力します。Violoncello の場合は「cello」のように、インストゥルメント名の一部のみでも検索できます。

#### 2 インストゥルメントファミリー列

インストゥルメント検索を絞り込むためのインストゥルメントファミリーを表示します。

#### 3 インストゥルメント列

選択したインストゥルメントファミリーのインストゥルメントを表示しれます。

#### 4 インストゥルメントタイプ列

選択したインストゥルメントのパートレイアウトで使用できる複数の移調や異なる動作のオプションが表示されます。使用可能なオプションがないインストゥルメントの場合、この列には何も表示されません。

#### 5 空のキットを作成 (Create Empty Kit)

プレイヤーに空の打楽器キットを追加します。

#### 6 キットを読み込む (Import Kit)

ライブラリーファイルとしてあらかじめ書き出した既存の打楽器キットを読み込みます。

#### 7 追加 (Add)/スコアにアンサンブルを追加 (Add Ensemble to Score)

選択したインストゥルメント/アンサンブルをプロジェクトに追加します。アンサンブルを追加すると同時に複数のプレイヤーが追加されます。

「検索 (Search)」フィールドにインストゥルメント名やアンサンブル名を直接入力するだけでなく、インストゥルメントピッカー内のオプションをクリックして選択したり、[↑]/[↓] を押して同じ列の別のアイテムを選択したりできます。



[Tab] を押すと、インストゥルメントピッカー内で「**検索 (Search)**」フィールド、**インストゥルメント**、**インストゥルメントタイプ**、**インストゥルメントファミリー**の順にフォーカスが切り替わります。また、[Shift]+[Tab] を押すと逆方向に切り替わります。

キーボードを使用してインストゥルメントを選択する場合、囲み線がどのインストゥルメントのファミリーまたはインストゥルメントを選択しているかを示します。

関連リンク

[ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加 \(97 ページ\)](#)

[アンサンブルの追加 \(105 ページ\)](#)

[プレーヤーへの空の打楽器キットの追加 \(108 ページ\)](#)

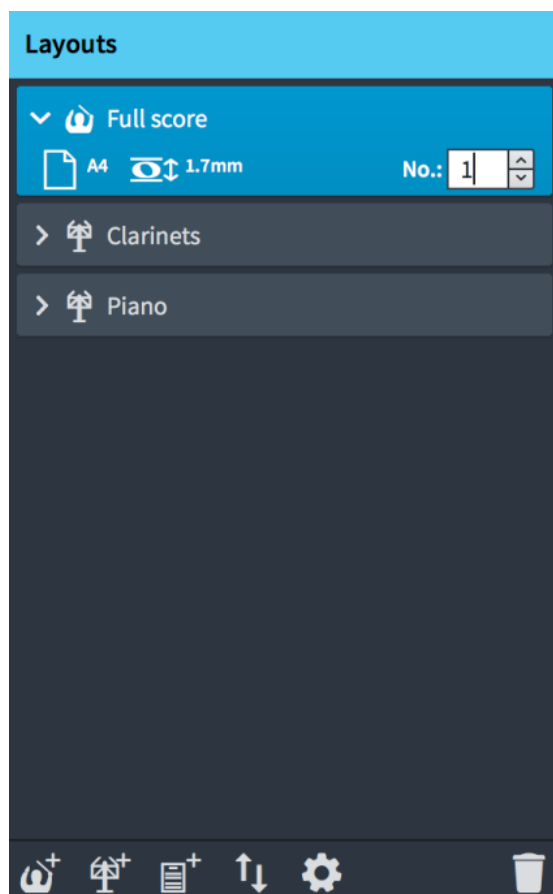
[打楽器キットの読み込み \(1030 ページ\)](#)

## 「レイアウト (Layouts)」 パネル (設定モード)

設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルには、プロジェクトに含まれるすべてのフルスコアレイアウトとパートレイアウトがリスト表示されます。このパネルはウィンドウの右側にあります。

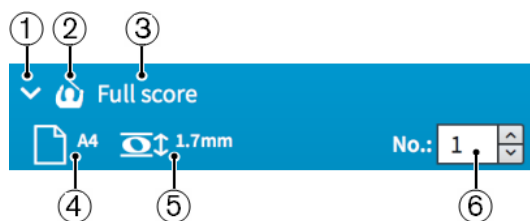
設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[9] を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右のパネルを表示 (Show Right Panel)**」を選択します。



設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネル

「**レイアウト (Layouts)**」パネルには、デフォルトのフルスコアレイアウトとプロジェクト用に作成されたすべてのレイアウトがカードとしてリスト表示されます。各レイアウトカードには以下が表示されます。



### 1 展開矢印マーク

レイアウトカードを展開したり、折りたたんだりします。

### 2 レイアウトのタイプ

以下のいずれかのレイアウトのタイプが表示されます。

- フルスコアレイアウト



- パートレイアウト



- カスタムスコアレイアウト



### 3 レイアウト名

レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico Pro が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。

### 4 ページのサイズと向き

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したレイアウトのサイズと向きが表示されます。

### 5 線間の高さ

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したとおりに、2本の譜表線の間の高さをポイントで表示します。これは、レイアウトの譜表のサイズを示します。

### 6 レイアウト番号

グラフィックとして書き出す際にファイル名の一部として使用できるレイアウトの一意的番号を設定できます。通常、オーケストラの順番はアルファベット順ではありません。そのため、この機能は書き出したパートレイアウトファイルをオーケストラの順番に整理するのに役立ちます。

パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

#### フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)



プロジェクトにフルスコアレイアウトを追加します。初期設定では、すべてのプレーヤーとフローは自動的にレイアウトに含まれます。

#### パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)



プロジェクトに空白のパートレイアウトを追加します。あとから、レイアウトに1人以上のプレーヤーを追加できます。初期設定では、パートレイアウトにはプロジェクトで作成されたすべてのフローが含まれます。

### カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)



プレーヤーやフローが含まれないカスタムスコアレイアウトを追加します。

### レイアウトをソート (Sort Layouts)



「レイアウト (Layouts)」パネルのすべてのレイアウトを、フルスコアレイアウト、パートレイアウト、カスタムスコアレイアウトの順番に種類別にソートします。パートレイアウトをオーケストラの順番にはソートできません。

### レイアウトオプション (Layout Options)



選択した1つ以上のレイアウトの「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開きます。

### レイアウトを削除 (Delete Layout)



「レイアウト (Layouts)」パネルから選択したレイアウトを削除します。

関連リンク

[レイアウト \(123 ページ\)](#)

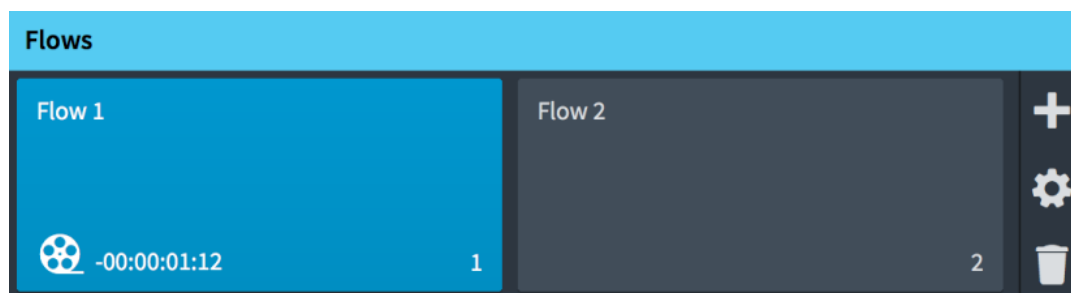
[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

## フローパネル

「フロー (Flows)」パネルには、プロジェクト用に作成されたすべてのフローが表示されます。このパネルは設定モードのウィンドウの下にあります。

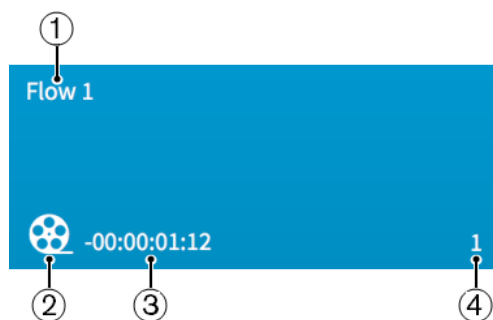
設定モードの「フロー (Flows)」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)」を選択します。



設定モードの「フロー (Flows)」パネル

「フロー (Flows)」パネルに、デフォルトのフローとプロジェクト用に作成されたすべてのフローがカードとして表示されます。各フローカードには以下が表示されます。



#### 1 フロー名

フロー名を表示します。名前を変更せずに複数のフローを作成すると、新規フローを作成するたびに、名前の後ろに通し番号の数字を追加したフロー名が付けられます。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

#### 2 フィルムリールアイコン

フローにビデオが添付されていることを示します。

#### 3 フロータイムコード

フローの開始タイムコードを表示します。

#### 4 フロー番号

フローの通し番号を表示します。新規フローを作成するたびに通し番号の値が増加します。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

「フロー (Flows)」パネルの右側には以下のオプションが表示されます。

#### フローを追加 (Add Flow)

プロジェクトに新規フローを追加します。初期設定では、すべての新規フローは自動的にすべてのレイアウトに含まれ、個々のプレーヤーは新規フローに追加されます。



#### 記譜オプション (Notation Options)

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログを開きます。各フローの楽譜の記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。



#### フローを削除 (Delete Flow)

1つ以上の選択されたフローを削除します。



関連リンク

[フロー \(120 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[ビデオ \(128 ページ\)](#)

## 「プロジェクト情報 (Project Info)」 ダイアログ

Dorico Pro で作成するすべてのプロジェクトとフローについて、「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでプロジェクト情報を指定できます。

- 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択します。

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでは、プロジェクト全体および各フローに関する情報を入力できます。たとえば、プロジェクト内のフローごとに作曲者と作詞者が異なる場合があります。

テキストフレーム内のトークンを使用して、「プロジェクト情報 (Project Info)」 ダイアログのそれぞれのページの各フィールドに入力した情報を参照できます。

関連リンク

[テキストトークン](#) (335 ページ)

## 「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログ

「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログには、各レイアウトのページに配置された記譜法に影響する変更を行なえる複数のオプションが含まれます。

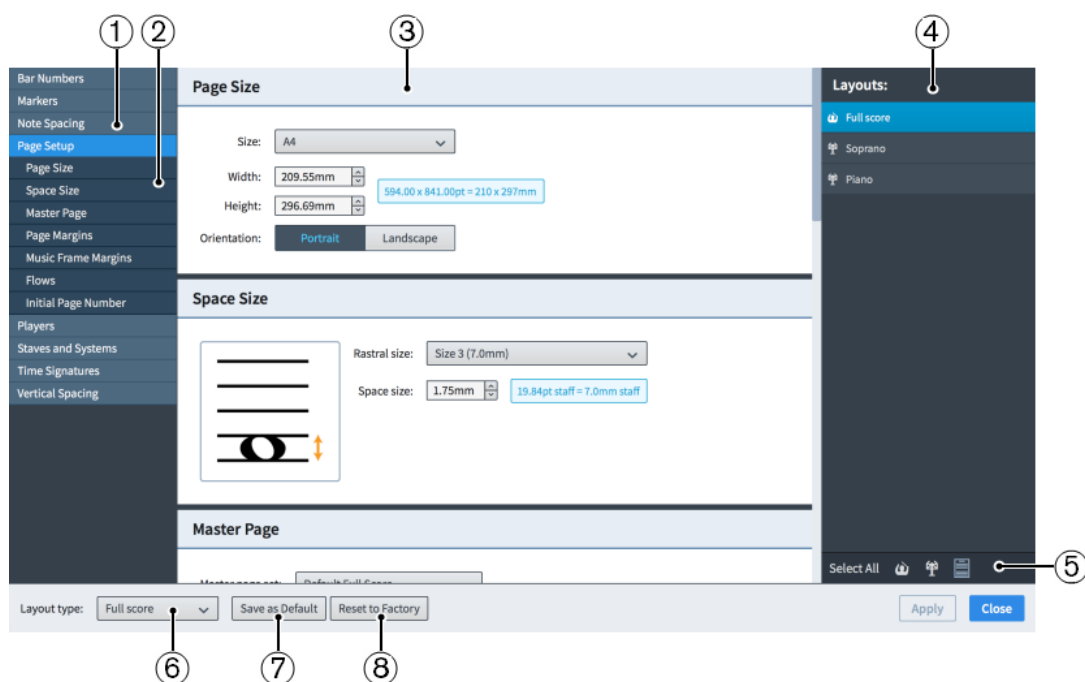
ページサイズ、譜表サイズ、余白などのレイアウトの特性と、音符のスペーシングや譜表ラベルなどの記譜法を変更できます。

### ヒント

「レイアウトのタイプ (Layout type)」 メニューからレイアウトタイプを選択して「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックすると、「レイアウトオプション (Layout Options)」で設定したすべてのオプションを新規プロジェクト用のデフォルトとして保存できます。

「レイアウトオプション (Layout Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L] を押します (どのモードでも使用可)。
- 設定モードで「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択します。
- 設定モードで、「レイアウト (Layouts)」 パネルにある「レイアウトオプション (Layout Options)」をクリックします。



「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログ

「レイアウトオプション (Layout Options)」 ダイアログには以下のオプションが含まれます。

### 1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

## 2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

## 3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

## 4 「レイアウト (Layouts)」 リスト

プロジェクト内のすべてのレイアウトが含まれています。1つ、複数、またはすべてのレイアウトを選択できます。複数のレイアウトを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- アクションバーにあるいずれかの選択オプションをクリックします。
- **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のレイアウトをクリックします。
- **[Shift]** を押しながら複数の隣り合うレイアウトをクリックします。

## 5 アクションバー

「レイアウト (Layouts)」 リストで、タイプに応じてレイアウトを選択できるオプションが含まれます。

- 「すべて選択 (Select All)」 をクリックすると、タイプに関係なく、すべてのレイアウトが選択されます。
- 「フルスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Full Score Layouts)」 を選択すると、すべてのフルスコアレイアウトが選択されます。
- 「パート譜のレイアウトをすべて選択 (Select All Part Layouts)」 を選択すると、すべてのパートレイアウトが選択されます。
- 「カスタムスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Custom Score Layouts)」 を選択すると、すべてのカスタムスコアレイアウトが選択されます。

## 6 レイアウトのタイプ

設定をデフォルトとして保存するレイアウトタイプを選択できます。たとえば、フルスコアレイアウトのデフォルト設定に影響を与えることなくパートレイアウトの新しいデフォルト設定を保存できます。

## 7 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変わります。

- 「デフォルトとして保存 (Save as Default)」 は、新規プロジェクトで選択したレイアウトタイプ用に、ダイアログで設定したすべてのオプションをデフォルトとして保存します。
- 「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」 は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のプロジェクトに選択しているレイアウトのタイプが含まれる際、そのタイプのすべてのレイアウトに出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」 を選択できます。

## 8 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変わります。

- 選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存していない場合は、このボタンは「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 となり、選択したレイアウトのタイプについて、ダイアログ内のすべてのオプションを出荷時の設定にリセットします。

- 選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存している場合は、このボタンは「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」となり、選択したレイアウトのタイプについて、ダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットします。**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトで選択しているレイアウトのタイプのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、今後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(28 ページ\)](#)

[譜表 \(916 ページ\)](#)

## 「レイアウトオプション (Layout Options)」でのレイアウト固有の変更

「レイアウトオプション (Layout Options)」では、レイアウトごとにプロジェクト全体の変更を行なえます。

手順

1. 「レイアウトオプション (Layout Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 設定モードで「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択します。
- 設定モードで「レイアウト (Layouts)」パネルの下部にある「レイアウトオプション (Layout Options)」をクリックします。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、オプションを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。

- アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックします。
- アクションバーの「フルスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Full Score Layouts)」をクリックします。
- アクションバーの「パート譜のレイアウトをすべて選択 (Select All Part Layouts)」をクリックします。
- アクションバーの「カスタムスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Custom Score Layouts)」をクリックします。
- **[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックします。
- **[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックします。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。

3. ページリストのページをクリックします。

4. 設定可能なオプションを確認して、必要に応じてオプションを変更します。

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

変更を加えたあとに「適用 (Apply)」をクリックせずにダイアログを閉じると、変更を保存するか破棄するかを確認するメッセージが表示されます。

結果

選択したレイアウトに変更がすぐに適用されます。

## プレーヤー、レイアウト、フロー

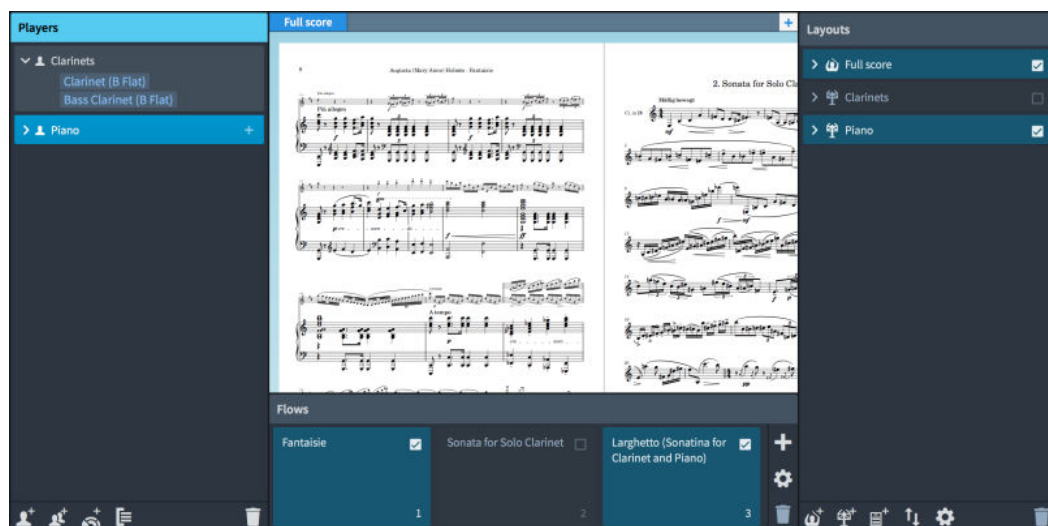
Dorico Pro ではプレーヤー、レイアウト、フローがすべて相互につながっています。これらは単一のスコアではなくプロジェクト内にあるため、フルスコアにプレーヤーやフローを表示することなくプロジェクト内に保存することもできます。

- プレーヤーはレイアウトとフローのあらゆる組み合わせに割り当てることができます。たとえば、フルスコアレイアウトとそのパートレイアウトの両方に1人のプレーヤーを割り当てたり、演奏をしないフローからプレーヤーを削除したりできます。初期設定では、プレーヤーはすべてのフルスコアレイアウト、それぞれのパートレイアウト、およびプロジェクトで作成されたすべてのフローに割り当てられます。
- レイアウトにはプレーヤーとフローのあらゆる組み合わせを含めることができます。たとえば、1つのパートレイアウトにすべての歌手を割り当てておいて、歌のないフローをレイアウトから削除できます。初期設定では、レイアウトにはすべてのフローが含まれ、フルスコアレイアウトにはすべてのプレーヤーが含まれます。
- フローにはプレーヤーのあらゆる組み合わせを含めることができるほか、フローをレイアウトに割り当てたりレイアウトから削除したりできます。初期設定では、フローにはすべてのプレーヤーが含まれ、すべてのレイアウトにフローが割り当てられます。

### 補足

- フローからプレーヤーを削除すると、そのフローで該当するプレーヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。
- レイアウトからフローを削除すると、そのフローから該当するレイアウトが自動的に削除されます。また、その逆も同様です。プレーヤーとレイアウト、プレーヤーとフローについても同じです。

設定モードのパネルでいずれかのカードを選択すると、ほかのパネルに含まれるそれぞれのカードにチェックボックスが表示されます。選択カードに対応するカードは強調表示され、チェックボックスがオンになります。それ以外のカードは強調表示されず、チェックボックスはオフのままです。たとえば、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーカードを1つ選択すると、そのプレーヤーが割り当てられたすべてのフローが「**フロー (Flows)**」パネルで、すべてのレイアウトが「**レイアウト (Layouts)**」パネルで強調表示かつオンになります。



「**プレーヤー (Players)**」パネルでピアノプレーヤーを選択すると、対応するフローとレイアウトが「**フロー (Flows)**」パネルと「**レイアウト (Layouts)**」パネルにそれぞれ表示される

### 関連リンク

[設定モードのプロジェクトウィンドウ \(84 ページ\)](#)

[フロー \(120 ページ\)](#)

[レイアウト \(123 ページ\)](#)



[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(125 ページ\)](#)  
[レイアウトに割り当てられたプレイヤーの変更 \(124 ページ\)](#)  
[フローに割り当てられたプレイヤーの変更 \(121 ページ\)](#)

## プレイヤー

作曲を始める前に、1つ以上のインストゥルメントを演奏するプレイヤーを指定します。

プレイヤーは、1つ以上のインストゥルメントを1人で演奏するソロプレイヤーの場合があります。たとえば、クラリネット奏者はアルトサクソフォンやバスクラリネットも演奏する場合があります。

また、プレイヤーは、同じインストゥルメントを複数人で演奏するセクションプレイヤーの場合もあります。たとえば、バイオリンセクションや合唱のソプラノパートなどです。

Dorico Pro では、プレイヤーとインストゥルメントに関するこの知識をもとに、実際のスコアの効率的な作成を手助けします。たとえば、インストゥルメントの持ち替え、分奏 (ディヴィジ) などの作業が非常に簡単になります。

Dorico Pro でプレイヤーを追加すると、自動的に以下ようになります。

- パートレイアウトが作成されます。
- プレイヤーが既存のすべてのフルスコアレイアウトに追加されます。フルスコアレイアウトがない場合は、新規のフルスコアレイアウトが作成されます。
- プレイヤーがプロジェクトで作成された既存のすべてのフローに割り当てられます。プロジェクトに読み込んだフローには、プレイヤーは追加されません。

関連リンク

[プレイヤー、レイアウト、フロー \(96 ページ\)](#)  
[フロー \(120 ページ\)](#)  
[レイアウト \(123 ページ\)](#)  
[レイアウトに割り当てられたプレイヤーの変更 \(124 ページ\)](#)  
[フローに割り当てられたプレイヤーの変更 \(121 ページ\)](#)

## ソロプレイヤー/セクションプレイヤーの追加

ソロプレイヤーおよびセクションプレイヤーをプロジェクトに追加できます。ソロプレイヤーには複数のインストゥルメントを割り当てることができ、セクションプレイヤーは分奏ができます。

前提

プレイヤーパネルを開いておきます。

---

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なって楽器が関連付けられていないプレイヤーを追加します。
  - 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」をクリックします。



- 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」をクリックします。



- 「プレイヤー (Players)」パネルの下部で「ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)」をクリックします。



- 「プレイヤー (Players)」パネルの下部で「セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)」をクリックします。



インストゥルメントピッカーが開きます。

#### ヒント

ソロプレイヤーカードのプラス記号をクリックするか、「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押すか、プレイヤーを右クリックして「**インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択して、いつでもインストゥルメントピッカーを開くことができます。

2. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
3. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。

#### 結果

ソロプレイヤー/セクションプレイヤーがプロジェクトのすべてのフローに追加されます。選択したインストゥルメントに合わせてプレイヤーに自動的に名前が付けられます。

#### 補足

- プロジェクトに読み込んだフローには、プレイヤーは自動的に追加されません。
- 複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加したい場合は、アンサンブルを追加するかプロジェクトテンプレートを使用します。

#### 手順終了後の項目

追加したソロプレイヤーに複数のインストゥルメントを割り当てるには、ソロプレイヤーに他のインストゥルメントを追加します。

#### 関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(87 ページ\)](#)

[プレイヤー名の変更 \(102 ページ\)](#)

[プロジェクト開始領域 \(36 ページ\)](#)

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(107 ページ\)](#)

[アンサンブルの追加 \(105 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始 \(59 ページ\)](#)

## プレイヤーの複製

プレイヤーは複製できます。複製を行なうと、同じタイプのプレイヤーが追加されます。

#### 手順

- 「プレイヤー (Players)」パネルで、複製するプレイヤーを右クリックしてコンテキストメニューから「**プレイヤーを複製 (Duplicate Player)**」を選択します。

#### 結果

元のプレイヤーと同じインストゥルメントを使用する新規プレイヤーが追加されます。元のプレイヤーと新規プレイヤーは、名前が区別されるように自動的に番号付けされます。

#### 関連リンク

[プレイヤー名の変更 \(102 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(106 ページ\)](#)

## プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名

Dorico Pro では、状況に応じて同じプレイヤーを 3 種類の名前で呼ぶことができます。これにより、スコア上のさまざまな場所に関連情報を表示できます。

プレイヤーとインストゥルメントに関連付けられる 3 種類の名前は以下のとおりです。

- プレイヤー名
- レイアウト名
- インストゥルメント名

同じタイプのインストゥルメントを演奏する個々のプレイヤーについて、これらの名前をすべて個別に変更できます。これらの名前はそれぞれ別の場所で使われます。プレイヤー名とレイアウト名はテキストトークンを使用して表示されます。

#### プレイヤー名

「**プレイヤー (Players)**」パネルで各プレイヤーに表示される名前です。スコアには表示されませんが、譜表ラベルやレイアウト名に表示されるインストゥルメント名やプレイヤー名とは関係なく、ワークフローの一部として使用できます。

プレイヤー名はインストゥルメントを追加時に自動的に生成されます。

#### レイアウト名

「**レイアウト (Layouts)**」パネルで各レイアウトに表示される名前です。個々のパートレイアウトの一番上に表示されます。

レイアウト名はインストゥルメントを追加時に自動的に生成され、レイアウト名が変更されるまでプレイヤー名に関連付けられます。

#### インストゥルメント名

譜表ラベルで使用されます。つまり、各譜表のインストゥルメントラベルはそのプレイヤーが現在演奏しているインストゥルメントに関連付けられており、そのプレイヤーがフロー内で演奏するすべてのインストゥルメントをリスト表示しているわけではありません。

たとえば、クラリネット奏者がバスクラリネットも演奏する場合、プレイヤーがクラリネットを演奏する場所の譜表ラベルには自動的に「**Clarinet**」と表示され、プレイヤーがバスクラリネットを演奏する場所の譜表ラベルには自動的に「**Bass Clarinet**」と表示されます。

Dorico Pro のすべてのインストゥルメントにはインストゥルメント名のセットが付随しており、変更することもできます。

プロジェクト内の他のプレイヤーが同じインストゥルメントを演奏している場合でも、各インストゥルメントのインストゥルメント名は個別に変更できます。

変更したインストゥルメント名をデフォルトとして保存しておけば、同じインストゥルメントをプロジェクトに追加するたびにその名前が使用されます。

#### 補足

デフォルトのインストゥルメント名を変更しても、プロジェクト内にすでに存在する同じタイプのインストゥルメントのインストゥルメント名は変更されません。

#### 関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング \(106 ページ\)](#)

[テキストトークン \(335 ページ\)](#)

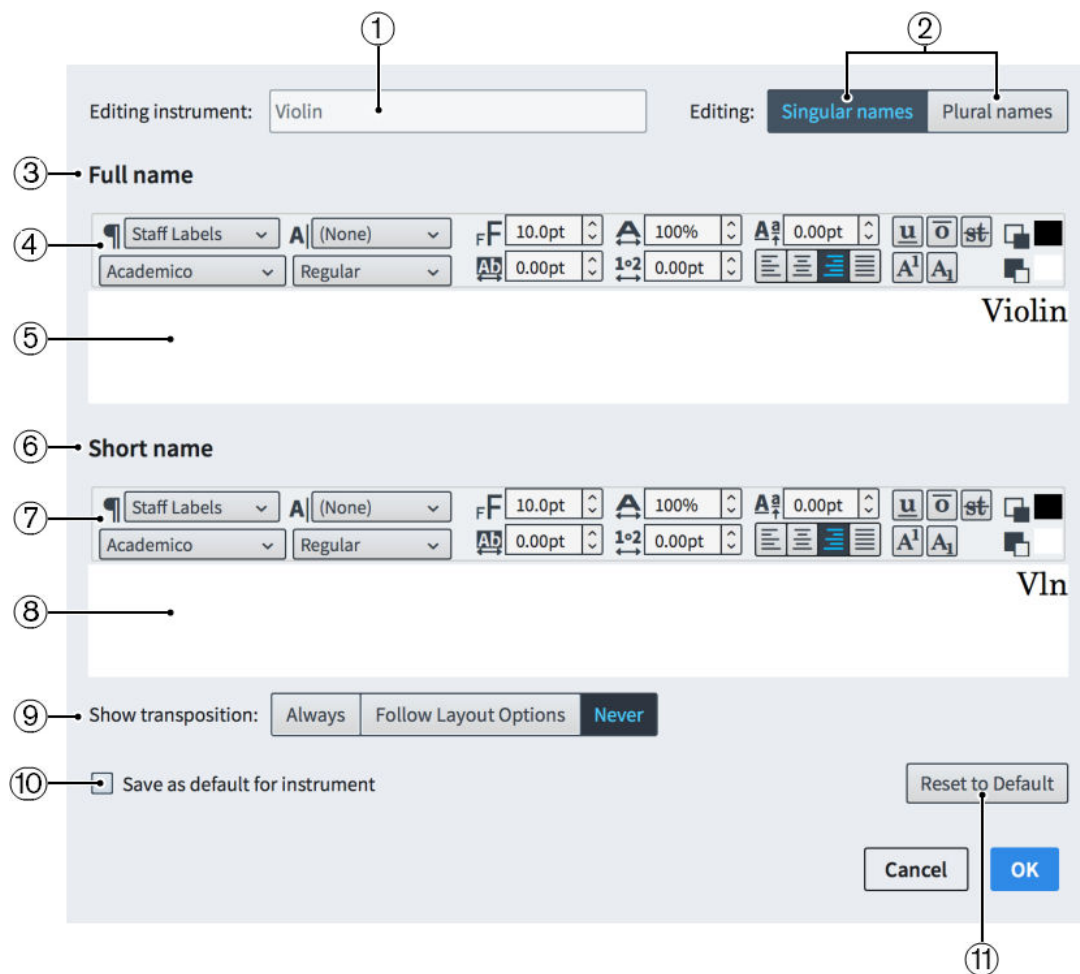
[譜表ラベル \(905 ページ\)](#)

[レイアウト \(123 ページ\)](#)

## 「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」 ダイアログ

「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログでは、譜表ラベルと譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルに使用される各インストゥルメント名の内容と形式設定を変更できます。インストゥルメントの単数形と複数形ごとに正式名称と略称の両方を編集できます。

- 設定モードで「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開くには、「プレイヤー (Players)」パネルでインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「名前を編集 (Edit Names)」を選択します。



「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」 ダイアログ

「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログには以下のオプションとセクションがあります。

- 1 編集するインストゥルメント (Editing instrument)**  
インストゥルメントの固定された基本の名前を表示します。この名前は変更できません。
- 2 編集 (Editing)**  
選択したインストゥルメントの「単数形 (Singular names)」と「複数形 (Plural names)」のどちらを編集するかを切り替えることができます。  
「単数形 (Singular names)」は譜表ラベルがデフォルトで表示される場合に使用され、「複数形 (Plural names)」は譜表に複数のプレイヤーが含まれている場合に使用されます。
- 3 「正式名称 (Full name)」セクション**

インストゥルメントの正式名称の外観を編集するオプションが含まれています。

#### 4 正式名称のテキストエディターオプション

選択したインストゥルメントの長い譜表ラベルのフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

##### 補足

譜表ラベルの水平方向の配置は、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定された配置を使用せず、常にパラグラフスタイルの配置を使用します。

#### 5 正式名称のテキスト編集領域

完全な譜表ラベルに表示される、選択したインストゥルメントの現在の長い名前が表示されます。インストゥルメント名の任意の部分を選択して、自由に編集できます。たとえば、新しい行にイタリック体で情報を追加できます。ただし、譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルの場合、インストゥルメント名は常に1行で表示されます。

譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

##### 補足

譜表ラベルは常にパラグラフスタイルに設定された配置を使用し、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定した配置は使用しません。これにより、システム全体で一貫した配置が行われます。

#### 6 「略称 (Short name)」セクション

インストゥルメントの略称の外観を編集するオプションが含まれています。

#### 7 略称のテキストエディターオプション

選択したインストゥルメントの短い譜表ラベルのフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

##### 補足

譜表ラベルの水平方向の配置は、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定された配置を使用せず、常にパラグラフスタイルの配置を使用します。

#### 8 略称のテキスト編集領域

省略された譜表ラベルに表示される、選択したインストゥルメントの現在の短い名前が表示されます。インストゥルメント名の任意の部分を選択して、自由に編集できます。たとえば、新しい行にイタリック体で情報を追加できます。ただし、譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルの場合、インストゥルメント名は常に1行で表示されます。

譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

##### 補足

譜表ラベルは常にパラグラフスタイルに設定された配置を使用し、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定した配置は使用しません。これにより、システム全体で一貫した配置が行われます。

#### 9 移調を表示 (Show transposition)

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名に移調をいつ表示するかを選択できます。B♭クラリネットなどの移調楽器の名前には、移調が含まれているのが一般的です。

以下のオプションから、移調をいつ表示するかを選択できます。

- **常に表示 (Always): 「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」** ページで非表示を選択していても、インストゥルメントの移調が表示されます。
- **「レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)」: 「レイアウトオプション (Layout Options)」** のレイアウトごとの設定に応じてインストゥルメントの移調が表示/非表示にされます。

- **常に非表示 (Never):** 「レイアウトオプション (Layout Options)」で表示を選択していても、インストゥルメントの移調は表示されません。

#### 10 インストゥルメントのデフォルトとして保存 (Save as default for instrument)

チェックボックスをオンにすると、ダイアログで加えた変更がデフォルトとして保存され、同じタイプのインストゥルメントをプロジェクトに新しく追加した際にその設定が適用されます。

#### 11 デフォルトにリセット (Reset to Default)

選択したインストゥルメントタイプについて、譜表ラベルに加えた変更がすべて削除され、デフォルト設定に戻ります。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[譜表ラベル \(905 ページ\)](#)

[プロジェクト全体での譜表ラベルの長さの変更 \(909 ページ\)](#)

## プレイヤー名の変更


プレイヤーのプレイヤー名を変更したり、名前を変更したプレイヤーをデフォルト名にリセットしたりできます。

### 補足

プレイヤー名はスコアの譜表ラベルやレイアウトの名前付けに使用されるものではなく、設定モードでの参照用です。

譜表ラベルには、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで各インストゥルメントに設定された名前セットが使用されます。

### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、プレイヤー名を変更するプレイヤーカードを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、プレイヤー名のテキストフィールドを開きます。
  - プレイヤーカードのどこかをダブルクリックします。
  - プレイヤーカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択します。
3. 新しい名前を入力するか、「**Reset to Default**」をクリックして名前をデフォルト名に戻します。  

4. **[Return]** を押します。

### 結果

選択したプレイヤーのプレイヤー名が変更されます。

### 補足

スコアに表示される譜表ラベルは変更されません。譜表ラベルに使用される名前は「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで変更し、パートの上部に表示される名前を変更するにはレイアウト名を変更します。


## レイアウト名の変更

レイアウト名は、たとえばパートの先頭に表示される名前など、個別のレイアウトを識別するために使用されます。プレイヤーのレイアウト名を変更したり、名前を変更したプレイヤーをデフォルト名にリセットしたりできます。

### 補足

レイアウト名は譜表ラベルには使用されません。譜表ラベルには、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで各インストゥルメントに設定された名前セットが使用されます。

### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、レイアウト名を変更するプレイヤーの名前を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、レイアウト名のテキストフィールドを開きます。
  - レイアウトカードのどこかをダブルクリックします。
  - レイアウトカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択します。
3. 新しい名前を入力するか、「**デフォルトにリセット (Reset to Default)**」をクリックして名前をプレイヤー名に戻します。  

4. [Return] を押します。

### 結果

選択したプレイヤーのレイアウト名が変更されるか、デフォルト名に戻ります。

### 補足

スコアに表示される譜表ラベルは変更されません。譜表ラベルに使用される名前は「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで変更し、パートの上部に表示される名前を変更するにはレイアウト名を変更します。

## インストゥルメント名の変更

インストゥルメント名は譜表ラベルと譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルに使用されます。各インストゥルメントに使用されるインストゥルメント名は変更できます。

### 補足

インストゥルメント名を変更しても、パートレイアウトの上部に表示される名前は変更されません。パートレイアウトの上部に表示される名前を変更するには、レイアウト名を変更します。

### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前を変更するインストゥルメントを含むプレイヤーカードの展開矢印マークをクリックします。  
カードが展開され、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントが表示されます。
2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**名前を編集 (Edit Names)**」を選択して「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。
3. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。
4. 必要に応じて、「**インストゥルメントのデフォルトとして保存 (Save as default for instrument)**」をオンにします。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名が変更されます。

- 変更をデフォルトとして保存しなかった場合は、選択したインストゥルメントの名前だけが変更されます。あとから追加される同じタイプのインストゥルメントは、元のデフォルト名を使用します。
- 変更をデフォルトとして保存した場合は、あとから追加される同じタイプのすべてのインストゥルメントが新しいインストゥルメント名を使用します。プロジェクト内にすでに存在する同じタイプのその他のインストゥルメントのインストゥルメント名は変更されません。

#### 関連リンク

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(100 ページ\)](#)

## プレイヤーのオーケストラの順番の変更

スコア上のプレイヤーの表示順を「**プレイヤー (Players)**」パネルで変更できます。

---

#### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、スコア上の位置を変更するプレイヤーのプレイヤーカードを選択します。
2. プレイヤーカードをクリックし、パネル内で上下にドラッグします。  
挿入ラインはプレイヤーが配置される場所を示します。

## プレイヤーの削除

プロジェクトからプレイヤーを削除できます。

---

#### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、削除するプレイヤーを選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
3. 表示される警告メッセージで、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**プレイヤーのみを削除 (Delete Player Only)**」: プレイヤーとそのプレイヤーに属するインストゥルメント用に作成した楽譜を削除します。
  - 「**プレイヤーとパートレイアウトを削除 (Delete Player and Part Layouts)**」: プレイヤー、楽譜、プレイヤーが割り当てられているすべてのパートレイアウトを削除します。

#### 補足

他のプレイヤーを含むパートレイアウトは削除できません。

---

## アンサンブル

Dorico Pro では、アンサンブルを追加すると、複数のプレイヤーが同時にプロジェクトに追加されません。

Dorico Pro には、複数のアンサンブルがあらかじめ定義されています。アンサンブルの追加は、楽器編成をすばやく作成する方法の 1 つです。Dorico Pro のあらかじめ定義されたアンサンブルには、フルート 2 人、オーボエ 2 人、クラリネット 2 人、ファゴット 2 人の二管編成など、基本的なパターンのアンサンブルが含まれています。



## アンサンブルの追加

ストリングスセクションや四部合唱など、アンサンブルを追加することで複数のプレーヤーを同時に追加できます。

前提

プレーヤーパネルを開いておきます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、アンサンブル用のインストゥルメントピッカーを開きます。
  - 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「アンサンブルを追加 (Add Ensemble)」をクリックします。



- 「プレーヤー (Players)」パネルの下部で「アンサンブルを追加 (Add Ensemble)」をクリックします。



- インストゥルメントピッカーで追加するアンサンブルを選択します。
- 「スコアにアンサンブルを追加 (Add Ensemble to Score)」をクリックします。

結果

アンサンブルプレーヤーがソロプレーヤーまたはセクションプレーヤーとして「プレーヤー (Players)」パネルに追加されます。

ヒント

プロジェクトテンプレートを使用すれば、複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加することもできます。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(87 ページ\)](#)

[プレーヤー名の変更 \(102 ページ\)](#)

[プロジェクト開始領域 \(36 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始 \(59 ページ\)](#)

## インストゥルメント

ソロプレーヤー、セクションプレーヤー、およびアンサンブルに対してインストゥルメントを割り当てることができます。

オーボエとイングリッシュホルンを持ち替えるなど、1人のプレーヤーが複数のインストゥルメントを演奏することは多いため、Dorico Pro ではソロプレーヤーに複数のインストゥルメントを割り当てることもできます。

インストゥルメントを割り当てる前に、プレーヤーまたはアンサンブルを追加する必要があります。そのあと、必要に応じてプレーヤーやアンサンブルをグループに割り当てることもできます。アンサンブルにはインストゥルメントがすでに追加されているため、アンサンブルを追加する場合、初期設定ではインストゥルメントを追加する必要はありません。ただし、アンサンブルにさらにインストゥルメントを追加することもできます。

Dorico Pro ではインストゥルメントの範囲が制限されておらず、各インストゥルメントのすべての音域にあらゆるピッチを記譜できます。ただし、再生モードのピアノロールエディターに表示できるのは 0 ~127 の MIDI ノート範囲のピッチのみです。また、割り当てられた VST インストゥルメントのサンプル範囲外のピッチを入力した場合、そのピッチは再生されません。

初期設定の変更およびインストゥルメントの追加や削除は、いつでも行なえます。

関連リンク

[ピアノロールエディター \(412 ページ\)](#)

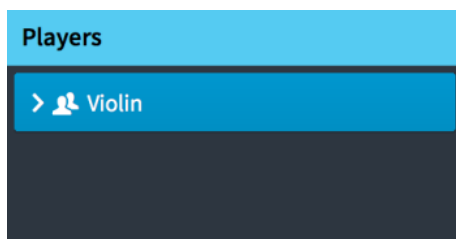
[VST および MIDI インストゥルメントパネル \(406 ページ\)](#)

## インストゥルメントのナンバリング

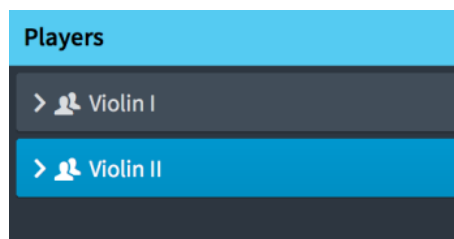
同じスコア内に同じタイプのインストゥルメントが複数ある場合、簡単かつ明確に識別できるよう、それぞれに自動的に番号が付けられます。

たとえば、スコアにフルートが 1 つのみの場合は「Flute」と表示されますが、3 つある場合は「Flute 1」、「Flute 2」、「Flute 3」と表示されます。

Dorico Pro では、プロジェクト内に同じタイプのインストゥルメントが複数ある場合、インストゥルメントに自動的に番号が付けられます。



バイオリンが 1 つの場合は番号なし



2 つめのバイオリンを追加すると両方が自動的にナンバリングされる

インストゥルメント番号は、以下の条件が満たされたときにプレーヤーに対して自動的に生成されません。

- プレーヤーが同じタイプである (ソロ/セクションにかかわらず)。
- プレーヤーに少なくとも 1 つの共通するインストゥルメントがある。
- プレーヤーが同じグループに属している。
- インストゥルメント名が同じである。

たとえば、プロジェクト内に 2 つのフルートがあり、1 つがセクションプレーヤーでもう 1 つがソロプレーヤーの場合、これらのフルートは自動的にナンバリングされません。同様に、2 つのフルートが異なるプレーヤーグループに属している場合も自動的にナンバリングされません。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(99 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(103 ページ\)](#)

[プレーヤーグループ \(118 ページ\)](#)

## 移調楽器

ほとんどのインストゥルメントは実音で音を出しますが、移調楽器は記譜された音とは異なる音を出します。たとえば、一般的な 2 つのオーケストラ移調楽器として、B $\flat$ クラリネットと F ホルンがあります。

B $\flat$ クラリネットで C を演奏すると、1 音下の B $\flat$  の音が鳴ります。F ホルンで C を演奏すると、5 音下の F が鳴ります。記譜されたピッチと異なる音を出すその他の楽器には、ピッコロ (1 オクターブ上の

音が鳴る)、コントラバス (1 オクターブ下の音が鳴る)、グロッケンシュピール (2 オクターブ上の音が鳴る) などがあります。

Dorico Pro ではすべての音符情報が実音で保存され、インストゥルメントの移調に合わせて音符が自動的に移調されます。つまり、非移調レイアウトとは異なり、移調レイアウトでは音符が自動的に変更されます。また、インストゥルメントはいつでも変更でき、その場合は正しいピッチが表示されるように楽譜が自動的に調整されます。

関連リンク

[実音と移調音 \(127 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(126 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(591 ページ\)](#)

## プレーヤーへのインストゥルメントの追加


ソロプレーヤーとセクションプレーヤーの両方にインストゥルメントを追加できます。ソロプレーヤーには複数のインストゥルメントを追加できますが、セクションプレーヤーには1つのインストゥルメントのみ追加できます。

前提

ソロプレーヤーまたはセクションプレーヤーを追加しておきます。

---

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを追加するプレーヤーを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントピッカーを開きます。
  - **[Shift]+[I]** を押します。
  - プレーヤーカードの右側のプラス記号をクリックします。  

3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。
5. 単一のソロプレーヤーに複数のインストゥルメントを追加する場合は、手順1から3を繰り返します。

補足

- 各セクションプレーヤーに追加できるのは1つのインストゥルメントのみです。
- 複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加したい場合は、アンサンブルを追加するかプロジェクトテンプレートを使用します。

---

結果

選択したインストゥルメントがプレーヤーに追加されます。複数のプレーヤーを選択した場合は、インストゥルメントは「**プレーヤー (Players)**」パネルの最初のプレーヤーにのみ追加されます。

補足

音符を入力する前は、ソロプレーヤーに割り当てられた最初のインストゥルメントのみがページビューのフルスコアに表示されます。ギャラリービューにはすべてのインストゥルメントの譜表が表示されるため、ソロプレーヤーに割り当てられた他のインストゥルメントに音符を入力する際はギャラリービューに切り替えることをおすすめします。

---

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(87 ページ\)](#)

[アンサンブルの追加 \(105 ページ\)](#)


[プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始 \(59 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(49 ページ\)](#)

## プレイヤーへの空の打楽器キットの追加

プレイヤーに空の打楽器キットを追加し、そこに無音程打楽器インストゥルメントを追加できます。

### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なって「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  - ソロプレイヤーまたはセクションプレイヤーを選択し、**[Shift]+[I]** を押してインストゥルメントピッカーで「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」をクリックします。
  - 追加したインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーの右側のプラス記号をクリックし、インストゥルメントピッカーで「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」をクリックします。  

  - プレイヤーを右クリックしてコンテキストメニューから「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」を選択します。
2. 「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで任意の打楽器をキットに追加します。

### 関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)  
[インストゥルメントピッカー \(87 ページ\)](#)

## キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合

プレイヤーに個別の打楽器インストゥルメントが1つ以上含まれている場合、それらを打楽器キットに結合できます。

### 手順

1. キットに結合する打楽器インストゥルメントを含むプレイヤーのカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**インストゥルメントでキットを編成 (Combine Instruments into Kit)**」を選択します。
2. 表示される「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログでキットを編集します。たとえば、グリッドまたは5線譜にインストゥルメントが表示される順番を変更できます。

### 結果

プレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントを含む新しいキットが作成されます。

### 補足

プレイヤーに1つ以上のキットインストゥルメントがすでに割り当てられている場合、すべての個別のインストゥルメントとその他のキットが最初のキットに結合されます。

## インストゥルメントの変更

たとえばクラリネットのパートの音程が低い場合、バスクラリネットに変更する場合など、譜表にすでに入力された楽譜に影響を与えることなく、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントを変更できます。

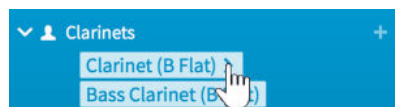
### 補足

- 個別の無音程打楽器インストゥルメント以外のパーカッションキットは、他のインストゥルメントに変更できません。
- 有音程打楽器インストゥルメントを無音程打楽器インストゥルメントに、またその逆の変更はできません。

### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを変更するプレイヤーのカードを展開します。

カードにはプレイヤーのインストゥルメントのリストが表示されます。



2. 変更するインストゥルメントのラベルにカーソルを合わせて、表示される矢印をクリックし、「**インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**」を選択してインストゥルメントピッカーを開きます。



3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを変更します。

### 結果

譜表上の楽譜に影響を与えることなく、選択したインストゥルメントが変更されます。

### 補足

適所に新しい音部記号が入力されます。つまり、新しい音部記号に応じて音符が正しく記譜されるように、音符の表示が変わる場合があります。

### 関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(87 ページ\)](#)

## プレイヤー間のインストゥルメントの移動

インストゥルメントに対してすでに入力されている楽譜に影響を与えることなく、プレイヤー間で個別のインストゥルメントを移動できます。

### 手順

- 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なってインストゥルメントをほかのプレイヤーに移動します。
  - インストゥルメントを個別にクリックしてドラッグし、移動先のプレイヤーカード上でマウスボタンを放します。
  - インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**インストゥルメントをプレイヤーに移動 (Move Instrument to Player)**」 > **[プレイヤー名]** をクリックします。

#### 補足

インストゥルメントは、プロジェクトにすでに追加されているプレーヤーにのみ移動できます。

---

#### 関連リンク

[ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加 \(97 ページ\)](#)

## インストゥルメントの削除

プレーヤーからインストゥルメントを削除できます。

#### 重要

プレーヤーからインストゥルメントを削除すると、このインストゥルメント用に作成した楽譜もすべて削除されます。

---

#### 手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、削除するインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**インストゥルメントを削除 (Delete Instrument)**」を選択します。
  3. 「**OK**」をクリックします。
- 

#### 結果

インストゥルメントがプレーヤーから削除されます。

## 「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログ

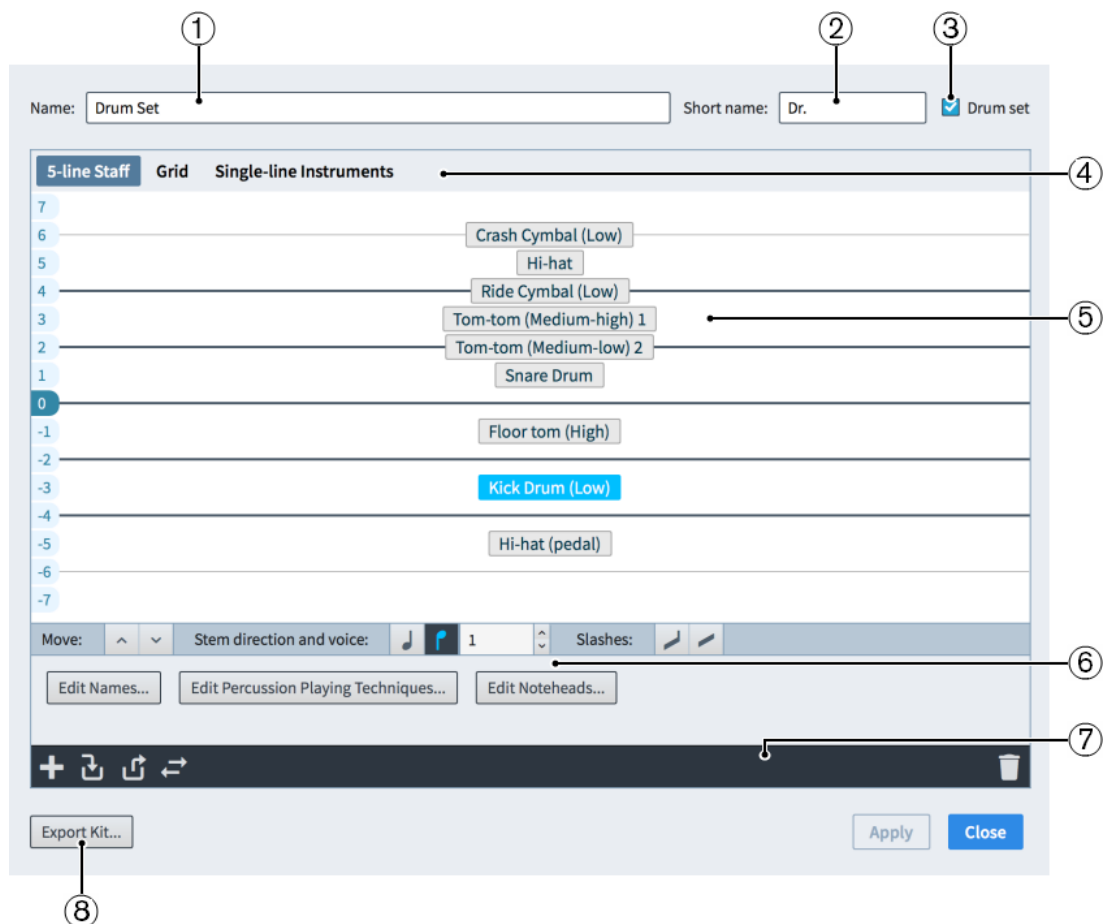
「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログでは、打楽器キットにどのインストゥルメントを含めるかやキットの表示タイプごとにインストゥルメントをどのように配置するかなど、打楽器キットに対する変更を行なえます。

- 空のキットを作成するか、既存のインストゥルメントをキットに結合すると自動的にダイアログが開きます。
- 既存の打楽器キットインストゥルメントに対して手動で「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開くこともできます。その場合は、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで打楽器キットを含むプレーヤーのプレーヤーカードを展開し、ラベルの矢印をクリックして「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択します。

#### 補足

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでは、打楽器キットインストゥルメントのラベルが緑色で表示されます。

---



「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログ

#### 1 名前 (Name)

打楽器キットの正式名称の入力または変更ができます。これは、5 線譜表示を使用している打楽器キットの完全な譜表ラベルで使用されます。

#### 2 略称 (Short name)

打楽器キットの略称を入力または変更できます。これは、5 線譜表示を使用している打楽器キットの省略された譜表ラベルで使用されます。

#### 3 ドラムセット (Drum set)

チェックボックスがオンの場合は、打楽器キットはドラムセットとして定義されます。ドラムセットとして定義された打楽器キットは、「記譜オプション (Notation Options)」の「打楽器 (Percussion)」ページのドラムセットの設定に従います。これには、声部の振り分けやデフォルトの符尾方向などが含まれます。

#### 4 表示タイプ

選択した打楽器キットが、打楽器キットの表示タイプごとでどのように表示されるかを編集できます。

- **5 線譜 (5-line Staff)**

キットのインストゥルメントは 5 線譜上に表示されます。譜表のそれぞれの線および間にどのインストゥルメントが表示されるか指定できます。キットの名前を示す 1 つの譜表ラベルが表示されます。

- **グリッド (Grid)**

キットのインストゥルメントはグリッド上に表示され、それぞれのインストゥルメントに 1 本ずつの線が与えられます。各線間の間隔はカスタマイズできます。各インストゥルメントの譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより小さなフォントで表示されます。

- **1 線譜を使用するインストゥルメント (Single-line Instruments)**

キットのインストゥルメントは、それぞれの線上で個別のインストゥルメントとして表示されます。各インストゥルメントには標準サイズの譜表ラベルが表示されます。

## 5 エディター

選択した打楽器キットの表示タイプで、インストゥルメントの現在の配置が表示されます。コントロールを使用して、インストゥルメントの配置およびグリッド表示タイプの線と間隔のレイアウトを変更できます。

## 6 コントロール

選択した打楽器キットの表示タイプのインストゥルメントの配置および符尾の方向を変更できます。また、キットにスラッシュ付き声部を追加することもできます。

「**符頭を編集 (Edit Noteheads)**」をクリックすると、キット内の各インストゥルメントに使用される符頭を変更するダイアログを開くことができます。また、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックすると、符頭とアーティキュレーションとトレモロとの組み合わせが再生にどのように影響するかを変更するダイアログが開きます。

さらに、打楽器キット内の個別のインストゥルメントの名前を変更することもできます。その場合は「**名前を編集 (Edit Names)**」をクリックして「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。

### 補足

すべての表示タイプの打楽器インストゥルメント名の表示が変更されます。打楽器キットの表示タイプによっては、譜表ラベルはインストゥルメント名とは別の情報を使用する場合があります。

## 7 アクションバー

ダイアログ下部のアクションバーには、すべての表示タイプに適用されるオプションがあります。

- **新規インストゥルメントを追加 (Add New Instrument)**



インストゥルメントピッカーを開き、キットに追加する新しい無音程打楽器インストゥルメントを選択できます。

- **プレーヤーから既存のインストゥルメントを追加 (Add Existing Instrument From Player)**



キット内ではなく、個別の打楽器インストゥルメントを含むプロジェクト内の他のプレーヤーのリストが表示されます。別のプレーヤーの打楽器インストゥルメントを選択し、その打楽器インストゥルメントを楽譜とともに現在のキットに移動できます。

- **キットからインストゥルメントを削除 (Remove Instrument From Kit)**



個別のインストゥルメントとして表示されるように、選択したインストゥルメントをキットから削除します。個別のインストゥルメントは他のプレーヤーまたは他のキットインストゥルメントに移動できます。

- **インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**



インストゥルメントピッカーを開き、新しい無音程楽器を選択して、楽譜を保持したまま選択したインストゥルメントと置き換えることができます。

- **インストゥルメントを楽譜ごと削除 (Delete Instrument)**



インストゥルメントを楽譜ごとキットから削除します。



## 8 キットを書き出す (Export Kit)

別のプロジェクトで使用できるように、打楽器キットをライブラリーファイルとして書き出せます。

関連リンク

[打楽器キット \(1029 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」 ダイアログ \(1036 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法 \(1036 ページ\)](#)

## 打楽器キットへのインストゥルメントの追加

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで、打楽器キットに新しいインストゥルメントを追加できます。

---

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを追加するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. 「**新規インストゥルメントを追加 (Add New Instrument)**」をクリックして、インストゥルメントピッカーを開きます。



4. インストゥルメントピッカーで任意の打楽器インストゥルメントを選択します。
  5. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。
  6. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

結果

選択したインストゥルメントが打楽器キットに追加されます。

## 打楽器キット内のインストゥルメントの変更

インストゥルメントの既存の楽譜はすべて保持したまま、打楽器キット内の既存のインストゥルメントを変更できます。

---

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. 変更するインストゥルメントをクリックします。
4. アクションバーの「**インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**」をクリックしてインストゥルメントピッカーを開きます。



5. インストゥルメントピッカーで任意の打楽器インストゥルメントを選択します。
  6. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを変更します。
  7. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

#### 結果

インストゥルメントがインストゥルメントピッカーで選択したものに變更されます。前のインストゥルメントの入力した楽譜はすべて保持されます。

#### 補足

演奏技法固有の符頭を使用して表現された演奏技法は保持されません。

---

## 打楽器キットをドラムセットとして定義

個別の打楽器キットをドラムセットとして定義できます。ドラムセットは、5線譜表示のドラムセットの声部の振り分けに対するプロジェクト全体の設定に従います。

---

#### 手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、ドラムセットとして定義するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. ダイアログの右上にある「**ドラムセット (Drum set)**」をオンにします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択した打楽器キットがドラムセットとして定義されます。5線譜表示タイプを使用している場合、キット内のインストゥルメントの声部の配置は「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで設定したプロジェクト全体の設定に従います。

#### 補足

打楽器キットをドラムセットとして定義しておく必要がなくなった場合は、そのキットの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで「**ドラムセット (Drum set)**」をオフにできます。

---

#### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1036 ページ\)](#)

## グリッド表示の打楽器キット内でのインストゥルメントグループの作成

キット内のインストゥルメントを見やすくするために、グリッド表示タイプを使用する打楽器キット内でインストゥルメントグループを作成できます。

グリッド表示の打楽器キット内では、独自のインストゥルメントの名前が譜表ラベルに表示されます。たとえば「Wood Block (High)」、「Wood Block (Medium)」、「Wood Block (Low)」のかわりに「ウッドブロック」と表示するなど、グループを作成してグリッド表示の打楽器キットの譜表ラベルをシンプルにできます。

---

#### 手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示にグループを作成するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. グループに含める最初のインストゥルメントをクリックします。

5. グループに含める最後のインストゥルメントを **[Shift]** を押しながらかlickします。

#### 補足

グループに含めることができるのは隣り合うインストゥルメントのみです。

6. 「追加 (Add)」 をclickします。



#### 結果

選択したインストゥルメントを含むグループが作成されます。グループにはデフォルト名が付けられますが、変更することもできます。

## グリッド表示の打楽器キット内でのグループ名の変更

グループ名はインストゥルメントラベルとして表示されます。グリッド表示を使用している打楽器キット内のグループの名前を変更できます。

#### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示内のグループ名を変更するキットが割り当てられたプレイヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をclickし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をclickします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、「**打楽器グリッドのグループ名を編集 (Edit Percussion Grid Group Names)**」ダイアログを開きます。
  - グループをダブルclickします。
  - グループをclickして、「**編集 (Edit)**」をclickします。



グループは、打楽器キットインストゥルメントのリストの左側の列に、色付きのブロックとして表示されます。

5. 「**打楽器グリッドのグループ名を編集 (Edit Percussion Grid Group Names)**」ダイアログの対応するフィールドに、グループに付ける名前を入力します。
  - **正式名称 (Full Name)**
  - **略称 (Short Name)**
6. 「**OK**」 をclickして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。


#### 結果

グループ名が変更されます。また、グループの譜表ラベルも変更されます。


#### 補足

グリッド表示の打楽器キットのグループの譜表ラベルには、グリッド表示の打楽器キットのグループ化されていないインストゥルメントの譜表ラベルとは異なるパラグラフスタイルが使用されます。

例

Ride Cymbal —  
Hi-hat —  
Wood Block 1 —  
Wood Block 2 —  
Wood Block 3   
Tom 1 —  
Tom 2 —  
Kick Drum —

グループ化されていないグリッド表示の打楽器キット

Ride Cymbal —  
Hi-hat —  
Wood blocks   
Tom 1 —  
Tom 2 —  
Kick Drum —

ウッドブロックがグループ化されたグリッド表示の打楽器キット

関連リンク

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

## グリッド表示の打楽器キット内でのグループの削除

グリッド表示を使用している打楽器キット内で、グループ内のインストゥルメントを削除することなくグループを削除できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示からグループを削除するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. 削除するグループをクリックします。  
グループは、打楽器キットインストゥルメントのリストの左側の列に、色付きのブロックとして表示されます。
5. 「**削除 (Delete)**」をクリックします。



結果

グループが削除されます。グループ内の各インストゥルメントの個別の譜表ラベルは復元されます。

## 打楽器キット内のインストゥルメントの位置の変更

すべての表示タイプの打楽器キット内で、インストゥルメントの位置を変更し、スコアとパートに表示されるインストゥルメントの順番を変更できます。また、5線譜表示タイプではスラッシュ付き声部の譜表上の位置も変更できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントの位置を変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. インストゥルメントの順番を変更するキットの表示タイプをクリックします。  
たとえば、そのキットがグリッド表示タイプを使用している場合にインストゥルメントの順番を変更するには「**グリッド (Grid)**」をクリックします。

- 位置を変更する打楽器インストゥルメントまたはスラッシュ付き声部をクリックします。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるインストゥルメント/スラッシュ付き声部は1つだけです。

- 以下のいずれかの操作を行なって、選択したインストゥルメント/スラッシュ付き声部の位置を変更します。
  - 上に移動するには、「**移動 (Move)**」の上矢印をクリックします。
  - 下に移動するには、「**移動 (Move)**」の下矢印をクリックします。
  - インストゥルメントを個別にクリックして上下にドラッグします (5 線譜表示タイプのみ)。
- 必要に応じて、打楽器キット内の他のインストゥルメントおよび同じ打楽器キットのほかのキット表示タイプにこれらの手順を繰り返します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

キット内の選択したインストゥルメントまたはスラッシュ付き声部の位置が変更されます。複数のインストゥルメントに同じ譜表上の位置を使用できますが、演奏者が見分けられるよう異なる符頭を使用することをおすすめします。

#### 関連リンク

[打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する \(1032 ページ\)](#)

## 打楽器グリッドの線の間隔の変更

グリッド表示タイプを使用している打楽器キットの線の間隔を変更できます。

#### 手順

- 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示の間隔の大きさを変更する打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
- キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
- ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
- 下の間隔を変更するインストゥルメントをクリックします。
- 「**間隔 (Gap)**」の値を変更します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したインストゥルメントの下の間隔が変更されます。

## 打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除

インストゥルメントをある打楽器キットから別のプレーヤーに移動する場合などに、打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除できます。

#### 手順

- 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを削除するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。

2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. キットから削除するインストゥルメントをクリックします。
4. アクションバーの「**キットからインストゥルメントを削除 (Remove Instrument From Kit)**」をクリックします。



5. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したインストゥルメントは同じプレーヤーに属する個別のインストゥルメントとして表示されますが、打楽器キットからは切り離されます。

そのあと、必要に応じてそのインストゥルメントを別のプレーヤーに移動できます。

#### 関連リンク

[プレーヤー間のインストゥルメントの移動 \(109 ページ\)](#)

## プレーヤーグループ

グループとは、1つのまとまりとして扱われるミュージシャンの集合のことです。合唱、オーケストラ、室内楽のアンサンブルなどと同じようなものと考えてください。

プレーヤーのグループ化とは、プレーヤーをまとめてスコア上に配置し、個別に通し番号を付け、「**浄書 (Engrave)**」「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**大括弧と中括弧 (Engraving Options)**」ページで選択したアンサンブルタイプに応じてそれらを括弧で括弧することを意味します。

たとえば二部合唱 (SATB/SATB) 用のプロジェクトの場合、初期設定ではすべての声部が同じファミリーに含まれるため、単一の大括弧で結合されます。ただし、各合唱を独自のグループに追加した場合は、それぞれが個別に括弧で括弧されます。これは、3つの個別のグループを持つブリテンの『戦争レクイエム (“War Requiem”)』や2つの個別のオフステージ吹奏楽団を必要とするウォルトンの『ベルシャザールの饗宴 (“Belshazzar's Feast”)』のように、複数のグループを含む楽譜でプレーヤーを適切に括弧で括弧することができ便利です。

同様に、大規模な楽譜でプレーヤーのオフステージグループ用にグループを作成することもできます。

インストゥルメントがオーケストラの順番通りに並んでいない場合、プレーヤーグループを追加することで、スコア上のプレーヤーの順番をプロジェクト全体で変更できます。

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(564 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートのカテゴリーによって異なる括弧 \(60 ページ\)](#)

## プレーヤーのグループの追加

プレーヤーを括弧で括弧したい場合などに、プレーヤーをグループに分けることができます。

#### 前提

プレーヤーパネルを開いておきます。

---

#### 手順

1. 必要に応じて、「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グループに含めるプレーヤーを選択します。
2. 「**プレーヤー (Players)**」パネルの下部で「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。



#### 結果

1人以上のプレイヤーを選択している場合、そのプレイヤーがグループに追加されます。1人もプレイヤーを選択していない場合は、空白のグループが「**プレイヤー (Players)**」パネルに追加されます。

#### 関連リンク

[グループへのプレイヤーの追加 \(119 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)

## プレイヤーグループ名の変更

プレイヤーグループを追加後に名前を変更できます。

#### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルでグループ名をダブルクリックします。
2. グループの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
3. **[Return]** を押します。

## プレイヤーグループの削除

たとえば、MIDI ファイルを読み込んだ際に作成したプレイヤーグループが不要になった場合、プレイヤーグループを削除できます。プレイヤーグループを削除する場合、そのグループに含まれるプレイヤーを保持するか、一緒に削除できます。

#### 手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、削除するグループを選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
3. 表示される警告メッセージで、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**プレイヤーを保持 (Keep Players)**」: グループは削除されますが、プレイヤーは保持されます。
  - 「**プレイヤーを削除 (Delete Players)**」: グループとそこに含まれるプレイヤーが削除されます。

## グループへのプレイヤーの追加

既存または新規のプレイヤーをプレイヤーグループに追加できます。

#### 前提

少なくとも1人のプレイヤー、1つのアンサンブル、または1つのグループを追加しておきます。

#### 手順

- 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 1人以上のプレイヤーを選択し、「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。
  - グループを選択し、「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」、「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」、または「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」を選択します。

#### 結果

「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックすると、新規グループが選択したプレーヤーに対して追加されます。

「**ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)**」、「**セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)**」、または「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックすると、新規プレーヤーまたはアンサンブルが選択したグループに追加されます。

#### 関連リンク

[ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加 \(97 ページ\)](#)

## グループ間のプレーヤーの移動

1 つのグループから別のグループにプレーヤーを移動できます。

#### 手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、別のグループに移動するプレーヤーを選択します。
2. 選択したプレーヤーをクリックし、移動先のグループ内の任意の位置にドラッグします。挿入ラインはプレーヤーが配置される場所を示します。

#### 結果

プレーヤーが別のグループに移動します。

## グループからのプレーヤーの削除

プレーヤーをグループから削除できます。

#### 手順

- 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なってプレーヤーを削除します。
  - 選択した複数のプレーヤーをクリックしてグループの外側へドラッグし、マウスボタンを放します。
  - 1人のプレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから「**プレーヤーをグループから削除 (Remove Player from Group)**」を選択します。

#### 補足

コンテキストメニューを使用する場合、グループから一度に削除できるのは1人のプレーヤーのみです。

#### 結果

プレーヤーはグループからは削除されますが、プロジェクト内には個別のプレーヤーとして残ります。

## フロー

フローは、楽章や歌曲など、プロジェクト内の個別の楽譜の範囲のことです。

各プロジェクトには、フローが少なくとも1つあり、初期設定では、各レイアウトにプロジェクトの各フローの楽譜が含まれます。Dorico Pro で新規フローを作成した場合、以下の動作が行なわれます。

- 新規フロー用に作成した楽譜はすべて、既存のフルスコアレイアウトとパートレイアウトに自動的に含まれます。該当するフローカードを無効にすることで、すべてのレイアウトからフローを除外できます。
- すべてのプレーヤーが新規フローに割り当てられます。該当するプレーヤーカードを無効にすることでフローからプレーヤーを除外できます。



### 重要

フローからプレイヤーを削除すると、そのフローで該当するプレイヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

---

「**記譜オプション (Notation Options)**」ダイアログでは、各フローの特定のオプションを個別に変更できます。

#### 関連リンク

[フローパネル \(91 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[プレイヤー \(97 ページ\)](#)

[レイアウト \(123 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレイヤーの変更 \(121 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(125 ページ\)](#)

[フローの読み込み \(63 ページ\)](#)

[フローの書き出し \(64 ページ\)](#)

## フローの追加

プロジェクトでフローが2つ以上必要な場合、新規フローを追加できます。

---

#### 手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルで、「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックします。



2. 必要に応じて、この手順を繰り返します。
- 

#### 結果

「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックするたびにプロジェクトに新規フローが追加されます。既存のすべてのプレイヤーが新規フローに割り当てられ、新規フローが既存のすべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に追加されます。

#### 関連リンク

[フローの読み込み \(63 ページ\)](#)

## フローに割り当てられたプレイヤーの変更

初期設定では、プロジェクトのすべてのプレイヤーがプロジェクトで作成されたすべてのフローに追加されます。たとえば、合唱の楽譜でソリストがそのフローを一切歌わない場合に、フローからプレイヤーを手動で削除したり、フローにプレイヤーを追加したりできます。

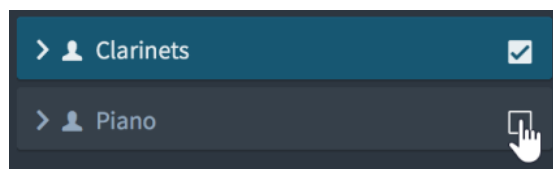
### 補足

フローからプレイヤーを削除すると、そのフローで該当するプレイヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

---

#### 手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルで、割り当てられたプレイヤーを変更するフローを選択します。
2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、フローに割り当てる各プレイヤーのプレイヤーカードのチェックボックスをオンにします。



#### ヒント

複数のプレーヤーカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらクリックします。

- 必要に応じて、割り当てられたプレーヤーを変更するその他のフローに対して手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

プレーヤーカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したフローにプレーヤーが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はフローからプレーヤーが除外されます。

#### 関連リンク

[プレーヤー \(97 ページ\)](#)

[レイアウト \(123 ページ\)](#)

[タレット \(355 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(125 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(124 ページ\)](#)

## フロー名とフロータイトル

プロジェクトにフローを追加する場合、初期設定では「**フロー (Flow)**」に通し番号が付いたフロー名となります。フロー名の変更は「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログおよび設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルでできます。

設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルにフローの名前を入力すると、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの該当するフローの「**タイトル (Title)**」フィールドに、入力した名前が自動的に追加されます。「**フロー (Flows)**」パネルで名前をあとから変更した場合、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログのフロータイトルも更新されます。

楽譜領域のスコアやパートに表示されるタイトルは、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの各フローの「**タイトル (Title)**」フィールドにリンクされています。

このリンクは「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフローの名前を変更するまで維持されます。一度「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフロータイトルを変更すると、「**フロー (Flows)**」パネルでフロー名を変更しても「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログのフローの「**タイトル (Title)**」フィールドは更新されなくなります。

これにより、正式なタイトルとは異なる名前を使用して、設定モードでフローを整理できます。

#### 関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(92 ページ\)](#)

[テキストトークン \(335 ページ\)](#)

## 設定モードでフロー名を変更する

フロー名は設定モードで変更できます。これにより、対応するフローのタイトルが自動的に更新され、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでタイトルを変更するまで維持されます。

#### 手順

- 「**フロー (Flows)**」パネルで、名前を変更するフローカードをダブルクリックしてフロー名のテキストフィールドを開きます。

2. フローの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

フロー名が変更されます。「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでフローに別の名前を入力していなければ、楽譜領域に表示されるタイトルが新しいフロー名に更新されます。

---

## 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでフロータイトルを変更する

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでフロータイトルを変更できます。一度この操作を行なうと、設定モードの「フロー (Flows)」パネルでフロー名を変更してもフロータイトルは変更されなくなります。

---

#### 手順

1. 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択します。
  2. メニューから、タイトルを変更するフローを選択します。または、メニューの横の矢印ボタンを使用してフローを選択します。
  3. 「タイトル (Title)」フィールドに新しいタイトルを入力します。
  4. 必要に応じて、プロジェクト内の他のフローに対して手順 2 と 3 を繰り返します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したフローのタイトルが入力したタイトルに変更されます。

#### 補足

これにより、設定モードの「フロー (Flows)」パネルのフロー名と楽譜領域に表示されるタイトルの間のリンクが解除されます。

---

## フローの削除

使用しなくなったフローを削除できます。フローを削除すると、そのフローのすべてのプレーヤーに属するすべてのインストゥルメントに関連する楽譜もすべて削除されます。

---

#### 手順

1. 「フロー (Flows)」パネルで、削除するフローを選択します。
  2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

## レイアウト

レイアウトを使用すると、プロジェクト内の楽譜の表示を目的に応じて変えられます。たとえば、パートレイアウトには演奏者が演奏する必要のある楽譜のみが含まれ、フルスコアレイアウトにはプロジェクト内のすべての譜表が含まれます。

Dorico Pro には以下のレイアウトタイプがあります。

#### フルスコア

フルスコアのレイアウトには、初期設定でプロジェクトのすべてのプレーヤーとすべてのフローが含まれます。不要なプレーヤーとフローは削除できます。初期設定では、フルスコアレイアウトは実音です。

## パート

プレーヤーをプロジェクトに追加すると、パートレイアウトが自動的に作成されます。パートレイアウトにプレーヤーをさらに追加できます。また、空白のパートレイアウトを作成してプレーヤーを追加できます。

初期設定では、パートレイアウトにはすべてのフローが含まれますが、不要なフローは除外できます。また、初期設定ではパートレイアウトは移調音です。

## カスタムスコア

カスタムスコアレイアウトには、はじめ、プレーヤーやフローが含まれていません。そのため、スコアを手動で作成して、たとえばすべてのフローではなく 1つのフローだけを追加したり、声楽とピアノの譜表だけを追加してコーラス用の要約スコアを作成したりできます。初期設定では、カスタムスコアレイアウトは実音です。

### 関連リンク

[ページレイアウト \(345 ページ\)](#)

[フロー \(120 ページ\)](#)

[プレーヤー \(97 ページ\)](#)




[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(125 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(124 ページ\)](#)

## レイアウトの作成

フルスコアレイアウトとパートレイアウトを複数作成できます。複数のカスタムスコアレイアウトも作成できます。

### 手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルの下部で、以下のレイアウトのタイプから 1つをクリックします。
  - **フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)**  

  - **パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)**  

  - **カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)**  


### 結果

「**レイアウト (Layouts)**」パネルのレイアウトのリストにレイアウトが追加されます。

### 手順終了後の項目

レイアウトにプレーヤーやフローを割り当てることができます。

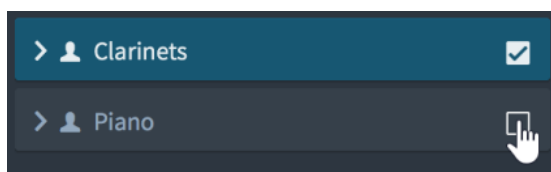
## レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更

初期設定では、フルスコアレイアウトにすべてのプレーヤーが含まれ、各プレーヤーに独自のパートレイアウトが自動的に割り当てられます。たとえば、フルスコアから不要なプレーヤーを削除したい場合や伴奏者のパートにソリストの楽譜を追加したい場合などに、プレーヤーを手動でレイアウトに割り当てたりレイアウトから除外したりできます。

### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、割り当てられたプレーヤーを変更するレイアウトを選択します。

2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、レイアウトに割り当てる各プレイヤーのプレイヤーカードのチェックボックスをオンにします。



#### ヒント

複数のプレイヤーカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかリックします。

3. 必要に応じて、割り当てられたプレイヤーを変更するその他のレイアウトに対して手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

プレイヤーカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したレイアウトにプレイヤーが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はレイアウトからプレイヤーが除外されます。レイアウト名を変更していない場合は、レイアウトに含まれるプレイヤー名を反映する形で自動的に更新されません。

#### 関連リンク

[プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(99 ページ\)](#)

[レイアウト名の変更 \(103 ページ\)](#)

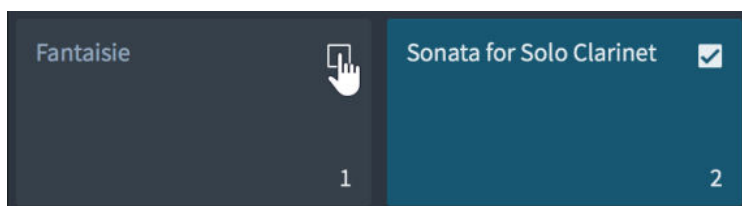
[フローに割り当てられたプレイヤーの変更 \(121 ページ\)](#)

## レイアウトに割り当てられたフローの変更

初期設定では、プロジェクトのすべてのフローがすべてのレイアウトに追加されます。レイアウトに表示しないフローを除外できます。たとえば、プロジェクトのフローに弦楽器への演奏上の指示が含まれており、それを弦楽器のパートレイアウトだけに表示したい場合などに、フローを手動でレイアウトに割り当てたりレイアウトから削除したりできます。

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、割り当てられたフローを変更するレイアウトを選択します。
2. 「**フロー (Flows)**」パネルで、レイアウトに割り当てる各フローのフローカードのチェックボックスをオンにします。



#### ヒント

複数のフローカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかリックします。

3. 必要に応じて、割り当てられたフローを変更するその他のレイアウトに対して手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

フローカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したレイアウトにフローが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はレイアウトからフローが除外されます。

#### 関連リンク

[フローに割り当てられたプレーヤーの変更](#) (121 ページ)

## レイアウト名の変更

レイアウト名を変更できます。

パートレイアウトをプロジェクトに追加すると、デフォルト名は「空白のパート譜 (Empty part)」となります。フルスコアとカスタムスコアレイアウトのデフォルト名は、「フルスコア (Full score)」と「カスタムスコア (Custom score)」です。複数のレイアウトを追加する場合は、デフォルト名に通し番号が追加されます。

---

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なってレイアウト名のテキストフィールドを開きます。
  - レイアウト名をダブルクリックします。
  - レイアウト名を右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択します。
2. レイアウトの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
3. **[Return]** を押します。

---

#### 関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング](#) (106 ページ)

## レイアウトの移調/非移調の設定

プロジェクト内の各レイアウトを移調するかしないかを変更できます。Dorico Pro の初期設定では、フルスコアレイアウトは移調されず、パートレイアウトは移調されます。

たとえば、フルスコアは音符を実音で表示するために移調されず、パートレイアウトは演奏者が求められるピッチで音を出すために演奏する音符を表示するよう移調されるのが一般的です。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、移調/非移調の設定を行なうレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**プレーヤー (Players)**」セクションで「**移調レイアウト (Transposing layout)**」のオン/オフを切り替えます。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

「**移調レイアウト (Transposing layout)**」をオンにすると選択したレイアウトが移調音になり、オフにすると実音になります。

## ヒント

また、「編集 (Edit)」 > 「移調音 (Transposed Pitch)」を選択してレイアウトを移調表示に、「編集 (Edit)」 > 「実音 (Concert Pitch)」を選択してレイアウトを実音表示にできます。この操作によって、楽譜領域で現在開かれているレイアウトのみのレイアウトオプションが自動的に更新されます。

### 関連リンク

[コード記号の移調 \(580 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(591 ページ\)](#)

## 実音と移調音

Dorico Pro のレイアウトには実音と移調音を使用できます。これは、移調楽器に属する譜表上のピッチと調号に影響します。

楽譜が実音の場合、すべての音符は聴こえる音のとおり記譜されます。つまり、実音の楽譜を読む移調楽器のプレイヤーは楽譜を自分自身で移調する必要があります。たとえば、実音で C と記譜されている場合、B $\flat$  クラリネットの奏者は C を出すためにインストゥルメントでは D を演奏する必要があります。

楽譜が移調音の場合、記譜される音符は、求められる音を出すために各楽器で演奏すべき音符です。たとえば、移調音で D と記譜されている場合、B $\flat$  クラリネットから発せられる音は C です。

移調スコアおよび移調パートでは、インストゥルメントの移調に応じて調号も変更されます。

### 関連リンク

[移調楽器 \(106 ページ\)](#)

[選択した音符と同時に調号を移調する \(694 ページ\)](#)

[異名同音の調号 \(695 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(591 ページ\)](#)

## レイアウトのソート

カスタムスコアレイアウトを追加して、フルスコアのすぐ下に表示したい場合に、「レイアウト (Layouts)」パネルとレイアウトセレクターに表示されるレイアウトの順番を変更できます。

### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、レイアウトカードをクリックして別の位置にドラッグします。  
挿入ラインはプレイヤーが配置される場所を示します。
2. マウスボタンを放します。

### 結果

選択した位置にレイアウトが移動します。

## レイアウト番号の付け直し

設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネルでは、レイアウトを異なる位置にドラッグした場合などに、プロジェクト内のすべてのレイアウトのレイアウト番号を現在の位置に従って付け直すことができます。

### 手順

- 「レイアウト (Layouts)」パネルでいずれかのレイアウトカードを右クリックして、コンテキストメニューから「レイアウト番号の付け直し (Renumber Layouts)」を選択します。

#### 結果

すべてのレイアウトのレイアウト番号が現在の位置に従って付け直されます。フルスコアレイアウト、カスタムスコアレイアウト、そしてパートレイアウトはそれぞれ別に番号付けされます。

#### 関連リンク

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(89 ページ\)](#)

## レイアウトの削除

プロジェクトのレイアウトを削除できます。たとえば、Violin I と Violin II が組み合わさったパートのみを使用する場合、それぞれの個別のパートレイアウトを削除できます。

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、削除するレイアウトを選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

## デフォルトレイアウトの復元

いくつかのパートレイアウトを誤って削除してしまった場合など、Dorico Pro に用意されているすべてのデフォルトのパートレイアウトを再作成できます。

#### 手順

- 「**設定 (Setup)**」 > 「**デフォルトのパートレイアウトを作成 (Create Default Part Layouts)**」を選択します。

#### 結果

デフォルトのパートレイアウトのセットが復元され、プロジェクトのすべてのフローを含む単一のパートレイアウトがプレーヤーごとに再作成されます。再作成されたパートレイアウトは、「**レイアウト (Layouts)**」リストの一番下に追加されます。

## ビデオ

Dorico Pro は、プロジェクト内でのビデオの使用とそれに関連する記譜記号 (マーカーやタイムコードなど) をサポートしており、重要なマーカーが設定された位置に基づいて適切なテンポを見つけることができます。

ビデオは、連続する画像がすばやく切り替わることで画像が動いているという印象を与えます。ほんの数秒のものから数時間に及ぶ長編映画まで、ビデオの長さはさまざまです。

Dorico Pro 内のビデオは独立した「**ビデオ (Video)**」ウィンドウに表示され、楽譜と一緒に再生されます。また、ビデオに含まれているオーディオも再生されます。このオーディオの音量は楽譜の音量とは別に制御できます。

#### ヒント

プロジェクトのフレームレートの設定なども含むこれらの機能は、ビデオを添付しなくても使用できます。

#### 関連リンク

- [ビデオの追加 \(130 ページ\)](#)
- [フレームレート \(133 ページ\)](#)
- [プロジェクトのフレームレートの変更 \(134 ページ\)](#)
- [タイムコード \(828 ページ\)](#)
- [マーカー \(822 ページ\)](#)



## サポートされるビデオ形式

Dorico Pro は、2017 年に Cubase と Nuendo に採用されたものと同じビデオエンジンを使用しています。このビデオエンジンは、一般的に使用されているほとんどのビデオ形式をサポートしています。

以下のビデオ形式がサポートされます。

- MOV: H263、H264、Apple ProRes、DV/DVCPRO、Avid DNxHR コーデックなど
- MP4: H263、H264 など
- AVI: DV/DVCPRO、MJPEG/PhotoJPEG など

23.976、24、24.975、25、29.97、30fps などの一般的なフレームレートはすべて、Dorico Pro で完全にサポートされています。

### 補足

- 可変フレームレートのビデオはサポートされません。
- 将来のバージョンではより多くの形式がサポートされる予定です。

サポートされる形式の詳細情報およびビデオ形式の識別方法と変更方法については、Steinberg のサポートサイトを参照してください。

### 関連リンク

[フレームレート](#) (133 ページ)

## 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログ

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログでは、フレームレートや開始位置など、ビデオに関連する設定を変更できます。

- 設定モードで「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開くには、「フロー (Flows)」パネルでフローを右クリックして、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」>「プロパティ (Properties)」を選択します。

このダイアログは新しいビデオを追加した際にも自動的に開きます。

The screenshot shows the 'Video Properties' dialog box with the following settings:

- Video file: /Volumes/C/video\_reel\_1.mp4
- Video frame rate: 25
- Project frame rate: 25 fps (dropdown menu) with a 'Use video frame rate' button
- Beat count: 0 (spinners)
- Beat unit: A row of icons representing different beat units (quarter note, eighth note, sixteenth note, dotted quarter note, eighth rest, sixteenth rest, and a double-dot icon).
- Flow attachment position: 0 (spinners)
- Video start offset: 00:00:00:00 (spinners)
- Timecode start: 00:00:00:00 (spinners)
- Buttons: 'Cancel' and 'OK' at the bottom right.

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログ

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログには以下のフィールドとオプションがあります。

### ビデオファイル (Video file)

コンピューター上のビデオファイルの場所を表示します。このフィールドは読み取り専用です。

### ビデオのフレームレート (Video frame rate)

ビデオファイルのフレームレートを表示します。このフィールドは読み取り専用です。

### プロジェクトのフレームレート (Project frame rate)

プロジェクトのフレームレートをメニューから選択できます。設定できるフレームレートはプロジェクト全体で1つのみです。

### ビデオのフレームレートを使用 (Use video frame rate)

プロジェクトのフレームレートをビデオファイルと同じに設定します。

### フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)

ビデオを添付する位置を設定します。これは、8つの付点4分音符のように、「**拍のカウン**ト (Beat count)」設定と「**拍の単位** (Beat unit)」設定を組み合わせで設定します。

### ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)

フローのアタッチメント位置に合わせてビデオ内の位置を設定できます。たとえば、ビデオの5秒めを第3小節の先頭に合わせるように設定できます。

### タイムコードの開始位置 (Timecode start)

ビデオの開始位置のタイムコードを設定できます。これはフローのタイムコードにも影響しますが、フローの開始位置のタイムコードはビデオに合わせて調整されます。たとえば、ビデオの開始位置のタイムコードが 02:00:00:00 で、4/4 拍子のフローの第3小節の先頭までビデオが始まらない場合、フローの開始位置のタイムコードは 02:00:00:00 より8拍分短くなります。つまり、テンポが 60 bpm であればフローの開始位置のタイムコードは 01:59:52:00 になります。

#### 補足

フローのタイムコードは「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードに表示されます。

---

#### 関連リンク

[タイムコード](#) (828 ページ)

[フローパネル](#) (91 ページ)

## ビデオの追加

プロジェクト内の各フローにビデオを追加できます。プロジェクトに以前追加したビデオを Dorico Pro が見つけられず、再読み込みする場合もこの手順を実行します。

フローに参照できないビデオが含まれている場合、「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードにはビデオアイコンのかわりに三角形の警告アイコンが表示されます。これは、ビデオファイルなしでプロジェクトだけを誰かに送った場合に起こります。

#### 前提

少なくとも1人のプレーヤーをプロジェクトに追加しておきます。

---

#### 手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルで、ビデオを追加または再読み込みするフローを右クリックします。
2. コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**添付 (Attach)**」を選択するとエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) が開きます。
3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、追加するビデオファイルを探して選択します。

4. 「開く (Open)」をクリックして「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開きます。
5. 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログでプロジェクトに合わせてオプションを変更します。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したビデオファイルがフローに追加され、「ビデオ (Video)」ウィンドウに表示されます。「フロー (Flows)」パネルのフローカードにフィルムリールアイコンが表示され、その横に「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」と「タイムコードの開始位置 (Timecode start)」を組み合わせたタイムコードが表示されます。

ビデオを再読み込みした場合、前の設定はすべて保持されます。

#### 関連リンク

[タイムコード \(828 ページ\)](#)

[タイムコードの開始位置の値を変更する \(829 ページ\)](#)

## ビデオの開始位置の変更

ビデオが開始される楽譜領域の位置と、その位置に合わさるビデオ内の位置の両方を変更できます。たとえば、ビデオの開始から5秒めを楽譜の第3小節の先頭に合わせることができます。

#### 手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開きます。
  - ビデオをフローに追加します。
  - 「フロー (Flows)」パネルで、フローを右クリックし、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」>「プロパティ (Properties)」を選択します。
2. 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログで、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」と「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」の両方またはいずれか一方の値を変更します。
3. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」の値を変更すると、ビデオが開始される楽譜内の位置が変更されます。

「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」の値を変更すると、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」にあたるビデオ内の位置が変更されます。

たとえば、「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」を「00:00:05:00」に変更し、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」を「8」に変更すると、ビデオの5秒めが楽譜の8拍めに一致します。

#### 補足

- 最初に設定されている位置は0です。そのため、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」を「8」に設定した場合、拍子記号が4/4であれば、第3小節の1拍めにフローのアタッチメントが行なわれます。
- 「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」を変更すると、ビデオのどの部分が「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」に合わさるかが変更されますが、この位置より前のビデオが切り取られるわけではありません。フローの中に収まる限り、その位置より前のビデオ素材も表示されます。

関連リンク

[タイムコード \(828 ページ\)](#)

[タイムコードの開始位置の値を変更する \(829 ページ\)](#)

## 「ビデオ (Video)」ウィンドウを表示/非表示にする

モードに関係なく、「ビデオ (Video)」ウィンドウはいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域で作業をしているときに、非表示にして視界に入らないようにできます。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「ビデオ (Video)」ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。
  - [F4] を押します。
  - ツールバーの「ビデオを表示 (Show Video)」をクリックします。



- 「ウィンドウ (Window)」 > 「ビデオ (Video)」を選択します。

---

結果

「ビデオ (Video)」ウィンドウの表示/非表示が切り替わります。このウィンドウは、「ウィンドウ (Window)」メニューの「ビデオ (Video)」の横にチェックマークがある場合は表示され、ない場合は表示されません。

関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

## 「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズの変更

「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズはいつでも変更できます。

前提

「ビデオ (Video)」ウィンドウを表示しておきます。

---

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズを変更します。
  - 角または端をクリックして任意の方向にドラッグします。
  - 形を変えずにサイズを変更するには、[Shift] を押しながら角または端をクリックしてドラッグします。

---

結果

「ビデオ (Video)」ウィンドウのサイズが変更されます。Dorico Pro に新しいサイズと形状が保存され、サイズを再び変更するまで、すべてのプロジェクトに対してこのサイズと形状が使用されます。

## ビデオの削除

各フローからビデオを個別に削除できます。

---

手順

- 「フロー (Flows)」パネルでビデオを削除するフローを右クリックして、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」 > 「添付解除 (Detach)」を選択します。

#### 結果

選択したフローからビデオが削除されます。

## ビデオオーディオのボリュームの変更

追加されたビデオに含まれるすべてのオーディオは、プロジェクト内の楽譜と一緒に再生されます。ビデオのボリュームは手動で変更できます。

#### 前提

ミキサーウィンドウを表示しておきます。

---

#### 手順

1. ミキサーウィンドウに**ビデオチャンネル**が表示されていない場合は、ミキサーツールバーで「**ビデオ (Video)**」をクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、**ビデオチャンネル**のボリュームを変更します。
  - **ビデオチャンネル**のフェーダーをクリックして上下にドラッグします。
  - **ビデオチャンネル**上部の**ミュート**ボタンをクリックします。

---

#### 結果

プロジェクト内のビデオに含まれるオーディオのボリュームが変更されます。**ミュート**ボタンをクリックした場合は、再生時にビデオのオーディオが聴こえなくなります。

#### 関連リンク

[ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え \(450 ページ\)](#)

## フレームレート

ビデオのフレームレートとは、画像が動いているという印象を与えるために単位時間ごとに使用される静止画像の数であり、一般的に1秒あたりのフレーム数、つまり“fps”で表わされます。

画像が動いているという印象を与えるのに必要な1秒あたりのフレーム数は人間の目が動きを処理する速度によって決まり、最も一般的なフレームレートは24 fps 程度です。ただし、最近の主要な映画はより鮮明な映像を生み出す48 fpsで公開されています。

Dorico Pro は23.976 fps から60 fps までのフレームレートをサポートしています。たとえば、米国とカナダの放送基準であるNTSCでは29.97 fpsが使われています。

フレームレートはタイムコードと密接に関係しており、タイムコードには時間と現在のフレーム位置の両方が含まれています。

23.976、24、24.975、25、29.97、30fpsなどの一般的なフレームレートはすべて、Dorico Pro で完全にサポートされています。

初期設定では、プロジェクトにもビデオファイルと同じフレームレートが使われますが、別のフレームレートを手動で選択することもできます。

#### 関連リンク

[タイムコード \(828 ページ\)](#)

## プロジェクトのフレームレートの変更

初期設定では、ビデオのフレームレートがプロジェクトのフレームレートとして使われます。フレームレートの異なる複数のビデオがプロジェクトに含まれている場合など、プロジェクトのフレームレートは必要に応じて変更できます。

### ヒント

フレームレートはプロジェクトにビデオが含まれていなくても変更できます。

---

### 手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。
    - ビデオをフローに追加します。
    - 「**フロー (Flows)**」パネルで、フローを右クリックし、コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**プロパティ (Properties)**」を選択します。
  2. 「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで、「**プロジェクトのフレームレート (Project frame rate)**」メニューからプロジェクトに使用するフレームレートを選択します。
  3. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

### 結果

プロジェクトのフレームレートが変更されます。

# 記譜モード

記譜モードでは、楽譜を作成できます。プロジェクトに音符や記譜記号を入力したり、既存の楽譜を変更したり、音符や記譜記号を削除したりできます。

## 記譜モードのプロジェクトウィンドウ

記譜モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、およびステータスバーが表示されます。ここでは、楽譜を書くのに必要なツールや機能で構成されるツールボックスやパネルが表示されます。

記譜モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- [Ctrl]/[command]+[2] を押します。
- ツールバーで「記譜 (Write)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「記譜 (Write)」を選択します。



記譜モードのツールボックスとパネル

記譜モードでは、以下のパネルとツールボックスが表示されます。

### 1 音符ツールボックス

音符の入力に影響するツールが表示されます。

## 2 音符パネル

音符の入力で最も一般的に使用される音符のデュレーション、臨時記号、アーティキュレーションが表示されます。

## 3 記譜パネル

強弱記号や演奏技法など、楽譜に追加できる記譜項目がカテゴリ別に表示されます。表示される記譜項目は、記譜ツールボックスの現在の選択によって決まります。

## 4 記譜ツールボックス

記譜パネルにどの記譜項目を表示するかを決定できるほか、リハーサルマーク、コード記号、フィンガリングなどの特定のアイテムを直接入力できます。

## 5 プロパティパネル

プロジェクト全体の設定とは別に、現在選択している音符と記譜項目を個別に変更できるプロパティが表示されます。

### 補足

プロパティの多くはレイアウト固有のものです。あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。ただし、プロパティの変更を他のレイアウトにコピーできます。

### 関連リンク

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(367 ページ\)](#)

## 音符ツールボックス

音符ツールボックスのツールを使用すると、音符を修正したり入力する音符のタイプを変更したりできます。音符ツールボックスは、記譜モードのウィンドウの左側にあります。

### 付点音符 (Dotted Notes)



ステップ入力中は、現在選択しているデュレーションに基づいて付点音符、付点休符、または付点和音を入力します。既存の音符を編集するときは、このツールを使用して既存の音符、休符、和音への付点の追加や削除を実行できます。

また、[.] (ピリオド) を押して「付点音符 (Dotted Notes)」のオン/オフを切り替えることもできます。[Alt]+[.] (ピリオド) を押して音符の付点の数を増やせます。

### 休符 (Rests)



このオプションをオンにすると、音符ではなく、現在選択しているデュレーションの休符を入力できます。

[,] (コンマ) を押して休符の入力を開始/終了することもできます。

### 和音 (Chords)



このオプションをオンにすると、同じ位置に複数の音符を追加して、和音を作成できます。この機能を使用すると、音符の入力後にキャレットが自動的に進まなくなります。

[Q] を押して和音の入力を開始/終了することもできます。

### 連符 (Tuplets)



このオプションをクリックすると、指定された位置に、3 連符の角括弧と対応する数の休符が入力されます。連符で連結された音符には、角括弧は使用されません。



連符のポップオーバーを使用すると、5連符など、その他のタイプの連符を入力できます。

### 装飾音符 (Grace Notes)



このオプションをオンにすると、現在の位置に通常の音符のかわりに装飾音符を入力できます。

[/] を押して装飾音符の入力を開始/終了することもできます。

### 挿入 (Insert)



このオプションをオンにすると、音符を上書きするのではなく、入力した音符が既存の楽譜のキャレットの前に挿入されます。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。

[I] を押して挿入モードのオン/オフを切り替えることもできます。

### デュレーションをロック (Lock to Duration)



このオプションをオンにすると、音符を入力する際に既存の音符のデュレーションが使用されます。このツールを使用すると、音符のデュレーションを維持したままピッチを変更できます。

[L] を押して「デュレーションをロック (Lock to Duration)」のオン/オフを切り替えることもできます。

### デュレーションを強制 (Force Duration)



このオプションをオンにすると、選択した明示的なデュレーションで常に音符/休符が入力されます。たとえば、「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにすると、初期設定では、Dorico Pro がタイで結ばれた音符を分割し、4/4 の 2 つめの 4 分音符の拍に、付点 4 分音符を強制的に入力します。

#### 重要

たとえば、音符のデュレーションを強制し、あとから拍子記号の変更や小節線の移動を行なうと、予期しない結果を招くことがあります。

入力中に「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにした場合、影響を受ける楽譜の部分を選択し、「編集 (Edit)」 > 「表示をリセット (Reset Appearance)」を選択することで、Dorico Pro で楽譜を記譜する際の制限をなくすことができます。

[O] を押して「デュレーションを強制 (Force Duration)」のオン/オフを切り替えることもできます。

### タイ (Tie)



ステップ入力中は、入力する音符を同じピッチの前の音符とつなげます。既存の音符を編集するときは、このツールを使用して、異なる声部の同じピッチの音符をつなげたり、装飾音符をリズムを持つ音符につなげたりできます。

[T] を押して「タイ (Tie)」をオンにすることもできます。

#### 補足

「タイ (Tie)」をオフにすることはできません。タイを削除するには、「はさみ (Scissors)」を使用する必要があります。

### はさみ (Scissors)



ステップ入力中は、音符、和音、明示的な休符をキャレットの位置で2つに分割します。既存の音符を編集するときは、タイのつながりの中のすべてのタイを削除します。

[U] を押して「はさみ (Scissors)」をオンにすることもできます。

### 選択 (Select)



マウス入力を有効化/無効化します。マウス入力を無効にすると、譜表をクリックして音符を入力することはできません。

#### 関連リンク

[付点音符の入力 \(156 ページ\)](#)

[和音の入力 \(171 ページ\)](#)

[連符の入力 \(172 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(170 ページ\)](#)

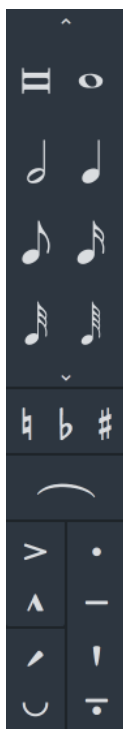
[マウス入力の有効化/無効化 \(155 ページ\)](#)

## 音符パネル

音符パネルには、音符や休符のデューレーションを選択し、臨時記号、スラー、アーティキュレーションを入力できるボタンがあります。このパネルは記譜モードのウィンドウの左側にあります。

音符パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[7] を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「左のパネルを表示 (Show Left Panel)」を選択します。



音符パネルの上部には、音符の入力または既存の音符のデューレーション変更のために選択できる音符のデューレーションが含まれます。初期設定では、最も一般的な音符のデューレーションだけが表示されま

す。このセクションの上下にある「すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)」展開矢印マークをクリックすると、すべての音符のデュレーションを表示できます。

音符パネルの中央部では、臨時記号の有効化/無効化、およびスラーの有効化を実行できます。ただし、スラーは無効化できないため削除する必要があります。

音符パネルの下部では、アーティキュレーションを有効化/無効化できます。

関連リンク

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(165 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)

[スラーの入力 \(267 ページ\)](#)

## プロパティパネル (記譜モード)

記譜モードのプロパティパネルには、音符と記譜記号を変更できるクイックアクセスプロパティが表示されます。これは音符の入力中に行なうことも、既存の音符に対して行なうこともできます。このパネルは、記譜モードのウィンドウの下部にあります。

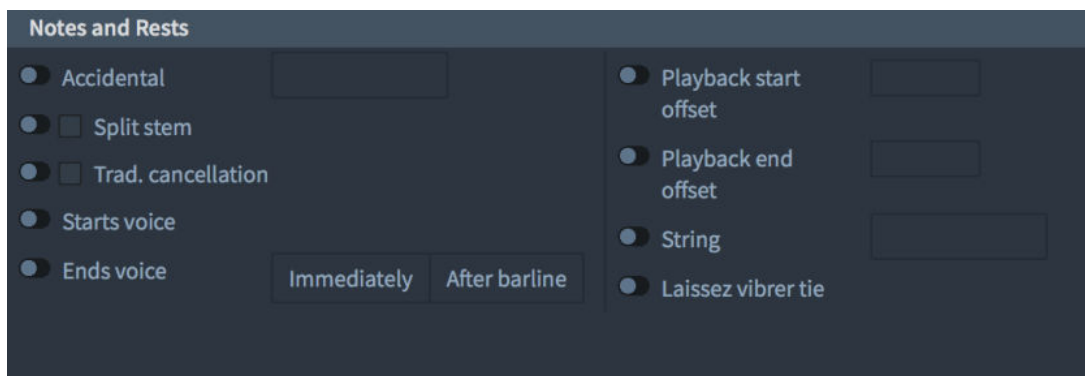
プロパティパネルには、各記譜項目のプロパティのグループが表示されます。楽譜領域で音符または項目を選択すると、選択した音符または項目の編集に必要なグループおよびオプションがプロパティパネルに表示されます。

### 補足

- タイプが異なる記譜項目を複数選択した場合、選択した項目すべてに共通するグループのみ表示されます。たとえば、スラーを選択した場合、プロパティパネルには「一般 (Common)」および「スラー (Slurs)」グループが表示されます。一方、スラーと音符を選択した場合は、「一般 (Common)」グループのみ表示されます。
- プロパティの多くはレイアウト固有のもので、あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。ただし、プロパティの変更を他のレイアウトにコピーできます。
- タイのつながりの中の1つのタイのカーブ方向など、記譜記号の個々の部分を変更する必要がある場合は浄書モードに切り替えます。

記譜モードおよび浄書モードのプロパティパネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)」を選択します。



記譜モードのプロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループ

## 個々の音符とアイテムのプロパティを変更する

たとえば、デフォルトではクレッシェンドをヘアピンとして表示するように設定しておいて、1つのクレッシェンドのみテキストで表示する必要がある場合など、個々の音符と記譜記号のプロパティをプロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

### 補足

記譜モードで変更できるのは音符と記譜記号全体のプロパティのみです。たとえば、ペダル線が複数の組段をまたいでいる場合、一方の組段の線のスタイルを変更して、もう一方は元のスタイルを維持することはできません。浄書モードでは、音符と記譜記号の個々の部分を別々に変更できます。

### 手順

1. 楽譜領域で音符または記譜項目を選択します。
2. プロパティパネルが非表示になっている場合は、以下のいずれかの操作を行なって表示します。
  - **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
  - ウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
  - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。
3. プロパティパネルで任意のプロパティを変更します。

### 結果

音符または記譜項目全体が変更されます。変更内容は、すぐに楽譜領域に表示されます。

### 補足

- プロパティの多くはレイアウト固有です。たとえば、譜表に対するアイテムの配置をフルスコアレイアウトで変更しても、対応するパートレイアウトのアイテムの配置には影響しません。ただし、プロパティの設定は他のレイアウトにコピーできます。
- さまざまな拍子における音符と連符のデフォルトのグループ化など、音符の記譜方法のデフォルト設定は、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」でフローごとに個別に変更できます。
- すべての音符と記譜記号のデフォルトの外観と位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」で変更できます。

### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(367 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(283 ページ\)](#)

[アイテムの位置をリセットする \(284 ページ\)](#)

## 記譜ツールボックス

記譜ツールボックスのオプションを使用すると、記譜パネルで使用できる記譜項目を決定できます。記譜ツールボックスは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

### 音部記号 (Clefs)



入力できるさまざまな音部記号とオクターブ線のセクションがある音部記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

## 調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)



入力できるさまざまな調号、調性システム、臨時記号のセクションがある調号、調性システム、臨時記号パネルの表示/非表示を切り替えます。このパネルでは、カスタムの調性システムの作成と編集も行なえます。

## 拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))



入力できるさまざまな拍子記号のセクションがある拍子記号 (拍子) パネルの表示/非表示を切り替えます。入れ替え可能な拍子の拍子記号や弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号といったカスタム拍子記号を作成できるセクションもあります。

## テンポ (Tempo)



段階的テンポ変更、メトロノームマーク、テンポの等式など、入力できるさまざまなテンポ変更のセクションがあるテンポパネルの表示/非表示を切り替えます。

## 強弱記号 (Dynamics)



局部的強弱記号、段階的強弱記号、カスタムの結合式強弱記号など、入力できるさまざまな強弱記号のセクションがある強弱記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

## 装飾音 (Ornaments)



入力できるさまざまな装飾音とグリッサンドラインのセクションがある装飾音パネルの表示/非表示を切り替えます。

## 反復記号 (Repeat Structures)



リピート括弧とリピートセグメント、リピートマーカ、単音トレモロと重音トレモロ、小節リピート記号、スラッシュ領域など、さまざまな反復記号のセクションがある反復記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

## 小節と小節線 (Bars and Barlines)



小節の挿入やさまざまな小節線の入力ができる小節と小節線パネルの表示/非表示を切り替えます。

## 延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)



入力できるさまざまなフェルマータ、プレス記号、中間休止記号のセクションがある延長記号と休止記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

## 演奏技法 (Playing Techniques)



さまざまなインストゥルメントファミリーグループのセクションがある演奏技法パネルの表示/非表示を切り替えます。各セクションには、対応するインストゥルメントファミリーの演奏技法が含まれています。

### キュー (Cues)



キューに適した場所を探し、キューを入力できるキューパネルの表示/非表示を切り替えます。

### ビデオ (Video)



「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開いたり、現在のフローにあるマーカーの表示や編集を実行したりできるビデオパネルの表示/非表示を切り替えます。

### リハーサルマーク (Rehearsal Marks)



選択した位置にリハーサルマークを挿入します。

### テキスト (Text)



選択した位置にテキストを挿入するためのテキストエディターを開きます。

### 歌詞 (Lyrics)



譜表で選択した音符の上に、歌詞を入力できる歌詞のポップオーバーを開きます。

### コード記号 (Chord Symbols)



譜表で選択した音符の上に、コード記号を入力できるコード記号のポップオーバーを開きます。

### フィンガリング (Fingerings)



譜表で選択した音符の上に、フィンガリングを入力できるフィンガリングのポップオーバーを開きます。

#### 関連リンク

[記譜記号の入力 \(186 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(269 ページ\)](#)

[「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(129 ページ\)](#)

## 記譜パネル

記譜パネルには、記譜ツールボックスでの選択に応じて、楽譜に使用するさまざまな記譜項目が表示されます。記譜パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

入力する記譜記号を探し、その記譜記号を入力したあと楽譜領域のサイズを広げるなど、記譜パネルの表示/非表示はいつでも切り替えることができます。

#### 関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(17 ページ\)](#)

## 「記譜オプション (Notation Options)」 ダイアログ

「記譜オプション (Notation Options)」 ダイアログには、各フローの楽譜のデフォルトの記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。

以下に影響する変更を行なうことができます。

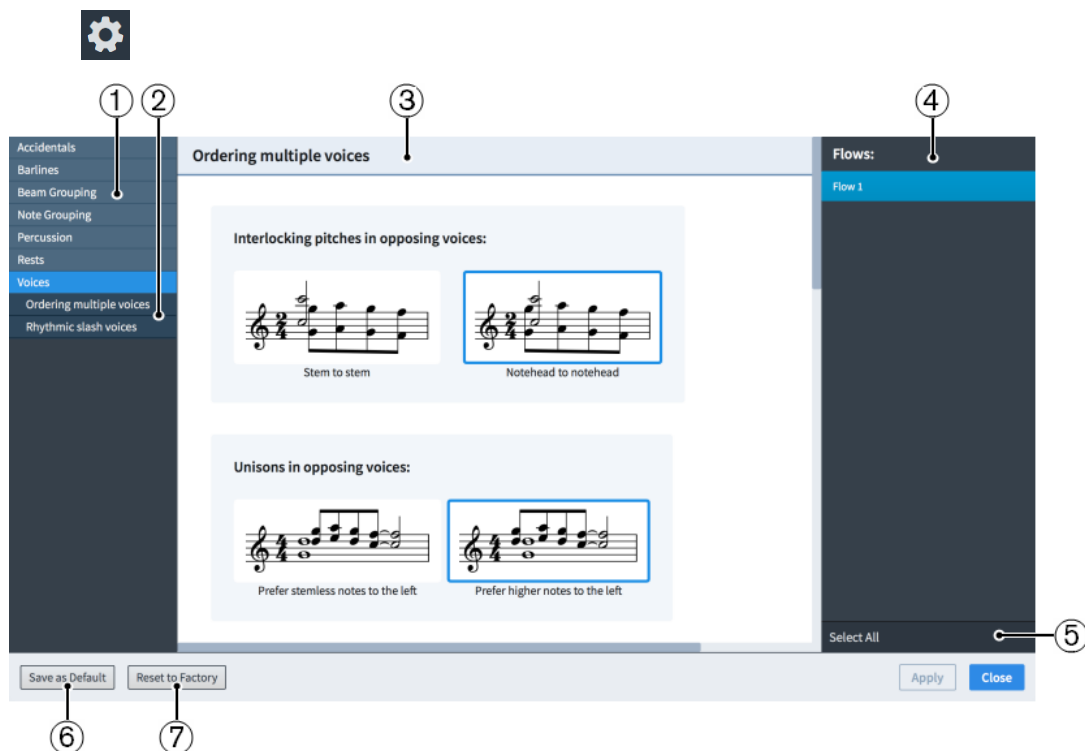
- 音符と休符のグループ化 (シンコペーションのリズムや、さまざまな拍子記号でのさまざまなリズムの扱い方)
- 声部 (声部間での符頭の共有や、複数の声部をまとめる際の順序など)
- 臨時記号 (親切臨時記号の扱い方など)
- 移調 (移調楽器での調号の扱い方など)
- 打楽器キット (単一の打楽器キットにおける複数の声部の扱い方など)

### ヒント

音符や記譜記号に直接変更を加える場合は、プロパティパネルのさまざまなオプションを使用します。

「記譜オプション (Notation Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[N] を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択するか、設定モードで「設定 (Setup)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。
- 設定モードで、「フロー (Flows)」パネルにある「記譜オプション (Notation Options)」をクリックします。



### 記譜オプション (Notation Options)

「記譜オプション (Notation Options)」 ダイアログには以下が含まれています。

#### 1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

## 2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

## 3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

## 4 フローリスト

プロジェクト内のすべてのフローが含まれています。1つ、複数、またはすべてのフローを選択できます。複数のフローを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- プロジェクト内のすべてのフローを選択するには、アクションバーの「**すべて選択 (Select All)**」をクリックします。
- 複数のフローを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
- 複数の隣接するフローを選択するには **[Shift]** を押しながらかlickします。

## 5 すべて選択 (Select All)

「**フロー (Flows)**」のリストにあるすべてのフローを選択できます。

## 6 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
- 「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」を選択できます。

## 7 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[フロー \(120 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(28 ページ\)](#)

## 「記譜オプション (Notation Options)」でフロー固有の変更を行なう

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで、オプションをフローごとに個別に変更できます。

---

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
  - 記譜モードで、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択します。



- 設定モードで、「フロー (Flows)」 パネルにある「記譜オプション (Notation Options)」をクリックします。



- 以下のいずれかの操作を行なって、「フロー (Flows)」 のリストから変更を適用するフローを選択します。

- [Ctrl]/[command] を押しながらフローを個別にクリックします。
- [Shift] を押しながら隣接するフローをクリックします。
- 「すべて 選択 (Select All)」 をクリックします。

初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。

- ページリストのページをクリックします。
- 設定可能なオプションを確認して、必要に応じてオプションを変更します。
- 「適用 (Apply)」 をクリックしてから「閉じる (Close)」 をクリックします。

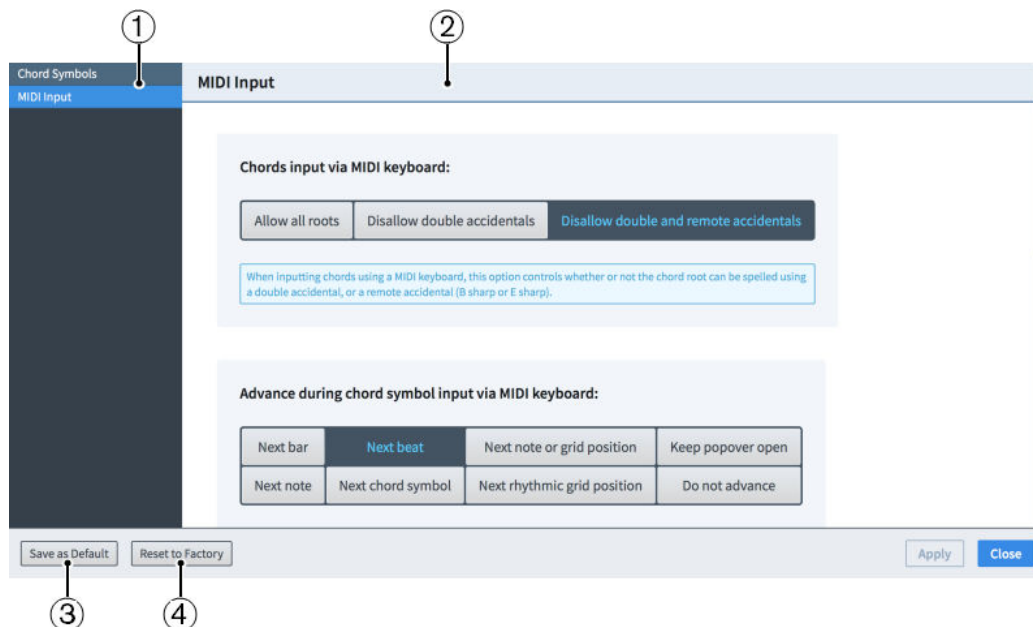
## 「音符入力オプション (Note Input Options)」 ダイアログ

「音符入力オプション (Note Input Options)」 ダイアログには、入力するデータや MIDI のデフォルトの解釈方法を設定できる複数のオプションがあります。

たとえば、MIDI キーボードを使用して音符を入力する際に、臨時記号と音符をどのように表記するかや、演奏内容に基づいてコード記号に含める項目を設定できるオプションなどがあります。

「音符入力オプション (Note Input Options)」 を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[I] を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで、「記譜 (Write)」 > 「音符入力オプション (Note Input Options)」 を選択します。



### 音符入力オプション (Note Input Options)

- ページリスト  
ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。
- セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

### 3 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
- 「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」を選択できます。

### 4 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[コード記号入力中のナビゲーション \(219 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(167 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(28 ページ\)](#)

## 入力と編集

Dorico Pro では、楽譜の入力と編集が区別されています。

### 入力

キャレットが表示されていれば、楽譜を新たに入力できます。音符と記譜記号を入力するにはキャレットを有効にする必要があります。キャレットを有効にするとデュレーション、付点、臨時記号、アーティキュレーションを指定できるため、音符ツールボックスと音符パネルでツールやアイテムを選択すると、入力しようとしている音符または和音に影響します。そのあと、スコアへ音符をクリックして入力するか、コンピューターキーボードで音符の文字名を押して入力するか、MIDI キーボードで音符または和音を演奏して、ピッチを指定します。

キャレットが有効になっている場合、音符と記譜記号はキャレットの位置に入力されます。

楽譜領域で音符や和音が選択されていない場合、キーボードショートカットを押すか音符パネルをクリックしてデュレーションを選択すると、マウス入力の有効になります。譜表上でマウスポインターを移動すると、シャドウ音符が入力する位置に表示され、クリックすると実際に音符が入力されます。

#### 補足

マウス入力を無効にすると、この状況でマウス入力が始まらなくなります。

## 編集

キャレットが表示されていなければ、既存の楽譜を編集できます。楽譜の編集には音符と記譜記号の削除が含まれます。これは記譜モードでのみ行なえますが、音符の削除は再生モードでも行なえます (記譜記号は削除できません)。入力と編集はいつでも切り替えることができます。

キャレットが有効になっていない場合、新しいアイテムは楽譜領域で選択されている最初のアイテムの位置に入力されます。アイテムが選択されていない場合は、マウスポインターに新しいアイテムが付随し、クリックした位置にアイテムが作成されます。

既存の音符と記譜記号を編集するには、楽譜領域でそれらを選択する必要があります。これにより、たとえば音符パネルで新しい音符のデュレーション、臨時記号、またはアーティキュレーションを選択した場合に、選択した音符やアイテムを更新できます。

少し時間を取って、キャレットが表示されている場合と表示されていない場合の Dorico Pro の動作の違いを理解しておくことをおすすめします。キャレットが表示されていない場合、すべての編集機能が楽譜領域で選択したアイテムに対して実行されます。

関連リンク

[編集と選択 \(275 ページ\)](#)

[キャレット \(149 ページ\)](#)

[音符の入力 \(149 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(186 ページ\)](#)

## マウス入力の設定

Dorico Pro のマウス入力機能を決めるいくつかの設定があります。

マウス入力の環境設定は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページにある「**編集 (Editing)**」セクションで設定できます。

マウス入力について、以下のいずれかのオプションを選択できます。

- **選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**  
楽譜領域で選択しているアイテムまたは音符の位置にアイテムが入力されます。
- **ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**  
アイテムがマウスポインターに読み込まれるため、楽譜領域の任意の場所をクリックしてアイテムを入力できます。

「**マウスによる複数アイテムの作成を許可する (Allow multiple items to be created with the mouse)**」のオン/オフを切り替えることもできます。

「**マウスによる複数アイテムの作成を許可する (Allow multiple items to be created with the mouse)**」をオンにすると、マウスポインターにアイテムを読み込むことができ、入力するたびにアイテムを選択しなおすことなく、楽譜領域で同じアイテムを複数回入力できます。このオプションをオフにすると、マウスポインターに読み込まれたアイテムは一度だけ入力できます。アイテムを複数の場所に入力するには、入力するたびにアイテムを選択しなおす必要があります。

### 補足

環境設定を変更すると、すべての新規プロジェクトに対してその機能が永続的に変更されます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## リズムグリッド

リズムグリッドはデュレーションの単位であり、入力および編集の特定の性質、たとえばアイテムの移動量などに影響を与えます。ただし、入力する音符やアイテムのデュレーションには影響しません。



譜表の上に表示されたリズムグリッド (8 分音符に設定)

現在のリズムグリッドの値はステータスバーに音価で示されるとともに、キャレットがアクティブな譜表の上のルーラーの目盛りによっても示されます。リズムグリッドの長い線は拍の区切りを示し、短い線は分割された拍を示します。再生モードでは、リズムグリッドはイベントディスプレイの上部のルーラーおよびトラック上の垂直線の頻度で表わされます。

リズムグリッドは、以下を識別するのに役立ちます。

- キャレットまたはマウス使用時の正確な入力位置
- [→]/[←] 使用時のキャレットの移動幅
- 音符およびアイテムの長さを変更する際の幅
- 音符およびアイテムの移動幅

また、リズムグリッドを使用することで、マウスを使って音符やアイテムを入力する際、またはそれらをコピーアンドペーストする際に、音符やアイテムをどの程度精密に配置するかも制御できます。たとえば、リズムグリッドの値を 32 分音符に設定した場合、4 分音符に設定した場合よりも多くの位置に音符やアイテムを入力できます。

リズムグリッドの値はいつでも変更できます。

関連リンク

[キャレット \(149 ページ\)](#)

[手動でのキャレットの移動 \(152 ページ\)](#)

[イベントディスプレイ \(411 ページ\)](#)

## リズムグリッドの値の変更

リズムグリッドの値を変更できます。この値は、ステータスバーの音価のマークおよびキャレットの上に表示されるルーラー目盛りの拍の区切りと分割された拍によって表わされます。

初期設定では、リズムグリッドの値は 8 分音符に設定されています。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なってリズムグリッドの値を変更します。
  - リズムグリッドの値を減らすには [Alt]+[ ] を押します。
  - リズムグリッドの値を増やすには [Alt]+[ ] を押します。
  - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を狭める (Decrease Grid Resolution)」を選択します。
  - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を広げる (Increase Grid Resolution)」を選択します。
  - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > [拍の区切り] を選択します。
  - ステータスバーの「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」セレクトターで値を選択します。

#### 結果

リズムグリッドの値を減らすと、音価が短くなりリズムグリッドの間隔が狭くなります。リズムグリッドの値を増やすと、音価が長くなりリズムグリッドの間隔が広がります。

#### ヒント

リズムグリッドの値を増やす/減らすキーボードショートカットを任意に割り当てることができます。

#### 関連リンク

[ステータスバー \(41 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(55 ページ\)](#)

## 音符の入力

Dorico Pro で音符を入力できるのは、キャレットが有効になっている音符入力時のみです。これにより音符の入力と同時に記譜記号をキャレットの位置に入力できます。また譜表に誤って音符を入力するリスクも低減できます。

以下のいずれかのデバイスを使用して、さまざまな方法で音符を入力できます。デバイスはいつでも切り替えることができます。

- MIDI キーボード
- コンピューターキーボード
- マウスまたはタッチパッド

#### ヒント

MIDI キーボードを使用すると、最も早く音符を入力できます。

#### 関連リンク

[音符 \(715 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

## キャレット

Dorico Pro では、キャレットは5線譜の上から下へと伸びる縦線として表示されます。ただし、打楽器の譜表では短く表示されます。キャレットは、音符、和音、または記譜項目を入力できる位置を示します。

キャレットとは、一般的に、印刷されたテキストの校正に使用されるマークのことで、欠けている文字や文字列などを挿入または追加する位置を示します。ソフトウェアでは、キャレットは何かを挿入する位置を示します。キャレットは“挿入ポイント”または“カーソル”とも呼ばれます。この説明書では、音符の入力中に表示される線を“キャレット”と呼び、テキストの入力中に表示される線を“カーソル”呼びます。

音符を入力している場合、キャレットは自動的に次の位置に進みます。和音を入力している場合は、キャレットは自動的に移動しないため、手動で次の位置に移動させる必要があります。キャレットの横には、現在選択している声部の符尾の方向とタイプを示す音符記号が表示されます。その声部が新しい場合は一緒にプラス記号が表示されます。



キャレット

キャレットの外観は、入力モードと現在選択している声部の番号に応じて変わります。

### 挿入 (Insert)

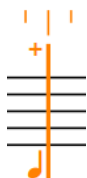
キャレットの上にV字、下に逆向きのV字が表示されます。挿入モードでは、音符を挿入すると、既存の音符が置き換わるのではなく、入力したデュレーションの分だけキャレットに続くすべての楽譜が移動します。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。



挿入モードのキャレット

### 和音 (Chords)

キャレットの左上にプラス記号が表示されます。和音の入力中は、同じ位置に複数の音符を入力できます。



和音を入力中のキャレット

### デュレーションをロック (Lock to Duration)

キャレットが破線になります。「デュレーションをロック (Lock to Duration)」をオンにすると、デュレーションやリズムを変えることなくノートのパッチを変更できます。



「デュレーションをロック (Lock to Duration)」をオンにしたときのキャレット

### 装飾音符 (Grace Notes)

キャレットが元の長さよりも短く表示されます。キャレットの位置に装飾音符を入力できます。



装飾音符を入力中のキャレット

### 声部

複数の声部を入力している場合、キャレットには以下が表示されます。

- 左下にプラス記号
- 音符を入力している声部の番号
- 声部の符尾の方向を示す、符尾が上向きまたは下向きの音符の記号



新規の符尾が下向きの声部に音符を入力中の  
キャラット



新規の符尾が上向きの声部 2 に音符を入力中の  
キャラット

### スラッシュ付き声部

キャラットの横の音符はスラッシュ符頭を示します。

複数のスラッシュ付き声部を入力している場合、キャラットには以下が表示されます。

- 左下にプラス記号
- 音符を入力するスラッシュ付き声部の番号
- 声部の符尾の方向と有無を示す、符尾が上向き、下向き、または符尾のないスラッシュ音符の記号



符尾が上向きのスラッシュ付き  
声部に音符を入力中のキャラッ  
ト



新規の符尾が上向きのスラッ  
シュ付き声部 2 に音符を入力中  
のキャラット



新規の符尾なしのスラッシュ付  
き声部に音符を入力中のキャ  
レット

### 打楽器キット

打楽器キットに音符を入力しているときは、キャラットが通常よりもかなり短く表示されます。現在音符を入力しているキットインストゥルメントの名前がリズムグリッドの上に表示されます。



打楽器キットに音符を入力中のキャラット

#### 関連リンク

[挿入モードでの音符の挿入 \(156 ページ\)](#)

[和音の入力 \(171 ページ\)](#)

[リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(178 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(170 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(163 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(157 ページ\)](#)

## キャラットの有効化

キャラットを有効にすると、たとえばタイのつながりの途中で強弱記号を入力する場合などに、キャラットの位置に音符や記譜記号を入力できます。キャラットを無効にすると、音符を入力できないかわりに、楽譜領域でアイテムの選択や編集を行なえます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、キャラットを有効にします。
  - アイテムを選択して、**[Shift]+[N]** または **[Return]** を押します。
  - 音符の入力を開始する譜表の位置をダブルクリックします。

---

### 手順終了後の項目

**[Shift]+[N]**、**[Return]**、または **[Esc]** を押すとキャラットはいつでも無効にできます。マウス入力を無効にしている場合は、楽譜領域で別のアイテムをクリックするとキャラットが無効になります。

キャラットは記譜モードでのみ有効なため、別のモードに切り替えた場合もキャラットが無効になります。

### 関連リンク

[モードの機能](#) (16 ページ)

[マウス入力の有効化/無効化](#) (155 ページ)

## 手動でのキャラットの移動

キャラットは音符を入力すると自動的に移動しますが、手動で移動することもできます。たとえば、和音を入力しているとき、キャラットは自動的に移動しません。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、キャラットを移動します。
  - 現在のリズムグリッドの値に従ってキャラットを移動するには、**[→]/[←]** を押します。
  - 現在選択中の音符の音価に従ってキャラットを次の位置に進めるには、**[Space]** を押します。
  - 次/前の小節にキャラットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
  - 上/下の譜表にキャラットを移動するには、**[↑]/[↓]** を押します。
  - 組段の一番上/一番下の譜表にキャラットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↑]/[Ctrl]/[command]+[↓]** を押します。

---

### 関連リンク

[和音の入力](#) (171 ページ)

## ピッチの入力設定の変更

現在のレイアウトごとに音符の入力/録音を記譜音とするか、演奏音とするかを変更できます。たとえば、移調するパートレイアウトでは、演奏音で音符を録音できます。

実音表示のレイアウトでは、記譜上のピッチと演奏上のピッチは同じです。

---

### 手順

- 以下のいずれかのピッチの入力設定を選択します。
  - 音符の入力/録音を記譜上のピッチで行なうには、「**記譜 (Write)**」 > 「**ピッチの入力 (Input Pitch)**」 > 「**書き込まれたピッチ (Written Pitch)**」を選択します。



- 音符の入力/録音を演奏上のピッチで行なうには、「**記譜 (Write)**」 > 「**ピッチの入力 (Input Pitch)**」 > 「**演奏されているピッチ (Sounding Pitch)**」を選択します。

#### 結果

記譜/録音したピッチの表示が変更されます。たとえば、ピッチの入力設定が「**演奏されているピッチ (Sounding Pitch)**」で、Fホルンの移調レイアウトでCを入力した場合、記譜される音符はGになります。

#### 関連リンク

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[MIDI 録音を使用した音符の入力 \(180 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(126 ページ\)](#)

## 音符の入力

音符の入力が有効になっていれば、プロジェクトに音符を入力できます。音符を入力するには、コンピューターキーボードまたはマウスを使用するか、MIDI キーボードで音符を演奏します。

#### 補足

ステップ入力中は、ピッチを指定する前に、デュレーション、臨時記号、アーティキュレーションを指定する必要があります。このことは、すべての入力方法に当てはまります。

音符に演奏記号を追加するためには、音符を入力したあとで音符の入力を無効にする必要があります。

#### 前提

- 1人のプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメント、またはスコアのページビューでは非表示のインストゥルメントに音符を入力する場合は、「**ギャラリービュー (Galley View)**」を選択しておきます。
- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。

#### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
  - 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、**[Shift]+[N]** または **[Return]** を押します。

#### 補足

強弱記号などの記譜記号を選択した状態で **[Return]** を押すと、音符の入力は開始せず、選択に対応するポップオーバーが開きます。

- 音符を入力する譜表をダブルクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の値を選択します。
    - 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。たとえば、4分音符の場合は **[6]**、8分音符の場合は **[5]**、2分音符の場合は **[7]** を押します。
    - ウィンドウの左側にある音符パネルで入力する音符の長さを選択します。
  3. 必要に応じて、臨時記号を追加します。
  4. 必要に応じて、アーティキュレーションを追加します。
  5. 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
    - キーボードで対応する文字を押します。

#### ヒント

直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。ただし、別の音域を強制することもできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します。
- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]** (macOS) または **[Ctrl]+[Alt]** (Windows) を押しながら音符を表わすアルファベットを押します。

Mac の場合は、**[command]** ではなく、**[Ctrl]** を押してください。

- 音符を入力する位置の譜表をクリックします。  
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
- MIDI キーボードで音符を演奏します。

#### 6. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

#### 結果

初期設定では音符は選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。付点やアーティキュレーションは、無効にするまでその設定で音符が入力されます。ただし、臨時記号は選択したあとに入力する最初の音符にのみ追加されます。

連符は 8 分音符かそれより短い音符が隣接する場合に、拍子記号や小節内の位置に合わせて音符の間に自動的に作成されます。

#### ヒント

- プロジェクトのデフォルトの連符のグループ化は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで変更できます。
- 音符を入力せずにキャレットを別の位置に移動することもできます。

#### 手順終了後の項目

入力したあとの音符は、別の位置や別の譜表に移動できます。

#### 関連リンク

[ピッチの入力設定の変更](#) (152 ページ)

[キャレット](#) (149 ページ)

[手動でのキャレットの移動](#) (152 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (175 ページ)

[音符の位置の移動](#) (730 ページ)

[フローごとに連符のグループ化のデフォルトを変更する](#) (545 ページ)

[ビュータイプ](#) (42 ページ)

[配置ツール](#) (285 ページ)

[音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする](#) (281 ページ)

## ステップ入力中の音域の選択

Dorico Pro ではステップ入力中にピッチの音域が自動的に選択されますが、これを上書きして音域を手動で選択できます。

ステップ入力中は、直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。たとえば、F を入力したあと **[A]** を押すと、F の 6 度下ではなく 3 度上に A が入力されます。

この自動音域選択は、以下のいずれかの方法で上書きできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します。

- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]** (macOS) または **[Ctrl]+[Alt]** (Windows) を押しながら音符を表わすアルファベットを押します。

#### 補足

macOS の場合は、**[command]** ではなく **[Ctrl]** を押してください。

### 和音を入力中の音域の選択

和音の入力中は、キャレットの位置の一番高い音符の上に音符が自動的に入力されます。たとえば、**[A]**、**[E]**、**[A]** の順に押すと、キャレットの位置に A-E-A の和音が入力されます。

かわりに、**[Ctrl]** (macOS) または **[Ctrl]+[Alt]** (Windows) を押しながらノート名を表わすアルファベットを押すことで、最も低い音符よりも下にあるキャレットの位置に音符を入力できます。

たとえば、**[Ctrl]+[F]** (macOS) または **[Ctrl]+[Alt]+[F]** (Windows) を押すと、キャレットの位置の和音の最も低い音符の下に F が入力されます。

#### 補足

macOS の場合は、**[command]** ではなく **[Ctrl]** を押してください。

#### 関連リンク

[音符の入力](#) (153 ページ)

[和音の入力](#) (171 ページ)

[個々の音符のピッチの変更](#) (177 ページ)

## マウス入力の有効化/無効化

コンピューターキーボードまたは MIDI デバイスだけを使用して音符を入力したい場合などに、マウス入力を有効化/無効化できます。マウス入力を無効にすると、別のアイテムをクリックして音符の入力を終了できます。

#### 手順

- 音符ツールボックスで、「**選択 (Select)**」をオン/オフにします。

#### 結果

「**選択 (Select)**」をオフにすると、現在のプロジェクトのマウス入力が有効になります。「**選択 (Select)**」をオンにすると、現在のプロジェクトのマウス入力が無効になります。

#### ヒント

マウス入力を有効にするか無効にするかのデフォルト設定は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページにある「**マウスを使用した音符入力を有効にする (Enable note input using the mouse)**」のオン/オフを切り替えることで変更できます。

#### 例



「**選択 (Select)**」をオフにした状態



「**選択 (Select)**」をオンにした状態

#### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ](#) (50 ページ)

## 付点音符の入力

「付点音符 (Dotted Notes)」ツールを使用すると、付点音符の入力や既存の音符への付点の追加を行なえます。最大で4つの付点が付いた音符を入力できます。

### 手順

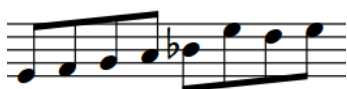
1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 付点を追加する既存の音符を選択します。
2. 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、8分音符の場合は [5]、4分音符の場合は [6]、2分音符の場合は [7] を押します。
3. [.] (ピリオド) を押して「付点音符 (Dotted Notes)」をオンにします。
4. 必要に応じて、[Alt]+[.] (ピリオド) を押して付点の数を変更します。  
音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」のマークは、現在の付点の数に応じて変化します。最大で4つの付点が付いた音符を入力できます。
5. 必要に応じて、[O] を押して「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにします。  
「デュレーションを強制 (Force Duration)」がオンになっていない場合、小節内の位置および現在の拍によっては、入力した音符が付点音符ではなくタイでつながれた音符として表示されることがあります。
6. 使用する付点音符を入力します。  
「付点音符 (Dotted Notes)」ツールは、別の音符のデュレーションを選択する、またはツールをオフにするまで、有効な状態のままとなります。
7. [.] をもう一度押して「付点音符 (Dotted Notes)」をオフにします。
8. [Esc] または [Return] を押して音符の入力を無効にします。

### 結果

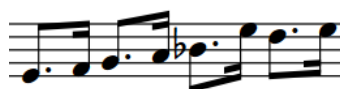
ステップ入力中は、「付点音符 (Dotted Notes)」をオフにするか音符のデュレーションを変更するまで音符が付点音符として入力されます。

複数の既存の音符に付点を追加したことで音符同士が重なる場合、選択した最後の音符が削除されるのを防ぐため、選択した音符のデュレーションが Dorico Pro によって調整されます。

### 例



8分音符を含むフレーズの例



全体を選択して付点を追加後の例

### 関連リンク

[音符と休符のグループ化 \(559 ページ\)](#)

## 挿入モードでの音符の挿入

挿入モードでは、音符を上書きすることなく既存の音符の前に音符を入力できます。この場合、1つ前の位置に新しい音符が入力されると同時に既存の音符が後ろに移動します。

### 補足

挿入モードでは和音を入力できません。

#### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、8分音符の場合は [5]、4分音符の場合は [6]、2分音符の場合は [7] を押します。
3. [I] を押して挿入モードを有効にします。  
挿入モードでは、キャラットの上にV字、下に逆向きのV字が表示されます。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
  - キーボードで対応する文字を押します。
  - 音符を入力する位置の譜表をクリックします。  
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドウ符頭が表示されます。
  - MIDI キーボードで音符を演奏します。
5. 必要に応じて、[I] をもう一度押して挿入モードを無効にし、通常の音符入力に戻ります。
6. [Esc] または [Return] を押して音符の入力を無効にします。

#### 結果

キャラットのあとの位置にある既存の音符を上書きすることなく、既存の音符の前に音符が入力されます。キャラットのあとの既存の音符は後ろに移動します。

#### 関連リンク

[キャラット](#) (149 ページ)

[和音の入力](#) (171 ページ)

## 打楽器キットの音符の入力

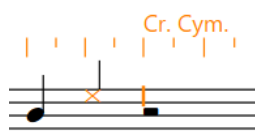
あらゆる表示タイプを使用する打楽器キットのすべての打楽器で音符を入力できます。打楽器キットに音符を入力するときのキャラットは、有音程楽器の譜表に音符を入力するときのキャラットよりも短く表示されます。

打楽器キットのキャラットは、譜表の高さ全体を占めるのではなく、譜表上の特定の位置に配置されません。

キャラットで現在選択している打楽器またはスラッシュ付き声部の名前と適用される演奏技法は、リズムグリッドディスプレイのすぐ上に表示されます。

#### 補足

5線譜表示を使用している場合は、打楽器キットのスラッシュ付き声部にのみ音符を入力できます。



5線譜キット表示でのインストゥルメントの音符の追加

---

手順

1. キットのインストゥルメントに追加の演奏技法を定義したい場合は、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで行ないます。
2. 記譜モードで、音符を入力する打楽器キットの、音符の入力を始める位置にあるアイテムを選択します。
3. **[Shift]+[N]** または **[Return]** を押して音符の入力を有効にします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを上下に動かし、さまざまなインストゥルメントに音符を入力します。
  - 上に動かすには **[↑]** を押します。
  - 下に動かすには **[↓]** を押します。
5. 音符を入力する前に、キャレットで現在選択されているインストゥルメントに適した演奏技法を選択します。
  - 演奏技法を上方向に順に切り替えるには、**[Shift]+[Alt]+[↑]** を押します。
  - 演奏技法を下方向に順に切り替えるには、**[Shift]+[Alt]+[↓]** を押します。
  - 使用する演奏技法のピッチを MIDI キーボードで演奏します。

補足

演奏技法の MIDI ピッチは、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページで定義できます。

6. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力します。
  - 5 線譜表示: 「**環境設定 (Preferences)**」で設定した音部記号の譜表上の位置に従って、コンピューターキーボードの文字を押すか、MIDI キーボードで音符を演奏します。たとえば、「**ト音記号 (Treble G clef)**」が設定されているときに 5 線譜の第 3 線に割り当てられたインストゥルメントの音符を入力するには **[B]** を押します。
  - グリッドおよび 1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプ: 現在、線上にキャレットが配置されているインストゥルメントの音符を入力するには、コンピューターキーボードで **[A]** から **[G]** のいずれかの音符名の文字を押すか、MIDI キーボードでいずれかの音符を演奏します。

補足

「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページの「**音符の入力 (Note Input)**」セクションで、それぞれのキット表示タイプに「**パーカッションマップを使用 (Use percussion map)**」と「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」のどちらが設定されているかに応じて、MIDI キーボードで演奏される音符の解釈が変わります。

- すべてのキット表示タイプ: リズムグリッドの上に表示されるインストゥルメントと演奏技法の音符を入力するには **[V]** を押します。
  - すべてのキット表示タイプ: 音符を入力する譜表上の、音符を入力する位置をクリックします。
7. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

---

関連リンク

[キャレット \(149 ページ\)](#)

[打楽器キット \(1029 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符入力の設定 \(159 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1036 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する \(1031 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## 打楽器キットの音符入力の設定

無音程打楽器の楽譜を入力するときの動作は、有音程楽器のときとは異なります。無音程打楽器の入力には一般的なあらゆる方法を使用できますが、MIDI キーボードまたはコンピューターキーボードを使用するのが最も効率的です。

「環境設定 (Preferences)」の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページの「音符の入力 (Note Input)」セクションには、打楽器の入力に関するオプションがあります。

一方は5線譜への入力に関する一連のオプション、もう一方はグリッドと個々のインストゥルメントへの入力に関する一連のオプションです。

メインの選択はMIDI キーボードとコンピューターキーボードによる入力に影響します。

### パーカッションマップを使用 (Use percussion map)

パーカッションマップは、どのMIDI ノートがサウンドライブラリーの特定のパッチのどのサウンドを生成するかを定義します。たとえば、General MIDI パーカッションでは、C2 (ノート 36) がバスドラムを生成し、D2 (ノート 38) がスネアドラムを生成します。

特定のマッピングに詳しい場合は、入力にマッピングを直接使用すると便利かもしれません。

### 譜表上の位置を使用 (Use staff position)

このオプションは、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログで定義した譜表上の位置を使用します。たとえば、ドラムセットでは通常、バスドラムは譜表の第1間に配置され、スネアドラムは第3間に配置されます。

ト音記号を使用した場合 (それぞれ F4 と C5) またはヘ音記号を使用した場合 (それぞれ A2 と E3) にどうなるかで譜表上の位置を考えることができます。

5線譜の譜表上の位置を解釈するのに使用する音部記号を選択できます。

- ト音記号 (Treble G clef)
- ヘ音記号 (Bass F clef)

「譜表上の位置を使用 (Use staff position)」を選択した場合、MIDI キーボードの1オクターブを指定して演奏技法の入力に使用できます。

初期設定では、「演奏技法を入力する MIDI キー (Input techniques from MIDI key)」オプションがMIDI ノート 48 に設定されています。これはミドル C (C4 = MIDI ノート 60) の1オクターブ下のCにあたるC3です。「MIDI Learn」ボタンを押したあとMIDI キーボードで音符を演奏すると、開始ピッチを変更できます。開始ピッチがC3の場合、それより上の音符は以下のように機能します。

- C3 (48): 前の演奏技法
- C#3 (49): 次の演奏技法
- D3 (50): マッピングされた最初の演奏技法
- Eb3 (51): マッピングされた2番めの演奏技法
- E3 (52): マッピングされた3番めの演奏技法

以下まで、同じように続きます。

- B3 (59): マッピングされた10番めの演奏技法

一般に、打楽器の入力では「譜表上の位置を使用 (Use staff position)」に設定することをおすすめします。

「パーカッションマップを使用 (Use percussion map)」は通常、ドラムセットに音符を入力する場合で、かつGeneral MIDI パーカッションマップを覚えている場合にのみ役立ちます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(157 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する \(1031 ページ\)](#)

## 打楽器キットのステップ入力中のデフォルトの音符選択

打楽器キットのステップ入力中は、5 線譜の表示タイプを使用するキットの譜表上の位置に対応するコンピューターキーボードの文字を押すことができます。たとえば、[F] を押して F の間または線に音符を入力できます。

「環境設定 (Preferences)」の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページの「音符の入力 (Note Input)」セクションで、打楽器キットへの音符の入力に関するオプションを設定できます。たとえば、譜表上の位置を使用して音符を決定したい場合は、「キットまたはグリッドへの入力 (Input onto kit or grid)」で「譜表上の位置を使用 (Use staff position)」を選択します。

譜表上の位置を「ト音記号 (Treble G clef)」に関連付けるように設定した場合、F は譜表の第 1 間または第 5 線を表わします。つまり、標準のドラムセットの場合は、キックドラムが第 1 間に、ライドシンバルが第 5 線になります。

有音程楽器で音符を入力すると、Dorico Pro はキャレットの現在の位置にどちらが近いかに基づいて、上または下の譜表上の位置を選択します。

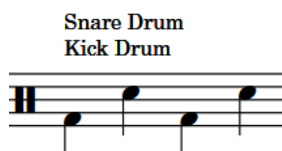
ただし、打楽器キットで音符を入力すると、Dorico Pro はキャレットの現在の位置に最も近い譜表上の位置ではなく、最後に入力した音符と符尾の方向が同じ音符の譜表上の位置を選択します。これにより、打楽器キットで使用される一般的な音符のパターンを簡単に入力できます。

たとえば、標準のドラムセットでキックドラムとスネアドラムの音符を入力するのは一般的なパターンです。キックドラムは第 1 間に、スネアドラムは第 3 間に入力されます。第 3 間は、第 1 間から 5 つめ、第 5 線から 4 つめの譜表上の位置です。

キックドラムは [F] を、スネアドラムは [C] を押して入力できます。

Dorico Pro でキットの音符を入力する際の符尾の方向のデフォルト設定は、[F] と [C] 交互に押すと、スネアドラムの入力後に第 5 線の方が近くても、キックドラムとスネアドラムの位置に音符が入力されるようになっています。

これは、キックドラムがスネアドラムと同じ符尾の向きと声部を使用するためです。



### 補足

Dorico Pro では、譜表上の 1 つの声部にのみ音符が含まれている場合、声部に関係なく、譜表上の音符の位置に応じて符尾の方向が自動的に変更されます。

### 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(953 ページ\)](#)

## 音符/休符のデュレーションの選択

音符パネルから、または割り当て済みのキーボードショートカットの 1 つを使って、音符/休符のさまざまなデュレーションを選択できます。これは音符の入力中に行なうことも、既存の音符/休符に対して行なうこともできます。

### 手順

1. 音符パネルに表示されていないデュレーションを選択するには、音符リストの上下にある「すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)」の展開矢印マークをクリックします。



- 以下のいずれかの操作を行なって、音符/休符のデュレーションを選択します。
    - 入力するデュレーションのキーボードショートカットを押します。たとえば、4分音符の場合は [6]、8分音符の場合は [5]、2分音符の場合は [7] を押します。
    - 音符パネルでデュレーションをクリックします。
- 

関連リンク

[音符パネル \(138 ページ\)](#)

[Dorico Pro のキーボードショートカット \(11 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

## 音符のデュレーションの変更

音符は入力後にデュレーションの長さを変更できます。

---

手順

- デュレーションを変更する音符を選択します。
  - 以下のいずれかの操作を行なって、デュレーションを変更します。
    - 入力するデュレーションのキーボードショートカットを押します。たとえば、16分音符の場合は [4] を押します。
    - 音符パネルで、入力するデュレーションをクリックします。
    - 音符を現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、[Shift]+[Alt]+[→] を押します。
    - 音符を現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、[Shift]+[Alt]+[←] を押します。
    - 音符の長さを2倍にするには、[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→] を押します。
    - 音符の長さを半分にするには、[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←] を押します。
    - 音符を現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「グリッド値でデュレーションを延長 (Lengthen Duration by Grid Value)」を選択します。
    - 音符を現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「グリッド値でデュレーションを短縮 (Shorten Duration by Grid Value)」を選択します。
    - 音符の長さを2倍にするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「デュレーションを延長 (Lengthen Duration)」を選択します。
    - 音符の長さを半分にするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「デュレーションを短縮 (Shorten Duration)」を選択します。
- 

結果

選択した音符のデュレーションが変更されます。Dorico Pro は、音符の新しいデュレーション、現在の拍子記号、小節内の音符の位置に応じて自動的に音符を適切に記譜し、連符で連結します。

ヒント

任意の長さごとに音符のデュレーションを延長/短縮するキーボードショートカットを割り当てることができます。これらのキーボードショートカットは「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「デュレーションを短縮 (Shorten duration by)」 「デュレーションを延長 (Lengthen duration by)」と検索することで見つけられます。

---

## 音符/休符のデュレーションの強制

Dorico Pro は、現在の拍子記号と小節内の音符/休符の位置に応じて、自動的に音符/休符を適切に記譜し、連桁で連結します。音符/休符のデュレーションを強制して記譜記号を指定できます。

たとえば、6/8 の小節の最初に 2 分音符を入力すると、符点 4 分音符と 8 分音符がタイでつながれて記譜されます。これは、表記規則によれば、6/8 の小節が 8 分音符 3 つからなる 2 つのグループに分割されるためです。これを 2 分音符 (8 分音符 4 つ) に反映するために、Dorico Pro は音符を自動的に分割して正しいグループを表示しますが、音符のデュレーションを強制して、かわりに 2 分音符を表示できます。

### ヒント

たとえば、6/8 で 4 分音符のグループを 3 つ表示してヘミオラを表わすなど、譜表上のすべての音符のデュレーションを強制して別の拍子に見せたい場合は、それらの譜表だけに拍子記号を入力することで、その拍子に従って音符をグループ化することもできます。そのあと、必要に応じて拍子記号を非表示にできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - デュレーションを強制する音符を選択します。
2. デュレーションを強制された休符を入力するには、[.] (コンマ) を押して休符の入力をオンにします。
3. [O] を押して「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにします。
4. 任意のデュレーションを選択します。
5. 音符/休符の入力中に、任意の音符または休符を入力します。

### 結果

音符/休符の入力中に入力した音符は、小節内の位置に関係なく、その音価全体を持つ音符として記譜されます。あとから音符を移動しても、同じ記譜記号が維持されます。休符は明示的な休符として入力されます。小節線をまたぐ音符はタイでつながれた音符として記譜されます。

既存の音符/休符のデュレーションを強制すると、現在のデュレーションもしくは変更したあとのデュレーションを保持します。

### ヒント

- デュレーションを強制して休符を入力すると、プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループにある「強制位置およびデュレーション (Force position and duration)」が自動的にオンになります。このプロパティを使用して休符のデュレーションと位置を強制することもできます。
- さまざまな状況で音符をどのようにグループ化するかは、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「音符のグループ化 (Note Grouping)」ページでプロジェクト全体の設定を行なえます。

### 例



6/8 のデフォルトの記譜



符尾が下向きの声部の音符を、デュレーションを強制して記譜したもの

関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(870 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[休符の入力 \(168 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(160 ページ\)](#)

[拍子記号に従う連桁 \(545 ページ\)](#)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(560 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(871 ページ\)](#)

## 複数の声部への音符の入力

初期設定では、キャラットの横の符尾が上向きの 4 分音符記号で示されているように、符尾が上向きの最初の声部に音符が入力されます。ステップ入力中は他の声部に直接音符を入力できるほか、必要に応じて何度でも声部を切り替えることができます。

また、すでに音符がある譜表上に新しい声部を作成し、その譜表上の別の任意の場所でこれらの声部に音符を入力することもできます。

手順

1. 記譜モードで、複数の声部を入力する譜表上の、複数の声部を開始する位置で音符の入力を開始します。
2. **[Shift]+[V]** を押して新しい声部を作成します。  
新しい声部が追加されると、キャラットの横の 4 分音符記号の横にプラス記号が表示されます。この 4 分音符記号は符尾の方向を表わし、4 分音符の横の数字は声部の番号を表わします (存在する場合)。



符尾が下向きの 1 つめの声部を追加したときのキャラット



符尾が上向きの 2 つめの声部を追加したときのキャラット

3. 必要に応じて、手順 2 を何度でも繰り返します。  
たとえば、音符が含まれていない譜表上に新しい声部を作成すると、符尾が下向きの 1 つめの声部に音符を入力できますが、譜表上の符尾が上向きの 2 つめの声部に音符を入力したければ、すぐに別の新しい声部を作成することもできます。
4. 任意の音符を入力します。
5. 必要に応じて、**[V]** を押して譜表上のすべてのアクティブな声部を順に切り替えます。
6. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

キャラットの記号で示されているように、音符が新しい声部に入力されます。別の声部にすでに音符が含まれている譜表上で新しい声部に音符を入力した場合、同じ位置にすでに存在する音符の符尾の方向は、必要に応じて自動的に変更されます。

キャラットの横の 4 分音符記号は、現在選択されている声部を示すために変化します。入力した音符は、この記号で示されている声部に入力されます。

声部は何度でも切り替えることができます。

補足

1 つの譜表に 3 つ以上の声部がある場合は、設定された順序でのみすべての声部を順に切り替えることができます。たとえば、符尾が上向きの 2 つの声部と符尾が下向きの 2 つの声部がある場合の順序は、

符尾が上向きの声部 1、符尾が下向きの声部 1、符尾が下向きの声部 2、符尾が上向きの声部 2 となります。

例



符尾が上向きの声部 1 に音符を入力中のキャラット



符尾が下向きの声部 1 に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が上向きの声部 2 に音符を入力中のキャラット

関連リンク

[キャラット](#) (149 ページ)

[音符の入力](#) (153 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (175 ページ)

[声部](#) (1048 ページ)

## スラッシュ付き声部への音符の入力

ピッチを指定せずに正確なリズムを指示したい場合など、複数のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。初期設定では、最初のスラッシュ付き声部の符尾は上向きですが、符尾ありまたは符尾なしのスラッシュ付き声部を追加して何度でも切り替えることができます。

すでに音符がある譜表上の新規のスラッシュ付き声部に音符を入力することもできます。譜表のいずれかの場所にスラッシュ付き声部を作成すると、同じ譜表上の別の任意の場所に、そのスラッシュ付き声部の音符を入力できます。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. スラッシュ付き声部を入力する譜表上の、スラッシュ付き声部を開始する位置にキャラットを移動します。
3. **[Shift]+[Alt]+[V]** を押して新しいスラッシュ付き声部を作成します。

新しい声部が追加されると、キャラットの横の音符記号がスラッシュ音符に変わり、その横にプラス記号が表示されます。このスラッシュ音符記号は符尾の方向を表わし、スラッシュ音符記号の横の数字は声部の番号を表わします (存在する場合)。



符尾が下向きの 1 つめのスラッシュ付き声部を追加したときのキャラット



符尾が上向きの 2 つめのスラッシュ付き声部を追加したときのキャラット

4. 必要に応じて、手順 3 を何度でも繰り返します。  
たとえば、スラッシュ付き声部に音符が含まれていない譜表上に新しいスラッシュ付き声部を作成すると、符尾が上向きの 1 つめのスラッシュ付き声部に音符を入力できますが、符尾が下向きのスラッシュ付き声部に音符を入力したければ、すぐに 2 つめの新しいスラッシュ付き声部を作成することもできます。

5. 任意の音符を入力します。  
スラッシュ付き声部の音符は、ピッチに関係なく譜表上の同じ位置に表示されます。初期設定では、これは譜表の第3線ですが、スラッシュ付き声部が複数ある場合は変化します。
6. 必要に応じて、[V] を押して譜表上のすべてのアクティブな声部を順に切り替えます。
7. [Esc] または [Return] を押して音符の入力を無効にします。

#### 結果

キャレットの記号で示されているように、音符が新しいスラッシュ付き声部に入力されます。キャレットの横のスラッシュ音符記号は、現在選択されている、音符が入力される声部を示すために変化します。

声部は何度でも切り替えることができます。

#### 補足

- 別の声部/スラッシュ付き声部にすでに音符が含まれている譜表上で新しいスラッシュ付き声部に音符を入力した場合、同じ位置にすでに存在する音符の符尾の方向とスラッシュ付き声部の譜表上の位置は、必要に応じて自動的に変更されます。
- 1つの譜表にいずれかのタイプの声部が3つ以上ある場合は、設定された順序ですべての声部を順に切り替える必要があります。たとえば、符尾が上向き of 2つの声部と符尾が下向き of 2つの声部とスラッシュ付き声部がある場合の順序は、符尾が上向き of 声部 1、符尾が下向き of 声部 1、符尾が下向き of 声部 2、符尾が上向き of 声部 2、スラッシュ付き声部となります。

#### 例



符尾が上向きのスラッシュ付き声部 1 に音符を入力中のキャレット



符尾が下向きのスラッシュ付き声部 1 に音符を入力中のキャレット



新規の符尾が上向きのスラッシュ付き声部 2 に音符を入力中のキャレット

#### 関連リンク

[スラッシュ符頭の声部 \(1052 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(859 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(266 ページ\)](#)

## 臨時記号の入力

臨時記号付きの音符を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

#### 補足

調号の一部である臨時記号は自動的に入力されます。たとえば、G メジャーで [F] を押すと自動的に F# が入力されます。臨時記号を指定する必要があるのは、たとえば F# を入力する場合などに限られます。

これは MIDI キーボードを使用しているときにも当てはまりますが、自動的に選択された音符が期待する音符でない場合は書き換えることもできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 臨時記号を追加する既存の音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、入力する臨時記号を選択します。
  - フラットを入力するには [-] を押します。
  - シャープを入力するには [=] を押します。
  - ナチュラルを入力するには [0] を押します。
  - 音符パネルで、入力する臨時記号をクリックします。

#### ヒント

ダブルシャープ、ダブルフラット、微分音の臨時記号などの珍しい臨時記号は、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションにあります。

3. ステップ入力中は、選択した臨時記号を使用して音符を入力します。

#### 補足

- 臨時記号の有効範囲システムによっては、同じ音域の同じ音符の後続の臨時記号が同じ小節に表示されないことがあります。
- MIDI デバイスを使用して音符を入力すると、必要に応じて自動的に臨時記号が表示されます。調号とコンテキストに基づいてシャープ、フラット、またはナチュラルが選択されます。臨時記号はあとから書き換えることができます。

---

#### 結果

選択した既存の音符に臨時記号が追加されます。

ステップ入力中は、次に入力する音符にのみ選択した臨時記号が入力されます。後続の音符には、その都度臨時記号を選択しなおす必要があります。

#### 関連リンク

[臨時記号 \(494 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

## 臨時記号の書き換え

たとえばフレーズ内のステップ移動を明確に表示したり、和音内のオルタードユニゾン回避したりするために、音符が異名同音で表示されるよう音符の異名同音表記を変更できます。これはすべてのレイアウト、またはパートレイアウトにのみ行なえます。

Dorico Pro は、調号とコンテキストに基づいてピッチの表記を自動的に決定するアルゴリズムを使用しています。

Dorico Pro では異名同音表記に臨時記号グリフを 2 つまで表示できるため、各ピッチには常に少なくとも 3 つのオプションがあります。つまり、元のピッチを 2 つ下または 2 つ上の音符のノート名で表記できれば、最大 2 つの臨時記号グリフを使用して、同じ音符を 4 つの方法で表記できます。たとえば、F $\sharp$  は 2 つの臨時記号グリフを使用しますが、トリプルフラットの臨時記号グリフは 1 つのため、B $\flat\flat$  は G $\sharp$  の異名同音表記として使用できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、臨時記号の表記を書き換えるレイアウトを開きます。  
フルスコアレイアウトで臨時記号を書き換えると、パートレイアウトの表記にも影響します。パートレイアウトで臨時記号を書き換えると、そのパートレイアウトのみの表記に影響します。

- 書き換える音符を選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符を上または下に書き換えます。
  - 上に書き換えるには **[Alt]+[=]** を押します。
  - 下に書き換えるには **[Alt]+[-]** を押します。

#### 結果

選択した音符の異名同音表記が変更されます。

#### 例



G シャープ



G シャープを下に書き換えた F のトリプルシャープ



G シャープを上書き換えた A フラット



G シャープを 2 回上に書き換えた B のトリプルフラット

#### 関連リンク

[臨時記号 \(494 ページ\)](#)

## 臨時記号の変更

音符に付けた臨時記号は、あとから変更することもできます。

#### 手順

- 記譜モードで、臨時記号を変更する音符を選択します。
- 以下のいずれかの操作を行なって、臨時記号を変更します。
  - 臨時記号をナチュラルに変更する場合、**[0]** を押します。
  - 臨時記号をフラットに変更する場合、**[-]** を押します。
  - 臨時記号をシャープに変更する場合、**[=]** を押します。
  - 音符パネルで、使用する臨時記号をクリックします。

#### 結果

選択した音符にすでに別の臨時記号が付いている場合でも、すべての音符に選択した臨時記号が適用されます。

#### 関連リンク

[個々の音符のピッチの変更 \(177 ページ\)](#)

## MIDI 入力中の臨時記号の選択

Dorico Pro は MIDI データを解釈して臨時記号を作成し、プリセットルールに従って音符の表記を決定します。

Dorico Pro では、必要に応じて臨時記号が自動的に表示されます。調号とコンテキストに基づいてシャープまたはフラットが選択されます。

このアルゴリズムには、連続する音符や和音の間隔と調号が反映されます。そのため、Dorico Pro はシャープの付いた調ではシャープの臨時記号を、フラットの付いた調ではフラットの臨時記号を優先的に選択します。臨時記号の表記を変更した場合、スコア上でその音符を再び使用すると、Dorico Pro は常にその表記設定に従います。

調号の範囲外の臨時記号が付いた音符を入力した場合、数字が増えるとシャープが使用され、数字が減るとフラットが使用されます。また、表記も垂直方向に計算されます。つまり、ディミニッシュ 4th ではなくメジャー 3rd のように、できるだけシンプルな間隔が生成されます。

初期設定では、楽譜がどのように展開するかに応じて、臨時記号の表記がさかのぼって変更されます。たとえば、C メジャーで C-E-G# のピッチシーケンスを入力したあと Gb を入力すると、G# は Ab と表記されます。

この設定は無効にできます。

関連リンク

[臨時記号の書き換え \(166 ページ\)](#)

## 臨時記号の自動書き換えの無効化

臨時記号がさかのぼって変更されないように、臨時記号の自動書き換えをオフにできます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押して「**音符入力オプション (Note Input Options)**」を開きます。
  2. ページリストで「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」をクリックします。
  3. 「**音符の表記をさかのぼって自動調整する (Allow spelling of notes to be adjusted retrospectively)**」をオフにします。
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 休符の入力

Dorico Pro は、入力した音符の間隔に、必要に応じて自動的に休符を表示します。ただし、休符を手動で入力することもできます。

---

手順

1. **[,]** (コンマ) を押して休符の入力を開始します。
  2. 任意のデュレーションを選択します。
  3. 必要に応じて、**[O]** を押して「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにします。
  4. 以下のいずれかの操作を行なって、休符を入力します。
    - **[Y]** または **[A]** から **[G]** のいずれかの文字を押します。
    - MIDI キーボードで音符を演奏します。
  5. 必要に応じて、**[,]** (コンマ) をもう一度押して休符の入力を終了します。
- 

結果

選択したデュレーションの休符が入力されます。「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにしていない場合、Dorico Pro は音符に対する位置に応じて、また現在の拍子に従って隣接する休符を自動的に結合します。

関連リンク

[休符 \(869 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(870 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(160 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(162 ページ\)](#)



## ステップ入力中の小節休符の入力

複声部に楽譜を入力した場合、第2声部に間隔があれば、通常は休符が自動的に作成されます。ただし、厳密な対位法による楽譜で第2声部を明示的な小節休符で始めたい場合は、ステップ入力中に小節休符を入力できます。

単一声部の楽譜に小節休符を入力する必要はありません。キャレットを進めると新しい小節に自動的に小節休符が表示されます。ただし、空白のすべての小節の小節休符をレイアウトごとに個別に表示/非表示にすることもできます。

### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 声部の向き表示に正しい声部が表示されるまで **[V]** を押して、適切な第2声部を選択します。または、新しい声部に小節休符を入力する場合は、声部の向き表示に正しい声部が表示されるまで **[Shift]+[V]** を押します。
3. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
4. ポップオーバーに「rest」と入力して小節休符を追加します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
6. **[Ctrl]/[command]+[→]** を押して、小節休符の次の小節の開始位置にキャレットを進めます。

### 結果

キャレットの位置に小節休符が入力されます。選択した声部の音符を含む小節内にキャレットがある場合、これらの音符は小節休符で置き換えられます。

### 補足

また、ステップ入力中に小節と小節線パネルの「**小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)**」セクションで「**小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)**」をクリックして小節休符を入力することもできます。

### 関連リンク

[小節 \(510 ページ\)](#)

[休符 \(869 ページ\)](#)

[小節と小節線のポップオーバー \(204 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(163 ページ\)](#)

[キャレット \(149 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(874 ページ\)](#)

## タイの入力

Dorico Pro は、各拍子の音符のデュレーションに応じて自動的にタイを作成します。ただし、タイを手動で入力して同じピッチの2つの音符を連結することもできます。これはステップ入力中に行なうことも、既存の2つの音符をタイで連結することもできます。

たとえば、小節線をまたぐ2つの4分音符の間にタイを入力したい場合、最初の4分音符を入力したい位置に2分音符を入力します。すると、Dorico Pro は自動的に2分音符を2つの4分音符に分割して小節線の両側に配置し、それらをタイで連結します。

### 補足

これらの手順は、隣接していない音符の間や異なる声部の音符の間のタイの入力には適用されません。たとえば、異なる譜表上の同じピッチの2つの音符の間や装飾音符と通常の音符の間などです。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
  - タイを開始する位置にある音符を選択します。
2. [T] を押してタイを入力します。
  3. 必要に応じて、ステップ入力中に、タイの終了位置にあたる音符を入力します。

#### 補足

2 番めの音符は最初の音符と同じピッチでなければなりません。2 番めの音符が最初の音符と異なるピッチの場合、タイは入力されません。

#### 結果

ステップ入力中は、入力した 2 つの音符がタイで連結されます。

既存の音符の間にタイを入力した場合は、選択した音符が同じ譜表上の同じピッチの次の音符とタイで連結されます。

#### 補足

現在の拍子記号および「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「音符のグループ化 (Note Grouping)」 ページの設定によっては、2 つの音符の間にタイを入力すると、タイでつながれた 2 つの 4 分音符ではなく 2 分音符が入力されるなど、デュレーションの異なる単一の音符が作成されることがあります。デュレーションを強制することで、音符のグループ化設定を無効にし、記譜されたリズムを固定できます。そうすれば、Dorico Pro は音符が小節内に収まる限り、入力した音符を指定したデュレーションで記譜します。

#### 関連リンク

[タイ \(976 ページ\)](#)

[タイとスラー \(978 ページ\)](#)

[隣接しない音符の間へのタイの入力 \(981 ページ\)](#)

## 装飾音符の入力

装飾音符は通常の音符と同じ方法で入力でき、音価、臨時記号、アーティキュレーションを設定できます。装飾音符は音符の入力中のみ入力できます。

#### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 装飾音符を入力する位置にキャレットを移動します。
3. [/] を押して装飾音符の入力を開始します。
4. 入力するデュレーションの番号を押します。たとえば、8 分音符の装飾音符を入力するには [5] を押します。
5. 必要に応じて、[Alt]+[/] を押してスラッシュ付き装飾音符とスラッシュなしの装飾音符の入力を切り替えます。



スラッシュなしの装飾音符を入力しているときの「装飾音符 (Grace Notes)」 ツールボックスボタン

6. 使用する装飾音符を入力します。
7. [/] をもう一度押すと、装飾音符の入力が終了して通常の音符入力に戻ります。

#### 結果

入力したピッチがキャレットの位置に装飾音符として入力されます。

通常の音符を入力したあとに装飾音符を入力すると、装飾音符のデュレーションは最後に入力した通常の音符と同じになります。デュレーションは通常の音符と同じ方法で変更できます。

同じ位置に入力できる装飾音符の数に制限はありません。

#### ヒント

入力したあとに装飾音符のタイプを変更することもできます。

関連リンク

[装飾音符 \(664 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(165 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)

[装飾音符のタイプを個別に変更する \(667 ページ\)](#)

## 和音の入力

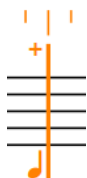
音符の入力と「**和音 (Chords)**」がどちらも有効になっていれば、ステップ入力中に和音を入力できます。音符を入力するには、コンピューターキーボードまたはマウスを使用するか、MIDI キーボードで音符を演奏します。

#### 補足

挿入モードでは和音を入力できません。

#### 手順

1. 和音を入力する譜表を選択し、**[Shift]+[N]** または **[Return]** を押して音符の入力を開始します。
2. 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。  
たとえば、8分音符の場合は **[5]**、4分音符の場合は **[6]**、2分音符の場合は **[7]** を押します。
3. **[Q]** を押して和音の入力を開始します。  
和音の入力中はキャレットの上にプラス記号が表示されます。これにより、キャレットの位置に複数の音符を入力できます。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
  - キーボードで対応する文字を押します。

#### ヒント

「**和音 (Chords)**」が有効になっている場合、キャレットの位置の一番高い音符の上に音符が自動的に入力されます。

かわりに、**[Ctrl]** (macOS) または **[Ctrl]+[Alt]** (Windows) を押しながらノート名を表わすアルファベットを押すことで、最も低い音符よりも下にあるキャレットの位置に音符を入力できます。

- 音符を入力する位置の譜表をクリックします。  
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
  - MIDI キーボードで音符を演奏します。
5. 必要に応じて、キャレットを進めて別の位置で和音を入力します。  
和音の入力中は、キャレットを手動で進めるまで、音符は同じ位置の前に入力した音符の上に力されます。

6. [Q] を再度押して和音の入力を終了します。

#### 結果

キャレットの位置に複数の音符が入力されます。

マウスのクリックでピッチを入力する場合は、同じ線の上を再びクリックすることで、和音に同じピッチを2回入力できます。

キーボードを使ってピッチを入力する場合、繰り返された音符は自動的に1オクターブ上に入力されます。音符の音域は、音符の入力中に音域の選択を強制するか、入力後に音符を移調することで変更できます。

#### 補足

- 和音の入力を終了してすぐ、前のように続けて音符を入力できます。音符は1つの位置に1つずつ入力され、キャレットは自動的に次の位置に進みます。
- 異なる臨時記号の付いた同じ音域の2つのピッチが和音に含まれていることを、オルタードユニゾンと呼びます。「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページの設定に応じて、オルタードユニゾンは1本の符尾または分割された符尾のいずれかで表示されます。

#### 関連リンク

[ステップ入力中の音域の選択 \(154 ページ\)](#)

[手動でのキャレットの移動 \(152 ページ\)](#)

[オルタードユニゾン \(497 ページ\)](#)

## 連符の入力

すべてのタイプの連符は連符のポップオーバーを使用して入力できます。連符は通常の音符のように入力するため、音符の入力中のみ入力できます。

連符は、音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」をクリックして入力することもできます。ただしこの操作では、連符を一度に1つしか入力できません。

#### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 連符のもとにする音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。たとえば、8分音符の場合は [5]、4分音符の場合は [6]、2分音符の場合は [7] を押します。
3. [;] を押して連符のポップオーバーを開きます。
4. 使用する連符を比率としてポップオーバーに入力します。たとえば、3:2 と入力して3連符を入力します。
5. [Return] を押してポップオーバーを閉じます。連符が入力されます。
6. 必要に応じて、選択した音符のデュレーションを変更します。たとえば、8分音符のもとに連符を入力しておいて、その連符内に4分音符を入力できます。
7. 任意のピッチで入力または再生します。
8. 必要に応じて、[Space] を押してキャレットを進め、次の位置に同じ比率で連符を引き続き入力します。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、連符の入力を終了します。
  - [Shift]+[;] を押すか矢印キーでキャレットを移動して、標準の音符入力に戻ります。
  - [Esc] を押して、音符の入力を完全に停止します。

## 結果

入力または再生したピッチは、連符としてキャレットの位置から入力されます。

連符を入力した直後に別のタイプの連符を入力するには、最初のタイプの連符を終了してから2つめのタイプを入力する必要があります。最初のタイプを終了しないと、2つめのタイプが入れ子状の連符として入力されます。

## 関連リンク

[連符 \(1016 ページ\)](#)

[入れ子状の連符 \(1017 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

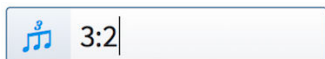
## 連符のポップオーバー

以下の表は、さまざまなタイプの連符を入力するために連符のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。連符のポップオーバーはステップ入力中にのみ開くことができます。

記譜モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、音符入力中に連符のポップオーバーを開くことができます。

- **[;]** を押します。  
連符は 3:2 などの比率で記述されることが多いため、連符のポップオーバーを開くにはセミコロンキーを使用します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**連符を作成 (Create Tuplet)**」 を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの左側にある音符ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された連符のポップオーバー



音符ツールボックスの「**連符 (Tuplets)**」ボタン

## 補足

音符ツールボックスの「**連符 (Tuplets)**」をクリックすると、連符が1つだけ入力されます。連符のポップオーバーは開きません。

キーボードを使って連符を入力すると、以下の操作が行なわれるまで、指定した連符として音符が入力されます。

- **[Shift]+[;]** を押して、標準の音符入力に戻る
- 矢印キーでキャレットを移動する
- 音符の入力を終了する

### 連符のタイプ

### ポップオーバーエントリー

2つ分のスペースに3つの音符が配置された3連符 「3」または「3:2」

4つ分のスペースに3つの音符が配置された3連符 3:4

4つ分のスペースに5つの音符が配置された5連符 5:4

連符のタイプ	ポップオーバーエントリー
2つ分のスペースに 5 つの音符が配置された 5 連符	5:2
4つ分のスペースに 7 つの音符が配置された 7 連符	7:4
2つ分のスペースに 7 つの音符が配置された 7 連符	7:2
3つ分のスペースに 2 つの音符が配置された 2 連符複合拍子によく使用されます。	2:3
6つ分のスペースに 5 つの音符が配置された 5 連符複合拍子によく使用されます。	5:6
連符の拍の単位: 64 分音符	「z」 または 「2」
連符の拍の単位: 32 分音符	「y」 または 「3」
連符の拍の単位: 16 分音符	「x」 または 「4」
連符の拍の単位: 8 分音符	「e」 または 「5」
連符の拍の単位: 4 分音符	「q」 または 「6」
連符の拍の単位: 2 分音符	「h」 または 「7」
連符の拍の単位: 全音符	「w」 または 「8」
連符の拍の単位: 倍全音符	「2h」 または 「9」
連符の拍の単位: 付点 8 分音符	「e.」 または 「5.」
連符の拍の単位: 付点 4 分音符	「q.」 または 「6.」
4つ分のスペースに 5 つの付点 4 分音符が配置された 5 連符	「5:4q.」 または 「5:4-6.」
<b>補足</b>	
数字を使用して拍の単位を指定する場合は、スペースまたはハイフンを使用して連符の比率と拍の単位を区切る必要があります。	
<b>補足</b>	
連符の全体のデュレーションは、ポップオーバーを開いたときに選択していた音価によって決まります。たとえば、4 分音符が選択されている状態で 3 連符を入力すると、2 つ分のスペースに 3 つの 4 分音符が配置された 3 連符が入力されます。	

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではありません。このリストは、さまざまな連符を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

関連リンク

[連符の入力 \(172 ページ\)](#)

[連符 \(1016 ページ\)](#)

[既存の音符を連符に変換する \(1018 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの選択 \(160 ページ\)](#)

## 既存の音符の上/下に音符を追加

既存の音符の上/下に音符を追加できます。既存の音符に対する音程に応じて、同時に複数の音符を追加できます。

手順

1. 音符を追加する音符を選択します。
2. **[Shift]+[I]** を押して音程追加のポップオーバーを開きます。
3. 追加する音符の、選択した音符に対する音程を入力します。たとえば、選択した音符のマイナーで3度下と4度上に音符を追加するには「-m3,4」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音程追加のポップオーバーに入力した音程に応じて、選択した音符に音符が追加されます。

関連リンク

[個々の音符のピッチの変更 \(177 ページ\)](#)

## 音程追加のポップオーバー

音程追加のポップオーバーでは、既存の音符の上下に音符を追加したり、既存の音符を移調したりできます。このポップオーバーを使用することで、「上/下に音符を追加 (Add Notes Above or Below)」ダイアログと「移調 (Transpose)」ダイアログの多くの機能にキーボードから直接アクセスできます。

記譜モードでは、音符の選択時 (音符入力中も含む) に以下のいずれかの操作を行なって、音程追加のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[I]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「音程追加のポップオーバー (Add Intervals Popover)」を選択します。

以下の表は、音符を移調したり既存の音符に音符を追加したりするために音程追加のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

アクションの例	ポップオーバーエントリー
音符を上を3度移調	t3
音符を下を6度移調	t-6
3度上に音符を追加	「3」または「3rd」
4度下に音符を追加	「-4」または「-4th」

## アクションの例

## ポップオーバーエントリー

複数の音符を追加

「3,6」または「-3,3,4」

### 補足

音符はスペースではなくコンマで区切ります。

選択した音符のすべての音符の上または下あるいはその両方に音符を追加

「3 all」または「-M2,m3 to all」

### 補足

音符はスペースではなくコンマで区切ります。

和音の一番上の音符にのみ音符を追加

「-3 top」または「dim5 top」

和音の一番下の音符にのみ音符を追加

「aug4 bottom」または「-2 bottom」

完全音程を指定

「p」、「per」、または「perf」

長音程を指定

「M」、「maj」、または「major」

短音程を指定

「m」、「min」、または「minor」

減音程を指定

「d」、「dim」、または「diminished」

増音程を指定

「a」、「aug」、または「augmented」

全音階的音程を指定

「diat」または「diatonic」

微分音程で音符を移調

t 3 8 qt

### 補足

最初の数字は音程の度数です。

2 番目の数字は 1/4 音の数です。

特に指定しない限り、音程は指定された譜表上の位置の数字の分だけ音符を追加または移調して計算されます。たとえば、C メジャーの場合、選択した音符が D<sub>4</sub> で 3 度上に追加するために 3 を指定すると、追加される音符は F<sub>4</sub> になります。音程のクォリティーは音程の前に含めることで指定できます。

選択した音符や記譜記号にすでに和音が含まれている場合、音符は和音の一番上の音符の上、および和音の一番下の音符の下に追加されます。エントリーの最後に「all」または「to all」を含めることで、選択した和音のすべての音符に音符を追加できます。

微分音の移調の場合、最初の数字は音程の度数、2 番目の数字は 1/4 音の数です。たとえば、C ナチュラルがあるところに「T 3 8 qt」を入力すると、C ナチュラルが E ナチュラルに変更されます。

関連リンク

[音程追加のポップオーバーで既存の音符を移調する \(177 ページ\)](#)



## 個々の音符のピッチの変更

個々の音符 (装飾音符を含む) を入力したあとに、それらのピッチと音域を、オクターブの分割、譜表上の位置、およびオクターブ単位で変更できます。

### 手順

1. 記譜モードで、ピッチを変更する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符のピッチを上げ下げします。
  - 音符の位置を1つ上げるには (C から D など)、**[Alt]+[↑]** を押します。
  - 音符の位置を1つ下げるには (D から C など)、**[Alt]+[↓]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割1つ分上に移調するには (平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt]+[↑]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割1つ分下に移調するには (平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt]+[↓]** を押します。
  - 音符を1オクターブ上に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]** を押します。
  - 音符を1オクターブ下に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↓]** を押します。

### 結果

選択した音符のピッチまたは音域が変更されます。

### 補足

**[Alt]+[↑]** と **[Alt]+[↓]** を押すと、グリッドおよび5線譜の表示タイプを使用する打楽器キットの音符の譜表上の位置を変更できます。ただし、この操作ではその音符を演奏するインストゥルメントも変更されません。

### 関連リンク

- [オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(681 ページ\)](#)
- [既存の音符の上/下に音符を追加 \(175 ページ\)](#)
- [音程追加のポップオーバー \(175 ページ\)](#)
- [臨時記号の変更 \(167 ページ\)](#)
- [臨時記号の書き換え \(166 ページ\)](#)

## 音程追加のポップオーバーで既存の音符を移調する

音程追加のポップオーバーを使用して、入力したあとの音符のピッチを変更できます。

### 手順

1. 移調する音符を選択します。
2. **[Shift]+[I]** を押して音程追加のポップオーバーを開きます。
3. 移調するピッチをポップオーバーに入力します。  
たとえば、「t3」と入力すると音符が3度上に移調され、「t-min6」と入力すると音符がマイナー6th 下に移調されます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

選択した音符が指定した度数だけ移調されます。

### 関連リンク

- [音程追加のポップオーバー \(175 ページ\)](#)

## リズムを変えずに音符のピッチを変更する

ピッチを変えてリズムを複製する場合など、音符を入力したあとにデュレーションを維持したまま音符のピッチを変更できます。

### 手順

1. ピッチを変更する最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** または **[Return]** を押して音符の入力を有効にします。
3. **[L]** を押して「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」を有効にします。
4. ピッチを入力します。
5. 必要に応じて、**[L]** をもう一度押して「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」を無効にします。

### 補足

譜表上に存在する最後の音符に到達すると、「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」は自動的に無効になります。初期設定では、通常の音符入力の場合、「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」を有効にする前に選択していた音符の音価が引き続き使用されます。

### 結果

リズムを変えることなく、選択した譜表上の既存の音符のピッチが変更されます。たとえ譜表上の音符間に大きな休符があっても、キャレットは音符から音符へと自動的に進みます。

### 関連リンク

[キャレット](#) (149 ページ)

## 「移調 (Transpose)」 ダイアログ

「**移調 (Transpose)**」ダイアログを使用すると、選択した音符を調号も含めて同時に移調できます。音程や性質に応じて移調したり、設定したオクターブの分割数の分だけ移調したりできます。

- 「**移調 (Transpose)**」ダイアログは、記譜モードの楽譜領域で選択範囲を作成し、「**記譜 (Write)**」>「**移調 (Transpose)**」を選択すると開きます。

①

②

「移調 (Transpose)」 ダイアログ

「**移調 (Transpose)**」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 移調オプション

実行したい移調を指定できるオプションがあります。たとえば、メジャー 3 度などの音程の性質で移調するよう選択したり、設定したオクターブの分割数で移調するよう選択したりできます。移調の方向、オクターブを含めるかどうか、および選択範囲を移調する音程と性質または区切りの数を選択できます。

表記規則によれば、音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー 3 度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。

その他のオプションでは、選択範囲に含まれる調号を移調したり、関連する変更された音符とコード記号を可能な限り保持したりもできます。

### 2 間隔を算出 (Calculate interval)

開始位置の音符と移調後の音符に従って移調オプションを設定できます。たとえば、選択範囲が C ナチュラルから G# になるように移調したい場合、そのために必要な音程と性質がわからなければ、「**間隔を算出 (Calculate interval)**」セクションにこれら 2 つの音符を入力して「**適用 (Apply)**」をクリックすると、Dorico Pro が自動的に必要な移調オプションを設定してくれます。

#### 補足

「**移調 (Transpose)**」ダイアログでは、トリプルシャープよりもシャープが多くなるなど、記譜ができなくなる移調や、選択範囲の位置の調性システムに存在しない微分音の臨時記号が必要になる移調は行なえません。

#### 関連リンク

[音程追加のポップオーバー \(175 ページ\)](#)

## 選択範囲の移調

「**移調 (Transpose)**」ダイアログを使用すると、調号を含む選択範囲全体をまとめて移調できます。

#### 手順

1. 記譜モードの楽譜領域で選択範囲を作成します。
2. 「**記譜 (Write)**」 > 「**移調 (Transpose)**」を選択して「**移調 (Transpose)**」ダイアログを開きます。
3. 「**移調 (Transpose)**」ダイアログで、音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択範囲内のすべての音符が、「**移調 (Transpose)**」ダイアログで指定した音程またはオクターブの分割数に従い移調されます。選択範囲に調号が含まれており、「**調号を変更する (Transpose key signatures)**」をオンにしていた場合は、選択範囲内のすべての調号も移調されます。

## MIDI 録音

MIDI 録音は、MIDI デバイスでリアルタイムに音符を演奏することで Dorico Pro に音符を入力する方法です。この方法は、たとえばピッチや音符のデュレーションをあらかじめ計画するのではなく、楽譜を即興で作成したい場合に特に便利です。

Dorico Pro では、任意の MIDI デバイスを使用して MIDI ノートを記録できます。ただし、Dorico Pro を起動する前にデバイスをコンピューターに接続しておく必要があります。

音符入力以外では、MIDI デバイスで演奏した音符に対して、最後に選択したインストゥルメントのサウンドが使用されます。最後に選択したインストゥルメントは再生モードでは、最後にクリックしたトラックヘッダーです。記譜モードでは、最後に音符入力または MIDI 録音を行なったインストゥルメン

トの譜表です。音符入力中は、常に音符を録音しているインストゥルメントのサウンドが使用されます。

MIDI デバイスで音符を演奏する際に、Dorico Pro は演奏された音符に対して正しい異名同音を生成するアルゴリズムを使用します。

関連リンク

[MIDI 録音の最適化 \(183 ページ\)](#)

## MIDI 録音を使用した音符の入力

MIDI デバイスのリアルタイムの演奏を録音することで音符を入力できます。音符の録音は、実音または移調音のどちらでもできます。

前提

- 使用する MIDI デバイスを接続して有効にしておきます。

### 補足

Dorico Pro を起動する前にデバイスをコンピューターに接続しておく必要があります。デバイスを接続していない場合は、Dorico Pro の再起動が必要です。

- 「**MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)**」ダイアログで、録音する楽譜に適したクオンタイズオプションを設定しておきます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**再生 (Play)**」ページにある「**録音 (Recording)**」サブセクションで、録音する楽譜に適したオプションを設定しておきます。
- 録音する楽譜の分量に対して十分な小節または空のスペースを入力しておきます。Dorico Pro は小節やスペースを自動的に追加しません。
- 録音中にクリックを再生するには、拍子記号を入力しておきます。拍子記号がない場合、または自由拍子の場合はクリックは鳴りません。
- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。

手順

1. 音符を録音する譜表トラックまたはインストゥルメントトラックで、録音を開始する位置の音符または休符を選択します。この操作は記譜モードおよび再生モードで行なえます。

### 補足

- 再生モードでは、休符は選択できません。つまり、少なくとも1つの音符がすでに含まれているインストゥルメントトラックにのみ録音できます。
  - 音符の入力中に MIDI を録音することもできますが、この場合、大譜表を使用するインストゥルメントの2つの譜表を使用することはできません。
2. 譜表上の既存の音符を上書きすることなく音符を録音したい場合は、**[Q]** を押して「**和音 (Chords)**」をオンにします。
  3. 譜表上の特定の声部に録音したい場合は、**[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始したあと、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 録音する声部がすでに譜表上にある場合は、キャレットの横の音符記号が正しい声部を示すまで **[V]** を押します。
    - 録音する声部がまだ譜表上にない場合は、キャレットの横の音符記号が正しい声部を示すまで **[Shift]+[V]** を押します。
  4. **[Ctrl]/[command]+[R]** を押して録音を開始します。  
録音中は再生ヘッドが赤で表示され、時間とともに移動します。初期設定では、再生ヘッドが選択したアイテムまたはキャレットの位置に到達するまでに1小節のカウントインがあります。
  5. 入力する音符を MIDI デバイスで演奏します。

記譜モードでは、録音を停止するまで譜表上に楽譜は表示されません。再生モードでは、音符がピアノロールにリアルタイムに表示されます。

6. **[Space]** または **[Ctrl]/[command]+[R]** を押して録音を停止します。
- 

#### 結果

MIDI デバイスで演奏した音符が選択した譜表に入力されます。声部を指定しなかった場合、録音した音符は譜表上の最初の声部に録音されます。これは通常、符尾が上向きの最初の声部です。「**和音 (Chords)**」をオンにした場合、演奏した音符は既存の音符を上書きすることなく、譜表上の最初の声部に統合されます。

記譜される音符のデュレーションはクオンタイズ設定に従いますが、演奏時のデュレーションは再生用に保持されます。

#### 手順終了後の項目

演奏した音符が意図したとおりに記譜されない場合は、それらを再クオンタイズできます。

#### 関連リンク

- [MIDI 入力デバイスの無効化 \(185 ページ\)](#)
- [カウントインの長さの変更 \(183 ページ\)](#)
- [ピッチの入力設定の変更 \(152 ページ\)](#)
- [MIDI 録音/インポートでのサステインペダルコントローラー 設定の変更 \(185 ページ\)](#)
- [MIDI 録音のリピート \(182 ページ\)](#)
- [小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)
- [拍子記号の入力方法 \(194 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(163 ページ\)](#)
- [「MIDI クオンタイズオプション \(MIDI Quantize Options\)」 ダイアログ \(72 ページ\)](#)

## 演奏時に録音しなかった音符を取得する

再生中、MIDI キーボードで音符を演奏し、それらをスコアに記録することなく聴くことができます。非録音時の MIDI 入力データを記録すると、音符を明示的に録音していなくても、演奏した音符を取得してプロジェクトに入力できます。

#### 前提

再生を開始し、再生に合わせて MIDI デバイスで音符を演奏して、再生を停止しておきます。

---

#### 手順

1. 取得した音符を入力する位置にある、譜表上の音符または休符を選択します。
  2. 譜表上の既存の音符を上書きすることなく取得した音符を入力したい場合は、**[Q]** を押して「**和音 (Chords)**」をオンにします。
  3. **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[R]** を押します。
- 

#### 結果

前回の再生中に MIDI デバイスで演奏したすべての音符が、選択した位置を開始点として選択した譜表に入力されます。初期設定では、これらの音符は譜表上の最初の声部に入力され、その声部の既存の音符は上書きされます。「**和音 (Chords)**」をオンにした場合、取得した音符は既存の音符を上書きすることなく、譜表上の最初の声部に統合されます。

#### 補足

非録音時の MIDI 入力データの記録のバッファは再生を開始するたびに消去されるため、直前の再生より前に演奏した音符は取得できません。

---

#### 関連リンク

- [楽譜の再生 \(436 ページ\)](#)

## MIDI 録音のリPEAT

リPEAT小節線などの反復記号を含むフローに MIDI を録音すると、Dorico Pro はそれぞれのリPEAT中に演奏された音符を録音し、それらを同じ声部に統合します。

録音間で異なるリズムは、現在の拍子に従って記譜されます。

## 音符の再クオンタイズ

たとえば、MIDI の読み込みや MIDI デバイスを使用した音符の録音を行なったあとで、記譜されたリズムを変更する必要が生じた場合などに、さまざまなクオンタイズ設定を使用して音符を再クオンタイズできます。これは、再生時における音符の演奏されるデュレーションには影響しません。

### 手順

1. 再クオンタイズする音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび再生モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「再クオンタイズ (Requantize)」を選択して「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログを開きます。
3. 選択した音符に対して適切にクオンタイズ設定を変更します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

選択したすべての音符の記譜されたデュレーションが、設定したクオンタイズオプションに従って変更されます。これは、再生時の演奏されるデュレーションには影響しません。

### 関連リンク

[「MIDI クオンタイズオプション \(MIDI Quantize Options\)」ダイアログ \(72 ページ\)](#)

## クリック設定を変更する

MIDI 録音中に常に使用されるメトロノームクリックのピッチ、音量、分割を変更できます。再生中は、メトロノームを有効にした場合のみクリックが鳴ります。

初期設定では、Dorico Pro はメトロノームクリックの拍を複合拍子でのみ分割し、メトロノームクリック音にはビーブを使用します。ビーブは小節の最初の拍のピッチが高く、2 拍以降はピッチが低く、音量が小さくなります。分割された拍はピッチがさらに低くなります。

### 補足

- クリックは DoricoBeep と呼ばれるトーンジェネレーターによって発音されます。クリックに使用するデバイスは変更できますが、そうすると再生テンプレートが上書きされます。つまり、それ以降はプロジェクトに新規インストゥルメントを追加するたびにサウンドを手動で読み込むか、再生テンプレートをリセットする必要があります。
- 拍子記号がない場合、または自由拍子の場合はクリックは鳴りません。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「クリック (Click)」をクリックします。
3. 「メトロノームクリック (Metronome Click)」セクションの「拍の分割 (Beat subdivisions)」で、以下のオプションをオンまたはオフにします。
  - 単純拍子で拍を分割 (Subdivide beats in simple time signatures)
  - 複合拍子で拍を分割 (Subdivide beats in compound time signatures)
4. 「クリック音 (Click sound)」で以下のいずれかのオプションを選択します。

- クリック (Click) (無音程)
  - ビープ (Beep) (有音程)
5. 「ピッチとベロシティー (Pitch and velocity)」で、以下のタイプの拍について、「MIDI ピッチ (MIDI pitch)」または「ベロシティー (Velocity)」あるいはその両方の値を変更します。
- 1 拍目 (First beat)
  - 2 拍目以降 (Subsequent beats)
  - 分割された拍 (Beat subdivisions)
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

現在のプロジェクトのメトロノームクリックのピッチ、音量、分割の設定が変更されます。

#### 関連リンク

[拍子記号のタイプ](#) (993 ページ)

[拍子記号の入力方法](#) (194 ページ)

[再生テンプレート](#) (441 ページ)

## カウントインの長さの変更

プロジェクトごとに、録音を開始する前のカウントインに使用するデフォルトの小節数を変更できます。初期設定では、カウントインは 1 小節です。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. ページリストの「クリック (Click)」をクリックします。
  3. 「カウントイン (Count-in)」セクションで、「カウントインの小節数 (Number of bars count-in)」の値を変更します。
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

現在のプロジェクトのカウントインのデフォルトデュレーションが変更されます。

## MIDI 録音の最適化

録音に使用するオペレーティングシステムや MIDI デバイスによっては、録音した音符が意図したデュレーションで、または意図した位置に記譜されないことがあります。MIDI 録音に関する設定を最適化することで、よりよい結果を得られる場合があります。

MIDI デバイスのキーを押してから Dorico Pro が音符を記譜するまでの間にレイテンシーが生じる場合があるため、たとえば 4/4 の拍子記号で 4 分音符を録音するなど、クリックに対して単純なリズムを入力してレイテンシーを確認することをおすすめします。

その結果に応じて、各種設定を変更します。

- 16 分音符が 8 分音符として記譜されるなど、音符が誤ったデュレーションで記譜される場合は、「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログでクオンタイズ設定を変更することをおすすめします。
- 音符が拍より前に記譜される場合は、レイテンシーの補正の値を大きくすることをおすすめします。
- 音符が拍より遅れて記譜される場合は、ドロップアウトを起こすことなく安定した再生を行なえる範囲内で、オーディオデバイスのバッファサイズをできるだけ小さくすることをおすすめします。

#### 補足

Windows コンピューター内蔵のオーディオデバイスでは、リアルタイムで安定した入力を行なうための十分な低レイテンシーを実現できない場合があります。そのような場合は、ASIO 対応の外付け USB オーディオインターフェースを使用することをおすすめします。

#### 関連リンク

[「MIDI クオンタイズオプション \(MIDI Quantize Options\)」ダイアログ \(72 ページ\)](#)

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(185 ページ\)](#)

## MIDI レイテンシーの補正の値を変更する

MIDI レイテンシーの補正の値を変更して、MIDI 録音中にキーを押したタイミングと、対応する音符の拍に対する記譜位置の差を補正できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
3. 「**録音 (Recording)**」サブセクションで、「**MIDI 入力のレイテンシーの補正 (MIDI input latency compensation)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

レイテンシーの補正の値を大きくすると、キーを押してから記譜するまでの時間が長くなります。これは、録音する音符が拍より前に記譜されたことがある場合に便利です。

レイテンシーの補正の値を小さくすると、キーを押してから記譜するまでの時間が短くなります。これは、録音する音符が拍より後ろに記譜されたことがある場合に便利です。

## オーディオデバイスのバッファサイズを変更する

現在のバッファサイズが原因で、MIDI 録音を使用した音符入力が拍から大幅に遅れて表示される場合などに、オーディオバッファサイズを変更できます。

#### 補足

- MIDI 録音中に演奏した音符が拍より遅れて記譜される場合は、ドロップアウトを起こすことなく安定した再生を行なえる範囲内で、オーディオデバイスのバッファサイズをできるだけ小さくすることをおすすめします。
- Windows コンピューター内蔵のオーディオデバイスでは、リアルタイムで安定した入力を行なうための十分な低レイテンシーを実現できない場合があります。そのような場合は、ASIO 対応の外付け USB オーディオインターフェースを使用することをおすすめします。

#### 手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**デバイス設定 (Device Setup)**」を選択して「**デバイス設定 (Device Setup)**」ダイアログを開きます。
2. 「**デバイス設定 (Device Setup)**」ダイアログで、バッファサイズを変更するオーディオデバイスを「**ASIO ドライバー (ASIO Driver)**」メニューから選択します。
3. 「**デバイスコントロールパネル (Device Control Panel)**」をクリックして、選択したオーディオデバイスのデバイス設定ダイアログを開きます。
4. オーディオデバイスの設定ダイアログで、お使いのオペレーティングシステムに応じて以下のいずれかの操作を行ない、バッファサイズを変更します。
  - macOS の場合は「**Buffer Size**」メニューからサンプリングレートを選択します。



- Windows の場合は、「オーディオバッファサイズ (Audio buffer size)」セクションでスライダーを別の位置にドラッグするか、「手動設定 (User definable)」をオンにして「設定バッファサイズ (Selected buffer size)」フィールドの値を変更します。
5. 「閉じる (Close)」 (macOS)/ 「OK」 ((Windows のみ)) を押してオーディオデバイスの設定ダイアログを閉じます。
  6. 「閉じる (Close)」 をクリックして「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログを閉じます。

## MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更

MIDI 録音時や MIDI ファイルのインポート時に、サスティンペダルコントローラーがペダル線として解釈されるかどうかのデフォルト設定を変更できます。

### 補足

以下のオプションは「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログでも使用可能で、設定内容はこのダイアログと「環境設定 (Preferences)」でリンクされます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストの「再生 (Play)」をクリックします。
3. 「録音 (Recording)」サブセクションで「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」をオン/オフにします。
4. 「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」をオンにした場合は、必要に応じて「ペダル線を前の拍にスナップする (Snap pedal lines to previous beat)」をオン/オフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」がオンの場合は、MIDI コントローラー CC64 はペダル線として解釈されます。

「ペダル線を前の拍にスナップする (Snap pedal lines to previous beat)」がオンの場合は、ペダル線の開始位置が拍の最初に自動的に移動されます。

### 関連リンク

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(71 ページ\)](#)

## MIDI 入力デバイスの無効化

初期設定では、Dorico Pro は仮想 MIDI ケーブルやアプリケーション間バスを含め、接続されたすべての MIDI デバイスから MIDI 入力を受け入れます。たとえば、MIDI データを絶え間なく出力するデバイスを使用する場合や、特定のデバイスから別のアプリケーションへのルーティングを排他的に維持したい場合など、MIDI デバイスを個別に無効化できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストの「再生 (Play)」をクリックします。
3. 「録音 (Recording)」サブセクションで、「MIDI 入力デバイス (MIDI Input Devices)」をクリックします。
4. 「MIDI 入力デバイス (MIDI Input Devices)」ダイアログで、無効にする MIDI 入力デバイスのチェックボックスをオフにします。

5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
  6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

## 記譜記号の入力

さまざまな種類の記譜記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。Dorico Pro における“記譜記号”とは、アーティキュレーション、スラー、強弱記号などのさまざまなアイテムを指す幅広い用語です。

## アーティキュレーションの入力

ステップ入力中にアーティキュレーションの付いた音符を入力したり、音符の入力後にアーティキュレーションを追加したりできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
    - 音符の入力を開始します。
    - アーティキュレーションを追加する既存の音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、入力するアーティキュレーションを選択します。
    - 入力するアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。
    - 音符パネルで、入力するアーティキュレーションをクリックします。
  3. 必要に応じて、選択したアーティキュレーションを追加する音符または和音を入力します。
- 

### 結果

選択した音符に選択したアーティキュレーションが追加されます。

ステップ入力中は、アーティキュレーションをオフにするまで、入力するすべての音符に選択したアーティキュレーションが追加されます。

### 補足

アーティキュレーションには、同じ音符に追加できない組み合わせがあります。たとえば、スタカートマークとスタッカティッシモマークはどちらも音符を短く演奏することを指示するため、これらのアーティキュレーションは同じ音符に追加できません。

---

### 関連リンク

[アーティキュレーション](#) (503 ページ)

[音符の入力](#) (149 ページ)

## アーティキュレーションのキーボードショートカット

音符パネルでアーティキュレーションをクリックするほかに、コンピューターのキーボードでキーボードショートカットを押すことでも、一般的なアーティキュレーションは入力できます。

キーボードで以下のキーボードショートカットを使って、アーティキュレーションを入力できます。

---

アーティキュレーションのタイプ	キーボードショートカット
アクセント: ^	[[]]
マルカート: ˇ	[']]

アーティキュレーションのタイプ	キーボードショートカット
強勢:´	[{]
無強勢:˘	[@] (Windows) [Shift]+['] (macOS)
スタッカート:˘	[[]]
テヌート:-	[#] (Windows) [\] (macOS)
スタッカティッシモ:˘、˘、または'˘	[}]
テヌートスタッカート:-˘	[~] (Windows) [~] (macOS)

関連リンク

[アーティキュレーション](#) (503 ページ)

## フィンガリングの入力

フィンガリングのポップオーバーを使用して、既存の音符にフィンガリングを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

- 複数の位置にある音符に同時にフィンガリングを追加することはできません。また、入力できるフィンガリングの数は、その位置にある音符の数と同じです。たとえば、3つの音符を含む和音の位置には3つのフィンガリングを入力できますが、単一音符の位置に入力できるフィンガリングは1つのみです。
- 替え指のフィンガリングには2つの数字が含まれていますが、これらは1つのフィンガリングと見なされるため、1つの音符に追加できます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - フィンガリングを追加する既存の音符を選択します。  
和音のすべての音符にフィンガリングを追加するには、和音のすべての音符を選択します。
2. **[Shift]+[F]** を押してフィンガリングのポップオーバーを開きます。
3. 使用するフィンガリングをポップオーバーに入力します。  
例:
  - 第3指から第2指への替え指を指定するには「3-2」と入力します。
  - 和音を指定するには「1,3,5」と入力します。
  - バルブ式金管楽器で最初の2つのバルブを押さえることを示すには、「12」と入力します。
4. 既存の音符にフィンガリングを追加する場合、以下のいずれかの操作を行なってポップオーバーを進めます。
  - ポップオーバーを現在の声部の次の音符/和音に進めるには、**[Space]** を押します。

- ポップオーバーを現在の声部の次の小節にある最初の音符/和音に進めるには、[Tab] を押します。
- ポップオーバーを現在の声部の前の小節にある最初の音符/和音に戻すには、[Shift]+[Tab] を押します。

5. [Return] を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した音符にフィンガリングが入力されます (ステップ入力中も可)。

関連リンク

[フィンガリング \(646 ページ\)](#)

[替え指のフィンガリングの位置の変更 \(647 ページ\)](#)

[バルブ式金管楽器のフィンガリング \(656 ページ\)](#)

[フィンガリングの削除 \(653 ページ\)](#)

## フィンガリングのポップオーバー

以下の表は、さまざまなタイプのフィンガリングを入力するためにフィンガリングのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、音符の選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、フィンガリングのポップオーバーを開くことができます。

- [Shift]+[F] を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「フィンガリングを作成 (Create Fingerings)」を選択します。
- 記譜ツールボックスの「フィンガリング (Fingerings)」をクリックします。



フィンガリングのタイプ	ポップオーバーエントリーの例
個々の音符用の単一のフィンガリング (金管楽器のバルブ番号やトロンボーンのスライドポジションを含む)	1, 2, 3 など
バルブ式金管楽器	12
和音の各音符用の単一のフィンガリング	1,3,5
鍵盤楽器の場合、音符を演奏する指に応じて Dorico Pro が適切な番号を自動的に指示します。初期設定は以下のとおりです。	
• 上段の譜表は右手	
• 下段の譜表は左手	
左手のフィンガリング	「L2」、「G2」、「S5」、「I2」、または「H2」
右手のフィンガリング	「R5」、「D5」、または「M5」
個々の音符に対する複数のフィンガリング (モルデントやターンなどの装飾音に使用)	2343

## フィンガリングのタイプ

## ポップオーバーエントリーの例

複数の音符に対する単一のフィンガリング: 隣接する2つの音符に同じフィンガリング番号を入力します。

1,1

たとえば、鍵盤楽器では親指で2つの鍵盤を同時に押すことがあります。

代替フィンガリング

2(3)

### 補足

代替フィンガリングを角括弧で表示するように選択している場合でも、ポップオーバーでは括弧を使用する必要があります。

編者注によるフィンガリング

[4]

### 補足

編者注によるフィンガリングを括弧で表示するように選択している場合でも、ポップオーバーでは角括弧を使用する必要があります。

替え指

1-3

弦楽器の親指の指示記号

T

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのフィンガリングがあります。このリストは、さまざまなタイプのフィンガリングを入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 補足

初期設定では、替え指はすぐ隣に表示されますが、据え置きデュレーションを変更することで替え指の位置を変更できます。

フィンガリングのタイプごとの外観と位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。

関連リンク

[フィンガリング \(646 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

[替え指のフィンガリングの位置の変更 \(647 ページ\)](#)

[バルブ式金管楽器のフィンガリング \(656 ページ\)](#)

## 調号の入力方法

調号は、調号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、調号、調性システム、臨時記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

関連リンク

[調号 \(678 ページ\)](#)

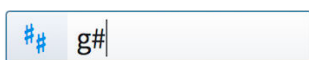
## 調号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな調号を入力するために調号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、調号のポップオーバーを開くことができます。

- [Shift]+[K] を押します。
- 既存の調号を選択して [Return] を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「調号を作成 (Create Key Signature)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された調号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」ボタン

### 調号のタイプ

オープンキーの調号または無調の調号

メジャーキー (大文字)

マイナーキー (小文字)

シャープの数

#### 補足

このように多くのシャープを入力する場合はメジャーキーと見なされます。

フラットの数

#### 補足

このように多くのフラットを入力する場合はメジャーキーと見なされます。

### ポップオーバーエントリー

「open」または「atonal」

「C」、「D」、「G#」、「Ab」など

「g」、「d」、「f#」、「bb」など

「3s」、「2#」など

「4f」、「5b」など

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、他にも多くの調号を入力できます。このリストは、さまざまなタイプの調号を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

関連リンク

[調号 \(678 ページ\)](#)

## 調号、調性システム、臨時記号パネル

調号、調性システム、臨時記号パネルでは、一般的な調号や特別な調号の作成と入力を行なえます。

- 調号、調性システム、臨時記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして表示/非表示にできます。

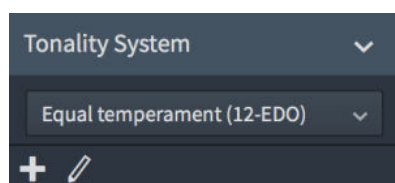


[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

調号、調性システム、臨時記号パネルには以下のセクションがあります。

### 調性 (Tonality System)

使用する調性システムを選択できるメニューと、カスタムの調性システムの編集や作成を行なうためのオプションがあります。



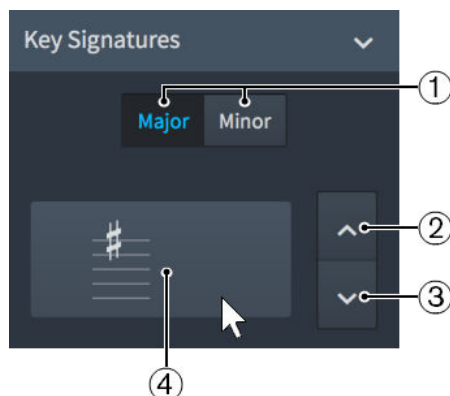
「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクション

### フローで使用 (Used in This Flow)

フローで現在使用されているすべての調号が表示されます。

### 調号 (Key Signatures)

調号を作成できます。



調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調号 (Key Signatures)**」セクション。

「**調号 (Key Signatures)**」セクションには以下の部分があります。

- 長調 (Major)/短調 (Minor)**  
調号を「**長調 (Major)**」または「**短調 (Minor)**」のいずれかから選択できます。
- 上ボタン: 「シャープ増/フラット減 (More Sharps/Fewer Flats)」**  
クリックするたびに調号にシャープの臨時記号が1つ追加されるか、調号からフラットの臨時記号が1つ削除されます。
- 下ボタン: 「シャープ減/フラット増 (Fewer Sharps/More Flats)」**  
クリックするたびに調号からシャープの臨時記号が1つ削除されるか、調号にフラットの臨時記号が1つ追加されます。

#### 4 調号の入力

調号が譜表上でどのように見えるかが表示されます。このボタンをクリックすると、表示されている調号が入力されます。プロジェクト内でなにも選択されていない場合は、調号はマウスポインターに読み込まれます。

##### 特別な調号 (Custom Key Signatures)

現在選択している調性システムに対して作成した特別な調号が表示されます。

##### 臨時記号 (Accidentals)

現在選択している調性システムで使用できるすべての臨時記号が表示されます。

関連リンク

[調号 \(678 ページ\)](#)

[カスタムの調性システム \(682 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った調号の入力

調号のポップオーバーを使用して調号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。調号を 1 つの譜表だけに入力することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 左隣に調号を入力する位置にある小節線を選択します。
  - 右隣に調号を入力する位置にある符頭または休符を選択します。
2. **[Shift]+[K]** を押して調号のポップオーバーを開きます。
3. 使用する調号をポップオーバーに入力します。  
たとえば、G マイナーの場合は「g」、シャープ 3 つの場合は「3s」を入力します。

補足

「3s」を入力すると、F# マイナーではなく A メジャーの調号が作成されます。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、調号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に調号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表のみに調号を入力するには、**[Alt]+[Return]** を押します。

---

結果

ステップ入力中、小節の途中であっても、キャレットの位置に調号が入力されます。ただし、調号の変更は小節線の位置に入力することをおすすめします。

その後ろに入力した音符は、次の調号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した調号に従います。MIDI キーボードを使用して音符を再生した場合、調号に基づいて臨時記号が表記されます。

楽譜に調号を追加する場合、小節の途中であっても、小節線の右隣または選択した音符の左隣に追加されます。既存の調号を選択した場合、その調号が新しい調号に直接置き換わります。

補足

単一の譜表の個別の調号は、移調楽器用ではありません。移調楽器の場合、音符および調号の移調は自動的に行なわれます。

---

関連リンク

[調号のポップオーバー \(190 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(167 ページ\)](#)



- [調号 \(678 ページ\)](#)
- [プロジェクト全体における調号の間隔のスペーシング \(692 ページ\)](#)
- [調号の位置の移動 \(693 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(106 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調/非移調の設定 \(126 ページ\)](#)


## パネルを使った調号の入力

調号、調性システム、臨時記号パネルを使用して調号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。調号を1つの譜表だけに入力することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 左隣に調号を入力する位置にある小節線を選択します。
  - 右隣に調号を入力する位置にある符頭または休符を選択します。
2. 記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。
3. 使用する調号を現在のフローでまだ使用していない場合は、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調号 (Key Signatures)**」エディターを使用して入力する調号を作成します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な調号を入力します。
  - すべての譜表に調号を入力するには、調号、調性システム、臨時記号パネルで入力する調号をクリックします。
  - 選択した譜表のみに調号を入力するには、**[Alt]**を押しながら調号、調性システム、臨時記号パネルで入力する調号をクリックします。

### 結果

ステップ入力中、小節の途中であっても、キャレットの位置に調号が入力されます。ただし、調号の変更は小節線の位置に入力することをおすすめします。

その後ろに入力した音符は、次の調号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した調号に従います。MIDI キーボードを使用して音符を再生した場合、調号に基づいて臨時記号が表記されます。

楽譜に調号を追加する場合、小節の途中であっても、小節線の右隣または選択した音符の左隣に追加されます。既存の調号を選択した場合、その調号が新しい調号に直接置き換わります。

### 補足

単一の譜表の個別の調号は、移調楽器用ではありません。移調楽器の場合、音符および調号の移調は自動的に行なわれます。

### 関連リンク

- [調号 \(678 ページ\)](#)
- [調号、調性システム、臨時記号パネル \(191 ページ\)](#)
- [プロジェクト全体における調号の間隔のスペーシング \(692 ページ\)](#)
- [MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(167 ページ\)](#)

- [調号の位置の移動 \(693 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(106 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調/非移調の設定 \(126 ページ\)](#)

## 拍子記号の入力方法

拍子記号は、拍子記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、拍子記号 (拍子) パネルを使用してマウスで入力することもできます。

### 補足

ほとんどのタイプのカスタム拍子記号は拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションを使用して作成できますが、拍子記号のポップオーバーでしか作成できない拍子記号もあります。たとえば、分割された拍は拍子記号のポップオーバーでしか指定できません。

### 関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(991 ページ\)](#)
- [拍子記号のタイプ \(993 ページ\)](#)

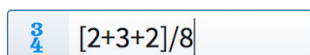
## 拍子記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまなタイプの拍子記号を入力するために拍子記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[M]** を押します。
- 既存の拍子記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された拍子記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」ボタン

### 拍子記号のタイプ

単純拍子の拍子記号

2/4、6/8、3/4、5/4 など。

弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号

付点 4 分音符の弱起が付いた 4/4 の小節や、8 分音符 2 つ分の弱起が付いた 6/8 の小節など。

### ポップオーバーエントリー

「2/4」、「6/8」、「3/4」、「5/4」など

「4/4,1.5」、「6/8,2」など

拍子記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
6/8+3/4 などの交互拍子の拍子記号	6/8 + 3/4
<b>補足</b>	
プラス記号の両側にスペースを入れる必要があります。	
コモンタイム (4/4 に相当)	c
カットコモンタイム (2/2 に相当)	「cutc」または「¢」
X で表示された自由拍子の拍子記号	「X」または「x」
表示のない自由拍子の拍子記号	open
<b>補足</b>	
自由拍子の位置に拍子記号ガイドが表示されません。	
明示的な拍グループを使用した加算的な拍子記号	「3+2+2/8」、「3+2/4」など
拍のグループを指定するが拍子記号には表示しない	[2+3+2]/8
たとえば、7/8 の拍子記号が表示されますが、連符は 8 分音符 2+3+2 に分割されます。	
結合拍子の拍子記号。異なる拍子間の区切りを表わす破線の小節線が小節内に表示されます。	2/4 6/8
さまざまなスタイル (括弧、スラッシュ、等号、ダッシュ) を使用した入れ替え可能な拍子の拍子記号	「2/4 (6/8)」、「2/4 / 6/8」、「2/4 = 6/8」、または「2/4 - 6/8」
<b>補足</b>	
スラッシュ、等号、ダッシュの両側および開始括弧の前にはスペースを入れる必要があります。	

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くの拍子記号があります。このリストは、さまざまな拍子記号を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

関連リンク

[拍子記号 \(991 ページ\)](#)

## 拍子記号 (拍子) パネル

拍子記号 (拍子) パネルでは、さまざまな拍子記号を入力できます。このパネルの「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクションでは、珍しい拍子記号を作成できます。

- 拍子記号 (拍子) パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

拍子記号 (拍子) パネルには以下のセクションがあります。

### フローで使用 (Used in This Flow)

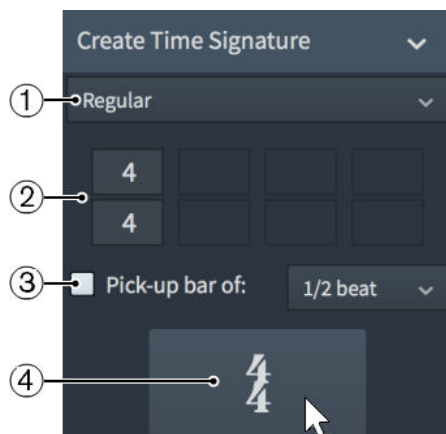
現在のフローで既に使用されている拍子記号が表示されます。

### 一般 (Common)

4/4、3/4、6/8、7/8 などの一般的な拍子記号が表示されます。

### 拍子記号を作成 (Create Time Signature)

交互拍子の拍子記号や結合拍子の拍子記号など、独自の拍子記号をデザインできます。



拍子記号 (拍子) パネルの「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクション

「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクションには以下の部分があります。

#### 1 拍子記号のタイプメニュー

以下のいずれかの拍子記号タイプを選択できます。

- 標準拍子 (Regular)
- 入れ替え可能な拍子 (Interchangeable)
- 結合拍子 (Aggregate)
- 交互拍子 (Alternating)

#### 2 拍子記号スペース

最大 4 つの拍子記号を組み合わせることができます。たとえば、「標準拍子 (Regular)」には 1 つの拍子記号しか指定できませんが、交互拍子の拍子記号には 3 つの拍子記号を指定しても構いません。

#### 3 アウフタクトの拍数 (Pick-up bar of)

拍子記号の前に弱起 (アウフタクト) を含めることができます。弱起 (アウフタクト) は完全な小節ではないため、最初の完全な小節の前にいくつかの拍を含めることができます。

弱起 (アウフタクト) の拍数として、以下のいずれかのオプションを選択できます。

- 半拍 (1/2 beat)
- 1 拍 (1 beat)
- 2 拍 (2 beats)

#### 4 拍子記号の入力ボタン

拍子記号が表示されたボタンをクリックすると、その拍子記号が入力されます。プロジェクトで何も選択されていない場合は、拍子記号がマウスポインターに読み込まれます。

関連リンク

[拍子記号 \(991 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った拍子記号の入力

拍子記号のポップオーバーを使用して拍子記号を入力できます (弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号を含む)。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を1つの譜表だけに入力することもできます。

### 補足

弱起 (アウフタクト) を入力するには、入力したい上拍を含む新しい拍子記号を入力する必要があります。たとえば、拍子記号のポップオーバーに「4/4,1」と入力すると、4分音符1つ分の上拍が付いた4/4の拍子記号が作成されます。

コンマのあとの数字は、拍子記号の分母で指定されたリズム単位の倍数を示します。たとえば、「4/4,0.75」と入力すると符点8分音符の上拍が作成され、「6/8,2」と入力すると8分音符2つ分の上拍が作成されます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 左隣に新しい拍子記号を入力する位置にある小節線を選択します。
  - 右隣に新しい拍子記号を入力する位置にある符頭または休符を選択します。
2. **[Shift]+[M]** を押して拍子記号のポップオーバーを開きます。
3. 使用する拍子記号をポップオーバーに入力します。

たとえば、カスタム拍グループを使った7/8の拍子記号を入力するには「[2+2+3]/8」と入力し、4分音符1つ分の上拍が付いた4/4の拍子記号を入力するには「4/4,1」と入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に拍子記号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表のみに拍子記号を入力するには、**[Alt]+[Return]** を押します。

---

### 結果

ステップ入力中、小節の途中であっても、キャレットの位置に拍子記号が入力されます。

楽譜に拍子記号を追加する場合、小節の途中であっても、選択した小節線の右隣または選択した音符の左隣に追加されます。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。

関連リンク

[拍子記号のポップオーバー \(194 ページ\)](#)

[拍子記号 \(991 ページ\)](#)

## パネルを使った拍子記号の入力

拍子記号 (拍子) パネルを使用して拍子記号を入力できます (弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号を含む)。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を1つの譜表だけに入力することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 前提

必要に応じて、拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションで拍子記号を作成しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 左隣に新しい拍子記号を入力する位置にある小節線を選択します。
  - 右隣に新しい拍子記号を入力する位置にある符頭または休符を選択します。
2. 記譜ツールボックスで、「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」をクリックして拍子記号 (拍子) パネルを表示します。



3. 弱起 (アウフタクト) を入力する場合は、拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションで「**アウフタクトの拍数 (Pick-up bar of)**」をオンにして、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **半拍 (1/2 beat)**
  - **1拍 (1 beat)**
  - **2拍 (2 beats)**

### 補足

この方法ですべての長さの弱起 (アウフタクト) を入力できるわけではありません。たとえば、これら3つのオプションでは、6/8の8分音符1つ分の上拍を作成することはできません。このような場合は、拍子記号のポップオーバーを使用する必要があります。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な拍子記号を入力します。
  - すべての譜表に拍子記号を入力するには、拍子記号 (拍子) パネルでその拍子記号をクリックします。
  - 選択した譜表のみに拍子記号を入力するには、**[Alt]** を押しながら拍子記号 (拍子) パネルでその拍子記号をクリックします。

### 結果

ステップ入力中、小節の途中であっても、キャレットの位置に拍子記号が入力されます。

楽譜に拍子記号を追加する場合、小節の途中であっても、選択した小節線の右隣または選択した音符の左隣に追加されます。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。

### 関連リンク

[拍子記号 \(991 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)  
[拍子記号 \(拍子\) パネル \(196 ページ\)](#)  
[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## テンポ記号の入力方法

テンポ記号はテンポのポップオーバーを使用してキーボードで入力するか、テンポパネルを使用してマウスで入力するか、再生モードの**タイム**トラックで入力できます。テキストによる指示とメトロノームマークのいずれか、またはその2つを組み合わせたテンポ記号を入力できます。

また、再生モードの**タイム**トラックではテンポ変更を入力できます。

関連リンク  
[テンポ記号 \(960 ページ\)](#)  
[タイムトラック \(426 ページ\)](#)  
[タイムトラックへのテンポ変更の入力 \(427 ページ\)](#)

## テンポのポップオーバー

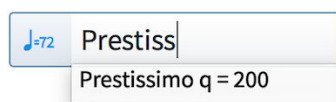
以下の表は、テンポ記号、テンポの等式、およびスウィング再生用のリズムフィールを入力するためにテンポのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

テンポのポップオーバーにテンポを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるテンポがメニューに予測表示されます。表示された提案のいずれかを選択するか、独自のテンポをポップオーバーに入力します。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、テンポのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[T]** を押します。
- 既存のテンポ記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**テンポを作成 (Create Tempo)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



記譜ツールボックスの「**テンポ (Tempo)**」ボタン

エントリーの例が入力されたテンポのポップオーバー

## テンポ記号

### テンポ記号の例

*Adagio*

*Presto* ♩ = 176

*Largo* ♩ = 52

♩ = 96-112

♩ = 84

### ポップオーバーエントリー

*Adagio*

「*Presto* q = 176」または「*Presto* q=176」

「*Largo* (q = 52)」または「*Largo* (q=52)」

「q = 96-112」、「q=96-112」、「6 = 96-112」、または「6=96-112」

「q. = 84」、「q.=84」、「6. = 84」、または「6.=84」

テンポ記号の例	ポップオーバーエントリー
♩ = 30	「w = 30」、「w=30」、「8 = 30」、または「8=30」
♪ = 60	「h = 60」、「h=60」、「7 = 60」、または「7=60」
♩ = 120	「e = 120」、「e=120」、「5 = 120」、または「5=120」
♩ = 90	「e. = 90」、「e.=90」、「5. = 90」、または「5.=90」
♩ = 240	「x=240」、「x = 240」、「4=240」、または「4 = 240」
<i>rit.</i>	「rit.」または「rit」
<i>accel.</i>	「accel.」または「accel」
<i>più</i>	「più」または「piu」
<i>meno</i>	meno
Faster, with energy	Faster, with energy

## テンポの等式

テンポの等式	ポップオーバーエントリー
♩ = ♩.	「e = e.」、「e=e.」、「5 = 5.」、または「5=5.」
♪ = ♩	「q = e」、「q=e」、「6 = 5」、または「6=5」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのメトロノームマーク、テンポ記号、テンポの等式があり、自由にテンポを入力できます。このリストは、さまざまなタイプのテンポ記号とメトロノームマークを入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

### 補足

テンポのポップオーバーでは大文字と小文字が区別されます。テンポ記号を大文字で始めるには、ポップオーバーに大文字を入力する必要があります。

## スウィング再生用のリズムフィール

リズムフィール	ポップオーバーエントリー
軽いスウィングのリズムフィール	light swing
ミディアムスウィングのリズムフィール	medium swing
重いスウィングのリズムフィール	heavy swing
ストレートなリズムフィール	straight



リズムフィールド	ポップオーバーエントリー
2:1 スウィング (一定)	2:1 swing (fixed)
3:1 スウィング (一定)	3:1 swing (fixed)

関連リンク

[テンポ記号 \(960 ページ\)](#)

[テンポ記号のタイプ \(961 ページ\)](#)

[スウィング再生 \(442 ページ\)](#)

[特定のセクション/プレーヤーにスウィング再生を適用する \(444 ページ\)](#)

## テンポパネル

テンポパネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまなテンポ記号があり、各セクションにまとめられています。このパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

- テンポパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**テンポ (Tempo)**」をクリックして表示/非表示にできます。



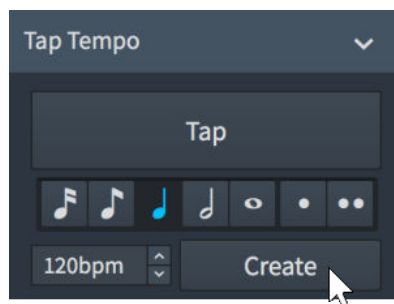
[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

### フローで使用 (Used in This Flow)

テンポのポップオーバーを使用して追加したカスタムテンポ記号を含め、フローですでに使用されているテンポ記号が表示されます。

### タップテンポ入力 (Tap Tempo)

「**タップ**」ボタンをクリックして設定する速度に基づいて固定テンポ変更を作成できます。用意されたオプションを使用して、入力するテンポのベースにする拍の単位を設定できます。



### 固定テンポ変更 (Absolute Tempo Change)

イタリア語のテンポ指示とメトロノームマークの両方を持つさまざまなテンポが表示されます。個々のテンポ記号に対してメトロノームマークを表示するかどうかはあとから選択できます。

一番上のスライダーを調節すると、リストに表示する範囲を変更できます。



### 段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)

*rallentando* や *accelerando* など、指定した時間範囲におけるテンポの変更を示すテンポ記号が表示されます。

段階的テンポ変更には修飾語句を追加できます。使用できる修飾語句はこのセクションの一番上に表示されます。

### 相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)

*molto* (変動、動きのある) など、前のテンポに対する相対的なテンポの変更を示すテンポ記号が表示されます。相対テンポ変更には、*poco meno mosso* (今までより少し遅く) のように、変化の度合いを表わす修飾語句が付く場合もあり、これにはメトロノームマークによる指定はありません。

相対テンポ変更には修飾語句を追加できます。使用できる修飾語句はこのセクションの一番上に表示されます。

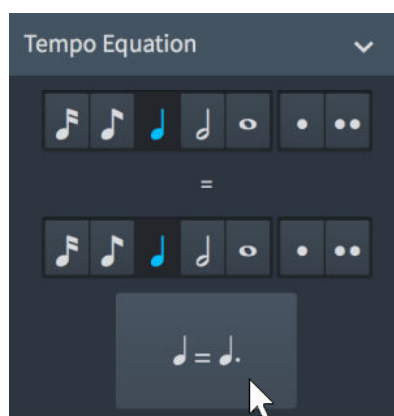
個々のテンポ記号に対して、前のメトロノームマークに対する割合の形でメトロノームマークの相対的な変化を設定できます。

### テンポをリセット (Reset Tempo)

*A tempo* のように前のテンポに戻したり、*Tempo primo* のようにあらかじめ指定されたテンポに戻したりする指示を出すテンポ記号が表示されます。

### テンポの等式 (Tempo Equation)

16 分音符から全音符までの拍の単位と最大 2 個の付点を使用して、テンポの等式を入力できます。



関連リンク

[テンポ記号 \(960 ページ\)](#)

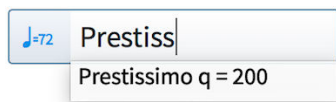
[テンポ記号のタイプ \(961 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったテンポ記号の入力

テンポのポップオーバーを使用してテンポ記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - テンポ記号を追加する位置にある小節線、符頭、または休符を選択します。
  - 段階的テンポ変更を追加するデュレーションにまたがる複数のアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。
3. 使用するテンポをポップオーバーに入力します。  
たとえば、「q=72」または「Allegretto」と入力します。  
テンポのポップオーバーにテンポを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるテンポがメニューに予測表示されます。表示された提案のいずれかを選択するか、独自のテンポをポップオーバーに入力します。



4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

ステップ入力中は、キャレットの位置にテンポ記号が入力されます。*rallentando*などの段階的テンポ変更は、4分音符のデフォルトデュレーションでキャレットの位置に入力されます。段階的テンポ変更は音符を入力しても延長されません。

既存の楽譜にテンポ記号を追加する場合、テンポ記号は選択した小節線、符頭、または休符の位置に追加されます。段階的テンポ変更は選択したアイテムのデュレーションと同じ長さになります。

### 手順終了後の項目

段階的テンポ変更の長さは変更できます。

### 関連リンク

[テンポ記号](#) (960 ページ)

[段階的テンポ変更の長さの変更](#) (966 ページ)

## パネルを使ったテンポ記号の入力

テンポパネルを使用してテンポ記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - テンポ記号を追加する位置にある小節線、符頭、または休符を選択します。
  - 段階的テンポ変更を追加するデュレーションにまたがる複数のアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**テンポ (Tempo)**」をクリックしてテンポパネルを表示します。



- テンポパネルで、入力するテンポ記号をクリックします。
- 必要に応じて、用意されたオプションから修飾語句を選択します。

#### 補足

修飾語句は「**段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)**」または「**相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)**」にのみ追加できます。

#### 結果

ステップ入力中は、キャレットの位置にテンポ記号が入力されます。*rallentando*などの段階的テンポ変更はキャレットの位置に入力されますが、音符を入力しても延長されず、4分音符のデフォルトデュレーションで入力されます。

既存の楽譜にテンポ記号を追加する場合、テンポ記号は選択した小節線、符頭、または休符の位置に追加されます。段階的テンポ変更は選択したアイテムのデュレーションと同じ長さになります。

#### 手順終了後の項目

段階的テンポ変更の長さは変更できます。

#### 関連リンク

[テンポ記号 \(960 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の長さの変更 \(966 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## 小節と小節線の入力方法

小節と小節線は、小節と小節線のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、小節と小節線パネルのオプションを使用してマウスで入力することもできます。また、小節はシステムトラックを使用して入力することもできます。この操作では、その他のデュレーション、つまり指定した拍領域を入力できます。

Dorico Pro では楽譜を入力すると必要に応じて自動的に小節が作成されるため、通常、小節を作成する必要はありません。ただし、既存の楽譜をコピーしたり配置したりする場合などに、あらかじめ小節を追加できます。

#### 関連リンク

[小節 \(510 ページ\)](#)

[小節線 \(515 ページ\)](#)

[システムトラック \(277 ページ\)](#)

[ステップ入力中の小節休符の入力 \(169 ページ\)](#)

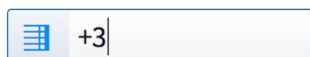
## 小節と小節線のポップオーバー

以下の表は、小節や拍の追加や削除、またはさまざまな小節線の入力を行なうために小節と小節線のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

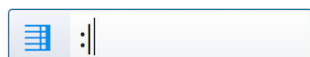
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、小節や小節線のポップオーバーを開くことができます。

- [Shift]+[B]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「小節または小節線を作成 (Create Bar or Barline)」** を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



小節を入力するためのエントリーの例が入力された小節と小節線のポップオーバー



小節線のエントリーの例が入力された小節と小節線のポップオーバー



記譜ツールボックスの「小節と小節線 (Bars and Barlines)」ボタン

## 小節

アクションの例	ポップオーバーエントリー
2 小節を追加	「2」または「+2」
14 小節を追加	「14」または「+14」
1 小節を削除	-1
6 小節を削除	-6
小節休符を追加	rest
フローの終了位置にある空白の小節を削除する	trim

拍の数に続いて、拍の単位に対応する数字 (8 分音符の場合は「5j」) または文字 (2 分音符の場合は「h」) を入力することで追加/削除する拍の数を指定できます。拍の数と拍の単位の両方で数字を使用する場合は、数字の間にスペースまたはハイフンを入力する必要があります。4 分の 3 拍は 3/4 のように、拍子記号の形式で指定することもできます。

## 拍

アクションの例	ポップオーバーエントリー
4 分音符拍を 2 つ追加	「2q」、「2-6」、「2 6」、または「2/4」
2 分音符拍を 2 つ追加	「2h」、「2-7」、「2 7」、「2/2」、または「4/4」
全音符拍を 1 つ追加	「1w」、「1-8」、「1 8」、または「4/4」
8 分音符拍を 4 つ追加	「4e」、「4-5」、「4 5」、「4/8」、または「2/4」
16 分音符拍を 2 つ追加	「2x」、「2-4」、「2 4」、「2/16」、または「1/8」
4 分音符拍を 2 つ削除	「-2q」、「-2-6」、「-2 6」、または「-2/4」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではありません。音符の入力時にデュレーションを指定するのと同様に、1 から 9 の数字での拍の単位の指定など、ポップオーバーを使用して任意の数の小節/拍を入力または削除できます。このリストは、小節/拍の入力と削除、および小節休符の追加を行なうエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

## 小節線

小節線のタイプ	ポップオーバーエントリー
標準 (縦線)	「 」、「single」、または「normal」
複縦線	「  」または「double」
終止線	「 】」または「final」
破線	「: 」、「dash」、または「dashed」
ティック	「 」または「tick」
短線	「,」または「short」
太線	thick
三重小節線	triple
反復開始線	「 :」または「start」
反復終了線	「: 」または「end」
反復終了/反復開始線	「: :」、「: : 」、「end-start」、または「endstart」

関連リンク

[ステップ入力中の小節休符の入力 \(169 ページ\)](#)

[小節 \(510 ページ\)](#)

[小節線 \(515 ページ\)](#)

[小節/拍の削除 \(510 ページ\)](#)

## 小節と小節線パネル

小節と小節線パネルでは、小節、小節休符、およびさまざまなタイプの小節線を入力できます。このパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

- 小節と小節線パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

このパネルには以下のセクションがあります。

### 小節を挿入 (Insert Bars)

挿入する小節の数と挿入する位置 (フローの終了など) を指定できます。

### 小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)

小節休符を挿入できます。

### 小節線を引く (Create Barline)

挿入できるさまざまな小節線が含まれています。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(17 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った小節/拍の入力

小節と小節線のポップオーバーを使用して小節や拍を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することも挿入することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 後ろに小節/拍を追加する位置にある小節線を選択します。
  - 前に小節/拍を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
3. 入力する小節/拍の数を選択します。  
たとえば、「2」を入力して小節を2つ追加し、「2q」を入力して4分音符を2つ入力できます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

---

結果

指定した数の小節/拍が入力されます。

ステップ入力中はキャレットの位置から小節/拍が入力されます。小節の入力中にキャレットが小節の途中にある場合は、作成される最後の小節に正しい数の拍が含まれるように十分な拍が追加されます。同じ位置から楽譜の入力を続けられるように、キャレットは前と同じ位置に表示されます。

既存の楽譜に小節/拍を追加した場合は、選択した小節線の後ろ、または拍子記号などの選択したアイテムの前に追加されます。

---

ヒント

小節は、ステップ入力中に音価を選択し (4/4 拍子で全音符など)、**[Space]** を繰り返し押して追加することもできます。

---

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(204 ページ\)](#)


[小節 \(510 ページ\)](#)

## パネルを使った小節の入力

小節と小節線パネルを使用して小節を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 後ろに新しい小節を入力する位置にある小節線を選択します。
  - 前に新しい小節を入力する位置にある小節線を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして、小節と小節線パネルを表示します。  

3. 小節と小節線パネルの「**小節を挿入 (Insert Bars)**」セクションで、数値フィールドの数値を変更して入力する小節数を変更します。

4. 小節を入力する位置を以下のオプションから選択します。
- 「**フローの開始 (Start of Flow)**」：フローの開始位置に小節が入力されます。
  - 「**選択の開始 (Start of Selection)**」：選択した音符または休符の位置から小節が入力されます。
  - 「**フローの終了 (End of Flow)**」：フローの終了位置に小節が入力されます。

#### 補足

キャレットの位置から小節を入力する場合は、このメニューで「**選択の開始 (Start of Selection)**」が選択されていることを確認してください。

5. 「**小節を挿入 (Insert Bars)**」をクリックします。

#### 結果

指定した数の小節が入力されます。

ステップ入力中はキャレットの位置から小節が入力されます。

「**選択の開始 (Start of Selection)**」を選択した場合は、選択した小節線の直後、あるいは選択した音符、小節、または拍子記号の直前に小節が入力されます。

#### ヒント

小節は、ステップ入力中に音価を選択し (4/4 拍子で全音符など)、[Space] を繰り返し押し続けて追加することもできます。

#### 関連リンク

[小節 \(510 ページ\)](#)

## システムトラックを使った小節/拍の入力

次の楽節の前に複数の小節を繰り返す場合など、既存の楽譜に小節/拍を追加できます。小節全体を追加することも、いくつかの拍だけを追加することもできます。

#### 補足

音符の入力中にシステムトラックを使用することはできません。

#### 前提

システムトラックを表示しておきます。

#### 手順

1. システムトラックで、挿入するデュレーション分の領域を選択します。  
たとえば、2小節挿入する場合は、新しい2小節を入力する位置の直前の2小節をシステムトラックで選択します。
2. システムトラックの上にある**追加**ボタンをクリックします。



システムトラックの上にある**追加**ボタン



マウスを合わせると**追加**ボタンが強調表示されます。

#### 結果

システムトラックで選択したデュレーションが、選択部分の終了位置の直後に追加されます。選択部分のあとの既存の楽譜は、挿入した小節/拍の後ろに移動します。



関連リンク  
[システムトラック \(277 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った小節線の入力

小節と小節線のポップオーバーを使用して小節線を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。既存の小節線のタイプを変更することもできます。

前提

1つの譜表だけに小節線を入力する場合は、それらの譜表に個別の調号を入力しておきます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 右隣に小節線を入力する位置にある音符または休符を選択します。
2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
3. 使用する小節線をポップオーバーに入力します。  
たとえば、複縦線であれば「||」と入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、小節線を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に小節線を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表のみに小節線を入力するには、**[Alt]+[Return]** を押します。

補足

小節線の入力は、個別に拍子記号が設定された1つの譜表のみにできます。

5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

---

結果

ステップ入力中、キャレットの位置に小節線が入力されます。

楽譜に小節線を追加する場合、選択した音符または休符の左隣に追加されます。

既存の小節線を変更する場合、選択した小節線が新しい小節線に直接置き換わります。

小節線が収まるように周囲の楽譜が自動的に調整されます。音符のグループ、休符、タイでつながれた音符などはすべて、必要に応じて調整されます。

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(204 ページ\)](#)  
[小節線 \(515 ページ\)](#)  
[音符の入力 \(153 ページ\)](#)  
[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(197 ページ\)](#)

## パネルを使った小節線の入力

小節と小節線パネルを使用して小節線を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。既存の小節線のタイプを変更することもできます。

補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

---

前提

1つの譜表だけに小節線を入力する場合は、それらの譜表に個別の調号を入力しておきます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 右隣に小節線を入力する位置にある音符または休符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして、小節と小節線パネルを表示します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な小節線を入力します。
  - すべての譜表に小節線を入力するには、小節と小節線パネルで入力する小節線をクリックします。
  - 選択した譜表だけに小節線を入力するには、**[Alt]** を押しながら小節と小節線パネルで入力する小節線をクリックします。

#### 補足

小節線の入力は、個別に拍子記号が設定された 1 つの譜表のみにできます。

#### 結果

ステップ入力中、キャレットの位置に小節線が入力されます。

楽譜に小節線を追加する場合、選択した音符または休符の左隣に追加されます。

既存の小節線を変更する場合、選択した小節線が新しい小節線に直接置き換わります。

小節線が収まるように周囲の楽譜が自動的に調整されます。音符のグループ、休符、タイでつながれた音符などはすべて、必要に応じて調整されます。

#### 関連リンク

[小節線 \(515 ページ\)](#)

[小節と小節線のポップオーバー \(204 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## 強弱記号の入力方法

強弱記号は、強弱記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、強弱記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

#### 関連リンク

[強弱記号 \(620 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った強弱記号の入力 \(213 ページ\)](#)

[パネルを使った強弱記号の入力 \(214 ページ\)](#)

[ニエンテのヘアピン \(629 ページ\)](#)

[既存の強弱記号への表現テキストの追加 \(630 ページ\)](#)

## 強弱記号のポップオーバー

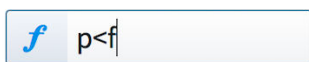
以下の表は、さまざまな強弱記号を入力するために強弱記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[D]** を押します。
- 既存の強弱記号を選択して **[Return]** を押します。

- 「記譜 (Write)」 > 「強弱記号を作成 (Create Dynamic)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された強弱記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「強弱記号 (Dynamics)」ボタン

強弱記号またはエクスプレッション	ポップオーバーエントリー
<i>pianissimo</i> : <b>pp</b>	pp
<i>piano</i> : <b>p</b>	p
<i>mezzo piano</i> : <b>mp</b>	mp
<i>mezzo forte</i> : <b>mf</b>	mf
<i>forte</i> : <b>f</b>	f
<i>fortissimo</i> : <b>ff</b>	ff
<i>subito</i>	「subito」、 <b>「sub」</b> 、または <b>「sub.」</b>
<i>possibile</i>	「possibile」、 <b>「poss」</b> 、または <b>「poss.」</b>
<i>poco</i>	poco
<i>molto</i>	molto
<i>più</i>	「piu」または <b>「più」</b>
<i>meno</i>	meno
<i>mosso</i>	mosso
<i>crescendo</i> : <	<
<i>cresc.</i> (テキスト)	cresc
<i>diminuendo</i> : >	>
<i>dim.</i> (テキスト)	dim
<i>crescendo</i> から <i>diminuendo</i> へのメッサ・ディ・ ヴォーチェ: <>	<>
<i>diminuendo</i> から <i>crescendo</i> : ><	><
小さい丸で始まる/終わる <i>niente</i> のヘアピン	「o<」または <b>「&gt;o」</b>

強弱記号またはエクスプレッション	ポップオーバーエントリー
“n” の文字で始まる/終わる <i>niente</i> のヘアピン	「n<」 または 「>n」
<i>sforzando</i> : <i>sfz</i>	<i>sfz</i>
<i>rinforzando</i> : <i>rfz</i>	<i>rfz</i>

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ポップオーバーでは任意の表現テキストを入力できます。このリストは、さまざまなタイプの強弱記号を入力するために、エントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

#### ヒント

ポップオーバーを使わず、ヘアピンをスコアに直接入力できます。クレッシェンドのヘアピンを入力するには **[Shift]+[.]** を、ディミヌエンドのヘアピンを入力するには **[Shift]+[.]** を押します。

段階的強弱記号の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページでプロジェクト全体を通して変更できるほか、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループで「**段階的速度記号 (Gradual style)**」をオンにし、いずれかのオプションを選択して個々に変更することもできます。

## 強弱記号のポップオーバーへの表現テキストの入力

*poco*、*molto*、*subito*、*espressivo*、*dolce* などの表現テキストを強弱記号のポップオーバーに入力できます。表現テキストは強弱記号の横に斜体フォントで表示されます。

ただし、「p」や「f」などの付随する局部的強弱記号も入力し、「f molto」や「p espressivo」のように間にスペースを入れる必要があります。

表現テキストのみ表示したい場合は、局部的強弱記号を非表示にできます。

関連リンク

[強弱記号 \(620 ページ\)](#)

[ニエンテのヘアピン \(629 ページ\)](#)

[局部的強弱記号を非表示にする \(631 ページ\)](#)

## 強弱記号パネル

強弱記号パネルには、段階的強弱記号、強弱記号の修飾語句、表現テキスト (*poco* や *possibile* など) のように、Dorico Pro で使用できるさまざまな強弱記号が含まれています。

- 強弱記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックして表示/非表示にできます。



**[Ctrl]/[command]+[9]** を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

強弱記号パネルには以下のセクションがあります。

### 局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)

*pp* や *f* などの強弱記号と *subito* や *possibile* などの修飾語句があります。使用できる修飾語句は一番上のセクションにボックスとして表示されます。

修飾語句は強弱記号と一緒に入力する必要があります。

### 段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)

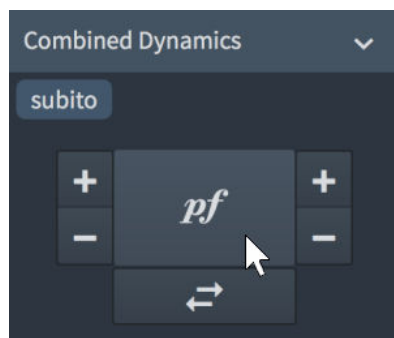
＜や＞などの強弱記号と *poco* や *niente* などの修飾語句があります。使用できる修飾語句は一番上のセクションにボックスとして表示されます。修飾語句は強弱記号と一緒に入力する必要があります。

### アタックの強弱/強度レベル (Force/Intensity of Attack)

*sfz* や *fz* などの強弱記号があります。

### 結合式強弱記号 (Combined Dynamics)

*fffpp* のように、独自に組み合わせた強弱記号を作成できます。コントロールを使用すると、それぞれの側の強弱記号を増減したり、順序を入れ替えたりできます。



強弱記号パネルの「結合式強弱記号 (Combined Dynamics)」セクション

## ポップオーバーを使った強弱記号の入力

強弱記号のポップオーバーを使用して強弱記号や表現テキストを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力することもできます。

### ヒント

また、変更したい強弱記号の位置にキャレットがあるときに以下の手順を実行すれば、ステップ入力中に強弱記号を変更することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 強弱記号を追加する音符を選択します。
2. **[Shift]+[D]** を押して強弱記号のポップオーバーを開きます。
3. 使用する強弱記号をポップオーバーに入力します。  
たとえば、「p」、「p<f>p」、「f」などです。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - 譜表上のすべての声部に強弱記号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 音符の入力中に、**[Alt]+[Return]** を押すことで、キャレットが表示された声部のみに強弱記号を入力します。

p<のような開口型の強弱記号は、ステップ入力中に音符の入力を続けるか、**[Space]** を押してキャレットを進めると自動的に延長されます。
5. 必要に応じて、ステップ入力中に **[Shift]+[I]** を押すか強弱記号のポップオーバーをもう一度開いて別の局部的強弱記号 (f など) を入力して、開口型の強弱記号を終了します。

#### 結果

選択した強弱記号が入力されます。強弱記号は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページの設定に従い配置されます。声部固有の強弱記号は、上向きの声部に入力した場合でも、デフォルトで譜表の下に配置されます。

ステップ入力中はキャレットの位置に強弱記号が入力され、開口型の段階的強弱記号の場合は自動的に延長されます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号で示されている声部に追加されます。

既存の音符に強弱記号を追加すると、選択範囲の最初の音符に局部的強弱記号が追加され、選択範囲全体に段階的強弱記号が追加されます。

#### 補足

- ポップオーバーに「p<f>p」などの強弱記号のフレーズを入力した場合、初期設定では、強弱記号とヘアピンはそれぞれ4分音符の分だけ続きます。段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さはあとから変更できます。
- *molto* などの一部の表現テキストは、局部的強弱記号の後ろに入力した場合でも前に表示されます。これは、表現テキストの配置の一般的な慣習に習っています。  
表現テキストのみを表示したい場合は、局部的強弱記号をあとから非表示にできます。

#### 手順終了後の項目

強弱記号のフレーズ内の強弱記号を移動したり、譜表に対する強弱記号の位置を変更したりできます。

#### 関連リンク

[強弱記号 \(620 ページ\)](#)

[強弱記号のグループ \(638 ページ\)](#)

[声部固有の強弱記号 \(628 ページ\)](#)

[強弱記号の位置の移動 \(623 ページ\)](#)

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(632 ページ\)](#)

[局部的強弱記号を非表示にする \(631 ページ\)](#)

[譜表に対する強弱記号の位置の変更 \(622 ページ\)](#)


## パネルを使った強弱記号の入力

強弱記号パネルを使用して強弱記号や表現テキストを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力することもできます。

#### 補足

- また、変更したい強弱記号の位置にキャレットがあるときに以下の手順を実行すれば、ステップ入力中に強弱記号を変更することもできます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 強弱記号を追加する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックして強弱記号パネルを表示します。  

3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な強弱記号を入力します。

- 譜表上のすべての声部に強弱記号を入力するには、強弱記号パネルでその強弱記号をクリックします。
- 音符の入力中に、**[Alt]** を押しながら強弱記号パネルの強弱記号をクリックして、キャラットが表示された声部のみに強弱記号を入力します。

#### 補足

- 強弱記号に表現テキストや修飾テキストを追加する場合は、強弱記号の選択を解除しないでください。
- 声部固有の強弱記号を入力する場合は、*f* などの強弱記号を入力したあと **[Alt]** を放します。
- 段階的強弱記号のデフォルトのデュレーションは 4 分音符分の長さです。段階的強弱記号の長さはあとから変更できます。

4. 必要に応じて、強弱記号パネルの「**局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)**」セクションまたは「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションで入力する表現テキストまたは修飾テキストをクリックします。

#### 結果

選択した強弱記号が入力されます。強弱記号は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページの設定に従い配置されます。声部固有の強弱記号は、上向き声部に入力した場合でも、デフォルトで譜表の下に配置されます。

ステップ入力中は、キャラットの位置に強弱記号が入力されます。声部固有の強弱記号は、キャラットの横に 4 分音符記号で示されている声部に追加されます。

既存の音符に強弱記号を追加すると、選択範囲の最初の音符に局部的強弱記号が追加され、選択範囲全体に段階的強弱記号が追加されます。

#### 補足

- *molto* などの一部の表現テキストは、局部的強弱記号の後ろに入力した場合でも前に表示されます。これは、表現テキストの配置の一般的な慣習に習っています。
- 段階的強弱記号は、楽譜領域で何も選択していないときに強弱記号パネルで段階的強弱記号をクリックして入力することもできます。そのあと、クリックして段階的強弱記号を入力し、ドラッグして任意の長さに調節します。

#### 手順終了後の項目

強弱記号のフレーズ内の強弱記号を移動したり、譜表に対する強弱記号の位置を変更したりできます。

#### 関連リンク

[強弱記号 \(620 ページ\)](#)

[局部的強弱記号を非表示にする \(631 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## コード記号の入力方法

Dorico Pro では、コンピューターキーボードや接続された MIDI キーボードでコード記号を入力できます。

#### 関連リンク

[コード記号 \(571 ページ\)](#)

[コード記号の入力 \(220 ページ\)](#)

[浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(571 ページ\)](#)

[コード記号入力中のナビゲーション \(219 ページ\)](#)

## コード記号のポップオーバー

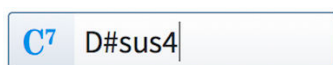
以下の表は、さまざまなコード記号の構成要素を入力するためにコード記号のポップオーバーに入力できるエンタリーの例です。これらの構成要素は自由に組み合わせて入力できます。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、コード記号のポップオーバーを開くことができます。

- [Shift]+[Q] を押します。
- 既存のコード記号を選択して [Return] を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「コード記号を作成 (Create Chord Symbol)」を選択します。
- 記譜ツールボックスにある「コード記号 (Chord Symbols)」を選択します。



ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エンタリーの例が入力されたコード記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「コード記号 (Chord Symbols)」ボタン

### 補足

複数のタイプのエンタリーを組み合わせて複雑なコード記号を作成できます。その場合、コード記号のポップオーバーにエンタリー間にスペースを入れずに続けて入力します。たとえば、以下のコード記号の場合は「EbLocrian」と入力します。

E<sup>b</sup>Loc.

## コード記号のルート

コード記号のルートのタイプ	ポップオーバーエンタリー
音符名 (英語表記) C、Db、F#、B など	「C」、「Db」、「F#」、「B」 など
音符名 (ドイツ語表記) C、Db、F#、H など	「C」、「Des」、「Fis」、「H」 など
固定ドソルフエージュ C、Db、F、F#、B など	「do」、「reb」、「so」、「so#」、「ti」 など
スケールディグリーを表わす Nashville 番号 Cメジャーの場合: C、Db、F#、B など	「1」、「2b」、「4#」、「7」 など



## コード記号のクオリティ

コード記号のクオリティ	ポップオーバーエントリー
メジャー	「maj」、「M」、「ma」またはルートのあとに何も入力しない。
マイナー	「m」、「min」、または「mi」
ディミニッシュ	「dim」、「di」、または「o」
オーギュメント	「aug」、「au」、「ag」、または「+」
ハーフディミニッシュ	「half-dim」、「halfdim」、または「hd」
6/9	「6/9」、「69」、または「%」

## コード記号の音程

音程	ポップオーバーエントリー
メジャー 7th	「^7」または「^」
メジャー 9th	「^9」、「maj9」、または「9maj7」

## コード記号のオルタレーション

コード記号のオルタレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
オルタレーション	「b5」、「#9」など
付加音	「add#11」、「addF#」、「addBb」など
サスペンション	「sus4」、「sus9」など
オミット	「omit3」、「no7」など

## オンコードのコード記号

オンコードのコード記号の例	ポップオーバーエントリー
G7/D	「G7,D」または「Gmaj7,D」
C(b5)/Eb	「CMb5/Eb」または「Cmajb5/Eb」
Fm/D#	「Fm/D#」または「Fmi/D#」

## ポリコード記号

---

ポリコード記号の例	ポップオーバーエントリー
G/E	「G;E」または「Gmaj;E」
Cmaj7/D	「CM7 D」または「Cmaj7 D」
Fm/D#	Fm D# Fmi D#

---

## 和音なしの記号

---

和音なしの記号	ポップオーバーエントリー
和音なし	「N.C.」、「NC」、「no chord」、または「none」

---

## モーダルコード記号

---

モーダルコード記号	ポップオーバーエントリー
イオニアン	ionian
ドリアン	dorian
フリジアン	phrygian
リディアン	lydian
ミクソリディアン	mixolydian
エオリアン	aeolian
ロクリアン	locrian
メロディックマイナー	melodicminor
ハーモニックマイナー	harmonicminor
ホールトーン	wholetone
オクタトニックまたはディミニッシュハーフホール	「diminishedhalfwhole」、 「diminishedsemitonetone」、 「octatonichalfwhole」、または 「octatonicsemitonetone」
オクタトニックまたはディミニッシュホールハーフ	「diminishedwholehalf」、 「diminishedtoneseemitone」、 「octatonicwholehalf」、または 「octatonictonesemitone」

---

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのコード記号があります。このリストは、さまざまなコード記号の入力に使用できるさまざまな構成要素を示すことを目的としています。

#### 補足

入力されるコード記号の外観は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページの設定によって異なります。コード記号のポップオーバーに入力したエントリーの構成は反映されません。たとえば、Cメジャーのコードを入力する際、「C」、「Cmaj」、「CM」のいずれを使用しても同じコード記号が入力されます。

#### 関連リンク

[コード記号 \(571 ページ\)](#)

## コード記号入力中のナビゲーション

ポップオーバーを毎回手動で別の位置に進めて開き直すことなく、複数のコード記号を入力できます。

### コンピューターキーボードによるナビゲーション

コード記号のポップオーバーを毎回閉じて開き直すことなく、ポップオーバーを移動して別の音符にコード記号を入力できます。

#### ポップオーバーのナビゲーション

#### キーボードショートカット

ポップオーバーを次の拍に進める

[Space]

ポップオーバーを前の拍に戻す

[Shift]+[Space]

ポップオーバーを次の小節の最初に進める

[Tab]

ポップオーバーを前の小節の最初に戻す

[Shift]+[Tab]

以下のうち、最も近い位置にポップオーバーを移動する [→]/[←]

- 次/前の音符
- 次/前の休符
- 次/前のリズムグリッド位置

ポップオーバーを次/前のコード記号に移動する。 [Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]

### MIDI キーボードによるナビゲーション

MIDI キーボードを使用して和音を入力する場合、初期設定では、和音を演奏したあとにポップオーバーが自動的に次の拍に進みます。この動作は、「**記譜 (Write)**」 > 「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」ページにある「**MIDI キーボードによるコード記号入力中の進み方 (Advance during chord symbol input via MIDI keyboard)**」オプションを使用して変更できます。

また、さまざまなナビゲーション動作を実行するように MIDI キーボードの特定のキーやボタンを定義することもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**MIDI Learn**」ボタンを使って、特定のキーを「**音符の入力 (Note Input)**」 > 「**コード記号の入力位置を進める (Advance Chord Symbol Input)**」コマンドに割り当てることができます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(51 ページ\)](#)

[MIDI コマンドの割り当て \(55 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(55 ページ\)](#)

## MIDI キーボードのコード記号の入力オプション

コード記号の入力中に MIDI キーボードで押したノートを Dorico Pro がどのように解釈するかについて、さまざまな設定を行なえます。

これらのオプションは、「記譜 (Write)」 > 「音符入力オプション (Note Input Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページにあります。以下のオプションを使用できます。

- 和音を転回形で演奏した場合にそれを反映するか、ルート位置で演奏したようにコード記号を記譜するか。
- オミットを記譜するかどうか。たとえば、C と E を演奏した場合、“C”または“C(omit5)”として記譜できます。
- 付加音とサスペンションをどのように記譜するか。
- ルート音とオンコードの間の複雑な異名同音の関係をどのように処理するか。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(145 ページ\)](#)

## コード記号の入力

コード記号のポップオーバーを使用して、既存の楽譜にコード記号を追加できます。音符の入力中にコード記号のポップオーバーを開くこともできますが、コード記号を入力すると音符の入力が終了します。

手順

1. 記譜モードで、最初のコード記号を入力する位置の音符または休符を選択します。
2. **[Shift]+[Q]** を押してコード記号のポップオーバーを開きます。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号のポップオーバーにコード記号を入力します。
  - コンピューターキーボードを使用して、適切な文字や数字を入力します。
  - MIDI キーボードを使用して和音を演奏します。
4. 必要に応じて、ポップオーバーを進めて次の音符でコード記号の入力を続けます。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

指定したコード記号が入力されます。

補足

コード記号の外観が、ポップオーバーに入力したものと異なる場合があります。たとえば、「D|C7」と入力した場合、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページの設定によっては、2つの和音が上下または左右に並んで表示されることがあります。

関連リンク

[コード記号 \(571 ページ\)](#)

## ポリコード記号の入力

ポリコード記号は、複数の異なる和音 (通常は 2 つ) を同時に演奏することを指します。MIDI キーボードによるコード記号の入力中にポリコードを入力できます。

---

### 手順

1. 記譜モードでコード記号のポップオーバーを開きます。
2. ポリコードの最初の和音を片手で演奏します。  
最初の和音の鍵盤は押さえたままにします。
3. もう一方の手で 2 番めの和音を演奏します。

---

### 結果

演奏した 2 つの和音はポリコード記号として入力されます。

---

### ヒント

ポリコードの入力は、2 つの和音をセミコロンまたはパイプ/バーティカルラインで区切って、コード記号のポップオーバーに入力する方法でも行なえます。

---

### 関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(216 ページ\)](#)

[MIDI キーボードのコード記号の入力オプション \(220 ページ\)](#)

## コード記号のルート音の指示

MIDI キーボードでコード記号を入力する際に、コード記号のルート音を指示できます。

---

### 手順

1. 記譜モードでコード記号のポップオーバーを開きます。
2. MIDI キーボードの使用中に以下のいずれかの操作を行ない、コード記号のルート音を指示します。
  - まず 1 本の指でルート音を演奏し、ルート音を押さえたまま和音の残りの音符を演奏します。
  - 和音のすべての音符を同時に演奏し、それらをすべて放したあと、ルート音を再び演奏します。

---

### ヒント

ルート音だけで構成されるコード記号を入力する際は、1 つの音符だけを演奏します。

---

### 関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(216 ページ\)](#)

[MIDI キーボードのコード記号の入力オプション \(220 ページ\)](#)

## コード記号のオンコードの指示

MIDI キーボードでコード記号を入力する際に、和音にオンコードが含まれていることを指示できます。

---

### 手順

1. 記譜モードでコード記号のポップオーバーを開きます。
2. MIDI キーボードで以下のいずれかの操作を行ない、どの音符が和音のオンコードであるかを指示します。
  - オンコードを一番低い音にして、和音のすべての音符を同時に演奏します。

- 和音とオンノートを別々に演奏します。オンコード以外の和音の鍵盤を押さえ、それらの鍵盤を押さえたままオンコードを演奏します。

関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(216 ページ\)](#)

[MIDI キーボードのコード記号の入力オプション \(220 ページ\)](#)

## 音部記号とオクターブ線の入力方法

音部記号とオクターブ線は、音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、音部記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

音部記号とオクターブ線はどちらも音符のピッチと音域に影響するため、同じポップオーバーとパネルを使用します。

関連リンク

[音部記号 \(587 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(593 ページ\)](#)

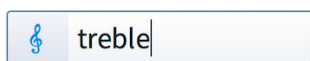
## 音部記号とオクターブ線のポップオーバー

以下の表は、さまざまな音部記号とオクターブ線の入力に使用できる音部記号とオクターブ線のポップオーバーのエントリーの例です。

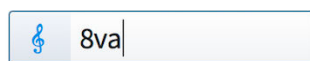
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、音部記号とオクターブ線のポップオーバーを開くことができます。

- [Shift]+[C] を押します。
- 既存の音部記号またはオクターブ線を選択して [Return] を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「音部記号を作成 (Create Clef)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



音部記号のエントリーの例が入力された音部記号とオクターブ線のポップオーバー



オクターブ線のエントリーの例が入力された音部記号とオクターブ線のポップオーバー



記譜ツールボックスの「音部記号 (Clefs)」ボタン

## 音部記号

### 音部記号のタイプ

ト音記号

ヘ音記号

テナー八音記号

アルト八音記号

ト音記号、1 オクターブ下

### ポップオーバーエントリー

「g」、「G」、「sol」、または「treble」

「f」、「F」、「fa」、または「bass」

「ct」、「CT」、「ut4」、または「tenor」

「ca」、「CA」、「ut3」、または「alto」

「g8ba」、「G8ba」、「g8d」、「G8d」、「treble8ba」、または「treble8d」

音部記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
ト音記号、2 オクターブ下	「g15ba」、「G15ba」、「g15d」、「G15d」、 「treble15ba」、または「treble15d」
ト音記号、1 オクターブ上	「g8va」、「G8va」、「g8u」、「G8u」、「treble8va」、 または「treble8u」
ト音記号、2 オクターブ上	「g15ma」、「G15ma」、「g15u」、「G15u」、 「treble15ma」、または「treble15u」
アルト八音記号、1 オクターブ下	「ca8ba」、「CA8ba」、「ca8d」、「CA8d」、 「alto8ba」、または「alto8d」
テノール八音記号、1 オクターブ下	「ct8ba」、「CT8ba」、「ct8d」、「CT8d」、 「tenor8ba」、または「tenor8d」
ヘ音記号、1 オクターブ下	「f8ba」、「F8ba」、「f8d」、「F8d」、「bass8ba」、ま たは「bass8d」
ヘ音記号、2 オクターブ下	「f15ba」、「F15ba」、「f15d」、「F15d」、 「bass15ba」、または「bass15d」
ヘ音記号、1 オクターブ上	「f8va」、「F8va」、「f8u」、「F8u」、「bass8va」、ま たは「bass8u」
ヘ音記号、2 オクターブ上	「f15ma」、「F15ma」、「f15u」、「F15u」、 「bass15ma」、または「bass15u」
無音程打楽器	perc
4 弦タブラチュア	tab4
6 弦タブラチュア	tab6
バリトンバス記号	baritonebass
バリトン記号	「baritone」または「ut5」
メゾソプラノ記号	「mezzo」または「ut2」
ソプラノ八音記号	「soprano」または「ut1」
低バス記号	subbass
非表示の記号	invisible

#### 補足

音部記号パネルには、インド太鼓記号やパーカッション記号 (長方形) などの音部記号もあります。

## オクターブ線

オクターブ線の機能	ポップオーバーエントリ
音符を 1 オクターブ上に移動	「8va」、「8」、「8u」、または「1u」
音符を 2 オクターブ上に移動	「15ma」、「15」、「15u」、または「2u」
音符を 3 オクターブ上に移動	「22ma」、「22」、「22u」、または「3u」
音符を 1 オクターブ下に移動	「8ba」、「8vb」、「8d」、または「1d」
音符を 2 オクターブ下に移動	「15ba」、「15vb」、「15d」、または「2d」
音符を 3 オクターブ下に移動	「22ba」、「22vb」、「22d」、または「3d」
<i>Loco</i> の指示	loco
オクターブ線の終了	「 」または「stop」
たとえば、ステップ入力中にオクターブ線が終了する位置を指定するには「stop」と入力します。	

関連リンク

[音部記号 \(587 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(593 ページ\)](#)

## 音部記号パネル

音部記号パネルには、珍しい音部記号や古楽の音部記号を含め、Dorico Pro で使用できるさまざまな音部記号とオクターブ線が含まれています。

- 音部記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

音部記号パネルには以下のセクションがあります。

### 一般的な音部記号 (Common Clefs)

ト音記号やバス記号など、最もよく使われる音部記号が含まれています。

### その他の音部記号 (Uncommon Clefs)

非表示の記号や小バイオリン記号など、使用頻度の低い音部記号が含まれています。

### 古楽の音部記号 (Archaic Clefs)

メゾソプラノ記号や低バス記号など、現在はほとんど使用されない音部記号が含まれています。

### オクターブ線 (Octave Lines)

最大 3 オクターブ上または下を指示するオクターブ線と *loco* 線が含まれています。



## ポップオーバーを使った音部記号の入力

音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用して音部記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。このポップオーバーを使用して既存の音部記号のタイプを変更することもできます。

Dorico Pro では、音部記号を非表示にはできません。したがって、音部記号を表示させない場合、不可視の音部記号を入力する必要があります。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 新しい音部を開始する位置にある音符を選択します。
2. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
3. 使用する音部記号のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、「bass」または「G8ba」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

ステップ入力中、キュレットの位置に音部記号が入力されます。音部記号の入力後は音符の入力状態になるため、続けて音符と音部記号を必要なだけ入力できます。

楽譜に音部記号を入力すると、選択した符頭のすぐ前に音部記号が追加されます。追加した音部記号は、次の音部記号の位置またはフローの終わりまでにある譜表のすべての音符に適用されます。

音部記号は、次の音部記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置までにある譜表のすべての音符に適用されます。

### 関連リンク

[音部記号 \(587 ページ\)](#)


## パネルを使った音部記号の入力

音部記号パネルを使用して音部記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 補足

- Dorico Pro では、音部記号を非表示にはできません。したがって、音部記号を表示させない場合、不可視の音部記号を入力する必要があります。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 新しい音部を開始する位置にある音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして、音部記号パネルを表示します。  

3. 音部記号パネルで入力する音部記号をクリックします。

#### 結果

ステップ入力中、キャレットの位置に音部記号が入力されます。音部記号の入力後は音符の入力状態になるため、続けて音符と音部記号を必要なだけ入力できます。

楽譜に音部記号を入力すると、選択した符頭のすぐ前に音部記号が追加されます。追加した音部記号は、次の音部記号の位置またはフローの終わりまでにある譜表のすべての音符に適用されます。

音部記号は、次の音部記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置までにある譜表のすべての音符に適用されます。

#### 関連リンク

[音部記号 \(587 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったオクターブ線の入力

音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用してオクターブ線を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - オクターブ線を追加する音符を選択します。
2. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
3. 使用するオクターブ線のエントリをポップオーバーに入力します。  
たとえば、音符を 1 オクターブ上げるオクターブ線の場合は「8va」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
5. 必要に応じて、ステップ入力中に **[Space]** を押すと、キャレットが進みオクターブ線が延長されます。  
また、音符を続けて入力するとオクターブ線は自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、ステップ入力中に音部記号とオクターブ線のポップオーバーをもう一度開き、以下のいずれかを入力するとオクターブ線が停止します。
  - |
  - stop

---

#### 結果

ステップ入力中はキャレットの位置からオクターブ線が入力されます。オクターブ線を停止すると、オクターブ線はキャレットの位置で終了します。

既存の音符にオクターブ線を追加する場合、オクターブ線が音符を記譜の上または下のどちらで演奏するよう指示しているかによって、選択範囲の上または下のいずれかに追加されます。

#### ヒント

オクターブ線は入力後に長さを変更することもできます。

---

#### 関連リンク

[音部記号とオクターブ線のポップオーバー \(222 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(593 ページ\)](#)

[オクターブ線の長さを変更する \(594 ページ\)](#)


## パネルを使ったオクターブ線の入力

音部記号パネルを使用してオクターブ線を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - オクターブ線を追加する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして、音部記号パネルを表示します。
3. 音部記号パネルで入力するオクターブ線をクリックします。  
また、既存の音符にオクターブ線を追加する場合は、音部記号パネルでまず使用するオクターブ線をクリックしたあと、クリックアンドドラッグで任意の長さのオクターブ線を引くこともできます。

### 結果

ステップ入力中は、キャレットの位置にオクターブ線が入力されます。ただし、マウスで入力する場合、音符を続けて入力してもオクターブ線は自動的に延長されません。

既存の音符にオクターブ線を追加する場合、オクターブ線が音符を記譜の上または下のどちらで演奏するよう指示しているかによって、選択範囲の上または下のいずれかに追加されます。

### ヒント

オクターブ線は入力後に長さを変更することもできます。

### 関連リンク

- [オクターブ線 \(593 ページ\)](#)
- [オクターブ線の長さを変更する \(594 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## 延長記号と休止記号の入力方法

延長記号と休止記号は、記譜モードで延長記号と休止記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、延長記号と休止記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

### 関連リンク

- [延長記号と休止記号 \(671 ページ\)](#)
- [中間休止記号を入力するときの正しい配置 \(231 ページ\)](#)

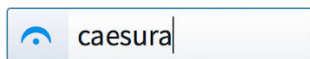
## 延長記号と休止記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな延長記号と休止記号を入力するために延長記号と休止記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、延長記号と休止記号のポップオーバーを開くことができます。

- [Shift]+[H] を押します。
- 既存の延長記号または休止記号を選択して [Return] を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「延長記号または休止記号を作成 (Create Hold or Pause)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された延長記号と休止記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ボタン

### 延長記号と休止記号のタイプ

### ポップオーバーエントリー

フェルマータ

「fer」または「fermata」



非常に長いフェルマータ

fermataverylong



長いフェルマータ

fermatalong



短いフェルマータ

fermatashort



非常に短いフェルマータ

fermataveryshort



短いフェルマータ (Henze)

fermatashorthenze



長いフェルマータ (Henze)

fermatalonghenze



カーリュー (Britten)

curlew



中間休止記号 (Caesura)

「caesura」または「//」



延長記号と休止記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
太い中間休止記号 (Thick caesura) 	caesurathick
婉曲した中間休止記号 (Curved caesura) 	caesuracurved
短い中間休止記号 (Short caesura) 	caesurashort
ブレス記号 (コンマ) 	「breathmarkcomma」、 <code>comma</code> 、または「,」 (コンマ)
ブレス記号 (チェックマーク) 	breathmarktick
ブレス記号 (上げ弓) 	breathmarkupbow
ブレス記号 (Salzedo) 	breathmarksalzedo

#### 補足

カーリユー記号は元々、Benjamin Britten が日本の能楽に着想を得て作曲した教会上演用寓話“カーリユー・リヴァー”のために考案したものです。この記号は、異なるテンポの音楽において、音符または休符をタイミングが揃うまで伸ばすようプレイヤーに指示します。

#### 関連リンク

- [延長記号と休止記号 \(671 ページ\)](#)
- [フェルマータのタイプ \(671 ページ\)](#)
- [中間休止記号のタイプ \(673 ページ\)](#)
- [ブレス記号のタイプ \(673 ページ\)](#)

## 延長記号と休止記号パネル

延長記号と休止記号パネルでは、フェルマータの代替バージョンを含め、Dorico Pro で使用できるさまざまなタイプの延長記号と休止記号を入力できます。

- 延長記号と休止記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

延長記号と休止記号パネルには以下のセクションがあります。

- フェルマータ (Fermatas)
- ブレス記号 (Breath Marks)
- 中間休止記号 (Caesuras)

#### 補足

延長記号と休止記号は今のところ再生時の効果を持ちませんが、将来のバージョンでは効果が与えられることが予定されています。

---

## ポップオーバーを使った延長記号と休止記号の入力

延長記号と休止記号のポップオーバーを使用して延長記号と休止記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 延長記号または休止記号を追加する音符を選択します。

#### 補足

延長記号または休止記号は一度に1つの音符にしか追加できません。

---

2. **[Shift]+[H]** を押して延長記号や休止記号のポップオーバーを開きます。
  3. 使用する延長記号または休止記号をポップオーバーに入力します。  
たとえば、「fermata」または「caesura」と入力します。
  4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
- 

#### 結果

ステップ入力中、キャラットの位置に、指定した延長記号または休止記号が入力されます。  
フェルマータは、選択した音符の上と、すべての譜表で同じ位置にあるすべての音符または休符の上、またはフェルマータの終わりに対応する音符、調号、または休符の位置に表示されます。  
ブレス記号は、キャラットまたは選択した音符の右側に表示されます。  
中間休止記号は、キャラットまたは選択した音符の左側と、すべての譜表の同じ位置に表示されます。

#### 関連リンク

[延長記号と休止記号 \(671 ページ\)](#)

## パネルを使った延長記号と休止記号の入力

延長記号と休止記号パネルを使用して延長記号と休止記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

---

#### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。

- 延長記号または休止記号を追加する音符を選択します。

#### 補足

延長記号または休止記号は一度に1つの音符にしか追加できません。

2. 記譜ツールボックスで「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックして延長記号と休止記号パネルを表示します。



3. 延長記号と休止記号パネルで、入力する延長記号または休止記号をクリックします。

#### 結果

ステップ入力中、キャレットの位置に、指定した延長記号または休止記号が入力されます。

フェルマータは、選択した音符の上と、すべての譜表で同じ位置にあるすべての音符または休符の上、またはフェルマータの終わりに対応する音符、調号、または休符の位置に表示されます。

ブレス記号は、キャレットまたは選択した音符の右側に表示されます。

中間休止記号は、キャレットまたは選択した音符の左側と、すべての譜表の同じ位置に表示されます。

#### 関連リンク

[延長記号と休止記号 \(671 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## 中間休止記号を入力するときの正しい配置

中間休止記号は通常、小節の終了位置、小節線の前に配置されます。Dorico Pro では、中間休止記号はその記号を表示する位置の直後の音符に連結する必要があります。そうすることで、Dorico Pro は中間休止記号を自動的に正しく配置できます。

マウス入力の環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、中間休止記号を小節線の左側に入力するには次の小節の最初の音符をクリックする必要があります。または、小節線を直接クリックします。



正しく入力された中間休止記号の例。点線の連結線が小節線のあとの符頭に連結されており、中間休止記号が小節線の前に正しく配置されていることが分かる



正しく入力されていない中間休止記号の例。小節線の左側をクリックしたことで、中間休止記号がその小節の最後の8分音符に連結されてしまっている

正しく入力すると、点線の連結線によって中間休止記号と小節線の直後の符頭が連結されます。

点線の連結線によって中間休止記号と小節線の直後の符頭が連結されない場合は、中間休止記号を削除して入力しなおしてください。中間休止記号が正しく入力されないとき、スペーシングの問題が生じる場合があります。

#### 関連リンク

[延長記号と休止記号 \(671 ページ\)](#)

[中間休止記号のタイプ \(673 ページ\)](#)

## 装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法

アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションなどの装飾音は、装飾音のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、装飾音パネルを使用してマウスで入力することもできます。

装飾音とアルペジオ記号はステップ入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできますが、グリッサンドラインをステップ入力中に入力することはできません。グリッサンドラインは既存の音符への追加によってのみ入力できます。

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

関連リンク

[装飾音 \(735 ページ\)](#)

[アルペジオ記号 \(751 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(760 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(766 ページ\)](#)

[ジャズの装飾音 \(767 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った装飾音の入力 \(235 ページ\)](#)

[パネルを使った装飾音の入力 \(236 ページ\)](#)

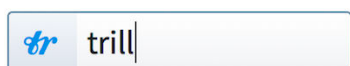
### 装飾音のポップオーバー

以下の表は、さまざまな装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力に使用できる、装飾音のポップオーバーのエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、装飾音のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[O]** を押します。
- 既存の装飾音を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「装飾音を作成 (Create Ornament)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。







エントリーの例が入力された装飾音のポップオーバー



記譜ツールボックスの「装飾音 (Ornaments)」ボタン

### 装飾音

装飾音のタイプ	ポップオーバーエントリー
トリル: 	「tr」または「trill」
ショートトリル: 	shorttr
ターン: 	turn
モルデント: 	「mor」または「mordent」



## トリル音程

トリル音程	ポップオーバーエントリー
メジャー 2nd	「tr 2」または「tr M2」
マイナー 3rd	tr m3
パーフェクト 5th	tr p5
オーギュメント 4th	tr aug4
ディミニッシュ 5th	tr dim5

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのトリルの音程があります。このリストは、さまざまなタイプのトリルの音程を入力するために、エントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

## ジャズの装飾音

ジャズの装飾音のタイプ	ポップオーバーエントリー
フリップ ↘	flip
スミア ~	smear
ジャズターン ⚡	「jazz」または「shake」
ベンド U	bend

## アルペジオ記号

アルペジオ記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
上向アルペジオ記号	「arp」、「arpup」、または「arpeggioup」
下向アルペジオ記号	「arpdown」または「arpeggiodown」
ノンアルペジオ記号	「nonarp」または「nonarpeggio」

## グリッサンドライン

グリッサンドラインのタイプ	ポップオーバーエントリー
グリッサンド (直線)	gliss

---

グリッサンドラインのタイプ	ポップオーバーエントリー
グリッサンド (波線)	glisswavy

---

### ジャズアーティキュレーション

---

ジャズアーティキュレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
プロップ (バンド)	plop
プロップ (スムーズ)	plopsmooth
スクープ	scoop
ドイト (バンド)	doit
ドイト (スムーズ)	doitsmooth
フォール (バンド)	fall
フォール (スムーズ)	fallsmooth

---

#### ヒント

記譜モードのウィンドウの右側にある装飾音パネルでは、その他の装飾音も使用できます。

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

#### 関連リンク

- [ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力 \(236 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(238 ページ\)](#)
- [装飾音 \(735 ページ\)](#)
- [トリルの音程 \(743 ページ\)](#)
- [アルペジオ記号 \(751 ページ\)](#)
- [グリッサンドライン \(760 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(766 ページ\)](#)
- [ジャズの装飾音 \(767 ページ\)](#)

## 装飾音パネル

装飾音パネルでは、ジャズアーティキュレーション、アルペジオ記号、グリッサンドラインなど、さまざまなタイプの装飾音を入力できます。

- 装飾音パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

装飾音パネルには以下のセクションがあります。

### ジャズ (Jazz)

ベンド、スクープ、フォールなど、ジャズ音楽で一般的に使用される装飾音とピッチオクタレーションがあります。

### バロックと古典派 (Baroque and Classical)

モルデント、ターン、トリルなど、バロック音楽やクラシック音楽で一般的に使用される装飾音があります。

### アルペジオ (Arpeggiation)

さまざまなタイプのアルペジオ記号があります。

#### 補足

ステップ入力中にマウスを使ってアルペジオ記号を入力することはできません。

---

### グリッサンド (Glissandi)

さまざまなタイプのグリッサンドラインがあります。

## ポップオーバーを使った装飾音の入力

装飾音のポップオーバーを使用して装飾音とジャズの装飾音を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- 装飾音を追加する音符を1つ選択します。
- トリルを追加する音符を選択します。

#### 補足

装飾音は一度に1つの音符にしか追加できません。

---

2. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。

3. 使用する装飾音のエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、トリルの場合は「trill」、モルデントの場合は「mor」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

---

### 結果

ステップ入力中、キャレットの位置に装飾音が入力されます。トリルはキャレットの位置に入力された音符の音価の分だけ継続し、状況によってデフォルトの音程はメジャー 2nd またはマイナー 2nd のどちらかになります。トリルの音程を指定した場合、選択範囲の最初の音符にのみ音程は適用されません。ただし、トリルの途中で音程を変更することもできます。

既存の音符に装飾音を追加する場合、装飾音は選択した音符の上に追加されます。トリルは最初に選択した音符の上に入力され、選択した後続の音符をまたがって延長線が表示されます。

### 関連リンク

[装飾音 \(735 ページ\)](#)

[ジャズの装飾音 \(767 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[トリルの途中でトリルの音程を変更する \(745 ページ\)](#)

## パネルを使った装飾音の入力

装飾音パネルを使用して装飾音とジャズの装飾音を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 装飾音を追加する音符を1つ選択します。
  - トリルを追加する音符を選択します。

### 補足

装飾音は一度に1つの音符にしか追加できません。

2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルで、入力する装飾音をクリックします。

### 結果

ステップ入力中、キャレットの位置に装飾音が入力されます。トリルは、デフォルトの4分音符のデュレーションで入力されます。

既存の音符に装飾音を追加する場合、装飾音は選択した音符の上に追加されます。トリルは最初に選択した音符の上に入力され、選択した後続の音符をまたがって延長線が表示されます。

### 関連リンク

[装飾音 \(735 ページ\)](#)

[ジャズの装飾音 \(767 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力

装飾音のポップオーバーを使用してアルペジオ記号を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。ピアノやハーブなどで、同じインストゥルメントに属する異なる譜表の音符間に譜表をまたぐアルペジオ記号を入力することもできます。

### 補足

アルペジオ記号は一度に1つの音符または和音にしか入力できません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - アルペジオ記号を追加する既存の音符を選択します。

#### 補足

- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できません。
  - 同じ声部の選択した位置にあるすべての音符にアルペジオ記号が追加されます。
2. ステップ入力中は、[Q] を押して和音の入力を開始します。
  3. [Shift]+[O] を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
  4. 使用するアルペジオ記号のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、上向アルペジオの場合は「arpup」、下向アルペジオの場合は「arpdown」と入力します。
  5. [Return] を押してポップオーバーを閉じます。
  6. ステップ入力中は、使用する音符を入力します。

#### 結果

ステップ入力中は、キャラットの位置にアルペジオ記号が入力されます。

既存の音符にアルペジオ記号を追加した場合は、選択した音符または和音の左側にアルペジオ記号が入力されます。

アルペジオ記号の長さは、選択した声部のその位置にあるすべての音符の範囲全体にかかるように自動的に調整されます。

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

[アルペジオ記号 \(751 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[和音の入力 \(171 ページ\)](#)

## パネルを使ったアルペジオ記号の入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符にアルペジオ記号を入力できます。ピアノやハーブなどで、同じインストゥルメントに属する異なる譜表の音符間に譜表をまたぐアルペジオ記号を入力することもできます。

#### 補足

- 1つの音符または和音に一度に入力できるアルペジオ記号は1つのみです。また、ステップ入力中にマウスを使ってアルペジオ記号を入力することはできません。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、譜表および声部をまたぐアルペジオ記号は作成できません。

#### 手順

1. 記譜モードで、アルペジオ記号を追加する既存の音符を選択します。

#### 補足

- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できません。
  - 同じ声部の選択した位置にあるすべての音符にアルペジオ記号が追加されます。
2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルの「アルペジオ (Arpeggiation)」セクションで、使用するアルペジオ記号をクリックします。

#### 結果

選択した音符または和音の左側に、指定したアルペジオ記号が入力されます。アルペジオ記号の長さは、選択した声部のその位置にあるすべての音符の範囲全体にかかるように自動的に調整されます。

#### 関連リンク

[アルペジオ記号 \(751 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、既存の音符の間にグリッサンドラインを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもグリッサンドを入力できます。

#### 補足

ステップ入力中はグリッサンドラインを入力できません。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - グリッサンドラインを開始する音符
  - グリッサンドラインにつなげる音符 2 つ

#### ヒント

2 つの音符は声部が異なってもかまいません。

2. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
3. 使用するグリッサンドラインのエントリーをポップオーバーに入力します。
  - 直線のグリッサンドラインを使用するには「gliss」と入力します。
  - 波線のグリッサンドラインを使用するには「glisswavy」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

2 つの音符を選択した場合、それらの音符の間に、指定したグリッサンドラインが入力されます。

1 つの音符を選択した場合は、選択したノートの位置からグリッサンドラインが始まり、譜表の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。

#### 補足

- 譜表の最後の音符にグリッサンドラインを入力することはできません。
- グリッサンドラインを入力した場合、周辺の音符や、選択した音符と音符の間にある休符は自動的に調整されません。グリッサンドテキストが表示される場合、テキストが音符や休符に重なる可能性があります。その場合、グリッサンドラインのグリッサンドテキストの表示をオフにするなどの設定を行なうことをおすすめします。

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(760 ページ\)](#)

[グリッサンドのテキストを個別に変更する \(762 ページ\)](#)  
[グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する \(763 ページ\)](#)

## パネルを使ったグリッサンドラインの入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符の間にグリッサンドラインを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもグリッサンドを入力できます。

### 補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、クリックした音符とその直後の音符との間にのみグリッサンドラインを入力できます。

- ステップ入力中はグリッサンドラインを入力できません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - グリッサンドラインを開始する音符
  - グリッサンドラインにつなげる音符 2 つ

### ヒント

2 つの音符は声部が異なってもかまいません。

2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルで、使用するグリッサンドラインのスタイルをクリックします。

- **グリッサンド (直線) (Glissando (Straight))**



- **グリッサンド (波線) (Glissando (Wavy))**



### 結果

2 つの音符を選択した場合、それらの音符の間に、指定したグリッサンドラインが入力されます。

1 つの音符を選択した場合は、選択したノートの位置からグリッサンドラインが始まり、譜表の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。

### 補足

- 譜表の最後の音符にグリッサンドラインを入力することはできません。
- グリッサンドラインを入力した場合、周辺の音符や、選択した音符と音符の間にある休符は自動的に調整されません。グリッサンドテキストが表示される場合、テキストが音符や休符に重なる可能性があります。その場合、グリッサンドラインのグリッサンドテキストの表示をオフにするなどの設定を行なうことをおすすめします。

### 関連リンク

[グリッサンドライン \(760 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力

装飾音のポップオーバーを使用してジャズアーティキュレーションを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

フリップやジャズターンなどのジャズの装飾音は、他の装飾音と同じ方法で入力できます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ジャズアーティキュレーションを追加する音符を選択します。
2. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
3. 使用するジャズアーティキュレーションのエントリーをポップオーバーに入力します。たとえば、スクープの場合は「scoop」、フォールの場合は「fall」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

指定したジャズアーティキュレーションが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは前に入力した音符になります。

### 補足

ポップオーバーを使用すると、すべてのジャズアーティキュレーションは線のスタイルに関するプロジェクト全体の設定に従います。タイプや長さは入力したあとでも変更できます。

パネルを使用すると、ジャズアーティキュレーションを入力するときに線のスタイルを指定できます。

### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った装飾音の入力 \(235 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(766 ページ\)](#)

[既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する \(770 ページ\)](#)

[スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する \(770 ページ\)](#)

## パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力

装飾音パネルを使用してジャズアーティキュレーションを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

- フリップやジャズターンなどのジャズの装飾音は、他の装飾音と同じ方法で入力できます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ジャズアーティキュレーションを追加する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。





3. 装飾音パネルで、「ジャズ (Jazz)」セクションから使用するジャズアーティキュレーションをクリックします。

#### 結果

指定したジャズアーティキュレーションが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは前に入力した音符になります。

#### 関連リンク

[パネルを使った装飾音の入力 \(236 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## 演奏技法とペダル線の入力方法

演奏技法は、演奏技法のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、演奏技法パネルを使用してマウスで入力することもできます。ペダル線と演奏技法はどちらもインストゥルメントによって生成されるサウンドに影響を与えるため、Dorico Pro ではペダル線を演奏技法と見なします。

#### 関連リンク

[演奏技法 \(798 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った演奏技法の入力 \(245 ページ\)](#)

[パネルを使った演奏技法の入力 \(245 ページ\)](#)

## 演奏技法のポップオーバー

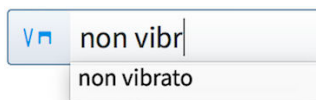
以下の表は、演奏技法、ペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示の入力に使用できる演奏技法のポップオーバーのエントリーの例です。

演奏技法のポップオーバーに演奏技法を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な演奏技法がメニューに予測表示されます。そこから使用する演奏技法を選択できます。

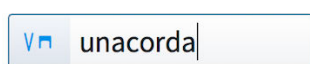
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、演奏技法のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[P]** を押します。
- 既存の演奏技法を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**演奏技法を作成 (Create Playing Technique)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



演奏技法を入力するためのエントリーの例が入力された演奏技法のポップオーバー



ペダル線を入力するためのエントリーの例が入力された演奏技法のポップオーバー



記譜ツールボックスの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ボタン

## 演奏技法

### 演奏技法

ビブラート

### ポップオーバーエントリー

vibrato

演奏技法	ポップオーバーエントリー
センツァ・ビブラート	senza vibrato
ナトゥラーレ (nat.)	nat
コン・ソルディーノ	con sord
息を強く吹き込む	strong air pressure
ダブルタンギング	double-tongue
下げ弓	downbow
上げ弓	upbow
スル・ポンティチェッロ	sul pont
スル・タスト	sul tast
ポコ・スル・タスト	pst
ピチカート	pizz
スピッカート	spicc
アルコ	arco
舌を鳴らす (Stockhausen)	tongue click
指を鳴らす (Stockhausen)	finger click
ビブラフォンモーターオン	motor on
ビブラフォンモーターオフ	motor off
オープン	open
ダンブ	damp
ダンブ (大)	damp large
フルバレ	full barre
ハーフバレ	half barre
ストラムアップ	strum up
ストラムダウン	strum down
左手	lh

演奏技法	ポップオーバーエントリー
右手	rh

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くの有効な演奏技法があります。このリストは、さまざまなタイプの一般的な演奏技法を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

演奏技法の正しいエントリーがわからない場合は、演奏技法の一部を入力してみて、ポップオーバーメニューにその演奏技法が表示されるかを確認してください。

#### 補足

演奏技法は特定の例に対応するため、上記のように入力するか、ポップオーバーメニューから選択する必要があります。

## ペダル線

ペダル線、リテイク、またはペダルの強さの変更指示のタイプ	ポップオーバーエントリー
サスティンペダル線	ped
サスティンペダルの強さを 1/4 に設定	1/4
サスティンペダルの強さを 1/2 に設定	r
サスティンペダルの強さを 3/4 に設定	3/4
サスティンペダルを完全に踏み込む	1
サスティンペダル線のリテイク	「^」、「notch」、または「retake」
サスティンペダル線のリテイクを削除	nonotch
サスティンペダル線を終了	*
ソステヌートペダル線	sost
ソステヌートペダル線を終了	s*
ウナコルダペダル線	unacorda
ウナコルダペダル線を終了	u*

#### 関連リンク

[演奏技法 \(798 ページ\)](#)

[ペダル線 \(779 ページ\)](#)

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(780 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する \(247 ページ\)](#)

## 演奏技法パネル

演奏技法パネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまな演奏技法がインストゥルメントファミリーごとに表示されます。ペダル線は「**キーボード (Keyboard)**」セクションにあります。

- 演奏技法パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

演奏技法パネルには以下のセクションがあります。

### 一般 (Common)

“「ミュート (mute)」や“「レガード (legato)」”など、他の複数のインストゥルメントファミリーにも適用できる一般的な演奏技法が含まれています。

### 木管楽器 (Wind)

“「キークリック (key clicks)」や“「笛のような音 (whistle tone)」”など、通常は木管楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 金管楽器 (Brass)

“「カップミュート (cup mute)」や“「ストップ (stopped)」”など、通常は金管楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 無音程打楽器 (Unpitched Percussion)

“「リム (rim)」や“「なぞる (scrape)」”など、通常は無音程打楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 有音程打楽器 (Pitched Percussion)

ビブラフォン用の“「モーター・オン (motor on)」や“「ハーフペダル (½ Ped.)」”など、通常は有音程打楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### キーボード (Keyboard)

“「サスティンペダル (Ped.)」やペダルの踏み込みの強さなど、通常は鍵盤楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### 合唱 (Choral)

“「口を開く (mouth open)」や“「舌を鳴らす (tongue click)」”など、通常は声にのみ使用する演奏技法が含まれています。

### 弦楽器 (Strings)

“「コル・レーニョ・バットウト (col legno battuto)」や“「下げ弓 (down bow)」”など、通常は弦楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

### ギター (Guitar)

“「ハーフバレ (half barré)」や“「ストラムアップ (strum up)」”など、通常はギターにのみ使用される演奏技法が含まれています。

### ヒント

- 各セクションのオプションにマウスポインターを合わせると、演奏技法の名前が表示されます。
- 各セクションの下部にあるアクションバーを使用して「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログにアクセスできます。

### 関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(804 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使った演奏技法の入力

演奏技法のポップオーバーを使用して演奏技法を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- 演奏技法を追加する音符を選択します。

### 補足

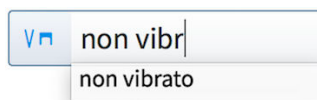
演奏技法は一度に1つの音符にしか追加できません。

2. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。

3. 使用する演奏技法のエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、「non vibrato」または「tongue click」と入力します。

演奏技法のポップオーバーに演奏技法を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な演奏技法がメニューに予測表示され、そこから使用する演奏技法を選択できます。



4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

演奏技法が選択した音符に追加されます。

ステップ入力中は、キャレットの位置に演奏技法が入力されます。

## パネルを使った演奏技法の入力

演奏技法パネルを使用して演奏技法を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

複数の音符に同じ演奏技法を追加する場合は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページの「**編集 (Editing)**」セクションにある「**マウスによる複数アイテムの作成を許可する (Allow multiple items to be created with the mouse)**」をオンにしておくと、音符ごとに演奏技法を選択しなおす必要がありません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- 演奏技法を追加する音符を選択します。

### 補足

演奏技法は一度に1つの音符にしか追加できません。

2. 記譜ツールボックスの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして、演奏技法パネルを表示します。



3. 演奏技法パネルで、入力する演奏技法をクリックします。

#### 結果

演奏技法が選択した音符に追加されます。

ステップ入力中は、環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合でも、演奏技法がキャレットの位置に入力されます。

#### 関連リンク

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ってペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力する

演奏技法のポップオーバーを使用してペダル線を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。ステップ入力中に音符を入力するとペダル線は自動的に延長されるため、適切な位置に到達したときにリテイクおよびペダルの強さの変更指示を入力できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - ペダル線を適用する音符を選択します。
2. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
3. 使用するペダル線のエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、サスティンペダル線であれば「ped」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。  
ペダル線が入力されます。
5. 必要に応じて、ステップ入力中に **[Space]** を押してキャレットを進め、ペダル線を延長します。  
また、音符を続けて入力するとペダル線は自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、ステップ入力中に適切な位置で演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示のエントリーをポップオーバーに入力してリテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力します。  
たとえば、リテイクの場合は「^」または「retake」と入力します。
7. 必要に応じて、ステップ入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、適切なエントリーをポップオーバーに入力してペダル線を終了します。  
たとえば、サスティンペダル線を終了するには「\*」と入力します。
8. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

ステップ入力中は、キャレットの位置でペダル線が始まり、キャレットの位置で終了します。  
既存の音符にペダル線を追加すると、選択した音符全体にペダル線が追加されます。

#### 関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(780 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する \(247 ページ\)](#)

[ペダル線の位置 \(785 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する

演奏技法のポップオーバーを使用して、既存のサスティンペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加できます。

### 補足

ソステヌートまたはウナコルダのペダル線にはリテイクおよびペダルの強さの変更指示を追加できません。

### 前提

サスティンペダル線を入力しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にあるアイテムを 1 つ選択します。
2. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
3. 任意のリテイクまたはペダルの強さの変更指示に対応する文字列をポップオーバーに入力します。たとえば、リテイクの場合は「^」または「retake」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

選択位置にリテイクまたはペダルの強さの変更指示が入力されます。

### 関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(780 ページ\)](#)

[演奏技法のポップオーバー \(241 ページ\)](#)


## パネルを使ってペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力する

演奏技法パネルを使用して、ペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力できます。

### 補足

- このパネルを使用する場合、ステップ入力中にペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示の入力はできません。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、ペダル線を適用する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして、演奏技法パネルを表示します。  

3. 演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで、入力するペダル線をクリックします。  
または、何も選択していない状態で、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで入力するペダル線をクリックし、スコア上でクリックアンドドラッグすると任意の長さのペダル線を作成できます。
4. 必要に応じて、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にあるアイテムを選択します。

5. 必要に応じて、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックします。
- 

#### 結果

選択範囲全体にかけてペダル線が入力されます。

#### 関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(780 ページ\)](#)

[パネルを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する \(248 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(147 ページ\)](#)

## パネルを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する

演奏技法パネルを使用して、既存のサスティンペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加できます。

#### 補足

ソステヌートまたはウナコルダのペダル線にはリテイクおよびペダルの強さの変更指示を追加できません。

---

#### 前提

サスティンペダル線を入力しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にあるアイテムを 1 つ選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力します。
    - 演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックします。
    - 「**編集 (Edit)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > [リテイクまたはペダルの強さの変更] を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

#### 結果

選択位置にリテイクまたはペダルの強さの変更指示が入力されます。

#### ヒント

または、スコア上で何も選択されていない場合は、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションでリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックしてからスコア上の位置をクリックすることで、それを入力できます。

---

#### 関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(780 ページ\)](#)

[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

## 歌詞の入力

歌詞のポップオーバーにテキストを入力して歌詞を入力できます。また、音符ごとに歌詞のポップオーバーを閉じて開き直すことなく、譜表上の次の音符に歌詞のポップオーバーを進めることができます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、歌詞を入力する最初の音符を選択します。



2. **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。  
初期設定では、歌詞のラインの入力が選択された状態で歌詞のポップオーバーが開きます。
3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって歌詞のタイプを変更します。
  - 歌詞のライン番号を変更するには、**[↓]** を押します。
  - 譜表の上に歌詞を入力するには、**[Shift]+[↑]** を押します。
  - コーラスのラインを入力するには、**[↑]** を押します。
  - 訳詞のラインを入力するには、**[Alt]+[↓]** を押します。
4. 選択した音符に追加する文字列または音節をポップオーバーに入力します。
  - 単一の音符に複数の文字列を入力するには、**[Shift]+[Alt]+[Space]** を押します。
  - 単一の文字列または音節内にハイフンを含めるには、**[Alt]+[-]** (ハイフン) を押します。
  - 歌詞にスラーを含めるには、**[\_]** (アンダースコア) を押します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、ポップオーバーを次の音符に進めます。
  - 単語全体、または多音節語の最後の音節を入力した場合は、**[Space]** を押します。
  - 多音節語の音節のうち最後の音節以外の1つを入力した場合は、**[-]** (ハイフン) を押します。
  - 音節のあとに延長線またはハイフンを表示しない場合は、**[→]** を押します。
6. 歌詞を入力する残りの音符に対して、文字列や音節を引き続きポップオーバーに入力します。
7. **[Return]** または **[Esc]** を押してポップオーバーを閉じます。  
譜表の最後の音符に到達すると、ポップオーバーは自動的に閉じます。

---

#### 結果

ポップオーバーに入力したテキストが、ポップオーバーの左側のアイコンで示されたタイプの歌詞として入力されます。

**[-]** を押してポップオーバーを次の音符に進めると、最後に入力した歌詞のあとにハイフンが表示されます。これは、複数の音符にまたがる多音節語に使用します。

**[Space]** を押してポップオーバーを進めると、最後に入力した歌詞のあとに間隔が表示されます。これは、多音節語の最後の音節や単音節語に使用します。

#### 補足

歌詞の間に間隔とハイフンのどちらを表示するかは、音節のタイプを変更することであとから変更できます。

---

#### 関連リンク

- [歌詞](#) (697 ページ)
- [歌詞入力中のナビゲーション](#) (251 ページ)
- [歌詞のタイプ](#) (699 ページ)
- [歌詞の音節のタイプ](#) (701 ページ)
- [歌詞のライン番号](#) (708 ページ)
- [歌詞のハイフンと歌詞の延長線](#) (705 ページ)

## 歌詞のポップオーバー

歌詞のポップオーバーを使用して、コーラスのラインや訳詞のラインを含む歌詞を入力できます。入力する歌詞のタイプはキーボードショートカットを使用していつでも変更できます。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、歌詞のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[L]** を押します。
- 既存の歌詞を選択して **[Return]** を押します。

- 「記譜 (Write)」 > 「歌詞を作成 (Create Lyrics)」を選択します。
- 記譜ツールボックスの「歌詞 (Lyrics)」をクリックします。

v1.

### 歌詞のライン

既存の歌詞を変更する場合を除き、ポップオーバーはライン 1 に歌詞を入力できる状態で自動的に開きます。

歌詞のポップオーバーの左側に表示される数字は、歌詞を入力する歌詞のラインを示しています。

1 when|

ライン 1 にエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

歌詞のポップオーバーが開いているときに [↓] を押すと、歌詞のライン番号が変更されます。

2 now|

ライン 2 にエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

### 譜表の上の歌詞のライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに [Shift]+[↑] を押すと、譜表の上のラインに歌詞を入力できます。

そのあと、[↑]と[↓]を押すと、譜表の上の歌詞のライン番号を変更できます。

### コーラスのライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに [↑] を押すと、コーラスのラインを入力できます。この操作は、譜表の上下に歌詞を入力しているときに行なえます。

“コーラスのライン”の場合はポップオーバーの左側に「c」が表示されます。

c Ooh,|

コーラスのラインにエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

### 訳詞のライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに [Alt]+[↓] を押すと、訳詞のラインを入力できます。

ポップオーバーの左側には、訳詞のラインを追加する歌詞のライン番号の横にアスタリスク (\*) が表示されます。

1\* quand|

訳詞のラインにエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

### 関連リンク

[歌詞の入力 \(248 ページ\)](#)

[歌詞 \(697 ページ\)](#)

[歌詞のタイプ \(699 ページ\)](#)

## 歌詞入力中のナビゲーション

歌詞のポップオーバーを閉じて開き直すことなく、歌詞のポップオーバーを移動して新しい歌詞を入力したり既存の歌詞を編集したりできます。

### ポップオーバーのナビゲーション

### キーボードショートカット

現在の文字列を終了し、ポップオーバーを次の音 [Space]  
符または和音に進める。

現在の音節を終了し、ポップオーバーを次の音符 [-] (ハイフン)  
または和音に進める。

延長線またはハイフンを表示せずにポップオーバー [→]  
を次の音符に進める。

カーソルを次/前の文字に進める。次/前の文字が [→]/[←]  
別の歌詞にある場合は、ポップオーバーがその歌  
詞に進む。

歌詞のライン内でポップオーバーを音節から音節 [Alt]+[→]/[Alt]+[←]  
に早送り/巻き戻しする。

ポップオーバーを進めずに文字列または音節内に [Shift]+[Alt]+[Space]  
スペースを追加する。

ポップオーバーを進めずに単一の文字列または音 [Alt]+[-] (ハイフン)  
節内にハイフンを追加する。

文字列または音節内にスラーを追加する。 [ ] (アンダースコア)

関連リンク

[歌詞 \(697 ページ\)](#)

[歌詞の入力 \(248 ページ\)](#)

## リハーサルマークの入力

マウスやキーボードを使ってリハーサルマークを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜にあとから追加することもできます。

### 補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - リハーサルマークを入力する位置にあるアイテムを選択します。たとえば、小節線や音符などです。

### 補足

複数のアイテムを選択していても、入力できるリハーサルマークは一度に1つのみです。

2. **[Shift]+[A]** を押します。  
または、記譜ツールボックスの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」をクリックします。



---

#### 結果

リハーサルマークは、選択した小節線の位置、あるいは音符、休符、またはオブジェクトの開始位置に入力されます。

リハーサルマークの順序は自動的に更新されるため、既存のリハーサルマークの前や間など、どのような順序で入力しても構いません。

#### 関連リンク

[リハーサルマーク](#) (813 ページ)

[マウス入力の設定](#) (147 ページ)

## マーカー/タイムコードの入力

特定の位置にマーカーを入力できます。プロジェクト全体の設定に応じて、マーカーと一緒にタイムコードも表示できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、マーカーを入力する位置に再生ヘッドを移動します。
2. **[Shift]+[Alt]+[M]** を押します。

---

#### 結果

再生ヘッドの位置にマーカーが入力されます。“Marker”というデフォルトテキストが表示されます。マーカーにタイムコードを表示するように選択している場合は、その位置を反映したタイムコードも表示されます。

#### ヒント

ビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションにある「**マーカーを追加 (Add Marker)**」をクリックしてマーカーを入力することもできます。この方法では再生ヘッドの位置にマーカーを入力するのではなく「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログにタイムコードを直接入力できるため、各マーカーのタイムコードがすでにわかっている場合などに便利です。

また、再生モードの**マーカー**トラックにマーカーを入力することもできます。

---

#### 手順終了後の項目

マーカーのテキストは変更できます。

#### 関連リンク

[マーカー](#) (822 ページ)

[タイムコード](#) (828 ページ)

[再生ヘッドの移動](#) (435 ページ)

[マーカーのタイムコードの表示/非表示](#) (830 ページ)

[マーカーに表示されるテキストの変更](#) (823 ページ)

[マーカートラック](#) (432 ページ)

[マーカートラックでのマーカーの入力](#) (432 ページ)

## ビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクション

記譜モードのビデオパネルにある「マーカー (Markers)」セクションでは、マーカーおよびタイムコードの入力と編集を行なえるほか、マーカーが重要であると定義できます。

- ビデオパネルは、記譜ツールボックスの「ビデオ (Video)」をクリックして表示/非表示にできます。

ビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションには、以下の列からなるマーカーの表があります。

### タイムコード (Timecode)

マーカーのタイムコードが表示されます。フィールドをダブルクリックしてタイムコードを編集できます。

### テキスト (Text)

マーカーのテキストが表示されます。フィールドをダブルクリックしてテキストを編集できます。

### 重要 (Imp.)

この列のチェックボックスをオンにすると、マーカーが重要であると定義できます。マーカーを重要であると定義すると、そのマーカーのエントリーは表内に太字で表示され、「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログで適切なテンポを検出する際の対象となります。

関連リンク

[マーカー \(822 ページ\)](#)

[タイムコード \(828 ページ\)](#)

## 「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログ

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログでは、特定のタイムコードにカスタムテキスト付きのマーカーを入力できます。

- 「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログを開くには、記譜モードでビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションにある「マーカーを追加 (Add Marker)」をクリックします。



Text:

Timecode:

Valid range: 00:00:00:00 - 00:02:16:24 (flow end: 00:06:40:12)

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログ

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### テキスト (Text)

マーカーに表示されるカスタムテキストを入力できます。

### タイムコード (Timecode)

マーカーを入力するタイムコードを指定できます。

### 有効範囲 (Valid range)

フローのタイムコードの範囲が表示されます。

関連リンク

[マーカー \(822 ページ\)](#)

[タイムコード \(828 ページ\)](#)

[マーカー/タイムコードの入力 \(252 ページ\)](#)

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(253 ページ\)](#)

## 「テンポを検出 (Find Tempo)」 ダイアログ

「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログでは、マーカーができるだけ強拍に近づくテンポを識別するなどして、重要なマーカーが最もうまく収まるテンポを計算できます。

- 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログを開くには、記譜モードでビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションにある「テンポを検出 (Find Tempo)」をクリックします。

### 補足

- 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログでは、単一のフローに含まれるマーカーだけが対象となります。対象となるフローは、テンポを設定するフローのアイテムを選択してダイアログを開くことで変更できます。
- 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログを使用するには、テンポを設定するフローに少なくとも1つのマーカーを入力し、少なくとも1つのマーカーを重要であると定義しておく必要があります。

Flow: Forest panorama

Beat unit:

Tempo range: 50 bpm — 200 bpm

Tempo increments: **Integral only** Allow increment by 0.25

**Tempos found:**

BPM	IFO	NFO	AFO
179	0.33	0.00	0.33
<b>86</b>	<b>0.67</b>	<b>0.00</b>	<b>0.67</b>
158	0.67	0.00	0.67
172	0.67	0.00	0.67
107	1.00	0.00	1.00
137	1.00	0.00	1.00

**Markers:**

Timecode	Text	Imp.	Fr. Off	Time Diff.	Not. Diff.
00:12:48:09	River	<input checked="" type="checkbox"/>	0	-0.001s	-1/1920
00:13:05:20	Waterfall	<input checked="" type="checkbox"/>	0	-0.010s	-7/1920
00:13:11:11	Deer leaping	<input checked="" type="checkbox"/>	2	0.078s	9/320

Selected tempo: = 86

「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログ

「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

### フロー (Flow)

テンポを設定するフローの名前が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。

### 拍の単位 (Beat unit)

テンポの対象となる拍の単位を変更できます。たとえば、フローの拍子記号が 6/8 の場合、拍の単位を付点 4 分音符に変更するといでしょう。

### テンポ範囲 (Tempo range)

対象とする最小/最大テンポを設定できます。

### テンポの増加 (Tempo increments)

精度に応じて提案されたテンポをフィルタリングできます。

- **整数のみ (Integral only)**  
整数のテンポ、つまり小数点以下がないテンポだけが提案されます。
- **0.25 ずつの増加を許可 (Allow increment by 0.25)**  
小数点以下が 0.25、0.5、0.75 のテンポの提案を許可します。

### 検出されたテンポ (Tempos found)

拍に対するマーカーの位置にどのように影響するかを確認するために選択できるテンポのリストが表示されます。このリストは、「**テンポ範囲 (Tempo range)**」や「**拍の単位 (Beat unit)**」などのオプションを変更すると自動的に更新されます。

このリストには、以下の情報を表示する列があります。

- **BPM**  
“1 分あたりの拍数 (beats per minute)”の略です。メトロノームマークの値に応じてさまざまなテンポが表示されます。
- **IFO**  
“Important Frames Off”の略です。前後いずれかに関わらず、重要なマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。
- **NFO**  
“Non-important Frames Off”の略です。前後いずれかに関わらず、重要ではないマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。
- **AFO**  
“All Frames Off”の略です。前後いずれかに関わらず、フロー内のすべてのマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。

検出されたテンポは、重要なマーカーが拍から外れた平均フレーム数の降順でリストに表示されます。

### マーカー (Markers)

「**検出されたテンポ (Tempos found)**」リストで現在選択しているテンポが、フロー内の各マーカーにどのような影響を与えるかがより詳しく表示されます。

- **タイムコード (Timecode)**  
各マーカーの正確なタイムコードが表示されます。
- **テキスト (Text)**  
マーカーの識別に役立つ各マーカーのマーカーテキストが表示されます。
- **重要 (Imp.)**  
マーカーが重要として定義されているかどうかが表示されます。
- **Fr. Off**  
“Frames Off”の略です。各マーカーが拍から外れる平均フレーム数が表示されません。
- **時間差 (Time Diff.)**  
“時間差 (time difference)”の略です。マーカーの位置と一番近い拍の位置との間の時間差が小数の秒単位で表示されます。
- **記譜差 (Not. Diff.)**

“記譜差 (notated difference)”の略です。マーカーの位置と一番近い拍の位置との間の記譜差が全音符に対する分数で表示されます。

### 選択したテンポ (Selected tempo)

そのフローに対して現在選択しているテンポが表示されます。

### 適用 (Apply)

選択したテンポをフローの最初にテンポ記号として入力することで、フローにテンポを適用します。フロー内のその他のテンポ記号は自動的に削除されます。

#### 関連リンク

[マーカーを重要なマーカーに指定する \(826 ページ\)](#)

[メトロノームマーク \(969 ページ\)](#)

## リピートとトレモロの入力方法

リピート括弧、リピートマーカー、スラッシュ符頭などのリピートとトレモロは、リピートのポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、反復記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

## リピートのポップオーバー

以下の表は、さまざまなトレモロ、小節リピート記号、スラッシュ符頭領域、リピートマーカー、リピート括弧を入力するのに、リピートのポップオーバーで使用できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、リピートのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[R]** を押します。
- 既存のリピートマーカー、スラッシュ領域、または小節リピート記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「リピートを作成 (Create Repeat)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力されたリピートのポップオーバー



記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」ボタン

## リピート括弧

リピート括弧のタイプ	ポップオーバーエントリー
リピート括弧全体	「end」または「ending」
追加のリピート括弧セグメント	add



## リピートマーカー

リピートマーカーのタイプ	ポップオーバーエントリー
D.C.	「dc」、「D.C.」、「da capo」など
D.C. al Fine	「dcalf」、「DC al Fine」、「D.C. al Fine」など
D.C. al Coda	「dcalc」、「DC al Coda」、「D.C. al Coda」など
D.S.	「ds」、「D.S.」、「dal segno」など
D.S. al Fine	「dsalf」、「DS al Fine」、「D.S. al Fine」など
D.S. al Coda	「dsalc」、「DS al Coda」、「D.S. al Coda」など
to Coda	「toc」、「tc」、「to coda」、「To Coda」など
Segno	「s」、「seg」、「segno」など
Fine	「f」、「fin」、「fine」など
Coda	「c」、「co」、「coda」など

このリストには、リピートマーカーのすべてのエントリーが含まれているわけではありません。リピートのポップオーバーは柔軟で、入力したいリピートマーカータイプの適当なバージョンや略語を入力すれば、ほとんどの場合認識されます。

## 単音のトレモロ

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
1 ストローク	「/」、「\」、または「1」
2 ストローク	「//」、「\\」、または「2」
3 ストローク	「///」、「\\\」、または「3」
4 ストローク	「////」、「\\\\」、または「4」
符尾上の Z マーク (バズロール)	「z」または「zonstem」
すべてのトレモロを削除	「0」または「clear」

## 重音のトレモロ

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
1 ストローク	「/2」、「\2」、または「12」
2 ストローク	「//2」、「\\2」、または「22」

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
3 ストローク	「///2」、「\\2」、または「32」
4 ストローク	「////2」、「\\\\2」、または「42」
符尾上の Z マーク (バズロール)	「z」または「zonstem」
すべてのトレモロを削除	「0」または「clear」

## スラッシュ領域

スラッシュ領域	ポップオーバーエントリー
新規スラッシュ領域	slash

## 小節リピート記号

小節リピート記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
1 小節リピート	「%」または「%1」
2 小節リピート	%2
4 小節リピート	%4
1 小節リピート、2 小節ごとにグループ化	%1,2
1 小節リピート、4 小節ごとにグループ化	%1,4
2 小節リピート、2 小節ごとにグループ化	%2,2
4 小節リピート、4 小節ごとにグループ化	%4,4

### 関連リンク

[ポップオーバーを使ったリピートマーカの入力 \(262 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったトレモロの入力 \(264 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(266 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(267 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(832 ページ\)](#)

[トレモロ \(1008 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(859 ページ\)](#)

[小節リピート記号 \(849 ページ\)](#)

## 反復記号パネル

反復記号パネルには、リピート括弧、リピートマーカ、トレモロ、スラッシュ符頭、小節リピート記号などのさまざまなリピート記号が含まれています。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

- 反復記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**反復記号 (Repeat Structures)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

反復記号パネルには以下のセクションがあります。

#### リピート括弧 (Repeat Endings)

新しいリピート括弧を入力したり、既存のリピート括弧に括弧を追加したりできるオプションがあります。

#### ジャンプ記号 (Repeat Jumps)

“「D.S. al Coda」”など、楽曲の特定のポイントにジャンプするようプレーヤーに指示するさまざまなリピートマーカーがあります。

#### リピートセクション (Repeat Sections)

“「Coda」”など、ジャンプ記号と一緒に使用するさまざまなセクションがあります。

#### トレモロ (Tremolos)

さまざまタイプの単音トレモロと重音トレモロがあります。

#### スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)

スラッシュ符頭を表示する領域を入力できます。スラッシュ符頭の形式は、現在の拍子記号に合わせて自動的に設定されます。

#### 小節リピート記号 (Bar Repeats)

小節を繰り返し記譜することなく、設定した数だけ小節が繰り返されることを示す領域を入力できます。

## ポップオーバーを使ったリピート括弧の入力

リピートのポップオーバーを使用してリピート括弧を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、[Shift]+[→] または [←] を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 1 番のリピート括弧に含めるアイテムを各小節で少なくとも 1 つ選択します。
2. [Shift]+[R] を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「end」または「ending」と入力します。
4. [Return] を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

リピート括弧が入力されます。1 番のリピート括弧のセグメントは選択した音符の小節に作成され、2 番のリピート括弧のセグメントは次の小節に自動的に作成されます。

終わりのリピート線は、1 番のリピート括弧の終わりに作成されます (ない場合)。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(832 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったリピート括弧の追加

リピートのポップオーバーを使ってリピート記号を追加することで、各リピート括弧構造の中に3つ以上の括弧を含めることができます。追加の括弧はステップ入力中に追加することも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 追加のリピート括弧に含める小節を選択します。

補足

前のリピート括弧のセグメントのあとに続く最初の小節から選択する必要があります。

2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。

3. ポップオーバーに「add」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

5. 必要に応じて、追加する括弧の数だけこれらの手順を繰り返します。

結果

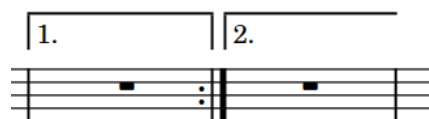
新しいリピート括弧のセグメントが追加されます。前にある既存のリピート括弧のセグメントは終端が閉じ、必要に応じて終わりのリピート線が作成されます。

ヒント

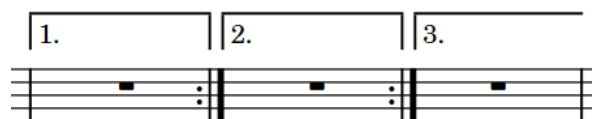
リピート括弧を選択し、プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」の「**括弧の数 (No. endings)**」の値を変更して、リピート括弧のセグメントを追加することもできます。

ただし、「**括弧の数 (No. endings)**」を使用した場合、1小節を含むリピート括弧のセグメントしか追加されず、また自動的にリピート線が入力されたり、位置が変更されたりしません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。

例



括弧が2つの場合のデフォルトのリピート括弧



3番括弧が追加されたリピート括弧

関連リンク

[リピート括弧 \(832 ページ\)](#)

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

## パネルを使ったリピート括弧の入力

反復記号パネルを使用してリピート括弧を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、[Shift]+[→] または [←] を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

2. 記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」をクリックして、反復記号パネルを表示します。



3. 反復記号パネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」セクションで「リピート括弧を作成 (Create Repeat Ending)」をクリックします。



### 結果

リピート括弧が入力されます。1 番のリピート括弧のセグメントは選択した音符の小節に作成され、2 番のリピート括弧のセグメントは次の小節に自動的に作成されます。

終わりのリピート線は、1 番のリピート括弧の終わりに作成されます (ない場合)。

### 関連リンク

[リピート括弧](#) (832 ページ)

## パネルを使ったリピート括弧の追加

反復記号パネルを使ってリピート記号を追加することで、各リピート括弧構造の中に3つ以上の括弧を含めることができます。追加の括弧はステップ入力中に追加することも、既存の楽譜に追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、[Shift]+[→] または [←] を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 追加のリピート括弧に含める小節を選択します。

#### 補足

前のリピート括弧のセグメントのあとに続く最初の小節から選択する必要があります。

2. 記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」をクリックして、反復記号パネルを表示します。

1.

3. 反復記号パネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」セクションで「**リピート括弧にセクションを追加 (Add Section To Repeat Ending)**」をクリックします。



#### 補足

括弧の数が増えたことでリピート括弧が別のリピート括弧の一部に重なる場合、もう一方のリピート括弧は削除されます。ただし、その反復記号は削除されません。

4. 必要に応じて、追加する括弧の数だけこれらの手順を繰り返します。

#### 結果

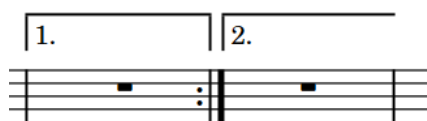
新しいリピート括弧のセグメントが追加されます。前にある既存のリピート括弧のセグメントは終端が閉じ、必要に応じて終わりのリピート線が作成されます。

#### ヒント

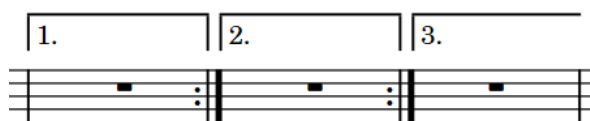
リピート括弧を選択し、プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」の「**括弧の数 (No. endings)**」の値を変更して、リピート括弧のセグメントを追加することもできます。

ただし、「**括弧の数 (No. endings)**」を使用した場合、1小節を含むリピート括弧のセグメントしか追加されず、また自動的にリピート線が入力されたり、位置が変更されたりしません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。

#### 例



括弧が2つの場合のデフォルトのリピート括弧



3番括弧が追加されたリピート括弧

#### 関連リンク

[リピート括弧 \(832 ページ\)](#)

## ポップオーバーを使ったリピートマーカーの入力

リピートのポップオーバーを使用して、ジャンプ記号やリピートセクションなどのリピートマーカーを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[←]** を押すことで、caret を有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- リピートマーカーを入力する位置にあるアイテムを選択します。

リピートジャンプの場合、ジャンプ指示の終了位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。リピートセクションの場合、セクションマーカの開始位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。

2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. 使用するリピートマーカのタイプのエントリをポップオーバーに入力します。  
たとえば、コーダセクションを入力する場合は「coda」、セーニョを入力する場合は「\$」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

#### 結果

ステップ入力中、キュレットの位置にリピートマーカが入力されます。コーダセクションが自動的に作成され、コーダと前にあるアイテムの間に間隔が空けられます。

既存の楽譜にリピートマーカを追加する場合、リピートマーカは選択した音符またはアイテムの位置に入力されます。

Fine や D.C. al Coda など、セクションの終わりを示すリピートマーカは、選択した位置の右側に揃えられます。

#### 関連リンク

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

[リピートマーカ \(840 ページ\)](#)

## パネルを使ったリピートマーカの入力


反復記号パネルを使用してリピートマーカを入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。

#### ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[←]** を押すことで、キュレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- リピートマーカを入力する位置にあるアイテムを選択します。  
リピートジャンプの場合、ジャンプ指示の終了位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。リピートセクションの場合、セクションマーカの開始位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。
2. 記譜ツールボックスの「**反復記号 (Repeat Structures)**」をクリックして、反復記号パネルを表示します。  

3. 反復記号パネルの以下のいずれかのセクションで、入力するリピートマーカをクリックします。
  - **ジャンプ記号 (Repeat Jumps)**
  - **リピートセクション (Repeat Sections)**

#### 結果

ステップ入力中、キュレットの位置にリピートマーカが入力されます。コーダセクションが自動的に作成され、コーダと前にあるアイテムの間に間隔が空けられます。

既存の楽譜にリピートマーカを追加する場合、リピートマーカは選択した音符またはアイテムの位置に入力されます。

FineやD.C. al Codaなど、セクションの終わりを示すリピートマーカは、選択した位置の右側に揃えられます。

関連リンク

[リピートマーカ](#) (840 ページ)

## ポップオーバーを使ったトレモロの入力

リピートのポップオーバーを使用して単音トレモロと重音トレモロの両方を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- トレモロを追加する音符を選択します。

補足

重音のトレモロを入力する場合、少なくとも2つの音符(連符でも可)を選択する必要があります。

2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。

3. 使用するトレモロのタイプのエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、3ストロークの重音トレモロを入力するには「**///**2****」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

5. 必要に応じて、手順2と3を繰り返して、選択した音符に別のトレモロを入力します。

たとえば、音符に単音トレモロと重音トレモロを両方入力する場合などです。

---

結果

単音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した音符に入力されます。

重音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した個々の音符と直後の音符の間、または選択した音符のペアの間に入力されます。

連符を選択した場合、重音のトレモロが選択した連符をまたがって入力されます。トレモロストロークは、連符のすべての音符の中央に配置されます。連符の角括弧が非表示になり、各連符の開始位置に、比率を示すガイドが表示されます。

補足

2分音符の重音トレモロの符尾の外観は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページの設定に従います。

---



例



トレモロストローク数が3で連符をまたがる重音のトレモロ

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

[トレモロ \(1008 ページ\)](#)

## パネルを使ったトレモロの入力

反復記号パネルを使用して単音トレモロと重音トレモロの両方を入力できます。ステップ入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- トレモロを追加する音符を選択します。

補足

重音のトレモロを入力する場合、少なくとも2つの音符(連符でも可)を選択する必要があります。

2. 記譜ツールボックスの「**反復記号 (Repeat Structures)**」をクリックして、反復記号パネルを表示します。



3. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、入力する単音トレモロまたは重音トレモロのストローク数のボタンをクリックします。

たとえば、ストロークが2本の単音トレモロを入力するには「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」をクリックし、ストロークが3本の重音トレモロを入力するには「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」をクリックします。



「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」ボタン



「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」ボタン

結果

単音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した音符に入力されます。

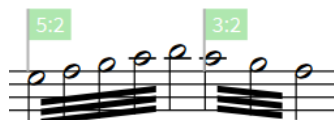
重音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した個々の音符と直後の音符の間、または選択した音符のペアの間に入力されます。

連符を選択した場合、重音のトレモロが選択した連符をまたがって入力されます。トレモロストロークは、連符のすべての音符の中央に配置されます。連符の角括弧が非表示になり、各連符の開始位置に、比率を示すガイドが表示されます。

#### 補足

2分音符の重音トレモロの符尾の外観は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページの設定に従います。

例



トレモロストローク数が3で連符をまたがる重音のトレモロ

関連リンク

[トレモロ \(1008 ページ\)](#)

[トレモロの削除 \(1011 ページ\)](#)

[2分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定を変更する \(1013 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の入力

リピートのポップオーバーを使用してスラッシュ領域を入力できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - スラッシュ符頭を表示する領域を選択します。
2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「slash」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

ステップ入力中は、スラッシュ領域は選択された音符またはアイテムの範囲全体に入力されます。この選択は一般的に最後に入力した音符です。既存の楽譜にスラッシュ領域を追加する際は、選択したデュレーションにかけて入力されます。

スラッシュ領域は拍子に合うように自動的に作成されます。拍子記号をあとから変更した場合、スラッシュ領域のデュレーションはそのまま維持されますが、スラッシュの外観は自動的に更新されます。

ヒント

また、スラッシュ領域は反復記号パネルの「**スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)**」グループにある「**スラッシュ領域を作成 (Create Slash Region)**」をクリックして入力することもできます。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(859 ページ\)](#)

[スラッシュ領域 \(859 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭の声部 \(1052 ページ\)](#)

## 小節リピート記号の入力

その領域の前の少なくとも1つの小節に音符が含まれている場合、小節リピート領域を入力できます。

### 手順

1. 記譜モードで、小節リピート記号として表示する小節を選択します。

#### 補足

- フローの最初の小節には、小節リピート領域を入力できません。
- 1つの譜表に同時に入力できる小節リピート領域は1つのみです。

2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. 使用する小節リピート領域のタイプのエントリーをポップオーバーに入力します。  
たとえば、「%2,2」と入力すると、前の2つの小節が2つにグループ化されて繰り返されます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

選択したデュレーションの領域が入力され、その中で、指定した間隔の譜表に指定したタイプの小節リピート記号が表示されます。

#### 補足

- ステップ入力中に小節リピート領域を入力することもできますが、その場合は現在選択している音符を含む小節から小節リピート領域が入力されます。小節リピート記号はほとんどの場合空白の小節に表示されるため、この操作を行なうと意図しない結果になる恐れがあります。
- 小節リピート領域は、反復記号パネルの「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」グループにある「**小節リピート領域を作成 (Create Bar Repeat Region)**」をクリックして入力することもできます。ただし、この操作で入力できるのは単一小節のリピートを含む小節リピート領域のみです。

### 関連リンク

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

[小節リピート記号 \(849 ページ\)](#)

## スラーの入力

スラーはステップ入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。複数の譜表にある既存の音符に同時にスラーを追加することもできます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - スラーを追加する音符を選択します。

#### ヒント

- 複数の譜表の音符を選択して、スラーを同時に入力できます。
- 音符を1つだけ選択した場合、その音符と譜表上の次の音符がスラーでつながれます。

2. **[S]** を押します。

#### ヒント

または、音符パネルで「**スラー (Slur)**」を選択し、クリックアンドドラッグで任意の長さのスラーを描きます。

3. ステップ入力中は、使用する音符を入力します。  
入力する音符間に休符が含まれていたとしても、スラーは自動的に延びていきます。
4. 必要に応じて、ステップ入力中に **[Shift]+[S]** を押すと、現在選択している音符でスラーが終了します。

#### 結果

ステップ入力中は、キャレットの位置ではなく現在選択している音符からスラーが始まります。音符を入力するとスラーが自動的に延長され、現在選択している音符で終了します。

既存の音符にスラーを追加すると、選択した音符がスラーでつながれます。たとえば、1つの譜表上の2つの音符と別の譜表上の2つの音符を選択した場合は、2つのスラーが入力されます。選択したそれぞれの譜表上で、音符がスラーでつながれます。

#### 関連リンク

[スラー \(878 ページ\)](#)

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)


## テキストの入力

スコア上の特定の位置にテキストを入力できます。単一の譜表にテキストを入力したり、すべての譜表に適用される組段テキストを入力したりできます。

#### 補足

譜表上の位置とは関係なく、特定のページに連結されたテキストを挿入したい場合は、テキストフレームを使用できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - テキストを入力する位置にある音符またはアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってテキストエディターを開きます。
  - 譜表テキストを入力するには、**[Shift]+[X]** を押すか、記譜ツールボックスの「**テキスト (Text)**」をクリックします。
  - 特定のパラグラフスタイルを適用した譜表テキストを入力するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**テキストを作成 (Create Text)**」 > **[パラグラフスタイル]** を選択します。
  - 組段テキストを入力するには、**[Shift]+[Alt]+[X]** を押します。
  - 特定のパラグラフスタイルを適用した組段テキストを入力するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**組段テキストを作成 (Create System Text)**」 > **[パラグラフスタイル]** を選択します。
3. 任意のテキストを入力します。
4. 必要に応じて、**[Return]** を押してライン区切りを挿入します。
5. 必要に応じて、テキストエディターオプションを使用してテキストの形式設定を行ないます。
6. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

#### 結果

ステップ入力中は、テキストエディターに入力したテキストがキャレットの位置に入力されます。テキストは、デフォルトのパラグラフスタイルを使用して、そのテキストが適用される譜表の上に自動的に配置され、テキストの垂直位置はプロジェクト全体の設定に従います。

既存の楽譜にテキストを追加した場合は、最初に選択したアイテムの位置にテキストが入力されます。

## 補足

- Dorico Pro では、組段テキストは組段オブジェクトに分類されます。そのため、組段テキストは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。
- 譜表とその他のアイテムの外側のすべてのテキストアイテムのデフォルトの位置、およびテキストアイテムの衝突をデフォルトで回避するかどうかは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**テキストを作成 (Create Text)**」と「**組段テキストを作成 (Create System Text)**」(特定のパラグラフスタイルを適用したテキストを入力するためのオプション)にキーボードショートカットを割り当てることができます。

## 関連リンク

[テキストフレーム \(335 ページ\)](#)

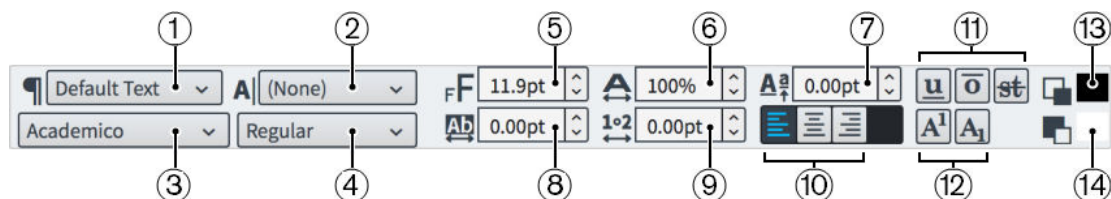
[譜表に対するテキストオブジェクトの位置の変更 \(379 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## 記譜モードのテキストエディターオプション

テキストエディターを使用すると、テキストの追加や形式設定を行なえます。記譜モードでは、譜表テキストまたは組段テキストの追加または変更を行なうとテキストエディターが開きます。



記譜モードのテキストエディター

テキストエディターには以下のオプションがあります。

- 1 パラグラフスタイル (Paragraph Style)**

パラグラフ全体に適用されるパラグラフスタイルを変更できます。これによって、テキストの外観、書式、および配置が変わります。

譜表テキストと組段テキストは常に単一のパラグラフとして扱われます。
- 2 文字スタイル (Character Style)**

パラグラフ内の選択したテキストの外観を変更できます。該当のパラグラフに適用されているパラグラフスタイルより優先されます。
- 3 フォント (Font)**

選択したテキストのフォントファミリーを変更できます。
- 4 フォントスタイル (Font Style)**

選択したテキストのフォントスタイルを変更できます。
- 5 フォントサイズ (Font Size)**

選択したテキストのサイズを変更できます。
- 6 フォント幅 (Font Stretch)**

選択したテキストの幅を広げたり狭めたりできます。
- 7 ベースラインの移動 (Baseline Shift)**

選択したテキストのベースラインを上下に少しずつ移動できます。
- 8 文字のスペーシング (Letter Spacing)**

選択したテキストの文字間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 9 単語のスペーシング (Word Spacing)

選択したテキストの単語間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

## 10 配置 (Alignment)

スコア内の位置に対する選択したテキストの配置を選択できます。テキストフレーム内のテキストの場合、テキストフレームの左余白に揃います。

以下の配置から選択できます。

- 左揃え (Align Left)
- 中央揃え (Align Center)
- 右揃え (Align Right)

## 11 線のタイプ

選択したテキストに、以下のタイプの線を組み合わせて付けられます。

- 下線 (Underline)
- 上線 (Overline)
- 取り消し線 (Strikethrough)

## 12 上付き/下付き

選択したテキストを、ベースラインに対して以下のいずれかの位置に配置できます。

- 上付き (Superscript)
- 下付き (Subscript)

## 13 文字色 (Foreground Color)

選択したテキストの色を変更できます。

## 14 背景色 (Background Color)

選択したテキストの背景色を変更できます。

関連リンク

[テキストフレームへのテキストの入力 \(340 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(373 ページ\)](#)

## テキストの編集

譜表に追加したテキストオブジェクト、またはテキストフレームに表示されるテキストは、テキストを変更したり書式を変更したりして、いつでも編集できます。

---

手順

1. 編集するテキストをダブルクリックしてテキストエディターを開きます。

### ヒント

テキストオブジェクトまたは組段テキストオブジェクトを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

2. 必要に応じて、テキストフレームまたはオブジェクト内のテキストを変更します。
  3. 必要に応じて、テキストエディターのオプションを使用してテキストの書式を設定します。
  4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。
- 

関連リンク

[テキストオブジェクトとテキストフレーム内のテキスト \(375 ページ\)](#)

## キューの入力

キューのポップオーバーを使用してキューを入力できます。

### 手順

1. キューを入力する譜表で、キューを継続するデュレーションにまたがる複数の音符/休符を選択します。
2. **[Shift]+[U]** を押してキューのポップオーバーを開きます。
3. キューに楽譜を表示するインストゥルメントの名前を入力しはじめます。  
ポップオーバーの下にインストゥルメントの候補メニューが現れ、選択できる元インストゥルメントが表示されます。
4. インストゥルメントの候補メニューから、キューに楽譜を表示するインストゥルメントを選択します。

### 補足

- プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前を入力しなければ、キューは作成されません。
- インストゥルメントの正式名称を自分でポップオーバーに入力した場合、そのインストゥルメントを使用するキューを入力するには **[Return]** を 2 回押す必要があります。
- 同じタイプのインストゥルメントがプロジェクトに複数ある場合、番号を指定しなければ最初のプレーヤーの楽譜がキューとして入力されます。たとえば、プロジェクトに Violin I と Violin II があり、キューのポップオーバーに「violin」と入力すると、キューには Violin I の譜表の楽譜が表示されます。

### 結果

選択した譜表にキューが入力され、そこにキューのポップオーバーで選択したインストゥルメントの楽譜が表示されます。

ページビューでフルスコアレイアウトにキューを入力すると、初期設定では、元インストゥルメントの名前を表示するガイドとしてキューが表示されます。これは、フルスコアレイアウトではキューを表示せず、パートレイアウトでは表示するようにデフォルトで設定されているためですが、キューの表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

### 関連リンク

[キュー \(602 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(613 ページ\)](#)

[キューの長さの変更 \(607 ページ\)](#)

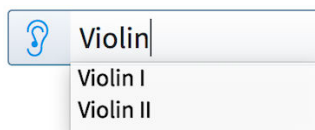
[キューの移動 \(606 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(45 ページ\)](#)

## キューのポップオーバー

キューのポップオーバーでは、お使いのプロジェクトと言語で設定されたインストゥルメントの名前を使用して、プロジェクト内の別のインストゥルメントを参照するキューを入力できます。

プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前をキューのポップオーバーに入力しはじめると、キューに表示できる元インストゥルメント (出力先インストゥルメントは除く) が表示された候補メニューが現れます。



エントリーの例が入力され、インストゥルメントの候補メニューが表示されたキューのポップオーバー

大譜表や複数の譜表を使用するインストゥルメントの各譜表は「Piano (a)」と「Piano (b)」のように、個別に表示されます。

無音程打楽器のインストゥルメントはそれぞれ個別に表示されます。プロジェクト内にドラムセットがある場合、ドラムセットに含まれるインストゥルメントはキューの候補として個別に表示されます。たとえば、キューにキックドラムだけを表示できます。

#### 補足

- 打楽器キット全体をキューに使用することはできません。キット内の個々のインストゥルメントを選択する必要があります。
- 既存のキューと同じ位置にキューを直接入力すると、既存のキューは新しいキューで上書きされ、既存のキューは削除されます。ただし、別の小節にキューを作成しておいて、あとから移動するか長さを変更すれば、同じ位置に複数のキューを配置できます。

## キューパネル

キューパネルでは、キューを入力したりキューの入力に適した場所を見つけたりできます。

- キューパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**キュー (Cues)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

キューパネルには以下のセクションがあります。

### キューを作成 (Create Cue)

「**キューを作成 (Create Cue)**」 ボタンをマウスでクリックしてキューのポップオーバーを開くことができます。

### キューを提案 (Suggest Cues)

プレーヤーの休止の長さに基づいてキューの提案箇所を生成できます。

関連リンク

[キュー](#) (602 ページ)

## キューの提案

キューの提案とは、現在のフロー内でプレーヤーが一定の間演奏していない箇所のうち、Dorico Pro がキューを入力するのに適していると識別した場所のことです。

キューパネルの「**キューを提案 (Suggest Cues)**」セクションは以下のセクションに分かれており、これらはキューの入力に適した場所を見つけるのに役立ちます。

### 休符時間 (Resting for)

キューを入力するまでのプレーヤーの休止時間を指定できます。

休止時間は小節や拍ではなく絶対時間で指定します。拍子やテンポはフローの中で何度も変更される場合があるほか、楽譜の一部または全体に拍子がないことがあるのに対し、1秒は常に同じ長さであるためです。Dorico Pro はプロジェクトのメトロノームマークを使用して時間を計算します。

絶対時間を指定することで、キューに適した場所を見つけるアプローチの一貫性を確保できます。

### リハーサルマーク (Rehearsal Marks)

休止時間を決定する際にリハーサルマークを考慮/無視できます。



リハーサルマークは楽譜の新しいセクションやその他の目印と同じ位置にあることが多く、これらはキューを追加しなくてもプレーヤーには明らかな場合があります。リハーサルマークは必ずしも音楽構造のガイドとして機能するわけではないため、初期設定では無視されます。

### キュー (Cues)

休止時間を決定する際に、出力先プレーヤーが演奏する音符の間にすでに存在するキューを考慮/無視できます。

出力先インストゥルメントのエントリーの直前にあるキューは常に無視され、たとえキューを考慮するように設定していても、提案箇所に含まれることはありません。

ただし、キューを考慮するように設定した場合、延長された休符の間プレーヤーが自分の場所を分かりやすく示し、エントリーの直前にないキューは、タイマーをリセットします。

### 更新 (Update)

「**休符時間 (Resting for)**」の長さやリハーサルマークとキューの設定を変更してこのボタンを押すと、これらの設定に基づいてキューの提案が再計算されます。

「**更新 (Update)**」ボタンの下には、キューの提案のリストを前回更新したときにアクティブだったフローとレイアウトの名前が表示されます。これにより、表に表示された提案が適用されるフローとレイアウトを一目で確認できます。

### キューの提案の表

提案されたキューが表に表示されます。この表には以下の列があります。

- 「**インストゥルメント (Instr.)**」: 指定した最小デューレーションより長く休止している出力先インストゥルメント。クリックすると、キューの提案があるインストゥルメントがスコアに登場する順に表示されます。
- 「**小節 (Bar)**」: 休止時間のあとに出力先インストゥルメントの最初のエントリーが含まれている小節。クリックすると、エントリーが昇順、つまり登場が早い小節から順に上から下へと表示されます。
- 「**秒 (Sec.)**」: 「**小節 (Bar)**」列に表示されたエントリーの前に出力先インストゥルメントが休止している時間の長さ (秒)。クリックすると、休止時間の長さが降順、つまり最も長いものから順に上から下へと表示されます。

キューの提案の表で列をクリックすると、その場所に直接移動します。初期設定では、出力先インストゥルメントのエントリーのの前に 5 ~ 10 秒に相当するデューレーションがある領域が強調表示されます。強調された領域はキューの長さの具体的な提案ではありませんが、楽譜の前後関係によってはよい目安になります。

キューの提案の表で提案された場所にキューを作成すると、その提案はリストから自動的に削除されます。

表の一番下のアクションバーにある「**無視 (Ignore)**」をクリックすると、キューが適切だとは思わない提案を非表示にできます。

#### 補足

あとから「**更新 (Update)**」をクリックしてリストを再生成すると、非表示になっていた提案が再度表示されます。

### キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)

「**キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)**」をオンにすると、元インストゥルメントのエントリーの前の強調された領域が表示され、オフにすると非表示になります。

### 「演奏中のインストゥルメント (Playing instruments)」リスト

キューの提案の表で現在選択している出力先インストゥルメントのエントリーの前の 5 ~ 10 秒に演奏しているインストゥルメントが表示されます。このリストは、キューの元インストゥルメントとして使用するインストゥルメントを判断するのに役立ちます。


関連リンク

[キュー \(602 ページ\)](#)

## キューの提案を使用したキューの入力

記譜モードのキューパネルにある「**キューを提案 (Suggest Cues)**」セクションを使用して、キューの入力に適した場所を見つけることができます。そのあと、キューのポップオーバーを使用してキューを入力できます。

### 手順

1. 記譜モードの楽譜領域で、キューに適した場所を見つけるレイアウトを開きます。  
たとえば、楽譜領域でフルスコアレイアウトを開いている場合はすべてのインストゥルメントについてキューに適した場所が提案されますが、単一のパートレイアウトを開いている場合は個々のインストゥルメントについてのみキューに適した場所が提案されます。
2. 記譜ツールボックスで「**キュー (Cues)**」をクリックしてキューパネルを表示します。  

3. キューパネルの「**キューを提案 (Suggest Cues)**」セクションで、「**休符時間 (Resting for)**」の値を変更して、キューを入力するまでの休符時間を指定します。
4. 「**リハーサルマーク (Rehearsal marks)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **考慮 (Consider)**
  - **無視 (Ignore)**
5. 「**キュー (Cues)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **考慮 (Consider)**
  - **無視 (Ignore)**
6. 「**更新 (Update)**」をクリックします。
7. キューの提案のコンテキストを確認するには、キューの提案の表で行をクリックし、レイアウト内のその位置に直接移動します。  
キューの提案は、5～10秒に相当するデュレーションが強調表示されます。「**キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)**」をオフにすることで、強調された領域を非表示にすることもできます。
8. キューを入力する譜表で、キューを継続するデュレーションにまたがる複数の音符/休符を選択します。
9. **[Shift]+[U]** を押してキューのポップオーバーを開きます。
10. ポップオーバーで、キューに楽譜を表示するインストゥルメントの名前を入力しはじめます。  
ポップオーバーの下にインストゥルメントの候補メニューが表示されます。キューパネルの「**演奏中のインストゥルメント (Playing instruments)**」リストを使用すると、キューに適した元インストゥルメントを選択できます。
11. インストゥルメントの候補メニューから、キューに楽譜を表示するインストゥルメントを選択します。

### 補足

- プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前を入力しなければ、キューは作成されません。
- インストゥルメントの正式名称を自分でポップオーバーに入力した場合、そのインストゥルメントを使用するキューを入力するには **[Return]** を 2 回押す必要があります。
- 同じタイプのインストゥルメントがプロジェクトに複数ある場合、番号を指定しなければ最初のプレーヤーの楽譜がキューとして入力されます。たとえば、プロジェクトに Violin I と Violin II があり、キューのポップオーバーに「**violin**」と入力すると、キューには Violin I の譜表の楽譜が表示されます。

#### 結果

選択した譜表にキューが入力され、そこにキューのポップオーバーで選択したインストゥルメントの楽譜が表示されます。

ページビューでフルスコアレイアウトにキューを入力すると、初期設定では、元インストゥルメントの名前を表示するガイドとしてキューが表示されます。これは、フルスコアレイアウトではキューを表示せず、パートレイアウトでは表示するようにデフォルトで設定されているためですが、キューの表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

#### 関連リンク

[キュー \(602 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(45 ページ\)](#)

## 編集と選択

Dorico Pro では、アイテムを個別に選択したり複数の譜表を含む大きな選択範囲を作成したりするなど、さまざまな方法でプロジェクト内のアイテムの選択と編集を行なえます。

#### 関連リンク

[フィルター \(280 ページ\)](#)

[選択ツール \(41 ページ\)](#)

## 音符とアイテムを個々に選択/選択解除する

選択した音符にアーティキュレーションを追加したり短い楽節を削除したりするなど、楽譜領域内で既存の音符やその他の記譜項目を個別に選択/選択解除できます。

#### 補足

多くの音符やアイテムを選択する場合は、より広範囲な選択方法を使用することをおすすめします。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、楽譜領域内の個々の音符やアイテムを選択します。
    - [Ctrl]/[command]** を押しながら個々の音符またはアイテムをクリックします。
    - [Shift]** を押しながら隣接する音符またはアイテムをクリックします。
    - 音符またはアイテムを 1 つクリックします。
    - 複数の音符またはアイテムを範囲選択します。
  - 以下のいずれかの操作を行なって、現在選択されているすべてのアイテムの選択を解除します。
    - [Ctrl]/[command]+[D]** を押します。
    - 楽譜領域内の譜表の外側をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(42 ページ\)](#)

[音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする \(281 ページ\)](#)

## 同じタイプのアイテムをより多く選択する

同じタイプのアイテムや同じ声部上の音符など、現在の選択を徐々に増加できます。この機能は、強弱記号や歌詞など。複数の異なるアイテムを一度に選択する場合に特に役立ちます。

### 手順

1. 選択箇所を増やす音符やアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### ヒント

4つの譜表上の符尾が上向きの声部に含まれる音符のみを選択するなど、複数の譜表や特定の声部上の音符やアイテムを選択できます。

2. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を押して、選択箇所を拡大します。
3. 必要に応じて、再度 **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を押して選択箇所をさらに拡大します。

### 結果

元の選択箇所と同じ声部に含まれる同じタイプのアイテムや音符がさらに選択されます。キーボードショートカットを押すたびに、選択されるアイテムの範囲が拡大し、1回めは小節内、2回めは組段内、そして最後はフロー全体に選択範囲が広がります。ほかに選択できるアイテムが小節内に含まれていない場合は、自動的に2回めの拡大範囲に移ります。ギャラリービューには組段が1つしかないため、2回めの拡大でフロー全体が選択範囲になります。

複数の小節や組段にまたがるアイテムは、含まれている最初の小節/組段のアイテムとして選択されません。

### 補足

以下のアイテムは1つのみ選択すると、Dorico Pro 通常とは異なる方法で選択されます。

- 歌詞: 元の選択した歌詞と同じライン番号、配置、およびラインタイプの歌詞にのみ選択範囲が拡大します。
- 強弱記号: 1回めの拡大範囲は元の選択した強弱記号と同じグループ内および同じ譜表上の強弱記号で、それ以降の拡大範囲はほかのグループ内の強弱記号に広がります。
- 演奏技法: 弦楽器や合唱のような、同じカテゴリーの演奏技法にのみ選択範囲が拡大します。また、上げ弓もしくは下げ弓の演奏技法を選択した場合は、選択範囲はほかの上げ弓もしくは下げ弓の演奏技法にしか拡大しません。これ以外の演奏技法は選択されません。

## 大きな選択範囲

譜表全体またはフロー全体のコンテンツの選択など、大きな範囲を選択できます。

### 特定の領域内のすべてを選択する

「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」を使用して、すべてを選択する領域を指定できます。

### フロー内のすべてを選択する

- **[Ctrl]/[command]+[A]** を押します。
- 「**編集 (Edit)**」 > 「**すべて選択 (Select All)**」を選択します。

### 単一の譜表上のすべてを選択する

- 譜表の最初の音符を選択して、**[Shift]** を押しながら譜表の最後の音符を選択します。
- 譜表の最初の音符を選択して、「**編集 (Edit)**」 > 「**組段の終端まで選択 (Select To End Of System)**」または「**編集 (Edit)**」 > 「**フローの最後まで選択 (Select To End Of Flow)**」を選択します。
- 選択したい譜表を囲むように範囲を選択します。

### 複数の隣接する譜表上のすべてを選択する

- 選択したい譜表範囲の一番上または一番下の1つの譜表全体を選択して、選択したいすべての譜表が選択されるまで **[Shift]+[↑]** または **[Shift]+[↓]** を押します。
- 選択したい譜表範囲の一番上または一番下の1つの譜表全体を選択して、選択したい譜表範囲の反対側の端の譜表を **[Shift]** を押しながらかリックします。
- 選択したい譜表を囲むように範囲を選択します。

### 現在選択しているアイテムと同じタイプをさらに選択する

「編集 (Edit)」 > 「さらに選択 (Select More)」 (**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]**) を使用して、記譜モードおよび浄書モードにおいて、現在の選択と同じタイプまたは選択した声部内のほかのアイテムへと水平方向に徐々に拡大できます。複数の小節や組段にまたがるアイテムは、含まれている最初の小節/組段のアイテムとして選択されます。

- 1 1回めの拡大は、現在の小節領域内に左右に広がります。4/4の小節内の全音符を選択するなどして、小節内にほかに選択できるアイテムがない場合は、自動的に2回めの拡大範囲に移ります。
- 2 ページビューでの2回めの拡大は、現在の組段領域内に左右に広がります。ギャラリービューには組段が1つしかないため、2回めの拡大でフロー全体が選択範囲になります。
- 3 ページビューでは、3回めの拡大でフロー全体が選択範囲になります。

### 拍/小節の範囲内の組段のすべてを選択する

システムトラックを使用して拍/小節の領域を選択したあと、その領域内の組段のすべての譜表上のすべてを選択できます。

#### ヒント

歌詞や強弱記号など、特定のタイプのアイテムのみを選択したい場合は、対応するフィルターを使用できます。

#### 関連リンク

[フィルター \(280 ページ\)](#)

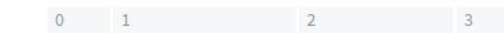
[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(275 ページ\)](#)

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(42 ページ\)](#)

[同じタイプのアイテムをより多く選択する \(276 ページ\)](#)

## システムトラック

システムトラックとは、記譜モードで各組段の上に表示される半透明のラインです。システムトラックを使用すると、小節と拍の追加や削除を行ったり、組段内のすべての譜表上のすべてのアイテムを選択したりできます。



譜表上のシステムトラックに小節が表示されている例



譜表上のシステムトラックに、現在のリズムグリッドの間隔を反映した拍の単位が表示されている例

システムトラックの色は、操作に応じて変化します。

- マウスポインターを合わせると不透明になります。
- システムトラックで領域を選択すると強調表示されます。



システムトラックで領域を選択すると、以下のオプションを使用できるようになります。



### 1 削除

選択した領域を削除できます。

#### 補足

削除にマウスポインターを合わせると、選択した領域の強調色が変わります。

### 2 システムトラックの選択

選択した領域全体で、組段内のすべての譜表上のすべてのアイテムを選択できます。

### 3 追加

システムトラックで選択した範囲と同じデュレーションの小節または拍を追加できます。選択範囲の直後に追加の時間が挿入されます。

#### 補足

別の種類の選択を行なうか、レイアウトを切り替えるとシステムトラックでの選択はクリアされます。ただし、ページビューとギャラリービューを切り替えてもシステムトラックでの選択は保持されません。

#### 関連リンク

[システムトラックを使った小節/拍の入力 \(208 ページ\)](#)

[システムトラックを使用して小節/拍を削除する \(511 ページ\)](#)

## システムトラックの表示/非表示の切り替え

初期設定では、新規プロジェクトにシステムトラックが表示されますが、システムトラックの表示/非表示はいつでも切り替えることができます。

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、システムトラックの表示/非表示を切り替えます。
  - [Alt]+[T] を押します。
  - 「ビュー (View)」 > 「システムトラック (System Track)」 を選択します。

#### 結果

「ビュー (View)」メニューの「システムトラック (System Track)」の横にチェックが付いている場合はシステムトラックが表示され、付いていない場合は非表示になります。

## ヒント

以後のすべてのプロジェクトでデフォルトとしてシステムトラックを非表示にするには、「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページの「ビュー (View)」セクションにある「新規プロジェクトにシステムトラックを表示 (Show system track in new projects)」をオフにします。

## 関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## システムトラックを使った小節の選択

システムトラックを使用すると、選択した小節全体で組段内のすべての譜表を選択できます。

## 前提

システムトラックを表示しておきます。

## 手順

1. システムトラックの小節をクリックします。
2. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行ない、最初に選択した小節の左右にある複数の小節を選択します。
  - **[Shift]** を押しながら、システムトラック上の左右の小節をクリックします。
  - システムトラック上をクリックして左右にドラッグします。
3. システムトラックで「**System Track Select**」をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。



システムトラックのシステムトラックの選択ボタン



システムトラックの選択ボタンにマウスポインターを合わせると、ボタンが塗りつぶされて表示される

## 結果

選択した小節のすべての譜表上のすべてのアイテムが選択され、強調表示されます (記譜記号とガイドを含む)。

## 補足

選択範囲を削除した場合、そこに含まれるガイドも削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオssia譜表を削除した場合です。

## 関連リンク

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(278 ページ\)](#)

[小節内のコンテンツの削除 \(512 ページ\)](#)

[システムトラックを使用して小節/拍を削除する \(511 ページ\)](#)

## システムトラックを使った拍の選択

システムトラックを使用すると、選択した拍全体で組段内のすべての譜表を選択できます。

## 前提

システムトラックを表示しておきます。

## 手順

1. **[Alt]** を押したままにします。

現在のリズムグリッドの間隔に一致するグリッドラインがシステムトラックに表示されます。

2. **[Alt]** を押したまま、システムトラック上をクリックして左右にドラッグします。

補足

**[Shift]** を押しながらかlickする操作では、拍の選択は行なえません。

3. システムトラックで「**System Track Select**」をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。



システムトラックの**システムトラックの選択**ボタン



**システムトラックの選択**ボタンにマウスポインターを合わせると、ボタンが塗りつぶされて表示される

結果

選択した拍のすべての譜表上のすべてのアイテムが選択され、強調表示されます (記譜記号とガイドを含む)。

補足

選択範囲を削除した場合、そこに含まれるガイドも削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるロシア譜表を削除した場合です。

関連リンク

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(278 ページ\)](#)

[小節内のコンテンツの削除 \(512 ページ\)](#)

[システムトラックを使用して小節/拍を削除する \(511 ページ\)](#)

## フィルター

Dorico Pro のフィルターを使用すると、多くのアイテムの中から特定のタイプのアイテムのみを選択できます。Dorico Pro にはすべての記譜項目に対してフィルターが用意されています。

- フィルターを使用するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > **[アイテム]** > **[アイテムのタイプ]** を選択します。

フィルターはコンテキストメニューでも選択できます。

アルペジオ記号、コード記号、調号、演奏技法など、すべての重要な記譜項目には固有のフィルターがあります。また、音符のスペーシングの変更もフィルタリングできます。

以下のアイテムには複数のタイプがあるため、複数のフィルターがあります。

**音符**

音符、装飾音符、和音をフィルタリングできます。臨時記号、ピッチ、和音内の位置に応じて音符をフィルタリングできます。

**声部**

符尾の方向に応じて声部をフィルタリングできます。スラッシュ付き声部もフィルタリングできます。

**強弱記号**

すべての強弱記号、あるいは段階的強弱記号または局部的強弱記号だけをフィルタリングできます。

**テンポ**

すべてのテンポ記号、あるいは固定テンポ変更、相対テンポ変更、または段階的テンポ変更だけをフィルタリングできます。



## 歌詞

すべての歌詞、あるいは特定のライン番号、タイプ、または譜表に対する位置の歌詞だけをフィルタリングできます。

## 補足

小節線に対するフィルターはありません。また、フィンガリング、連符、アーティキュレーション、トレモロは、これらが適用される音符の一部と見なされるためフィルタリングはできません。

## 関連リンク

[歌詞のフィルター](#) (698 ページ)

## 音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする

音符の入力に合わせて音符が再生されるかどうかのデフォルト設定を変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションの「**試聴 (Auditioning)**」サブセクションにある「**音符の入力中および選択中に音符を再生 (Play notes during note input and selection)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

このオプションがオンの場合は、音符の入力時および選択時に音符が再生されます。オフの場合は、音符は再生されません。

## 関連リンク

[音符の入力](#) (153 ページ)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する](#) (275 ページ)

## 音符入力時/選択時に和音の音符をすべて /個別に再生する

和音のいずれかの音符を選択時に、すべての音符が再生されるか選択した音符のみが再生されるかのデフォルト設定を変更できます。

### 前提

音符の入力時/選択時に音符が再生されることとします。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションの「**試聴 (Auditioning)**」サブセクションにある「**選択されている和音のすべての音符再生 (Play all notes in chord when any is selected)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

このオプションがオンの場合は、和音のいずれかの音符が選択されると和音のすべての音符が再生されます。オフの場合は、選択された音符のみが再生されます。

## 貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする

デフォルトでは、スラーと強弱記号をほかの譜表の同じ位置にコピーすると自動的にリンクされます。この機能はオフにすることで、デフォルトでスラーがリンクされなくなります。

### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[,] (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストの「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」をクリックします。
3. 「編集 (Edit)」セクションの「貼り付け時は強弱記号とスラーを既存のアイテムにリンクさせる (Link dynamics and slurs to existing items when pasting)」をオフにします。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 関連リンク

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

[複数の譜表にわたってリンクされたスラー \(887 ページ\)](#)

## 既存のアイテムの変更

ポップオーバーが割り当てられているアイテムは、削除して新しくアイテムを入力するかわりに変更することができます。たとえば、8va のオクターブ線を 15va に変更したり、短いフェルマータを長いフェルマータに変更したりできます。

### 手順

1. 変更するアイテムまたはアイテムのガイドを選択します。
2. [Return] を押して、選択したアイテムのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに入力されている内容を変更します。  
コード記号については、MIDI キーボードで新しい和音を演奏することもできます。
4. [Return] を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

ポップオーバーに入力した新しいエントリーに従って、選択したアイテムが変更されます。アイテムに応じて変化するパラメーターも異なります。たとえば、延長記号や休止記号だとデュレーションが変化し、強弱記号だとボリュームが変化します。

### 補足

- フェルマータをプレス記号に変更すると、一番上の譜表のみに変更が適用されます。中間休止記号をプレス記号に変更すると、一番上の譜表にある中間休止記号が配置されている小節の最後にプレス記号が挿入されます。ただし、既存の中間休止記号はすべての譜表に残ります。
- この方法で演奏技法のポップオーバーを開いた場合、既存の演奏技法は削除されず、新しいエントリーは別の演奏技法として入力されます。
- *f* を *fp* にするなど、局部的強弱記号を結合式強弱記号に変更した場合、既存の強弱記号は削除されず、新しいエントリーは別の強弱記号として入力されます。この逆も同様です。

### 関連リンク

[既存の歌詞のテキストの変更 \(702 ページ\)](#)

## 譜表に対するアイテムの位置の変更

音符の符尾の方向をすばやく変更したい場合など、譜表の上下どちらにも配置できるアイテムを反転して、アイテムの譜表に対する位置を変更できます。

### 手順

1. 反転するアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

- 音符の入力中はアイテムを反転できません。
- タイのつながりやアーティキュレーションの中の単一の符頭など、アイテムの一部を選択したい場合は浄書モードにする必要があります。

2. **[F]** を押します。

### 結果

選択したアイテムの譜表に対する位置を変更するには、プロパティパネルの対応するグループで「**位置 (Placement)**」または「**方向 (Direction)**」のプロパティを適切に設定します。

これらのプロパティをオフにすると、アイテムはデフォルトの位置に配置されます。

### 補足

フックの方向が異なる連符の角括弧または複数セグメントによるスラーを同時に複数反転すると、それらすべてに矛盾しない方向が元々設定されていない限り、選択したすべてのアイテムが譜表の上下どちらかに設定されます。

## アイテムの外観のリセット

アイテムに個別に加えたすべての外観の変更をリセットして、デフォルトの設定に戻すことができます。アイテムの外観に関連するプロパティには、外観のスタイルやタイプを変更するものや *poco a poco* などのテキストを強弱記号に追加するものが含まれます。

### 手順

1. 外観をリセットするアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**外観をリセット (Reset Appearance)**」を選択します。

### 結果

選択したアイテムの外観に影響するすべてのプロパティがデフォルトの設定にリセットされます。レイアウト固有またはフレームのつながりに固有のプロパティについては、現在のレイアウトおよびフレームのつながり内で選択したアイテムの外観のみを更新します。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(367 ページ\)](#)

## アイテムの位置をリセットする

表示位置を個別に変更したアイテムの位置をリセットして、デフォルトの位置に戻すことができます。アイテムの位置に関連するプロパティには、水平方向/垂直方向のオフセット、拍相対位置、譜表に対する位置が含まれます。

### 手順

1. 位置をリセットするアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「ポジションをリセット (Reset Position)」を選択します。

### 結果

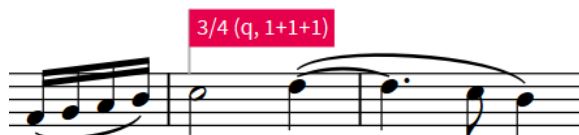
選択したアイテムの位置に影響するすべてのプロパティがデフォルトの設定にリセットされます。レイアウト固有またはフレームのつながりに固有のプロパティについては、現在のレイアウトおよびフレームのつながり内で選択したアイテムの位置のみを更新します。

## ガイド

Dorico Pro では、ガイドは臨時記号が付かない調号、非表示のアイテム、音符のスペーシングの変更など、スコア上に表示できない重要なアイテムや変更指示の位置を示します。

非表示の小節番号や拍子記号など、多くのアイテムにガイドを表示できるため、どのアイテムを示すかに応じてガイドはさまざまな色で表示されます。ガイドは選択でき、たとえば組段区切りのガイドを選択してその位置から譜表サイズを変更するなど、ガイドを使用して非表示のアイテムのプロパティを変更できます。

ガイドには、非表示のアイテムを識別するためのテキストの概要が表示されます。たとえば、拍子記号のガイドには、分数で表わされた拍子記号と分割された拍が表示されます。



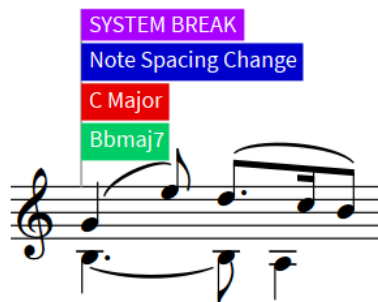
非表示の拍子記号のガイド

以下のアイテムのガイドを表示/非表示にできます。

- 臨時記号
- コード記号
- 大括弧と小節線の変更
- 音部記号
- キュー
- 強弱記号
- フレーム区切り
- 調号
- 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを使用して入力した音符のスペーシングの変更
- ペダル線
- 組段区切り
- テンポ記号
- テキスト (組段と譜表のどちらも)
- 打楽器のレジェンド

- 拍子記号
- 連符

1つの位置に複数のガイドが存在する場合は、ガイドが重なって読みづらくなならないように、縦に重ねて表示されます。



同じ位置にある異なるアイテムの複数のガイド

#### 補足

初期設定では、印刷やグラフィックファイルの書き出しにはガイドは含まれません。

関連リンク

[注釈 \(490 ページ\)](#)

## ガイドの表示/非表示の切り替え

設定モード、記譜モード、浄書モードでは、すべてのガイドまたは特定のアイテムのガイドをいつでも表示/非表示にできます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ガイドを表示/非表示にします。
  - すべてのガイドを表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**ガイドを非表示にする (Hide Signposts)**」を選択します。
  - 特定のアイテムのガイドを表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > [**アイテムのタイプ**]を選択します。

結果

メニュー内の対応するアイテムの横にチェックが付いている場合はそのアイテムのガイドが表示され、付いていない場合は非表示になります。

メニュー内の「**ガイドを非表示にする (Hide Signposts)**」の横にチェックが付いていない場合は選択しているすべてのガイドが表示され、付いている場合は非表示になります。

## 配置ツール

Dorico Pro の配置ツールを使用すると、異なる譜表や声部に音符を素早く効率的に割り当てることができます。

配置ツールでは、音符やアイテムを複数の譜表に同時にコピーする、選択した範囲に複数回コピーする、譜表間で音符を移動する、音符の声部を変更する、多くの譜表に音符を展開する、少ない譜表に音符をリデュースするなどの操作を行なえます。

## 音符とアイテムの削除

括弧内の音符を削除することなくリピート括弧だけを削除するなど、プロジェクトに入力した音符やアイテムはそれぞれ個別に削除できます。ただし、記譜モードにしておく必要があります。設定モード、浄書モード、または印刷モードで音符やアイテムを削除することはできません。

音符は再生モードでも削除できますが、その他の記譜項目は削除できません。

---

### 手順

1. 記譜モードで、削除する音符/アイテムを選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

---

### 結果

選択したすべての音符/アイテムがプロジェクトから削除されます。削除した音符は、必要に応じて暗黙の休符に置き換えられます。選択箇所は、削除したアイテムに対して最も自然かつ近い位置に移ります。たとえば音符を削除した場合、選択箇所は同じ声部の最も近い位置の音符に移ります。

スラーの開始位置または終了位置の音符が削除された場合、スラーは自動的に次または前の符頭に再配置されます。スラーがかかる音符が1つだけになった場合、スラーは自動的に削除されます。

音符を削除する際、延長記号と休止記号は選択しなければ自動的に削除されません。それらはその位置に最も近い音符または休符の上に配置されるか、小節内のすべての音符が削除された場合は、小節休符の上に配置されます。

リピート括弧を削除する際、その一部として入力されていたリピート小節線は自動的に削除されません。

---

### ヒント

マーカーの削除は、ビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションで該当のマーカーを選択し、アクションバーの「**削除 (Delete)**」をクリックして行なうこともできます。

---

### 関連リンク

[小節線の削除 \(519 ページ\)](#)

## アイテムのコピーと貼り付け

音符や記譜記号などのアイテムをさまざまな方法でコピーして、別の位置に貼り付けることができます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、コピーするアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したアイテムを別の位置にコピーします。
  - **[Alt]** を押しながら貼り付ける位置をクリックします。
  - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押し、貼り付ける位置を選択して **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
  - スラッシュ付き声部を含む特定の声部にアイテムをコピーするには、「**編集 (Edit)**」 > 「**コピー (Copy)**」を選択し、貼り付ける位置を選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**特殊な貼り付け (Paste Special)**」 > 「**声部に貼り付け (Paste Into Voice)**」 > **[声部]** を選択します。
  - アイテムを上 の譜表にコピーするには、アイテムを選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**特殊な貼り付け (Paste Special)**」 > 「**上の譜表に複製 (Duplicate to Staff Above)**」を選択します。
  - アイテムを下 の譜表にコピーするには、アイテムを選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**特殊な貼り付け (Paste Special)**」 > 「**下の譜表に複製 (Duplicate to Staff Below)**」を選択します。

#### 結果

選択したアイテムが、元の位置から削除されることなく別の譜表にコピーされます。

#### 関連リンク

[大きな選択範囲](#) (276 ページ)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する](#) (275 ページ)

[音符を別の譜表に移動する](#) (288 ページ)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする](#) (282 ページ)

## 複数の声部に音符をコピーアンドペーストする

音符は、元の声部とは異なる声部 (スラッシュ付き声部を含む) にコピーアンドペーストできます。たとえば、ある譜表の符尾が上向きの声部から音符をコピーして、別の譜表の符尾が下向きの声部に貼り付けることができます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、コピーする音符を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符をコピーします。
3. 音符を貼り付ける譜表で音符の開始位置を選択します。
4. 「**編集 (Edit)**」 > 「**特殊な貼り付け (Paste Special)**」 > 「**声部に貼り付け (Paste Into Voice)**」 > 「**既存または新規の声部**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

#### 結果

選択した音符が選択した譜表および声部に貼り付けられます。

## 複数の譜表にアイテムをコピーアンドペーストする

木管楽器をユニゾンで演奏する際にすべての木管楽器の譜表に単一のフレーズをコピーする場合など、音符やその他のアイテムを複数の譜表に同時にコピーアンドペーストできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、複数の譜表にコピーするアイテムを選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択したアイテムをコピーします。
3. コピーしたアイテムを貼り付ける各譜表上のアイテムを選択します。
4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押してコピーしたアイテムを貼り付けます。

---

#### 結果

選択したアイテムが選択したすべての譜表にコピーされます。

#### ヒント

各譜表上でアイテムの範囲を選択した場合、コピーしたアイテムも選択した範囲を埋めるように複数回貼り付けられます。

---

#### 関連リンク

[大きな選択範囲](#) (276 ページ)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする](#) (282 ページ)

## アイテムをコピーアンドペーストして 選択範囲を埋める

複数の小節を同じフレーズで埋めたい場合などに、音符や記譜記号などのアイテムを、選択範囲内で一度に複数回コピーアンドペーストできます。

### 補足

コピーアンドペーストできるのは、選択範囲を埋めるデューレーションを持つアイテムだけです。たとえば、段階的強弱記号をコピーアンドペーストして選択範囲を埋めることはできますが、局部的強弱記号ではできません。

### 手順

1. 記譜モードで、範囲全体にコピーするアイテムを選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択したアイテムをコピーします。
3. コピーしたアイテムを全体に貼り付ける範囲を選択します。
4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押してコピーしたアイテムを貼り付けます。

### 結果

選択した範囲を超えることなく、その範囲に収まる回数だけ、コピーしたアイテムが貼り付けられます。

### ヒント

複数の譜表にまたがる範囲を選択した場合は、コピーしたアイテムも複数の譜表に貼り付けられます。

### 関連リンク

[大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)

## 音符を別の譜表に移動する

たとえば、MIDI ファイルからキーボードパートを読み込んだあとに、キーボードの譜表の個々の音符を別の譜表に移動するなど、音符をあらゆるタイプの別の譜表に移動できます。

### 手順

1. 記譜モードで、別の譜表に移動する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を別の譜表に移動します。
  - 上の譜表に移動するには、**[Alt]+[N]** を押します。
  - 下の譜表に移動するには、**[Alt]+[M]** を押します。

### 結果

元の譜表から切り取った音符を新しい譜表に貼り付けるという方法で、選択した音符が別の譜表に移動します。初期設定では、譜表上のアクティブな最初の声部に貼り付けられます。

### 補足

連符内の音符を別の譜表に移動すると、連符の角括弧、連符の数や比率、または連符のガイドを一緒に選択していない限り、移動する音符は連符から外れます。

### 関連リンク

[譜表をまたぐ連符の作成 \(550 ページ\)](#)

[複数の譜表にアイテムをコピーアンドペーストする \(287 ページ\)](#)



## 譜表の内容の入れ替え

和音のエキスプロードで作成した特定の2つの小節のデフォルトの声部をすばやく変更したい場合など、2つの譜表の選択した範囲の内容を入れ替えることができます。

### 手順

1. 記譜モードで、入れ替える2つの譜表の楽譜の範囲を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「入れ替え (Swap)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した譜表の選択したデュレーションの内容が入れ替わります。

### 関連リンク

[声部の内容の入れ替え \(291 ページ\)](#)

## 少ない譜表への楽譜のリデュース

たとえば合唱用の楽曲をピアノ用の楽譜に再編成するなど、元々記譜された譜表よりも少ない譜表に楽譜をリデュースできます。

### 手順

1. 記譜モードで、リデュースする楽譜を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して楽譜をコピーします。
3. 選択した楽譜をリデュースする譜表を選択します。
4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「リデュース (Reduce)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した楽譜が選択した譜表にリデュースされます。

リズムが一致する場合は、楽譜が単一の声部に結合されます。同じピッチの音符は1つの位置に1つだけ貼り付けられるように、ユニゾンの音符は削除されます。また、音部変更記号、オクターブ線、キューも削除されます。

譜表の貼り付け先には、少なくとも1つのインストゥルメントの楽譜が配置されます。リデュースされる楽譜の分割は、選択した譜表の上から下へと順に計算されます。たとえば、5つのインストゥルメントの音符や記譜記号を3つの譜表にリデュースする場合、選択したうちの1番上の譜表には1番めと2番めのインストゥルメントが割り当てられ、2番めの譜表には3番めと4番めのインストゥルメントが割り当てられ、3番めの譜表には5番めのインストゥルメントが割り当てられます。

### 関連リンク

[音符を別の譜表に移動する \(288 ページ\)](#)

## 複数の譜表への楽譜のエキスプロード

たとえば、密集したピアノの和音の音符をすべての木管楽器の譜表に素早く配置するなど、元々記譜された譜表よりも多くの譜表に楽譜をエキスプロードできます。

### 手順

1. 記譜モードで、エキスプロードする楽譜を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して楽譜をコピーします。
3. 選択した楽譜をエキスプロードする譜表を選択します。

4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「エクスプロード (Explode)」 を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した楽譜が選択した譜表にエクスプロードされます。エクスプロード先の譜表には、元の和音の音符が少なくとも1つ配置されます。音符は、選択したインストゥルメントの譜表の上から下へと順に割り当てられます。

- 和音に含まれる音符の数がエクスプロード先の譜表の数と一致する場合は、各インストゥルメントに1つずつ音符が配置されます。
- 和音に含まれる音符の数がエクスプロード先の譜表の数より少ない場合は、複数の譜表に同じ音符が割り当てられます。スラーや強弱記号などの記譜記号は、エクスプロード先の各譜表に複製されます。
- 和音に含まれる音符の数がエクスプロード先の譜表の数より多い場合は、音符が譜表全体にわたって可能な限り等しく配置されます。和音に含まれる音符の数が奇数の場合、Dorico Pro は上段の譜表に追加の音符を割り当てようとします。

## 既存の音符の声部を変更する

音符の声部は、音符を入力したあとでも変更できます (スラッシュ付き声部の音符を含む)。たとえば、声部の音符の符尾の方向を上向きから下向きに変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、声部を変更する音符を選択します。

#### ヒント

大きな選択範囲やフィルターを使用して、同じ声部のたくさんの音符を選択します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、声部を変更します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > [声部] を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > [スラッシュ付き声部] を選択します。

#### ヒント

- このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 譜表上に声部が1つしかない場合は、選択した音符用に新しい声部を作成できます。

#### 結果

選択した音符の声部が変更されます。これにより、譜表上で選択した音符や他の音符の符尾の方向が自動的に変更され、表記規則に基づいて正しく記譜されるようにするために暗黙の休符が自動で追加される場合があります。

#### 手順終了後の項目

休符の削除や非表示、および音符の符尾の方向の変更は、あとから手動で行なえます。声部全体をスラッシュ付き声部に変更することもできます。

#### 関連リンク

- [声部カラーの表示 \(1050 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)
- [フィルター \(280 ページ\)](#)
- [複声部における暗黙の休符 \(871 ページ\)](#)
- [休符の削除 \(873 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)  
[スラッシュ符頭の声部のタイプを変更する \(1053 ページ\)](#)

## 声部の内容の入れ替え

2つの声部の内容が空白ではない場合、その内容を入れ替えることができます。

### 手順

1. 記譜モードで、内容を入れ替える2つの声部に含まれる音符を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部の内容を入れ替え (Swap Voice Contents)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

声部の内容が入れ替わります。たとえば、元は符尾が上向きの声部に属していた音符は符尾が下向きの声部に移り、元は符尾が下向きの声部に属していた音符は符尾が上向きの声部に移ります。

### 補足

入れ替わるピッチや符尾の方向によって、音符が重なる場合があります。音符の垂直のスペースを最小限にして楽譜を見やすくするため、Dorico Pro は自動的に音符の符頭が部分的に重なるように音符を配置します。この配置を変更する場合は、声部の順番を変更するか、声部列の並び順を変更します。

### 例



E が上向き、F が下向きの声部



声部の内容を入れ替え後、E が下向き、F が上向きの声部

### 関連リンク

[声部の順番の入れ替え \(1051 ページ\)](#)  
[声部列の並び順 \(1051 ページ\)](#)

## フローの分割

特定の位置でフローを分割できます。Dorico Pro のフローは互いに独立しており、それぞれに異なるブレイヤーや記譜オプション (音符のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなど) を設定できます。

### 手順

1. 記譜モードで、フローを分割する位置にある音符またはアイテムを選択します。
2. 「記譜 (Write)」 > 「フローを分割 (Split Flow)」を選択します。

### 結果

フローが2つのフローに分割されます。1つは既存のフロー、もう1つは選択したアイテムの位置から始まる新しいフローです。初期設定では、新しいフローはページビューでは新しいページから始まり、ギャラリービューでは別の背景の上に表示されます。

### 手順終了後の項目

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで、フローごとに異なるオプションを選択できます。

関連リンク

[フロー \(120 ページ\)](#)

[フローの追加 \(121 ページ\)](#)

[フローの削除 \(123 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[フローの終了位置にある空白の小節を削除する \(511 ページ\)](#)

# 浄書モード

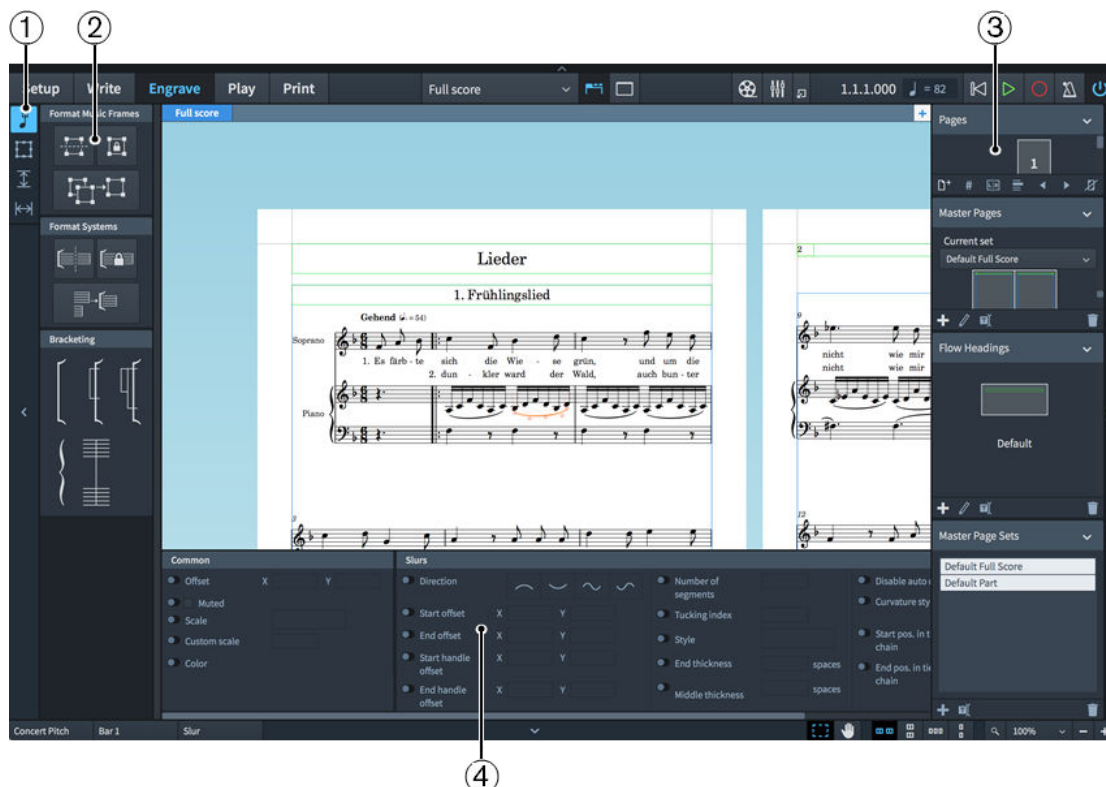
浄書モードでは、アイテムを削除したり音符のピッチを変更したりすることなく、プロジェクトで使用するすべてのアイテムの操作や変更を行なえます。また、印刷時や書き出し時に使用するプロジェクトのページの形式を指定することもできます。

## 浄書モードのプロジェクトウィンドウ

浄書モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、およびステータスバーが表示されます。スコアに含まれるページ、組段、および個別の記譜記号のプロパティの形式を設定するためのツールと機能をすべて使用できます。

浄書モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[3] を押します。
- ツールバーで「**浄書 (Engrave)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**浄書 (Engrave)**」を選択します。



浄書モードのツールボックスとパネル

浄書モードのプロジェクトウィンドウには以下のコンテンツが含まれています。

### 1 浄書ツールボックス

形式設定パネルにどの形式設定オプションを表示するかを設定するオプションと、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」および「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにするオプションがあります。

## 2 形式設定パネル

組段とフレームに楽譜をどのように配置するかを制御したり、フレームを挿入したり、フレーム制限を編集したりできる形式設定オプションがあります。浄書ツールボックスでの現在の選択に応じて、表示される形式設定オプションが決まります。「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」または「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」を選択すると、パネルが自動的に非表示になります。

## 3 ページパネル

楽譜のページの形式を設定できます。これは、DTP ソフトウェアで使用されている一般的な手法をベースにしています。

## 4 プロパティパネル

クイックアクセスプロパティから、音符や記譜記号の個別の部位に特定の変更を加えることができます。

関連リンク

[ウィンドウ \(32 ページ\)](#)

# 浄書ツールボックス

浄書ツールボックスでは、形式設定パネルで使用できるオプションを変更したり、音符や譜表のスペーシングを有効にしたりできます。浄書ツールボックスは、浄書モードのウィンドウの左側にあります。

## グラフィックの編集 (Graphic Editing)



楽譜領域またはマスターページエディターのアイテムの選択や編集を行ったり、組段、フレーム、大括弧、中括弧、小節線の結合などの形式を編集できる形式設定パネルのセクションを開いたりできます。

## フレーム (Frames)



楽譜領域またはマスターページエディターのフレームの選択や編集を行ったり、フレームの挿入やフレームの制限の編集を行なえる形式設定パネルのセクションを開いたりできます。

## 譜表のスペーシング (Staff Spacing)



個々の譜表と組段を垂直方向に移動できます。

## 音符のスペーシング (Note Spacing)



個々の音符やその他のアイテム (音部記号や調号など) の水平方向の表示位置を編集できます。

関連リンク

[フレーム \(325 ページ\)](#)

[フレーム制限 \(344 ページ\)](#)

[譜表のスペーシング \(395 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

## 形式設定パネル

浄書モードの形式設定パネルでは、ページにさまざまなフレームを挿入したり、ページ上のフレームを整列させる方法を指定したりできます。また、大括弧と中括弧を手動で追加するなど、ページ上の組段とフレームの形式設定を変更することもできます。

形式設定パネルは、浄書モードのウィンドウの左側にあります。形式設定パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。

浄書ツールボックスで何を選択しているかによって、形式設定パネルで使用できる形式設定オプションは異なります。

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択している場合は、以下のセクションを使用できます。

### 楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)

「**楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)**」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の楽譜がどのようにフレームに配置されるかを変更できます。

#### フレーム区切りを挿入 (Insert Frame Break)



選択したアイテムから先の楽譜を強制的に次のフレーム (多くの場合、次のページ) に移動します。これにより、各ページにどの楽譜を表示するかを制御できます。

#### フレームをロック (Lock Frame)



選択したフレームの形式設定を固定します。ロックしたフレームは、周囲のフレームの形式設定を変更しても影響を受けません。

#### フレームに変換 (Make into Frame)



選択したアイテムの間のすべての楽譜を強制的に同じフレームに変換します。このオプションを使うと、楽譜を1ページにまとめることができます。

### 組段の形式設定 (Format Systems)

「**組段の形式設定 (Format Systems)**」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の楽譜がどのように組段に配置されるかを変更できます。

#### 組段区切りを挿入 (Insert System Break)



選択したアイテムから先の楽譜を強制的に次の組段に移動します。譜表サイズやその他の設定によっては、楽譜が次のページに移動することもあります。

#### 組段をロック (Lock System)



選択した組段の形式設定を固定します。ロックした組段は、周囲の音符や記譜記号、組段などの形式設定を変更しても影響を受けません。

#### 組段に変換 (Make into System)



選択したアイテムの間のすべての楽譜を強制的に同じ組段に変換します。

#### 括弧 (Bracketing)

「括弧 (Bracketing)」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の譜表を大括弧または中括弧でどのように括るか、どの譜表を小節線で結合するかを組段ごとに個別に変更したりできます。

##### 大括弧を挿入 (Insert bracket)



アイテムを選択している譜表を大括弧で結合します。また、初期設定では、大括弧で結合されるグループ全体に小節線が引かれます。

##### 副括弧を挿入 (Insert sub-bracket)



アイテムを選択している譜表を副括弧で結合します。

補足

選択する譜表は同じ大括弧内に含まれている必要があります。

---

##### 小副括弧を挿入 (Insert sub-sub-bracket)



アイテムを選択している譜表を小副括弧で結合します。

補足

選択する譜表は同じ大括弧および副括弧内に含まれている必要があります。

---

##### 中括弧を挿入 (Insert brace)



アイテムを選択している譜表を中括弧で結合します。



## 補足

中括弧と副括弧または中括弧と小副括弧で同時に譜表を結合することはできません。

### 小節線の結合を変更 (Change barline joins)



アイテムを選択している譜表全体の小節線を結合します。

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択している場合は、以下のセクションを使用できません。

### フレームを挿入 (Insert Frames)

「**フレームを挿入 (Insert Frames)**」セクションでは、レイアウト内のページやマスターページに新しいフレームを作成できます。

#### 楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)



楽曲フレームを挿入できます。レイアウト内のページでは、レイアウトフレームチェーンに楽曲フレームが挿入されます。マスターページエディターのマスターページでは、マスターページフレームチェーンにフレームが挿入されます。

#### テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)



テキストやテキストトークンを入力するフレームを挿入できます。

#### グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)



イメージや図を表示するフレームを挿入できます。

#### 制限 (Constraints)

ページ余白に固定するフレームの辺を指定できます。

#### 関連リンク

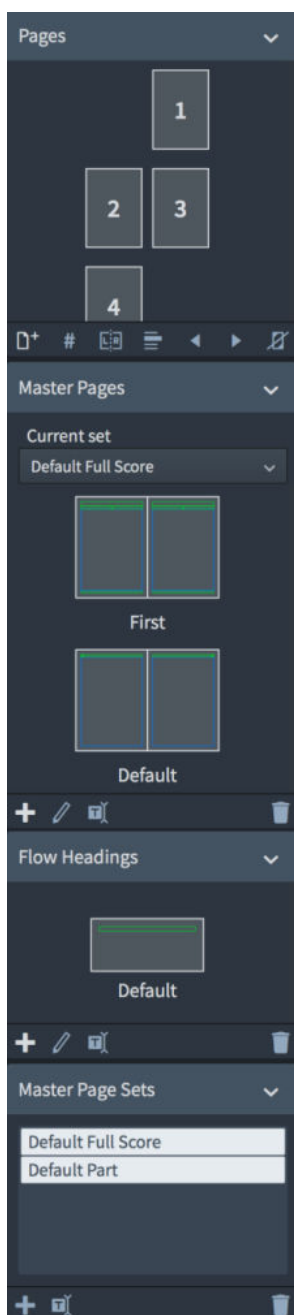
- [フレーム \(325 ページ\)](#)
- [楽曲フレーム \(328 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(335 ページ\)](#)
- [グラフィックフレーム \(343 ページ\)](#)
- [マスターページ \(304 ページ\)](#)
- [楽曲フレームチェーン \(330 ページ\)](#)
- [大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(344 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(360 ページ\)](#)

## ページパネル

浄書モードのページパネルには複数のセクションがあり、楽譜のページ形式を指定できます。これは、DTP ソフトウェアで使用されている一般的な手法をベースにしています。

ページパネルは、浄書モードのウィンドウの右側にあります。ページパネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- [Ctrl]/[command]+[9] を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「右のパネルを表示 (Show Right Panel)」 を選択します。



浄書モードのページパネル

ページパネルは以下のセクションに分かれています。

## ページ (Pages)

レイアウト内のページが表示され、その中央にはページ番号が表示されます。現在選択されているページは、枠が強調表示されます。ページの優先が設定されているページには、左上角と右下角にマークが付きます。マスターページの変更が適用されているページには、ページの上または左に枠線が付きます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **ページを挿入 (Insert Pages)**



レイアウトの既存のページの前後いずれかに、選択したマスターページに基づいたページを挿入できます。

- **ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**



レイアウト内のページのページ番号を変更できます。

- **マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)**



選択したページに異なるマスターページを割り当てることができます。

- **前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)**



選択したページとその前ページの順番を入れ替えます。

- **次ページと入れ替え (Swap with Next Page)**



選択したページとその次ページの順番を入れ替えます。

- **優先を解除 (Remove Overrides)**



選択したページからすべての優先を解除します。

## マスターページ (Master Pages)

レイアウトで使用されている見開きのマスターページが表示されます。現在選択されているマスターページは、枠が強調表示されます。「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択すると、そのページで使用されている見開きのマスターページが、マスターページセクションで強調表示されます。

「**現在のセット (Current set)**」メニューでは、楽譜領域で現在開いているレイアウトで使用されているマスターページのセットを表示したり変更したりできます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規マスターページ (New Master Page)**



マスターページのセットに新規マスターページを追加できます。

- **マスターページを編集 (Edit Master Page)**



マスターページの形式設定を変更するためのマスターページエディターを開きます。マスターページエディターは、「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでマスターページをダブルクリックして開くこともできます。

- **マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**



選択したマスターページの名前を変更できます。

- **マスターページを削除 (Delete Master Page)**



選択したマスターページが削除されます。

### フロー見出し (Flow Headings)

現在選択しているマスターページのセットで使用できるフロー見出しが表示されます。現在選択されているフロー見出しは、枠が強調表示されます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規フロー見出し (New Flow Heading)**



マスターページのセットに新規フロー見出しを追加できます。

- **フロー見出しを編集 (Edit Flow Heading)**



フロー見出しの形式設定を変更するためのフロー見出しエディターを開きます。フロー見出しエディターは、「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでフロー見出しをダブルクリックして開くこともできます。

- **フロー見出し名を変更 (Rename Flow Heading)**



選択したフロー見出しの名前を変更できます。

- **フロー見出しを削除 (Delete Flow Heading)**



選択したフロー見出しが削除されます。

### マスターページのセット (Master Page Sets)

プロジェクトで使用できるマスターページのセットが表示されます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規マスターページのセット (New Master Page Set)**



リストで選択したマスターページのセットをもとに、新規マスターページのセットを作成します。新規マスターページのセットは「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューへ自動的に追加されます。

- **マスターページのセット名を変更 (Rename Master Page Set)**



選択したマスターページのセットの名前を変更できます。

- **マスターページのセットを削除 (Delete Master Page Set)**



選択したマスターページのセットをリストから削除します。

### 関連リンク

[マスターページ \(304 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

[フロー見出し \(321 ページ\)](#)

[フロー見出しエディター \(321 ページ\)](#)

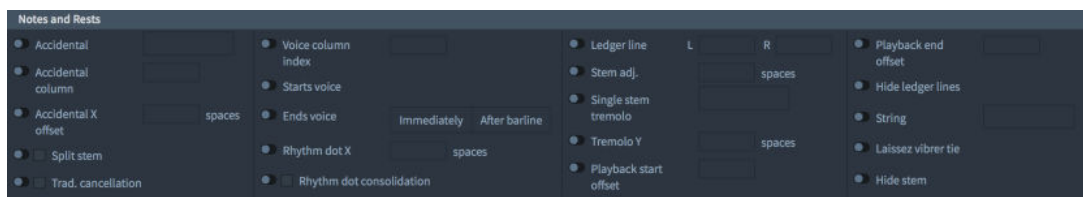
## プロパティパネル (浄書モード)

浄書モードのプロパティパネルには、個々の音符や記譜記号を編集するオプションが表示されます。記譜モードのプロパティパネルにあるプロパティはすべて 浄書モードにもありますが、浄書モードの追加プロパティを使用するとアイテムをより細かく編集できます。

記譜モードおよび浄書モードのプロパティパネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。

プロパティパネルには、各記譜項目のプロパティのグループが表示されます。楽譜領域で音符または項目を選択すると、選択した音符または項目の編集に必要なグループおよびオプションがプロパティパネルに表示されます。



浄書モードのプロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループ

### 補足

- タイプが異なる記譜項目を複数選択した場合、選択した項目すべてに共通するグループのみ表示されます。たとえば、スラーを選択した場合、プロパティパネルには「**一般 (Common)**」および「**スラー (Slurs)**」グループが表示されます。一方、スラーと音符を選択した場合は、「**一般 (Common)**」グループのみ表示されます。
- プロパティの多くはレイアウト固有のもので、あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。ただし、プロパティの変更を他のレイアウトにコピーできます。

### 関連リンク

[個々の音符とアイテムのプロパティを変更する \(140 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(367 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(283 ページ\)](#)

[アイテムの位置をリセットする \(284 ページ\)](#)

## アイテムのハンドルの選択

浄書モードでは、段階的強弱記号の開始位置を動かさずに終了位置だけを動かしたい場合などに、アイテムの個々のハンドルを選択できます。

### 補足

これらの手順は、フレーム、音符のスペーシング、譜表のスペーシングのハンドルには使用できません。

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なってハンドルを選択します。
  - アイテム全体を選択し、目的のハンドルが選択されるまで **[Tab]** を押します。
  - 目的のハンドルをクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

- 必要に応じて、[Ctrl]/[command] を押しながら別のアイテムのハンドルをクリックして選択します。

補足

別のアイテムを選択して [Tab] を押しても、そのアイテムの次のハンドルを選択することはできません。

## 「浄書オプション (Engraving Options)」 ダイアログ

「**浄書オプション (Engraving Options)**」ダイアログに表示されるさまざまなオプションを使って、アイテムの外観や位置などをプロジェクト全体で変更できます。

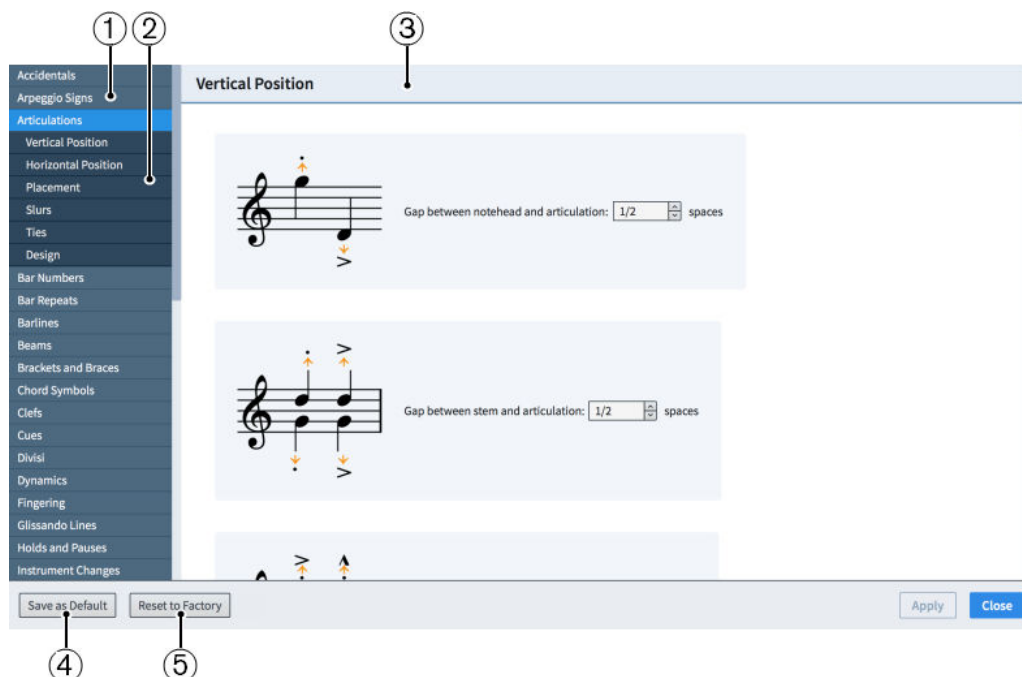
たとえば、記譜項目の線の太さ、延長スタイル、譜表に対するデフォルトの位置、譜表やその他のアイテムからの最小距離などを変更できます。

ヒント

- 「**デフォルトとして保存 (Save As Default)**」をクリックすると、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定したすべてのオプションを、新規プロジェクト用のデフォルトとして保存できます。
- 個々の音符や記譜記号を変更する場合は、プロパティパネルのプロパティを使用します。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E] を押します (どのモードでも使用可)。
- 浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」を選択します。



### 浄書オプション (Engraving Options)

「**浄書オプション (Engraving Options)**」ダイアログには以下が含まれています。

## 1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

## 2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

## 3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

## 4 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「デフォルトとして保存 (Save as Default)」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
- 「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」を選択できます。

## 5 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Alt]** (macOS)/**[Ctrl]** (Windows) を押すことで「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

### 関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(28 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(283 ページ\)](#)

[アイテムの位置をリセットする \(284 ページ\)](#)

## 浄書オプションでのプロジェクト全体の変更

「浄書オプション (Engraving Options)」では、音符や記譜記号の外観、配置、デフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
  - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押します (どのモードでも使用可)。
  - 浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」を選択します。
2. ページリストのページをクリックします。
3. 設定可能なオプションを確認して、必要に応じてオプションを変更します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 補足

変更を加えたあとに「適用 (Apply)」をクリックせずにダイアログを閉じると、変更を保存するか破棄するかを確認するメッセージが表示されます。

#### 結果

すべてのレイアウトとフローを含め、プロジェクト内のすべての楽譜に変更が適用されます。

## マスターページ

マスターページは Dorico Pro のテンプレートのように機能し、同じページの形式設定を別のレイアウトの複数の別のページに適用できます。

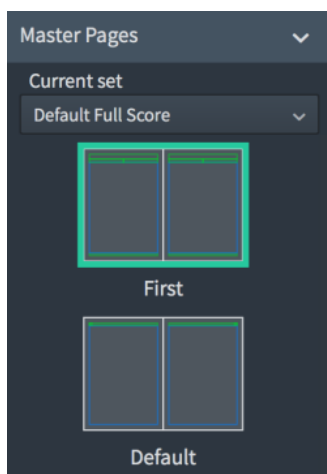
#### 補足

フルスコアとパートレイアウトのページのサイズ、余白、向き、および譜表サイズは、「設定 (Setup)」>「レイアウトオプション (Layout Options)」で指定します。

スコアとパートの全ページには、マスターページのレイアウト形式が引き継がれます。マスターページを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのマスターページを使用するページに自動で反映されます。たとえば、新規フレームをマスターページに挿入すると、ページの優先が設定されているページ以外の、そのマスターページを使用するすべてのページに対応するフレームが表示されます。

Dorico Pro では、マスターページは見開きページで構成されています。すべての見開きページには左右のマスターページがあるため、プロジェクト内のページが左ページであれば見開きのマスターページの左ページの形式設定が使用され、右ページであれば右ページの形式設定が使用されます。ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションとマスターページエディターは、どちらも見開きページが左右に並んで表示されます。

Dorico Pro には、最初のページ用 («最初 (First)») とそれ以降のページ用 («デフォルト (Default)») のデフォルトのマスターページがあります。これにより、後続のページとは異なる形式を最初のページに設定できます。マスターページは、フルスコアとパートレイアウトのマスターページのセットに含まれます。マスターページのセットは、作成するすべてのレイアウトに自動的に適用されます。



浄書モードのページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで、「デフォルトのフルスコア (Default Full Score)」のマスターページのセットに2つのデフォルトマスターページが表示されている図

マスターページのセットの変更またはマスターページの形式の変更は、以下のいずれかの方法で行なえます。

- マスターページおよびマスターページのセットを新規作成します。
- マスターページエディターを使用して、マスターページのセット内のデフォルトマスターページを編集します。



また、レイアウト内の個々のページにページの優先を設定することもできますが、これはマスターページの形式設定には影響しません。

関連リンク

[ページパネル](#) (298 ページ)

[マスターページエディター](#) (309 ページ)

[ページの優先](#) (311 ページ)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ](#) (93 ページ)

## マスターページのセット

Dorico Pro では、マスターページがマスターページのセットの一部として提供されます。マスターページのセットはマスターページの形式をグループ化し、どのような状況においてもプロジェクト内に対応するマスターページがあるようにします。

デフォルトのマスターページのセットには、最初の見開きページ用 (**「最初 (First)」**) とそれ以降の見開きページ用 (**「デフォルト (Default)」**) にあらかじめ定義されたマスターページが含まれています。これにより、左右どちらのページかに関係なく、各フローの最初のページおよびそれ以降のページにマスターページの形式を使用できます。

すべての新規プロジェクトで、以下のデフォルトのマスターページのセットを使用できます。

- **「デフォルトのフルスコア (Default Full Score)」** は、フルスコアレイアウトに使用されるデフォルトのマスターページのセットです。
- **「デフォルトのパート譜 (Default Part)」** は、パートレイアウトに使用されるデフォルトのマスターページのセットです。

マスターページのセットには、フローのタイトルの開始位置が前のフローと同じページにある場合にそのフローのタイトルの形式を設定できるフロー見出しも含まれています。デフォルトのマスターページのセットには、それぞれ1つのフロー見出しが含まれています。

プロジェクトを作成するとデフォルトのマスターページのセットが自動的に適用されるため、最初にマスターページのセットを作成したりカスタマイズしたりする必要はありません。セットを変更する必要がある場合は、以下のいずれかの操作を行ないます。

- デフォルトのセットをもとに新しいカスタムマスターページのセットを作成します。
- 現在のプロジェクト用に、必要に応じてデフォルトのセットを変更します。

関連リンク

[フロー見出し](#) (321 ページ)

## マスターページのセットの作成

新しいマスターページのセットを作成できます。Dorico Pro に用意されているセットまたは自分で作成した既存のカスタムマスターページのセットをベースとして使用できます。

---

手順

1. ページパネルの **「マスターページのセット (Master Page Sets)」** セクションで、新しいマスターページのセットのもとにするマスターページのセットをクリックします。
2. アクションバーで **「新規マスターページのセット (New Master Page Set)」** をクリックします。



---

結果

選択したデフォルトのマスターページのセットをもとに、新しいマスターページのセットが作成されます。作成されたセットは、マスターページのセットのリストにすぐに表示されます。

手順終了後の項目

新しいマスターページのセットは、名前を変更したり新しいマスターページを追加したりできます。

関連リンク

[マスターページの追加](#) (307 ページ)

## マスターページのセット名の変更

作成したマスターページのセット名を変更できます。デフォルトのマスターページのセット名を変更することはできません。

---

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、名前を変更するマスターページのセットをダブルクリックします。  
または、マスターページのセットを選択し、アクションバーで「**マスターページのセット名を変更 (Rename Master Page Set)**」をクリックしてもかまいません。



2. 新しい名前を入力します。
3. **[Return]** を押します。

---

## マスターページのセットの削除

デフォルトのマスターページのセットを含め、不要になったマスターページのセットを削除できます。

---

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、削除するマスターページのセットをクリックします。
2. アクションバーで「**マスターページのセットを削除 (Delete Master Page Set)**」をクリックします。



---

## レイアウトへのマスターページのセットの適用

さまざまなマスターページのセットをプロジェクト内の各レイアウトに適用できます。

---

手順

1. 楽譜領域で、マスターページのセットを適用するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、「**現在のセット (Current set)**」メニューからマスターページのセットを選択します。

---

結果

選択したマスターページのセットがレイアウトに適用されます。

手順終了後の項目

マスターページのセット内の異なるマスターページを個別のページに割り当てるなど、レイアウトに対してさらなる変更を行なえます。また、最初のページのフレーム余白をマスターページの設定から変える必要がある場合など、現在のレイアウト内のページにのみ適用されるページの優先を個別に設定することもできます。

関連リンク

[ページへのマスターページの割り当て](#) (317 ページ)

[ページの優先](#) (311 ページ)

## マスターページのタイプ

マスターページのセットに新規マスターページを追加する場合、追加するマスターページのタイプを指定する必要があります。

以下のタイプのマスターページを追加できます。

### 最初 (First)

通常、レイアウト内の楽譜の最初のページに使用される見開きページです。初期設定では、「**最初 (First)**」のマスターページには、楽譜に加えてプロジェクトタイトル、作曲者、作詞者を表示するトークンが含まれています。

#### 補足

「**First (最初)**」の見開きページを作成しない場合、レイアウト内の最初のページには「**デフォルト (Default)**」の見開きページが使用されます。

---

### デフォルト (Default)

通常、レイアウト内の最初のページのあとに続くページに使用される見開きページです。初期設定では、「**デフォルト (Default)**」のマスターページには、楽譜に加えてフロータイトルとページ番号を表示するトークンが含まれています。

すべてのマスターページのセットには、「**デフォルト (Default)**」のマスターページを1つ含める必要があります。

### カスタム (Custom)

あらゆるレイアウトを含めることができる見開きページです。カスタムマスターページを使用すると、各パートレイアウトの最後のページのみ同じ位置に画像を表示したい場合など、複数のページ (ただしすべてのページではない) に適用するレイアウトを作成できます。

#### 補足

カスタムマスターページを使用してレイアウトにページを挿入すると、そのページには優先が設定されます。つまり、カスタムマスターページを使用してレイアウトの途中または最後にページを挿入後、ページの優先を解除すると、挿入したページには「**デフォルト (Default)**」のマスターページが自動的に割り当てられます。

---

#### 関連リンク

[マスターページのセット \(305 ページ\)](#)

[ページの優先 \(311 ページ\)](#)

[「最初 \(First\)」のマスターページをいつ使用するかの変更 \(348 ページ\)](#)

## マスターページの追加

マスターページのセットに新しいマスターページを追加できます。各マスターページのセットには「カスタム (Custom)」のマスターページを複数登録できますが、「最初 (First)」のマスターページと「デフォルト (Default)」のマスターページはそれぞれ1つしか登録できません。

---

#### 手順

1. 楽譜領域で、マスターページを追加するマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

---

2. ページパネルで、「**マスターページ (Master Pages)**」アクションバーの「**新規マスターページ (New Master Page)**」をクリックして「**新規マスターページ (New Master Page)**」ダイアログを開きます。



3. 「**新規マスターページ (New Master Page)**」ダイアログの「**名前 (Name)**」フィールドに新しいマスターページの名前を入力します。
4. 「**もとにするページ (Based on)**」メニューから、新しいマスターページのもとにする既存のマスターページを選択します。

#### 補足

- 既存のマスターページをベースに作成したマスターページは、「**もとにするページ (Based on)**」で選択したマスターページとのリンクを保ちます。つまり「**もとにするページ (Based on)**」で選択したマスターページでテキストフレーム内のテキストのフォントサイズを変更すると、そのマスターページをベースに作成した新しいマスターページも影響を受け、その逆の場合も同じです。
- 「**(なし (None))**」を選択すると、ページ余白以外の形式設定がされていないマスターページが作成されます。

5. 新しいマスターページに対し、以下のいずれかのマスターページタイプを選択します。

- **最初 (First)**
- **デフォルト (Default)**
- **カスタム (Custom)**

#### 補足

各マスターページのセットには「**最初 (First)**」のマスターページと「**デフォルト (Default)**」のマスターページをそれぞれ1つしか登録できないため、「**最初 (First)**」または「**デフォルト (Default)**」を選択した場合、既存のマスターページは新しいマスターページで置き換えられます。

既存のマスターページを置き換えずに新しいマスターページを作成するには、「**カスタム (Custom)**」を選択します。

6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したマスターページのセットに選択したタイプの新しいマスターページが追加されます。

#### 手順終了後の項目

そのマスターページが登録されたマスターページのセットを使用しているレイアウト内の個々のページにマスターページを適用できます。

#### 関連リンク

[マスターページのセット \(305 ページ\)](#)

[レイアウトへのマスターページのセットの適用 \(306 ページ\)](#)

[ページへのマスターページの割り当て \(317 ページ\)](#)

## マスターページ名の変更

デフォルトマスターページやカスタムマスターページなど、マスターページの名前を変更できます。

#### 手順

1. 楽譜領域で、名前を変更するマスターページを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、名前を変更する見開きのマスターページをクリックします。
3. アクションバーで、「**マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**」をクリックして「**マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**」ダイアログを開きます。



4. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しい名前を入力します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## マスターページの削除

マスターページのセットからマスターページを削除できます。

#### 補足

「**デフォルト (Default)**」のマスターページは削除できません。すべてのマスターページのセットには、少なくとも「**デフォルト (Default)**」のマスターページを含める必要があります。マスターページを追加する際にそのタイプを「**デフォルト (Default)**」に設定することで、「**デフォルト (Default)**」のマスターページを置き換えることができます。

#### 手順

1. 楽譜領域で、削除するマスターページを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、削除する見開きのマスターページをクリックします。
3. アクションバーで「**マスターページを削除 (Delete Master Page)**」をクリックします。



#### 結果

選択した見開きのマスターページが削除されます。マスターページを誤って削除した場合、この動作は元に戻せます。

## マスターページエディター

マスターページエディターを使用して、マスターページの形式設定を表示したり、変更したりできます。

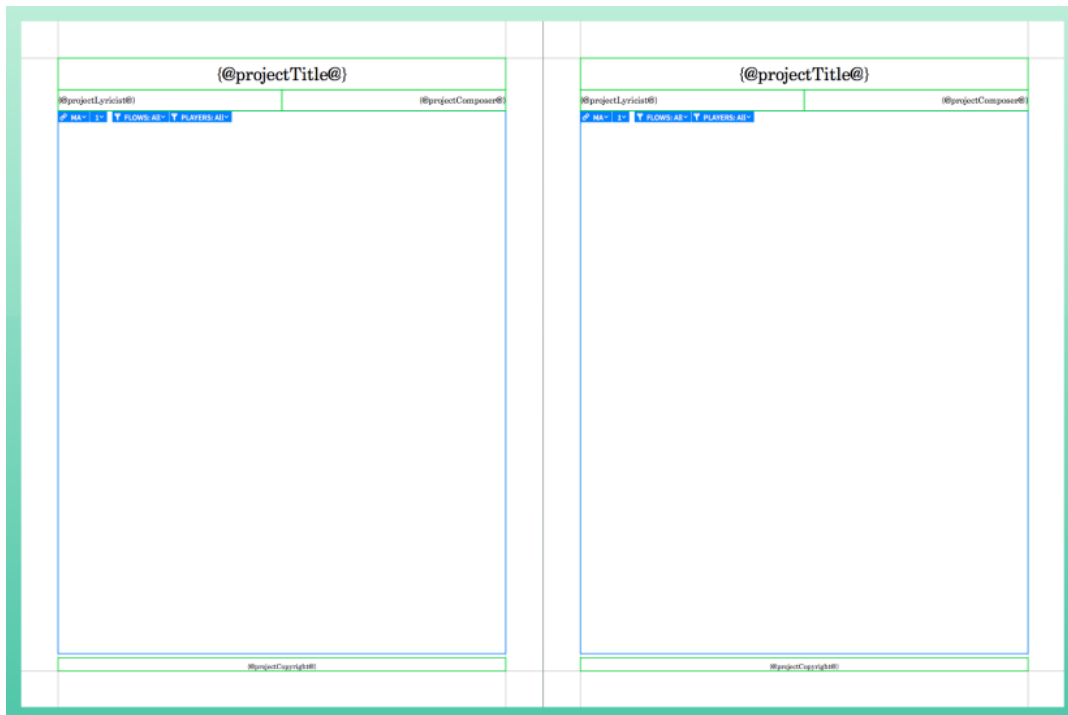
マスターページエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで見開きページをダブルクリックします。

- ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで見開きページを選択し、「**マスターページを編集 (Edit Master Page)**」をクリックします。



マスターページエディターでは、追加フレームの挿入や既存フレームの編集/移動など、必要に応じてマスターページをカスタマイズできます。また、フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更したり、フレームに割り当てるフローやプレーヤーを変更したりすることもできます。



マスターページエディターで開いた見開きのマスターページの例

関連リンク

[ページパネル](#) (298 ページ)

## マスターページのカスタマイズ

必要に応じて、マスターページエディターでマスターページをカスタマイズできます。マスターページを変更すると、そのマスターページを使用しているすべてのレイアウトの外観に反映されます。

### 補足

レイアウトのページのサイズ、余白、向き、および譜表サイズは「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページで指定する必要があります。

### 手順

1. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、見開きのマスターページをダブルクリックします。  
楽譜領域にマスターページエディターが開きます。
2. マスターページエディターで、選択した見開きのマスターページのいずれかのページのレイアウトを変更します。たとえば、フレームのサイズや形状を変更できます。
3. 左右のページのレイアウトを同じにする場合は、どちらのページを変更したかに応じて、楽譜領域の上部にある以下のいずれかの「**ページレイアウトをコピー (Copy Page Layout)**」ボタンをクリックします。
  - **左から右にコピー (Left to Right)**



- **右から左にコピー (Right to Left)**



#### 補足

マスターページのレイアウトは、反転されることなくページからページにそのままコピーされます。たとえば、ページ番号用のテキストフレームが外側の端に自動的に配置されることはありません。

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択した見開きのマスターページが変更されます。

#### 関連リンク

- [フレームの入力 \(325 ページ\)](#)
- [フレームの移動 \(326 ページ\)](#)
- [フレームのサイズ/形状の変更 \(327 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

## ページの優先

プロジェクトのページはすべて、適切なマスターページのセットで指定されたマスターページの形式設定を引き継ぎます。必要に応じて、基本となるマスターページやマスターページのセットに影響を与えずに各ページの形式設定を変更することもできます。

Dorico Pro では、以下の操作を行なう場合に個別のページの形式設定をマスターページよりも優先させることができます。

- 個別のページの楽曲フレームのサイズを変更する
- 空白ページを挿入する
- ページ番号を変更する
- 脚注としてコメントを追加する
- 楽譜を少し抜粋したものを含める (楽節が他の楽譜でどのように複製されたかを示すため)

ページの形式設定を優先させると、マスターページを変更したときに、その変更内容が自動的に引き継がれません。ページが優先されている場合、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションで該当するページに以下のマークが表示されます。

- ページの優先: 左上角にマークが表示される
- ページ番号の変更: 右下角にマークが表示される

優先されているページをマスターページの形式に戻すには、作成したページの優先を解除する必要があります。

#### 補足

カスタムマスターページを使用してレイアウトの途中または最後にページを挿入後、ページの優先を解除すると、そのページにはマスターページのセットの「デフォルト (Default)」のマスターページが自動的に割り当てられます。

また、個別のページに使用されているマスターページを変更することもできます。たとえば、パート譜の最後のページに含まれている譜表が少なく、使用されているマスターページを変更して楽曲フレームを短くしたい場合や、1つのフローで楽器編成が大きく異なるスコアに使用されているマスターページを変更し、これらのページの形式を変えたい場合などです。

マスターページが変更されている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当するページに以下のマークが表示されます。

- 現在のページのみマスターページを変更: 上の端にマークが表示される
- 現在のページ以降のマスターページを変更: 左上の端にマークが表示される

また、個別のページに使用されているフロー見出しも変更できます。たとえば、他のページよりも多くの譜表を含むページでフロー見出しの上下の余白を狭くしたい場合などです。

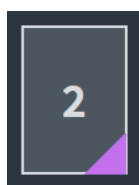
フロー見出しが変更されている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当するページに以下のマークが表示されます。

- 現在のページのみフロー見出しを変更: 下の端にマークが表示される
- 現在のページ以降のフロー見出しを変更: 左下の端にマークが表示される

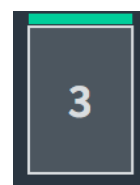
下の図は、レイアウト内の個別のページに対して作成できるさまざまなページの優先が、浄書モードのページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでどのように表示されるかを示しています。



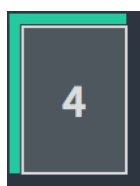
ページの優先



ページ番号の変更



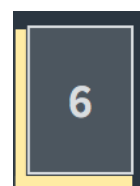
単一のページへのマスターページの変更



選択したページ以降へのマスターページの変更



単一のページへのフロー見出しの変更



選択したページ以降へのフロー見出しの変更

## ページの優先の解除

個別のページに対して作成したページの優先を解除し、マスターページの形式に戻すことができます。

レイアウト内のページにページの優先が含まれている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、該当するページの左上角に色付きの三角形が表示されます。ページの優先には、マスターページまたはフロー見出しの形式から引き継がれたフレームのサイズ/形状の変更、ページへの追加フレームの入力、新しい空白ページの入力などがあります。

空白ページの優先を解除すると、レイアウトからそのページが削除されます。

### 手順

1. 楽譜領域で、ページの優先を解除するレイアウトを開きます。
2. ページの優先を解除するページを個別に選択する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで **[Ctrl]/[command]** を押しながら該当のページをクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってページの優先を解除します。
  - 選択したページのみからページの優先を解除するには、「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで「**優先を解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。





- すべてのページの優先を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**すべてのページの優先を解除 (Remove All Page Overrides)**」を選択します。

---

#### 結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、マスターページの形式に対して作成したページの優先がすべて解除されます。ページの優先が作成された空白ページが削除されます。

選択したページのみ優先を解除した場合、ページの優先が設定されたレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

#### 関連リンク


[フレーム \(325 ページ\)](#)

## ページの挿入

空白ページまたは異なるマスターページを使用するページをプロジェクトの各レイアウトに追加できます。

---

#### 手順

1. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで、「**ページを挿入 (Insert Pages)**」をクリックして「**ページを挿入 (Insert Pages)**」ダイアログを開きます。  

2. 「**挿入するページ数 (Number of pages to insert)**」フィールドに、挿入するページの数を入力します。
3. ページを挿入する位置を選択します。たとえば、8 ページの後にページを挿入するには、「**ページの後 (After page)**」を選択して「8」を入力します。
4. 必要に応じて、「**マスターページを使用 (Use master page)**」メニューから、挿入するページに割り当てるマスターページを選択します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

指定したページ数が選択した位置に挿入されます。挿入したページは空白で、デフォルトでマスターページは割り当てられておらず、ページパネルには左上角に色付きの三角形がついた状態で表示されます。

## ページの削除

空白のページやレイアウトに追加した余分なページを削除できます。

各レイアウトに含まれるフローの長さに応じて、Dorico Pro はページの番号を自動的に変更します。特定のフローを非表示にするためにページを削除する場合は、レイアウトからフローを削除することをおすすめします。

ページを手動で削除する必要があるのは、空白のページとしてページを挿入した場合と、レイアウトのページに設定したページの優先が必要なくなり現在は空白のページとして表示されている場合のみです。たとえば、レイアウトの最終ページにページの優先が設定されている場合、レイアウトが短くなっても最終ページとそれ以前のページは自動的に削除されません。

---


#### 手順

1. 楽譜領域で、ページを削除するレイアウトを開きます。

2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、削除するページを [Ctrl]/[command] を押しながらかlickします。

#### 補足

ページの優先が設定されたページのみ削除できます。

3. すべてのページの優先を解除して、選択したページを削除します。
  - 選択したページのうち左上角に色付きの三角形が表示されているページがある場合は、「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで「**優先を解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。
  - 選択したページのうち右下角に色付きの三角形が表示されているページがある場合は、いずれかのページを右clickして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を解除 (Remove Page Number Change(s))**」を選択します。
  - 選択したページのうち上辺または上辺と左辺に色付きのマークが表示されているページがある場合は、いずれかのページを右clickして、コンテキストメニューから「**マスターページの変更を解除 (Remove Master Page Change(s))**」を選択します。
  - 選択したページのうち下辺または下辺と右辺に色付きのマークが表示されているページがある場合は、いずれかのページを右clickして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を解除 (Remove Flow Heading Change(s))**」を選択します。

#### 結果

削除するページからページの優先をすべて解除すると、空白のページであれば削除されます。空白のページではない場合は、ページの優先をすべて解除することでデフォルトのマスターページに戻ります。

#### 関連リンク

[マスターページ \(304 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(125 ページ\)](#)

## ページ番号の変更の挿入

プロジェクトに含まれる各レイアウトのページのページ番号を変更できます。ページ番号の変更を挿入すると、表示するページ番号やページ番号のスタイルを変更できるほか、レイアウトの最初のページを左右どちらのページにするかを指定することもできます。

たとえば、前付きページには「ii」や「iv」のようなローマ数字を使用し、楽譜ページには「1」や「3」のような数字を使用できます。

#### 補足

- レイアウトの最初のページを偶数に変更すると、そのページが自動的に左側のページになります。これは、偶数ページは常に左側のページに置き、奇数ページは常に右側のページに置くという慣習があるためです。そのため、レイアウトの最初のページが左側に置かれている場合、そのページを1ページと表示することはできず、必ず2ページと表示されます。
- レイアウトを左ページから始めたい場合は、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」に専用のオプションがあるため、ページ番号の変更を挿入することはおすすめしません。

#### 手順

1. 楽譜領域で、ページ番号を変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、ページ番号の変更を開始するページを選択します。
3. アクションバーで「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックして「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。

## #

4. 「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログの「**開始ページ (From page)**」フィールドに、ページ番号の変更を開始するページの番号を入力します。  
たとえば、現在の3ページのページ番号を変更するには「3」を入力します。
5. 「**開始ページ番号 (First page number)**」フィールドに、選択したページに使用する新しいページ番号を入力します。たとえば、現在の3ページを5ページに変更するには「5」を入力します。
6. 「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」で以下のいずれかの数字スタイルを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **ローマ数字 (Roman numeral)**
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## 結果

選択したページのページ番号が変更されます。これに応じて、次のページ番号の変更がある位置もしくはプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、後続のすべてのページが変更されます。

## ヒント

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログでは、ページ番号の外観のその他の設定も変更できます。たとえば、サブ番号を大文字または小文字で表示できます。

## 関連リンク

[左側のページからレイアウトを始める \(347 ページ\)](#)

## 「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログ

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログでは、各レイアウトの既存のページに表示されるページ番号を変更できます。ページ番号を非表示にしたり、変更したりできます。

たとえば、数字のタイプを以下のいずれかに変更できます。

- **ローマ数字 (Roman numeral)**: 「iii」や「iv」など
- **数字 (Number)**: 「5」や「19」など

ページ番号の表示タイプも変更できます。たとえば、表示タイプを「**最初のページ以外 (Not on first page)**」に設定すると、序文ページのページ番号を非表示にできます。

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開くには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択して以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
- 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。

## #

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 開始ページ (From page)

ページ番号の変更を開始するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。

「**現在のページ番号 (Displayed)**」オプションには、選択したページの現在のページ番号がどのように表示されるかがプレビューされます。

### 開始ページ番号 (First page number)

選択したページの新しいページ番号を指定できます。後続のページは、次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置まで、新しいシーケンスに従います。

### シーケンスタイプ (Sequence type)

選択したページと後続のページで使用する番号のタイプを選択できます。

### 表示タイプ (Visibility)

ページ番号の表示/非表示を指定できます。ページ番号の変更が始まるページのページ番号を非表示にするよう指定することもできます。

### サブ番号のタイプ (Subordinate number type)

ページ番号にサブ番号を追加し、タイプを指定できます。

### サブ番号 (Subordinate number)

サブ番号の開始番号を指定できます。

ページ番号の変更を挿入すると、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションのページの右下角にマークが表示されます。新しいページ番号は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションの各ページにも、適切な数字スタイルで表示されます。

関連リンク

[ページ番号 \(773 ページ\)](#)

## ページ番号の変更の解除

個々のページに行なったページ番号の変更を解除して、デフォルトのページ番号に戻すことができます。

ページ番号が変更されている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、該当するページの右下角に色付きの三角形が表示されます。

---

### 手順

1. 楽譜領域で、ページ番号の変更を解除するレイアウトを開きます。
2. 個々のページのページ番号の変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで **[Ctrl]/[command]** を押しながら該当のページをクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってページ番号の変更を解除します。
  - 選択したページのみからページ番号の変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を解除 (Remove Page Number Change(s))**」を選択します。
  - すべてのページのページ番号の変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更をすべて解除 (Remove All Page Number Changes)**」を選択します。

---

### 結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページのページ番号の変更が解除されます。

すべてのページのページ番号の変更を解除した場合、すべてのページでデフォルトのページ番号のシーケンスが復元されます。

選択したページのみページ番号の変更を解除した場合、選択したページから次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、デフォルトのページ番号が復元されます。ページ番号の変更があるレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(315 ページ\)](#)


[ページ番号の変更の挿入 \(314 ページ\)](#)

## ページへのマスターページの割り当て

マスターページのセットに含まれるさまざまなマスターページを、プロジェクト内の各レイアウトの各ページに割り当てることができます。割り当て先には、個々のページおよび選択したページ以降のすべてのページを選択できます。

---

### 手順

1. 楽譜領域で、ページに割り当てられたマスターページを変更するレイアウトを開きます。
  2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、マスターページの割り当てを変更するページをクリックします。
  3. アクションバーで、「**マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)**」をクリックして「**マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)**」ダイアログを開きます。  

  4. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、マスターページの変更を開始するページを変更します。
  5. 「**マスターページを使用 (Use master page)**」メニューから、割り当てるマスターページを選択します。
  6. 「**範囲 (Range)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **現在のページのみ (Current Page Only)**  
選択したページにのみ異なるマスターページが割り当てられます。
    - **現在のページ以降 (From this Page Onwards)**  
選択したページと後続のすべてのページに異なるマスターページが割り当てられます。
  7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

### 結果

「**現在のページのみ (Current Page Only)**」を選択した場合、選択したページにのみ選択したマスターページが割り当てられます。

「**現在のページ以降 (From This Page Onwards)**」を選択した場合、選択したマスターページは選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページ、または次にマスターページの変更が挿入されている箇所まで割り当てられます。

## マスターページの変更の解除

個々のページに割り当てたマスターページの変更を解除して、レイアウトに適用されているマスターページ全体の形式に戻すことができます。

マスターページを変更したページは、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページの上の端または上と左の端にマークが表示されます。

---

### 手順

1. 楽譜領域で、マスターページの変更を解除するレイアウトを開きます。
  2. 個別のページからマスターページの変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで **[Ctrl]/[command]** を押しながら該当のページをクリックします。
  3. 以下のいずれかの操作を行なってマスターページの変更を解除します。
    - 選択したページのみからマスターページの変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**マスターページの変更を解除 (Remove Master Page Change(s))**」を選択します。
    - すべてのページからマスターページの変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**マスターページの変更をすべて解除 (Remove All Master Page Changes)**」を選択します。
-

#### 結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、マスターページの変更がすべて解除されます。ページは、レイアウトに適用されているマスターページ全体の形式に戻ります。

選択したページのみからマスターページの変更を解除した場合、マスターページの変更が挿入されたレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

#### 関連リンク


[ページの優先](#) (311 ページ)

## フロー見出しの変更の挿入

フロー見出しの変更を挿入すると、フロー見出しに使用されている形式に加えて、フロー見出しの上下の余白を変更できます。フロー見出しの変更は、各レイアウトの各ページに個別に挿入できます。

---

#### 手順

1. 楽譜領域で、フロー見出しを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、フロー見出しの変更を挿入するページまたはフロー見出しの変更を開始するページをクリックします。
3. アクションバーで、「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」をクリックして「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログを開きます。  

4. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、フロー見出しの変更を開始するページを変更します。
5. 「**フロー見出しを使用 (Use flow heading)**」メニューから挿入するフロー見出しを選択します。
6. 「**範囲 (Range)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **現在のページのみ (Current Page Only)**
  - **現在のページ以降 (From this Page Onwards)**
7. 必要に応じて、「**見出しの上側余白 (Heading Top Margin)**」または「**見出しの下側余白 (Heading Bottom Margin)**」あるいはその両方をオンにして値を変更し、選択したページのフロー見出しの上下の余白を変更します。
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

「**現在のページのみ (Current Page Only)**」を選択した場合、選択したフロー見出しは選択したページのすべてのフロー見出しにのみ適用されます。

「**現在のページ以降 (From This Page Onwards)**」を選択した場合、選択したフロー見出しは選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページのすべてのフロー見出し、または次にフロー見出しの変更が挿入されている箇所まで適用されます。

#### 関連リンク

[フロー見出し](#) (321 ページ)

[同じページに複数のフローを表示する/表示しない](#) (348 ページ)

## 「フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)」ダイアログ

「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログでは、各レイアウト内の指定したページのすべてのフロー見出しに使用されている形式を変更できます。フロー見出しの変更は、個々のページに適用することも、後続のすべてのページに適用することもできます。

「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログを開くには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択して以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ページ (Pages)」セクションを右クリックして、コンテキストメニューから「フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)」を選択します。
- 「フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)」をクリックします。



「フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### 開始ページ (From page)

フロー見出しの形式の変更を開始するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。

「現在のページ番号 (Displayed)」には、選択したページの現在のページ番号と、その番号がどのように表示されるかがプレビューされます。レイアウト内にページ番号の変更を挿入している場合、この番号と「開始ページ (From page)」が異なる可能性があります。

#### フロー見出しを使用 (Use flow heading)

適用するフロー見出しのデザインを指定できます。このメニューには、現在のマスターページのセット内のすべてのフロー見出しが含まれています。

#### 範囲 (Range)

フロー見出しの変更を適用する範囲を指定できます。

- 「現在のページのみ (Current Page Only)」は、選択したページにのみフロー見出しの変更を適用します。
- 「現在のページ以降 (From This Page Onwards)」は、選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページ、または次にフロー見出しの変更が挿入されている箇所までフロー見出しの変更を適用します。

#### 見出しの上側余白 (Heading Top Margin)

影響を受けるフロー見出しの上部と1つ前のフローの終了位置との間の間隔を、レイアウトのデフォルト設定とは別に設定できます。

#### 見出しの下側余白 (Heading Bottom Margin)

影響を受けるフロー見出しの下部と次のフローの開始位置との間の間隔を、レイアウトのデフォルト設定とは別に設定できます。

フロー見出しの変更を挿入すると、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションのページの下端または下と左の端にマークが表示されます。

関連リンク

[フロー見出しの上下の余白を変更する \(350 ページ\)](#)

## フロー見出しの変更の解除

個々のページに割り当てたフロー見出しの変更を解除して、「デフォルト」のフロー見出しに戻すことができます。

フロー見出しを変更したページは、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページの下の方または下と左の端にマークが表示されます。

---

手順

1. 楽譜領域で、フロー見出しの変更を解除するレイアウトを開きます。
2. 個々のページからフロー見出しの変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで **[Ctrl]/[command]** を押しながら該当のページをクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってフロー見出しの変更を解除します。
  - 選択したページのみからフロー見出しの変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を解除 (Remove Flow Heading Change(s))**」を選択します。
  - すべてのページからフロー見出しの変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更をすべて解除 (Remove All Flow Heading Changes)**」を選択します。

---

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、フロー見出しの変更がすべて解除されます。そのレイアウトに適用されているマスターページのセットで、ページに使用されているフロー見出しが「デフォルト」のフロー見出しに戻ります。

選択したページのみからフロー見出しの変更を解除した場合、レイアウトにフロー見出しの変更が挿入されたその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[フロー見出し \(321 ページ\)](#)

## ページの入れ替え

優先が設定されたページは、隣り合うページと入れ替えることができます。

---

手順

1. 楽譜領域で、ページを入れ替えるレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、優先を別のページと入れ替える優先されたページを選択します。  
優先が設定されたページの左上角にはマークが表示されます。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したページを別のページと入れ替えます。

- アクションバーで、「**前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)**」をクリックします。



- アクションバーで、「**次ページと入れ替え (Swap with Next Page)**」をクリックします。





## 結果

レイアウト内のページの並び順に基づいて、選択したページの位置が前ページまたは次ページと入れ替わります。

# フロー見出し

フロー見出しを使用すると、最初の組段のすぐ上にフローのタイトルを自動的に表示できます。フロー見出しはマスターページとほぼ同じで、テンプレートのように機能します。

フロー見出しはマスターページのセットの一部です。初期設定では、各マスターページのセットに1つのフロー見出しがあり、そこにはフロー番号とフロータイトルを表示するトークンが含まれています。これはすべてのフロー見出しのデフォルトですが、個々のページおよびページ範囲にフロー見出しの変更を挿入することもできます。

フロー見出しは、フロー見出しを適用するフローの最初の組段の上に自動的に挿入されるため、ほかのフレームのようにページ上の固定の垂直位置はありません。また、フロー見出しは楽曲フレーム内の垂直方向のスペースも使用します。フロー見出しの変更を挿入することで、レイアウトごとまたはページごとにフロー見出しの上下のスペースの余白を変更できます。

フロー見出しのフレームは、見分けやすいように実線ではなく破線で表示されます。フロー見出しのフレームは他のフレームと同じ方法で移動できますが、この操作を行なうとページの優先が設定されず。

3. Menuetto

Allegretto

F. Hn in G 2

*f*

フロー見出しのテキストフレームの端を表わす破線

## 関連リンク

- [タチェット \(355 ページ\)](#)
- [フロー見出しを表示/非表示にする \(349 ページ\)](#)
- [マスターページのセット \(305 ページ\)](#)
- [ページの優先 \(311 ページ\)](#)
- [テキストトークン \(335 ページ\)](#)
- [フロー見出しの変更の挿入 \(318 ページ\)](#)

# フロー見出しエディター

フロー見出しエディターを使用して、フロー見出しの形式を表示したり変更したりできます。

機能はマスターページエディターと似ていますが、何を編集しているかを見分けやすいようにフロー見出しエディターは背景色が異なります。

フロー見出しエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、フロー見出しをダブルクリックします。
- ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでフロー見出しを選択し、「**フロー見出しを編集 (Edit Flow Heading)**」をクリックします。



追加フレームの入力や既存のテキストおよびグラフィックフレームの編集や移動など、フロー見出しのカスタマイズはマスターページエディターで行なえます。また、テキストフレーム内のテキストの垂直

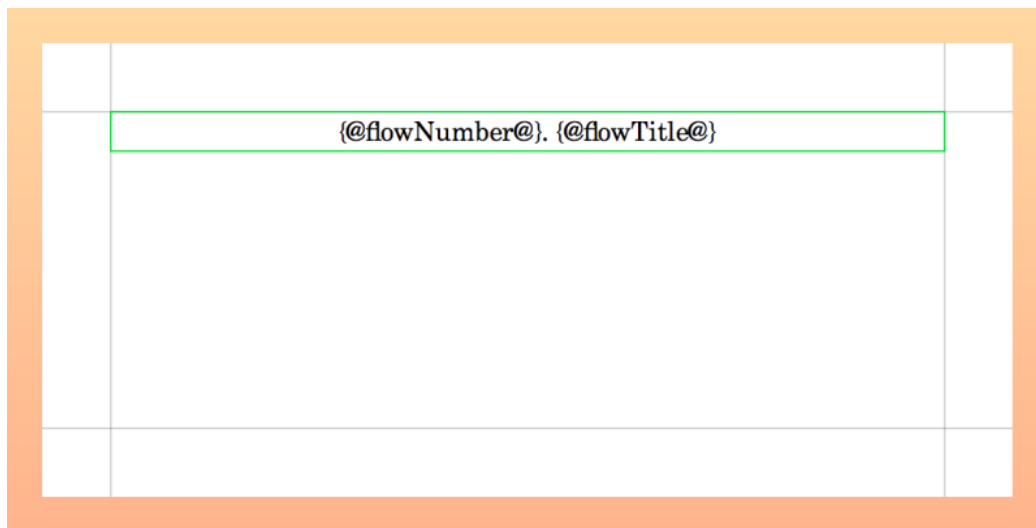
方向の配置を変更したり、テキストエディターオプションを使ってテキストフレーム内のテキストの外観や水平方向の配置を設定したりできます。

#### 補足

- フロー見出し内に楽曲フレームを入力することはできません。
- フロー見出しのフレームに設定できるのは左右の端の制限のみで、上下の制限は設定できません。これは、フロー見出しに固定の垂直位置がないためです。

Dorico Pro では、フロー見出しの範囲を決める際、エディター内のページ上の一番上のフレームの上部と一番下のフレームの下部が常に使用されるため、フレームはフロー見出しエディター内の任意の場所に配置できます。ただし、結果的に楽曲フレーム内で動かす楽譜が少なくなるよう、フロー見出し全体の高さはできるだけ小さく抑えることをおすすめします。

マスターページとは異なり、フロー見出しは右ページでも左ページでも同じように表示されるため、フロー見出しエディターには 1 ページのみが表示されます。



フロー見出しエディターで開かれたフロー見出しの例

#### 関連リンク

[ページパネル \(298 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(342 ページ\)](#)

## フロー見出しのカスタマイズ

フロー見出しは必要に応じてフロー見出しエディターでカスタマイズできます。フロー見出しを変更すると、そのフロー見出しを使用しているすべてのレイアウトでフロー見出しの外観が変わります。

#### 手順

1. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、フロー見出しをダブルクリックします。  
楽譜領域にフロー見出しエディターが開きます。
2. フロー見出しエディターで、フロー見出しのレイアウトを変更します。たとえば、グラフィックフレームを入力したり、テキストフレームでテキストの垂直方向の配置を変更したりできます。
3. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 関連リンク

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

[フレームの移動 \(326 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(327 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

## フロー見出しの追加

マスターページのセットに新しいフロー見出しを追加できます。各マスターページのセットには「カスタム」のフロー見出しを複数登録できますが、「デフォルト」のフロー見出しは1つしか登録できません。

### 手順

1. 楽譜領域で、フロー見出しを追加するマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルで、「**フロー見出し (Flow Headings)**」アクションバーの「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」をクリックして「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」ダイアログを開きます。



3. 「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」ダイアログで、「**名前 (Name)**」フィールドに新しいフロー見出しの名前を入力します。
4. 「**もとにするフロー見出し (Based on)**」メニューから、新しいフロー見出しのもとにする既存のフロー見出しを選択します。

#### 補足

- 既存のフロー見出しをベースに作成したフロー見出しは、「**もとにするフロー見出し (Based on)**」で選択したフロー見出しとのリンクを保ちます。つまり「**もとにするフロー見出し (Based on)**」で選択したフロー見出しでテキストフレーム内のテキストのフォントサイズを変更すると、そのフロー見出しをベースに作成した新しいフロー見出しも影響を受け、その逆の場合も同じです。
- 「**(なし (None))**」を選択すると、ページ余白以外の形式設定がされていないフロー見出しが作成されます。

5. 新しいフロー見出しに適用する以下のいずれかのフロー見出しタイプを選択します。

- **デフォルト (Default)**
- **カスタム (Custom)**

#### 補足

各マスターページのセットには「デフォルト」のフロー見出しを1つしか登録できないため、「**デフォルト (Default)**」を選択した場合、既存の「デフォルト」のフロー見出しは新しいフロー見出しで置き換えられます。

既存のフロー見出しを置き換えることなく新しいフロー見出しを作成するには、「**カスタム (Custom)**」を選択します。

6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

選択したマスターページのセットに選択したタイプの新しいフロー見出しが追加されます。

手順終了後の項目

そのフロー見出しが登録されたマスターページのセットを使用しているレイアウト内の個々のページにフロー見出しを適用できます。

関連リンク

[マスターページのセット \(305 ページ\)](#)

[フロー見出しの変更の挿入 \(318 ページ\)](#)

[フロー見出しを表示/非表示にする \(349 ページ\)](#)

## フロー見出し名の変更

「デフォルト」のフロー見出しや「カスタム」のフロー見出しなど、フロー見出しの名前を変更できません。

手順

1. 楽譜領域で、名前を変更するフロー見出しを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、名前を変更するフロー見出しをクリックします。
3. アクションバーで「**フロー見出し名を変更 (Rename Flow Heading)**」をクリックして「**フロー見出しの名前を変更 (Rename Flow Heading)**」ダイアログを開きます。



4. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しい名前を入力します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## フロー見出しの削除

マスターページのセットからフロー見出しを削除できます。

補足

「デフォルト」のフロー見出しは削除できません。すべてのマスターページのセットには、少なくとも「デフォルト」のフロー見出しを含める必要があります。新しいフロー見出しを追加する際にそのタイプを「**デフォルト (Default)**」に設定することで、「**デフォルト**」のフロー見出しを置き換えることができます。

手順

1. 楽譜領域で、削除するフロー見出しを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、削除するフロー見出しをクリックします。
3. アクションバーで「**フロー見出しを削除 (Delete Flow Heading)**」をクリックします。



---

#### 結果

選択したフロー見出しが削除されます。フロー見出しを誤って削除した場合、この動作は元に戻せません。

## フレーム

フレームを使用すると、楽譜、テキスト、グラフィックを、ページ余白の内側の任意の場所に配置できます。

フレームは長方形のボックスで、レイアウトで定義されたページ余白の内側に配置できます。浄書モードでは、必要に応じてフレームを表示したり調節したりできます。Dorico Pro には、以下のタイプのフレームがあります。

- 選択したプレーヤーおよびフローの楽譜を表示する**楽曲フレーム**
- テキストおよびテキストトークンを入力できる**テキストフレーム**
- さまざまな形式のイメージや図を読み込める**グラフィックフレーム**

すべてのフレームに、フレームの 4 辺と対応するページ余白の関係を定義する制限を指定できます。

#### 関連リンク

- [Dorico Pro のフロー \(30 ページ\)](#)
- [Dorico Pro のレイアウト \(30 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(344 ページ\)](#)
- [楽曲フレーム \(328 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(335 ページ\)](#)
- [グラフィックフレーム \(343 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(360 ページ\)](#)
- [テキストトークン \(335 ページ\)](#)

## フレームの入力

マスターページエディターの個々のページとマスターページの両方に、フレームを手動で入力できます。入力できるのは楽曲フレーム、テキストフレーム、グラフィックフレームです。

#### 前提

マスターページにフレームを入力する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**フレーム (Frames)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
2. 「**フレームを挿入 (Insert Frames)**」セクションで、以下のいずれかのフレームタイプを選択します。
  - **楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)**



- **テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)**



- **グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)**



3. 楽譜領域でクリックアンドドラッグし、選択したフレームタイプを入力します。  
ページ余白の内側に収まる限り、任意のサイズおよび形状のフレームを描画できます。
- 

#### 結果

マウスを放すと、選択したタイプのフレームがページに挿入されます。

#### 手順終了後の項目

フレームのサイズを変更したり、制限を定義したりできます。楽曲フレームを挿入した場合、スコアのどのパートをフレームに表示するかを指定できます。テキストフレームを挿入した場合、テキストを入力できます。グラフィックフレームを挿入した場合、グラフィックファイルを読み込みます。

#### 関連リンク

- [フレーム制限 \(344 ページ\)](#)
- [楽曲フレーム \(328 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(335 ページ\)](#)
- [グラフィックフレーム \(343 ページ\)](#)
- [楽曲フレームセレクター \(331 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

## フレームの移動

マスターページを含む各ページ上で、挿入した個々のフレームを移動できます。ただし、ページ余白にはみだしてフレームを移動することはできません。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
  - マスターページのフレームを移動する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- 

#### 手順

1. 移動するフレームを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってフレームを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
-

## フレームのサイズ/形状の変更

マスターページを含む各ページ上で、挿入した個々のフレームのサイズと形状を変更できます。

### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのフレームのサイズや形状を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

### 手順

1. 変更するフレームの端の中央のハンドルを選択します。

#### 補足

一度に選択できるハンドルは、フレームにつき1つです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- ハンドルをクリックして上下左右にドラッグします。

#### 補足

フレームの左右の端のハンドルは左右にのみ移動できます。フレームの上下の端のハンドルは上下にのみ移動できます。たとえば、フレームの幅を広げるには、フレームの右端の中央のハンドルを選択して右に動かします。

3. 必要に応じて、動かしたいフレームの他の端に対して手順1と2を繰り返し、サイズと形状を変更します。

---

### 関連リンク

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

## フレームハンドルの選択

フレームの個々のハンドルを選択できます。また、ハンドルが選択された状態とフレーム全体が選択された状態を切り替えることができます。

### 前提

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、フレームハンドルを選択します。
  - フレームのいずれかのハンドルを選択し、[→]/[←]/[↑]/[↓] を押すとフレームの周囲の別のハンドルを選択できます。
  - フレームを選択し、[Tab] を押すと左上角のハンドルが選択された状態になり、[→]/[←]/[↑]/[↓] を押すとフレームの周囲の別のハンドルを選択できます。

- フレームのハンドルをクリックします。

#### 補足

一度に選択できるハンドルは、フレームにつき1つです。

2. 必要に応じて、[Tab] を押すといつでもフレーム全体が選択された状態に戻ります。

## フレームのコピー

たとえば、同じフレームを複数のページのまったく同じ位置に表示したい場合などに、個々のフレームをレイアウト内の別のページにコピーできます。また、ページ上でフレームを複製したい場合などには、フレームを同じページにコピーすることもできます。

#### 補足

これはマスターページ上のフレームには当てはまりません。マスターページ上のフレームをコピーは、マスターページをカスタマイズする際にできます。

#### 前提

浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。

#### 手順

1. 楽譜領域で、フレームを別のページにコピーするレイアウトを開きます。
2. コピーするフレームを選択します。複数のページ上のフレームを選択しても構いません。
3. ページパネルの「ページ (Pages)」セクションで、選択したフレームのコピー先となるページを [Ctrl]/[command] を押しながらかlickします。
4. 「ページ (Pages)」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「選択したフレームを選択したページにコピー (Copy Selected Frames to Selected Pages)」を選択します。

#### 結果

選択したすべてのフレームが、選択したページの同じ位置にコピーされます。フレームを同じページにコピーした場合は、コピーしたフレームが元のフレームに完全に重なります。

## 楽曲フレーム

楽曲フレームには、プロジェクト内の楽譜が指定した順番で表示されます。マスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームを使用して、プロジェクトのどの部分を表示するかを制御できます。

どちらのタイプの楽曲フレームも、選択したプレーヤーまたはフローのみをフィルタリングするなど、プロジェクトに入力した楽譜と記譜記号を楽曲フレームセクターに応じて表示します。



マスターページの楽曲フレーム



## マスターページの楽曲フレーム

マスターページの楽曲フレームはマスターページにのみ存在しています。つまり、マスターページの楽曲フレームの入力と編集はマスターページエディターでのみ行なえます。マスターページの楽曲フレームにはマスターページフレームチェーンのみ割り当てることができます。

初期設定では、Dorico Pro に用意されたマスターページのセットに含まれるマスターページには、マスターページフレームチェーンが 1 つ割り当てられたマスターページの楽曲フレームが含まれています。このフレームチェーンは、各レイアウト内のすべてのフローのすべてのプレーヤーを表示するように設定されています。初期設定では、これらのマスターページはレイアウトタイプに応じてプロジェクト内のすべてのレイアウトのすべてのページに適用されるように設定されています。

マスターページの楽曲フレームは 1 つのマスターページに複数入力できるほか、そのサイズと形状を任意に変更できます。個別のマスターページの楽曲フレームを同じページに関連付けたい場合は、同じフレームチェーンをそれらの楽曲フレームに割り当てることができます。

## レイアウトの楽曲フレーム

レイアウトの楽曲フレームは、レイアウト内の個々のページにのみ存在しています。つまり、レイアウトの楽曲フレームの入力と編集は楽譜領域の個々のレイアウトでのみ行なえます。レイアウトの楽曲フレームには、マスターページフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方を割り当てることができます。ただし、マスターページフレームチェーンをレイアウトフレームに割り当ててもマスターページには影響しません。

レイアウトの楽曲フレームは 1 つのページに複数入力できるほか、そのサイズと形状を任意に変更できます。たとえば、レイアウトの楽曲フレームを使用すると、脚注またはインデックス内の異なるフローから楽譜を一部抜粋して挿入できます。

個別のレイアウトの楽曲フレームを同じページに関連付けたい場合は、同じフレームチェーンをそれらの楽曲フレームに割り当てることができます。

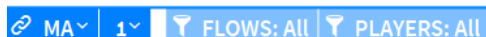
### 重要

レイアウトの楽曲フレームは、マスターページより優先されます。レイアウトページの優先をすべて解除すると、レイアウトの楽曲フレームがすべて削除されます。

## マスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームの識別

以下を確認することで、マスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームを見分けられます。

- フローとプレーヤーのセクター。レイアウトの個々のページでは、マスターページの楽曲フレームのフローやプレーヤーの選択を変更できません。マスターページの楽曲フレームはマスターページエディターのマスターページでのみ編集できるため、これらのセクターはグレー表示されます。



マスターページの楽曲フレームでグレー表示されたフローセクターとプレーヤーセクター

- フレームチェーン。レイアウトの楽曲フレームに割り当てられたフレームチェーンは、デフォルトで“L”から始まります。マスターページの楽曲フレームに割り当てられたフレームチェーンは、デフォルトで“M”から始まります。

### 関連リンク

[楽曲フレームセクター \(331 ページ\)](#)

[マスターページ \(304 ページ\)](#)

[ページの優先 \(311 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(327 ページ\)](#)

## 楽曲フレームチェーン

楽曲フレームチェーンは、楽譜の同じ選択部分をあらかじめ定義した順番で(多くの場合連続で)表示する楽曲フレームの集合のことです。ページに楽曲フレームを作成すると、楽曲フレームチェーンが自動的に作成されます。楽曲フレームチェーンには楽曲フレームをいくつでも含めることができます(1つのみでもかまいません)。

楽曲フレームセクターを使用して、各楽曲フレームチェーンに表示される楽譜をプレーヤーやフローによって制御できます。

Dorico Pro にはさまざまなタイプのフレームチェーンがあります。

### マスターページフレームチェーン

マスターページフレームチェーンの作成と詳細な編集は、マスターページエディターのマスターページでのみ行なえます。個々のレイアウト内でマスターページフレームチェーンのフローフィルターおよびプレーヤーフィルターを変更することはできません。マスターページに楽曲フレームを作成すると、フレームチェーンが自動的に開始されます。

“MA”のように“M”で始まるフレームチェーンはマスターページフレームチェーンです。“MA”と“MH”のように、各ページに複数のマスターページフレームチェーンを作成できます。

デフォルトのマスターページには、レイアウト内のすべてのフローとプレーヤーを表示するよう設定されたフレームチェーンが1つ含まれています。そのため、これらのマスターページを使用するすべてのレイアウト内のすべてのフローを表示するのに必要なページとフレームが Dorico Pro によって自動的に作成されます。

#### 補足

- スコアが自動的に後続のページに続くようにするには、少なくとも「**最初 (First)**」および「**デフォルト (Default)**」のマスターページに楽曲フレームを作成する必要があります。
- 同じ楽曲のフレームチェーンに含まれるフレームは同じフローとプレーヤーを表示する必要があります。たとえば、フレームチェーンの最初のフレームにはバイオリンのみを表示し、2番目のフレームにはすべてのインストゥルメントを表示する、といったことはできません。
- Dorico Pro では、レイアウト内のフローを一度だけでなく何度でも表示させることができます。そのため、マスターページフレームチェーンではなくレイアウトフレームチェーンにフローを表示するなど、特定のレイアウト内のいくつかのフローの形式設定を変更する一方で、これらのフローを一度しか表示させたくない場合、マスターページフレームチェーンの「**フローでフィルター (Filter by Flows)**」リストからこれらのフローを削除する必要があります。これは同じマスターページを使用しているすべてのレイアウトに自動的に表示されるフローに影響するため、このような場合には形式設定を変更したいレイアウトに対してマスターページを個別に作成することをおすすめします。

### レイアウトフレームチェーン

レイアウトフレームチェーンの作成と編集は、個々のレイアウトのページ上でのみ行なえます。楽曲フレームを作成してレイアウト内のレイアウトフレームチェーンに割り当てた場合、その楽曲フレームはそのレイアウト内のそのページにのみ表示され、独自のフレームチェーンを開始します。楽曲フレームが後続のページに続くようにするには、チェーンを表示するレイアウト内のすべてのページに楽曲フレームを作成し、これらすべてのフレームを同じレイアウトフレームチェーンに割り当てる必要があります。

“LA”のように“L”で始まるフレームチェーンはレイアウトフレームチェーンです。“LA”と“LB”のように、各ページに複数のレイアウトフレームチェーンを作成できます。

#### 補足

- 同じ楽曲のフレームチェーンに含まれるフレームは同じフローとプレーヤーを表示する必要があります。たとえば、フレームチェーンの最初のフレームにはバイオリンのみを表示し、2番目のフレームにはすべてのインストゥルメントを表示する、といったことはできません。

- レイアウトフレームチェーンにフローを割り当てても、レイアウトに適用されているマスターページ内のフレームチェーンがこれらのフローを含むように設定されている場合は、マスターページフレームチェーンにもこれらのフローが表示されます。初期設定では、マスターページフレームチェーンはプロジェクト内のすべてのフローを表示するように設定されています。

#### 関連リンク

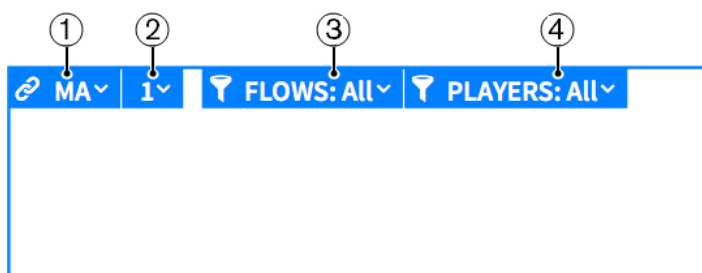
- [マスターページ \(304 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(309 ページ\)](#)
- [Dorico Pro のレイアウト \(30 ページ\)](#)
- [楽曲フレームセクター \(331 ページ\)](#)

## 楽曲フレームセクター

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択している場合、楽曲フレームには、各フレームチェーンに表示するフローとプレーヤーの変更など、表示する楽譜を変更できるセクターが表示されます。

楽曲フレームのセクターを使用すると、フレームチェーンに表示するフローとプレーヤー、および選択した楽曲をページのフレームに表示する順番を制御できます。フレームチェーンにはフレームをいくつでも含めることができます (1 つのみでもかまいません)。

各楽曲フレームには、以下のセクターが表示されます。



### 1 フレームチェーン (Frame Chain)

楽曲フレームが属するフレームチェーンを選択できます。“M”で始まるフレームにはマスターページフレームチェーンが割り当てられており、“L”で始まるフレームにはレイアウトフレームチェーンが割り当てられています。

2 番目の文字は、同じタイプの異なるフレームチェーンを識別するためのものです。これは自動的に生成され、フレームチェーンを作成した順番が反映されます。たとえば、“LA”はレイアウト内で作成した最初のレイアウトフレームチェーンで、“LB”は 2 番めに作成したレイアウトフレームチェーンです。

### 2 フレームの順番 (Frame Order)

同じページの同じフレームチェーンに複数の楽曲フレームがある場合、このオプションを使用してフレーム内に表示される楽譜の順番を指定できます。たとえば、「**フレームの順番 (Frame Order)**」を「**1**」にすると、そのフレームはフレームチェーン内の最初のフレームになります。

### 3 フローでフィルター (Filter by Flow)

プロジェクトに複数のフローが存在する場合、フレームチェーンに表示するフローを指定できます。たとえば、1 つのフローのみ、選択したフロー、すべてのフローなどを表示できます。

### 4 プレーヤーでフィルター (Filter by Player)

プロジェクトに複数のプレーヤーが存在する場合、フレームチェーンに表示するプレーヤーを指定できます。たとえば、1 人のプレーヤーのみ、複数のプレーヤー、すべてのプレーヤーなどを表示できます。

#### 補足

マスターページの楽曲フレームにある「**フローでフィルター (Filter by Flow)**」セクターと「**プレーヤーでフィルター (Filter by Player)**」セクターは、マスターページエディターのマスターページでのみ編集できます。

#### 関連リンク

[フレーム制限 \(344 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(327 ページ\)](#)

## 楽曲フレームへのフレームチェーンの割り当て

既存の楽曲フレームチェーンを新規楽曲フレームに割り当てたり、既存の楽曲フレームのフレームチェーンを変更したりできます。これはマスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームの両方に当てはまります。

#### 補足

ページに新規楽曲フレームを作成すると、そのタイプに関係なく、常に新規のフレームチェーンが開始されます。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのフレームに楽曲フレームチェーンを割り当てる場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

#### 手順

1. フレームチェーンを変更する楽曲フレームで、「**フレームチェーン (Frame Chain)**」をクリックします。



2. 楽曲フレームに割り当てるフレームチェーンを選択します。

#### 補足

- マスターページエディターのフレームにレイアウトフレームチェーンを選択することはできません。
- いずれのフレームチェーンも使用しない場合は、「**リンクを解除 (Unlink)**」をクリックします。

3. セクターの枠外をクリックしてセクターを閉じます。

#### 結果

選択したフレームチェーンが楽曲フレームに割り当てられます。表示するプレーヤーやフローなど、フレームチェーンのすべての設定がフレームに適用されます。

#### 関連リンク

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

## フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除

たとえば、楽曲フレームを削除することなく新規のフレームチェーンに楽曲フレームを変更したい場合などに、フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除できます。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

- マスターページの楽曲フレームチェーンからフレームのリンクを解除する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. リンクを解除する楽曲フレームで、「**フレームチェーン (Frame Chain)**」をクリックします。



2. 「**リンクを解除 (Unlink)**」をクリックします。

---

#### 結果

前のフレームチェーンから楽曲フレームのリンクが解除されます。リンクを解除したフレームに、新しいフレームチェーンが自動的に作成されます。

- レイアウトフレームチェーンからレイアウトの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のレイアウトフレームチェーンに変更されます。
- マスターページフレームチェーンからレイアウトの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のレイアウトフレームに変更されます。
- マスターページフレームチェーンからマスターページの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のマスターページフレームチェーンに変更されます。

## 楽曲フレームの順番の変更

1つのページの同じフレームチェーンに同じタイプの楽曲フレームが複数ある場合、フレームに表示する楽譜の順番を変更できます。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページの楽曲フレームの順番を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. 順番を変更する楽曲フレームのいずれかで、「**フレームの順番 (Frame Order)**」をクリックします。



2. 「**フレームの順番 (Frame Order)**」メニューから、このフレームの序数を選択します。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

---

#### 結果

前にその番号が割り当てられていたフレームと序数を入れ替えることで、選択したフレームのフレームチェーン内の位置が変更されます。たとえば、フレームチェーン内の2番めのフレームの番号を「**1**」に変更すると、元々「**1**」の番号が割り当てられていたフレームのフレームチェーン内の番号が「**2**」になります。

## フレームチェーンへのフローの割り当て

たとえば、一部のフローをマスターページフレームチェーンではなくレイアウトフレームチェーンに表示するためにマスターページフレームチェーンから除外したい場合など、各フレームチェーンに表示するフローを変更できます。

---

#### 補足

- マスターページフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方にフローを割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームチェーンに割り当てられたフローは個々のレイア

ウトでのみ変更でき、マスターページフレームチェーンに割り当てられたフローはマスターページエディターでのみ変更できます。

- 割り当てられたフローを変更すると、フレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。
- 

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
  - マスターページの楽曲フレームチェーンに割り当てられたフローを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- 

#### 手順

1. 割り当てられたフローを変更する楽曲フレームで、「**フロー (Flows)**」をクリックします。



2. 「**フローでフィルター (Filter by Flow)**」メニューから、フレームチェーンに表示するフローを選択します。
  3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。
- 

#### 結果

楽曲フレームに選択したフローが表示されます。マスターページの楽曲フレームに割り当てられたフローを変更した場合、そのマスターページが適用されているレイアウト内のページ数が自動的に更新されます。たとえば、マスターページフレームチェーンに追加のフローを割り当てた場合、そのフローを表示するのに必要な追加のページとフレームが、対応するレイアウトに追加されます。

## フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て

たとえば、ピアノの二重奏を記譜する際に一方のピアノを左ページに、もう一方のピアノを右ページに表示する場合など、それぞれのフレームチェーンに含めるプレーヤーを変更できます。

#### 補足

- マスターページフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方にプレーヤーを割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームチェーンに割り当てられたプレーヤーは個々のレイアウトでのみ変更でき、マスターページフレームチェーンに割り当てられたプレーヤーはマスターページエディターでのみ変更できます。
  - 割り当てられたプレーヤーを変更すると、フレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。
- 

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
  - マスターページの楽曲フレームチェーンに割り当てられたプレーヤーを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- 

#### 手順

1. 割り当てられたプレーヤーを変更する楽曲フレームで、「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。



2. 「**プレーヤーでフィルター (Filter by Player)**」メニューから、楽曲フレームに表示するプレーヤーを選択します。
  3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。
-

#### 結果

フレームチェーンに表示されるプレーヤーが変更されます。

#### 補足

譜表サイズは自動的に変更されません。つまり、フレームチェーン内の小さなフレーム内で譜表が重なる可能性があります。

## テキストフレーム

テキストフレームを使用すると、トークンを含むテキストを、スコア上の位置とは関係なくプロジェクトに追加できます。マスターページではなく個々のページにテキストフレームを追加すると、ページの優先が設定されます。

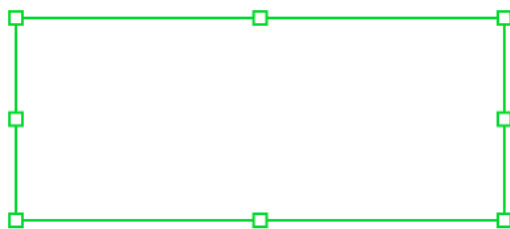
フレームごとのテキストエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」をオンにして、テキストフレームを選択し、**[Return]**を押します。

#### ヒント

フレームハンドルの選択とフレーム全体の選択は、**[Tab]**を押して切り替えることができます。

- テキストフレームの内側でダブルクリックします。



テキストフレーム

#### 関連リンク

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(340 ページ\)](#)

[テキストの形式設定 \(367 ページ\)](#)

[テキストスタイルのデフォルトの水平方向の配置を変更する \(373 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(342 ページ\)](#)

[ページの優先 \(311 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(327 ページ\)](#)

## テキストトークン

テキストトークンは、プロジェクトに保存されたタイトル、作曲者、日時などの情報の代用として使用できるコードです。これにより、プロジェクトに誤った情報や古い情報を表示するリスクを減らすことができます。

たとえば、プロジェクトのタイトルにトークンを使用した場合、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでプロジェクトタイトルを何度でも変更でき、そのたびにプロジェクト内のすべてのレイアウトのプロジェクトタイトルが自動的に更新されます。

トークンは、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの**プロジェクト**ページに表示されるプロジェクト全体の情報を参照することも、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの個々の**フロー**ページを参照することもできます。また、現在の日時やプロジェクトが最後に保存された日時を参照することもできます。

### 補足

- テキストトークンはテキストフレームでのみ使用できます。テキスト/組段テキストオブジェクトでトークンを使用することはできません。
- フロートークンは、テキストフレームの上辺より下にある一番近いフローを参照します。フロートークンが含まれているテキストフレームの上部が組段内の最初の譜表の第5線に揃っているかそれより上にある場合、フロートークンはそのフローを参照します。

{@flow2title@} のように、フロートークンが参照するフロー番号を指定することもできます。この場合、トークンの位置に関係なく、常に指定したフローが表示されます。

タイトルページのように楽譜が含まれていないページでフロー情報を参照するトークンを使用するには、トークンでフロー番号を指定する必要があります。たとえば、楽曲フレームが含まれていないタイトルページで {@flowtitle@} を使用するとトークンは情報を表示しませんが、{@flow1title@} はプロジェクトの最初のフローのタイトルを表示します。

各フローのフロー番号は、設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで確認できます。

Dorico Pro では以下のトークンを使用できます。

### 全般トークン

説明	トークン
ページ番号	{@page@}
プレーヤーリスト	{@playerlist@}
プレーヤー名	{@playernames@}
レイアウト名	{@layoutname@}
設定モードの「 <b>レイアウト (Layouts)</b> 」パネルで設定したレイアウト番号	{@layoutnumber@}

### プロジェクト/フロー固有の情報トークン

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド	プロジェクトページのトークン	フローページのトークン
タイトル (Title)	{@projecttitle@}	{@flowtitle@}
サブタイトル (Subtitle)	{@projectsubtitle@}	{@flowsubtitle@}
献呈 (Dedication)	{@projectdedication@}	{@flowdedication@}
作曲者 (Composer)	{@projectcomposer@}	{@flowcomposer@}
編曲者 (Arranger)	{@projectarranger@}	{@flowarranger@}
作詞者 (Lyricist)	{@projectlyricist@}	{@flowlyricist@}
アーティスト (Artist)	{@projectartist@}	{@flowartist@}
写譜者 (Copyist)	{@projectcopyist@}	{@flowcopyist@}



「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド	プロジェクトページのトークン	フローページのトークン
出版社 (Publisher)	{@projectpublisher@}	{@flowpublisher@}
編集者 (Editor)	{@projecteditor@}	{@floweditor@}
著作権 (Copyright)	{@projectcopyright@}	{@flowcopyright@}
作品番号 (Work number)	{@projectworknumber@}	{@flowworknumber@}
作曲者の生没年 (Composer dates)	{@projectcomposerdates@}	{@flowcomposerdates@}
作曲年 (Composition year)	{@projectcompositionyear@}	{@flowcompositionyear@}
その他の情報 (Other information)	{@projectotherinfo@}	{@flowotherinfo@}

### フローごとのトークン

フローごとのトークンの機能	トークン
設定モードの「フロー (Flows)」パネルでの位置に応じた、現在のフローのフロー番号	{@flownumber@}
小文字のローマ数字 (iii や xvi など) で表示された、現在のフローのフロー番号	{@flowNumberRomanLower@}
大文字のローマ数字 (III や XVI など) で表示された、現在のフローのフロー番号	{@flowNumberRomanUpper@}
現在のフロー内のこのページの番号 (最初は 1)	{@flowPage@}
現在のフロー内のページの総数	{@flowPageCount@}
指定したフロー“n”が始まる表示ページ番号 (例: {@flow3PageCount@})	{@flownPageCount@}
現在のフローのデュレーション (単位: 分および秒)	{@flowDuration@}
指定したフロー“n”のデュレーション (単位: 分および秒、例: {@flow3Duration@})	{@flownDuration@}

### ページ番号のトークン

ページ番号のトークンの機能	トークン
レイアウト内のページの総数	{@pageCount@}

ページ番号のトークンの機能	トークン
現在のフロー内のこのページの番号 (フローの最初のページを 1 とし、表示ページ番号のないページも含む)	{@flowPage@}
現在のフロー内のページの総数	{@flowPageCount@}
設定モードの「 <b>フロー (Flows)</b> 」パネルでの位置に応じた、指定したフロー“n”が始まるページの表示ページ番号	{@flownFirstPage@}
例: {@flow5FirstPage@}	

#### 補足

トークン {@flowPage@} および {@flowPageCount@} には、そのトークンが使用されているページの左上角に一番近い楽曲フレームの最初の組段の開始位置で有効になっているフローのみが反映されません。

#### プロジェクトが最後にいつ保存されたかを表示する日時のトークン

日時の説明	日時の例	トークン
日時の標準文字列 (ロケールに依存)	12/31/17 11:10:12	{@projectdate@}
4桁の西暦	2017	{@projectdateyear@}
西暦の下2桁	17	{@projectdateyearshort@}
月の正式名称 (ロケールに依存)	October	{@projectdatemonth@}
月の略称 (ロケールに依存)	Oct	{@projectdatemonthshort@}
月の10進数表記 (01 ~ 12)	10	{@projectdatemonthnum@}
曜日の正式名称 (ロケールに依存)	Friday	{@projectdateday@}
曜日の略称 (ロケールに依存)	Fri	{@projectdatedayshort@}
日付の10進数表記 (1 ~ 31)	24	{@projectdatedaynum@}
ISO 8601形式の日付	2017-12-31	{@projectdateymd@}
月、日付、年	December 31, 2017	{@projectdatemdy@}
日付、月、年	31 December 2017	{@projectdatedmy@}
時刻表示 (ロケールに依存)	11:10:12	{@projectdatetime@}
時:分 (24時間表記)	23:10	{@projectdatetimeHHMM@}

日時の説明	日時の例	トークン
時:分:秒 (24 時間表記)	13:02:24	{@projectdatetimeHHMMSS@}
時 (24 時間表記)	23	{@projectdatetimehour24@}
時 (12 時間表記)	11	{@projectdatetimehour12@}
分の 10 進数表記 (00 ~ 59)	10	{@projectdatetimeminute@}
秒の 10 進数表記 (00 ~ 59)	44	{@projectdatetimesecond@}

#### 現在の日時を表示する日時のトークン

日時の説明	日時の例	トークン
日時の標準文字列 (ロケールに依存)	12/31/17 11:10:12	{@date@}
4 桁の西暦	2017	{@dateyear@}
西暦の下 2 桁	17	{@dateyearshort@}
月の正式名称 (ロケールに依存)	October	{@datemonth@}
月の略称 (ロケールに依存)	Oct	{@datemonthshort@}
月の 10 進数表記 (01 ~ 12)	10	{@datemonthnum@}
曜日の正式名称 (ロケールに依存)	Friday	{@dateday@}
曜日の略称 (ロケールに依存)	Fri	{@datedayshort@}
日付の 10 進数表記 (1 ~ 31)	24	{@datedaynum@}
ISO 8601 形式の日付	2017-12-31	{@dateymd@}
月、日付、年	December 31, 2017	{@datemdy@}
日付、月、年	31 December 2017	{@datedmy@}
時刻表示 (ロケールに依存)	11:10:12	{@datetime@}
時:分 (24 時間表記)	23:10	{@datetimeHHMM@}
時:分:秒 (24 時間表記)	13:02:24	{@datetimeHHMMSS@}
時 (24 時間表記)	23	{@datetimehour24@}
時 (12 時間表記)	11	{@datetimehour12@}

日時の説明	日時の例	トークン
分の 10 進数表記 (00 ~ 59)	10	{@datetimeminute@}
秒の 10 進数表記 (00 ~ 59)	44	{@datetimesecond@}

#### 関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(92 ページ\)](#)  
[プレーヤー名、レイアウト名、インストールメント名 \(99 ページ\)](#)  
[フロー名とフロータイトル \(122 ページ\)](#)  
[レイアウト番号の付け直し \(127 ページ\)](#)

## テキストフレームへのテキストの入力

テキストフレームへのテキストの入力、テキストの形式設定、個々のパラグラフやライン区切りの挿入を行なえます。また、あとからテキストを太字ではなく斜体にしたくなった場合など、テキストフレーム内のテキストはいつでも編集できます。

#### 前提

マスターページのテキストフレームにテキストを入力する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. テキストを入力するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
2. 任意のテキストを入力します。
3. 新しいパラグラフを挿入するには **[Return]** を押します。
4. ライン区切りを挿入するには **[Shift]+[Return]** を押します。
5. 必要に応じて、テキストエディターオプションを使用してテキストの形式設定を行ないます。
6. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

---

#### 結果

テキストフレームにテキストが入力されます。  
新しいパラグラフまたはラインを挿入すると、新しいパラグラフまたはラインの最初にカーソルが移動します。

#### 関連リンク

[浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

## テキストフレームへの枠線の追加

テキストフレームの境界を明確にしたい場合などに、テキストフレームに個別に枠線を追加できます。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのテキストフレームに枠線を追加する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. 枠線を追加するテキストフレームを選択します。

- プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「境界線を表示 (Show border)」をオンにします。
- 

#### 結果

選択したテキストフレームに枠線が追加されます。

#### 手順終了後の項目

テキストフレームの枠線の太さおよび枠線とテキストフレームの内容との間の余白を変更できます。

## テキストフレームの枠線の太さを変更する

テキストフレームの枠線の太さを個別に変更できます。テキストフレームの枠線の太さのデフォルト設定はありません。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
  - マスターページのテキストフレームの枠線の太さを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- 

#### 手順

- 枠線の太さを変更するテキストフレームを選択します。
  - プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで、「境界線の太さ (Border thickness)」の値を変更します。
- 

#### 関連リンク

[テキストオブジェクトの枠線の太さを変更する \(380 ページ\)](#)

## テキストフレーム内の余白を変更する

フレームの端とフレーム内のテキストとの間の距離に影響する余白をテキストフレームごとに変更できます。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「フレーム (Frames)」を選択しておきます。
  - マスターページのテキストフレームの余白を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- 

#### 手順

- 余白を変更するテキストフレームを選択します。
  - プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「余白 (Padding)」をオンにします。
  - 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したテキストフレームのすべての端とフレーム内のテキストとの間の余白が変更されます。

## テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更

テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置を変更できます。この変更はマスターページおよび個々のページで行なえます。マスターページでは、選択したテキストの配置はその形式を使用するすべてのページで変更され、個々のページでは、選択したテキストの配置はそのページにおいてのみ変更されます。

#### 前提

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのテキストの垂直方向の配置を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. テキストの垂直方向の配置を変更するフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**整列 (垂直方向) (Vertical alignment)**」のメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Top)**
  - **中央 (Center)**
  - **下 (Bottom)**

---

#### 結果

選択したテキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置が変更されます。

#### 補足

テキストの垂直方向の配置の変更は、パラグラフスタイルより優先されるわけではありません。垂直方向の配置を変更したテキストのパラグラフスタイルにあとから変更を加えると、変更がテキストに反映されません。

---

#### 関連リンク

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

## テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更

テキストフレーム内のテキストスタイルの水平方向の配置を、そのテキストのパラグラフスタイルとは関係なく変更できます。

マスターページ上でテキストフレーム内のテキストの配置を変更すると、そのマスターページ形式を使用しているすべてのページでテキストの水平方向の配置が変更されます。

個々のページ上でテキストフレーム内のテキストの配置を変更した場合、この変更はそのテキストのパラグラフスタイルやマスターページの形式とは関係なく行なわれます。あとから個々のページに設定されたページの優先を解除すれば、マスターページの形式に戻すことができます。

#### 補足

- マスターページのテキストフレーム内のテキストへ加えた変更はリセットできません。
- ページの優先を解除すると、テキストフレーム内のテキストの配置の変更だけでなく、個々のページへのすべての変更が削除されます。

---

#### 前提

マスターページのテキストの水平方向の配置を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

---

#### 手順

1. テキストフレームをダブルクリックして、そのフレームのテキストエディターを開きます。
2. 水平方向の配置を変更するテキストフレーム内のテキストを選択します。

#### ヒント

同じテキストフレーム内の個々のパラグラフに異なるパラグラフスタイルを適用できます。

3. テキストエディターで、希望する水平方向の配置を選択します。
4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

#### 結果

選択したテキストの水平方向の配置が変更されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のテキストスタイルの水平方向の配置は、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。

#### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

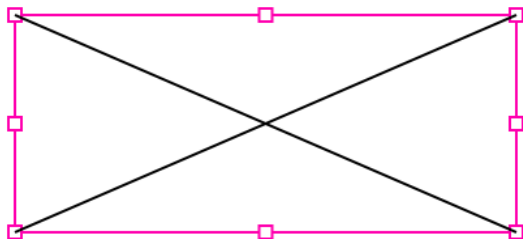
[パラグラフスタイルの上書き \(377 ページ\)](#)

## グラフィックフレーム

グラフィックフレームを使用すると、さまざまな形式のイメージや図をスコアに読み込めます。

以下の形式のグラフィックファイルを読み込めます。

- .jpg または .jpeg
- .png
- .svg



グラフィックフレーム

#### 関連リンク

[フレームのサイズ/形状の変更 \(327 ページ\)](#)

## グラフィックフレームへのイメージの読み込み

スコアには、コンピューターまたはサーバーから画像を読み込めます。

#### 前提

マスターページまたは個々のレイアウトにグラフィックフレームを追加しておきます。

#### 手順

1. グラフィックフレーム内をダブルクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、グラフィックフレームに読み込むファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックします。

## 結果

選択した画像がフレームに読み込まれます。

## フレーム制限

Dorico Pro では、制限を設定することでフレームの 4 辺とそれぞれに対応するページ余白の関係を定義します。

フレーム制限を設定すると、フレームの各辺に対応するページ余白にロックできます。これにより、フレームの比率を維持したまま、ページサイズを変更したりページ余白で定義される領域を変更したりできます。たとえば、1 つの楽曲フレームがページの高さと幅の全体を埋めるように配置されている場合、4 辺すべてに制限が設定されます。つまり、すべての辺のインセットが 0 となり、フレームの端とページ余白が接します。たとえば、ページサイズを変更すると、現在のページサイズに関係なく、常にページ全体を埋めるようにフレームサイズも変更されます。

## 補足

ページサイズと余白は、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」でレイアウトごとに設定します。

フレームの 1 辺の制限を解除する場合 (ページ余白からフレームの 1 辺のロックを解除する場合)、固定の幅や高さを指定することで、ページサイズが変更されてもフレームの辺が調整されないようにできます。

## 例

ヘッダーにフレームを配置している場合、左右の辺をページの左右の余白位置にロックできます。フレームの上側の辺を上側の余白位置にロックすることもできますが、ヘッダーの高さを固定する必要があります。この場合、下側の余白のロックを解除してフレームの 1 辺を動かすか、プロパティパネルのいずれかの数値フィールドに値を入力すると、固定の高さを指定できます。

形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」セクションでは、Dorico Pro で使用できるすべてのタイプのフレームに制限を定義できます。新規フレームを作成すると、デフォルトですべての辺の制限が有効になります。フレームの 2 辺のロックを解除すると、固定の幅と高さを指定できます。たとえば、上側の余白のロックを解除すると、左右の余白のロックも解除できます。

## 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

## フレーム制限の定義

制限を適用するフレームの辺を指定できます。

## 前提

マスターページでフレームの制限を定義する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

## 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**フレーム (Frames)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
2. 楽譜領域で、制限を定義するフレームを選択します。
3. 形式設定パネルの「**制限 (Constraints)**」セクションで、制限を変更するフレームの辺に対応する制限をクリックします。



ロックされた制限



ロックされていない制限

4. フレームのロックされていない辺を任意の位置に動かします。



## ヒント

プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」グループにある「**高さ (Height)**」または「**幅 (Width)**」に固定の値を入力することもできます。

### 関連リンク

- [形式設定パネル \(295 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(309 ページ\)](#)
- [マスターページのカスタマイズ \(310 ページ\)](#)

## ページレイアウト

Dorico Pro では、ページのレイアウトはページの余白、適用されるマスターページ、適用される配置設定の値、組段区切りとフレーム区切り、そしてフレーム余白によって決まります。

配置設定とは、組段ごとの小節数やページごとの組段数を設定する処理を意味し、レイアウト全体の規則的な外観を固定できます。

組段区切りとフレーム区切りを使って、各組団に表示する小節を指定したり、楽譜を次のフレームに切り替える位置を決めたりなど、レイアウトを局所的に調節できます。

フレームはレイアウトの余白によって設定された境界を越えることはできません。この余白は、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページで変更できます。各ページの各辺の余白のサイズはミリメートル単位で変更でき、以下のいずれかの余白スタイルを選択できます。

- **共通 (Same)**  
選択したレイアウトのすべてのページに同じ余白を設定します。
- **個別指定 (Different)**  
選択したレイアウトの左右のページに異なる余白を設定します。
- **見開き (Mirrored)**  
選択したレイアウトの左右のページに同じ余白の値を使用しますが、ページの内側同士と外側同士が同じ値になります。

デフォルトのマスターページの楽曲フレームには、フレーム内に表示される音符や記譜記号がページに収まるように余白が設定されています。たとえば、楽曲フレームに余白がない場合、フレームの1番上の譜表の第5線がフレームの最上部に配置されます。譜表の上に加線を必要とする音符は、ページの最上部より上に配置される場合があります。各レイアウトのすべての楽曲フレームの余白は「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で変更でき、個々の楽曲フレームの余白は浄書モードでプロパティパネルのプロパティを使用して変更できます。

フレーム制限は、フレームの端をページの端にロックするのに使用します。これにより、比率を維持したまま、1つのマスターページを用紙サイズの異なるレイアウトに適用できます。

### 関連リンク

- [フレーム制限 \(344 ページ\)](#)
- [マスターページ \(304 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(309 ページ\)](#)
- [配置設定 \(359 ページ\)](#)
- [タレット \(355 ページ\)](#)
- [レイアウト \(123 ページ\)](#)
- [フロー \(120 ページ\)](#)
- [プレーヤー \(97 ページ\)](#)

## ページ余白の変更

らせん綴じにするプロジェクトでレイアウトの余白を広くしたい場合など、ページ余白をレイアウトごとに個別に変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページ余白を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ余白 (Page Margins)**」セクションの「**ページ余白 (Page margins)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **共通 (Same)**
  - **個別指定 (Different)**
  - **見開き (Mirrored)**
5. 必要に応じて、数値フィールドの値を変更して余白を変更します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したレイアウトのページ余白が変更されます。固定された制限を持つ選択したレイアウト内のフレームは、必要に応じて自動的に移動またはサイズ変更されます。

### 関連リンク

[フレーム制限 \(344 ページ\)](#)

## ページのサイズと向きの変更

ページのサイズと向きをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトには横向きの大きなページを使用し、パートレイアウトには縦向き小さなページを使用するなどできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページのサイズや向きを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページサイズ (Page Size)**」セクションで、「**サイズ (Size)**」メニューからページサイズを選択します。  
たとえば、「**A3**」や「**Letter**」などの固定ページサイズを選択したり、「**カスタム (Custom)**」を選択して独自のページサイズを定義したりできます。
5. 「**カスタム (Custom)**」を選択した場合は、数値フィールドの値を変更してページの「**幅 (Width)**」と「**高さ (Height)**」を変更します。

6. 「向き (Orientation)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 縦 (Portrait)
    - 横 (Landscape)
  7. 必要に応じて、ページのサイズおよび向きを変更するその他のレイアウトに対して手順2から6を繰り返します。
  8. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したすべてのレイアウトのページサイズが変更されます。

#### 補足

レイアウトのページサイズを変更しても、印刷モードの印刷オプションパネルでこれらのレイアウトに対して自動的に選択される用紙サイズが変更されない場合があります。たとえば、デフォルトのプリンターではレイアウトに対して選択されたページサイズを印刷できない場合、そのプリンターが対応している最大の用紙サイズが選択されます。同様に、「レイアウトオプション (Layout Options)」でページサイズを変更する前に印刷レイアウトのオプションをすでに設定している場合、Dorico Pro は元の印刷オプションを保持しようとします。

同様に、ページの向きは用紙の向きとは関係ありません。横向きのレイアウトを縦向きの用紙に印刷してしまったり、その逆も起こり得るため、印刷や書き出しの前には、印刷モードの印刷オプションパネルでレイアウトのページの向きに合った用紙の向きが設定されていることを確認することをおすすめします。

---

#### 関連リンク

[ページサイズと用紙サイズ \(488 ページ\)](#)

[用紙の向き \(488 ページ\)](#)

[用紙のサイズと向きの設定 \(488 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(397 ページ\)](#)

## 左側のページからレイアウトを始める

奇数ページは常に右側のページに置くという慣習があるため、初期設定ではすべてのレイアウトが右側のページから始まります。ただし、そのレイアウトでページめくりをしやすくするために、個々のレイアウトが左側のページから始まるように設定できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
  2. 左側のページから開始するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
  4. 「ページ番号 (Page Numbers)」セクションで、「開始ページ番号 (Initial page number)」の値を偶数に変更します。
  5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

開始ページ番号を偶数にすると、選択したレイアウトの最初のページが左側のページに表示されます。

## 同じページに複数のフローを表示する/表示しない

たとえば複数の楽章からなる楽譜で、パートに必要なページ数を減らしたい場合など、スペースがあれば新しいフローを前のフローと同じページに表示させるかどうかを設定できます。初期設定では、パートレイアウトでは同じページに新しいフローが表示されますが、フルスコアレイアウトでは表示されません。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 各ページに複数のフローを表示させるレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しなが隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しなが個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**フロー (Flows)**」セクションの「**新規フロー (New flows)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **常に新規ページに作成 (Always start new page)**
  - **既存ページ上での作成を許可 (Allow on existing page)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

- 「**常に新規ページに作成 (Always start new page)**」を選択すると、選択したレイアウトのフローが、常に前のフローの終了位置のあとの次のページの開始位置から始まります。
- 「**既存ページ上での作成を許可 (Allow on existing page)**」を選択すると、選択したレイアウトのフローが、前のフローのすぐあとに続けて表示されます。十分なスペースがある場合は、同じ楽譜フレーム内に表示されます。選択したレイアウトにフロー見出しを表示するように選択している場合は、フローの開始位置の上にフロー見出しが自動的に表示されます。

### 補足

フローが自動的に別の楽譜フレームに分割されることはありません。フローを別の楽譜フレームに分割するには、フレーム区切りを手動で挿入する必要があります。

### 関連リンク

[テキストトークン \(335 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

[配置設定 \(359 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(125 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(121 ページ\)](#)

[フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える \(351 ページ\)](#)

## 「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかの変更

「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではすべてのフローの最初に使用し、パートレイアウトではたとえ後続のフローがページの一番上で始まっても最初のフローにのみ使用する場合などに便利です。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。

2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかを変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」セクションで、「最初」のマスターページを使用 (Use 'First' master page) に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常になし (Never)
  - 最初のフローのみ (First flow only)
  - ページの一番上で開始するフローすべて (Any flow starting at top of page)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

- 「常になし (Never)」を選択した場合、「最初 (First)」のマスターページは選択したレイアウト内のどのページにも使用されません。
- 「最初のフローのみ (First flow only)」を選択した場合、「最初 (First)」のマスターページはレイアウト内の最初のページに使用され、たとえ後続のフローがページの一番上で始まっていても他のページには使用されません。
- 「ページの一番上で開始するフローすべて (Any flow starting at top of page)」を選択すると、「最初 (First)」のマスターページはフローが一番上で始まるレイアウト内のすべてのページに使用されます。

#### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

## フロー見出しを表示/非表示にする

たとえばプロジェクトにフローが1つだけ含まれており、プロジェクトタイトルだけを表示したい場合などに、各レイアウトのフロー見出しを個別に表示/非表示にできます。また、最初のフローの見出しを非表示にして、後続のフローのフロー見出しを表示することもできます。

#### 前提

フロー見出しを表示するレイアウト内の同じページで、複数のフローを使用できるようにしておきます。

---

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L] を押しして「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、フロー見出しを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」セクションで、「フロー見出しを表示 (Show flow headings)」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常になし (Never)
  - 最初のフロー以外 (Not for first flow)

- すべてのフロー (For all flows)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

「すべてのフロー (For all flows)」を選択すると、選択したレイアウトの各フローの最初の組段の上にフロー見出しが表示されます。「常になし (Never)」を選択するとフロー見出しが非表示になります。「最初のフロー以外 (Not for first flow)」を選択すると、最初のフローの最初の組段の上のフロー見出しは非表示になりますが、その他のすべてのフローの上には表示されます。

フロー見出しは、各レイアウトに設定された余白に応じて、各フローと1つ前のフローとの間に自動的に配置されます。

#### 関連リンク

[同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(348 ページ\)](#)

## フロー見出しの上下の余白を変更する

フロー見出しの上下の余白を変更して、1つ前のフローとフロー見出しとの間の間隔およびフロー見出しと次のフローの開始位置との間隔を制御できます。

#### 前提

フロー見出しの上下の余白を変更するレイアウトにフロー見出しを表示しておきます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フロー見出しの上下の余白を変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
  4. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**フロー見出しの上側余白 (Flow heading top margin)**」または「**フロー見出しの下側余白 (Flow heading bottom margin)**」あるいはその両方の値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

「**フロー見出しの上側余白 (Flow heading top margin)**」の値を変更すると、フロー見出しの上部と1つ前のフローの終了位置との間の間隔が増減します。

「**フロー見出しの下側余白 (Flow heading bottom margin)**」の値を変更すると、フロー見出しの下部と次のフローの開始位置との間の間隔が増減します。たとえば、下側余白を「0」に設定した場合、フロー見出しの一番下のフレームの下部が、フロー見出しの下にあるフローの最初の組段の第5線に重なります。

#### 補足

- 個々のフロー見出しの上下の余白を変更するには、フロー見出しの変更を挿入し、その位置で余白を変更します。
  - 個々のフロー見出しを上下に移動するには、フロー見出しを適用するフローの最初の組段の組段ハンドルを動かします。フロー見出しのフレームを個別に移動することもできますが、そうするとページの優先が設定されるため、あとでマスターページの形式を変更した場合などにページが更新されなくなります。
-

例



The image shows a musical score with two staves. The top staff is a treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). It contains a series of chords and rests, with a dynamic marking of *ff*. The bottom staff is a bass clef with a common time signature (C) and contains a melodic line with a dynamic marking of *p*. The text "2. Andante maestoso" is centered between the two staves. The score is enclosed in a blue frame, and there is a significant amount of white space above and below the staves.

上下の余白がデフォルトのフロー見出し



This image is identical to the one on the left, showing the same musical score with two staves and the text "2. Andante maestoso". However, the white space above and below the staves is significantly reduced, making the score appear more compact.

上下の余白を減らしたフロー見出し

関連リンク

[フロー見出しの変更の挿入 \(318 ページ\)](#)

[個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(400 ページ\)](#)

[ページの優先 \(311 ページ\)](#)

## フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える

新規ページのフロー見出しの上にフロータイトル、ページ番号、フローページ番号が表示された場合、レイアウトごとにこれらの表示/非表示を個別に切り替えられます。印刷される楽譜では、欄外見出しの情報を非表示にすることが一般的です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フロー見出しの上の欄外見出しの情報を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**フロー (Flows)**」セクションの「**ヘッダーのフロータイトル (Flow title in header)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
  - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
5. 「**ヘッダーのページ番号 (Page number in header)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
  - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
6. 「**ヘッダーのフローページ番号 (Flow page number in header)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
  - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

対応する情報がページ上部のフロー見出しの上に表示される際の、表示または非表示が切り替わりません。

## 補足

欄外見出しの情報を非表示にするには、フロー見出しのフレームを含む楽曲フレームの上部が対応する情報を含んだテキストフレームの上部よりも低い位置に配置される必要があります。楽曲フレームの上部が欄外見出しのテキストフレームと同じ高さに配置されている場合、設定に関係なく、テキストフレーム内の情報は表示されます。

---

### 関連リンク

[フレーム \(325 ページ\)](#)

[マスターページ \(304 ページ\)](#)

## レイアウトの楽曲フレームの余白を変更する

譜表の上にたくさんの音符があるパートレイアウトで楽曲フレームの上部の余白を広げたい場合など、レイアウトごとですべての楽曲フレームの余白を変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 楽曲フレームの余白を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
  4. 「**楽曲フレームの余白 (Music Frame Margins)**」セクションで、「**上 (Top)**」または「**下 (Bottom)**」あるいはその両方の値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したレイアウトのすべての楽曲フレームの余白が変更されます。

### 関連リンク

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(397 ページ\)](#)

## 楽曲フレームの余白を個別に変更する

個々の楽曲フレームの上部/下部の余白を、レイアウトの楽曲フレームの余白の設定とは別に変更できます。

### 前提

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 余白を変更する楽曲フレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**楽譜 (Music)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **上余白 (Top padding)**
  - **下余白 (Bottom padding)**
3. 数値フィールドの値を変更して余白を変更します。



たとえば、「上余白 (Top padding)」に「0」を入力すると、フレーム内の1番上の譜表の第5線と楽曲フレームの上部が重なります。

#### 結果

選択した楽曲フレームの上部/下部の余白が変更されます。これは、楽譜領域で現在開いているレイアウトにのみ適用されます。

プロパティをオフにすると、選択した楽曲フレームが、レイアウトの楽曲フレームの余白の設定に戻ります。

## 最後の組段の両端揃えの変更

Dorico Pro の初期設定では、フローの最後の組段は、ページの幅全体に占める割合が 50% を超えた場合のみ両端揃えが適用されます。この設定はレイアウトごとに個別に変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. フローの最後の組段の両端揃えを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。
4. フローの最後の組段を常に両端揃えにするには、「**フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)**」をオフにします。
5. 最後の組段が全体の何 % を超えたら両端揃えを適用するかを変更するには、「**フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)**」の値を変更します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトのフローの最後の組段の自動両端揃えが変更されます。

#### ヒント

組段の開始位置/終了位置を個別に変更することで、デフォルト設定とは別に、個々の組段の幅を変更することもできます。

#### 関連リンク

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(394 ページ\)](#)

## 譜表/組段の両端揃え (垂直方向) を変更する

Dorico Pro が自動的に譜表間および組段間の垂直方向の調整を行なうフレーム使用率の最小しきい値を変更できます。垂直方向の調整では、フレームの高さに合わせて譜表または組段が等しく配置されます。譜表と組段の両方が調整されるのか、組段のみが調整されるのかを選択することもできます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表間/組段間の垂直方向の自動調整の設定を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」をクリックします。
4. 「最適間隔 (Ideal Gaps)」セクションの「ディヴィジ譜表が使用する間隔 (Gap to use for divisi staves)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 譜表から譜表まで (Staff to staff)
  - 連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)
5. 「両端揃え (垂直方向) (Vertical Justification)」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
  - 「譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n]% full)」
  - 「組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n]% full)」
6. 「単一の段組のフレームがこのしきい値を超えた場合に譜表間の距離を調整する (Justify staves when frame with single system is above this threshold)」をオン/オフにします。
7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトに含まれる譜表間/組段間の垂直方向の自動調整の設定が変更されます。連合譜表には垂直方向の調整が行われません。

#### 例



The image shows a musical score with five staves (Violin I, Violin II, Viola, Cello, and Double Bass). The staves are grouped into systems. The spacing between the staves within each system and between the systems themselves is adjusted, resulting in a more uniform and balanced appearance. The lyrics 'o - - - - - mor lan - - - - - lan' are visible under the vocal staves.

譜表間と組段間の間隔を調整したページ



The image shows the same musical score as the previous example, but with only the spacing between systems adjusted. The spacing between staves within each system remains the same as in the original score, while the spacing between the systems is adjusted to be more uniform.

組段間のみを調整した左と同じページ

#### 関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(397 ページ\)](#)  
[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(397 ページ\)](#)

## 空白の譜表の表示/非表示を切り替える

プロジェクト内の各レイアウトで空白の譜表を個別に表示/非表示にできます。たとえば、指揮者用のフルスコアレイアウトでは空白の譜表を含むすべての譜表を表示し、参照のみに使用するフルスコアレイアウトでは空白の譜表を非表示にできます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、空白の譜表を表示/非表示にするレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
4. 「**空白の譜表を隠す (Hide Empty Staves)**」セクションで、「**空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **2 番目の組段から (After first system)**
  - **すべての組段 (All systems)**
  - **常に表示 (Never)**
5. 「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」をオンまたはオフにします。
6. 必要に応じて、「**空白の譜表を非表示**」を適用しないプレーヤー (**Players excluded from Hide Empty Staves**)」で、「**空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)**」の選択に関係なく表示したいインストゥルメントに対応するチェックボックスをオンにします。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウト内の空白の譜表が、選択に応じて表示/非表示になります。「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」をオンにすると、ピアノやハーブといった複数の譜表を持つインストゥルメントの単一の空白の譜表を、選択したレイアウトで非表示にできます。

### 補足

- 余分な譜表が追加されたインストゥルメントは、たとえ空白の譜表があっても「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」の影響を受けません。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある「**位置 (Position)**」セクションでコード記号を譜表間に表示するよう設定した場合は、複数の譜表を持つインストゥルメントの単一の譜表を非表示にできません。

### 関連リンク

[追加の譜表 \(923 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(397 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(397 ページ\)](#)

## タチエット

タチエットとは、プレーヤーがフロー全体で何も演奏しないことを表わす指示で、交響曲の楽章や映画スコアのキューなどに使用されます。Dorico Pro では、タチエットを自動的に生成できます。

Dorico Pro では、以下の条件が満たされるとパートレイアウトのフローにタチエットが表示されます。

- 演奏がないフローからプレーヤーが削除されている。
- パートレイアウトのマスターページフレームチェーンにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトの同じページで複数のフローが許可されている。
- パートレイアウトにタチェットを表示するように選択している。



## 2. Andante

Tacet

## 3. Menuetto



2 番めのフローでプレーヤーがタチェットになっているパートレイアウトの抜粋

浄書モードでは、タチェットは組段のように機能します。つまり、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」がオンになっている場合、譜表のスペーシングのハンドルが独自に表示されます。これにより、個々のタチェットとそのフロー見出しを上下に動かすことができます。また、タチェットの最初に組段区切りやフレーム区切りを挿入することもできます。

### 補足

フレームの最初または最後の組段がタチェットのページで「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」や「**フレームをロック (Lock Frame)**」を使用することはおすすめしません。これは、タチェットには小節が含まれておらず、フレームコンテンツをロックするための組段区切りやフレーム区切りをタチェットの終わりに挿入できないためです。

タチェットに表示されるテキストとタチェットの上下の余白は、レイアウトごとに個別に変更できません。

また、タチェットのプロジェクト全体の外観とデザインは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タチェット (Tacetts)**」ページ、および「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」でパラグラフスタイルの「**タチェット (Tacetts)**」の形式設定を行なうことでさらにカスタマイズできます。

### 関連リンク

- [フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(121 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(333 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(348 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(395 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(362 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(360 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)
- [「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(321 ページ\)](#)

## タレットの表示/非表示の切り替え

たとえば、いくつかのレイアウトに空白の小節や長休符を表示してプレーヤーがあとからこれらの譜表に音符を追加できるようにしたい場合など、タレットをレイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、タレットを表示/非表示にするレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**タレット (Tacet)**」セクションで、「**プレーヤーが割り当てられていないフローにタレットを表示 (Show tacet for flows where no players are assigned)**」をオンまたはオフにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

「**プレーヤーが割り当てられていないフローにタレットを表示 (Show tacet for flows where no players are assigned)**」がオンで、演奏がないフローにプレーヤーが割り当てられていない場合、選択したレイアウトにタレットが表示されます。

オフの場合、プレーヤーが割り当てられていないフローはレイアウトに表示されません。フローにプレーヤーが割り当てられている場合、パートにはフロー内のすべての小節が、そのフローに適した形で空白の小節や長休符に分割されて表示されます。

---

### ヒント

プロジェクトに短いフローが多く含まれており、それがパートレイアウトでは“Tacet”という長休符として1小節に表示される場合は、すべての小節を表示することでフローの長さを見やすくできます。この操作を行なうには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**フローに「Tacet」を表示する小節数の最小値 (Minimum number of bars in flow to show ‘Tacet’)**」の値を大きくします。

---

### 関連リンク

- [タレット \(355 ページ\)](#)
- [長休符 \(874 ページ\)](#)
- [フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(121 ページ\)](#)
- [長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

## タレットに表示されるテキストの変更

タレットに表示されるテキストは、レイアウトごとに個別に変更できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. タレットに表示されるテキストを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**タチェット (Tacets)**」セクションで、表示するテキストを「**タチェットのテキスト (Tacet text)**」フィールドに入力します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトのすべてのタチェットに表示されるテキストが変更されます。

#### ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タチェット (Tacets)**」ページで、タチェットの左右の余白、境界線の表示/非表示、境界線の太さを変更できます。

---

## タチェットの上下の余白を変更する

たとえば、いくつかのレイアウトでページめくりをしやすくするためにフロー見出しとタチェットの間隔を狭くしたい場合など、タチェットの上下の余白をレイアウトごとに個別に変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、タチェットの上下の余白を変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**タチェット (Tacets)**」セクションで、「**タチェットの上側余白 (Margin above tacet)**」または「**タチェットの下側余白 (Margin below tacet)**」あるいはその両方の値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

「**タチェットの上側余白 (Margin above tacet)**」の値を変更すると、タチェットとその前のアイテムの間の最小間隔が増減します。

「**タチェットの下側余白 (Margin below tacet)**」の値を変更すると、タチェットとそのあとのアイテムの間の最小間隔が増減します。

#### ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タチェット (Tacets)**」ページで、タチェットの左右の余白、境界線の表示/非表示、境界線の太さを変更できます。

---

#### 関連リンク

[フロー見出し \(321 ページ\)](#)

## 配置設定

“配置設定”とは、ページあたりの組段数の設定など、楽譜のページレイアウトの固定を示す言葉です。Dorico Pro では、組段あたりの小節数と楽曲フレームあたりの組段数の両方をレイアウトごとに個別に固定できます。

関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(397 ページ\)](#)

## 組段あたりの小節数を固定

プロジェクト内の各レイアウトの各組段に含める固定の小節数を定義できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、組段あたりの小節数を固定するレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**配置設定 (Casting Off)**」セクションで、「**組段あたりの小節数を固定 (Fixed number of bars per system)**」をオンにします。
5. 数値フィールドの値を変更して、各組段に固定する小節数を変更します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの各組段に自動的に配置される小節数が変更されます。いずれかのレイアウトに2小節リピート領域または4小節リピート領域が含まれている場合、自動的に配置が調整され、フレーズが組段をまたいで分割されるのを防ぎます。

関連リンク

[小節リピート記号 \(849 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(362 ページ\)](#)

[フレーム区切りの挿入 \(360 ページ\)](#)

## フレームあたりの組段数の固定

プロジェクト内の各レイアウトの各楽曲フレームに含める固定の組段数を定義できます。デフォルトのマスターページには、1 ページあたり 1 つの楽譜が含まれているため、通常はフレームあたりの組段数を固定するとページあたりの組段数も固定されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フレームあたりの組段数を固定するレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。

4. 「配置設定 (Casting Off)」セクションで、「フレームあたりの組段数を固定 (Fixed number of systems per frame)」をオンにします。
  5. 数値フィールドの値を変更して、各フレームに固定する組段数を変更します。
  6. 「フレームの高さに合わせて組段の数を増減する (Scale number of systems by frame height)」をオン/オフにします。
  7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの各楽曲フレームに自動的に配置される組段数が変更されます。

「フレームの高さに合わせて組段の数を増減する (Scale number of systems by frame height)」をオンにすると、各フレームに含まれる組段数が楽曲フレームのサイズに応じて調整されます。

## フレーム区切り

Dorico Pro では、フレーム区切りを使って音符や記譜記号を次のフレームに移動できます。次のフレームは大抵次のページにあるため、フレーム区切りを使ってページ区切りを作成できます。たとえば、フレーム区切りを使い、パートレイアウトの特定の位置にページめくりを挿入できます。

フレーム区切りを示すガイドはいつでも表示/非表示にできます。

#### 補足

- 初期設定では、「フレームに変換 (Make into Frame)」を使用して作成されたフレームの開始位置にあるフレーム区切りは、プロパティパネルの「形式 (Format)」グループの「次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)」がオンになっています。このプロパティがオンになっている場合、そのフレーム区切りと次のフレーム区切りの間のすべての素材を含むフレームが自動的に作成されます。後続のフレーム区切りをあとから削除した場合、組段同士の間隔が狭い、または組段が重なった、非常に混み合ったフレームが作成されます。たとえば、後続のフレーム区切りをすべて削除した場合、フローの終わりまでのすべての楽譜が1つのフレームにまとめられます。
  - 各レイアウトの楽曲フレームごとの組段の数を固定することによって、楽曲フレームのコンテンツを制御することもできます。
- 

#### 関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション](#) (397 ページ)

## フレーム区切りの挿入

フレーム区切りを挿入することで、楽譜の特定の場所にページめくりを挿入できます。

#### 手順

1. フレーム区切りを挿入する位置の音符やアイテムを選択します。  
たとえば、音部記号を選択すると、その音部記号がフレームの終わりに配置され、音符が次の楽曲フレームの最初に移動します。
  2. **[Shift]+[F]** を押します。
- 

#### 結果

最初に選択したアイテムの直前にフレーム区切りが挿入されます。フレーム区切り後の記譜記号はすべて次の楽曲フレームに移動します。



#### 補足

2小節リピート領域または4小節リピート領域内のフレーズ中にフレーム区切りを挿入した場合、Dorico Pro はフレーム区切りを自動的にフレーズの前/後ろに移動しません。つまり、フレーズはフレーム区切りによって分割されません。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

## 選択部分をフレームに変換

選択した2つの位置の間のすべての音符や記譜記号を含むフレームを作成できます。

手順

1. フレームを開始する位置のアイテムを選択します。

#### 補足

符頭または小節線を選択することをおすすめします。スラーなどのその他のアイテムを選択すると、意図した位置より前または後ろにフレーム区切りが挿入されることがあります。

2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら以下のいずれかをクリックします。
  - フレームの終了位置にする符頭
  - 次のフレームの開始位置にするアイテム
3. 浄書ツールボックスで、「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
4. 「**楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)**」セクションで、「**フレームに変換 (Make into Frame)**」をクリックします。



結果

選択部分の始めまたは終わりにフレーム区切りを挿入することで、固定されたフレームが作成されます。このフレームには、選択した2つのアイテムの間のすべての音符や記譜記号が含まれます。

- 小節線やスラーなどのアイテムを選択した場合、選択した最初のアイテムの開始部分がフレームの始めに配置され、選択した最後のアイテムの終わりが次のフレームの始めに配置されます。
- 符頭を選択した場合、選択した最後の符頭は次のフレームの始めに配置されるのではなく、選択部分内のフレームに含まれます。
- タイを選択した場合、タイのつながりのどこを選択したかに関係なく、タイでつながれた最初と最後の音符の間のすべての音符や記譜記号がフレームに含まれます。

#### 補足

初期設定では、選択部分の始めに挿入されたフレーム区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)**」がオンになっています。このプロパティは、次のフレーム区切りまですべての楽譜をフレームに含めるように Dorico Pro に指示するため、後続のフレーム区切りをあとから削除した場合、組段同士の間隔が狭い、または組段が重なった、非常に混み合ったフレームが作成されることがあります。

「**次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)**」をオフにすると、後続の楽譜が通常通りに配置されます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

## フレーム区切りガイドの表示/非表示

フレーム区切りガイドはいつでも表示/非表示にできます。

---

### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「フレーム区切り (Frame Breaks)」を選択します。

---

### 結果

メニュー内の「フレーム区切り (Frame Breaks)」の横にチェックが付いている場合はフレーム区切りのガイドが表示され、付いていない場合は非表示になります。

## フレーム区切りの削除

挿入したフレーム区切りを削除できます。

### 前提

フレーム区切りガイドを表示しておきます。

---

### 手順

1. 削除するフレーム区切りのフレーム区切りガイドを選択します。
2. [Backspace] または [Delete] を押します。

## 組段区切り

組段区切りとは、所定の用紙に収まるよう、複数の組段やページに音符や記譜記号を分割する位置のことです。Dorico Pro では、音符が正しくスペーシングされ、判読できるように組段をまたいで楽譜が自動的に配置されますが、組段区切りを手動で制御することもできます。

組段区切りを示すガイドはいつでも表示/非表示にできます。

---

### 補足

- 初期設定では、「組段に変換 (Make into System)」を使用して作成された組段の開始位置にある組段区切りは、プロパティパネルの「形式 (Format)」グループの「次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)」がオンになっています。このプロパティがオンになっている場合、その組段区切りから次の組段区切りまたはフローの終了位置のいずれか早い方までの間にあるすべての音符や記譜記号を含む組段が作成されます。後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されます。たとえば、後続の組段区切りをすべて削除した場合、フローの終わりまでのすべての楽譜が1つの組段にまとめられます。
- 各レイアウトの組段ごとの小節数を固定することによって、組段のコンテンツを制御することもできます。

---

### 関連リンク

[組段あたりの小節数を固定 \(359 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(397 ページ\)](#)

## 組段区切りの挿入

どの位置にでも組段区切りを挿入できます。

---

### 手順

1. 組段区切りを挿入する位置の音符やアイテムを選択します。  
たとえば、音部記号を選択すると、その音部記号が組段の終わりに配置され、音符が次の組段の最初に移動します。

## 2. [Shift]+[S] を押します。

### 結果

最初に選択したアイテムの直前に組段区切りが挿入されます。組段区切り後の記譜記号はすべて次の組段に移動します。

### 補足

2小節リピート領域または4小節リピート領域内のフレーズ中に組段区切りを挿入した場合、Dorico Proは組段区切りを自動的にフレーズの前/後ろに移動しません。つまり、フレーズは組段区切りによって分割されません。

### 関連リンク

[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

## 選択部分を組段に変換

選択した2つの位置の間のすべての音符や記譜記号を含む組段を作成できます。

### 手順

1. 組段を開始する位置のアイテムを選択します。

### 補足

符頭または小節線を選択することをおすすめします。スラーなどのその他のアイテムを選択すると、意図した位置より前または後ろに組段区切りが挿入されることがあります。

2. [Ctrl]/[command] を押しながら以下のいずれかをクリックします。
  - 組段の終了位置にする符頭
  - 次の組段の開始位置にするアイテム
3. 浄書ツールボックスで、「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
4. 「**組段の形式設定 (Format Systems)**」セクションの「**組段に変換 (Make into System)**」をクリックします。



### 結果

選択部分の始めまたは終わりに組段区切りを挿入することで、固定された組段が作成されます。この組段には、選択した2つのアイテムの間のすべての音符や記譜記号が含まれます。

- 小節線やスラーなどのアイテムを選択した場合、選択した最初のアイテムの開始部分が組段の始めに配置され、選択した最後のアイテムの終わりが次の組段の始めに配置されます。
- 符頭を選択した場合、選択した最後の符頭は次の組段の始めに配置されるのではなく、組段に含まれます。
- タイを選択した場合、タイのつながりのどこを選択したかに関係なく、タイでつながれた最初と最後の音符の間にあるすべての音符や記譜記号が組段に含まれます。

### 補足

初期設定では、選択部分の始めに挿入された組段区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」がオンになっています。このプロパティは、次の組段区切りまたはフローの終了位置まですべての楽譜を組段に含めるように Dorico Pro に指示するため、後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されることがあります。

「次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)」をオフにすると、後続の楽譜が通常通りに配置されます。

---

関連リンク  
[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

## 組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え

組段区切りガイドはいつでも表示/非表示にできます。

---

手順

- 「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「組段区切り (System Breaks)」を選択します。
- 

結果

メニュー内の「組段区切り (System Breaks)」の横にチェックが付いている場合は組段区切りのガイドが表示され、付いていない場合は非表示になります。

## 組段区切りの削除

挿入した組段区切りを削除できます。

前提

組段区切りガイドを表示しておきます。

---

手順

1. 削除する組段区切りの組段区切りガイドを選択します。
  2. [Backspace] または [Delete] を押します。
- 

## パート形式のコピー

パート形式のコピーは、ページのレイアウトを決めるレイアウトオプションと組段の形式をコピーし、それらを別のレイアウトに適用します。これにより、似たパートの形式設定を行なう際の時間を短縮できます。

組段の形式設定には、組段区切りとフレーム区切りの位置に加え、音符に必要な水平方向のスペースに影響する音符のスペーシングの変更も含まれます。

Dorico Pro では、レイアウトオプションと組段の形式設定を、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへまとめてコピーしたり、別々にコピーしたりできます。たとえば、コピー元のレイアウトの形式設定が主に「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「配置設定 (Casting Off)」の設定に依存している場合、コピー先のレイアウトで各組段に組段区切りとフレーム区切りを追加することなく必要な形式設定を作成するには、レイアウトオプションだけをコピーすれば十分でしょう。

また、レイアウト固有のプロパティ設定を、楽譜領域で現在開いているレイアウトから、それらのアイテムが表示される他のすべてのレイアウトにコピーすることもできます。

補足

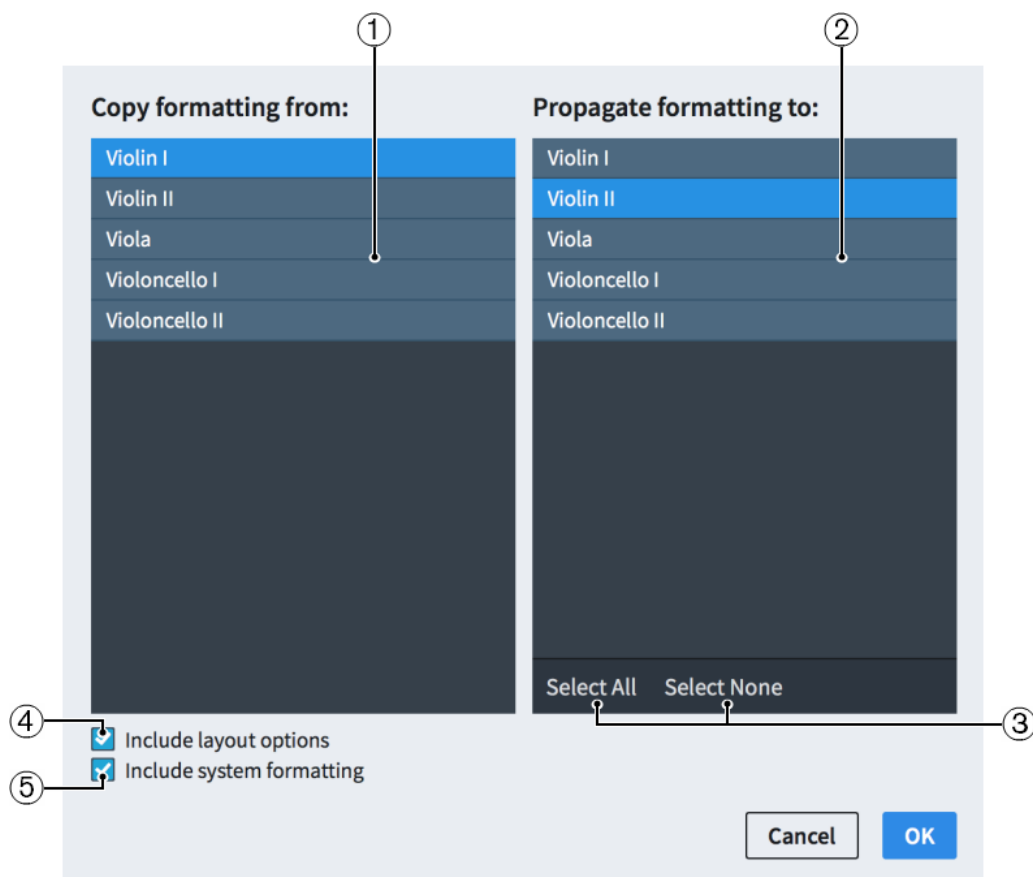
- 予期しない結果を招くことがあるため、複数の楽曲フレームチェーンを持つレイアウトをコピー元またはコピー先のレイアウトとして使用することはおすすめしません。
  - パート形式のコピーには、浄書モードで設定した個々のページへのページの優先は含まれません。
-

## 「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」 ダイアログ

「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」 ダイアログでは、ページの形式設定とレイアウトのオプションを、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。

設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」 ダイアログを開くことができます。

- 「レイアウト (Layouts)」パネルでレイアウトを右クリックして、コンテキストメニューから「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」を選択します。「次の形式設定からコピー (Copy formatting from)」リストには、右クリックしたレイアウトがコピー元のレイアウトとして自動的に選択されます。
- 「設定 (Setup)」 > 「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」を選択します。



「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」 ダイアログ

「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」 ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

- 「次の形式設定からコピー (Copy formatting from)」 リスト**  
プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。コピー元のレイアウトとして選択できるレイアウトは1つのみです。
- 「形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)」 リスト**  
プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。複数のレイアウトをコピー先のレイアウトとして選択できます。
- 選択オプション**  
「形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)」 リストですべてのレイアウトを選択/選択解除できます。
- レイアウトオプションを含める (Include layout options)**

パート形式に関するレイアウトオプションをコピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。これらのオプションには、ページサイズ、ページ余白、デフォルトのマスターページのセット、線間の高さ、垂直方向のスペーシング、音符のスペーシング、配置設定、長休符の設定、譜表ラベルなどが含まれます。

## 5 組段の形式設定を含める (Include system formatting)

組段内の小節、ページ内の組段、および音符のスペーシングの変更の配置を、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。Dorico Pro では、組段区切り、フレーム区切り、音符のスペーシングの変更をコピーし、必要に応じて追加の組段区切りとフレーム区切りを入力し、コピー先のレイアウトに存在する組段区切り、フレーム区切り、音符のスペーシングの変更を削除することでこれを実行します。

## パート形式を別のレイアウトにコピーする

プロジェクトの複数のパートレイアウトに類似の形式設定を行なう時間を節約したい場合など、すべての形式設定をレイアウトからレイアウトへとコピーできます。ページサイズや余白のほか、組段区切りやフレーム区切りといったその他のページの形式設定など、レイアウトオプションを含めることができます。

### 補足

予期しない結果を招くことがあるため、複数の楽曲フレームチェーンを持つレイアウトをコピー元またはコピー先のレイアウトとして使用することはおすすめしません。

### 手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルでパート形式をコピーするレイアウトのカードを右クリックしてコンテキストメニューから「**パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)**」を選択します。
2. 「**パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)**」ダイアログの「**次の形式設定からコピー (Copy formatting from)**」リストで、パート形式をコピーするレイアウトを選択します。デフォルトでは、ダイアログを開く際に右クリックしたカードが選択されています。
3. 「**形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)**」リストで、パート形式のコピー先となるレイアウトを選択します。  
アクションバーで選択オプションを使用できます。また、**[Shift]** を押しながらかlickすると隣接するレイアウトを選択でき、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickすると個々のレイアウトを選択できます。
4. 「**レイアウトオプションを含める (Include layout options)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**組段の形式設定を含める (Include system formatting)**」をオンまたはオフにします。
6. 「**OK**」をクリックすると、選択したレイアウトにパート形式がコピーされ、ダイアログが閉じます。

### 結果

選択したコピー元のレイアウトから選択したコピー先のレイアウトにパート形式がコピーされます。ただし、浄書モードで設定した個々のページへのページの優先はコピーされません。

- 「**レイアウトオプションを含める (Include layout options)**」をオンにすると、コピー元レイアウトからコピー先レイアウトへとレイアウトオプションがコピーされます。
- 「**組段の形式設定を含める (Include system formatting)**」をオンにすると、組段内の小節、ページ内の組段、および音符のスペーシングの変更の配置が、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーされます。

### ヒント

コピー元のレイアウトの形式設定が主に「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**配置設定 (Casting Off)**」の設定に依存している場合、コピー先のレイアウトで各組段

に組段区切りとフレーム区切りを追加することなく非常によく似た形式設定を作成するには、「**レイアウトオプションを含める (Include layout options)**」だけをオンにすれば十分でしょう。

---

## プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする

プロパティの多くはレイアウト固有です。つまり、初期設定では、楽譜領域で現在開いているレイアウトにのみ影響します。音符とアイテムに設定されたプロパティを、それらが表示される他のすべてのレイアウトにコピーできます。たとえば、フルスコアレイアウトで段階的強弱記号のスタイルを変更したあと、同じスタイルを持つ段階的強弱記号をパートレイアウトに表示できます。

---

### 手順

1. 別のレイアウトにプロパティをコピーする音符またはアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

コピーされるプロパティは現在のモードによって決まります。たとえば記譜モードの場合、記譜モードで使用できるプロパティだけがコピーされます。

---

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**レイアウトをコピー (Propagate Properties)**」を選択します。
- 

### 結果

選択した音符/アイテムに設定された、現在のモードで使用できるすべてのプロパティが、それらの音符/アイテムが表示されるすべてのレイアウトにコピーされます。たとえば、記譜モードでスラーを選択した場合、譜表に対する位置とデザインの設定がコピーされます。浄書モードでスラーを選択した場合は、スラーの終了位置と制御ポイントの位置もコピーされます。

### 関連リンク

- [大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)
- [アイテムの外観のリセット \(283 ページ\)](#)
- [アイテムの位置をリセットする \(284 ページ\)](#)

## テキストの形式設定

Dorico Pro には、テキストの外観に関するさまざまな設定があり、フォントやテキストの形式設定を、それぞれの機能に応じて異なる場所で行なえます。

たとえば、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログでプロジェクト内のすべてのテキストに使用するフォントファミリーを変更し、そのあと「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでそのフォントをいつタイトルに使用するかを個々に変更できます。

パラグラフスタイルは、テキストフレーム全体または1つのテキストオブジェクト内のすべてのテキストに適用されます。文字スタイルは個々の選択部分に適用されます。つまり、同じテキストフレーム内の各単語に異なる文字スタイルを適用できます。

フォントスタイルは、テンポ記号や強弱記号のように、テキストフレームやテキストオブジェクトとは異なる、テキストを使用するアイテムに適用されます。

### 関連リンク

- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)
- [「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(373 ページ\)](#)
- [浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

## 「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」 ダイアログ

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログでは、リハーサルマークのフォントサイズなど、テキストエディターで編集できないアイテムに使用されている特定のフォントの設定を変更できます。

- 「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」>「フォントスタイル (Font Styles)」を選択すると開きます。

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログには、テキストエディターで編集できるテキストフレーム内のテキストとは異なり、楽譜領域で直接編集できない Dorico Pro 内のフォントが含まれています。

Font style: Rehearsal Mark Font

Font family: Academico

Size: 14.0 pt Staff-relative Absolute

Style: Bold

Underlined

Cancel OK

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」 ダイアログ

### フォントスタイル (Font style)

フォントの外観を変更するためのさまざまなフォントスタイルを選択できます。同じセッションですでに「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開いた場合は、そのときに選択したフォントスタイルが保持されています。

### フォントファミリー (Font family)

フォントスタイル全体を設定します。

### サイズ (Size)

フォントのサイズを設定します。

### 譜表との相対値/絶対値 (Staff-relative/Absolute)

レイアウトの譜表サイズに応じてフォントサイズを変更するか、設定したサイズを常に維持するかを選択できます。

### スタイル (Style)

以下のオプションから、フォントの外観を設定します。

- 「Regular」
- 「Italic」
- 「Bold」
- 「Bold Italic」



### 下線 (Underlined)

「**下線 (Underlined)**」に対応するチェックボックスを両方オンにすると、フォントに下線が表示されます。

#### 補足

- これらのオプションを変更するには、まずそのオプションをオンにする必要があります。
- フォントスタイルへの変更は、パートレイアウトを含むプロジェクト全体に適用されます。
- 特定のフォントスタイルが見つからない場合は、パラグラフスタイルである可能性があります。

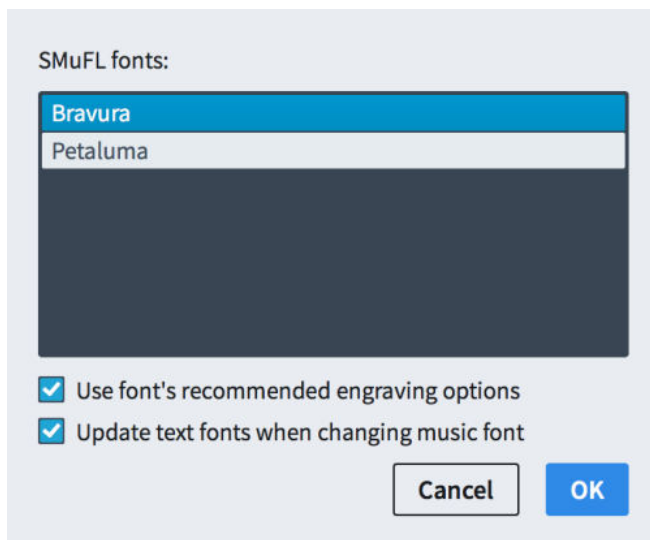
#### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

## 音楽フォントダイアログ

音楽フォントダイアログでは、プロジェクト全体で記譜記号やグリフに使用するフォントを変更できます。記譜記号やグリフに使用するフォントは SMuFL 準拠である必要があります。

- **音楽フォントダイアログ**は、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**音楽フォント (Music Fonts)**」を選択すると開きます。



#### 音楽フォントダイアログ

このダイアログには、Dorico Pro が認識できる適切なメタデータを持ち、コンピューターにインストールされているすべての SMuFL フォントが含まれています。初期設定では、Dorico Pro には以下の SMuFL 準拠フォントが用意されています。

- **Bravura**  
伝統的なクラシック音楽の浄書に着想を得た、デフォルトの音楽フォントです。
- **Petaluma**  
ジャズ音楽に使用される伝統的なスタイルに似た、手書きの音楽フォントスタイルです。

音楽フォントダイアログで音楽フォントを変更すると、音部記号、強弱記号、連符の数や比率を示す数字など、テキスト以外の記譜記号、グリフ、およびその他のアイテムに使用されるフォントが変更されます。

#### ヒント

これらのアイテムに使用されるフォントを個別に変更するには、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで「**デフォルトのテキスト用フォント (Default Text Font)**」を変更し、「**パラグ**

**ラフスタイル (Paragraph Styles)** ダイアログで「**デフォルトのテキスト (Default Text)**」のパラグラフスタイルを変更します。

---

音楽フォントダイアログには以下のオプションもあります。

**フォントのおすすめの浄書オプションを使用 (Use font's recommended engraving options)**  
フォントにデフォルトで付属する設定を読み込むことができます。

**音楽フォントを変更するときはテキストフォントを更新 (Update text fonts when changing music font)**

音楽フォントを変更する際にテキストフォントを含めるか除外するかを指定できます。たとえば、このオプションをオフにすると、フローのタイトルや譜表ラベルの外観に影響を与えることなく音符や記譜記号の外観を変更できます。

- Bravura 音楽フォントに対応するテキストフォントは Academico です。
- Petaluma 音楽フォントに対応するテキストフォントは Petaluma Script です。

#### 補足

音部変更記号や太字でない連符の数や比率を示す数字など、SMuFL フォントでオプションとして設定されている特定のアイテムは影響を受けません。

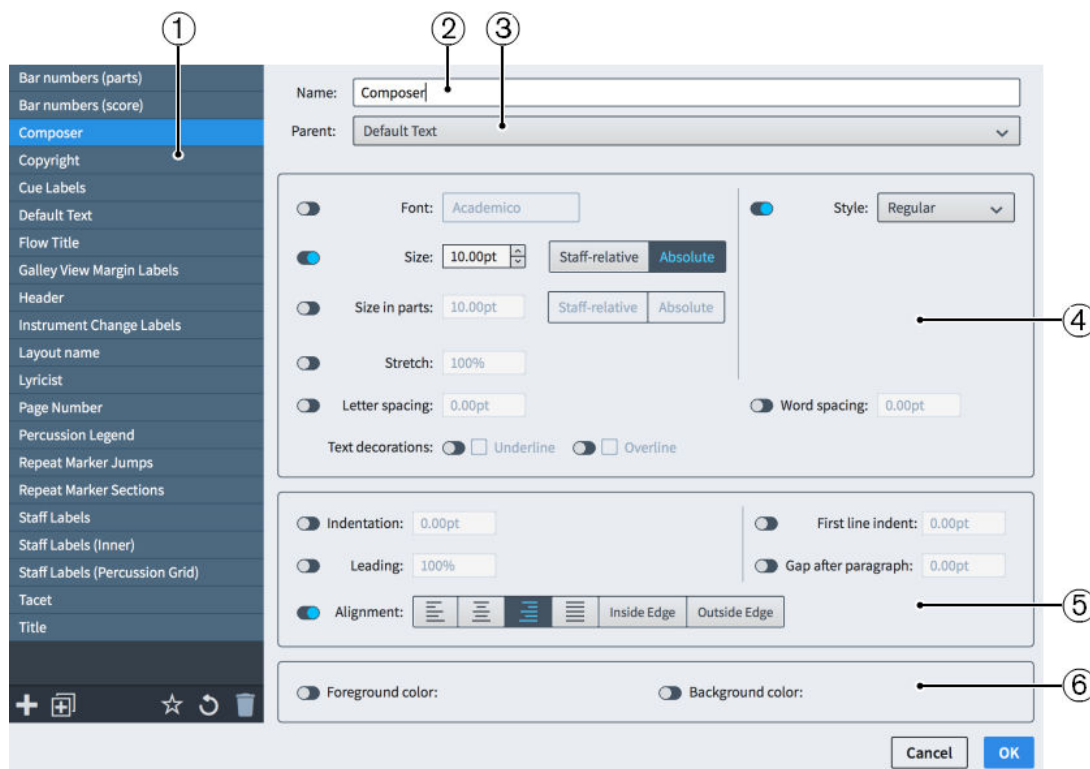
---

## 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログ

「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでは、テキストのパラグラフスタイルを変更したり、新しいスタイルを作成したりできます。そのあと、テキストエディターでその文字スタイルを選択することで、プロジェクト内の別の場所でさまざまなパラグラフスタイルを使用できます。

たとえば、レイアウト名のパラグラフスタイルをカスタマイズし、そのあとレイアウト名を表示するすべてのテキストフレームにそのレイアウト名のパラグラフスタイルを適用できます。これにより、さまざまなタイプの表示をプロジェクト全体で統一できます。

- 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択すると開きます。



「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」 ダイアログ

「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

## 1 パラグラフスタイルリスト

プロジェクト内のすべてのパラグラフスタイルが表示されます。テキストアイテムを選択した状態でダイアログを開くと、選択している最初のアイテムのパラグラフスタイルがパラグラフスタイルリストでデフォルトで選択されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)**



デフォルト値を持つ新しいパラグラフスタイルを作成できます。

- **選択部分から新規作成 (New from Selection)**



選択したパラグラフスタイルをもとに新しいスタイルを作成します。どの値も最初はもとのままですが、新しいスタイル用にオプションを変更できます。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default)**



選択したスタイルをライブラリーにコピーし、別のプロジェクトで使用できるようにします。

- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)**



選択したパラグラフスタイルについて、あらかじめ定義されたパラグラフスタイルへのすべての変更を削除し、工場出荷時の設定に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択したスタイルを削除します。

#### 補足

あらかじめ定義されたパラグラフスタイルや、プロジェクト内で現在使用されているパラグラフスタイルは削除できません。

#### 2 名前 (Name)

新しいパラグラフスタイルの名前を入力したり、既存のパラグラフスタイルの名前を編集したりできます。

#### 3 元 (Parent)

選択したパラグラフスタイルに設定を引き継ぐ元のパラグラフスタイルを選択できます。

#### 4 フォントの外観オプション

フォントの変更、太字の設定、フォントサイズの変更、文字や単語のスペーシングの変更など、パラグラフスタイルフォントの外観のパラメーターを変更できます。また、パラグラフスタイル内のフォントに下線や取り消し線を付けることもできます。

#### 5 パラグラフのレイアウトオプション

各パラグラフの1行めのインデントの設定やテキストの配置の変更など、パラグラフスタイルのレイアウトを変更できます。

#### 6 カラーオプション

パラグラフスタイルの文字色や背景色を変更できます。

## パラグラフスタイルの作成

複数のテキストフレームでテキストに一貫した形式設定を行なう場合など、プロジェクトで使用できる新しいパラグラフスタイルを作成できます。既存のパラグラフスタイルをベースに新しいパラグラフスタイルを作成することもできます。

#### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択して、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいパラグラフスタイルを作成します。
  - まったく新しいパラグラフスタイルを作成する場合は、「**新規 (New)**」をクリックします。
  - 既存のパラグラフスタイルをベースにして新しいものを作成する場合は、パラグラフスタイルリストから既存のものを選択し、「**選択から新規作成 (New From Selection)**」をクリックします。
3. 「**名前 (Name)**」フィールドにスタイルの名前を入力します。
4. 必要に応じて、「**元 (Parent)**」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。

#### 補足

元スタイルを選択した場合、すべてのオプションの設定が自動的に引き継がれた状態で、スライダーはオフになります。パラグラフスタイルのスライダーがオンになっており元スタイルより優先されている場合は、スライダーをオフにすることで元スタイルの設定にリセットできます。

5. 必要に応じて、オプションをオンにして変更します。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## テキストスタイルのデフォルトの水平方向の配置を変更する

さまざまなテキストタイプに使用されるパラグラフスタイルのデフォルトの水平方向の配置を変更できます。これにより、対応するテキストスタイルの水平方向の配置がプロジェクト全体で変更されません。

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択して、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログを開きます。
2. パラグラフスタイルリストで、デフォルトの配置を変更するテキストスタイルを選択します。
3. 希望する「**配置 (Alignment)**」オプションを選択します。
4. 必要に応じて、水平方向の配置を変更するその他のパラグラフスタイルに手順2と3を繰り返します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

選択したテキストスタイルのデフォルトの配置が変更されます。

### ヒント

テキストの水平方向の配置は、個々のテキストフレームで上書きもできます。

### 関連リンク

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(342 ページ\)](#)

## パラグラフスタイルの削除

作成したパラグラフスタイルを削除できます。ただし、デフォルトのパラグラフスタイルは削除できません。

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択して、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログを開きます。
2. パラグラフスタイルリストで、削除するスタイルを選択します。

### 補足

デフォルトのパラグラフスタイルは削除できません。

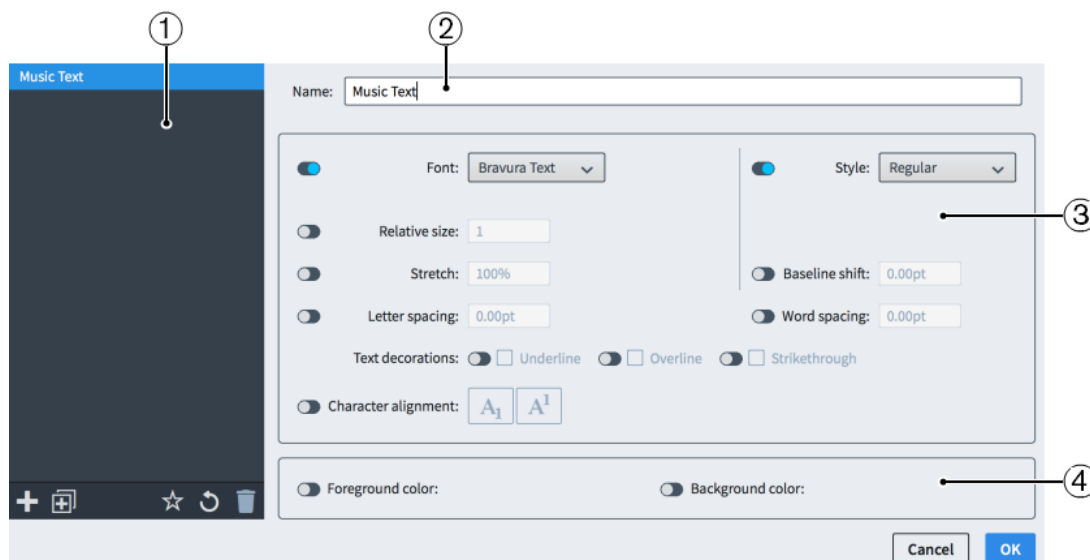
3. 「**削除 (Delete)**」をクリックします。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## 「文字スタイル (Character Styles)」ダイアログ

「**文字スタイル (Character Styles)**」ダイアログでは、文字スタイルを変更したり新しいスタイルを作成したりできます。そのあと、テキストエディターでその文字スタイルを選択することで、プロジェクト内のさまざまな場所にある個々の文字や単語にそのスタイルを適用できます。

たとえば、特定の単語の文字間のスペーシングを広げたカスタム文字スタイルを作成したあと、選択した単語にその文字スタイルを適用できます。パラグラフスタイルとは異なり、文字スタイルはテキストフレームやテキストオブジェクト全体に適用する必要はありません。

- 「**文字スタイル (Character Styles)**」ダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**文字スタイル (Character Styles)**」を選択すると開きます。



「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログ

「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

## 1 文字スタイルリスト

プロジェクト内のすべての文字スタイルが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)**



デフォルト値を持つ新しい文字スタイルを作成できます。

- **選択部分から新規作成 (New from Selection)**



選択した文字スタイルをもとに新しいスタイルを作成します。どの値も最初はもとのままですが、新しいスタイル用にオプションを変更できます。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default)**



選択したスタイルをライブラリーにコピーし、別のプロジェクトで使用できるようにします。

- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)**



選択した文字スタイルについて、あらかじめ定義された文字スタイルへのすべての変更を削除し、工場出荷時の設定に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択したスタイルを削除します。

### 補足

あらかじめ定義された文字スタイルや、プロジェクト内で現在使用されている文字スタイルは削除できません。

## 2 名前 (Name)

新しい文字スタイルの名前を入力したり、既存のパラグラフスタイルの名前を編集したりできます。

### 3 文字スタイルオプション

フォントの変更、太字の設定、フォントサイズの変更、文字や単語のスペーシングの変更など、文字スタイルのパラメーターを変更できます。また、パラグラフスタイル内のフォントに下線や取り消し線を付けたり、文字の垂直方向の配置を変更したりもできます。

### 4 カラーオプション

文字スタイルの文字色や背景色を変更できます。

## 文字スタイルの作成

まったく新しい文字スタイルを作成するか、既存の文字スタイルをベースにして新しい文字スタイルを作成できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**文字スタイル (Character Styles)**」を選択して、「**文字スタイル (Character Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しい文字スタイルを作成します。
  - まったく新しい文字スタイルを作成する場合は、「**新規 (New)**」をクリックします。
  - 既存の文字スタイルをベースにして新しいものを作成する場合は、文字スタイルリストから既存のものを選択し、「**選択から新規作成 (New From Selection)**」をクリックします。
3. 「**名前 (Name)**」フィールドにスタイルの名前を入力します。
4. 必要に応じて、オプションをオンにして変更します。

### 重要

オンにしたオプションだけがテキストに反映されます。オプションをオフにすると、設定がリセットされます。

5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

## 文字スタイルの削除

文字スタイルを削除できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**文字スタイル (Character Styles)**」を選択して、「**文字スタイル (Character Styles)**」ダイアログを開きます。
  2. 文字スタイルリストで削除するスタイルを選択します。
  3. 「**削除 (Delete)**」をクリックします。
  4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

## テキストオブジェクトとテキストフレーム内のテキスト

Dorico Pro のテキストは、個々の譜表に追加されるか組段テキストとして追加されるテキストオブジェクトか、楽譜ではなくページに固定されるテキストフレーム内のテキストになります。

いずれのタイプのテキストも同じ方法で編集できますが、テキストトークンはテキストフレームでのみ使用できます。譜表または組段に追加されたテキストではトークンを使用できません。

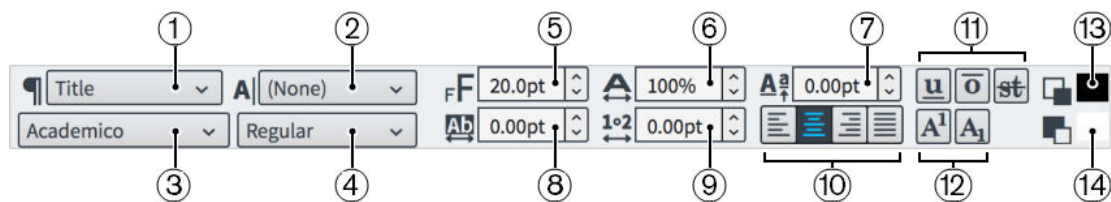
### 関連リンク

[テキストトークン \(335 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

## 浄書モードのテキストエディターオプション

テキストエディターを使用すると、テキストの追加や形式設定を行なえます。テキストエディターは、浄書モードでテキストフレームにテキストを入力するかテキストフレームのテキストを編集すると開きます。



浄書モードのテキストエディター

テキストエディターには以下のオプションがあります。

- 1 パラグラフスタイル (Paragraph Style)**

パラグラフ全体に適用されるパラグラフスタイルを変更できます。これによって、テキストの外観、書式、および配置が変わります。  
譜表テキストと組段テキストは常に単一のパラグラフとして扱われます。
- 2 文字スタイル (Character Style)**

パラグラフ内の選択したテキストの外観を変更できます。該当のパラグラフに適用されているパラグラフスタイルより優先されます。
- 3 フォント (Font)**

選択したテキストのフォントファミリーを変更できます。
- 4 フォントスタイル (Font Style)**

選択したテキストのフォントスタイルを変更できます。
- 5 フォントサイズ (Font Size)**

選択したテキストのサイズを変更できます。
- 6 フォント幅 (Font Stretch)**

選択したテキストの幅を広げたり狭めたりできます。
- 7 ベースラインの移動 (Baseline Shift)**

選択したテキストのベースラインを上下に少しずつ移動できます。
- 8 文字のスペーシング (Letter Spacing)**

選択したテキストの文字間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。
- 9 単語のスペーシング (Word Spacing)**

選択したテキストの単語間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。
- 10 配置 (Alignment)**

スコア内の位置に対する選択したテキストの配置を選択できます。テキストフレーム内のテキストの場合、テキストフレームの左余白に揃います。  
以下の配置から選択できます。

  - 左揃え (Align Left)
  - 中央揃え (Align Center)
  - 右揃え (Align Right)
  - 両端揃え (Justify)
- 11 線のタイプ**

選択したテキストに、以下のタイプの線を組み合わせて付けられます。

  - 下線 (Underline)
  - 上線 (Overline)



- **取り消し線 (Strikethrough)**
- 12 **上付き/下付き**  
選択したテキストを、ベースラインに対して以下のいずれかの位置に配置できます。
- **上付き (Superscript)**
  - **下付き (Subscript)**
- 13 **文字色 (Foreground Color)**  
選択したテキストの色を変更できます。
- 14 **背景色 (Background Color)**  
選択したテキストの背景色を変更できます。

関連リンク

[テキストの入力 \(268 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(340 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(373 ページ\)](#)

## テキストのパラグラフスタイルの変更

マスターページも含め、譜表に追加されたテキストおよび個々のテキストフレーム内のテキストに適用されるパラグラフスタイルを変更できます。これは、たとえば、フルスコアレイアウトのページ番号とパートレイアウトのページ番号に異なるパラグラフスタイルを使用したい場合などで役立ちます。

前提

デフォルトで用意されているものとは異なるパラグラフスタイルを使用する場合は、新しいパラグラフスタイルを作成しておきます。

---

手順

1. マスターページのテキストのパラグラフスタイルを変更する場合は、マスターページエディターを開きます。
2. パラグラフスタイルを変更するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
3. パラグラフスタイルを変更するテキストを選択します。

ヒント

同じテキストフレーム内の個々のパラグラフに異なるパラグラフスタイルを適用できます。

4. テキストエディターのパラグラフスタイルメニューからパラグラフスタイルを選択します。
  5. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。
- 

結果

選択したパラグラフのパラグラフスタイルが変更されます。たとえば、単語を 1 つ選択した場合、その単語を含むパラグラフ全体が変更されます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[パラグラフスタイルの作成 \(372 ページ\)](#)

## パラグラフスタイルの上書き

テキストフレーム内のテキストのパラグラフスタイルのサイズは変更せずにテキストのサイズだけを変更するなど、個々のページのテキストフレーム内のテキストのパラグラフスタイルを上書きした場

合、あとからそのパラグラフスタイルに対して行なう変更は、上書きされたテキストには適用されません。

変更をリセットして、個々のページをマスターページの形式に戻すことができます。ただし、これらのページに加えた変更はすべて削除されます。

#### 補足

マスターページのテキストフレーム内のテキストへの変更はリセットできません。

---

#### 関連リンク

[ページの優先の解除 \(312 ページ\)](#)

## テキストオブジェクトの表示位置の移動

浄書モードでは、記譜モードで入力したテキストオブジェクトの表示位置を、適用されるリズム上の位置を変えることなく移動できます。譜表テキストと組段テキスト (組段テキストの個々のインスタンスも含む) はどちらも、別の譜表位置に表示されるその他のインスタントと関係なく個別に移動できます。

#### 補足

この操作はテキストフレームのテキストには適用されません。

---

#### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 移動するテキストオブジェクトを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、テキストオブジェクトを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

#### 結果

選択したテキストオブジェクトが新しい位置に移動します。

#### ヒント

テキストオブジェクトを移動すると、プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」を指定すると、オブジェクトが水平方向に移動します。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」を指定すると、オブジェクトが垂直方向に移動します。

このプロパティの数値フィールドの値を変更することでも、テキストオブジェクトを移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したアイテムがデフォルト位置にリセットされます。

---

関連リンク

[浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

[フレームの移動 \(326 ページ\)](#)

## 譜表に対するテキストオブジェクトの位置の変更

テキストオブジェクトは譜表の上または下に表示できます。テキストは他のオブジェクトと衝突しないように自動的に配置されます。

### 補足

この操作はテキストフレームのテキストには適用されません。

---

### 前提

テキストエディターを閉じておきます。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更するテキストオブジェクトを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**位置 (Position)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Above)**
    - **下 (Below)**
- 

### 結果

選択したテキストオブジェクトが譜表の上または下に表示されます。

### 手順終了後の項目

テキストオブジェクトの表示位置を変更する必要がある場合は、浄書モードでテキストオブジェクトを手動でドラッグできます。

関連リンク

[テキストオブジェクトの表示位置の移動 \(378 ページ\)](#)

## テキストの衝突回避の有効化/無効化

衝突を回避するために個々のテキストオブジェクトを自動的に動かすかどうかを、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。衝突回避がオフになったテキストオブジェクトは、譜表のスペーシングの自動計算の対象になりません。

### 補足

この操作はテキストフレームのテキストには適用されません。

---

### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化/無効化するテキストオブジェクトを選択します。
  2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**衝突を回避 (Avoid collisions)**」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-

#### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したテキストオブジェクトは衝突を回避し、オフにすると回避しません。

このプロパティをオフにすると、テキストオブジェクトはテキストの衝突回避に対するプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストオブジェクトに対するテキストの衝突回避は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで有効化/無効化できます。

---

## テキストオブジェクトへの枠線の追加

テキストオブジェクトの境界を明確にしたい場合など、テキストオブジェクトや組段テキストオブジェクトに枠線を個別に追加できます。

---

#### 手順

1. 枠線を追加するテキストオブジェクトを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**枠線 (Border)**」をオンにします。
- 

#### 結果

選択したテキストオブジェクトに枠線が追加されます。

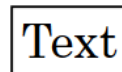
#### ヒント

- テキストオブジェクトは、背景を消して枠線を表示できます。
  - 「**枠線 (Border)**」をオフにすると、選択したテキストオブジェクトから枠線が削除されます。
- 

#### 例

Text

枠線のないテキスト



枠線が表示されたテキスト

---

#### 手順終了後の項目

テキストオブジェクトと枠線の各辺の間の余白を変更できます。

## テキストオブジェクトの枠線の太さを変更する

個々のテキストオブジェクトの枠線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できません。

#### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、枠線の太さを変更するテキストオブジェクトを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**境界線の太さ (Border thickness)**」をオンにします。

### 3. 数値フィールドの値を変更します。

---

#### 結果

選択したテキストオブジェクトを囲む枠線の太さを変更されます。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストオブジェクトのデフォルトの境界線の太さは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できません。

---

#### 関連リンク

[テキストフレームの枠線の太さを変更する \(341 ページ\)](#)

## テキストオブジェクトの周囲の余白の変更

テキストオブジェクトの周囲の余白を個別に変更できます。また、テキストと各辺との間の余白を個別に変更することもできます。これは、テキストと塗りつぶした背景および枠線との間の距離に影響します。

#### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、余白を変更するテキストオブジェクトを選択します。
  2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**塗りつぶしの余白 (Erasure padding)**」のプロパティを片方または両方ともオンにします。
    - 「**左 (L)**」を指定すると、テキストオブジェクトと左の辺の間の余白が変更されます。
    - 「**右 (R)**」を指定すると、テキストオブジェクトと右の辺の間の余白が変更されます。
    - 「**上 (T)**」を指定すると、テキストオブジェクトと上の辺の間の余白が変更されます。
    - 「**下 (B)**」を指定すると、テキストオブジェクトと下の辺の間の余白が変更されます。
  3. 余白を変更する辺の数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

値を大きくすると余白が広くなり、値を小さくすると余白が狭くなります。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストのデフォルトの余白は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

---

## テキストオブジェクトの背景の塗りつぶし

たとえば、小節線と重なったテキストを読みやすくするために、テキストオブジェクトや組段テキストオブジェクトの背景を個別に塗りつぶしできます。

#### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶすテキストオブジェクトを選択します。

- プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。

#### 結果

背景に何があるかに関係なく、選択したテキストオブジェクトの背景が塗りつぶされます。

#### ヒント

- テキストオブジェクトは、背景を消して枠線を表示できます。
- 「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択したテキストオブジェクトは背景が塗りつぶされていないデフォルトの状態に戻ります。

#### 例



背景が塗りつぶされていないテキスト



背景が塗りつぶされたテキスト

#### 手順終了後の項目

テキストオブジェクトと塗りつぶされる領域の各辺の間の余白を変更できます。

## 音楽記号

Dorico Pro における音楽記号とは、符尾の符鉤、音部記号、アーティキュレーション、長休符や拍子記号に用いられる太字の数字など、記譜に用いられるさまざまな要素を指す幅広い用語です。

Dorico Pro では、音楽記号によっては専用のエディターダイアログがあり、それらの記号のカスタムバージョンを作成したり編集したりできます。それ以外のすべて音楽記号は、「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでプロジェクト全体の外観を編集できます。

#### 関連リンク

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(685 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

[「符頭を編集 \(Edit Notehead\)」ダイアログ \(726 ページ\)](#)

[「演奏技法の外観を編集 \(Edit Playing Technique\)」ダイアログ \(806 ページ\)](#)

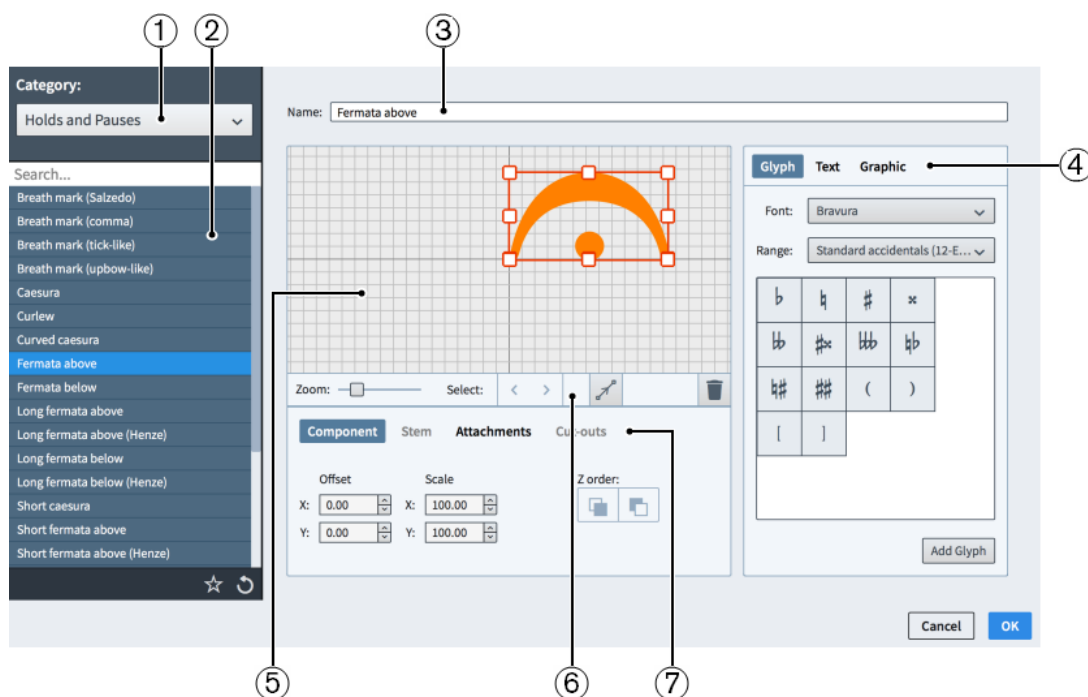
## 「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログ

「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでは、コード記号、臨時記号、符頭、演奏技法のような専用エディターのない Dorico Pro で使用されるさまざまな音楽記号の外観を編集できます。

- 「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「音楽記号 (Music Symbols)」を選択すると開きます。

#### 補足

「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでは、既存の音楽記号のみ編集でき、新しい音楽記号は作成できません。



「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」 ダイアログ

「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューからカテゴリーを選択することで、音楽記号のリストをフィルタリングできます。

2 音楽記号リスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての音楽記号が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- デフォルトとして保存 (Save as Default)



現在選択している音楽記号を、現在の状態で以後のすべてのプロジェクトのデフォルトとして保存します。

- 出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)



選択中の音楽記号に加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。

3 名前 (Name)

選択した音楽記号のデフォルト名が表示されます。

4 構成要素セレクター

音楽記号に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「グリフを追加 (Add Glyph)」をクリックして、選択したグリフを音楽記号に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「プリセットテキスト (Preset text)」リストから使用するか、メニューからフォン

トを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを音楽記号に追加します。

- **グラフィック (Graphic)**: SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを音楽記号に追加します。

## 5 エディター

音楽記号を形作る要素の配置と編集を行いません。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

## 6 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom)**  
エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select)**  
次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)**



エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。

- **削除 (Delete)**



選択した要素を削除します。

## 7 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。音楽記号で利用できるタブは「**要素 (Component)**」と「**アタッチメント (Attachments)**」だけです。これ以外のタブはダイアログ内の記号には当てはまらないためです。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset)**: 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale)**: 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

### 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **前後の順序 (Z order)**: 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

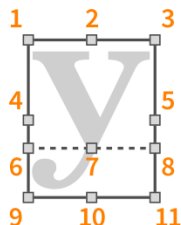
「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、音楽記号が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。



- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントかを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには 8 つ、テキストには 11 の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)**」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

## 音符のスペーシング

音符や休符の位置は互いに関連付けられており、それらの間の自動間隔を音符のスペーシングと呼びます。

プロジェクトの音符のスペーシングをさまざまなレベルで変更できます。

- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で、各レイアウトのデフォルトの音符のスペーシングをプロジェクト全体で変更します。
- 個々のレイアウトに含まれる個々のフレームチェーン内の指定したポイントから音符のスペーシングを変更します。
- 個々の位置にある音符のスペーシングおよび個々の音符のスペーシングを変更します。

### プロジェクト全体で音符のスペーシングを変更

「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」ページで、各レイアウトのデフォルトの音符のスペーシングの値を個別に変更できます。

使用できるオプションには、4分音符のデフォルトのスペースの変更や、装飾音符とキューのスペースの比率の変更などがあります。また、最後の組段が全体の何 % を超えたら両端揃えを適用するかも変更できます。

### レイアウト内の特定のポイントから音符のスペーシングを変更

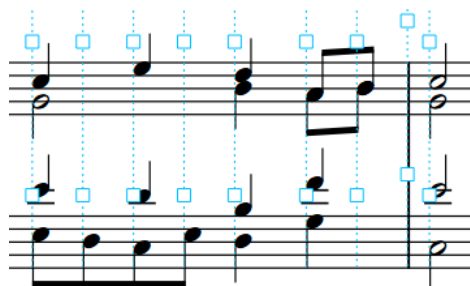
浄書モードでは、「**音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)**」ダイアログを開いて、音符のスペーシングや倍率に影響する値を変更したりリセットしたりできます。

「**音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)**」ダイアログで行なった変更は、選択したレイアウトと、音符のスペーシングを変更したときに選択していたアイテムを含むフレームチェーンにのみ適用されます。ダイアログ内のプレビューは、値を変更するとリアルタイムで更新されます。

「**音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)**」ダイアログを使用して音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

## 個々の位置にある音符のスペーシングおよび個々の音符のスペーシング

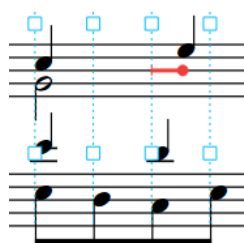
浄書ツールボックスで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにすると、個々のスペーシングを調節したり、個々の音符の表示位置を動かしたりできます。「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにすると、スペーシングコラムを表わす破線とスペーシング用の各アイテムのハンドルが表示されます。



「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオン時に、ハンドルと破線が表示される例

音符、装飾音符、休符、音部記号、調号、拍子記号などの重要なアイテムの位置は、音符のスペーシング用の四角いハンドルを使用して調節できます。音符のスペーシングのハンドルを使用すると、選択した位置のスペーシングを調節できます。この操作では、その位置にあるすべてのアイテムの位置が変更されます。

アイテム (符頭など) の上にある音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択すると、丸いハンドルが表示されます。丸いハンドルでは、アイテムの位置に関係なく個々のアイテムの表示位置を調節できます。



また、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにすると、各組段の始めと終わりに大きな四角形の組段ハンドルが表示され、個々の組段の始めと終わりの水平方向の位置を調節できます。組段ハンドルは各組段の左上角と右下角にあります。

音符のスペーシングのハンドルを動かすと、ハンドルの色が変わります。

### 補足

「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオンになっているときは、現在のレイアウトでアイテムの選択やその他の編集を行なえません。通常の実行や編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックするか記譜モードに戻ります。

### 関連リンク

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(387 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(394 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」 ダイアログ \(93 ページ\)](#)  
[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」 ダイアログ \(390 ページ\)](#)  
[音符のスペーシングの変更を個別に削除する \(395 ページ\)](#)

## 組段密度表示

組段密度表示は、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」が有効なとき、ページの右余白に表示されるハイライトがかかった領域です。組段密度表示は、色とパーセンテージで組段の密度を示します。

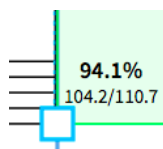
組段密度表示には、以下の色が使われます。

- 緑: 組段の密度が適切。音符には判読に十分な水平方向のスペースがあり、離れ過ぎていません。幅全体に占める割合が 60 ~ 100% の組段は密度が適切であると見なされます。
- 紫: 組段の密度が低い。音符の間隔が広くなりすぎている可能性があります。幅全体に占める割合が 60% 未満の組段は密度が低いと見なされます。
- 赤: 組段の密度が高い。音符の間に十分な水平方向のスペースがなく、音符が詰まり過ぎている可能性があります。幅全体に占める割合が 100% 超の組段は密度が高いと見なされます。

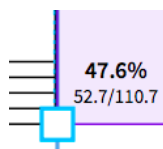
組段の密度はパーセンテージでも表示されます。表示されるパーセンテージは、組段内で使用されているスペースの数を、組段内で使用できるスペースの総数で割って計算されます。スペースの総数は、最初の音部記号/拍子記号/調号の右側のスペースの開始位置から組段の終止線までの間で測定されます。

組段密度表示の色とパーセンテージは、どちらも組段の音符のスペーシングを調節するとリアルタイムで更新されます。

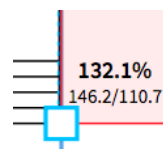
組段の密度が適切



組段の密度が低い



組段の密度が高い



関連リンク

[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

## デフォルトの音符のスペーシングを変更する

デフォルトの音符のスペーシングをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの音符のスペーシングをパートレイアウトよりも狭くできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 音符のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。
4. オプションの値を任意に変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 結果

選択したレイアウトに対するデフォルトの音符のスペーシングがプロジェクト全体で変更されます。

## 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」の「音符のスペーシング \(Note Spacing\)」ページ \(388 ページ\)](#)

## 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページ

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページでは、プロジェクト全体のノートのスペーシングのデフォルト値をレイアウトごとに個別に変更できます。また、フローの最後の組段が全体の何 % を超えたら自動的に両端揃えを適用するかも変更できます。

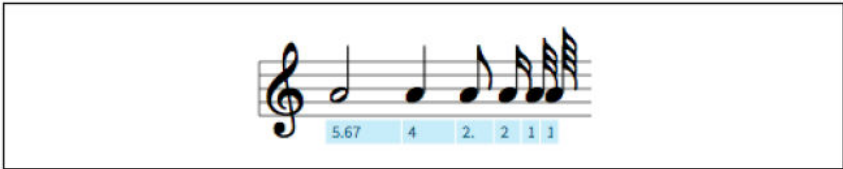
- 「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページを開くには、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択し、ページリストで「音符のスペーシング (Note Spacing)」をクリックします。

### Note Spacing

Default space for crotchet/quarter note:  spaces

Minimum space for short notes:  spaces

Use custom spacing ratio:



Scale space for grace notes by  %

Scale space for cue notes by  %

Only justify final system in flow when more than  % full

Use optical spacing for beams between staves

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページのオプション

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」には以下のオプションがあります。

### 4分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)

4分音符のデフォルトのスペーシングを設定します。他のデュレーションのスペーシングは比率に合わせて調整されます。値を増やすと音符のスペーシングが広がり、減らすと音符のスペーシングが狭まります。値を変更するとプレビューに反映されます。

### 短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)

デュレーションが短い音符のスペーシングの最小値を設定します。この値はデフォルトのスペーシングの値とは独立して設定できます。

### スペーシングの比率を指定 (Use custom spacing ratio)

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「スペーシングの比率を指定 (Use custom spacing ratio)」を「2」に設定すると、2分音

符のスペーシングは 4 分音符の 2 倍、8 分音符のスペーシングは 4 分音符の半分になります。

#### 装飾音符のスペーシング (Scale space for grace notes by)

装飾音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100% を超える値は設定できません。値を増やすと装飾音符のスペーシングが広がり、値を減らすと装飾音符のスペーシングが狭まります。

#### キュー音符のスペーシング (Scale space for cue notes by)

キュー音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100% を超える値は設定できません。値を増やすとキュー音符のスペーシングが広がり、値を減らすとキュー音符のスペーシングが狭まります。

#### フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)

各フローの最後の組段が全体の何 % を超えたらフレームの幅に合わせて両端揃えを適用するかを変更できます。初期設定では、最後の組段が全体の 50% 以下の場合は両端揃えが適用されません。

#### 2 つの譜表間の連桁にオプティカルスペーシングを使用 (Use optical spacing for beams between staves)

オンにすると、譜表をまたぐ連桁の符尾の間隔が均一になります。この場合、符頭の間隔は均一にならないことがあります。オフにすると、譜表をまたぐ連桁の符頭の間隔が均一になります。この場合、符尾の間隔は均一にならないことがあります。

#### 関連リンク

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(387 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁にオプティカルスペーシングを使用する \(552 ページ\)](#)

## 特定のポイントから音符のスペーシングを変更する

楽譜領域で現在開いているレイアウトの特定のポイントから先の音符のスペーシングの値 (装飾音符とキューの倍率など) を変更できます。

---

#### 手順

1. 楽譜領域で、音符のスペーシングを変更するレイアウトを開きます。
  2. 音符のスペーシングの変更を適用するフレームチェーン内の、変更を開始する位置のアイテムを選択します。
  3. 「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングを変更 (Note Spacing Change)」を選択して「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開きます。
  4. 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログで、変更したい音符のスペーシングのオプションをオンにします。
  5. オンにしたオプションで「変更 (Change)」を選択します。
  6. 音符のスペーシングの各オプションの値を任意に変更します。
  7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択した位置から先の音符のスペーシングが変更されます。これは、選択したアイテムを含むフレームチェーンと、楽譜領域で現在開いているレイアウトに適用されます。

音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

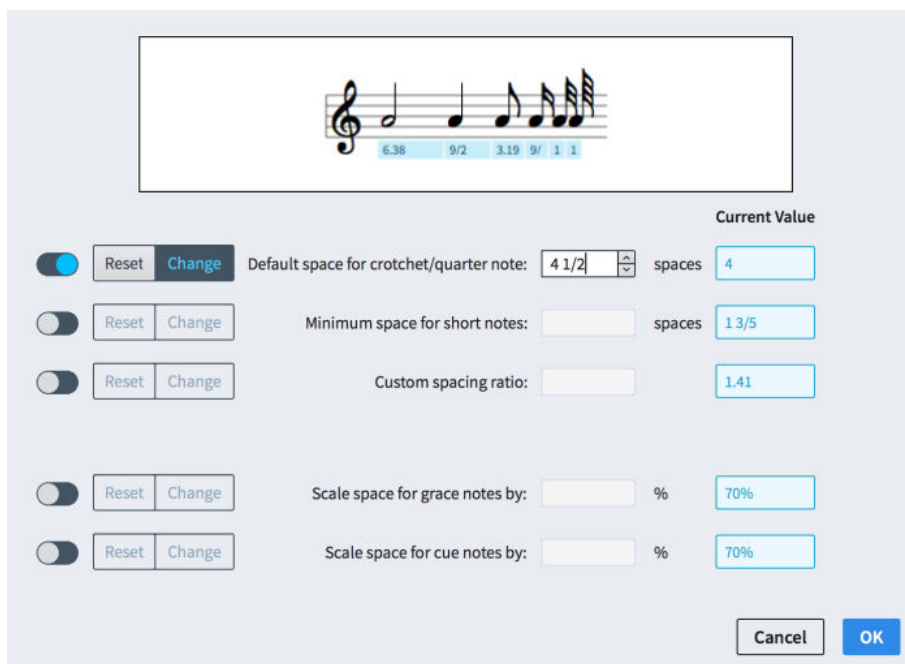
#### 関連リンク

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ \(390 ページ\)](#)

## 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログ

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを使用すると、装飾音符とキューの倍率など、音符のスペーシングや倍率に影響する値を、レイアウトの特定のポイントから変更したりリセットしたりできます。

- 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログは、浄書モードで浄書ツールボックスの「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」が選択された状態で楽譜領域のアイテムを選択し、「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」を選択すると開きます。



「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログ

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### 4分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)

4分音符のデフォルトのスペーシングを設定します。他のデュレーションのスペーシングは比率に合わせて調整されます。値を増やすと音符のスペーシングが広がり、減らすと音符のスペーシングが狭まります。値を変更するとプレビューに反映されます。

### 短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)

デュレーションが短い音符のスペーシングの最小値を設定します。この値はデフォルトのスペーシングの値とは独立して設定できます。

### スペーシングの比率

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「**スペーシングの比率 (Custom spacing ratio)**」を「2」に設定すると、2分音符には4分音符の2倍のスペースが与えられ、8分音符には4分音符の半分のスペースが与えられません。

### スペーシングの比率を指定 (Use custom spacing ratio)

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「**スペーシングの比率を指定 (Use custom spacing ratio)**」を「2」に設定すると、2分音符のスペーシングは4分音符の2倍、8分音符のスペーシングは4分音符の半分になります。

### 装飾音符のスペーシング (Scale space for grace notes by)

装飾音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすと装飾音符のスペーシングが広がり、値を減らすと装飾音符のスペーシングが狭まります。

### キュー音符のスペーシング (Scale space for cue notes by)

キュー音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすとキュー音符のスペーシングが広がり、値を減らすとキュー音符のスペーシングが狭まります。

各オプションにはアクティベーションスイッチがあり、変更を選択したオプションの値のみできます。

以下のいずれかのオプションを選択して音符のスペーシングを変更できます。

### リセット (Reset)

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」で設定した、プロジェクト全体に対するレイアウトの音符のスペーシング設定に音符のスペーシングをリセットします。

### 変更 (Change)

レイアウトの音符のスペーシングを設定した値に変更します。

関連リンク

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

## 特定のポイントから音符のスペーシングをリセットする

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログで行なった音符のスペーシングの値への変更をリセットできます。これは、楽譜領域で現在開いているレイアウトの特定のポイントから先に適用されます。

---

### 手順

1. 楽譜領域で、特定のポイントから音符のスペーシングをリセットするレイアウトを開きます。
2. 音符のスペーシングの変更を適用するフレームチェーン内の、リセットを開始する位置のアイテムを選択します。
3. 「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングを変更 (Note Spacing Change)」を選択して「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開きます。
4. リセットしたい音符のスペーシングのオプションをオンにします。
5. オンにしたオプションで「リセット (Reset)」を選択します。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択した位置から先で、オンにしたオプションの音符のスペーシングがプロジェクト全体の設定にリセットされます。これは、選択したアイテムを含むフレームチェーンと、楽譜領域で現在開いているレイアウトに適用されます。

音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

関連リンク

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ \(390 ページ\)](#)

## 特定のポイントで音符のスペーシングの変更を削除する

「**音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)**」ダイアログで行なった音符のスペーシングの変更を削除し、音符のスペーシングをプロジェクト全体の設定に戻すことができます。

### 手順

1. 削除する音符のスペーシングの変更のガイドを選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

### 結果

選択した音符のスペーシングの変更が削除されます。次の音符のスペーシングの変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、音符のスペーシングがそのレイアウトのプロジェクト全体の設定に戻ります。

## 個々の位置にある音符のスペーシングの調節

プロジェクト全体の設定とは別に、個々の位置の音符のスペーシングを調節できます。

### 補足

- 音符を元の位置から離しすぎると、プレーヤーが楽譜を読む上で混乱が生じる恐れがあります。
- 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにすると、音符のスペーシングのハンドル以外は選択したり編集したりできません。通常の実行や編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックするか記譜モードに戻ります。

### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. スペーシングを調節する位置の破線上にある四角いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。  
これにより、選択したハンドルの位置の左側のスペースが広がります。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。  
これにより、選択したハンドルの位置の左側のスペースが狭くなります。

### 補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

### 結果

選択した音符のスペーシングのハンドルが移動し、元の位置の左側のスペースが広くまたは狭くなります。この操作は、組段のすべての譜表の選択した位置のスペーシングにも影響します。

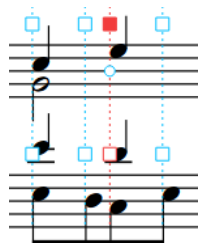
音符のスペーシングを調節した各組段の最初または最後に、組段区切りが自動的に挿入されます。



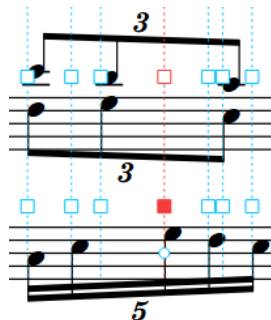
補足

「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオンになっている場合、組段区切りのガイドを選択したり削除したりすることはできません。

例



音符のスペーシングのハンドルを左に動かすと、その位置の左側のスペーシングが狭くなる



音符のスペーシングのハンドルを右に動かすと、その位置の左側のスペーシングが広くなる

関連リンク

[音符のスペーシングの変更を個別に削除する \(395 ページ\)](#)

[ガイド \(284 ページ\)](#)

[組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え \(364 ページ\)](#)

## 個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する

個々の音符および調号、拍子記号、音部記号などのアイテムの表示位置を、それぞれの位置とは関係なく変更できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 表示位置を移動する音符/アイテムの位置にある四角いハンドルを選択します。



音符/アイテムの横に丸いハンドルが表示されます。

3. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

その位置の音符のスペーシングを変更することなく、選択した音符/アイテムの表示位置が変更されます。

#### 例



## 組段の開始位置/終了位置の変更

1つの組段にインデントを適用する場合など、各組段の水平方向の開始位置/終了位置を個別に変更できます。

#### 補足

- 譜表ラベルの前の間隔を広げる場合は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページで、譜表ラベルの付いた組段のプロジェクト全体の最小インデントをレイアウトごとに個別に変更できます。
- 組段がページの幅全体に広がるように組段の終了位置を変更する場合は、「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページで、組段が全体の何%を超えたら両端揃えを適用するかを変更できます。
- ページ上のすべての組段の幅を同じだけ変更する場合は、楽曲フレームの幅を変更できます。

#### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「音符のスペーシング (Note Spacing)」をオンにします。



2. 開始位置/終了位置を変更する組段の開始位置/終了位置にある組段ハンドルを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

#### 補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

選択した組段の開始位置/終了位置が変更されます。組段ハンドルの移動で組段が広がったか狭くなったかによって、選択した組段上の音符の間隔が広くまたは狭くなります。

#### 関連リンク

[組段のインデント \(937 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃えの変更 \(353 ページ\)](#)

[最初の組段のインデントの変更 \(938 ページ\)](#)

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更する \(910 ページ\)](#)

## 音符のスペーシングの変更を個別に削除する

個々の位置で音符のスペーシングに対して行なった変更を削除し、音符のスペーシングのハンドルを元のデフォルトの位置にリセットできます。

---

#### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 元の位置に復元する音符のスペーシングのハンドルを選択します。
  3. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択した位置がデフォルトの位置にリセットされます。

#### ヒント

また、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」メニューからいずれかのオプションを選択すると、選択した組段またはフレーム内のすべての音符のスペーシングの変更、あるいはレイアウト内のすべての音符のスペーシングの変更をリセットすることもできます。

---

#### 関連リンク

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

## 譜表のスペーシング

フレーム内の譜表や組段の垂直位置は、譜表のスペーシングと呼ばれます。譜表のスペーシングの計算には、譜表の高さおよび譜表と組段との間に必要な間隔が考慮されます。

プロジェクトの譜表のスペーシングをさまざまなレベルで変更できます。

- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で、各レイアウトのデフォルトの譜表のスペーシングをプロジェクト全体で変更します。
- 個々の譜表間の譜表のスペーシングを変更します。

### プロジェクト全体で譜表のスペーシングを変更

「**設定 (Setup)**」 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」ページで、各レイアウトの垂直方向/譜表のスペーシングのデフォルト値を個別に変更できます。

オプションを使用して理想的なスペーシングを設定すると、可能な限り近い値でスペーシングが再現されます。たとえば、レイアウトの各フレームに含めることのできる組段数を決定する計算の一部には、譜表の高さ、譜表間の最小間隔、位置が極端に高い/低い音符と譜表の最大距離、ペダル線やテンポ記号といった垂直方向のスペースを必要とするその他のアイテムなどが考慮されます。ただし、この計算

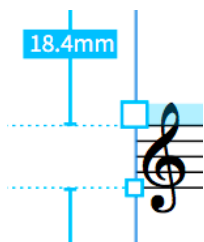
は垂直方向のスペーシングが決定する前に実行されるため、最終的には最適な数よりも多いまたは少ない組段数がフレームに割り当てられる場合があります。

使用できる垂直方向のスペーシングオプションを理解しておくことをおすすめします。

## 個々の譜表のスペーシングを変更

浄書ツールボックスで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにすると、個々の譜表と組段の垂直方向の位置を調節できます。「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにすると、以下のハンドルが表示されます。

- 各譜表の左下角に表示される小さな四角形の譜表のスペーシングのハンドル
- 各組段の一番上の譜表の左上角に表示される大きな四角形の組段のスペーシングのハンドル



浄書モードで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにしたときの組段のスペーシングのハンドルと譜表のスペーシングのハンドル

譜表のスペーシングのハンドルを使用すると、選択した譜表の垂直方向の位置を調節できます。譜表間の間隔はデフォルトではミリメートルで表示されており、数字をクリックすることで値と単位 (ポイント、ミリメートル、センチメートル、インチ) を変更できます。組段ハンドルを使用すると、組段全体の垂直方向の位置を調節できます。

譜表のスペーシングのハンドルを動かすと、ハンドルの色が変わります。組段ハンドルを動かすと、組段上部の強調表示された細長い部分と四角いハンドルの色が変わります。

個々のページの譜表のスペーシングに対して行なった手動の変更を、レイアウト内の別のページにコピーできます。

### 重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。なぜなら、個別の譜表のスペーシング変更があるページまたは組段の開始位置が変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されるからです。たとえば、譜表を個別に移動したあとにレイアウトの最初に空白のページを追加すると、レイアウト内の個別の譜表のスペーシングの変更はすべて削除されます。

### 補足

- 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」がオンになっているときは、現在のレイアウトでアイテムの選択やその他の編集を行なえません。通常の見出しや編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックするか記譜モードに戻ります。
- Dorico Pro で優先的に使用される基準単位は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(397 ページ\)](#)

[譜表 \(916 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(294 ページ\)](#)

[譜表のスペーシングの変更を別のページにコピーする \(402 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(355 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(57 ページ\)](#)

## デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する

デフォルトの譜表間や組段間の間隔をレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではより多くの譜表を配置できるように譜表間の間隔を小さくしたり、パートレイアウトでは演奏者があとで書き込めるように組段間の間隔を大きくしたりできます。

### ヒント

- レイアウトの譜表が非常に近い場合は、譜表サイズを小さくすることで良い結果を得られることもあります。
- Dorico Pro は自動的に余ったスペースを組段オブジェクトや強弱記号などのアイテムに振り分けたり、上下の譜表の音符との衝突を解消したりするため、最適間隔は許容範囲内の最小値に設定することをおすすめします。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
4. 必要に応じて、「**最適間隔 (Ideal Gaps)**」セクションでそれぞれの組み合わせの値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

譜表間および組段間の組み合わせの最小間隔が変更されます。この設定は、Dorico Pro が譜表/組段の配置に使用できるスペースおよび垂直方向の調整を自動的に行なうフレームの使用率であるかの基準に影響します。

### 関連リンク

- [レイアウト中の譜表サイズの変更 \(918 ページ\)](#)
- [譜表/組段の両端揃え \(垂直方向\) を変更する \(353 ページ\)](#)

## レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション

Dorico Pro には、デフォルトの垂直方向のスペーシングと譜表の両端揃えをレイアウトごとにコントロールできるオプションが複数備わっています。

- レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプションを開くには、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を選択し、ページリストで「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。

「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」ページには、以下のセクションとオプションが含まれます。

### 最適間隔 (Ideal Gaps)

譜表や組段などの複数の組み合わせが含まれており、組み合わせごとに使用する間隔を設定できます。Dorico Pro のギャラリービューでは譜表とアイテムの衝突を自動的に解消しないため、ギャラリービューでの譜表間隔のデフォルトの拡大率も設定できます。オプションと一緒に表示される図は、オプションが適用される組み合わせを示します。

Dorico Pro は、設定された最適間隔よりも譜表間の間隔を狭めないため、許容範囲内の最小値に設定することをおすすめします。設定値が小さければ小さいほど、Dorico Pro が譜

表のスペーシングを決定する際に柔軟に対応できます。これはたとえば、強弱記号が含まれている譜表間の間隔をより広く取るために、強弱記号が含まれていない譜表間の間隔を狭める場合など、内容の多いフレームで特に役立ちます。また、オプションの設定時にプロジェクト全体を考慮できるため、垂直方向のスペーシングの設定は音符やアイテムの入力後がおすすめです。

譜表や組段の組み合わせによっては、異なる方法で垂直方向の調整が行なわれます。

- 「**譜表から譜表まで (Staff to staff)**」、「**譜表グループから譜表まで Staff group to staff**」、「**譜表から譜表グループ (Staff to staff group)**」、「**譜表グループから譜表グループ (Staff group to staff group)**」、「**組段内の間隔 (Inter-system gap)**」、「**タイムコード譜表から譜表まで (Timecode staff to staff)**」  
これらの組み合わせの間隔は、垂直方向の調整が行なわれるフレーム内では適用されません。
- 「**連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)**」、「**オssia譜表から譜表まで (Ossia staff to staff)**」  
連合譜表とオssia譜表は垂直に揃えられないため、垂直方向の調整が行なわれるフレーム内でも間隔が常に適用されます。追加の譜表も含まれます。

#### 補足

- 「**譜表から譜表まで (Staff to staff)**」の間隔を使用している場合、ディヴィジ譜表は垂直に揃えられます。「**連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)**」の間隔を使用している場合、各ディヴィジセクションの譜表は連合譜表に設定された間隔のみを使用し、垂直には揃えられません。
- レイアウトの譜表が非常に近い場合は、譜表サイズを小さくすることで良い結果を得られることもあります。

### 最小値 (Minimum Gaps)

アイテムを伴う譜表の最小間隔に関するオプションが含まれます。

- 「**隣り合う譜表と組段の衝突を自動的に解消する (Automatically resolve collisions between adjacent staves and systems)**」: このオプションがオンの場合は、Dorico Pro が譜表と組段の間にスペースを追加することで衝突を自動的に解消します。オフの場合は、垂直方向のスペーシングで設定した間隔のみが使用されるため譜表や組段は等しく配置されますが、アイテムの衝突が起こる可能性があります。
- 「**内容を伴う譜表間の最小間隔 (Minimum inter-staff gap with content)**」: アイテムが含まれる譜表間で使用可能にするスペースを設定できます。
- 「**内容を伴う組段間の最小間隔 (Minimum inter-system gap with content)**」: アイテムが含まれる組段間で使用可能にするスペースを設定できます。

### 両端揃え (垂直方向)

譜表または組段において、自動的に垂直方向の調整が行なわれるフレーム使用率のしきい値の上限を設定するオプションが含まれます。

- 「**譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n]% full)**」: フレームの使用率がこのしきい値を超えた場合、フレームに含まれるすべての譜表と組段が自動的に垂直方向に調整され、フレームの高さに合わせて等しく配置されます。フレームの使用率がこのしきい値より低い場合は、自動的に調整されず、譜表は最適間隔の設定に従います。これにより、一番下の譜表/組段とフレームの下部との間に間隔が空く場合があります。
- 「**組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n]% full)**」: フレームの使用率がこのしきい値を超えた場合、フレームに含まれる組段間の距離のみが調整されます。譜表はレイアウトごとの最適間隔の設定に従います。これにより、非常に混み合ったページでも組段間に十分な距離が保たれます。

#### ヒント

すべての組段が単一の譜表または一対の連合譜表のみを含むパートレイアウトにおいて、組段間の間隔を等しくするには、「**組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n]% full)**」の値を「**譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n]% full)**」と同じもしくはより小さく設定することをおすすめします。

- 「**単一の段組のフレームがこのしきい値を超えた場合に譜表間の距離を調整する (Justify staves when frame with single system is above this threshold)**」: このオプションがオンの場合、単一の組段に含まれる譜表において、設定したしきい値よりを超えるすべての譜表が垂直方向に調整され、フレームの高さに合わせて等しく配置されます。

#### 空白の譜表を隠す (Hide Empty Staves)

レイアウト内の空白の譜表のうち、どの譜表をどこから非表示にするかを設定するオプションが含まれます。

- 「**空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)**」: 空白の譜表をどこから非表示にするかを選択できます。たとえば、一般的には最初の組段では空白の譜表を含むすべての譜表を表示しますが、これは必ずしも必須ではありません。
- 「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」: 複数の譜表を持つインストゥルメントに含まれる個々の空白の譜表を非表示にするか、複数の譜表を持つインストゥルメントのすべての譜表を常に表示するかを選択できます。
- 「**「空白の譜表を非表示」を適用しないプレイヤー (Players excluded from Hide Empty Staves)**」: プレイヤーに非表示になるはずの空白の譜表が組段に含まれている場合でも、すべての譜表を常に表示する特定のプレイヤーを選択できます。

#### 関連リンク

[ページレイアウト \(345 ページ\)](#)

[配置設定 \(359 ページ\)](#)

[譜表/組段の両端揃え \(垂直方向\) を変更する \(353 ページ\)](#)

## ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する

設定された最適間隔の拡大率として表示された、ギャラリービューでのレイアウトごとの譜表間の垂直方向の間隔を変更できます。Dorico Pro はギャラリービューではアイテムの衝突を自動的に解消しないため、非常に高い/低い音符が含まれるレイアウトの譜表間の間隔を広げるのは効果的です。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押し、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ギャラリービューでの譜表間のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
4. 「**最適間隔 (Ideal Gaps)**」セクションで「**ギャラリービューでの譜表間隔の拡大率 (In galley view, expand ideal staff gaps to)**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 個々の譜表/組段の垂直方向の移動

個々の譜表と組段の垂直方向の位置をプロジェクト全体の設定とは別に動かすことで、オssia譜表を含む個々の譜表のスペーシングを変更できます。

### 重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。個別の譜表のスペーシング変更があるページまたは組段の開始位置が変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されます。

### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにします。



2. 垂直方向に移動する譜表/組段の以下のいずれかを選択します。

- 譜表のスペーシングのハンドル



- 組段のスペーシングのハンドル



### 補足

- 選択している譜表または組段のスペーシングのハンドルを、[Tab] を押して切り替えることができます。
  - マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表/組段は1つだけです。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した譜表/組段を移動します。
    - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
    - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑])。

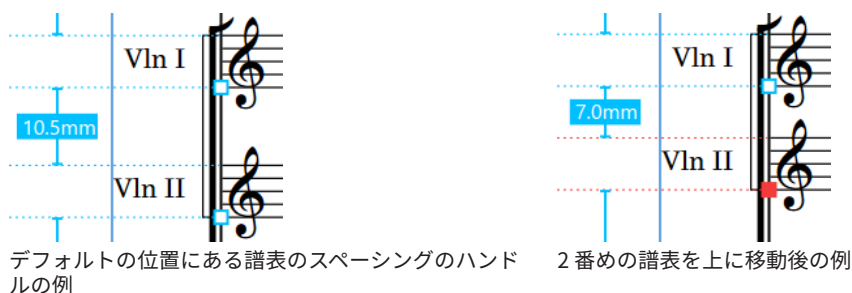
- 譜表/組段のスペーシングのハンドルをクリックして上下にドラッグします。

### 結果

選択した譜表/組段の垂直方向の位置が変更されます。ハンドルを移動したことが分かるようにハンドルの色が変わります。



例



## 譜表のスペーシングの変更を個別に削除する

譜表/組段のスペーシングに対して行なった変更を削除し、譜表/組段のスペーシングのハンドルを元のデフォルトの位置にリセットできます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにします。



2. 元の位置にリセットする譜表/組段のハンドルを選択します。
3. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

結果

選択した譜表/組段のハンドルが元の位置にリセットされます。

ヒント

また、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」メニューからいずれかのオプションを選択すると、選択した組段またはフレーム内のすべての譜表のスペーシングの変更、あるいはレイアウト内のすべての譜表のスペーシングの変更をリセットすることもできます。

## 複数の組段を同時に移動する

組段同士の間隔を均等に保ったまま複数の組段を同時に移動できます。これは“折りたたみ式ドラッグ”とも呼ばれます。

重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。個別の譜表のスペーシング変更があるページまたは組段の開始位置が変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されます。

補足

- この方法は複数の組段を近づける場合にのみ使用でき、組段同士を離すことはできません。
- これらの手順はタッチ上での譜表のスペーシングのハンドルには使用できません。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにします。



2. 移動する一番上の組段の組段ハンドルを選択します。



3. **[Alt]** を押しながら組段ハンドルをクリックして下にドラッグします。

#### 結果

選択した組段から楽曲フレームの一番下までのすべての組段と一緒に移動します。組段同士の間隔は均等なままです。

#### 関連リンク

[譜表のスペーシング \(395 ページ\)](#)

[タッチェット \(355 ページ\)](#)

## 譜表のスペーシングの変更を別のページにコピーする

個々のページで行なった手動による譜表のスペーシングの変更を、レイアウト内の別のページにコピーできます。

#### 補足

譜表のスペーシングの変更をコピーするには、コピー先のページとコピー元のページで、組段あたりの譜表数とフレームあたりの組段数が同じである必要があります。

#### 手順

1. 楽譜領域で、譜表のスペーシングを別のページにコピーするレイアウトを開きます。
2. 「浄書 (Engrave)」 > 「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」 > 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」を選択して「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログを開きます。
3. 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログで、「開始ページ (From page)」の値を変更して譜表のスペーシングのコピー元となるページを変更します。
4. 「ページ指定 (開始) (To page start)」の値を変更して、譜表のスペーシングのコピー先となる最初のページを変更します。
5. 「ページ指定 (終了) (To page end)」の値を変更して、譜表のスペーシングのコピー先となる範囲の最後のページを変更します。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 関連リンク

[個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(400 ページ\)](#)

## 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログ

「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログでは、個々の譜表のスペーシングの変更をどのページからコピーするかを選択できます。また、譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内のページも指定できます。

- 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログを開くには、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」 > 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」を選択します。

「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログには以下のオプションがあります。

#### 開始ページ (From page)

ページ番号を指定して、譜表のスペーシングの変更のコピー元となるページを変更できます。

#### ページ指定 (開始) (To page start)

譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内の最初のページを設定できます。

#### ページ指定 (終了) (To page end)

譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内の最後のページを設定できます。

たとえば、最初のページに対して行なった譜表のスペーシングの変更を次の3ページ、つまり2ページめ、3ページめ、4ページめにコピーして、5ページめ以降にはコピーしない場合は、「**開始ページ (From page)**」に「1」、「**ページ指定 (開始)**」に「2」、「**ページ指定 (終了)**」に「4」を設定します。

数値フィールドの横には表示ページ番号がプレビューされるため、レイアウト内のページの表示ページ番号を変更していても、譜表のスペーシングの変更のコピー先となるページを識別できます。

# 再生モード

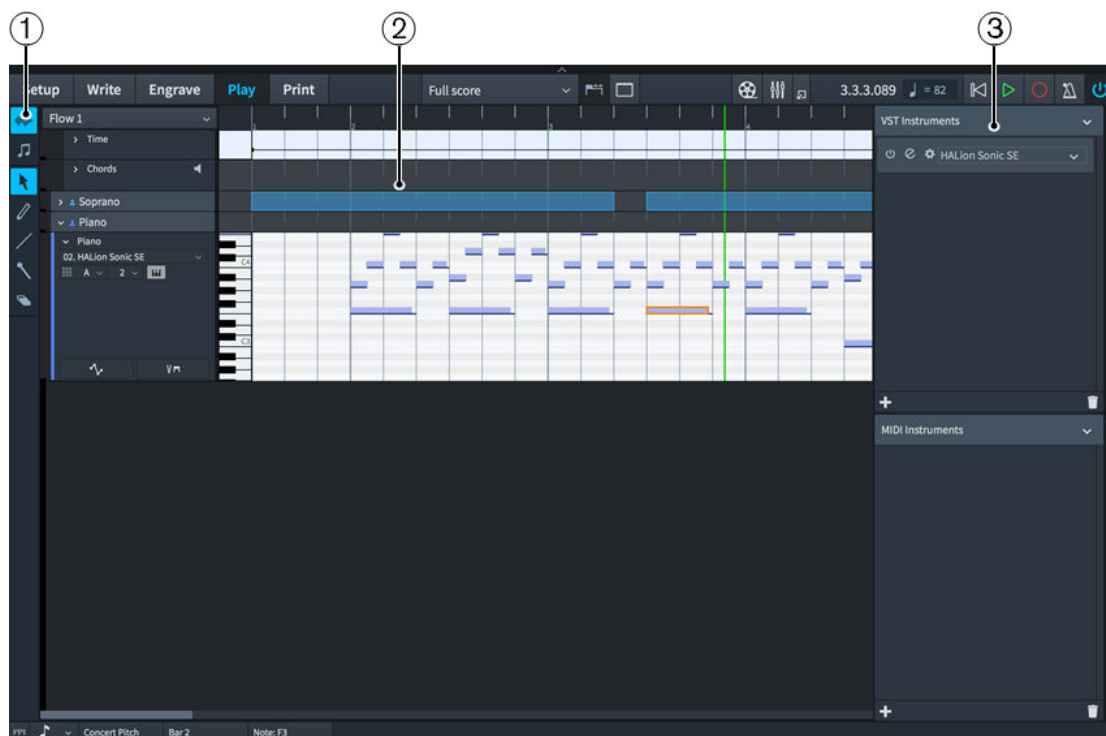
再生モードでは、プロジェクトの再生に関する設定を行なうことができます。VST インストゥルメントを割り当てたり、ミキシングを調節したり、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更したりできます。

## 再生モードのプロジェクトウィンドウ

再生モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバーとイベントディスプレイに加え、プロジェクトの再生の設定に必要なすべてのツールと機能を含むツールボックスとパネルが表示されます。

再生モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[4] を押します。
- ツールバーで「再生 (Play)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「再生 (Play)」を選択します。



再生モードのプロジェクトウィンドウ

### 補足

再生モードにプロパティパネルはありません。

再生モードのプロジェクトウィンドウには、以下のセクションが含まれます。

### 1 再生ツールボックス

イベントディスプレイで音符イベントを選択したり編集したりできるツールが含まれます。

### 2 イベントディスプレイ

プロジェクトの各フローの再生を確認したり、音符を入力したりできます。また、演奏される音符のデュレーションの変更や、任意の位置でのテンポの変更など、再生を編集することができます。

### 3 VST および MIDI インストゥルメントパネル

新しい VST インストゥルメントや MIDI インストゥルメントをロードできます。また、既存の VST インストゥルメントや MIDI インストゥルメントを選択して、設定を編集することもできます。

関連リンク

[イベントディスプレイ](#) (411 ページ)

## 再生ツールボックス

再生ツールボックスには、再生モードのイベントディスプレイで音符イベントを選択したり編集したりできるツールが含まれます。このツールボックスは、再生モードのウィンドウの左側に配置されています。

### 演奏されるデュレーション (Played Durations)



音符の記譜されたデュレーションに影響を与えずに、音符の再生の開始位置や終了位置を変更できます。「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」を選択すると、音符の記譜されたデュレーションを示す細い線の上に、演奏されるデュレーションのイベントが淡い色で表示されます。

### 記譜されたデュレーション (Notated Durations)



音符のデュレーションを変更できます。これによって音符の位置や記譜項目に影響を受けます。「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択すると、ピアノロールエディターに、音符の完全な記譜されたデュレーションがそれぞれ 1 つのイベントとして表示されます。

### オブジェクトの選択 (Object Selection)



ピアノロールエディター上のノートを選択できます。「**削除 (Erase)**」の選択を解除するには、「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」をクリックします。

[S] を押しても **オブジェクトの選択** ツールを選択できます。

### 鉛筆 (Draw)



音符を追加したり、編集したりできます。ピアノロールエディター上でクリックアンドドラッグして、任意のデュレーションの音符を入力できます。入力した音符の終了位置は、現在のリズムグリッドの値に従って、適切な拍の位置にスナップします。

タイムトラックおよびオートメーショントラックにポイントを追加することもできます。ラインツールのかわりに **鉛筆** ツールを使用すると、現在のリズムグリッドの値に従って一定間隔でポイントが追加されます。

[D] を押しても **鉛筆** ツールを選択できます。

### ライン (Line)



タイムトラックとオートメーショントラック上の2つのポイント間に直線を描くことができます。ポイント間には他の値は追加されません。

### パーカッションの鉛筆 (Draw Percussion)



ドラムエディター上の打楽器の譜表に、クリックするだけで音符を追加できます。「**パーカッションの鉛筆 (Draw Percussion)**」の使用時は、デュレーションを入力するのにドラッグする必要はありません。

### 削除 (Erase)

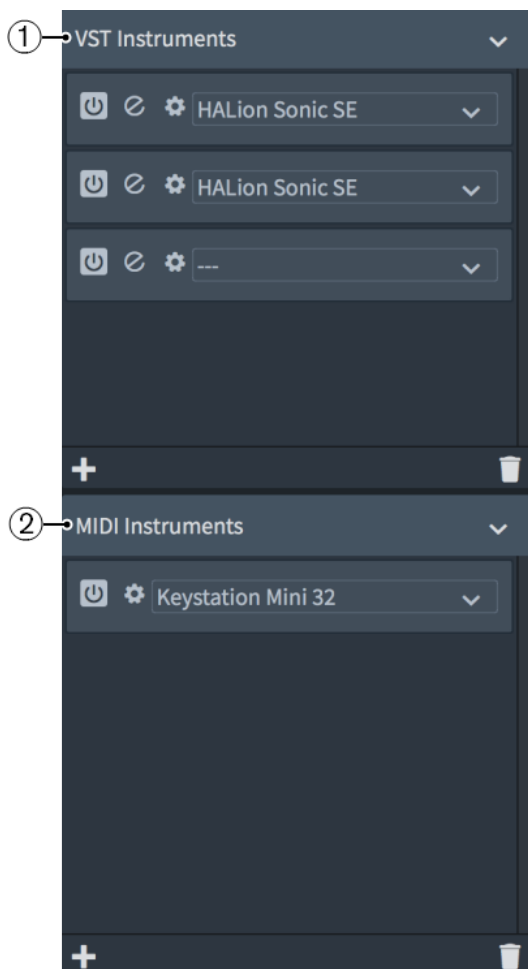


音符を削除できます。「**削除 (Erase)**」を選択した状態で範囲選択すると、複数の音符を削除できます。

[E] を押しても **削除** ツールを選択できます。

## VST および MIDI インストゥルメントパネル

VST および MIDI インストゥルメントパネルには、プロジェクトで使用可能もしくは使用されている VST インストゥルメントおよび MIDI インストゥルメントが含まれ、各インストゥルメントの設定を編集できます。このパネルは、再生モードのウィンドウの右側に配置されています。



VST および MIDI インストゥルメントパネル

VST および MIDI インストゥルメントパネルには、以下のセクションが含まれます。

- 1 VST インストゥルメント (VST Instruments)
- 2 MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)

## VST インストゥルメント (VST Instruments)

パネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションには、再生に使用する VST インストゥルメントを選択できるラックスロットが含まれます。

### 補足

Dorico Pro では、デフォルトで VST 3 インストゥルメントのみが表示されます。このパネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションで VST 2 インストゥルメントを選択可能にするには、VST 2 インストゥルメントをホワイトリストに設定する必要があります。デフォルトでは、Kontakt のみが選択できます。

プロジェクトにインストゥルメントを追加すると、HALion Sonic SE および HALion Symphonic Orchestra のライブラリーから選択されたサウンドが入った HALion Sonic SE のインスタンスを含む再生テンプレートが、自動的に作成されます。また、必要に応じてエクスプレッションマップやパーカッションマップも設定されます。

デフォルト設定のいずれかを変更した場合、Dorico Pro による自動変更はなくなります。そのため、新規インストゥルメントのサウンドを手動で読み込む必要があります。また、HALion プラグインに加えた変更は Dorico Pro には反映されないため、Dorico Pro は元のサウンドのエクスプレッションマップを使用してプロジェクトの楽譜を再生しようとします。

変更を加えたプラグインごとに、エクスプレッションマップを手動で変更しなければなりません。

そのため、変更を加えたあとに再生に使用するサウンドを更新する場合は、以下のいずれかの操作を行なうことをおすすめします。

- 「再生 (Play)」 > 「未割当のインストゥルメントにサウンドをロード (Load Sounds for Unassigned Instruments)」を選択してデフォルト設定を変更してから、プロジェクトに新規インストゥルメントを追加します。これによって、サウンドが割り当てられていないプロジェクトのインストゥルメントに自動的にサウンドがロードされます。
- 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレート (Playback Template)」ダイアログを開き、デフォルトの再生テンプレートを再読み込みします。

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、VST インストゥルメント用のスロットを追加したり、VST インストゥルメントを削除したりできます。

- 追加 (Add)



VST および MIDI インストゥルメントパネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションに、VST インストゥルメント用の新しいスロットを追加します。

- 削除 (Delete)



VST および MIDI インストゥルメントパネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションから、選択した VST インストゥルメントを削除します。

## MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)

パネルの「MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)」セクションには、再生中の出力に使用する MIDI デバイスを選択できるラックスロットが含まれます。

#### 補足

MIDI デバイスを選択可能にするには、Dorico Pro を起動する前にデバイスをコンピューターに接続しておきます。Dorico Pro を起動したあとに MIDI デバイスを接続した場合は、ソフトウェアを再起動する必要があります。

Windows の場合、コンピューターに接続されている任意の MIDI デバイスを選択できます。

macOS の場合は、コンピューターに接続されている任意の MIDI デバイス、または「Audio MIDI 設定」に設定した他の任意のデバイスを選択できます。これにより、たとえば MIDI デバイスを複数のアプリケーションで使用できます。

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、MIDI インストゥルメント用のスロットを追加したり、MIDI インストゥルメントを削除したりできます。

- **追加 (Add)**



VST および MIDI インストゥルメントパネルの「**MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)**」セクションに、MIDI インストゥルメント用の新しいスロットを追加します。

- **削除 (Delete)**



VST および MIDI インストゥルメントパネルの「**MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)**」セクションから、選択した MIDI インストゥルメントを削除します。

## VST インストゥルメントおよび MIDI インストゥルメントの手動ロード

Dorico Pro では、プロジェクトに必要なすべてのサンプル用の VST スロットが自動的にロードされます。ただし、VST インストゥルメントや MIDI インストゥルメントを新規スロットに手動でロードしたり、既存のスロットに選択されているインストゥルメントを手動で置き換えたりすることもできます。

#### 前提

- 使用する VST インストゥルメントをコンピューター上に保存しておきます。
- 使用する MIDI デバイスを接続しておきます。

#### 補足

Dorico Pro を起動する前にデバイスをコンピューターに接続しておく必要があります。デバイスを接続していない場合は、Dorico Pro の再起動が必要です。

#### 手順

1. VST および MIDI インストゥルメントパネルの「**VST インストゥルメント (VST Instruments)**」セクションまたは「**MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)**」セクションのどちらかで、「**追加 (Add)**」をクリックします。



2. VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントをロードするスロットで、メニューからインストゥルメントを選択します。



## VST インストゥルメントをホワイトリストに設定する

Dorico Pro で使用する VST 2 インストゥルメントはすべて、ホワイトリストに設定する必要があります。ホワイトリストの設定は環境設定と同様にグローバルに反映されるため、一度プラグインをホワイトリストに設定すれば、すべてのプロジェクトで使用できるようになります。

Dorico Pro には、デフォルトで vst2whitelist.txt ファイルが含まれています。このテキストファイルには、Steinberg 社によって Dorico Pro との使用が認定された VST 2.x プラグインがリスト表示されています。

2 つめの vst2whitelist.txt ファイルをユーザー指定の場所に作成すると、Dorico Pro を更新または再インストールした場合に上書きされないようになります。

Dorico Pro を起動すると、デフォルトホワイトリストファイルとユーザー指定のホワイトリストファイルの両方が読み込まれ、ホワイトリストに設定されたプラグインのリストが作成されます。

### 前提

Dorico Pro を含むすべてのプログラムを終了しておきます。

---

### 手順

1. メモ帳などのテキストエディターを開き、ファイルを新規作成します。
  2. ホワイトリストに設定する VST プラグインのファイル名を、拡張子 (Windows の場合は .dll、macOS の場合は .vst) を除いた形で入力します。  
プラグインは、1 行につき 1 つのみ入力します。
  3. 作成した独自の vst2whitelist.txt ファイルを、お使いのオペレーティングシステムに応じて、以下の場所に保存します。
    - C:\Users\username\AppData\Roaming\Steinberg\VSTAudioEngine2\_64 (Windows の場合)
    - /Users/username/Library/Preferences/VSTAudioEngine2 (macOS の場合)
  4. 以下のファイルをフォルダーから削除します。
    - Vst2xPlugin Blacklist VSTAudioEngine.xml
    - Vst2xPlugin Infos VSTAudioEngine.xml
    - Vst2xPlugin SearchPaths VSTAudioEngine.xml
- 

### 結果

Dorico Pro の次回起動時に、ホワイトリストに設定した VST プラグインがプログラムで使用可能になります。

## 「再生オプション (Playback Options)」 ダイアログ

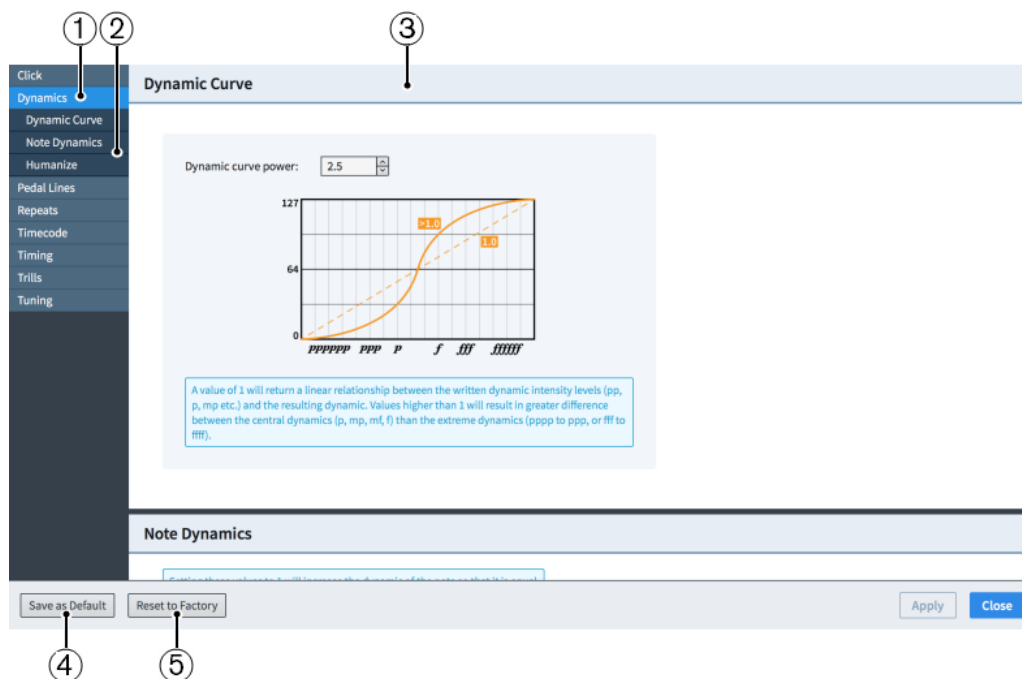
「再生オプション (Playback Options)」ダイアログには、記譜した楽譜の再生方法をプロジェクト全体で変更できるオプションがあります。これらのオプションは、エクスプレッションマップやパッチに関係なく、再生に影響を与えます。

「再生オプション (Playback Options)」ダイアログでは、強弱記号、ペダル線、およびさまざまな記譜記号が再生時にどのように反映されるかを変更できます。

たとえば、小節の 1 拍目の音符の音量を他の拍の音符と比べて大きくしたり、それぞれのペダルのリテイクが続く長さを変更したり、スタッカティッシュモやテヌートなどのさまざまなアーティキュレーションがどれだけ音符のデュレーションに影響するかを変更したりできます。

「再生オプション (Playback Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 再生モードで「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」を選択します。



「再生オプション (Playback Options)」 ダイアログ

「再生オプション (Playback Options)」 ダイアログには以下のセクションが含まれます。

#### 1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

#### 2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

#### 3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

#### 4 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「デフォルトとして保存 (Save as Default)」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
- 「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、[Alt] (macOS)/[Ctrl] (Windows) を押すことで「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」を選択できます。

#### 5 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。[Alt] (macOS)/[Ctrl] (Windows) を押すことで「出荷時の設定にリセッ

ト (Reset to Factory)」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、今後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

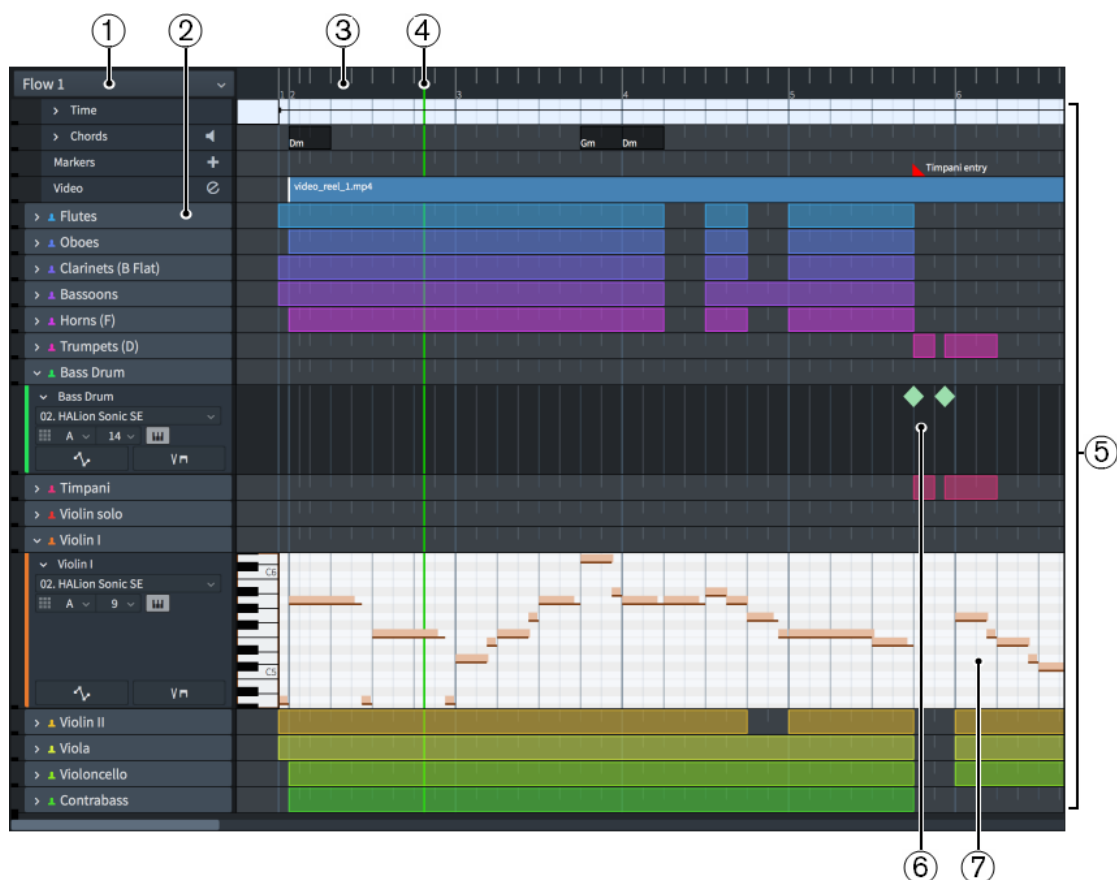
関連リンク

[エクスペリションマップ \(456 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(28 ページ\)](#)

## イベントディスプレイ

再生モードのイベントディスプレイは、記譜モードの楽譜領域に相当します。イベントディスプレイでも楽譜を確認したり編集したりできますが、楽譜の記譜作業より楽譜の再生方法に重点が置かれています。イベントディスプレイでは、Cubase などの DAW と同じような方法でプロジェクトが表示されます。



再生モードのイベントディスプレイ

イベントディスプレイには以下のセクションが含まれます。

### 1 フローメニュー

イベントディスプレイに表示するフローを選択できます。一度に1つのフローのみが表示されます。

### 2 トラックヘッダー

各トラックの名前が表示され、トラックタイプに応じたオプションが含まれます。トラックタイプによっては、トラックヘッダーを展開して詳細なオプションを表示できます。

### 3 ルーラー

小節番号が表示され、現在のリズムグリッドの値に従って拍の区切りが示されます。

### 4 再生ヘッド

現在の再生位置が表示されます。

**5   トラック**

音楽要素が含まれる行です。左から右に向かって時間を表わします。

**6   ドラムエディター**

無音程打楽器の音符が表示されます。

**7   ピアノロールエディター**

有音程楽器の音符が表示されます。

再生ツールボックスのツールとオプションを使用すると、イベントディスプレイ内で音符やテンポ変更などのイベントを入力したり、編集したり、削除したりできます。

関連リンク

[再生ヘッド](#) (435 ページ)

[トラック](#) (417 ページ)

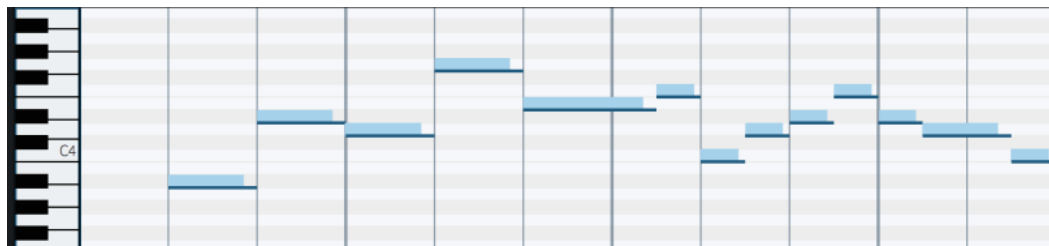
[再生ツールボックス](#) (405 ページ)

## ピアノロールエディター

ピアノロールエディターには有音程楽器の MIDI ノートがシーケンスで表示され、音符イベントの垂直方向の位置はそれぞれのピッチを示します。

Dorico Pro では、有音程楽器のインストゥルメントトラックが、個別のピアノロールエディターで表示されます。

有音程楽器の音符はピッチに従い、ピアノロールエディターの左側に配置されたピアノキーボードのキー位置に配置されます。



ピアノロールエディター

設定モードでインストゥルメントを追加すると、各インストゥルメントには自動的に色が付けられるため、再生モードでインストゥルメントを簡単に見分けられます。この色は、インストゥルメントトラックのピアノロールエディター上の音符に使用されるのに加えて、インストゥルメントトラックヘッダーのストリップとして表示されます。

ピアノロールエディター上の音符は動かしたり移調したりして、編集できます。

### 補足

音符の演奏されるデュレーションを編集すると、ピアノロールエディター上の表示色が、演奏されるデュレーションを変更していない音符と比べて濃くなります。

関連リンク

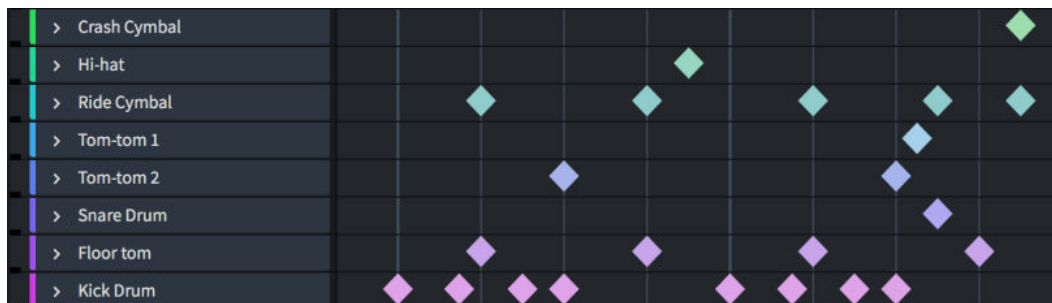
[インストゥルメントトラック](#) (419 ページ)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション](#) (470 ページ)

## ドラムエディター

ドラムエディターには無音程打楽器の MIDI ノートが、シーケンスで表示されます。ドラムエディターの外観および機能は、ピアノロールエディターとは異なります。

ピアノロールエディターにピアノロールが表示されるかわりに、ドラムエディターには各打楽器の各音符の開始位置が表示されます。音符のデュレーションによって音符イベントの幅が変わるピアノロールとは異なり、各音符は同じサイズのイベントとして表示されます。



ドラムエディター

無音程打楽器は、打楽器キットに含まれている場合でも、個別のインストゥルメントトラックがあります。他のインストゥルメントトラックと同様に、無音程打楽器のインストゥルメントトラックを展開して、インストゥルメントを他の再生エンドポイントに割り当てるなどの変更を加えることができます。

### 補足

無音程打楽器のエンドポイントを変更した場合、そのエンドポイントには適切なパーカッションマップが選択されている必要があります。選択されていない場合、Dorico Pro ではそのインストゥルメントの楽譜が適切に再生されません。

ドラムエディターの音符は別の位置に移動できます。無音程打楽器の音符はピッチが固定のため、ドラムエディターの音符を移調することはできません。

### 関連リンク

[インストゥルメントトラック \(419 ページ\)](#)

[トラックの展開/折りたたみ \(434 ページ\)](#)

## イベントディスプレイでの音符の入力

再生モードのイベントディスプレイで、プロジェクトのインストゥルメントに音符を入力できます。音符を入力する手順は、有音程楽器も無音程楽器も同じです。

### 手順

1. 音符を入力するインストゥルメントトラックを展開します。

### ヒント

無音程打楽器の音符を入力する場合は、プレーヤートラックを展開するだけでかまいません。

2. インストゥルメントタイプに応じて、以下のツールのいずれかを選択します。

- 有音程楽器のインストゥルメントトラックに音符を入力するには、[D] を押して鉛筆ツールを選択するか、再生ツールボックスの「鉛筆 (Draw)」をクリックします。



- 無音程打楽器のインストゥルメントトラックに音符を入力するには、再生ツールボックスの「パーカッションの鉛筆 (Draw Percussion)」をクリックしてパーカッションの鉛筆ツールを選択します。



3. インストゥルメントタイプに応じて、以下のいずれかの方法で音符を入力します。
    - 有音程楽器の場合は、音符を入力するピッチの位置をクリックし、音符のデュレーションの長さ分を水平にドラッグします。
    - 無音程打楽器の場合は、ドラムエディター内で音符を入力する位置をクリックします。
- 

#### 結果

ピアノロールエディターでは、左側にあるピアノキーボードが示すピッチに音符が入力されます。

ドラムエディターでは、クリックするたびにに対応するインストゥルメントに音符が入力されます。音符のデュレーションは、現在のリズムグリッドの値に従います。トラックで強調表示された部分が、音符のデュレーションを示します。ドラムエディターに表示される音符イベントの形状は、すべてのデュレーションと同じです。

#### 手順終了後の項目

音符の記譜されたデュレーションおよび演奏されるデュレーションは、両方変更できます。スコアの音符のデュレーションは、記譜モードでも変更できます。

#### 関連リンク

- [インストゥルメントトラック \(419 ページ\)](#)
- [トラックの展開/折りたたみ \(434 ページ\)](#)
- [音符の演奏されるデュレーションの変更 \(471 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(161 ページ\)](#)

## イベントディスプレイでの音符の移動

イベントディスプレイで、音符の位置を移動できます。この操作は関連するスコアおよびパートレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。

#### 前提

- 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。
- 再生ツールボックスの「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 移動する音符が含まれるインストゥルメントトラックを展開します。

#### ヒント

無音程打楽器の音符を移動する場合は、プレーヤートラックを展開するだけでかまいません。

---

2. 位置を移動する音符を選択します。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従い選択した音符を移動します。
    - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
    - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
    - 選択対象をクリックして左右にドラッグします。
- 

#### 結果

選択した音符が現在のリズムグリッド値に従って異なる位置に移動します。複数の音符を選択した場合、音符はブロックとして一緒に移動します。

#### 補足

キーボードを使用する場合、ピアノロールエディターで音符の移調と移動の両方を一連の操作で行なえます。マウスを使用する場合、移調と移動の間でマウスを放す必要があります。

---

#### 関連リンク

[再生ツールボックス \(405 ページ\)](#)

## ピアノロールエディター上の音符のデュレーションの変更

再生モードのピアノロールエディターで、有音程楽器の音符のデュレーションを変更できます。これによって、関連するスコアおよびパートレイアウトの音符の記譜されたデュレーションも自動的に変更されます。

#### 前提

- 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。
- 再生ツールボックスの「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択しておきます。

#### 手順

1. デュレーションを変更する音符が含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
2. ピアノロールエディターで、デュレーションを変更する音符を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを変更します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt]+[→]**を押します。
  - 音符を現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt]+[←]**を押します。
  - 音符の長さを2倍にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→]**を押します。
  - 音符の長さを半分にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←]**を押します。
  - 選択した音符の右端をクリックし、目的の長さまでドラッグします。

#### 補足

再生ツールボックスで「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」が選択されている場合は、音符の記譜されたデュレーションのみをマウスで変更できます。「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」が選択されている場合は、音符をクリックアンドドラッグして演奏されるデュレーションを変更できます。

---

#### 結果

音符のデュレーションが変更されます。

#### 補足

終了位置が異なる複数の音符を選択してデュレーションを変更した場合、すべての音符の終了位置が強制的に同じになります。

---

#### 関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(434 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(470 ページ\)](#)

[音符のデュレーションの変更 \(161 ページ\)](#)

[再生ツールボックス \(405 ページ\)](#)

## ピアノロールエディター上の音符の移調

ピアノロールエディター上の音符の位置を垂直方向に移動して、音符を移調できます。ドラムエディターでは音符の移調をしたり、他の無音程打楽器に音符を移動したりすることはできません。

### 前提

再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。

### 手順

1. 移調する音符が含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
2. ピアノロールエディターで、移調する音符を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を移調します。
  - 音符の位置を1つ上げるには (C から D など)、**[Alt]+[↑]** を押します。
  - 音符の位置を1つ下げるには (D から C など)、**[Alt]+[↓]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割1つ分上に移調するには (平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt]+[↑]** を押します。
  - 音符をオクターブの分割1つ分下に移調するには (平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt]+[↓]** を押します。
  - 音符を1オクターブ上に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]** を押します。
  - 音符を1オクターブ下に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↓]** を押します。
  - 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

### 結果

選択した音符が、ピアノロールエディター上の新しいピッチに従い移調されます。

### 補足

- この操作は関連するスコアおよびパートレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。
- キーボードを使用する場合、ピアノロールエディターで音符の移調と移動の両方を一連の操作で行なえます。マウスを使用する場合、移調と移動の間でマウスを放す必要があります。

### 関連リンク

[イベントディスプレイでの音符の移動 \(414 ページ\)](#)

[オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(681 ページ\)](#)

[再生ツールボックス \(405 ページ\)](#)

## イベントディスプレイでの音符の削除

再生モードのイベントディスプレイで、音符を削除できます。これによって、関連するスコアおよびパートレイアウトの音符も削除されます。

### 手順

1. 削除する音符が含まれるインストゥルメントトラックを展開します。

#### ヒント

無音程打楽器の音符を削除する場合は、プレーヤートラックを展開するだけでかまいません。

2. **[E]** を押して、**削除ツール**を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を削除します。
  - 個々の音符をクリックします。



- 範囲選択して複数の音符を一度に削除します。

#### 補足

範囲選択による削除は、打楽器キット内の打楽器を含め、単一のインストゥルメントのみで行なえます。

---

#### 結果

クリックした音符または範囲選択内に含まれた音符が削除されます。

#### ヒント

再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択し、削除する音符をクリックして **[Backspace]** または **[Delete]** を押すことでも音符を削除できます。

---

#### 関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(42 ページ\)](#)

## イベントディスプレイのトラックのズームイン/ズームアウト

イベントディスプレイのトラックのズームレベルを変更して、音符を拡大または縮小して表示できます。この場合、トラックの高さは変更されません。

---

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ズームレベルを変更します。
    - 音符の幅の表示を拡大するには、**[Z]** を押します。
    - 音符の幅の表示を縮小するには、**[X]** を押します。
    - 音符の高さの表示を拡大するには、**[Shift]** を押しながらイベントディスプレイの左端にあるピアノキーボードを上方向にドラッグします。
    - 音符の高さの表示を縮小するには、**[Shift]** を押しながらイベントディスプレイの左端にあるピアノキーボードを下方向にドラッグします。
    - 音符の幅および高さの表示を拡大するには、タッチパッドでピンチアウトします。
    - 音符の幅および高さの表示を縮小するには、タッチパッドでピンチインします。
    - 音符の幅の表示を拡大するには、イベントディスプレイのルーラー上をクリックして下方向にドラッグします。
    - 音符の幅の表示を縮小するには、イベントディスプレイのルーラー上をクリックして上方向にドラッグします。
- 

#### 関連リンク

[トラックの高さの変更 \(434 ページ\)](#)

## トラック

トラックはイベントディスプレイに表示される行で、左から右に向かって時間を表わします。トラックを使用すると、プロジェクト内の複数の音楽要素を同時に、かつ個別にコントロールできます。

かつてテープでオーディオミキシングが行なわれ、多重録音により曲の複数のパートが独立して録音および編集され、最終的な楽曲が作成されていた時代に、トラックという用語が生まれました。

Cubase のような近代的なプログラムでは、オーディオ録音やソフトウェアインストゥルメントなど、さまざまな種類のサウンドをトラックに含めることができます。多くの場合、オーディオ録音を含むトラックにはオーディオの波形が表示され、ソフトウェアインストゥルメントを含むトラックでは、ピアノロール上に、水平位置が時間、垂直位置がピッチを示す長方形の音符イベントが表示されます。

Dorico Pro では、以下の種類のトラックが再生モードのイベントディスプレイに表示されます。

### プレーヤートラック

プレーヤーに関連付けられているすべてのインストゥルメントが含まれます。プレーヤートラックを展開または折りたたんで、含まれるインストゥルメントトラックを表示できません。

### インストゥルメントトラック

インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターにインストゥルメントの音符が表示されます。

各インストゥルメントトラックには、演奏技法レーンとオートメーションレーンもあります。

### タイムトラック

記譜モードで入力したテンポ記号や「Time」トラックで加えたテンポ変更入力など、フローのテンポの変更が表示されます。

### コードトラック

フロー内のコード記号が表示されます。

### マーカートラック

マーカテキストを含むフローのマーカが表示されます。

### ビデオトラック

フロー内のビデオがある位置と、ビデオのファイル名 (ファイル名がある場合) が表示されます。

#### 関連リンク

[イベントディスプレイ](#) (411 ページ)

[プレーヤートラック](#) (418 ページ)

[インストゥルメントトラック](#) (419 ページ)

[タイムトラック](#) (426 ページ)

[コードトラック](#) (430 ページ)

[マーカートラック](#) (432 ページ)

[ビデオトラック](#) (433 ページ)

[トラックの展開/折りたたみ](#) (434 ページ)

## プレーヤートラック

プレーヤートラックは、イベントディスプレイに現在表示されているフローに含まれる各プレーヤーを表わします。そのプレーヤーに関連付けられているインストゥルメントの音符の位置が表示されます。プレーヤートラックには、設定モードでプレーヤーに設定されたプレーヤー名が付きます。



プレーヤートラックの例

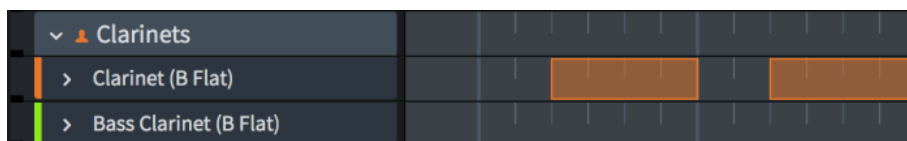
各プレーヤートラックには以下のセクションが含まれます。

#### 1 トラックの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。

#### 2 トラック展開矢印マーク

トラックを展開したり折りたたんだりできます。プレーヤートラックを展開すると、そのプレーヤーに関連付けられたすべてのインストゥルメントトラックが表示されます。インストゥルメントトラックは、個別に展開したり折りたたんだりできます。



展開したプレーヤートラックに、折りたたまれたインストゥルメントトラックが2つ含まれている

### 3 トラック名

トラックの名前が表示されます。プレーヤートラックには、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで割り当てたプレーヤー名が使用されます。

### 4 トラックヘッダー

トラックの名前と展開矢印マークが表示されます。

### 5 カラー領域

プレーヤーに関連付けられたいずれかのインストゥルメントの音符の位置が表示されます。折りたたんだインストゥルメントトラック上では、そのインストゥルメントのみの音符の位置が表示されます。

- プレーヤートラックのカラー領域には、そのプレーヤーに最初に関連付けられているインストゥルメントに割り当てられた色が使用されます。
- 折りたたんだインストゥルメントトラックのカラー領域には、そのインストゥルメントに割り当てられた色が使用されます。

#### 補足

カラー領域が示す音符に対して操作を行なうには、プレーヤートラックおよび該当のインストゥルメントトラックを展開する必要があります。

#### 関連リンク

[イベントディスプレイ \(411 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(412 ページ\)](#)

[ドラムエディター \(413 ページ\)](#)

[トラックの展開/折りたたみ \(434 ページ\)](#)

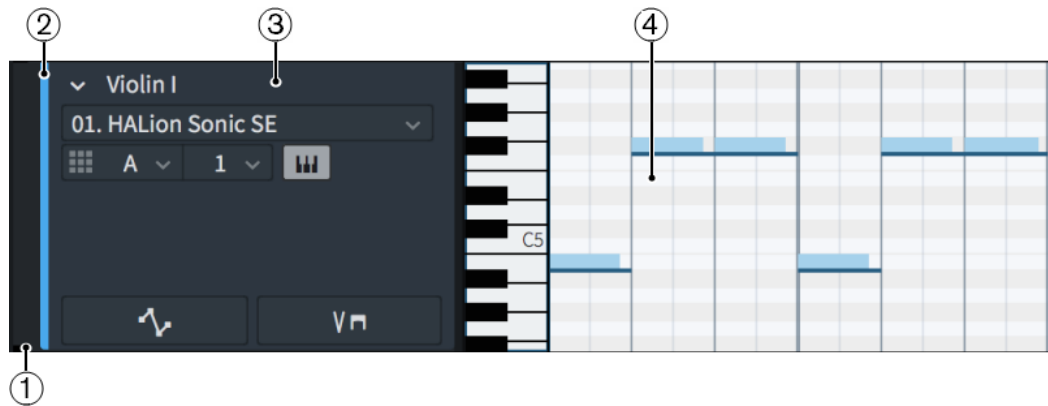
[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(99 ページ\)](#)

## インストゥルメントトラック

インストゥルメントトラックは、対応するインストゥルメントの音符の確認、入力、および編集に使用できます。音符は、インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターに表示されます。インストゥルメントトラックには楽器名が付けられます。

再生モードのイベントディスプレイには、単一のプレーヤーに複数の楽器が関連付けられている場合も含めて、プロジェクト内の楽器ごとに個別のインストゥルメントトラックが表示されます。

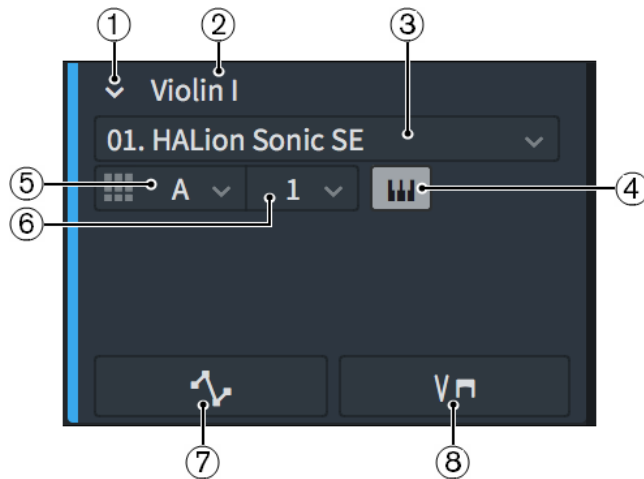
設定モードでインストゥルメントを追加すると、各インストゥルメントトラックには自動的に色が付けられるため、再生モードでインストゥルメントを簡単に見分けられます。この色はインストゥルメントトラックのストリップとして表示されるのに加え、イベントディスプレイ内の音符に使用されます。



①  
インストゥルメントトラックの例

各インストゥルメントトラックには以下のセクションが含まれます。

- 1 トラックの高さの調節**  
トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。
- 2 カラーストリップ**  
トラックに割り当てられた色が表示されます。この色は、ピアノロールエディターおよびドラムエディター上の音符、プレーヤートラックおよびインストゥルメントトラック (折りたたみ時) のカラー領域に使用されます。
- 3 トラックヘッダー**  
トラック名を表示し、VST や MIDI スロットメニューなど、インストゥルメントトラックの対応するオプションが含まれます。
- 4 ピアノロールエディター/ドラムエディター**  
インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターにインストゥルメントの音符を表示します。



①  
インストゥルメントトラックのヘッダーの例

各インストゥルメントトラックのヘッダーには以下のセクションが含まれます。

- 1 トラック展開矢印マーク**  
トラックを展開したり折りたたんだりできます。
  - プレーヤートラックを折りたたむと、イベントディスプレイにカラー領域が表示されます。カラー領域は選択したり、移動したりできません。
  - プレーヤートラックを展開すると、インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターのいずれかに音符が表示されます。
- 2 トラック名**

トラックの名前が表示されます。インストゥルメントトラック名には、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定したインストゥルメント名が使用されます。

### 3 VST/MIDI インストゥルメントメニュー

インストゥルメントトラックに使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのインスタンスを選択できます。

### 4 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)

該当の VST インストゥルメントを開き、スロットまたはチャンネルの設定を編集できます。

### 5 ポートメニュー

16 チャンネルでポートが複数あるプラグインを使用する場合に、使用するポートを選択して、インストゥルメントを割り当てるエンドポイントを変更できます。

### 6 スロットメニュー

インストゥルメントトラックで選択した VST インストゥルメントのスロット、または選択した MIDI インストゥルメントのチャンネルを指定して、インストゥルメントを割り当てるエンドポイントを変更できます。

### 7 オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)

インストゥルメントトラックの下のオートメーションレーンの表示/非表示を切り替えます。

### 8 演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)

インストゥルメントトラックの下の演奏技法レーンの表示/非表示を切り替えます。

関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(434 ページ\)](#)

[イベントディスプレイ \(411 ページ\)](#)

[プレーヤートラック \(418 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(412 ページ\)](#)

[ドラムエディター \(413 ページ\)](#)

[オートメーションレーン \(422 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(99 ページ\)](#)

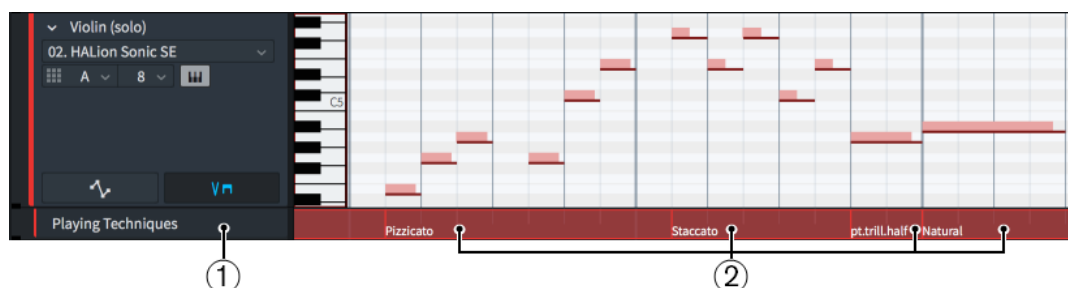
[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(452 ページ\)](#)

[エンドポイントへのインストゥルメントの割り当て \(454 ページ\)](#)

## 演奏技法レーン

演奏技法レーンには、対応するインストゥルメントに入力した演奏技法の位置が表示されます。演奏技法レーンはすべてのインストゥルメントトラックにあり、イベントディスプレイで表示できます。

- 演奏技法レーンの表示/非表示を切り替えるには、インストゥルメントトラックのヘッダーにある「**演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)**」をクリックします。



インストゥルメントトラックの下に表示された演奏技法レーン

演奏技法レーンには以下のセクションがあります。

#### 1 レーンヘッダー

レーンの名前が表示されます。

## 2 演奏技法領域

音符に適用されている演奏技法が表示されます。レーンの演奏技法領域上にマウスカーソルを合わせると、以下の関連情報を確認できます。

- エクスプレッションマップで使用される演奏技法/演奏技法の組み合わせ
- 領域で使用される VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメント
- 領域で使用される VST インストゥルメントのチャンネル
- 領域で使用されるエクスプレッションマップ

### 補足

演奏技法レーンでは演奏技法を変更できません。

---

### 関連リンク

[インストゥルメントトラック \(419 ページ\)](#)

[イベントディスプレイ \(411 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップ \(456 ページ\)](#)

## 演奏技法レーンの表示/非表示の切り替え

各インストゥルメントトラックの演奏技法レーンの表示/非表示を切り替えられます。

---

### 手順

1. 表示/非表示を切り替える演奏技法レーンが含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
  2. 各インストゥルメントトラックのヘッダーで、「**演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)**」をクリックします。
- 

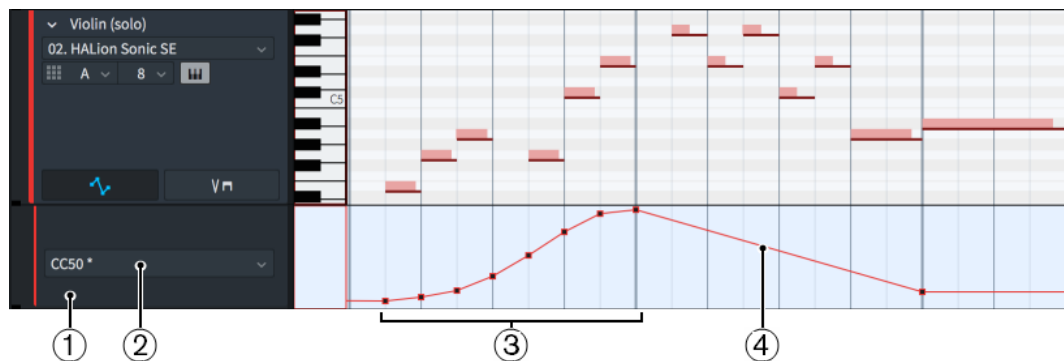
### 結果

演奏技法レーンを表示すると「演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)」ボタンが強調表示され、非表示にするとボタンの強調表示が解除されます。

## オートメーションレーン

オートメーションレーンは、対応するインストゥルメントに適用される MIDI コントローラーデータの確認、入力、および編集に使用できます。オートメーションレーンはすべてのインストゥルメントトラックにあり、イベントディスプレイで表示できます。

- オートメーションレーンの表示/非表示を切り替えるには、インストゥルメントトラックのヘッダーにある「**オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)**」をクリックします。
- オートメーションレーンにデータが表示されている MIDI コントローラーは、オートメーションレーンのヘッダーにあるポップアップメニューからコントローラーを選択することで変更できます。



インストゥルメントトラックの下に表示されたオートメーションレーン

オートメーションレーンには以下のセクションがあります。

- 1 レーンヘッダー**  
MIDI コントローラーメニューが表示されます。
- 2 MIDI コントローラーメニュー**  
オートメーションレーンで確認または編集するオートメーションデータが含まれる MIDI コントローラーを選択できます。オートメーションデータが含まれているコントローラーには、メニュー内の名前の横にアスタリスクが表示されます。
- 3 鉛筆ツールを使用したオートメーションイベントの入力**  
鉛筆ツールを使用してオートメーションを入力した場合、クリックした位置に個別のイベントが作成されます。クリックしてドラッグした場合、現在のリズムグリッドの値に従って、一定間隔で個別のイベントが作成されます。
- 4 ラインツールを使用した段階的オートメーションイベントの入力**  
ラインツールを使用してオートメーションを入力した場合、終了位置まで直線の単一のオートメーションイベントが作成されます。

オートメーションレーンは 1 つしか表示できませんが、同じレーンに複数の MIDI コントローラーのデータを作成できます。

オートメーションレーンに入力したすべてのオートメーションイベントは、書き出した MIDI ファイルに含まれます。

関連リンク

[インストゥルメントトラック](#) (419 ページ)

## オートメーションレーンの表示/非表示の切り替え

各インストゥルメントトラックのオートメーションレーンの表示/非表示を切り替えられます。

手順

- 表示/非表示を切り替えるオートメーションレーンが含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
- インストゥルメントトラックのヘッダーで、「**オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)**」をクリックします。

結果

オートメーションレーンを表示すると「オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)」ボタンが強調表示され、非表示にするとボタンの強調表示が解除されます。



## オートメーションレーンでのオートメーションの入力

各インストゥルメントトラックのオートメーションレーンで、複数の MIDI コントローラーのオートメーションデータを入力できます。

### 前提

オートメーションを追加するインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

### 手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー** メニューから、オートメーションを入力する MIDI コントローラーを選択します。
2. 入力するオートメーションの種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。
  - 現在のリズムグリッドの値に従って一定間隔ごとに単一または複数のオートメーションイベントを入力するには、**[D]** を押すか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックして、**鉛筆ツール**を選択します。  

  - 段階的なオートメーションイベントを入力するには、再生ツールボックスの「**ライン (Line)**」をクリックして**ラインツール**を選択します。  

3. 以下のいずれかの操作を行なって、オートメーションを入力します。
  - 単一のオートメーションイベントを入力するには、オートメーションレーン内のイベントを追加する位置でクリックします。
  - 一定間隔ごとに複数のオートメーションイベントを入力するには、オートメーションレーン内でクリックアンドドラッグします。
  - 段階的なオートメーションイベントを入力するには、オートメーションレーン内のイベントの開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

### 結果

オートメーションイベントが入力されます。

## オートメーションイベントの移動

オートメーションイベントは個別に移動できます。たとえば、上下に移動して値を変更できます。

### 前提

オートメーションイベントを移動するインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

### 手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー** メニューから、オートメーションイベントを移動する MIDI コントローラーを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、移動するオートメーションイベントを選択します。
  - 単一のオートメーションイベントをクリックします。
  - 複数のオートメーションイベントを範囲選択します。

### 補足

複数のオートメーションレーンのイベントを一度に移動することはできません。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオートメーションイベントを移動します。



- オートメーションイベントを左右に移動するには、[Ctrl]/[command] を押しながら左右にドラッグします。
- イオートメーションイベントを上下に移動するには、[Ctrl]/[command] を押しながら上下にドラッグします。

#### ヒント

オートメーションイベントを上下に細かく移動したい場合は、[Alt] を押しながらドラッグします。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 補足

1回の操作で既存のオートメーションイベントを越えるイベントの移動はできません。マウスを放すと、既存のオートメーションイベントが移動したイベントに置き換えられます。移動したオートメーションイベントを再度選択して、さらに移動できます。

---

#### 関連リンク

[オートメーションレーンの表示/非表示の切り替え \(423 ページ\)](#)

## オートメーションイベントの削除

単一または複数のオートメーションイベントを削除できます。

#### 前提

オートメーションイベントを削除するインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

---

#### 手順

1. [E] を押して、**削除ツール**を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、オートメーションイベントを削除します。
  - 削除するオートメーションイベントをクリックします。
  - 削除するオートメーションイベントを範囲選択します。

---

#### 結果

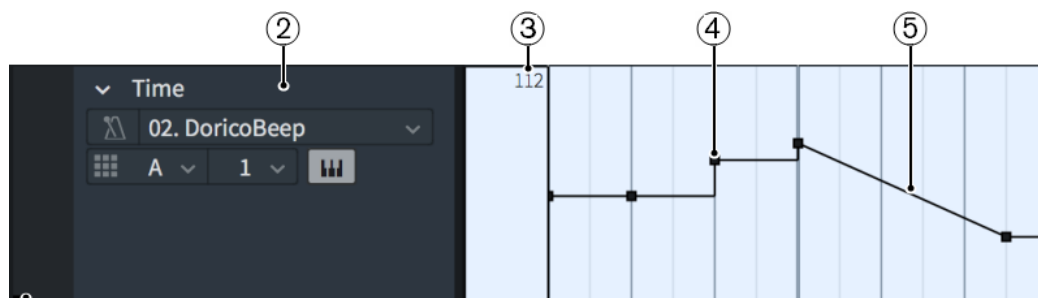
クリックしたオートメーションイベントまたは範囲選択内に含まれたオートメーションイベントが削除されます。

#### 関連リンク

[オートメーションレーンの表示/非表示の切り替え \(423 ページ\)](#)

## タイムトラック

タイムトラックでは、プロジェクトのテンポを確認したり、新しくテンポ変更を加えるなどしてテンポを編集したりできます。タイムトラックは、再生モードのイベントディスプレイで一番上のプレーヤートラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



①

タイムトラック

タイムトラックには以下のセクションが含まれます。

### 1 トラックの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。

### 2 トラックヘッダー

トラック名が表示されます。またメトロノームの音源を選択するメニューなど、使用可能なオプションが含まれます。

### 3 固定テンポ値

タイムトラックのマウスポインターの位置に対応するテンポが表示されます。

### 4 固定テンポ変更

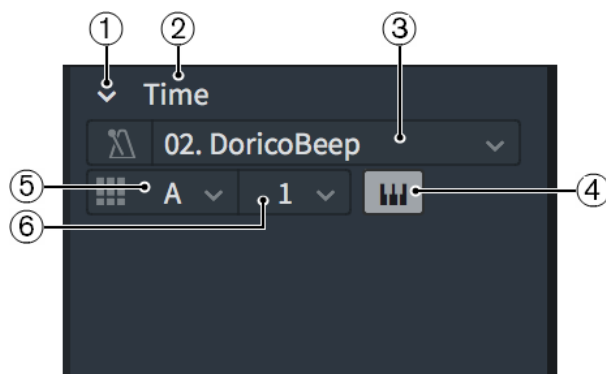
テンポの瞬間的な変化が階段状に示されます。

### 5 段階的テンポ変更

テンポ変化の開始位置から終了位置までの間に、テンポが一定の割合で変化することが示されます。

## ヒント

タイムトラックでクリックやドラッグをしてテンポを変更すると、一時的に正確なテンポ値が表示されます。



タイムトラックのヘッダー

タイムトラックのヘッダーには以下のセクションが含まれます。

### 1 トラック展開矢印マーク

トラックを展開したり折りたたんだりできます。

## 2    トラック名

トラックの名前が表示されます。

## 3    VST/MIDI インストゥルメントメニュー

メトロノームクリックに使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのインスタンスを選択できます。

## 4    インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)

該当の VST インストゥルメントを開き、スロットまたはチャンネルの設定を編集できます。

## 5    ポートメニュー

16 チャンネルでポートが複数あるプラグインを使用する場合に、使用するポートを選択して、**タイム**トラックを割り当てるエンドポイントを変更できます。

## 6    スロットメニュー

メトロノームクリックに使用する VST インストゥルメントのスロット、または選択した MIDI インストゥルメントのチャンネルを指定して、**タイム**トラックを割り当てるエンドポイントを変更できます。

以下のツールを使用して、再生モードの**タイム**トラックにテンポ変更を入力できます。

- **鉛筆**: 現在のリズムグリッドの値に従って、一定間隔で個別のテンポ変更を入力します。
- **ライン**: 範囲の開始位置と終了位置にのみテンポ変更を入力します。

再生モードの**タイム**トラックで入力したテンポ変更は、デフォルトでは記譜モードでガイドとして表示されます。これは印刷した楽譜の外観が変更されないようにするためです。デフォルトでは、ガイドは印刷されません。そのため、楽譜にテンポ変更が印刷されるようにするには、記譜モードでテンポ変更を選択して、プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループの「**メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)**」をオンにします。その他に、テキストを追加したりしてガイドの外観を変更することもできます。

**タイム**トラックに入力したすべてのテンポ変更は、書き出した MIDI ファイルに含まれます。

関連リンク

[再生ツールボックス \(405 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(148 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(960 ページ\)](#)

[固定テンポ変更のタイプと外観の変更 \(969 ページ\)](#)

[ガイド \(284 ページ\)](#)

## タイムトラックへのテンポ変更の入力

再生モードの**タイム**トラックには、段階的テンポ変更などのテンポ変更を入力できます。**タイム**トラックに入力したテンポ変更は、テンポ変更としてではなく、ガイドとしてレイアウトに表示されます。

前提

「**Time**」トラックを表示しておきます。

---

手順

1. **タイム**トラックを展開します。

2. 入力するテンポ変更の種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。

- 現在のリズムグリッドの値に従って一定間隔ごとに単一または複数の固定テンポ変更を入力するには、**[D]** を押すか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックして、**鉛筆**ツールを選択します。



- 段階的なテンポ変更を入力するには、再生ツールボックスの「**ライン (Line)**」をクリックして**ライン**ツールを選択します。



- 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ変更を入力します。
  - 単一の固定テンポ変更を入力するには、**タイム**トラック内のテンポ変更を追加する位置でクリックします。
  - 一定間隔ごとに複数の固定テンポ変更を入力するには、**タイム**トラック内でクリックアンドドラッグします。
  - 段階的なテンポ変更を入力するには、**タイム**トラック内のテンポ変更の開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

#### ヒント

マウスポインターの現在の垂直位置に対応するメトロノームの値が、**タイム**トラックのヘッダーに表示されます。

#### 結果

テンポ変更が入力されます。これにより再生速度が変更されますが、レイアウトにはテンポ変更が表示されません。かわりにガイドとして表示されます。

テンポ変更は書き出した MIDI ファイルに含まれます。

#### 関連リンク

[トラックの表示/非表示の切り替え \(434 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(967 ページ\)](#)

[ガイド \(284 ページ\)](#)

[リズムグリッドの値の変更 \(148 ページ\)](#)

## タイムトラックのテンポ変更の移動

**タイム**トラックの個別のテンポ変更を別の位置に移動できます。この変更は、プロジェクト全体に反映されます。

#### 前提

- 「**Time**」トラックを表示しておきます。
- 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。

#### 手順

- タイム**トラックで、以下のいずれかの操作を行なって、移動するテンポ変更を選択します。
  - 単一のテンポ変更を選択します。
  - 複数のテンポ変更を範囲選択します。
- [Ctrl]/[command]** を押しながら、選択したテンポ変更を左右にドラッグします。

#### 補足

- [Ctrl]/[command]** を押さずに選択したテンポ変更を左右にドラッグすることもできますが、その場合テンポ変更が上下にも移動してテンポの値が変わる可能性があります。
- 1 回の操作で既存のテンポ変更を越えるテンポ変更の移動はできません。マウスを放すと、既存のテンポ変更が移動したテンポ変更置き換えられます。移動したテンポ変更を再度選択して、さらに移動できます。

#### 結果

選択したテンポ変更の位置が変更されます。この変更は、移動したテンポ変更が含まれるすべてのレイアウトにも反映されます。

手順終了後の項目

テンポ変更を上下に移動することで、テンポの値を変更することもできます。

関連リンク

[タイムトラック \(426 ページ\)](#)

[トラックの表示/非表示の切り替え \(434 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(967 ページ\)](#)

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(42 ページ\)](#)

## タイムトラックでのテンポの変更

タイムトラックでは、個々のテンポ変更のテンポを変更できます。

前提

- 「Time」トラックを表示しておきます。
- 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。

---

手順

1. **タイム**トラックで、以下のいずれかの操作を行なって、変更するテンポが含まれるテンポ変更を選択します。
  - 単一のテンポ変更を選択します。
  - 複数のテンポ変更を範囲選択します。
2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら、選択したテンポ変更を上下にドラッグします。マウスポインターの横にテンポ値が表示され、テンポを視覚的に確認できます。

ヒント

- テンポを細かく変更したい場合は、**[Alt]** を押しながらドラッグします。
- **[Alt]** を押さずに選択したテンポ変更を上下にドラッグすることもできますが、その場合テンポ変更が左右にも移動してテンポ変更の位置が変わる可能性があります。

---

結果

選択したテンポ変更のテンポが変更されます。この変更は、再生速度やレイアウトに表示されるすべてのテンポ変更のメトロノームマークに影響します。

関連リンク

[トラックの表示/非表示の切り替え \(434 ページ\)](#)

## タイムトラックのテンポ変更の削除

タイムトラックのテンポ変更を削除できます。

前提

「Time」トラックを表示しておきます。

---

手順

1. **[E]** を押して、**削除**ツールを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ変更を削除します。
  - 削除する各テンポ変更をクリックします。
  - 削除するテンポ変更を範囲選択します。

## 結果

クリックしたテンポ変更または範囲選択内に含まれたテンポ変更が削除されます。これによって、レイアウトの対応するテンポ記号やテンポ記号ガイドも削除されます。

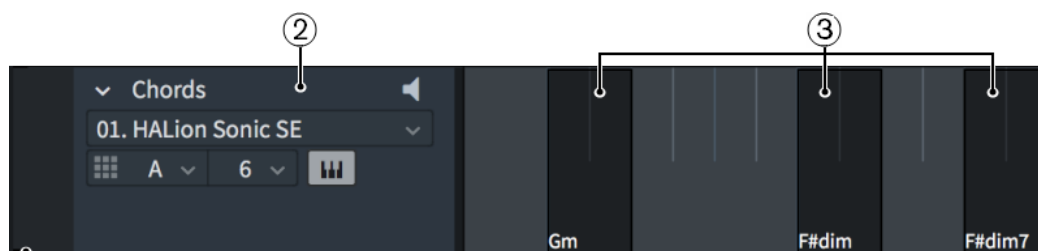
## 関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(42 ページ\)](#)

# コードトラック

コードトラックはすべてのプロジェクトに含まれます。このトラックに VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントを割り当てて、スコアにコード記号として入力した和音を再生できます。

コードトラックは、イベントディスプレイで一番上のプレーヤートラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



①

コードトラック

コードトラックには以下のセクションが含まれます。

### 1 トラックの高さの調節

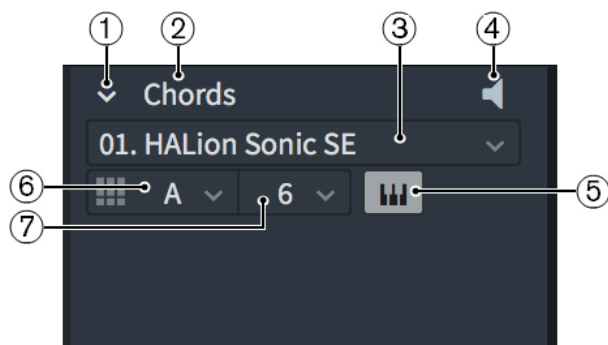
トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。

### 2 トラックヘッダー

トラック名が表示されます。また和音の再生のオン/オフを切り替えるボタンなど、使用可能なオプションが含まれます。

### 3 和音

フローにあるコード記号の位置と名前を示します。



コードトラックのヘッダー

コードトラックのヘッダーには以下のセクションが含まれます。

### 1 トラック展開矢印マーク

トラックを展開したり折りたたんだりできます。

### 2 トラック名

トラックの名前が表示されます。

### 3 VST/MIDI インストゥルメントメニュー

和音の再生に使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのインスタンスを選択できます。

#### 4 Enable Chords Playback

再生に和音を含めるかどうかを切り替えられます。

#### 5 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)

該当の VST インストゥルメントを開き、スロットまたはチャンネルの設定を編集できます。

#### 6 ポートメニュー

16 チャンネルなどの複数のポートを持つプラグインを使用する場合に、使用するポートを選択してコードトラックを割り当てるエンドポイントを変更します。

#### 7 スロットメニュー

和音の再生に使用する VST インストゥルメントのスロット、または選択した MIDI インストゥルメントのチャンネルを指定して、コードトラックを割り当てるエンドポイントを変更できます。プロジェクトにサウンドをロード済みの既存のスロットを使用するか、和音の再生専用新しいサウンドをロードした新規スロットを使用できます。

#### 補足

- 再生で和音を聴けるようにするには、コードトラックに VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントと、スロットを割り当てる必要があります。
- コードトラックに空のスロットを割り当てたあと、プロジェクトに他のインストゥルメントを追加した場合、その新しいインストゥルメントのサウンドでスロットが上書きされます。

#### 関連リンク

[コード記号 \(571 ページ\)](#)

[VST インストゥルメントおよび MIDI インストゥルメントの手動ロード \(408 ページ\)](#)

[トラックの表示/非表示の切り替え \(434 ページ\)](#)


## コード記号の再生の有効化

再生にコード記号を含めることができます。コード記号は伸ばした和音として再生され、そのデュレーションは次のコード記号との間隔によって決められます。MIDI キーボードを使って入力したコード記号には、コード記号の入力時に使用したのと同じボイスイングが使用されます。

#### 前提

コードトラックを表示しておきます。

#### 手順

- コードトラックのヘッダーで、「**Enable chords playback**」をクリックします。  

- 和音の再生に特定のサウンドを使用する場合は、コードトラックを展開します。
- コードトラックのヘッダーで、「**ポート (Port)**」および「**スロット (Slot)**」メニューを使ってエンドポイントを選択します。

#### 関連リンク

[トラックの表示/非表示の切り替え \(434 ページ\)](#)

[エンドポイント \(452 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(452 ページ\)](#)

## マーカートラック

マーカートラックでは、プロジェクトのマーカを確認したり、新しいマーカを挿入したりできます。マーカートラックは、再生モードのイベントディスプレイで一番上のプレーヤートラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



マーカートラック

マーカートラックには以下のセクションが含まれます。

- 1** **トラックの高さの調節**  
トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。
- 2** **トラックヘッダー**  
トラック名が表示され、トラックタイプに応じたオプションが含まれます。
- 3** **マーカを追加 (Add Marker)**  
現在の再生ヘッドの位置に、新しいマーカを追加できます。
- 4** **マーカ**  
マーカテキストと一緒にフローの各マーカの位置が表示されます。

関連リンク

[マーカ](#) (822 ページ)

[ビデオ](#) (128 ページ)

[トラックの表示/非表示の切り替え](#) (434 ページ)

[マーカに表示されるテキストの変更](#) (823 ページ)

## マーカートラックでのマーカの入力

再生モードのマーカートラックに、マーカを直接入力できます。

前提

マーカートラックを表示しておきます。

手順

- 1.** マーカを入力する位置に再生ヘッドを移動します。

### 補足

時間がマイナスの位置にはマーカを入力できません。たとえば、ビデオがフローの3小節めから開始される場合、フローの最初のタイムコードはマイナスになります。

- 2.** マーカートラックのヘッダーで、「**マーカを追加 (Add Marker)**」をクリックします。



結果

再生ヘッドの位置にマーカが入力されます。デフォルトのマーカテキストである「Marker」が表示されます。



例



マーカートラックに表示されたマーカー

手順終了後の項目

マーカーテキストは変更できません。

関連リンク

[ビデオの開始位置の変更](#) (131 ページ)

[マーカーに表示されるテキストの変更](#) (823 ページ)

[再生ヘッドの移動](#) (435 ページ)

## ビデオトラック

ビデオトラックには、楽譜に対するフローでのビデオの位置が表示されます。ビデオトラックは、再生モードのイベントディスプレイで一番上のプレーヤートラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



①

ビデオトラック

ビデオトラックには以下のセクションが含まれます。

**1**    **トラックの高さの調節**

トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。

**2**    **トラックヘッダー**

トラック名が表示され、トラックタイプに応じたオプションが含まれます。

**3**    **e**

ビデオウィンドウの表示/非表示を切り替えられます。このボタンの機能は、ツールバーの「**ビデオを表示 (Show Video)**」と同じです。

**4**    **ビデオファイル名**

**5**    **ビデオ領域**

楽譜に対するビデオファイルの位置と長が表示されます。

関連リンク

[ビデオ](#) (128 ページ)

[ビデオの追加](#) (130 ページ)

[「ビデオ \(Video\)」ウィンドウを表示/非表示にする](#) (132 ページ)

[ビデオの開始位置の変更](#) (131 ページ)

[ツールバー](#) (33 ページ)

## トラックの展開/折りたたみ

再生モードのトラックは個別に展開したり折りたたんだりできます。また現在のフローのすべてのプレーヤートラックを同時に展開または折りたたみできます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、トラックを展開/折りたたみを切り替えます。
  - 展開矢印マークをクリックして、個別のトラックを展開/折りたたみを切り替えます。
  - **[Ctrl]/[command]** を押しながらいずれかのプレーヤートラックの展開矢印マークをクリックして、すべてのプレーヤートラックを展開/折りたたみを切り替えます。

---

## トラックの高さの変更

すべてのタイプのトラックの高さはいつでも変更できます。たとえば、1つのトラックをイベントディスプレイに一時的に大きく表示して、より細かい作業をすることができます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、トラックの高さを変更します。
  - トラックの高さを高くするには、トラックを選択して **[Shift]+[H]** を押します。
  - トラックの高さを低くするには、トラックを選択して **[Shift]+[G]** を押します。
  - いずれかのトラックの左下の角をクリックし、上下にドラッグします。

### ヒント

マウスポインターを適切な位置に合わせると、上下の矢印のアイコンに変わります。

---

### 関連リンク

[イベントディスプレイのトラックのズームイン/ズームアウト \(417 ページ\)](#)

## トラックの表示/非表示の切り替え

再生モードのイベントディスプレイで一番上のプレーヤートラックの上に表示されるトラックは、表示/非表示を切り替えられます。

デフォルトでは、**タイム**トラックと**コード**トラックのみが表示されます。プロジェクトのフローに1つでもビデオを追加していれば、**タイム**トラック、**コード**トラック、**マーカ**トラック、および**ビデオ**トラックのすべてがデフォルトで表示されます。

---

### 補足

プレーヤートラックおよびインストゥルメントトラックは、表示/非表示を切り替えられません。

---

### 手順

- 「再生 (Play)」 > 「トラック (Tracks)」 > [トラックタイプ] を選択します。  
たとえば、「再生 (Play)」 > 「トラック (Tracks)」 > 「タイムトラック (Time Track)」を選択して、**タイム**トラックの表示/非表示を切り替えます。

---

### 結果

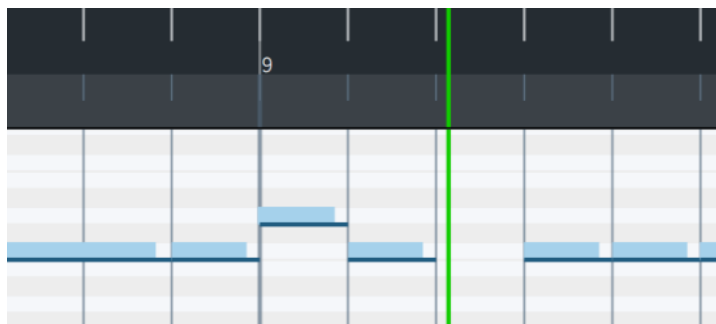
サブメニュー内の項目の横にチェックが付いているトラックタイプは表示され、付いていないトラックタイプは非表示になります。

関連リンク  
[トラック \(417 ページ\)](#)

## 再生ヘッド

再生ヘッドは、再生時に移動して現在の再生位置を示す垂直の線です。“再生ライン”とも呼ばれます。

再生ヘッドは、再生モードでは常に表示されますが、その他のモードでは再生時に表示されます。「**環境設定 (Preferences)**」ダイアログの「**再生 (Play)**」ページで、他のモードでの再生停止時にも再生ヘッドが表示されるように設定することもできます。



再生モードの再生ヘッド

Dorico Pro では、再生ヘッドが再生中に楽譜に沿って移動し、常に表示され続けますが、再生ヘッドを手動で動かすこともできます。再生ヘッドに沿ってスクロールする際、可能な限り組段が画面上の同じ位置に表示されるため、一貫性を保ちながら楽譜を追うことができます。

関連リンク  
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## 再生ヘッドの移動

再生ヘッドは、再生中に楽譜に沿って自動的に移動しますが、すべてのモードで再生ヘッドを手動で移動することもできます。

再生ヘッドは、停止時と再生中の両方で移動できますが、再生中はすべての移動方法が使用できるわけではありません。

デフォルトで、再生ヘッドは再生時のみ表示されます。再生ヘッドを常に表示するには、「**環境設定 (Preferences)**」の「**再生 (Play)**」ページで設定します。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、再生ヘッドを移動します。
  - 再生ヘッドを進めるには、テンキーの **[+]** (プラス) を押します。
  - 再生ヘッドを戻すには、テンキーの **[-]** (マイナス) を押します。
  - 再生ヘッドをフローの最初に移動するには、テンキーの **[.]** (ピリオド) を押します。
  - 再生ヘッドを選択したアイテムの先頭に移動するには、**[Alt]+[P]** を押します。
  - 再生ヘッドを次のフレームに進めるには、**[Ctrl]/[command]+[F9]** または **[Ctrl]/[command]+テンキー [+]** (テンキーのプラス) を押します。
  - 再生ヘッドを前のフレームに戻すには、**[Ctrl]/[command]+[F7]** または **[Ctrl]/[command]+テンキー [-]** (テンキーのマイナス) を押します。
  - 再生ヘッドを早送りするには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで「**高速早送り (Fast Forward)**」をクリックします。

- 再生ヘッドを巻き戻すには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで「**巻き戻し (Rewind)**」をクリックします。
- フローの最初に移動するには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで「**フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)**」をクリックします。
- 再生モードで、ルーラー上の任意の場所をクリックします。

#### 補足

再生中は、ルーラー上をクリックして再生ヘッドを移動することはできません。

#### 関連リンク

[トランスポートウィンドウ \(450 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## 楽譜の再生

記譜した楽譜は、プロジェクトの最初または任意の位置から再生できます。またどのモードでも、再生のキーボードショートカットを使用できます。

#### 手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、再生を開始します。
  - 選択位置からすべてのインストゥルメントを再生するには、単一の音符を選択して **[P]** を押します。
  - 選択位置からすべてのインストゥルメントを再生するには、単一の音符を選択して「**再生 (Play)**」 > 「**選択位置から再生 (Play From Selection)**」をクリックします。
  - 単一の譜表のみを再生するには、譜表上の複数のアイテムを選択して **[P]** を押します。

#### 補足

再生モードでソロやミュートにされるチャンネルは影響を受けません。

- 複数の譜表を再生するには、それらの譜表上のアイテムを選択して **[P]** を押します。

#### 補足

再生モードでソロやミュートにされるチャンネルは影響を受けません。

- 再生ヘッド位置から再生を続行するには、**[Space]** を押します。
  - 直前の再生と同じ位置から再生するには、**[Shift]+[Space]** を押します。これは、直前の再生位置のアイテムの選択を解除した場合でも機能します。
  - フローの最初から再生を開始するには、**[Shift]+[Alt]+[Space]** を押します。
  - 「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウの「**再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)**」をクリックします。
  - 「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウの「**選択位置から再生 (Play From Selection)**」をクリックします。
  - 「**再生 (Play)**」 > 「**再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)**」を選択します。
  - 「**再生 (Play)**」 > 「**最後に開始した位置から再生 (Play From Last Start Position)**」を選択します。
  - 「**再生 (Play)**」 > 「**フローの最初から再生 (Play From Start of Flow)**」を選択します。
  - 「**再生 (Play)**」 > 「**プロジェクトの最初から再生 (Play From Start of Project)**」を選択します。
2. 必要に応じて、再生中に再生ヘッドを前後に移動します。

- 以下のいずれかの操作を行なって、再生を停止します。
  - [Space] または [P] を押します。
  - テンキーの [0] を押します。
  - 「トランスポート (Transport)」 ウィンドウで「停止 (Stop)」 をクリックします。

#### 関連リンク

[トラックをミュート/ソロにする \(437 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」 ダイアログ \(452 ページ\)](#)

## トラックをミュート/ソロにする

トラックは個別にミュート/ソロにできます。これによって再生中に音を出すグループを固定できます。たとえば、特定のプレーヤーのグループのみを同時に聴くことができます。

#### 手順

- ツールバーの「ミキサーを表示 (Show Mixer)」をクリックして、ミキサー を表示します。



- ミキサー で、ミュート/ソロにする各チャンネルの上の対応するボタンをクリックします。

- ミュート (Mute)



- ソロ (Solo)



#### 結果

対応するボタンがオンになり、各トラックがミュート/ソロになります。

ミュート/ソロにするトラックを変更するまで、再生するトラックの設定は維持されます。つまり、再生するたびにトラックを再選択する必要はありません。たとえば、トラックが8つあり、4つをソロにした場合、その4つのトラックのみが再生されます。2つのトラックをミュートした場合、その2つは再生されず、他の6つのトラックが再生されます。

#### 補足

- トラックをソロにすると、他のすべてのトラックがミュートされます。ミュートされたトラックをソロにすると、自動的にミュートが解除されます。
- トラックまたは譜表の音符やアイテムを選択して、特定のトラックや譜表のみを再生することもできます。

#### 例



オンのときの「ミュート (Mute)」



オンのときの「ソロ (Solo)」

#### 関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(434 ページ\)](#)

[音符/アイテムを個別にミュートする \(439 ページ\)](#)

## インストゥルメントのミュート/ソロ

現在選択しているインストゥルメントをソロにすることで、自動的に他のすべてのインストゥルメントをミュートできます。この機能はプロジェクトの特定のセクションでの作業時に、限定したインストゥルメントのみを再生する場合に役立ちます。

### 手順

1. ソロにする各インストゥルメントに含まれている音符を少なくとも1つ選択します。この操作は記譜モード、浄書モード、再生モードで行なえます。
2. **[Alt]+[S]** を押します。

### 結果

選択したインストゥルメントはソロになり、他のすべてのインストゥルメントはミュートされ、それぞれのミュート/ソロ状態がミキサー内で変更されます。対象のインストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除するまで、インストゥルメントのミュート/ソロは継続します。

### ヒント

また、ミキサーでインストゥルメントの状態を変更することなく、再生される譜表を再生ごとに指定できます。

### 関連リンク

[ミキサー \(448 ページ\)](#)

## インストゥルメントのミュート/ソロ状態の解除

たとえば、一部のインストゥルメントをソロにしたあとで、すべてのインストゥルメントを再生する場合に、プロジェクト内のすべてのインストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除できます。この操作はどのモードでも行なえます。

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除します。
  - すべてのインストゥルメントのミュート状態を解除するには、**[Alt]+[U]** を押します。
  - すべてのインストゥルメントのソロ状態を解除するには、**[Shift]+[Alt]+[S]** を押します。
  - ミキサーで、「**ミュート状態をすべて解除する (Deactivate All Mute States)**」をクリックします。
  - ミキサーで、「**ソロ状態をすべて解除する (Deactivate All Solo States)**」をクリックします。

### 結果

プロジェクト内のすべてのインストゥルメントの対応する状態が解除されます。たとえばミュート状態とソロ状態の両方を解除すると、すべてのインストゥルメントがデフォルトの状態に戻り、再生にすべてのインストゥルメントが含まれるようになります。

### 関連リンク

[ミキサー \(448 ページ\)](#)

## 音符/アイテムを個別にミュートする

音符やアイテムを個別にミュートすることで、それらを削除せずに再生から除外できます。これにより、たとえば、アルペジオなしで和音を聴いたり、複数の強弱記号があるパッセージを単一の音量レベルで聴いたりできます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、再生時にミュートする音符/アイテムを選択します。
2. プロパティパネルの「一般 (Common)」グループで、「ミュート (Muted)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

### 結果

チェックボックスがオンの場合、選択された音符/アイテムはミュートされて再生時に再生されません。チェックボックスがオフの場合は、ミュートされません。

## ボリュームフェーダーの変更のリセット

ミキサーでボリュームフェーダーに加えた変更をリセットして、デフォルトレベルに戻すことができます。

### 前提

ミキサーウィンドウを表示しておきます。

---

### 手順

- ミキサーで、[Ctrl]/[command] を押しながらかリセットする各ボリュームフェーダーをクリックします。

---

### 関連リンク

[ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え \(450 ページ\)](#)

[ミキサー \(448 ページ\)](#)

## テンポモードの変更

テンポモードは、単一の固定テンポと追従テンポ変更の間でいつでも切り替えられます。たとえば、複数のテンポ変更が含まれるプロジェクトで、MIDI の録音時に単一の固定テンポを使用できます。

---

### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、テンポモードを変更します。
  - いずれかのモードで、ツールバーの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」をクリックします。
  - 再生モードで、「再生 (Play)」 > 「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」を選択します。

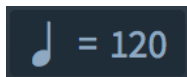
---

### 結果

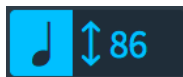
ツールバーの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」が点灯しているか、「再生 (Play)」メニューの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」の横にチェックが付いていないときは、追従テンポモードがオンになっています。

ツールバーの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」が消灯しているか、「再生 (Play)」メニューの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」の横にチェックが付いているときは、固定テンポモードがオンになっています。

例



固定テンポモードがオンのときのテンポ表示



追従テンポモードがオンのときのテンポ表示

## プリロールの長さの変更

Dorico Pro においてプリロールとは、各フローの最初の小節に含まれる最初の拍が再生されるよりも前に追加される時間のことです。たとえば、プロジェクト内に装飾音符で開始するフローがある場合などにプリロールの長さを変更します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。
3. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**フローの前のプリロール (Pre-roll before flow)**」の値を変更します。  
たとえば、単一の装飾音符で始まるフローの場合は、0.25 秒あれば十分です。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

秒数で表わされる、再生時のフローの前のプリロールの長さが変更されます。

## 再生時のチューニングの変更

ミドル C の上の A を基本とする、再生時に使用されるチューニングを変更できます。たとえば、A=415 Hz とするバロックピッチで楽譜を再生できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「**チューニング (Tuning)**」をクリックします。
3. 「**A4 のピッチ (Pitch of A4)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

プロジェクト全体の音符のチューニングピッチが変更され、再生時に演奏されるピッチに影響します。

## 再生時の反復

リピートジャンプやリピート領域が適切な位置にある場合、Dorico Pro はリピート括弧、リピート小節線、およびリピートマーカを含む反復記号の再生をサポートします。

単一のフロー内に含むことのできる反復記号に上限はなく、いくつ設定しても正しく再生されます。

初期設定では、「D.S. al Coda」などのリピートジャンプの場合を除き、Dorico Pro はリピートを再生に含めます。これらの両オプションは「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「反復 (Repeats)」ページで変更できます。

反復記号の再生中にミニトランスポートと「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウに表示される小節/拍のディスプレイおよびタイムディスプレイには、再生ヘッドの現在の位置が反映されます。



強弱記号やテンポ記号はリピート内で反映されます。また、リピートはオーディオまたは MIDI の書き出しにも含まれます。

関連リンク

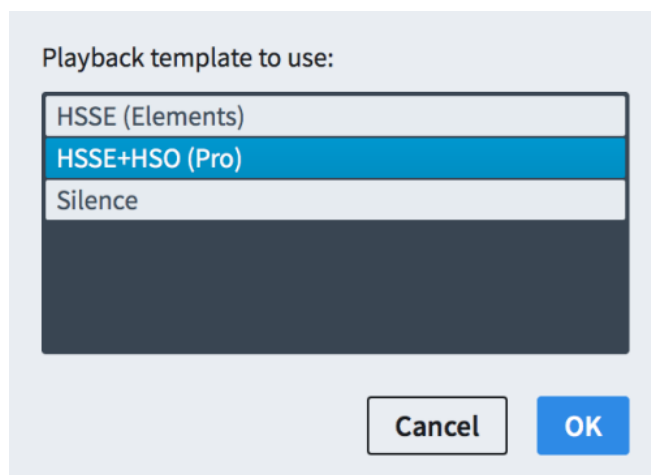
[トランスポートウィンドウ \(450 ページ\)](#)

[ミニトランスポート \(34 ページ\)](#)

## 再生テンプレート

Dorico Pro では再生テンプレートを使用して、VST インストゥルメントや MIDI デバイスのサウンドがプロジェクトのインストゥルメントに割り当てられます。

- 使用可能な再生テンプレートを確認するには、「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して、「再生テンプレート (Playback Template)」ダイアログを開きます。



「再生テンプレート (Playback Template)」ダイアログ

Dorico Pro では、以下の再生テンプレートが用意されています。

- **HSSE (Elements)**  
HALion Sonic SE を使用する場合に選択します。
- **HSSE+HSO (Pro)**  
HALion Sonic SE および HALion Symphonic Orchestra を使用する場合に選択します。
- **Silence**  
使用するとサウンドがロードされません。

### ヒント

「Silence」テンプレートを選択すると、Dorico Pro のプロジェクトファイルを電子メールなどで送信する場合に、ファイルのサイズが非常に小さくなります。

いずれの再生テンプレートを使用した場合でも、プロジェクトに追加した新規インストゥルメントに、Dorico Pro によって新しいサウンドが自動的にロードされます。

エンドポイントに割り当てられたエクスプレッションマップを変更するなどして、プロジェクトのインストゥルメントで使用されるサウンドを手動で変更してテンプレートを上書きできます。再生テンプレートを上書きすると、Dorico Pro によってテンプレートの設定が変更されなくなります。また、デフォルトの再生テンプレートを再適用するまで、新規インストゥルメントに新しいサウンドがロードされるのを防げます。

関連リンク

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(452 ページ\)](#)

[エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(455 ページ\)](#)

## 再生テンプレートの変更/リセット

現在開いているプロジェクトに使用される再生テンプレートを変更できます。たとえば、再生が必要がない場合に、Dorico Pro によってサウンドがロードされるのを防ぐことができます。再生テンプレートを再選択すると、テンプレートはデフォルト設定にリセットされます。

### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」 を選択して 「再生テンプレート (Playback Template)」 ダイアログを開きます。
2. 使用する再生テンプレートを選択します。
3. 「OK」 をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

現在のプロジェクトに使用される再生テンプレートが変更されます。使用中の再生テンプレートを再選択した場合、再生テンプレートがリセットされます。

### ヒント

「環境設定 (Preferences)」 の 「再生 (Play)」 ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトの再生テンプレートを変更できます。

### 関連リンク

[再生テンプレート \(441 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## スウィング再生

スウィングとは、音価の等しい音符が一定のパターンで長くまたは短く再生される演奏スタイルです。一般的に、2つの8分音符が4分音符の3連符とそれに続く8分音符の3連符として演奏されま



シンプルなストレート記譜でのスウィングフレーズ

2:1 スウィングでの同じスウィングフレーズ

スウィング再生により、たとえ2つめの8分音符が16分音符2つに分割されても、シンプルな記譜を保ったまま、不統一なリズムで楽譜を再生できます。Dorico Pro では、スウィング再生を、プロジェクト全体、特定のセクション、または個別のインストゥルメントのみに適用できます。「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログでデフォルトのスウィングパターンを編集して、好みのリズムックフィールをカスタマイズできます。

学術研究に基づいてミュージシャンがスウィングをレンダリングした結果、Dorico Pro のスウィングパターンはデフォルトでテンポに依存しています。つまり、遅いテンポではスウィングがより強調され、速いテンポではよりストレートに感じられます。「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログで、すべてのテンポで同じスウィング比率を再生するリズムックフィールを設定できます。

## 補足

現在、Dorico Pro では、8 分音符のスウィング再生にのみ対応しています。16 分音符のスウィング再生は、将来のバージョンにおいて予定されています。

### 関連リンク

[「リズムックフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ \(446 ページ\)](#)

## スウィング比率とリズムックフィール

スウィング比率は、拍子単位を使用してスウィングの強さを表わします。たとえば、2:1 のスウィング比率は、連符の最初の音符の長さが 2 番目の音符の 2 倍になり、3 連符のスウィングが作成されることを意味します。

スウィング比率が 1:1 の場合、楽譜はストレートに再生され、スウィング比率が 5:1 の場合、各連符は 6 連符のように演奏されます。6 連符のうち、最初の音符は 6 分割された拍の 5 拍分の長さで、2 番目の音符は残りの 1 拍分の長さで演奏されます。



スウィング比率 1:1



スウィング比率 5:1

Dorico Pro には、以下のリズムックフィールがデフォルトで用意されています。

### 2:1 スウィング (一定) (2:1 swing (fixed))

8 分音符の連符の最初の音符を 2 番目の音符の 2 倍の長さにするすることで、2:1 比率の 3 連符が作成されます。これは“3 連符スウィング”とも呼ばれます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

### 3:1 スウィング (一定) (3:1 swing (fixed))

8 分音符の連符の最初の音符を 2 番目の音符の 3 倍の長さにするすることで、付点 8 分音符と 16 分音符の比率が作成されます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

### 重いスウィング (Heavy swing)

遅いテンポでは 3:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変するスウィング比率が作成されます。

### 軽いスウィング (Light swing)

遅いテンポでは 1.5:1、速いテンポでは 1:1 のテンポによって可変するスウィング比率が作成されます。

### ミディアムスウィング (Medium swing)

遅いテンポでは 2:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変するスウィング比率が作成されます。

### ストレート (スウィング無し) (Straight (no swing))

スウィングは作成されません。つまり、すべてのテンポで 8 分音符が 1:1 の比率で等しく演奏されます。

使用するスウィング比率は、プロジェクト全体、特定のセクション、および個別のプレーヤーで変更できます。「リズムックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログでは、これらの設定を編集して独自のスウィング比率を作成できます。

### 関連リンク

[「リズムックフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ \(446 ページ\)](#)

## プロジェクト全体にスウィング再生を適用する

いずれかのデフォルトのスウィング比率またはプロジェクトで作成したカスタムスウィング比率を使用して、プロジェクト全体にスウィング再生を適用できます。

### 前提

スウィング再生にカスタムリズムフィールを使用する場合は、あらかじめ作成しておきます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
3. 「リズムフィール (Rhythmic Feel)」セクションで、「デフォルトのリズムフィール (Default rhythmic feel)」のメニューから使用するリズムフィールを選択します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

### 結果

たとえ 2 つめの 8 分音符が 16 分音符 2 つに分割されても、プロジェクト内の 8 分音符の連符すべてが、選択したスウィング比率で再生されます。

### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

[スウィング再生用のカスタムリズムフィールの作成 \(445 ページ\)](#)

[「リズムフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ \(446 ページ\)](#)

## 特定のセクション/プレーヤーにスウィング再生を適用する

プロジェクトの特定のセクションや個別のプレーヤーにスウィング再生を適用できます。たとえば、ソリストの 12 小節分のセクションのみでスウィングできます。

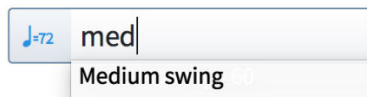
### 手順

1. 記譜モードで、スウィング再生のためにリズムフィールを変更する小節の先頭のアイテムを選択します。

#### 補足

小節の先頭以外のアイテムを選択した場合、リズムフィールの変更は次の小節の最初から適用されます。

2. **[Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに使用するリズムフィールを入力します。たとえば、ミディアムスウィングを使用するには、「med」と入力します。  
テンポのポップオーバーにリズムフィールを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるリズムフィールがメニューに予測表示され、そこから使用するリズムフィールを選択できます。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、リズムフィールの変更を入力し、ポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表にリズムフィールの変更を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表にのみリズムフィールの変更を入力するには、**[Alt]+[Return]** を押します。

#### 結果

スウィング再生に使用されるリズムフィールドは小節の最初から変更されます。小節の先頭以外のアイテムを選択した場合、リズムフィールドの変更は次の小節の最初から適用されます。[Alt]+[Return] を押した場合、リズムフィールドの変更は選択したアイテムが位置する譜表にのみ適用されます。

入力したリズムフィールドの名前を示すガイドが表示されます。すべての譜表に適用されるリズムフィールドの変更のガイドは、組段の一番上の譜表の上に表示され、特定の譜表に適用されるリズムフィールドの変更のガイドは、その譜表上に直接表示されます。

#### 関連リンク

[テンポのポップオーバー](#) (199 ページ)

## リズムフィールドの変更の削除

特定のセクションや個別のプレーヤーのみに適用したリズムフィールドの変更を削除できます。

#### 前提

リズムフィールドの変更のガイドを表示しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、削除するリズムフィールドの変更のガイドを選択します。
2. [Backspace] または [Delete] を押します。

---

#### 結果

リズムフィールドの変更が削除されます。影響を受けていた譜表の再生は、次のリズムフィールドの変更のガイドまで (存在する場合)、プロジェクト全体の設定に戻ります。

#### 関連リンク

[ガイドの表示/非表示の切り替え](#) (285 ページ)

## スウィング再生用のカスタムリズムフィールドの作成

デフォルトのリズムフィールドに含まれていないスウィング比率を使用したい場合に、カスタムリズムフィールドを作成してスウィング再生に使用できます。まったく新しいリズムフィールドを作成したり、既存のリズムフィールドをベースにして新しいリズムフィールドを作成したりできます。

---

#### 手順

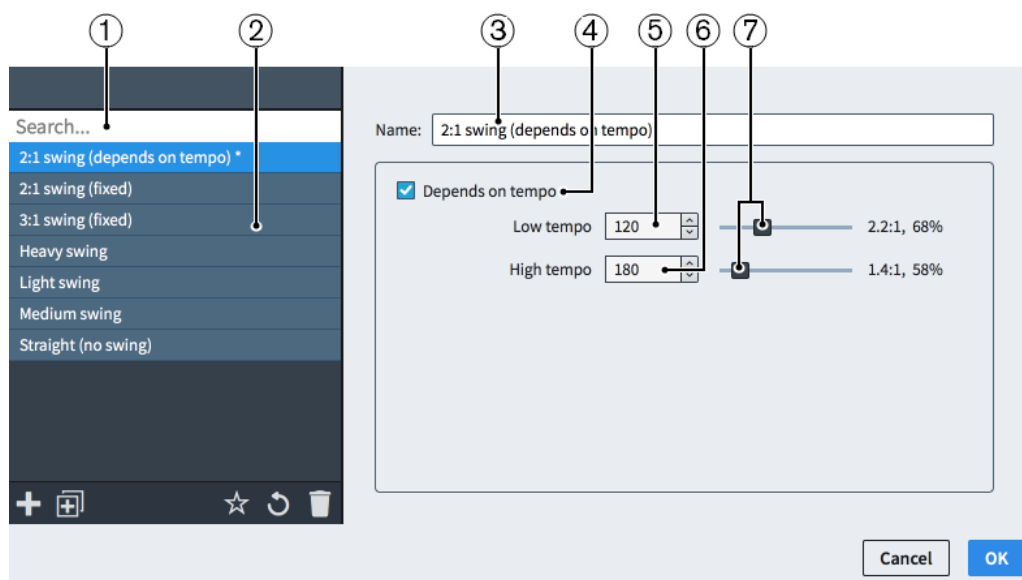
1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[P] を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
3. 「リズムフィールド (Rhythmic Feel)」セクションで、「編集 (Edit)」をクリックして「リズムフィールド (Rhythmic Feel)」ダイアログを開きます。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいリズムフィールドを作成します。
  - まったく新しいリズムフィールドを作成する場合は、「新規 (New)」をクリックします。
  - 既存のリズムフィールドをベースにして新しいものを作成する場合は、リズムフィールドリストから既存のものを選択し、「選択から新規作成 (New from Selection)」をクリックします。
5. 「名前 (Name)」フィールドにリズムフィールドの名前を入力します。
6. 「遅いテンポ (Low tempo)」のスウィング比率スライダーを任意の位置に移動します。
7. カスタムリズムフィールドのスウィング比率をテンポによって変化させる場合は、「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにします。

- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにした場合は、必要に応じて「遅いテンポ (Low tempo)」と「速いテンポ (High tempo)」のいずれかまたは両方の bpm の値を変更します。
- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンした場合は、「速いテンポ (High tempo)」のスウィング比率スライダーを任意の位置に移動します。
- 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 「リズムフィール (Rhythmic Feel)」 ダイアログ

「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログでは、スウィング再生に使用されるデフォルトのリズムフィール設定を編集してカスタムのリズムフィールを作成できます。

- 「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログを開くには、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」を選択して表示されるダイアログの「タイミング (Timing)」ページの「リズムフィール (Rhythmic Feel)」セクションにある「編集 (Edit)」をクリックします。



「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログ

「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

### 1 検索フィールド

テキストを入力してリズムフィールをフィルタリングできます。

### 2 リズムフィールのリスト

プロジェクトで使用できるリズムフィールが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- 新規 (New)



デフォルト値で新規のリズムフィールを作成できます。

- 選択から新規作成 (New from Selection)



リストで選択したリズムフィールをもとに新規のリズムフィールを作成します。デフォルトでは値は上書きされませんが、新規のリズムフィールのオプションは変更できます。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default)**



他のプロジェクトでも使用できるように、選択したリズムフィールドをライブラリーにコピーします。

- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)**



選択したリズムフィールドに加えた変更をすべて削除し、出荷時の設定に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択したリズムフィールドを削除します。

#### 補足

プリセットのリズムフィールドやプロジェクトで現在使用しているリズムフィールドは削除できません。

### 3 名前 (Name)

新規のリズムフィールドの名前を入力したり、既存のリズムフィールドの名前を編集したりできます。

### 4 テンポにより可変 (Depends on tempo)

スウィングのパターンが、すべてのテンポで固定の比率であるか、テンポに応じて変化するかをコントロールします。

- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにすると、スウィング比率はテンポに応じて変化します。「**速いテンポ (High tempo)**」用のスライダーが追加で表示され、「**遅いテンポ (Low tempo)**」と「**速いテンポ (High tempo)**」の両方の値を変更できます。
- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオフにすると、単一のスライダーのスウィング比率の値がすべてのテンポに使用されます。

### 5 遅いテンポ (Low tempo)

設定した値以下のテンポ (1 分間あたりの 4 分音符の数) で、スウィング比率が変化します。使用するスウィング比率は、右にあるスライダーでコントロールします。

### 6 速いテンポ (High tempo)

設定した値以上のテンポ (1 分間あたりの 4 分音符の数) で、スウィング比率が変化します。「**テンポにより可変 (Depends on tempo)**」がオンの場合、使用するスウィング比率は、右にあるスライダーでコントロールします。

### 7 スウィング比率のスライダー

「**遅いテンポ (Low tempo)**」の値以下のテンポと「**速いテンポ (High tempo)**」の値以上のテンポで使用されるスウィング比率を設定します。設定可能な範囲は、1:1 (ストレート) から 5:1 (2 番めの 8 分音符が 6 連符の最後の分割で演奏される) までです。

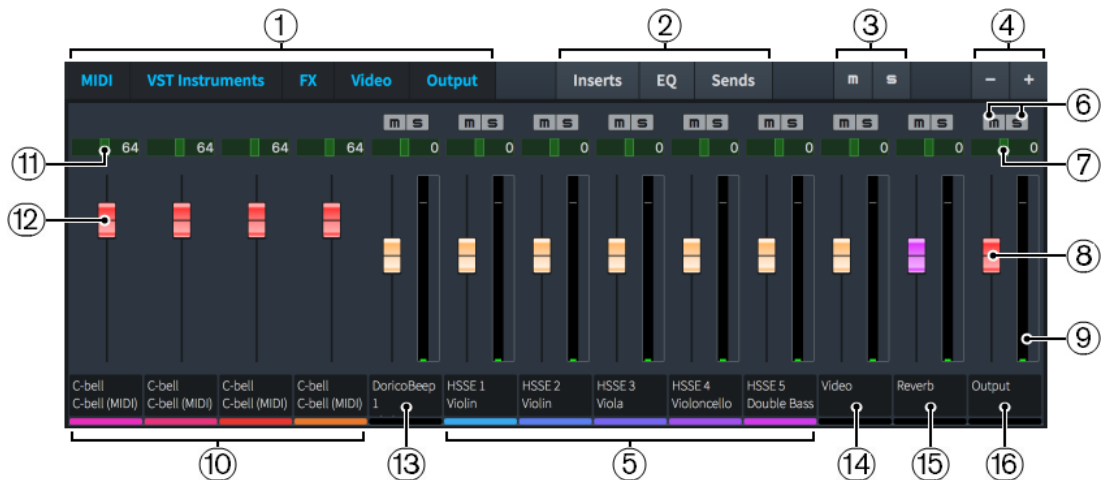
現在のスウィング比率とスウィングの割合の値が、スライダーの右に表示されます。

#### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## ミキサー

ミキサーでは、再生中に出力されるサウンドを、マスター出力と個々のチャンネルの両方でコントロールできます。



ミキサー

### 1 チャンネルタイプボタン

チャンネルのタイプに応じて、ミキサーに表示/非表示にするチャンネルを自由に組み合わせて選択できます。

### 2 チャンネルコントロール

チャンネルコントロールのタイプに応じて、チャンネルストリップに表示/非表示にするコントロールを自由に組み合わせて選択できます。

### 3 ミュート状態をすべて解除する (Deactivate All Mute States)/ソロ状態をすべて解除する (Deactivate All Solo States)

対応するボタンをクリックして、すべてのミュート/ソロを解除できます。

### 4 ズーム

チャンネルの幅を拡大/縮小できます。

### 5 VST チャンネル

プロジェクトに含まれる各 VST インストゥルメントの各ステレオ出力用にミキサーチャンネルがあります。インストゥルメントが複数の VST インストゥルメントインスタンスにまたがる場合でも、プロジェクトのインストゥルメントはすべて表示されます。デフォルトでチャンネルはステレオに設定されています。

### 6 ミュート/ソロ

トラックを個別にミュート/ソロにできます。

### 7 バランスパンナー

各トラックのサウンドを、ステレオ再生のステレオスペクトラムでパンニングできます。

### 8 フェーダー

各トラックのボリュームレベルをコントロールできます。  
MIDI チャンネルには MIDI フェーダーがあります。

### 9 チャンネルメーター

各チャンネルの出力ボリュームをリアルタイムに示します。

### 10 MIDI チャンネル

プロジェクトのすべての VST インストゥルメントには、VST チャンネルに加えて MIDI チャンネルもあります。MIDI チャンネルでは、各インストゥルメントの MIDI ボリュームと MIDI パンを変更できます。

### 11 MIDI パン



チャンネルの MIDI 出力を、ステレオ再生のステレオスペクトラムでパンニングできます。

#### 12 MIDI フェーダー

チャンネルの MIDI ボリュームを変更できます。

MIDI フェーダーは一部のプラグインに必要です。多くの場合、再生に MIDI デバイスを使用する場合に MIDI フェーダーが役立ちます。

#### 13 クリックチャンネル

メトロノームクリックのボリュームをコントロールできます。

#### 14 ビデオチャンネル

ビデオオーディオのボリュームをコントロールできます。

#### 15 FX Send チャンネル

リバーブなどの Send エフェクトのボリュームをコントロールできます。デフォルトでは、このチャンネルに REVerence が自動的に読み込まれています。

#### 16 出力チャンネル

マスター出力ボリュームをコントロールできます。

### 補足

プロジェクトのボリュームレベルをコントロールするために、トラックフェーダーを使用する前に強弱記号を入力して、強弱のカーブをプロジェクトに合わせて調整することをおすすめします。

ミキサー で加えた変更は自動的に保存され、プロジェクトに適用されます。

#### 関連リンク

[ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え \(450 ページ\)](#)

[トラックをミュート/ソロにする \(437 ページ\)](#)

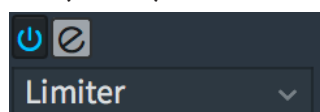
[ボリュームフェーダーの変更のリセット \(439 ページ\)](#)

## ミキサーのチャンネルストリップ

ミキサーの各チャンネルには、チャンネルコントロールが含まれる固有のチャンネルストリップがあります。各タイプのチャンネルコントロールは、ミキサーの一番上の対応するボタンをクリックして表示/非表示を切り替えられます。

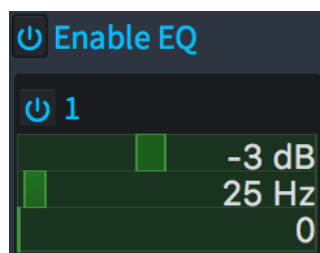
各チャンネルストリップには、以下のタイプのコントロールが含まれています。

#### インサート (Inserts)



各チャンネルには、Insert を読み込むことができるスロットが 4 つ備わっています。メニュー内の使用可能なオプションから Insert を選択できます。

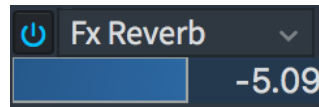
#### EQ



各チャンネルには、EQ のバンドが 4 つ備わっています。

チャンネルの EQ バンドを変更するには、まず「EQ を有効にする (Enable EQ)」をクリックする必要があります。この機能を使用すると、設定を保持したままチャンネルの EQ をバイパスできます。

#### センド (Sends)




各チャンネルには、Send 用のスロットが4つ備わっています。デフォルトでは、各チャンネルの最初のスロットが、リバーブが読み込まれている FX チャンネルに送られます。

## ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え

ミキサーウィンドウはいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域で作業をしているときに非表示にできます。

#### 手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ミキサー ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。
  - [F3] を押します。
  - ツールバーの「ミキサーを表示 (Show Mixer)」をクリックします。
  - 「ウィンドウ (Window)」 > 「ミキサー (Mixer)」を選択します。  
メニュー内の「ミキサー (Mixer)」の横にチェックが付いている場合は ミキサー ウィンドウが表示され、付いていない場合は非表示になります。

## トランスポートウィンドウ

トランスポートウィンドウには、Dorico Pro のすべてのトランスポート機能が含まれます。トランスポートウィンドウには、ツールバーのトランスポートより詳細なトランスポート機能や、ツールバーにはないトランスポート機能が含まれています。

以下のいずれかの操作を行なって、トランスポートウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

- [F2] を押します。
- ツールバーの「トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)」をクリックします。



#### トランスポートウィンドウ

トランスポートウィンドウには、以下の情報と機能が含まれます。

##### 1 小節/拍ディスプレイ

現在のフローの小節と拍に対する再生ヘッドの位置が、小節、拍、16分音符、16分音符テンポ120の順で表示されます。

## 2 タイムディスプレイ

再生ヘッドの位置が、経過時間(時間、分、秒、ミリ秒の順)で表示されます。または、現在のフローの再生ヘッドのタイムコード位置を、時間、分、秒、フレームの順で表示できます。

タイムディスプレイに経過時間とタイムコードのどちらを表示するかを切り替えるには、タイムディスプレイをクリックします。

## 3 フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)

フローの最初に再生位置を移動します。

## 4 巻き戻し (Rewind)

クリックするたびに、再生ヘッドが2分音符分巻き戻しされます。

## 5 高速早送り (Fast Forward)

クリックするたびに、再生ヘッドが2分音符分早送りされます。

## 6 停止 (Stop)

再生を停止します。

## 7 再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)

現在の再生ヘッドの位置から再生を開始します。

## 8 選択位置から再生 (Play from Selection)

楽譜領域で選択している最初のアイテムの位置から再生を開始します。

複数の譜表上のアイテムを選択するか、単一の譜表上の複数のアイテムを選択した場合は、アイテムを選択している譜表のみが再生されます。

## 9 録音 (Record)

MIDI 録音を開始/停止します。

## 10 非録音時の MIDI 入力データを記録 (Retrospective Record)

明示的に MIDI 入力データを録音していなかった場合でも、直前の再生中に演奏した MIDI データを取得して、任意の譜表に入力できます。

## 11 クリック (Click)

再生および録音中にメトロノームクリックを再生/ミュートします。

## 12 テンポ

再生と録音の両方に使用されるテンポが表示されます。再生ヘッドの現在の位置に従って値が、現在のモードに従って外観が変化します。

関連リンク

[ミニトランスポート \(34 ページ\)](#)

[テンポモードの変更 \(439 ページ\)](#)

## トランスポートディスプレイに表示する内容の変更

ツールバーのミニトランスポートとトランスポートウィンドウの両方で、表示をタイムコード、合計経過時間、および再生ヘッドの現在の位置(小節、拍、ティックで表わされる)で切り替えることができます。

---

手順

- ツールバーのミニトランスポートまたはトランスポートウィンドウのいずれかで、目的の内容が表示されるまでトランスポートディスプレイをクリックします。  
トランスポートウィンドウの場合、右側にあるディスプレイをクリックします。

---

結果

ミニトランスポートディスプレイをクリックするたびに、表示形式が再生ヘッドの位置、経過時間、タイムコードに切り替わります。

トランスポートウィンドウでは、再生ヘッドの位置がウィンドウの左側に常に表示されているため、タイムコードと経過時間のみで切り替わります。

#### ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以後のすべてのプロジェクトのミニトランスポートにデフォルトで表示される内容を変更できます。

#### 関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

[ミニトランスポート \(34 ページ\)](#)

[トランスポートウィンドウ \(450 ページ\)](#)

[タイムコード \(828 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## エンドポイント

“エンドポイント”とは、入力と出力の一意的組み合わせを表わし、これによって各インストゥルメントに正しい音が再生されます。

Dorico Pro では、各エンドポイントに以下のものが設定されます。

- 特定の VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイス
- 上記 VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスの特定のチャンネル
- 上記チャンネルに割り当てられたパッチまたはプログラム
- 上記パッチまたはプログラムで演奏できるインストゥルメントを示すエクスプレッションマップ (またはパーカッションマップ)、および提供された演奏技法とアーティキュレーション

プロジェクトの各インストゥルメントは特定のエンドポイントにリンクされており、同じエンドポイントにエクスプレッションマップを割り当てることで、キースイッチとコントローラースイッチで演奏技法と音符のアーティキュレーションを切り替えでき、再生中のインストゥルメントに必要なサウンドが反映されます。

HALion Sonic SE または HALion Symphonic Orchestra を使って「**HSSE+HSO (Pro)**」の再生テンプレートを使用する場合、エンドポイントおよびエクスプレッションマップは自動的に設定されます。ただし、別のプラグインを読み込んだり、HALion Sonic SE のパッチを変更したりする場合は、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを使用する必要があります。

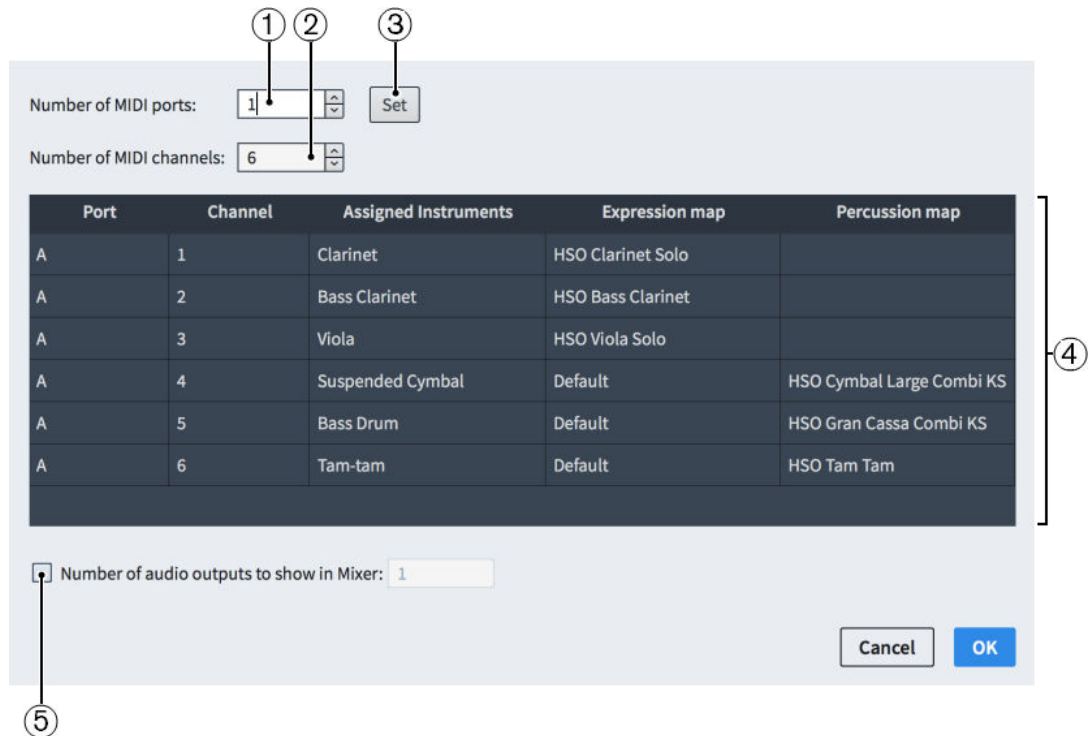
たとえば、プロジェクトで「**HSSE+HSO (Pro)**」の再生テンプレートを使用するとします。HALion Sonic SE のいずれかのサウンドを変更 (たとえば HALion Symphonic Orchestra の「Clarinet Combi」を「GM Clarinet」に変更) すると、正しく再生されません。これは、HALion Symphonic Orchestra のパッチではボリュームの強弱のコントロールにモジュレーションホイールが使用されるのに対して、GM パッチではノートベロシティが使用されるためです。このままで再生すると、音符は強弱が一切なく、ピブラートがかかりすぎます。この問題を修正するには、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開き、該当のチャンネルに設定されているエクスプレッションマップを、強弱のコントロールにモジュレーションホイールが使用される HALion Symphonic Orchestra の「Clarinet」からノートベロシティが使用される「**デフォルト (Default)**」に変更します。

## 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログ

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログでは、各エンドポイントにリンクされているエクスプレッションマップおよびパーカッションマップが表示され、これらの設定を変更できます。

- 「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開くには、VST および MIDI インストゥルメントパネルの各プラグインの横にある歯車ボタンをクリックします。





⑤ 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログ

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

**1 MIDI ポート数 (Number of MIDI ports)**

対応するプラグインで現在使用されている MIDI ポートの数が表示されます。

MIDI ポートの数を変更できます。たとえば、複数のポートが使用されるプラグインを使用する場合、デフォルトでは複数の MIDI ポートがロードされません。

**2 MIDI チャンネル数 (Number of MIDI channels)**

対応するプラグインで現在使用されている MIDI チャンネルの数が表示されます。

MIDI チャンネルの数を変更できます。たとえば、ピアノサンプラーのような MIDI チャンネルが 1 つしかないモノティンバーのプラグインを使用する場合と、MIDI チャンネルとオーディオ出力がそれぞれ 16 個あるマルチティンバーのプラグインを使用する場合で使い分けできます。

**3 設定 (Set)**

「MIDI ポート数 (Number of MIDI ports)」 および 「MIDI チャンネル数 (Number of MIDI channels)」 フィールドで指定した MIDI ポートまたは MIDI チャンネルの数をプラグインに設定します。

**4 エンドポイントの設定表**

対応するプラグインの設定が含まれます。以下のコラムがあります。

● **ポート (Port)**

その行のインストゥルメントで使用されるポートが表示されます。

補足

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログではポートを変更できません。ポートの変更はインストゥルメントトラックのヘッダーから行なう必要があります。

● **チャンネル (Channel)**

その行のインストゥルメントで使用されるチャンネルが表示されます。

#### 補足

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログではチャンネルを変更できません。チャンネルの変更はインストゥルメントトラックのヘッダーから行なう必要があります。

- **割り当てられたインストゥルメント (Assigned Instruments)**

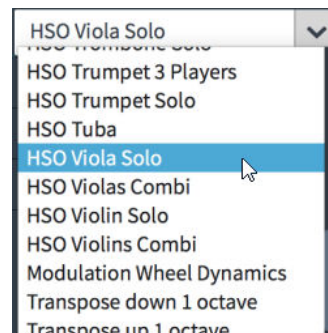
対応する行にインストゥルメント名が表示されます。

#### 補足

このフィールドにはインストゥルメントの基本の名前が表示されるため、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで変更した名前は表示されません。

- **エクスプレッションマップ (Expression map)**

その行のインストゥルメントに現在割り当てられているエクスプレッションマップが表示されます。エクスプレッションマップは、エクスプレッションマップをダブルクリックし、ポップアップメニューから別のエクスプレッションマップを選択して変更できます。



- **パーカッションマップ (Percussion map)**

その行のインストゥルメントに現在割り当てられているパーカッションマップが表示されます。パーカッションマップは、パーカッションマップをダブルクリックし、ポップアップメニューから別のパーカッションマップを選択して変更できます。

## 5 ミキサーに表示するオーディオ出力の数 (Number of audio outputs to show in Mixer)

ミキサーに表示するオーディオ出力の数を変更できます。たとえば、Dorico Pro で使用される数よりオーディオ出力が多いプラグインを使用する際に、使用されない出力を非表示にできます。

#### 関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(457 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(100 ページ\)](#)

## エンドポイントへのインストゥルメントの割り当て

インストゥルメントは、任意のエンドポイントに割り当てできます。たとえば、複数のポートがあるプラグインをロードし、既存のインストゥルメントのエンドポイントを新しいポートの1つに変更できます。

#### 手順

1. エンドポイントの割り当てを変更するインストゥルメントトラックを展開します。
2. 各インストゥルメントトラックのヘッダーで、以下のいずれかまたは両方のメニューに新しいオプションを選択します。
  - **MIDI ポート番号 (MIDI port number)**
  - **MIDI チャンネル (MIDI channel)**

#### 結果

インストゥルメントが割り当てられるエンドポイントが、以下のいずれかの方法で変更されます。

- 「**MIDI チャンネル (MIDI channel)**」の値のみを変更すると、対応するインストゥルメントで使用されるプラグインのチャンネルが変更されます。
- 「**MIDI ポート番号 (MIDI port number)**」と「**MIDI チャンネル (MIDI channel)**」の両方の値を変更すると、対応するインストゥルメントで使用されるプラグインとチャンネルのポートの両方が変更されます。

#### 関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(457 ページ\)](#)  
[インストゥルメントトラック \(419 ページ\)](#)

## エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て

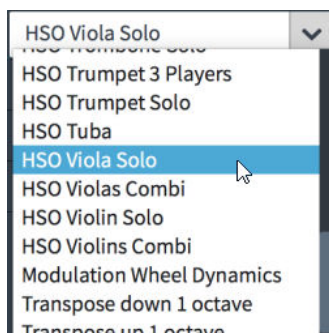
プロジェクトのエンドポイントにエクスプレッションマップ/パーカッションマップを割り当てることができます。たとえば、カスタムのパーカッションマップを作成して、対応する VST パッチのエンドポイントにリンクできます。

#### 手順

1. VST および MIDI インストゥルメントパネルで、エンドポイントに割り当てられたエクスプレッションマップ/パーカッションマップを変更するプラグインの横の歯車ボタンをクリックして、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開きます。



2. 変更するエクスプレッションマップ/パーカッションマップをダブルクリックします。
3. フィールドの右にある展開矢印マークをクリックします。  
ポップアップメニューが開き、プロジェクトに現在ロードされている同じタイプのマップがすべて表示されます。



4. ポップアップメニューから、使用するエクスプレッションマップ/パーカッションマップを選択します。
5. **[Return]** を押します。
6. 必要に応じて他のエンドポイントに手順 2~5 を繰り返して、割り当てられたエクスプレッションマップ/パーカッションマップを変更します。
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 関連リンク

[パーカッションマップ \(464 ページ\)](#)

## エクスプレッションマップ

エクスプレッションマップは、プロジェクトにロードした VST インストゥルメントのパッチやサウンドを適切に使用方法を Dorico Pro に伝えるためのものです。

インストゥルメントの強弱の幅を表現するということは、音符のボリュームやアタックを変更することです。アタックの強さは音の立ち上がりの特徴とボリュームを左右するため、多くの場合、大きい音にはアタックを強く、静かなサウンドにはアタックを弱くする必要があります。

パッチおよびインストゥルメントは、それぞれが異なるアプローチで再生時に強弱やボリュームを変更します。たとえば、ベロシティのみを変更するパッチのほかに、ベロシティの変更とコントローラーを組み合わせて使用するパッチもあります。

Dorico Pro では、エクスプレッションマップを使用して、プロジェクトの各パッチでサポートされている演奏技法を指定することもできます。たとえば、バイオリンのような弦楽器には arco、pizzicato、*col legno* などのさまざまな演奏技法があり、さらに弾く際の弦の位置も *sul ponticello* から *sul tasto* まであります。

Dorico Pro では、以下の方法で VST インストゥルメントに情報を送れます。

- キースイッチ
- コントローラー

### 補足

プログラムチェンジは現在サポートされていません。

Dorico Pro には HALion Symphonic Orchestra のエクスプレッションマップに加え、さらに以下のエクスプレッションマップがあります。

- **CC11 ダイナミクス (CC11 Dynamics)**  
強弱記号の演奏に MIDI コントローラー 11 を使用します。

### 補足

これはバイオリンやフルートのような、演奏中に強弱を変更できるインストゥルメントにのみ適用されます。

- **デフォルト (Default)**  
強弱のボリュームのコントロールに、ノートベロシティを使用します。
- **モジュレーションホイールダイナミクス (Modulation Wheel Dynamics)**  
強弱のボリュームのコントロールに、モジュレーションホイールを使用します。
- **1 オクターブ下に移調 (Transpose down 1 octave)**  
フルレンジキーボードなしでも演奏できるように、記譜された音符より 1 オクターブ高く演奏する一部のインストゥルメントのパッチに使用されます。
- **1 オクターブ移調 (Transpose up 1 octave)**  
キーボードの一番下のオクターブを音符ではなくキースイッチに使用できます。ただし、一番下のオクターブは、記譜された音符より 1 オクターブ低く演奏することでフルレンジキーボードなしでも演奏できる一部のベースインストゥルメントのパッチに使用されることもあります。

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、エクスプレッションマップを編集、作成、および読み込み/書き出しできます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(464 ページ\)](#)



## 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログ

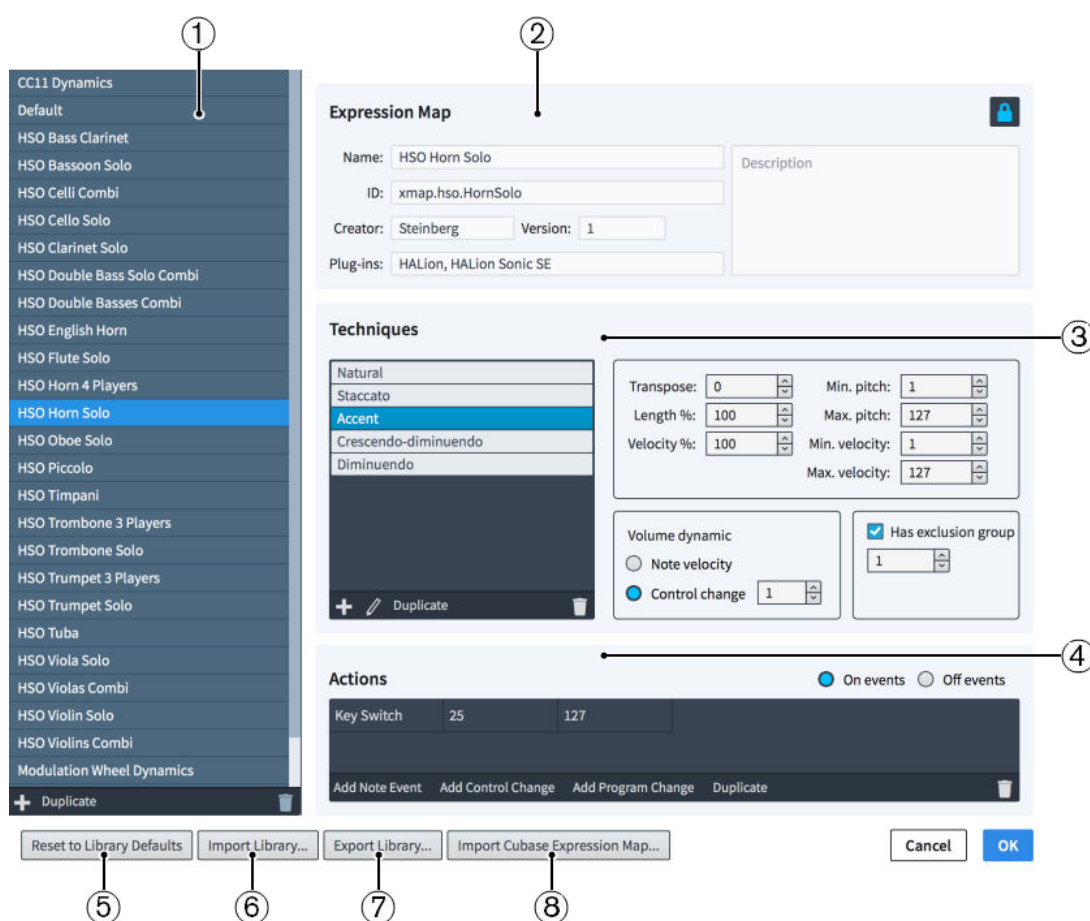
「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログでは、新しいエクスプレッションマップを作成したり、既存のエクスプレッションマップを編集したり、エクスプレッションマップを読み込んだり書き出したりできます。Cubase で作成したエクスプレッションマップを読み込むこともできます。

- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログは、再生モードで「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 を選択すると開きます。

Dorico Pro のエクスプレッションマップの形式は Cubase の形式に似ていますが、エクスプレッションマップの扱いは完全に同じではありません。たとえば、Dorico Pro の方が使用できる演奏技法は多いですが、Cubase では複数の演奏技法を組み合わせるとより多くの演奏技法を再現できます。

### 補足

Dorico Pro では、再生中、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログのフィールドの一部が現在サポートされていません。これは将来のバージョンにおいて予定されています。



### 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログ

「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

#### 1 エクスプレッションマップのリスト

プロジェクトで現在使用できるエクスプレッションマップが表示されます。

エクスプレッションマップのリストの一番下にあるアクションバーに含まれる以下のボタンを使用して、エクスプレッションマップを追加または削除できます。

- **エクスプレッションマップを追加 (Add Expression Map)**



設定を含まない新しいエクスプレッションマップを追加できます。

- **複製 (Duplicate)**

既存のエクスプレッションマップのコピーを作成し、元のエクスプレッションマップとは別の設定に編集できます。

- **エクスプレッションマップを削除 (Delete Expression Map)**



選択したエクスプレッションマップを削除できます。

#### 補足

カスタムのエクスプレッションマップのみ削除できます。デフォルトのエクスプレッションマップは削除できません。

## 2 「エクスプレッションマップ (Expression Map)」 セクション

選択したエクスプレッションマップについて、以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name)**

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログなど、プログラムで表示されるエクスプレッションマップの名前を設定できます。

- **ID**

エクスプレッションマップの一意的 ID を設定できます。「ID」フィールドには、文字列を自由に入力できます。

xmap.user.paulsmith.hso.violinpizz のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。

- **作成者 (Creator)**

他のユーザーとエクスプレッションマップを共有する場合のために、作成者名を指定できます。

- **バージョン (Version)**

最新版が分かるようにエクスプレッションマップのバージョンを指定できます。

- **プラグイン (Plug-ins)**

エクスプレッションマップが適用されるプラグイン名のリストを記載できます。プラグインの名前はカンマで区切られます。このフィールドは空白のままでも構いません。

#### 補足

「**エクスプレッションマップ (Expression Map)**」セクションのすべてのフィールドは、セクションの右上にある「**情報をロック (Lock Info)**」ボタンでロックされています。フィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックする必要があります。

## 3 「演奏技法 (Techniques)」 セクション

「**演奏技法 (Techniques)**」セクションには、以下のグループが含まれます。

- **演奏技法のリスト**

選択したエクスプレッションマップの演奏技法のリストが表示されます。

#### 補足

ほとんどのインストゥルメントには、最も一般的な演奏技法である「Natural」が用意されています。Dorico Pro では、すべてのインストゥルメントに「Natural」の演奏技法を定義する必要があります。

- **ボリュームの強弱 (Volume dynamics)**

選択した演奏技法のボリュームの強弱を「**ノートベロシティ (Note velocity)**」と「**コントロールチェンジ (Control change)**」のどちらでコントロールするかを選択できます。

#### 補足

「コントロールチェンジ (Control change)」を選択した場合、コントローラー番号を指定する必要があります。どれが適切なコントローラー番号かは、使用する VST インストゥルメントまたは MIDI コントローラーのマニュアルを参照してください。

- **演奏技法のコントロール**

「ベロシティー (Velocity)」など、演奏技法リストで選択した演奏技法に影響を及ぼすコントロールが含まれます。

- **排他グループ数 (Exclusion Groups)**

相互に排他的な演奏技法を指定できます。たとえば、ビブラートとビブラートなしを同時に演奏することはできません。演奏技法を同じ排他グループに入れると、一度に使用できる演奏技法はそのうちの 1 つだけになります。

#### 補足

Cubase の設定は演奏技法のコントロールおよび排他グループに読み込まれますが、Dorico Pro が現在対応していない情報があります。これは将来のバージョンにおいて予定されています。

単純な例では、**Staccato** や **Accent** といった個別の演奏技法が演奏技法リストに含まれます。ただし、演奏技法の組み合わせごとに個別のサンプルが備わっているプラグインでは、複数の演奏技法を組み合わせる場合があります。たとえば、**Staccato + Accent** の組み合わせでは、**Staccato** と **Accent** に個別のキースイッチのセットが必要になる場合があります。

演奏技法のリストで演奏技法を選択すると、「**動作内容 (Actions)**」セクションで編集できるようになります。このパネルで設定したすべてのコントロールは、現在選択している演奏技法に適用されます。

演奏技法のリストのアクションバーにある以下のボタンを使って、新しい演奏技法を追加したり、既存のものを編集したり、削除したりできます。

- **演奏技法を追加 (Add Technique)**



「**Technique Combinations**」ダイアログの使用可能な演奏技法の中から、新しい演奏技法または演奏技法の組み合わせをエクスプレッションマップに追加できます。

- **演奏技法を編集 (Edit Technique)**



選択した演奏技法または演奏技法の組み合わせを「**Technique Combinations**」ダイアログで変更できます。

演奏技法のリストで演奏技法をダブルクリックして編集することもできます。

- **複製 (Duplicate)**

既存の演奏技法のコピーを作成し、元の演奏技法とは別の設定に編集できます。

- **演奏技法を削除 (Delete Technique)**



選択した演奏技法を削除できます。

#### 補足

演奏技法のリストでは、演奏技法を一度に 1 つしか選択できません。

## 4 「動作内容 (Actions)」セクション

各演奏技法の再生に必要なスイッチのコントロール方法を指定できます。このセクションには、選択した演奏技法を再現するのに必要な既存の動作内容の詳細も含まれます。

動作内容には、以下のタイプがあります。

- キースイッチ

- コントロールチェンジ
- プログラムチェンジ

#### 補足

プラグインによっては、個々の演奏技法を変更するのに複数タイプの動作が必要な場合があります。

「**動作内容 (Actions)**」セクションでは、3つのコラムの表に動作内容が表示されます。

Key Switch	30	127
Control Change	1	64
Program Change	1	

#### 動作内容の表

最初のコラムには動作のタイプが表示されます。

2つめのコラムでは MIDI イベントの最初のパラメーターがコントロールされます。ノートイベントの場合、ピッチを示します。コントロールチェンジの場合は、コントロールチェンジ番号を示します。プログラムチェンジの場合は、プログラム番号を示します。

3つめのコラムでは MIDI イベントの2番めのパラメーターがコントロールされます。ノートイベントの場合、ベロシティを示します。コントロールチェンジの場合は、コントロールチェンジの度合いを 0~127 の範囲で示します。プログラムチェンジの場合、2番めのパラメーターはありません。

各タイプの動作内容を新しく追加したり、既存の動作内容を複製したりするには、アクションバーの対応するボタンを使用します。

表の個別の動作内容を選択して、アクションバーの「**動作内容を削除 (Delete Action)**」をクリックすると、動作内容を削除できます。



「**動作内容 (Actions)**」セクションでは、イベント発生時に影響を与える動作内容と、イベント非発生時に影響を与える動作内容を指定することもできます。たとえば、演奏技法を通常に戻すイベントを、音符の終了位置にのみ適用することができます。

- 「**イベント発生時 (On events)**」を選択すると、音符の開始部分が影響されます。
- 「**イベント非発生時 (Off events)**」を選択すると、ノートの終了部分が影響されます。

#### 5 デフォルトのライブラリーにリセット (Reset to Library Defaults)

デフォルトのライブラリーのエクスプレッションマップに加えた変更をすべて元に戻します。

#### 6 ライブラリーを読み込む (Import Library)

.doricolib ファイルからエクスプレッションマップを読み込みます。

#### 7 ライブラリーを書き出す (Export Library)

複数のエクスプレッションマップを選択して .doricolib ファイルに書き出せます。書き出したファイルは、他のプロジェクトに読み込んだり、他のユーザーと共有したりできます。

#### 8 Cubase エクスプレッションマップを読み込む (Import Cubase Expression Map)

Cubase の形式のエクスプレッションマップを読み込みます。

#### 補足

現在、一部の演奏技法の組み合わせがサポートされていません。多くの場合、Dorico Pro に読み込んだ Cubase のエクスプレッションマップを正常に機能させるために、編集が必要になります。

ただし、スイッチデータは保持されます。

関連リンク

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(452 ページ\)](#)

## 「Technique Combinations」ダイアログ

「Technique Combinations」ダイアログを使用して、演奏技法の組み合わせを作成できます。作成した組み合わせにあとで動作内容を割り当てると、再生中に特徴的な音を作り出せます。

以下のいずれかの操作を行なって、「Technique Combinations」ダイアログを開きます。

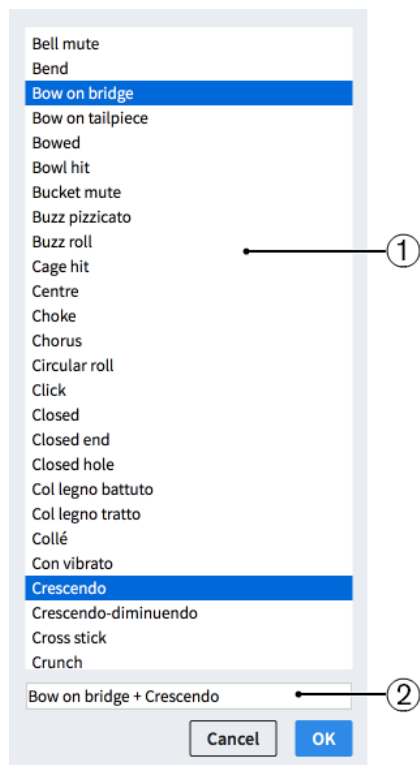
- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで、「演奏技法 (Techniques)」セクションのアクションバーにある「演奏技法を追加 (Add Technique)」をクリックします。



- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで、演奏技法リストの既存の演奏技法を選択し、「演奏技法 (Techniques)」セクションのアクションバーにある「演奏技法を編集 (Edit Technique)」をクリックします。



- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで、演奏技法リストの既存の演奏技法をダブルクリックします。



「Technique Combinations」ダイアログ

### 1 演奏技法のリスト

新しい演奏技法に含めるか、既存の演奏技法に置き換わる演奏技法を選択できます。

複数の演奏技法を選択して組み合わせるには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら各演奏技法をクリックします。

### 2 名前

選択した演奏技法の名前が表示されます。複数の演奏技法を選択した場合、それぞれの名前が「+」記号で自動的に区切られます。

演奏技法の名前は変更できません。

関連リンク





[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」 ダイアログ \(457 ページ\)](#)

[演奏技法の組み合わせの作成 \(463 ページ\)](#)

## 新しいエクスプレッションマップの作成

エクスプレッションマップを 1 から新しく作成するか、既存のエクスプレッションマップを複製して設定を編集できます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 を選択して、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいエクスプレッションマップを作成します。
  - 「エクスプレッションマップを追加 (Add Expression Map)」 をクリックして、空白のエクスプレッションマップを作成します。  

  - ダイアログの左にあるリストで、新しいエクスプレッションマップのベースにする既存のエクスプレッションマップを選択し、「複製 (Duplicate)」 をクリックします。
3. 「情報をロック (Lock Info)」 をクリックして、「エクスプレッションマップ (Expression Map)」 セクションのフィールドのロックを解除します。  
 ロックされた状態       ロックが解除された状態
4. 「エクスプレッションマップ (Expression Map)」 セクションで、関連のフィールドにエクスプレッションマップの情報を入力します。
5. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、演奏技法リストに新しい演奏技法を追加します。
  - 「演奏技法を追加 (Add Technique)」 をクリックします。  

  - 既存の演奏技法を選択して 「複製 (Duplicate)」 をクリックします。
6. 必要な演奏技法の組み合わせがエクスプレッションマップにない場合は、「Technique Combinations」 ダイアログで作成します。
7. 演奏技法のリストで演奏技法を選択します。
8. 「演奏技法 (Techniques)」 セクションで、選択した演奏技法に関連するオプションを変更します。  
たとえば、選択した演奏技法のボリュームを「ノートベロシティ (Note velocity)」 と 「コントロールチェンジ (Control change)」 のどちらでコントロールするかを選択します。
9. 「動作内容 (Actions)」 セクションで、以下のいずれかの操作を行なって、現在選択している演奏技法に動作内容を追加します。
  - 「ノートイベントを追加 (Add Note Event)」 をクリックします。
  - 「コントロールチェンジを追加 (Add Control Change)」 をクリックします。
  - 「プログラムチェンジを追加 (Add Program Change)」 をクリックします。
  - 既存の動作内容を選択して 「複製 (Duplicate)」 をクリックします。
10. イベントのタイプを以下のいずれかのオプションから選択します。
  - イベント発生時 (On events)
  - イベント非発生時 (Off events)
11. 他の演奏技法に動作内容を追加するには、手順 9 と 10 を繰り返します。
12. 動作内容の値を変更するには、値をダブルクリックして変更します。

13. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 



#### 関連リンク

- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログ (457 ページ)
- 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログ (452 ページ)
- 「Technique Combinations」ダイアログ (461 ページ)

## 演奏技法の組み合わせの作成

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
  2. エクスプレッションマップのリストから、新しい演奏技法の組み合わせを追加するエクスプレッションマップを選択します。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、「Technique Combinations」ダイアログを開き、演奏技法の組み合わせを変更します。
    - 新しい演奏技法を作成する場合は、演奏技法のリストのアクションバーにある「**演奏技法を追加 (Add Techniques)**」をクリックします。  

    - 既存の演奏技法の組み合わせを変更する場合は、演奏技法を選択して、演奏技法のリストのアクションバーにある「**演奏技法を編集 (Edit Technique)**」をクリックします。  

  4. 「Technique Combinations」ダイアログで、組み合わせる演奏技法を選択します。複数の演奏技法を選択できますが、単一の演奏技法を選択することもできます。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。「Technique Combinations」ダイアログが閉じます。
- 

#### 結果

新しい演奏技法の組み合わせが作成され、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで選択したエクスプレッションマップの演奏技法のリストで使用可能になります。

#### 関連リンク

- 「Technique Combinations」ダイアログ (461 ページ)
- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログ (457 ページ)

## エクスプレッションマップの読み込み

---

プロジェクトにエクスプレッションマップを読み込むことができます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
  2. 「ライブラリーを読み込む (Import Library)」をクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込むエクスプレッションマップを探して選択します。
  4. 「開く (Open)」をクリックします。
-

#### 結果

選択したエクスプレッションマップがプロジェクトに読み込まれ、エクスプレッションマップのリストに表示されます。

## エクスプレッションマップの書き出し

エクスプレッションマップを書き出して、他のプロジェクトで使用できます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
  2. 「ライブラリーを書き出す (Export Library)」をクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
  4. 「保存 (Save)」を選択します。
- 

#### 結果

エクスプレッションマップが書き出され、指定した場所に保存されます。

## パーカッションマップ

無音程打楽器は、無音程のサウンドが別々の MIDI ノートにマッピングされたパッチを使用して再生されます。異なる無音程のサウンドを生成するのに必要なピッチは、デバイス、サンプルライブラリー、メーカーなどによって変わります。また、ピッチと 5 線譜上の打楽器の位置は関係ありません。

General MIDI パーカッションマップの無音程打楽器の例を以下に示します。

- バスドラム: C2 (MIDI ノート 36、ミドル C の 2 オクターブ下)
- キックドラム: D2 (MIDI ノート 38)
- ハイハット (クローズ): F#2 (MIDI ノート 42)
- カウベル: G#3 (MIDI ノート 56)
- トライアングル (オープン): A5 (MIDI ノート 81)

Dorico Pro では、パーカッションマップを使用して、打楽器の記譜された音符の表現と演奏技法が、そのサウンドの再生に必要なサンプルに紐付けられます。

#### 補足

パーカッションマップでは、特定のパッチにどの無音程打楽器および演奏技法があるかと、それらを再生する方法が記述されます。たとえば、どの MIDI ノートを演奏するか、特定の演奏技法をトリガーするのにキースイッチとして別の MIDI ノートが必要か、などが記述されます。

---

Dorico Pro には、HALion Symphonic Orchestra と HALion Sonic SE ファクトリーライブラリーに含まれる無音程打楽器のパーカッションマップのセットが用意されています。プロジェクトに打楽器を追加すると、これらのパーカッションマップが自動的に選択されます。

正確なサウンドを再生するために、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログで、サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイス用のカスタムパーカッションマップを定義できます。



## 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」 ダイアログ

正確なサウンドを再生するために、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログで、サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイス用のカスタムパーカッションマップを定義できます。

- 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログは、再生モードで「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して開けます。

The screenshot shows the 'Percussion Map' dialog box. On the left is a list of maps, with 'General MIDI' selected (callout 1). The main area is divided into sections: 'Percussion Map' (Name: General MIDI, ID: drumkitmap.gm, callout 2), 'Drum Kit Note Map' (a table of notes and instruments, callout 3), and 'Edit Drum Kit Note' (fields for Name, Instrument, Key switches, and Techniques, callout 4). At the bottom are buttons for 'Reset to Library Defaults' (callout 5), 'Import Library...' (callout 6), and 'Export Library...' (callout 7), along with 'Cancel' and 'OK' buttons.

MIDI Note	Name	Instrument	Key Switch	Playing Techniques
29	Snare Roll	Snare Drum		Roll
35	Acoustic Bass Drum	Kick Drum (Very Low)		Natural
36	Bass Drum	Kick Drum (Low)		Natural
37	Side Stick	Snare Drum		Side stick
38	Acoustic Snare	Snare Drum		Natural
39	Hand Clap	Hand Claps		Natural
40	Electric Snare	Snare Drum		Natural
41	Floor tom (Low)	Floor tom (Low)		Natural
42	Closed Hi-Hat	Hi-hat		Closed

「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログ

「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログは、以下のセクションに分かれています。

### 1 パーカッションマップのリスト

プロジェクトで現在使用可能なパーカッションマップが含まれます。

パーカッションマップのリストの一番下にあるアクションバーに含まれる以下のボタンを使用して、パーカッションマップを追加または削除できます。

- **パーカッションマップを追加 (Add Percussion Map)**



設定を含まない新しいパーカッションマップを追加できます。

- **複製 (Duplicate)**

既存のパーカッションマップのコピーを作成し、元のパーカッションマップとは別の設定に編集できます。

- **パーカッションマップを削除 (Delete Percussion Map)**



選択したパーカッションマップを削除できます。

#### 補足

カスタムのパーカッションマップのみ削除できます。デフォルトのパーカッションマップは削除できません。

## 2 「パーカッションマップ (Percussion Map)」 セクション

選択したパーカッションマップについて、以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name)**

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログに表示されるパーカッションマップの名前を指定できます。

- **ID**

パーカッションマップの一意的 ID を設定できます。「ID」フィールドには、文字列を自由に入力できます。

xmap.user.paulsmith.hso.cowbell のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。

#### 補足

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログでは、VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスの各チャンネルに使用されるパーカッションマップを設定します。

「**マップに定義される音色 (Map defines sounds for)**」には、現在のパーカッションマップに適切なオプションを選択します。

- **マルチインストゥルメント (Multiple Instruments)**

マップを作成するパッチに、General MIDI ドラムマップのようにさまざまな打楽器が含まれている場合に、このオプションを選択します。

- **シングルインストゥルメント (Single Instruments)**

マップを作成するパッチに、打楽器が 1 つのみ (演奏技法は複数の場合あり) が含まれている場合に、このオプションを選択します。たとえば、Virtual Drumline のスネアドラムラインパッチや他のスペシャリストのサンプルライブラリーが挙げられます。

使用している VST インストゥルメントに同じ演奏技法がマッピングされたパッチが複数ある場合も、このオプションが役立ちます。たとえば、HALion Symphonic Orchestra には、通常の叩いた音を出す大きなシンバルのパッチと、ロール音を出す小さなシンバルのパッチがあります。シングルインストゥルメントのパーカッションマップを作成すると、複数のパッチのサウンドに同じマッピングを使用できます。

## 3 「ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)」 セクション

0~127 の MIDI ノートのリストが表示されます。各ノートで再生される無音程打楽器と演奏技法の組み合わせを指定できます。

## 4 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」 セクション

「**ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)**」セクションで選択した MIDI ノートの以下のフィールドにデータを指定できます。

- **名前 (Name)**

インストゥルメントと演奏技法の特定の組み合わせ用の表示名です。たとえば、VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスのメーカーマニュアルに記載された名前を入力できます。

- **インストゥルメント (Instrument)**

Dorico Pro で作成可能なすべての無音程打楽器のリストから、「**ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)**」セクションで選択した MIDI ノート用のインストゥルメントを選択できます。

- **演奏技法 (Techniques)**

Dorico Pro で作成可能なすべての演奏技法のリストから、「**インストゥルメント (Instrument)**」フィールドで選択したインストゥルメントに適用する演奏技法を選択できます。

- **キースイッチ (Key switches)**

このサウンドでインストゥルメントと演奏技法の固有の組み合わせをトリガーするために別の MIDI ノートを演奏する必要がある場合は、キースイッチとして使用するキーの MIDI ノートナンバーを指定します。

**補足**

キースイッチは必須項目ではありません。

**5 デフォルトのライブラリーにリセット (Reset to Library Defaults)**

デフォルトのライブラリーのパーカッションマップに加えた変更をすべて元に戻します。

**6 ライブラリーを読み込む (Import Library)**

.doricolib ファイルからパーカッションマップを読み込みます。

**7 ライブラリーを書き出す (Export Library)**

複数のパーカッションマップを選択して .doricolib ファイルに書き出せます。書き出したファイルは、他のプロジェクトに読み込んだり、他のユーザーと共有したりできます。

## カスタムパーカッションマップの作成

サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイスを使用する場合、正確なサウンドを再生するために、カスタムパーカッションマップを定義する必要があります。空白のパーカッションマップを新しく作成するか、複製した既存のマップをベースにしてカスタムパーカッションマップを作成できます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログを開きます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいカスタムパーカッションマップを作成します。

- 「パーカッションマップを追加 (Add Percussion Map)」をクリックして、空白のマップを作成します。



- ダイアログの左にあるリストで、新しいパーカッションマップのベースにする既存のパーカッションマップを選択し、「複製 (Duplicate)」をクリックします。

3. 「情報をロック (Lock Info)」をクリックして、「パーカッションマップ (Percussion Map)」セクションのフィールドのロックを解除します。



ロックされた状態



ロックが解除された状態

4. 「パーカッションマップ (Percussion Map)」セクションの「名前 (Name)」フィールドに、パーカッションマップに使用する表示名を入力します。

入力した名前は「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログに表示されます。



5. 「パーカッションマップ (Percussion Map)」セクションの「ID」フィールドに、任意の一意の識別名を入力します。

xmap.user.paulsmith.hso.cowbell のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。

6. 「パーカッションマップ (Percussion Map)」セクションの「マップに定義される音色 (Map defines sounds for)」に、現在のパーカッションマップに適切なオプションを選択します。

- **マルチインストゥルメント (Multiple Instruments)**

- シングルインストゥルメント (Single Instruments)

7. 「ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)」セクションで、「すべてを表示 (Show all)」をクリックしてマッピングされていないノートを表示します。
8. 新しいマッピングを作成する MIDI ノートに対応する行を選択します。
9. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」セクションで、「インストゥルメント (Instrument)」フィールドの右に表示される以下のボタンをクリックします。  
  
インストゥルメントのリストを含むダイアログが開きます。
10. 選択した MIDI ノートで再生されるサウンドに対応するインストゥルメントをリストから選択します。
11. 「OK」をクリックします。
12. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」セクションで、「演奏技法 (Techniques)」フィールドの右に表示される以下のボタンをクリックします。  
  
演奏技法のリストを含むダイアログが開きます。
13. 選択した MIDI ノートで再生されるサウンドに適した演奏技法をリストから選択します。  
たとえば、[Ctrl]/[command] を押しながら 「Buzz roll」と 「Rim」 をクリックします。
14. 「OK」をクリックします。
15. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」セクションの「名前 (Name)」フィールドに、このインストゥルメントと演奏技法の組み合わせに使用する表示名を入力します。
16. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」セクションの「キースイッチ (Key switches)」フィールドに、必要に応じてキースイッチの MIDI ノートナンバーを指定します。
17. 「適用 (Apply)」をクリックします。
18. 必要に応じて、他の MIDI ノートにこれらの手順を繰り返し、プロジェクトに必要なマッピングをすべて作成します。
19. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

新しいパーカッションマップが完成されます。

#### 手順終了後の項目

カスタムパーカッションマップは、対応するパッチを提供する VST インストゥルメントまたは MIDI デバイスと同じエンドポイントに割り当てる必要があります。

他のプロジェクトで使用するために、パーカッションマップを書き出すことができます。

#### 関連リンク

[パーカッションマップ \(464 ページ\)](#)

[エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(455 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(452 ページ\)](#)

## パーカッションマップの読み込み

プロジェクトにパーカッションマップを読み込むことができます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログを開きます。
2. 「ライブラリーを読み込む (Import Library)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込むパーカッションマップを探して選択します。
  4. 「開く (Open)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したパーカッションマップがプロジェクトに読み込まれ、パーカッションマップのリストに表示されます。

## パーカッションマップの書き出し

パーカッションマップを書き出して、他のプロジェクトで使用できます。

---

#### 手順

1. 「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログを開きます。
  2. 「ライブラリーを書き出す (Export Library)」をクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
  4. 「保存 (Save)」を選択します。
- 

#### 結果



パーカッションマップが書き出され、指定した場所に保存されます。

## アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する

無音程打楽器の演奏技法固有の符頭について、アーティキュレーションと単音のトレモロの特定の組み合わせにおける再生動作を定義できます。

---

#### 手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログを開きます。
  - 個別の打楽器インストゥルメントの場合、「プレーヤー (Players)」パネルでプレーヤーのカードを展開し、インストゥルメントラベルの矢印をクリックして、メニューから「打楽器演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)」を選択します。
  - 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、「プレーヤー (Players)」パネルでキットのインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」を選択して「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開き、メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)」をクリックします。
2. ダイアログ上部のリストで、再生動作を定義する演奏技法固有の符頭を選択します。
3. ダイアログの左下のアクションバーにある「演奏技法を追加 (Add Technique)」をクリックします。  

4. 「演奏技法の再生効果 (Choose Playing Techniques)」フィールドの右にある「演奏技法を選択 (Choose Playing Techniques)」をクリックします。  

5. 開いたダイアログのリストから、使用する演奏技法を選択します。

[Ctrl]/[command] を押しながら使用する演奏技法をクリックすると、複数の演奏技法を選択できます。

- 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 置き換え (Replace)**  
現在の符頭と譜表からの位置の組み合わせに、定義されたデフォルトの演奏技法のかわりに、選択した演奏技法を使用できます。
    - 追加 (Add)**  
現在の符頭と譜表からの位置の組み合わせに、定義されたデフォルトの演奏技法の上に、選択した演奏技法を追加できます。
  - 選択可能なオプションから、任意のアーティキュレーションおよびトレモロストロークを選択します。
  - 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択した演奏技法の再生での動作が変更されます。

#### 関連リンク

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1036 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法固有の符頭の作成 \(1039 ページ\)](#)

## 演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション

再生モードのピアノロールエディターでは、演奏されるデュレーションまたは記譜されたデュレーションで音符を表示できます。

### 演奏されるデュレーション

再生ツールボックスで「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」を選択した場合、ピアノロールエディターの音符イベントは以下の2つの構成要素で表示されます。

- 音符の演奏されるデュレーションを示す、明るい色で塗りつぶされた長方形
- 音符の記譜されたデュレーションを示す、暗い色の細い線

たとえば、スタッカートが付いた音符は記譜されたデュレーションより短く演奏され、スラーで結ばれた音符は記譜されたデュレーションより長く演奏されます。

Dorico Pro のデフォルトでは、再生モードのピアノロールエディター上の音符は演奏されるデュレーションで表示されます。

#### 補足

音符の演奏されるデュレーションを編集すると、ピアノロールエディター上の表示色が、演奏されるデュレーションを変更していない音符と比べて濃くなります。

---

### 記譜されたデュレーション

再生ツールボックスで「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択すると、音符の記譜されたデュレーションと同じ幅の単一の長方形として音符イベントが表示されます。

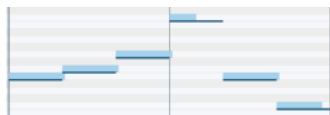
「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択した場合、ピアノロールエディター上で音符の記譜されたデュレーションを変更できます。

---

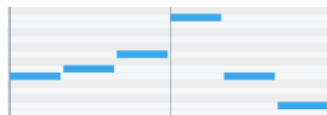
#### 例

以下の例では、同じフレーズを異なる方法で表示しています。

演奏されるデュレーション



記譜されたデュレーション



スコア上



関連リンク

[再生時のスラー \(904 ページ\)](#)

## 音符の演奏されるデュレーションの変更

個別の音符の演奏されるデュレーションは、音符の開始位置と終了位置の両方で変更できます。たとえば、音符をより長く演奏させたり、開始を遅らせたりできます。

前提

再生ツールボックスの「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」を選択しておきます。

手順

1. ピアノロールエディターで、演奏されるデュレーションを変更する音符を選択します。
2. いずれかの音符の終了位置をクリックし、左右にドラッグします。  
マウスカーソルを適切な位置に合わせると、左右の矢印のアイコンに変わります。
3. 必要に応じて、音符の開始位置に手順 2 を繰り返します。

結果

選択した音符の演奏されるデュレーションが変更されます。

関連リンク

[再生ツールボックス \(405 ページ\)](#)

## 音符の演奏されるデュレーションに加えた変更の削除

個別の音符の演奏されるデュレーションに加えた変更はすべて削除できます。たとえば、再生を上書きしたあとに気が変わった場合に、音符の開始位置、長さ、およびベロシティーをデフォルトに戻せます。

再生の上書き情報を削除すると、音符位置が保持された MIDI ファイルから読み込まれた音符の開始位置および終了位置のオフセットも削除されます。

補足

現在、Dorico Pro ではノートベロシティーが表示されませんが、ノートベロシティーも MIDI ファイルから読み込まれます。記譜モードで入力した強弱記号を再生に反映させるには、再生の上書き情報を削除する必要があります。

手順

1. ピアノロールエディターまたはドラムエディターで、演奏されるデュレーションをリセットする音符を選択します。
2. 「再生 (Play)」 > 「再生の上書き情報をリセット (Reset Playback Overrides)」を選択します。

#### 結果

選択した音符のデフォルトの演奏されるデュレーションに対する上書き情報がすべて削除されます。

#### 補足

選択した音符の演奏されるデュレーションの幅が、記譜されたデュレーションと同じになります。ただし、再生を開始したり、モードを切り替えたりすると、外観がデフォルトの演奏されるデュレーションに戻ります。たとえば、音符にスタッカートが付いている場合、演奏されるデュレーションはデフォルトで記譜されたデュレーションの半分になります。

---



# 印刷モード

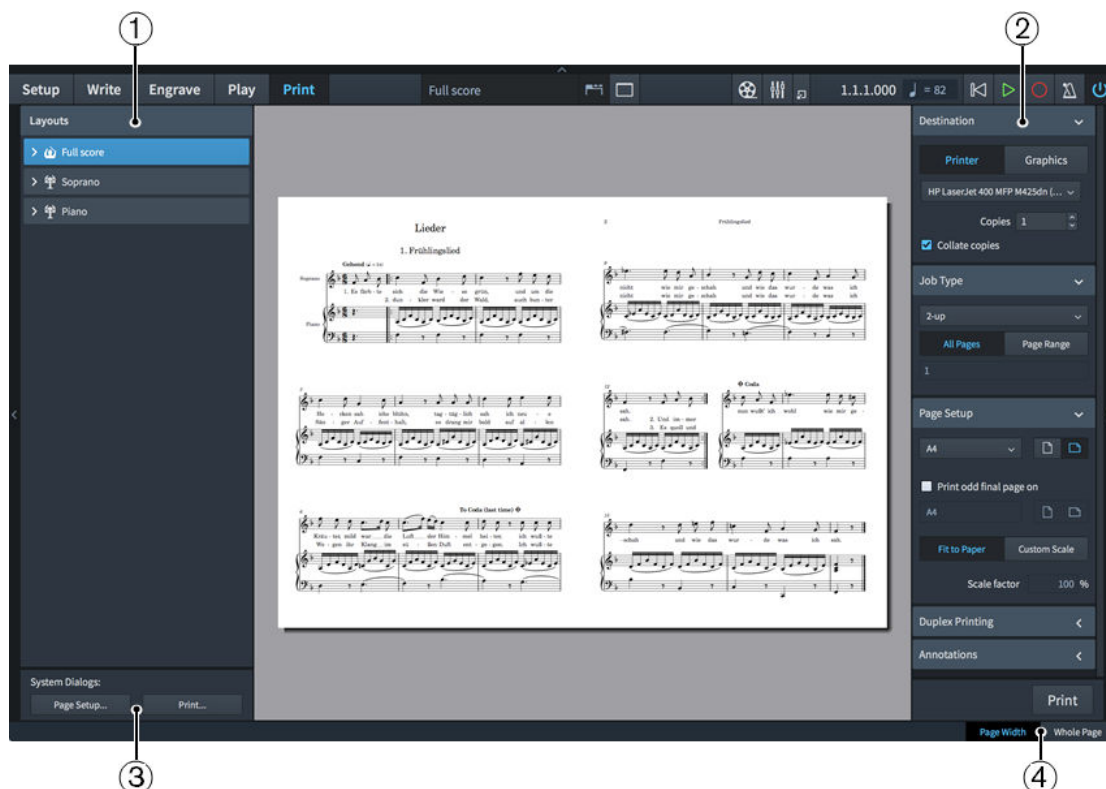
印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、PDF や SVG などのグラフィックファイルとして書き出ししたりできます。

## 印刷モードのプロジェクトウィンドウ

印刷モードのプロジェクトウィンドウは、初期設定ツールバー、印刷プレビュー領域に加え、レイアウトの印刷や書き出しの準備に必要なすべてのツールと機能を含むパネルとセクションで構成されています。

印刷モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- [Ctrl]/[command]+[5] を押します。
- ツールバーで「印刷 (Print)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「印刷 (Print)」を選択します。



印刷モードのパネルとセクション

印刷モードには以下のパネルとセクションがあります。

### 1 「レイアウト (Layouts)」 パネル

プロジェクトのすべてのレイアウトのリストが表示され、印刷または書き出しを行なう対象を選択できます。

#### 補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセクターが無効になります。印刷プレビュー領域で異なるレイアウトを確認する場合は、「**レイアウト (Layouts)**」パネルで選択します。

#### 2 印刷オプションパネル

レイアウトの印刷または書き出しのオプションで構成されています。

#### 3 macOS: システムダイアログ

macOS 固有の印刷オプションが含まれます。

#### 4 ビューオプション

印刷プレビュー領域でのページの表示方法を変更できます。

- **ページの幅 (Page Width)**

印刷プレビュー領域の幅に合わせてページが表示されます。ページの向きや形式によっては、ページ全体が表示されない場合があります。

- **全ページ (Whole Page)**

印刷プレビュー領域にページ全体が表示されます。

関連リンク

[ツールバー \(33 ページ\)](#)

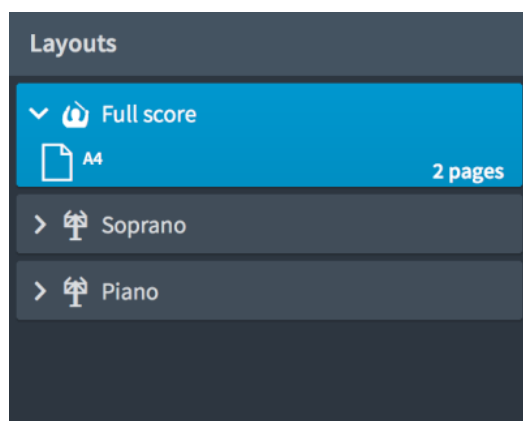
[印刷プレビュー領域 \(38 ページ\)](#)

## 印刷モードの「レイアウト (Layouts)」パネル

印刷モードでは、「**レイアウト (Layouts)**」パネルにプロジェクトの全レイアウトがリスト表示されます。ここからレイアウトを選択して、印刷や書き出しを行なえます。このパネルは、印刷モードのウィンドウの左側に配置されています。

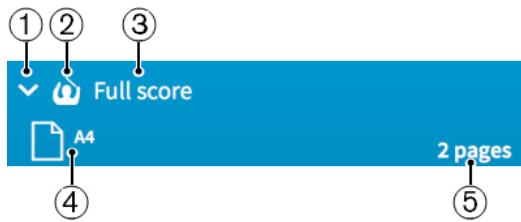
印刷モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。



印刷モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネル

「**レイアウト (Layouts)**」パネルには、プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます (カードといます)。各レイアウトカードには以下が表示されます。



### 1 展開矢印マーク

レイアウトカードを展開したり、折りたたんだりします。

### 2 レイアウトのタイプ

以下のいずれかのレイアウトのタイプが表示されます。

- フルスコアレイアウト



- パートレイアウト



- カスタムスコアレイアウト



### 3 レイアウト名

レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico Pro が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。

### 4 ページのサイズと向き

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したレイアウトのサイズと向きが表示されます。

### 5 レイアウトの長さ

レイアウトのページ数が表示されます。このページ数とページのサイズと向きによって、印刷や書き出しに最適なジョブタイプを決定します。

#### ヒント

2 ページで構成されるレイアウトは、2 ページを 1 ページに集約して印刷することをおすすめします。5 ページあるレイアウトの場合は、見開きで印刷して、最後のページを異なるページサイズで印刷することをおすすめします。12 ページあるレイアウトは、冊子として印刷することをおすすめします。

「印刷 (Print)」または「書き出し (Export)」をクリックすると、ここで選択した部数のレイアウトの印刷または書き出しが行なわれます。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場合、ボタンには「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

#### 関連リンク

[印刷/書き出し用のページ配置 \(485 ページ\)](#)

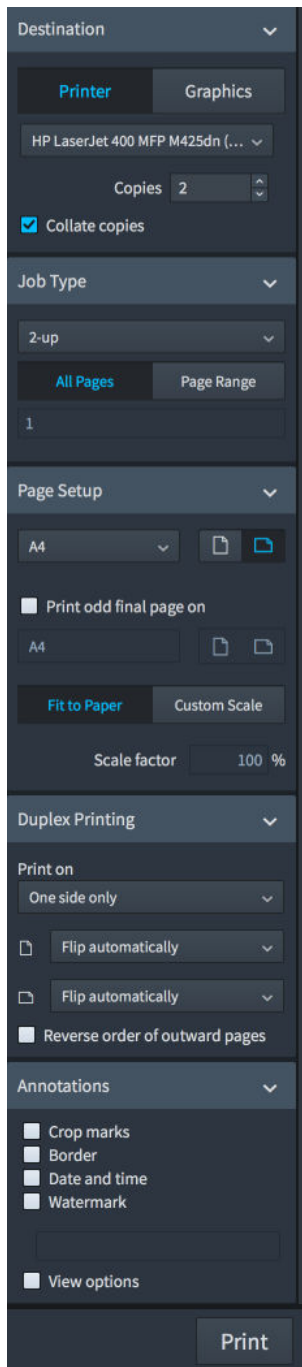
[冊子印刷 \(486 ページ\)](#)

## 印刷オプションパネル

印刷オプションパネルは、レイアウトの印刷または書き出し用のオプションで構成されています。このパネルは、印刷モードのウィンドウの右側に配置されています。

印刷オプションパネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- [Ctrl]/[command]+[9] を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「右のパネルを表示 (Show Right Panel)」 を選択します。



印刷オプションパネルで設定するすべてのオプションはプロジェクトに保存されます。パネルに含まれるオプションは、以下のセクションに分かれています。

#### 出力先 (Destination)

印刷する際の物理プリンターを選択したり、グラフィックファイルを書き出す際のファイルの保存場所を選択できます。楽譜を印刷する場合は印刷部数を選択できます。グラフィックファイルの書き出しを選択した場合、保存ファイルの形式、ファイル名、および出力先を指定できます。

選択した出力先によって、パネルの一番下にあるボタンの表示が「印刷 (Print)」 / 「書き出し (Export)」の間で切り替わります。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場合、ボタンには「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

#### ジョブタイプ (Job Type)

印刷または書き出しを行なうページの範囲と、どのように編集するかを選択できます。

#### ページ設定 (Page Setup)

用紙のサイズと向きを設定できます。印刷または書き出しを行なうイメージの倍率を指定できます。

#### 両面印刷 (Duplex Printing)

用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するかを選択できます。このオプションは、「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択した場合にのみ使用できます。

#### 注釈 (Annotations)

通常、出版社や印刷所で必要とされる、トンボや印刷するイメージを囲む枠線などのオプションをオンにできます。

#### 「印刷 (Print)」 ボタン

印刷オプションパネルの設定に基づいて、選択したレイアウトの印刷または書き出しを行ないます。

選択した設定に応じて、ボタンの表示が以下のいずれかに変更します。

- 印刷 (Print)
- 書き出し (Export)
- 印刷と書き出し (Print and Export)

たとえば、選択したすべてのレイアウトが印刷に設定されている場合は、「印刷 (Print)」が表示されます。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場合は、「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

#### 関連リンク

[両面印刷 \(487 ページ\)](#)

[印刷/書き出し用のページ配置 \(485 ページ\)](#)

## レイアウトの印刷

レイアウトごとに個別に印刷するか、複数のレイアウトを同時に印刷できます。レイアウトごとに異なる印刷設定を行なえます。たとえば、同じプロジェクトのレイアウトごとにプリンターを変更できます。

Dorico Pro では、レイアウトの設定に基づいて印刷設定が自動的に行なわれます。そのため、印刷設定の多くはそのままでもレイアウトを適切に印刷できる場合があります。たとえば、A3 用紙を印刷できるプリンターに接続しており、「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログでフルスコアレイアウトのページサイズを A3 に設定している場合、印刷オプションパネルの「ページ設定 (Page Setup)」セクションは自動的に「A3」が選択されます。

---

#### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、印刷するレイアウトを選択します。

#### 補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセレクターが無効になります。印刷プレビュー領域で異なるレイアウトを確認する場合は、「レイアウト (Layouts)」パネルで選択します。

---

- 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで、「部数 (Copies)」フィールドに印刷部数を入力します。

#### 補足

- 「部数 (Copies)」の値を変更すると、現在選択しているすべてのレイアウトの印刷部数を変更されます。ただし、レイアウトごとに印刷部数を変更することもできます。たとえば、パートレイアウトは1部のみ印刷するように設定したまま、フルスコアレイアウトを選択して3部印刷するように設定できます。そのあとすべてのレイアウトを選択して、設定した値が反映された状態で一緒に印刷できます。
- 設定値が異なるレイアウトを選択すると、「部数 (Copies)」フィールドが空白になります。

- 「ページ順に並べる (Collate copies)」をオン/オフにします。
- 「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択して、メニューからプリンターを選択します。
- 「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで、メニューから任意のページ構成を選択します。
- 特定のページ範囲のみを印刷する場合は、「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで「ページ範囲 (Page Range)」を選択します。
- 「ページ範囲 (Page Range)」を選択した場合、必要に応じて、数値フィールドにページ番号を入力します。
- 「ページ設定 (Page Setup)」セクションで、メニューから用紙サイズを選択します。
- 印刷する用紙の向きを選択します。
- ジョブタイプに「見開き (Spreads)」または「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」を選択した場合は、必要に応じて「最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)」をオンにして、奇数ページで終わるレイアウトの最終ページの用紙サイズを指定します。
- 最後の奇数ページの用紙サイズと用紙の向きを選択します。
- 以下のいずれかの用紙サイズオプションを選択します。
  - 用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)
  - カスタム尺度 (Custom Scale)
- 「カスタム尺度 (Custom Scale)」を選択した場合、必要に応じて「倍率 (Scale factor)」フィールドに倍率を入力します。
- 「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションで、「印刷面 (Print on)」メニューからいずれかの印刷オプションを選択します。
- 両面印刷オプションを選択した場合、必要に応じてその下の2つのメニューで、用紙の裏面の印刷の向きを選択します。
- 「注釈 (Annotations)」セクションで、選択したレイアウトに追加する注釈をチェックします。
- 「印刷 (Print)」をクリックします。

#### 結果

適用した印刷設定に従って、選択したレイアウトが印刷されます。

選択範囲に含まれるパートレイアウトが実音に設定されている場合は警告が表示され、印刷/書き出し前に選択範囲のすべてを移調に切り替えることができます。移調するレイアウトまたは変更を加えずにそのまま続行するレイアウトを選択することもできます。

#### ヒント

- 個別のレイアウトを選択して印刷オプションを設定したあと、すぐに印刷しなくてもかまいません。複数のレイアウトに印刷オプションを設定したら、印刷するすべてのレイアウトを選択して「印刷 (Print)」をクリックできます。選択したレイアウトに印刷設定が異なるものが含まれる場合でも、既存の印刷設定が適用されます。

- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、どのモードでも使用できる、さまざまな印刷/書き込みコマンドのキーボードショートカットを設定できます。
- 

#### 関連リンク

- [プリンター \(484 ページ\)](#)
- [用紙のサイズと向きの設定 \(488 ページ\)](#)
- [「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」ダイアログ \(482 ページ\)](#)
- [印刷/書き出し用のページ配置 \(485 ページ\)](#)
- [印刷オプションパネル \(475 ページ\)](#)
- [両面印刷 \(487 ページ\)](#)
- [注釈 \(490 ページ\)](#)
- [ページのサイズと向きの変更 \(346 ページ\)](#)

## ページ範囲の印刷/書き出し

デフォルトでは、選択したレイアウトのすべてのページが印刷/書き出しされます。印刷/書き出しを行なう特定のページ範囲を指定できます。

#### 補足

冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページ範囲は指定できません。

---

#### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、印刷/書き出しを行なうページ範囲が含まれるレイアウトを選択します。
2. 「出力先 (Destination)」セクションで、必要に応じてレイアウトの出力先が適切なプリンターまたはグラフィックファイル形式に設定されているかを確認します。
3. 「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで、「ページ範囲 (Page Range)」を選択します。
4. 入力フィールドに印刷/書き出しするページを入力します。
  - 範囲を指定するには、1-4 のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
  - 個別のページや範囲を指定するには、1,3,5-8 のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

#### 補足

複数の選択範囲がある場合、別々のファイルに書き出されます。

---

5. 「印刷 (Print)」 / 「書き出し (Export)」 / 「印刷と書き出し (Print and Export)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの指定したページが印刷/書き出しされます。書き出されたファイルには、「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。

#### 関連リンク

- [「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」ダイアログ \(482 ページ\)](#)
- [印刷/書き出し用のページ配置 \(485 ページ\)](#)

## 印刷オプションの指定 (macOS のみ)

Dorico Pro では、お使いのオペレーティングシステムの標準印刷オプションにアクセスできます。

### 補足

オペレーティングシステムの標準印刷オプションを使用する場合、印刷オプションパネルの設定は無視されます。macOS 固有の印刷設定はプロジェクトに保存されません。そのため、印刷するたびに設定する必要があります。一方、Dorico Pro の印刷オプションは必ずプロジェクトに保存されます。

---

### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルの「OS X ダイアログ (OS X Dialogs)」セクションで、「ページ設定 (Page Setup)」をクリックし、macOS 「ページ設定 (Page Setup)」ダイアログを開きます。
  2. 「ページ設定 (Page Setup)」ダイアログで、用紙サイズを設定します。
  3. 「OK」をクリックします。
  4. 「OS X ダイアログ (OS X Dialogs)」セクションで、「印刷 (Print)」をクリックして macOS 「印刷 (Print)」ダイアログを開きます。
  5. 「印刷 (Print)」ダイアログで、任意の印刷オプションを設定します。
- 

## グラフィックファイルとしての書き出し

個別のレイアウトを PDF や PNG などのさまざまなグラフィックファイルとして書き出すことができます。

---

### 手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、書き出すレイアウトを選択します。
2. 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで、「グラフィック (Graphics)」を選択します。
3. カラーモードを選択します。
  - 「白黒 (Mono)」では、白黒でグラフィックを書き出します。
  - 「カラー (Color)」では、フルカラーでグラフィックを書き出します。

### 補足

グラフィックファイルを解像度 72dpi で書き出す場合は、「カラー (Color)」をおすすめします。「白黒 (Mono)」を選択すると、線が消える可能性があります。

---

4. メニューからグラフィックファイル形式を選択します。
5. 「PNG」または「TIFF」を選択した場合は、必要に応じて、「解像度 (Resolution)」メニューから解像度を選択します。

### ヒント

「PDF」または「SVG」を選択した場合は、解像度を変更できません。ただし、「PNG」または「TIFF」を選択して解像度を変更し、そのあとに「PDF」または「SVG」を選択すると、変更後の解像度が適用されたままになります。

---

6. 必要に応じて、書き出しパスを指定します。
7. ファイルの命名規則を変更する場合、「ファイル名オプション (File Name Options)」をクリックして「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログを開きます。
8. 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログで、必要に応じて、選択したグラフィックファイル形式のファイルの命名規則を変更します。



9. 特定のページ範囲のみを書き出す場合は、「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションで「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択します。
10. 「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択した場合、必要に応じて、数値フィールドにページ番号を入力します。

#### 補足

複数の選択範囲がある場合、別々のファイルに書き出されます。

11. 「**書き出し (Export)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトがグラフィックファイル形式として書き出されます。ファイル名には「**書き出し用ファイル名 (Export File Names)**」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。書き出されたファイルは、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドに指定したフォルダーに保存されます。指定したフォルダーにアクセスできない場合は、プロジェクトファイルと同じフォルダーに保存されます。

選択範囲に含まれるパートレイアウトが実音に設定されている場合は警告が表示され、印刷/書き出し前に選択範囲のすべてを移調に切り替えることができます。移調するレイアウトまたは変更を加えずにそのまま続行するレイアウトを選択することもできます。

#### ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、どのモードでも使用できる、さまざまな印刷/書き込みコマンドのキーボードショートカットを設定できます。

#### 関連リンク

[「書き出し用ファイル名 \(Export File Names\)」ダイアログ \(482 ページ\)](#)

[グラフィックファイルの形式 \(489 ページ\)](#)


[画像解像度 \(490 ページ\)](#)

## グラフィックファイルの書き出しパスの指定

グラフィックファイルの書き出し先フォルダーのパスを指定できます。レイアウトごとに異なる書き出しパスを指定した場合でも、すべてのレイアウトを同時に書き出すことができます。

デフォルトでは、グラフィックファイルはプロジェクトファイルと同じフォルダーに書き出されます。プロジェクトをまだ保存していない場合、グラフィックファイルはお使いのオペレーティングシステムのデフォルトのユーザーフォルダーに保存されます。

#### 手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、書き出しパスを変更するレイアウトを選択します。
2. 印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドの横の「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。  

3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」 (macOS) / 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) をクリックして、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドに新しいパスを指定します。
5. 必要に応じて、書き出しパスを変更する他のレイアウトにも手順 1 から 4 を繰り返します。
6. ファイルの命名規則を変更する場合、「**ファイル名オプション (File Name Options)**」をクリックして「**書き出し用ファイル名 (Export File Names)**」ダイアログを開きます。

7. 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログで、必要に応じて、選択したグラフィックファイル形式のファイルの命名規則を変更します。

#### 結果

選択したレイアウトの書き出しパスが変更されます。書き出されたファイルには、「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。

#### 補足

使用するオペレーティングシステムが違うユーザーから受け取ったプロジェクトなどでは、指定された書き出しパスにアクセスできない場合があります。その場合、Dorico Pro によって書き出しパスがプロジェクトファイルと同じフォルダーに自動的に変更されます。

## 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログ

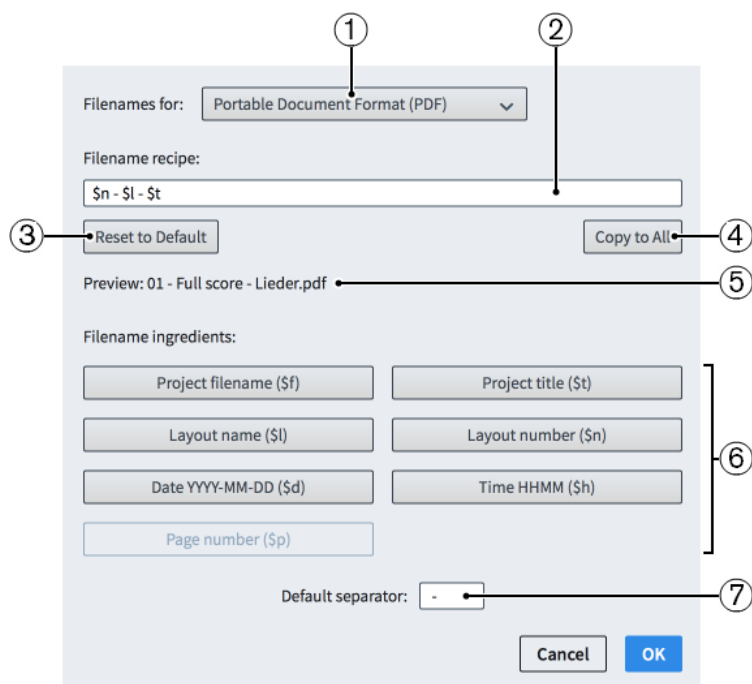
「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログでは、グラフィックファイル形式ごとに、ファイル名に含める文字列を指定できます。普遍的な構成要素を使用して、各レイアウトの情報がファイル名に自動的に反映されるようにできます。また、すべてのレイアウトに同じテキストを入力できます。

「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 印刷モードで、選択しているレイアウトの印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「グラフィック (Graphics)」を選択した状態で、「ファイル名オプション (File Name Options)」をクリックします。
- 「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページの「ファイルの書き出し (Exporting Files)」サブセクションにある「編集 (Edit)」をクリックします。

#### 補足

行なった設定はいずれの方法で開くダイアログに反映され、以降のすべてのプロジェクトのデフォルトとして保存されます。



「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログには、以下のオプションが含まれます。

- 1 ファイル名を使用する形式 (File names for)**  
グラフィックファイル形式を選択します。グラフィックファイル形式ごとに個別のファイル名生成用文字列を設定できます。
  - 2 ファイル名生成用文字列 (File name recipe)**  
選択したグラフィックファイル形式の生成用文字列が表示されます。このフィールドに文字を直接入力できます。また、構成要素のボタンをクリックして情報を自動的に追加させることができます。  
たとえば、PDF ファイルのデフォルトのファイル名生成用文字列は \$n - \$l - \$t です。
  - 3 デフォルトにリセット (Reset to Default)**  
選択したグラフィックファイル形式のファイル名生成用文字列をデフォルトにリセットします。
  - 4 すべてにコピー (Copy to All)**  
現在表示しているファイル名生成用文字列をプロジェクトのすべてのレイアウトにコピーします。
  - 5 プレビュー: (Preview:)**  
現在の生成用文字列に基づいたファイル名の例が表示されます。このプレビューには、ツールバーのレイアウトセレクターに表示されているレイアウトが使用されます。  
たとえば、フルスコアの PDF ファイル名にデフォルトの生成用文字列が使用されている場合、プレビューは 01 - Full score - Lieder.pdf のようになります。
  - 6 ファイル名の構成要素 (File name ingredients)**  
ファイル名生成用文字列に構成要素を簡単に追加できます。これによって各レイアウトの適切な情報が自動的に反映されます。たとえば、構成要素 \$l を使用してピアノパートのレイアウトを書き出すと、構成要素の部分が Piano に変換されます。  
各構成要素のボタンには、参照元の情報と変数の文字列が表示されます。  
ファイル名の構成要素のボタンをクリックすると、ファイル名生成用文字列フィールドの末尾に追加されます。追加した構成要素は、デフォルトの区切り文字で前の構成要素と自動的に区切られます。
- 補足**
- PDF ファイルは複数ページの形式のため、ページ番号の構成要素を使用できません。
- 7 デフォルトの区切り文字 (Default separator)**  
ファイル名生成用文字列の構成要素を区切るのに使用するデフォルトの文字を設定できます。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(480 ページ\)](#)

## 白黒とカラーのグラフィック処理

Dorico Pro では、白黒とカラーのグラフィックの書き出し時に異なる設定が適用されます。グラフィックファイルの用途によって、最適な設定が異なります。

多くの楽譜は白黒のため、黒インクのみを使用し、通常は白または白に近い色の紙に印刷します。一部の教則本では、音部記号を分類する、ピッチに従って音符に色を付けるなど、特定の記譜を強調するためにカラーを使用する場合があります。グラフィックファイルを書き出して、手元のプリンターで印刷する場合、「出力先 (Destination)」セクションで「カラー (Color)」を選択したままにできます。

しかし、グラフィックファイルを PDF 形式で書き出して、プレートセッターで直接印刷したり、ページレイアウトプログラムでさらに制作作業を行なう場合は、レイアウトにカラーの要素が含まれていなければ、「白黒 (Mono)」を選択します。「白黒 (Mono)」を選択すると、Dorico Pro では印刷するイメージに確実に黒インクのみが使用されるよう、別のカラースペースを使用して PDF が書き出されます。「カラー (Color)」を選択すると、レイアウトの黒の要素をリッチブラックとして書き出します。そ

の結果、黒は複数のカラーインクを掛け合わせて作成されます。これにより、プリプレス段階で色分解を行なう際、制作物に問題が発生する可能性があります。

Dorico Pro では、プレートセッターやその他の業務用印刷機械で使用されている CMYK カラーモデルではなく、RGB カラーモデルを使用してカラーが指定されます。レイアウトにカラーオブジェクトがあり、レイアウトを業務用として印刷する場合、Dorico Pro から別のグラフィックアプリケーションに書き出されたグラフィックファイルをポストプロセスして、RGB から CMYK に変換する必要があります。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(480 ページ\)](#)

## PDF ファイルと SVG ファイルでのフォントの埋め込み

PDF ファイルと SVG ファイルでフォントをどのように扱うかは、主にプロジェクトで使用するフォントによって決まります。

### PDF ファイル

Dorico Pro に付属している音楽フォントとテキストフォントおよびそのサブセットは、書き出し中に PDF ファイルに埋め込まれます。別のコンピューターで PDF ファイルを開くと、ドキュメントで使用されているフォントがコンピューターにインストールされていなくても、同じ見た目で表示されます。別のフォントを使用している場合は、そのフォントが埋め込み可能であることを確認してください。

### SVG ファイル

SVG (Scalable Vector Graphics) ファイルには、フォントを直接埋め込むことはできません。符頭、アーティキュレーション、臨時記号といった一部のフォント文字はアウトライン化されるので、元のフォントには依存しません。拍子記号や連符の数字などその他のフォントは、元のフォントへの参照を使用してのみエンコードされます。この仕組みは、譜表ラベル、テンポの指示、強弱記号などの通常のテキストでも同様です。そのため、使用されているフォントがインストールされていないコンピューターの Web ブラウザーでレンダリングした場合、SVG ファイルでは正確な見た目が再現されません。SVG ファイルがどのように表示されるかは、ブラウザーやレンダリングソフトウェア、コンピューターにインストールされているフォントによって異なります。

Web サイトに埋め込まれた SVG ファイルを正しく表示するには、SVG ファイルをイラストレーションプログラムで開き、すべてのフォント文字をアウトライン化してから、再度 SVG ファイルに書き出して、そのファイルを埋め込みます。または、Web フォントを使用して、必要なフォントを確実に Web サーバーで表示することもできます。

Dorico Pro から書き出した SVG グラフィックは、完全な SVG 仕様に含まれる機能のサブセットを定義する SVG Tiny 1.1 仕様に適合します。

SVG での Web フォントの使用については、Steinberg Web サイトのサポートを参照してください。

## プリンター

Dorico Pro プロジェクトのレイアウトは、コンピューターに接続されたプリンターで印刷できます。

プロジェクトのレイアウトごとに、別々のプリンターを選択できます。これによりレイアウトの印刷要件に最適なプリンターを選択できます。プリンターの選択は、印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」が選択されている場合に行なうことができます。

Dorico Pro では、別のプリンターを指定しない限り、オペレーティングシステムで指定されたデフォルトのプリンターが使用されます。この場合、印刷オプションパネルの以下のセクションの設定が変わる可能性があります。

- 「ページ設定 (Page Setup)」セクションでは、使用できる用紙サイズのリストには、選択されたプリンターが対応する用紙サイズのみ表示されます。

- 「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションでは、選択されたプリンターが自動両面印刷機能に対応している場合のみ、この機能のオプションが表示されます。

#### 補足

現在選択しているすべてのレイアウトを同じプリンターで印刷するよう設定した場合のみ、「**出力先 (Destination)**」セクションのプリンターポップアップメニューにプリンター名が表示されます。メニューから新しいプリンターを選択すると、選択したすべてのレイアウトがそのプリンターで印刷されるよう設定されます。

#### 関連リンク

[印刷オプションパネル \(475 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(477 ページ\)](#)

## 印刷/書き出し用のページ配置

Dorico Pro には、レイアウトの印刷/書き出しに使用できるページ配置が複数あります。

印刷オプションパネルの「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションでは、レイアウトをどのように印刷/書き出しするかを指定できます。「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションのメニューから、以下のジョブタイプのいずれかを選択できます。

#### 標準 (Normal)

1 ページを 1 枚の用紙に印刷します。この場合、ページが片面に印刷されます。たとえば、定期的なページめくりが不要で、楽譜を横につなぎ合わせる必要があるパート譜に使用されます。

#### 見開き (Spreads)

2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。奇数ページは右側に、偶数ページは左側に印刷されます。

印刷するレイアウトが 5 ページなどの場合に、最後の奇数ページの用紙サイズも指定できます。

#### 2 ページを 1 ページに集約 (2-up)

2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。範囲の最初のページは、最初の用紙の左側に印刷されます。この場合、ページを半分に折り曲げられるため、用紙の端をつなぎ合わせる必要がある数が減り、パート譜の印刷に便利です。

印刷するレイアウトが 5 ページなどの場合に、最後の奇数ページの用紙サイズも指定できます。

#### 冊子印刷 (Booklet)

面付けの要件に従って、2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。用紙を折り曲げると本のようになるようにページが配置されます。このページ配置は、一般的にパート譜よりページ数が多いスコアや合唱パートで特に役立ちます。

#### 補足

冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページ範囲は指定できません。

#### 補足

- Dorico Pro では、選択したジョブタイプに応じて、ページの向きが自動的に切り替わります。向きが変更されると、すぐに楽譜領域に表示されます。表示された結果を変更したい場合、「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで向きを設定を上書きできます。
- すべてのジョブタイプは、片面印刷、両面印刷のどちらにも対応しています。

- 「冊子印刷」、「見開き」、「2 ページを 1 ページに集約」は、通常横向きで印刷されます。1 ページを 1 枚に印刷する場合は、レイアウト自体で横向きを使用していない限り、通常縦向きになります。

---

「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションでは、印刷/書き出しするページも選択できます。

#### 全ページ (All Pages)

選択したレイアウトの全ページの印刷/書き出しを行いません。

#### ページ範囲 (Page Range)

印刷するページの範囲を設定できます。「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択すると、値フィールドが有効になります。

- 範囲を指定するには、1-4 のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
- 個別のページや範囲を指定するには、1,3,5-8 のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

関連リンク

[用紙のサイズと向きの設定 \(488 ページ\)](#)

[ページ範囲の印刷/書き出し \(479 ページ\)](#)

## 冊子印刷

冊子は、用紙の両面に印刷され、折り曲げると本のようなになるドキュメントのことです。冊子印刷を行なうと、印刷されたページを折り曲げて読んだときにプロジェクトでの順序と同じになるように、ページの順番が変更されます。

冊子印刷したレイアウトの製本は、片面印刷や両面印刷した場合より非常に簡単です。たとえば、20 ページのフルスコアを両面印刷した場合、すべてのページをまとめるには用紙のいずれかの端をつなぎ合わせる必要があります。それに対して、同じフルスコアを冊子印刷すると、用紙の中央で折り曲げるだけですべてのページをまとめられます。

冊子印刷を設定すると、印刷されたページの順序が正しく表示されるように、ページの順番が変更されます。たとえば、4 ページのレイアウトを冊子印刷する場合、以下のようなページ配置になります。

- 表面: 左側に 4 ページめ、右側に 1 ページめ
- 裏面: 左側に 2 ページめ、右側に 3 ページめ

冊子印刷するレイアウトのページ数が半端な場合、冊子の最後に空白ページが自動的に配置されます。この場合、奇数ページが右側に表示される規則に従います。たとえば、6 ページのレイアウトを冊子印刷した場合、合計で 8 ページ分が印刷され、冊子の最後の 2 ページが空白ページとなります。空白ページの配置を変更するには、レイアウトにタイトルページなどのページを追加します。

#### 補足

- 冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページ範囲は指定できません。
- 手動での両面印刷で冊子印刷を行なう際に表面側のページの印刷順が間違っている場合は、印刷オプションパネルの「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションにある「**外側ページの印刷順を逆にする (Reverse order of outward pages)**」をオンにすることで、表面側に印刷されるページの順番が逆になります。

---

関連リンク

[レイアウトの印刷 \(477 ページ\)](#)

[両面印刷 \(487 ページ\)](#)

## 両面印刷

Dorico Pro は両面印刷に対応しており、用紙の両面に印刷できます。

自動両面印刷対応のプリンターであれば、Dorico Pro でこの機能を使用できます。用紙の片面にしか印刷できないプリンターであっても、手動の両面印刷オプションを使用できます。

印刷オプションパネルの「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションにある「**印刷面 (Print on)**」メニューには、以下のオプションが含まれます。

### 片側のみ (One side only)

用紙の片面にのみ印刷します。

### 両側 (手動) (Both sides manually)

用紙の両面に印刷します。プリンターに自動両面印刷機能が搭載されていない場合は、このオプションを使用します。すべての表面側のページがプリンターに送信されたあと、印刷済みのページのまとまりを裏返して、プリンターに戻すことを促すメッセージボックスが表示されます。「**OK**」をクリックして裏面側のページの印刷を続行します。

### 両側 (自動) (Both sides automatically)

自動的に用紙の両面に印刷します。このオプションは、プリンターが自動両面印刷機能に対応している場合にのみ有効になります。

「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションの他のメニューでは、用紙の裏面に印刷したときの印刷の反転方向を設定できます。

### 印刷の反転 (縦向き)



縦向きの用紙の裏面に印刷する場合の、印刷の反転方向を設定します。

- 「**自動反転 (Flip automatically)**」では、プリンターの初期設定を使用して裏面が印刷されます。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用します。
- 「**長辺とじ (Flip long side)**」では、ページが横向きに反転されます。
- 「**短辺とじ (Flip short side)**」では、ページが縦向きに反転されます。

### 印刷の反転 (横向き)



横向きの用紙の裏面に印刷する場合の、印刷の反転方向を設定します。

- 「**自動反転 (Flip automatically)**」では、プリンターの初期設定を使用して裏面が印刷されます。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用します。
- 「**長辺とじ (Flip long side)**」では、ページが横向きに反転されます。
- 「**短辺とじ (Flip short side)**」では、ページが縦向きに反転されます。

セクションの下部にある「**外側ページの印刷順を逆にする (Reverse order of outward pages)**」をオンにすると、手動での両面印刷で冊子印刷を行なう際に、表面側に印刷されるページの順番が逆になります。プリンターの種類によっては、このオプションをオンにすることで裏面の印刷用に用紙をプリンターに戻す前に、手動でページの順番を逆にする必要があります。

関連リンク

[レイアウトの印刷 \(477 ページ\)](#)

## ページサイズと用紙サイズ

Dorico Pro では、ページサイズと用紙サイズに別々の設定が使用されます。つまり、任意のページサイズのレイアウトをページサイズと異なるサイズの用紙に印刷できます。

プロジェクトの各レイアウトに対して、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページでページサイズを定義できます。これはつまり、レイアウトの範囲を定義することです。レイアウトを印刷するには、通常、使用するプリンターがサポートする用紙サイズを選択する必要があります。

通常、レイアウトのページサイズと印刷する用紙サイズは同一です。しかし、10" x 13" (パート用の標準ページサイズの1つ) といった、プリンターがサポートしていない特殊なページサイズをレイアウトで定義した場合、レイアウトを異なる用紙サイズに印刷しなくてはならない場合があります。必要に応じて、印刷オプションパネルの「ページ設定 (Page Setup)」セクションで用紙サイズを変更できます。設定したページサイズに対して十分な大きさの用紙をプリンターがサポートしており、ページサイズが標準用紙サイズに合っている限り、メニューに寸法が表示されます。用紙サイズを変更しても、レイアウトのページサイズには影響しないため、楽譜内の配置は変更されません。

特定の用紙サイズを選択していない場合、コンピューターのロケール設定に基づいた用紙サイズが自動的に選択されます。たとえば、これらがヨーロッパの国に設定されていると、A4 などの ISO 規格が使用されます。また、北米の国に設定されていれば、US レターなどの一般的な規格が使用されます。

一般的な規格よりも大きいページサイズを定義した場合、プリンターがサポートする一段階大きい用紙サイズが自動的に選択されます。たとえば、レイアウトのページサイズが A4/US レターよりも大きい場合、A3/タブロイドが使用されます。

レイアウトのページサイズと異なる用紙サイズに印刷する場合、イメージが用紙に合わせて自動的に拡大縮小されます。「ページ設定 (Page Setup)」セクションでカスタム尺度の倍率を指定することで、この設定を変更できます。

## 用紙の向き

用紙の向きとは、楽譜をプレビューおよび印刷をする際の用紙の方向のことです。用紙は横向きまたは縦向きに設定できます。

多くの場合、パート譜は縦向きで印刷されます。これは、一般的な譜面台に一度に楽譜を 2、3 ページ広げることができるためです。

指揮者用のフルスコアも、縦向きの方が横向きより多くの譜表が 1 ページに収まるため、縦向きで印刷されるのが一般的です。ただし、小編成のアンサンブルなどのフルスコアでは、ページに含める譜表の数が少ないため横向きで印刷される場合があります。ページの横幅が長ければ各ページに多くの小節が収まり、ページをめくる回数も少なくなります。

Dorico Pro では、用紙の向きに関係なく、ページの向きを設定できます。たとえば、縦向きのページを横向きの用紙に印刷できます。また、「見開き (Spreads)」や「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」のページ配置を使って、レイアウトの最後の奇数ページの用紙の向きを個別に設定することもできます。

関連リンク

[ページのサイズと向きの変更 \(346 ページ\)](#)

## 用紙のサイズと向きを設定

レイアウトごとに異なる用紙のサイズと向きを設定できます。

### 補足

印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「グラフィック (Graphics)」を選択している場合、用紙の向きのみが変更でき、他のオプションは利用できません。





印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択している場合、「ページ設定 (Page Setup)」セクションには以下のオプションが含まれます。

#### 用紙サイズ

いずれかの使用できる用紙サイズをメニューから選択できます。使用可能な用紙サイズは、選択したプリンターの印刷可能な用紙によって異なります。

#### 用紙の向き

以下のいずれかの用紙の向きを選択できます。

- 縦 (Portrait)  

- 横 (Landscape)  


#### 最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)

「見開き (Spreads)」および「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」のジョブタイプでのみ設定できます。この設定有効になっている場合、最後の奇数ページに対して、各種用紙サイズや印刷の向きを選択できます。

この設定は、ページ数が奇数のレイアウトを A3 用紙に横向きに印刷する場合に役立ちます。たとえば、5 ページのレイアウトでは、最初の 4 ページは A3 用紙 2 枚に印刷され、5 ページめは 3 枚めの左側に印刷されます。この設定を使用すると、最後の奇数ページを A4 用紙に縦向きで印刷することもできます。

#### 用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)

選択した用紙サイズに合わせてページ全体が拡大または縮小されます。たとえば、ページサイズが A4 のレイアウトで、A3 の用紙サイズを選択した場合、レイアウトのページは大きい用紙サイズに合うように拡大されます。

#### カスタム尺度 (Custom Scale)

元のサイズに対する倍率でレイアウトのページが拡大または縮小されます。たとえば、ページサイズが A3 のレイアウトを印刷する場合に、用紙サイズに A4 を選択して、「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を 100 に設定すると、ページの元のサイズが保持されて A4 用紙からはみ出てしまいます。

#### 関連リンク

[印刷/書き出し用のページ配置 \(485 ページ\)](#)

[ページのサイズと向きの変更 \(346 ページ\)](#)

## グラフィックファイルの形式

Dorico Pro では、レイアウトの書き出しに複数のグラフィックファイルの形式がサポートされています。

#### PDF

Portable Document Format (ポータブル・ドキュメント・フォーマット) の略称です。レイアウトを PDF ファイルに書き出すと、各レイアウトが固定されたプラットフォーム非依存文書を作成できます。これによってたとえば、Dorico Pro を所有していないユーザーに送信できます。

#### PNG

Portable Network Graphics (ポータブル・ネットワーク・グラフィックス) の略称です。PNG ファイルは可逆圧縮されるため、高画質です。

#### SVG

Scalable Vector Graphics (スケーラブル・ベクター・グラフィックス) の略称です。SVG は XML ベースのテキスト形式であるため、画質を損なうことなく任意のサイズに拡大縮小

できます。Dorico Pro は SVG グラフィックをラスターライズするのではなく描画命令でレンダリングするため、より高解像度で小さいファイルサイズとなります。

#### TIFF

Tagged Image File Format の略称です。TIFF ファイルは圧縮されないため、ファイルサイズは他の形式より大きくなる可能性はありますが、画質は劣化しません。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(480 ページ\)](#)

## 画像解像度

画像解像度は、画像に含まれるピクセルの数を表わします。ピクセルの数が大きいほど、画像は鮮明になります。

Dorico Pro では、PNG ファイルと TIFF ファイルを書き出す際に別の解像度を選択できます。画像解像度の単位は、“dpi (dots per inch)”です。

- 72
- 150
- 300
- 600
- 1200

#### 補足

解像度 72dpi は画面での表示に適しており、グラフィックを電子メールや Web サイトに埋め込む場合に使用できます。300dpi、600dpi、または 1200dpi を選択すると解像度の高いイメージが保存され、ワードプロセッシングや DTP ドキュメントに掲載する図として使用できます。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(480 ページ\)](#)

## 注釈

注釈を使って、印刷/書き出しされた文書に対して、印刷された日時などの情報を追加できます。出版社や印刷所は注釈を使用して、印刷イメージを正確に特定したり、登録したり、書き出されたグラフィックファイルを DTP アプリケーションに組み込んだりします。

出版用にレイアウトを印刷/書き出しする場合に、一般的な注釈を追加できます。また、Dorico Pro では、プロジェクトで有効にしたすべての表示オプションを印刷または書き出すことができます。

#### 補足

トンボと枠線は、ページサイズが用紙サイズよりも小さい場合にのみ印刷されます。

印刷オプションパネルの「**注釈 (Annotations)**」セクションには、以下のオプションが含まれます。

##### トンボ (Crop marks)

ページの 4 つの角に、短い縦横線を追加します。

##### 枠線 (Border)

ページ範囲の端に輪郭線を追加します。

##### 日時 (Date and time)

各ページの一番下に印刷した日時を追加します。

### 透かし (Watermark)

各ページの中央部分に大きい半透明のテキストを追加します。現在のバージョンが草稿、校正刷り、精査用のスコアであることを示す場合に便利な機能です。

セクションの一番下の「透かし (Watermark)」フィールドに、各ページに表示するテキストを入力できます。

### オプションを表示 (View options)

ガイドや音符のカラーなど、ビューモードでオンになっているオプションを、印刷結果や書き出したグラフィックに追加します。

# 記譜に関するリファレンス

# はじめに

本書「記譜に関するリファレンス」は、さまざまな記譜記号の一般的な表記規則と、Dorico Pro におけるその外観や配置の個別およびプロジェクト全体での変更方法について説明しています。

また、たとえば譜表をまたいだグリッサンドなどの複雑な記譜記号の入力に関する手引きも、それぞれ対応する章で説明しています。

記譜に関するリファレンスにおける課題で概説するのは、アイテムに対して行なうデフォルトの変更であり、この変更はフローごと、レイアウトごと、またはプロジェクトごとに適用できます。たとえば、ペダル線のスペーシング間隔やプロジェクト全体の外観の変更など、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」から行なえるプロジェクト全体の変更などです。また、プロパティパネルのプロパティを使用して行なうことが多い、デフォルト設定とは別に行なえる個々の変更についても説明します。

記譜に関する基本的な入力方法については、記譜モードの章を参照してください。

関連リンク

[記譜モード \(135 ページ\)](#)

# 臨時記号

臨時記号は、音符が現在の調号に合致しないピッチに変更されていることを示します。

調号を持たない譜面では、使用する表記規則に応じて一部または全部の音符に臨時記号を付ける必要が生じる場合があります。

Dorico Pro には、臨時記号をどのような場合に表示するかを決定する総合的な有効範囲ルールがあるため、複雑なコードにおいても臨時記号をどのように配置するかを制御できます。

関連リンク

[臨時記号の入力](#) (165 ページ)

## 臨時記号の削除

臨時記号は種類に従って削除できます。また、異なる臨時記号を持つ複数の音符を選択して、一度にすべての臨時記号を削除できます。

### 補足

これらの手順は、臨時記号を伴う音符の後にオクターブの異なるナチュラルの同じ音符に表示されるような親切臨時記号には適用されません。Dorico Pro では、フローごとおよび音符ごとに、親切臨時記号を表示したり、非表示にしたり、括弧を付けたりできます。

### 手順

1. 記譜モードで、臨時記号を削除する音符を複数選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、臨時記号を削除します。
  - ナチュラルを削除する場合、[0] を押します。
  - フラットを削除する場合、[-] を押します。
  - シャープを削除する場合、[=] を押します。
  - 音符パネルで臨時記号のボタンをクリックします。

### 結果

選択した音符から対応する臨時記号が削除されます。

### 補足

- 小節内の前方の同じピッチの音符に臨時記号が表示され、この臨時記号が削除されていない場合、それぞれの符頭に臨時記号が表示されていない場合、あとに続く同じピッチの音符はすべてこの臨時記号の効果を受けるものとみなされます。
- 異なる臨時記号を持つ複数選択された音符から臨時記号を削除する場合は、[0] を押すか、音符パネルで「**ナチュラル (Natural)**」をクリックして、すべての音符をナチュラルに戻すことをおすすめします。これは、異なる臨時記号を持つ選択された音符に臨時記号を再入力すると、選択範囲内のすべての音符にその臨時記号が追加されるためです。たとえば、複数選択した音符が 2

つの G# と 2 つの Gb で構成されている場合、シャープを再入力すると 4 つの G# となります。「**シャープ (Sharp)**」をクリックするか [=] を 2 回押すと、すべての臨時記号が削除されます。

## 関連リンク

[臨時記号の入力 \(165 ページ\)](#)[親切臨時記号を表示/非表示にする \(501 ページ\)](#)[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(495 ページ\)](#)

## 臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける

デフォルトで表示される親切臨時記号を含め、臨時記号を個別に括弧付きで表示したり、個別に表示/非表示を切り替えたりできます。たとえば、組段やフレーム区切りをまたぐタイのつながりに含まれる音符の臨時記号を括弧付きで表示できます。

## 手順

1. 外観を変更する臨時記号の付いた音符、または親切臨時記号を表示する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

## 補足

浄書モードでは、タイでつながれた個別の符頭のみを選択できます。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**臨時記号 (Accidental)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **表示 (Show)**
  - **非表示 (Hide)**
  - **括弧 (Parenthesize)**

## 補足

臨時記号を非表示にしても再生時の音程には影響しません。

## 結果

選択した音符の臨時記号が、表示、非表示、または括弧付きで表示されます。

## ヒント

- 多数の臨時記号の表示/非表示を切り替える場合は、臨時記号の有効範囲ルールを変更する方が簡単な場合もあります。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある異なる臨時記号の表示、非表示、括弧付けコマンドに対して、キーボードショートカットを割り当てることができます。

## 関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルール \(499 ページ\)](#)[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(50 ページ\)](#)

## 浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページで、臨時記号の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「臨時記号 (Accidentals)」ページでは、コード内の臨時記号の順番や、符頭と臨時記号、加線と臨時記号、括弧と臨時記号の間隔を詳細に設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 臨時記号のスタック

単一の声部における和音、または同じ位置にある複声部の音符に対し複数の臨時記号が必要な場合、臨時記号は和音の左側に複数の列にスタックされます。

複数の臨時記号を持つ和音では、臨時記号は通常以下のようにスタックされます。

1. 一番上の臨時記号は1列目、音符のすぐ左側に配置されます。
2. 一番下の臨時記号は、1番めの臨時記号と重ならない限りは、同じ列に追加されます。
3. 残りの臨時記号は、和音のさらに左に位置する連続した列に交互に追加されます。

Dorico Pro には、列をできるだけ増やさずに臨時記号をスタックするための追加ルールが設定されています。以下に、追加ルールの一部を例示します。

- 音符に近い列ほど、音符から遠い列より多くの臨時記号を含む。
- 1オクターブ離れた音符同士の臨時記号は同じ列にスタックされる。これは、臨時記号の組み合わせにより、6度以上離れた臨時記号にも適用される。
- 同じ列の臨時記号は重なってはいけない。重ならないようにするために必要な臨時記号間の最小間隔は、臨時記号の種類によって異なる。
- 2度離れた臨時記号は隣接する列に配置され、右側の列に高音の臨時記号が配置される。

これらのルールにより、連続する音符や和音の間に必要なスペースが最小限となり、臨時記号がそれぞれの属する符頭に可能な限り接近した状態で表示されます。同時に、臨時記号は和音の左側でCのようなカーブを描くように配置されます。

### ヒント

臨時記号のスタックのデフォルト設定をプロジェクト全体でカスタマイズするには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「臨時記号 (Notes)」ページにある「スタック (Stacking)」セクションで設定を行ないます。たとえば、臨時記号を散りばめることなくスタックし、左下がりの斜線状に表示できます。

関連リンク

[浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(496 ページ\)](#)

## 密集和音における臨時記号のスタックのルール

Dorico Pro は、多数の臨時記号を伴う密集和音においては、可読性を確保するために、スタックに特別な計算を使用します。密集和音とみなされるのは、オクターブの範囲に6つ以上の臨時記号が存在する和音です。

密集和音においては、臨時記号は以下のようにスタックされます。

1. 一番上にある臨時記号が音符左の最初の列に配置されます。



- 次に、一番上の音符より7度以上低い位置の音符の臨時記号が同じ列にスタックされます。残りの音符に対しても、1列目に入る臨時記号がなくなるまでこれを繰り返します。
- 以降の列についても、すべての臨時記号がスタックされるまで手順1と2を繰り返します。
- 列がグループ化され、散りばめられ、再度スタックされます。これにより、調号で臨時記号を配置するときと同様の、臨時記号が交互に配置されたスタックが作成されます。

#### 補足

Dorico Pro の初期設定では、密集和音の臨時記号に使用されるのは格子状配列で、標準のジグザグ配列ではありません。非常に密集度の高い和音では、格子状配列の方が幅が広くなり、列を多く必要とする場合があります。すべての密集和音のデフォルトの配列をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページにある「**スタック (Stacking)**」セクションで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(496 ページ\)](#)

## 臨時記号列のカーニング

Dorico Pro には、臨時記号列にカーニングを適用し、和音の左側の列ができるだけ水平方向のスペースを取らないようにする機能があります。

活字印刷の分野では、カーニングは個々の文字の間隔を調整して読みやすくするために使用されます。Dorico Pro では、一般的な楽譜の浄書と同様、カーニングによって臨時記号の位置を周囲と連動させることができます。

#### 例

低い音のあとに臨時記号を伴う高い音が続く場合、臨時記号を低い音の上に配置して、音符のスペーシングを乱さないようにします。

同様に、和音に複数列の臨時記号がある場合、たとえば2列目のフラットをカーニングして3度上の音符に属する1列目のシャープの下に配置することで、臨時記号スタック全体の幅を縮めることができます。これにより、音符のスペーシングを乱さずに臨時記号を適切な位置に配置することもできます。

## オルタードユニゾン

D#とDbのように、同じオクターブ内で同じノート名の2つ以上の音符が、同じコード内で異なる臨時記号を持つ場合、音符はオルタードユニゾンとして表示されます。

Dorico Pro では、これは枝分かかれた符尾で記譜され、両方の音符の横にそれぞれ臨時記号が表示されます。

オルタードユニゾンを単一の符尾で表示することもできます。この場合、符頭同士が隣接した状態で音符が表示され、2つの臨時記号はコードの左側に隣接した状態で表示されます。

#### 補足

コードに含まれる音符の音程が2度で、それらの音符のいずれかにオルタードユニゾンがある場合、設定に関わらず、コードは常に符尾が分割されて表示されます。これによって、クラスターコードが分かりやすくなります。

例



単一の符尾



符尾を分割

関連リンク

[和音の入力](#) (171 ページ)

## オルタードユニゾンの外観を変更する

オルタードユニゾンの外観は、他のオルタードユニゾンが同じ和音内に存在する場合も含めて、フローごとの設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 外観を変更するオルタードユニゾンの音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「符尾を分割 (Split stem)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンのときは選択したオルタードユニゾンの音符は分割符尾で表示され、オフのときは単一の符尾で表示されます。

ヒント

- 「符尾を分割 (Split stem)」は音符ごとに個別に適用されます。個別にプロパティを設定することで、同じコード内のオルタードユニゾンをそれぞれ異なる外観にできます。
- 各フローごとにすべてのオルタードユニゾンのデフォルトの外観を変更するには、「記譜 (Write) > 「記譜オプション (Notation Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページの「オルタードユニゾン (Altered unisons)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ](#) (143 ページ)

## 微分音の臨時記号

微分音の臨時記号は、洋式の調性で一般的に使用される半音階を超えた、クォーターシャープやクォーターフラットのようなピッチを示します。

「平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))」などの微分音の臨時記号を使用する調性を選択すると、微分音の臨時記号を使用できるようになります。

デフォルトの調性は「平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))」であり、調号、調性システム、臨時記号パネルの「調性 (Tonality System)」セクションで確認できます。このオプションが選択されている場合、パネルの「臨時記号 (Accidentals)」セクションで使用できる臨時記号は、半音 (セミトーン) の臨時記号 (シャープ、フラット、ダブルフラットなど) のみです。「平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))」には微分音の臨時記号は含まれません。

楽譜の特定のページの調性を変更して、使用できる微分音の臨時記号を変えることができます。オクターブの分割法、調号および臨時記号をカスタマイズして、独自の調性を定義することもできます。

#### 補足

従来の調号を使用しない場合でも、調性を変更して微分音の臨時記号を使用するためには、オープンキーマまたは無調の調号を入力する必要があります。

---

#### 関連リンク

- [調性システム \(680 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(681 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システム \(682 ページ\)](#)
- [カスタムの臨時記号 \(684 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの再生 \(690 ページ\)](#)

## 微分音の臨時記号の入力

1/4 音フラットや 3/4 音シャープといった微分音の臨時記号をプロジェクトに入力できます。

#### 前提

プロジェクトの、微分音の臨時記号を入力するセクションに調号を入力し、その調号に対し「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」など微分音の臨時記号を使用できる調性を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、微分音の臨時記号を適用する音符を選択します。
  2. 調号、調性システム、臨時記号パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで、任意の微分音の臨時記号をクリックします。
- 

#### 結果

選択した微分音の臨時記号が、選択した音符の横に表示されます。

---

#### 補足

一度に入力できる臨時記号の種類は 1 種類のみです。

---

#### 関連リンク

- [調性システム \(680 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(681 ページ\)](#)
- [調号の入力方法 \(189 ページ\)](#)

## 臨時記号の有効範囲ルール

臨時記号の有効範囲ルールは、臨時記号が適用される範囲を決定します。たとえば、小節内、異なるオクターブ、またはその 1 音だけなどです。

Dorico Pro では、さまざまな臨時記号の有効範囲ルールを使用できます。

#### 一般的な慣習 (Common Practice)

Dorico Pro では、これがデフォルトの臨時記号の有効範囲ルールです。一般的な慣習では、臨時記号はその小節のデュレーション内で臨時記号の付いているピッチのみに適用されます。つまり、異なるオクターブの音符には個別に臨時記号を付ける必要があります。

#### 新ウィーン楽派 (Second Viennese School)

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルールでは、すべての音符にナチュラルを含むすべての臨時記号を付ける必要があります。

### モダニスト (Modernist)

モダニストの臨時記号の有効範囲ルールでは、調号のピッチから変更された音符にのみ臨時記号が表示されます。ナチュラルは表示されません。

#### 関連リンク

[一般的な臨時記号の有効範囲ルール \(501 ページ\)](#)

[新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール \(502 ページ\)](#)

[モダニストの臨時記号の有効範囲ルール \(502 ページ\)](#)

## 臨時記号の有効範囲ルールの変更

臨時記号の有効範囲ルールは、プロジェクトのフローごとに最適なものに変更できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、臨時記号の有効範囲ルールを変更するフローを選択します。初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**臨時記号 (Accidentals)**」をクリックします。
4. 「**基本 (Basic)**」セクションの「**臨時記号の有効範囲ルール (Accidental duration rule)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **一般的な慣習 (Common Practice)**
  - **新ウィーン楽派 (Second Viennese School)**
  - **モダニスト (Modernist)**
5. 必要に応じて、選択した臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズします。

#### ヒント

「**基本 (Basic)**」セクションのオプションは、すべての臨時記号の有効範囲ルールに適用できます。

---

6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

[一般的な臨時記号の有効範囲ルール \(501 ページ\)](#)

[新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール \(502 ページ\)](#)

[モダニストの臨時記号の有効範囲ルール \(502 ページ\)](#)

## 二重臨時記号の打ち消し

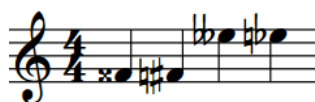
二重臨時記号の打ち消しに一般的に使用される方法には、古式と近代式の2つがあります。Dorico Pro ではいずれの方法も、各フローごとに個別に使用できます。

Dorico Pro の初期設定では、近代式の打ち消しが表示されます。つまり、ダブルシャープがシャープで打ち消される場合、またはダブルフラットがフラットで打ち消される場合、これらの臨時記号の意味は明確なため、シャープやフラット記号の前にナチュラル記号は表示されません。

二重臨時記号の打ち消し方法を各フローごとに個別に変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページにある「**基本 (Basic)**」セクションで設定を行ないます。このオプションは、どの臨時記号の有効範囲ルールにも使用できます。

- 「**古式の臨時記号打ち消し (Use archaic cancellation)**」を選択すると、二重臨時記号のあとに来る新規臨時記号の前にはナチュラル記号が表示されます。
- 「**近代式の臨時記号打ち消し (Use modern cancellation)**」を選択すると、二重臨時記号は新規臨時記号によって置き換えられるため、新規臨時記号の前にナチュラル記号は表示されません。

例



古式の臨時記号打ち消し



近代式の臨時記号打ち消し

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

## 一般的な臨時記号の有効範囲ルール

一般的に、臨時記号は同じ小節の同じオクターブ上にある同じピッチのすべての音符に影響します。これは他の臨時記号に上書きされない限り有効です。他の臨時記号に上書きされない場合でも、次の小節に移ると自動的に臨時記号の効果が取り消されます。

補足

臨時記号の効果が取り消されたことを明確にするため、次の小節の同じピッチの1音目には、親切臨時記号を追加するのが慣習となっています。

Dorico Pro の初期設定では、一般的な臨時記号の有効範囲ルールが使用されます。臨時記号の有効範囲ルールの変更は、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページで行なえます。

一般的に、ある小節の音符に付いている臨時記号は次の小節では自動的に取り消されます。たとえば G メジャーのキーで、ある小節に F# がある場合、調号によってシャープがすでに暗示されているとしても、次の小節の F にはシャープ記号が表示されます。

初期設定で一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用している場合、親切臨時記号も表示されます。親切臨時記号は、先に現れた臨時記号を宣言しなおすものです。親切臨時記号は任意の記号とみなされません。つまり、確定や取り消しを明確に示すものではなく、あくまであいまいさを排除するためのものです。

親切臨時記号は以下の場合に表示されます。

- 同じ小節内の後続の音符が、異なるオクターブの同じノート名を持つ場合。
- 次の小節の後続の音符が、同じオクターブの同じノート名を持つ場合。
- 次の小節の1音目がオクターブは問わず同じノート名を持つ場合。
- 同じ小節内に複数のオーギュメント/ディミニッシュ音程またはダブルディミニッシュ/ダブルオーギュメント音程がある場合。

それぞれの状況に応じて、親切臨時記号を括弧に入れて表示するか、括弧なしで表示するか、あるいは表示しないかを選択できます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルールの変更 \(500 ページ\)](#)

## 親切臨時記号を表示/非表示にする

一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用する場合、親切臨時記号の表示/非表示を切り替えることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。

2. 「フロー (Flows)」 リストから、親切臨時記号を表示または非表示にするフローを選択します。初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
  3. ページリストの「臨時記号 (Accidentals)」をクリックします。
  4. 「基本 (Basic)」セクションで、「臨時記号の有効範囲ルール (Accidental duration rule)」に「一般的な慣習 (Common practice)」を選択します。
  5. 「親切臨時記号 (Cautionary accidentals)」セクションで、選択したフローに適用するオプションを選択します。
  6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

関連リンク

[一般的な臨時記号の有効範囲ルール \(501 ページ\)](#)

## 新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルールでは、臨時記号はそれが記譜される音符にのみ適用されます。調号に関わらず、すべての音符に臨時記号が表示されます。つまり、変更のない音符にもナチュラルが表示されます。

この臨時記号の有効範囲ルールは、Schoenberg (シェーンベルク) などの新ウィーン楽派の作曲家によって使用されました。

臨時記号の有効範囲ルールを変更するとき、新ウィーン学派の臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズできます。たとえば同じ小節内の同じ音符の直後の繰り返しにおいて、臨時記号を再表示するかどうか選択できます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルールの変更 \(500 ページ\)](#)

## モダニストの臨時記号の有効範囲ルール

モダニストの臨時記号の有効範囲ルールでは、調号のピッチから変更された音符にのみ臨時記号が表示されます。ナチュラルは表示されません。ただし、新ウィーン楽派の有効範囲ルールと同様、表示されている臨時記号は、臨時記号が付いている音符に対してのみ適用されます。

この表記法は、Charles Ives (チャールズ・アイヴズ) や Robert Crumb (ロバート・クラム) によって使用されました。

臨時記号の有効範囲ルールを変更するとき、モダニストの臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズできます。たとえば、1つの小節内で同じピッチの同じ臨時記号を再表示するかどうかを、後続の音符が直後にある場合と、別の音符を挟んでいる場合について、それぞれ選択できます。連桁グループ内の臨時記号の再表示を制御するオプションもあります。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルールの変更 \(500 ページ\)](#)

# アーティキュレーション

アーティキュレーションは、音符および和音の上下に記譜される記号のことを指します。アーティキュレーションを使用すると、音符のアタックや、記譜されたデュレーションに対して実際に音を出す長さを演奏者に指示できます。

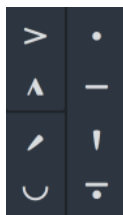
Dorico Pro では、アーティキュレーションは、あらゆるインストゥルメントに共通する形で音符の演奏方法を変化させるものと定義しています。

ボウイング指示、ハーモニクスやタンギングなどの指示は、個別のインストゥルメントグループに適用されるため、Dorico Pro では演奏技法と位置づけられています。演奏技法はウィンドウ右側の記譜パネルに表示されます。

アーティキュレーションは以下のタイプに分類されます。

- **アーティキュレーション (強弱)**  
音符の最初にかかる強いアタックを示します。アクセントとマルカートがこれにあたります。マルカートは“強アクセント”とも呼ばれ、Dorico Pro の初期設定では、これらのアーティキュレーションを音符またはタイのつながりの開始位置に表示します。
- **アーティキュレーション (デュレーション)**  
記譜された音符よりも短いデュレーションを示します。スタッカティッシモ、スタッカート、テヌート、スタッカートテヌートがこれにあたります。スタッカートテヌートは“ルレ (louré)”とも呼ばれます。Dorico Pro の初期設定では、音符にタイが付いている場合、デュレーションのアーティキュレーションをタイでつながれた最後の音符の上に表示します。
- **アーティキュレーション (強調)**  
現在の拍子に反する場所での強調や無強調を記号で示します。Dorico Pro の初期設定では、アーティキュレーションを音符またはタイのつながりの開始位置に表示します。

アーティキュレーションは、記譜モードの音符パネル下部に表示されます。



Dorico Pro では、アーティキュレーションは、楽譜の前後関係に従って音符や和音の符頭側または符尾側に自動的に配置されます。音符または和音には、3種類のアーティキュレーションからそれぞれ1つずつを選択して表示できます。

インストゥルメントのタイプと使用する再生デバイスの両方に基づいてアーティキュレーションの再生時の効果を変更するには、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「音符の強弱 (Note Dynamics)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## アーティキュレーションのコピー

音符をコピーするとアーティキュレーションも自動的にコピーされますが、音符とは個別にコピーアンドペーストすることはできません。

---

### 手順

1. 記譜モードで、アーティキュレーションの付いた音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符をコピーします。
    - **[R]** を押すと、音符とアーティキュレーションが選択した音符の直後に追加されます。
    - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符をコピーし、貼り付ける位置を選択してから **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
    - **[Alt]** を押しながら任意の位置をクリックします。選択した音符とアーティキュレーションがそのまま貼り付けられます。
- 

## アーティキュレーションの変更

音符に付けたアーティキュレーションは、あとから変更できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、アーティキュレーションを変更する音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを変更します。
    - 新しいアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。たとえば、アーティキュレーションをスタッカートに変更する場合は、**[<>>]** を押します。
    - 音符パネルで、新しいアーティキュレーションをクリックします。
- 

### 結果

新しいアーティキュレーションが追加されます。これにより、同じタイプの既存のアーティキュレーションが置き換えられます。

### 関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのキーボードショートカット \(186 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの削除

記譜モードでは、アーティキュレーションを個別に選択して削除することができないため、アーティキュレーションの付いた音符を選択してからアーティキュレーションを解除する必要があります。

---

### 手順

1. 記譜モードで、削除したいアーティキュレーションの付いた音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを解除します。
    - 削除するアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。
    - 音符パネルで、削除するアーティキュレーションをクリックします。
- 

### 関連リンク

[アーティキュレーションのキーボードショートカット \(186 ページ\)](#)



## 浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「アーティキュレーション (Articulations)」ページで、アーティキュレーションの外観と配置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、それぞれのアーティキュレーションの表示位置 (譜表の上にするか、符頭の横にするか) や、タイやスラーに対するアーティキュレーションの位置、さらにアーティキュレーションと音符や他のアーティキュレーションとの間の垂直方向の間隔などを詳細に変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの位置

アーティキュレーションの位置に関しては音符、譜表、および譜表線に対する配置規則が確立されており、これによりアーティキュレーションは常に見やすい位置に配置されます。スタッカートのようなサイズの小さいアーティキュレーションは、譜表線に対する正確な配置が特に重要です。

アーティキュレーションは、初期設定で符頭側に配置されますが、以下の場合は例外となります。

- 単一の声部では、使用される音符や和音の符尾の方向に関わらず、マルカートは常に譜表の上に配置されます。複声部では、マルカートは譜表の下に配置される場合もあります。
- 複声部がオンになっている場合、アーティキュレーションは音符か和音の符尾側の末尾に配置されます。これにより、符尾が上向きの音符に付くアーティキュレーションと、符尾が下向きの音符に付くアーティキュレーションが明確になります。
- 音符が第3線またはそのすぐ上やすぐ下の間 (第2間または第3間) に位置する場合、第1間の縦幅より小さいアーティキュレーションは、1つ隣の空いているスペースの中央に配置されます。これは通常スタッカートおよびテヌートにのみ適用されます。譜表の中央部にある音符にスタッカートテヌートが付く場合、アーティキュレーションを構成する部分が分割され、それぞれ別のスペースに配置されます。
- アーティキュレーションが譜表内に収まらない場合や、音符が譜表の上下に位置する場合は、アーティキュレーションは譜表の外側に配置されます。
- 音符または和音がタイでつながれ、タイが符頭の上または下に配置される場合、音符または和音の符頭側に配置されるアーティキュレーションは、タイの終端と重ならないように、1/4 スペースのオフセットが追加されます。

符頭側のアーティキュレーションは常に符頭に水平方向に中央揃えされます。これは符尾側のアーティキュレーションにも適用されます。ただし、アーティキュレーションがスタッカートまたはスタッカティッシモのみの場合は例外となり、このときアーティキュレーションは符尾に中央揃えされます。

関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(505 ページ\)](#)

[スタッカート記号の水平位置の変更 \(507 ページ\)](#)

[アーティキュレーションを個別に垂直移動する \(507 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの位置を個別に変更する \(508 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの順番

複数のアーティキュレーションが同じ音符に付いている場合、符頭または符尾に対する垂直位置と距離はアーティキュレーションのタイプによって異なります。

アーティキュレーションは以下の順番で配置されます。

1. デュレーションのアーティキュレーションは、符頭または符尾に一番近い位置に配置されます。
2. 強弱のアーティキュレーションは、デュレーションのアーティキュレーションの外側に配置されます。
3. 強調のアーティキュレーションは、符頭または符尾から一番遠い位置に配置されます。

### アーティキュレーションとスラーとの相対的な順番

デュレーションのアーティキュレーションは、以下のように配置されます。

- アーティキュレーションが付く音符または和音から開始/終了するスラーの内側
- スラーのカーブの内側
- 連符の角括弧の内側

強弱のアーティキュレーションは以下のように配置されます。

- アーティキュレーションが付く音符または和音から開始/終了するスラーの外側。ただし譜表内に配置できる場合は除く
- スラーとそれが属する音符または符尾との間に重なることなく収まる場合は、スラーのカーブの内側
- 連符の角括弧の外側



強弱と強調のアーティキュレーションはスラーの外側に配置



デュレーションのアーティキュレーションはスラーの内側に配置

## タイでつながれた音符のアーティキュレーションの位置を変更する

タイのつながりのどこでアーティキュレーションが表示されるかを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。初期設定では、強弱のアーティキュレーションと強調のアーティキュレーションはタイでつながれた1つめの音符または和音の上に表示され、デュレーションのアーティキュレーションは最後の音符またはコードの上に表示されます。

### 手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する、タイでつながれた音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アーティキュレーション (Articulations)」グループで、位置を変更するアーティキュレーションに対応したヘッダーに属する「タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)」をオンにします。  
たとえば、アクセントの位置を変更するには、「アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)」ヘッダーの下にある「タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 最初の音符 (First note)
  - 最後の音符 (Last note)

4. 必要に応じて手順2と3を繰り返し、選択されているタイでつながれた音符/和音の、他の種類のアーティキュレーションの位置を変更します。

---

#### 結果

選択したタイのつながりのアーティキュレーションの位置が変更されます。

#### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「アーティキュレーション (Articulations)」ページの「タイ (Ties)」セクションでは、すべてのタイのつながりに対するそれぞれのアーティキュレーションのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(505 ページ\)](#)

## スタッカート記号の水平位置の変更

スタッカートやスタッカティッシモが音符の符尾側にあるときは、初期設定の水平位置をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、スタッカートとスタッカティッシモが符尾側にあるときは符尾を中心にしてアーティキュレーションが配置されます。

ほとんどのアーティキュレーションの水平位置は、符尾か符頭を中央にして配置されます。ただし、アーティキュレーションがスタッカートまたはスタッカティッシモのみで、それが符尾側に配置される場合、水平位置を符頭の中心と符尾との中間に設定することもできます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
3. 「**水平位置 (Horizontal Position)**」セクションの「**符尾側のスタッカートの水平位置 (Horizontal position of staccato on stem side)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符頭に中央揃え (Center on notehead)
  - 符尾に中央揃え (Center on stem)
  - 符頭の中心と符尾との中間位置 (Half-center)
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

選択したオプションに応じて、プロジェクト全体のスタッカート記号の位置が変更されます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(505 ページ\)](#)

## アーティキュレーションを個別に垂直移動する

アーティキュレーションは、表示位置を個別に上下に移動して音符に近づけたり離したりできます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、移動させるアーティキュレーションを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択したアーティキュレーションが垂直に移動します。

#### ヒント

- アーティキュレーションを垂直に移動させると、プロパティパネルの「**アーティキュレーション (Articulations)**」グループで、対応するアーティキュレーションタイプの「**オフセット Y (Offset Y)**」がオンになります。たとえば、アクセントを移動させると、「**アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)**」ヘッダーの下にある「**オフセット Y (Offset Y)**」がオンになります。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、アーティキュレーションを垂直に移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したアーティキュレーションが初期設定の位置にリセットされます。

- すべてのアーティキュレーションと 符頭および他のアーティキュレーションとの間隔を初期設定から変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アーティキュレーション (Articulations)**」ページで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(505 ページ\)](#)

## アーティキュレーションの位置を個別に変更する

アーティキュレーションの位置は、符頭側と符尾側のどちらにするかを個別に変更できます。

#### 手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**アーティキュレーション (Articulations)**」グループで、位置を変更するアーティキュレーションに対応したヘッダーに属する「**位置 (Placement)**」をオンにします。  
たとえば、アクセントの位置を変更するには、「**アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)**」ヘッダーの下にある「**位置 (Placement)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **符頭側 (Notehead side)**
  - **符尾側 (Stem side)**
4. 必要に応じて手順 2 と 3 を繰り返し、選択中の音符/和音の他の種類のアーティキュレーションの位置を変更します。

#### 結果

アーティキュレーションが、音符または和音の選択した側に配置されます。これにより演奏技法などの他の記号との衝突が起こった場合、すべての記号がはっきりと読みやすくなるように Dorico Pro が自動的に配置を調節します。

#### 関連リンク

[アーティキュレーションのデフォルトの位置を変更する \(509 ページ\)](#)

[アーティキュレーションを個別に垂直移動する](#) (507 ページ)

## アーティキュレーションのデフォルトの位置を変更する

すべてのアーティキュレーションのデフォルトの位置をタイプに応じて変更できます。たとえば、強調のアーティキュレーションを常に譜表の上に配置し、デュレーションのアーティキュレーションを譜表の上下にかかわらず符頭に隣接して配置できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
  3. 「**位置 (Placement)**」セクションで、各アーティキュレーションタイプについて以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **常に上に配置 (Always above)**
    - **自然な位置に配置 (Natural placement)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

対応するタイプのアーティキュレーションのデフォルトの位置がプロジェクト全体で変更されます。「**自然な位置に配置 (Natural placement)**」に設定されたアーティキュレーションは音符の符頭側に配置されます。

### ヒント

また、符頭/符尾とアーティキュレーションの間、およびスタック状のアーティキュレーションのデフォルトの間隔を、「**アーティキュレーション (Articulations)**」ページの「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで変更できます。

---

## 再生時のアーティキュレーション

スコアにアーティキュレーションを追加すると、再生時の音符のサウンドが変化します。

サンプルライブラリーがない場合でも、アーティキュレーションを追加することで再生時の音符のサウンドを変化させることができます。たとえば、スタッカート記号は音符のサウンドを通常より短くし、アクセントは音符のサウンドを通常より大きくします。

「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**タイミング (Timing)**」ページでは、デュレーションのアーティキュレーションの効果の初期設定を変更できます。「**強弱記号 (Dynamics)**」ページでは、強弱のアーティキュレーションの設定を変更できます。

サンプルライブラリーがある場合、インストゥルメント用のサンプルライブラリーにアーティキュレーション固有のサンプルが含まれていれば、そのサンプルが Dorico Pro に読み込まれます。

アーティキュレーションは音符全体に適用されるため、サンプルは音符の開始位置から再生されます。タイでつながれた音符の場合も同様です。

### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ](#) (409 ページ)

# 小節

小節は通常、拍数に応じた規則的な時間の区切りを示し、通常は拍子記号によって規定されます。小節は垂直に引かれた小節線によって、他の小節と区切られます。

小節は通常、すべてのプレイヤー間で共通の長さや位置を使用しますが、中には異なる長さの小節が同時に存在するような楽譜もあります。また、一部のプレイヤーの楽譜に小節がまったく表示されない場合もあります。

各小節には番号が付けられます。これにより、プレイヤーは自分の楽譜上の位置を常に把握でき、リハーサルを行なう際の助けとしても使用できます。これは、複数のプレイヤーが利用する楽譜では特に重要な機能と言えます。

関連リンク

[小節番号 \(525 ページ\)](#)

[小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)

## 小節/拍の削除

小節と小節線ポップオーバーを使用すると、プロジェクトから小節全体および特定の拍を完全に削除できます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
    - 削除する最初の小節か、その小節内の最初の音符または休符
    - 拍の削除を開始する位置のアイテム
  2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
  3. ポップオーバーに **-** (マイナス記号) を入力し、続けて削除する小節数または拍数を入力します。たとえば、6 小節 (選択した小節とそれ以降の 5 小節) を削除するには **-6** を入力し、選択した位置から 4 分音符 2 つ分の拍を削除するには **-2q** を入力します。
  4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
- 

結果

指定した数の小節または拍が削除されます。

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(204 ページ\)](#)

## システムトラックを使用して小節/拍を削除する

システムトラックを使用して、小節全体および選択した拍をプロジェクトから完全に削除できます。たとえば、アウフタクトで始まるフローの最終小節の最後の拍を削除したりできます。

### 前提

システムトラックを表示しておきます。

### 手順

1. 記譜モードのシステムトラックで削除する領域を選択します。
2. システムトラックで「削除 (Delete)」をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。



システムトラックの「削除 (Delete)」ボタン



「削除 (Delete)」ボタンにマウスを合わせると、システムトラックの色が変わります。

### 結果

選択した範囲が削除されます。挿入モードがオンになっているときと同様、選択範囲の右側の楽譜が空白を埋める形で左に移動します。

### 補足

選択範囲内のガイドもすべて削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオッサア譜表を削除した場合です。

### 関連リンク

[システムトラック \(277 ページ\)](#)

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(278 ページ\)](#)

## フローの終了位置にある空白の小節を削除する

フローの終了位置にある空白の小節は、削除できます。

### 手順

1. 記譜モードで、トリミングするフローにあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに **trim** と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

### 結果

選択したフローの終了位置にある空白の小節が削除されます。

### 関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(204 ページ\)](#)

[フローの分割 \(291 ページ\)](#)

## 小節内のコンテンツの削除

小節線や小節自体はそのままの状態にして、小節内のコンテンツだけを削除できます。

### 手順

1. 記譜モードで、削除する小節内のコンテンツを選択します。

#### ヒント

選択すると、音符、休符、およびその他のアイテムがオレンジ色で強調表示されます。

2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

### 結果

選択した小節内のコンテンツが削除されます。

### 関連リンク

[大きな選択範囲](#) (276 ページ)

[フィルター](#) (280 ページ)

## 小節の長さの変更

小節の長さを変更することで、デュレーションを長くしたり、短くしたりできます。

小節の長さは、拍子記号を変更することで変更できます。たとえば不規則な拍子の楽譜を作成するとき、小節線は音符をグループ分けするためだけに必要で拍数を示す必要がない場合、拍子記号をあとから非表示にすることもできます。

### 関連リンク

[拍子記号の入力方法](#) (194 ページ)

[拍子記号の表示/非表示](#) (1005 ページ)

## 空白の小節の幅を変更する

空白の小節の幅は、浄書モードで個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 幅を変更する空白小節の始めまたは終わりの小節線の位置にある四角いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、スペーシングを調節します。

- **[Alt]+[→]** を押して、選択したハンドルの左側のスペースを増やします。
- **[Alt]+[←]** を押して、選択したハンドルの左側のスペースを減らします。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。



#### 結果

空白の小節の幅が変更されます。

たとえば、小節の右側の小節線のハンドルを左に動かすと、小節の幅が狭くなります。小節の右側の小節線のハンドルを右に動かすと、小節の幅が広がります。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(874 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

## 小節の分割

各小節の拍数を変更することで、リズムを基準にして小節を分割できます。また、組段またはフレーム区切りをまたいで小節を視覚的に分割することもできます。これは不規則な拍子や多拍子のパッセージを持つ楽譜で必要になる場合があります。

### 拍子記号を新規に挿入して小節を分割する

拍子記号を変更すると、小節を 2 つ以上に分割できます。新しい拍子記号は、次の既存の拍子記号の位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。

新しい拍子記号がこのスペースにぴったり当てはまらない場合、たとえば 4/4 の小節 2 つ (4 分音符 8 つ) を 3/4 の小節 2 つか 3 つ (4 分音符 6 つまたは 9 つ) のいずれかで置き換える場合、既存の拍子記号は上書きされません。かわりに最終小節が短くなります。

たとえば下の例のように、既存の拍子記号の 2 小節前の拍子記号を 4/4 から 3/4 に変更すると、3/4 の小節が 2 つと 2/4 の小節を作成します。



ただし挿入モードでは、新規の拍子記号によって作成された最後の小節の終わりに Dorico Pro が拍を挿入することで、最後の小節が正しい長さになるように調整されます。たとえば上の例と同じ状況で「挿入 (Insert)」モードをオンにした場合、4/4 の小節 2 つが 3/4 の小節 3 つになり、3 番めの 3/4 の小節の最後に拍が追加されます。



### 小節線を新規に挿入して小節を分割する

標準の小節線 (縦線) 以外的小節線を小節の途中のどこかに新規に挿入する場合も、拍子記号に影響を与えずに小節を分割できます。

ただし、標準の小節線 (縦線) を既存の小節の途中のどこかに挿入すると、その位置以降の拍子パターンがリセットされます。

たとえば、4/4 の小節の 3 つめの 4 分音符を選択して新規に小節線を挿入すると、追加した小節線の位置から開始する 4/4 の小節が作成されます。これにより、小節線の左側に拍子記号が付かない 2/4 の 1 小節相当の小節が残りますが、追加した小節線より右の小節は、次の拍子記号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、すべて 4/4 の小節となります。

標準の小節線 (縦線) を挿入すると、それがどのように拍子に影響を与えたかを示すガイドが表示されます。



4/4 拍子の 2 小節



最初の 4/4 の途中で標準の小節線が挿入されたため、その位置から新たに 4/4 の小節が開始される

関連リンク

[拍子記号の入力方法 \(194 ページ\)](#)

[小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(362 ページ\)](#)

[フレーム区切りの挿入 \(360 ページ\)](#)

[挿入モードでの音符の挿入 \(156 ページ\)](#)

## 小節の結合

2 つ以上の小節がある場合、間にある小節線を削除することで小節を 1 つの長い小節に結合できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する小節線を選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

結果

削除された小節線の両側にある小節が結合されて 1 つの小節になります。必要に応じて、小節内の音符の連桁が自動的に付けなおされます。

補足

小節線を削除しても拍子記号は自動的に変わりません。混乱を避けるために、拍子記号を新たに入力して小節に新たなデュレーションを反映させることをおすすめします。

関連リンク

[小節線の削除 \(519 ページ\)](#)

[拍子記号の入力方法 \(194 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

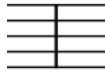
# 小節線

小節線は譜表を区切る垂直の線で、楽譜を拍子記号に応じて小節に分割します。

小節線にはさまざまな種類があり、それぞれ異なる状況において使用されます。

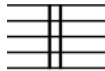
## 標準 (縦線)

譜表の高さ全体に引かれる標準の縦線です。初期設定では、1 線譜の小節線は譜表線の上下に 1 スペース分突き出します。



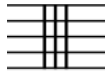
## 複縦線

複縦線は、縦線と同じ太さの 2 本の線からなり、初期設定では 1/2 スペースの間隔で配置されます。これは通常、楽譜中に大きな変化があることを示したり、リハーサルマーク、調号の変更やテンポの変更の印を付けたりする際に使用されます。



## 三重線

三重線は、縦線と同じ太さの 3 本の線からなり、初期設定では 1/2 スペースの間隔で配置されます。楽曲分析において、構造単位の区切りを示すために縦線のかわりに使用されることがあります。



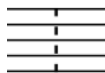
## 終止線

終止線は 2 本の線からなり、1 本は通常の細さ、もう 1 本は太く描かれます。終止線は楽譜の終わりを示します。



## 破線

破線は通常の小節線と同じ太さですが、線中に間隔があり、破線として表示されます。破線は小節を細かく分割して複雑な拍子記号の楽譜を読みやすくするため、または譜面に元からある小節線と編集上の小節線を区別するために使用されます。



### ティック

ティックは譜表の第5線上に引かれる短い線です。ティックは単旋聖歌を記譜する際に便利で、息やフレーズ間の短い間、または独特な韻律の構造を持つような楽譜の表記に使用されます。



### 短線

短線は譜表の中央、5線譜の第2線と第4線の間に引かれます。5線譜より線の少ない譜表では、短線は譜表の比率に合わせて縮小されます。短線は単旋聖歌を記譜する際に便利で、ティックよりも長いフレーズ間の間を表記するために使用されます。



### 太線

太線は、通常の縦線と太さの違いをわかりやすくするため、初期設定ではスペース半分の太さで表記されます。これにより大きな視覚効果が得られます。

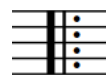
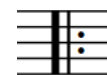


### 反復開始線

反復開始線は、左から順に、太い小節線、通常の小節線、以下のいずれかの点が並んで構成されています。

- 2つの点 (5線譜の第2間と第3間に点が1つずつ入る)
- 4つの点 (5線譜の4つの間に点が1つずつ入る)

リピートセクションの開始位置を示します。リピートセクションの終了位置を示す反復終了線とともに使用されます。



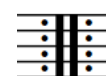
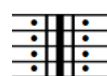
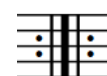
### 反復終了線

反復終了線は反復開始線を鏡写しにしたものです。つまり2つまたは4つの点のあとに通常の小節線、そのあとに太線が続きます。リピートセクションの終了位置を示します。リピートセクションの開始を示す反復開始線とともに使用されます。



### 反復終了/反復開始線

反復終了/反復開始線は反復開始線と反復終了線を組み合わせたもので、2本の縦線の中に1本の太線が挟まれる形のもので、2本の太線を使用し縦線は使用しないものがあります。2つまたは4つの反復点は線の両側に付けられます。反復終了/反復開始線は、反復セクションの直後に別の反復が続く場合に使用されます。



関連リンク

[小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(440 ページ\)](#)

## 浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページで小節線の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**小節線 (Barlines)**」ページのオプションを使用すると、小節線の外観と線の太さを変更したり、楽譜の内容に合わせて小節線を変更したりできます。たとえば、リピート小節線のデフォルトの外観や、コーダの前に表示されるデフォルトの小節線、声楽の譜表やオッサア譜表の小節線を結合するかどうかなどを変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[小節線のスペーシング \(519 ページ\)](#)

[オッサア譜表の小節線 \(932 ページ\)](#)

[コーダの前に表示される小節線の変更 \(844 ページ\)](#)

## 小節線のフローごとの記譜オプション

「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページで小節線の外観を設定しフローごとに適用できます。

各フローの終了位置にデフォルトで表示する小節線を変更できます。また、各組段の終端の小節線およびフローの最後の組段の終端の小節線で譜表をすべて結合するかどうか選択できます。

「**記譜オプション (Notation Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択するか、設定モードで「**設定 (Setup)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択します。
- 設定モードで、「**フロー (Flows)**」パネルにある「**記譜オプション (Notation Options)**」をクリックします。



そのあと、ページリストで「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。

## フローの終了位置で使用する初期設定の小節線を変更する

各フローの終了位置にどのタイプの小節線を自動的に使用するか選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 終了位置の小節線のデフォルトを変更するフローを「**フロー (Flows)**」リストから選択します。初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。
4. 「**フローの終了位置に自動で描く小節線 (Automatic barline at end of flow)**」セクションで以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **終止線 (Final barline)**

- 複縦線 (Double barline)
- 縦線 (通常) (Normal barline)
- 小節線 (破線) (Dashed barline)
- 小節線 (太線) (Thick barline)
- 小節線なし (No barline)

#### 結果

選択されているフローの終了位置のデフォルトの終止線が変更されます。

#### ヒント

終止線のタイプを変更して終止線を個別に上書きすることはできますが、終止線を個別に削除することはできません。

#### 関連リンク

[小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)

## 単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする

初期設定では、組段の小節線は2つ以上の譜表を持つ組段の開始位置に表示され、単一譜表の組段では非表示になっています。最初の組段より後の単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にできません。

単一譜表の組段に組段の小節線を表示するのは、手写のリードシートにおける慣習です。通常、この場合は音部記号を表示しません。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストで、最初の組段より後で組段の小節線を表示/非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。
4. 「**最初の組段に続く組段の開始位置の小節線 (Barline at start of systems following first system)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 1つ以上の譜表で表示 (Show for one or more staves)
  - 2つ以上の譜表で表示 (Show for two or more staves)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 調号の変更位置の小節線を変更する

すべての調号の変更位置にデフォルトで表示される小節線をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、Dorico Pro は調号の変更位置に複縦線を表示します。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。
3. 「**調号 (Key Signatures)**」セクションの「**小節開始位置の調号の変更 (Changes of key signature at the start of a bar)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**複縦線を描く (Draw double barline)**」
  - 「**縦線を描く (Draw single barline)**」

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

小節開始位置の調号の変更位置に表示される小節線が、プロジェクト全体で変更されます。

## 小節線の削除

音符の位置に影響を与えずに小節線を削除できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、削除する小節線を選択します。
  2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

小節線が削除されます。小節線の両側にある小節が1つにまとめられ、同じ拍数を含む小節になります。このとき、拍子記号は変更されません。

混乱を避けるために、拍子記号を新たに追加して小節に新たなデュレーションを反映することもできます。

#### 関連リンク

[拍子記号の入力方法 \(194 ページ\)](#)

## 小節線のスペーシング

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページで、すべての小節線のデフォルトのスペーシングを設定しプロジェクト全体に適用できます。

「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページでは、小節線の前後のスペースや、小節線と他の譜表オブジェクト (音部記号、拍子記号、調号など) との間のスペースに関するプロジェクト全体の値を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する \(517 ページ\)](#)

## 小節線の位置の移動

入力した小節線を別の位置へ移動させる場合は、希望する位置に新しい小節線を入力する必要があります。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、任意のタイプの小節線を希望する位置に入力します。
2. 元の位置から小節線を削除します。

#### 補足

この手順はどの順番でも行なえます。ただし、小節線を削除することで音符や連符のグループが変化する場合があります。特定のフレーズに基づいて新しい小節線の位置を選択する場合、これによって小節線の新たな挿入位置が見つけにくくなる場合があります。

---

関連リンク  
[小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)

## 小節線の表示位置の移動

隣接する音符、拍子記号、調号、または休符と小節線間のスペーシングを調節できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 小節内に表示される音符のスペーシングハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- クリックして左右にドラッグします。

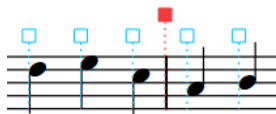
### 補足

音符のスペーシングのハンドルはマウスでは移動できません。移動にはキーボードのみ使用できます。

結果

小節線の左右のスペーシングが広くまたは狭くなります。

例



小節線の左のスペーシングを狭くした後の新しい配置の例

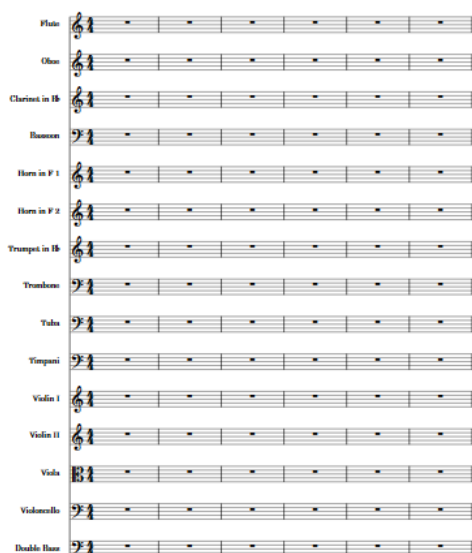
## 譜表グループをまたぐ小節線

スコア内の特定のインストゥルメントを見つけやすくするために、小節線をインストゥルメントおよび譜表のグループをまたいで延長できます。

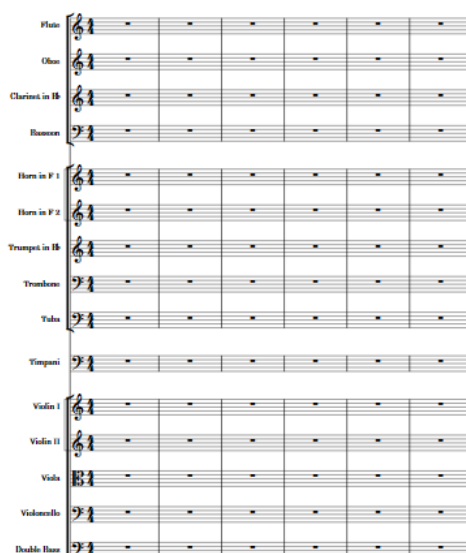
### デフォルトの譜表グループをまたぐ小節線

小節線が個別の譜表にのみ表示される場合、それぞれのラインの位置を一目で判別することが非常に難しくなります。ところが、スコアにインストゥルメントグループをまたぐ小節線を引くと、インストゥルメントのファミリーがブロックとして表示されるため、インストゥルメントを判別しやすくなります。





個別の小節線



インストゥルメントグループをまたぐ小節線

グループを大括弧で結合すると、譜表グループをまたぐ小節線が自動的に引かれるようになります。大括弧内に含まれる譜表は楽器編成と状況によって異なりますが、通常は木管楽器や弦楽器といった同じファミリーのインストゥルメントの譜表が大括弧で結合されます。

初期設定では、インストゥルメントのファミリーに基づいて譜表が大括弧で結合されます。つまり、使用するインストゥルメントが少ないプロジェクトにおいては、それぞれのインストゥルメントが異なるファミリーに属するため、アンサンブル全体をまたぐ小節線は引かれません。

### 小節線のグループ化のカスタマイズ

複数のプレーヤーを手動でグループとしてまとめることで、カスタムの小節線の結合と大括弧のグループを作成できます。グループ内の1人以上のプレーヤーが以前別のグループに入っていた場合、以前のグループに残されたインストゥルメントはグループ化されたままとまります。

単一のプレーヤーを固有のプレーヤーグループに追加して個別に表示できます。たとえば、コンチェルトでソリストをアンサンブルの他のプレーヤーと分けて表示できます。

カスタムの小節線の結合を入力して、個々の小節線が延長される譜表の範囲を決定することもできます。

#### 関連リンク

- [アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(565 ページ\)](#)
- [プロジェクトテンプレートのカテゴリによって異なる括弧 \(60 ページ\)](#)
- [プレーヤーのグループの追加 \(118 ページ\)](#)
- [グループへのプレーヤーの追加 \(119 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループの削除 \(119 ページ\)](#)

## 拍子記号が変更される場所ですべての譜表をまたいで小節線を表示する

括弧のスタイルに関わらず、個々のレイアウトの拍子記号が変更される場所で、すべての譜表の小節線を結合できます。

#### 手順

1. 譜表の小節線を結合させる拍子記号の変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「すべての譜表の小節線を結合 (Barline joins all staves)」をオンにします。
- 

#### 結果

選択された拍子記号の変更の位置で、楽譜領域で選択されているレイアウト内のすべての譜表の小節線が結合されます。

## カスタムの小節線の結合を入力する

カスタムの小節線の結合を任意の位置に入力できます。これにより、どの譜表が小節線により結合されるか変更できます。

#### 前提

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、その開始位置から変更を適用する組段の、小節線で結合する一番上の譜表のアイテムを選択します。
  2. 小節線で結合する一番下の譜表のアイテムを、[Ctrl]/[command] を押しながらかリックします。
  3. 形式設定パネルで、「括弧 (Bracketing)」グループの「小節線の結合を変更 (Change barline joins)」をクリックします。
- 

#### 結果

アイテムを選択した譜表とその間のすべての譜表が小節線で結合され、次の大括弧と小節線の変更がある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。アイテムを選択していた組段の開始位置にガイドが表示されます。

既存の小節線の結合は、新しい小節線の結合を表示できるように、必要に応じて調整されます。

#### 補足

大括弧と小節線の変更のガイドは、組段の開始位置に適用されるものであるため移動できません。ただし、たとえば組段区切りを移動したような場合は、組段の途中に表示されることもあります。大括弧と小節線の変更のガイドが組段の途中に位置する場合、対応する変化の効果は次の組段の開始位置まで現れません。

---

例

デフォルトの譜表のグループ化によるチェロのディヴィジの譜表

インストゥルメントごとに小節線の結合を分割したチェロのディヴィジの譜表

関連リンク

[ガイド \(284 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更のリセット \(569 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更の削除 \(569 ページ\)](#)

## 小節線の結合を個別に削除する

個々の小節線の結合は、リズム上の同じ位置にある他の小節線の結合および大括弧/中括弧によるグループ分けの変更とは別個に削除できます。これにより選択した小節線の結合が解除され、それぞれの譜表の個別の小節線として表示されるようになります。

前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、削除する小節線の結合を選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

関連リンク

[大括弧と小節線の変更の削除 \(569 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更のリセット \(569 ページ\)](#)

## カスタムの小節線の結合の長さを変更する

カスタムの小節線の結合は、垂直方向の長さを変更して譜表の範囲を変更できます。たとえば小節線の結合の下に新しくプレーヤーを追加して、その譜表まで小節線を延長する場合などに使用できます。

前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する小節線の結合の上端か下端いずれかのハンドルを選択します。

ヒント

大括弧と小節線の変更は、ガイドの位置から次の既存の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されるため、1回の変更につき選択する小節線の結合のハンドルは1つだけで構いません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[↑] を押して1つ上の譜表へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して1つ下の譜表へ移動します。

結果

選択した小節線の結合の長さが変わって、上か下につながる譜表の範囲が変更されます。これは、対応する大括弧と小節線の変更が適用されるすべての組段の、小節線の結合に含まれる譜表に影響します。

補足

各譜表に小節線の結合は1つしか存在できず、重なり合うこともできません。選択した小節線の結合の長さを変更した結果、一部が他の小節線の結合に重なった場合、他の小節線の結合はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せます。このとき影響された他の小節線の結合の長さは復元されます。

関連リンク

[大括弧と小節線の変更の削除 \(569 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更のリセット \(569 ページ\)](#)

# 小節番号

小節番号は複数のプレーヤーが含まれる楽譜において重要な参照ポイントであり、楽譜の時間的順序が明確になります。小節番号はプレーヤーが曲中の今どこにいるかを示し、リハーサルやコンサートで全体との調和をとりやすくなります。

小節番号はパートレイアウトとフルスコアレイアウトを作成する際にも役立ちます。小節番号とリハーサルマークを使用すると、パートレイアウトとフルスコアレイアウトを素早く比較して正しいかどうかをチェックできます。

Dorico Pro では、小節番号が自動的に表示され、初期設定では最も一般的な慣習に従って、フルスコアレイアウトおよびパートレイアウトの各組段の開始位置に表示されます。

ただし、映画音楽のスコアでよく見られるように、すべての小節で小節番号を表示する方が便利な場合もあります。小節番号を5小節ごとなどの一定間隔で表示させることもできますが、小節番号を囲み線で囲んだ場合は特に、これらの小節に何か意味があるという印象を与えかねないため、勘違いの元となる場合があります。

関連リンク

[小節番号の表示頻度を変更する \(526 ページ\)](#)

[小節番号の囲み線のタイプを変更する \(528 ページ\)](#)

## 小節番号の外観

Dorico Pro では、小節番号の外観、表示頻度、位置に関するさまざまな設定を3か所に変更できます。設定はレイアウトごとに個別に行なえます。

小節番号の外観に関する各種設定は、以下の箇所ですべて制御できます。

- 「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページでは、小節番号の表示頻度や囲み線のタイプなどを設定します。
- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページでは、囲み線の寸法などを設定します。
- 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログでは、小節番号に使用するフォントの形式設定を行ないます。

### レイアウトオプション (Layout Options)

「設定 (Setup)」 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページで、小節番号の外観および位置に関する以下の設定を変更できます。

- 選択したレイアウトの小節番号に使用されるパラグラフスタイル
- 小節番号の表示頻度
- 譜表の上下どちらに配置するか
- 譜表および他のオブジェクトからの距離
- 水平位置
- 囲み線のタイプ
- リハーサルマークがある場所で小節番号を表示/非表示にする

- 1小節ごとに小節番号を表示する場合、最初の小節番号を表示/非表示にする

各インストゥルメントおよびフルスコアのレイアウトにおける小節番号のオプションは、ダイアログ内で個別に変更できます。たとえば、レイアウトごとに異なる小節番号のパラグラフスタイルを使用して、フルスコアレイアウトではすべての小節に小節番号を表示させつつ、パートレイアウトでは各組段の開始位置のみに表示させるといったことができます。

## 浄書オプション (Engraving Options)

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページでは、リピートセクションによる小節番号への影響の有無の選択、サブ小節番号の大文字/小文字の切り替え、小節番号の囲み線の太さと余白の値の変更を行なえます。これらの変更は小節番号の囲み線が表示されるすべてのレイアウトに影響します。

## 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」 ダイアログ

小節番号は、フォントの外観や両端揃えの制御にパラグラフスタイルを使用します。これは、パートレイアウトとフルスコアレイアウトで異なるパラグラフスタイルを使用するといったことができるものです。たとえば、大規模なオーケストラのスコアでは、譜表サイズが非常に小さい場合でも可読性を保つため、小節番号をパートレイアウトよりかなり大きく表示することがよく必要になります。また、フルスコアの節番号には太字のプレーンフォントを使用し、パートレイアウトでは斜体の小節番号を使用するというのも一般的です。

「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログでは、フォントサイズなど、小節番号のデフォルトのパラグラフスタイルに関するさまざまな設定を変更できます。これらの変更はすべてのレイアウトに影響しますが、パラグラフスタイルはいくつでも作成できるため、たとえばあるパートレイアウトでは小節番号を太字で表示しつつ、他のパートレイアウトでは斜体を使用するといったこともできます。

- 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択すると開きます。

関連リンク

[小節番号の囲み線のタイプを変更する \(528 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

## 小節番号の表示頻度を変更する

各レイアウトの小節番号の表示頻度は、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの小節番号に設定された間隔とは別に、個々のパートに対して小節番号の間隔を設定できます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 小節番号の表示頻度を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「小節番号 (Bar Numbers)」を選択します。
4. 「頻度 (Frequency)」サブセクションで、「小節番号を表示 (Show bar numbers)」に対する以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 組段ごと (Every system)
  - n 小節ごと (Every n bars)

- 1小節ごと (Every bar)
  - なし (None)
5. 「n小節ごと (Every n bars)」を選択した場合、必要に応じて「間隔 (Interval)」の値を変更し、小節番号の表示頻度を設定します。
  6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの小節番号の表示頻度が変更されます。

小節番号の表示頻度は「間隔 (Interval)」の値に応じて変化します。たとえば間隔を 10 にすると、小節番号が 10 小節ごとに表示されます。

#### 関連リンク

[小節番号の外観 \(525 ページ\)](#)

## 小節番号のパラグラフスタイルの変更

小節番号に使用されるパラグラフスタイルの形式設定を変更できます。初期設定では、フルスコアレイアウトの小節番号用と、パートレイアウトの小節番号用の 2 つのパラグラフスタイルが用意されています。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。
  2. パラグラフスタイルのリストから、小節番号に関する以下のいずれかのパラグラフスタイルを選択します。
    - 小節番号 (パート)
    - 小節番号 (スコア)
  3. 必要に応じて、「元 (Parent)」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。元スタイルが選択されている場合、選択したパラグラフスタイルの元スタイルから変更されているすべてのオプションの横に、操作可能なスイッチが表示されます。
  4. 選択したパラグラフスタイルの任意のオプションをオンにして変更します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択した小節番号のパラグラフスタイルが変更されます。これは選択したスタイルを使用するすべてのレイアウトの小節番号の外観に影響を与えます。

#### ヒント

小節番号のパラグラフスタイルを追加作成して、レイアウトごとに異なる小節番号のパラグラフスタイルを使用できるようにすることもできます。

---

#### 関連リンク

[小節番号の外観 \(525 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

## レイアウトで使用する小節番号のパラグラフスタイルの変更

小節番号に使用するパラグラフスタイルは、レイアウトごとに個別に選択できます。初期設定では、1つのパラグラフスタイルがフルスコアレイアウトの小節番号に使用され、もう1つのパラグラフスタイルがパートレイアウトの小節番号に使用されます。

### 前提

一部のレイアウトの小節番号にカスタムのパラグラフスタイルを使用する場合、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで予め作成しておきます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号に使用するパラグラフスタイルを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**パラグラフスタイル (Paragraph style)**」メニューからパラグラフスタイルを選択します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したパラグラフスタイルが、選択したレイアウトのすべての小節番号に使用されます。

### 関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

## 小節番号の囲み線のタイプを変更する

小節番号を目立たせたい場合は、番号を長方形または丸で囲むことができます。小節番号の囲み線のタイプは、レイアウトごとに個別に変更できます。

たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号に長方形の囲み線を表示しつつ、パートレイアウトでは囲み線を表示しないということもできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の囲み線のタイプを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**囲み線のタイプ (Enclosure type)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
  - なし (None)
  - 長方形 (Rectangle)



- 丸 (Circle)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの小節番号の囲み線が、選択したタイプに変更されます。囲み線のサイズは小節番号のサイズに応じて変わりますが、余白の値を指定してサイズと形を変更することもできます。

例

10

囲み線なし

10

長方形

10

丸

関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

## 小節番号の囲み線のサイズと余白の値

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページにある「囲み線 (Enclosure)」サブセクションには、小節番号の囲み線の形状とサイズを制御する複数のオプションがあります。

### 長方形の小節番号の囲み線

以下の図は、小節番号の長方形の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小高さと最小幅はいずれも 2 スペース、左右の余白は 1/2 スペース、上下の最小余白はいずれも 1/8 スペースです。

10

デフォルト値では、中に入る小節番号のサイズや形状によって小節線の囲み線のサイズが大幅に変わる場合があるため、プロジェクト全体の一貫性を高めるために最小値を調節することをおすすめします。これにより、幅の狭い小節番号が指揮者に見えにくくなる場合もあります。サイズの違いを抑えるために**最小幅**を増やすことで、一貫性をもった見た目になります。

3

280

最小幅をデフォルトにした場合の、長方形の囲み線付き小節番号

3

280

最小幅を 5 に増やした場合の、長方形の囲み線付き小節番号

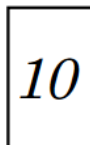
### 最小幅 (Minimum width)

囲み線の幅の最小値を設定します。以下の例では、値を 2 スペースから 6 スペースに増やしています。

10

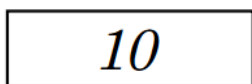
#### 最小高さ (Minimum height)

囲み線の高さの最小値を設定します。以下の例では、値を 2 スペースから 6 スペースに増やしています。



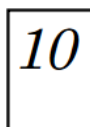
#### 最小余白 (左右) (Minimum horizontal padding)

囲み線の両辺と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/2 スペースから 4 スペースに増やしています。



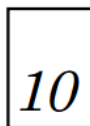
#### 最小余白 (下部) (Minimum bottom padding)

囲み線の下辺と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/8 スペースから 2 スペースに増やしています。



#### 最小余白 (上部) (Minimum top padding)

囲み線の上辺と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/8 スペースから 2 スペースに増やしています。



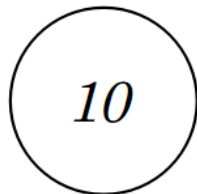
#### 丸の小節番号の囲み線

以下の図は、小節番号の丸の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小直径は 2 スペースで、最小余白は 1/6 スペースです。



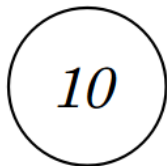
#### 最小直径 (Minimum diameter)

囲み線の直径の最小値を設定します。以下の例では、値を 2 スペースから 8 スペースに増やしています。



### 最小余白 (Minimum padding)

囲み線と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/6 スペースから 1 スペースに増やしています。



### すべての囲み線共通

#### 囲み線の太さ (Enclosure line thickness)

長方形と丸の両方のタイプについて、囲み線の太さを設定します。デフォルトは 1/8 スペースです。以下の例は 1/2 スペースの太さです。



#### 補足

「**囲み線の太さ (Enclosure line thickness)**」を変更すると、プロジェクト内のすべてのレイアウトで、小節番号の囲み線の太さが変更されます。長方形の囲み線の余白の値を変更すると、すべてのレイアウトの長方形の囲み線が影響され、丸の囲み線の余白の値を変更すると、すべてのレイアウトの丸の囲み線が影響されます。

## パートレイアウトでの小節番号

小節番号はレイアウトごとに異なる形で表示でき、たとえばフォントサイズ、フォント、表示頻度、囲み線のタイプなどが変更されます。パート譜には多くの場合、フルスコアレイアウトとは異なる形式の小節番号が必要になります。

Dorico Pro の初期設定では、小節番号のパラグラフスタイルは 2 つあります。1 つはフルスコアレイアウト用で、もう 1 つはパートレイアウト用ですが、初期状態では両方とも同じ設定内容になっています。これらのパラグラフスタイルは個別に設定を変更できます。たとえば、パートレイアウトの小節番号用のパラグラフスタイルには太字斜体フォントを設定しつつ、フルスコアレイアウトの小節番号用のパラグラフスタイルにはプレーンフォントをかなり大きめのフォントサイズで設定するといったことができます。

小節番号フォントにより外観を変更する以外にも、以下に挙げる設定により、小節番号の外観や位置をレイアウトごとに個別に変更できます。

- 小節番号の表示頻度
- 譜表およびその他のオブジェクトからの最小距離
- 水平位置
- 囲み線のタイプ

たとえば、フルスコアのレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートのレイアウトでは組段ごとに小節番号を表示する、といった設定ができます。

#### 補足

囲み線のサイズ、余白の値、および線の太さを変更すると、プロジェクト内のすべてのレイアウトで、小節番号の囲み線の設定が変更されます。

## 関連リンク

[レイアウトで使用する小節番号のパラグラフスタイルの変更 \(528 ページ\)](#)[小節番号のパラグラフスタイルの変更 \(527 ページ\)](#)[小節番号の表示頻度を変更する \(526 ページ\)](#)[小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する \(534 ページ\)](#)

## 長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする

長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にできます。これにより、たとえばパートレイアウトでプレイヤーが演奏しない小節をわかりやすくできます。空白の小節と併せて小節リピート領域も長休符に統合することを選択している場合、長休符に小節リピート領域を含めることができます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 長休符で小節番号の範囲表示を表示/非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**表示/非表示 (Showing and Hiding)**」サブセクションで、「**長休符および統合された小節リピート記号の下に小節番号の範囲を表示 (Show ranges of bar numbers under multi-bar rests and consolidated bar repeats)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 結果

選択したレイアウトでオプションがオンのときは、長休符および統合された小節リピート記号の下に小節番号の範囲が表示され、オフのときは非表示になります。

## ヒント

小節番号の範囲表示の区切り文字と、小節番号の範囲表示の譜表からのデフォルト距離は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションで変更できます。

## 関連リンク

[長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

## ガイド小節番号の表示/非表示

ページビューとギャラリービューでそれぞれ個別に、すべての組段のすべての小節でガイド小節番号を表示/非表示にできます。これにより、たとえば譜表が多いスコアで小節番号が確認しやすくなります。ガイド小節番号は印刷されません。

## 手順

- ガイド小節番号の表示/非表示は以下のいずれかの方法で行なえます。
  - ページビューでガイド小節番号を表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**ページビュー (Page View)**」を選択します。
  - ギャラリービューでガイド小節番号を表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**ギャラリービュー (Galley View)**」を選択します。

#### 結果

メニューの対応するオプションの横にチェックマークがあるときは対応するビュータイプのすべての小節、すべての譜表の上にガイド小節番号が表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

## 小節番号の位置

通常、小節番号は各組段の開始位置の譜表上部に、最初の小節線に揃えて表示されます。小節番号のデフォルトの位置と表示頻度は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページで、レイアウトごとに個別に変更できます。また、浄書モードで小節番号の位置を個別に変更することもできます。

たとえば、フルスコアのレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートのレイアウトでは組段ごとに小節番号を表示する、といった設定ができます。

#### 補足

1つの組段に設定できる小節番号の位置は1つだけです。単一の組段に複数の譜表がある場合、複数の譜表の上または下に小節番号を表示することはできません。

---

#### 関連リンク

[譜表に対する小節番号の位置の変更 \(534 ページ\)](#)

## 小節番号の水平位置の変更

小節番号の水平位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号を小節の中央に配置しつつ、パートレイアウトでは小節線上に配置するということもできます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 小節番号の水平位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 「**水平位置 (Horizontal Position)**」サブセクションで、「**水平位置 (Horizontal Position)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
    - **小節線上に配置 (Centered on barline)**
    - **小節の中央に配置 (Centered on bar)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

「**小節線上に配置 (Centered on barline)**」を選択すると、小節番号が小節線上 (小節の左上) に表示されます。

「**小節の中央に配置 (Centered on bar)**」を選択すると、小節番号が譜表上 (小節の中央) に表示されます。

## 小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する

小節番号の譜表からの最小距離、および小節番号のその他のオブジェクトからの最小距離には、それぞれ異なる値をレイアウトごとに個別に設定できます。たとえば、フルスコアレイアウトではパートレイアウトよりも、小節番号を譜表やその他のオブジェクトから遠ざけて配置できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の譜表からの最小距離を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 必要に応じて、「**位置 (Placement)**」サブセクションで、「**譜表からの最小距離 (Minimum distance from staff)**」の値を変更します。  
デフォルト値は 2 スペースです。
5. 必要に応じて、「**位置 (Placement)**」サブセクションで、「**その他のオブジェクトからの最小距離 (Minimum distance from other objects)**」の値を変更します。  
デフォルト値は 3/4 スペースです。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

値を大きくすると、小節番号は譜表やその他のオブジェクトから離れた位置に配置されます。上下の配置は「**譜表に対する位置 (Placement relative to staff)**」の設定に従います。値を小さくすると、小節番号は譜表やその他のオブジェクトに近い位置に配置されます。

### 補足

上記のオプションに影響されるのは、小節番号と譜表やその他のオブジェクトとの最小距離であるため、衝突を回避するために設定値より遠くに小節番号が配置される場合もあります。

## 譜表に対する小節番号の位置の変更

譜表に対する小節番号の位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号を譜表の下に、パートレイアウトでは譜表の上に表示できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**位置 (Placement)**」サブセクションで、「**譜表に対する位置 (Placement relative to staff)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
  - **上 (Above)**
  - **下 (Below)**

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトで、譜表に対する小節番号の位置が変更されます。

## 小節番号の表示位置の変更

小節番号の表示位置は、対応する小節を変更することなく個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する小節番号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節番号の表示位置を変更します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

---

#### 結果

選択した小節番号の表示位置が変更されます。

#### ヒント

小節番号の位置を移動すると、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- **小節番号 X (Bar number X)**: 小節番号の水平位置を移動します。
- **小節番号 Y (Bar number Y)**: 小節番号の垂直位置を移動します。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、小節番号の表示位置を移動することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した小節番号が初期設定の位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[小節番号の変更の追加 \(537 ページ\)](#)

[小節番号の水平位置の変更 \(533 ページ\)](#)

[小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する \(534 ページ\)](#)

## 組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする

組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では、リズム上の同じ位置にある小節番号を非表示にするよう設定できます。これは小節番号が小節線上に配置されている場合、見やすい形で衝突を回避することが困難であるためです。

---

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L] を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。

2. 組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では、小節番号を非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**表示/非表示 (Showing and Hiding)**」サブセクションで、「**組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所では小節番号を表示 (Show bar numbers at time signatures at system object positions)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

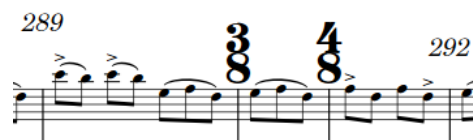
#### 結果

組段オブジェクトの位置に拍子記号を表示する場所での小節番号は、オプションをオンにすると表示され、オフにすると非表示になります。

#### 例



組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所に表示されている小節番号



組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所で非表示になっている小節番号

#### 関連リンク

[拍子記号 \(991 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)

## 小節番号の変更

小節番号は連続するシーケンスに従い、各小節には前の小節番号に続く一意の小節番号が付きます。ここで、小節番号のシーケンスは手動で変更でき、サブシーケンスに変更することもできます。

「**小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)**」ダイアログを使用して、小節番号のシーケンスに以下のタイプの変更を加えられます。

#### プライマリー (Primary)

メイン小節番号のシーケンス (デフォルトで存在し、プロジェクトの各小節がフローごとに個別の連続したシーケンスに従うもの) に変更を加えます。

#### サブ (Subordinate)

小節番号の補助的なシーケンスを追加します。これには数字ではなく文字が使用されます。サブは、楽曲の新しいバージョンを作成して小節を追加したものに、元の小節番号を残す必要がある場合などに役立ちます。

#### 選択中の小節は含まない (Don't Include)

選択した小節を現在の小節番号のシーケンスから除外します。すべての小節に小節番号が表示される場合でも、「**選択中の小節は含まない (Don't Include)**」が選択された小節には小節番号が表示されません。



### プライマリーを継続 (Continue Primary)

小節番号のシーケンスを「**プライマリー (Primary)**」シーケンスに戻します。間にある小節はカウントされません。たとえば、「**サブ (Subordinate)**」シーケンスに従う小節セクションのあとに使用します。

関連リンク

[サブ小節番号 \(538 ページ\)](#)

## 小節番号の変更の追加

小節番号のシーケンスに手動で小節番号の変更を追加できます。たとえば、プロジェクトの2番めのフローを再度小節1から開始するのではなく、1番めのフローから連続したシーケンスとして表示する場合などに使用できます。

---

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - そこから小節番号のシーケンスを変更したい小節内の項目
  - そこから小節番号のシーケンスを変更したい小節の小節番号または小節線
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)**」を選択して「**小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)**」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「**タイプ (Type)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **プライマリー (Primary)**
  - **サブ (Subordinate)**
  - **選択中の小節は含まない (Don't Include)**
  - **プライマリーを継続 (Continue Primary)**
4. 必要に応じて、「**プライマリー (Primary)**」または「**サブ (Subordinate)**」を選択して、対応する数値フィールドの値を変更することにより、小節番号の新しいシーケンスが開始する際の小節番号を指定します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、小節番号のシーケンスが変更されます。

この変更は、次に小節番号の変更に関連するまで、またはフローの終了位置に達するまで、変更した小節番号以降の小節番号のシーケンスに適用されます。

## 小節番号の変更の削除

追加した小節番号の変更を削除できます。

---

手順

1. 記譜モードで、削除する番号の変更を選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

---

結果

小節番号の変更が削除されます。後続の小節は、次の小節番号の変更に関連するまで、またはフローの終了位置に到達するまで、1つ前の小節番号に従って変化します。

## サブ小節番号

サブ小節番号はリピート括弧にナンバリングする場合や、楽譜に変更を加えたが元の小節番号を変更できない場合などに役立ちます。

たとえば、以前に短いバージョンでリハーサルをしたことがある場合に、楽譜を追加した場所を示すためにサブ小節番号を使用できます。このような状況では、多くの場合プレーヤーはすでに曲の特定の部分を特定の小節番号に関連付けています。そのため、**10** 小節目のあとに 4 小節を追加する必要がある場合、追加の小節の番号を **10a** から **10d** にすれば、後続の小節の番号は小節を追加する前と同じく **11** から続きます。

サブ小節番号は、リピート括弧に異なる小節番号を付ける場合にも役立ちます。

サブ小節番号は小文字で表示されるのがデフォルトですが、大文字でも小文字でも表示できます。

4a

小文字によるサブ小節番号

4A

大文字によるサブ小節番号

関連リンク

[サブ小節番号の外観を変更する \(539 ページ\)](#)

## サブ小節番号を追加する

サブ小節番号のシーケンスは、プライマリー小節番号のシーケンスとは独立させて作成できます。これは新しい小節を追加したときに、後続の既存の小節の小節番号を変更したくない場合に役立ちます。

---

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - そこからサブ小節番号を開始したい小節内の項目
  - そこからサブ小節番号を開始したい小節の小節番号または小節線
2. 「編集 (Edit)」 > 「小節番号 (Bar Numbers)」 > 「小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)」を選択して「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「タイプ (Type)」に「サブ (Subordinate)」を選択して「サブ (Subordinate)」の数値フィールドをオンにします。
4. 「サブ (Subordinate)」の数値フィールドの値を変更して、サブ小節番号のシーケンスの 1 文字めを変更します。  
対応するアルファベットが数値フィールドの右側に表示されます。たとえば、数値フィールドに 1 を入力すると **a** が表示され、2 を入力すると **b** が表示され、以降同様に続きます。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、サブ小節番号のシーケンスが開始されます。小節番号は追加直前と同じものにアルファベットが付きます。

たとえば、元々 5 小節めであった小節からサブ小節番号のシーケンスを開始した場合、シーケンスは 4a から始まり、次の小節番号の変更に到達するまで、またはフローの終了位置に到達するまで続きます。

## プライマリー小節番号のシーケンスに戻す

サブ小節番号のセクションのあと、プライマリー小節番号のシーケンスに戻す場所を指定できます。

### 手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - そこからプライマリー小節番号のシーケンスに戻したい小節内の項目
  - そこからプライマリー小節番号シーケンスに戻したい小節の小節番号または小節線
2. 「編集 (Edit)」 > 「小節番号 (Bar Numbers)」 > 「小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)」を選択して「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「タイプ (Type)」に「プライマリーを継続 (Continue Primary)」を選択します。「プライマリー (Primary)」および「サブ (Subordinate)」の数値フィールドの下に、ここからの小節番号を示すテキストが表示されます。たとえば、「**プライマリー番号は 5 小節目から継続します。**」のように表示されます。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、プライマリー小節番号のシーケンスに戻ります。

### ヒント

サブ小節番号の変更を追加する場合、順序どおりにする必要はありません。まずプライマリー小節番号のシーケンスに戻してから、サブ小節番号のシーケンスを追加しても構いません。

## サブ小節番号の外観を変更する

サブ小節番号は、小文字または大文字にできます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
3. 「**シーケンス (Sequence)**」サブセクションでサブ番号の外観を選択します。
  - **小文字 (Lower case)** (初期設定)
  - **大文字 (Upper case)**

## 小節番号とリピート

Dorico Pro の初期設定では、小節番号のカウントにリピートは含まれません。たとえば、リピートの 1 番括弧が 10 小節目で終わる場合、2 番括弧の始まりは 11 小節目になります。1 つめのセクションが繰り返されることで、実際は 10 小節より多く演奏されているにもかかわらずです。

小節番号のカウントにリピートを含めて、ページに書かれている小節の数ではなく、演奏される小節の総数を小節番号に反映することで、複数回演奏する部分がある楽譜をわかりやすくできます。これにより、各周回の特定の位置を“3 回目の 8 小節目”などと指定するかわりに、具体的な小節番号で指定できます。

## 2 (12)



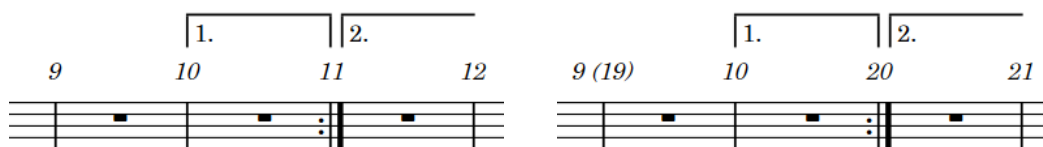
1 回目の小節番号の隣に括弧付きで表示されるリピートの 2 回目の小節番号

Dorico Pro では、小節番号のカウントにリピートを自動的に含めることができます。小節番号の変更を手動で入力する必要はありません。これはリピート括弧や「D.C. al Coda」といったリピートマーカなど、同じ範囲を複数回通して演奏するなどの形態に対しても適用されます。

すべてのプレイヤーが同じ小節番号を参照することが重要であるため、これはプロジェクト全体のすべてのレイアウトに影響します。

小節番号のカウントにリピートを含める場合、記譜上の同じ小節に複数の小節番号が適用されることとなります。これを反映する上で、Dorico Pro の初期設定では、1 回目の小節番号を通常どおり表示し、2 回目以降の小節番号を右側に追加していく形になります。小節番号の表示に使用されるリピートの周回や、リピートの 2 回目以降の小節番号の外観は、レイアウトごとに個別に変更できます。初期設定では、これは括弧付きで表示されます。

例



リピートをカウントせず、1 回目の小節番号のみ表示する小節番号の例

リピートをカウントし、リピートの 2 回目以降の小節番号を 1 回目の小節番号の横に表示する小節番号の例

関連リンク

[リピートの 2 回目以降の小節番号の外観を変更する \(541 ページ\)](#)

[小節番号の変更の追加 \(537 ページ\)](#)

## 小節番号のカウントにリピートを含めるまたは除外する

小節番号のカウントにリピートを含めるか除外するか選択して、プロジェクト全体のすべてのレイアウトに反映できます。初期設定では、リピートは小節番号のカウントから除外されています。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
3. 「**リピート (Repeats)**」サブセクションの「**リピートセクションの小節番号 (Bar numbering for repeated sections)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **リピートをカウント (Count repeats)**
  - **リピートをカウントしない (Do not count repeats)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**リピートをカウント (Count repeats)**」を選択すると小節番号のカウントにリピートが含まれ、「**リピートをカウントしない (Do not count repeats)**」を選択すると除外されます。

## 小節番号の表示に使用するリピートの周回を変更する

リピートが含まれるプロジェクトでは、リピートのどの周回が小節番号の表示に使用されるかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、一部のプレイヤーのパートにはすべての周回の小節番号を表示し、他のプレイヤーには最後の周回のみ表示するといったことができます。

### 補足

これは小節番号のカウンタ全体には影響せず、どの小節番号を表示するかにのみ影響します。

### 前提

小節番号のカウンタにリピートセクションを含めておきます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の表示に使用するリピートの周回を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**リピート (Repeats)**」サブセクションの「**リピートをカウント (Count repeats)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべてのリピート (All repeats)**
  - **最初のリピートのみ (First repeat only)**
  - **最後のリピートのみ (Last repeat only)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウトの小節番号の表示に使用するリピートの周回が変更されます。

### 例

		
すべてのリピートを表示する小節番号	最初のリピートのみ表示する小節番号	最後のリピートのみ表示する小節番号

### 関連リンク

[小節番号とリピート \(539 ページ\)](#)

## リピートの 2 回め以降の小節番号の外観を変更する

小節番号のカウンタにリピートを含めるとき、リピートの 2 回め以降の小節番号は 1 回めの小節番号の横に表示されます。これには初期設定では括弧が付きますが、リピートの 2 回め以降の小節番号の先頭テキストと末尾テキストは、レイアウトごとに個別に変更できます。

### 前提

小節番号のカウンタにリピートセクションを含めておきます。

手順

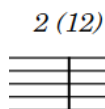
1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. リピートの2回目以降の小節番号の外観を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
  4. 必要に応じて、「**リピート (Repeats)**」サブセクションで、「**先頭テキスト (Prefix)**」フィールドに任意の先頭テキストを入力します。  
このフィールドの1文字目は、初期設定では半角スペースになっています。これは1回目と2回目以降の小節番号に間隔を作るためです。
  5. 必要に応じて、「**末尾テキスト (Suffix)**」フィールドに任意の末尾テキストを入力します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

結果

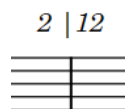
選択したレイアウトのリピートの2回目以降の小節番号の外観が変更されます。たとえば、同じ小節上の複数の小節番号を縦線で区切る場合は、「**先頭テキスト (Prefix)**」フィールドに「|」を入力し、「**末尾テキスト (Suffix)**」フィールドには何も入力しません。

---

例



リピートの2回目以降の小節番号の先頭テキストと末尾テキストに括弧を使用したもの



リピートの2回目以降の小節番号の先頭テキストに縦線を使用したもの

---

# 連桁

連桁は、音符を符尾で連結してリズムのグループを示すもので、現在の拍子記号の拍節構造に従って変化します。

このように音符がグループ化されると、演奏者は記されたリズムの正確な演奏方法を素早く計算でき、自分のパートや指揮者に合わせやすくなります。

長さが8分音符以下の音符または和音を2つ以上隣接するように入力すると、現在の拍子と小節内の位置が適切な場合に Dorico Pro が自動的に連桁を作成します。



6/8 拍子における複数の連桁グループ

連桁の表記規則は正解が1つではないため、Dorico Pro にはいくつかのカスタマイズオプションがあります。これらのオプションは「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページにあります。

音符を連桁グループにグループ化する方法のフローごとのデフォルトは、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連桁のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで確認できます。

関連リンク

[音符の入力 \(153 ページ\)](#)

[フローごとに連桁のグループ化のデフォルトを変更する \(545 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

## 手動で音符に連桁を付ける

音符には手動で連桁を付けられます。これは小節線をまたぐ音符や組段/フレーム区切りをまたぐ音符でも同様です。これはたとえば、現在の拍子における通常の方法とは異なる形でフレーズに連桁を付ける場合に役に立ちます。

連桁は初期設定では小節や組段内にとどまるため、連桁が小節線、組段区切り、またはフレーム区切りをまたぐには、フレーズを強制的に連桁で連結させる必要があります。

---

手順

1. 連桁で連結させる音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**連桁 (Beaming)**」 > 「**連桁を連結 (Beam Together)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

#### 結果

選択した音符が小節線や組段/フレーム区切りをまたぐ場合であっても、連桁で連結されます。

新しい連桁グループの左右いずれかに、選択した音符の一部または全部と元々は連桁で連結されていた音符がある場合、別の連桁として改めて連結されるか、連桁なしで表示されます。これは小節内の左右いずれかにいくつの音符が残っているかと、フローの連桁のグループ化の設定によって変わります。

#### 補足

連桁グループの一部に以前は中央配置の連桁がかかっていたとしても、新しい連桁は中央配置になりません。

---

#### 関連リンク

[扇形連桁を作成する \(558 ページ\)](#)

## 音符の連桁の解除

連桁グループ内の音符の連桁をすべて解除し、各音符に符尾を付けることができます。これはたとえば、速いリズムに音節のテキストが設定されている場合などに便利です。

---

#### 手順

1. 連桁を解除する音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を解除 (Make Unbeamed)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

## 不完全連桁の方向を変更する

Dorico Pro では、必要に応じて不完全連桁が自動的に入力されます。個々の不完全連桁を符尾のどちら側に表示するかを変更できます。

---

#### 手順

1. 不完全連桁の方向を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「不完全連桁の方向 (Partial beam direction)」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 左 (Left)
    - 右 (Right)
- 

#### 結果

選択した方向に不完全連桁が表示されます。

---

#### 例



不完全連桁の方向が左



不完全連桁の方向が右

---



## 連桁グループ

音符は拍を反映するために、通常は標準的なグループに分かれて連桁されます。Dorico Pro では、音符の連桁を制御する複数の方法があります。

- 「**記譜オプション (Notation Options)**」を使用すると、プロジェクトのフローごとに連桁グループの初期設定を指定できます。
- また、拍子記号の細分化した区切りを制御することで、連桁グループを設定できます。
- 連桁グループを個別に変更するには、プロパティパネルで連桁グループのプロパティを変更するか、「**編集 (Edit)**」 > 「**連桁 (Beaming)**」メニューからいずれかのオプションを選択します。

関連リンク

[手動で音符に連桁を付ける \(543 ページ\)](#)

## フローごとに連桁のグループ化のデフォルトを変更する

「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連桁のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで、連桁のグループ化ルールのデフォルトをフローごとに個別に制御できます。

Dorico Pro には、4/4 拍子などでは半小節で区切りを入れる、3/4 拍子では 8 分音符をすべて 1 つの連桁で結ぶ、連符を含むグループを連桁する、といった音楽理論の一般的な慣習に従う、連桁のグループ化に関する高度な基本ルールが定義されています。

これらのルールには別の慣習も存在し、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連桁のグループ化 (Beam Grouping)**」ページでフローごとに個別に変更できます。

「**記譜オプション (Notation Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択するか、設定モードで「**設定 (Setup)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択します。
- 設定モードで、「**フロー (Flows)**」パネルにある「**記譜オプション (Notation Options)**」をクリックします。



## 拍子記号に従う連桁

デフォルトの連桁は拍子記号に従います。これは小節の拍の分割を指定し、「**記譜オプション (Notation Options)**」でフローごとの連桁グループ化の設定を変更することでカスタマイズできます。

Dorico Pro には、一般的な表記規則とユーザーが選択した設定に基づいて、一般的な拍子記号に対する連桁のデフォルトが設定されています。たとえば、3/4 と 6/8 の拍子記号には同じ数の拍が含まれますが、これらは異なる拍子を示しているため、異なる形の連桁で連結されます。初期設定では、3/4 拍子の場合、8 分音符のフレーズは各小節内で連桁で連結され、他のデュレーションのフレーズは 4 分音符にグループ化されますが、6/8 拍子の場合には付点 4 分音符にグループ化されます。

リズム分割が明示されたカスタム拍子記号を入力して、連桁のグループ化をより細かく管理できます。Dorico Pro はこの入力に従ってフレーズを自動的にグループ化します。たとえば、拍子記号ポップオーバーに  $[7]/8$  と入力すると、7 つの 8 分音符すべてがグループ化されます。 $[2+2+3]/8$  と入力すると、7 つの 8 分音符は 2、2、3 のように分割された連桁にグループ化されます。

### 補足

連桁のグループのデュレーションは、現在の拍子記号における拍のグループ化、および「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」のフローごとの連桁グループ化の設定に従います。

関連リンク

[音符と休符のグループ化 \(559 ページ\)](#)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(560 ページ\)](#)

## 連桁グループの分割

連桁と第 2 連桁は、特定の位置で 2 つの連桁グループに分割できます。また、連桁グループ内の第 2 連桁を分割することもできます。

---

手順

1. 連桁を分割する位置の右にある符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、連桁または第 2 連桁を分割します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を分割 (Split Beam)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「第 2 連桁を分割 (Split Secondary Beam)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

結果

選択したそれぞれの音符の左側で連桁/第 2 連桁が分割されます。分割後のどちら側でも、音符が 2 つ以上あり、その音符を連桁に含めることができる場合は、連桁グループが維持されます。

補足

選択した連桁全体を解除し、グループ内のすべての音符に個別に符尾を付けるには、すべての音符の連桁を解除します。

---

関連リンク

[音符の連桁の解除 \(544 ページ\)](#)

## 連桁グループのリセット

音符や和音の連桁グループに対する変更は、すべてリセットできます。これは、たとえばインポートした MusicXML ファイルに不正確な連桁がある場合にも役立ちます。

---

手順

1. リセットする連桁の音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁をリセット (Reset Beaming)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

結果

連桁グループが、現在のフローと拍子記号の初期設定 (「記譜オプション (Notation Options)」で設定) に戻ります。

## 譜表に対する連桁の位置

連桁内の符尾の譜表に対する位置を変更することにより、デフォルトとは反対側に連桁を表示させられます。

譜表に対する連桁のデフォルトの位置は、連桁グループの音符が譜表上のどこにあるかによって決まります。

これは、譜表の第3線から一番離れた音符が連桁の位置を決定することを意味します。ただしこのルールには例外や、譜表に対する連桁の位置に影響する別の判断基準が存在します。

譜表に対する連桁の位置を変更するには、連桁内の符尾の方向を変更します。そのため Dorico Pro では、譜表に対する連桁の位置の変更は、符尾の変更として分類されています。

## 譜表に対する連桁の位置の変更

譜表の上側と下側のどちらに連桁を表示するかは、符尾の方向を強制的に変更することで指定できます。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する連桁でつながれたフレーズそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した連桁の符尾の方向を強制します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾を強制的に上向き (Force Stem Up)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾を強制的に下向き (Force Stem Down)」を選択します。

---

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択した符尾の方向に応じて、連桁が譜表の上側または下側に表示されます。

## 連桁の位置の変更を解除する

譜表に対する連桁の位置に加えた変更を元に戻すと、変更された符尾の方向を元に戻すことができます。これにより、選択した連桁が初期設定の位置に戻ります。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置変更の解除を行なう連桁でつながれたフレーズそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾の強制を削除 (Remove Forced Stem)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

### 結果

選択した連桁が譜表に対するデフォルトの位置に戻ります。

## 連桁の傾斜

連桁の傾斜は、連桁グループ内の音符の音程に従って、連桁を水平からどれだけ傾かせるかを制御します。

- フレーズの最後の音符の音程が最初の音符より高い場合、連桁は上向きに傾斜します。

- フレーズの最後の音符の音程が最初の音符より低い場合、連桁は下向きに傾斜します。
- 連桁グループの真ん中がくぼんだ形、つまり連桁の内側の音符が左右外側の音符より連桁に近い場合、初期設定では連桁が水平になります。  
すべての音程が同じ場合、または特定のパターンで音程が反復する場合も、連桁は水平になります。

連桁が譜表の内側にある場合、連桁の両端つまり両端にある音符の符尾の先端は、譜表の線にスナップする必要があります。連桁線は譜表線の上に乗せるか、中央揃えにするか、ぶら下げるかのいずれかにできます。Ted Ross氏は、著書『Teach Yourself the Art and Practice of Music Engraving』において、これら3種類の位置をそれぞれ「sit (座る)」、「straddle (またがる)」、および「hang (ぶらさがる)」と説明しています。



傾斜と方向が異なる複数の連桁を含むフレーズ

連桁の傾斜角度は通常、連桁内の音符がパターンを踏んで水平にならない限り、連桁グループの最初と最後の音符の音程差によって決まります。音程差が小さいほど傾斜はゆるく、差が大きいほど傾斜はきつくなります。

ただし、考慮すべきは適切な傾斜角度だけではありません。一番内側の連桁線が一番内側の符頭に近づきすぎないようにし、また連桁そのものも、できるだけ譜表線に対してくさび形にならないように配置する必要があります。くさび形とは水平な譜表線と垂直な符尾、そして傾斜した連桁線によって作られる小さい三角形のことであり、視覚的に混乱の原因となります。

連桁の傾斜を決定することは、適切な傾斜角度、連桁の両端それぞれのスナップ位置、連桁に一番近い音符と一番内側の連桁線の距離を保つ、できるだけくさび型を作らないようにする、という複数の要素のバランスを取りながら決める作業です。

連桁の表示方法に関するプロジェクト全体のデフォルト設定を変更できます。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページでは、デュレーションが異なる音符の符尾の長さの最小値を指定できます。
- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連桁 (Beams)」ページでは、最適な連桁の傾斜を設定できます。

個々の連桁についても連桁の傾斜を変更できます。

## 連桁の傾斜を個別に変更する

連桁の傾斜や角度は、個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、傾斜を変更する連桁の角にある四角いハンドルを選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

先に連桁を選択してからハンドルを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。

- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑])。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

3. 必要に応じて手順 1 と 2 を繰り返し、もう一方のハンドルを移動します。

#### 結果

選択した連桁の傾斜が変更されます。

#### ヒント

- プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「連桁の方向 (Beam direction)」の設定を変更することでも連桁の傾斜を変更できます。連桁グループに属する符頭を選択しているときプロパティが利用できます。プロパティのオプションはすべて、連桁の終端の譜表線に対する正しい配置を確保しています。
- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連桁 (Beams)」ページでは、プロジェクト全体のすべての連桁の最適な傾斜を設定できます。

## 中央配置の連桁

中央配置の連桁は、同じ連桁グループ内で音程が高い音符と低い音符の間に配置され、通常これは譜表の中間または大譜表インストゥルメントの 2 つの譜表の間に描写されます。



連桁が付いたフレーズの音程の幅が大きい場合、標準の連桁であれば、一部の音符が非常に近くなる一方で一部の音符からは非常に遠くなり、符尾が非常に長くなってしまいます。音程の幅が大きいフレーズに中央配置の連桁を使用すると、符頭と連桁の最大距離を縮めることができますが、譜表内に連桁が配置され、譜表の線が見えにくくなる場合もあります。



音程に高低差があるフレーズの標準の連桁



同じ高低差があるフレーズの中央配置の連桁

#### 関連リンク

[譜表に対する連桁の位置の変更 \(547 ページ\)](#)

## 連桁を中央に配置する

連桁は、譜表の中央に表示できます。このとき、高音の音符は連桁の上に、低音の音符は連桁の下に表示されます。

### 補足

連桁を中央に配置するには、一部の符尾の方向を変更して適切に表示されるようにする必要があります。このとき、「編集 (Edit)」メニューの「連桁 (Beaming)」サブメニューではなく「符尾 (Stem)」サブメニューを使用します。

### 手順

1. 中央揃えを行なう連桁それぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「連桁を強制的に中央に配置 (Force Centered Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

連桁が選択した連桁グループ内の音符の中央に配置されます。

複数の連桁の音符を選択した場合、各連桁が個別に中央に配置されます。中央に配置された単一の連桁を作成する場合は、各連桁グループの音符をまとめて連桁でつなぎます。この操作は、連桁を中央に配置する前でも後でも行なえます。

### 補足

Dorico Pro では、フレーズの形に基づいて連桁に自動的に角度が付けられますが、連桁の角度や傾斜は手動でも変更できます。

### 関連リンク

[手動で音符に連桁を付ける \(543 ページ\)](#)

[連桁の傾斜を個別に変更する \(548 ページ\)](#)

## 連桁の中央配置の解除

連桁の中央配置を解除して、フレーズの上下いずれかの初期設定の位置に戻すことができます。

### 手順

1. 初期設定の位置に戻す中央配置の連桁それぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「連桁の中央配置を解除 (Remove Centered Beam)」このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

中央に配置された連桁が初期設定の位置に戻ります。

## 譜表をまたぐ連桁の作成

譜表をまたぐ連桁は、通常の連桁と同じように動作するほか、幅広いピッチで構成されるフレーズを2つの譜表に表示できます。譜表をまたぐ連桁を作成するには、フレーズのすべての音符を1つの譜表に入力して、一部の音符を別の譜表に表示されるよう伸ばします。

### 前提

1つの譜表にフレーズを入力しておきます。

---

手順

1. 別の譜表まで伸ばす音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

音符を他の譜表まで伸ばして配置できるのは、複数の譜表を使用するインストゥルメントだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を別の譜表まで伸ばします。
  - 音符を上 の 譜表に伸ばすには、[N] を押します。
  - 音符を下 の 譜表に伸ばすには、[M] を押します。

---

結果

選択した音符が別の譜表に表示され、音符が連桁グループに含まれる場合は、譜表をまたぐ連桁が表示されます。音符が属する譜表はこれにより変更されません。

補足

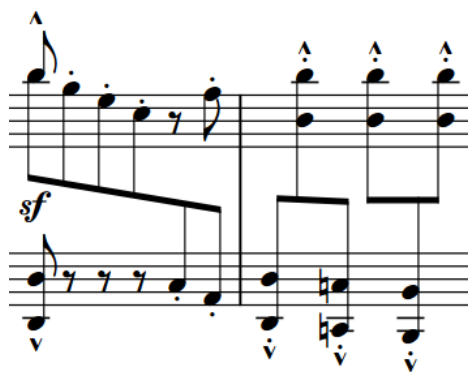
- すでに音符が置かれている譜表に音符を伸ばすと、譜表に元からあった音符の符尾の方向が変わる場合があります。これは、同じ位置に複数の声部がある場合の処理方法によるものです。従って、音符の符尾の方向を手動で変更しなければならない場合もあります。
- 音符を元の譜表に表示させるには、リセットする音符を選択して「編集 (Edit)」>「譜表まで伸ばす (Cross Staff)」>「元の譜表にリセット (Reset to Original Staff)」をクリックします。
- 音符を他の譜表に移動して、他の譜表に属させることもできます。

---

例



本来の譜表に収まっている音符



一部の音符を他の譜表に伸ばしてできた譜表をまたぐ連桁

---

関連リンク

[音符を別の譜表に移動する \(288 ページ\)](#)

[他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符 \(1052 ページ\)](#)

[複声部の音符位置 \(1048 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)

## 譜表をまたぐ連桁にオプティカルスペーシングを使用する

通常、人間の目は符頭間の幅に応じて音符のスペーシングが均一であるかを判断します。ただし、譜表をまたぐ連桁の場合は、符頭間ではなく符尾間の距離をもとに、音符のスペーシングが均一であるか、不均一であるかを判断します。



デフォルトのスペーシングを使用: 符頭間の距離が最適化される



譜表をまたぐ連桁に最適なスペーシングを使用: 符尾間の距離が最適化される

## 譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更する

レイアウトごとに個別に、譜表をまたぐ連桁について符頭のかわりに符尾の間隔を均一するよう変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。
4. 「**2つの譜表間の連桁にオプティカルスペーシングを使用 (Use optical spacing for beams between staves)**」をオンにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 譜表が複数ある場合の譜表をまたぐ連桁の配置

インストゥルメントに3つ以上の譜表がある場合、譜表をまたぐ連桁は何通りかが考えられます。たとえば、連桁が一番上と2番目の譜表の間に配置される場合や、2番めと一番下の譜表の間に配置される場合もあります。

連桁がまたがる譜表が2つだけの場合、譜表をまたぐ連桁はこの2つの譜表の間に配置されます。



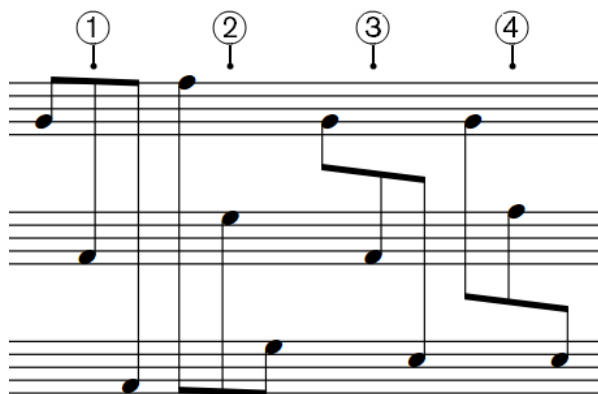


譜表が3つあるインストゥルメントで、上の2つの譜表をまたぐ連桁



譜表が3つあるインストゥルメントで、下の2つの譜表をまたぐ連桁

連桁グループの音符が3つの譜表すべてに乗っている場合、連桁の位置は各譜表の音符の符尾の方向に基づいて決定されます。



- 1 連桁グループのすべての音符の符尾が上向きであれば、連桁は一番上の譜表の上に配置されます。
- 2 連桁グループのすべての音符の符尾が下向きであれば、連桁は一番下の譜表の下に配置されます。
- 3 一番上の譜表の音符の符尾が下向きで、下の2つの譜表の音符の符尾が上向きの場合、連桁は一番上と2番目の譜表の間に配置されます。
- 4 上の2つの譜表の音符の符尾が下向きで、一番下の譜表の音符の符尾が上向きの場合、連桁は2番目と一番下の譜表の間に配置されます。

#### 補足

符尾の方向を指定していない場合、連桁を配置したい場所ではなく、音符が入力された譜表の上または下に連桁が配置されることがあります。

連桁を特定の譜表の間に配置するには、連桁グループの音符の符尾の方向を変更します。

#### 関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)

## 連桁のでっぱり

連桁の途中で符尾の方向が変わり、これが第2連桁グループの区切りと組み合わせられたとき、連桁のでっぱりが生じる場合があります。これは分割の終わりまたはリズム値の変更位置で生じる可能性があります。

連桁のでっぱりは、第2連桁の並び順やリズム上の意味に関するルールに従っておらず、演奏者を混乱させる原因となります。



Dorico Pro ではフレーズ中の音程や符尾を分析して、連桁のでっぱりが発生しないように符尾の方向が調節されます。

## 第2連桁

第2連桁とは、リズムの分割が細かくなった際に、第1連桁と符頭の間に追加される線です。

第1連桁は、連桁グループ内の音符すべてを連結する、一番外側にある連桁線です。連桁グループ内の音符のデュレーションが16分音符以下である場合、第1連桁の線は2本以上になることがあります。

第2連桁は、グループ内の一部の音符だけを連結した追加の連桁線で、これにより連桁が分割され、連桁の拍のグループ分けが明確になります。



第2連桁によって16分音符と8分音符のグループに分割されて表示された64分音符のフレーズ

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで、第2連桁の表示方法をフローごとに設定できます。

## 第2連桁の連桁線の数を変更する

第2連桁に表示される連桁線の数、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

手順

1. 連桁線の数を変更する第2連桁の右側にある音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. もしも選択した音符がいずれも第2連桁の既存の分割位置のすぐ後ろにない場合、必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって第2連桁を分割します。
  - プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「第2連桁を分割 (Split secondary beam)」をオンにします。

補足

音符しか選択していない場合、「連桁 (Beaming)」グループはプロパティパネルにのみ表示されます。

- 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「第2連桁を分割 (Split Secondary Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

3. プロパティパネルで、「**第2連符を分割 (Split secondary beam)**」メニューから表示させたい連符線の数に一致する音価を選択します。

#### 結果

選択した音符のすぐ左側にある連符線の数が変更されます。

#### 補足

- 第2連符の分割位置に表示される連符線の数は、第2連符の連符数より少ない数にしか設定できません。たとえば、64分音符で構成される第2連符を分割する場合、分割位置に表示される連符線の最大数は、32分音符の音価を示す3本となります。
- 各フローで表示される第2連符の連符線のデフォルトの数字を個別に変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」にある「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで設定を行ないます。

## 第2連符の線の数への変更をリセットする

第2連符に表示される連符線の数への変更は、リセットして初期設定の外観に戻すことができます。

#### 手順

1. 第2連符の線の数をリセットする位置の右にある音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、第2連符の線の数への変更をリセットします。
  - プロパティパネルの「**連符 (Beaming)**」グループで「**第2連符を分割 (Split secondary beam)**」をオフにします。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**連符 (Beaming)**」 > 「**連符をリセット (Reset Beaming)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

## 連符内の連符

連符になる音符が含まれる連符も連符で連結されますが、連符以外の音符も含まれる連符内の連符には、特別な連符のグループ化ルールが適用されます。

第2連符がある連符グループに連符が含まれる場合、初期設定では第2連符が分割され、連符に角括弧が付きます。第1連符は分割されません。

角括弧の外観を変更するには、角括弧を選択して、プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループで関連するプロパティを変更します。



第2連符がある連符グループ内の連符が、初期設定により分割された第2連符と一緒に連符でグループ化されている

連符に第1連符しかない場合、初期設定では連符全体がグループから分けられます。ただしこの設定は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで変更できます。



初期設定により、8分連符は後続の連符でない8分音符とは連符でグループ化されない

関連リンク  
[連符 \(1016 ページ\)](#)

## ステムレット

ステムレットは連桁グループ内で連桁から休符に延びる短い符尾です。これを使用すると楽譜が読みやすくなるとともに、連桁内の符尾の規則的なパターンを維持できます。

下の例では、すべての音符と休符を連桁でつなげて4分音符の長さにまとめることで、音符のシンコペーションを見やすくしています。休符にステムレットが付くことで4分音符の長さの中で音符がどの位置にあるかが明確になります。



ステムレットを使用していないシンコペーション



ステムレットを使用したシンコペーション

ステムレットのデフォルトの外観は各フローで変更でき、個々の連桁でステムレットを表示することもできます。

## 連桁グループ内のステムレットを個別に表示する

ステムレットは、連桁グループ内の休符に個別に表示できます。この場合、フローに設定されたステムレットの表示の初期設定は無視されます。

### 手順

1. グループ化する音符と休符のステムレットを選択します。  
たとえば、2つの音符の間にある休符にステムレットを表示するには、両方の音符を選択します。連桁でつながれたフレーズの最後にある休符にステムレットを表示するには、連桁内のすべての音符に加え、休符を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「ステムレット (Stemlets)」 > 「連桁に強制的にステムレットを作成 (Force Stemlet Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符は、連桁グループ内にある休符のステムレットにグループ化されます。

### 補足

- 選択した連桁グループの連桁をあとからリセットした場合、ステムレットの表示はフローに設定された初期設定に戻ります。
- 各フローのすべての連桁グループ内にある休符のステムレットを表示するには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで設定を行ないます。

### 例



特定の休符のみを選択した場合のステムレット



両側の音符を選択した場合のステムレット



連桁グループ内のすべての音符と休符を選択した場合のステムレット

## ステムレットを連桁グループ内から個別に削除する

ステムレットは、連桁グループ内の休符から個別に削除できます。この場合、フローに設定されたステムレットの表示の初期設定は無視されます。

### 手順

1. 休符のステムレットを削除する連桁グループそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「ステムレット (Stemlets)」 > 「連桁にステムレットを作成しない (Suppress Stemlet Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した連桁内のすべての休符からステムレットが削除されます。

### 補足

- 連桁からステムレットを削除しても、選択した連桁はフローの初期設定の連桁グループに戻りません。
- 各フローのすべての連桁グループ内にある休符のステムレットを非表示にするには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで設定を行ないます。

### 例



ステムレットのある連桁グループ



ステムレットのない連桁グループ

### 関連リンク

[連桁グループのリセット \(546 ページ\)](#)

## 扇形連桁

扇形もしくは“羽根つき”の連桁は、複数の連桁線が反対側の単一の連桁線に向かって広がる場合はアツチェレランドを示し、反対側の連桁線に収束する場合はラレンタンドを示します。

1つの連桁内で傾斜方向を複数回変更できます。

連桁には線を2本か3本使用できます。2本より3本の方が大きな速度の変化を表わします。連桁線の収束した部分が最も遅く、広がりきった部分が最も速くなります。

### 例



3本線のアツチェレランドの扇形連桁



2本線のアツチェレランドの扇形連桁



3本線のラレンタンドの扇形連桁



2本線のラレンタンドの扇形連桁

## 扇形連桁を作成する

8分音符、16分音符、32分音符といった連桁を作成できる音符であれば、どのようなグループにでも扇形連桁を作成できます。

### 手順

1. 扇形連桁に含める音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「扇形連桁を作成 (Create Fanned Beam)」 > [向きと線の本数] を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。  
たとえば、3本線のアツチェレランドの扇形連桁を作成するには、「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「扇形連桁を作成 (Create Fanned Beam)」 > 「アツチェレランド (三本線) (Accelerando (Three Lines))」を選択します。

### 結果

選択した音符が、元のデュレーションが何であるかにかかわらず、ひとつながりの扇形連桁で連結されます。

## 扇形連桁の方向を変更する

フレーズ内で扇形連桁の方向を変更して、テンポの変更を指示できます。

### 手順

1. 浄書モードで、扇形連桁の傾斜方向を変更する位置にある音符の符頭を選択します。フレーズ内の位置は複数選択できます。
2. プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「扇形連桁の方向を変更 (Change fanned beam direction)」をオンにします。

### 例



方向を複数回変更した扇形連桁

# 音符と休符のグループ化

さまざまな状況でデュレーションの異なる音符と休符を記譜してグループ化する方法については、一般的な表記規則があります。

Dorico Pro では、音符は小節に収まるように自動的に調節されて記譜され、フローごとの設定に従ってグループ化されます。

現在の拍子記号に応じて、さまざまな方法で音符が連桁で連結されます。たとえば、3/4 拍子のように半分に割れない、またはまったく割れない拍子記号においては、小節内のすべての音符を連桁で連結するのが適切な場合があります。

タイでつながれた音符は、音符と休符のグループ化設定に影響されます。これは、小節内の重要な拍の境界を示すためにタイで連結された音符を分割する方法、および拍の境界をまたいでよい状況について、さまざまな表記規則が存在するためです。

同様のオプションは付点音符にも適用されます。付点音符は多くの場合、小節の冒頭から始まる場合は付点音符 1 つで記譜されますが、小節の途中から始まる場合は、拍の境界を明確に示すためにタイによる連結で記譜されます。

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「音符のグループ化 (Note Grouping)」および「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで、プロジェクトの音符のグループ化および連桁のグループ化に関するデフォルト設定を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[フローごとに連桁のグループ化のデフォルトを変更する \(545 ページ\)](#)

## 拍に従う連桁グループの表記規則

一般的な表記規則に従い、拍が明確で分かりやすくなるように、拍子記号に応じて異なる形で音符が連桁で連結されます。

たとえば、3/4 拍子の場合には 6 つの 8 分音符が 1 つの連桁にグループ化され、6/8 拍子の場合には符点 4 分音符の長さの連桁 2 つにグループ化されます。これら 2 つの拍子記号は同じ音価を表わしますが、そこに内包される拍数が異なるため、連桁のグループ化も異なります。



3/4 におけるデフォルトの連桁グループ



6/8 におけるデフォルトの連桁グループ

5/8 や 7/8 のような変拍子については、Dorico Pro の初期設定では、その拍子記号において最も一般的な慣習に従って音符が連桁で連結されます。



5/8 におけるデフォルトの連桁グループ



7/8 におけるデフォルトの連桁グループ

関連リンク

[フローごとに連桁のグループ化のデフォルトを変更する \(545 ページ\)](#)

## 拍子のカスタム連桁グループを作成する

使用中の楽譜の特定の拍子で、デフォルトと異なる連桁のグループ化の設定が必要な場合、拍子記号に対して特定の連桁のグループ化を指定できます。拍子記号に指定したカスタム連桁グループを表示するかを設定できます。

### 補足

連桁のグループのデュレーションは、現在の拍子記号における拍のグループ化、および「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」のフローごとの連桁グループ化の設定に従います。たとえば、拍子記号のポップオーバーに  $[1+1+1+1]/4$  と入力すると、4分音符のグループが4つの拍子記号を挿入します。これは半小節の拍子記号を作成するため、半小節の拍子記号の連桁グループオプションが適用されます。

### 手順

1. 記譜モードで、カスタム連桁グループありの拍子記号を入力したい位置にある項目を選択します。
2. **[Shift]+[M]** を押して拍子記号のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーの角括弧に分割した値を入力します。  
たとえば、7/8 の拍子記号を 2+3+2 に分割するには、ポップオーバーに  $[2+3+2]/8$  と入力します。5/4 の拍子記号を 3+2 ではなく 2+3 に分割するには、ポップオーバーに  $[2+3]/4$  と入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号を入力してポップオーバーを閉じます。
  - すべての譜表に拍子記号を入力するには、**[Return]** を押します。
  - 選択した譜表のみに拍子記号を入力するには、**[Alt]+[Return]** を押します。

### 結果

指定した拍子記号が入力され、以降の小節においては、指定した分割に従って連桁と拍がグループ化されます。「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページの設定に応じて、拍子記号は 7/8 のような単一の数字、もしくは  $2+3+2/8$  のような拍のグループで表示されます。

### ヒント

個々の拍子記号の分子の外観は、プロジェクト全体の設定とは別に、単一の数字を表示させるか拍のグループを表示させるかを変更できます。

関連リンク

[フローごとに連桁のグループ化のデフォルトを変更する \(545 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

[拍子記号のスタイル \(998 ページ\)](#)

[拍子記号の分子スタイルを個別に変更する \(999 ページ\)](#)



# 大括弧と中括弧

大括弧と中括弧は左側の余白にそれぞれ太い直線と曲線で描画され、インストゥルメントのグループを表わします。

## 大括弧

大括弧は連符と同じ太さの太い黒線で、一般的にインストゥルメントのファミリー別にインストゥルメントをグループ化します。多くの場合、両端がスコア側に向かって羽根のように伸びています。

大括弧は常に組段の小節線の左側に直接配置されます。大括弧に追加して第2括弧が使用された場合、1つめの括弧からスペースを空けて、組段の開始位置からさらに離れた位置に配置されます。



弦楽器のインストゥルメントを大括弧でくくった例。副括弧で2つのバイオリンの譜表がくくられています。

Dorico Pro では、大括弧および中括弧でくくられた譜表が小節線によっても連結されます。つまり大括弧でくくられた複数の譜表や中括弧でくくられた複数の譜表は、グループ全体が小節線で連結されます。

## 中括弧

中括弧は波線または曲線で、ピアノやハープなど同じインストゥルメントに属する複数の譜表をくくります。中括弧は必要に応じて3つ以上の譜表にまたがることもできますが、2つが最も一般的です。

大括弧でくくられたインストゥルメントファミリーの譜表の中で、同じインストゥルメントのグループを表わすために副括弧のかわりに使用される場合もあります。

中括弧は組段の小節線の外側に配置され、副括弧として使用される場合は大括弧の外側に配置されません。



中括弧でピアノの譜表2つをくくった例

#### 補足

中括弧でくくられた譜表には副括弧や小副括弧を表示できません。

関連リンク

[譜表グループをまたぐ小節線](#) (520 ページ)

[プレーヤーグループ](#) (118 ページ)

[プレーヤーのグループの追加](#) (118 ページ)

[第2括弧](#) (562 ページ)

## 第2括弧

第2括弧は大括弧の範囲を超えて表示されるため、大括弧内のグループに含まれる譜表にマークを付けられます。第2括弧は大括弧の外に表示される中括弧、または副括弧として表示できます。

### 副括弧としての第2括弧

初期設定では第2括弧は副括弧として表示されます。副括弧は、大括弧の外側に突き出す細い線の角括弧です。



「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「副括弧 (Sub-brackets)」サブセクションで、副括弧の線の太さ、および組段の小節線と副括弧の間の距離を変更できます。

### 中括弧としての第2括弧

第2括弧は副括弧のかわりに中括弧でも表示できます。



「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「副括弧 (Sub-brackets)」サブセクションで、大括弧と中括弧の間の距離を変更できます。

関連リンク

[カスタムの譜表のグループ化 \(566 ページ\)](#)

[カスタムの大括弧/中括弧のグループを入力する \(567 ページ\)](#)

## 小副括弧

小副括弧は譜表のグループ化の第3階層で、副括弧と同じデザインを使用します。これは大括弧と副括弧より外側に位置し、大括弧と副括弧によるグループ内にさらに譜表のグループを作成できます。Dorico Pro では、小副括弧は角括弧の外観しか使用できません。

小副括弧はそれが属する副括弧の外側に延ばすことはできず、中括弧の付く譜表には、中括弧が第1グループまたは第2グループのいずれであっても表示できません。



「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「小副括弧 (Sub-sub-brackets)」サブセクションでは、小副括弧の線の太さ、幅およびデザインを変更できます。

関連リンク

[カスタムの譜表のグループ化 \(566 ページ\)](#)

[カスタムの大括弧/中括弧のグループを入力する \(567 ページ\)](#)

## 浄書オプションで大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページで大括弧と中括弧の外観を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページのオプションでは、括弧でグループ化するインストゥルメントと、括弧のデザインを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

### 大括弧の終端の外観を変更する

大括弧の終端の外観を変更して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」をクリックします。
3. 「デザイン (Design)」セクションの「大括弧の終端のデザイン (Bracket end design)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 羽根付き (Wings) (初期設定)



- 横棒線 (Horizontal line)



- なし (None)



### アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化

Dorico Pro では、デフォルトの譜表のグループ化の設定は、プロジェクトに選択されているアンサンブルタイプで決まります。これは、どの譜表が大括弧でくくられ、小節線で結合されるかに影響します。

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページで、以下のアンサンブルタイプから選択できます。

#### 大括弧なし (No brackets)

大括弧を使用せずに、すべての譜表が別々に表示されます。

#### オーケストラ (Orchestral)

譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。デフォルトの設定です。

### 小アンサンブル (Small ensemble)

プロジェクトのすべての譜表が大括弧でくくられます。

### 吹奏楽 (Wind band)

譜表はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます。たとえば、フルート 1 とフルート 2 は大括弧でくくられますが、ほかの木管楽器とは別になります。

### ビッグバンド (Big band)

譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられますが、例外で金管楽器はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます。

リズムセクションのインストゥルメントは大括弧でくくられます。

打楽器とティンパニは大括弧でくくられます。

### 英国式ブラスバンド (British brass band)

金管楽器はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられますが、例外でホルンとトランペットは一緒に大括弧でくくられます。

スコア内のその他すべてのインストゥルメントは、インストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。

打楽器とティンパニは個別に大括弧でくくられます。

### 補足

声楽の譜表は、たとえプロジェクトのアンサンブルタイプが声楽の譜表を大括弧でくくるものだったとしても、小節線で結合されることはありません。

---

### 関連リンク

[プロジェクトテンプレートのカテゴリによって異なる括弧 \(60 ページ\)](#)

## アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更

大括弧内にどの譜表を含めるかは、プロジェクト全体のアンサンブルタイプの設定を変更することで設定できます。

初期設定では「オーケストラ (Orchestral)」が選択されています。小アンサンブル用のプロジェクトでは、この設定を変更することをおすすめします。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)**」をクリックします。
  3. 「**アプローチ (Approach)**」セクションの「**アンサンブルタイプ (Ensemble type)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **大括弧なし (No brackets)**
    - **オーケストラ (Orchestral)**
    - **小アンサンブル (Small ensemble)**
    - **吹奏楽 (Wind band)**
    - **ビッグバンド (Big band)**
    - **英国式ブラスバンド (British brass band)**
- 

### 関連リンク

[譜表グループをまたぐ小節線 \(520 ページ\)](#)

## カスタムの譜表のグループ化

Dorico Pro では、デフォルトの括弧設定には含まれない譜表グループがプロジェクトに必要な場合、カスタムの譜表のグループ化を使用して、大括弧、中括弧、副括弧、小副括弧、または小節線で、どの譜表を結合するか変更できます。

デフォルトの譜表グループに対する変更はすべて大括弧と小節線の変更のガイドとして表示されます。これには変更の適用が開始される位置も表示されます。これらは現在のレイアウトの譜表のグループ化にのみ影響します。

大括弧と小節線の変更のガイドが組段の開始位置に配置されている場合、対応する譜表のグループ化の変更は、その組段以降に適用されます。ガイドが組段の途中に配置されている場合、変更は次の組段から適用されます。

The image shows a musical score for a string ensemble. A brown box labeled "Bracket and Barline Change" is positioned above the staves. A bracket spans across the staves from the beginning of the second measure to the end of the fourth measure. Below the staves, a barline change is indicated by a vertical line with a small circle at the top, occurring at the start of the fourth measure. The score includes staves for Violin I, Violin II, Viola 1, Viola 2, Violoncello I, Violoncello II, and Double Bass I, Double Bass II. Dynamics like *pp*, *molto cresc.*, and *ff* are marked throughout the passage.

チェロのディヴィジのパートを分割する小副括弧が追加されたことと、小節線が弦楽器全体ではなく同じインストゥルメントタイプの譜表のみ結合することを示す大括弧と小節線の変更のガイド

### 補足

最良の結果を得るために、大括弧/中括弧のグループ化や小節線の結合の変更は、追加の譜表、オプション譜表、または追加のインストゥルメントを追加してから入力すること、またその際はレイアウト中のすべての譜表を表示しておくことをおすすめします。空白の譜表は、変更を入力したあとに再度非表示にできます。

また、大括弧/中括弧のグループ化や小節線の結合の変更はすべてフローの開始位置に入力しつつ、曲中の変更があれば時系列順に追加することをおすすめします。フローの終わり側から入力を開始することはおすすめしません。

### 関連リンク

[ガイド \(284 ページ\)](#)

[カスタムの小節線の結合を入力する \(522 ページ\)](#)

[譜表グループをまたぐ小節線 \(520 ページ\)](#)

## カスタムの大括弧/中括弧のグループを入力する

カスタムの大括弧/中括弧のグループ化の変更はどの位置にでも入力できます。これは大括弧、副括弧、小副括弧および中括弧でどの譜表をグループ化するか変更するものです。

### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、その開始位置から変更を適用する組段の、大括弧/中括弧でグループ化する一番上の譜表のアイテムを選択します。
  2. 大括弧/中括弧でグループ化する一番下の譜表のアイテムを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
  3. 形式設定パネルで、「**括弧 (Bracketing)**」グループから以下のいずれかをclickします。
    - **大括弧を挿入 (Insert bracket)**
    - **副括弧を挿入 (Insert sub-bracket)**
    - **小副括弧を挿入 (Insert sub-sub-bracket)**
    - **中括弧を挿入 (Insert brace)**
- 

### 結果

アイテムを選択した譜表とその間のすべての現在のレイアウトの譜表が選択した大括弧または中括弧で結合されます。これは次の大括弧と小節線の変更がある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。アイテムを選択していた組段の開始位置にガイドが表示されます。

大括弧/中括弧は重なり合えないため、既存の大括弧または中括弧のグループ化がある場合、新しいグループを表示できるように必要に応じて調整されます。

### 補足

大括弧と小節線の変更のガイドは、組段の開始位置に適用されるものであるため移動できません。ただし、たとえば組段区切りを移動したような場合は、組段の途中に表示されることもあります。大括弧と小節線の変更のガイドが組段の途中に位置する場合、対応する変化の効果は次の組段の開始位置まで現れません。

---

例

デフォルトの譜表のグループ化によるチェロのディヴィジの譜表

小副括弧が追加されたディヴィジ譜表

関連リンク

[ガイド](#) (284 ページ)

## カスタムの大括弧/中括弧の長さを変更する

カスタムの大括弧/中括弧は、垂直方向の長さを変更して譜表の範囲を変更できます。たとえば大括弧のグループの下に新しくプレーヤーを追加して、その譜表まで大括弧を延長する場合などに使用できます。

前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する大括弧/中括弧の上端か下端いずれかのハンドルを選択します。

ヒント

大括弧/中括弧の変更は、ガイドの位置から次の既存の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されるため、1回の変更につき選択する大括弧/中括弧のハンドルは1つだけで構いません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[↑]** を押して1つ上の譜表へ移動します。
- **[Alt]+[↓]** を押して1つ下の譜表へ移動します。
- ハンドルをクリックして上か下の譜表に向かって上か下にドラッグします。

結果

選択した大括弧/中括弧の長さが変わって、上か下につながる譜表の範囲が変更されます。これは、対応する大括弧と小節線の変更が適用されるすべての組段の、大括弧/中括弧に含まれる譜表に影響しません。



#### 補足

各譜表に大括弧/中括弧は1つしか存在できず、重なり合うこともできません。選択した大括弧/中括弧の長さを変更した結果、一部が他の大括弧/中括弧に重なった場合、他の大括弧/中括弧はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せますが、このとき影響された他の大括弧/中括弧の長さを復元できるのは、キーボードを使用して大括弧/中括弧の長さを変更した場合のみです。

---

## 大括弧と小節線の変更のリセット

大括弧/中括弧のグループ化および小節線の結合のカスタムの変更はリセットできます。これはカスタムのグループ化/結合を使用したパッセージのあとで、それ以降の組段からプロジェクト全体の譜表のグループ化の設定を復元させるものです。

#### 前提

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、譜表のグループ化をリセットする位置にあるアイテムを選択します。
  2. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**大括弧と小節線のリセットを作成 (Reset Bracketing)**」を選択します。
- 

#### 結果

大括弧/中括弧のグループ化の変更と小節線の結合の変更のいずれも含む譜表のグループ化が、プロジェクト全体の譜表のグループ化の設定にリセットされます。これはリズム上の選択位置から、次の既存の大括弧と小節線の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。選択したアイテムの位置にガイドが表示されます。

組段の途中でアイテムを選択していた場合、次の組段の開始位置まで譜表のグループ化はリセットされません。

#### ヒント

また、プロパティパネルの「**大括弧と小節線の変更 (Bracket and Barline Changes)**」グループの「**大括弧を変更 (Change bracketing)**」および「**小節線を変更 (Change barlines)**」プロパティを使用すると、大括弧/中括弧のグループ化の変更と小節線の結合の変更を、それぞれ個別にリセットできます。これらのプロパティを「**自動 (Auto)**」に設定すると、選択した変更の対応する部分がリセットされます。

---

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(564 ページ\)](#)

## 大括弧と小節線の変更の削除

たとえば大括弧/中括弧のグループ化をリセットする位置に関して変更を要する場合など、大括弧/中括弧のグループ化および小節線の結合のカスタムの変更は削除できます。

---

#### 手順

1. 削除する大括弧と小節線の変更のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択した大括弧と小節線の変更が削除されます。対応する組段すべての譜表のグループ化は、その位置より前の大括弧と小節線の変更か、それがいない場合はプロジェクト全体の譜表のグループ化の設定に従います。

#### ヒント

- 浄書モードでは、削除する大括弧/中括弧も選択できます。
  - また個々の小節線の結合は、リズム上の同じ位置にある他の小節線の結合および大括弧/中括弧のグループ化の変更とは個別に削除できます。
- 

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(564 ページ\)](#)

[小節線の結合を個別に削除する \(523 ページ\)](#)

# コード記号

コード記号とは、楽譜上の特定の瞬間における縦のハーモニーを記述するものです。コード記号は、プレイヤーがコード進行に合わせて即興演奏を行なうジャズやポップスでは多く使用されます。

音楽のスタイルに応じて、コード記号の表示に関するさまざまな表記規則が存在します。

関連リンク

[コード記号の入力方法 \(215 ページ\)](#)

## コードの構成要素

コード記号はルートとクオリティーによって構成され、これに必要に応じて音程、オルタレーション、オンコードが加わります。

### ルート

コードのルート音は、ノート名またはスケール上の特定の度数のいずれかによって表現されます。

### クオリティー

メジャー、マイナー、ディミニッシュ、オーギュメント、ハーフディミニッシュ、または6や9などの音を加えることで、コードのタイプを定義します。

### 音程

コード記号には、メジャー 7th や 9th といった追加の音程を 1 つ以上含められます。コード記号内に記される音程は、“テンション”とも呼ばれます。

### オルタレーション

通常コードに予測されるものとは異なるコードの構成音を定義します。たとえば、シャープ 5th、フラット 9th、sus や omit があります。

### オンコード

コードの最低音がルート音とは異なる場合、コード記号は Cm7b5/Eb のようにオンコードとして記されます。

## 浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページで、コード記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページに表示されるオプションから、臨時記号やオルタレーションの順番や配置、およびそのデフォルト位置を含めた、各種コードの外観を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## コード記号の外観のプリセット

コード記号の外観にはさまざまな規則があるため、Dorico Pro では、そのまま使用または編集して使用できる規則のプリセットが提供されています。

たとえば、初期設定のコード記号のプリセットを編集したり、初期設定の外観を変更することなくコード記号を個別に編集したり、コード記号内の要素を個別に編集したりできます。

コード記号のプリセットは「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページ上部で選択できます。

コード記号のプリセットの例	コード記号のプリセット名
$B^b\text{maj}7(\sharp_{11})/F$	デフォルト (Default)
$B^b\text{maj}7(\sharp_9 \sharp_{11})/F$	Boston
$B^b\text{MA}7(\sharp_{11})/F$	Brandt-Roemer
$B^b\Delta^{+11}/F$	Indiana
$B^b\text{Maj}7^{+11}/F$	New York
$\frac{b7\Delta\sharp_{11}}{4}$	Nashville
$B^b\text{MA}7(\sharp_{11})/F$	Jazz Standards
$\frac{B^b\text{maj}7^{+11}}{F}$	Ross
$B^b\text{M}7(\sharp_{11})_{onF}$	日本語 (Japanese)

これらのプリセットは「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある特定のオプションを組み合わせたものです。これらのオプションはユーザーの要求にあうように個別に調節できます。

「**デフォルト (Default)**」を選択すると、できるだけ明確になるよう調節された記号のセットが使用されます。たとえば、「**デフォルト (Default)**」では、メジャー 7th、オーギュメント、ディミニッシュ、お

よびハーフディミニッシュの記号はできるだけ使用しません。新規プロジェクトを作成すると、初期設定で「**デフォルト (Default)**」が使用されます。

「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページでプリセットのオプションを変更すると、自動的に「**カスタム (Custom)**」が選択されます。

関連リンク

[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(575 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

## 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログ

「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを使用すると、コード記号のデフォルトの外観を編集できます。これによってプロジェクト全体のコード記号の外観が変更されます。

- 「プロジェクトのデフォルトのコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開くには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページの「**プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)**」セクションにある「**編集 (Edit)**」をクリックします。



「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログ

「プロジェクトのデフォルトのコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 コード記号を入力 (Enter a chord symbol)

プロジェクト全体のデフォルトの外観を編集するコード記号を入力できます。「**プロジェクトのデフォルトを追加 (Add Project Default)**」をクリックするか、**[Return]**を押して「**プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)**」リストにコード記号を追加すると、エディターでコード記号を編集できるようになります。

### 2 「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リスト

プロジェクト内でプロジェクトのデフォルトの外観が編集されているコード記号が表示されます。

コード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に加えた変更を削除するには、アクションバーの「**削除 (Delete)**」をクリックします。



### 3 「個別に上書き (Single Overrides)」 リスト

プロジェクト内で個別の外観が上書きされているコード記号が表示されます。

個別のコード記号に加えた編集を、そのコードのプロジェクトのデフォルトの外観に設定するには、アクションバーの「**プロジェクトのデフォルトに設定 (Promote to Project Default)**」をクリックします。



コード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に対する個別の上書きをリセットするには、アクションバーの「**上書きを解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。



### 4 エディター

コード記号の構成要素の配置と編集を行なえます。ダイアログ下部のコントロールを使用するか、またはエディター内で要素を選択してから以下のいずれかの操作を行なうと、個々の構成要素を移動できます。

- 項目を移動する標準のキーボードショートカットを押します。たとえば、構成要素を右に移動するには **[Alt]+[→]**、構成要素を大きく移動するには **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[→]** を押します。
- 各構成要素をクリックしてドラッグします。

#### 補足

コード記号の最初の構成要素は移動できません。

「**スケール (Scale)**」を使用するほかに、エディターで構成要素を選択してから右上角の四角いハンドルをクリックしてドラッグすることでも、構成要素のサイズを変更できます。

### 5 コントロール

- 「**X オフセット (X offset)**」は構成要素を水平に移動させます。値を増やすと構成要素が右に移動し、減らすと左に移動します。
- 「**Y オフセット (Y offset)**」は構成要素を垂直に移動させます。値を増やすと構成要素が上に移動し、減らすと下に移動します。
- 「**スケール (Scale)**」は構成要素のサイズを変更します。値を増やすと構成要素のサイズが比率に合わせて大きくなり、値を減らすと比率に合わせてサイズが小さくなります。
- 「**X オフセットをリセット (Reset X offset)**」は選択した構成要素の水平位置をリセットします。
- 「**Y オフセットをリセット (Reset Y offset)**」は選択した構成要素の垂直位置をリセットします。
- 「**スケールをリセット (Reset Scale)**」は選択した構成要素のサイズをリセットします。

### 6 構成要素の代替表示

エディターで選択した構成要素の代替の表示方法を表示します。

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、構成要素の新規作成および既存の要素の編集が行なえます。

- **要素の追加 (Add Component)**



- **要素の編集 (Edit Component)**



いずれかのボタンをクリックすると「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログが開き、コード記号の構成要素を新規作成したり、既存のコード記号の構成要素を編集したりできます。

関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(572 ページ\)](#)

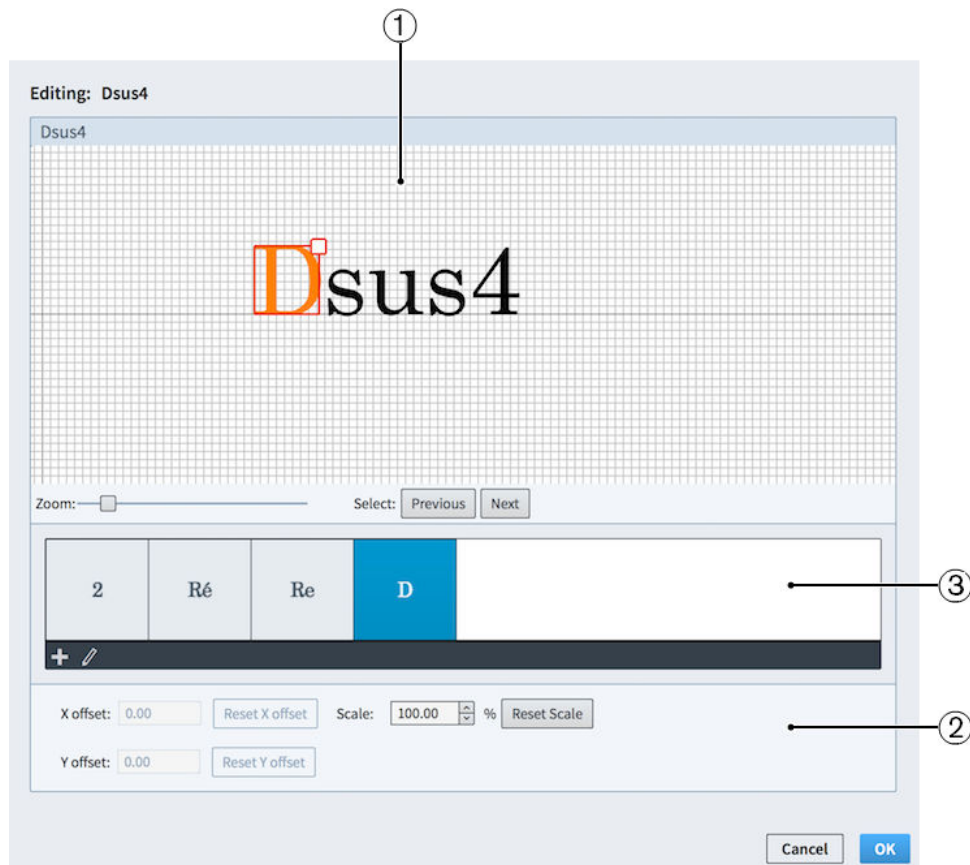
[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

## 「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログ

「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログを使用すると、そのコード記号に対するプロジェクトのデフォルトの外観を変更することなく、個々のコード記号の外観と配置を編集できます。

以下のいずれかの操作を行なって、「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログを開きます。

- 浄書モードで、コード記号を選択して [Return] を押します。
- 浄書モードで、コード記号をダブルクリックします。



「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログ

「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 エディター

コード記号の構成要素の配置と編集を行なえます。

ダイアログ下部のコントロールを使用するか、またはエディター内で要素を選択してから以下のいずれかの操作を行なうと、個々の構成要素を移動できます。

- 項目を移動する標準のキーボードショートカットを押します。たとえば、構成要素を右に移動するには [Alt]+[→]、構成要素を大きく移動するには [Ctrl]/[command]+[Alt]+[→] を押します。
- 各構成要素をクリックしてドラッグします。

#### 補足

コード記号の最初の構成要素は移動できません。

「スケール (Scale)」を使用するほかに、エディターで構成要素を選択してから右上角の四角いハンドルをクリックしてドラッグすることでも、構成要素のサイズを変更できます。

## 2 コントロール

個々の構成要素を移動したりサイズを変更したりできます。またそれらの位置とサイズのリセットも行なえます。

- 「X オフセット (X offset)」は構成要素を水平に移動させます。値を増やすと構成要素が右に移動し、減らすと左に移動します。
- 「Y オフセット (Y offset)」は構成要素を垂直に移動させます。値を増やすと構成要素が上に移動し、減らすと下に移動します。
- 「スケール (Scale)」は構成要素のサイズを変更します。値を増やすと構成要素のサイズが比率に合わせて大きくなり、値を減らすと比率に合わせてサイズが小さくなります。
- 「X オフセットをリセット (Reset X offset)」は選択した構成要素の水平位置をリセットします。
- 「Y オフセットをリセット (Reset Y offset)」は選択した構成要素の垂直位置をリセットします。
- 「スケールをリセット (Reset Scale)」は選択した構成要素のサイズをリセットします。

## 3 構成要素の代替表示

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、構成要素の新規作成および既存の要素の編集が行なえます。

- 要素の追加 (Add Component)



- 要素の編集 (Edit Component)



いずれかのボタンをクリックすると「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログが開き、構成要素を新規作成したり、既存の構成要素を編集したりできます。

#### 関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(572 ページ\)](#)

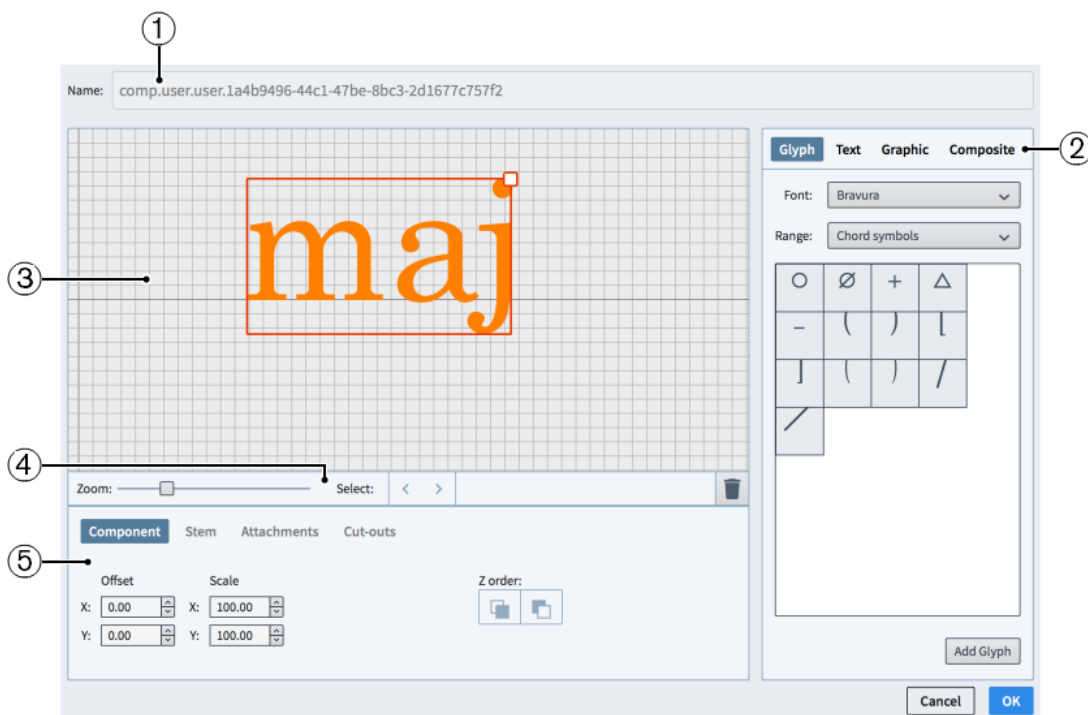
## 「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログ

「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログを使用すると、個別のコード記号とプロジェクトのデフォルトのコード記号の両方に対し、カスタム要素の作成や既存要素の編集が行なえます。

「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログを開くには、以下のダイアログにある構成要素の代替表示アクションバーで「要素の追加 (Add Component)」または「要素の編集 (Edit Component)」をクリックします。

- 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログ
- 「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログ





「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログ

「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログには以下のセクションがあります。

### 1 名前 (Name)

コード記号の構成要素に対し自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

コード記号の構成要素に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフをコード記号の構成要素に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストをコード記号の構成要素に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックをコード記号の構成要素に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせをコード記号の構成要素に追加します。

### 3 エディター

コード記号の構成要素を形作る要素の配置と編集を行なます。ダイアログ下部のコントロールを使用して構成要素の配置および編集が行なえます。

#### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom)**  
エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select)**  
次/前の要素を選択できます。
- **削除 (Delete)**



選択した要素を削除します。

#### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。コード記号で利用できるタブは「**要素 (Component)**」と「**アタッチメント (Attachments)**」だけです。これ以外のタブはコード記号には当てはまらないためです。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset)**: 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale)**: 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

##### 補足

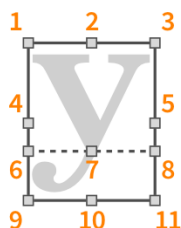
一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **前後の順序 (Z order)**: 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、コード記号の構成要素が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)

- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

#### 関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(572 ページ\)](#)

[「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(573 ページ\)](#)

[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(575 ページ\)](#)

## 個別に上書きされたコード記号をプロジェクトの初期設定として使用する

コード記号を個別に上書きした場合、上書き後のコード記号をプロジェクトの初期設定の外観として使用できます。

---

#### 手順

1. 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開きます。
2. 「個別に上書き (Single Overrides)」リストからプロジェクトの初期設定として使用するコード記号を選択します。
3. 「プロジェクトのデフォルトに設定 (Promote to Project Default)」をクリックします。



---

#### 結果

選択したコード記号の設定がプロジェクトの初期設定の外観として使用されるようになります。

#### 補足

この操作は取り消しできません。変更内容を元に戻すには、「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リストからコード記号を削除する必要があります。

---

#### 関連リンク

[「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(573 ページ\)](#)

## 個別に上書きされたコード記号の外観をリセットする

コード記号の外観を個別に上書きしてプロジェクトの初期設定から変更した場合、その外観をリセットできます。

---

#### 手順

1. 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開きます。
2. 「個別に上書き (Single Overrides)」リストからリセットするコード記号を選択します。
3. 「上書きを解除 (Remove Overrides)」をクリックします。



#### 結果

コード記号に対する個別の変更がすべて解除されます。選択したコード記号の外観がプロジェクトの初期設定に戻ります。

#### 関連リンク

[「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(573 ページ\)](#)

## コード記号のフォントの変更

コード記号に使用するテキストフォントの形式設定を変更して、プロジェクト全体に適用できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから、以下のいずれかのフォントを選択します。
  - コード記号とオンコードの区切り用文字フォント (Chord Symbols Altered Bass Separator Font)
  - コード記号のフォント (Chord Symbols Font)
  - コード記号の音楽テキスト用フォント (Chord Symbols Music Text Font)

#### ヒント

「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号とオンコードの間の区切り用文字 (Separator between chord symbol and altered bass note)」オプションで「スラッシュまたは線を使用 (Use slash or line)」ではなく「文字を使用 (Use text)」を選択している場合、「コード記号とオンコードの区切り用文字フォント (Chord Symbols Altered Bass Separator Font)」を選択すると、区切り用文字 (“on”) のフォントを変更できます。

#### 補足

「コード記号の音楽テキスト用フォント (Chord Symbols Music Text Font)」の初期設定 (Bravura Text) から変更しないことをおすすめします。テキストベースのアプリケーションで使用できる SMuFL 対応のフォントのみ設定できます。

3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
  - フォントファミリー (Font family)
  - サイズ (Size)
  - スタイル (Style)
  - 下線 (Underlined)
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

## コード記号の移調

コード記号は移調できます。また、移調楽器上に表示するときは、適切な移調音で表示できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、移調するコード記号を選択します。

2. 「記譜 (Write)」 > 「移調 (Transpose)」を選択して「移調 (Transpose)」ダイアログを開きます。
3. ダイアログに表示されているオプションを選択して、調性を変更します。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択したコード記号が移調されます。

#### ヒント

移調楽器の場合、「編集 (Edit)」 > 「移調音 (Transposed Pitch)」を選択することで、実音ではなく適切な移調音で現在のレイアウトにコード記号を表示できます。

#### 関連リンク

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(126 ページ\)](#)

## コード記号を表示/非表示にする

現在のレイアウトにあるコード記号を削除することなく、表示/非表示を切り替えることができます。

#### 手順

1. 表示/非表示にするコード記号やコード記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「非表示 (Hidden)」をオンにします。

#### 結果

プロパティをオンにするとコード記号が非表示になり、オフにするとコード記号が表示されます。

ガイドは各コード記号の位置に表示されるため、あとから探すことができます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### ヒント

- コード記号のガイドを表示したくない場合は、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「コード記号 (Chord Symbols)」を選択します。メニュー内の「コード記号 (Chord Symbols)」の横にチェックマークがあるときはコード記号のガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。
- コード記号、演奏技法、および拍子記号に適用される、「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを設定できます。

#### 関連リンク

[ガイド \(284 ページ\)](#)

## コード記号のルートとクオリティーを表示/非表示にする

コード記号のあとにルートとクオリティーが同じでオンコードが異なるコード記号が続く場合、後続のコード記号のルートとクオリティーを非表示にできます。

#### 手順

1. ルートとクオリティーを非表示にするコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「ルートおよびクオリティーを隠す (Hide root and quality)」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したコード記号のルートとクオリティーが非表示になり、オフにするとルートとクオリティーが表示されます。

プロパティがオフの場合、コード記号はプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

あとに続くコード記号のルートおよびクオリティーが同じ場合でも常にそれらを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「コード記号 (Chord Symbols)」ページの「オンコード (Altered Bass Notes)」セクションで設定を行ないます。

---

## コード記号の位置

初期設定では、コード記号は入力された位置で、最初の声部列の正面の符頭に左右中央揃えで配置されます。

#### 補足

正面の符頭とは、その位置で符尾の正しい側にある符頭のことです。

---

フルスコアにおけるコード記号の垂直位置は、そのコード記号をその上に表示するように設定されている譜表によって決定されます。譜表はコード記号がどのパートレイアウトに表示されるかにも影響を与えます。

### 音符と和音に対するコード記号の配置

コード記号のテキストを符頭上で左揃え、中央揃え、右揃えのどれにするかを変更できます。ただし一般的に右揃えはわかりづらくなります。

コード記号の水平方向の配置を変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページの「位置 (Position)」セクションにある「音符、コードまたは休符に対する水平位置 (Horizontal alignment relative to note, chord or rest)」オプションを選択します。

プロパティパネルで「コード記号 (Chord Symbols)」グループの「配置 (Alignment)」をオンにし、メニューからオプションを選択することで、個別に選択したコード記号の配置を上書きすることもできます。

### 組段をまたぐコード記号の配置

コード記号は、初期設定では組段の幅全体を通して同じ垂直位置に整列されます。それぞれのコード記号を独立させて譜表の上に配置させたい場合は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページにある「位置 (Position)」セクションの「組段幅に合わせてコード記号を整列 (Align chord symbols across width of system)」をオフにします。

#### 関連リンク

[浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(571 ページ\)](#)

[コード記号を表示する譜表を変更する \(584 ページ\)](#)

[コード記号を表示するレイアウトの変更 \(584 ページ\)](#)

## コード記号の位置を移動する

コード記号の位置は、あとから移動できます。

### 手順

1. 記譜モードで、移動するコード記号を選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるコード記号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従いコード記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - コード記号をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。

### 結果

選択したコード記号が新しい位置に移動します。

#### 補足

コード記号はそれぞれの位置に1つしか存在できません。コード記号が移動する際に他のコード記号の上を通過した場合、そこにあったコード記号は削除されます。

この操作は元に戻すことができますが、削除したコード記号を復元できるのはキーボードを使用してコード記号を移動した場合のみです。

## コード記号の表示位置の変更

コード記号の表示位置は、対応する拍に影響することなく個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、位置を変更するコード記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

### 結果

選択したコード記号の表示位置が対応する拍に影響することなく変更されます。

#### ヒント

コード記号を移動すると、プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループにある「開始オフセット (Start offset)」が自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」の「X」の値を変更すると、コード記号の水平位置が変更されます。

- 「開始オフセット (Start offset)」の「Y」の値を変更すると、コード記号の垂直位置が変更されます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、コード記号の表示位置を移動することもできます。

プロパティをオフにすると、選択したコード記号が初期設定の位置にリセットされます。

---

## コード記号を表示する譜表を変更する

譜表にコード記号を表示するプレーヤーを変更できます。初期設定では、コード記号はキーボード、ギター、ベースギターなどリズムセクションのインストゥルメントに属する譜表の上に表示されます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、コード記号の表示/非表示を切り替えるプレーヤーを選択します。
  2. プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**すべてのインストゥルメントに表示 (Show For All Instruments)**」  
選択したプレーヤーの譜表の上にコード記号が表示されます。
    - 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**リズムセクションのインストゥルメントに表示 (Show For Rhythm Section Instruments)**」  
選択したプレーヤーがリズムセクションのインストゥルメントであれば、その譜表の上にコード記号が表示されます。
    - 「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**すべてのインストゥルメントに非表示 (Hide For All Instruments)**」  
選択したプレーヤーの譜表の上にコード記号は表示されません。
- 

### 結果

選択したプレーヤーの譜表の上に、コード記号が表示されるか非表示にされます。たとえば、「**すべてのインストゥルメントに表示 (Show For All Instruments)**」を選択した場合、コード記号を表示させるプロジェクトのレイアウトに応じて、フルスコアおよび対応するパートレイアウトの選択したプレーヤーの譜表にコード記号が表示されます。

### ヒント

コード記号をピアノなどの大譜表インストゥルメントの2つの譜表の間に表示させる場合、これは「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある「**位置 (Position)**」セクションで選択できます。

---

## コード記号を表示するレイアウトの変更

どのレイアウトにコード記号を表示するかを変更できます。初期設定では、コード記号はリズムセクションのインストゥルメントに対して、フルスコアレイアウトとパートレイアウトの両方に表示されません。

### 補足

現在のレイアウトのどのインストゥルメントにもコード記号が表示されない設定になっている場合、一番上の譜表の上にガイドが表示されます。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーを選択します。



2. プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「コード記号 (Chord Symbols)」>「フルスコアとパートに表示 (Show in Full Score and Parts)」  
選択したプレーヤーを含むすべてのレイアウトの、選択したプレーヤーの譜表の上にコード記号が表示されます。
  - 「コード記号 (Chord Symbols)」>「フルスコアにのみ表示 (Show in Full Score Only)」  
フルスコアレイアウトの選択したプレーヤーの譜表の上だけにコード記号が表示されず (パートレイアウトには表示されません)。
  - 「コード記号 (Chord Symbols)」>「パートにのみ表示 (Show in Parts Only)」  
パートレイアウトの選択したプレーヤーの譜表の上だけにコード記号が表示されます (フルスコアレイアウトには表示されません)。

## コード記号の異名同音の表記を変更する

移調楽器のコード記号の表記を変更することで、異名同音の表記のシンプルな方を選択したりできます。これは、移調が同じすべてのレイアウトでコード記号の異名同音の表記を変更します。

### 手順

1. 記譜モードで、コード記号の表記を変更する移調を持つレイアウトを開きます。
2. 表記を変更するコード記号を選択します。
3. **[Return]** を押して、選択したコード記号のコード記号ポップオーバーを開きます。  
ポップオーバーにはコード記号に対応したテキストがすでに入力されています。
4. コードのルート名を変更します。クオリティー、音程、オルタレーションなどの詳細はそのままにします。  
たとえば、Dbmaj13 のルート名のみを変更する場合は、Db を C# に変更します。

### 結果

移調が同じすべての楽器のコード記号の表記が変更されます。たとえば、B $\flat$  クラリネットのコード記号の表記を変更すると、B $\flat$  トランペットのレイアウトのコード記号の表記も変更されます。

## コード記号をモードとして表示する

個々のコード記号を、対応するモードが存在する場合にモードとして表示できます。

### 手順

1. モードとして表示するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「モードで表示 (Show as mode)」をオンにします。
3. メニューから目的のコードを選択します。

### 結果

選択したコード記号の表記が、選択したモードに従って変更されます。これにより、コード記号に含まれる音符は影響を受けません。

## コード記号の異名同音の表記をリセットする

コード記号に上書きされた異名同音の表記を削除できます。上書きの削除は、現在のインストゥルメントのみに対しても、またはコード記号が適用されたすべてのインストゥルメントに対しても行なえます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、表記を変更するコード記号を選択します。
  2. **[Return]** を押して、選択したコード記号のコード記号ポップオーバーを開きます。ポップオーバーにはコード記号に対応したテキストがすでに入力されています。
  3. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号の異名同音をリセットします。
    - 上にポップオーバーが表示されているインストゥルメントのコード記号に上書きされた異名同音の表記を削除するには、コード記号のポップオーバーに **[Alt]+[S]** と入力します。
    - すべてのインストゥルメントのコード記号に上書きされた異名同音の表記をすべて削除するには、ポップオーバーに **[Shift]+[Alt]+[S]** と入力します。
- 

## MusicXML ファイルから読み込まれたコード記号

コード記号は、MusicXML ファイルから読み込むことができます。ただし、要素の種類として Neapolitan、Italian、French、German、Pedal、Tristan、および Other の値を指定しているコードは読み込まれません。なぜなら、これらのコード記号が表わしている音符を指定する情報がないためです。

# 音部記号

音部記号は、各組段の開始位置にあつて譜表上の音符にコンテキストを付与する記号です。つまり、音部記号は譜表のそれぞれの線および間に音階のどの音が当てはまるのかを伝えます。

たとえば、高音部記号は“ト音記号”とも呼ばれますが、これは中央のらせん形の中心がGの音に重なっているからです。これは通常ミドルCの1つ上のGです。



その他の一般的な音部記号には以下があります。

- バス記号 (ヘ音記号) では、2つの点がFの音に対応する線の両側に記されます。これは通常ミドルCの1つ下のFです。  
ミドルCは、ト音記号では譜表の下の1つめの加線、ヘ音記号では譜表の上の1つめの加線を使用します。
- ハ音記号は、太い垂直線とその右側の括弧状の曲線で構成され、曲線の中央がC (通常はミドルC) に対応する線上に配置されます。

現在、ハ音記号は一般的に譜表上の2つの位置で使用されます。

- 譜表の第3線に配置されるものは、一般的にアルト記号と呼ばれます。
- 譜表の第4線に配置されるものは、一般的にテノール記号と呼ばれます。

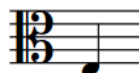
これらの音部記号は、必要な加線の数を最小化するため、対象とする楽器の音域を合わせるのに使用されます。



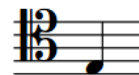
ト音記号で表示するミドルCの下のE



バス記号で表示するミドルCの下のE



ハ音 (アルト) 記号で表示するミドルCの下のE



ハ音 (テナー) 記号で表示するミドルCの下のE

Dorico Pro では、音部記号とオクターブ線はどちらも、ウィンドウ右側の音部記号パネルに収められています。パネルのうち3つのセクションは音部記号のもので、

- 「**一般的な音部記号 (Common Clefs)**」には、ト音記号、バス記号、アルト記号、テノール記号などが含まれます。
- 「**その他の音部記号 (Uncommon Clefs)**」には、タブ記号、小バイオリン記号、ト音記号1オクターブ上、ト音記号1オクターブ下などが含まれます。
- 「**古楽の音部記号 (Archaic Clefs)**」には、バリトンバス記号、メゾソプラノ記号、ソプラノ記号などが含まれ、これらは今は一般的には使用されません。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(222 ページ\)](#)

## 音部記号の一般的な配置規則

音部記号はすべての組段の開始位置に配置され、譜表の開始位置と音部記号の左端の間に小さい間隔が空けられます。譜表に記された音符のピッチを表わすため、音部記号の垂直の位置は正確である必要があります。

楽譜の途中にある音部変更記号は、通常、各組段の開始位置に表示される音部記号より小さく表示されます。音部記号の変更が新しい組段またはページの開始位置から行なわれる場合、演奏者に変更を知らせるために、直前の組段の終了位置に親切音部記号が配置されます。

音部変更記号は、できるだけタイのつながりの途中には配置しないようにします。音部の変更はタイでつながれた音符の譜表上の位置を変えてしまうため、演奏者がタイをスラーと読み違えて異なる2音を演奏してしまうことが容易に起こり得ます。Dorico Pro ではタイのつながりの途中に音部変更記号を配置することはできませんが、音部変更記号はタイのつながりの前後に配置することをおすすめします。

関連リンク

[タイのつながり](#) (978 ページ)

[音部記号とオクターブ線の入力方法](#) (222 ページ)

## プロジェクト全体における音部の間隔のスペーシング

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページでは、音部記号も含めたすべてのオブジェクトの最小間隔を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

以下に挙げる最小値は、音部記号に直接関係します。

- 小節線から音部記号、調号記号、または拍子記号の前までの間隔 (Gap after barline before clef, key or time signature)
- 最初の音部記号の後の間隔 (Gap after initial clef)
- 音部記号、ナチュラル、または音符/小節線の前に付く装飾記号の左側の間隔 (Gap to the left of clef, cancellation naturals or grace notes before note or barline)
- 音部記号変更後の間隔 (Gap after clef change)

その他の値は、音部記号の位置にも影響を及ぼす場合がありますが、それ以外のオブジェクトにも影響するものです。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (302 ページ)

## 音部記号の位置の移動

音部記号は入力後に別の位置へ移動できます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」で、間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更することにより、音符や小節線に対する音部記号のデフォルト位置を変更できます。

手順

1. 記譜モードで、移動する音部記号を選択します。

#### 補足

- フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に表示される音部記号は選択できません。
- マウスを使用する場合、一度に移動できる音部記号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従い音部記号を移動します。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
- 音部記号をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。

#### 結果

選択した音部記号が新しい位置に移動します。これは新しい位置から次の音部記号がある位置、またはフローの終わりのいずれかに至るまで効果を及ぼします。

#### 補足

- 音部記号は譜表に沿ってしか移動できません。譜表をまたいで音部記号を移動させる場合は、この音部記号をいったん削除してから新しい音部記号を別の譜表に入力します。
- 同じ位置に2つ以上の音部記号は存在できません。音部記号が移動する際に他の音部記号の上を通過した場合、そこにあった音部記号は削除されます。

この動作内容は元に戻せますが、この過程で削除された音部記号が復元されるのは、音部記号の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

#### 関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(222 ページ\)](#)

## 音部記号の表示位置の移動

個々の音部記号の表示位置を、他のアイテムの位置に影響を与えず変更できます。

#### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 移動させる音部記号の上の四角いハンドルを選択します。



音部記号の横に丸いハンドルが表示されます。

3. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

#### 補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

音部記号の表示位置が左右に移動します。この際、同じ位置にある他のアイテムには影響しません。

#### ヒント

またプロパティパネルの「**音部記号 (Clefs)**」グループにある「**スペーシングのオフセット (Spacing offset)**」を変更することで、音部記号を水平に移動できます。ただしこれは、音部記号周辺の全体的な音符のスペーシングに影響を与えます。

プロパティパネルの「**音部記号 (Clefs)**」グループにある「**スペーシングのオフセット (Spacing offset)**」プロパティは、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオンになっているときは使用できません。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング](#) (385 ページ)

## 音部記号の削除

音符のピッチに影響を与えずに音部記号を削除できます。音符譜表の先の位置にある音部記号に従い、音符は自動的に書き換えられます。

#### 補足

フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に表示される音部記号は削除できません。譜表に一切の音部記号を表示させない場合は、非表示の記号を入力できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、削除する音部記号を選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択した音部記号が削除されます。譜表上の音符は、先の位置にある音部記号に従い、次に存在する音部記号またはフローの終わりまで書き換えられます。

#### 関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法](#) (222 ページ)

## 音部記号の変更におけるデフォルトのサイズ

プロジェクト全体に対し、すべての音部記号の変更におけるデフォルトの倍率を変更できます。

デフォルトの「**音部記号の変更倍率 (Clef change scale factor)**」は 2/3 です。音部記号の変更におけるデフォルトのサイズの変更は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音部記号 (Clefs)**」ページで行なえます。

倍率を大きくすると音部記号の変更の表示が大きくなり、倍率を小さくすると音部記号の変更の表示が小さくなります。これは各組段の開始位置にある音部記号のサイズには影響しません。

入力できる最小の倍率は 1/8 です。最大値に制限はありません。ただし、たとえば倍率を 30 倍以上にすると、1 つの音部記号が A4 1 ページの面積のほとんどを占めてしまいます。

## 装飾音符に対する音部記号の位置を変更する

初期設定では、音部記号は音符とその装飾音符の間には配置されません。Dorico Pro は音部記号を自動的に正しい位置に配置し、入力内容によっては位置を修正します。ただし、状況によっては音部記号を音符とその装飾音符の間に配置することが必要な場合もあります。

### 手順

1. 位置を変更する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef Position)」 > 「装飾音符の後 (After Grace Notes)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

音部記号が音符とその装飾音符の間に配置されます。

### 補足

装飾音符に対する音部記号の位置をリセットするには、位置を元に戻す音部記号を選択して「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef Position)」 > 「音部記号の位置をリセット (Reset Clef Position)」をクリックします。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

## 実音と移調音で異なる音部記号を設定する

音部変更記号には、実音レイアウトと移調音レイアウトで異なる音部記号を表示するよう設定できます。たとえば、バスクラリネットの譜表における音部変更記号を、パートレイアウトではト音記号で表示しつつ、フルスコアレイアウトではバス記号で表示するといったことができます。

### 補足

- これはユーザーが入力した音部記号のみに該当します。最初の音部記号や各組段の開始位置に自動的に表示される音部記号は選択できないため、設定もできません。
- Dorico Pro では、多くのインストゥルメントが初期設定で、フルスコアレイアウトとパートレイアウトにそれぞれ異なる音部記号を表示します。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントタイプを選択できます。

### 手順

1. 実音または移調音のレイアウトにおける表示を変更する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択した音部記号の実音レイアウトにおける表示を変更するには、「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef)」 > 「実音 (Concert Pitch)」 > [音部記号] を選択します。
  - 選択した音部記号の移調音レイアウトにおける表示を変更するには、「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef)」 > 「移調音 (Transposed Pitch)」 > [音部記号] を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した音部記号の実音/移調音いずれかに対応する側のレイアウトにおける表示が変更されます。これは次の既存の音部変更記号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されません。

#### 補足

音部変更記号はすべてのレイアウトに表示されます。音部変更記号を1つのレイアウトだけに表示することはできません。

---

#### 関連リンク

[移調楽器](#) (106 ページ)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加](#) (107 ページ)

[インストゥルメントの変更](#) (109 ページ)

[インストゥルメントピッカー](#) (87 ページ)

## 音部記号の移調

音部記号の移調は、記譜された音域とは別の音域で演奏することを示します。音部記号の上の数字は、音符が記譜の内容よりも高い音域で演奏されることを示し、音部記号の下の数字は、音符が記譜の内容よりも低い音域で演奏されることを示します。

これらの音部記号の中では、唯一1オクターブ下のト音記号がテノールボーカルパート用として今も一般的に使用されています。



#### 関連リンク

[移調楽器](#) (106 ページ)

[レイアウトの移調/非移調の設定](#) (126 ページ)

[実音と移調音](#) (127 ページ)

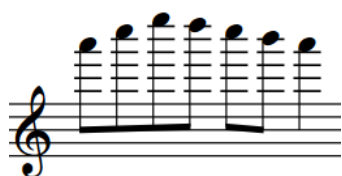


# オクターブ線

オクターブ線は、音符がスコアまたはパートに表示されるよりも高い、または低いピッチで演奏されることを示します。

オクターブ線は破線または点線による水平線で、開始位置に斜体の数字が記されています。数字はフレーズのピッチが変更される数を示し、たとえば1オクターブは8、2オクターブは15となります。

オクターブ線は、記譜よりも高いピッチの演奏を示す場合は譜表の上に、記譜よりも低いピッチの演奏を示す場合は譜表の下に配置されます。



そのままのピッチで演奏されるト音記号のフレーズ



1オクターブ上のオクターブ線が付いたト音記号のフレーズ



2オクターブ上のオクターブ線が付いたト音記号のフレーズ



そのままのピッチで演奏されるバス記号のフレーズ



1オクターブ下のオクターブ線が付いたバス記号のフレーズ



2オクターブ下のオクターブ線が付いたバス記号のフレーズ

Dorico Pro では、オクターブ線が付いているとピッチが自動的に調整されます。線の中にある音符の音域を変更する必要はありません。

オクターブ線は数個の音符、1つのフレーズ、または複数のフレーズのうちいずれにも使用できますが、楽譜の流れを混乱させるものであってはなりません。オクターブ線の使いすぎや不適切な部分への使用は、元のメロディーの形を見えにくくしてしまいます。しかしオクターブ線を丁寧に使用すれば、加線の使用が減り、楽譜が演奏者に一目で読みやすいものになります。



ピッチ差の大きいフレーズにオクターブ線を使用しない例



同じフレーズにオクターブ線をつけすぎて、フレーズの全体的な形状が歪められている例



同じフレーズに、加線を減らすためにオクターブ線を2つだけ付けた例  
フレーズの全体的な形状は変わりません。

楽器に対し適切であればフレーズ全体に異なる音部記号を使用するか、またはフレーズ全体にオクターブ線を入れて形状と音域が演奏者に明確に伝わるようにするのが一般的にはベストです。

オクターブ線は水平に伸び、垂直方向のスペースを大きく占めることがあるため、通常は他のすべての記譜記号より外側に配置されます。ただし、スラーや連符の角括弧がオクターブ線より長い場合は、オクターブ線をその内側に配置できます。

オクターブ線は組段やページの区切りをまたいで続く場合もあります。慣例としては、組段の開始位置ごとに新たに数字を表示して、オクターブ線であることを分かりやすくします。親切オクターブ線番号は通常括弧が付き、必要に応じて末尾テキストが選択できます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(222 ページ\)](#)

## 浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページで、オクターブ線の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、延長線や延長ラベルの外観、オクターブ線の開始位置の数字、臨時記号や符頭に対するオクターブ線の位置、および譜表に対する配置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## オクターブ線の長さを変更する

オクターブ線は入力後に長さを変更できます。

手順

1. 記譜モードで長さを変更するオクターブ線を選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるオクターブ線は1本だけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオクターブ線の長さを変更します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt]+[←]** を押します。
  - 1本のオクターブ線の終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。
  - 1本のオクターブ線の終端を前の符頭までスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←]** を押します。

### 補足

- 複数のオクターブ線が選択されている場合は、現在のリズムグリッド値による長さの変更だけが行なえます。
  - キーボードを使用しているときは、オクターブ線の終端しか動かせません。オクターブ線の始端は、オクターブ線全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
- 
- 1本のオクターブ線の開始位置または終了位置にある丸いハンドルをクリックして、左右の符頭に向けてドラッグします。

#### 結果

オクターブ線1つの長さが、現在のリズムグリッド値または前後の符頭に従い変更されます。  
複数のオクターブ線の長さが、現在のリズムグリッド値に従い変更されます。

## オクターブ線の角度の変更

オクターブ線の角度を複数の位置で変更できます。これによりたとえば、ピッチ差の大きいフレーズに沿うようにオクターブ線にコーナーを追加して、垂直方向のスペースを節約できます。

#### 手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。

- オクターブ線の範囲内の、単一のコーナーを追加する位置にある個々の音符/和音。

#### 補足

オクターブ線の破線がゆがむ場合があるため、隣接する音符を選択することはおすすめしません。

- オクターブ線に角度を付ける範囲にまたがる偶数個の隣接する音符。

2. 以下のいずれかの方法で角度を変更します。

- 選択した各音符の位置に単一のコーナーを追加する場合は、「編集 (Edit)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「コーナーを追加 (Add Corner)」を選択します。
- 選択した音符の範囲でオクターブ線に角度を付ける場合は、「編集 (Edit)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「角度をつける (Make Angled)」を選択します。

#### ヒント

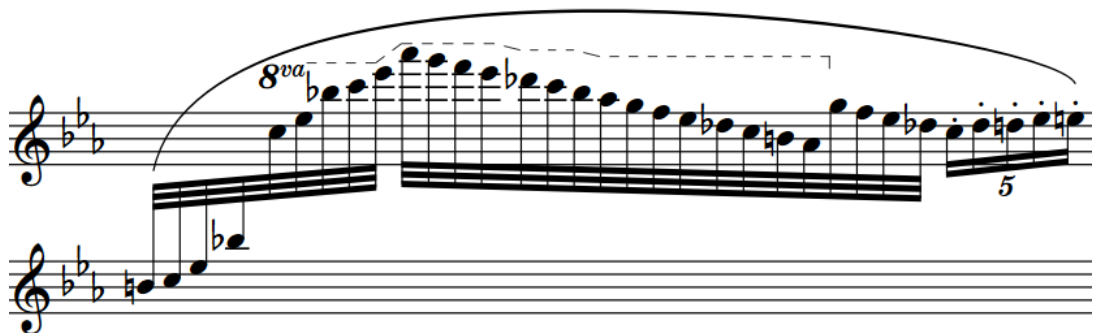
このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

個々の音符にコーナーを追加した場合は、Dorico Pro は各選択位置における譜表から最も遠い音符を前の音符/和音の高さと比較して、適切な角度のコーナーを追加します。

選択した音符の範囲でオクターブ線に角度を付けた場合、Dorico Pro は選択した範囲の高さの変化に合うように、オクターブ線の角度を調整します。

#### 例



スラーの下にコンパクトに収まった、複数のコーナーを持つオクターブ線

## オクターブ線の角度のリセット

オクターブ線の角度とコーナーをリセットして、1本の水平線に戻せます。

---

### 手順

1. オクターブ線の範囲内の、リセットする角度/コーナーの位置の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. 「編集 (Edit)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「コーナー/角度を削除 (Remove Corner/Angle)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 

### 結果

選択した音符の上/下のオクターブ線の角度およびコーナーがリセットされます。これは、同じオクターブ線の選択されていない音符の上/下の角度には影響しません。

## オクターブ線の位置

初期設定では、記譜上の音符より高いピッチの演奏を示す場合にはオクターブ線は譜表の上に、記譜上の音符より低いピッチの演奏を示す場合には譜表の下に配置されます。

オクターブ線の位置は記譜モードで移動できます。これらは「浄書オプション (Engraving Options)」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

オクターブ線の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置はこれによって変更されません。

プロジェクト全体のすべてのオクターブ線のデフォルト位置は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「オクターブ線 (Octave Lines)」ページで変更できます。

### 関連リンク

[浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する \(594 ページ\)](#)  
[タッキングインデックスのプロパティ \(600 ページ\)](#)

## オクターブ線の位置の移動

オクターブ線の位置は入力後に移動できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、移動するオクターブ線を選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるオクターブ線は1つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、全体のデュレーションを維持したまま、オクターブ線を譜表上の次または前の符頭の位置に移動します。
    - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
    - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
    - オクターブ線をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。
- 

### 結果

オクターブ線が譜表に沿って右または左の符頭に移動します。オクターブ線は更新された位置の音符に適用されています。オクターブ線が移動する際に他のオクターブ線の上を通過した場合、オクターブ線は複数が同じ位置に存在できるため、そこにあったオクターブ線に影響はありません。

#### 補足

オクターブ線は譜表に沿ってしか移動できません。譜表をまたいでオクターブ線を移動させる場合は、オクターブ線をいったん削除してから新しいオクターブ線を別の譜表に入力します。

#### 関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(222 ページ\)](#)

## オクターブ線の表示位置の移動

オクターブ線の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。オクターブ線の終端は個別に移動でき、これはオクターブ線個別の表示上の長さも調節できることを意味します。

#### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- オクターブ線全体
- オクターブ線の開始位置または終了位置のハンドル

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、オクターブ線またはハンドルを移動させます。

- オクターブ線またはハンドルを右に移動するには、**[Alt]+[→]** を押します。
- オクターブ線またはハンドルを左に移動するには、**[Alt]+[←]** を押します。
- オクターブ線またはハンドルを上に移すには、**[Alt]+[↑]** を押します。
- オクターブ線またはハンドルを下に移すには、**[Alt]+[↓]** を押します。

#### 補足

オクターブ線終了位置のハンドルは上下には動かさず、左右にしか移動できません。

オクターブ線の開始位置のハンドルは上下に移動できますが、これは同時にオクターブ線全体を移動させます。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- オクターブ線全体をクリックして上下にドラッグします。
- オクターブ線のハンドルをクリックして、左右にドラッグします。

#### 結果

選択したオクターブ線またはハンドルの移動により、表示位置が更新されます。

#### ヒント

オクターブ線の位置を移動すると、プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- **開始 X オフセット (Start X offset)**: オクターブ線の開始位置を水平に移動します。
- **終了 X オフセット (Start X offset)**: オクターブ線の終了位置のフックを水平に移動します。
- **Y オフセット (Y offset)**: オクターブ線全体を垂直に移動します。

たとえば、オクターブ線全体を右に移動した場合、両方のハンドルが移動するため、「**開始 X オフセット (Start X offset)**」と「**終了 X オフセット (End X offset)**」がオンになります。3 つすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、オクターブ線を移動したり、長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択したオクターブ線がデフォルトの位置に戻ります。

---

## オクターブ線の数字の配置を音符に対して個別に変更する

個々のオクターブ線が適用される範囲の最初の音符に揃える位置を、オクターブ線の数字の左端、中央、右端から選んで変更できます。

---

### 手順

1. 数字の音符に対する配置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループで、「**L 整列 (L alignment)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **左 (Left)**
    - **中央 (Center)**
    - **右 (Right)**
- 

### 結果

選択したオクターブ線の数字の配置が変更されます。たとえば「**右 (Right)**」を選択した場合、選択したオクターブ線の数字の右端が、オクターブ線が適用される範囲の最初の符頭に揃えられます。

---

## オクターブ線の数字の配置を臨時記号に対して個別に変更する

プロジェクト全体の設定より優先される形で、それぞれのオクターブ線の開始位置にある数字の配置を、符頭の上または臨時記号の上に変更できます。

---

### 手順

1. 数字の臨時記号に対する配置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループで、「**L 位置 (L position)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **符頭 (Notehead)**
    - **臨時記号 (Accidental)**
- 

### 結果

選択したオクターブ線の数字の配置が変更されます。たとえば「**臨時記号 (Accidental)**」を選択した場合、オクターブ線の数字が、オクターブ線が適用される範囲の最初の符頭に付く臨時記号に揃って整列されます。

---

### ヒント

オクターブ線の数字のデフォルトの配置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページにある「**水平位置 (Horizontal Position)**」セクションで設定を行ないます。

---

関連リンク

[浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する \(594 ページ\)](#)

## 譜表に対するオクターブ線の位置を個別に変更する

個々のオクターブ線が譜表のどちら側に表示されるか変更できます。

手順

1. 譜表に対する位置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「オクターブ線 (Octave Lines)」グループで、「位置 (Placement)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

結果

選択したオクターブ線が譜表の上または下に表示されます。

## オクターブ線の削除

音符や他のアイテムは削除せずに、オクターブ線だけを削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除するオクターブ線を選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

結果

選択したオクターブ線が削除されます。削除されたオクターブ線が適用されていた音符は、レイアウトの現在の設定に従い、実音または移調音のいずれかで表示されます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(222 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(126 ページ\)](#)

## 浄書モードのオクターブ線

浄書モードでは、オクターブ線には3つの四角いハンドルが付いています。これらのハンドルを動かすことで、オクターブ線の始端および終端の表示位置の移動、およびオクターブ線のフックの長さの変更が行なえます。



浄書モードのオクターブ線

- 開始位置のハンドルは、オクターブ線始端の表示位置を移動させます。このハンドルは左右に動かせます。

補足

キーボードを使用しているときは、このハンドルを上下にも移動できます。これはオクターブ線全体を移動させます。

- 終了位置上部のハンドルは、オクターブ線終端の表示位置を移動させます。このハンドルは左右に動かせます。
- 終了位置下部のハンドルは、フックの長さを変更します。このハンドルは上下に動かせます。

## オクターブ線のフックの長さを個別に変更する

個々のオクターブ線のフックの長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、フックの長さを変更するオクターブ線のフックのハンドルを選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

---

### 結果

選択したオクターブ線のフックの長さが変更されます。

#### ヒント

- オクターブ線のフックを移動すると、プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループにある「**フックの長さ (Hook length)**」が自動的にオンになります。このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、オクターブ線のフックの長さを変更できます。  
プロパティをオフにすると、選択したオクターブ線が初期設定のフックの長さのリセットされます。
- 「**オクターブ線のフックの長さ (Octave line hook length)**」の値を変更すると、すべてのオクターブ線のデフォルトのフックの長さをプロジェクト全体で変更できます。このオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページの「**外観 (Appearance)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして表示できます。

## タッキングインデックスのプロパティ

記譜記号のタッキングインデックスは、複数の記譜記号が同じ位置に存在する場合に、垂直スタッキングの順番における他の記譜記号に対する位置を決定します。

出版された楽譜のほとんどにおいて、アイテムが記譜される相互の順番は一定となっています。Dorico Pro は一般的な表記規則を使用して、記譜記号の位置や配置を自動的に決定します。たとえば、スラーと連符の角括弧が同じ位置に存在する場合、Dorico Pro はそれぞれの長さを比較して配置を決定します。スラーが連符の角括弧より長い場合、スラーは連符の角括弧より外側に配置されます。連符の角括弧がスラーより長い場合、スラーは連符の角括弧より内側に配置されます。



ただし、アーティキュレーション、スラー、連符およびオクターブ線の順番と配置に関するルールは、それぞれの長さや音楽的な状況により、多くの変化や例外を生じます。そのため、特定の状況における配置の順番は、自動生成された順番を上書きして手動で変更できます。

この柔軟性を可能とするために、スラー、オクターブ線および連符にはすべて、プロパティパネルのそれぞれ対応するグループ内に「**タッキングインデックス (Tucking index)**」プロパティが用意されています。

#### 補足

アーティキュレーションは、スタックの順番を算出するには上記の記譜記号と同様に考慮されますが、タッキングインデックスのプロパティは持ちません。

「**タッキングインデックス (Tucking index)**」が0である場合、アイテムは音符の1番近くに配置されます。数字が大きくなるほど、アイテムはスタックの順番の中で音符から離れた位置に配置されます。

## オクターブ線の垂直スタックの順番を変更する

個々のオクターブ線のタッキングインデックス値を変更して、垂直スタック内での他のオブジェクトに対する位置を変更できます。

慣例に従い、オクターブ線は他のすべてのオブジェクトより外側に配置されますが、他のオブジェクトの内側に入る状況もあります。たとえばスラーがオクターブ線より長い場合、オクターブ線はスラーの内側に入ります。

#### 手順

1. 浄書モードで、垂直スタック内の位置を変更するオクターブ線を選択します。
2. プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループで、「**タッキングインデックス (Tucking index)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。  
0ではアイテムが音符に1番近い位置に配置されます。数字が大きくなるほど、アイテムはスタックの順番の中で音符から離れた位置に配置されます。

#### 結果

選択したオクターブ線の垂直スタックの順番の中での位置が変更されます。

# キュー

キューとは、インストゥルメントのパートに異なるプレーヤーが演奏する楽譜のパスセージが表示されるもので、通常は長い休止に続く演奏部分やソロの前に、演奏を開始する時点をプレーヤーに示すためのものです。

キューはまた、プレーヤー間の協調や音程合わせの補助や、プレーヤーによって別のパートの演奏を求める内容の指示にも使用されます。

Dorico Pro では、キューのポップオーバーを使用して簡単に正しい形式のキューを入力できます。キューは自動的に新規の声部に入力され、キューを読むプレーヤーがその音符を演奏しないことを必ず理解できるように、小節休符を伴って表示されます。キューには音部記号が、復帰のための音部記号も含めて、必要に応じて自動的に入力されます。



バイオリンパートに1番ファゴットパートからの楽譜を表示するキュー

Dorico Pro では動的なキューが参照元の内容にリンクされており、元の内容が変更されるとリアルタイムでキューが更新されます。

キューの中にその楽譜が引用されるインストゥルメントは、元インストゥルメントと呼ばれます。他のインストゥルメントからのキューが書き込まれるパートのインストゥルメントは、出力先インストゥルメントと呼ばれます。

## 関連リンク

[キューの入力 \(271 ページ\)](#)

[キューの内容 \(608 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[特定のポイントから音符のスペーシングを変更する \(389 ページ\)](#)

[キューの表示オプション \(618 ページ\)](#)

## キューの配置と記譜に関する一般的な表記規則

キューは通常、パスセージの開始位置に元インストゥルメントの名前を伴い、標準の音符より小さい音符を使用して記譜されます。

キューの上か下には縮小なしの休符を配置して、キューを読むプレーヤーがその音符を演奏しないことを強調するのが一般的です。

元インストゥルメントに存在する記譜記号の一部は、キューでは省略される場合があります。ただし、スラー、アーティキュレーションおよび強弱記号は、プレーヤーがキューに目を通す際にパスセージを識別しやすくなるが多いため、通常はキューに表示されます。

キューの元インストゥルメントの音域およびキューのパスセージそれぞれの範囲によっては、キューの開始位置に音部変更記号が必要となる場合もあります。

関連リンク

[キューラベル \(609 ページ\)](#)

[キューの音部変更記号 \(616 ページ\)](#)

[キューの記譜記号 \(612 ページ\)](#)

[キューに表示される記譜記号を変更する \(612 ページ\)](#)

## リズムによるキュー

リズムによるキューは、元インストゥルメントのピッチの有無に関わらずそのリズムのみ表示し、初期設定では譜表の上に配置されます。初期設定では、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、リズムによるキューとして入力されます。

リズムによるキューは音部変更記号、臨時記号、および加線を表示しません。また、出力先がオクターブ移調インストゥルメントの場合でも、キューラベルにオクターブの移調は表示されません。デフォルト位置が譜表線の外側となっていることで、ピッチのある音符として読み違えることがなくなります。

既存のキューをリズムによるキューに変更することも、その逆も行なえます。これにより、ピッチのある元インストゥルメントによるキューはリズムのみ表示するようになります。これは、大規模なユニゾンや和音のあるビッグバンドの楽譜のように、複数のインストゥルメントが同時に同じリズムを演奏しつつピッチが異なる場合に有効です。この状況においては、グループのうち1つのインストゥルメントのピッチを表示することは、それが全体を代表するメロディーであると出力先インストゥルメントの演奏者に勘違いさせる恐れがあります。この場合はキューラベルを変更して、キューのリズムを演奏するインストゥルメント全体に関する情報を表示できます。

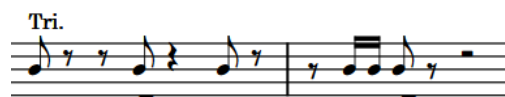
初期設定では、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、リズムによるキューとして入力されます。垂直方向のスペースを節約する場合は、これを無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューに変更できます。これによりキューは、初期設定では譜表の第3線に配置されるようになります。

リズムによるキューおよび無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表に対するデフォルトの位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページにある「**リズムによるキュー (Rhythmic Cues)**」および「**無音程楽器 (Unpitched Instruments)**」セクションで変更できます。

また、リズムによるキューや無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表に対する位置は、個別に変更もできます。



リズムによるキュー



無音程打楽器を元とするキュー

関連リンク

[キューラベルに表示されるテキストを個別に変更する \(610 ページ\)](#)

[無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を変更する \(604 ページ\)](#)

## 既存のキューをリズムによるキューに変換

キューは通常、特定のインストゥルメントが演奏する、ピッチのある楽譜を表示します。しかし、ピッチのある楽譜を表示する既存のキューは、元の楽譜のリズムしか表示しないリズムによるキューに変更できます。これは、たくさんのインストゥルメントが同じ特徴的なリズムと一緒に演奏するようなパッセージの表示に便利です。

手順

1. リズムによるキューに変更するキューを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

- プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「リズムによるキュー (Rhythmic cue)」をオンにします。

#### 結果

選択したキューがリズムによるキューとして表示されます。これは「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」ページの「リズムによるキュー (Rhythmic Cues)」セクションにある「譜表の上第 1 間からの距離 (Distance from space above staff)」の設定に従い、自動的に譜表の上に配置されます。

#### 補足

「リズムによるキュー (Rhythmic cue)」をオフにすると、選択したキューが標準のキューに戻ります。これには、自動的にリズムによるキューとして入力される、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューも含まれます。

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューにおいて「リズムによるキュー (Rhythmic cue)」をオフにした場合は、初期設定ではキューは譜表の第 3 線に配置されます。

#### 関連リンク

[キューの入力 \(271 ページ\)](#)

[キューラベルに表示されるテキストを個別に変更する \(610 ページ\)](#)

## リズムによるキューと譜表と間の距離を変更する

個々のリズムによるキューと譜表との間の距離は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 手順

- 譜表からの距離を変更するリズムによるキューのキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「距離 (Distance)」をオンにします。
- 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択したキューの位置が、新しい値によって変更されます。たとえば 0 と入力すると、リズムによるキューは譜表の第 5 線のすぐ上の間に配置されます。値を大きくするほど、リズムによるキューと譜表との距離は大きくなります。

#### ヒント

すべてのリズムによるキューと譜表第 5 線との距離のプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(608 ページ\)](#)

## 無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を変更する

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

初期設定では、リズムによるキューになっていない無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、譜表の第 3 線に配置されます。

#### 手順

1. 譜表上の位置を変更する無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューのキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「無音程音の位置 (Unpitched notes pos.)」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したキューの譜表上の位置が、新しい値によって変更されます。たとえば、0 は譜表の第3線、4 は譜表の第5線、-4 は譜表の第1線を意味します。

#### ヒント

すべての無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置のプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」ページで変更できます。

---

#### 例



譜表の第3線に配置された無音程のキュー (デフォルト) 譜表の高い位置に配置された無音程のキュー

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(608 ページ\)](#)

## キューのオクターブを変更する

出力先インストゥルメントの譜表に収まりがよくなるように、キューの表示されるオクターブを変更できます。これは、元インストゥルメントが出力先インストゥルメントとは大幅に異なるオクターブで演奏しているときに有効な場合があります。

---

#### 手順

1. 楽譜領域で、キューのオクターブを変更するレイアウトを開きます。
  2. オクターブを変更するキューを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  3. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「オクターブシフト (Octave shift)」をオンにします。
  4. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

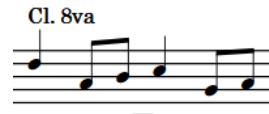
選択したキューのオクターブが変更されます。たとえば、1 のときはキューが1オクターブ上に移動し、-1 のときはキューが1オクターブ下に移動します。

オクターブの移調がキューラベルに表示されている場合、これは自動的に更新されます。

例



オクターブ変更がないキュー



オクターブ線 (上) が付いたキュー

## キューラベルのオクターブ 移調を表示/非表示にする

初期設定では、キューの表示オクターブを変化させると、キューラベルにオクターブの移調が表示されます。個々のキューラベルにおけるオクターブの移調の表示/非表示は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に切り替えられます。

手順

1. オクターブの移調を表示または非表示にするキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「オクターブ 移調を表示 (Show octave transposition)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

選択したキューラベルのチェックボックスがオンになっているときはオクターブの 移調が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、キューラベルはプロジェクト全体の設定に戻ります。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのキューラベルにおけるオクターブの 移調の表示/非表示は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」ページで切り替えられます。

関連リンク

[キューラベルに含まれる情報をプロジェクト全体で変更する \(609 ページ\)](#)

## キューの移動

キューは入力後に別の位置へ移動できます。これにより、元インストゥルメントの同じ位置にある内容を反映する形で、キューの表示内容が変化します。

手順

1. 記譜モードで、移動するキューを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるキューは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、全体のデュレーションを維持したままキューを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

- キューをクリックして左右にドラッグし、元インストゥルメントのリズムに従って移動します。
- 

#### 結果

1つのキューが選択されている場合、キューは元インストゥルメントのリズムに従って左右に移動します。

複数のキューが選択されている場合、キューは現在のリズムグリッド値に従って左右に移動します。

#### 関連リンク

[キューの重ね合わせ \(614 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(613 ページ\)](#)

## キューの長さの変更

キューの長さは、キューを入力したあとでも変更できます。これにより、元インストゥルメントの同じ位置にある内容を反映する形で、キューの表示内容が変化します。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、長さを変更するキューを選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるキューは1つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、キューの長さを変更します。

- 現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt]+[→]**を押します。
- 現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt]+[←]**を押します。
- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→]**を押して、1つのキューを元インストゥルメントの次の符頭まで伸ばします。
- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←]**を押して、1つのキューを元インストゥルメントの前の符頭まで縮めます。

#### 補足

- 複数のキューが選択されている場合は、キューの長さの変更は、現在のリズムグリッドの値によってのみ行なえます。
  - キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。
- 
- 1つのキューの開始位置または終了位置にある丸いハンドルをクリックして左右にドラッグします。
- 

#### 結果

選択したキューの長さが変更されます。

#### 補足

キューは同じ位置に複数存在できるため、他のキューに重なる位置まででも長さを変更できます。ただし、キューの符尾の方向の自動調整は行なわれないため、手動による変更が必要となる場合があります。

---

#### 関連リンク

[キューの重ね合わせ \(614 ページ\)](#)

[声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向を上書きする \(614 ページ\)](#)

[キューの移動 \(606 ページ\)](#)

## キューの削除

個々のキューは、元インストゥルメントや同じキューを表示する他インストゥルメントの対応する音符を削除することなく削除できます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 削除するキュー。
  - 現在のレイアウトに表示されていない削除するキューのガイド。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

### 結果

選択したキューが、影響されるインストゥルメントが含まれるすべてのレイアウトから削除されます。たとえば、ピアノパートのキューを削除すると、フルスコアレイアウトのピアノ譜表からも対応するキューが削除されます。

## 浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで、キューの外観、コンテンツおよび位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**キュー (Cues)**」ページのオプションを使用すると、キューのサイズ、外観、配置および詳細な位置を変更できます。また、すべてのキューに表示する記譜記号の決定、キューのデフォルトのスペーシングの設定、およびリズムによるキューや元インストゥルメントが無音程打楽器のキューの譜表に対するデフォルト位置の設定も行なえます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[既存のキューをリズムによるキューに変換 \(603 ページ\)](#)

[リズムによるキュー \(603 ページ\)](#)

## キューの内容

個々のキューにはレイアウトごとに異なる内容を表示できます。元インストゥルメントを含むレイアウトに変更を加えない限りは、それぞれ他のレイアウトに影響を与えることも、元の内容を変化させることもありません。

キューに含まれる音符は、元インストゥルメントの音符に動的にリンクされています。元の楽譜に変更を加えると自動的にキューに表示されますが、キューの中では音符のピッチやデュレーションを変更できません。これにより、元インストゥルメントが演奏する音符をキューが忠実に反映することが保証されます。

キューに含まれる楽譜は、元インストゥルメントの対応する楽譜に影響することなく表示内容を変更できます。たとえば、スラーの位置やグリッサンドの角度の調節、キュー内の符尾の長さの変更、および臨時記号の表記変更などが行なえます。また、すべてのレイアウトについて、および個別レイアウトの特定のポイントから、キューの音符のスペーシングの倍率を変更できます。

### 補足

キューの表示内容の変更はレイアウト固有のものとなります。たとえば、元インストゥルメントも含まれるフルスコアレイアウト中のキューに変更を加えた場合、キューへの変更は元インストゥルメント中の対応する内容とともに、レイアウト中の同じキューを使用する他のインストゥルメントにも影響を与



えます。一方、キューの出力先インストゥルメントしか含まれないパートレイアウトの中でキューに変更を加えた場合、元インストゥルメントのパートレイアウト内の対応する内容に影響はありません。

また浄書モードでは、キュー内の音符の異名同音の表記を変更できます。これは通常の音符における異名同音の変更と同じ手順となります。出力先インストゥルメントのパートレイアウト内のキューの音符の表記を変更しても、元インストゥルメントの音符の表記に影響はありません。たとえば、移調楽器レイアウトにおいて二重臨時記号を避けるために、キューの音符の異名同音の表記を変更できます。

#### 重要

元インストゥルメントを含むレイアウトでキューの音符の表記を変更した場合は、元インストゥルメントの異名同音の表記も同様に変更されます。

#### 関連リンク

[臨時記号の書き換え](#) (166 ページ)

[浄書モードのスラー](#) (889 ページ)

[符尾の長さを個別に変更する](#) (957 ページ)

[音符のスペーシング](#) (385 ページ)

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ](#) (390 ページ)

[特定のポイントから音符のスペーシングを変更する](#) (389 ページ)

## キューラベル

キューラベルは、通常は楽譜を引用した元インストゥルメントを示しますが、移調楽器の移調するピッチなど、その他の情報も表示できます。この情報により、アンサンブルのどこから音が出ているか、注意して聴くのはどの種類の音か、プレーヤーが特定できるようになります。

初期設定では、Dorico Pro のキューラベルは省略されたインストゥルメント名を使用し、インストゥルメントの移調は除外し、オクターブの移調は含め、プレーヤーがキューのあと演奏を開始する位置を示すキュー終端の追加ラベルは表示しません。ジャズのスコアでは、キューに伴う小節休符を表示しないのが慣例となっており、キュー終端に“Play”と表示する追加ラベルを使用する場合があります。また映画音楽でも、プレーヤーが場合によって演奏することを要求されるオプションとしてキューがパートに記されることが多く、キュー終端の追加ラベルが役に立つ場合があります。

Dorico Pro では、キューラベルに表示する情報やテキストは、プロジェクト全体および個別の設定どちらでも変更できます。

#### 補足

キューの開始位置または終了位置のキューラベルの表示/非表示を個別に設定する場合、プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループから以下のプロパティを使用できます。

- 「**開始テキスト (Start text)**」は、キューの開始位置にラベルを追加します。
- 「**終了テキスト (End text)**」は、キューの終了位置にラベルを追加します。

## キューラベルに含まれる情報をプロジェクト全体で変更する

キューラベルにテキストとして含まれる情報をプロジェクト全体で変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**キュー (Cues)**」をクリックします。
3. 「**キューラベル (Cue Labels)**」セクションで、以下のいずれかのオプションを変更します。
  - **ラベルに表示されるインストゥルメント名 (Instrument name in label)**
  - **インストゥルメントの音程または移調 (Instrument pitch or transposition)**

- オクターブの移調 (Octave transposition)
  - キュー終わりの追加ラベル (Additional label at end of cue)
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

キューラベルに含まれる情報がプロジェクト全体で変更されます。

#### ヒント

キューラベルは個別にも変更できます。たとえば、2つのインストゥルメントがユニゾンで演奏している場合、一方のインストゥルメント名が表示されているところを、両方表示するようにキューラベルを変更できます。

## キューラベルに表示されるテキストを個別に変更する

キューラベルに表示されるテキストを個別に上書きできます。たとえば、2つのインストゥルメントがユニゾンで演奏している場合、一方のインストゥルメント名が表示されているところを、両方表示するようにキューラベルを変更できます。

また、プロジェクト全体の設定が追加ラベルを表示しない設定になっている場合でも、個々のキューには終了位置に追加ラベルを表示できます。

#### 手順

1. テキストを上書きするキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 開始テキスト (Start text)
  - 終了テキスト (End text)
3. 対応するキューラベルに表示させるテキストを各フィールドに入力します。  
たとえば、バイオリン奏者2名が同じ譜面を1オクターブ間隔で演奏することを示す場合、「開始テキスト (Start text)」の値フィールドに「Vln.I & Vln.II coll'ottava」と入力します。
4. [Return] を押します。

#### 結果

選択したキューのキューラベルが、入力テキストを表示するように変更されます。

プロパティをオフにすると、選択したキューの対応するキューラベルが元のテキストに戻ります。

#### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

## 譜表に対するキューラベルの位置を個別に変更する

個々のキューラベルの譜表に対する位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 手順

1. 譜表に対する位置を変更するキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「位置 (Placement)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 上 (Above)
  - 下 (Below)
- 

#### 結果

選択したキューラベルが譜表の上下に表示されます。

#### ヒント

- 「位置 (Placement)」をオフにすると、選択したキューラベルがデフォルトの位置に戻ります。
  - すべてのキューラベルの譜表に対する位置のプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」ページで変更できます。
- 

## キューラベルの表示位置を移動する

キューラベルの表示位置は、キューの対応する拍に影響することなく個別に変更できます。キューの開始位置と終了位置のキューラベルは、それぞれ別個に移動できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するキューラベルを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、キューラベルを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

#### 結果

選択したキューラベルが新しい表示位置に移動します。

#### ヒント

キューラベルを移動すると、プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループにある「オフセット (Offset)」が自動的にオンになります。

- 「オフセット X (Offset X)」はキューラベルを水平に移動させます。
- 「オフセット Y (Offset Y)」は、キューラベルを垂直に移動させます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してキューラベルを移動させることもできます。同じプロパティを使用して、キュー開始位置と終了位置のキューラベルをそれぞれ別個に移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したキューラベルが初期設定の位置にリセットされます。

---

## キューの記譜記号

音楽的に意義の大きい記譜記号は、プレーヤーがキューの楽譜を容易に識別できるようになるため、元インストゥルメントから引用してキューに表示すると効果的です。ただし、情報過多でプレーヤーに負担をかけることを避けるため、キューには一部の記譜記号しか表示されません。

初期設定では、Dorico Pro は以下の記譜記号をキューに表示します。

- スラー
- アーティキュレーション
- 装飾音
- 演奏技法
- 歌詞 (ボーカルの楽譜の場合)

キューには強弱記号やテキストも表示できますが、キューの内容を特定するために通常は必要とされないため、初期設定ではこれらは表示されません。

### 補足

弦楽器プレーヤーのためのボウイング記号のように、元インストゥルメントにとってのみ重要な情報を示す演奏技法は、キューには表示されません。

演奏技法は、キューに表示するには、キュー内容の範囲内に入っている必要があります。たとえば、スラーをキューに表示するには、スラーの開始と終了がキューの範囲内に収まっている必要があります。

同様に、ピチカート記号がキューの第1音より先に入力されていた場合、これはキューに表示されません。しかし、弦楽器のピチカートのサウンドは弓で演奏した場合とは大きく異なるため、この情報が省略されると、キューを読むプレーヤーがこれを識別しづらくなる場合があります。

### 補足

重要な演奏技法がキュー内容の範囲内がない場合、この情報を対応するキューラベルに含めることをおすすめします。

### 関連リンク

[キューラベルに表示されるテキストを個別に変更する \(610 ページ\)](#)

## キューに表示される記譜記号を変更する

スラーや演奏技法など、個々のキューに表示する記譜記号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 手順

1. 表示する記譜記号を変更するキューのキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、選択したキューに表示する、または非表示にする記譜記号それぞれのプロパティをオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

チェックボックスをオンにすると対応する記譜記号がキューに表示され、チェックボックスをオフにすると非表示になります。

### 補足

- 弦楽器プレーヤーのためのボウイング記号のように、元インストゥルメントにとってのみ重要な情報を示す演奏技法は、キューには表示されません。

- すべてのキューに表示される記譜記号に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(608 ページ\)](#)

[キューラベルに表示されるテキストを個別に変更する \(610 ページ\)](#)

## レイアウト内のキューを表示/非表示にする

キューはどのレイアウトにでも入力できますが、通常はインストゥルメントパートでのみ表示されるものであるため、初期設定ではキューはフルスコアレイアウトに表示されません。キューを表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。

ページビューでは、初期設定ではフルスコアレイアウトにキューのガイドが表示されます。ギャラリービューでは、キューのガイドに加えてキュー元の楽譜が表示されます。

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、キューを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
- ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
- 「**キュー (Cues)**」セクションで、「**キューを表示 (Show cues)**」をオンまたはオフにします。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは、すべてのキューが表示され、オフになっているときは非表示になります。

キューが非表示のときは、その開始位置にガイドが表示されます。

#### 補足

- キューが表示されるレイアウトにおいては個々のキューを非表示にできますが、キューが非表示になっているレイアウトで個々のキューを表示させることはできません。
- キューのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**キュー (Cues)**」を選択して切り替えられます。メニュー内の「**キュー (Cues)**」の横にチェックマークがあるときはキューのガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

## 個別にキューを非表示にする

キューが表示されるレイアウトにおいては個々のキューを非表示にできますが、キューが非表示になっているレイアウトで個々のキューを表示させることはできません。

#### 手順

- 楽譜領域で、個別のキューを非表示にするレイアウトを開きます。
- 非表示にするキューを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンにします。

#### 結果

「非表示 (Hide)」をオンにすると、選択したキューが非表示になります。それぞれのキューの位置にはガイドが表示されるため、いつでも見つけられます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。「非表示 (Hide)」をオフにすると、選択したキューが再度表示されます。

## キューの符尾の方向

キューは通常1つだけの声部による旋律を取り上げることから、キューの音符は符尾の方向がすべて同じになるのが普通です。キューは初期設定では小節休符を伴って表示され、これはキューを読むプレーヤーがこの音符を演奏しないことを示しています。

キューが複声部による楽譜で構成される場合、元の音符の符尾の方向が使用されます。1つの声部によるキューにおいては、Dorico Pro はキュー内のピッチに従ってデフォルトの符尾の方向を決定します。キューの音符の大部分が譜表の第3線より下に位置する場合は符尾が下向きになり、キューの音符の大部分が譜表の第3線より上に位置する場合は符尾が上向きになります。

#### ヒント

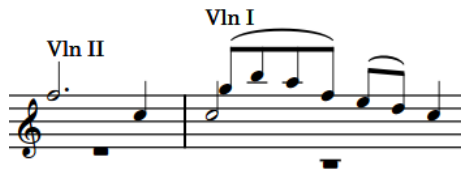
声部が1つのキューの音符の符尾の方向は、個別に上書きできます。

## キューの重ね合わせ

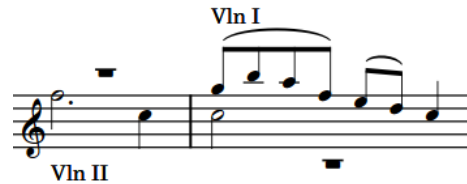
複数の連続するキューをプレーヤーに提示することで、音楽の流れを追いやすくなる場合があります。Dorico Pro は、キューの有用な情報を柔軟にプレーヤーに伝えるために、キューが重なり合うことを認めています。

ただし、キューが他のキューと同じ位置に存在する場合、それぞれの符尾の方向の自動調整は行なわれません。たとえば、Violin 1 から Violin 2 に受け渡されるメロディーを表示し、この2つのキューが重なり合う場合で、どちらのインストゥルメントも符尾が上向きに表示されるのがデフォルトである場合、キューは2つとも符尾が上向きの音符で表示されます。

キューの符尾の方向のデフォルトを個別に上書きして、重なり合うキューを読みやすくできます。



2つの重なり合うキューのデフォルトの符尾の方向



下向きになるよう上書きされた符尾の方向 (低い音符を持つ方のキュー)

## 声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向を上書きする

声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向は個別に上書きできます。

#### 手順

1. 楽譜領域で、選択したキューのデフォルトの符尾の方向を上書きするレイアウトを開きます。
2. 符尾の方向を変更するキューのキューラベルまたはキューのガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
3. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「声部の向き (Voice direction)」をオンにします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符尾を強制的に上向き (Force stems up)

- **符尾を強制的に下向き (Force stems down)**

#### 結果

選択したキューのすべての音符の符尾の方向が変更されます。

「**声部の向き (Voice direction)**」をオフにすると、選択したキューがデフォルトの符尾の方向に戻ります。

## キューのタイ

伸ばされた音符の途中でキューが始まる場合、キューの最初の音につながる形でタイが表示されます。同様に、伸ばされた音符の途中でキューが終わる場合、キューの最後の音から伸びる形でタイが表示されます。

単音のインストゥルメントの場合、これらのタイは通常初期設定で正しく配置されます。しかし、キューに和音が含まれるといった複雑なケースにおいては、これらのタイの配置に調整が必要となる場合があります。

キューの前後に付くタイの編集は、浄書モードで標準のタイと同じ手順で行なえます。

#### 関連リンク

[タイの位置や形状を個別に変更する \(983 ページ\)](#)

## キューの休符

小節の途中でキューが開始または終了する場合、キューは小節線または次の演奏される内容のいずれか先に来る方に至るまで、キューに合わせた大きさの休符で埋められます。これにより、キューのリズムが現在の拍子にどう当てはまるか、また既存の楽譜とどのような関係になるか、プレーヤーに明確に伝わります。

初期設定では、キューのパスページ全体に縮小なしの小節休符も表示されます。これにより、キューの音符を演奏者が演奏しないことが明確になります。

縮小なしの小節休符の配置は、キューの音符の符尾の方向に従い自動的に行なわれます。キューの音符の符尾が上向きの場合、小節休符はキューの音符の下に配置されます。キューの音符の符尾が下向きの場合、小節休符はキューの音符の上に配置されます。

キューに伴う小節線を表示しないことも選択できます。これは、一部のジャズスコアや、他のパートを演奏する場合のあるパスページとしてキューが表示されるスコアなどに適しています。

#### ヒント

プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**休符の位置 (Rest pos.)**」を使用して、縮小なしの小節休符の垂直位置を個別に調節できます。

#### 関連リンク

[休符を垂直に移動する \(876 ページ\)](#)

## キューの余白を埋める休符を表示/非表示にする

個々のキューの周辺を埋める休符を表示または非表示にできます。余白を埋める休符は、キューが小節の途中で開始または終了する場合に小節を埋め、各小節の完全なデュレーションを明確にします。

#### 手順

1. 余白を埋める休符を表示または非表示にするキューのキューラベルまたはキューのガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**キュー周辺の休符を非表示 (Hide rests around cue)**」をオンまたはオフにします。

---

#### 結果

「**キュー周辺の休符を非表示 (Hide rests around cue)**」がオンのときは選択したキューの余白を埋める休符が非表示となり、オフのときは表示されます。

#### 関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(870 ページ\)](#)

## キューの小節休符を表示/非表示にする

プロジェクトのフローごとに、すべてのキューに伴う小節休符の表示/非表示を切り替えられます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、小節休符を表示または非表示にするフローを選択します。  
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
4. 「**追加の声部内の休符 (Rests in additional voices)**」セクションの「**キューの小節休符 (Bar rests in cues)**」で、以下のオプションからいずれかを選択します。
  - **小節休符を表示 (Show bar rests)**
  - **小節休符を省略 (Omit bar rests)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

プロジェクトの選択したフローのすべてのレイアウトにおいて、キューに伴う小節休符が表示または非表示になります。

#### 関連リンク

[休符を垂直に移動する \(876 ページ\)](#)

## キューの音部変更記号

元インストゥルメントの楽譜の音部が出力先インストゥルメントと異なる場合、Dorico Pro はキューの開始位置に自動的に音部変更記号を入力して、元インストゥルメントが使用する音部に合致させるとともに、キューの終了位置には復帰のための音部変更記号を入力して、出力先インストゥルメントに本来使用されていた音部に合致させます。

キュー開始位置の音部変更記号は、通常の音部変更記号とは異なる位置に配置されます。

#### 小節の始めから開始するキュー

音部変更記号は小節線の右側に表示されます。

キュー終了位置の復帰のための音部変更記号は、通常の音部変更記号と同様の位置に配置されます。

#### 組段区切りをまたぐキュー

新しい組段の開始位置では、出力先パート本来の音部記号が通常の配置で表示されます。

キューに必要な音部記号は、新しい組段の最初の音符の直前、調号および拍子記号の右側に表示されます。

複数のキューが隣接する場合、音部変更記号は必要な数だけ作成されます。



- 隣接する2つのキューが、出力先インストゥルメント本来の音部記号とは異なる、同じ音部記号を使用する場合、1つめのキューの開始位置に音部変更記号が1つ、2つめのキューの終了位置に復帰のための音部変更記号が1つ表示されます。
- キューが重なり合い、2つめのキューが1つめとは異なる音部記号を必要とする場合、Dorico Proは2つめのキューの開始位置に音部変更記号を作成します。
- 隣接する2つのキューがあり、1つめのキューが出力先インストゥルメントとは異なる音部記号を使用し、2つめのキューの音部のプロパティが「なし (None)」に設定されている場合、出力先インストゥルメント本来の音部に復帰するための音部変更記号は、1つめのキューの終了位置に表示されます。

この自動的な動作は、個々の音部記号に対し、プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループの「**コンサートクレフ (Concert clef)**」または「**移調クレフ (Transposed clef)**」で上書きできます。利用できるプロパティは、楽譜領域に現在開いているレイアウトが実音か移調音いずれを使用するかによって変わります。

Dorico Proはキューに以下の音部記号を表示できます。

- なし (None)
- トレブル (Treble)
- アルト (Alto)
- テナー (Tenor)
- バス記号 (低音部記号) (Bass)

#### 補足

- 「なし (None)」を選択した場合は、元インストゥルメントの音部記号のかわりに出力先インストゥルメントの音部記号が使用されます。
- キューの途中で元インストゥルメントに発生した音部の変更は、出力先インストゥルメントのキューには表示されません。

## キューに表示される音部記号を個別に変更する

キューに表示される音部記号を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

同じキューに対してでも、表示されるレイアウトごとに異なる音部記号を表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトではキューにト音記号を表示しつつ、同じキューのパートレイアウトにはヘ音記号を表示させられます。

#### 手順

1. 楽譜領域で、キューに表示される音部記号を変更するレイアウトを開きます。
2. 音部記号を変更するキューを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
3. プロパティパネルで、「**キュー (Cues)**」グループから以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - 「**コンサートクレフ (Concert clef)**」: レイアウトが実音を使用する場合に表示されます。
  - 「**移調クレフ (Transposed clef)**」: レイアウトが移調音を使用する場合に表示されます。
4. メニューから以下のいずれかの音部記号を選択します。
  - 「なし (None)」: 元インストゥルメントの音部記号のかわりに出力先インストゥルメントの音部記号を使用します。
  - **トレブル (Treble)**
  - **アルト (Alto)**
  - **テナー (Tenor)**
  - **バス記号 (低音部記号) (Bass)**

各プロパティには同じ音部記号が使用できます。

---

#### 結果

選択したキューに表示される音部記号が変更されます。

#### ヒント

キューに使用される音部記号に、元のインストゥルメントの音部記号を使用するか、表示先のインストゥルメントを使用するかを、プロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**キュー (Cues)**」ページで設定を行ないます。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(608 ページ\)](#)

## キューの表示オプション

プロジェクト全体でキューを強調表示したり、キューの内容を標準の音符とは異なるカラーで表示したりすることで、作業中のキューの識別を容易に行なえます。

#### 補足

キューが表示されないレイアウトにおいては、キューはガイドで表示されます。キューのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**キュー (Cues)**」を選択して切り替えられます。メニュー内の「**キュー (Cues)**」の横にチェックマークがあるときはキューのガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

---

#### 関連リンク

[ガイド \(284 ページ\)](#)

[キューの音符のカラーを表示/非表示にする \(619 ページ\)](#)

## キューの強調表示を表示/非表示にする

キューが存在する小節の強調表示を表示/非表示にできます。これにより、キューがどこに追加されているか、およびどのインストゥルメントがキューの元として使用されているかを概観できます。

出力先インストゥルメントの譜表上のキューが含まれる小節は黄色い半透明で強調表示され、元インストゥルメントの譜表上の対応する小節は青い半透明で強調表示されます。

ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで閲覧するとき特に便利です。

#### 前提

現在のレイアウトにキューを表示しておきます。キューを表示していない場合は、強調表示が表示されず、キューはガイドとしてのみ表示されます。

---

#### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**キューを強調 (Highlight Cues)**」を選択します。
- 

#### 結果

メニュー内の「**キューを強調 (Highlight Cues)**」の横にチェックマークがあるときは、キューが含まれている小節の強調表示が表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

---

#### 例

---

## キューの音符のカラーを表示/非表示にする

キューを識別しやすいように、キューの内容 (音符や休符など) をグレー表示にできます。キューの内容を直接編集することはできません。

### 前提

現在のレイアウトにキューを表示しておきます。キューを表示していない場合、キューはガイドとしてのみ表示されます。

---

### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note and Rest Colors)」 > 「キュー (Cues)」を選択します。

---

### 結果

メニュー内の「キュー (Cues)」の横にチェックマークがあるときは、キューの内容がグレーで表示されます。チェックマークがないときは、選択したその他の音符と休符のカラー設定が適用されます。

---

### 例

---

# 強弱記号

強弱記号は音の大きさを表わし、他の指示と組み合わせることで、解釈の余地も残しつつ、演奏者が楽譜の演奏方法を詳細に理解できるようにします。

強弱記号は音量の瞬間的な変化や、指定のデューレーションによる段階的な変化を指示します。初期設定では、強弱記号は、楽器の場合は譜表の下、歌の場合は譜表の上に配置されます。

強弱記号には、修飾や表現に関するテキストを追加して、音量レベルとともにスタイルに関する指示を与えることができます。たとえば *f* *espressivo* は、音量を大きくするだけでなく、感情を込めてパッセージを演奏することを示します。

表現テキストの大部分はイタリック体で記される一方、*pp* や *pp* などの強弱記号はボールドイタリック体のフォントを使用します。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(210 ページ\)](#)

[強弱記号の位置 \(621 ページ\)](#)

## 強弱記号のタイプ

Dorico Pro では強弱記号を 4 つのグループに分類します。

### 局部的強弱記号

局部的強弱記号は、それが属する音符から次の強弱記号が現れる位置まで適用され、それ以前の音の強さから局部的に変化させることを指示します。局部的強弱記号には *pp* や *f* などの強弱記号、そして *subito* や *molto* などの修飾テキストがあります。

### 段階的強弱記号とヘアピン

段階的強弱記号はヘアピンの形で表示されることが多いですが、テキストを使用する場合もあります。Dorico Pro では、段階的強弱記号テキストを以下の方法で表示させられます。

- *cresc.* または *dim.:* 省略テキスト、延長線なし
- *cresc...* または *dim...*: 省略テキストに点線による延長線
- *cre-scen-do* または *di-mi-nuen-do*: ハイフンで区切られた正式名称が段階的強弱記号のデューレーション全体に広がる

段階的強弱記号には、*poco*、*molto*、*poco a poco*、*niente* などの修飾テキストが付く場合もあります。

Dorico Pro では、ヘアピンは *messa di voce* によるヘアピンのペアによる表示もできます。状況によっては、個別のヘアピンでペアを作るよりもこの方が簡単です。

### アタックの強弱/強度レベル

*fz* や *sfz* などの強弱記号は、アクセントのアーティキュレーションと同様、現在の強弱で通常表現されるよりも強いアタックで音符を演奏することを指示します。

## 結合式強弱記号

*fp* や *p-mf* などの結合式強弱記号は、強弱の突然の変化を指示します。

Dorico Pro では、強弱記号パネルの「**結合式強弱記号 (Combined Dynamics)**」セクションで、カスタムの結合式強弱記号を作成して、ペアを構成するそれぞれの強弱記号の強度レベルを管理できます。たとえば、*pppf*、*fff-mp* や *ffffpppp* のような強弱記号を作成できます。

関連リンク

[段階的強弱記号 \(631 ページ\)](#)

## 浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで、強弱記号の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**強弱記号 (Dynamics)**」ページのオプションでは、強弱記号および段階的強弱記号の外観や、符頭、小節線および組段の終端に対するデフォルト位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 強弱記号の位置

強弱記号は、楽器の場合は譜表の下に音符と並んで読めるように配置され、歌の場合は譜表の上に配置されます。こうすることにより、譜表の下に配置される歌詞と衝突を避けつつ、同時に読むべき音符に十分近く配置できます。

*pp* や *f* といった局部的強弱記号は、適用される符頭に中央揃えで配置されます。段階的強弱記号の開始位置は、それが開始する拍の符頭に中央揃えで、または同位置の局部的強弱記号の直後に配置されます。段階的強弱記号の終了位置は、それが終了する拍の符頭に中央揃えで、または同位置の局部的強弱記号の直前に配置されます。

譜表に対する強弱記号の位置は、それぞれの機能およびプレーヤーのタイプによって多様に変化します。たとえば、強弱記号は初期設定では楽器の譜表の下、歌の譜表の上に配置されます。これにより、強弱記号は読みやすさのためにできるだけ譜表に近い位置を維持し、歌の譜表では符頭と歌詞の間に配置されません。ピアノやハープなど大譜表のインストゥルメントにおいては、強弱記号は通常 2 つの譜表の間に配置されますが、それぞれの譜表が異なる音の強さで演奏される場合は、それぞれの譜表の上下に配置できます。

強弱記号は総じて、特にヘアピンは非常に読みづらくなるため、譜表内には配置されません。また、連符の角括弧の内側に配置されることも通常ありません。強弱記号はスラーなど符頭に近い位置を維持する必要がある記譜記号よりも外側に配置されますが、符頭から離れて配置されても明確に読み取れるペダル線よりも内側に配置されます。

強弱記号の位置は記譜モードで移動できます。強弱記号は符頭にスナップし、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

強弱記号の表示位置は浄書モードで移動できます。これにより適用されるリズム上の位置は変更されません。

すべての強弱記号のデフォルト位置や、拍、小節線、組段の終端、譜表、その他のオブジェクトに対する位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(621 ページ\)](#)

[強弱記号の位置の移動 \(623 ページ\)](#)  
[強弱記号の表示位置の移動 \(624 ページ\)](#)

## 譜表に対する強弱記号の位置の変更

初期設定では、強弱記号は、楽器の場合は譜表の下、歌の場合は譜表の上に配置されます。個々の強弱記号の譜表に対する配置を変更できます。これによりたとえば、複声部の状況において譜表の上下に異なる強弱記号を配置できます。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「位置 (Placement)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

---

### 結果

選択した強弱記号の位置が変更されます。

## 強弱記号の水平方向の拍相対位置を変更する

個々の強弱記号を拍の前または後に配置できます。

---

### 手順

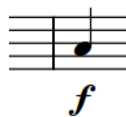
1. 拍相対位置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「拍相対位置 (Beat-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 前 (Before)
  - 後 (After)

---

### 例



拍の前に配置された強弱記号



拍の後に配置された強弱記号

## 局部的強弱記号の符頭に対する整列を変更する

*ff* や *mp* といった局部的強弱記号は、通常は符頭の視覚上の中央位置で水平方向に整列していますが、局部的強弱記号の水平方向の配置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 手順

1. 符頭に対する配置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「テキストの整列 (Text alignment)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 中央位置を符頭に合わせる (Align optical center with notehead)



- 符頭に合わせて左寄せ (Left-align with notehead)



- 中央位置を符頭の左側に合わせる (Align optical center with left of notehead)



### 結果

選択した局部的強弱記号の配置が変更されます。

### ヒント

すべての局部的強弱記号の符頭に対するデフォルトの配置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで設定を行ないます。

### 関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(621 ページ\)](#)

## 強弱記号の位置の移動

強弱記号は入力後に別の位置へ移動できます。

### 補足

- 強弱記号を移動できるのは既存の符頭の位置だけです。
- グループの中の強弱記号を 1 つだけ移動させる場合は、マウスでクリックしてドラッグする必要があります。キーボードショートカットを使用した場合は、グループ全体が移動します。

### 手順

1. 記譜モードで、移動する強弱記号を選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できる強弱記号は 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号を譜表上の次または前の符頭の位置に移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

- 強弱記号をクリックして左右にドラッグします。
- 

#### 結果

選択した強弱記号が譜表に沿って右または左の符頭に移動します。

## 強弱記号の表示位置の移動

強弱記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。浄書モードでヘアピンを選択すると、両端に調節ハンドルが3つずつ表示されます。このハンドルを使用すると、段階的強弱記号の表示上の長さを変更できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- 局部的強弱記号、または段階的強弱記号の全体
- 段階的強弱記号の個々のハンドル

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号またはハンドルを移動します。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

#### 結果

選択した強弱記号またはハンドルの表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく移動します。

#### ヒント

強弱記号の位置を移動すると、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」: 局部的強弱記号、および段階的強弱記号の開始位置を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」: 段階的強弱記号の終了位置を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、段階的強弱記号全体を上へ移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更して強弱記号を移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択した強弱記号が初期設定の位置にリセットされます。

---



関連リンク

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(632 ページ\)](#)

## 強弱記号の整列

選択した強弱記号の表示位置を、グループ化やグループ解除を要さず個別に整列できます。たとえばパートレイアウトの組段区切りがフルスコアレイアウトとは異なり、強弱記号の異なるグループの部分同士を整列する必要が生じた場合でも、それぞれのグループ化設定を変更しないまま整列を行なえます。

手順

1. 浄書モードで、整列する強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号を整列 (Align Dynamics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した強弱記号は、選択範囲内で譜表から最も遠かった強弱記号と 1 列に整列します。これは強弱記号のグループ化の状態にも、他のレイアウトでの整列の状態にも影響しません。

## 小節線に対するヘアピンの一般的な配置規則

Dorico Pro では、ヘアピンの終端はその右にある音符の左端に揃えられます。

小節の最初の音符で終了するヘアピンは、以下に指定する条件においては、直前の小節線をまたいで延長されます。

- 次の小節の最初の音に局部的強弱記号が付かない場合。
- 小節線に拍子や調号の変化記号が付くことで、現在の小節の終わりや次の小節の最初の音符との間隔が広がっている場合。

Dorico Pro は、ヘアピンが少しだけ小節線に重なるのは視覚的に明瞭さを欠くことから、これを避けようとしています。しかしこれは、2つの異なる譜表の一方が下に延長する小節線を持たない場合、同じ強弱記号でも両者で表示が異なる場合があることを意味します。

このデフォルトの動作を変更し、次の小節の最初の音符で終わるすべてのヘアピンについて、小節線をまたぐことをプロジェクト全体で禁止できます。これにより、すべての該当するヘアピンが同じ長さで表示されるようになります。また、ヘアピンが小節線をまたぐことが許可される最小距離の変更も行なえます。



組段の一番下の譜表には小節線が延長されないため、デュレーションが同一にも関わらず 2つのヘアピンの終端が揃わない例。

## 小節線に対するヘアピンの配置のプロジェクト全体の設定の変更

ヘアピンが次の小節の最初の音符で終わるときに小節線をまたぐかどうかのプロジェクト全体の設定を変更できます。また、ヘアピンが小節線をまたぐことが許可される最小距離の変更も行なえます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。

2. ページリストから「強弱記号 (Dynamics)」をクリックします。
3. 「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションで「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックします。
4. 「小節の最初の音符の開始位置で終わるヘアピン (Hairpins ending at beginning of note at start of bar)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 小節線越えを禁止 (Do not cross barline)
  - 小節線越えを許可 (Allow to cross barline)
5. 必要に応じて、「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで、「強弱記号が小節線を超える際の、小節線からの最小距離 (Minimum distance to right of barline to allow dynamic to cross barline)」の値を変更します。
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

## 括弧付きの強弱記号の表示

たとえば元の譜面にはない編者注の強弱記号を表示する場合など、個々の強弱記号を括弧つきで表示できます。

### 手順

1. 括弧つきで表示する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「括弧つき (Parenthesized)」をオンにします。

### 結果

選択した強弱記号がそれぞれ個別に括弧つきで表示されます。

「括弧つき (Parenthesized)」をオフにすると、選択した強弱記号が括弧なしの表示に戻ります。

## 強弱記号の背景の塗りつぶし

強弱記号は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。背景の塗りつぶしは、どのタイプの強弱記号でも行なえます。

### 手順

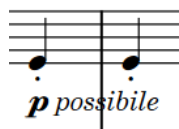
1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす強弱記号を選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。

### 結果

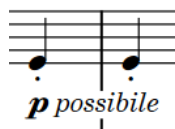
選択した強弱記号の背景にあるあらゆるものが塗りつぶされます。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択した強弱記号がデフォルトの背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

### 例



背景の塗りつぶしなしの強弱記号



背景の塗りつぶしありの強弱記号

手順終了後の項目

強弱記号の塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

## 強弱記号の塗りつぶしの余白を変更する

強弱記号の塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅は強弱記号の四方それぞれについて個別に変更できます。

背景の塗りつぶしでは、先頭テキストと末尾テキストは局部的強弱記号と別々に扱われ、またテキストのアセンダーとディセンダーが反映されます。これにより、たとえば“espressivo”の場合は“p”の影響で、背景の塗りつぶしが上より下に広く表示されます。このような場合は、影響される端部の余白を変更して、塗りつぶしの外観を対称にできます。

---

手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更する強弱記号を選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
  - 「L」は強弱記号の左側の余白の幅を変更します。
  - 「R」は強弱記号の右側の余白の幅を変更します。
  - 「上 (T)」は強弱記号の上側の余白の幅を変更します。
  - 「下 (B)」は強弱記号の下側の余白の幅を変更します。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。これは衝突回避で使用される領域にも影響します。

ヒント

すべての強弱記号の塗りつぶしの余白のデフォルトに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「外観 (Appearance)」セクションで変更できます。ただし、ここでは四方それぞれの余白は個別に変更できません。

## 強弱記号のコピー

強弱記号は入力後に別の位置にコピーできます。1つの譜表で強弱記号を選択して別の1つの譜表にコピー、または複数の譜表にわたり強弱記号を選択して同じ数の譜表にわたってコピーできます。

---

手順

1. 記譜モードで、コピーする強弱記号を選択します。

ヒント

多数の強弱記号をコピーする場合や、たとえば段階的強弱記号のみをコピーする場合は、フィルターを使用できます。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して強弱記号をコピーします。
  3. 強弱記号をコピーする位置の符頭を選択します。
  4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押して強弱記号を貼り付けます。
-

#### 結果

選択した強弱記号が新たな位置に貼り付けられます。強弱記号を別の譜表の元と同じ位置にコピーした場合、コピー元とコピー先の強弱記号はすべて自動的にリンクされます。

異なる位置にある複数の強弱記号を選択した場合、新しく貼り付けられる位置には元のスペーシングが反映されます。

#### ヒント

- 強弱記号を選択して、**[Alt]** を押しながらコピー先の符頭を1つ1つクリックすることでも、クリップボードを経由することなく強弱記号をコピーできます。
- 強弱記号のフレーズを元の入力位置の直後にコピーする場合は、フレーズを選択して **[R]** を押します。1つの局部的強弱記号を選択している場合は、強弱記号は同じ位置にコピーされます。

#### 関連リンク

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

[フィルター \(280 ページ\)](#)

## 強弱記号の削除

プロジェクトから強弱記号を削除できます。他の譜表にリンクされている強弱記号のグループから一部の強弱記号を削除した場合、同じ位置にあるリンクされた強弱記号は、すべての譜表から同様に削除されます。

#### 手順

1. 記譜モードで、削除する強弱記号を選択します。
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択した強弱記号が削除されます。ヘアピン直前または直後の局部的強弱記号を削除した場合、状況に応じてヘアピンの長さが自動的に調整される場合があります。

#### 補足

他の譜表にリンクされた強弱記号を削除すると、リンクされたすべての譜表からも選択した強弱記号が削除される場合があります。グループ内の強弱記号を一部だけ選択して削除した場合、選択した強弱記号はリンクされたすべての譜表からも削除されます。ただし、1つの譜表から強弱記号のグループ全体を選択して削除した場合、他の譜表の強弱記号は削除されません。

#### 関連リンク

[強弱記号のグループ \(638 ページ\)](#)

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

## 声部固有の強弱記号

複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力できます。

声部固有の強弱記号を入力することにより、譜表の複声部に異なる強弱記号を表示したり、ピアノのテクスチャーでメロディーを担当する声部を強調させたりできます。これは再生時に各声部のダイナミクスを変化させます。

ステップ入力時は、声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号の符尾の方向で示されている声部に追加されます。

初期設定では、**[Alt]** を押さずに入力された場合、強弱記号は譜表のすべての声部に適用されます。再生時およびスコア表示において、各声部にそれぞれ固有のダイナミクスを持たせる場合は、譜表の各声部に強弱記号を入力する際に **[Alt]** を押します。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(210 ページ\)](#)

## ニエンテのヘアピン

ニエンテ記号は、段階的強弱記号の開始位置または終了位置に付き、音量の変化が静寂から始まるか、静寂で終わることを指示します。

このエフェクトは弦楽器や、歌手が母音で歌唱するときは非常に効果的ですが、常にそのまま演奏できるとは限りません。たとえば、歌手が子音から始まる単語の歌詞を歌う場合、静寂から始めることはできません。リード楽器や金管楽器も、音符を発音する前に一定の空気圧を必要とするため同様です。

ニエンテ記号には2つの表示形式があります。ヘアピンの端に丸を付ける形式と、ヘアピンの直前または直後にテキストを表示する形式です。Dorico Pro では、ニエンテ記号のいずれの形式でも、強弱記号ポップオーバーを使用するか、強弱記号パネルの「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションにある「**niente**」をクリックすることで入力できます。

### ヒント

既存のヘアピンをニエンテのヘアピンに変換するには、ヘアピンを選択して、強弱記号パネルの「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションにある「**niente**」をクリックするか、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループにある「**Niente**」をオンにします。

例



「ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)」で表示される ニエンテ  
「テキスト (Text)」で表示されるニエンテ

関連リンク


[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(632 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(210 ページ\)](#)

## ニエンテのヘアピンの外観を個別に変更する

Dorico Pro では、ニエンテのヘアピンの表示形式は2種類あり、表示形式は個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形に変更できます。

手順

1. ニエンテスタイルを変更するヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループで、「**ニエンテスタイル (Niente style)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)**  

  - **テキスト (Text)**

#### 結果

選択したヘアピンのニエンテスタイルが変更されます。

#### ヒント

すべてのニエンテのヘアピンの表示形式をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページにある「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションで設定を行ないます。

#### 例



「ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)」で表示されるニエンテ  
「テキスト (Text)」で表示されるニエンテ

#### 関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(621 ページ\)](#)

## 表現テキスト

表現テキストは強弱記号に単なる音量レベル以上の詳細を追加し、音符やフレーズをどのように演奏するかを指示します。

Dorico Pro では、“sim.”、*poco*、*molto*、*subito*などの表現テキストは、*p* や *f* などの強弱記号に付随する必要があります。

#### 補足

表現テキスト単独による入力はできません。ただし、表現テキスト前後の局部的強弱記号を非表示にはできます。

表現テキストの入力は、強弱記号ポップオーバーに局部的強弱記号と併せて入力するか、強弱記号パネルの「**局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)**」セクションで、利用可能なオプションをクリックすることによって行なえます。また、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループにある以下のプロパティのいずれかに入力することによって、既存の強弱記号に表現テキストを追加できます。

- 「**先頭テキスト (Prefix)**」: 既存の強弱記号の前に表現テキストを追加します。
- 「**末尾テキスト (Suffix)**」: 既存の強弱記号の後に表現テキストを追加します。

#### 関連リンク

[局部的強弱記号を非表示にする \(631 ページ\)](#)

## 既存の強弱記号への表現テキストの追加

強弱記号を入力したあと、強弱記号に表現テキストを追加できます。たとえば、複数のフレーズにわたって強弱記号を繰り返すかわりに、“sim.”を追加できます。

#### 手順

1. 表現テキストを追加する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

- プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 「先頭テキスト (Prefix)」: 既存の強弱記号の前に表現テキストを追加します。
  - 「末尾テキスト (Suffix)」: 既存の強弱記号の後に表現テキストを追加します。
- 対応する入力フィールドに追加する表現テキストを入力します。
- [Return] を押します。

#### 結果

入力したテキストが、選択した強弱記号に表現テキストとして追加されます。  
プロパティをオフにすると、選択した強弱記号から対応する表現テキストが削除されます。

#### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

#### 関連リンク

[ニエンテのヘアピン](#) (629 ページ)

[強弱記号の入力方法](#) (210 ページ)

## 局部的強弱記号を非表示にする

たとえば“sim.”などの表現テキストを強弱記号を伴わない形で表示するために、*f* や *pp* などの局部的強弱記号を非表示にできます。

#### 手順

- 非表示にする局部的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「強弱記号を非表示 (Hide intensity marking)」をオンにします。

#### 結果

選択した局部的強弱記号が非表示になります。同じ位置に他の強弱記号がない場合、あとから見つけれられるように、非表示になった位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

「強弱記号を非表示 (Hide intensity marking)」をオフにすると、選択した局部的強弱記号が再度表示されます。

## 段階的強弱記号

段階的強弱記号は、指定のデュレーションにわたって徐々にボリュームを変化させることを指示します。初期設定では、段階的強弱記号はヘアピン、または *cresc.* や *dim.* のようなテキストによる指示で表示されます。

段階的強弱記号の外観および位置は、プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループにあるプロパティを使用すると、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。たとえば、段階的強弱記号の種類を変更して、1方向に向いたヘアピンとして表示するか、*messa di voce*、つまり2方向のヘアピンのペアとして表示するか選択できます。

段階的強弱記号のスタイルは、以下の表示方法のいずれかに自由に変更できます。



ヘアピン

*cresc.*

cresc./dim.

*cresc.*.....

cresc....

*cre - scen - do* .

cre - scen - do

## ヒント

また、プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループにある「ヘアピン線スタイル (Hairpin line style)」を使用すると、ヘアピンの線のスタイルを変更できます。

局部的強弱記号によって区切られた同方向のヘアピンを2つ以上連続して強弱記号ポップオーバーに入力した場合、浄書モードでプロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループにある「ヘアピンの延長表示 (Hairpin shown as continuation)」とそのチェックボックスをオンにすると、局部的強弱記号をまたいで延びる単体の連続したヘアピンとして表示できます。



延長表示されていないヘアピン



延長表示されたヘアピン

また、段階的強弱記号のディミヌエンドスタイルを **cresc./dim.** のスタイルに変更して “diminuendo” か “decrecendo” のいずれかを表示するようしたり、段階的強弱記号の延長線のスタイルを **cresc....** のスタイルに変更したりできます。

浄書モードでは、ヘアピンには開始位置と終了位置にそれぞれ3つの四角いハンドルが表示されます。

- 開始位置と終了位置の中央のハンドルは、ヘアピンの開始位置と終了位置のオフセット位置を変化させます。
- 開始位置と終了位置の上下一対のハンドルは、ヘアピンの開始位置と終了位置の開きの幅を調節します。



浄書モードでヘアピン開始位置中央のハンドルを選択した状態

これらのハンドルを使用してヘアピンの角度を変化させられます。

関連リンク

[強弱記号のタイプ \(620 ページ\)](#)

[ヘアピンの角度の変更 \(633 ページ\)](#)

[ヘアピンの開きの幅の変更 \(634 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更

段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さは、入力後に変更できます。

### 補足

段階的強弱記号または強弱記号のグループの長さの変更は、1度に1つずつしか行なえません。

### 手順

1. 記譜モードで、長さを変更する強弱記号を以下のいずれかから選択します。
  - 1つの段階的強弱記号
  - 1つの段階的強弱記号のグループ
2. 以下のいずれかの操作を行なって、段階的強弱記号または強弱記号のグループの長さを変更します。



- 現在のリズムグリッドの値に従う位置か次の符頭の位置の、いずれか近い方まで延長するには、**[Shift]+[Alt]+[→]**を押します。
- 現在のリズムグリッドの値に従う位置か前の符頭の位置の、いずれか近い方まで短縮するには、**[Shift]+[Alt]+[←]**を押します。
- 次の符頭の位置まで延長するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→]**を押します。
- 前の符頭の位置まで短縮するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←]**を押します。

#### 補足

キーボードを使用しているときは、強弱記号の終端しか動かさせません。強弱記号の始端は、強弱記号全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックしてドラッグします。

#### 結果

個々の段階的強弱記号の長さが、リズムグリッドまたは前後の符頭のいずれかに従い変更されます。

強弱記号のグループは、グループ内の段階的強弱記号の長さを変更するか、グループ内のその他の強弱記号の位置を移動させると、全体の長さが比率を保って変更されます。これにより、グループ内の段階的強弱記号の相対的なデュレーションが維持されます。

例においては、終端の *p* は右に4分音符2つ分移動していますが、真ん中の *f* は右に4分音符1つ分しか移動していません。これにより、段階的強弱記号の長さが均等なままになります。

#### 例



元の強弱記号のフレーズ



伸ばした強弱記号のフレーズ

#### 関連リンク

[強弱記号のグループ](#) (638 ページ)

[強弱記号の位置](#) (621 ページ)

[強弱記号のグループ化の解除/グループからの強弱記号の削除](#) (640 ページ)

## ヘアピンの角度の変更

初期設定では、ヘアピンは水平に伸ばされ、符頭やスラーといった他のオブジェクトとの衝突を回避するために自動調整されます。個々のヘアピンは、必要に応じてその角度を変更できます。

#### 補足

ヘアピンの開始オフセット位置をキーボードで変更したり、「**開始オフセット (Start offset)**」をオンにしたりするだけでは、ヘアピンの譜表に対する相対的な位置が変更されるだけで、角度は変わりません。ヘアピンの角度を変更するには、終了オフセット位置を変更するか、「**終了オフセット (End offset)**」をオンにすることも必要となります。

ハンドルをマウスでドラッグすると、素早く角度を変更できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、角度を変更するヘアピンの中央のハンドルを選択します。

#### ヒント

- 複数のヘアピンを選択する場合、それらは同じ方向である必要も、同じ譜表上にある必要もありません。
- 選択したアイテムだけでなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択したヘアピンの角度が変更されます。終端はそれぞれ個別に移動できます。

#### ヒント

ヘアピンの対応するハンドルを垂直に移動すると、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット Y (Start offset Y)**」: ヘアピンの開始ハンドルを垂直に移動します。
- 「**終了オフセット Y (End offset Y)**」: ヘアピンの終了ハンドルを垂直に移動します。

たとえば、ヘアピン全体を上へ移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することによりヘアピンの角度を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したヘアピンが初期設定の位置にリセットされます。

## ヘアピンの開きの幅の変更

個々のヘアピンにより指示される音量の変更は、ヘアピンを構成する 2 本の線の開いた側の距離によって示されます。ヘアピンの開きの幅は個別に変更できます。

ヘアピンは通常一端が閉じ、一端が開いています。ヘアピンが組段かフレームの区切りをまたぐ場合、閉じた側に小さな隙間を作り、2つの別個のヘアピンと間違われないようにできます。

Dorico Pro では、浄書モードでヘアピンの開始位置および終了位置に現れる上下一対のハンドルを使用して開きの幅を変更できます。これらのハンドルはそれぞれ鏡合わせにリンクされています。一方のハンドルを動かすと、もう一方も同じだけ反対方向に動きます。これによりヘアピンの対称性が維持されます。



浄書モードでヘアピンの上下のハンドルを選択した状態

#### 手順

1. 浄書モードで、開きの幅を変更するヘアピンの上下いずれかのハンドルを選択します。

#### ヒント

- 複数のヘアピンを選択する場合、それらは同じ方向である必要も、同じ譜表上にある必要もありません。
- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドル間の距離を変更します。

- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑])。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択したヘアピンの開きが変更されます。

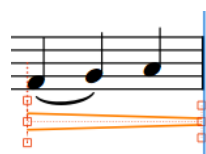
#### ヒント

- また個々のヘアピンの開きの幅は、プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループにある「ヘアピン開口部 (Hairpin open aperture)」および「ヘアピン閉口部 (Hairpin closed aperture)」をオンにしても変更できます。

値を大きくすると、対応する開きの幅が広がります。値を小さくすると、対応する開きの幅が狭くなります。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページで、「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションのサブセクション「ヘアピン (Hairpins)」にある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすることで、組段やページの区切りをまたぐヘアピンも含めて、ヘアピンの開き幅のプロジェクト全体に対する最小値および最大値を設定できます。

#### 例



組段区切りをまたぐディミヌエンド。開始側が開き、終了側に向かって閉じています。終端が少し開いていることで、組段区切りの向こうまでディミヌエンドが続くことを示しています。



次の組段に入った続きのディミヌエンド。開始側が開き、終了側で閉じています。

## ヘアピンの終端の広がりを表示/非表示にする

終端の広がり通常クレッシェンドのヘアピンの終端に表示され、クレッシェンドの終わりに急激に音量を上げることを示します。任意のヘアピンで終端の広がり表示/非表示を切り替えられます。

#### 補足

終端の広がり実線のヘアピンにしか表示できません。

---

手順

1. 終端の広がりを表示または非表示にするヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「終端の広がり (Flared end)」をオンまたはオフにします。
- 

結果

「終端の広がり (Flared end)」がオンのときは選択した強弱記号に終端の広がりが表示され、オフのときは非表示になります。

---

例



終端の広がり非表示のクレッシェンドのヘアピン



終端の広がり表示されたクレッシェンドのヘアピン

---

## ヘアピンの終端の広がりサイズを変更する

個々のヘアピンの終端の広がり高さおよび幅を変更できます。

---

手順

1. 浄書モードで、終端の広がりサイズを変更する広がり付きのヘアピンを選択します。
  2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「広がりサイズ (Flare size)」をオンにします。
  3. 「幅 (W)」の値を変更して終端の広がり幅を変更します。
  4. 「高さ (H)」の値を変更して終端の広がり高さを変更します。
- 

結果

「幅 (W)」の値を大きくすると、選択した終端の広がり角度が付き始める位置が移動して幅が広くなり、値を小さくすると幅が狭くなります。

「高さ (H)」の値を大きくすると、選択した終端の広がりが高くなり、値を小さくすると低くなります。これらの値をもう一方の値と別に変更すると、終端の広がり角度が変わります。たとえば、「高さ (H)」の値を変更せずに「幅 (W)」の値を大きくすると、角度が小さくなります。

ヒント

すべての終端の広がりデザインのデフォルトのデザインとサイズをプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションで設定を行ないます。

---

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(621 ページ\)](#)

[ヘアピンの開きの幅の変更 \(634 ページ\)](#)

## 段階的強弱記号に *poco a poco* のテキストを追加する

段階的強弱記号は、入力後に個別に *poco a poco* のテキストを追加できます。

### 手順

1. *poco a poco* を追加する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「Poco a poco (少しずつ) (Poco a poco (little by little))」をオンにします。

### 結果

*poco a poco* は段階的強弱記号のテキストの直後、譜表の下に配置されたヘアピンの下、および譜表の上に配置されたヘアピンの上に表示されます。

「Poco a poco (少しずつ)」をオフにすると、選択した段階的強弱記号から *poco a poco* のテキストが削除されます。

### 例



*poco a poco* を伴う、テキストによる段階的強弱記号



*poco a poco* を伴う、ヘアピンによる段階的強弱記号

## 段階的強弱記号のスペーシング

Dorico Pro では、常に他の記号から明確に区別されるように、ヘアピンには長さの最小値のデフォルトが設定されています。しかしこれは音符のスペーシングに影響を与えます。

ヘアピンの長さの最小値のデフォルトは3スペースです。ヘアピンがこれより短くなると、アーティキュレーション記号のアクセントと見間違えられる恐れがあります。そのため、ヘアピンの長さが3スペースより短くなるような音符にヘアピンを追加した場合、ヘアピンが最小値の長さを維持できるように音符のスペーシングが変更されます。

ヘアピンの長さの最小値を変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある、「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションのサブセクション「ヘアピン (Hairpins)」の中の「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると表示される「ヘアピンの長さの最小値 (Minimum length for hairpins)」の数値を変更します。

## 音符の途中で開始または終了する段階的強弱記号

段階的強弱記号の開始位置または終了位置が音符に連結されていない場合、その開始位置または終了位置の移動には制限が生じます。

たとえば、強弱記号のポップオーバーに2つのヘアピンをスペースで区切って「<>」と入力した場合、外見上はメッサ・ディ・ヴォーチェに似た1対のヘアピンが作成されますが、これは2つの個別のヘアピンで構成されており、オプションで生成された組み合わせではありません。このヘアピンそれぞれの開いた側はいずれも特定の符頭に接続されておらず、ヘアピンのペアの中央は移動できません。2つのヘアピンは全体としての長さを変更できますが、ヘアピンそれぞれの長さの個別の変更はできません。



一方で、強弱記号ポップオーバーに2つのヘアピンをスペースの区切りを入れずに入力した場合、ヘアピンのペアはその真ん中でも両端も位置を変更できますが、符頭に沿ってしか移動できません。それぞれのヘアピンは現在のリズムグリッド値に従って個別に長さを変更できます。

浄書モードでは、個々のヘアピンを任意の表示位置に移動できます。ポップオーバーにスペースで区切られたヘアピンを入力した場合、それぞれのヘアピンは個別に移動できます。これによりたとえば、1対のヘアピンの表示上のピークの位置を調整できます。メッサ・ディ・グオーチェのヘアピンの表示上のピークの位置は、音符のスペーシングを調整すること以外では移動できません。ただし、強弱記号の表示位置を移動しても、再生時の強弱には影響がありません。

関連リンク

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(632 ページ\)](#)

[強弱記号の表示位置の移動 \(624 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

## 局部的強弱記号によって切り詰められる段階的強弱記号

ヘアピンは、その入力前か入力後かに関わらず、範囲内に局部的強弱記号が配置された場合、自動的に切り詰められます。

ヘアピンは表示上短くなっても、本来指定された位置への結びつきを維持しています。そのため、ヘアピンの表示を切り詰めている局部的強弱記号が削除されると、ヘアピンはその終了位置または範囲内の次の局部的強弱記号の位置まで延長されます。

例として、2つの強弱記号によって切り詰められているヘアピンが、強弱記号が削除されるに従って本来の長さまで延長される様子を示します。点線による連結線は、ヘアピンと、その本来の終端が結びついているリズム上の位置とのリンクを表示しています。



**p**によって切り詰められている長いヘアピン

**p**が削除されたあとも、**f**によって切り詰められているヘアピン

局部的強弱記号を2つとも削除したことで、本来の長さまで延ばされたヘアピン

関連リンク

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(632 ページ\)](#)

## 強弱記号のグループ

強弱記号をグループ化すると、それらは自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。たとえば、図例の中央の**f**はグループに属しますが、これを移動すると、両側のヘアピンが付き従う形で自動調整されます。

1つの強弱記号は、局部的強弱記号と段階的強弱記号のいずれであっても、それ自体がグループとして見なされます。

2つ以上の強弱記号が譜表で水平方向に隣り合い、同時にまたは続けて入力され、局部的強弱記号の間に段階的強弱記号がある場合、これらは自動的にグループ化されます。



強弱記号のグループの例



同じグループに属する強弱記号は、*f*の位置を移動すると、付き従う形で調整されます。

グループに属するいずれかの強弱記号が選択されると、グループ全体の強弱記号が強調表示されます。



#### 補足

- 強弱記号のグループはプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で強弱記号をグループ化することはできません。ただし、選択した強弱記号の表示をグループと関係なく揃えることはできます。
- 強弱記号を水平方向にグループ化するだけでなく、強弱記号のグループを譜表間でリンクさせ、複数の譜表に同じ強弱記号を表示できます。これは、複数のインストゥルメントが同時に同じ強弱記号を演奏するとき、クレッシェンドのピークを後ろの拍に移動したり、*f*を*fff*に変更したりといった変化を、すべての譜表に同様に与える場合に便利です。

#### 関連リンク

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

[強弱記号の整列 \(625 ページ\)](#)

## 強弱記号のグループ化

入力時に自動でグループ化されなかった強弱記号を手動でグループ化できます。グループ化された強弱記号は自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。

#### 手順

1. 記譜モードで、グループ化する強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号のグループ化 (Group Dynamics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した強弱記号がグループ化されます。グループの最初の強弱記号が他の譜表にリンクされている場合、グループのすべての強弱記号はリンクされた譜表にも追加されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

#### 関連リンク

[強弱記号のグループ \(638 ページ\)](#)

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

## 強弱記号のグループ化の解除/グループからの強弱記号の削除

強弱記号のグループ化を解除して、グループ内すべての強弱記号をグループ化されていない状態にすることも、選択した強弱記号のみグループから外して、選択していない強弱記号はグループに残すこともできます。

### 手順

1. 記譜モードで、グループ化を解除する、またはグループから削除する強弱記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号のグループ化を解除 (Ungroup Dynamics)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「グループから削除 (Remove from Group)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

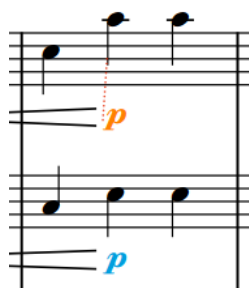
強弱記号のグループ化を解除すると、グループ内のすべての強弱記号がグループ化されていない状態になります。選択していない強弱記号であっても、グループに含まれていれば解除の対象となります。グループから強弱記号を削除すると、選択した強弱記号のみがグループから外されます。選択されていない強弱記号はグループに残ります。

これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

## 複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号

複数の譜表で同じ位置にある同じ強弱記号はリンクすることができます。強弱記号を譜表間でコピーアンドペーストした場合、このリンクは自動的に行われます。

リンクされたグループのうち1つの強弱記号を選択すると、リンクに属する他のすべての強弱記号が強調表示されます。リンクされた強弱記号のうち1つを別の位置に移動すると、すべてのリンクされた強弱記号が移動します。



リンクされた2つの強弱記号のうち1番上の強弱記号だけを選択した状態



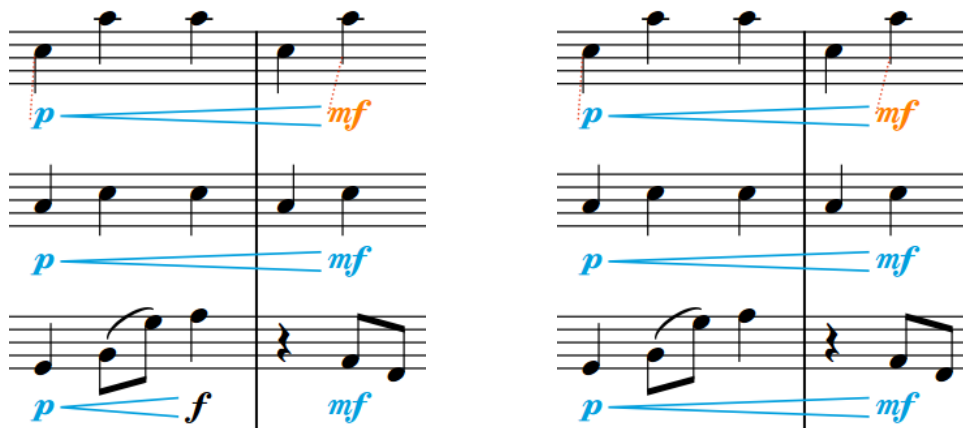
リンクされたグループの1番上の強弱記号だけを移動すると、もう一方も自動的に移動して新しい位置に揃えられます。

同様に、リンクされた強弱記号のうち1つ、たとえば *p* を *mf* に変更すると、この強弱記号にリンクされたすべての強弱記号が変更されます。

リンクされた強弱記号のうち1つに他の強弱記号、たとえばヘアピンがグループ化された場合、リンクされたすべての譜表の同じ位置にヘアピンが追加されます。



譜表のうち1つで、ヘアピンの終端より先に他の局部的強弱記号があった場合、ヘアピンは自動的に切り詰められます。その強弱記号を削除した場合、ヘアピンは次の局部的強弱記号とその本来の長さとのいずれか先に達した方の位置まで自動的に延長されます。



3つのリンクされた強弱記号があり、1番上の譜表にヘアピンを追加してその譜表にあった強弱記号とグループ化した結果、それが下の譜表にも自動的に追加された状態。

3つめの譜表の1小節目の終わりにあった **f** を削除した結果、ヘアピンが1番上の譜表と一致する長さまで延長された状態。

#### 補足

- 他の譜表にリンクされたグループから一部の強弱記号だけを削除した場合、削除した強弱記号は他のリンクされた譜表からも削除されます。1つの譜表から強弱記号のグループ全体を削除した場合、これは他の譜表のリンクされた強弱記号には影響しません。
- 強弱記号を垂直にリンクできるだけでなく、強弱記号を水平方向にもグループ化できます。これにより強弱記号は自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集できるようになります。
- 強弱記号のリンクとリンク解除はプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で強弱記号をリンクすることはできません。

#### 関連リンク

[強弱記号のグループ \(638 ページ\)](#)

[強弱記号のリンクの解除 \(642 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(282 ページ\)](#)

## 強弱記号のリンク

同一の強弱記号を別の譜表の同じ位置にコピーアンドペーストすると、強弱記号それぞれが自動的にリンクされます。また自動的にリンクされなかった強弱記号および強弱記号のグループは、手動でリンクさせることによって同時編集できるようになります。

ただし、強弱記号をリンクさせるためには、グループが同一である必要があります。たとえば、2つの強弱記号 **p** がいずれもグループに属していなければリンクできますが、一方がヘアピンとグループ化されている場合はリンクできません。

#### 手順

1. 記譜モードで、リンクさせる強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「リンク (Link)」 を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した強弱記号がリンクします。リンクされた強弱記号のうち1つをあとから変更した場合、リンクされたすべての強弱記号が合わせて変更されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

#### 関連リンク

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

[強弱記号のコピー \(627 ページ\)](#)

## 強弱記号のリンクの解除

自動的にリンクされたものも含めて、強弱記号のリンクを解除できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、リンクを解除するグループの強弱記号を1つ選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「リンクを解除 (Unlink)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

リンクされたグループに属するすべての強弱記号のリンクが解除されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

#### 関連リンク

[複数の譜表にわたってリンクされた強弱記号 \(640 ページ\)](#)

## 強弱記号のフォントスタイル

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログでは、強弱記号に使用されるフォントをいくつかの側面から変更できます。

- 「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択すると開きます。

強弱記号の外観に影響するのは以下のフォントです。

- **デフォルトのテキスト用フォント (Default Text Font):** 強弱記号の修飾語句を含む、プロジェクト中のすべてのフォントスタイルの親フォントです。
- **強弱に関する音楽テキスト用フォント (Dynamic Music Text Font):** *pf* や *mp* など、強弱記号のグリフに使用されます。
- **強弱テキスト用フォント (Dynamic Text Font):** 表現テキストを含む、強弱記号の修飾語句に使用されます。

#### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

## 強弱記号の修飾語句のフォントスタイルを編集する

強弱記号の修飾語句の外観に関わる2つのフォントの形式設定を編集できます。1つは強弱記号の修飾語句のみに影響し、もう1つはプロジェクト全体の文字に影響します。

「**デフォルトのテキスト用フォント (Default Text Font)**」はプロジェクト全体の親フォントであり、このフォントに変更を加えると、このフォントにリンクしているすべてのフォントに影響があります。これには強弱記号の修飾語句以外にも多くのフォントが含まれます。

「**強弱テキスト用フォント (Dynamic Text Font)**」は強弱記号の修飾語句に使用されます。このフォントに変更を加えると、表現テキストを含むすべての強弱記号の修飾語句に影響を与えますが、他のフォントスタイルには一切影響しません。

---

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから、以下のいずれかのフォントを選択します。
  - **デフォルトのテキスト用フォント (Default Text Font)**
  - **強弱テキスト用フォント (Dynamic Text Font)**
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
  - **フォントファミリー (Font family)**
  - **サイズ (Size)**
  - **スタイル (Style)**
  - **下線 (Underlined)**
4. 必要に応じて、手順2と3を繰り返してもう一方のフォントも変更します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

強弱記号の修飾語句に使用されるデフォルトのフォント、またはプロジェクト全体のフォントの形式設定が変更されます。

### 関連リンク

[強弱記号のフォントスタイル \(642 ページ\)](#)

## 強弱記号のグリフのフォントスタイルを編集する

強弱記号のグリフ (*mf* や *ff* など) に使用するフォントの形式設定を編集できます。ただし、SMuFLに準拠したフォントを選択する必要があります。

---

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
  2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから「**強弱に関する音楽テキスト用フォント (Dynamic Music Text Font)**」を選択します。
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - **フォントファミリー (Font family)**
    - **サイズ (Size)**
    - **スタイル (Style)**
    - **下線 (Underlined)**
  4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

#### 結果

強弱記号のグリフに使用するフォントの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[強弱記号のフォントスタイル](#) (642 ページ)

## 強弱記号の再生オプション

「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページで強弱のカーブの倍率を調節することにより、再生時に強弱記号がどのように反映されるかの設定を変更できます。

「再生オプション (Playback Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 再生モードで「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」を選択します。

そのあと、ダイアログの左側にあるページリストで「強弱記号 (Dynamics)」をクリックします。

### 強弱のカーブ

「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページの最上部のグラフには連続曲線が描かれています。この曲線は、強弱記号の *pppppp* から *fffff* までの範囲で音量がどのように増加するかを決定します。

強弱のカーブの強度が 1 の場合は直線が生成され、音量の増加は一定となります。*pppp* と *pp* の音量差は *p* と *mf* の音量差と等しくなります。

強弱のカーブの強度が 2 より大きい場合は曲線が生成され、範囲の中央付近の音量の増加率が大きくなります。*pppp* と *pp* の音量差は *p* と *mf* の音量差より大幅に小さくなります。

強弱のカーブの強度が大きくなるほど、範囲の中央付近で音量差が大きくなり、範囲の両端で音量差が小さくなります。

プロジェクトで使用する強弱記号の範囲が広く、*pppp* や *ffff* のような強弱記号まで使用する場合、範囲の両端における音量差を大きくするために、強弱のカーブの強度は低い方がよい場合があります。

プロジェクトで使用する強弱記号の範囲が狭く、最小が *pp*、最大が *ff* であるような場合、範囲の中央付近における音量差がより目立つように、強弱のカーブの強度は高い方がよい場合があります。

#### 補足

強弱のカーブの変更は、プロジェクト中のすべてのインストゥルメントの再生に影響を与えます。

### 音符の強弱

「強弱 (Dynamics)」ページの「音符の強弱 (Note Dynamics)」セクションでは、再生時の音符の音量が強勢およびアーティキュレーション記号にどれだけ影響されるか設定できます。

### ヒューマナイズ

「ヒューマナイズ (Humanize)」は、設定した度合いでダイナミクスをランダムで変化させ、生演奏の自然なゆらぎを模倣するものです。

## サスティン楽器と非サスティン楽器

サスティン楽器と非サスティン楽器の音量設定は、段階的強弱記号の制御の面で異なります。

それぞれのソフトウェアインストゥルメントの設定の制御は、「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、左側のリストからソフトウェアインストゥルメントを選択して行なえます。

## サスティン楽器

弦楽器、木管楽器、そして金管楽器はサスティン楽器です。これらの楽器は音を伸ばしながら、その間ずっと音量を制御できるためです。

Dorico Pro は再生時、これらのインストゥルメントに段階的強弱記号を適用します。それぞれのソフトウェアインストゥルメントの設定の制御は、「再生 (Play)」 > 「**エクスペッションマップ (Expression Maps)**」を選択して、左側のリストからソフトウェアインストゥルメントを選択して行なえます。

## 非サスティン楽器

ピアノ、ハープ、マリンバ、および打楽器インストゥルメントの大部分などの非サスティン楽器は、打音後に音量を制御できません。このため、非サスティン楽器のソフトウェアインストゥルメントは多くの場合、音符の開始位置で設定されるノートベロシティをダイナミクスに使用します。

## 音量タイプのための VST エクスペッションマップ

サードパーティー製サウンドライブラリーを使用する場合、インストゥルメントを段階的強弱記号に反応させるために、エクスペッションマップの変更または編集が必要となる場合があります。これを行わない場合、サウンドライブラリーは初期設定ではベロシティを使用します。

エクスペッションマップのダイナミクスの設定は、インストゥルメントの構成によって左右されます。詳細については、サウンドライブラリーの説明書を参照してください。

Dorico Pro では、以下のデフォルトのエクスペッションマップが提供されています。

- MIDI チャンネルのエクスペッションの変化によりダイナミクスを得る「**CC11 ダイナミクス (CC11 Dynamics)**」
- MIDI コントローラー 1 の変化によりダイナミクスを得る「**モジュレーションホイールダイナミクス (Modulation Wheel Dynamics)**」

エクスペッションマップの編集は、「再生 (Play)」 > 「**エクスペッションマップ (Expression Maps)**」を選択すると開く「**エクスペッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで行なえます。

# フィンガリング

フィンガリングは、音符に使用が推奨される指をプレーヤーに指示するために楽譜に追加されます。これは、楽器習得中のプレーヤー向けの楽譜や、難しいパッセージで、特定のフィンガリングのパターンを使用すると音符の演奏が容易になる場合などに効果的です。

フィンガリングは、音符の演奏に 10 本の指すべてを使用する鍵盤楽器の楽譜や、フレット位置と同時に使用されることの多いギター楽譜によく使用されます。しかし、フィンガリングはそれ以外の楽器でも効果的な場合があります。たとえば、弦楽器プレーヤーが音符を伸ばしている間に弦を押さえる指を替えることを指示する場合や、木管楽器プレーヤーのある音符に対し、特殊な音響効果を与えるために、通常とは異なるフィンガリングの使用を指示する場合などです。

ピアノの楽譜には、替え指のフィンガリングや代替フィンガリングを含む複数のフィンガリングが記譜されます。

Dorico Pro は、金管楽器のためのフィンガリングも作成できます。たとえばトランペットやホルンなどの楽器では、プレーヤーが押下するバルブを指定でき、ダブルホルンにおいては、プレーヤーに使用を求めるホルンの支管を指定できます。

Dorico Pro は、フィンガリングの外観に関する一般的な慣習に従い、初期設定では太字のローマ字フォントをフィンガリングに使用します。フィンガリングに使用するフォントに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。

## 関連リンク

[フィンガリングの入力 \(187 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(188 ページ\)](#)

[フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更する \(654 ページ\)](#)

## フィンガリングの一般的な配置規則

フィンガリングは、演奏者が容易かつ明瞭に読めるように、それが属する音符のできるだけ近くに配置されます。

ピアノやハーブなど大譜表を用いるインストゥルメントの楽譜においては、右手のフィンガリングは上段の譜表の上、左手のフィンガリングは下段の譜表の下に配置するのが一般的です。しかし、これらの

インストゥルメントにおける対位法で記載される密度の高い楽譜については、フィンガリングはそれが属する声部の方向に従い、譜表の中間にも配置できます。

## 浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する

フィンガリングの外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。

「**フィンガリング (Fingering)**」ページのオプションにより、標準の音符および装飾音符のフィンガリングのフォント、サイズ、外観、配置および詳細な位置を変更できます。これには金管楽器などインストゥルメントグループごとの詳細設定、およびフィンガリングの囲み線や下線のデザインも含まれます。また、スラー、オクターブ線および連符に対するフィンガリングの位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## フィンガリングを替え指のフィンガリングに変更

替え指のフィンガリングは、音符に使用する指を変更することをプレーヤーに指示します。すでに入力してあるフィンガリングは、替え指のフィンガリングに変更できます。

手順

1. 替え指のフィンガリングに変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**替え指 (Substitution)**」をオンにします。
3. 替え指に使用するフィンガリングを数値フィールドに入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したフィンガリングが替え指のフィンガリングとして表示されるようになります。初期設定では替え指を行なうまでの遅延がなく、替え指の位置は元のフィンガリングと同じですが、替え指のフィンガリングの位置は変更できます。

## 替え指のフィンガリングの位置の変更

替え指のフィンガリングは、初期設定では元のフィンガリングの直後に表示され、これは替え指が同じ音符で行なわれることを意味しますが、替え指が行なわれる位置は個別に変更できます。

手順

1. 替え指の実行まで待機する位置を変更する替え指のフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、替え指のフィンガリングの位置を変更します。
  - 記譜モードで、丸いハンドルをクリックして任意の水平位置にドラッグします。
  - 記譜モードまたは浄書モードで、プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで「**替え指のオフセット (Substitution offset)**」をオンにします。

左側の数値フィールドに4分音符の分数で数値を入力するか、数値フィールドの横の矢印をクリックして、替え指の位置を変更します。値を増やすと後ろの位置に、減らすと前の位置に替え指が移動します。

#### 補足

右側の数値フィールドは、装飾音符の位置に替え指が発生する場合に使用します。

---

#### 結果

替え指のフィンガリングの位置が変更されます。

Dorico Pro では、替え指と同時に発生する他のフィンガリングに対し適切に並ぶように、遅い替え指は自動的に配置されます。

#### 補足

マウスでハンドルをドラッグする場合、1度に位置を変更できる替え指のフィンガリングは1つだけです。しかし、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで「替え指のオフセット (Substitution offset)」を使用すれば、一度に複数の替え指のフィンガリングの位置を変更できます。

即時の替え指にスラーを表示する設定を選択している場合でも、遅い替え指は常に横棒線が表示されません。

---

#### 関連リンク

[フィンガリングのポップオーバー \(188 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## 既存のフィンガリングの変更

フィンガリングは、たとえば他のフィンガリングの方が適切だと判断した場合、入力後でも自由に変更できます。

---

#### 手順

1. 変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「フィンガリングまたはポジション (Finger or position)」の入力フィールドに、任意のフィンガリングを新規に入力します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したフィンガリングが変更されます。

#### ヒント

また既存のフィンガリングは、記譜モードでフィンガリングのポップオーバーを開いても変更できません。ポップオーバーには、選択した音符に付いているフィンガリングが表示されます。

---

#### 関連リンク

[フィンガリングの入力 \(187 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(188 ページ\)](#)



## フィンガリングの表示位置の移動

フィンガリングは、その属する符頭とは個別に表示位置を移動できます。

### 補足

フィンガリングは音符の一部として存在するため、音符と別のリズム上の位置には移動できません。フィンガリングを他の符頭に移動する場合は、既存のフィンガリングを削除してから、移動先の符頭にフィンガリングを再入力します。

---

### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するフィンガリングを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、フィンガリングを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

### 結果

フィンガリングが異なる表示位置に移動します。

### ヒント

フィンガリングを移動すると、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループにある「オフセット (Offset)」が自動的にオンになります。

- 「オフセット X (Offset X)」はフィンガリングを水平方向に移動します。
- 「オフセット Y (Offset Y)」はフィンガリングを垂直方向に移動します。

このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、フィンガリングを移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したフィンガリングが初期設定の位置にリセットされます。

---

## フィンガリングの位置をリセットする

表示位置を移動したフィンガリングの位置を個別にリセットできます。

### 手順

1. 浄書モードで、位置をリセットするフィンガリングを選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって位置をリセットします。
    - 「編集 (Edit)」 > 「ポジションをリセット (Reset Position)」を選択します。
    - プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「オフセット (Offset)」をオフにします。
-

## 譜表に対するフィンガリングの位置を変更する

Dorico Pro は表記規則に従い自動的にフィンガリングを配置しますが、譜表に対するフィンガリングの配置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

表記規則に従うと、鍵盤楽器のフィンガリングは右手の譜表の上、および左手の譜表の下に配置されます。弦楽器および金管楽器のフィンガリングは常に譜表の上に配置されます。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置を移動するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「譜表との相対位置 (Staff-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

---

### 結果

選択したフィンガリングが譜表の上または下に表示されます。

---

### ヒント

譜表に対するフィンガリングの位置が声部の向きに従うようプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページで設定できます。

これは、フィンガリングが上段の譜表の上および下段の譜表の下に配置されるだけでは分かりづらい場合がある、複雑な対位法による楽譜に効果的です。

---

### 関連リンク

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## スラー、オクターブ線および連符の角括弧に対するフィンガリングの位置を変更する

初期設定では、フィンガリングはスラーの弧の内側に配置されますが、スラーの始端と終端では外側に配置されます。個々のスラーに対するフィンガリングの表示位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、スラーに対する位置を変更するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スラーとの相対位置 (Slur-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 内側 (Inside)
  - 外側 (Outside)

---

### 結果

選択したフィンガリングのスラー、オクターブ線および連符の角括弧に対する位置が変更されます。

#### 補足

- フィンガリングがスラーの最初または最後の音符にも付いている場合、フィンガリングはこれらの記譜記号すべての外側に配置されます。
  - スラー、オクターブ線および連符の角括弧に対するすべてのフィンガリングの位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。
- 

#### 関連リンク

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## フィンガリングのサイズを変更する

フィンガリングのサイズは、それが属する符頭のサイズを変更することなく個別に変更できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、サイズを変更するフィンガリングを選択します。
  2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**スケール (Scale)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したフィンガリングの縮尺が変更されます。たとえば、値を 50 に変更すると、選択したフィンガリングの縮尺が標準サイズの半分になります。

#### ヒント

すべてのフィンガリングのデフォルトのサイズに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」の「**フィンガリング用フォント (Fingering Font)**」のサイズを変更することによって変更できます。

---

#### 関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイルの編集 \(654 ページ\)](#)

## フィンガリングに囲み線/下線を表示する

フィンガリングは個別に丸い囲み線または下線を付けて表示できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、囲み線/下線を表示するフィンガリングを選択します。
  2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**デコレーション (Decoration)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **丸 (Circle)**
    - **下線 (Underline)**
- 

#### 結果

選択したフィンガリングに選択したデコレーションが表示されます。

#### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、線の太さなどのフィンガリングの装飾について、プロジェクト全体のデフォルトのデザインを決定する設定を表示できます。

---

#### 例



丸で囲まれたフィンガリング



下線付きのフィンガリング

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## フィンガリングの表示/非表示

フィンガリングの表示と非表示は、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。たとえば、パートレイアウトではフィンガリングを表示させつつ、フルスコアレイアウトでは非表示にできます。指揮者がフィンガリングの情報を必要とすることはまれなためです。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、フィンガリングを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
  4. 「**フィンガリング (Fingering)**」セクションで、「**フィンガリングを表示 (Show fingering)**」をオンまたはオフにします。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトのすべてのフィンガリングが、チェックボックスがオンのときは表示、チェックボックスがオフのときは非表示になります。

#### 関連リンク

[親切フィンガリングの外観を変更する \(655 ページ\)](#)

## フィンガリングの削除

フィンガリングは入力後に音符から削除できます。ただし、フィンガリングは単独のアイテムではなく音符の一部と見なされるため、他のアイテムのようにそれ自体を選択しての削除はできません。

### 手順

1. フィンガリングを削除する音符を選択します。浄書モードにおいては、フィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「フィンガリングまたはポジション (Finger or position)」をオフにします。

### 結果

選択した音符からすべてのフィンガリングが削除されます。

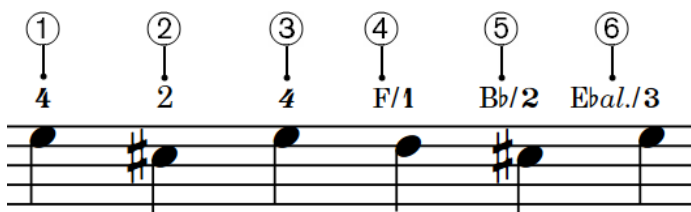
### 関連リンク

[大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)

## フィンガリングのフォントスタイル

太字のフィンガリングと標準のフィンガリングは異なるフォントを使用します。フィンガリングに使用するフォントスタイルの各種設定は、「[フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)](#)」ダイアログで変更できます。

- 「[フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)](#)」ダイアログは、浄書モードで「[浄書 \(Engrave\)](#)」 > 「[フォントスタイル \(Font Styles\)](#)」を選択すると開きます。



フィンガリングには以下のフォントが使用されています。

- 1 **フィンガリング用フォント (Fingering Font)**: 太字のフィンガリングに使用されます。
- 2 **フィンガリング用テキストフォント (Fingering Text Font)**: 標準のフィンガリングに使用されます。
- 3 **フィンガリング用イタリックテキストフォント (Fingering Text Italic Font)**: 斜体のフィンガリングに使用されます。
- 4 **「ホルンの支管のフィンガリングのテキストフォント (Fingering Horn Branch Text Font)」**: ホルンの支管の指示記号の音名に使用されます。
- 5 **「ホルンの支管のフィンガリングの臨時記号のフォント (Fingering Horn Branch Accidental Font)」**: ホルンの支管の指示記号の臨時記号に使用されます。
- 6 **「ホルンの支管指示のテキストフォント (Fingering Horn Branch Alto Text Font)」**: トリプルホルンの支管の指示記号におけるアルトの省略に使用されます。

### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更する

初期設定では、フィンガリングは太字のアラビア数字フォントで描かれ、これは拍子記号の数字に近い外観です。プロジェクト全体のフィンガリングに使用されるフォントを変更できます。これはフィンガリングの数字、括弧および角括弧の外観に影響します。

### 補足

親指の指示記号、替え指の線とスラー、および金管楽器のバルブの区切り文字に使用するフォントは変更されません。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
  3. 「**デザイン (Design)**」セクションの「**フィンガリングの外観 (Fingering appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **太字 (Bold font)**
    - **標準 (Plain font)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

プロジェクト全体でフィンガリングに使用するフォントスタイルが変更されます。

### ヒント

フォントスタイルの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。太字のフィンガリングは「**フィンガリング用フォント (Fingering Font)**」を使用します。標準のフィンガリングは「**フィンガリング用テキストフォント (Fingering Text Font)**」を使用します。

---

### 関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイルの編集 \(654 ページ\)](#)

## フィンガリングのフォントスタイルの編集

プロジェクト全体のフィンガリングに使用されるフォントスタイルの形式設定を編集できます。たとえば、初期設定よりも大きく表示したりできます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
  2. 編集するフィンガリングのフォントスタイルを「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから選択します。
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - **フォントファミリー (Font family)**
    - **サイズ (Size)**
    - **スタイル (Style)**
    - **下線 (Underlined)**
  4. 必要に応じて、手順 2 と 3 を繰り返して複数のフォントスタイルを編集します。
  5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

#### 結果

選択したフィンガリングのフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイル](#) (653 ページ)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する](#) (647 ページ)

[フィンガリングのサイズを変更する](#) (651 ページ)

## 個々のフィンガリングを斜体で表示する

フィンガリングは太字の立体フォントで表示されるのが標準ですが、個々のフィンガリングについては斜体による表示もできます。

#### 手順

1. 浄書モードで、斜体で表示するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「斜体 (Italic)」をオンにします。

#### 結果

選択したフィンガリングが、プロジェクト全体の設定が太字フォントの場合は太字の斜体フォント、プレーンフォントの場合はプレーンの斜体フォントで表示されます。

#### 補足

太字斜体のフィンガリングは連符の数字に極めて似ているため、まぎらわしい場合があります。

## 親切フィンガリング

親切フィンガリングは、先の位置で指定されたフィンガリングが、演奏中の音符にそのまま適用されることをプレイヤーに伝えます。Dorico Pro は、先にフィンガリングを指定した音符の演奏中の位置に他のフィンガリングが追加された場合、自動的に親切フィンガリングを表示します。

初期設定では、親切フィンガリングは括弧に入って表示されます。親切フィンガリングには括弧なしの表示や完全な非表示も選択でき、これはプロジェクト全体に反映されます。また親切フィンガリングの外観は個別に変更でき、これによりたとえば、組段区切りやフレーム区切りをまたぐタイでつながれた音符に、手動で親切フィンガリングを表示できます。



括弧つきで表示される親切フィンガリング (デフォルト)

## 親切フィンガリングの外観を変更する

親切フィンガリングの外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これによりたとえば、特定のフィンガリングについて括弧をなくしたり、非表示にしたりできます。

#### 手順

1. 浄書モードで、親切フィンガリングの外観を変更する符頭を選択します。

#### 補足

フィンガリング自体ではなく、親切フィンガリングが適用される特定の符頭を選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「親切臨時記号 (Cautionary)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - デフォルト (Default)
  - 括弧つき (With parentheses)
  - 括弧なし (Without parentheses)
  - 抑制 (Suppress)

#### 結果

選択した音符の親切フィンガリングの外観が変更されます。

#### ヒント

すべての親切フィンガリングのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「代替、編者注および親切フィンガリング (Alternative, Editorial and Cautionary)」セクションで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[親切フィンガリング \(655 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## バルブ式金管楽器のフィンガリング

トランペットやホルンなどのインストゥルメントにおいては、特定の音を出す上でどのバルブを押下するかを示すために、フィンガリングが使用されます。

バルブ式金管楽器のフィンガリングは、フィンガリングのポップオーバーに、区切り文字なしの数字で入力できます。たとえば、トランペットのC#の音に12と入力して、1番めと2番めのバルブを押下するよう指示します。

初期設定では、Dorico Pro は金管楽器の譜表の音符に追加されるフィンガリングを自動的に縦に積み重ねます。初期設定では区切り文字は表示されません。

バルブ式金管楽器のフィンガリングの外観は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「金管楽器 (Brass)」セクションで変更できます。たとえば、バルブ式金管楽器のフィンガリングは、横一列または縦に積み重ねて表示できます。区切り文字の外観も変更でき、また非表示にできます。

バルブ式金管楽器のフィンガリングの各部分に使用されるフォントの形式設定を編集することもできます。

#### 関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイル \(653 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(188 ページ\)](#)

[フィンガリングの入力 \(187 ページ\)](#)

## ホルンの支管の指示記号の表示

ホルンのフィンガリングに先頭テキストとして支管の指示記号を加えることにより、ダブルホルンおよびトリプルホルンに対し、音符を演奏する支管を指示できます。単に親指 (thumb) の“T”を表記する場



合もあれば、ピッチを明記することにより、どの支管を使用するかより明確に指示する場合があります。

#### 補足

支管の指示記号を追加できるのは、F 調のホルンに属する音符だけです。

---

#### 手順

1. 支管の指示記号を追加するホルンのフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「ホルンの支管 (Horn branch)」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのホルンの支管を選択します。
    - F
    - B フラット (B flat)
    - F アルト (F alto)
    - E フラットアルト (E flat alto)
    - サムトリガー (Thumb trigger)
- 

#### 結果

選択したフィンガリングに支管の指示記号が追加されます。

#### ヒント

支管の指示記号の外観は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「金管楽器 (Brass)」セクションで変更できます。

---

#### 関連リンク

[フィンガリングの入力 \(187 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(647 ページ\)](#)

## 金管楽器のスライドポジションの外観の変更

トロンボーンなどのスライド式金管楽器においては、スライドポジションの表示にはアラビア数字かローマ数字のいずれかを使用できます。初期設定では、Dorico Pro はスライドポジションにアラビア数字を使用します。

#### 補足

プロジェクトにおいてスライドポジションの表示にローマ数字を選択していたとしても、フィンガリングのポップオーバーにスライドポジションを入力する際は、アラビア数字を使用しなければなりません。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「フィンガリング (Fingering)」をクリックします。
3. 「金管楽器 (Brass)」セクションの「スライドポジションの外観 (Slide position appearance)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - アラビア数字 (Arabic numerals)
  - ローマ数字 (Roman numerals)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

スライド式金管楽器のスライドポジションに使用する数字のスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[フィンガリングの入力 \(187 ページ\)](#)

## 弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示

弦楽器プレーヤーが指板の上で指のポジションをシフトさせて、前の音符から指を変えずに高い/低い音符を演奏しなければならない場合、斜めの線を使用してこの移動方向を指示できます。

#### 手順

1. 弦楽器の譜表上で、フィンガリングシフトの開始を指示する音符またはフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「次の音符へのシフトを指示 (Indicate shift to next note)」をオンまたはオフにします。

#### 結果

シフト指示記号が、プロパティをオンにしたときは表示 (各端の音符にフィンガリングが明記されていない場合を含む)、プロパティをオフにしたときは非表示になります。シフト指示記号は選択した音符とその直後の音符の間に配置されます。

#### ヒント

シフト指示記号の長さ、太さ、角度および配置は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「弦楽器におけるフィンガリングのシフト (String Fingering Shifts)」セクションで変更できます。

#### 例



#### 関連リンク

[個々の音符について演奏する弦を指定する \(733 ページ\)](#)

## 弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号の方向を変更する

個々の弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号が望む向きとは異なる場合、これを変更できます。

#### 手順

1. 向きを変更するシフト指示記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「シフト方向 (Shift direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Up)

- **下 (Down)**

---

結果

選択したシフト指示記号が上向きまたは下向きに変更されます。

補足

また、音符を演奏する弦を指定しても、弦楽器のシフト指示記号の方向に影響を与られません。

---

関連リンク

[個々の音符について演奏する弦を指定する \(733 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルから読み込まれたフィンガリング

Dorico Pro は、MusicXML ファイルのフィンガリング要素を使用して指定されたフィンガリングを読み込みます。

Finale から書き出された MusicXML ファイルであれば、フィンガリングは通常正しく表現されます。しかし Sibelius はフィンガリング要素を使用しないため、Sibelius によって書き出された MusicXML ファイルからは、Dorico Pro はフィンガリングを読み込めません。

# 前付け

Dorico Pro において前付けとは、スコアの 1 小節めより前に含まれるすべての情報を幅広く指します。

前付けには、スコアの 1 ページめより前のページに加えられることが多い、音楽に関する以下のような情報が含まれます。

- 演奏上の指示
- 目次
- 楽器編成リスト

前付けには、スコアやパートの 1 ページめで楽譜の上に表示される、以下のような情報も含まれます。

- 献呈
- タイトル
- サブタイトル
- 作曲者

プロジェクト中では、楽譜から独立した情報はすべてフレーム内に追加する必要があります。フレームは浄書モードで追加および編集できます。これはレイアウト内の個々のページまたはマスターページで行なえます。マスターページとは、同じマスターページのセットを使用するすべてのレイアウトの複数のページに同じ形式設定を適用できるものです。たとえば最終ページに含まれる組段が共通して少ないことを理由に、すべてのパートレイアウトの最終ページの楽譜フレームを小さくするような場合、マスターページが役に立ちます。

関連リンク

[マスターページ \(304 ページ\)](#)

[マスターページのセット \(305 ページ\)](#)

[マスターページのタイプ \(307 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[フレーム \(325 ページ\)](#)

## デフォルトのマスターページに使用されるプロジェクト情報

プロジェクト内の異なるレイアウトにおけるすべてのテキスト情報を一致させる効率的な方法は、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログに入力した現在のプロジェクト用の情報にリンクしたトークンを使用することです。

トークンとは、異なる場所にあるテキストを参照するコードのことで、これは元のテキストが変更されると自動的に更新されます。

Dorico Pro のデフォルトのマスターページにはトークンが使用され、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログで各フローについて入力した情報が自動的に表示されるようになっています。たとえば、「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」のマスターページのセットは、各フローに以下の情報を表示します。

- 作曲者
- 作詞者

- タイトル

#### 補足

これらのトークンは、プロジェクト情報の各フローの情報に初期設定でリンクされています。「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログの「プロジェクト (Project)」用の情報しか入力していない場合、テキストは表示されません。

---

#### 関連リンク

- 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ (92 ページ)
- フロー名とフロータイトル (122 ページ)
- テキストトークン (335 ページ)

## マスターページへの献呈の追加

献呈をマスターページに加えることにより、それを複数のレイアウトに表示できます。献呈は通常スコアのタイトルの上に、タイトルより小さなフォントサイズで、斜体で表示されます。

#### 前提

- 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのいずれかの「献呈 (Dedication)」フィールドに、献呈を入力しておきます。プロジェクト全体用および各フロー用の献呈をそれぞれ別個に入力できます。
  - 献呈に新しいパラグラフスタイルを使用する場合は、新しいパラグラフスタイルを作成しておきます。
- 

#### 手順

1. 浄書モードで、献呈を追加するマスターページが含まれるマスターページのセットを使用するレイアウトを楽譜領域に開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションの「現在のセット (Current set)」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

---

2. ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで、献呈を追加するマスターページのペアをダブルクリックします。  
楽譜領域にマスターページエディターが開きます。
  3. タイトルのテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
  4. カーソルをタイトルのトークンの開始位置に配置します。
  5. **[Return]** を押して、タイトルのトークンの上に新規行を入力します。
  6. タイトルのトークンの上の新規行に、以下のいずれかのトークンを入力します。
    - `{@flowDedication@}` は、フロー用の献呈を表示します。
    - `{@projectDedication@}` は、プロジェクト全体用の献呈を表示します。
  7. 必要に応じて、テキストエディターのオプションを使用して献呈のテキストの外観を変更します。
  8. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。
- 

#### 結果

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログの対応するフィールドに献呈が入力されている場合、選択したマスターページの形式を使用するすべてのページのタイトルの上に献呈が表示されます。

関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(92 ページ\)](#)

[パラグラフスタイルの作成 \(372 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

## プレイヤーリストを追加する

プレイヤーリストのテキストのトークンは、どのレイアウトまたはマスターページにも追加できます。これはレイアウトに属するすべてのプレイヤーを、各プレイヤーに割り振られたすべてのインスタウルメントを含めて自動的に表示します。

前提

- プレイヤーリストをマスターページに追加する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- プレイヤーリストを新しいテキストフレームに追加する場合は、プレイヤーリストを表示する位置にテキストフレームを入力しておきます。

手順

1. プレイヤーリストを追加するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
2. `{@playerlist@}` と入力します。
3. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command]+[Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

結果

プレイヤーリストのテキストのトークンが追加されます。レイアウトにおいては、これにすべてのプレイヤーのリストが代入されます。これをマスターページに追加すると、テキストフレームとテキストのトークンが、マスターページを使用するすべてのレイアウトのすべてのページに自動的に追加されます。

補足

マスターページを変更しても、上書きのあるページは更新されません。

例

`{@playerlist@}`

テキストフレーム内のプレイヤーリストのトークン

Oboe & Oboe d'Amore  
Piano

レイアウトにおいてプレイヤーが代入されたプレイヤーリストのトークン

関連リンク

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

[ページの優先 \(311 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

## マスターページの欄外見出しのテキストの変更

「デフォルトのパート譜 (Default Part)」のマスターページには、欄外見出しとして各フロー 1 ページめの左上、および 2 ページめ以降の上部に中央揃えでパート名を表示します。

欄外見出しに表示するテキストに、たとえばフローのタイトルも含めたい場合は、そのようにテキストを変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、欄外見出しのテキストを変更するマスターページが含まれるマスターページのセットを使用するレイアウトを楽譜領域に開きます。

#### 補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、欄外見出しのテキストを変更するマスターページのペアをダブルクリックします。  
楽譜領域にマスターページエディターが開きます。
3. ヘッダーのテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
4. ヘッダーテキストを変更または削除します。  
たとえば、ヘッダーテキストにパート名とフローのタイトルの両方をダッシュで区切って表示させる場合は、テキストフレームのパート名のトークンの後に `-{@flowTitle@}` と入力します。
5. `[Esc]` または `[Ctrl]/[command]+[Return]` を押してテキストエディターを閉じます。

### 結果

選択したマスターページの形式を使用するすべてのレイアウトの欄外見出しテキストが変更されます。

### 例

`{@layoutName@} - {@flowTitle@}`

テキストフレームに追加されたトークンのテキスト

Violin I - Allegro con moto

パートレイアウトに表示されるトークンのテキスト

### 関連リンク

[マスターページエディター \(309 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(341 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(342 ページ\)](#)

[テキストのパラグラフスタイルの変更 \(377 ページ\)](#)

# 装飾音符

装飾音符とは、固定したデュレーションを持たず、素早く演奏することを意図された音符です。装飾音符は標準の音符の縮小版であり、通常は符尾にスラッシュを伴って表示されます。

符尾にスラッシュが付いた装飾音符は、アチャカトゥーラまたは短前打音と呼ばれ、多くの場合は非常に速く演奏されます。符尾にスラッシュの付かない装飾音符は、アポジャトゥーラまたは長前打音と呼ばれ、多くの場合は短前打音よりゆっくり演奏されます。

バロック音楽においては、アポジャトゥーラは多くの場合、現在の拍子と適用される符頭の音価に基づいて特定のデュレーションの間持続させるものと解されます。

装飾音符は、それが適用される符頭(すぐ右にある符頭)の直前の時間に収めるよう意図されているため、リズム上の時間を占めることはありません。

符頭の前には複数の装飾音符が付く場合もあります。同じ符頭に2つ以上の装飾音符が付いており、8分音符や16分音符のような符尾が付く音価の場合、自動的に連符で連結されます。



音符の前の複数の装飾音符

Dorico Pro では、装飾音符は初期設定では標準の符頭の 3/5 のサイズに縮小されますが、これは音符のスペーシングの設定に影響されます。装飾音符のスペーシングについては、専用に個別のオプションが用意されています。

装飾音符には、標準の音符と同じ手順でスラーやアーティキュレーションなどの記譜記号を追加でき、入力後に移調もできます。

## 関連リンク

- [装飾音符の入力 \(170 ページ\)](#)
- [装飾音符のスラッシュ \(667 ページ\)](#)
- [装飾音符に対するスラーの位置 \(880 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(177 ページ\)](#)
- [アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)
- [スラーの入力 \(267 ページ\)](#)



## 装飾音符の一般的な配置規則

装飾音符の振る舞いは多くの点で標準の音符と同様ですが、符尾の方向、符頭に対する位置、および符尾のスラッシュの位置について、特有の配置規則があります。

装飾音符は初期設定では符尾が上向きで表示されますが、1つの譜表の複数の声部それぞれに装飾音符がある場合は例外であり、この場合は下向きの声部の装飾音符の符尾が下向きになります。これにより、装飾音符に対するスラーの位置が影響されます。

装飾音符は、それが拍の手前ではなく拍と同時に演奏されることを意図している場合であっても、常に符頭の前に配置されます。通常は適用される符頭の直前になるように、小節線より後に配置されます。しかし、装飾音符が3つ以上のグループの場合は、小節の1拍めの音符が小節線から離れすぎないように、小節線より前に配置されることもあります。

装飾音符の符尾のスラッシュは、複数の装飾音符が同じ位置で1つの連桁に括られる場合は、連桁の開始位置に表示されます。装飾音符が1つの場合は、スラッシュは符尾および符鉤をまたぐ形で表示されます。



臨時記号が追加されると、標準の音符と同様、臨時記号が読みやすいように音符のスペーシングが再調整されます。

装飾音符にアーティキュレーションが付く場合は、最も読みやすい場所、ほとんどの場合は譜表の外側に追加されます。Dorico Pro は自動的にアーティキュレーションを装飾音符の符尾側に、そして符尾または連桁が譜表の内側にある場合は譜表の外側に配置します。

### 装飾音符に対するスラー

初期設定では、装飾音符からはじまってタイのつながりの音符で終わるスラーは、タイのつながりの最初の音符に終端が付きます。タイのつながりに対するスラーの位置は個別に変更できますが、装飾音符からはじまるスラーも同様です。

すべての装飾音符に対するスラーのデフォルト位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションで変更できます。このセクションでは、複声部における装飾音符に対するスラーの位置設定も行なえます。

同じページの「**タイでつながれた音符 (Tied notes)**」セクションでは、スラーが装飾音符から始まる場合の、タイのつながりに対するスラーのデフォルトの位置を変更できます。

#### 関連リンク

[小節線に対する装飾音符の位置の変更 \(666 ページ\)](#)

[装飾音符に対するスラーの位置 \(880 ページ\)](#)

[タイのつながりに対するスラーの位置 \(879 ページ\)](#)

[タイのつながりに対するスラーの位置を変更する \(880 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

## 複声部における装飾音符の配置

記譜の一般的な表記規則に従い、装飾音符は譜表に声部が1つのときは、適用される符頭の符尾が下向きであっても、初期設定では符尾は上向きで表示されます。

しかし、譜表に複数の声部がある場合、上向きの声部に属する音符はすべて上向きに、そして下向きの声部はすべて下向きに表示され、これに装飾音符も従います。Dorico Pro ではこの調整は自動的に行なわれませんが、複声部における装飾音符の符尾の方向は、必要に応じて個別に上書きもできます。



関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)

[装飾音符に対するスラーの位置 \(880 ページ\)](#)

## 小節線に対する装飾音符の位置の変更

初期設定では、適用される符頭が小節の最初の音符である場合を含めて、装飾音符は符頭の直前かつ小節線より後に配置されます。個々の装飾音符については小節線より前に配置できます。これによりたとえば、小節の最初の標準の音符が小節線から離れすぎないようにしたり、装飾音符が拍より前に演奏されることを表わしたりできます。

手順

1. 小節線に対する位置を変更する装飾音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」グループで、「小節線前の装飾音符 (Grace note before barline)」をオンまたはオフにします。

結果

選択した装飾音符が、プロパティをオンにしたときは小節線の前に、プロパティをオフにしたときは小節線の後に配置されます。

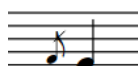
## 装飾音符の位置をプロジェクト全体で変更する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページにある「装飾音符 (Grace Notes)」セクションでは、装飾音符とそれが適用される符頭とのデフォルトの距離を変更できます。

一番右にある装飾音符の右側の最小距離の値を増やすと、装飾音符はその適用される符頭から遠ざかり、値を減らすと近づきます。



デフォルトの最小値 (右側の符頭に対し 1/2 スペース) に設定された装飾音符



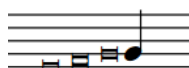
より大きい値 (右側の符頭に対し 1.5 スペース) に設定された装飾音符

また装飾音符の位置は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページで装飾音符のスペーシングの倍率を変更することにより、レイアウトごとに個別に調整できます。

装飾音符のスペーシングの倍率を下げると、同じ位置にある複数の装飾音符の間隔が狭くなります。



音符のスペーシングの倍率がデフォルトの 70% に設定された、3つの長いデュレーションの装飾音符



音符のスペーシングの倍率を 20% に下げた場合の、3つの長いデュレーションの装飾音符

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

## 装飾音符のサイズ

装飾音符は標準の音符を小さくしたもので、デフォルトの設定では標準の音符に対し 3/5 の比率で縮小されます。

装飾音符のデフォルトのサイズをプロジェクト全体で制御するための比率の入力欄は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションにあります。

また装飾音符のサイズは、標準の音符と同じ手順で個別に変更できます。

関連リンク

[音符のサイズを個別に変更する \(729 ページ\)](#)

## 装飾音符のスラッシュ

装飾音符の符尾を斜めに横切るスラッシュは、多くの場合は装飾音符の異なるタイプを区別するために使用されます。符尾にスラッシュが付いた装飾音符は、アチャカトゥーラまたは短前打音と呼ばれ、多くの場合は非常に速く演奏されます。符尾にスラッシュの付かない装飾音符は、アボジャトゥーラまたは長前打音と呼ばれ、多くの場合は短前打音よりゆっくり演奏されます。

Dorico Pro では、装飾音符は初期設定では符尾にスラッシュを付けて表示されます。装飾音符にスラッシュを付けるか付けないかの変更は、音符の入力中にも、入力後に装飾音符のタイプを変更することも行なえます。

装飾音符の符尾のスラッシュの各部分の詳細な寸法は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」のセクションで設定できます。

このセクションでは、以下の設定を変更できます。

- 装飾音符の符尾のスラッシュの太さ
- 装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの長さ
- 符尾の先端に対する装飾音符の符尾のスラッシュの位置

## 装飾音符のタイプを個別に変更する

装飾音符は、入力後にタイプを個別に変更できます。装飾音符はスラッシュ付きの符尾がデフォルトですが、これをスラッシュなしの符尾に変更できます。

---

手順

1. タイプを変更する装飾音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**装飾音符 (Grace Notes)**」グループで、「**装飾音符のタイプ (Grace note type)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。

- **スラッシュ付きの符尾**



- **スラッシュなしの符尾**



#### 結果

選択した装飾音符がスラッシュ付きまたはスラッシュなしの符尾で表示されます。

#### ヒント

装飾音符のタイプは、ステップ入力の中でも変更できます。

---

#### 関連リンク

[装飾音符のスラッシュ \(667 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(170 ページ\)](#)

## 装飾音符の符尾のスラッシュの位置を変更する

装飾音符のスラッシュの垂直位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できません。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、スラッシュの位置を変更する装飾音符を選択します。
  2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
    - 符尾の先端からスラッシュを挿入 (Slash inset from stem tip)
    - スラッシュの右側へのオフセット (Slash offset to right)
  3. 数値フィールドの値を変更して、選択した装飾音符のスラッシュを移動します。
- 

#### 結果

「符尾の先端からスラッシュを挿入 (Slash inset from stem tip)」は、値を大きくすると装飾音符のスラッシュの符尾の先端からの距離が遠くなり、符頭までの距離が近くなります。値を小さくすると符尾の先端までの距離が近くなり、符頭からの距離が遠くなります。

「スラッシュの右側へのオフセット (Slash offset to right)」は、値を大きくすると装飾音符のスラッシュが右に移動し、値を小さくすると左に移動します。

#### ヒント

装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページにある「装飾音符 (Grace Notes)」セクションで設定を行ないます。

---

## 装飾音符の符尾のスラッシュの長さを個別に変更する

装飾音符の符尾に付くスラッシュの長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、スラッシュの長さを変更する装飾音符を選択します。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - スラッシュの長さ (Slash length)
  - 「スラッシュの連桁からの突出 (Slash protrusion from beam)」 (連桁された装飾音符でのみ有効)

#### 補足

「**スラッシュの長さ (Slash length)**」をオンにすると、装飾音符のスラッシュが消えたように見えます。これはプロパティをオンにすることで値が0にリセットされたからです。

3. 対応する数値フィールドの値を変更して、選択したスラッシュの長さや突出を変更します。

#### 結果

「**スラッシュの長さ (Slash length)**」は、単体の装飾音符と連桁された装飾音符のいずれにおいても、値を大きくするとスラッシュが長く、値を小さくすると短くなります。

「**スラッシュの連桁からの突出 (Slash protrusion from beam)**」は、値を大きくするとスラッシュが装飾音符の連桁の上に伸びる距離が長くなり、値を小さくすると距離が短くなります。

#### ヒント

装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[装飾音符の符尾のスラッシュの位置を変更する \(668 ページ\)](#)

## 装飾音符の符尾

装飾音符は音符を縮小したものであるため、装飾音符の符尾の長さは、すべての音符の符尾の長さに対するプロジェクト全体の設定によって決定されます。

符尾のデフォルトの長さをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで設定を行ないます。

一般的な表記規則に従い、Dorico Pro は初期設定ではどの音部においても装飾音符の符尾を上向きで表示します。これは装飾音符が適用される音符の符尾の方向には左右されません。譜表に複数の声部が存在する場合、装飾音符の符尾の方向は自動的に変更されますが、個々の装飾音符の符尾の方向は手動で変更できます。また装飾音符の符尾の長さは、通常の符尾と同じ手順で変更できます。

#### 関連リンク

[符尾 \(952 ページ\)](#)

[装飾音符のスラッシュ \(667 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)

[符尾の長さを個別に変更する \(957 ページ\)](#)

[符尾の非表示 \(958 ページ\)](#)

## 装飾音符の連桁

Dorico Pro は隣接する複数の装飾音符が8部音符かそれ以下のデュレーションである場合、自動的に連桁で連結します。

他のすべての連桁と同様に、装飾音符の連桁は譜表線に対する連桁の配置の一般的な表記規則になるべく従い、くさび形の形成を避けようとしています。しかし、装飾音符は標準の音符より小さいため、これにより装飾音符の連桁が極端に傾斜してしまう場合があります。

個々の装飾音符の連桁の傾斜は、通常の連桁と同じ手順で調整できます。また、すべての装飾音符の連桁の傾斜をどのように配置するかプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページにある「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで変更できます。

## 2 音の連桁された装飾音符のグループにおける連桁の傾斜

音程差の広い隣り合う 2 つの装飾音符が同じ位置で連桁に括られる場合、連桁の角度が非常に急になる場合があります。

このような場合、連桁の傾斜をそのまま変えないか、それとも緩やかな傾斜を使用するか、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページにある「**傾斜 (Slants)**」セクションの「**装飾音符 (Grace Notes)**」サブセクションで選択できます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[連桁 \(543 ページ\)](#)

[連桁グループ \(545 ページ\)](#)

# 延長記号と休止記号

音楽の一定したリズムの流れが、一時的な静止または一瞬の無音によって中断された後にまた再開する場合、これを示すさまざまな記譜記号が使用されます。最も微妙な効果を生むものとしてはテヌート記号があり、より顕著な効果は延長記号と休止記号によって表わされます。

楽譜中の延長記号や休止記号によって意図される中断のデュレーションは、指定が必須のものではありません。通常、延長記号と休止記号のスタイルの違いによって中断の長短が示されますが、解釈の余地は大幅に残されます。

## 補足

延長記号と休止記号は今のところ再生時の効果を持ちませんが、将来のバージョンでは効果が与えられることが予定されています。

## 関連リンク

[延長記号と休止記号の入力方法 \(227 ページ\)](#)

## 延長記号と休止記号のタイプ

Dorico Pro には 3 つのタイプの延長記号と休止記号があり、それぞれ同じ手順で入力、移動および削除を行なえます。

### フェルマータ

フェルマータは、音符がその記譜上の長さより長く伸ばされることを示し、アンサンブル全体に適用されます。

これらは「休止記号」とも呼ばれます。

### ブレス記号

ブレス記号はプレーヤーがブレスを取るのに適切な位置、または同様の効果を与えるための演奏方法を示します。

### 中間休止記号

中間休止記号は、音符をその音価全体まで伸ばしたあと、次に進む前に音の小休止を挟むことを示します。

## フェルマータのタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプのフェルマータが使用できます。フェルマータはそれぞれ休止のデュレーションをおおよそ示しますが、そこには解釈の余地が残されています。

### フェルマータ

### 説明

非常に短いフェルマータ

音符が示すリズムよりほんのわずかだけ長く伸ばされることを示します。



## フェルマータ

短いフェルマータ



短いフェルマータ (Henze)



フェルマータ



長いフェルマータ



長いフェルマータ (Henze)



非常に長いフェルマータ



カーリユー (Britten)



## 説明

音符が示すリズムより少しだけ長く伸ばされることを示します。

Hans Werner Henze によって使用され、音符が示すリズムより少しだけ長く伸ばされることを示します。

音符が示すリズムより長く伸ばされることを示します。

音符が示すリズムよりだいぶ長く伸ばされることを示します。

Hans Werner Henze によって使用され、音符が示すリズムよりだいぶ長く伸ばされることを示します。

音符が示すリズムよりずっと長く伸ばされることを示します。

Benjamin Britten によって使用され、非同期の音楽において音符または休符を次の同期ポイントまで伸ばすことを示します。

フェルマータは2つのスタイルに分けられます。それぞれの意味は重複するため、1つのプロジェクトの中で両方のスタイルを使用することは、プレイヤーを混乱させる恐れがあります。

スタイル	非常に短いフェルマータ	短いフェルマータ	フェルマータ	長いフェルマータ	非常に長いフェルマータ
標準					
Henze	なし				なし

## 関連リンク

[延長記号と休止記号のポップオーバー \(227 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(282 ページ\)](#)



## ブレス記号のタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプのブレス記号が使用できます。ブレス記号は、プレイヤーがブレスを取るのに適切な位置や、ブレスのような効果を音に与えることを指示します。

コンマ	チェックマーク	上げ弓	Salzedo
,	✓	∨	◡

## 中間休止記号のタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプの中間休止記号が使用できます。すべての中間休止記号は音の中断を指示しますが、楽譜のスタイルに応じて異なるタイプの中間休止記号が必要な場合があります。

中間休止記号 (Caesura)	太い中間休止記号 (Thick caesura)	短い中間休止記号 (Short caesura)	婉曲した中間休止記号 (Curved caesura)
			
2本の斜めのスラッシュ	2本の太い斜めのスラッシュ	2本のまっすぐな垂直のスラッシュ	2本の婉曲した斜めのスラッシュ

それぞれの中間休止記号で延長や休止の明確な長さを伝えたい場合、レジェンドの追加を検討することをおすすめします。これらの記号は、プレイヤーによって解釈が異なる場合があります。

関連リンク

[既存のアイテムの変更](#) (282 ページ)

## 浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページでは、延長記号と休止記号の位置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページのオプションを使用すると、複声部におけるフェルマータの配置を含める、延長記号と休止記号のデフォルト位置および配置を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (302 ページ)

[延長記号と休止記号の位置](#) (673 ページ)

## 延長記号と休止記号の位置

延長記号と休止記号は、単一の声部では初期設定で譜表の上に配置され、すべての譜表のリズム上なるべく近い位置に表示されます。たとえば、ある譜表の小節の最後の拍にフェルマータが付く場合、これは他の空白の譜表の小節休符の上に表示されます。複声部の譜表については、フェルマータは譜表の下にも逆向きに表示されます。

延長記号と休止記号の異なる位置への移動は、記譜モードで行ないます。これらは「浄書オプション (Engraving Options)」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

延長記号と休止記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これによって記号のリズム上の位置が変更されることはありません。

すべての延長記号と休止記号のデフォルト位置、および延長記号と休止記号の周辺の最小間隔の値に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

## フェルマータ

フェルマータは符頭に中央揃えで上または下に配置され、音符の符尾の方向には影響されません。



フェルマータは楽曲全体のテンポに影響するため、どこにフェルマータが付くか、すべてのプレーヤーが見えるようにする必要があります。そのためフェルマータは、すべての譜表において、フェルマータと同じ位置、またはフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置 (小節に音符がない場合は、小節休符の上) に表示されます。

フェルマータと譜表との最小距離は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

## ブレス記号

ブレス記号は、譜表の第5線の上、適用される音符の終了位置に表示されます。つまり、次の音符の直前に表示されます。

ブレス記号は、旋律を中断してブレスを取るために適切な位置をプレーヤー 1 人またはグループに示すだけで、全体のテンポには影響しないため、それが追加された譜表だけに適用されます。

ブレス記号と譜表との最小距離、およびブレス記号と次の音符または休符との最小距離は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

## 中間休止記号

中間休止記号は譜表の上部に、第5線が記号の中央を通り、第4線に記号の下端が乗る形で配置されます。これは通常、小節の終了位置、小節線の前に配置されます。

中間休止記号は、すべての譜表の同じ位置に自動的に追加されます。これは入力位置の符頭または小節線のすぐ左です。中間休止記号は符頭にリンクされてはならず、音符のスペーシングを調整して一定の間隔を作ります。

中間休止記号の右側の間隔のサイズは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(673 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号の表示位置の変更 \(676 ページ\)](#)

## 同じ位置にある複数の延長記号と休止記号

フェルマータはすべての譜表に適用されるため、同じ位置に存在できるフェルマータは 1 タイプだけです。たとえば、1 つの譜表に短いフェルマータがあるとき、他の譜表の同じ位置に長いフェルマータを同時に置くことはできません。

ブリテンのカーリユーは他のタイプのフェルマータと同じ位置で使用できますが、ブレス記号と同時に存在できません。これは Dorico Pro における唯一の例外です。

中間休止記号は、ブレス記号であればどのタイプとも共存できますが、中間休止記号とフェルマータは同じ位置に置けません。

## 1つの譜表でフェルマータを変更する

1つの譜表でフェルマータか中間休止記号のタイプを変更すると、自動的にその位置にあるすべての譜表のすべてのタイプが変更されます。特定の位置における休止は、デュレーションが全体で一致しなければならないからです。

ただし、譜表のうち1つの特定のフェルマータを上書きして、たとえばブリテンのカーリユーやプレス記号に変更した場合、他の譜表に存在するフェルマータを変更しても、上書きされた譜表の記号は変更されません。上書きした譜表の記号を削除すると、他の譜表のフェルマータと一致する状態に記号が復元します。

たとえば、フェルマータをプレス記号に変更すると、その譜表の記号のみが変更されます。この記号は、他の譜表の同じ位置のフェルマータのタイプを変更しても影響されません。



一番下の譜表は、フェルマータではなくプレス記号を表示する状態に上書きされています。

フェルマータが非常に短いフェルマータに変更されますが、一番下の譜表はプレス記号を表示するように上書きされているため、追従しません。

一番下の譜表からプレス記号を削除すると、その位置に現在選択されているフェルマータを表示する状態に戻ります。

## 延長記号と休止記号の位置の移動

延長記号と休止記号は、入力後に位置を移動できます。

### 手順

1. 記譜モードで、位置を移動する延長/休止記号を選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、延長記号または休止記号の移動は一度に1つしか行なえません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在設定されているリズムグリッドに従い、延長/休止記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - 延長記号や休止記号をクリックして左右にドラッグします。

### 結果

選択した延長/休止記号が、それぞれが表示される譜表の異なる位置に移動します。リズム上の位置が移動しても表示の上では移動しない場合もあります。たとえば、ある譜表では延長記号や休止記号が小節休符に付いている場合、記号の位置が小節内で移動しても、その表示位置は変わらず小節休符の上となります。

#### 補足

延長記号や休止記号は、それぞれの位置に1つのタイプしか存在できません。延長/休止記号が移動する際に他の延長/休止記号の上を通過した場合、そこにあった延長/休止記号は削除されます。

この動作は元に戻せませんが、移動中に削除された延長/休止記号については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

---

## 延長記号と休止記号の表示位置の変更

延長記号と休止記号は、リズム上の位置を変えることなく表示位置を移動できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、位置を移動する延長記号または休止記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、延長記号または休止記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

### 結果

延長記号または休止記号が異なる表示位置に移動します。

### ヒント

フェルマータまたはブレス記号を移動すると、プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループにある「**開始オフセット (Start offset)**」が自動的にオンになります。このプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することでフェルマータやブレス記号の表示位置を移動できます。ただし、中間休止記号の位置はこのプロパティでは変更できません。

- 「**オフセット (Offset)**」の「**X**」は、フェルマータやブレス記号を水平方向に移動させます。
- 「**オフセット (Offset)**」の「**Y**」は、フェルマータやブレス記号を垂直方向に移動させます。

プロパティをオフにすると、選択したフェルマータおよびブレス記号が初期設定の位置にリセットされます。

---

## フェルマータの譜表に対する位置の変更

通常フェルマータは譜表の上に表示されますが、譜表に対する位置は個別に変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、譜表に対する位置を変更するフェルマータを選択します。
  2. プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループで、「**位置 (Placement)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Above)**
    - **下 (Below)**
- 

### 結果

選択したフェルマータが譜表の上または下に表示されます。

## 譜表ごとのフェルマータの数の変更

譜表に複数の声部がある場合、各譜表の特定の位置に表示されるフェルマータの最大数を変更できます。

### 手順

1. フェルマータを1つまたは複数選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループで、「**譜表ごとの最大フェルマータ (Max. fermatas per staff)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **声部につき1つ (One per voice)**
  - **譜表の片側につき1つ (One per each side of staff)**
  - **譜表につき1つ (One per staff)**

### 結果

選択した位置のフェルマータの表示数を変更されます。

### ヒント

1つの譜表に表示されるフェルマータの最大数に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(673 ページ\)](#)

## フェルマータを小節線の上に配置する

次の小節の開始前に間隔を設けることを示すために、個々のフェルマータを音符ではなく小節線の上に配置できます。

### 補足

「**譜表ごとの最大フェルマータ (Max. fermatas per staff)**」がオンになっている場合、フェルマータは小節線の上に配置できません。

### 手順

1. 小節線の上に配置するフェルマータを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループで、「**小節線に配置 (Attach to barline)**」をオンにします。

### 結果

選択したフェルマータは元の小節の終了位置にある小節線の上に配置され、小節線で結合されていない譜表のみで表示されます。楽器編成によっては、組段の一番上のみに表示されます。

「**小節線に配置 (Attach to barline)**」をオフにすると、選択したフェルマータがデフォルトの位置に戻ります。

### 関連リンク

[譜表ごとのフェルマータの数の変更 \(677 ページ\)](#)

# 調号

調号は、スケールのどの音符にシャープまたはフラットが付くか示すことにより、現在の楽譜のキーを表示する記号です。調号は各組段の適用されるすべての譜表の開始位置に表示されます。

調号を使用すると、楽譜のどの音符が通常シャープやフラットになるか各組段の開始位置にひとまとめにして表示でき、音符が出現するたびに臨時記号を横に付ける必要がなくなるため、スペースを節約できます。

初期設定では、調号はすべてのスコアに適用されます。しかし状況によっては、一部のパートがアンサンブル中の他パートとは異なる、独自の調号を必要とする場合があります。Dorico Pro では、すべての譜表に適用される調号も、1つの譜表だけに適用される調号も入力できます。

伝統的に、臨時記号は5度圏(サークルオブフィフス)のパターンに従って、シャープを使用する調とフラットを使用する調でそれぞれ異なる形に並べられます。

Dorico Pro では、調号はプロジェクトを包括する調性システムの一部です。Dorico Pro で標準的に使用される調整システムは、12-EDO と 24-EDO の2つです。

プロジェクトで調性システムを選択または作成すると、その調性システムに特別な調号やカスタムの臨時記号を作成できます。

関連リンク

[調性システム \(680 ページ\)](#)

[調号の入力方法 \(189 ページ\)](#)

## 調号の配置

Dorico Pro は、調号の配置および外観において、臨時記号を伝統的な5度圏の順番で並べることや、音部記号と拍子記号の間に表示することなどの表記規則に自動的に従います。

調号における臨時記号の表示の順番は、シャープの調とフラットの調でそれぞれ異なります。

- シャープの場合: F#, C#, G#, D#, A#, E#, B#
- フラットの場合: Bb, Eb, Ab, Db, Gb, Cb, Fb

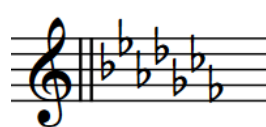
Dorico Pro においては、すべての標準的な西洋式の調号の臨時記号は、自動的にこの順番で並べられます。調号の臨時記号には伝統的な配置パターンがあり、現在の音部に従ってすべて譜表の内側に配置されます。臨時記号のパターンはすべての音部で同じですが、テナー記号のシャープの調号においては例外となり、臨時記号を譜表に収めるために他とは異なる上昇型のパターンを使用します。


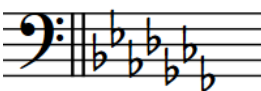
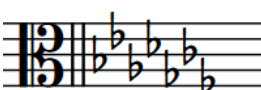
音部記号

シャープ記号の配置

フラット記号の配置

ト音記号



音部記号	シャープ記号の配置	フラット記号の配置
バス記号		
アルト記号		
テナー記号		

#### 補足

標準とは異なるカスタムの調号については、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログで臨時記号の表示される順番を決定できます。

#### 関連リンク

[特別な調号 \(688 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(518 ページ\)](#)

[調号の位置 \(691 ページ\)](#)

## 調号のタイプ

Dorico Pro には調号のタイプが4つあり、それぞれ同じ手順で入力、移動、および削除が行なえます。

以下の4つのタイプがあります。

- 長調
- 短調
- オープンキー (無調)
- 調号なし (ホルンや打楽器など特定のインストゥルメント用)

### 長調/短調の調号

長調の調号はその平行短調の調号と外見上は同じであり、同じく短調の調号はその平行長調と同じ外見になります。たとえば、B $\flat$ メジャーの調号にはフラットが2つあります。これはB $\flat$ メジャーの平行調であるGマイナーの調号とフラット数が同じです。違いとして挙げられる点は、スケールの7度がマイナーの調号で上がるため、Gマイナーの楽譜は一般的にFがシャープになることです。そのため、Gマイナーの調号のあとにF $\sharp$ /G $\flat$ を入力した場合、マイナーの調号の規則に従って、F $\sharp$ と表示されます。



B フラットメジャーの調号における B フラットメジャースケール



G マイナーの調号における G ハーモニックマイナースケール

## オープンキーの調号

オープンキー (無調) の調号は、臨時記号を表示しないため C メジャーまたは A マイナーの調号と同じに見えますが、振る舞いは異なります。

オープンキーの調号においては、臨時記号の表記方法はそのときの旋律の方向に基づきます。旋律が上昇するときはシャープの使用が推奨され、旋律が下降するときはフラットの使用が推奨されます。オープンキーではピッチに序列がないため、同じピッチの表記が、数小節の範囲内であっても、状況によって異なる場合があります。

C メジャーまたは A マイナーの調号では、臨時記号は長調と短調のいずれであるかに基づいて表記されます。たとえば、C メジャーでは旋律が上昇下降いずれの方向であっても、一般的にシャープの使用が推奨されます。同様に A マイナーでは、旋律が上昇下降いずれの方向であっても、G# は導音であるため特に使用が推奨されます。

## 調号なし

一部のインストゥルメントには、楽曲全体の調に関わらず、そのパートに一切の調号を表示しないことが慣例化しているものがあります。このようなインストゥルメントにはティンパニ、打楽器、ホルン、トランペットなどがあり、ときにはハープもこれに加わります。これらのインストゥルメントの「**調号なし (No key sig)**」バージョンを追加した場合、ホルンやトランペットのような移調楽器であっても、これらのパートに調号は表示されません。

これらのインストゥルメントにはどのピッチも入力でき、必要に応じて臨時記号も表示されます。

関連リンク

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(107 ページ\)](#)

# 浄書オプションで調号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」ページでは、調号の外観を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「**調号 (Key Signatures)**」ページのオプションでは、調号の打ち消しスタイルや調号の臨時記号の間隔を変更できます。

### ヒント

調号変更位置での小節線の外観を変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページにあるオプションを使用します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(518 ページ\)](#)

# 調性システム

Dorico Pro では、“調性システム”とは、調性のコンセプトを構成する 3 つの重要な要素を内包する言葉として使用されます。

調性システムを構成する 3 つの要素を以下に挙げます。

- オクターブの均等な分割の数 (EDO)。たとえば、標準的な半音階による西洋音階は 12-EDO を使用します。
- 臨時記号のセット。音符をどれだけ上げ下げするかを記譜できます。これには伝統的な臨時記号のセットかカスタムの臨時記号セットを使用します。これは幅広く取り揃えられた各種セットから選択するか独自に作成できます。
- 調号。これには伝統的な西洋音階の調号か、自作したカスタムの調号が使用できます。



関連リンク

[カスタムの調性システム \(682 ページ\)](#)

[調性システムの変更 \(681 ページ\)](#)

[カスタムの調性システムの再生 \(690 ページ\)](#)

## オクターブの均等な分割 (EDO)

EDO とは、「Equal Division of the Octave (オクターブの均等な分割)」の略です。これはオクターブを均等に分割した断片 (音程) の数になります。Dorico Pro では、オクターブの分割を自由な数に設定でき、調性システムそれぞれに特別な調号およびカスタムの臨時記号を作成できます。

伝統的な西洋和声は、調性システムを表現する方法の 1 つである平均律 (12-EDO) に基づきます。伝統的な C から C までのスケールにおいては、スケールを構成する 7 つの音程に 12 個のステップ (オクターブの均等な 12 分割) が振り分けられるためです。

「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログで 12-EDO 調性システムを編集すると、スケール中の各音程にステップがどう振り分けられているか確認できます。たとえば、音程の A と B の間にはステップが 2 つ割り当てられていますが、B と C の間にはステップが 1 つしかありません。これは、12-EDO におけるそれぞれのステップは半音を表わし、標準の平均律において A と B の間には 2 つの半音がありますが、B と C の間には半音が 1 つしかないからです。

調性システムで最小のステップを半音ではなく 1/4 音にするには、オクターブを分割する数を 12-EDO の倍にしなければなりません。よって、プロジェクトで 1/4 音の臨時記号を使用するには、プロジェクトの調性システムに「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」を選択する必要があります。

オクターブを分割する数は自由に選択できますが、標準の西洋式調号を表示させる場合は、オクターブの均等な分割の数は 12 の倍数である必要があります。

EDO においては、伝統的な西洋式のピッチとは異なるピッチを A から G の音名に割り当て、これを明解に表現するための記譜記号を作成することもできます。オクターブを分割する方法には制限がないためです。たとえば、トルコ音楽は伝統的に 53-EDO によって分割され、通常 A から A までの各音程に「9-4-9-9-4-9」の形で分割数が割り当てられます。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(682 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(682 ページ\)](#)

## 調性システムの変更

プロジェクトで使用する調性システムは調号の変更位置で切り替えることができ、これには自作したカスタムの調性システムも使用できます。

前提

「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」または「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」以外の調性システムを使用する場合は、カスタムの調性システムを作成しておきます。

---

手順

1. 記譜モードで、調性システムを変更する位置のアイテムを 1 つ選択します。
2. アイテムの選択を解除しないまま、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションから使用する調性システムを選択します。
3. 調号を新規に入力します。

---

結果

入力した調号の位置から、次の調性システムの変更を伴う調号が存在する位置、またはフローの終わりまで、調性システムが変更されます。

「平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))」のように微分音の臨時記号が使用できる調性システムを選択した場合、調号、調性システム、臨時記号パネルの「臨時記号 (Accidentals)」セクションで微分音の臨時記号が利用できるようになります。

関連リンク

[調号の入力方法 \(189 ページ\)](#)

[微分音の臨時記号の入力 \(499 ページ\)](#)

## カスタムの調性システム

カスタムの調性システムでは、プロジェクト内で使用できるオクターブの独自の分割数を指定できます。これは伝統的な西洋和声に基づかない楽譜の作成において使用します。Dorico Pro では、カスタムの臨時記号を作成して、各カスタムの調性で使用されるカスタムの調号に組み込むことができます。

プロジェクトに登録されている調性システムは、調号、調性システム、臨時記号パネルの「調性 (Tonality System)」セクションで確認できます。

Dorico Pro では、各プロジェクトに初期設定で「平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))」と「平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))」の2つの調性システムを用意しています。

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログでは、カスタムの調性システムを作成および既存の調性システムを編集できます。

関連リンク

[オクターブのカスタム分割 \(684 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号 \(684 ページ\)](#)

[特別な調号 \(688 ページ\)](#)

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(191 ページ\)](#)

## 「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログ

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログでは、カスタムの調整システムの作成および既存の調整システムの編集が行なえます。

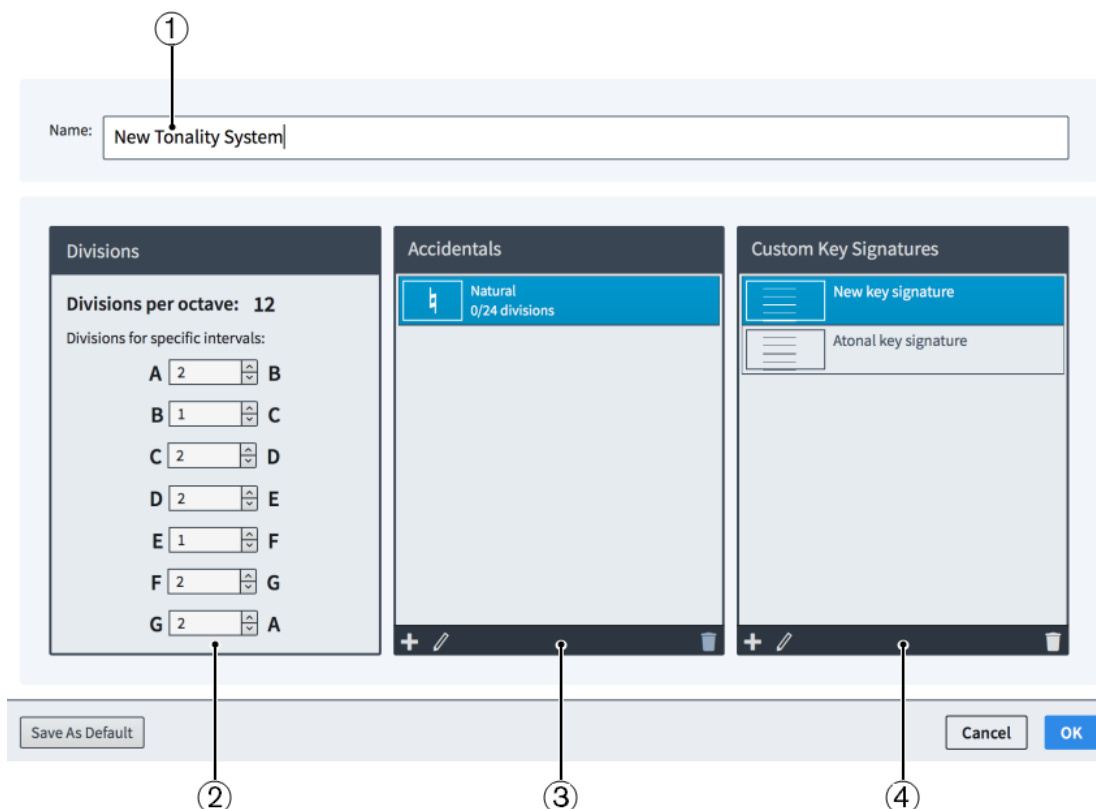
以下のいずれかの操作を行なって、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。

- 新しい調性システムを作成するには、調号、調性システム、臨時記号パネルの「調性 (Tonality System)」セクションで「新規調性システム (New Tonality System)」をクリックします。



- 既存の調性システムを編集するには、調号、調性システム、臨時記号パネルの「調性 (Tonality System)」セクションで「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」をクリックします。





「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダイアログ

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダイアログには以下のセクションがあります。

**1 名前 (Name)**

新規の調性システムの名前を入力するか、作成した既存のカスタム調性システムの名前を編集できます。

**2 分割 (Divisions)**

音程ごとにオクターブの分割をいくつ割り当てるか指定できます。

**3 臨時記号 (Accidentals)**

選択した調性システムで現在利用できる臨時記号を表示します。下部の2つのボタンでは、既存の臨時記号の編集または新規作成が行なえます。

**4 特別な調号 (Custom Key Signatures)**

選択した調性システムで現在利用できる調号を表示します。下部の2つのボタンでは、既存の調号の編集または新規作成が行なえます。



「新規臨時記号 (New Accidental)」 / 「新規調号 (New Key Signature)」 ボタン



「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」 / 「調号を編集 (Edit Key Signature)」 ボタン

このダイアログの「分割 (Divisions)」セクションでオクターブの分割数と各音程に割り当てられる分割数を決定すると、「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログで、既存の臨時記号や作成したカスタムの臨時記号にそれぞれの上昇/下降ピッチデルタを割り当てることができます。

これらの臨時記号は、「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログでカスタムの調号に組み込みます。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(682 ページ\)](#)

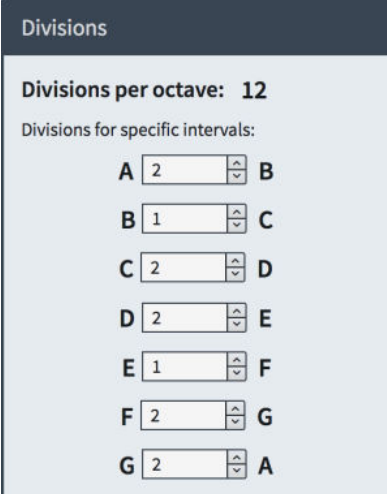
[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(685 ページ\)](#)

[「特別な調号を編集 \(Edit Custom Key Signature\)」 ダイアログ \(689 ページ\)](#)

## オクターブのカスタム分割

既存の調性システムに対しオクターブの分割の数を変更するか、または新規に調性システムを作成して任意の分割数を設定できます。

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダイアログの「分割 (Divisions)」 セクションでは、各音程に割り当てられる分割の数を変更できます。オクターブごとの分割の総数はセクションの最上部に表示され、各音程の分割の割り当て数を変更すると自動的に更新されます。



Interval	Divisions
A	2
B	1
C	2
D	2
E	1
F	2
G	2
A	2

プリセットの 12-EDO 調性システムを選択して編集を開始した際の、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダイアログの「分割 (Divisions)」 セクションの表示。

平均律 (12-EDO) においては、分割の総数は 12 となります。A と B の間には 2 つの分割があり、B と C の間には 1 つの分割があるという具合です。これは西洋音階の標準パターンに従うもので、鍵盤楽器の白鍵と黒鍵のパターンにも一致します。

Dorico Pro では、オクターブは任意の区分に分割できますが、西洋音階の標準の調号を表示させるには、オクターブの均等な分割の数は必ず 12 でなければなりません。

関連リンク

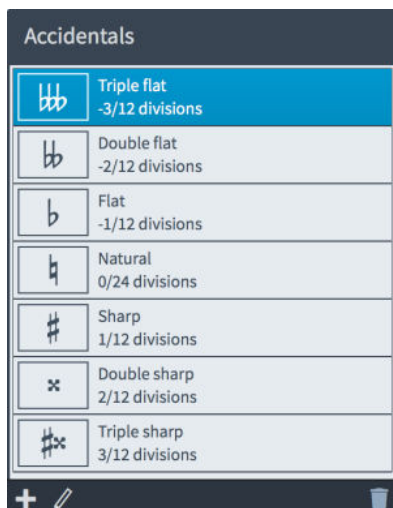
[特別な調号 \(688 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」 ダイアログ \(682 ページ\)](#)

## カスタムの臨時記号

カスタムの臨時記号には伝統的な臨時記号のグリフのみならず、その他の音楽記号、テキストおよびグラフィックも使用できます。これにより、カスタムの調性システムにおいて特定のピッチデルタを表わすカスタムの臨時記号を作成できます。

現在の調性システムで使用できるすべての臨時記号は、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダイアログの「臨時記号 (Accidentals)」 セクションで確認できます。



プリセットの 12-EDO 調性システムを選択して編集を開始した際の、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログの「臨時記号 (Accidentals)」セクションの表示。

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログでは、カスタムの臨時記号を作成または編集できません。

#### 補足

Dorico Pro に付属するデフォルトの調性システムで使用される臨時記号はどれも編集できます。調性システムを新規に作成する際はナチュラル記号 1 つの状態から始まり、これは編集も削除も行なえません。

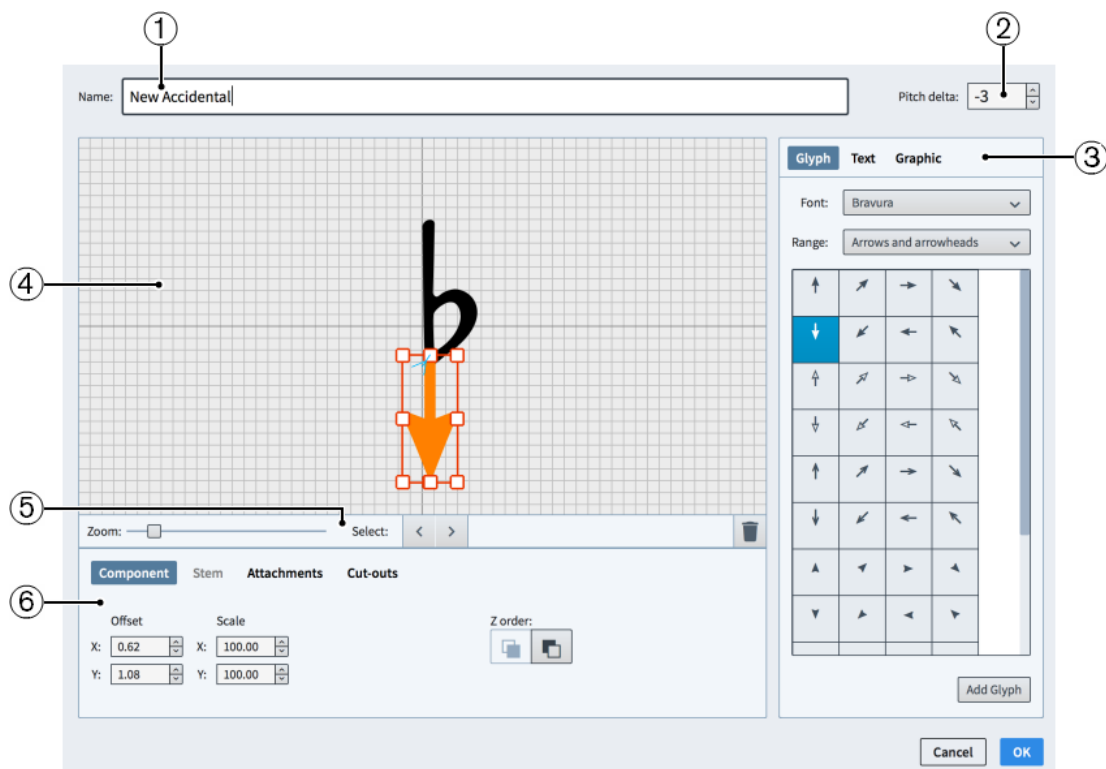
#### 関連リンク

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(682 ページ\)](#)

## 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログでは、カスタムの臨時記号の新規作成および編集が行なえます。

- 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開くには、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログの「臨時記号 (Accidentals)」セクションの下にあるアクションバーの「新規臨時記号 (New Accidental)」または「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」のいずれかをクリックします。



「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログには以下のセクションがあります。

#### 1 名前 (Name)

臨時記号の名前を入力できます。

#### 2 ピッチデルタ (Pitch delta)

この臨時記号が追加された音符に与える効果の値を設定できます。たとえば、ピッチデルタを2にすると、音符のピッチをオクターブの分割2つ分上昇させます。

#### 3 臨時記号の構成要素セレクター

臨時記号に追加する構成要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や♭を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを臨時記号に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを臨時記号に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを臨時記号に追加します。

#### 4 エディター

臨時記号を形作る構成要素の配置と編集を行ないます。臨時記号の構成要素の編集と配置には、ダイアログ下部のコントロールを使用できます。

## 5 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom)**  
エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select)**  
次/前の要素を選択できます。
- **削除 (Delete)**



選択した要素を削除します。

## 6 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。臨時記号の場合、利用できるのは「要素 (Component)」、「アタッチメント (Attachments)」、および「切り抜き (Cut-outs)」のタブのみです。「符尾 (Stem)」のタブは臨時記号には適用されません。

「要素 (Component)」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset)**: 選択した要素の位置をコントロールします。「X」で水平方向、「Y」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」**: 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「X」で幅、「Y」で高さをコントロールします。

### 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **「前後の順序 (Z order)」**: 要素が重なった場合、「前面へ移動 (Bring Forward)」または「背面へ移動 (Send Backward)」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「アタッチメント (Attachments)」タブは、臨時記号が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

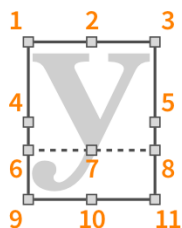
- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「連結元 (Attachment from)」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「連結先 (Attachment to)」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

「切り抜き (Cut-outs)」のタブでは、臨時記号の構成要素の個々の角について、他の臨時記号と重なり合うことができる領域を作成できます。これによりたとえば、密集和音において臨時記号同士をより緊密に配置できます。これは四方の角それぞれに以下のオプションを持ちます。

- **幅 (Width)**: 切り抜き領域の幅を設定します。
- **高さ (Height)**: 切り抜き領域の高さを設定します。
- **追加 (Add)**: 対応する角に切り抜きを追加します。
- **削除 (Delete)**: 対応する角から切り抜きを削除します。



グリフおよびグラフィックには 8 つ、テキストには 11 の連結ポイントがあります。テキストの方が多  
いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、  
ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」 ダイアログでは、連結ポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

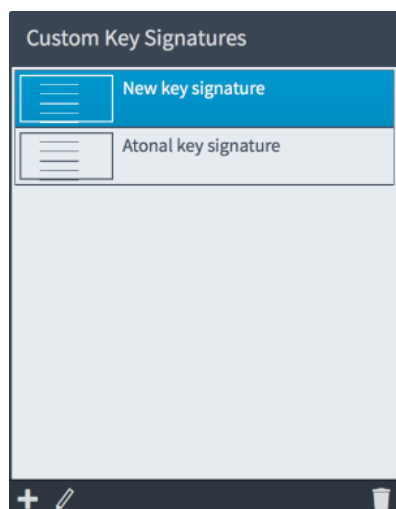
関連リンク

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」 ダイアログ \(682 ページ\)](#)

## 特別な調号

特別な調号には、伝統的な臨時記号を異なる並びで使用するか、または自作したカスタムの臨時記号を  
必要に応じた並びで使用できます。

現在の調性システムで使用できるすべての調号は、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダ  
イアログの「特別な調号 (Custom Key Signatures)」 セクションで確認できます。



カスタムの調性システムを作成または編集する際の、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」 ダイアログの  
「特別な調号 (Custom Key Signatures)」 セクションの表示。



### 補足

Dorico Pro にははじめから入っているデフォルトの調性システムのいずれかを選択して編集する場合、このセクションには編集できる調号はありません。ただし、デフォルトの調性システムの中に調号を新規に作成はできます。

「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログでは、新規または既存いずれの調性システムにおいても、カスタムの調号を作成または編集できます。

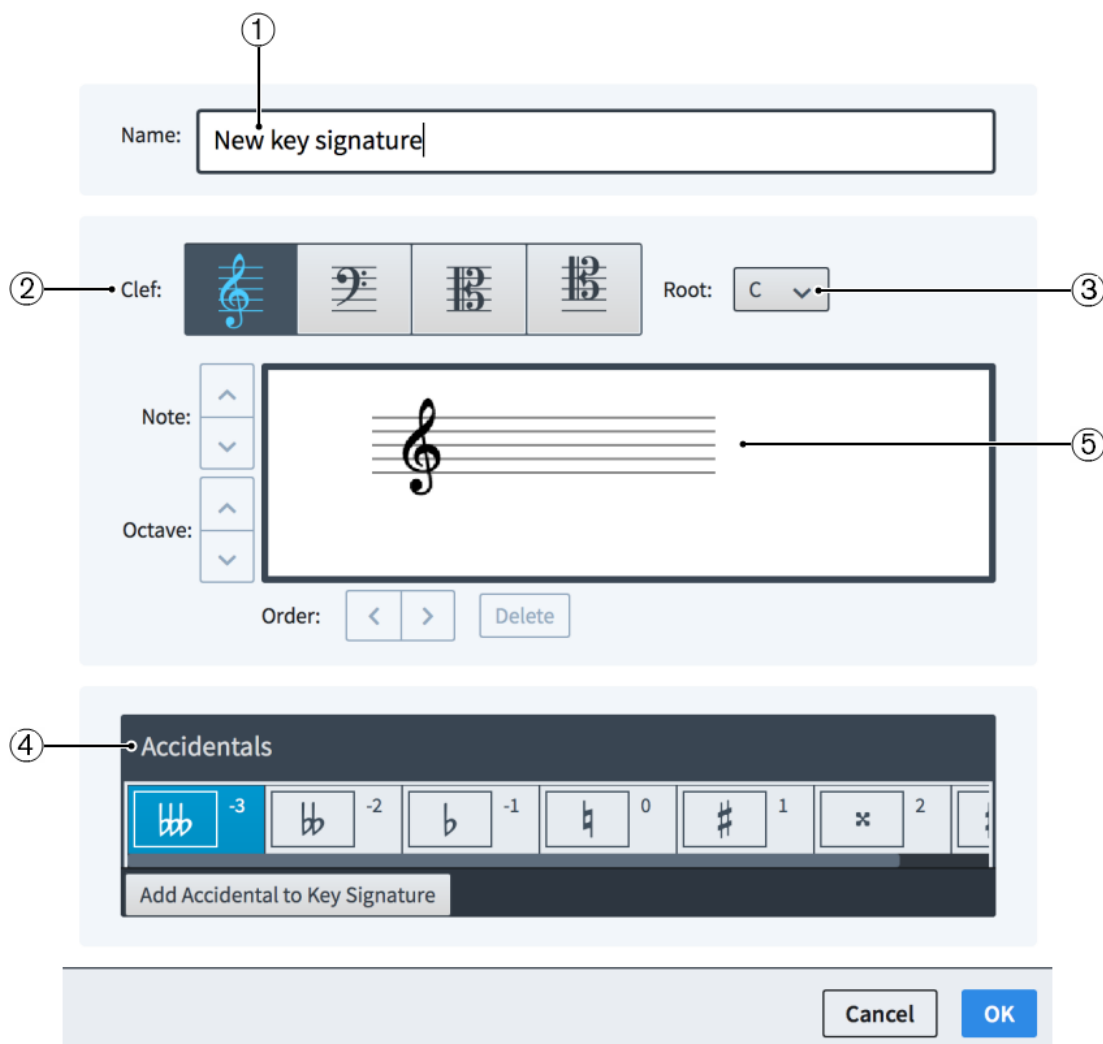
関連リンク

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログ (682 ページ)

## 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログ

「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログでは、当別な調号の新規作成および編集が行なえます。

- 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを開くには、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログの「特別な調号 (Custom Key Signatures)」セクションにあるアクションバーの「新規調号 (New Key Signature)」または「調号を編集 (Edit Key Signature)」のいずれかをクリックします。



「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログ

「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログには以下のセクションがあります。

## 1 名前 (Name)

調号の名前を入力できます。

## 2 音部記号 (Clef)

ト音記号、バス記号、アルト記号、テノール記号においてそれぞれ調号がどのように表示されるかを確認できます。調号はこれらの音部記号のいずれについても編集できます。

## 3 ルート音 (Root)

調号の基音をメニューから選択できます。

## 4 臨時記号 (Accidentals)

調性システムからの臨時記号を調号に追加できます。これには「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログで作成したカスタムの臨時記号も含まれます。選択した臨時記号を調号に追加するには、「**調号に臨時記号を追加 (Add Accidental to Key Signature)**」をクリックします。

## 5 エディター

「**順番 (Order)**」の矢印ボタンを使用して臨時記号を任意の順番に変更でき、「**音符 (Note)**」の矢印ボタンと「**オクターブ (Octave)**」の矢印ボタンを使用して譜表上の位置を変更できます。

関連リンク

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(682 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(685 ページ\)](#)

## カスタムの調性システムの再生

Dorico Pro はオクターブの分割の数や振り分けがどのようなであっても、カスタムの調性システムを再生できます。

Dorico Pro はすべての音符について、臨時記号の有無にかかわらず適切なピッチデルタを計算し、微分音の再生をフルに実現します。再生に使用されるバーチャルインストゥルメントに応じて、Dorico Pro はさまざまな方法で微分音の再生を行いません。

- HALion バーチャルインストゥルメントの場合は、Dorico Pro は VST 3 ノートエクスプレッションを使用します。
- NotePerformer などのその他のインストゥルメントの場合は、Dorico Pro は VST 2 デチューンパラメーターを使用します。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(682 ページ\)](#)

[再生時のチューニングの変更 \(440 ページ\)](#)

## 調号の削除

調号の削除は、音符のピッチに影響することなく行なえます。調号を削除したあと、音符には適宜臨時記号が表示されます。

### 補足

- 調号は、音符のピッチに関する欠かせない情報を担っているため、非表示にはできません。調号を表示させない場合、オープンキーの調号を入力するか、フローまたはプロジェクトからすべての調号を削除します。
- Dorico Pro では、ティンパニやホルンのように通常は調号を持たないインストゥルメントには「**調号なし (No key sig)**」バージョンがあり、このバージョンのインストゥルメントには調号が表示されないようになっています。「**調号なし (No key sig)**」バージョンのインストゥルメントは、設定モードでインストゥルメントを追加または変更するときに選択できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかから削除するアイテムを選択します。
  - 調号
  - 現在のレイアウトで臨時記号が付かない調号のガイド
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択した調号がスコアから削除されます。削除された調号以降の小節の音符のピッチは変わりませんが、削除された調号が示す臨時記号が適用されていた音符は、次の調号がある位置まで、またはフローの終わりまで、臨時記号を伴って表示されるようになります。

#### 補足

フローにあるすべての調号を削除した場合、楽譜には調号が表示されなくなり、必要に応じて臨時記号が表示されるようになります。これはCメジャーやAマイナーの調号があるというより、オープンキーの調号を適用したかのように扱われます。

#### 関連リンク

[調号の入力方法 \(189 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(107 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(109 ページ\)](#)

## 同じ位置の複数の調号

調号をそれぞれ1つの譜表に入力することにより、複数の調号を同じ位置に存在させられます。

#### 補足

スコアに移調楽器がある場合、複数の調号を同じ位置に入力する必要はありません。Dorico Pro はインストゥルメントの移調を自動で管理します。

移調楽器の移調を確認するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**移調音 (Transposed Pitch)**」を選択して、レイアウトの楽譜を実音ではなく記譜上のピッチで表示します。

あるいは、個々の移調楽器のパートレイアウトを開いてフルスコアと比較しても確認できます。

#### 関連リンク

[調号の入力方法 \(189 ページ\)](#)

## 調号の位置

調号は初期設定では音部記号と拍子記号の間に配置され、調号を必要とするすべての譜表に表示されます。調号は無音程楽器の譜表には表示されません。

調号は楽曲の開始位置および各楽章の開始位置に、楽譜が同じ調のまま継続する場合でも表示されます。拍子記号とは異なり、調号はフルスコアおよびパートレイアウトのすべての組段の開始位置に、調号に変化がなくても表示されます。これはフローの終端か、次の調号の変更がある位置の、いずれか先に到達するところまで適用されます。



調号の正しい位置は音部記号と拍子記号の間です。

楽曲か楽章の途中で調号が発生する場合は、小節線の直後に配置されます。調号の変更を行なう場所には複縦線を使用するのが慣例であり、Dorico Pro ではこれがデフォルトになっています。ただし、調号の変更を行なう場所にデフォルトで表示される複縦線は変更できます。



調号の変更に複縦線が使用される例

調号の異なる位置への移動は、記譜モードで行ないます。調号は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」および「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページの設定に従い配置されます。

個々の調号の表示位置を変更する必要がある場合、これは浄書モードで行なえますが、これにより調号のリズム上の位置が変更されることはありません。

音符や小節線に対する調号のデフォルト位置を調節する場合、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更する必要があります。

関連リンク

[調号の配置 \(678 ページ\)](#)

[調号の位置の移動 \(693 ページ\)](#)

[調号の表示位置の変更 \(693 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(518 ページ\)](#)

## プロジェクト全体における調号の間隔のスペーシング

間隔のスペーシングのオプションによって、調号を含めたオブジェクト間の最小間隔に関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで利用できる値のうち、以下の最小値は調号に直接関係します。

- 小節線から音部記号、調号記号、または拍子記号の前までの間隔 (Gap after barline before clef, key or time signature)
- ナチュラルの後の間隔 (Gap after cancellation naturals)
- 調号の後の間隔 (Gap after key signature)
- 終わりのリピート線の後の間隔 (Gap after end repeat barline)

### 補足

他の値も調号の位置に影響を及ぼす場合がありますが、それらは他のオブジェクトにも影響するものです。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」ページでは、以下の間隔について変更できます。

- 調号の臨時記号との間隔 (Gap between accidentals in key signatures)
- ナチュラル間隔の間隔 (Gap between cancellation naturals)

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 調号の位置の移動

調号は入力後に位置を移動できます。

### 手順

1. 記譜モードで、移動する調号を選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できる調号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在設定されているリズムグリッドに従い、選択した調号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - 調号をクリックして任意の水平位置にドラッグします。

### 結果

調号が異なる位置に移動します。これは移動先の位置から次の調号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで効果を及ぼします。

#### 補足

- 調号は譜表に沿う方向にしか移動できません。調号を別の譜表に移動する場合は、調号を削除してから新たな調号を別の譜表に入力する必要があります。
- 各位置に調号は1つしか存在できませんが、1つの譜表だけに適用される調号は例外となります。調号を移動させる際に他の調号の上を通過した場合、そこにあった調号は削除され、移動させた調号に置き換えられます。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除された調号については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

### 関連リンク

[調号の入力方法 \(189 ページ\)](#)

## 調号の表示位置の変更

調号の表示位置は、他のアイテムの位置に影響を与えることなく個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 移動する調号記号の上の四角いハンドルを選択します。



調号の横に小さい丸いハンドルが表示されます。

3. [Tab] を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

#### 補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

調号の表示位置が水平方向に移動されます。

#### ヒント

浄書のツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」が選択されているときは、プロパティパネルの「調号 (Key Signatures)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」を変更しても、調号を水平方向に移動できます。ただし、これは調号のリズム上の位置における全体的な音符のスペーシングに影響し、打ち消しのナチュラル記号もこれに影響されます。

また、「ナチュラル X オフセット (Cancellation naturals X offset)」プロパティを使用すると、後続の調号とは別個に、他のアイテムのスペーシングに影響を与えることなく、打ち消しのナチュラル記号の表示位置を移動できます。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング](#) (385 ページ)

## 選択した音符と同時に調号を移調する

音符の移調と同時に調号の移調を行なえます。これは調号と音符を同じ度数で移調させます。

#### 手順

1. 記譜モードで、調号と音符を併せて選択します。
2. 「記譜 (Write)」 > 「移調 (Transpose)」を選択して「移調 (Transpose)」ダイアログを開きます。
3. 「移調 (Transpose)」ダイアログで、音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。
4. 「調号を変更する (Transpose key signatures)」をオンにします。  
これは選択に調号が含まれている場合は自動的にオンになります。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択されたすべての音符と調号が、ダイアログで設定した度数で移調されます。

#### 補足

移調のための選択に、すべての譜表に適用される調号が含まれていた場合、すべての譜表を選択していても、レイアウト中すべての譜表の調号が移調されます。

個別の調号、つまり [Alt] キーを使用して 1 つの譜表のみに追加された調号は、選択に含められた場合それ自体は移調しますが、レイアウト中の他の譜表には影響しません。

#### 関連リンク

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する](#) (275 ページ)

[大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(178 ページ\)](#)

## 異名同音の調号

異名同音の調号とは、C#メジャーとD $\flat$ メジャーのように、名前は異なっても音階を構成するピッチが共通する調号のことです。Dorico Pro は表記規則に従い、移調の際は移調前の調と臨時記号のタイプが同じ調に移行します。ただし、異名同音の調号の方が臨時記号が少ない場合を除きます。

選択した音符を移調するとき、Dorico Pro は移調前の調号と臨時記号のタイプが同じ調を優先的に選択します。インストゥルメントを移調する際に調号を選択する場合、Dorico Pro は現在の実音調と同タイプの臨時記号を用いる調号を優先的に選択します。

ただし、同じタイプの臨時記号を用いる調号よりも、異なるタイプの臨時記号を用いる異名同音の調号に転調した方が、臨時記号の数が少なく済むため好ましい場合もあります。たとえば、C#メジャーはシャープが7つになる一方、D $\flat$ メジャーはフラットが5つだけです。つまり、臨時記号が付くことをプレイヤーが記憶しなければならない音符が減るということです。

臨時記号が少ない異名同音調への転調は、ダブルシャープやダブルフラットの使用が抑えられて読みやすくなるという利点もあります。たとえば、楽譜をF#からG#に転調すると、導音はF\*と表記する必要がありますが、かわりにA $\flat$ に転調すると、導音はG $\sharp$ となります。



G#メジャーでは導音にダブルシャープを付ける必要があります

G#の異名同音であるA $\flat$ メジャーでは導音にダブルシャープを付ける必要はありません

初期設定では、Dorico Pro は臨時記号が少ない場合に異名同音の調号を選択します。しかしこの設定は、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション臨時記号 (Notation Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページの「移調 (Transposition)」セクションにある「異名同音の調を優先 (臨時記号を減らす) (Prefer enharmonic equivalent key signatures with fewer accidentals)」をオフにすることにより変更できます。

### 調号が移調楽器に与える影響

フルスコアに調号がある場合、移調楽器の楽譜に対しては、そのインストゥルメントの移調の音程と同じ度数で移調が行なわれます。たとえば、Eメジャーのプロジェクトでは、B $\flat$ クラリネットのパートの調はF#メジャーになります。B $\flat$ クラリネットは記譜上のピッチより全音低く発音されるからです。

### 調号が表示されないインストゥルメント

一部のインストゥルメントには、楽曲全体の調に関わらず、そのパートに一切の調号を表示しないことが慣例化しているものがあります。このようなインストゥルメントにはティンパニ、打楽器、ホルン、トランペットなどがあり、ときにはハーブもこれに加わります。これらのインストゥルメントの「調号なし (No key sig)」バージョンを入力した場合、ホルンやトランペットのような移調楽器であっても、これらのパートに調号は表示されません。

これらのインストゥルメントの譜表における楽譜は移調できますが、調号は表示されず、必要に応じて臨時記号が表示されるだけになります。

関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(178 ページ\)](#)

[選択範囲の移調 \(179 ページ\)](#)

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(107 ページ\)](#)

## 予告の調号

調号の変更が組段区切りで発生する場合、スコアでもパートでも、区切り後の組段の開始位置とともに、区切り前の組段の終了位置にも新規の調号が表示されます。

これは“予告の調号”と見なされる場合もあります。プレイヤーが組段の開始位置に調号があることに見慣れてしまい、組段の終了位置に表示して目立たせておかないと、調号の変更に気づかないかもしれないからです。

Dorico Pro では、調号の変更は小節線の直後に発生するため、組段の終了位置の調号は予告の調号という別個のものではなく、調号そのものです。

楽譜が十分に分かれていて調号を組段の終了位置に表示する必要がないが、組段の区切り位置を変更できない場合は、組段区切りの位置に新規のフローを作成することにより、楽譜を分離できます。

関連リンク

[フロー \(120 ページ\)](#)

[フローの分割 \(291 ページ\)](#)

[形式設定パネル \(295 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(362 ページ\)](#)



# 歌詞

Dorico Pro では、歌詞とは歌手によって歌われるすべてのテキストを指します。

歌詞テキストを楽譜上の他のテキスト形式と区別するために、他のテキスト形式は演奏上の指示、テンポ、強弱記号などと呼ばれます。

Dorico Pro は、入力済の歌詞を簡単に変更でき、毎回新たに歌詞を再入力する必要がないように設計されています。たとえば歌詞の音節のタイプを変更すると、ハイフンを伴う表示と伴わない表示を切り替えられます。

歌詞は、水平方向の配置を一貫させ、歌詞番号の表示を簡潔で正確にするために、ラインにまとめられます。歌詞のラインには異なる目的で使用されるいくつかのタイプがあり、ラインタイプによって歌詞の外観も変化します。たとえば、コーラスのラインの歌詞は斜体フォントで表示されます。

歌詞の入力時は、歌詞のラインの切り替え、譜表のどの側に歌詞を入力するかの変更、および歌詞スタイルの標準、コーラス、訳詞のうちいずれかへの切り替えのために、キーボードショートカットを使用できます。歌詞のタイプは、歌詞を入力したあとでも変更できます。

複数行の歌詞、コーラスの歌詞および訳詞は、譜表の上下いずれにでも入力できます。

「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「歌詞 (Lyrics)」メニューから歌詞のタイプまたは歌詞のラインを選択することにより、タイプやラインに従って歌詞をフィルター選択できます。

関連リンク

[歌詞のタイプ \(699 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

[歌詞のフィルター \(698 ページ\)](#)

[歌詞の入力 \(248 ページ\)](#)

[既存の歌詞の音節のタイプの変更 \(701 ページ\)](#)

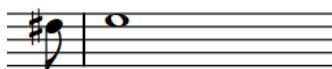
## 歌詞の一般的な配置規則

歌詞は通常それが属する譜表の下に位置し、対応する符頭に水平方向に整列するように配置されます。

標準の歌詞には通常プレーンフォントが使用され、コーラスの歌詞および訳詞には、区別のために通常斜体フォントが使用されます。

歌詞の水平方向のスペーシングは、単語または音節が両側の単語または音節と重ならないだけの幅を持つ必要があります。そのため、歌詞を収めるために音符のスペーシングの調整が必要となる場合があります。

Dorico Pro では、歌詞を収めるために音符のスペーシングの変更が大きくなりすぎ、リズムの外観が不均等にならないように、対応する音符に対する歌詞の配置の調整を許可しています。たとえば、短い音符に付いた長い単音節語の後に、長い音符に付いた長い単音節語が続く場合、2 つめの単語が少し右に移動して、両方の単語に十分なスペースを作ります。



great strength\_\_\_\_\_

短い音符のあとに長い音符が続き、歌詞の水平位置が読みやすさのために自動的に調整されている例

関連リンク

[歌詞の位置 \(702 ページ\)](#)

[歌詞に使用するフォントスタイルの変更 \(711 ページ\)](#)

## 浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページで、歌詞の外観と位置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「**歌詞 (Lyrics)**」ページのオプションを使用すると、歌詞のデフォルトの外観、スペーシングや位置、加えて歌詞のハイフンと延長線の外観や位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 歌詞のフィルター

Dorico Pro では、歌詞フィルターを使用することで、プロジェクト全体または特定の選択範囲における指定したタイプの歌詞すべてを選択できます。

「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」を選択すると、以下のフィルターがメニューから使用できます。

### すべての歌詞 (All Lyrics)

現在選択されている中から、歌詞のライン番号や譜表の上下に関わらず、すべてのタイプの歌詞を選択します。

### ライン 1 (Line 1)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 1 の歌詞およびライン 1 の訳詞のみ選択します。

### ライン 2 (Line 2)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 2 の歌詞およびライン 2 の訳詞のみ選択します。

### ライン 3 (Line 3)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 3 の歌詞およびライン 3 の訳詞のみ選択します。

### ライン 4 (Line 4)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 4 の歌詞およびライン 4 の訳詞のみ選択します。

### ライン 5 (Line 5)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 5 の歌詞およびライン 5 の訳詞のみ選択します。

### 譜表の上 (Above Staff)

現在選択されている中から譜表の上のすべての歌詞を選択します。これは他のフィルターを使用したあとに追加で使用できます。たとえば、まずライン番号でフィルターをかけたあと、譜表に対する位置で再度フィルターをかけられます。

### 譜表の下 (Below Staff)

現在選択されている中から譜表の下のすべての歌詞を選択します。これは他のフィルターを使用したあとに追加で使用できます。たとえば、まずライン番号でフィルターをかけたあと、譜表に対する位置で再度フィルターをかけられます。

### コーラス (Chorus)

現在選択されている中からすべてのコーラスの歌詞を選択します。

### 訳詞 (Translations)

現在選択されている中からすべての訳詞を選択します。

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (276 ページ)

## フィルターを使用した歌詞の選択

歌詞フィルターを使用すると、プロジェクト全体または特定の選択範囲における指定したタイプの歌詞すべてを選択できます。

前提

フィルターの設定を「**選択のみ (Select Only)**」に設定しておきます。これは「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**選択のみ (Select Only)**」を選択して確認できます。

---

手順

1. 楽譜領域で、選択する歌詞すべてを含む範囲を選択します。  
たとえば、**[Ctrl]/[command]+[A]** を押してフロー全体を選択します。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > **[歌詞タイプ]** を選択します。

---

結果

選択範囲の中から指定したタイプのすべての歌詞が選択されます。たとえば、「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**コーラス (Chorus)**」を選択すると、選択範囲内のすべてのコーラスの歌詞が選択されます。

関連リンク

[歌詞のフィルター](#) (698 ページ)

[大きな選択範囲](#) (276 ページ)

## 歌詞のタイプ

Dorico Pro では、歌詞はいくつかのタイプに分けられます。

### 歌詞のライン

歌詞のラインは標準の歌詞からなり、歌詞番号を伴って表示できます。

### コーラスのライン

コーラスのラインは斜体フォントで表示される歌詞からなり、歌詞のラインの間に配置されます。たとえば、2 行の歌詞があった場合、コーラスのラインはライン 1 とライン 2 の間に表示されます。

コーラスのラインには歌詞番号はありません。

### 訳詞のライン

訳詞のラインは、歌詞のラインまたはコーラスのラインのテキストを異なる言語で表示します。これは、翻訳元となる歌詞のラインまたはコーラスのラインのすぐ下に配置されます。これは斜体フォントで表示されます。

歌詞のラインはコーラスのラインも含め、それぞれが独自の訳詞のラインを持つことができます。

訳詞のラインは、翻訳元となる歌詞のラインの一部であるため、歌詞番号はありません。

すべてのタイプの歌詞は歌詞のポップオーバーを使用して入力できます。ポップオーバーの左側に表示されるアイコンは、現在入力中の歌詞のタイプを示しています。

#### 関連リンク

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(709 ページ\)](#)

[歌詞のポップオーバー \(249 ページ\)](#)

## 個々の歌詞のタイプの変更

個々の歌詞は入力後にタイプを変更できます。たとえば、歌詞はコーラスの歌詞または訳詞に変更できます。

---

#### 手順

1. タイプを変更する歌詞を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンまたはオフにします。
  - **コーラス (Chorus)**
  - **訳詞 (Is translation)**

---

#### 結果

「**コーラス (Chorus)**」をオンにすると、選択した個々の歌詞がコーラスの歌詞に変更されます。

「**訳詞 (Is translation)**」をオンにすると、選択した歌詞は同じライン番号の訳詞に変更されます。たとえば、ライン 2 の歌詞を選択して「**訳詞 (Is translation)**」をオンにすると、ライン 2 が訳詞に変更されます。

両方のプロパティをオンにすると、選択した歌詞はコーラスの訳詞に変更されます。

両方のプロパティをオフにすると、選択した歌詞は標準の歌詞に変更されます。歌詞のライン番号は、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループの「**ライン番号 (Line number)**」の数字で表示されます。

#### 補足

選択中の歌詞のラインと同じ位置の同じ譜表の側に他のコーラスのラインが存在した場合、これをコーラスのラインに変更すると、2つのラインは衝突してしまいます。これを回避するには、歌詞のライン全体のタイプを変更します。こうすることで自動的に衝突が回避されます。

---

#### 関連リンク

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

[歌詞を斜体で表示する \(712 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(709 ページ\)](#)

## 歌詞の音節のタイプ

歌詞の音節には、単語内の位置に応じていくつかのタイプがあります。歌詞のポップオーバーを進める際に押すキーによって、それぞれの歌詞の音節のタイプを指定できます。

Dorico Pro は、歌詞の入力時にポップオーバーをどのように進めたかに従い、それぞれの歌詞の音節のタイプを定義します。

### 文字列全体 (Whole word)

歌詞がスペースの後にきて、そのあとにスペースまたはピリオドが続く場合、歌詞は文字列全体であると見なされます。

文字列全体である歌詞には、いずれの側にもハイフンが表示されません。歌詞の後に延長線であれば表示される場合があります。

### 開始

歌詞がスペースの後にきて、そのあとにハイフンが続く場合、歌詞は多音節語における開始の音節であると見なされます。

開始の音節の後にはハイフンが表示されます。同じラインの次の歌詞までの距離によっては、連続したハイフンが表示される場合もあります。

### 中央

歌詞がハイフンの後にきて、そのあとにもハイフンが続く場合、歌詞は多音節語における中央の音節であると見なされます。

中央の音節の後にはハイフンが表示されます。同じラインの次の歌詞までの距離によっては、連続したハイフンが表示される場合もあります。

### 終了

歌詞がハイフンの後にきて、後にはスペースまたはピリオドが続く場合、歌詞は多音節語における終了の音節であると見なされます。

終了の歌詞の後には延長線が表示される場合があります。

### 関連リンク

[歌詞の入力](#) (248 ページ)

## 既存の歌詞の音節のタイプの変更

歌詞の音節のタイプは、歌詞を入力したあとでも変更できます。

たとえば、**[Space]** を押して歌詞のポップオーバーを次の音符に進めたが、あとからハイフンを付けることにしたような場合、音節のタイプを変更します。

### 補足

音節のタイプを変更すると、選択した歌詞の後 (前ではありません) にハイフンを表示するかどうかが変わります。したがって、歌詞の前にハイフンを表示させる場合は、その直前の歌詞の音節のタイプを変更する必要があります。

### 手順

1. 音節のタイプを変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「音節のタイプ (Syllable type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **文字列全体 (Whole word)**
  - **先頭 (Start)**
  - **中央 (Middle)**

- 末尾 (End)

#### 結果

音節のタイプが「文字列全体 (Whole word)」または「終了 (End)」である歌詞にはスペースが続きます。

音節のタイプが「開始 (Start)」または「中央 (Middle)」である歌詞にはハイフンが続きます。

#### 関連リンク

[歌詞の入力](#) (248 ページ)

## 既存の歌詞のテキストの変更

歌詞のテキストは、テキストを入力したあとでも変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、変更する歌詞を選択します。

#### 補足

一度に変更できる歌詞は1つだけです。

2. **[Return]** または **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。
3. 歌詞のポップオーバーで既存のテキストを変更します。
4. 必要に応じて、他の既存の歌詞も変更する場合は、以下のいずれかの操作を行なってポップオーバーの位置を移動させます。
  - 単語全体、または多音節語の最後の音節を入力してからポップオーバーを次の音符に進めるには、**[Space]** を押します。  
**[Space]** を押すと、ポップオーバーには自動的に既存の歌詞が選択された状態になります。
  - 多音節語の音節のうち1つを入力してからポップオーバーを次の音符に進めるには、**[-]** を押します。
  - カーソルを右に1文字進めるには、**[→]** を押します。
  - カーソルを左に1文字進めるには、**[←]** を押します。  
矢印キーを押し続けると、カーソルは次/前の歌詞/音符に自動的に移動します。
5. 歌詞の変更を終えたら、**[Return]** または **[Esc]** を押してポップオーバーを閉じます。  
譜表の最後の音符に到達すると、ポップオーバーは自動的に閉じます。

#### 関連リンク

[歌詞のライン番号](#) (708 ページ)

[歌詞の入力](#) (248 ページ)

## 歌詞の位置

Dorico Pro は歌詞の配置と、さまざまな長さの歌詞を収めるための調整を自動的に行いません。これにはメリスマ様式の楽譜における歌詞の水平位置の調整も含まれます。一方で、手動による歌詞の移動や、プロジェクト全体のデフォルト位置の変更もできます。

歌詞の位置は記譜モードで移動できます。歌詞のデフォルト位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページで選択したオプションに従います。

個々の歌詞の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

## 補足

Dorico Pro では、歌詞の水平位置は自動的に調整され、音符のスペーシングの変化を最小化します。長い音節でも音符のリズム上の外観をゆがめることなく配置できるように、音節は左右に小さく移動されます。

浄書モードで歌詞の表示位置を移動すると、選択した歌詞の自動スペーシングが上書きされます。位置が自動調整された歌詞を移動すると、その位置の音符のスペーシングが変わる場合があります。

歌詞のデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページで変更できます。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページにおける歌詞のデフォルト設定は、スコアのスペーシングを読みやすくするために最適化されています。プロジェクトの音符のスペーシングを狭くして、各音符の空間を小さくする場合は、この設定を変更します。これにより、浄書モードで編集する量を抑えつつ、分かりやすく読みやすい楽譜にできます。

水平方向のスペースが少ないスコアにおいては、以下の変更を加えることにより、歌詞の外観やリズムに即したスペーシングが改善される場合があります。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページの「**ハイフン (Hyphens)**」セクションで、歌詞とハイフンとの最小間隔など、間隔の最小値を小さくします。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページの「**スペーシング (Spacing)**」セクションで、歌詞の位置調整を行なえる幅を増加させます。

## 音節の位置

音節または単語の中で歌われる音符の数により、歌詞の配置が次のように決定されます。

- それ自体が単語であるか、より長い単語の部分である 1 つの音節が 1 つだけの音符に乗せて歌われる場合、対応する音符に中央揃えで配置されます。
- 2 つ以上の音符に乗せて歌われる音節または単語 (メリスマ) は、それが属する最初の音符の左側に左揃えで配置されます。

## 歌詞のラインの配置

歌詞は、そのライン番号に従い、他の歌詞のラインとの相対的な関係において配置されます。たとえば、ライン 1 の歌詞は 1 番上に配置されます。これは複数の歌詞のラインが譜表の上にある場合も含まれます。

あるラインの歌詞が 1 つの組段中に存在しない場合、他の歌詞のラインの間に間隔は追加されません。

### 例

3 行の歌詞があるが、ある組段においては 2 行めの歌詞がない場合。この組段では、3 行めの歌詞は上に移動し、1 行めの歌詞に近づけられます。

次の組段では 1 行めがなく、しかし 2 行めと 3 行めはある場合、歌詞の 2 行めと 3 行めが上に移動されます。歌詞の 2 行めが 1 行めの位置に取って替わります。

### 関連リンク

[浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する \(698 ページ\)](#)

[歌詞の表示位置の変更 \(704 ページ\)](#)

[譜表に対する歌詞のラインの位置を個別に変更する \(710 ページ\)](#)

## 歌詞のリズム上の位置の変更

歌詞は入力後に別のリズム上の位置へ移動できます。

### 手順

1. 記譜モードで、位置を移動する歌詞を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従い歌詞を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

### 補足

歌詞のリズム上の位置はマウスでは移動できず、キーボードしか使用できません。

### 結果

選択した歌詞が現在のリズムグリッド値に従って左右に移動します。

## 歌詞の表示位置の変更

個々の歌詞の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。

### 補足

浄書モードで歌詞の表示位置を変更すると、選択した歌詞の自動スペーシングが上書きされます。位置が自動調整された歌詞を移動すると、その位置のスペーシングが変わる場合があります。

### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する歌詞を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして左右にドラッグします。

### 結果

選択した歌詞が水平位置に移動します。

### 補足

- 歌詞の垂直位置は、歌詞のライン番号および「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」のプロジェクト全体の設定により決定されるため、上下には移動できません。
- 歌詞のライン全体のライン番号および譜表に対する位置は変更できます。また、譜表、他の歌詞のライン、および他のオブジェクトに対する歌詞の位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページにある「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで変更できます。

### 関連リンク

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(709 ページ\)](#)



譜表に対する歌詞のラインの位置を個別に変更する (710 ページ)

## 歌詞の配置を音符に対して個別に変更する

初期設定では、歌詞はその中央が符頭に対し水平方向に整列されますが、個々の歌詞について水平方向の配置を変更できます。

Dorico Pro では、音符のスペーシングの変化を最小限に抑えるために歌詞の水平位置が自動的に調整されるため、歌詞の音符に対する配置のプロジェクト全体の設定は変更できません。

### 補足

歌詞の配置を手動で変更すると、選択した歌詞の自動スペーシングは上書きされます。位置が自動調整されている歌詞の配置を変更した場合、その位置の音符のスペーシングも変化する場合があります。

### 手順

1. 配置を変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかの配置オプションを選択します。
  - 左 (Left)
  - 中央 (Center)
  - 右 (Right)

### 結果

選択した歌詞の配置が変更されます。

## 歌詞のハイフンと歌詞の延長線

歌詞のハイフンは、“Hal-le-lu-jah” のように、個々の歌詞が多音節語を構成する音節であることを示します。歌詞の延長線は、1つの歌詞が複数の音符にわたって延長することを示します。

Dorico Pro は、[-] を押して歌詞のポップオーバーを進めた場合は音節間に歌詞のハイフンを、歌詞を入力したあと [Space] を 2 回以上押して歌詞のポップオーバーを進めた場合は歌詞の延長線を、それぞれ自動的に入力して配置します。

浄書モードにおいては、歌詞のハイフンと歌詞の延長線にはそれぞれ開始位置と終了位置の 2 か所に四角いハンドルがあります。歌詞のハイフンと歌詞の延長線は全体を動かすことも、ハンドルを個別に動かすこともできます。これで歌詞のハイフンと延長線の長さを変更でき、それにより歌詞のハイフンが表示されるスペースの長さを増減できます。

way 

ハンドルが表示された歌詞の延長線

a - way 

ハンドルが表示された歌詞のハイフン

### 補足

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページの「ハイフン (Hyphens)」セクションで、デフォルトの歌詞のハイフンを変更できます。

関連リンク

[歌詞の延長線およびハイフンの長さの変更 \(706 ページ\)](#)

## 歌詞の延長線およびハイフンの移動

歌詞の延長線およびハイフンを水平に移動できます。

### 補足

歌詞の延長線またはハイフンを上下に移動することはできません。これらの垂直位置は、歌詞のライン番号と「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」のプロジェクト全体の設定によって決定されるためです。

---

### 手順

1. 浄書モードで、移動させる歌詞の延長線またはハイフンを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、歌詞の延長線またはハイフンを移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

---

- 選択対象をクリックして左右にドラッグします。
- 

### 結果

選択した歌詞の延長線またはハイフンが左右に移動します。

### 補足

- 歌詞の延長線の開始ハンドルは延長元の歌詞に接続され、歌詞のハイフンの開始ハンドルと終了ハンドルはそれぞれの側の歌詞に接続されています。いずれかの歌詞を移動した場合、対応する延長線またはハイフンのハンドルも移動します。
  - 歌詞、組段の終了位置、および他の延長線やハイフンに対する歌詞の延長線およびハイフンの配置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページにある「**延長線 (Extender Lines)**」および「**ハイフン (Hyphens)**」セクションで変更できます。
- 

関連リンク

[歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(705 ページ\)](#)

[歌詞の延長線およびハイフンの長さの変更 \(706 ページ\)](#)

## 歌詞の延長線およびハイフンの長さの変更

歌詞の延長線および歌詞のハイフンは、個別に長さを変更できます。歌詞のハイフンの長さを変更すると、歌詞のハイフンの表示スペースが増減します。

### 補足

歌詞の延長線およびハイフンの開始ハンドルは、延長元の歌詞に接続されています。この歌詞を移動すると、開始ハンドルも動きます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更する歌詞の延長線またはハイフンの、以下のいずれかの位置にある四角いハンドルを選択します。
  - 歌詞の延長線またはハイフンの開始位置
  - 歌詞の延長線またはハイフンの終了位置

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして左右にドラッグします。
3. 必要に応じて、歌詞の延長線またはハイフンの他のハンドルについても手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

選択した歌詞の延長線の長さを変更されます。たとえば、歌詞の延長線の終了ハンドルを動かさずに開始ハンドルを右に動かすと、線が短くなります。

歌詞のハイフンの長さを変更しても、ハイフンそのもののサイズや形状は変化しません。かわりに、ハンドル同士の距離が増減し、その間にハイフンが表示されます。

#### 補足

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページの「**ハイフン (Hyphens)**」セクションにあるハイフンに関する間隔のサイズの設定に応じて、歌詞のハイフンの長さを変更すると、スペース中に表示されるハイフンの数が変化します。
- 歌詞の延長線およびハイフンのハンドルを移動すると、プロパティパネルの「**歌詞 (Lyrics)**」グループにある対応する以下のプロパティがオンになります。
  - 「**ハイフン/延長線の開始 X (Line start X)**」は、歌詞の延長線およびハイフンの開始ハンドルを水平方向に移動させます。
  - 「**ハイフン/延長線の終了 X (Line end X)**」は、歌詞の延長線およびハイフンの終了ハンドルを水平方向に移動させます。

たとえば、歌詞の延長線全体を右に移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでも歌詞の延長線およびハイフンの表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した歌詞の延長線およびハイフンがデフォルト位置にリセットされます。

#### 関連リンク

[歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(705 ページ\)](#)

## 歌詞のラインの削除

歌詞のライン全体を削除できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、ライン全体を削除する歌詞がある譜表を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > [歌詞タイプ] を選択して、削除する歌詞のラインだけを選択します。
3. [Backspace] または [Delete] を押します。

---

### 結果

選択したラインの歌詞がすべて削除されます。

### 関連リンク

- [歌詞のフィルター \(698 ページ\)](#)
- [フィルターを使用した歌詞の選択 \(699 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)

## 歌詞を個別に削除する

同じ歌詞のラインに含まれる他の歌詞を除いて、選択した歌詞のみを削除できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、削除する歌詞を選択します。
2. [Backspace] または [Delete] を押します。

---

### 結果

選択した歌詞が削除されます。

## 歌詞のライン番号

歌詞のライン番号は、1 番と 2 番の歌詞がある楽曲のように、1 つのパッセージにあわせて歌う複数の歌詞がある場合、これを整理するために使用されます。Dorico Pro では、歌詞を入力する際に、または入力後に歌詞のライン番号を変更することにより、歌詞のライン番号を指定できます。

たとえば、ライン 3 に歌詞を入力したあと、ライン 3 に別の歌詞を入れるためにこれをライン 4 に変更する場合、現在のライン 3 をライン 4 に変更したあとに新規のラインをライン 3 として入力できます。歌詞のラインを正しい順番で表示するために、スペーシングが自動的に調整されます。

Dorico Pro では、同じ譜表の上下いずれにも複数の歌詞のラインが存在できます。歌詞のラインをコーラスのラインまたは訳詞のラインに変更すると、コーラスの歌詞は通常斜体フォントを使用するため、配置と外観の両方が変更されます。

### 関連リンク

- [歌詞番号 \(712 ページ\)](#)
- [歌詞のフィルター \(698 ページ\)](#)
- [歌詞を斜体で表示する \(712 ページ\)](#)

## 歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更

歌詞のライン全体のライン番号は、入力したあとでも変更できます。また、歌詞のライン全体をコーラスのラインや訳詞のラインに変更もできます。

たとえば、既存のライン 1 を訳詞のライン 4 に変更したり、ライン 2 をコーラスのラインに変更したりできます。

### ヒント

変更するラインを指定するには、歌詞のラインの音節を 1 つ選択して、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループにある「ライン番号 (Line number)」の数値フィールドを確認します。または、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページで、歌詞番号の表示をオンにできます。

### 手順

1. 記譜モードで、歌詞のラインタイプを変更するラインに属する歌詞を選択します。歌詞のラインは譜表の上にも下にも配置できます。

### ヒント

一定範囲を選択したあとに歌詞フィルターを使用して、ライン番号に従い各種の歌詞のラインを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞のラインのラインタイプを変更します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > [ライン番号] を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > 「コーラス (Chorus)」 を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > [ライン番号の訳詞] を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > 「コーラスの訳詞 (Chorus Translation)」 を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した歌詞のライン全体のライン番号またはタイプが変更されます。

### 補足

選択した歌詞のラインの同じ位置にある他の歌詞のラインに対する配置が変更される場合があります。たとえば 2 行の歌詞があり、ライン 1 をライン 3 に変更した場合、このラインはライン 2 の歌詞の下に表示が変わります。

同じ位置の譜表の同じ側にすでに同じ番号の歌詞のラインが存在する場合、2 つのラインは入れ替わります。たとえば、ライン 2 をライン 1 に変更するとき、同じ位置にすでにライン 1 がある場合、最新の変更を行なえるように、元からあったライン 1 はライン 2 に変更されます。これはコーラスのラインおよび訳詞のラインに関しても同様です。

### 関連リンク

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

[歌詞のタイプ \(699 ページ\)](#)

[歌詞のフィルター \(698 ページ\)](#)

[フィルターを使用した歌詞の選択 \(699 ページ\)](#)

## 個々の歌詞のライン番号の変更

歌詞のライン番号は、入力したあとでも個別に選択して変更できます。

### 手順

1. ライン番号を変更する歌詞を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで「ライン番号 (Line number)」の値を変更します。

### 結果

選択した歌詞のライン番号が数値フィールドの値に合わせて変更されます。

### 補足

選択した歌詞の他の歌詞のラインに対する位置が変更される場合があります。たとえば2行の歌詞があり、ライン1の歌詞をライン3に変更した場合、この歌詞はライン2の歌詞の下に表示が変わります。

### 関連リンク

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

## 譜表に対する歌詞のラインの位置を個別に変更する

歌詞のライン全体の譜表に対する位置は、入力したあとでも変更できます。

### 手順

1. 記譜モードで、譜表に対する位置を変更するラインに属する歌詞を選択します。

### 補足

一定範囲を選択したあとに歌詞フィルターを使用して、ライン番号や譜表に対する位置に応じて各種の歌詞のラインを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、譜表に対する位置を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「上 (Above)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「下 (Below)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した歌詞が含まれる歌詞のライン全体の譜表に対する位置が変更されます。

### 補足

選択中の歌詞のラインを移動させる譜表の側の同じ位置に同じライン番号を持つ歌詞のラインが存在する場合、2つのラインの位置は入れ替わります。たとえば、ライン2の位置を譜表の下から上に変更するときに、すでに譜表の上の同じ位置にライン2がある場合、最新の変更を行なえるように、譜表の上に元からあったライン2は譜表の下に移動されます。

関連リンク

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

[歌詞のフィルター \(698 ページ\)](#)

[フィルターを使用した歌詞の選択 \(699 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(709 ページ\)](#)

## 譜表に対する歌詞の位置を個別に変更する

譜表に対する個々の歌詞の位置は、入力したあとでも変更できます。

手順

1. 譜表に対する位置を変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「ラインの配置 (Line placement)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Above)
  - 下 (Below)

結果

選択した個々の歌詞の譜表に対する位置が変更されます。

補足

同じ位置の譜表の同じ側にすでに同じライン番号を持つ歌詞のラインが存在する場合、2つのラインは重なり合います。これを防止するには、どちらかの歌詞のライン番号を変更するか、「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」メニューからオプションを選択して譜表に対する位置を変更することにより、衝突を起こさないようにします。

関連リンク

[歌詞のライン番号 \(708 ページ\)](#)

[譜表に対する歌詞のラインの位置を個別に変更する \(710 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(709 ページ\)](#)

## 歌詞に使用するフォントスタイルの変更

利用できる歌詞のタイプに使用するフォントの設定をプロジェクト全体で変更できます。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. 変更するフォントを「フォントスタイル (Font style)」メニューから選択します。
  - 歌詞フォント (Lyrics Font)
  - 訳詞用フォント (Lyrics Translation Font)
  - 歌詞番号のフォント (Lyrics Verse Numbers Font)
  - コーラス歌詞用フォント (Chorus lyrics Font)
  - コーラスの訳詞用フォント (Chorus lyrics translation Font)
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
  - フォントファミリー (Font family)
  - サイズ (Size)
  - スタイル (Style)

- **下線 (Underlined)**

4. 必要に応じて、スタイルを変更するフォントごとに手順2と3を繰り返します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

結果

選択した歌詞タイプのフォントスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

## 歌詞を斜体で表示する

個々の歌詞について、フォントスタイル、歌詞タイプ、または譜表に対する位置を変更しなくても、斜体表示に変更できます。

---

手順

1. 斜体フォントで表示する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「斜体 (Italic)」をオンにします。

---

結果

選択した歌詞が斜体フォントで表示されます。

ヒント

歌詞がコーラスの歌詞または訳詞であることを示すために斜体表示にする場合は、歌詞タイプの変更がより適切です。

プロジェクト全体の標準の歌詞すべてを斜体フォントで表示させる場合は、「歌詞フォント (Lyrics Font)」のフォントスタイルを変更してください。

---

関連リンク

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(709 ページ\)](#)

[個々の歌詞のタイプの変更 \(700 ページ\)](#)

[歌詞に使用するフォントスタイルの変更 \(711 ページ\)](#)

## 歌詞番号

歌詞番号は、共通のパスセージに複数の歌詞のラインが存在するときに、歌詞が歌われる順番を示します。これは一般的には讃美歌や歌の楽譜で使用されます。

作成中の楽譜の種類によっては、歌詞番号は適切ではない場合もあります。そのため Dorico Pro では、歌詞番号の表示/非表示を選択できるようになっています。初期設定では、歌詞番号は表示されません。プロジェクト内のすべての歌詞のラインおよび個々に選択した歌詞いずれにおいても、歌詞番号の表示/非表示を切り替えられます。

プロジェクト全体のすべての歌詞のラインに歌詞番号を表示した場合、初期設定では、そのラインの最初の歌詞の前にのみ歌詞番号が表示され、それ以降の組段で自動的に繰り返されることはありません。そのため、後に続く組段でも歌詞番号を表示させる場合は、個々の歌詞において歌詞番号を表示させる必要があります。

---

補足

訳詞のラインは翻訳元となる歌詞のラインの一部であるため、独自の歌詞番号は持ちません。

---



## プロジェクト全体で歌詞番号を表示/非表示にする

プロジェクト全体で歌詞番号を表示/非表示にできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**歌詞 (Lyrics)**」をクリックします。
  3. 「**歌詞番号 (Verse Numbers)**」セクションの「**歌詞 1 行ごとの歌詞番号 (Verse numbers for each line of lyrics)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **歌詞番号を表示 (Show verse numbers)**
    - **歌詞番号を非表示 (Do not show verse numbers)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

プロジェクト全体で歌詞番号が表示または非表示になります。

## 歌詞番号の表記法の変更

歌詞番号の表記法を変更してプロジェクト全体に反映できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**歌詞 (Lyrics)**」をクリックします。
  3. 「**歌詞番号 (Verse Numbers)**」セクションの「**歌詞番号の表記法 (Punctuation for verse numbers)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **ピリオド (ドット) をつける (Append period (full stop))**
    - **ピリオド (ドット) をつけない (Do not append period (full stop))**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

### 結果

プロジェクト全体の歌詞番号がピリオド付きまたはピリオドなしで表示されます。

## 個々の歌詞において歌詞番号を表示/非表示にする

個々の歌詞の歌詞番号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で表示または非表示に設定できます。たとえば、すべての組段の開始位置に歌詞番号を表示させる場合などはこれを行いません。

---

### 手順

1. その前に歌詞番号を表示させる、または非表示にする歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**歌詞 (Lyrics)**」グループで、「**歌詞番号を表示 (Show verse number)**」をオンまたはオフにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

### 結果

プロパティと対応するチェックボックスの両方がオンになっている場合、選択した歌詞の前に歌詞番号が表示されます。プロパティがオンでもチェックボックスがオフになっている場合は、歌詞番号は表示されません。

プロパティをオフにすると、歌詞は歌詞番号の表示/非表示についてプロジェクト全体の設定に従います。

関連リンク  
[プロジェクト全体で歌詞番号を表示/非表示にする \(713 ページ\)](#)

## 日本語の歌詞でのスラー

日本語の歌詞でのスラーは、日本語で 2 つ以上の文字が同じ音符の歌詞に属することを示します。



日本語の歌詞でのスラーを使用するフレーズ

Dorico Pro では、プロジェクト内の該当するすべての歌詞および個々に選択した歌詞いずれにおいても、日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示を切り替えられます。

## 日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示

日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示は、個々の歌詞についてプロジェクト全体の設定より優先される形で切り替えられます。

---

### 手順

1. 日本語の歌詞でのスラーを表示する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「日本語の歌詞でのスラーを表示 (Show East Asian elision slur)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

---

### 結果

「日本語の歌詞でのスラーを表示 (Show East Asian elision slur)」と対応するチェックボックスの両方がオンになっていると、日本語の歌詞でのスラーが選択した歌詞に表示され、プロパティがオンでもチェックボックスがオフの場合は非表示になります。

プロパティをオフにすると、歌詞の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

---

### ヒント

該当するすべての歌詞における日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページで選択できます。

---

# 音符

音符とは譜表上に配置し、音程を指示するための記号です。音符は通常、楕円形の符頭で、デュレーションによって黒玉か白玉で表示されますが、他にもさまざまなデザインの符頭が使用できます。

デュレーションによっては、音符は符尾を持つことがあります。符尾はデュレーションを示すために使用されます。

関連リンク

[音符の入力](#) (153 ページ)

[音符のスペーシング](#) (385 ページ)

[符尾](#) (952 ページ)

[個々の符頭のデザインの変更](#) (729 ページ)

[音程追加のポップオーバー](#) (175 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (175 ページ)

## 浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する

音符および符頭の外観に関するプロジェクト全体の設定については、「[浄書 \(Engrave\)](#)」 > 「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[音符 \(Notes\)](#)」ページからさまざまなオプションが選択できます。

このページのオプションを使用すると、符頭、加線、符尾、符鉤および付点のデザイン、外観および位置を変更できます。また、倍全音符 (二全音符) の外観および装飾音符の標準の音符に対するサイズも変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ](#) (302 ページ)

## プロジェクト全体で符頭のデザインを変更する

符頭のデザインに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」を開きます。
2. ページリストの「[音符 \(Notes\)](#)」をクリックします。
3. 「[符頭 \(Noteheads\)](#)」セクションの「[符頭のデザイン \(Notehead design\)](#)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「[デフォルトサイズの符頭 \(Default size noteheads\)](#)」 (「[大きめの符頭 \(Larger noteheads\)](#)」より小さい)
  - [大きめの符頭 \(Larger noteheads\)](#) (デフォルト)
  - [ノート名を表示 \(Note names\)](#)
  - [Figurenotes© カラー \(Figurenotes© colors\)](#)

#### 結果

プロジェクト全体のすべての音符における符頭のデザインが変更されます。

#### 補足

これは個別にデザインを変更した符頭のデザインには影響しません。たとえば選択した音符を菱形符頭に変更していた場合、その変更が優先されます。

---

#### 関連リンク

[個々の符頭のデザインの変更 \(729 ページ\)](#)

## プロジェクト全体で音度ごとに異なる形状の符頭を表示する

プロジェクト全体で音度ごとに異なる符頭のデザインを表示できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
  3. 「**符頭 (Noteheads)**」セクションで、「**音度に基づく変形符頭 (Shaped noteheads based on scale degree)**」から以下のオプションのうちいずれかを選択します。
    - **Walker 4 種の形状 (Walker 4-shape)**
    - **Walker 7 種の形状 (Walker 7-shape)**
    - **Funk 7 種の形状 (Funk 7-shape)**
    - **Aikin 7 種の形状 (Aikin 7-shape)**
- 

#### 結果

プロジェクト全体のすべての符頭のデザインが変更され、選択に従い音度ごとに異なる符頭のデザインを表示するように変更されます。

#### 補足

これにより、個別にデザインを変更した符頭のデザインが上書きされることはありません。

---

#### 関連リンク

[ピッチ依存の符頭セットのデザイン \(721 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(729 ページ\)](#)

## プロジェクト全体で符頭にノート名を表示する

プロジェクト全体のすべての符頭にノート名を文字で表示できます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
3. 「**符頭 (Noteheads)**」セクションで、「**符頭のデザイン (Notehead design)**」に「**ノート名を表示 (Note names)**」を選択します。

#### 補足

これにより、個別にデザインを変更した符頭のデザインが影響を受けることはありません。

---

#### 結果

個別にデザインが上書きされた以外のすべての符頭のデザインが、符頭の中にノート名を表示する形に変更されます。

#### 補足

プロジェクトでレイアウトの譜表サイズを大きくすると可読性を向上できます。

---

#### 関連リンク

[個々の符頭のデザインの変更](#) (729 ページ)

[譜表サイズ](#) (917 ページ)

[レイアウト中の譜表サイズの変更](#) (918 ページ)

## 符頭セット

符頭セットは、記譜に際して音符のデュレーションの表現に必要なすべての異なる符頭をひとまとめにした、同種のデザインに属する符頭の集まりです。

標準的な符頭セットには、最低 4 つの符頭が設定されています。

- 4 分音符かそれ以下のデュレーションの音符用の黒玉符頭
- 2 分音符用の白玉符頭
- 全音符用の幅広の白玉符頭
- 倍全音符用の、幅広の白玉符頭の両側に 1 本か 2 本の縦線が付いたもの、または四角形の白い符頭

ピッチ依存の符頭セットには、音符のデュレーションではなくピッチで変化する符頭も含まれます。

- *ピッチ*の符頭セットには、ピッチごとに異なる符頭が設定されています。  
たとえばピッチ名符頭セットは、それぞれの音符の符頭にアルファベットによる音名と、該当する場合は臨時記号を表示します。
- *音度*の符頭セットには、現在の調号に対するそれぞれの音符の音度ごとに異なる符頭が設定されています。  
たとえば Aikin 7 種の形状の符頭セットは、ピッチごとに形状が異なる符頭を使用します。

#### 補足

- 1 つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。
  - 符頭セットには同じ種類の符頭しか設定できません。たとえば、標準の符頭はピッチ符頭セットには使用できません。
  - 既存の符頭セットまたは既存の符頭のタイプは変更できません。
- 

#### 関連リンク

[ピッチ依存の符頭セットのデザイン](#) (721 ページ)

[カスタムの符頭セット](#) (722 ページ)

## 符頭セットのデザイン

Dorico Pro には、個々の符頭に使用できる数種類の符頭セットのデザインが用意されています。

- 「**編集 (Edit)**」 > 「**符頭 (Notehead)**」 > [符頭のタイプ] > [符頭のデザイン]を選択すると、利用できる符頭のデザインを確認できます。

補足

Dorico Pro では、符尾なしの符頭は用意されていません。かわりに、どの符頭デザインにおいても、音符の符尾を非表示にできます。

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

大きめの符頭 (Larger Noteheads)



デフォルトの符頭 (Default Noteheads)



丸付き符頭 (大) (Large Circled Noteheads)



丸付き符頭 (Circled Noteheads)



スラッシュ付き符頭 (左下から右上) (Slashed Noteheads (Bottom Left to Top Right))



スラッシュ付き符頭 (左上から右下) (Slashed Noteheads (Top Left to Bottom Right))

X形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

丸付き X 符頭 (Circle X Noteheads)

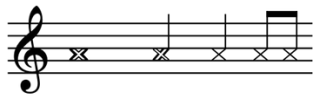


X および菱形の符頭 (大) (Large X and Diamond Noteheads)



装飾文字の X 符頭 (Ornate X Noteheads)

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

+ 符頭 (Plus Noteheads)

X 付き符頭 (With X Noteheads)

X 符頭 (X Noteheads)

X と丸付き X 符頭 (X and Circle X Noteheads)

X と菱形符頭 (X and Diamond Noteheads)

三角形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

下向き矢印符頭 (大) (Large Arrow Down Noteheads)

上向き矢印符頭 (大) (Large Arrow Up Noteheads)

逆三角形符頭 (Triangle Down Noteheads)

左向き三角形符頭 (Triangle Left Noteheads)

右向き三角形符頭 (Triangle Right Noteheads)

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

三角形符頭 (Triangle Up Noteheads)

---

菱形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

菱形符頭 (Diamond Noteheads)



旧式の菱形符頭 (Old-Style Diamond Noteheads)



菱形符頭 (白) (White Diamond Noteheads)



菱形符頭 (幅広) (Wide Diamond Noteheads)

---

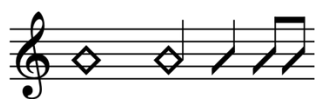
スラッシュ符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

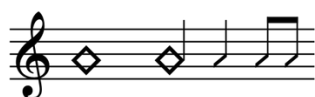
ミュートスラッシュ符頭 (Muted Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (特大) (Oversized Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (小) (Small Slash Noteheads)

---



## 丸と四角の符頭

### 符頭セットのデザイン



### 符頭セットの名称

半月形符頭 (Moon Noteheads)

長方形符頭 (Rectangular Noteheads)

点付き白丸符頭 (Round White with Dot Noteheads)

関連リンク

[符頭セット \(717 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(729 ページ\)](#)

[符尾の非表示 \(958 ページ\)](#)

## ピッチ依存の符頭セットのデザイン

ピッチ依存の符頭セットは、音符のピッチに従い異なるデザインまたはカラーの符頭を使用します。Dorico Pro では、数種類のピッチ依存の符頭セットが利用できます。

- 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > [符頭のタイプ] > [符頭のデザイン] を選択すると、利用できる符頭のデザインを確認できます。

### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページでは、すべての符頭にピッチ依存の符頭のデザインを使用することをプロジェクト全体の設定として選択できます。

## 音度による符頭

### 符頭セットのデザイン



### 符頭セットの名称

Aikin 7 種の形状の符頭 (Aikin 7-shape Noteheads)

Funk 7 種の形状の符頭 (Funk 7-shape Noteheads)

Walker 4 種の形状の符頭 (Walker 4-shape Noteheads)

---

### 符頭セットのデザイン



### 符頭セットの名称

Walker 7 種の形状の符頭 (Walker 7-shape Noteheads)

---

### ピッチによる符頭

---

### 符頭セットのデザイン



### 符頭セットの名称

Figurenotes© の符頭 (Figurenotes© Noteheads)



ピッチ名符頭 (Pitch name noteheads)

---

関連リンク

[符頭セット \(717 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(729 ページ\)](#)

[プロジェクト全体で音度ごとに異なる形状の符頭を表示する \(716 ページ\)](#)

[プロジェクト全体で符頭にノート名を表示する \(716 ページ\)](#)

## カスタムの符頭セット

カスタムの符頭および符頭セットを作成および編集できます。これによりたとえば、追加の演奏技法を表わす特定の形状を持つ符頭を作成できます。

Dorico Pro では、符頭はセットにグループ化されます。これにより異なるデュレーションに使用される符頭をカスタマイズできます。たとえば、標準の符頭セットは4分音符と2部音符では異なる符頭を使用します。

「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログでは、カスタムの符頭セットの作成および既存の符頭セットの編集が行なえます。

「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログでは、それぞれの符頭セットについて、符頭の新規作成および個々の符頭の編集が行なえます。

関連リンク

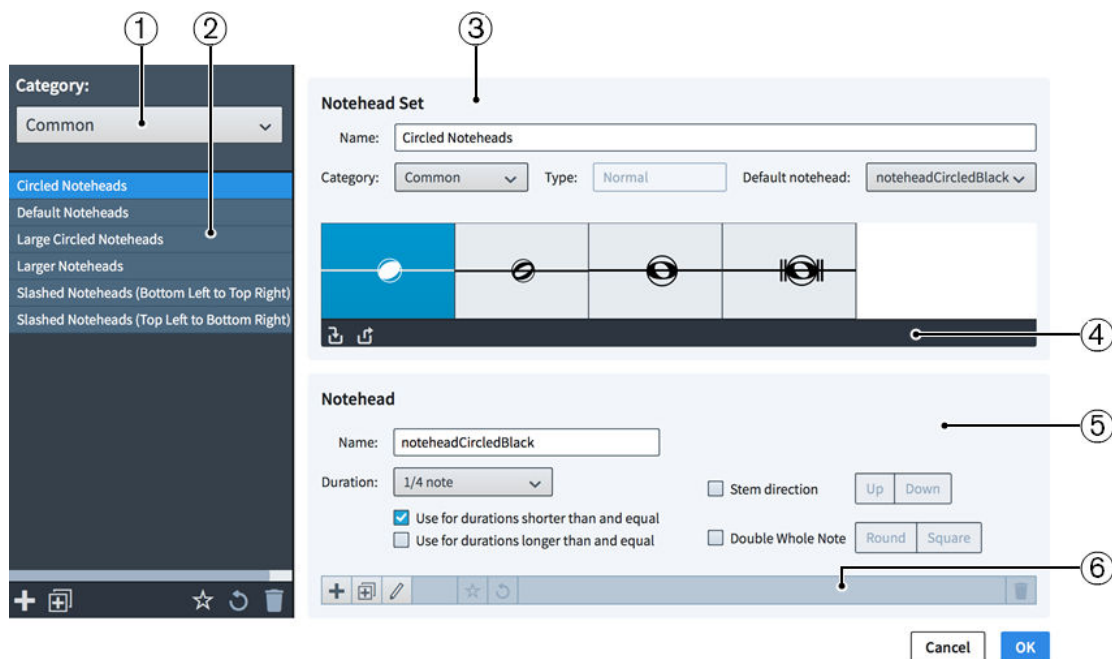
[符頭セット \(717 ページ\)](#)

[「符頭を編集 \(Edit Notehead\)」ダイアログ \(726 ページ\)](#)

### 「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログ

「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログでは、カスタムの符頭セットの追加、編集および削除が行なえます。また、符頭の外観と機能に関するさまざまな設定も、符頭セットごとに変更できます。

- 「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**符頭セット (Notehead Sets)**」を選択すると開きます。



「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」 ダイアログ

「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」 ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューから「X 形 (Crosses)」や「菱形 (Diamonds)」などのカテゴリーを選択することで、符頭セットのリストを切り替えられます。このカテゴリーは、メニュー内の符頭セットの場所 (例: 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X 形 (Crosses)」 > 「X 符頭 (X Noteheads)」) に対応します。

### 2 符頭セットのリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての符頭セットが表示されます。リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- 新規 (New)



新規符頭セットを追加します。初期設定では、新規符頭セットは「標準 (Normal)」タイプになり、「一般 (Common)」カテゴリーに入ります。

- 選択部分から新規作成 (New from Selection)



選択中の符頭セットの複製となる新規符頭セットを追加します。

#### 補足

1 つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。

- デフォルトとして保存 (Save as Default)



選択中の符頭セットをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。

- 出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)



選択中のプリセットの符頭セットに加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択した符頭セットを削除します。

#### 補足

プリセットの符頭セットは削除できません。

### 3 「符頭セット (Notehead Set)」 セクション

符頭セットリストで選択されている符頭セットに設定された符頭を表示します。符頭セットに適用される以下のオプションがあります。

- **名前 (Name)**  
選択中の符頭セットの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。
- **カテゴリー (Category)**  
「X 形 (Crosses)」など、符頭セットのカテゴリーを選択できます。このカテゴリーは、メニュー内の符頭セットの場所 (例: 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X 形 (Crosses)」 > 「X 符頭 (X Noteheads)」) に対応します。
- **タイプ (Type)**  
符頭セットが「標準 (Normal)」、「ピッチ (Pitched)」、「音度 (Scale Degree)」のいずれであるか表示します。

#### 補足

符頭セットの「タイプ (Type)」は変更できません。特定の「タイプ (Type)」の符頭セットを新規に作成する場合、符頭セットリストからそのタイプの既存の符頭セットを選択して、「選択部分から新規作成 (New from Selection)」をクリックする必要があります。

- **デフォルトの符頭 (Default notehead)**  
音符の要求に一致する符頭が存在しない場合、Dorico Pro がどの符頭を使用するか選択できます。たとえば全音符より長い音符を入力したとき、そのデュレーションに定義された符頭がなかった場合などがこれに該当します。

### 4 符頭セットのアクションバー

符頭セットを構成する符頭を変更する以下のオプションがあります。

- **符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set)**



符頭セットに新規に符頭を追加します。メニューから任意の符頭を選択できます。

#### 補足

1つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。

- **符頭を設定から削除 (Remove Notehead from Set)**



符頭セットから選択した符頭を削除します。





### 5 「符頭 (Notehead)」 セクション

「符頭セット (Notehead Set)」セクションで選択中の符頭に適用される以下のオプションがあります。

- **名前 (Name)**  
選択中の符頭の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。この名前は「**符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set)**」メニューで使用され、固有である必要があります。
- **デュレーション (Duration)**  
選択した符頭を使用する基本のデュレーションを選択できます。それから、選択した符頭がこれより短い/長い音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **これ以下のデュレーションに使用 (Use for durations shorter than and equal)**  
選択した符頭が選択した「**デュレーション (Duration)**」以下のデュレーションの音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **これ以上のデュレーションに使用 (Use for durations longer than and equal)**  
選択した符頭が選択した「**デュレーション (Duration)**」以上のデュレーションの音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **符尾の方向 (Stem direction)**  
選択した符頭について、符尾が上向きまたは下向きいずれかの音符のみに使用することを指定できます。これは特に、複数の形状がある符頭において必要な機能です。たとえば、三角形の符頭の三角形は符尾の方向に従い異なる方向を向きます。
- **倍全音符 (Double whole note)**  
選択した符頭が「**丸 (Round)**」か「**四角 (Square)**」か指定できます。これは「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページの「**倍全音符 (ブレーベ) の符頭の外観 (Appearance of double whole note (breve) notehead)**」によるプロジェクト全体の設定に従い、倍全音符にどの符頭を使用するかを定義します。
- **ピッチ (Pitch)**  
選択した符頭が使用される音名と臨時記号を指定します (「**ピッチ (Pitched)**」タイプの符頭のみ)。
- **音度 (Degree)**  
選択した符頭が使用される音度を、1 から 7 の整数で指定します (「**音度 (Scale Degree)**」タイプの符頭のみ)。

## 6 符頭のアクションバー

新規および既存の符頭を編集できる以下のオプションがあります。

- **新規の符頭 (New Notehead)**  
  
デフォルトの黒玉符頭を基本とする「**標準 (Normal)**」の符頭を新規作成します。
- **選択部分から新規作成 (New from Selection)**  
  
「**符頭セット (Notehead Set)**」セクションで選択中の符頭の複製となる符頭セットを新規作成します。
- **符頭を編集 (Edit Notehead)**  
  
「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログを開きます。ここでは符頭そのものの外観を変更できます。
- **デフォルトとして保存 (Save as Default)**  


選択中の符頭をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。

- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)**



選択中のプリセットの符頭に加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択した符頭を削除します。

#### 補足

プリセットの符頭、またはプロジェクト内で現在使用中の符頭は削除できません。

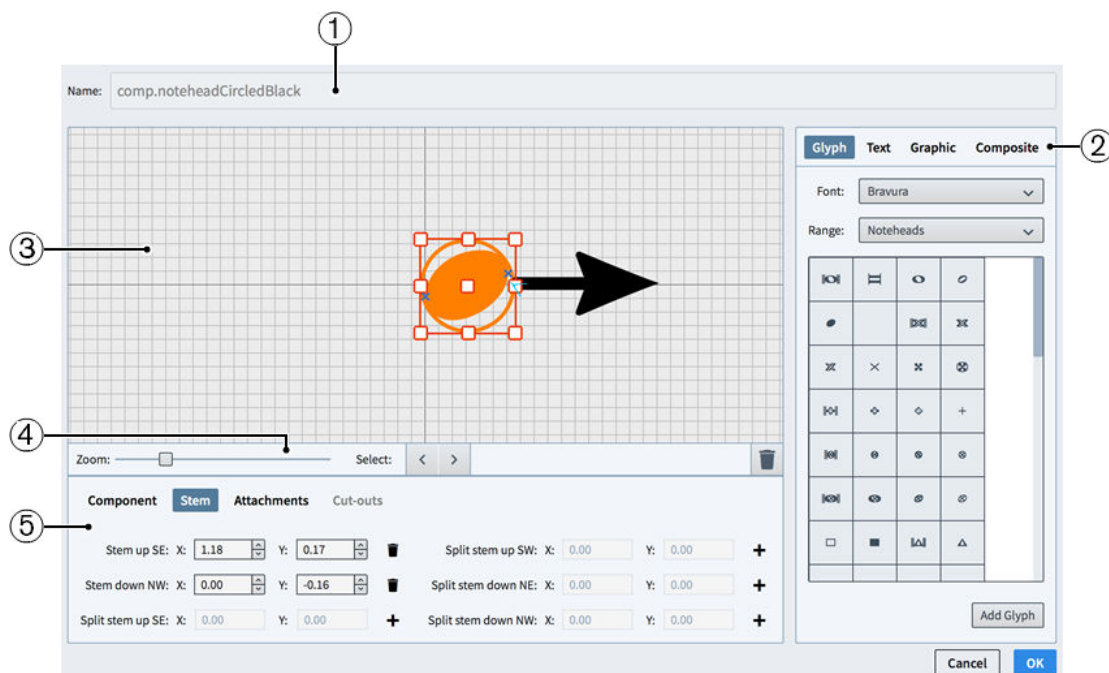
関連リンク

[符頭セット \(717 ページ\)](#)

## 「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログ

「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログでは、カスタムの符頭のデザインと、符頭の外観や配置の編集を行なえます。

- 「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログは、「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」 ダイアログから開けます。「符頭セット (Notehead Set)」 リストからデザインを編集する符頭を選択してダブルクリックするか、「符頭 (Notehead)」 セクションのアクションバーにある「符頭を編集 (Edit Notehead)」 をクリックします。



「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログ

「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

### 1 名前 (Name)

プリセットの符頭の保存名、または新規の符頭の自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

符頭に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを符頭に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを符頭に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを符頭に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせを符頭に追加します。

### 3 エディター

符頭を形作る要素の配置と編集を行ないます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

符頭はエディターの中央に配置し、その左端を太い垂直のグリッド線に、その中央を太い水平のグリッド線に揃えることをおすすめします。

### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom)**  
エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select)**  
次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)**



エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。

- **削除 (Delete)**



選択した要素を削除します。

### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。符頭に関しては、「**要素 (Component)**」、「**符尾 (Stem)**」、および「**アタッチメント (Attachments)**」のタブが利用できます。「**切り抜き (Cut-outs)**」のタブは符頭には適用されません。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

## 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- 「**前後の順序 (Z order)**」: 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「**符尾 (Stem)**」のタブには、符頭のどの位置に符尾が接続するかを制御するオプションがあります。それぞれの符頭には複数のアタッチメントポイント (接続位置) を持たせることができます。これは音符の符尾には上向きや下向き、さらにオルタードユニゾンの分割符尾もあり、多くの場合それぞれ接続される符頭の位置が異なるためです。符尾のアタッチメントポイントには、アタッチメントを使用する符尾の方向と、その位置に接続する符尾の部位が示されます。たとえば「**上向き符尾の下端 (Stem up SE)**」は、上向きの符尾の下端が符頭に接続する場所です。

「**符尾 (Stem)**」タブでは、それぞれの符尾のアタッチメントポイントに以下のオプションがあります。

- **X**: アタッチメントポイントを水平方向に移動します。
- **Y**: アタッチメントポイントを垂直方向に移動します。
- **追加**: 符頭にアタッチメントポイントを追加します。

+

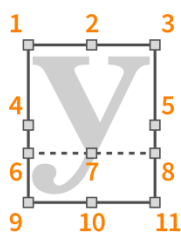
- **削除**: 符頭からアタッチメントポイントを削除します。

☒

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、符頭が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)



- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[オルタードユニゾン](#) (497 ページ)

## 個々の符頭のデザインの変更

トリルの補助音符を含め、個々の符頭についてデザインを変更できます。たとえば、木管楽器に空気を通す音のように、無音程のサウンドをプレーヤーが発することを示す場合などに、X 型の符頭を使用できます。

### 補足

この手順は、スラッシュ符頭の声部に属する音符には適用されません。

### 手順

1. デザインを変更する符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「符頭のタイプ」 > 「符頭のデザイン」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。  
たとえば、選択した音符の符頭のデザインを X 符頭に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X 形 (Crosses)」 > 「X 符頭 (X Noteheads)」を選択します。

### 結果

選択した音符の符頭のデザインが変更されます。

### ヒント

また、符頭のデザインに関するプロジェクト全体の設定変更も行なえます。

関連リンク

[プロジェクト全体で符頭のデザインを変更する](#) (715 ページ)

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (860 ページ)

[スラッシュ符頭](#) (859 ページ)

[スラッシュ符頭の声部](#) (1052 ページ)

[符尾の非表示](#) (958 ページ)

## 音符のサイズを個別に変更する

キューまたは装飾音符のデフォルトの縮尺サイズを使用して、音符のサイズを個別に変更できます。また、カスタムの縮尺サイズを使用できます。

### ヒント

- すべての音符のサイズに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページで符頭のデザインを変更することによって変更できます。ただし、音符のサイズを個別に変更する方が自由度は高くなります。
- 装飾音符やキューとして使用するために音符のサイズ変更を考えている場合は、サイズ変更ではなく装飾音符またはキューの入力を利用してください。

#### 手順

1. サイズを変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループで、以下のプロパティをオンにします。
    - デフォルトの縮尺サイズを使用する場合は「**スケール (Scale)**」をオンにします。
    - カスタムの縮尺サイズを使用する場合は、「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」をオンにします。
    - デフォルトの縮尺サイズをもとにしたカスタムの縮尺サイズを使用する場合は、「**スケール (Scale)**」と「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」の両方をオンにします。
  3. 「**スケール (Scale)**」をオンにした場合、必要に応じて、メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **標準 (Normal)**
    - **装飾音 (Grace)**
    - **キュー (Cue)**
    - **キュー装飾音 (Cue grace)**
  4. 「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」をオンにした場合、必要に応じて、数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

- 「**スケール (Scale)**」をオンにした場合、選択した音符が選択したデフォルトの縮尺サイズに変更されます。
- 「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」をオンにした場合、選択した音符が設定したカスタムのパーセンテージの縮尺サイズに変更されます。
- 「**スケール (Scale)**」と「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を両方オンにした場合、選択した音符が選択したデフォルトの縮尺サイズに対するカスタムのパーセンテージの縮尺サイズに変更されます。たとえば、「**スケール (Scale)**」に「**装飾音 (Grace)**」を選択し、「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」に「50」を設定した場合、選択した音符のサイズは装飾音符の半分のサイズになります。

#### 関連リンク

[装飾音符の入力 \(170 ページ\)](#)

[キューの入力 \(271 ページ\)](#)

[符頭セットのデザイン \(717 ページ\)](#)

## 音符の位置の移動

音符は、装飾音符も含めて、入力後に譜表に沿って異なる位置に移動できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、移動する音符を選択します。
  2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従い選択した音符を移動します。
    - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
    - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
- 

#### 結果

選択した音符が現在のリズムグリッド値に従って異なる位置に移動します。複数の音符を選択した場合、音符はブロックとして一緒に移動します。

音符は他の音符のデュレーションや配置に応じて自動的に配置されます。

#### 補足

「和音 (Chords)」がオフの状態、選択した音符が同じ譜表上の別の音符、もしくは同じ声部の同じ拍の位置と重なる場合、既存の音符は選択している音符に上書きされます。

---

#### 関連リンク

- [リズムグリッド \(148 ページ\)](#)
- [和音の入力 \(171 ページ\)](#)
- [音符ツールボックス \(136 ページ\)](#)
- [音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連符の作成 \(550 ページ\)](#)
- [音符を別の譜表に移動する \(288 ページ\)](#)

## 加線の幅を個別に変更する

個々の音符の加線の幅を変更できます。たとえばこれにより、短いデュレーションの音符を読み取れる状態のまま間隔を詰められます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、加線の幅を変更する符頭を選択します。
  2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「加線 (Ledger line)」をオンにします。
  3. 「L」および「R」の値を変更します。
- 

#### 結果

「加線 (Ledger line)」の「L」の値を大きくすると加線の左側が長くなり、値を小さくすると加線の左側が短くなります。

「加線 (Ledger line)」の「R」の値を大きくすると加線の右側が長くなり、値を小さくすると加線の右側が短くなります。

#### ヒント

すべての加線の幅に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

- [浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する \(715 ページ\)](#)

## 加線の表示/非表示の切り替え

個々の音符は加線の表示/非表示を切り替えられます。たとえば音符の相対的な垂直位置でおおよそのピッチを示す場合などに、加線の非表示を使用します。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、加線の表示/非表示を切り替える符頭を選択します。

#### 補足

加線を非表示にする場合、同じ声部で声部列の同じ並びに属する他の符頭もすべて選択する必要があります。

---

2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「加線を非表示 (Hide ledger lines)」をオン/オフにします。
-

### 結果

選択した音符の加線が表示または非表示になります。

和音の構成音の一部のみ「**加線を非表示 (Hide ledger lines)**」をオフにした場合、選択した音符と譜表の間の、同じ声部で声部列の同じ並びに属するすべての音符に加線が表示されます。

### 関連リンク

[声部列の並び順](#) (1051 ページ)

## 付点の統合

付点の統合は、複声部においてリズム上の同じ位置に表示される付点の数を制御します。存在する音符と声部の数、およびそれらの譜表上の位置により、付点の異なる表示数および表示位置が必要となる場合があります。

プロジェクト全体の複声部における付点の統合方法は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**付点 (Rhythm Dots)**」セクションで選択できます。付点の統合に関する全般的なオプションと、ユニゾンの音符に関する詳細なオプションが別個に用意されています。

### 付点の統合



デュレーションに関係なくすべての音符の付点を統合

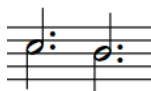


同じデュレーションの音符のみ付点を統合

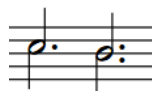


付点の統合なし

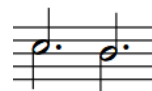
### ユニゾンの音符における付点の統合



ユニゾンの符頭ごとに1つの付点を表示



線上のユニゾンには符頭ごとに付点を表示するが、間上のユニゾンには1つの付点のみ表示



ユニゾンごとに1つの付点のみ表示

### ヒント

複声部にある付点の統合方法は、個別に変更することもできます。

### 関連リンク

[浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (715 ページ)

[付点の統合を個別に変更する](#) (732 ページ)

## 付点の統合を個別に変更する

複声部の付点が特定の拍で統合される方法を個別に変更できます。たとえば、非常に密集した和音で付点の表示数を減らすことができます。

### 手順

1. 浄書モードで、付点の統合を変更する音符を選択します。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**付点の統合 (Rhythm dot consolidation)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンの場合はあらゆるデュレーションの音符の付点が統合され、チェックボックスがオフの場合は付点は統合されません。

プロパティがオフの場合は、付点は音符のデュレーションによって統合が行なわれるプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

複声部のすべての付点の統合方法に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[付点の統合 \(732 ページ\)](#)

[浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する \(715 ページ\)](#)

## 付点の移動

付点は水平方向に移動できます。ただし、1つの付点をリズム上の同じ位置にある他の付点から独立して移動することはできません。

#### 手順

1. 浄書モードで、移動する付点の位置の符頭を選択します。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**付点 X (Rhythm dot X)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

「**付点 X (Rhythm dot X)**」の値を大きくすると、選択した位置のすべての付点が右に移動し、小さくすると左に移動します。

## 個々の音符について演奏する弦を指定する

バイオリンやチェロなど弦楽器の譜表の音符については、個別に選択してどの弦で演奏するかを指定できます。音符の多くは、弦を押さえる位置次第では複数の弦で演奏できます。

弦の指定は、グリッサンドやフィンガリングシフトを行なう音符に対して効果的です。音符を演奏するための弦とフィンガリングのポジションは、これらの変化の方向に影響するからです。ただし、弦の番号は楽譜に表示されません。そのかわりにフィンガリングを入力することにより、弦楽器プレイヤーは演奏すべき弦を把握できます。

#### 補足

弦の指定は、弦楽器インストゥルメントに属する音符にのみ行なえます。

#### 手順

1. 弦の割り当てを変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

複数の音符を同時に選択する場合は、同じインストゥルメントタイプの譜表の音符しか選択できません。たとえば、バイオリン1とバイオリン2の譜表における複数のCを選択します。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**弦 (String)**」をオンにします。
3. メニューから任意の弦を選択します。  
インストゥルメントの弦番号が表示され、続いてその弦の基本ピッチおよびオクターブ番号が括弧内に表示されます。たとえば、チェロの最低弦は「**4 (C2)**」と表現されます。

補足

メニューで利用できるオプションは、選択したピッチとインストゥルメントのタイプによって変化します。

---

結果

選択した音符を演奏する弦が変更されます。

補足

この操作のあとに音符のピッチを変更した場合、指定した弦では演奏できなくなったすべての音符において「**弦 (String)**」が自動的にオフになります。

---

関連リンク

[グリッサンドライン \(760 ページ\)](#)

[弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号の方向を変更する \(658 ページ\)](#)

# 装飾音

装飾音は、記譜上のピッチに加えて複数の音符を演奏することを示す記号です。これは音楽の装飾に使用されます。たとえばバロック音楽では、トリルやその他の装飾音による装飾が多く施されます。

演奏者がどう音符を演奏するかの特定の記譜方法は時代とともに発展し、さまざまな装飾音パターンを指定するさまざまな装飾記号が生まれています。それでも装飾音においては、演奏者が自身のやり方で音楽を装飾する幾ばくかの自由が与えられています。

Dorico Pro では、装飾音の記号が幅広く用意され、さまざまなスタイルの装飾音の記譜が行なえます。

“装飾音”と呼ばれるものには、以下に挙げるような装飾的な音符が幅広く含まれています。

- モルデント
- トリル
- ターン
- 装飾音符
- アチャカトゥーラ
- アボジャトゥーラ

Dorico Pro では、“装飾音”とは音符の上に記入される装飾音やトリルの記号を指します。



ターン、ショートトリル、延長線付きのトリルを含むフレーズ

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

[装飾音符 \(664 ページ\)](#)

[装飾音の位置 \(737 ページ\)](#)

## 浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで、装飾音とトリルの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「装飾音 (Ornaments)」ページのオプションを使用すると、臨時記号、符頭およびトリルの延長線に対するトリルの位置を変更できます。後に続く組段におけるトリルマークのデフォルトの外観や、トリルの音程の外観と再表示の設定を変更したり、装飾音と譜表および符頭との最小距離を設定したりもできます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 装飾音の音程の変更

装飾音の音程を記譜上のピッチの上下どちらにでも変更して、装飾音で演奏するピッチを指示できます。装飾音の音程は臨時記号によって表示されます。

装飾音の中には、音程の変化を一定の方向でしか行なえないものがあります。たとえば、ショートトリルでは音程の変化は上方のみ、モルデントでは下方のみとなります。

### 補足

この手順はトリルには適用されません。

### 手順

1. 音程を変更する装飾音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**装飾音 (Ornaments)**」グループで、選択した装飾音に適切なプロパティを以下から選んでオンにします。
  - **上の音程 (Interval above)**
  - **下の音程 (Interval below)**トリルについては、プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループで「**音程 (Interval)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を任意の音程に変更します。
  - 0 または 4 以上では、臨時記号は表示されません。
  - 1 ではフラットが表示されます。
  - 2 ではナチュラルが表示されます。
  - 3 ではシャープが表示されます。

### 結果

選択した装飾音の位置が変更されます。

### 補足

装飾音のタイプによっては、上下いずれにも臨時記号を表示しないものもあります。

- 装飾音のタイプによっては、上下いずれにも臨時記号を表示しないものもあります。
- 装飾音の臨時記号のトリルに対する位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページで変更できます。

### 例

臨時記号なし

上および下のフラット

上および下のナチュラル

上および下のシャープ



関連リンク

[既存のトリルの音程を変更する \(744 ページ\)](#)

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(735 ページ\)](#)

## 装飾音の位置

トリルを含む装飾音は、適用される音符の上に配置されます。それらが譜表の下に配置されるのは、譜表に複数の声部がある場合のみです。

装飾音とトリルは初期設定ではスラーの外側に配置されます。同様に、装飾音はアーティキュレーションより符頭から離れた位置に配置されます。

装飾音の中央は適用される符頭の中央に揃えられます。トリルの整列は異なり、トリル記号の左側が適用される符頭の左端に揃えられます。

Dorico Pro は装飾音をタイプに応じて適切な位置に自動的に配置し、符頭に連結します。

装飾音の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

装飾音の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべての装飾音とトリルのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(735 ページ\)](#)

[装飾音の表示位置の移動 \(738 ページ\)](#)

[スラーに対する装飾音の位置の変更 \(739 ページ\)](#)

## 装飾音のリズム上の位置の移動

装飾音を異なる位置に移動できます。

---

手順

1. 記譜モードで、移動する装飾音を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる装飾音は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音を移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - 装飾音をクリックして左右にドラッグし、異なる位置にスナップさせます。

---

結果

1つの装飾音が同じ譜表の次または前の符頭に移動します。

複数の装飾音が、現在のリズムグリッド値に従い移動します。

## 装飾音の表示位置の移動

装飾音の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。またトリルのハンドルの開始位置および終了位置も個別に移動でき、つまりトリルの表示の長さを変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
  - 装飾音またはトリル
  - トリルの個別のハンドル

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、装飾音またはハンドルを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

### 結果

選択したアイテムの表示位置が適用されるリズム上の位置に影響することなく変更されます。

### ヒント

装飾音を移動すると、プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」は装飾音を水平方向に移動します。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」は装飾音を垂直方向に移動します。

トリルを移動すると、プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」はトリル全体を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット X (End offset X)**」はトリル延長線の終了位置を水平に移動します。

たとえば、トリル全体を右に移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、装飾音やトリルを移動したり、トリルの長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択した装飾音やトリルがデフォルト位置にリセットされます。

## 譜表に対する装飾音の位置の変更

装飾音は通常譜表の上に配置されますが、譜表に複数の声部があるときは、符尾が下向きの声部の装飾音は譜表の下に配置されます。装飾音の譜表に対する位置は個別に変更できます。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する装飾音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの選択した装飾音に対応するグループで、「**位置 (Placement)**」をオンにします。
    - **装飾音 (Ornaments)**
    - **トリル**
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Above)**
    - **下 (Below)**
- 

### 結果

選択した装飾音の位置が変更されます。

## スラーに対する装飾音の位置の変更

装飾音は初期設定ではスラーの外側に配置されます。装飾音のスラーに対する位置は個別に変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、スラーに対する位置を変更する装飾音を選択します。
  2. プロパティパネルの選択した装飾音に対応するグループで、「**スラーとの相対位置 (Slur-relative position)**」をオンにします。
    - **装飾音 (Ornaments)**
    - **トリル**
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **内側 (Inside)**
    - **外側 (Outside)**
- 

### 結果

選択した装飾音がスラーの内側または外側に配置されます。

## トリルの開始位置の変更

それぞれのトリルの開始位置を符頭もしくは臨時記号に揃えるのかを、プロジェクト全体の設定とは別に設定できます。

---

### 手順

1. 開始位置を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループで、「**開始位置 (Start position)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **符頭 (Notehead)**

- 臨時記号 (Accidental)

#### 結果

選択したトリルの開始位置が変更されます。

#### ヒント

すべてのトリルの開始位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(735 ページ\)](#)

## トリル

トリルは2音を交互に素早く、トレモロのように演奏するもので、バロック、古典派、およびロマン派の音楽において一般的な装飾音です。トリル記号は通常単音に追加され、記譜上の音符とその半ステップまたは1ステップ上の音を演奏することを示し、トリルのデュレーションを示す延長線を表示できます。



延長線付きトリルが複数含まれるフレーズ

その装飾音としての伝統により、演奏者の多くはトリルにトレモロとは異なる解釈を行いません。プレーヤーによってはトリルの記譜上のピッチをより強調してトリル先のピッチは強調しない一方、トレモロは両方の音を均等に演奏します。

最も一般的なトリルは長2度または短2度上の音符ですが、他のトリルの音程も指定できます。

Dorico Pro では、トリルは音程の自由な指定と外観の変更が行なえ、再生時には演奏に反映されます。

#### 関連リンク

[トリルの音程 \(743 ページ\)](#)

[トリルの音程の外観 \(746 ページ\)](#)

[再生時のトリル \(748 ページ\)](#)

## トリル記号の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの開始位置のトリル記号は、表示/非表示を切り替えられます。これにより、このトリルが伸ばされるすべての組段におけるトリル記号の表示/非表示が切り替わります。

#### 手順

1. トリル記号を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「トリルマークを表示 (Show trill mark)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときはトリル記号が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、トリル記号の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

## トリルの速さの変更

延長線の波線の高さや波数を変更することにより、トリルに異なる速さを指示できます。これは1つのトリルの途中でも指示できます。

---

#### 手順

1. 速度を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **開始スピード (Start speed)**
  - **終了スピード (End speed)**
3. 各プロパティのメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **遅く (Slow)**
  - **標準 (Normal)**
  - **速く (Fast)**

---

#### 結果

選択したトリルの速さが変更されます。これは延長線の波線の波数と再生速度の両方に影響します。

「**開始スピード (Start speed)**」だけがオンになっている場合、トリルの延長線全体の速度が変更されます。「**終了スピード (End speed)**」だけがオンになっている場合、トリルの延長線の後半部分の速度が変更されます。

---

#### 例



開始では遅く終了では速いトリルの延長線

---

#### 手順終了後の項目

トリルの再生速度を個別にカスタマイズできます。

#### 関連リンク

[トリルの再生速度の変更 \(749 ページ\)](#)

## トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの延長線について、速さの変更指示の表示/非表示を切り替えられます。これによりたとえば、再生時の速さの変化は再現しつつ、延長線の波線の幅は一定で表示できます。

---

#### 手順

1. 速さの変更指示を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「**速度の描画を抑制 (Suppress drawing speed changes)**」をオンまたはオフにします。

#### 結果

プロパティをオンにすると速さの変更指示が非表示になり、オフにすると表示されます。

#### 例



トリルの速さの変更指示を表示した例



トリルの速さの変更指示を非表示にした例

## トリルの延長線の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの延長線を表示/非表示にできます。

#### 手順

1. 延長線を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「トリル線を表示 (Has trill line)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスがオンになっているときはトリルの延長線が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、トリルの表示はプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

すべてのトリルの延長線の表示/非表示に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[トリルの速さの変更 \(741 ページ\)](#)

[トリルの再生速度の変更 \(749 ページ\)](#)

## トリルのリズム上の長さの変更

トリルは入力後に長さを変更できます。装飾音は同じ位置に複数存在できるため、すでに装飾音が付いている符頭までであっても、トリルの長さを変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、長さを変更するトリルを選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるトリルは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、トリルの長さを変更します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt]+[←]** を押します。
  - 1本のトリルを次の符頭の位置まで延長するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。

- 1本のトリルを前の符頭の位置まで短縮するには、[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←]を押します。

#### 補足

- 複数のトリルが選択されている場合は、現在のリズムグリッド値による長さの変更だけが行なえます。
  - キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。
- 
- トリルの開始位置または終了位置にある丸いハンドルをクリックして、左右の符頭に向けてドラッグします。

#### 結果

トリル1つの長さが、現在のリズムグリッド値または前後の符頭に従い変更されます。  
複数のトリルの長さが、現在のリズムグリッド値に従い変更されます。

#### 関連リンク

[装飾音の位置 \(737 ページ\)](#)

[装飾音のリズム上の位置の移動 \(737 ページ\)](#)

[装飾音の表示位置の移動 \(738 ページ\)](#)

## トリルの音程

トリルの音程は、演奏者にどの音符を演奏するか伝えるとともに、Dorico Pro が再生時に使用するピッチにも影響を与えます。たとえば、Eの音符にシャープの臨時記号付きのトリルが付く場合、演奏者はEとFではなくEとF#を使用してトリルを演奏します。



これらのトリルに付く異なる臨時記号は、トリル先の音符の変更を示します。

トリル入力時に音程を指定しない場合、Dorico Pro はトリルが属する声部の一番上の音符、現在の調号、および小節内で前出の臨時記号に基づき、適切な音程を算出します。たとえば、CメジャーにおけるE<sub>h</sub>にトリルを入力すると、トリル先は半ステップ/短2度の音程によるF<sub>h</sub>となります。小節内で前出のFにシャープの臨時記号が付いている場合、E<sub>h</sub>とF<sub>h</sub>による1ステップ/長2度のトリル音程になります。

オープンキー/無調の調号においては、Dorico Pro は初期設定では1ステップ/長2度のトリル音程を演奏します。

ポップオーバーで入力するときトリルの音程を指定できます。これは同じトリルに含まれる異なる符頭にも指定でき、音程は入力後にも変更できます。

### トリルと臨時記号

必要に応じて、Dorico Pro はトリルの音程を明確に示すために臨時記号を表示します。また Dorico Pro は、トリルと同じ小節にあるトリル以降の音符が、トリルの上の音符と音名が同じで臨時記号が異なる場合、自動的にその音符に臨時記号を表示します。

初期設定では、調号の変化記号により上の音符が影響されていない限りは、トリル記号そのものが音程を表わします。小節内で前出の臨時記号により上の音符が影響を受けている場合、トリルは常に音程を表示します。調号の変化記号により変化しているピッチをトリルが変更した場合、後続する同じ音程の音符には自動的に適切な臨時記号が付けられます。現在および次の小節で必要となる親切臨時記号も自動的に表示されます。

## 微分音トリルの音程

12-EDO 以外の調性システムを使用している場合、トリルの音程は全音階のステップ数と、記譜上の音符からの合計分割数に基づき指定できます。24-EDO では、トリルの音程はメジャーやマイナーなど性質に基づいても記述できます。調整システムで分割数の大きいものや各音階ステップ間の分割数が不均一なものでは、音程の性質のみによる指定では不十分なため、オクターブの分割数に基づきトリルの音程を指定する必要があります。

関連リンク

[トリルの音程の外観 \(746 ページ\)](#)

## トリルの音程の臨時記号の表示/非表示を切り替える

個々のトリルはトリルの音程の臨時記号の表示/非表示を切り替えられます。

### 補足

この手順で非表示になるのは、トリルの音程に表示される臨時記号のみで、補助音符やハリウッドスタイルのマークは非表示になりません。

### 手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替えるトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「臨時記号 (Accidental)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 非表示 (Hide)
  - 表示 (Show)

### 結果

「非表示 (Hide)」を選択すると、選択したトリルの音程の臨時記号が非表示になり、「表示 (Show)」を選択すると表示されます。

### 補足

トリルの臨時記号は、トリルが伸ばされた先でピッチが変わるごとに再表示されます。「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページの「トリルの音程 (Trill Intervals)」セクションでは、後続の音符にハリウッドスタイルのトリルの音程を再表示するか非表示にするか選択できます。

関連リンク

[トリルの音程の外観を変更する \(746 ページ\)](#)

## 既存のトリルの音程を変更する

初期設定ではトリルの音程は2度で、状況に応じて長2度か短2度のいずれかになります。トリルの音程は、装飾音のポップオーバーによるトリル入力の際に指定する他に、トリルを入力した後にも個別に変更できます。

### 手順

1. 音程を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「音程 (Interval)」をオンにします。トリルの現在の音程が数字と性質によって表示されます。
3. 数値フィールドの数値を変更して、音程を変更します。



- メニューから以下のいずれかの音程の性質を選択します。
  - 減 (Diminished)
  - 短 (Minor)
  - 長 (Major)
  - 増 (Augmented)

#### 結果

選択したトリルの音程が変更されます。初期設定では、音程が2度のときはトリルの音程は臨時記号として表示され、音程がそれ以外のときは補助音符として表示されます。

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

## トリルの途中でトリルの音程を変更する

トリルの音程はそのデュレーション中に複数回、音符を入力する前でも変更できます。これによりたとえば、ある小節で音程が短2度のトリルを開始して、隙間なく続けながら次の小節では長2度に変更することなどができます。

#### 手順

- 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - トリルの音程を変更する音符。
  - 譜表上の音符を入力してトリルの音程を指定する位置にあるアイテムまたは休符。
- [Shift]+[N] または [Return] を押して音符の入力を有効にします。
- [→]/[←] を押してキャレットを現在のリズムグリッド値に従って動かし、トリルの音程を変更する位置の符頭まで移動します。

#### 補足

トリルの音程は符頭の位置でのみ変更できます。

- [Shift]+[O] を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
- ポップオーバーにトリルの音程を入力します。たとえば、短3度の場合は m3 と入力します。
- [Return] を押してポップオーバーを閉じます。
- 必要に応じて、トリルの他の符頭についても、手順3から6を繰り返してトリルの音程を変更します。
- [Esc] または [Return] を押して音符の入力を無効にします。

#### 結果

該当する符頭の位置でトリルの音程が変更されます。初期設定では、音程がすべて2度である場合はトリル内のすべてのトリルの音程は臨時記号として表示され、異なるトリルの音程が1つ以上ある場合は補助音符として表示されます。

#### 例



臨時記号として表示された音程変更のあるトリル



補助音符として表示された音程変更のあるトリル

## トリルの音程の外観

トリルの音程を表示するにはいくつかの異なる方法が使用できます。たとえば臨時記号による表示や、半ステップ(半音)を“H.T.”、1ステップ(全音)を“W.T.”と表示するハリウッドスタイルなどがあります。

Dorico Pro では、トリルの音程は以下の方法で表示できます。

### 臨時記号 (Accidental)

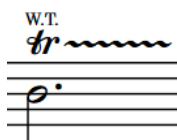
「tr」記号の上、下、または横に臨時記号を表示してトリルの音程を指示します。これは Dorico Pro における長 2 度または短 2 度のトリルの音程の外観の初期設定です。



### ハリウッドスタイル (Hollywood-style)

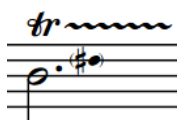
テキストを使用してトリルの音程を指示します。

- H.T.: 半ステップ/短 2 度のトリル
- W.T.: 1 ステップ/長 2 度のトリル



### 補助音符 (Auxiliary note)

括弧つきで符尾なしの小さな符頭を使用してトリルの音程を指示します。これは譜表上で、トリルが適用される 1 音めの音符のすぐ右側、トリル先のピッチを正しく示す譜表上の位置に表示されます。補助音符は、長 2 度または短 2 度でないすべてのトリルの音程に使用されますが、補助音符の符頭のデザインを上書きしない限り、ユニゾンのトリルについては自動的に非表示になります。



### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページでは、トリルの音程の外観、位置および再表示に関するデフォルトを設定できます。

## トリルの音程の外観を変更する

トリルの 2 度の音程の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。たとえば、一部のトリルに補助音符を表示して、トリル先のピッチに変更があることを分かりやすくすることなどができます。

### 補足

トリルの音程の外観を変更できるのは、長 2 度または短 2 度の音程のトリルだけです。

---

#### 手順

1. トリルの音程の外観を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「**外観 (Appearance)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **臨時記号 (Accidental)**
  - **ハリウッドスタイル (Hollywood style)**
  - **補助音符 (Auxiliary note)**

---

#### 結果

選択したトリルの音程の外観が変更されます。

#### ヒント

すべてのトリルの 2 度の音程のデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページにある「**トリルの音程 (Trill Intervals)**」セクションで設定を行ないます。

---

#### 手順終了後の項目

補助音符の符頭のデザインを個別に変更できます。たとえば、トリル先の音符がハーモニクスであることを表示できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(735 ページ\)](#)  
[個々の符頭のデザインの変更 \(729 ページ\)](#)

## トリルの音程の指示の位置を変更する

臨時記号や W.T. マークのようなトリルの音程の指示の個々のトリルに対する位置を、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

---

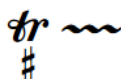
#### 手順

1. 音程の表示の位置を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「**音程の位置 (Interval position)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

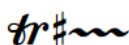
- **上 (Above)**



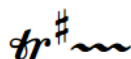
- **下 (Below)**



- **右側 (On the right)**



- **上付き (Superscript)**



#### 結果

選択したトリルに対する音程の指示の位置が変更されます。

#### ヒント

音程の指示のトリルに対するデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページにある「**トリルの音程 (Trill Intervals)**」セクションで設定を行います。

## 再生時のトリル

Dorico Pro はトリルを再生する際、用意されている場合はサンプリングされたトリルと、複数の音符の発音とを組み合わせ使用します。

- トリルの再生に関する設定は、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**トリル (Trills)**」ページにあります。

演奏技法が VST エクスプレッションマップに定義されている場合、Dorico Pro は自動的にサンプリングされた半ステップ (半音) および 1 ステップ (全音) のトリルを再生します。これは HALion Symphonic Orchestra のインストゥルメントの多数に該当します。サンプルライブラリーにサンプリングされたトリルが提供されていない場合、またはトリルの音程が 1 ステップより大きい場合、Dorico Pro はトリルを生成します。プロジェクトの一部に生成できしか再現できないトリルの音程が含まれる場合、サンプリングされたトリルを無効化して生成されたトリルを全体に使用することで、再生結果に統一感を出すこともできます。

生成されたトリルを演奏するとき、Dorico Pro はトリルの直前および直後にある装飾音符を組み込んで再生します。トリルの開始音にスラッシュなしの装飾音符 1 つが付くとアポジャトゥーラの効果となる一方、複数の装飾音符が付くとトリルのパターンに一体化されます。トリルの直後の音符に付く装飾音符もまたトリルのパターンに一体化されます。



開始位置と終了位置の両方に装飾音符が付いたトリル

トリル中の速さの変更は再生に反映されます。遅い、通常、および速いトリルのデフォルトの再生速度は、「**再生オプション (Playback Options)**」の「**トリル (Trills)**」ページで指定できるとともに、個々のトリルについても再生速度を変更できます。さらに、トリルの延長線における速さの変化指示を非表示にしつつ、再生における速さの変化は保持できます。

現代の演奏上の習慣では、トリルの演奏は通常記譜された音符から始まりますが、バロックと古典派時代の歴史的な演奏上の習慣では、トリルの演奏は通常上 (トリル先) の音符から演奏を開始します。トリルの開始音は個別に変更できるとともに、デフォルトの設定も変更できます。

もう 1 つ、特にロマン派のピアノ音楽において一般的な演奏上の習慣としては、すべてのトリルをアツェレランド、つまりゆっくり始まってトリル中に徐々に速くしていくことが挙げられます。この設定は、「**再生オプション (Playback Options)**」の「**トリル (Trills)**」ページで選択できます。これは速さの変更が指示されていないすべてのトリルに適用されます。

関連リンク

[トリルの速さの変更 \(741 ページ\)](#)

[トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(741 ページ\)](#)

[トリルの開始音の変更 \(750 ページ\)](#)

## サンプリングされたトリルと生成されたトリル

サンプリングされたトリルは録音されループ化されたサンプルであり、一方で生成されたトリルは音符を1つずつ再生して作成されています。

サンプリングされたトリルは固定的なサウンドを使用するため、トリルの速さの変化や、トリルのパターンに装飾音符や終止音を組み込むなど、トリルの演奏を何らかの形で変化させるパラメーターは通常利用できません。これに対し、生成されたトリルは柔軟性に優れますが、自然でリアルなサウンドにおいてはおよびません。

プロジェクトの一部に生成でしか再現できないトリルの音程が含まれる場合、サンプリングされたトリルを無効化して生成されたトリルを全体に使用することで、再生結果に統一感を出すこともできます。

## 再生時のサンプリングされたトリル使用の有効化/無効化

プロジェクトにおけるサンプリングされたトリルの使用の有効/無効を切り替えられます。これは、プロジェクトの一部に生成でしか再現できないトリルの音程が含まれるため、全体に生成されたトリルのみ使用することが望ましい場合や、トリルの直前/直後の装飾音符をトリルに組み込む必要がある場合などに有用です。

### 補足

再生に NotePerformer を使用する場合、NotePerformer がリアルなトリルの演奏を再現するために必要な正しいノート情報とコントローラー情報を Dorico Pro が送信できるように、サンプリングされたトリルは無効化することをおすすめします。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
  2. ページリストから「トリル (Trills)」をクリックします。
  3. 「トリルの再生方法 (Playback approach for trills)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **生成されたトリルのみ (Generated trills only)**
    - **可能な場合はサンプルを使用 (Use samples if possible)**
  4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

### 結果

「可能な場合はサンプルを使用 (Use samples if possible)」を選択するとサンプリングされたトリルが有効化され、「生成されたトリルのみ (Generated trills only)」を選択すると無効化されます。

## トリルの再生速度の変更

トリルの速さを変更すると、トリルの延長線の波線の密度と再生速度の両方が変化しますが、これに加えて、個々のトリルに対し速さの段階ごとの実際の再生速度を変更できます。これによりたとえば、特定のトリルの速い部分をデフォルト設定よりも速く演奏させられます。

---

### 手順

1. 再生速度を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルで、以下のいずれかのうち、選択したトリルに適切なプロパティをオンにします。
    - 遅いトリルスピード (Slow trill speed)
    - 通常トリルスピード (Normal trill speed)
    - 速いトリルスピード (Fast trill speed)
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したトリルの再生速度が変化します。数値フィールドの数値は、1秒あたりに発音される音符の数に対応します。

#### ヒント

速さの各段階のデフォルトの再生速度は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[トリルの速さの変更 \(741 ページ\)](#)

[トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(741 ページ\)](#)

## トリルの開始音の変更

Dorico Pro の初期設定では、トリルは下の音符から開始します。通常これは記譜されている音符です。しかし、バロックと古典派の音楽における一般的な習慣においては、トリルは上の音符から開始します。トリルの開始音は個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 開始音を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「上の音符から開始 (Start on upper note)」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

チェックボックスをオンにすると選択したトリルの開始音が上の音符になり、オフにすると下の音符になります。

プロパティをオフにすると、トリルは開始音についてプロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

すべてのトリルのデフォルトの開始音に対するプロジェクト全体の設定は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで変更できます。

---

# アルペジオ記号

アルペジオ記号とは、和音をアルペジオまたは“分散”、つまり和音を構成する音符を1つ1つ非常に素早く演奏することを示す垂直の線です。アルペジオ記号は通常トリルの延長線にも似た波線で表示されます。



アルペジオの演奏は以下のいずれかの方向で行なわれます。

- 上向き: 和音の最低音から開始。
- 下向き: 和音の最高音から開始。

Dorico Pro で使用できるアルペジオ記号には、以下のタイプがあります。

## アルペジオ (上へ) (Up arpeggio)

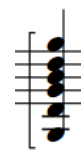
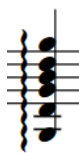
和音を最低音から上向きにアルペジオで演奏することを示す垂直の波線です。

## アルペジオ (下へ) (Down arpeggio)

和音を最高音から下向きにアルペジオで演奏することを示す垂直の波線です。

## ノンアルペジオ (Non arpeggio)

和音を構成するすべての音符をアルペジオではなく同時に演奏することを示す、直線による角括弧です。

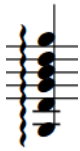


アルペジオ (上へ) のデフォルト表示    アルペジオ (下へ) のデフォルト表示    ノンアルペジオのデフォルト表示

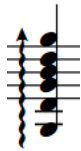
和音をアルペジオで演奏する場合の多くは上向きであるため、上向きのアルペジオは記号の上端に何も表示せず、下向きのアルペジオは記号の下端に矢印を表示するのが最も一般的で、Dorico Pro ではこれがデフォルトになっています。ただし、同じ楽曲中に下向きのアルペジオが使用されている場合は、上向きのアルペジオの記号上端にも矢印を表示することが習慣として認められています。

Dorico Pro では、上向きおよび下向きいずれのアルペジオについても、以下の3つの終端のうちいずれかを表示できます。

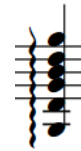
- なし (Nothing)
- 矢印 (Arrow)
- 幅広 (Swash)



終端なしの上向きアルペジオ



終端が矢印の上向きアルペジオ



終端が幅広の上向きアルペジオ

#### 関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## アルペジオ記号のタイプの変更

アルペジオ記号は入力後にタイプを変更できます。

---

#### 手順

1. タイプを変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」グループで、「アルペジオタイプ (Arpeggio type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - ノンアルペジオ (Non arpeggio)
  - アルペジオ (上へ) (Up arpeggio)
  - アルペジオ (下へ) (Down arpeggio)

---

#### 結果

選択したアルペジオ記号のタイプが変更されます。

---

#### ヒント

装飾音のポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、アルペジオタイプを変更できます。

---

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(282 ページ\)](#)

## アルペジオ記号の終端の外観を個別に変更する

初期設定では、下向きアルペジオ記号には線の下端に矢印の先端が付きますが、上向きアルペジオ記号には付きません。プロジェクト全体の設定とは別に、アルペジオ記号の終端の外観を個別に設定できます。

---

#### 手順

1. 終端の外観を変更するアルペジオ記号を選択します。記号の向きは問いません。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

---

#### 補足

ノンアルペジオ記号の終端の外観は変更できません。

2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」グループで、「記号の終端 (Sign end)」をオンにします。
3. メニューから、終端に使用するものを以下のいずれかから選択します。



- なし (Nothing)
- 矢印 (Arrow)
- 幅広 (Swash)

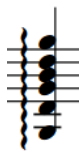
#### 結果

選択したアルペジオ記号の終端の外観が変更されます。

#### ヒント

アルペジオ記号の終端のデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで設定を行います。

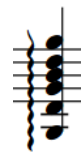
#### 例



終端なしの上向きのアルペジオ記号



終端が矢印の上向きのアルペジオ記号



終端が幅広の上向きのアルペジオ記号

## アルペジオ記号の長さ

Dorico Pro は、アルペジオ記号が適用される和音の音符の音程が変更されたとき、または和音の音符の追加や削除が行なわれたときは、アルペジオ記号の長さを自動的に調整します。

アルペジオ記号が和音の上下端の音符より外に突き出す長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。音符が譜表の線上にあるときと間上にあるときでは、それぞれ異なる値を設定できます。

アルペジオ記号の長さは個別にも変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(756 ページ\)](#)

## アルペジオ記号の長さの変更

個々のアルペジオ記号の長さを手動で変更できます。たとえば、ピッチの幅の狭い和音ではアルペジオ記号を長くすることで、アルペジオ記号が見やすくなります。

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更するアルペジオ記号のいずれかの端にある四角いハンドルを選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。

- **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択したアルペジオ記号の表示上の長さが変更されます。

#### ヒント

- アルペジオ記号の終端を移動すると、プロパティパネルの「**アルペジオ (Arpeggios)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**上の Y オフセット (Top Y offset)**」は、アルペジオ記号の上のハンドルを移動させます。
  - 「**下の Y オフセット (Bottom Y offset)**」は、アルペジオ記号の下のハンドルを移動させます。

たとえば、アルペジオ記号全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、アルペジオ記号の長さを調節することもできます。

プロパティをオフにすると、選択したアルペジオ記号がデフォルトの長さにリセットされます。

- アルペジオ記号が和音の上下端の音符より外に突き出す長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[アルペジオ記号の表示位置の移動 \(755 ページ\)](#)

[浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(756 ページ\)](#)

## アルペジオ記号の一般的な配置規則

アルペジオ記号は、それが適用される音符および音符の臨時記号の左に配置されますが、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符との間に配置されます。アルペジオ記号は、それが適用される音符と同じ小節に表示されなければならないが、小節線をまたぐ位置には表示されません。

Dorico Pro は、アルペジオ記号が正しい配置で収まるように、音符のスペーシングと譜表のスペーシングを自動的に調整します。

アルペジオ記号は、それが適用される和音のすべての音符の垂直範囲全体をカバーしつつ、両端ともわずかに突き出すように配置されます。ただし、音符の符尾までカバーする必要はありません。Dorico Pro は、和音の音符すべてがカバーされる長さで自動的にアルペジオ記号の作成を行ない、和音の構成音に変更または削除された場合は長さを調整します。

アルペジオで演奏される和音が、ピアノパートにあるような 2 つの譜表にまたがる場合、アルペジオ記号も 2 つの譜表にわたって延長されます。

アルペジオ記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

アルペジオ記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これにより適用されるリズム上の位置は変更されません。

すべてのアルペジオ記号のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(756 ページ\)](#)

[アルペジオ記号の長さ \(753 ページ\)](#)

## アルペジオ記号の位置の移動

アルペジオ記号の位置は入力後に移動できます。

---

手順

1. 記譜モードで、位置を変更するアルペジオ記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アルペジオ記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

補足

アルペジオ記号のリズム上の位置をマウスで移動することはできません。

---

結果

アルペジオ記号は現在のリズムグリッド値に従って左右に移動します。

リズムグリッドに従い移動した先の位置に音符が存在しない場合、アルペジオ記号は表示されなくなります。さらに現在のリズムグリッド値に従い左右への移動を続けた先に音符が存在した場合、その音符の横に記号が再表示されます。

アルペジオ記号を別の位置の音符に移動させる際は、リズムグリッドも変更できます。

補足

アルペジオ記号はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したアルペジオ記号を移動させる際に他のアルペジオ記号の上を通過した場合、そこにあったアルペジオ記号は削除されます。

---

## アルペジオ記号の表示位置の移動

アルペジオ記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。

---

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するアルペジオ記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アルペジオ記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

結果

選択したアルペジオ記号の表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく変更されます。

### ヒント

アルペジオ記号を移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「上の Y オフセット (Top Y offset)」は、アルペジオ記号の上端を垂直に移動させます。
- 「下の Y オフセット (Bottom Y offset)」は、アルペジオ記号の下端を垂直に移動させます。
- 「X オフセット (X offset)」はアルペジオ記号全体を水平に移動させます。

たとえば、アルペジオ記号全体を上方向に移動すると、上下のハンドルも移動するため、「上の Y オフセット (Top Y offset)」と「下の Y オフセット (Bottom Y offset)」の両方が有効になります。3 つすべてのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもアルペジオ記号の表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したアルペジオ記号がデフォルト位置にリセットされます。

### 関連リンク

[アルペジオ記号の長さの変更 \(753 ページ\)](#)

## アルペジオ記号を装飾音符の前または後ろに表示する

アルペジオ記号の表示位置は、装飾音符の前または後ろに個別に変更できます。初期設定では、アルペジオ記号はそれが適用される音符のすぐ左に配置され、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符の間に配置されます。

### 手順

1. 装飾音符より前に表示させるアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」グループで、「装飾音符前のアルペジオ (Arpeggio before grace notes)」をオンまたはオフにします。

### 結果

選択したアルペジオ記号が、プロパティをオンにしたときは装飾音符より前に、プロパティをオフにしたときは装飾音符より後に表示されます。

## 浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)」ページで、アルペジオ記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションを使用すると、アルペジオ記号のデザイン、外観、および詳細な位置を、スラッシュ符頭の声部に音符を表示するかを含めて変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 再生時のアルペジオ

「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページにある「アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)」セクションでは、アルペジオ再生の制御に関する設定を変更してプロジェクト全体に適用できます。

たとえば、アルペジオが拍の位置で開始するか、それとも拍の位置で終了するかや、アルペジオの速さを制御できます。

アルペジオのデフォルトの長さは 120bpm での 4 分音符の割合で設定できます。アルペジオの長さをそれ自体の記譜上のリズムに対する割合に設定すると、非常にゆっくりな曲においてはアルペジオの再生が通常意図される速さより大幅に遅くなってしまう場合があるため、この場合は上記の割合に設定することをおすすめします。

アルペジオはデフォルトの長さとともに、長さの最小値と最大値も設定でき、これはアルペジオの記譜上の音価に対する割合で表現されます。これは、アルペジオ記号が付いたすべての音符が、記譜されたデュレーションの間に確実に再生されるようにするためです。

### ヒント

個々のアルペジオ記号については、プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」グループにあるプロパティを使用して、再生オプションのデフォルトを上書きすることもできます。

---

## 拍に対するアルペジオの再生位置を個別に変更する

個々のアルペジオについて、演奏するのは記譜上の位置より前か後か、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 手順

1. 拍に対する再生位置を変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」グループで、「再生位置 (Playback position)」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 拍で開始 (Start on beat)
    - 拍で終了 (End on beat)
- 

### 結果

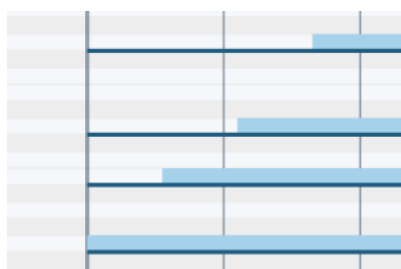
選択したアルペジオの再生時の拍に対する位置が変更されます。

### ヒント

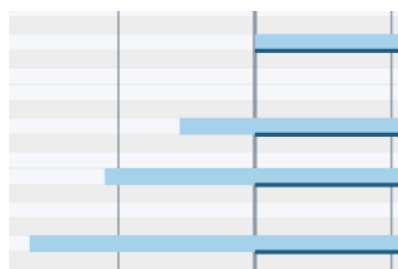
アルペジオの拍に対する再生位置に関するプロジェクト全体の設定は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページで変更できます。

---

例



拍で開始するアルペジオ



拍で終了するアルペジオ

---

関連リンク

[再生時のアルペジオ \(757 ページ\)](#)

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## アルペジオの再生時のデュレーションを個別に変更する

個々のアルペジオの再生時のデュレーションは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

アルペジオのデュレーションは、和音の記譜上のリズムの割合で表現されます。たとえば4分音符の和音では、ノートのオフセット値が1/2のアルペジオは8分音符の長さになり、ノートのオフセット値が1/8のアルペジオは32分音符の長さになります。

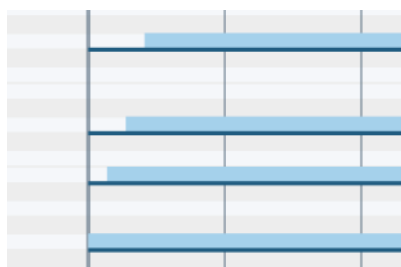
手順

1. 再生時のオフセットを変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」グループで、「ノートのオフセット (Note offset)」をオンにします。
  3. 数値フィールドの数値を変更して、選択したアルペジオ記号の再生時のオフセットを変更します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

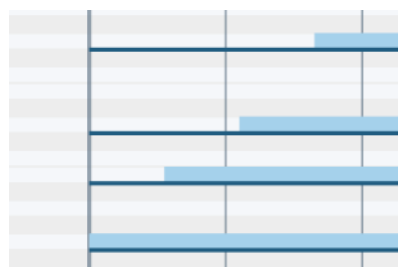
結果

選択したアルペジオの再生時のデュレーションが変更されます。これは選択したアルペジオについて、アルペジオのデュレーションに関するプロジェクト全体の設定を上書きします。

例



ノートのオフセット値が1/8のアルペジオによる和音



ノートのオフセット値が1/2のアルペジオによる和音

---

関連リンク  
[再生時のアルペジオ \(757 ページ\)](#)

# グリッサンドライン

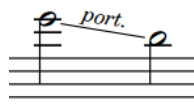
グリッサンドは2つの音符の間の継続的な音程の移行を示し、これはなめらかな移行と半音階による移行、いずれの場合もあります。これは直線と波線のいずれかで表わされ、指示のテキストが付く場合と、テキストが付かない線だけの場合があります。

グリッサンドとポルタメントの演奏技法に関しては、さまざまな表記規則が存在します。グリッサンドは上昇下降いずれかに向かう半音の連続による2音間の半音階スケールを示し、ポルタメントは2音間でなめらかに途切れなく音程を滑らせることを示すと理解される場合もあります。ただし、グリッサンドとポルタメントという言葉は、状況が異なれば意味が入れ替わって使用される場合もあります。

Dorico Pro では、グリッサンドとポルタメントの両方を入力でき、入力後でも容易にスタイルを変更できます。



テキストと波線で示されたグリッサンドの例



テキストと直線で示されたポルタメントの例

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## グリッサンドの一般的な配置規則

グリッサンドは符頭の間配置され、その角度は音符間の音程差を反映します。角度が急であるほど、音程差も大きくなります。グリッサンドの終端は符頭のすぐ横の、直接触れない位置に配置されます。

グリッサンドは臨時記号と重なってはならず、臨時記号が明確に読み取れるよう手前で止められます。Dorico Pro はグリッサンドが臨時記号と重ならないよう自動的に配置します。

グリッサンドは2つの音符間の漸進的かつ一定した音程の変化を示すため、通常は隣り合う2つの符頭を接続しますが、複数の音符をまたぐこともできます。

グリッサンドは組段区切りやページ区切りをまたぐことができます。組段区切りやページ区切りをまたぐグリッサンドにテキストが表示される場合、テキストはグリッサンドのそれぞれの部分に表示されます。初期設定では、分割された各部分の開始位置と終了位置は、グリッサンド全体の本来の開始位置と終了位置に一致します。

Dorico Pro では、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、グリッサンドのデフォルト位置の詳細な調整を行なえます。個々のグリッサンドの開始位置または終了位置も、浄書モードで調整できます。

関連リンク

[浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する \(761 ページ\)](#)

[グリッサンドのデフォルトの角度をプロジェクト全体で変更する \(764 ページ\)](#)

[グリッサンドの角度を個別に変更する \(765 ページ\)](#)



## 浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「グリッサンド (Glissando Lines)」ページで、グリッサンドの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「グリッサンド (Glissando Lines)」ページのオプションを使用すると、グリッサンドのスタイル、外観、および線の太さを変更できます。また、グリッサンドの終端の符頭に対する詳細な位置も設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

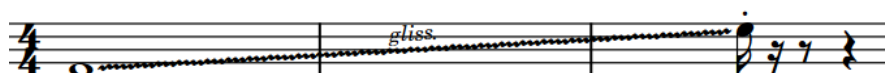
## 空白の小節をまたぐグリッサンド

Dorico Pro では、2つの音符の間でさえあれば、間に休符や他の音符があっても、声部が異なる音符や譜表が異なる音符の間であったとしても、グリッサンドを入力できます。

複数の小節をまたいで延びる非常に長いグリッサンドにおいては、たとえば演奏者がグリッサンドの過程で音程を強調しないことや、演奏者各自のスピードでグリッサンドを行なえることを示すような場合、各小節の開始位置で音程を表示させないのが好ましい場合があります。初期設定では、Dorico Pro は音符や休符を各小節に表示します。

選択した音符の間にグリッサンドを入力すると、その間にある休符をすべて削除できます。

例



複数小節にわたるグリッサンドの2つの音符の間に休符を表示しない例

関連リンク

[ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(238 ページ\)](#)

[パネルを使ったグリッサンドラインの入力 \(239 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(874 ページ\)](#)

[休符の削除 \(873 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(871 ページ\)](#)

## グリッサンドのスタイルの変更

グリッサンドは直線または波線で表示できます。グリッサンドの線のスタイルは、プロジェクト全体の設定とは個別に変更できます。

手順

1. スタイルを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「グリッサンド (Glissando Lines)」グループで、「グリッサンドスタイル (Glissando style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 直線 (Straight line)

-  **波線 (Wiggly line)**  


---

#### 結果

選択したグリッサンドの線のスタイルが変更されます。

#### ヒント

- 「**グリッサンドスタイル (Glissando style)**」をオフにすると、選択したグリッサンドの線がデフォルトのスタイルに戻ります。
- 装飾音のポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、グリッサンドスタイルを変更できません。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、プロジェクト全体のグリッサンドの線のデフォルトのスタイルを変更できます。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する \(761 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(282 ページ\)](#)

## グリッサンドのテキストを個別に変更する

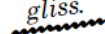
グリッサンドはテキスト付きまたはテキストなしのいずれかで表示できます。グリッサンドのテキストは、プロジェクト全体の設定とは個別に変更できます。

---

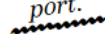
#### 手順

- テキストを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**グリッサンドテキスト (Glissando text)**」をオンにします。
- メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

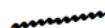
- Gliss.**

*gliss.*  


- Port.**

*port.*  


- テキストなし (No text)**



---

#### 結果

選択したグリッサンドのテキストが変更されます。

#### ヒント

すべてのグリッサンドに表示されるテキストに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」>「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで変更できません。

---

## グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する

初期設定では、グリッサンドがテキストを収めるには短すぎる場合、グリッサンドテキストは表示されません。個々のグリッサンドについてテキストを常に表示するか、十分なスペースがある場合のみ表示するかを選択できます。

---

#### 手順

1. テキストが表示される状況の設定を変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**表示中のグリッサンドテキスト (Glissando text shown)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **余白が十分な場合に表示 (Show if sufficient space)**
    - **常に表示 (Always show)**
- 

#### 結果

「**余白が十分な場合に表示 (Show if sufficient space)**」が選択されている場合、グリッサンドが短すぎる場合はグリッサンドテキストが表示されません。

「**常に表示 (Always show)**」が選択されている場合、グリッサンドが短い場合でもグリッサンドテキストが常に表示されます。ただしこれにより、グリッサンドテキストが符頭や符尾など他のアイテムに重なってしまう場合があります。

---

#### ヒント

符頭間のデフォルトの間隔を広げるにはデフォルトの音符のスペーシングを変更し、個々の符頭の間隔を広げるには浄書モードで個々の位置の音符のスペーシングを調節します。

---

#### 関連リンク

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(387 ページ\)](#)

---

## グリッサンドの表示位置の移動

個別のグリッサンドのリズム上の位置を変更することなく、表示位置を移動できます。グリッサンドの終端は個別に移動でき、これはグリッサンドの角度と表示上の長さも調節できることを意味します。

グリッサンドが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、グリッサンドの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

---

#### 補足

グリッサンドのリズム上の位置は移動できません。グリッサンドのリズム上の位置を変更する場合は、それを元の位置から削除してから別の位置に新規にグリッサンドを入力する必要があります。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
    - グリッサンド全体または分割された部分
-

- グリッサンドの個々のハンドル

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、グリッサンドまたはハンドルを移動させます。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 結果

選択したグリッサンドまたはハンドルの表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく移動します。

#### ヒント

グリッサンドのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」はグリッサンドの開始位置のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」はグリッサンドの終了位置のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、グリッサンド全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、グリッサンドを移動したり、長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択したグリッサンドがデフォルト位置にリセットされます。

#### 関連リンク

[グリッサンドの角度を個別に変更する \(765 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## グリッサンドのデフォルトの角度をプロジェクト全体で変更する

Dorico Pro では、グリッサンドの終端は符頭の横に自動的に配置されます。グリッサンドのピッチの差が小さいと、線の角度は極めて小さくなる場合があります。ピッチの差が小さいグリッサンドの最小スパンについては、さまざまな状況ごとに値を変更してプロジェクト全体に適用できます。

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E] を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**グリッサンド (Glissando Lines)**」をクリックします。

3. 「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで、プロジェクト内で該当する状況におけるグリッサンドの位置の値を変更します。  
たとえば、譜表の同じ間上にある音符間のグリッサンドの最小スパンを増やせます。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

グリッサンドのデフォルト位置と角度が変更されます。

#### ヒント

個々のグリッサンドの表示位置は、浄書モードで調整できます。

#### 関連リンク

[グリッサンドの表示位置の移動 \(763 ページ\)](#)

## グリッサンドの角度を個別に変更する

浄書モードで、グリッサンドの両端にあるハンドルを任意の方向に動かして、グリッサンドの角度を個別に変更できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、角度を変更するグリッサンドの開始位置または終了位置にある四角いハンドルを選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、他のグリッサンドのハンドルについても手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

選択したグリッサンドの角度が変更されます。

#### 補足

また、浄書モードのプロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**開始オフセット (Start offset)**」および「**終了オフセット (End offset)**」プロパティを使用することでも、グリッサンドの角度および表示上の長さを調節できます。

プロパティをオフにすると、選択したグリッサンドがデフォルト位置にリセットされます。

# ジャズアーティキュレーション

Dorico Pro におけるジャズアーティキュレーションは、ジャズ特有の装飾音を、特に金管楽器に関して幅広くカバーしています。

これらはジャズ“アーティキュレーション”と呼ばれてはいますが、アーティキュレーションというよりもむしろ装飾音として機能します。これらの演奏技法は音符のデュレーションやアタックではなくピッチに変化を与えるためです。このため、これらは Dorico Pro においては装飾音と見なされます。これらは装飾音パネルに収められ、装飾音ポップオーバーを使用しても入力できます。

ジャズアーティキュレーションは、Dorico Pro では“ベンド”と呼ばれるスラーによく似た曲線と、Dorico Pro では“スムーズ”と呼ばれる、実線、破線、波線のいずれかによる直線で表示されます。

それぞれの音符は両側、前と後ろに1つずつジャズアーティキュレーションを表示できます。音符の後ろのジャズアーティキュレーションは長さを変更できます。

以下のジャズアーティキュレーションは 音符の前に表示されます。

## プロップ

音符に高いピッチからアプローチします。



プロップ (ベンド)



プロップ (スムーズ)

## スクープ/リフト

音符に低いピッチからアプローチします。ベンドによるアプローチはスクープ、スムーズによるアプローチはリフトとなります。



スクープ



リフト (直線)

以下のジャズアーティキュレーションは 音符の後ろに表示されます。

## ドイト

音符のあとにピッチが上昇します。



ドイト (ベンド)



ドイト (スムーズ)

## フォール

音符のあとにピッチが下降します。



フォール (ベンド)



フォール (スムーズ)

さらに、金管楽器で一般に使用されるその他のジャズの装飾音も、ジャズアーティキュレーションを入力するのと同じ手順で音符に追加できます。

#### 補足

ジャズアーティキュレーションは現在のところ再生には反映されません。

#### 関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## ジャズの装飾音

ジャズの装飾音は、通常はジャズ音楽で金管楽器によって使用される記譜記号で、反転やスミアなどがあります。ジャズアーティキュレーションが符頭の横に配置されるのとは異なり、これは譜表の外側に配置されます。

ジャズの装飾音は、ジャズアーティキュレーションより他の装飾音に近い振る舞いをします。装飾音は音符とは個別のアイテムであるため、記譜モードでも音符とは個別に選択でき、ジャズアーティキュレーションが付いている音符にも追加できます。これらはジャズアーティキュレーションと一緒に使用されることがほとんどであるため、Dorico Pro においては装飾音パネルの「**ジャズ (Jazz)**」セクションと一緒に収められています。

ジャズの装飾音の入力方法は、ジャズアーティキュレーションよりも、その他の装飾音と共通します。

Dorico Pro では、以下の装飾音がジャズの装飾音と見なされます。

- フリップ (Flip)
- スミア (Smear)
- ジャズターン (Jazz turn)/シェイク (Shake)
- ベンド (Bend)

#### 補足

ジャズアーティキュレーションは現在のところ再生には反映されません。

#### 関連リンク

[装飾音 \(735 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(232 ページ\)](#)

## 浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページで、ジャズアーティキュレーションの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページのオプションでは、バンドのジャズアーティキュレーションのデフォルトの長さ、およびスムーズのジャズアーティキュレーションのデフォルトの線のスタイル、デザイン、そして角度が変更できます。また、符頭、譜表線、付点、およびリズム上の同じ位置にある他の符頭に属するジャズアーティキュレーションに対するジャズアーティキュレーションのデフォルト位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## ジャズアーティキュレーションの表示位置の移動

個々のジャズアーティキュレーションの表示位置は、適用される音符を変更することなく移動できます。スムーズのジャズアーティキュレーションの終端は個別に移動でき、これはそれぞれの角度と表示上の長さも調節できることを意味します。



浄書モードのドイツスムーズのハンドル

### 補足

ジャズアーティキュレーションのリズム上の位置は移動できません。ジャズアーティキュレーションを別の音符に移動させる場合は、それを元の音符から削除してから別の音符に新規に入力する必要があります。

### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
  - ジャズアーティキュレーション全体
  - スムーズのジャズアーティキュレーションの個々のハンドル

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ジャズアーティキュレーションまたはハンドルを移動させます。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。



#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 結果

選択したジャズアーティキュレーションまたはハンドルの表示位置が、それが属する音符に影響することなく移動します。

#### ヒント

スムーズのジャズアーティキュレーションのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**前に付く線の外側のオフセット (In far offset)**」は、音符の前に表示されるジャズアーティキュレーションの開始位置、つまり音符から離れた側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**前に付く線のオフセット (In offset)**」は、音符の前に表示されるジャズアーティキュレーションの終了位置、つまり音符に近い側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**後ろに付く線のオフセット (Out offset)**」は、音符のあとに表示されるジャズアーティキュレーションの開始位置、つまり音符に近い側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**後ろに付く線の外側のオフセット (Out far offset)**」は、音符のあとに表示されるジャズアーティキュレーションの終了位置、つまり音符から離れた側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、フォールスムーズ全体を移動すると、両方のハンドルも移動するため「**後ろに付く線のオフセット (Out offset)**」と「**後ろに付く線の外側のオフセット (Out far offset)**」の両方がオンになります。これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することでも、スムーズのジャズアーティキュレーションの表示上の位置や長さを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスムーズのジャズアーティキュレーションがデフォルトの位置にリセットされます。

#### 関連リンク

[ジャズアーティキュレーション \(766 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーションの削除 \(771 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## ジャズアーティキュレーションの位置

Dorico Pro では、ジャズアーティキュレーションのそれが属する符頭に対する位置は自動的に調整されます。その際には付点、臨時記号、逆向きの音符などその他の記譜記号もすべて反映されます。

和音中の複数の音符にジャズアーティキュレーションが付く場合、Dorico Pro はそれらをどれだけ符頭に近づけるかと、合計いくつ表示するかの2点に基づき、最良の配置を検討します。Dorico Pro は、スペースあたりできるだけ少なくジャズアーティキュレーションを配置しようとしています。逆に言うと、クラスター和音において表示されるジャズアーティキュレーションの数は、符頭の数より少なくなる場合もあります。

これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

すべてのジャズアーティキュレーションの他のジャズアーティキュレーションや符頭に対するデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」ページで変更できます。

浄書モードでは、スムーズのジャズアーティキュレーションは両端にハンドルが表示され、これを使用してそれぞれの開始位置と終了位置を別個に移動できます。またジャズアーティキュレーション全体の表示位置も個別に移動できます。

関連リンク

[浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(768 ページ\)](#)

## 既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する

ジャズアーティキュレーションは、たとえばドイツスムーズを長いドイツバンドに変更するなど、タイプや長さを入力後に変更できます。ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

手順

1. 記譜モードで、ジャズアーティキュレーションを変更する音符を選択します。
2. 装飾音パネルで、「**ジャズ (Jazz)**」セクションから使用するジャズアーティキュレーションをクリックします。

結果

選択した音符に表示されるジャズアーティキュレーションが変更されます。

ヒント

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは、プロパティパネルの「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」グループにある「**前に付く線 (In)**」と「**後ろに付く線 (Out)**」プロパティを使用しても変更できます。

例



ドイツバンド (短)



ドイツバンド (中)



ドイツバンド (長)

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する

スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で別個に変更できます。たとえば、選択したフォールスムーズを波線から直線に変更できます。

手順

1. 線のスタイルを変更するスムーズのジャズアーティキュレーションが付いた音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

音符の同じ側にスムーズのジャズアーティキュレーションが付いている音符を選択する必要があります。たとえば、音符の前にスムーズのジャズアーティキュレーションが付いている音符だけを選択します。

- プロパティパネルの「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」グループで、「前に付く線のスタイル (In line style)」と「後ろに付く線のスタイル (Out line style)」のいずれかまたは両方のメニューから、以下の線のスタイルを選択します。

- 直線 (Straight)
- 波線 (Wavy)
- 破線 (Dashed)

#### 補足

「前に付く線のスタイル (In line style)」は、スムーズのジャズアーティキュレーションが選択した音符の前に付いているときに利用でき、「後ろに付く線のスタイル (Out line style)」は、選択した音符の後ろに付いているときに利用できます。スムーズのジャズアーティキュレーションが選択した音符の両側に付いているときは、両方が利用できます。

#### 結果

選択したスムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルが変更されます。

#### ヒント

- ジャズアーティキュレーションを選択して「編集 (Edit)」>「外観をリセット (Reset Appearance)」を選択すると、デフォルトの線のスタイルにリセットできます。
- スムーズのジャズアーティキュレーションそれぞれのデフォルトの線のスタイルは、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページで個別に変更できます。

#### 例



直線のドイトスムーズ



波線のドイトスムーズ



破線のドイトスムーズ

#### 関連リンク

[既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する \(770 ページ\)](#)

[浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(768 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

## ジャズアーティキュレーションの削除

ジャズアーティキュレーションは入力後に音符から削除できます。ただし、ジャズアーティキュレーションは単独のアイテムではなく音符の一部と見なされるため、選択して削除する手順は他のアイテムとは異なります。

#### 手順

1. 記譜モードで、ジャズアーティキュレーションを削除する音符を選択します。

2. 装飾音パネルの「**ジャズ (Jazz)**」セクションで、「**削除 (Remove)**」をクリックします。
- 

結果

選択した音符からすべてのジャズアーティキュレーションが削除されます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(232 ページ\)](#)

# ページ番号

ページ番号はそれぞれのページに一意的な番号を与え、他ページに対する相対的な位置を示すために使用されます。スコアおよびパート譜は、新聞や書籍と同様、ページ番号を使用して楽譜の正しい並び順を維持します。

Dorico Pro では1つのプロジェクトに複数のフローを使用できるため、ほとんどの場合手動でページ番号を変更する必要はありません。ただし、1つの楽曲を複数のファイルに分ける場合は、楽章から楽章へページ番号が切れ目なく続くようにするためにページ番号を確認する必要があります。

このような場合、デフォルトのページ番号を変更します。たとえば、スコアにおいて、楽譜の開始ページの前に前付けの4ページを置きつつ、楽譜の開始ページを1ページめと表示させる場合、楽譜の開始ページにページ番号の変更を挿入できます。

Dorico Pro ではページ番号はレイアウト固有であり、ページ番号はレイアウトごとに他のレイアウトから独立して変更できます。たとえば、スコアではページ番号を変更しながら、パート譜ではデフォルトのページ番号を表示できます。

Dorico Pro ではページ番号をトークンで表示します。

## 補足

ページ番号を表示させるすべてのページには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームが必要です。

デフォルトのマスターページには、ページ番号のトークンが入ったテキストフレームが置かれています。マスターページエディターではページ番号のテキストフレームの位置を変更できます。これによりこのマスターページを使用するすべてのページでページ番号の位置が変更されます。また個々のページでも、ページ番号のテキストフレームを移動できます。

またレイアウトごとに、ページ番号の表示に使用される数字のタイプも変更できます。たとえば、前付けにはローマ数字を使用し、楽譜ページにはアラビア数字を使用する場合、ページ番号と同時に数字の種類も変更できます。

## 関連リンク

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(315 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(314 ページ\)](#)

[ページの優先 \(311 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の解除 \(316 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

[テキストトークン \(335 ページ\)](#)

## マスターページでのページ番号の移動

ページ番号を表示する位置を変更するには、ページ番号を含むテキストフレームを移動する必要があります。このための一番効率的な方法は、マスターページのフォーマットでページ番号を含むテキストフレームを移動することです。

### 手順

1. 浄書モードで、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションから、ページ番号の位置を変更するマスターページの見開きをダブルクリックします。
2. マスターページエディターで、ページ番号を含むテキストフレームを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なってテキストフレームを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したテキストフレームが移動します。

### ヒント

テキストフレームを移動すると、プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」グループにある「**左 (Left)**」、「**上 (Top)**」、「**右 (Right)**」、および「**下 (Bottom)**」の値が、それぞれ対応するフレームの辺とページ余白との距離を反映する形で変化しますが、値が表示されるのは対応する制限がロックされている場合のみです。

これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもテキストフレームを移動できます。

- 「**右 (Right)**」 / 「**左 (Left)**」はフレームの左右の辺を水平に移動させます。
- 「**上 (Top)**」 / 「**下 (Bottom)**」はフレームの上下の辺を垂直に移動させます。

各テキストフレームの制限のロック/ロック解除は、形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」セクションで行なえます。

### 関連リンク

[フレーム制限 \(344 ページ\)](#)

[マスターページ \(304 ページ\)](#)

## ページ番号のパラグラフスタイル

ページ番号のパラグラフスタイルは、フォント、サイズ、水平方向の配置など、外観に関わるすべての設定を制御します。既存のページ番号のパラグラフスタイルの編集、および追加のページ番号のパラグラフスタイルの作成は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで行なえます。

- 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択すると開きます。

Dorico Pro に初期設定で用意されているページ番号の段落スタイルは 1 つですが、ページ番号の段落スタイルは他にも作成できます。たとえば、ページ番号をフルスコアレイアウトには太字でページの一番上に中央揃えで表示させながら、パートレイアウトには斜体でページの外側の端に表示させる場合は、既存の「**ページ番号 (Page Number)**」の段落スタイルを基本とする新規段落スタイルを作成して、名前と設定を変更します。

関連リンク

[「段落スタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(376 ページ\)](#)

[テキストの段落スタイルの変更 \(377 ページ\)](#)

[段落スタイルの作成 \(372 ページ\)](#)

## ページ番号の数字スタイルの変更

ページ番号はアラビア数字でもローマ数字でも表示できます。ページ番号のプロジェクト全体の数字スタイルは、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページ番号の数字スタイルを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ番号 (Page Number)**」セクションで、「**使用 (Use)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **ローマ数字 (Roman numeral)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトで、ページ番号の数字スタイルがプロジェクト全体で変更されます。

ダイアログを開いたまま、他のレイアウトの設定も変更できます。

## 個々のページのページ番号の数字スタイルの変更

ページ番号はアラビア数字でもローマ数字でも表示できます。個々のページ番号ごとに数字スタイルを変更できます。

手順

1. 浄書モードの楽譜領域で、ページ番号の数字スタイルを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。
  - 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
  - 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。

#

4. 「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログで、そこからページ番号の数字スタイルを変更するページの番号を「**開始ページ (From page)**」フィールドに入力します。
5. 「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」の以下のオプションから使用する数字スタイルを選択します。
  - **数字 (Number)**
  - **ローマ数字 (Roman numeral)**
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

#### 結果

次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか先に到達したところまで、ページ番号の数字スタイルが変更されます。

#### 関連リンク

[ページ番号の変更の挿入 \(314 ページ\)](#)

## ページ番号を表示/非表示にする

レイアウトごとに個別にページ番号を表示/非表示にできます。これは最初のページのページ番号を表示/非表示いずれにするかの設定も行なえます。たとえば、スコアではすべてのページにページ番号を表示しながら、パート譜では最初のページのページ番号を非表示にできます。

---

#### 補足

ページ番号を表示するには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームがページに必要です。最初のページのデフォルトのマスターページ形式は、ページ番号のトークンを含むテキストフレームを持たないため、デフォルトのマスターページ形式を使用するプロジェクトの1ページめにページ番号を表示させる場合、これを追加します。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ページ番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ番号 (Page Number)**」セクションで、「**表示タイプ (Visibility)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **常に表示 (Always shown)**
  - **常に非表示 (Always hidden)**
  - **最初のページ以外 (Not on first page)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

#### 結果

- 「**常に表示 (Always shown)**」を選択した場合、選択したレイアウトにおいて、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるすべてのページに、ページ番号が表示されます。



- 「常に非表示 (Always hidden)」を選択した場合、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるページを含めて、選択したレイアウトのすべてのページでページ番号が非表示になります。
- 「最初のページ以外 (Not on first page)」を選択した場合、選択したレイアウトの最初のページではページ番号が非表示になりますが、それ以外すべての、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるページには表示されます。

#### 補足

フロー見出しの上にページ番号を表示するかどうかのレイアウトごとの設定は、ページ番号がページ上でフロー見出しより高い位置にあるページにページ番号を表示するかどうかに影響します。

#### 関連リンク

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(315 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(314 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

[フロー見出し \(321 ページ\)](#)

[フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える \(351 ページ\)](#)

## 個々のページでページ番号の表示/非表示を変更する

個々のページでのページ番号の表示/非表示は、各レイアウトのページ番号表示設定より優先される形で変更できます。

#### 補足

ページ番号を表示するには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームがページに必要です。最初のページのデフォルトのマスターページ形式は、ページ番号のトークンを含むテキストフレームを持たないため、デフォルトのマスターページ形式を使用するプロジェクトの1ページめにページ番号を表示させる場合、これを追加します。

#### 手順

1. 楽譜領域で、ページ番号を表示/非表示にするレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「ページ (Pages)」セクションでページを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログを開きます。
  - 「ページ (Pages)」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)」を選択します。
  - 「ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)」をクリックします。
4. 「開始ページ (From page)」フィールドで、そこからページ番号を表示/非表示にするページの番号を入力します。
5. 必要に応じて、「開始ページ番号 (First page number)」の値を変更します。  
「開始ページ番号 (First page number)」は初期設定では1です。ページ番号の表示タイプを変更してもページ番号はそのままにする場合は、既存のページ番号をこのフィールドに入力します。
6. 「表示タイプ (Visibility)」メニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 常に表示 (Always shown)
  - 常に非表示 (Always hidden)
  - 最初のページ以外 (Not on first page)
7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

指定したページ番号から、次の設定の異なるページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか先に到達したところまで、楽譜領域に現在開いているレイアウトでページ番号の表示タイプが変更されます。

---

#### 例

3 ページまでページ番号を表示し、4 ページからページ番号を非表示にする場合は、「**開始ページ (From page)**」に 4、「**開始ページ番号 (First page number)**」に 4 を入力し、「**表示タイプ (Visibility)**」に「**常に非表示 (Always hidden)**」を選択します。

---

#### 関連リンク

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(315 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(314 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(325 ページ\)](#)

# ペダル線

ペダル線は演奏者にピアノのどのペダルを使用するか指示し、ペダルを踏み込む深さやペダルを上げて余韻を消すタイミングなど、演奏上の指示も与えられます。

ほとんどのピアノには2つか3つのペダルがあります。ペダルには以下があります。

## サスティンペダル

サスティンペダルはピアノ弦のダンパーを操作するので、“ダンパーペダル”とも呼ばれます。またこれは最も一般的に使用されるペダルです。サスティンペダルを踏みこむとダンパーが弦から離れ、弦の余韻が長くなります。サスティンペダルは通常右側にあります。



サスティンペダル線の例

## ソステヌートペダル

ソステヌートペダルは、現在鍵盤上で押さえられている音符の弦のみ余韻を残せます。これは通常ペダルの並びの真ん中に位置するため、“中央のペダル”とも呼ばれます。



ソステヌートペダル線の例

## ウナコルダペダル

ウナコルダペダルはピアノ内部のアクションの位置をずらし、ハンマーが叩く弦の数を通常より減らします。この動作により、ハンマーが叩く弦が通常の3本から1本だけになることから、「1本の弦」を意味するこの名前が付けられたという歴史的背景があります。これにより音量と音の鋭さが減じられるため、これは“ソフトペダル”とも呼ばれます。



ウナコルダペダル線の例

Dorico Pro では、ピアノのペダル線の記譜と再生に幅広く対応しています。サスティンペダル、ソステヌートペダル、ウナコルダペダルのペダリング指示を作成でき、これは1回のペダリング指示の途中でペダルの強さを変化させるなど、近代的なサスティンペダルのテクニックもサポートします。

Dorico Pro では、ペダル線はインストゥルメントが鳴らすサウンドを変化させることから、演奏技法と見なされます。そのため、ペダル線は記譜モードの演奏技法パネルに収められ、演奏技法ポップオーバーを使用して入力できます。ただしペダル線には、リテイク、ペダルの強さの変更指示、開始記号、終了記号、延長線など、他の演奏技法にはない独特な追加指示があります。

関連リンク

[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

[再生時のペダル線 \(796 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(789 ページ\)](#)

[ペダル線の開始テキスト、延長テキスト、および復元テキスト \(794 ページ\)](#)

## サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示

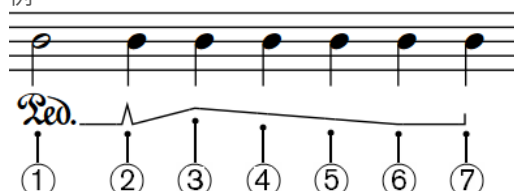
ペダルのリテイクは、プレーヤーがサスティンペダルを上げることによってピアノの弦にダンパーをかけて余韻を消し、そのあと再度ペダルを踏みこむことを示します。ペダルの強さの変更指示は、ペダルを踏みこむ深さの変更を示します。

Dorico Pro では、ペダルのリテイクおよび強さの変更指示を明確に表現できます。

### 補足

ペダルのリテイクおよび強さの変更指示は、サスティンペダル線にのみ追加できます。

例



リテイクおよび強さの変更指示を伴うペダル線の例

- 1 Ped. 字形
- 2 リテイク
- 3 1/4 踏み込み
- 4 1/2 踏み込み
- 5 3/4 踏み込み
- 6 完全な踏み込み
- 7 線終了フック

関連リンク

[リテイクとペダルの強さの変更指示の削除 \(784 ページ\)](#)

[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

## 浄書モードのサスティンペダル線

浄書モードでサスティンペダル線を選択すると、各ペダル線の開始位置と終了位置、および線上のリテイクまたはペダルの強さの変更指示にハンドルが表示されます。これらのハンドルにより、ペダル線の各部分を個別に移動できるとともに、開始位置、終了位置、および各リテイクまたはペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さを変更できます。



浄書モードのリテイクを含むサスティンペダル

ペダル線の開始位置には2つ、リテイクおよびペダルの強さの変更指示には3つ、そしてペダル線の終了位置には3つのハンドルがあります。

#### 補足

ソステヌートおよびウナコルダペダル線は、開始位置と終了位置にハンドルが1つずつしかなく、これらは開始位置と終了位置の表示位置を移動できますが、水平方向のみになります。

それぞれのハンドルの移動にはキーボード、マウス、およびプロパティパネルが使用できます。各ハンドルは、プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループ、または「ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)」グループの中のいずれかのプロパティに対応しています。

#### 補足

ペダルの強さは0以上1未満である必要があります。

- 1はペダルを完全に踏み込んだ状態です。
- 0はまったく踏み込んでいない状態です。

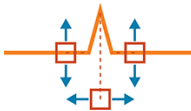
### サスティンペダル線の開始位置

ペダル線の開始位置には2つのハンドルがあります。



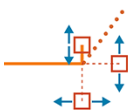
- 左側のハンドルはペダル線の開始位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。
- 右側のハンドルはペダル線の開始レベルを変化させます。このハンドルは上下に動かします。これを変化させると、次のリテイクまたはペダルの強さの変更指示、またはペダル線の終端との関係に従い、ペダル延長線の角度が変わります。

### ペダルの強さの変更指示およびリテイク



- 左側のハンドルはリテイク前のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 右側のハンドルはリテイク後のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 下のハンドルはペダルの強さの変更指示またはリテイクの位置に対応します。このハンドルは左右に動かします。

### サスティンペダル線の終了位置



- 上のハンドルはフックの長さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 右側のハンドルはペダル線の終了位置のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 下のハンドルはペダル線の終了位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。

関連リンク

[ペダル線の表示位置の移動 \(786 ページ\)](#)

## ペダル線のリテイクタイプの変更

既存のサスティンペダル線上的のリテイクをペダルの強さの変更指示に変更、またはその逆に変更できます。

たとえば、ペダルの強さが変更される間にペダルを完全にリリースさせない場合、タイプを「リテイク (Retake)」から「レベルを変更 (Change Level)」に変更します。

### 手順

1. 浄書モードで、タイプを変更するリテイクまたはペダルの強さの変更指示を選択します。
2. プロパティパネルの「ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)」グループで、「リテイクタイプ (Retake type)」をオンにします。
3. 以下のオプションから使用するタイプを選択します。
  - リテイク (Retake)
  - レベルを変更 (Change Level)

### 結果

ペダル線のリテイクのタイプが変更されます。

### 補足

タイプ変更後のペダル線のリテイクの外観は、両側にすでに設定されているペダルの強さに従い変化します。たとえば、一方のペダルの強さが0に設定されている場合、リテイクのノッチはもう一方にしか表示されません。

## ペダル線の開始レベルの変更

個々のサスティンペダル線の開始レベルは、開始レベルのハンドルを上下に動かして変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、ペダルの開始レベルを変更する開始記号の右側のハンドルを選択します。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、開始レベルのハンドルを移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。
  - [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑] を押してレベルを0にスナップします (踏み込みなし)。
  - [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↓] を押してレベルを1に変更します (完全に踏み込み)。
  - 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。

### 結果

選択したペダル線の開始レベルが変更されます。

### ヒント

ペダル線の開始レベルを変更すると、プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループにある「開始レベル (Start level)」がオンになります。

このプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することによりペダル線の開始レベルを変更できます。たとえば、1はペダルを完全に踏み込んだ状態、0は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の開始レベルがデフォルト値にリセットされます。

関連リンク

[浄書モードのサスティンペダル線 \(780 ページ\)](#)

## リテイクおよびペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さの変更

個々のサスティンペダル線のリテイクおよびペダルの強さの変更指示における開始レベルと終了レベルはいずれも、対応するハンドルを上下に動かすことで変更できます。

終了レベルとは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示の直前のペダルの強さを表わし、開始レベルとは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示の直後のペダルの強さを表わします。

手順

1. 浄書モードで、ペダルの開始レベルまたは終了レベルを変更するリテイクまたはペダルの強さの変更指示のハンドルのうち1つを選択します。
  - 左側のハンドルを選択してペダルの終了レベルを変更します。
  - 右側のハンドルを選択してペダルの開始レベルを変更します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、開始レベルのハンドルを移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。
  - **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]** を押してレベルを0にスナップします (踏み込みなし)。
  - **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↓]** を押してレベルを1に変更します (完全に踏み込み)。
  - 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。
3. 必要に応じて、他のハンドルについても手順1と2を繰り返します。

結果

選択したリテイクまたはペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さが変更されます。

ヒント

リテイクおよびペダルの強さの変更指示における強さを変更すると、変更した位置に応じて、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある以下のプロパティがオンになります。

- **リテイクの開始レベル (Start level at retake)**
- **リテイクの終了レベル (End level at retake)**

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、リテイクおよびペダルの強さの変更指示における対応する強さを変更できます。たとえば、1はペダルを完全に踏み込んだ状態、0は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の開始レベルおよび終了レベルがデフォルト値にリセットされます。

関連リンク  
[浄書モードのサスティンペダル線 \(780 ページ\)](#)

## ペダル線の終了レベルの変更

個々のサスティンペダル線の終了レベルは、終了レベルのハンドルを上下に動かして変更できます。

### 補足

終了記号としてフックを表示するペダル線の終了レベルのみを変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、ペダルの終了レベルを変更する終了フックの右側のハンドルを選択します。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、終了レベルのハンドルを移動します。
    - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
    - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。
    - **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]** を押してレベルを 0 にスナップします (踏み込みなし)。
    - **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↓]** を押してレベルを 1 に変更します (完全に踏み込み)。
    - 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。
- 

### 結果

選択したペダル線の終了レベルが変更されます。

### ヒント

ペダル線の終了レベルを変更すると、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある「**終了レベル (End level)**」がオンになります。

このプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することによりペダル線の終了レベルを変更できます。たとえば、1 はペダルを完全に踏み込んだ状態、0 は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の終了レベルがデフォルト値にリセットされます。

---

関連リンク  
[浄書モードのサスティンペダル線 \(780 ページ\)](#)

## リテイクとペダルの強さの変更指示の削除

サスティンペダル線を削除したり位置を変更したりせずに、ペダルのリテイクおよび強さの変更指示を削除できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、削除するリテイクまたはペダルの強さの変更指示がある位置の音符を選択します。

### 補足

リテイクまたはペダルの強さの変更指示は、1 度に 1 つしか削除できません。

---



- 以下のいずれかの操作を行なって、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除します。
  - 演奏技法のポップオーバーを開いて、ポップオーバーに **nonotch** と入力してから、**[Return]** を押します。

#### 補足

**nonotch** は 1 単語で、スペースを入れずに入力します。

- 「編集 (Edit)」 > 「ペダル線 (Pedal Lines)」 > 「リテイクを削除 (Remove Retake)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択したリテイクまたはペダルの強さの変更指示が削除され、ペダル線の開始位置、または削除位置の 1 つ前のリテイクやペダルの強さの変更指示の設定値に戻ります。

#### 関連リンク

[演奏技法のポップオーバー \(241 ページ\)](#)

## ペダル線の位置

ペダル線のデフォルトの位置は、音符が右手用の上段の譜表にしか記譜されていない場合であっても下段の譜表の下です。オクターブ線、スラー、アーティキュレーションなど、その他すべての記譜記号の外側に配置されます。

1 つのペダルを使用するときは、ペダル線はその他すべての記譜記号より外側でありつつ、できるだけ譜表の下端近くに配置されます。

複数のペダルを同時に使用するときは、ペダル線は以下の順番で譜表の下に並びます。

- サスティンペダル: 譜表に一番近い位置
- ソステヌートペダル: サスティンペダル線の下
- ウナコルダペダル: 譜表から一番離れた位置

ペダル線の開始位置を示すグリフ/テキストの開始位置は、それが適用される音符に整列します。ペダル線の終了を示すために線終了フックを使用している場合、フックはそれが適用される音符またはリズム上の位置に整列します。

ペダル線のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

#### 補足

リテイクまたはペダルの強さの変更指示の位置を移動することはできません。移動するには、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除してから、任意の位置に新規に入力します。

ペダル線の表示位置は浄書モードで変更できます。ただしこれは、それが属するリズム上の位置を変更するものではありません。

すべてのペダル線のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。たとえば、ペダル線と譜表の間の最小距離、ペダル線と他のペダル線との間の最小距離、符頭および装飾音符に対するペダル線の位置に関する数値を変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(789 ページ\)](#)

[ペダル線の開始テキスト、延長テキスト、および復元テキスト \(794 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(789 ページ\)](#)

[ペダル線の表示位置の移動 \(786 ページ\)](#)

[ペダル線の長さの変更 \(788 ページ\)](#)  
[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

## ペダル線の位置の移動

ペダル線の位置は入力後に移動できます。ペダル線上のリテイクやペダルの強さの変更指示もすべて同時に移動されます。

### 補足

リテイクやペダルの強さの変更指示をペダル線とは別個に移動させる場合、まずそれらを元の位置から削除し、新たな位置に入力しなおす必要があります。

---

### 手順

1. 記譜モードで、移動するペダル線を選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるペダル線は1つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なってペダル線を移動させます。
    - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
    - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
    - ペダル線をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。
- 

### 結果

単一のペダル線が、譜表内の次または前の符頭に移動します。  
複数のペダル線は、現在のリズムグリッド値に従い移動します。

### 補足

ペダル線は譜表に沿ってしか移動できません。ペダル線を別の譜表に移動する場合は、ペダル線を削除してから新たなペダル線を別の譜表に入力する必要があります。

---

### 関連リンク

[ペダル線の長さの変更 \(788 ページ\)](#)  
[浄書モードのサスティンペダル線 \(780 ページ\)](#)  
[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

## ペダル線の表示位置の移動

ペダル線、リテイクおよびペダルの強さの変更指示の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。ペダル線の開始位置と終了位置は別個に移動できるため、表示上の長さも変更できます。

### 補足

ペダル線の角度はレベルの変更によってのみ変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 移動させるペダル線。
  - 開始位置または終了位置を移動させるペダル線の開始ハンドルまたは終了ハンドル。

- 移動させるリテイクおよびペダルの強さの変更指示の下のハンドル。

#### 補足

- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」>「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」>「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。
- ペダル線は複数同時に移動できますが、上下方向のみです。
- ペダル線のハンドルは複数同時に移動できますが、左右方向のみです。

#### 2. 以下のいずれかの操作を行なって、ペダル線またはハンドルを移動させます。

- ペダル線またはハンドルを右に移動するには、**[Alt]+[→]**を押します。
- ペダル線またはハンドルを左に移動するには、**[Alt]+[←]**を押します。
- ペダル線全体を上を移動するには、**[Alt]+[↑]**を押します。
- ペダル線全体を下を移動するには、**[Alt]+[↓]**を押します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]**を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 結果

選択したペダル線またはハンドルが新しい表示位置に移動します。

#### ヒント

ペダル線の位置を移動すると、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- **開始 X オフセット (Start X offset)**: ペダル線の開始位置を水平に移動します。
- **終了 X オフセット (End X offset)**: ペダル線の終了位置を水平に移動します。
- **Y オフセット (Y offset)**: ペダル線全体を垂直に移動します。

ペダルのリテイクまたはペダルの強さの変更指示を水平に移動させると、プロパティパネルの「**ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)**」グループにある「**X オフセット (X offset)**」が自動的にオンになります。

たとえば、ペダル線全体を右に移動させると両側のハンドルが移動するため、「**開始 X オフセット (Start X offset)**」と「**終了 X オフセット (End X offset)**」の両方がオンになります。これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、ペダル線、リテイクおよびペダルの強さの変更指示の表示位置の移動、およびペダル線の表示上の長さの変更が行なえます。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線がデフォルト位置にリセットされます。

#### 関連リンク

[ペダル線の長さの変更 \(788 ページ\)](#)

[浄書モードのサスティンペダル線 \(780 ページ\)](#)

## 装飾音符に対するペダル線の位置の変更

個々のペダル線の装飾音符に対する開始位置および終了位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 手順

1. 装飾音符に対する位置を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループから以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - **装飾音符の前から開始 (Starts before grace notes)**
  - **装飾音符の前で終了 (Ends before grace notes)**
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

チェックボックスをオンにすると、選択したペダル線の対応する部分が装飾音符の前に配置されます。チェックボックスをオフにすると、選択したペダル線の対応する部分が装飾音符の後に配置されます。

#### ヒント

- ペダル線のさらに詳細な位置調整は浄書モードで行なえます。
- すべてのペダル線の装飾音符に対する位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。

#### 例



装飾音符の前に開始/終了するペダル線



装飾音符の後に開始/終了するペダル線

#### 関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(789 ページ\)](#)

[ペダル線の表示位置の移動 \(786 ページ\)](#)

## ペダル線の長さの変更

ペダル線は入力後に長さを変更できます。

#### 手順

1. 記譜モードで長さを変更するペダル線を選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるペダル線は1本だけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なってペダル線の長さを変更します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt]+[←]** を押します。
  - 1本のペダル線の終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。
  - 1本のペダル線の終端を前の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt]+[←]** を押します。

#### 補足

- 複数のペダル線が選択されている場合は、現在のリズムグリッド値に従う長さの変更だけが行なえます。
  - キーボードを使用しているときは、ペダル線の終端しか動かさせません。ペダル線の始端は、ペダル線全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
- 
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

#### 結果

1本のペダル線の長さは、現在のリズムグリッド値または前後の符頭の位置のうち、いずれか近い方に従い変更されます。

複数のペダル線の長さは、現在のリズムグリッド値に従い変更されます。

#### ヒント

浄書モードでは、ペダル線の表示上の位置や長さを変更できます。

#### 関連リンク

[ペダル線の位置 \(785 ページ\)](#)

[ペダル線の位置の移動 \(786 ページ\)](#)

[ペダル線の表示位置の移動 \(786 ページ\)](#)

## 浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページで、ペダル線の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「ペダル線 (Pedal Lines)」ページのオプションを使用すると、ペダル線のタイプごとに開始位置に表示される記号、組段をまたぐ場合のペダル線の記号の外観、ペダル線の延長線の外観、およびリテイクのノッチの幅を変更できます。また、ペダル線と譜表または他のオブジェクトとの間隔に関する詳細な値も設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## ペダル線の開始記号、フック、および延長線

通常、ペダル線は開始記号、延長線、および終了フックから構成されます。これにより、演奏者に各種ペダルを踏み込む位置、踏み込み続ける長さ、およびペダルを上げる位置が明確に伝えられます。

Dorico Pro では、ペダル線の各部分の外観を、個々のペダル線に対しても、プロジェクト全体のすべてのペダル線に対しても変更できます。たとえば、プロジェクト全体のペダル線には開始記号としてグリフを表示しつつ、個々のペダル線の開始記号にはかわりにテキストを表示させるよう変更できます。

記譜モードでは、ペダル線全体を選択して、ペダル線のタイプに従い、延長線や開始記号など外観に関する設定の大部分を変更できます。

サスティンペダルのみ、浄書モードでサスティンペダルのそれぞれのセグメントを個別に選択し、それぞれのセグメントに異なるプロパティを設定できます。サスティンペダル線は、それが表示される組段それぞれについて別個のセグメントを持ちます。

#### ヒント

多数のペダル線の外観を同時に変更する場合、対応するプロジェクト全体の設定を「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更の方が効果的な場合があります。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(789 ページ\)](#)

[浄書モードのサスティンペダル線 \(780 ページ\)](#)

## ペダル線の開始記号の外観を個別に変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、ペダル線の開始記号の外観を個別に設定できます。ペダル線の開始記号は、伝統的なペダル線のグリフの各種バリエーション、その他の記号、またはテキストで表示できます。

---

#### 手順

1. 開始記号の外観を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

選択するペダル線は、たとえばサスティンペダル線だけなど、同じタイプのものでなくてはなりません。

---

2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**記号の外観 (Sign appearance)**」をオンにします。
  3. メニューからのいずれかのオプションを選択します。  
オプションは、選択したペダル線のタイプによって異なります。
- 

#### 結果

選択したペダル線の開始記号の外観が変更されます。

---

#### ヒント

- 「**記号の外観 (Sign appearance)**」をオフにすると選択したペダル線の開始記号の外観がデフォルトの設定に戻ります。
  - すべてのペダル線の開始記号のデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。
- 

#### 関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(789 ページ\)](#)

## ペダル線の開始/終了位置のフックのタイプを個別に変更する

ペダル線の開始位置または終了位置に表示するフックのタイプを個別に変更できます。

---

#### 補足

開始フックのタイプを変更できるのは開始記号にフックを表示するペダル線のみであり、終了フックのタイプを変更できるのは延長線を表示するペダル線のみです。

---

## 手順

1. フックのタイプを変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - 線開始フック (Line start hook)
  - 線終了フック (Line end hook)
3. 各メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - フックなし (No Hook)
  - 垂直フック (Vertical Hook)
  - 傾斜フック (Slant Hook)
  - 逆フック (Inverse Hook)

## 結果

選択したペダル線の開始位置または終了位置のフックのタイプが変更されます。

## ヒント

プロジェクト全体ですべてのペダル線のデフォルトの外観を変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページで設定を行ないます。

## ペダル線のフックの長さを個別に変更する

ペダル線の開始位置または終了位置に表示されるフックの長さはそれぞれ個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

たとえば、ペダル線の開始位置と終了位置にフックがある場合、開始位置のフックの長さは変えずに終了位置のフックだけ長くできます。

## 補足

これは開始記号または終了記号がフックに設定されているペダル線にのみ適用されます。

## 手順

1. 浄書モードで、フックの長さを変更するペダル線の開始位置または終了位置にある一番上のハンドルを選択します。

## ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

## ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑])。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択したペダル線のフックの長さを変更されます。

#### ヒント

- ペダル線のフックを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**開始フックの長さ (Start hook length)**」は、ペダル線開始位置のフックの長さを変更します。
  - 「**終了フックの長さ (End hook length)**」は、ペダル線終了位置のフックの長さを変更します。

このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、ペダル線のフックの長さを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線のフックがデフォルトの長さのリセットされます。

- すべてのペダル線のデフォルトのフックの長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**フックの長さ (Hook length)**」の値によって変更できます。この数値はペダル線の開始位置および終了位置のフックに適用されます。

---

## ペダル線の延長線タイプを個別に変更する

異なるタイプのペダル線に使用される延長線タイプを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 手順

1. 延長線タイプを変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**延長タイプ (Continuation type)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかの延長タイプを選択します。
  - **線 (Line)**
  - **終端の記号 (Sign at End)**
  - **終端の記号と破線 (Sign at End and Dashed Line)**
  - **なし (None)**

#### 結果

選択したペダル線の延長線タイプが変更されます。

#### ヒント

すべてのペダル線の延長タイプに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。ペダル線の種類ごとに異なる延長タイプを選択できます。たとえば、サスティンペダル線にはラインを使用し、ウナコルダペダル線には終端の記号のみ使用するといった具合です。



## ペダル延長線の破線および破線の間隔の長さを個別に変更する

破線のペダル延長線の破線および破線の間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 補足

これは破線の延長線を使用するペダル線にのみ適用されます。

### 手順

1. 浄書モードで、破線の外観を変更するペダル線を選択します。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - **破線の長さ (Dash length)**
  - **破線の間隔の長さ (Dash gap length)**
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

「**破線の長さ (Dash length)**」を増やすと、ペダル延長線の破線が長くなり、減らすと短くなります。

「**破線の間隔の長さ (Dash gap length)**」を増やすと、ペダル延長線の破線の間隔が大きくなり、減らすと小さくなります。

### ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」で、すべての破線のペダル延長線におけるデフォルトの破線の長さおよび破線の間隔の長さを設定し、プロジェクト全体に適用できます。

## ペダル線の太さを個別に変更する

延長線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、延長線の太さを変更するペダル線を選択します。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**線の太さ (Line width)**」をオンにします。

初めてプロパティをオンにする場合、数値は自動的に0にリセットされます。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

「**線の太さ (Line width)**」を増やすとペダルの延長線が太くなり、値を減らすと延長線が細くなります。

### ヒント

すべてのペダル延長線のデフォルトの太さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションで変更できます。

## ペダル線の延長記号に括弧を付ける

プロジェクト全体の設定とは別に、ペダル線の延長記号に付く括弧の有無を切り替えられます。ペダル線が組段区切りをまたぐとき、初期設定では新しい組段の開始位置にペダル線の延長記号が表示されません。

### 手順

1. 延長記号の外観を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループで、「括弧内に延長記号を表示 (Show continuation sign in parentheses)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

チェックボックスがオンになっているときは延長記号が括弧付き表示になり、オフになっているときは括弧なし表示になります。

プロパティをオフにすると、ペダル線の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

### ヒント

プロジェクト全体ですべてのペダル線の延長記号のデフォルトの外観を変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページにある「デザイン (Design)」セクションで設定を行ないます。

## ペダル線の開始テキスト、延長テキスト、および復元テキスト

すべてのタイプのペダル線は、開始記号としてグリフやフックのかわりにテキストを表示できます。テキストの開始記号を持つペダル線の開始位置に表示されるテキスト、新しい組段の開始位置に表示される延長テキスト、およびウナコルダペダル線の終了位置に表示される復元テキストは上書きできます。

すべてのペダル線のデザインに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページにある「デザイン (Design)」セクションにおいてタイプに従い変更でき、また個々のペダル線の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 記号ではなくテキストによる指示を使用するペダル線

ウナコルダペダル線や、サスティンペダル線のうち開始記号に装飾的な記号ではなく、**Ped.Text** のようなテキストを使用しているものなどについては、ペダル線の開始位置に表示されるテキストを上書きして、任意の演奏指示に変更できます。

### 延長記号/テキスト

ペダル線が新しい組段にまたがって続くとき、延長記号/テキストは初期設定では括弧の中に表示されます。ペダル線が開始記号に記号ではなく、**Ped.Text** のようなテキストを使用している場合は、新しい組段の開始位置に表示されるテキストを書き換えて、任意の演奏指示に変更できます。

### ウナコルダペダル線

ウナコルダペダル記号において、終了位置のペダル上げ指示に相当するのがトレコルダへの復帰指示です。ペダル線の終了位置に表示されるテキスト「*tre corde*」は上書きして、お好みの演奏指示に置き換えられます。

## ペダル線に表示される開始テキストの変更

開始記号にテキストを使用するペダル線について、開始位置に表示されるテキストを個別に変更できません。

### 手順

1. 開始テキストを上書きするペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**テキスト (Text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

### 結果

選択したペダル線の開始位置に表示されるテキストが変更されます。

「**テキスト (Text)**」をオフにすると、選択したペダル線の開始位置に表示されるデフォルトのテキストが復元されます。

### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

## ペダル線の延長線のテキスト表示の変更

ペダル線が組段区切りをまたぐときに、新しい組段の開始位置に表示されるテキストを変更できます。

### 補足

これは開始記号にテキストを使用するペダル線にのみ適用されます。

### 手順

1. 延長テキストを上書きするペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**延長テキスト (Continuation text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

### 結果

選択したペダル線の新しい組段の開始位置に表示される延長テキストが変更されます。

「**延長テキスト (Continuation text)**」をオフにすると、選択したペダル線のデフォルトの延長テキストが復元されます。

### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

## ウナコルダペダル線に表示される復元テキストの変更

ウナコルダペダル線において、終了位置のペダル上げ指示に相当するのがトレコルデへの復帰指示です。個々のウナコルダペダル線において、終了位置に表示されるテキスト「*tre corde*」を任意のテキストに変更できます。

### 補足

これは開始記号にテキストを使用するウナコルダペダル線にのみ適用されます。

### 手順

1. 復元テキストを上書きするウナコルダペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**復元テキスト (Restorative text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

### 結果

選択したウナコルダペダル線の終了位置に表示される復元テキストが変更されます。

「**復元テキスト (Restorative text)**」をオフにすると、選択したペダル線のデフォルトの復元テキストが復元されます。

### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

## 再生時のペダル線

Dorico Pro では、ペダル線は自動的に再生に反映されます。

3つのピアノペダルは以下のMIDIコントローラーを送信します。

- サステインペダル線はMIDIコントローラー 64 (サステイン) を送信します。
- ソステヌートペダル線はMIDIコントローラー 66 (ソステヌート) を送信します。
- ウナコルダペダル線はMIDIコントローラー 67 (ソフトペダル) を送信します。

Pianoteq や Garritan CFX Concert Grand など一部のピアノ VST インストゥルメントは、サステインペダルの部分的な踏み込みをサポートします。詳細はメーカー説明書を参照してください。

### 再生オプション

Dorico Pro のペダリングの再生方法のオプションは、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで確認できます。

ペダル線の再生に関する以下のパラメーターを制御できます。

- ペダリング開始時の踏み込みの長さ
- ペダル線の途中のリテイクの長さ
- ペダリング終了時のリリースの長さ
- 開始時の踏み込みおよびリテイクの再生が、対応する位置の音符または和音の開始位置より前になるか後になるか

### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルから読み込まれたペダル線

MusicXML ファイルからは、サステインペダル線を読み込めます。MusicXML が表現できるのはサステインペダルのみで、ペダルの踏み込みの強さは表現できません。

# 演奏技法

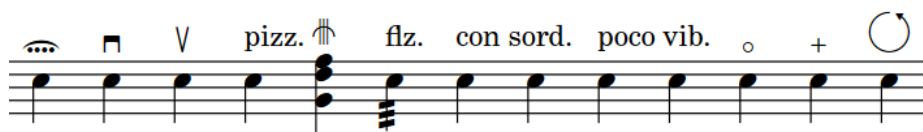
“演奏技法”という言葉は、演奏者が演奏する音符のサウンドに修飾を加えることを伝えるためのさまざまな指示を意味します。演奏技法の例としては、アンブシュアの変更や弓の位置の変更、または楽器にミュートを付けたりペダルを踏み込んだりすることなどがあります。

Dorico Pro では、演奏技法は記号またはテキストの形で表現されます。利用できる演奏技法はすべて記譜モードの演奏技法パネルに、インストゥルメントのファミリーごとにまとめられています。たとえば、ペダル線は演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで確認できます。

## 補足

ペダル線にはリテイク、開始記号、延長線など、他の演奏技法にはない固有の追加指示があるため、それらは別個に記載されています。またペダル線は、プロパティパネル内に「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループから分かれた独自のグループを持ちます。

演奏技法を追加すると、インストゥルメントの再生のされ方が変化します。たとえば、バイオリンの譜表にピチカートを加えると、VST インストゥルメントが鳴らすサウンドを変化させるキースイッチがオンになります。



Dorico Pro で使用できる演奏技法の一部

## 関連リンク

[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

[再生時の演奏技法 \(812 ページ\)](#)

[ペダル線 \(779 ページ\)](#)

## 浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ページで、演奏技法の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ページのオプションでは、演奏技法と譜表との距離、同じ位置に複数あるテキストによる演奏技法の配置、テキストによる演奏技法のデフォルトの水平オフセット、および演奏技法の延長スタイルを変更できます。

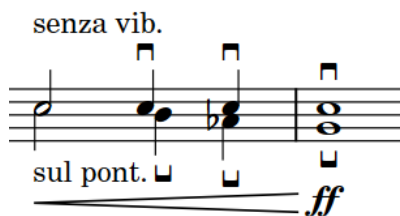
多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

## 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 演奏技法の位置

演奏技法は、テキストと記号いずれも譜表の上に配置されます。声楽の譜表では、譜表の上かつ強弱記号の下に配置されます。複声部においては、符尾が上向きの声部の演奏技法は譜表の上に、符尾が下向きの声部の演奏技法は譜表の下に配置されます。



同じ譜表の2つの声部における演奏技法の配置

演奏技法のテキストはプレーンフォントを使用し、表現テキストと見間違えないよう太字も斜体も使用しません。

### 補足

これはペダル線には当てはまりません。ペダル線は他の演奏技法とはフォントスタイルが分けられているためです。

演奏技法のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

演奏技法の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべての演奏技法のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**演奏技法 (Playing Techniques)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[ペダル線の開始テキスト、延長テキスト、および復元テキスト \(794 ページ\)](#)

[浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する \(798 ページ\)](#)

[演奏技法の表示位置の変更 \(800 ページ\)](#)

## 演奏技法の位置の移動

演奏技法の位置は入力後に移動できます。

### 手順

1. 記譜モードで、位置を変更する演奏技法を選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる演奏技法は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法を移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - 演奏技法をクリックして左右の任意の符頭の位置までドラッグします。

### 結果

1つの演奏技法は、同じ譜表の次または前の符頭に移動します。  
複数の演奏技法は、現在のリズムグリッド値に従い移動します。

関連リンク  
[ペダル線の位置の移動 \(786 ページ\)](#)

## 演奏技法の表示位置の変更

演奏技法の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。

### 補足

この手順はペダル線には適用されません。

---

### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動する演奏技法を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法を移動させます。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

### 結果

選択した演奏技法が新しい表示位置に移動します。

### ヒント

演奏技法を移動すると、プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループにある「開始オフセット (Start offset)」が自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」の「X」の値を変更すると、演奏技法の水平位置が変更されます。
- 「開始オフセット (Start offset)」の「Y」の値を変更すると、演奏技法の垂直位置が変更されます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更して演奏技法を移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択した演奏技法がデフォルト位置にリセットされます。

---

関連リンク  
[ペダル線の表示位置の移動 \(786 ページ\)](#)

## 譜表に対する演奏技法の位置を個別に変更する

譜表に対する演奏技法の位置は個別に変更できます。

### 補足

この手順はペダル線には適用されません。

---



#### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する演奏技法を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループで、「**位置 (Placement)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Above)**
    - **下 (Below)**
- 

#### 結果

選択した演奏技法が譜表の上または下に表示されます。

#### 関連リンク

[ペダル線の表示位置の移動 \(786 ページ\)](#)

## 演奏技法へのテキストの追加

演奏技法を入力したあと、たとえば演奏技法の意図を明確にするために、その上またはその横にテキストを追加できます。

#### 補足

この手順はペダル線には適用されません。

---

#### 手順

1. テキストを追加する演奏技法を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループで、「**代替テキスト (Alternative text)**」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

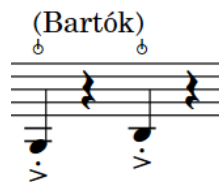
入力フィールドに入力したテキストは、テキストによる演奏技法のすぐあと、そして記号による演奏技法のすぐ上に表示されます。

---

#### 例



テキストによる演奏技法に追加された代替テキスト



記号による演奏技法に追加された代替テキスト

---

#### 関連リンク

[ペダル線の開始テキスト、延長テキスト、および復元テキスト \(794 ページ\)](#)

## テキストの演奏技法の背景の塗りつぶし

テキストの演奏技法は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。

### 手順

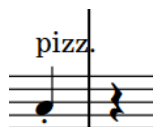
1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす演奏技法を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。

### 結果

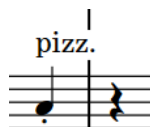
選択した強弱記号の背景にあるあらゆるものが塗りつぶされ、演奏技法の周りに空白の領域が作られます。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択した演奏技法がデフォルトの、背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

### 例



背景の塗りつぶしなしのテキストの演奏技法



背景の塗りつぶしありのテキストの演奏技法

### 手順終了後の項目

演奏技法の塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

## テキストの演奏技法の塗りつぶしの余白を変更する

演奏記号は個別に塗りつぶしの余白を変更できます。余白の幅は演奏記号の四方それぞれについて個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更するテキストの演奏記号を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
  - 「L」は演奏技法の左側の余白の幅を変更します。
  - 「R」は演奏技法の右側の余白の幅を変更します。
  - 「上 (T)」は演奏技法の上側の余白の幅を変更します。
  - 「下 (B)」は演奏技法の下側の余白の幅を変更します。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。

### ヒント

すべての演奏技法の塗りつぶしの余白のデフォルトに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「演奏技法 (Playing Techniques)」ページにある「デザイン (Design)」セクションで変更できます。ただし、ここでは四方それぞれの余白は個別に変更できません。

## 演奏技法の表示/非表示

演奏技法は個別に表示/非表示にできます。たとえば、エクスプレッションマップが正しい再生をトリガーするために演奏技法の入力が必要だが、演奏技法を楽譜に表示させたくない場合などに、この機能を使用します。

### 手順

1. 非表示にする演奏技法、または表示させる演奏技法のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループで「**非表示 (Hidden)**」をオン/オフにします。

### 結果

「**非表示 (Hidden)**」をオンにすると、選択した演奏技法が非表示になり、オフにすると表示されます。非表示の演奏技法の位置にはそれぞれガイドが表示されるため、いつでも見つけられます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

### ヒント

- 演奏技法のガイドを表示しない場合は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**演奏技法 (Playing Techniques)**」を選択します。メニュー内の「**演奏技法 (Playing Techniques)**」の横にチェックマークがあるときは演奏技法のガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。
- コード記号、演奏技法、および拍子記号に適用される、「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)**」にキーボードショートカットを設定できます。

### 関連リンク

[エクスプレッションマップ \(456 ページ\)](#)  
[ガイド \(284 ページ\)](#)

## カスタムの演奏技法

カスタムの演奏技法を使用すると、任意の演奏技法を任意の形で表現できます。たとえば、特定の演奏技法に使用されるデフォルトのグリフがユーザーまたは楽譜を使用するプレーヤーにとって馴染みのないものであった場合は、この機能が活用できます。

カスタムの演奏技法では、既存のグリフ、テキスト、またはユーザーの用意したグラフィックを使用して外観をデザインできるとともに、再生にどのような影響を与えるかも指定できます。

カスタムの演奏技法の作成と編集は、「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログおよびその関連するダイアログで行なえます。カスタムの演奏技法は、記譜モードの演奏技法パネルの、それが割り当てられたカテゴリーの中に表示されます。またポップオーバーを使用して、それに割り当てたポップオーバーテキストを入力することも記譜できます。

### 関連リンク

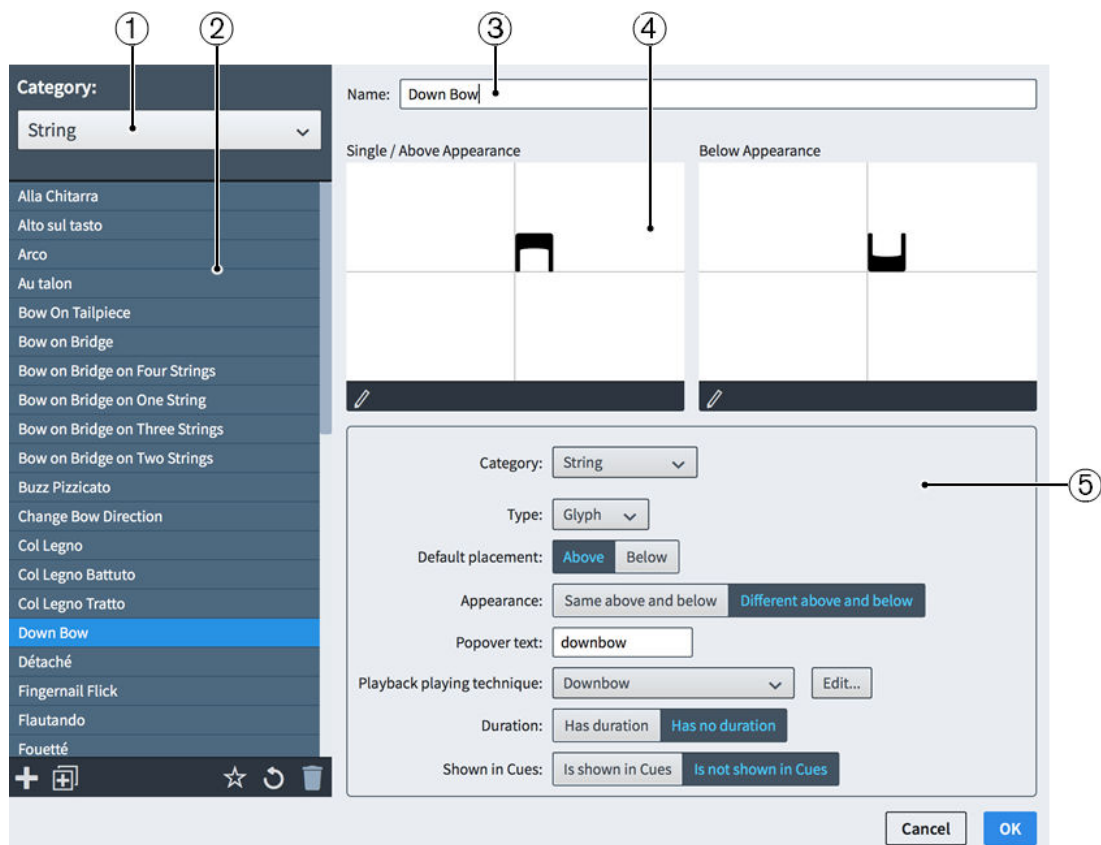
[再生時の演奏技法 \(812 ページ\)](#)  
[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

## 「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」 ダイアログ

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」 ダイアログでは、カスタムの演奏技法の追加、編集および削除が行なえます。また、プロジェクト内のすべての演奏技法の外観と機能に関するさまざまな設定も変更できます。

- 「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」 ダイアログを開くには、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択するか、記譜モードで演奏技法パネルのいずれかのセクションのアクションバーの「演奏技法を追加 (Add Playing Technique)」をクリックします。

また、記譜モードで演奏技法パネルのいずれかの演奏技法を選択し、そのセクションのアクションバーの「演奏技法を編集 (Edit Playing Technique)」をクリックすることで、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」 ダイアログの特定の演奏技法のページを開くこともできます。



「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」 ダイアログ

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューから「弦 (String)」や「合唱 (Choral)」などカテゴリーを選択することで、演奏技法のリストを切り替えられます。これは演奏技法パネルのセクションのタイトルに対応します。

### 2 演奏技法のリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての演奏技法が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New)**



空白の演奏技法を新規に追加します。

- **選択から新規作成 (New from Selection)**



選択中の演奏技法の複製となる演奏技法を新規に追加します。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default)**



選択中の演奏技法をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。

- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)**



選択中のプリセットの演奏技法に加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択した演奏技法を削除します。

#### 補足

プリセットの演奏技法、またはプロジェクト内で現在使用中の演奏技法は削除できません。

### 3 名前 (Name)

選択中の演奏技法の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

### 4 プレビュー

演奏技法の現在の外観を表示します。演奏技法の外観が譜表の上下とも同じと設定されている場合、プレビュー領域は1つ表示されます。演奏技法の外観が譜表の上下によって異なると設定されている場合、プレビュー領域は両方の外観を表示できるように分割されます。

プレビューの下のアクションバーから「**複合要素を編集 (Edit Composite)**」をクリックすると、「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」ダイアログが開き、演奏技法の外観を編集できます。このボタンは「**グリフ (Glyph)**」の演奏技法においてのみ使用できます。

### 5 演奏技法のオプション

選択した演奏技法の外観と機能に関する以下のオプションを変更できます。

- **カテゴリー (Category)**

選択した演奏技法のインストゥルメントファミリーのカテゴリーを選択できます。これによりたとえば、「**弦楽器 (String)**」の演奏技法を複製して作成した新規の演奏技法を「**木管楽器 (Wind)**」のカテゴリーに保存できます。

- **タイプ (Type)**

演奏技法のタイプについて「**グリフ (Glyph)**」か「**テキスト (Text)**」が選択できます。これによって、プレビューにおける演奏技法の表示方法が変化します。

「**テキスト (Text)**」を選んでいる場合、「**タイプ (Type)**」メニューの隣に「**テキスト (Text)**」フィールドが表示されます。フィールドには任意のテキストを入力でき、フィールドの隣のメニューから任意のフォントスタイルを選択できます。演奏技法のプレビューは左寄せで表示されます。

「**グリフ (Glyph)**」を選択した場合、演奏技法のプレビューは中央寄せで表示されます。「**グリフ (Glyph)**」を選択することで、「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」ダイアログで演奏技法の編集もできるようになります。

- **デフォルトの位置 (Default placement)**

演奏技法のデフォルトの配置について、譜表の「**上 (Above)**」か「**下 (Below)**」が選択できます。

- **外観 (Appearance)**

演奏技法の外観について、譜表の上下とも同じとするか、上下によって異なるか選択できます。「上下によって異なる (Different above and below)」を選択した場合、上下の外観を別個に編集できます。

- **ポップオーバーテキスト (Popover text)**  
演奏技法を記譜するためにポップオーバーに入力するテキストを設定できます。
- **演奏技法の再生効果 (Playback playing technique)**  
演奏技法のための演奏技法の再生効果を選択できます。これは、使用されるサンプルサウンドを変化させます。
- **デュレーション (Duration)**  
演奏技法について、「デュレーションあり (Has duration)」として音符の範囲にわたって表示させるか、「デュレーションなし (Has no duration)」として1点だけに表示させるか選択できます。

#### 補足

これが影響するのは演奏技法の外観上のデュレーションのみです。演奏技法の再生上のデュレーションも変化させるには、「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログを使用します。

- **キューでの表示 (Shown in Cues)**  
演奏技法をキューに表示する設定のとき、この演奏技法をキューに表示するか選択できません。

#### 関連リンク

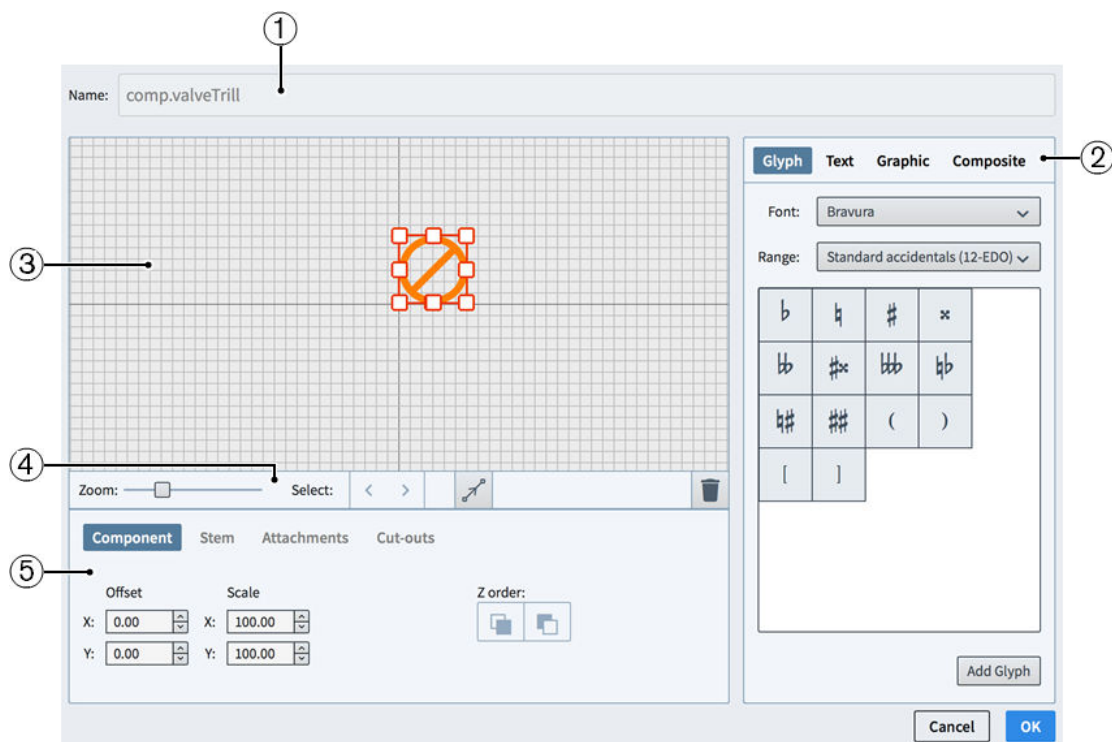
[「演奏技法の再生効果を編集 \(Edit Playback Playing Techniques\)」ダイアログ \(809 ページ\)](#)

[演奏技法パネル \(244 ページ\)](#)

## 「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログ

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログでは、カスタムの演奏技法のデザインと、演奏技法の外観や配置の編集を行なえます。

- 「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログを開くには、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの中のリストからデザインを編集する演奏技法を選択して、プレビューの下のアクションバーにある「複合要素を編集 (Edit Composite)」をクリックします。これは「タイプ (Type)」が「グリフ (Glyph)」の演奏技法においてのみ行なえます。



「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」 ダイアログ

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 名前 (Name)

プリセットの演奏技法の保存名、または新規の演奏技法に自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

### 2 構成要素セレクター

演奏技法に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や♭を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを演奏技法に追加します。

#### 補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを演奏技法に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを演奏技法に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせを演奏技法に追加します。

### 3 エディター

演奏技法の構成要素の配置と編集を行なえます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

#### 4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom)**  
エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select)**  
次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments)**



エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。

- **削除 (Delete)**



選択した要素を削除します。

#### 5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。演奏技法で利用できるタブは「**要素 (Component)**」と「**アタッチメント (Attachments)**」だけです。これ以外のタブは演奏技法には当てはまらないためです。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

##### 補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

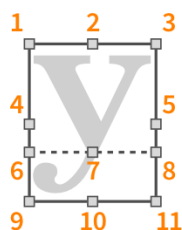
- **「前後の順序 (Z order)」:** 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、演奏技法が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。





「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログでは、連結ポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

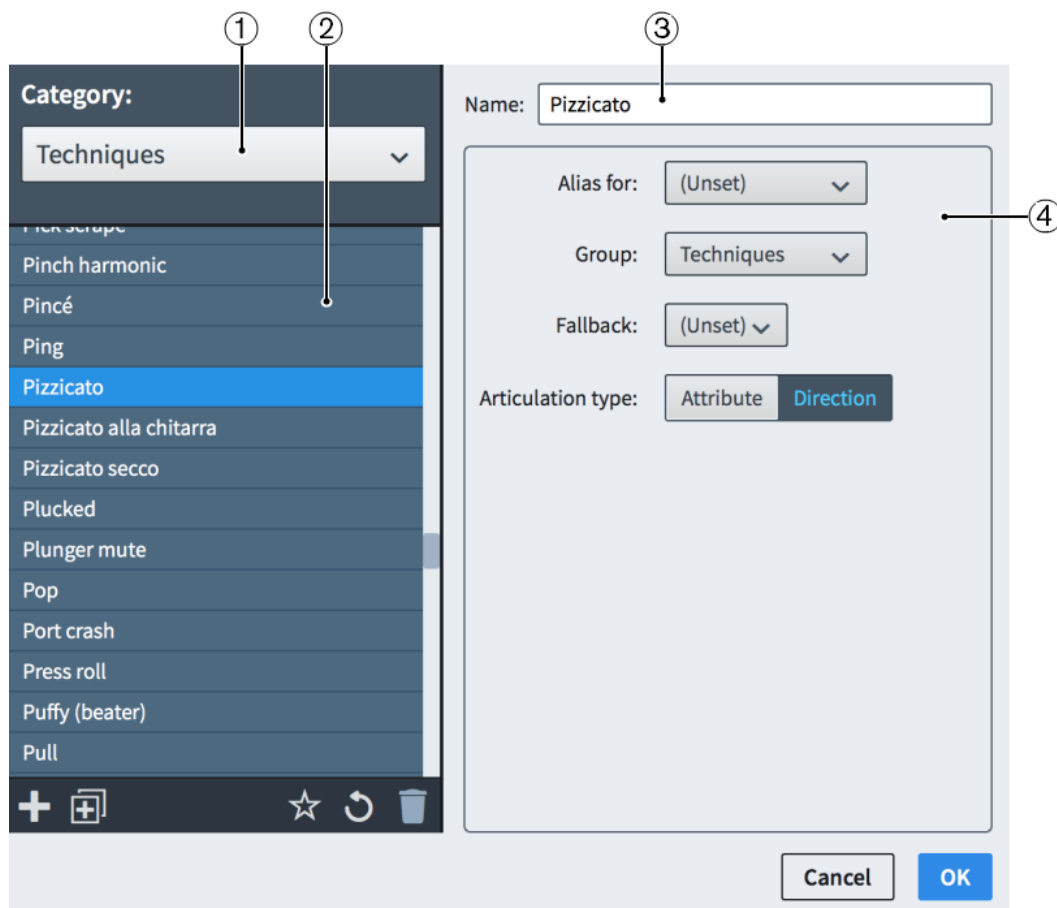
関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(804 ページ\)](#)

## 「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログ

「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログでは、演奏技法の再生効果を新規に定義または編集できます。たとえば、新規にデザインしたカスタムの演奏技法のために、演奏技法の再生効果を正しい再生設定で新規作成できます。

- 「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログを開くには、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの「演奏技法の再生効果 (Playback playing technique)」の横にある「編集 (Edit)」をクリックします。



「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログ

「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

### 1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューから「演奏技法 (Techniques)」や「強弱記号 (Dynamics)」などカテゴリーを選択することで、演奏技法の再生効果のリストを切り替えられます。

### 2 演奏技法の再生効果のリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての演奏技法の再生効果が表示されます。リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- 新規 (New)



空白の演奏技法の再生効果を新規に追加します。

- 選択から新規作成 (New from Selection)



選択中の演奏技法の再生効果の複製となる演奏技法の再生効果を新規に追加します。

- デフォルトとして保存 (Save as Default)



選択中の演奏技法の再生効果をデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。

- 出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)



選択中のプリセットの演奏技法の再生効果に加えた編集をすべて削除し、元の設定に戻します。

- **削除 (Delete)**



選択した演奏技法の再生効果を削除します。

#### 補足

プリセットの演奏技法、またはプロジェクト内で現在使用中の演奏技法は削除できません。

### 3 名前 (Name)

演奏技法の再生効果の名前を編集または入力できます。この名前は「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」、および「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログのリストに表示されます。

### 4 再生オプション

- 「**エイリアス元 (Alias for)**」: 選択中の演奏技法に等しい効果を持たせる、他の演奏技法の再生効果を指定できます。
- 「**グループ (Group)**」: 演奏技法の再生効果が属するグループを設定します。
- 「**代替 (Fallback)**」: 選択中の演奏技法が使用できない場合代替として使用する、他の演奏技法の再生効果を指定できます。
- 「**アーティキュレーションのタイプ (Articulation type)**」: 演奏技法の再生効果が効果を発揮するデュレーションを設定します。「**単音 (Attribute)**」は、スタッカートのアーティキュレーションのように、演奏技法が付く位置の音符のみが適用範囲となります。これに対し「**持続 (Direction)**」は、ピチカートのように、他の演奏技法によって打ち消されるまでの後続の音符すべてが適用範囲となります。

#### 関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(804 ページ\)](#)

[「演奏技法の外観を編集 \(Edit Playing Technique\)」ダイアログ \(806 ページ\)](#)

## カスタムの演奏技法を複数のプロジェクトで使用する

初期設定では、カスタムの演奏技法を使用できるのは、それが作成されたプロジェクトの中だけです。しかしデフォルトとして保存することで、これを複数のプロジェクトで使用できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**演奏技法 (Playing Techniques)**」を選択して「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
2. ダイアログの左側のリストで、複数のプロジェクトで使用する演奏技法を選択します。
3. アクションバーで「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」をクリックします。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

#### 結果

選択した演奏技法がデフォルトとして保存され、すべてのプロジェクトで使用できるようになります。

#### 関連リンク

[カスタムの演奏技法 \(803 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(804 ページ\)](#)

## 再生時の演奏技法

記譜モードで作成できる演奏技法はそれぞれ、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでマッピングできる演奏技法に対応します。

- 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログは、再生モードで「**再生 (Play)**」>「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択すると開きます。

ダイアログの「**演奏技法 (Techniques)**」セクションでは、既存の演奏技法を編集できます。「**演奏技法の組み合わせ (Technique Combinations)**」ダイアログでは、演奏技法の新しい組み合わせを作成できます。たとえば「**ピチカート (Pizzicato)**」と「**トレモロ (Tremolo)**」を組み合わせると、同じ音符に同時にピチカートとトレモロを適用させられます。

記譜モードで演奏技法を入力すると、エクスプレッションマップによりその演奏技法が参照されます。演奏技法が見つからない場合は、1つ前の演奏技法が適用されるか、ナチュラルの演奏技法に戻されます。

エクスプレッションマップに既存ではない演奏技法の再生効果を使用する場合、カスタムの演奏技法は自動的に再生に反映されません。適切な再生を行なうためには、それを使用するインストゥルメントごとに、エクスプレッションマップに演奏技法を追加する必要があります。また、カスタムの演奏技法ごとに動作内容を割り当てる必要があります。これは演奏技法を実行するために必要なスイッチの制御方法を定義するものです。

再生モードで個別のインストゥルメントを展開すると表示できる「**演奏技法 (Playing Techniques)**」のレーンでは、どの演奏技法が適用されているかを確認できます。

### ヒント

演奏技法を入力してもサウンドに変化が見られないときは、エクスプレッションマップで予期されていない演奏技法の組み合わせが使用されていることが理由の場合があります。たとえば、既存の演奏技法をキャンセルしないまま新規の演奏技法を入力した場合、エクスプレッションマップにそれら2つの演奏技法の組み合わせが登録されていない限り、エクスプレッションマップは2つの演奏技法を同時に処理できません。

演奏技法の衝突を回避するためには、ソフトウェアインストゥルメントを基本状態に戻す演奏技法“**naturale**”または“**nat.**”を入力します。これにより、衝突することなく新規の演奏技法を入力できます。

### 関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(457 ページ\)](#)

[「Technique Combinations」ダイアログ \(461 ページ\)](#)

# リハーサルマーク

リハーサルマークは順に並んだ文字または数字であり、小節番号とともに、複数のプレーヤーが利用する楽譜の基準点として機能し、また楽譜の時系列的な順序を明確にします。

リハーサルマークは演奏者に曲中の今どこにいるかを示し、リハーサルやコンサートにおいて位置の把握や全体との調和を容易にします。リハーサルマークは楽曲の重要な変化の位置を示すことにも使用され、その位置は自由に決められます。

リハーサルマークはパートレイアウトとフルスコアレイアウトを作成する際にも役立ちます。リハーサルマークと小節番号を使用すると、パートレイアウトとフルスコアレイアウトを素早く比較して正しいかどうかをチェックできます。Dorico Pro では、リハーサルマークは自動的に順序付けされ、リハーサルマークの重複がないようにします。

Dorico Pro では、リハーサルマークは組段オブジェクトとして分類されます。そのため、リハーサルマークはレイアウトごとの組段オブジェクトの表示設定および位置設定に従い、これは「**設定 (Setup)**」>「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで変更できます。

関連リンク

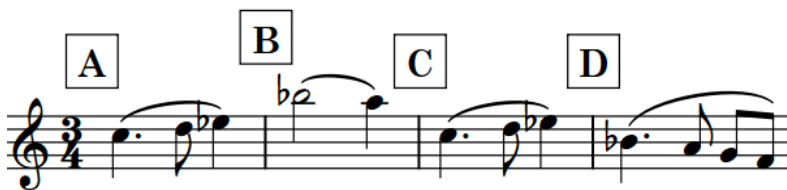
[リハーサルマークの入力 \(251 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## リハーサルマークの一般的な配置規則

リハーサルマークは見つけやすいように、スコア上の目立つ位置に配置する必要があります。リハーサルマークは大きい太字の立体フォントであるとともに、組段の上かつ楽譜の外側に配置される必要があります。



リハーサルマークは小節線より上になければならず、組段の下になってはいけません。Dorico Pro では、リハーサルマークは小節の途中の位置でも入力できますが、これは一般的ではありません。楽譜のスタイルと状況に応じて、リハーサルマークの下に複縦線を入れるのが有効な場合があります。

目につきやすいように、またリハーサルマークに数字を使用している場合は小節番号と間違えられないように、リハーサルマークは囲み線に入って表示される必要があります。リハーサルマークの囲み線は形状とサイズを変更できます。

リハーサルマークは楽譜の任意の位置に配置できますが、テンポの変更やテクスチャーの変更など、音楽的な変化のある位置に合わせると、最もプレーヤーの助けになります。また、重要なソロの導入部や難易度の高いパッセージの始まりなど、特定部分のリハーサルのためにプレーヤーが演奏を開始するポイントとなるであろう位置にリハーサルマークを配置するのも有効です。

一般的に、リハーサルマークは重要な位置に配置するほか、一定間隔で配置するとよいとされています。プレイヤーがリハーサルマーク前後の小節を数える手間を減らすために、5～20小節ごとにリハーサルマークを入れることがよく推奨されます。

リハーサルマークがテンポの変更と同じ位置にある場合、テンポのテキストはリハーサルマークの右側に配置します。ただし、スペースが狭い場合、テキストはリハーサルマークの上または下に配置できます。リハーサルマークの位置は常に空けておくようにします。リハーサルマークが属する小節線から離れた位置に追いやられると、誤った位置に解釈されてしまう場合があります。Dorico Pro は、リハーサルマークが正しく配置されるように、譜表のスペーシングを自動的に調整します。



リハーサルマークおよびテンポマークが配置されるように、上の2つの譜表の垂直のスペーシングが広がっている

関連リンク

[リハーサルマークの入力 \(251 ページ\)](#)

[小節と小節線の入力方法 \(204 ページ\)](#)

[リハーサルマークの囲み線のタイプの変更 \(814 ページ\)](#)

## 浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」ページで、リハーサルマークの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、リハーサルマークのシーケンスタイプ、デフォルト位置、および括弧に入れて表示するかどうかなどを変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[リハーサルマークの囲み線のサイズと余白の値 \(815 ページ\)](#)

## リハーサルマークの囲み線のタイプの変更

リハーサルマークは通常、長方形または丸の囲み線に入って表示されます。リハーサルマークの囲み線のタイプを変更して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」をクリックします。
3. 「**囲み線 (Enclosure)**」セクションの「**囲み線のタイプ (Enclosure type)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 長方形 (Rectangle)
  - 丸 (Circle)
  - 囲み線なし (No enclosure)
- 

#### 結果

プロジェクト内のすべてのリハーサルマークの囲み線のタイプが変更されます。囲み線のデフォルトのサイズはリハーサルマークのフォントサイズに比例しますが、囲み線のサイズと形状の決定には余白の値も関わってきます。

---

#### 例



長方形の囲み線に入ったリハーサルマーク



丸の囲み線に入ったリハーサルマーク

B

囲み線なしのリハーサルマーク

---

## リハーサルマークの囲み線のサイズと余白の値

リハーサルマークの囲み線のデフォルトの形状およびサイズは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで変更できます。リハーサルマークの囲み線の最小寸法、線の太さ、および余白の値を変更できます。

### すべての囲み線

#### 囲み線の太さ (Enclosure line thickness)

長方形と丸の両方のタイプについて、囲み線の太さを設定します。デフォルトは 1/8 スペースです。以下の例は 1/2 スペースの太さです。



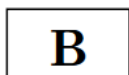
### リハーサルマークの長方形の囲み線

以下の図は、リハーサルマークの長方形の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小高さで最小幅はいずれも 4 スペース、左右の余白は 3/4 スペース、上下の最小余白はいずれも 1/8 スペースです。



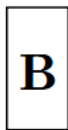
#### 最小幅 (Minimum width)

囲み線の幅の最小値を設定します。以下の例では、値を 4 スペースから 8 スペースに増やしています。



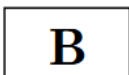
#### 最小高さ (Minimum height)

囲み線の高さの最小値を設定します。以下の例では、値を 4 スペースから 8 スペースに増やしています。



#### 囲み線とテキスト間の余白 (左右) (Left and right padding between text and enclosure)

囲み線の両辺と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 3/4 スペースから 3 スペースに増やしています。



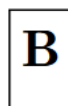
#### 囲み線とテキスト間の余白 (上部) (Top padding between text and enclosure)

囲み線の上の線と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/2 スペースから 2 スペースに増やしています。



#### 囲み線とテキスト間の余白 (下部) (Bottom padding between text and enclosure)

囲み線の下の方と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/8 スペースから 2 スペースに増やしています。



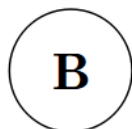
#### リハーサルマークの丸の囲み線

以下の図は、リハーサルマークの丸の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小直径は 4 スペースで、最小余白は 1/4 スペースです。



#### 最小直径 (Minimum diameter)

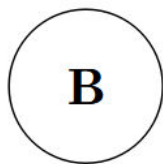
囲み線の直径の最小値を設定します。以下の例では、値を 4 スペースから 8 スペースに増やしています。





### 囲み線とテキスト間の最小余白 (Minimum padding between text and enclosure)

囲み線と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/4 スペースから 2 スペースに増やしています。



## リハーサルマークの位置

リハーサルマークは譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。

リハーサルマークのリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

リハーサルマークの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべてのリハーサルマークのプロジェクト全体のデフォルト位置の変更や、リハーサルマークと譜表およびリハーサルマークとその他のアイテム間の最小距離の値の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで行なえます。

Dorico Pro では、リハーサルマークは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の太括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。これにより、フルスコアのみ各組段の上に複数のリハーサルマークを表示させることなどができます。

関連リンク

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(814 ページ\)](#)

[リハーサルマークの表示位置の変更 \(818 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## リハーサルマークの位置の移動

リハーサルマークの位置は入力後に移動できます。

---

手順

1. 記譜モードで、位置を移動するリハーサルマークを選択します。

補足

マウスを使用すると、一度に移動できるリハーサルマークは 1 つだけで、既存の小節線の位置にしか移動できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リハーサルマークを移動させます。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
- リハーサルマークをクリックして左右の小節線の位置にドラッグします。

---

結果

1 つのリハーサルマークは、左右にある既存の小節線の位置に移動します。

複数のリハーサルマークは、現在のリズムグリッド値に従い移動します。

#### 補足

リハーサルマークはそれぞれの位置に1つしか存在できません。リハーサルマークを移動する際に他のリハーサルマークの上を通過した場合、そこにあったリハーサルマークは削除され、移動したリハーサルマークに置き換えられます。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除されたリハーサルマークについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

---

## リハーサルマークの表示位置の変更

リハーサルマークは、リズム上の位置を変えることなく表示位置を移動できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するリハーサルマークを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、リハーサルマークを移動させます。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

#### 結果

選択したリハーサルマークの表示位置が変更されます。

#### ヒント

リハーサルマークを移動すると、プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」グループにある「開始オフセット (Start offset)」が自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」の「X」の値を変更すると、リハーサルマークの水平位置が変更されます。
- 「開始オフセット (Start offset)」の「Y」の値を変更すると、リハーサルマークの垂直位置が変更されます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してリハーサルマークを移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したリハーサルマークがデフォルト位置にリセットされます。

---

## リハーサルマークの削除

フルスコアレイアウトおよびパートレイアウトでリハーサルマークを削除できます。

#### 補足

リハーサルマークをいずれかのレイアウトで削除すると、すべてのレイアウトからそのリハーサルマークが削除されます。

---

---

#### 手順

1. 記譜モードで、削除するリハーサルマークを選択します。
  2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択したリハーサルマークが削除されます。それ以降のリハーサルマークは、次に順序の変更がある位置かフローの終了位置まで調整されます。たとえば、1つめのリハーサルマークを削除した場合、次のリハーサルマークはシーケンスタイプの選択に従い、アルファベットの A、数字の 1、または小節番号を表示します。

#### 関連リンク

[リハーサルマークのシーケンスタイプの変更](#) (819 ページ)

## リハーサルマークの順序の変更

初期設定では、リハーサルマークのシーケンスは各フローの開始位置でリセットされます。たとえば、同じプロジェクト内で同じ文字のリハーサルマークが複数存在しないようにするために、フローをまたいでリハーサルマークのシーケンスを継続させる場合、リハーサルマークのインデックス位置を変更できます。

インデックス位置を変更すると、表示される数字または文字が変更されます。たとえば、インデックス位置 1 はリハーサルマーク A または 1 として表示され、インデックス位置 2 は B または 2 として表示される、という具合です。

またリハーサルマークのインデックス位置の変更は、I や O など他の文字や数字と間違いやすい文字の表示を回避するためにも使用できます。

---

#### 手順

1. インデックス位置を変更するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」グループで、「**インデックス (Index)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したリハーサルマークが、「**インデックス (Index)**」の値とシーケンスタイプに従い変化します。同じシーケンスのそれ以降のリハーサルマークは、更新されたインデックスに自動的に従います。たとえば、あるリハーサルマークを A から P に変更した場合、次のリハーサルマークは B から Q に変更されます。

#### 補足

また、リハーサルマークのシーケンスタイプも変更でき、たとえばリハーサルマーク C を 3 と表示できます。

---

## リハーサルマークのシーケンスタイプの変更

リハーサルマークは、文字、数字、または小節番号で表示できます。個々のリハーサルマークのシーケンスタイプを変更すると、リハーサルマークの補助的なシーケンスを作成できます。

Dorico Pro では、用意された 3 つのリハーサルマークのシーケンスすべてを同時に使用できます。たとえば、文字のリハーサルマークをメインのシーケンスとして表示しつつ、数字を補助的なシーケンスとしてソロラインの開始位置などの別種のタイミングの指示に使用しながら、併せてこれらのセクションの重要な小節番号を強調表示できます。

#### ヒント

プロジェクト全体のすべてのリハーサルマークで使用するシーケンスタイプは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで変更できます。

---

#### 手順

1. シーケンスタイプを変更するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」グループで、「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **文字 (Letters)**
    - **数字 (Numbers)**
    - **小節番号 (Bar numbers)**
- 

#### 結果

選択したリハーサルマークに文字、数字、または現在の小節番号が表示されるようになります。

フロー内の文字または数字のシーケンスの中でこれが最初である場合、このリハーサルマークは A または 1 を表示します。フロー内の文字または数字のシーケンスにすでに他のリハーサルマークが存在する場合、このリハーサルマークはインデックスに従い次の文字または数字を表示します。

#### 補足

リハーサルマークのシーケンスのインデックスは、他のリハーサルマークのシーケンスには影響されず個別に変更できます。ただし、小節番号のシーケンスはこの方法では変更できません。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(814 ページ\)](#)

[小節番号の変更の追加 \(537 ページ\)](#)

## リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する

リハーサルマークには先頭テキストおよび末尾テキストの両方を個別に追加できます。

---

#### 手順

1. 先頭テキストまたは末尾テキストを追加するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
    - **先頭テキスト (Prefix)**
    - **末尾テキスト (Suffix)**
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

フィールドに入力したテキストが、先頭テキストまたは末尾テキストとして、選択したリハーサルマークに追加されます。

#### ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページでは、すべてのリハーサルマークにカスタムの先頭テキスト/末尾テキストを追加してプロジェクト全体に適用できます。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(814 ページ\)](#)

## リハーサルマークのフォントスタイルの編集

リハーサルマークに使用されているフォントスタイルの形式設定を編集して、プロジェクト全体に適用できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
  2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから「**リハーサルマーク用フォント (Rehearsal Mark Font)**」を選択します。
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - **フォントファミリー (Font family)**
    - **サイズ (Size)**
    - **スタイル (Style)**
    - **下線 (Underlined)**
  4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

リハーサルマークのフォントスタイルの形式設定の変更がプロジェクト全体に適用されます。

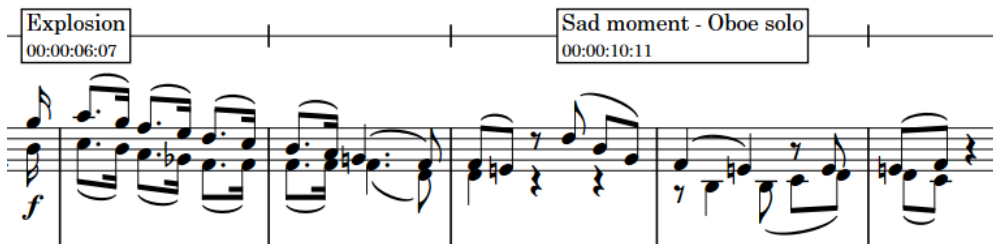
#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(814 ページ\)](#)

# マーカー

マーカーは時間上の特定の位置に紐づけられたラベルで、ほとんどの場合ビデオに関連して使用されます。これは通常、音楽的な盛り上がりが必要とされる重要な瞬間を示し、多くの場合は作曲者がこれに合わせて楽曲の形を整えるプロセスに使用されます。



タイムコードの譜表上でカスタムのテキストとタイムコードを表示するマーカー

初期設定では、Dorico Pro のマーカーにはデフォルトのテキスト“マーカー”と、マーカーが紐づけられた時間上の位置のタイムコードが表示されます。

Dorico Pro では、どのプロジェクトでもマーカーが使用できます。ほとんどの場合ビデオと一緒に使用されるため、マーカーは記譜モードのビデオパネルに収められています。再生モードには「マーカー (Markers)」トラックもあり、マーカーの表示と新規マーカーの入力が行なえます。

マーカーはプロジェクトに最適なテンポの検出に使用できます。Dorico Pro は、複数の重要なマーカーがそれぞれ拍子の強拍に合うようにできるテンポを算出できます。

入力したマーカーはすべて MIDI の書き出し時に自動的にデータに含まれます。

関連リンク

[マーカー/タイムコードの入力 \(252 ページ\)](#)

[マーカーに表示されるテキストの変更 \(823 ページ\)](#)

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(253 ページ\)](#)

[マーカートラック \(432 ページ\)](#)

[「テンポを検出 \(Find Tempo\)」ダイアログ \(254 ページ\)](#)

[マーカーを重要なマーカーに指定する \(826 ページ\)](#)

## 浄書オプションでマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「マーカー (Markers)」ページでは、マーカーのデザイン、位置および外観を制御し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、マーカーにその位置のタイムコードを表示させるかどうか、マーカーをタイムコードの上下いずれに表示させるか、囲み線の太さ、マーカーのデフォルトの垂直位置などを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## マーカーの垂直位置を変更する

マーカーは組段の上または下に表示することも、個別の1線譜を使用して、選択したインストゥルメントファミリーのグループの上に表示することもできます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. マーカーの垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**マーカー (Markers)**」をクリックします。
4. 「**垂直位置 (Vertical position)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **組段の上 (Above system)**
  - **組段の下 (Below system)**
  - **タイムコードの譜表 (Timecode staff)**
5. 「**タイムコードの譜表 (Timecode staff)**」を選択した場合は、必要に応じて「**タイムコードの譜表を大括弧の上に配置 (Position timecode staff above bracket)**」メニューから、タイムコードの譜表をその上に表示させる、大括弧で括られたインストゥルメントファミリーを選択します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

選択したレイアウトで、マーカーの垂直位置が変更されます。

### 補足

マーカーをタイムコードの譜表に表示させる場合、譜表にはデフォルトでタイムコードも表示されません。マーカーを個別の譜表に表示させつつタイムコードは不要である場合は、「**タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)**」を「**表示しない (Never)**」に変更する必要があります。

---

### 関連リンク

[タイムコードの表示頻度を変更する \(831 ページ\)](#)

## マーカーに表示されるテキストの変更

新規マーカーに表示されるデフォルトのテキストは“マーカー”です。各マーカーに表示されるテキストは個別に変更できます。

---

### 手順

1. テキストを変更するマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**マーカー (Markers)**」グループで、「**マーカーのテキスト (Marker text)**」をオンにします。
3. 任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

#### 結果

選択したマーカーに表示されるテキストが変更されます。これは「マーカーテキスト用フォント (Marker Text Font)」のフォントスタイルを使用します。

#### ヒント

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログを使用してマーカーを入力する際にもカスタムテキストを入力できます。また、記譜モードのビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションでも、マーカーのテキストを変更できます。

---

#### 関連リンク

[「マーカーを追加 \(Add Marker\)」ダイアログ \(253 ページ\)](#)

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(253 ページ\)](#)

## マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集

すべてのマーカーとタイムコードに使用するフォントスタイルの形式設定に関するプロジェクト全体の設定を編集できます。これによりたとえば、マーカーを太字のイタリックで表示したりできます。マーカーとタイムコードは異なるフォントを使用するため、それぞれ個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
  2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから、以下のいずれかのフォントスタイルを選択します。
    - マーカーテキスト用フォント (Marker Text Font): マーカーに使用します
    - マーカーのタイムコード用フォント (Marker Timecode Font): タイムコードに使用します
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - フォントファミリー (Font family)
    - サイズ (Size)
    - スタイル (Style)
    - 下線 (Underlined)
  4. 必要に応じて、手順 2 と 3 を繰り返してもう一方のフォントも変更します。
  5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
- 

#### 結果

選択したフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)



## マーカーのリズム上の位置を変更する

マーカーをリズム上の異なる位置に移動できます。ただし、マーカーに紐づけられた時間上の位置は固定されているため、楽譜に対するマーカーの位置を移動すると、マーカーの前後のテンポが自動的に変更されます。

### ヒント

マーカーの時間上の位置を変更して、たとえば 25 秒から 28 秒の位置に移動する場合は、マーカーのタイムコードを変更する必要があります。

---

### 手順

1. 記譜モードで、移動するマーカーを選択します。

### 補足

一度に移動できるマーカーは 1 つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドに従いマーカーを移動します。
    - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
    - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
    - クリックして左右にドラッグします。
- 

### 結果

選択したマーカーが異なる位置に移動します。ただし、マーカーに紐づけられた時間上の位置は変更されません。このため、演奏が正しい時間でマーカーの位置に到達するように、マーカーの直前のテンポが自動的に更新されます。たとえばマーカーを右に動かすと、その前にあるテンポが速くなります。マーカーと、その前にあるテンポ変更またはフローの開始位置との間にある段階的テンポ変更は、すべて削除されます。

### 補足

テンポの変更は、フロー内のその他すべてのマーカーの楽譜に対する位置に影響を与えます。

---

### 関連リンク

[マーカー \(822 ページ\)](#)

[マーカー/タイムコードの入力 \(252 ページ\)](#)

## マーカーのタイムコードを変更する

たとえばビデオが編集されてマーカーの発生する位置が 10 秒遅れたような場合、マーカーのタイムコードを変更できます。

### 補足

これによりプロジェクトにおけるマーカーの発生位置が変わるため、楽譜に対するマーカーの位置も移動します。

---

### 手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**ビデオ (Video)**」をクリックして、ビデオパネルを表示します。
2. 「**マーカー (Markers)**」セクションで、変更するタイムコードをダブルクリックします。
3. 入力フィールドに任意の新しいタイムコードを入力します。

4. **[Return]** を押します。

結果

マーカーのタイムコードが変更されます。マーカーはこの新しい時間上の位置を反映して、自動的に楽譜に対する位置を移動します。

関連リンク

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(253 ページ\)](#)

[マーカーのリズム上の位置を変更する \(825 ページ\)](#)

## マーカーを重要なマーカーに指定する

個々のマーカーを重要なマーカーに指定できます。これにより、「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログで適切なテンポを検出する処理にそのマーカーを反映させられます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**ビデオ (Video)**」をクリックして、ビデオパネルを表示します。
2. 「**マーカー (Markers)**」セクションの「**重要 (Imp.)**」の列から、重要なマーカーに指定するマーカーのチェックボックスをオンにします。

結果

チェックボックスをオンにしたマーカーが重要なマーカーに指定されます。「**マーカー (Markers)**」セクションの下部にある「**テンポを検出 (Find Tempo)**」ボタンが利用できるようになります。

関連リンク

[「テンポを検出 \(Find Tempo\)」ダイアログ \(254 ページ\)](#)

## マーカーを表示/非表示にする

初期設定では、マーカーはフルスコアレイアウトに表示され、パートレイアウトでは非表示になっています。各レイアウトはマーカーの表示と非表示を個別に切り替えられます。これによりたとえば、マーカーが有用となる指揮者にはマーカーを表示し、プレーヤーには非表示とするなどできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、マーカーを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**マーカー (Markers)**」をクリックします。
4. 「**マーカーを表示 (Show markers)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

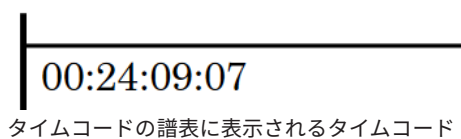
選択したレイアウトでマーカーが表示または非表示になります。

関連リンク  
[マーカーの垂直位置を変更する \(823 ページ\)](#)

# タイムコード

タイムコードは通常ビデオとの関連において、時間上の正確な位置を示します。これを使用すると、音楽と動画など複数の要素間の正確な同期を行なえるようになり、基準ツールとしても使用できます。

タイムコードは hh:mm:ss:ff の形式で表示されます。これは時間、分、秒、フレームをそれぞれ 2 桁で表わすものです。



タイムコードの譜表に表示されるタイムコード

Dorico Pro では、タイムコードのタイプに以下のいずれかを指定できます。

## ノンドロップフレームのタイムコード

すべてのフレームは前のフレームから順番に番号付けされ、フレーム番号のスキップはありません。

ノンドロップフレームのタイムコードには、末尾テキストとして「fps」が表示され、秒とフレームの区切り文字には、「00:00:01:05」のようにコロンが使用されます。

## ドロップフレームのタイムコード

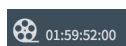
29.97fps と 30fps のフレームレートの差を埋め合わせるためにフレーム番号の一部がスキップされます。10 分ごとを除く毎分ごとに、フレームカウントからタイムコード番号が 2 つ飛ばされます。

ドロップフレームのタイムコードには、末尾テキストとして「dfps」が表示され、秒とフレームの区切り文字には、「00:00:01;05」のようにセミコロンが使用されます。

Dorico Pro においてタイムコードはフロー固有のものです。つまり、フローごとに他のフローとは完全に別個のタイムコードを設定できます。タイムコードは「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログで設定できます。これはビデオを使用しないフローにも行なえます。

## 補足

設定モードの「フロー (Flows)」パネルのフローカードに表示されるタイムコードは、フローの開始位置のタイムコードを反映します。これは「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログで設定できるタイムコードにより変化します。たとえば、「タイムコードの開始位置 (Timecode start)」を 02:00:00:00 に設定しつつ、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」を 4 分音符の 8 拍と設定して、テンポが 60bpm である場合、フローカードに表示されるタイムコードは「01:59:52:00」になります。



タイムコードは、専用の 1 線譜に異なる間隔で表示できます。さらに、トランスポートウィンドウに表示するタイムは、初期設定で表示される経過時間からタイムコードに変更できます。

## 関連リンク

[フレームレート \(133 ページ\)](#)

[「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(129 ページ\)](#)


- [マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集 \(824 ページ\)](#)
- [専用の譜表にタイムコードを表示する \(829 ページ\)](#)
- [タイムコードの表示頻度を変更する \(831 ページ\)](#)
- [トランスポートディスプレイに表示する内容の変更 \(451 ページ\)](#)

## タイムコードの開始位置の値を変更する

プロジェクトのフローごとに開始位置のタイムコードを変更できます。たとえばフィルムのリールごとに個別のプロジェクトを使用する場合などに、この機能を使用します。開始位置のタイムコードは、ビデオを使用しないプロジェクトでも変更できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、開始位置のタイムコードの値を変更するフローのアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**ビデオ (Video)**」をクリックして、ビデオパネルを表示します。  

3. ビデオパネルで「**プロパティ (Properties)**」をクリックして、「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。
4. 「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで、「**タイムコードの開始位置 (Timecode start)**」の値を変更します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

---

### 結果

選択したアイテムが属するフローの開始位置のタイムコードが変更されます。

### 関連リンク

- [タイムコード \(828 ページ\)](#)
- [ビデオの開始位置の変更 \(131 ページ\)](#)

## 専用の譜表にタイムコードを表示する

レイアウトごとに個別に、タイムコードを専用の 1 線譜に表示し、スコア上でタイムコードをわかりやすくできます。また、タイムコードの譜表をその上に表示させる、大括弧で括られたインストゥルメントのグループを指定できます。

---

### 補足

- タイムコードを専用の譜表に表示させる場合、マーカーもこの譜表に表示されます。
- 組段中の複数の譜表にタイムコードを表示させることはできません。

---

### 前提

選択したレイアウトにマーカーを表示しておきます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、専用の譜表にタイムコードを表示するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**マーカ (Markers)**」をクリックします。
  4. 「**垂直位置 (Vertical position)**」に対し「**タイムコードの譜表 (Timecode staff)**」を選択します。
  5. 「**タイムコードの譜表を大括弧の上に配置 (Position timecode staff above bracket)**」メニューから、タイムコードの譜表をその上に表示させる、大括弧で括られたインストゥルメントファミリーを選択します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したインストゥルメントファミリーのグループに属するインストゥルメントの一番上の譜表の上に、タイムコード専用の譜表が表示されます。

#### ヒント

「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」ページで、タイムコード専用の譜表と他の譜表とのデフォルト距離を変更できます。

---

#### 関連リンク

- [タイムコード \(828 ページ\)](#)
- [マーカを表示/非表示にする \(826 ページ\)](#)
- [マーカの垂直位置を変更する \(823 ページ\)](#)

## マーカのタイムコードの表示/非表示

プロジェクト全体のすべてのマーカのタイムコードの表示/非表示、および表示位置のマーカテキストに対する上/下を切り替えられます。たとえば、重要なタイミングの正確な位置が分かりやすく表示されるようにできます。これはタイムコードを専用の譜表に表示するためのレイアウトごとの設定に対する追加の設定となります。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストから「**マーカ (Markers)**」をクリックします。
  3. 「**マーカのタイムコード (Timecode in markers)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **タイムコードを表示 (Show timecode)**
    - **タイムコードを非表示 (Do not show timecode)**
  4. 必要に応じて、「**タイムコードを表示する場合の情報の並び順 (Order of information, if timecode shown)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **タイムコードの上にテキスト (Text above timecode)**
    - **テキストの上にタイムコード (Timecode above text)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 関連リンク

- [マーカ \(822 ページ\)](#)
- [専用の譜表にタイムコードを表示する \(829 ページ\)](#)

## タイムコードの表示頻度を変更する

タイムコードを専用の譜表に表示するレイアウトでは、タイムコードの異なる表示間隔を使用できます。たとえば、フルスコアレイアウトではタイムコードをすべての小節に表示しつつ、パートレイアウトでは組段の開始位置のみに表示する、といった設定ができます。

### 補足

長休符を使用するレイアウトでは、タイムコードをすべての小節に表示することはおすすめしません。タイムコードが重なり合って判読不能になってしまうためです。長休符を使用するパートレイアウトにタイムコードを表示する場合は、タイムコードの表示を組段の開始位置のみとするか、そのレイアウトで長休符の表示をやめることをおすすめします。

### 前提

選択したレイアウトにマーカーを表示しておきます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. タイムコードの表示頻度を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**マーカー (Markers)**」をクリックします。
4. また、選択したレイアウトがタイムコードを専用の譜表に表示していない場合は、必要に応じて「**垂直位置 (Vertical position)**」を「**タイムコードの譜表 (Timecode staff)**」に設定します。
5. 「**タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **組段の開始位置 (Start of system)**
  - **1小節ごと (Every bar)**
  - **表示しない (Never)**
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 関連リンク

[マーカーを表示/非表示にする \(826 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

# リピート括弧

パッセージを繰り返す楽譜において、リピート括弧は各繰り返しでどの小節が最後に演奏されるかを示します。必要な場合、毎回異なる終わり方にできます。これは“ボルタ線”または“1 番括弧と 2 番括弧”と呼ばれる場合もありますが、この説明書では“リピート括弧”を名称として使用します。

リピート括弧は 2 つ以上のセグメントから構成され、それぞれのセグメントは異なる終わり方を表わします。リピート括弧を入力すると、Dorico Pro は 1 つめのセグメントの終わりに反復終了の小節線を自動的に入力します。リピート括弧のセグメントは、上部の実線と、そのセグメントが何回目の繰り返しで演奏されるかを示す数字によって明示されます。



終わり方が 3 通りあるリピート括弧

Dorico Pro では、リピート括弧にはセグメントをいくつでも作成でき、どのセグメントを何回目のリピートに使用するか制御できます。たとえば、リピート括弧にセグメントを 2 つ作成して合計 4 回繰り返す場合、はじめの 2 回は 1 つめのリピート括弧のセグメントを、あとの 2 回は 2 つめのリピート括弧のセグメントを使用するように指定できます。

Dorico Pro では、リピート括弧は組段オブジェクトとして分類されます。そのため、リピート括弧はレイアウトごとの組段オブジェクトの表示設定および位置設定に従い、これは「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで変更できます。

## 関連リンク

- [リピートとトレモロの入力方法 \(256 ページ\)](#)
- [リピート括弧のセグメントにリピート回数を振り分ける \(833 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## リピート括弧でリピート回数の総数を変更する

初期設定では、リピート括弧のそれぞれのセグメントが演奏されるのは 1 回ずつであり、それぞれのセグメントにはそれが演奏されるリピート回数を示す番号が 1 つずつ表示されます。リピート括弧のリピート回数の総数を増やすことにより、セグメントを 2 回以上演奏させられるようになります。

### 手順

1. リピートの総数を変更するリピート括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**リピート回数 (No. times played)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。



#### 補足

セグメント数より少ないリピート回数は設定できません。

#### 結果

選択したリピート括弧のリピート回数の総数を変更されます。これはレイアウト全体で自動的に更新されます。

Dorico Pro の初期設定では、セグメントに割り当てられていないリピート回数は、閉じたセグメントのうち最後のセグメントに自動的に追加されます。

#### 手順終了後の項目

リピート回数の総数を決定すると、それぞれのリピート回数にどのセグメントを使用するかを変更できます。

#### 関連リンク

[再生時の反復](#) (440 ページ)

## リピート括弧のセグメントにリピート回数を振り分ける

リピートの総数をそれぞれのセグメントにどのように振り分けるか、個々のリピート括弧ごとに制御できます。

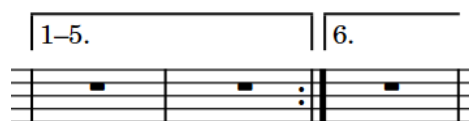
#### 手順

1. 浄書モードで、演奏されるリピート回数を変更するセグメントをリピート括弧の中から個別に選択します。
2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**リピート括弧のリピート回数 (Times played for segment)**」をオンにします。
3. 選択したセグメントを演奏するリピート回数の各番号を入力します。  
たとえば、全部で6回繰り返すリピート括弧の2つめのセグメントに対し、4,5,6を入力すると、繰り返しの4、5、6回めで演奏されるようになります。

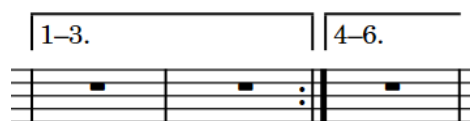
#### 結果

選択したセグメントが演奏されるリピート回数を変更されます。

#### 例



デフォルトのリピート回数の振り分け



カスタムのリピート回数の振り分け

## 浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページでは、リピート括弧のセグメントのデザイン、位置および外観を制御し、プロジェクト全体に適用できます。

「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページのオプションを使用すると、リピート括弧の終端、数字とフックの外観、およびリピート括弧のデフォルト位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## リピート括弧のセグメントの長さの変更

リピート括弧のセグメントの長さを個別に変更することにより、各セグメントに含まれる小節数を変更できます。

手順

1. 記譜モードで長さを変更するリピート括弧を選択します。

補足

1 度に長さを変更できるリピート括弧のセグメントは 1 つだけです。

2. 長さを変更するセグメントの終端の丸いハンドルを選択します。



真ん中のハンドルが選択され、太い線で表示されています。

3. ハンドルをクリックして左右にドラッグし、前後の小節線にスナップさせます。

補足

セグメントには最低 1 小節が必要です。

4. 必要に応じて、リピート括弧のそれぞれのセグメントに手順 1 から 3 を繰り返します。

結果

選択したセグメントの長さが変更されます。

補足

- これにより反復記号が自動的に入力または位置を変更されることはありません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。
- 1 つのリピート括弧の最終セグメントの長さは、以下のキーボードショートカットを使用しても変更できます。
  - **[Shift]+[Alt]+[→]** を押すと、最終セグメントが長くなります。
  - **[Shift]+[Alt]+[←]** を押すと最終セグメントが短くなります。

関連リンク

[リピート括弧の表示位置の移動 \(836 ページ\)](#)

## リピート括弧の位置

リピート括弧は譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置され、フックは小節線に整列します。リピート括弧は通常他の記譜記号の外側に配置されますが、段階的なテンポ変更など、表示が長い一部のアイテムについては、リピート括弧より上に配置される場合もあります。

リピート括弧の位置は個別にも、プロジェクト全体のデフォルトによっても変更できます。たとえば、特定のリピート括弧の位置の音符や記譜記号に多くの垂直スペースが必要な場合、個々のリピート括弧についてデフォルト位置を上書きできます。

リピート括弧のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

浄書モードでは、リピート括弧の個々のセグメントの表示位置を他のセグメントとは別個に移動できますが、これによってそれぞれのリズム上の位置が変更されることはありません。

すべてのリピート括弧のデフォルトの外観と位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページで変更できます。

Dorico Pro では、リピート括弧は組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。これによりたとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のリピート括弧を表示させることができます。

関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(833 ページ\)](#)

[リピート括弧の表示位置の移動 \(836 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## リピート括弧の位置の変更

リピート括弧は入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで、位置を変更するリピート括弧を選択します。

補足

1 度に移動できるリピート括弧は 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リピート括弧を前後の小節に移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - クリックして左右にドラッグします。

結果

選択したリピート括弧が次または前の小節に移動します。

補足

- これにより反復記号が自動的に入力または位置を変更されることはありません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。
- リピート括弧はそれぞれの位置に 1 つしか存在できません。選択したリピート括弧を移動する際にどこか一部がもう 1 つのリピート括弧に重なった場合、もう 1 つのリピート括弧は削除されます。ただし、その反復記号は削除されません。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除されたリピート括弧については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

---

## リピート括弧の表示位置の移動

リピート括弧は、そのリズム上の位置に影響なく表示位置を移動できます。リピート括弧のセグメントの開始位置と終了位置は別個に移動できるため、表示上の長さも変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
  - リピート括弧のセグメント
  - リピート括弧のセグメントの個々のハンドル

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リピート括弧のセグメントまたはハンドルを移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

### 結果

選択したリピート括弧のセグメントまたはハンドルの表示位置が移動します。

### ヒント

リピート括弧のセグメントの位置を移動すると、プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始 X オフセット (Start X offset)**」: リピート括弧のセグメントの開始ハンドルを水平に移動します。
- 「**終了 X オフセット (End X offset)**」: リピート括弧のセグメントの終了ハンドルを水平に移動します。
- 「**Y オフセット (Y offset)**」: リピート括弧のセグメント全体を垂直に移動します。

たとえば、リピート括弧のセグメント全体を右に移動させると両側のハンドルが移動するため、「**開始 X オフセット (Start X offset)**」と「**終了 X オフセット (End X offset)**」の両方がオンになります。3つすべてのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでも、リピート括弧の表示位置および長さを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したリピート括弧のセグメントがデフォルト位置にリセットされます。

---

### 関連リンク

[リピート括弧の位置の変更 \(835 ページ\)](#)

[リピート括弧のセグメントの長さの変更 \(834 ページ\)](#)

## 浄書モードにおけるリピート括弧

浄書モードでは、リピート括弧およびリピート括弧のセグメントはそれぞれ個別に、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページにおけるプロジェクト全体の設定より優先される形で設定できます。

浄書モードでは、リピート括弧のそれぞれのセグメントには2つの四角いハンドルがあります。



それぞれのハンドルは個別に選択して移動できます。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

### 関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(833 ページ\)](#)

## リピート括弧に表示されるテキストの変更

リピート括弧の個々のセグメントに表示されるテキストは、初期設定ではこのセグメントが演奏されるリピート回数の番号ですが、これをカスタムテキストに置き換えられます。

### 手順

1. 浄書モードで、テキストを変更するリピート括弧のセグメントを選択します。
2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

### 結果

選択したセグメントに表示されるテキストが変更されます。

「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオフにすると、選択されたリピート括弧のセグメントのデフォルトのテキストを復元します。

### 補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

## リピート括弧の最終セグメントの外観を個別に変更する

リピート括弧の最終セグメントの終端の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 手順

1. 最終セグメントの外観を変更するリピート括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

浄書モードでは、リピート括弧内のセグメントをどれでも選択できます。

2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**リピート括弧の終端 (End of line)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **閉じずに短く (Open, short)**
  - **閉じずに小節いっぱいの長さ (Open, full length)**
  - **閉じる (Closed)**

#### 結果

選択したリピート括弧の最終セグメントの終端が変更されます。

#### ヒント

すべてのリピート括弧の最終セグメントの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページにある「**リピート括弧 (Segments)**」セクションで変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(833 ページ\)](#)

## リピート括弧のフックの長さを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、リピート括弧のフックの長さを変更できます。

#### 補足

リピート括弧の個々のセグメントでは、フックの長さを個別に変更できません。フックの長さの変更はリピート括弧全体に影響します。

#### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更するリピート括弧のフックを選択します。
2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**フックの長さ (Hook length)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

数値を大きくするとリピート括弧のフックが長くなります。数値を小さくするとリピート括弧のフックが短くなります。

#### ヒント

すべてのリピート括弧のフックのデフォルトの長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(833 ページ\)](#)

## MusicXML ファイルのリピート括弧

リピート括弧のすべての設定は MusicXML ファイル形式で読み込みと書き出しを行なえます。

ただし、MusicXML ではリピート括弧の最終セグメントではないセグメントであっても括弧の終端を閉じずに表示できますが、Dorico Pro ではこれを表示できません。

# リピートマーカー

リピートマーカーは音符や記譜記号の繰り返しを示すものですが、リピート括弧とは異なり、多くは楽譜の並びに従って進行せず、異なる位置やセクションにジャンプします。

The image shows two examples of musical notation. On the left, a single staff with a repeat sign (double bar line with two dots) and two lines of lyrics: "2. Und im - mer" and "3. Es quoll und". On the right, a grand staff (treble and bass clefs) with a Coda symbol (a circle with a cross) above the first staff. The lyrics "nun wußt' ich wohl" are written below the first staff. A second Coda symbol is placed above the second staff.

Dorico Pro では、リピートマーカーは以下のタイプに分類されます。

## ジャンプ記号

ここからプレーヤーや再生がジャンプすることを指示するもので、*D.C. al Coda* などがあります。“second time only”などの指示により、ジャンプ記号が効果を発揮する条件の限定も行なえます。

ジャンプ記号は、そのリズム上の位置に右揃えで配置されます。つまり、テキストや記号は、終端がリズム上の位置に揃えられ、そこから左に向かって配置されます。

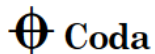
## D.C. al Coda

## D.S. al Fine

## リピートセクション

ジャンプ先を指定するセーニョやコーダ、または楽曲の終わりを指定するフィーネなどがあります。Dorico Pro では、組段の途中で始まるコーダセクションは、先行する楽譜と間隔によって自動的に区切られます。

リピートマーカーは、そのリズム上の位置に左揃えで配置されます。つまり、テキストや記号は、始端がリズム上の位置に揃えられ、そこから右に向かって配置されます。



Fine

初期設定では、リピートマーカーは1行で表示されますが、必要に応じて個別に表示を2行に変更して、水平方向の長さを節約できます。またリピートマーカーは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでフォントサイズを変更するなどパラグラフスタイルをカスタマイズしたり、「**浄書 (Engrave)**」>「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページで外観をカスタマイズしたりできます。

## 関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(256 ページ\)](#)



[リピートマーカーを1行または2行で表示する \(844 ページ\)](#)  
[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)  
[再生時の反復 \(440 ページ\)](#)

## 浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページでは、リピートマーカーのデザイン、位置および外観を制御し、プロジェクト全体に適用できます。

「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページのオプションを使用すると、リピートマーカーの外観、デザインおよび長さ、組段の途中で開始するコーダセクションの前のデフォルトの間隔、およびそれぞれのデフォルト位置を変更できます。またリピートマーカーの記号とテキストの順番、テキストに対する記号の縮尺、およびリピートマーカーのテキストの大文字/小文字も変更できます。

「リピートマーカーのプリセット (Repeat Markers Preset)」セクションでは、外観のプリセットとして以下のものが用意されています。

- **標準 (Standard)**  
現在出版されているロック/ポップスの譜面における最も一般的な表記規則に基づくもので、より短く省略された指示を用います。
- **グールド (Gould)**  
Elaine Gould の著作“Behind Bars”における推奨事項に基づくもので、より長く明確な指示を用いるため、クラシックやコンサート音楽に最適です。

### 補足

またグールドは、リピートマーカーを譜表の上ではなく下に配置することを推奨しています。

- **カスタム (Custom)**  
ユーザーの好みに合わせて設定を混在させられます。個々のオプションを変更して外観のプリセットを上書きした時点で、このプリセットが自動的に選択されます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)  
[譜表に対するリピートマーカーの位置の変更 \(846 ページ\)](#)

## リピートマーカーのパラグラフスタイル

リピートマーカーはサイズ、スペーシング、配置、その他形式設定オプションなどのフォントの形式設定にパラグラフスタイルを使用します。リピートマーカーは異なるタイプごとに異なる形式設定を必要とするため、初期設定でそれぞれ個別のパラグラフスタイルを持ちます。

Dorico Pro には、リピートマーカーに関する以下のデフォルトのパラグラフスタイルがあります。

- **リピートマーカージャンプ**  
*D.C. al Coda* など、ジャンプ記号に使用されるデフォルトのパラグラフスタイルです。
- **リピートマーカーセクション**  
*a coda* など、リピートセクションに使用されるデフォルトのパラグラフスタイルです。

初期設定ではこれらのパラグラフスタイルの形式設定は同じですが、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでそれぞれ個別に編集できます。たとえば、ジャンプ記号のサイズを小さくしつつ、リピートセクションはデフォルトのサイズのままとすることが可能です。

#### 補足

「リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)」のパラグラフスタイルは、「リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)」のスタイルから設定を継承します。「リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)」のパラグラフスタイルを変更すると、「リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)」のパラグラフスタイルの対応するオプションも、上書きされていない限り同様に変更されます。

---

#### 関連リンク

- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)
- [リピートマーカーに表示されるテキストの変更 \(843 ページ\)](#)
- [リピートマーカーを 1 行または 2 行で表示する \(844 ページ\)](#)

## コーダ/セーニョ記号のサイズの変更

コーダ記号とセーニョ記号のデフォルトのサイズを、プロジェクト全体でそれぞれ別個に変更できます。これはリピートマーカーのテキストのサイズに影響しません。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストから「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」をクリックします。
  3. 「**デザイン (Design)**」セクションで、「**コーダ記号の倍率 (Scale factor for coda symbols)**」の値を変更します。
  4. 「**セーニョ記号の倍率 (Scale factor for segno symbols)**」の値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

リピートマーカーのテキストに対するコーダ記号とセーニョ記号のサイズがプロジェクト全体で変更されます。

## リピートマーカーのインデックスの変更

個々のリピートマーカーのインデックスは変更できます。たとえばフローに 2 つの異なるコーダが使用され、プレイヤーがそれぞれを区別できるようにする必要がある場合などに、この機能を使用します。

初期設定では、たとえフロー中に複数のリピートマーカーがあったとしても、同じタイプのリピートマーカーはすべて同じ外観を持ちます。

#### 補足

リピートマーカーの *Fine* または *D.C.* については、インデックスを変更できません。

---

#### 手順

1. インデックスを変更するリピートマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」セクションで、選択に応じて以下のプロパティを片方または両方オンにします。
  - **マーカーインデックス (Marker index)**
  - **ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)**
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 補足

入力できる数値は1から3までです。

---

#### 結果

「**マーカーインデックス (Marker index)**」は、選択したリピートマーカーの、他の同じタイプのリピートマーカーに対する順番を変更します。

「**ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)**」は、選択したリピートマーカーのジャンプ先を変更します。

#### ヒント

複数のリピートマーカーのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページにある「**リピートセクション (Repeat Sections)**」セクションで設定を行ないます。

---

#### 例

フロー中に2つのコーダと2つの異なる D.S. al Coda がある場合、1つめのコーダの「**マーカーインデックス (Marker index)**」には1を、2つめには2を設定して、1つめの D.S. al Coda の「**ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)**」には1を、2つめには2を設定することなどが考えられます。

**D.S. % al  $\oplus$**

デフォルトのインデックス設定の D.S. al Coda のマーカー

**D.S. %% al  $\oplus$  2**

両方のインデックスが2に設定された D.S. al Coda のマーカー

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する \(841 ページ\)](#)

## リピートマーカーに表示されるテキストの変更

個々のリピートマーカーに表示されるテキストを変更できます。これによりたとえば、通常とは異なるリピートマーカーの指示を記譜できます。

---

#### 手順

1. テキストを変更するリピートマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
  3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
  4. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

選択したリピートマーカーに表示されるテキストが変更されます。選択したリピートマーカーのテキストのみが変更され、記号は削除されません。

#### 関連リンク

[浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する \(841 ページ\)](#)

## リピートマーカーを1行または2行で表示する

リピートマーカーの表示を1行とするか2行に分けるかは、レイアウトごとの設定より優先される形で個別に変更できます。これはたとえば、あるパートレイアウトで1つの長いリピートマーカーがページ余白からはみ出してしまうような場合に使用できます。

### 補足

ワードラップの設定を変更できるのは、*D.C. al Fine*や*D.S. al Coda*などのジャンプ記号で、カスタムテキストを使用していないものだけです。

### 手順

1. 浄書モードで、ワードラップを変更するリピートマーカーを選択します。
2. プロパティパネルの「リピートマーカー (Repeat Markers)」グループで、「ワードラップ (Word wrap)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

### 結果

チェックボックスがオンのときは選択したリピートマーカーが2行で表示され、オフのときは1行で表示されます。

プロパティをオフにすると、リピートマーカーはワードラップに関してはレイアウトごとの設定に従います。

### ヒント

すべてのリピートマーカーを2行で表示するかどうかについては、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページの「リピートマーカー (Repeat Markers)」セクションで、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえばフルスコアでは1行で表示させ、パートレイアウトでは2行で表示させるなどができます。

### 例



### 関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」ダイアログ \(93 ページ\)](#)

## コーダの前に表示される小節線の変更

コーダの前、ジャンプ記号の直後に表示される小節線のデフォルトをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、通常の小節線のかわりに複縦線を表示できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「小節線 (Barlines)」をクリックします。
3. 「反復 (Repeats)」セクションの「コーダの前のジャンプ記号と一致する小節線 (Barline coinciding with repeat jump before Coda)」で以下のいずれかのオプションを選択します。

- 複縦線 (Double barline)
- 縦線 (Single barline)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

---

#### 結果

コードの前、ジャンプ記号の直後に自動的に表示される小節線がプロジェクト全体で変更されます。

## リピートマーカーの位置

初期設定では、リピートマーカーは譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。コードセクションは、その前の楽譜とは組段の間隔によって区切られます。

リピートマーカーのリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「浄書オプション (Engraving Options)」で設定した位置に配置されます。

リピートマーカーの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。コードの前に発生する組段の途中の間隔は、浄書モードでその位置の音符のスペーシングを変更することで個別に調節できます。

すべてのリピートマーカーのプロジェクト全体のデフォルト位置の変更、リピートマーカーと譜表や他のアイテムとの最小距離の値の設定、およびコードセクションの前にある組段の途中の間隔に対するデフォルトの設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページで行なえます。リピートマーカーの譜表に対するデフォルトの位置は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページの「リピートマーカー (Repeat Markers)」セクションで、レイアウトごとに変更できます。

Dorico Pro では、リピートマーカーは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の太括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえばこれにより、フルスコアのみ各組段の上に複数のリピートマーカーを表示させることなどができます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(833 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

[譜表に対するリピートマーカーの位置の変更 \(846 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## リピートマーカーのリズム上の位置の移動

リピートマーカーは入力後に位置を移動できます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、表示位置を変更するリピートマーカーを選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できるリピートマーカーは1つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したリピートマーカーを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - クリックして左右にドラッグします。
-

#### 結果

選択したリピートマーカーが、現在のリズムグリッド値に従い移動します。

## リピートマーカーの表示位置の移動

リピートマーカーは、リズム上の位置を変えずに表示位置を移動できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するリピートマーカーを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、リピートマーカーを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

#### 結果

選択したリピートマーカーの表示位置が変更されます。

#### ヒント

リピートマーカーを移動すると、プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループにある「**開始オフセット (Start offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」の「**X**」の値を変更すると、リピートマーカーの水平位置が変更されます。
- 「**開始オフセット (Start offset)**」の「**Y**」の値を変更すると、リピートマーカーの垂直位置が変更されます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してリピートマーカーを移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したリピートマーカーがデフォルトの位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[リピートマーカーの位置](#) (845 ページ)

## 譜表に対するリピートマーカーの位置の変更

リピートマーカーの譜表に対するデフォルトの位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。これにより、譜表の上と一番下の譜表の下に共に表示することもできます。

---

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L] を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. リピートマーカーの譜表に対する位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
  4. 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」セクションの「**ジャンプ記号および「Fine」のデフォルト位置 (Default placement for repeat jumps and 'Fine')**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **譜表の上 (Above Staff)**
    - **譜表の下 (Below Staff)**
    - **譜表の上と一番下の譜表の下 (Above and below bottom staff)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトで、譜表に対するすべてのリピートマーカーの位置が変更されます。

## ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する

初期設定では、Dorico Pro はすべてのタイプの反復記号のすべてのリピート回を再生します。ジャンプ記号でジャンプした後のリピートマーカー、リピート括弧、およびリピート小節線によって指示されるリピートを再生に含めるか除外するかを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に手動で設定できます。

#### 補足

*D.C. al Fine* や *D.S. al Coda* などのジャンプ記号でジャンプした後のリピートのみ、再生に含めるか除外するかを選択できます。

---

#### 手順

1. そのあとのリピートを再生に含めるまたは除外するジャンプ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**繰り返し時にリピートを再生 (Replay repeats)**」をオンにします。
  3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
- 

#### 結果

チェックボックスがオンのときは、選択したジャンプ記号でジャンプした後のリピートが再生に含められ、オフのときは再生から除外されます。

プロパティがオフのときは、ジャンプ記号でジャンプした後のリピートマーカーが再生に含められるかどうかは、プロジェクト全体の設定に従います。

#### ヒント

すべてのジャンプ記号についてジャンプした後のリピートを再生に含めるか除外するかプロジェクト全体の設定は、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**リピート (Repeats)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## リピート小節線による演奏回数を変更する

反復終了線は通常、その前の楽譜を 2 回演奏することを指示します。反復終了線の演奏回数はそれぞれ個別に変更できます。

### 手順

1. 演奏回数を変更する反復終了線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「Play n times」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 補足

最小値は 2 です。

### 結果

選択した反復終了線の前の楽譜の演奏回数を変更されます。演奏回数が 3 以上に設定されると、組段オブジェクトの位置にこれを示すマーカーが表示されます。

### 例



演奏回数がデフォルトの2回に設定されているリピート終止線

演奏回数が4回に設定され、マーカーが表示されているリピート終止線

### 関連リンク

[ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する \(847 ページ\)](#)

[リピート括弧でリピート回数の総数を変更する \(832 ページ\)](#)

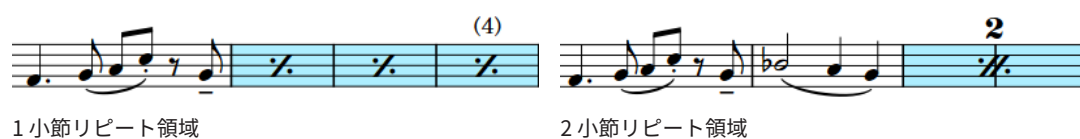
[再生時の反復 \(440 ページ\)](#)



# 小節リピート記号

小節リピート記号は、同じ内容の記譜を省略し、前の小節の音符や記譜記号を正確に繰り返すことを指示するものです。小節リピート記号は1小節、2小節、または4小節の集合で構成されます。

たとえば、1小節リピート記号は1小節内の音符や記譜記号の繰り返しを示し、領域内のすべての小節がそれぞれ同じ内容を繰り返すことを意味します。4小節リピート記号はその前の4小節に含まれる音符や記譜記号の繰り返しを示します。



1小節リピート領域

2小節リピート領域



4小節リピート領域

この省略表現の記譜は繰り返しの多い楽譜を読みやすくします。演奏者は繰り返しのフレーズを1度読むだけでよく、あとは単に何回繰り返すか数えれば済みます。小節リピート記号は、通常、同等の内容の完全に記譜された小節より幅が狭くなるため、水平方向のスペースの節約にもなります。

Dorico Pro では、小節リピート記号の表示には小節リピート領域が使用されます。つまり、領域を埋めるために必要な数の小節リピート記号が自動的に表示されます。

初期設定では、小節リピート領域は色付きの背景で強調表示され、判別しやすくなっています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。この強調表示は印刷されず、表示/非表示はいつでも切り替えられます。

また、小節リピート領域は隣り合わせでも使用できます。たとえば2小節リピート記号を最初のフレーズの繰り返しの後に使用し、次に4小節リピート記号でこの全体のフレーズを繰り返すことを指示できます。2つの異なる小節リピート領域が隣り合う場合、個々の領域が識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



2つの小節リピート領域が隣り合うフレーズ

## 関連リンク

- [小節リピート記号の入力 \(267 ページ\)](#)
- [リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウント \(852 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のグループ化 \(857 ページ\)](#)
- [小節リピート領域の強調表示を表示/非表示にする \(852 ページ\)](#)
- [小節リピート領域を移動する \(851 ページ\)](#)
- [小節リピート領域の長さを変更する \(851 ページ\)](#)
- [長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

## 浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する

小節リピート記号のプロジェクト全体のデザインおよび外観を制御するオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページにあります。

「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページのオプションでは、小節リピート記号のカウントの表示頻度、小節リピート記号のカウントの外観、それから4小節のフレーズが1小節と3小節のリピート記号で構成されるときに小節リピート記号をグループ化する方法について変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 小節リピート領域の繰り返されるフレーズの長さを変更する

小節リピート記号は、繰り返されるフレーズを構成する小節数を入力後個別に変更できます。たとえば、その前の4小節を繰り返す領域を、その前の2小節を繰り返す領域に変更できます。

### 補足

小節リピート領域より前に存在する小節数より大きい小節数は繰り返しに設定できません。たとえば、フローの1小節めが記譜されたそのあとに小節リピート領域が続く場合、繰り返されるフレーズの小節数は大きくできません。

### 手順

1. フレーズの長さを変更する小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**小節数 (No. bars)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **1 小節 (One bar)**
  - **2 小節 (Two bars)**
  - **4 小節 (Four bars)**

### 結果

選択した小節リピート領域において繰り返されるフレーズを構成する小節数が変更されます。これは再生にも反映されます。

### ヒント

- 小節リピート領域に追加したすべての強弱記号は、繰り返される楽譜の演奏に影響します。
- リピートのポップオーバーを開いて入力内容を変更することで、繰り返されるフレーズの長さを変更することもできます。

関連リンク

[小節リピート記号のグループ化 \(857 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(267 ページ\)](#)

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(282 ページ\)](#)

## 小節リピート領域を移動する

小節リピート領域は入力後に別の位置へ移動できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで移動させる小節リピート領域を選択します。

#### 補足

1度に移動できる小節リピート領域は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節リピート領域を前後の小節に移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - クリックして左右にドラッグします。

---

### 結果

選択した小節リピート領域が左右の小節に移動します。

キーボードを使用して小節リピート領域を移動する場合、右に移動するときは繰り返しの小節数のデュレーションが使用されます。たとえば2小節リピート記号は右に2小節移動します。一方で、左に移動する場合は、繰り返しの小節数にかかわらず、常に1小節左に移動します。

マウスを使用して小節リピート領域を移動する場合、領域は常に前後の隣接する小節に移動します。

#### 補足

小節リピート領域はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択した小節リピート領域の長さを変更して、他の小節リピート領域の部分に重ねた場合、他の小節リピート領域はそれに合わせて短縮されます。場合によって、他の小節リピート領域のグループ化が変更されたり、完全に削除されたりすることがあります。

この動作は元に戻せます。影響された他の小節リピート領域の長さは復元されます。

---

## 小節リピート領域の長さを変更する

小節リピート領域は入力後に長さを変更できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで長さを変更する小節リピート領域を選択します。

#### 補足

1度に長さを変更できる小節リピート領域は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節リピート領域の長さを変更します。
  - **[Shift]+[Alt]+[→]** を押して、繰り返しの小節数のデュレーションに従い領域を延長します。
  - **[Shift]+[Alt]+[←]** を押して、繰り返しの小節数のデュレーションに従い領域を短縮します。

#### 補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置のハンドルをクリックして、次または前の小節までドラッグします。
-

#### 結果

小節リピート領域の長さが変更されます。

#### 補足

- 小節リピート領域の長さの最小値は1小節です。繰り返しの小節数が4小節などで、短縮された領域がそれより短いとき、領域の長さは半分になり、最終的に1小節のリピート領域になります。
- 小節リピート領域はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択した小節リピート領域の長さを変更して、他の小節リピート領域の部分に重なった場合、他の小節リピート領域はそれに合わせて短縮されます。場合によって、他の小節リピート領域のグループ化が変更されたり、完全に削除されたりすることがあります。

この動作は元に戻せます。影響されたすべての小節リピート領域の長さは復元されます。

#### 関連リンク

[小節リピート記号 \(849 ページ\)](#)

[小節リピート記号のグループ化 \(857 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

## 小節リピート領域の強調表示を表示/非表示にする

小節リピート領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

#### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「小節リピート領域を強調 (Highlight Bar Repeat Regions)」を選択します。

#### 結果

メニューの「小節リピート領域を強調 (Highlight Bar Repeat Regions)」の横にチェックマークがあるときは小節リピート領域が強調表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

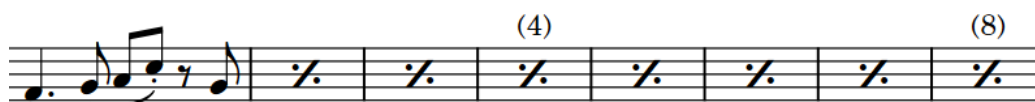
## 小節リピート記号のカウント

小節リピート記号のカウントは、小節リピート記号の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつの小節が過ぎたかプレーヤーが把握することを助けます。上記の間隔は通常、4小節ごとや8小節ごとなど、一般的な音楽フレーズの長さに基づくものです。

#### 補足

小節リピート記号のカウントが表示されるのは、1小節リピート領域だけです。

小節リピート記号は必ず1小節以上の完全な形で記譜されたフレーズから始まるため、小節リピート記号のカウントは、小節リピート領域の最初の小節ではなく、直前の記譜された小節を1小節めとして開始されます。たとえば、小節リピート領域の3小節めにはカウント番号「4」が表示されます。これは、オリジナルの記譜された小節が演奏されるのが4回目であるためです。



4小節ごとにカウントを表示する小節リピート領域

Dorico Pro では、小節リピート領域それぞれの開始カウント、小節リピート記号のカウンの表示頻度、括弧のあり/なしを変更でき、また小節リピート記号のカウンに使用するフォントスタイルをカスタマイズできます。

#### 補足

「**小節リピート記号のカウン (Bar Repeat Count)**」のフォントスタイルは、スラッシュ領域のカウンの外観にも影響します。

#### 関連リンク

- [小節リピート記号のカウンの外観を変更する \(855 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウンの表示頻度を変更する \(854 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウンのフォントを変更する \(855 ページ\)](#)
- [リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)
- [小節リピート記号の入力 \(267 ページ\)](#)
- [長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(532 ページ\)](#)

## 小節リピート記号の開始カウンを変更する

個々の小節リピート記号について、カウンを開始する数字を変更できます。たとえば、組段の開始位置に来るたびに繰り返しのフレーズを記譜しなおしつつ、カウンはリピート全体で連続したものにできます。

#### 補足

- カウンは小節リピートの 1 小節め、つまり記譜された小節を起点とします。たとえば、3 小節続く 1 小節リピート領域の開始カウンを 5 に設定し、カウンの表示が 4 小節ごとの場合、小節リピート領域の最後の小節に「8」のカウンが表示されます。
- 小節リピートカウンは、1 小節のリピート領域のみに表示されます。

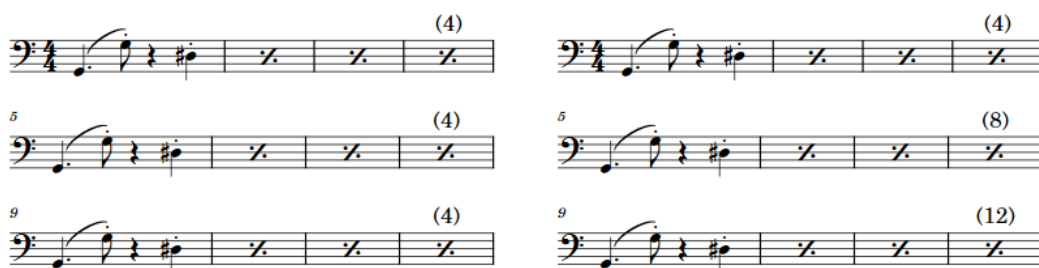
#### 手順

- 開始カウンを変更する 1 小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**開始カウン (Count from)**」をオンにします。
- 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

選択した小節リピート記号のカウンの数字と位置が変更されます。たとえば開始カウンを 1 から 2 に変更すると、カウンの表示が 4 小節ごとの場合、カウンの表示位置は小節リピート領域の 3 小節めから 2 小節めに移動します。

例



同じパートレイアウトの複数の組段にある、個別の小節リピート領域。カウンントはデフォルトのまま

同じパートレイアウトの複数の組段にある、個別の小節リピート領域。連続した領域であることを示すためにカウンントが変更されている

関連リンク

[小節リピート記号のカウンント \(852 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のカウンントの表示頻度を変更する

1 小節リピート領域のカウンントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえば小節リピート領域の 8 小節ごとにカウンントを表示するよう変更できます。

### 補足

小節リピートカウンントは、1 小節のリピート領域のみに表示されます。

### 手順

1. カウンントの表示頻度を変更する 1 小節リピート記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウンント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

選択した小節リピート領域のカウンント表示頻度に変更されます。

### ヒント

すべての小節リピート領域のカウンントのデフォルトの表示頻度に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節リピート記号 (Bar Repeats)」ページで変更できます。

関連リンク

[小節リピート記号のカウンント \(852 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(850 ページ\)](#)

[小節リピート記号のカウンントの外観を変更する \(855 ページ\)](#)

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(532 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のカウンントの外観を変更する

個々の小節リピート記号のカウンントの表示には、プロジェクト全体の設定より優先される形で、括弧付き、括弧なし、またはリピート回数の表示なしが選択できます。

### 補足

小節リピートカウンントは、1小節のリピート領域のみに表示されます。

---

### 手順

1. カウンントの外観を変更する1小節リピート記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウンントの外観 (Count appearance)」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 括弧つき (Parenthesized)
    - 括弧なし (No parentheses)
    - 表示しない (Don't show)
- 

### 結果

選択した小節リピート領域のカウンントの外観が変更されます。

### ヒント

すべての小節リピート記号のカウンントのデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節リピート記号 (Bar Repeats)」ページで変更できます。

---

### 関連リンク

- [小節リピート記号のカウンント \(852 ページ\)](#)
- [浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(850 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウンントの表示頻度を変更する \(854 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のカウンントのフォントを変更する

小節リピート記号およびスラッシュ領域のカウンントに使用されるフォントスタイルのプロジェクト全体の設定は、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログで変更できます。これにより、たとえばカウンントの外観を太字や斜体に変更できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
  2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから「小節リピート記号のカウンント (Bar Repeat Count)」を選択します。
  3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
    - フォントファミリー (Font family)
    - サイズ (Size)
    - スタイル (Style)
    - 下線 (Underlined)
  4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

#### 結果

小節リピート記号およびスラッシュ領域のカウンントに使用されるフォントスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

#### 関連リンク

[小節リピート記号のカウンント \(852 ページ\)](#)  
[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(368 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のカウンントを移動する

小節リピート記号のカウンントは、適用されるリズム上の位置を変更することなく、個々に表示位置を移動できます。これはたとえば、同じ位置にある他のアイテムとの間隔を確保するために行ないます。

#### 補足

番号が適用される小節を変更するために小節リピート記号のカウンントを移動する場合は、この機能ではなく開始カウンントの変更を使用します。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動する小節リピート記号のカウンントを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した小節リピート記号のカウンントを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

---

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
- 

#### 結果

選択した小節リピート記号のカウンントが新しい表示位置に移動します。

#### ヒント

小節リピート記号のカウンントを移動すると、プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループにある「**番号のオフセット (Number offset)**」の、方向に対応する以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**番号の X オフセット (Number offset X)**」は、小節リピート記号のカウンントを水平方向に移動させます。
- 「**番号の Y オフセット (Number offset Y)**」は、小節リピート記号のカウンントを垂直方向に移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することによっても、小節リピート記号のカウンントの表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した小節リピート記号のカウンントが初期設定の位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[小節リピート記号の開始カウンントを変更する \(853 ページ\)](#)



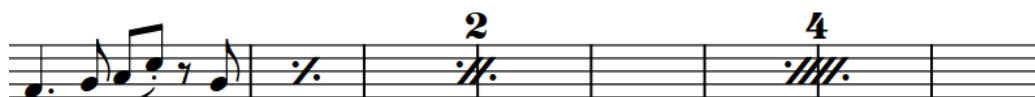
## 小節リピート記号のグループ化

小節リピート記号のグループ化は、長くなる小節リピート領域を圧縮できます。これは規則性の高い楽譜においては、フレーズ全体の表示を簡略化できるため便利です。

譜表に表示される記号はグループ化の種類によって異なります。2小節リピート記号と4小節リピート記号には、グループにまとめられた小節数を示す数字も表示されます。



小節リピート記号のグループ化は入力時に指定できるとともに、入力後にも変更できます。小節リピート領域の開始位置と終了位置の、記譜された音符や記譜記号に対する位置に従い、Dorico Pro は正確な結果が得られるように自動的に記号の表示を調整します。たとえば1小節の記譜された小節と7小節の1小節リピート記号による8小節のフレーズがあり、小節リピート記号には4小節ごとのグループ化が設定されている場合、小節リピート領域の7小節の表示は自動的に1小節リピート記号、2小節リピート記号、次いで4小節リピート記号という形になります。



4小節ごとのグループ化を設定した1小節リピート記号7小節を使用する8小節フレーズ

### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節リピート記号 (Bar Repeats)」ページでは、4小節フレーズを構成するために3小節リピート記号を表示することも選択できます。ただし、1小節と2小節のリピート記号の組み合わせがより一般的です。

### 関連リンク

- [リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)
- [小節リピート記号の入力 \(267 ページ\)](#)

## 小節リピート記号のグループ化を変更する

小節リピート記号のグループ化は入力後に変更できます。これにより、たとえば1小節リピート領域を2小節ごとにグループ化させたりできます。

### 手順

- グループ化を変更する小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「この小節数ごとにグループ化 (Group every)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 1小節 (One bar)
  - 2小節 (Two bars)
  - 4小節 (Four bars)

### 補足

利用できるオプションは、選択した小節リピート領域の長さによって変化します。たとえば3小節の長さの小節リピート領域を選択している場合、メニューから利用できるのは「1小節 (One bar)」と「2小節 (Two bars)」のみとなります。

#### 結果

選択した小節リピート領域のグループ化が変更されます。Dorico Pro は、一番明確な領域のグループ化の方法を自動的に計算します。たとえば 1 小節の記譜された小節と 7 小節の 1 小節リピート記号による 8 小節のフレーズがあり、小節リピート記号には 4 小節ごとのグループ化が設定されている場合、小節リピート領域の 7 小節の表示は自動的に 1 小節リピート記号、2 小節リピート記号、次いで 4 小節リピート記号という形になります。

#### 関連リンク

[小節リピート記号のグループ化 \(857 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(267 ページ\)](#)

[リピートのポップオーバー \(256 ページ\)](#)

# スラッシュ符頭

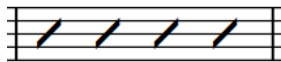
スラッシュ符頭は譜表上に記譜される斜線で、明確なリズムやピッチの指定はないまま、演奏者が何かを演奏することを指示するものです。これには多くの場合、演奏者が使用するべき音符の組み合わせを指示するコード記号が併記されます。

スラッシュ符頭には2種類あります。

- 符尾ありのスラッシュは通常、演奏するリズムを示して、ピッチは示さないものです。



- 符尾なしのスラッシュは通常、リズムもピッチも示さないものです。



符尾ありのスラッシュは“リズム記号”とも呼ばれ、符尾なしのスラッシュは“スラッシュ記号”ともよばれます。

Dorico Pro では、スラッシュ領域とスラッシュ符頭の声部を使用することにより、両方の種類のスラッシュ符頭を同時に表示できます。

関連リンク

[スラッシュ符頭の声部 \(1052 ページ\)](#)

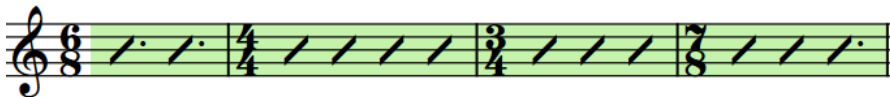
[コード記号 \(571 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(266 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部への音符の入力 \(164 ページ\)](#)

## スラッシュ領域

スラッシュ領域は、拍子に適切なスラッシュ符頭を自動的にデューレーション全体に表示します。たとえば、4/4 の小節にはスラッシュが4つ、6/8 の小節にはスラッシュが2つ表示されます。1つのスラッシュ領域は異なる拍子にわたって延ばすこともできます。



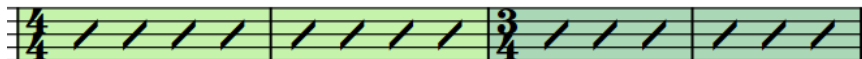
異なる拍子にわたって表示される1つのスラッシュ領域

スラッシュ領域は、リズム上の同じ位置に複数同時に存在できます。スラッシュ領域が重なり合うと、Dorico Pro はこれを複声部の状況として扱い、それぞれのスラッシュの譜表上の位置を自動的に変更します。

初期設定では、スラッシュ領域は色付きの背景で強調表示され、判別しやすくなっています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。この強調表示は印刷されず、表示/非表示はいつでも切り替えられます。

それぞれの領域の開始位置と終了位置にはハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。

2つのスラッシュ領域が隣り合う場合、個々の領域を識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



異なる強調色で表示される2つの隣接するスラッシュ領域

スラッシュ領域およびスラッシュ付き声部は、同じプロジェクトの同じ位置に使用できます。たとえば、リズムを特定したくない場所にスラッシュ領域を入力し、そのあとに正確なリズムを指定したい1小節のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

関連リンク

[スラッシュ符頭の声部 \(1052 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(860 ページ\)](#)

[スラッシュ領域のカウント \(865 ページ\)](#)

[複声部におけるスラッシュ \(861 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の移動 \(864 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の長さの変更 \(864 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の強調表示の表示/非表示を切り替える

スラッシュ領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「スラッシュ領域を強調 (Highlight Slash Regions)」を選択します。

結果

メニューの「スラッシュ領域を強調 (Highlight Slash Regions)」の横にチェックマークがあるときはスラッシュ領域が強調表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

関連リンク

[スラッシュ符頭の声部 \(1052 ページ\)](#)

## 浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する

スラッシュ符頭のプロジェクト全体のデザインおよび外観を制御するオプションは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページの「スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)」セクションにあります。これらのオプションはスラッシュ符頭の声部とスラッシュ領域の両方に影響を与えます。

「音符 (Notes)」ページの「スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)」セクションにあるオプションでは、符尾ありと符尾なし両方のスラッシュのデザイン、複合拍子においてスラッシュに付点を表示するかどうか、およびスラッシュ領域の小節数の表示頻度、外観および位置を変更できます。たとえば、スラッシュ領域の小節数をすべての小節に表示することを選択できます。

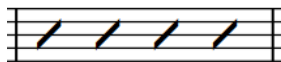
オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

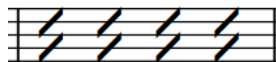
[「浄書オプション \(Engraving Options\)」 ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 複声部におけるスラッシュ

スラッシュ領域とスラッシュ符頭の声部は、リズム上の同じ位置に複数同時に存在できます。スラッシュ符頭の複声部やスラッシュ領域同士が重なったときは、Dorico Pro はすべてのスラッシュがなるべく読みやすいように、自動的にそれぞれの譜表上の位置を変更し、ずらして表示します。



1つのスラッシュ領域



符尾が上向きと符尾が下向きの2つのスラッシュ領域

リズム上の同じ位置にある他のスラッシュに対するスラッシュの位置とオフセットのフローごとのデフォルトは、「[記譜 \(Write\)](#)」 > 「[記譜オプション \(Notation Options\)](#)」の「[声部 \(Voices\)](#)」ページで設定できます。

### 補足

これらのオプションは、スラッシュ符頭の声部に属する音符とスラッシュ領域に属する音符を含め、すべてのスラッシュ符頭に影響を与えます。

また、スラッシュ符頭のお互いの位置は、符尾/声部の向きや譜表上の位置を変更することによって手で制御できます。

関連リンク

[複声部の音符位置 \(1048 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(290 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する \(862 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の声部の向きを変更する

スラッシュ領域の声部の向きは個別に変更できます。複数のスラッシュ領域が重なり合う場合、それぞれの符尾の方向が影響されます。

手順

1. 声部の向きを変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「[スラッシュ領域 \(Slash Regions\)](#)」グループで、「[声部の向き \(Voice direction\)](#)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Up)**
  - **下 (Down)**

結果

選択したスラッシュ領域の声部の向き、および符尾の向きもこれに従い変更されます。

### 補足

これによって符尾の方向が変化するのは、スラッシュ領域が譜表の第3線にある場合、および複数のスラッシュ領域が同じリズム位置に存在する場合のみです。たとえば、譜表の第1線にあるスラッシュ領域の声部の向きを「**下 (Down)**」に変更した場合、他のスラッシュ領域と重なり合っていないければ、符尾の方向は変化しません。

関連リンク  
[符尾の方向](#) (953 ページ)

## スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する

スラッシュ符頭の譜表上の位置は、スラッシュ符頭の声部およびスラッシュ領域のいずれにおいても変更できます。これによりたとえば、リズム上の同じ位置に他の音符を配置しやすくなります。初期設定では、スラッシュ符頭は譜表の第3線に配置されます。

---

### 手順

1. 譜表上の位置を変更するスラッシュ符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  - スラッシュ符頭の声部の音符については、譜表上の位置を変更する音符をそれぞれ選択する必要があります。
  - スラッシュ領域については、譜表上の位置を変更する領域のどの部分を選択しても全体が変更されます。
2. プロパティパネルの、譜表上の位置を変更するスラッシュ符頭のタイプに応じたグループで、「スラッシュの位置 (Slash pos.)」をオンにします。
  - スラッシュ符頭の声部の音符である場合は、「音符と休符 (Notes and Rests)」グループ
  - スラッシュ領域である場合は、「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループ
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

### 結果

選択したスラッシュ符頭の譜表上の位置が変更されます。たとえば「スラッシュの位置 (Slash pos.)」の値を4に変更するとスラッシュ符頭は5線譜の第5線に配置され、-4にすると第1線に配置されます。

スラッシュ符頭に符尾が付いている場合、符尾の方向は自動的に調整されます。

関連リンク  
[符尾の方向](#) (953 ページ)

## スラッシュ領域内の音符を表示/非表示にする

スラッシュ領域と同じ位置にある音符を表示または非表示にできます。これはたとえば、再生時に鳴らすための音符を入力しつつ楽譜にはスラッシュ領域のみ表示する場合や、スラッシュ領域に推奨の音符を追加で記譜する場合などに使用できます。

---

### 手順

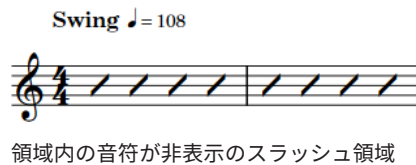
1. 領域内にある他の音符を表示または非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「他の声部を表示 (Show other voices)」をオンまたはオフにします。

---

### 結果

「他の声部を表示 (Show other voices)」をオンにすると、選択したスラッシュ領域の領域内にあるすべての音符が表示され、オフにすると非表示になります。

例



関連リンク

[スラッシュ領域 \(859 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭の声部 \(1052 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の強調表示の表示/非表示を切り替える \(860 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の前後の余白を埋める休符を表示/非表示にする

小節の途中から始まるスラッシュ領域の前後の余白を埋める休符は、個別に表示/非表示にできません。これは、たとえば余白の位置に他の音符があり、休符の表示が紛らわしい場合などに使用します。

初期設定では、Dorico Pro は小節全体のデュレーションが明確になるように、小節の途中で開始または終了するスラッシュ領域の前後に自動的に暗黙の休符を表示します。

手順

1. 余白を埋める休符を表示/非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **開始位置より前の休符を非表示 (Hide rests before start)**
  - **終了位置より後の休符を非表示 (Hide rests after end)**

結果

選択したスラッシュ領域の対応する側の余白を埋める休符が非表示になります。たとえば両方のプロパティをオンにすると、選択したスラッシュ領域の前後両方の余白を埋める休符が非表示になります。

関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(870 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の分割

スラッシュ領域は入力後に分割できます。これによりたとえば、既存のスラッシュ領域の途中にあとから詳細な記譜を行なえます。

手順

1. 記譜モードで、分割するスラッシュ領域の分割位置に対してすぐ右側のスラッシュを選択します。
2. **[U]** を押します。

結果

選択したスラッシュのすぐ左側でスラッシュ領域が分割されます。それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルができ、これを使用してそれぞれの長さを変更できます。

関連リンク

[スラッシュ領域のカウントの表示頻度を変更する \(866 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の長さの変更 \(864 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の移動

スラッシュ領域は入力後に別の位置へ移動できます。スラッシュ領域はリズム上の同じ位置に複数同時に存在できるため、他のスラッシュ領域に重なる形でも移動を行なえます。

---

手順

1. 記譜モードで、移動するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラッシュ領域を前後の小節に移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

スラッシュ領域のリズム上の位置をマウスで移動することはできません。

---

結果

選択したスラッシュ領域が現在のリズムグリッド値に従って左右に移動します。そのいずれかの一部が他のスラッシュ領域と重なり合う場合、複数のスラッシュ領域を同じ位置に表示できるように、スラッシュの譜表上の位置が自動的に調整されます。

関連リンク

[複声部におけるスラッシュ \(861 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の声部の向きを変更する \(861 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の長さの変更

スラッシュ領域は入力後に長さを変更できます。スラッシュ領域はリズム上の同じ位置に複数同時に存在できるため、他のスラッシュ領域に重なる形でも長さの変更を行なえます。

---

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるスラッシュ領域は1つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したスラッシュ領域の長さを変更します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt]+[→]** を押します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt]+[←]** を押します。

補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

---

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
- 

結果

選択したスラッシュ領域の長さが、現在のリズムグリッド値に従い変更されます。そのいずれかの一部が他のスラッシュ領域と重なり合う場合、複数のスラッシュ領域を同じ位置に表示できるように、スラッシュの譜表上の位置が自動的に調整されます。



関連リンク

[複声部におけるスラッシュ \(861 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の声部の向きを変更する \(861 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の符尾を表示/非表示にする

個々のスラッシュ領域のスラッシュの符尾を表示または非表示にできます。初期設定では、スラッシュ領域のスラッシュは符尾なしで表示されます。

---

手順

1. 符尾を表示または非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「スラッシュのタイプ (Slash type)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 符尾あり (With stems)
  - 符尾なし (Without stems)

---

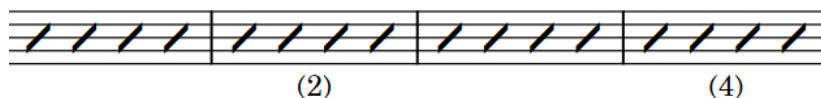
結果

「符尾なし (Without stems)」を選択すると、選択したスラッシュ領域の符尾が非表示になり、「符尾あり (With stems)」を選択すると表示されます。

## スラッシュ領域のカウント

スラッシュ領域のカウントは、スラッシュ領域の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつの小節が過ぎたかプレイヤーが把握することを助けます。上記の間隔は通常、4 小節ごとや 8 小節ごとなど、一般的な音楽フレーズの長さに基づくものです。

初期設定では、スラッシュ領域のカウントは 4 小節ごとに譜表の下に表示されます。



2 小節ごとにカウントを表示するスラッシュ領域

Dorico Pro では、スラッシュ領域それぞれの開始カウント、カウントの表示頻度、譜表に対する位置、括弧のあり/なしを変更でき、またスラッシュ領域のカウントに使用するフォントスタイルをカスタマイズできます。

補足

スラッシュ領域のカウントは、小節リピート記号のカウントと同じフォントスタイルを使用します。

---

関連リンク

[スラッシュ領域 \(859 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(860 ページ\)](#)

[スラッシュ領域のカウントの外観を変更する \(867 ページ\)](#)

[小節リピート記号のカウントのフォントを変更する \(855 ページ\)](#)

## スラッシュ領域の開始カウントの変更

個々のスラッシュ領域についてカウントが開始する番号を変更できます。これはたとえば、2つのスラッシュ領域の間に詳細な記譜を行ないつつ、カウントは全体を通して継続的に表示させる場合などに使用します。

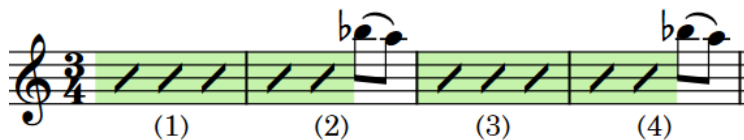
### 手順

1. 開始カウントを変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「開始カウント (Count from)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

選択したスラッシュ領域のカウントの番号と位置が変更されます。たとえば開始カウントを1から2に変更すると、カウントの表示が4小節ごとの場合、カウントの表示位置は小節リピート領域の4小節目から3小節目に移動します。

### 例



2つめのスラッシュ領域の開始カウントが変更され、1つめのスラッシュ領域からカウントが継続しているように表示するもの。

## スラッシュ領域のカウントの表示頻度を変更する

スラッシュ領域のカウントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえばスラッシュ領域の8小節ごとにカウントを表示するよう変更できます。初期設定では、スラッシュ領域のカウントは4小節ごとに表示されます。

### 手順

1. カウントの表示頻度を変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「カウント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

選択したスラッシュ領域のカウント表示頻度が増減されます。

### ヒント

スラッシュ領域のデフォルトのカウント頻度をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページにある「スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)」セクションで設定を行ないます。

### 関連リンク

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(860 ページ\)](#)  
[スラッシュ領域の分割 \(863 ページ\)](#)

## スラッシュ領域のカウントの外観を変更する

個々のスラッシュ領域のカウントの表示には、プロジェクト全体の設定より優先される形で、括弧つき、括弧なし、またはリピート回数の表示なしが選択できます。

### 手順

1. カウントの外観を変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「カウントの外観 (Count appearance)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 括弧つき (Parenthesized)
  - 括弧なし (No parentheses)
  - 表示しない (Don't show)

### 結果

選択したスラッシュ領域のカウントの外観が変更されます。

### ヒント

スラッシュ領域のカウントのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページにある「スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)」セクションで設定を行ないます。

### 関連リンク

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(860 ページ\)](#)

## スラッシュ領域のカウントの移動

スラッシュ領域のカウントは、適用されるリズム上の位置を変更することなく、個々に表示位置を移動できます。これはたとえば、同じ位置にある他のアイテムとの間隔を確保するために行ないます。

### 補足

スラッシュ領域のカウントを移動するのが番号が適用される小節を変更するためである場合は、この機能ではなく開始カウントの変更を使用します。

### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するスラッシュ領域のカウントを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したスラッシュ領域のカウントを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 結果

選択したスラッシュ領域のカウンが新しい表示位置に移動します。

#### ヒント

スラッシュ領域のカウンを移動すると、プロパティパネルの「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループにある「**カウンのオフセット (Count offset)**」の、方向に対応する以下のプロパティが自動的にオンになります。

- **カウンの X オフセット**は、スラッシュ領域のカウンを水平方向に移動させます。
- **カウンの Y オフセット**は、スラッシュ領域のカウンを垂直方向に移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することによっても、スラッシュ領域のカウンの表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラッシュ領域のカウンがデフォルトの位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[スラッシュ領域の開始カウンの変更 \(866 ページ\)](#)

## 譜表に対するスラッシュ領域のカウンの位置を変更する

個々のスラッシュ領域のカウンを譜表の上下いずれに表示するかは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 補足

スラッシュ領域のカウンの譜表に対する位置の変更は、領域内のすべてのカウンに影響します。同じスラッシュ領域内では、カウンのうち 1 つだけの位置を個別に変更はできません。

---

#### 手順

1. カウンの譜表に対する位置を変更するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。
  2. プロパティパネルの「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループで、「**カウンの位置 (Count position)**」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Above)**
    - **下 (Below)**
- 

#### 結果

選択したスラッシュ領域のすべてのカウンの譜表に対する位置が変更されます。

#### ヒント

スラッシュ領域のカウンのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)**」セクションで設定を行ないます。

---

#### 関連リンク









[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(860 ページ\)](#)

# 休符

休符は音が演奏されない時間を表わす記号です。それぞれの音符には同等のデュレーションの休符があり、たとえば、4分音符の休符は16分音符の休符とは異なります。

小節内の音符と休符のデュレーションの合計は、一般的な拍子記号に定義される小節のデュレーションと等しくする必要があります。

デュレーションの等しい音符と休符の対応を以下の表に示します。

デュレーション	音符	休符
2分		
4分		
8分		
16分		

音符の入力時、Dorico Pro は自動的に音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。そのため、Dorico Pro では基本的に休符を入力する必要はありません。

関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(870 ページ\)](#)

[休符の入力 \(168 ページ\)](#)

[休符の削除 \(873 ページ\)](#)

## 休符の一般的な配置規則

休符は、休符のデュレーションの開始位置に合わせて配置されます。休符の開始と終了が分かりにくくなるため、拍の中央に休符を配置することはありません。休符は他のアイテムと均等な位置に揃えられます。

唯一の例外として、小節休符は小節の視覚的な中央位置に配置されます。小節内で他の音符と並んで記譜される2分休符および全休符とは配置が異なるため、明確に区別できます。

休符は可能な限り譜表の中に記譜されます。周辺の音符が高音域や低音域にある場合でも、譜表の上や下に休符が移動することはありません。

ただし、複声部の譜表においては、休符は符尾が上向きの声部では譜表の高い位置や譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の低い位置や譜表の下に配置されます。



複声部における休符の位置の例

複声部の休符は重複させることができません。そのため、複数の声部の同じ位置に同じデュレーションの休符が複数ある場合、休符を統合して1つだけ表示するようにできます。

休符は複雑な形状のものもあるため、譜表の線や間に対して決まった位置に配置する必要があり、休符の垂直位置を大きく変更することはできません。

関連リンク

[休符の削除 \(873 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(871 ページ\)](#)

## 暗黙の休符と明示的な休符

暗黙の休符は入力した音符の周りに自動的に表示され、デュレーションは小節内の拍子記号と位置に従います。明示的な休符はデュレーションを強制的に固定して入力、または MusicXML ファイルから取り込んだ休符です。

Dorico Pro では、暗黙の休符は現在の拍子記号に応じて記譜されるため、6/8 拍子と 4/4 拍子では異なる暗黙の休符が表示されます。これはまた、既存の音符や休符の拍子記号を変更した場合にも当てはまります。

Dorico Pro では、入力した音符の周辺に自動的に暗黙の休符が表示されるため、休符を入力する必要はありません。暗黙の休符のデュレーションは、強制的に固定して明示的な休符に変更することもできます。



拍子記号が 6/8 の小節の 4 拍めに入力された 4 分音符の場合、暗黙の付点 4 分休符が小節の始めにある



拍子記号が 4/4 の小節の 4 拍めに入力された 4 分音符の場合、暗黙の 4 分休符および 8 分休符が小節の始めにある

「**声部開始 (Starts voice)**」および「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティで、声部の最初の音符以前の休符および最後の音符以降の休符を非表示に設定している場合でも、明示的な休符を抑制することはできません。

プロジェクトの中でどれが暗黙の休符で、どれが明示的な休符であるかは、休符の色で見分けることができます。

関連リンク

[休符の入力 \(168 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(162 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(871 ページ\)](#)

[休符の削除 \(873 ページ\)](#)

[休符の色の表示 \(872 ページ\)](#)

## 複声部における暗黙の休符

Dorico Pro では、音符周囲の空白を埋めるために暗黙の休符が自動的に表示されます。これは譜表に複数の声部がある場合も同様です。しかし、複声部では、休符をいつどこに表示するかの詳細な設定が必要になる場合があります。

通常、声部が小節内に複数の音符を含む場合、休符または音符が小節全体に対し表示されます。これにより、小節内のすべての声部の各音符の位置が一目で明らかになります。

譜表に複数の声部がある場合、複数の声部に任意のデュレーションの音符が存在する小節すべてに、暗黙の休符が表示されます。ただし、譜表に複数の声部がある場合、ある声部の最初の音符以前、あるいは最後の音符以降に休符を表示させたくないこともあります。たとえば、1つのメロディーラインを含む小節に経過音を表示するためだけの声部を追加する場合などは、休符を非表示にすると役立ちます。



第2声部は経過音として使用

### ヒント

初期設定では、複数の声部の同じ位置に同じデュレーションの休符がある場合、休符が統合されます。

休符の垂直位置を変更すると、複数の休符を個別の位置に表示できます。

「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで複声部における休符の統合方法の設定を変更し、プロジェクト全体に適用することもできます。

プロパティパネルのプロパティをオンにすると、声部の最初の音符以前および最後の音符以降の休符を個別に非表示にできます。対応するプロパティをオフにすることで、非表示にした休符を表示できます。



暗黙の休符がある複声部フレーズ



暗黙の休符がない同フレーズ

複声部の内容に応じていつ休符を表示するか選択し、プロジェクト全体に適用するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで設定を行ないます。

選択した楽節から休符を削除することもできます。

### 関連リンク

[休符のフローごとの記譜オプション \(872 ページ\)](#)

[休符を垂直に移動する \(876 ページ\)](#)

[休符の削除 \(873 ページ\)](#)

## 明示的な休符を暗黙の休符に変換する

暗黙の休符と明示的な休符は振る舞いが異なります。たとえば、暗黙の休符はプロパティパネルを使用して非表示にできますが、明示的な休符やデュレーションを強制された休符は非表示にできません。

### 補足

プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」および「**声部終了 (Ends voice)**」で非表示にできるのは、暗黙の休符のみです。

#### 手順

1. 記譜モードで、暗黙の休符に変換する明示的な休符を選択します。
  2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択した明示的な休符が暗黙の休符に変わります。休符の色を表示するとこれを確認できます。

#### 関連リンク

[休符の色の表示 \(872 ページ\)](#)

[休符の削除 \(873 ページ\)](#)

## 休符のフローごとの記譜オプション

休符の配置方法、記譜方法、および休符が表示される条件について制御するオプションは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページでフローごとに変更できます。

たとえば、付点休符が許可されているときに小節の休符を追加の声部内に表示するかどうかを設定したり、楽譜の内容に合わせて初期設定の休符の位置を変更したりできます。

「**記譜オプション (Notation Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択するか、設定モードで「**設定 (Setup)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択します。
- 設定モードで、「**フロー (Flows)**」パネルにある「**記譜オプション (Notation Options)**」をクリックします。



そのあと、ページリストで「**休符 (Rests)**」をクリックします。

## 浄書オプションで休符の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで休符の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**休符 (Rests)**」ページのオプションで、フロー内またはフロー終端の長休符を含む休符のスタイル、外観、幅、および詳細な位置を変更できます。たとえば、フローの終端まで延びる長休符のデフォルトの外観は“*tacet al fine*”を表示しますが、これを小節の数を表示するよう変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 休符の色の表示

暗黙の休符と明示的な休符は、それぞれ異なる色で表示できます。

#### 手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note and Rest Colors)**」 > 「**暗黙の休符カラー (Implicit Rests)**」を選択します。
-



#### 結果

メニュー内の「**暗黙の休符カラー (Implicit Rests)**」の横にチェックマークがあるときは休符カラーが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

休符カラーが表示されている場合、プロジェクト中の暗黙の休符はグレーで表示され、明示的な休符は黒で表示されます。これらのプロパティで非表示にできるのは暗黙の休符のみのため、「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティをオンにしても休符が非表示にならない場合などに原因を突き止めるときは、この機能が役に立ちます。

明示的な休符だと分かれば、その休符を削除できます。明示的な休符を削除すると、それに置き換わる暗黙の休符が「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティの効果に従うようになります。

#### 例



すべての休符を黒で表示し、暗黙の休符は識別されない 暗黙の休符をグレーで表示

## 休符の削除

暗黙の休符と明示的な休符は、いずれも削除できます。これによりたとえば、経過音の表示に使用される別声部の音符の前後の休符を非表示にできます。

#### 補足

- 対立する声部で同じ位置にある同じ長さの休符を削除したいと思う場合は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**休符の位置 (Rest positioning)**」セクションでこれらの休符を統合できます。
- 無音程打楽器の休符は削除できません。

#### 手順

1. 記譜モードで、削除する休符を選択します。

#### ヒント

休符は個別に選択するか、削除する休符を含んだ大きな選択範囲を使用するかします。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**休符を削除 (Remove Rests)**」を選択します。

#### 結果

選択したすべての休符が削除されます。これは、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティを自動的にオンにして、選択領域内に休符が表示されないようにするものです。

#### ヒント

休符の削除はすぐに元に戻せます。

あとから休符を再表示させることもできます。これには、削除した休符の右隣または左隣の音符か休符を選択して、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」または「**声部終了 (Ends voice)**」の対応するプロパティをオフにします。

#### 関連リンク

[休符 \(869 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(872 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(870 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(871 ページ\)](#)

## 空白の小節で小節休符を表示/非表示にする

空白の小節において小節休符を表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節休符を非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

小節休符は通常、楽譜中の空白の小節に表示され、演奏する内容が何もないことを演奏者に示します。しかし、場合によっては小節休符を非表示にして、空白の小節を完全に空白のままにする方が適切な場合もあります。

たとえばパート数の多いスコアでは、音符がある小節を一目で見分けられるため、空白の小節の小節休符を非表示にした方がよい場合があります。また、音符の演奏以外の行動を演奏者に指示するために文字を書き込むようなレイアウトの場合も、小節休符を非表示にした方がよい場合があります。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 空白の小節で小節休符を表示または非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**小節休符と長休符 (Bar Rests and Multi-bar Rests)**」セクションで、「**空の小節に小節休符を表示 (Show bar rests in empty bars)**」をオン/オフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

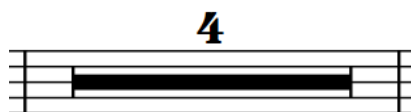
選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは、すべての空白の小節で小節休符が表示され、オフになっているときは非表示になります。

### 関連リンク

[長休符を表示/非表示にする \(875 ページ\)](#)

## 長休符

長休符は2つ以上の連続した空白の小節をグループ化して1つにまとめます。これは通常“タレットバー”と呼ばれる、譜表の第3線上の太い水平線で表示されます。これには、複数の空白小節によって占められる水平方向のスペースが削減され、プレーヤーが楽譜上の位置を把握しやすくなる効果があります。



空白の小節4つを示す長休符

## 補足

長休符は、その範囲内に組段テキスト、リハーサルマーク、延長記号や休止記号などのアイテムがあると、その位置で分割されます。非表示のアイテムでも同様です。ただし、再生モードの「Time」トラックで入力するような、非表示のテンポ記号は除きます。アイテムが長休符の最初の小節の開始位置にある場合、その小節は後に続く長休符と一体のままです。

Dorico Pro では、レイアウトごとに個別に長休符の表示/非表示を切り替えられます。また、その下の小節番号の範囲表示の表示/非表示を切り替えられます。

初期設定では、長休符の小節数は大譜表のインストゥルメントの譜表の間に 1 回だけ表示されます。

長休符のプロジェクト全体の外観、デザイン、幅および内容を制御するオプションは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「休符 (Rests)」ページにあります。

## 関連リンク

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(532 ページ\)](#)

[タイムトラック \(426 ページ\)](#)

## 長休符を表示/非表示にする

空白の小節において長休符を表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。また、小節リピート記号も長休符の形に統合するか選択できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは長休符を非表示にして、パートレイアウトでは表示させることができます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、長休符を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**小節休符と長休符 (Bar Rests and Multi-bar rests)**」セクションの「**統合 (Consolidate)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - なし (None)
  - 長休符 (Multi-bar Rests)
  - 長休符と小節リピート記号 (Multi-bar Rests and Bar Repeats)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 結果

- 「**なし (None)**」を選択した場合、選択したレイアウトに長休符は表示されず、空白の小節が個別に表示されます。
- 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」を選択した場合、選択したレイアウトの隣接するすべての空白の小節が、長休符に統合されます。ただし小節リピート記号については、その領域中に一切の音符がなかったとしても、長休符の形に統合はされません。
- 「**長休符と小節リピート記号 (Multi-bar Rests and Bar Repeats)**」を選択した場合、選択したレイアウトの隣接する空白の小節または小節リピート記号だけの小節のすべてが、長休符の形に統合されます。統合された小節リピート記号の上にも、長休符の小節数が表示されます。

関連リンク

[小節リピート記号 \(849 ページ\)](#)

[長休符 \(874 ページ\)](#)

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(532 ページ\)](#)

## 長休符におけるフローの終了位置の tacet al fine を表示/非表示にする

プロジェクトのすべてのレイアウトのフローの終端まで延びる長休符の外観を変更できます。初期設定では、フローの終端まで延びる長休符は“tacet al fine”を小節数の合計の上ではなく、譜表の上に表示します。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
3. 「**長休符 (Rests)**」セクションの「**フローの終端まで延びる長休符 (Multi-bar rests that extend to the end of the flow)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**tacet al fine**」を表示 (Show tacet al fine)
  - **小節の数を表示 (Show bar count)**
4. 必要に応じて、「**フローの終わりに「tacet al fine」を表示する空白の小節数の最小値 (Minimum number of bars' rest at the end of flow to show 'tacet al fine')**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

長休符のフローの終わりの外観がプロジェクト全体で変更されます。「**フローの終わりに「tacet al fine」を表示する空白の小節数の最小値 (Minimum number of bars' rest at the end of flow to show 'tacet al fine')**」の値を変更すると、設定した以上の小節数を持つ長休符にのみ“tacet al fine”が表示されるようになります。

## 休符を垂直に移動する

休符の垂直位置は個別に変更できます。これによりたとえば、全休符がぶら下がる譜表線を変更したり、あるリズム上の位置にすべての声部の休符を表示したりできます。

譜表上の2つ以上の声部に同じデュレーションの休符がある場合、休符を垂直に移動すると複数の休符がその位置に表示されます。初期設定では、Dorico Pro は複声部の休符を統合して自動的に複声部の状況に応じた位置に配置し、衝突を回避します。

補足

休符の垂直位置をマウスで変更することはできません。

---

手順

1. 垂直位置を変更する休符、または各声部で休符を表示させたい位置にある休符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**休符の位置 (Rest pos.)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

結果

値を増やすと休符が上に移動し、減らすと下に移動します。0 の位置は譜表の第3線にあたります。譜表上の複声部に同じデュレーションの休符がある場合、複数の休符が表示されるようになります。

#### ヒント

- 「**休符の位置 (Rest pos.)**」をオフにすると、選択した休符がデフォルトの位置に戻ります。
- 各声部の休符をすべて表示するか、すべての声部で1つの休符のみ表示するかを選択するには、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**休符の位置 (Rest positioning)**」セクションで設定を行ないます。
- 浄書モードで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオンになっている場合、休符の水平位置と周囲のスペーシングを、音符の位置を変更するときと同様に変更できます。

---

#### 関連リンク

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

[個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する \(393 ページ\)](#)

# スラー

スラーは先細の曲線であり、それがつないだ音符をレガートのアーティキュレーションおよびフレージングで演奏することを示します。

スラーは、状況やインストゥルメントにより、ただフレーズを示す以上の意味を持つ場合があります。たとえば木管楽器のプレーヤーに対しては、スラーはフレーズ中のすべての音符をすべて一息で、タンギングやアーティキュレーションの付け直しを行わずに演奏することを示します。弦楽器のプレーヤーに対しては、スラーはフレーズ中のすべての音符をレガートで、一弓で演奏することを示します。歌手に対しては、スラーは同じ音節を2つ以上の音符で歌うことを示します。

スラーは、適用される音符の符尾の方向に従い、譜表の上下どちらにも配置されます。スラーの終端が音符から離れないようするため、スラーはその途中の音符ではアーティキュレーションより外側に配置されますが、最初と最後の音符では、音符と表示サイズの大きいアーティキュレーションの間に配置されます。たとえば初期設定では、アクセント記号や強調記号はスラー両端より外側に配置されますが、スタッカート記号やテヌート記号はスラー両端より内側に表示されます。



譜表上下のスラーおよび譜表をまたぐスラー

スラーに対するアクセント、マルカート、強調および強調解除のアーティキュレーションの配置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アーティキュレーション (Articulations)**」ページの「**スラー (Slurs)**」セクションで変更できます。

## 補足

スラーをタイと混同しないよう注意してください。見た目は似ていますが、タイは同じピッチの音符を一息で演奏することを示します。そういった意味でタイはリズム記号として、スラーはアーティキュレーションとして捉えることができます。

## 関連リンク

[スラーの入力 \(267 ページ\)](#)

[タイ \(976 ページ\)](#)

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(505 ページ\)](#)

## スラーの一般的な配置規則

譜表に対するスラーの位置とそれに伴うカーブの方向は、スラーでつながれる音符の符尾の方向に従います。スラーが音符の符頭か符尾のどちら側に配置されるかによって、終端の位置は異なります。

### スラーの方向

1つの譜表におけるスラーは、スラーでつながれる音符の符尾がすべて上向きである場合を除き、常に上向きにカーブして音符の上に配置されます。符尾がすべて上向きである場合は、スラーは下向きにカーブして音符の下に配置されます。スラーでつながれる音符に上向きと下向きの符尾が混在する場合、スラーは譜表の上に配置され、上向きにカーブします。



符尾の方向に従いスラーの方向が変更する例

スラーが符尾の方向に従うか、それとも常に音符の上に表示されるかは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで設定できます。

#### 補足

ジャズのスコアでは、スラーはときにアーティキュレーションとして扱われるため、すべてのスラーを譜表の上に配置するのが好ましい場合があります。

### 連行のない音符間の符尾側のスラー

Dorico Pro では、連行のない音符の符尾側にある場合、スラーは符尾の間にスラーが表示され、デフォルトの設定では、符尾の端から少し距離を取って接続されます。



スラーが符尾に接続する位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」セクションにある「**符尾の先端からの垂直オフセット (Vertical offset from end of stem)**」を調節することで変更できます。

#### 関連リンク

[他のアイテムに対するスラーの終端の位置 \(882 ページ\)](#)

## タイのつながりに対するスラーの位置

タイのつながりに対するスラーの位置に関しては、現在使用される楽譜と歴史的な出版物とで異なる表記規則があります。

近代的な表記規則では、タイのつながりの最初の音符からスラーが始まり、タイのつながりの最後の音符で終わります。この表記では、フレーズ全体の長さが演奏者に視覚的にはっきり伝わり、演奏を助けます。Dorico Pro のデフォルトです。



タイのつながりの最後の音符で終わるスラー

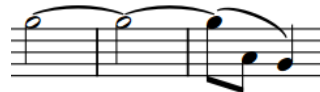


タイのつながりの最初の音符から始まるスラー

一方、歴史的な出版物においては、スラーはタイのつながりの最初の音符で終わり、タイのつながりの最後の音符から始まる場合があります。この違いにより、スラーが短くなって譜表の上下に広がる幅が抑えられるため、垂直方向のスペースが節約されます。



タイのつながりの最初の音符で終わるスラー



タイのつながりの最後の音符から始まるスラー

すべてのスラーについて、スラーの開始位置をタイのつながりの最初または最後の音符どちらに合わせるか、また終了位置をタイのつながりの最初または最後の音符どちらに合わせるか、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで選択できます。標準の音符間のスラーと装飾音符から始まるスラーとは、異なるオプションが用意されています。

## タイのつながりに対するスラーの位置を変更する

垂直のスペースを節約するために、タイのつながりに対するスラーや装飾音から始まるスラーの位置を設定できます。

### 手順

1. タイのつながりに対する位置を変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - **タイのつながりでの開始位置 (Start pos. in tie chain)**
  - **タイのつながりでの終了位置 (End pos. in tie chain)**
3. 各プロパティに以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **最初の音符 (First note)**
  - **最後の音符 (Last note)**

### 結果

タイのつながりに対する選択したスラーの位置が変更されます。

### ヒント

タイのつながりに対するすべてのスラーのデフォルト位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで変更できます。標準の音符間のスラーと装飾音符から始まるスラーとは、異なるオプションが用意されています。

### 関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## 装飾音符に対するスラーの位置

スラーが装飾音符から始まり装飾音符の直後の標準の音符で終わる場合、スラーに影響する特定の配置ルールがあります。

ルールは以下になります。

- スラーは符尾ではなく符頭を接続します。
- スラーは装飾音符の比率に合わせて縮小されます。
- スラーは加線を覆い隠してはいけません。



- スラーは、音符の下に配置したとき標準の音符の臨時記号に衝突するような場合は、音符の上に配置されます。

特別な配置ルールそれぞれのパラメーターの値は調節できます。たとえば、装飾音符のスラー右端の、それが接続される縮小なしの標準の符頭に対する垂直および水平方向のオフセットは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションで変更できます。

#### 補足

これらのルールは、スラーが装飾音符の直後の音符を超えた位置にある標準の音符までつながる場合は適用されません。

一般的な配置規則に従い、Dorico Pro のデフォルトにおいてスラーは装飾音符の下に下向きのカーブで表示されます。装飾音符から始まるスラーが音符の上に上向きのカーブで表示されるのは、複声部における符尾が上向きの声部のみです。



複声部における装飾音符のスラーのカーブ方向の自動変更

装飾音符のスラーの自動配置に対する変更としては、装飾音符の符尾の方向の変更、スラーの向きの変更、および浄書モードのスラーのハンドルを使用したより精密なスラーの位置調整が行なえます。

#### 関連リンク

- [スラーのカーブ方向の変更 \(898 ページ\)](#)
- [音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)
- [装飾音符の一般的な配置規則 \(665 ページ\)](#)
- [浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)
- [スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## 譜表線に対するスラーの位置

スラーの終端は譜表線に触れてはならず、またスラーの弧の頂点は譜表線上に来てはなりません。

これが表記規則となっているのは、頂点が譜表線上に来るスラーは、譜表線とスラーのカーブによって三角形のくさび型を形成する場合がありますからです。スラーの頂点が譜表線上にある場合は、頂点が譜表線の上か下に出るように高さを調節できます。

#### 補足

Dorico Pro は自動的にスラーの終端が譜表線に触れないようにしますが、スラーの頂点を適切に配置するには手動の調節が必要な場合があります。

スラーの終端と譜表線との最小距離の値は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションで設定できます。スラーの終端のデフォルト位置は、開始位置/終了位置が譜表線に触れることのないように、譜表線に対し上か下に 1/4 スペースの距離となっています。

#### 関連リンク

- [浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)
- [スラーの高さの変更 \(895 ページ\)](#)

## 他のアイテムに対するスラーの終端の位置

衝突を回避するために、スラーの終端のデフォルト位置は、スラーが音符の符頭側と符尾側どちらに位置するか、譜表線に対する位置、そしてアーティキュレーション、タイ、他のスラーが同じ位置にあるかどうかによって変化します。

### 符頭および符尾に対するスラーの終端の位置

符頭に対するスラーの終端のデフォルト位置は、譜表の間上にある符頭の 1/2 スペース上、および譜表の線上にある符頭の 1/4 スペース上になります。

スラーの終端の垂直および水平方向のオフセットは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」セクションで変更できます。ただし、スラーの終端は「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションの「**衝突回避のためのスラー内側の最小間隔 (Minimum gap inside slur curvature to avoid collisions)**」の値よりも符頭に近づくことができないため、この値も小さくしなければならない場合があります。

#### 補足

この値は、プロジェクト中のすべてのスラーの衝突回避に影響を与えます。

### アーティキュレーションに対する終端の位置

初期設定では、強弱および強調のアーティキュレーションはスラーの終端より外側に配置されますが、デュレーションのアーティキュレーションは内側に配置され、終端を押し出します。

スラーの終端をアーティキュレーションに近づけるには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションにある「**衝突回避のためのスラー内側の最小間隔 (Minimum gap inside slur curvature to avoid collisions)**」の値を小さくします。

#### 補足

この値を変更すると、プロジェクト全体のスラーの終端の位置に影響を与えます。アーティキュレーションに対するスラーの終端の位置は、浄書モードで個別に移動させるほうが適切である場合もあります。

### タイおよび他のスラーに対するスラーの終端の位置

スラーの終端の、同じ音符で開始するまたは終了するスラーに対するデフォルト位置は、1/4 スペース上になります。

これを変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションで「**同じ音符を共有する 2 つのスラーの垂直方向の最小間隔 (Minimum vertical gap between two slurs starting or ending on the same note)**」の値を増減させます。

タイでつながれた音符にスラーの表示位置を近づけるには、スラーの終端の符頭に対する位置を調整します。

#### 関連リンク

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

[アーティキュレーション \(503 ページ\)](#)

## 浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページでは、スラーの外観、位置および配置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「スラー (Slurs)」ページのオプションを使用すると、スラーの方向、スタイル、高さ、および線の太さを変更できます。また、符頭、符尾、装飾音符およびタイに対するスラーの位置に関する詳細な値を設定し、譜表をまたぐスラーの衝突回避に関する動作を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 譜表および声部をまたぐスラー

譜表をまたぐスラーは、ある譜表から始まって別の譜表で終わります。声部をまたぐスラーは、ある声部から始まって別の声部で終わります。

Dorico Pro は、譜表および声部をまたぐスラーの配置を標準のスラーの配置と同様に行なうため、それらの外観は標準のスラーと同じになる場合があります。譜表および声部をまたぐスラーの移動および長さの変更は標準のスラーと同様に行なえますが、その動作は同じではありません。

たとえば、声部をまたぐスラーは同じ譜表の別の声部には移動できず、また同じ譜表の別の声部への延長もできません。スラーが開始または終了する声部のいずれかにスラー内の符頭がない場合は、声部をまたぐスラーの短縮もできません。

譜表をまたぐスラーの移動および長さの変更は、終端が属するのと同じ譜表上の音符へしか行なえません。たとえば、譜表をまたぐスラーが下段の譜表から始まって上段の譜表で終わるフレーズをつなぐ場合、譜表をまたぐスラーを短縮できるのは上段の譜表の最初の音符までで、下段の譜表の音符までは縮められません。

声部をまたぐスラーにおいて、声部は同じ譜表にあっても、異なる譜表にあっても構いません。

関連リンク

[スラーの長さの変更 \(886 ページ\)](#)

[スラーの位置の移動 \(885 ページ\)](#)

## 譜表および声部をまたぐスラーの入力

譜表および声部をまたぐスラーを入力できます。たとえば、ピアノやハーブなど大譜表を用いるインストゥルメントにおいては、フレーズが上下の譜表にわたって続き、スラーでつながれる場合があります。

手順

1. 記譜モードで、任意の声部または譜表から、スラーを開始する音符を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら、手順 1 の音符と同じインストゥルメントに属する任意の声部または譜表で、スラーを終了する音符をクリックします。

補足

この 2 つの音符以外は選択しません。

3. **[S]** を押します。

#### 結果

声部または譜表をまたぐスラーが、選択した音符間にわたって入力されます。スラーは、選択範囲内の音符の符尾の方向に従い、音符の上または下に配置されます。

#### 手順終了後の項目

スラーのカーブ方向は個別に変更できます。

#### 関連リンク

[スラーのカーブ方向の変更 \(898 ページ\)](#)

## 入れ子状のスラー

入れ子状のスラーでは 2 つ以上のスラーが同時に使用され、全体にわたるスラーがフレーズの構造を、内側のスラーがフレーズ内のアーティキュレーションを示します。これは“スラー内のスラー”とも呼ばれます。

全体にわたる外側のスラーの範囲内の音符の符尾の方向、および「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの設定に従い、内側のスラーは外側のスラーとは譜表の逆側に表示される場合もあります。



#### 入れ子状のスラーによるフレーズ

入れ子状のスラーの終端同士のデフォルト距離を変更する場合は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションで「**同じ音符を共有する 2 つのスラーの垂直方向の最小間隔 (Minimum vertical gap between two slurs starting or ending on the same note)**」の値を増減させて、プロジェクト全体に適用できます。

入れ子状のスラーは標準のスラーと同様の方法で入力できます。初期設定では、浄書モードのプロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで「**自動カーブ調整の無効化 (Disable auto curve adjustment)**」をオンにしない限りは、Dorico Pro が位置の自動調整を行なって衝突を回避します。

#### 関連リンク

[スラーの衝突回避を有効化/無効化する \(903 ページ\)](#)

## ステップ入力中の入れ子状のスラーの入力

たとえば入力中すでにフレーズの付け方が分かっている場合などは、ステップ入力中に直接入れ子状のスラーを入力できます。

#### 手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 選択中の音符から 2 本のスラーを開始するには、**[S]** を 2 回押します。  
スラーの 1 つは内側のスラー、もう 1 つは外側のスラーになります。
3. 音符を入力します。  
音符を入力し続けると、入力する音符間に休符が含まれていたとしても、スラーは自動的に伸びていきます。

4. **[Shift]+[S]** を 1 回押すと、選択中の音符で内側のスラーが終了します。
  5. 音符の入力を続けます。
  6. 必要に応じて、他の内側のスラーを開始/終了します。
  7. **[Shift]+[S]** を再度押すと、選択中の音符で外側のスラーが終了します。
- 

関連リンク

[入れ子状のスラー \(884 ページ\)](#)

## 既存の音符への入れ子状のスラーの追加

既存の音符に複数のスラーを追加して入れ子状にできます。

---

手順

1. 記譜モードで、外側のスラーに含める音符を選択します。
2. **[S]** を押して外側のスラーを入力します。
3. 外側のスラーの範囲内で、内側のスラーでつなぐ音符を選択します。
4. **[S]** を押して内側のスラーを入力します。
5. 必要に応じて、手順 3 と 4 を繰り返して他の内側のスラーを作成します。

補足

- Dorico Pro はスラーが衝突しないように自動的に調整を行ない、短いスラーは長いスラーの内側に配置されるため、外側のスラーと内側のスラーはどのような順番で入力しても構いません。
  - 個々の音符について、プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで「自動カーブ調整の無効化 (Disable auto curve adjustment)」をオンにすると、スラーの自動衝突回避は行なわれなくなります。
- 

関連リンク

[スラーの衝突回避 \(902 ページ\)](#)

## スラーの位置の移動

スラーは入力後に別の位置へ移動できます。スラーの位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにおけるプロジェクト全体の設定に従います。

---

手順

1. 記譜モードで、移動するスラーを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できるスラーは 1 つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーを譜表上の次または前の符頭の位置に移動します。
    - **[Alt]+[→]** を押して、譜表上の次の符頭まで移動します。
    - **[Alt]+[←]** を押して、譜表上の前の符頭まで移動します。
    - スラーをクリックして左右にドラッグします。
- 

結果

スラーが譜表の次または前の符頭に移動します。

#### 補足

スラーのデュレーションは通常維持されます。ただし、移動先の音符のリズムによっては、移動前のデュレーションから長さが変化する場合があります。

---

手順終了後の項目

個々のスラーの形状および表示位置は、浄書モードで調整できます。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## スラーの長さの変更

スラーのリズム上の長さは、スラーを入力したあとでも変更できます。

#### 補足

スラーの変更できる長さは、譜表をまたぐスラーから対応する終端の位置と同じ譜表に含まれる音符まで、または声部をまたぐスラーから対応する終端の位置と同じ声部に含まれる音符までのみです。

---

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するスラーを選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるスラーは1つだけです。

---

2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーの長さを変更します。
  - **[Shift]+[Alt]+[→]** を押して、次の符頭までスラーを伸ばします。
  - **[Shift]+[Alt]+[←]** を押して、前の符頭までスラーを縮めます。

#### 補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。スラーの始端は、スラー全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。

---

- スラーの開始位置または終了位置をクリックして、次または前の符頭までドラッグします。
- 

結果

選択したスラーの長さが変更されます。

関連リンク

[スラーの位置の移動 \(885 ページ\)](#)

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[譜表および声部をまたぐスラー \(883 ページ\)](#)

## 複数の譜表にわたってリンクされたスラー

複数の譜表で同じ位置にある同じデュレーションのスラーは、リンクすることができます。このリンクは、スラーやスラーを含むフレーズを譜表間でコピーアンドペーストした場合、またはスラーを同時に入力した場合は自動的に行なわれます。

スラーがリンクされている場合、リンクのグループ内で1つのスラーを動かすと、すべてのリンクされたスラーが同じように動きます。同様に、リンクのグループ内で1つのスラーの長さを変更すると、すべてのリンクされたスラーの長さが同じように変更されます。

ただし、リンクのグループ内で1つのスラーを削除しても、選択したスラーが削除されるだけで、グループ全体は削除されません。

リンクされたスラーは、グループ内のいずれかのスラーが選択されると全体が強調表示されます。



リンクされた3つのスラーのうち一番上のスラーが選択された状態

スラーのリンクおよびリンク解除は手動でも行なえます。

関連リンク

[スラーの入力 \(267 ページ\)](#)

[スラーのリンクの解除 \(888 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(282 ページ\)](#)

## スラーのリンク

Dorico Pro は、スラーやスラーを含むフレーズを譜表をまたいでコピーアンドペーストした場合、またはスラーを同時に入力した場合、同じ位置にある同じデュレーションのスラーを自動的にリンクさせます。一方、スラーは手動でもリンクできます。

手順

1. 記譜モードでリンクさせるスラーを選択します。

補足

リンクできるのは、同じ位置から開始する同じデュレーションのスラーだけです。

2. 「編集 (Edit)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「リンク (Link)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択したスラーがリンクします。

関連リンク

[複数の譜表にわたってリンクされたスラー \(887 ページ\)](#)

## スラーのリンクの解除

自動的にリンクされたスラーは、たとえばそれぞれ個別に長さを変更する場合など、手動でリンクを解除できます。

### 手順

1. 記譜モードで、リンクされたグループの中からリンクが不要なスラーを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「リンクを解除 (Unlink)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択したスラーにリンクされたスラーのリンクが解除されます。

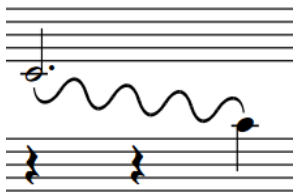
### 補足

グループから1つのスラーだけリンクを解除することはできません。

## スラーのセグメント

標準的なスラーは1つのセグメントからできています。複数セグメントによるスラーを使用すると、カーブが1つのスラーより複雑な形状を作成できるなど、より精巧な形状が実現します。

スラーにセグメントを追加すると、初期設定ではその長さの中に均等な幅の波状の線が作成されます。そのため、セグメントを増やすほどそれぞれの波の幅は短くなります。

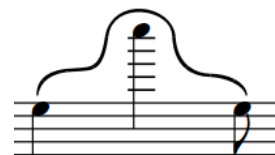


8つのセグメントによるスラー

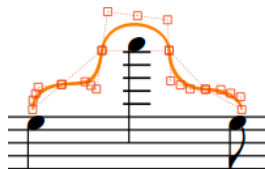
浄書モードでは、それぞれのセグメントに個別に5つの四角いハンドルのセットがあるため、スラー中の他のセグメントから独立して表示を変化できます。これにより、通常とは異なる複雑な形状をスラーに与えられます。

### 補足

計画している形状にあるカーブよりも多くのセグメントが必要となる場合があります。多くの場合、大きな角度変化ごとにセグメントが必要となるためです。Dorico Pro では、いつでもスラー内のセグメント数を増減できます。



5つのセグメントによって作成された通常とは異なる形状のスラー



同じスラーに5セグメントすべてのハンドルの位置を表示したもの

### 関連リンク

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

[浄書モードの複数セグメントによるスラー \(890 ページ\)](#)



## スラーのセグメント数を個別に変更する

たとえば通常とは異なる形状のスラーを作成する場合などに、スラーのセグメント数を個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、セグメント数を変更するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「セグメント数 (Number of segments)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

値を大きくすると、スラーのセグメント数が増加します。値を小さくすると、スラーのセグメント数が減少します。

### 手順終了後の項目

ハンドルを使用すると、スラーのセグメントの形状をより詳細に調整できます。

### 補足

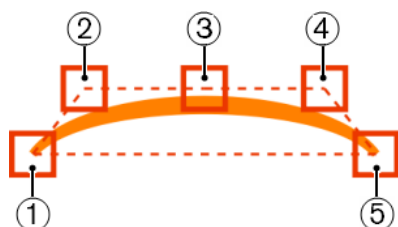
複数セグメントによるスラーのハンドルは、隣接するセグメントの対応する種類のハンドルにリンクしています。ハンドルを動かすと、リンクしたハンドルが同じだけ逆方向に移動します。

### 関連リンク

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## 浄書モードのスラー

浄書モードでは、各スラーには別個に動かせる5つの四角いハンドルがあります。浄書モードでスラーのハンドルを使用してスラーを編集するとき、各ハンドルはスラーの対応する部位を調整しますが、同時にスラーの他のハンドルの位置にも影響を与えます。



浄書モードでは、スラーには以下のハンドルがあります。

- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 スラーの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 右の終端

たとえば、左の終端を動かすとスラーの開始位置が移動しますが、他のハンドルは元の位置を保持します。しかし、右のコントロールポイントを動かすと、同時にスラーの高さのハンドルも移動されます。これにより、スラーの形状に対する精密な制御を実現しつつ、スムーズなカーブの形状が確保されます。

#### 補足

複数セグメントによるスラーにおいては、制御ポイントのハンドル間には、他のハンドルとの連動に影響する追加のリンクが存在します。

これらのハンドルを移動してスラーの形状を変化させるには、キーボード、マウス、およびプロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループ下のプロパティを使用できます。

関連リンク

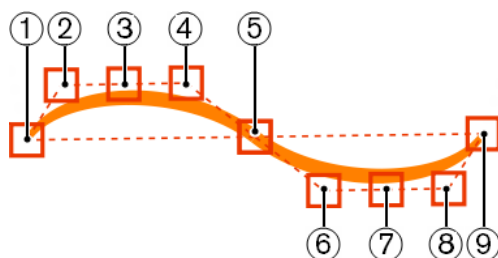
[スラーの肩のオフセット](#) (896 ページ)

[スラーの高さ](#) (894 ページ)

## 浄書モードの複数セグメントによるスラー

浄書モードでは、S字型スラーなど複数セグメントによるスラーの各セグメントには、標準のスラーと同様のハンドルが表示されます。これらによって、複数セグメントによるスラーの各セグメントは、別々のスラーのように別個に編集できますが、一貫した形状を維持するために、特定のハンドルを動かすと他のハンドルも同時に移動します。

浄書モードでは、複数セグメントによるスラーには以下のハンドルがあります。



- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 スラーの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 中央の制御ポイント
- 6 左の制御ポイント
- 7 スラーの高さ
- 8 右の制御ポイント
- 9 右の終端

各ハンドルは標準のスラーと同様に選択して移動できますが、複数セグメントによるスラーのハンドルは隣接するセグメントとリンクしています。リンクした制御ポイントを動かすと、次または前のセグメントの開始側または終了側の制御ポイントが同じだけ逆方向に移動します。これにより鋭角の発生を防ぎ、複数セグメントによるスラーのカーブができるだけスムーズで対称形を保つようにします。

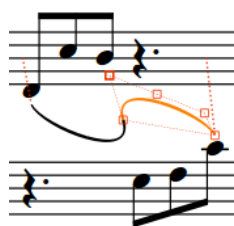
複数セグメントによるスラーでは、右の制御ポイントは隣接するセグメントの左の制御ポイントにリンクしています。隣接するセグメントがない場合、右または左の終端に隣接する制御ポイントは独立して動かせます。たとえば、上図のラベルに従えば、制御ポイント 4 は制御ポイント 6 とリンクしていますが、制御ポイント 2 と 8 は他の制御ポイントとリンクしていません。

同様に、スラーの高さのハンドルを動かすと、隣接するセグメントのスラーの高さのハンドルが同じだけ逆方向に移動します。たとえば、3セグメントあるスラーの真ん中のセグメントでスラーの高さのハンドルを動かすと、3つあるスラーの高さのハンドルすべてが移動します。

例



左の制御ポイントが選択されています。



選択した左の制御ポイントを左上に動かすと、隣のセグメントの右の制御ポイントが右下に移動します。

## スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更

スラーは全体の表示位置を移動できるほか、スラーの個々のハンドルを移動して、個々のスラーの形状を変更したり終端の表示位置を移動したりできます。これはスラーの外観のみ変化させ、適用されるリズム上の位置は変化しません。

手順

1. 浄書モードで以下のいずれかの操作を行なって、移動するスラー全体またはスラーの個々のハンドルを選択します。
  - **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のスラーをクリックします。
  - スラー全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。
  - 複数のスラーの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーまたはハンドルを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押してハンドルを右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押してハンドルを左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押してスラーまたはハンドルを上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押してスラーまたはハンドルを下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- スラーをクリックして上または下にドラッグします。
- ハンドルをクリックして任意の方向にドラッグします。

補足

スラー全体は左右には動かせず、移動できるのは上下のみです。

3. 必要に応じて手順 1 と 2 を繰り返し、他のスラーやスラーのハンドルを移動します。

#### 結果

選択したスラーまたはスラーのハンドルが移動します。選択したハンドルに応じて、対応するスラーの形状が変化する場合があります。

#### ヒント

スラーのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」は、スラーの左側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了オフセット (End offset)」は、スラーの右側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「開始ハンドルオフセット (Start handle offset)」は、スラーの左制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了ハンドルオフセット (End handle offset)」は、スラーの右制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

たとえば、スラー全体を右上に移動させた場合は、すべてのハンドルが移動されることにより、すべてのプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することによっても、個々のスラーの形状を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

[スラーの高さ \(894 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセット \(896 ページ\)](#)

## スラーの角度を個別に変更する

個々のスラーについて、全体の形状に影響することなく角度や回転を変更できます。

これはたとえば、組段区切りの後にくるスラーの開始側の端をデフォルト位置よりも高くする場合に、スラーの回転角度を変化させつつスラーのハンドルの相互の位置関係を保持できるため便利です。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、角度を変更するスラーの終端を選択します。

#### ヒント

- 複数のスラーから個々のハンドルを選択するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
- 選択したアイテムだけでなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」>「ハンドルを表示 (Show Handles)」>「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. **[Alt]** を押しながらかlickし、任意の方向にドラッグします。

#### 補足

個々のスラーの角度変更にキーボードは使用できません。

---

#### 結果

選択したスラーの角度や回転が、形状に影響することなく変更されます。

例



[Alt] を押さずに終端を移動した例



[Alt] を押しながら終端を移動した例

## スラーの太さを個別に変更する

スラーの太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。スラーの中央部の太さをスラーの終端とは別に変更することもできます。

手順

1. 浄書モードで、太さを変更するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
  - 終端の太さ (End thickness)
  - 中央部の太さ (Middle thickness)
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を大きくすると選択したスラーの対応する部分が太くなり、値を小さくすると細くなります。

ヒント

- プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応する部分が初期設定の太さに戻ります。
- すべてのスラーのデフォルト太さに対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## 大きなピッチ差をつなぐ短いスラー

短いスラーが大きなピッチ差をつなぐときは、釣り合いを取るために大きく回転します。これにより、短いスラーの終端が過度に角ばってしまう場合があります。

スラーの制御ポイントのハンドルを動かして、カーブを調整できます。

3つの例のうち、真ん中のスラーが最もスムーズなカーブになっています。右側のスラーはハンドルの調整が不適切なため、カーブが過度に角ばっています。

下段にはハンドルの位置が表示され、それぞれの上段のカーブがどのように作成されているか示しています。



大きなピッチ差をつなぐ短いスラー、調整なし



同じスラーの形状を調整し、カーブをスムーズにしたもの



同じスラーへの調整が不適切で、カーブが過度に角ばっているもの



デフォルトのハンドルの位置



対応するスラーを形成するハンドルの位置



対応するスラーを形成するハンドルの位置

## ヒント

スラーの末端を調整するときは、以下の指針に従うと最良の結果が得られます。

- スラーの低い側の制御ポイントが、その隣の末端のハンドルが示すスラーの幅の外側にはみ出さないこと。
- スラーの高い側の制御ポイントが、末端に対し 90 度より大きい角度をつくらないこと。角度の判断には破線を使用できます。

短いスラーの末端の形状調整には別のやり方もあります。

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして確認できる「**短いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short slur)**」の値を大きくすることで調整し、プロジェクト全体に適用できます。
- 浄書モードのプロパティパネルで「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」および「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」をオンにし、「**X**」の値を変更することで、個別に調整できます。
- 浄書モードのスラーのハンドルを動かすことで、個別に調整できます。

## 関連リンク

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## スラーの高さ

スラーの高さは、スラーが音符の上下に垂直方向にどれだけ延びるかを決定します。

スラーの高さの値に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで変更できます。浄書モードでは、個々のスラーの高さについても変更できます。

スラーの高さを増やすと、譜表からより遠くまで延びるようになります。これによりスラーの形状はより丸くなり、より多くの垂直方向のスペースを取るようになります。垂直方向のスペースが限られる状況では、スラーを丸くしてプレイヤーにとって読みやすくすることと、譜表に重ならないようにすることのバランスを取る必要があります。



デフォルトの高さの長いスラー



高さを増やした長いスラー



デフォルトの高さの長く平坦なスラー



高さを増やした長く平坦なスラー

#### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページの「デザイン (Design)」セクションにある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすることで、短いスラー、短く平坦なスラー、長いスラー、および長く平坦なスラーの高さの値を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## スラーの高さの変更

たとえば特に長いスラーの高さを抑えるなどの場合に、個々のスラーの高さをプロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、高さを変更するスラーの中央のハンドル (高さのハンドル) を選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑])。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

#### 結果

選択したスラーの高さが変更されます。

#### 補足

- すっきりした見た目と釣り合いのとれた曲線を維持するためにスラーの高さを手動で変更する場合、スラーの高さハンドルを上下左右に少し移動する必要があります。
- スラーの高さのハンドルを左右に動かすと、スラー全体の形状に影響を与えます。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、プロジェクト全体のスラーのデフォルトの高さを制御しているオプションがあります。短いスラーと長いスラーに個別の設定を使用できます。

関連リンク

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更](#) (891 ページ)

## スラーの肩のオフセット

多くの場合、スラーの両端はスラーの弧より急な角度で符頭に近づくため、スラーの肩はスラーのカーブの角度に影響し、終端に向かってスラーが符頭に近づくようになります。

肩のオフセットを大きくするとカーブの始まりの角度がなだらかになり、肩のオフセットを小さくするとカーブの始まりの角度が急になります。よって理想的なカーブのためには、肩のオフセットはスラーの高さとのバランスを取らなければなりません。



初期設定の肩のオフセットが 1/5 の長いスラー



肩のオフセットを 1.5 に上げた長いスラー



肩のオフセットを 1/2 に下げた長いスラー

スラーおよび平坦なスラーの肩のオフセットに対するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページの「デザイン (Design)」セクションにある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると確認できる、以下のオプションの値によって変更できます。

- 短いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short slur)
- 長いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of long slur)
- 平坦なスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of flat slur)

個々のスラーの肩の調整は、浄書モードで行なえます。

関連リンク

[スラーの高さ](#) (894 ページ)

## スラーの肩のオフセットを変更する

スラーの制御ポイントのハンドルを移動して、プロジェクト全体の設定とは別に個別のスラーの肩を調整できます。それぞれの制御ポイントは個別に移動できます。

手順

1. 浄書モードで、肩の調整を行なうスラーの制御ポイントのハンドルの 1 つを以下のいずれかの操作を行なって選択します。
  - スラー全体を選択した状態で [Tab] を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。
  - 複数のスラーの個々のハンドルを、[Ctrl]/[command] を押しながらかlickします。



#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、肩の調整を行なうスラーの他の制御ポイントのハンドルについても、手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

選択したスラーの肩のオフセットが変更されます。

#### ヒント

- スラーのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
- 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、スラーの左制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End handle offset)**」は、スラーの右制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することによっても、個々のスラーの肩のオフセットを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のスラーのデフォルトの肩のオフセットを制御しているオプションがあります。短いスラーと長いスラーに個別の設定を使用できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## スラーのカーブ方向

スラーのカーブは上向き、下向き、または複数セグメントによる S 字型の形状を取ります。

プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループの「**方向 (Direction)**」をオンにすると、スラーのカーブ方向に関する以下のオプションが使用できるようになります。

#### 上 (Up)

スラーのカーブ方向を強制的に上向きにして、音符の上に表示します。



#### 下 (Down)

スラーのカーブ方向を強制的に下向きにして、音符の下に表示します。



#### 上/下 (Up/Down)

スラーに強制的に2つのセグメントを与え、1つめは上向きのカーブ、2つめは下向きのカーブで逆S字型を形成します。通常これはピアノパートの、たとえばフレーズが下段の譜表から始まり上段の譜表で終わるようなときなどに使用されます。



#### 下/上 (Down/Up)

スラーに強制的に2つのセグメントを与え、1つめは下向きのカーブ、2つめは上向きのカーブでS字型を形成します。通常これはピアノパートの、たとえばフレーズが上段の譜表から始まり下段の譜表で終わるようなときなどに使用されます。



#### ヒント

浄書モードで各スラーの四角いハンドルを使用することで、個々のスラーおよびスラーの各セグメントの詳細な形状を調整できます。

#### 関連リンク

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## スラーのカーブ方向の変更

個々のスラーのカーブ方向は、プロジェクト全体の設定より優先される形で、上向き、下向き、または複数セグメントによるS字型に変更できます。

#### 手順

1. カーブ方向を変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「方向 (Direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 上 (Up)
  - 下 (Down)
  - 上/下 (Up/Down) (逆S字型)
  - 下/上 (Down/Up) (S字型)

#### 結果

選択したスラーのカーブ方向が変更されます。

#### ヒント

- 浄書モードで各スラーのハンドルを使用することで、スラーおよびスラーの各セグメントの詳細な形状を調整できます。

- スラーのデフォルトのカーブ方向をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**スラー (Slurs)**」ページで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## スラーのスタイル

Dorico Pro ではさまざまなスタイルのスラーが利用でき、それぞれ異なる意味を示すとともに異なる状況で使用されます。

プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループの「**スタイル (Style)**」をオンにすると、スラーのスタイルに関する以下のオプションが使用できるようになります。

### 実線 (Solid)

これはスラーのデフォルトのスタイルです。先細の実線で表示されるスラーです。先に行くほど細く、中央ほど太くなります。



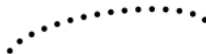
### 破線 (Dashed)

先細の破線で表示されるスラーです。たとえばプレスやボウイングの推奨されるパターンを示すためのオプションのスラーとして使用される場合があります。



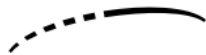
### 点線 (Dotted)

点線で表示されるスラーです。スラー全体の長さにわたって同サイズの点が等間隔で並びます。



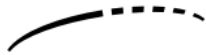
### 前半部分が破線 (Half-dashed start)

スラーの前半が破線で表示され、後半が実線で表示されます。校訂版で、元版ではスラーが不完全な形で記譜されていたことを表現するのに使用されます。



### 後半部分が破線 (Half-dashed end)

スラーの前半が実線で表示され、後半が破線で表示されます。校訂版で、元版ではスラーが不完全な形で記譜されていたことを表現するのに使用されます。



### 編者注 (Editorial)

黒い実線で表示されますが、長さのちょうど半分的位置に短い縦線が、スラーの曲線と垂直に交差しています。スラーが編集者によって追加されたもので、元版にはなかったものであることを示すのに使用されます。



#### ヒント

これらのオプションそれぞれの詳細なパラメーターは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで設定してプロジェクト全体に適用できます。たとえば「**編者注 (Editorial)**」のスラーの短い縦線の長さや幅、点線の点の直径や破線の線の長さ、点線や破線の間隔の大きさなどを変更できます。

---

## スラーのスタイルの変更

個々のスラーは入力後にスタイルを変更できます。

---

#### 手順

1. スタイルを変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **実線 (Solid)**
    - **破線 (Dashed)**
    - **点線 (Dotted)**
    - **前半部分が破線 (Half-dashed start)**
    - **後半部分が破線 (Half-dashed end)**
    - **編者注 (Editorial)**
- 

## スラーの破線/点のサイズを個別に変更する

破線/点線のスラーの破線の長さや点の大きさは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

#### 補足

これは破線/点線のスラーにのみ適用されます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、破線の長さ/点の大きさを変更する破線/点線のスラーを選択します。
  2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
    - 破線のスラーの場合は、「**破線の長さ (Dash length)**」をオンにします。
    - 点線のスラーの場合は、「**点の大きさ (Dot size)**」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

値を大きくすると破線が長く、点が大きくなり、値を小さくすると破線が短く、点が小さくなります。

---

#### ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のスラーの線/点のデフォルトの大きさを設定しているオプションがあります。

---

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## 破線/点線のスラーの間隔の大きさを変更する

破線/点線のスラーの間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

手順

1. 浄書モードで、間隔の長さを変更する破線/点線のスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - 破線のスラーの場合は、「破線の間隔の長さ (Dash gap length)」をオンにします。
  - 点線のスラーの場合は、「点線の間隔の長さ (Dot gap length)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

---

結果

値を大きくすると破線/点線の間隔が大きくなります。値を小さくすると破線/点線の間隔が小さくなります。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のスラーの間隔のデフォルトの長さを設定するオプションがあります。

---

## 個々のスラーの平坦なスラーへの変更

標準として使用されることはあまりありませんが、一部の出版社は、スラーが占める垂直方向のスペースを削減するために平坦なスラーを使用します。個々のスラーは、プロジェクト全体の設定より優先される形で、平坦なスラーに個別に変更できます。

少数の音符をつなぐような短いスラーは、平坦なスラーにすると外見が奇妙になる場合があるため、プロジェクト全体で平坦な曲線スタイルを選択するのは適切ではない場合があります。しかし、プロジェクト中で 1、2 回だけ平坦なスラーを使用するのも同様に風変わりだと考えられます。

補足

プロジェクト中の 1 つか 2 つのスラーでだけ曲線スタイルを変更することは避けるようおすすめします。曲線スタイルを変更するよりも、たとえば個々のスラーの太さの変更、スラーの肩のオフセットの調整、またはスラーの高さのハンドルを使用した高さの調整を浄書モードで行なうことの方がより効果的である場合があります。

---

手順

1. 曲線スタイルを変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「曲線スタイル (Curvature style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 通常 (曲線) (Normal (curved))
  - フラット (Flat)

---

結果

選択したスラーの曲線スタイルが変更されます。

## ヒント

すべてのスラーの曲線スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションで変更できます。

### 関連リンク

[スラーの太さを個別に変更する \(893 ページ\)](#)

[スラーの高さの変更 \(895 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセットを変更する \(896 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## スラーの衝突回避

Dorico Pro は初期設定では、スラーと弧内のアイテムとの衝突を回避するように、形状と位置を自動的に調整します。

つまりある符頭が、上向きにカーブするスラーの中で他より高い位置にある場合、または下向きにカーブするスラーの中で他より低い位置にある場合、衝突を回避しつつ符頭がスラー内に収まるように、スラーのカーブが調整されます。衝突回避は個々のスラーにおいて手動で無効にできます。

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションでは、衝突回避のためにスラーを調整する方法のオプションを選択できます。これには、調整におけるスラーの形状の変更と終端の移動のバランスの選択や、左右非対称なスラーを認めるかどうかなどが含まれます。



衝突回避が有効化されたスラー (デフォルト)



衝突回避が無効化されたスラー

### 譜表をまたぐスラーの衝突回避

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションでは、譜表をまたぐスラーの衝突回避をオンまたはオフにできます。

これにより衝突が回避されますが、譜表をまたぐスラーの配置は複雑さが増すため、浄書モードにおける手動の調整がさらに必要となる場合があります。

### 補足

譜表間の S 字型スラーは衝突回避を一切行わないため、この設定は適用されません。

### フラットの臨時記号を二分するスラー

出版される楽譜における記譜規則に従えば、スラーは垂直方向のスペースを抑えるためにフラットの臨時記号の棒を二分できますが、シャープやナチュラルを二分できません。



「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページでは、スラーによるフラット記号の二分の禁止を選択したり、フラット記号の棒がスラーの上に突き抜ける最大量を変更したりできます。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(883 ページ\)](#)

## スラーの衝突回避を有効化/無効化する

個々のスラーについて、プロジェクト全体の設定より優先される形で、衝突回避のための自動調整を有効化/無効化できます。

手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化または無効化するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、「**自動カーブ調整の無効化 (Disable auto curve adjustment)**」をオンまたはオフにします。

結果

選択したスラーが、プロパティをオンにしたときは衝突回避を行わず、プロパティをオフにしたときは衝突回避を行なうようになります。

ヒント

プロジェクト全体の譜表をまたぐスラーすべての衝突回避については、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションで有効化/無効化できます。

またこのセクションでは、衝突回避を行なうスラーの形状および終端の位置に関するデフォルト設定のカスタマイズも行なえます。

## 組段およびフレーム区切りをまたぐスラー

スラーは組段区切りおよびフレーム区切りを自動的にまたぎます。

組段区切りまたはフレーム区切りは、スラーを2つに分割します。スラーの前半の終わり、およびスラーの後半の始まりは、どちらも初期設定では譜表より垂直に1スペース外側に配置されます。

浄書モードでは、スラーのそれぞれの部分を個別に移動および編集できます。これにより、スラーのそれぞれの部分の開始位置または終了位置の高さを、組段ごとに個別に調整できます。

区切りで分割されるフレーズに入れ子状のスラーが含まれるような場合など、複数のスラーが同じ組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐ場合は、スラーの終端は自動的に揃えて重ねられ、垂直に1/2スペース以上の間隔を空けられます。



スラーの前半部分を表示する組段の終わり。右側の終端は次の組段への延長を示しています。



スラーの広範部分を表示する組段の始まり。左側の終端は前の組段から延長してきたことを示しています。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(889 ページ\)](#)

[スラーとスラーのハンドルの表示位置の変更 \(891 ページ\)](#)

## 再生時のスラー

再生時、スラーはレガートの演奏技法を実行します。初期設定では、これは楽譜上の記譜に影響することなく、MIDI ノートの長さを延長します。

スラーなしの音符が記譜上のデュレーションの 85% の長さで発音されるのに対し、スラーの音符は記譜上のデュレーションの 105% の長さで発音されます。

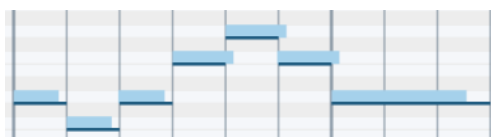
スラーの最後の音符は、そのあとにスラーがなく、レガートの演奏技法が必要とされないため、記譜上のデュレーションの 85% の長さで発音されます。

これらの値は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページで変更できます。

例では、スラーが使用されると、明るい色で塗りつぶされた長方形で示される MIDI ノートが長くなること示されています。暗い色の細い線は、それぞれの音符の記譜上のデュレーションを示しています。はじめの 3 音はスラーされておらず、MIDI ノートの長さを示す長方形は記譜上のデュレーションより短くなっています。うしろの 4 音はスラーされており、MIDI ノートの長さが記譜上の長さより長くなることにより、レガートされたスラーのサウンドになります。ただし、スラーのフレーズの最後の音符は標準のスラーされていない音符として扱われるため、スラーのグループの最後の音符は長くなっていません。



インストゥルメントの譜表上のフレーズ



再生モードのピアノロールで表示される同じフレーズ

関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(470 ページ\)](#)



# 譜表ラベル

譜表ラベルは、複数のプレーヤーに割り振られた楽譜で譜表を特定するために使用され、各組段の最初の小節線の左側に配置されます。譜表ラベルは、それが付記されている譜表の内容を現在演奏するインストゥルメントを示します。

インストゥルメント名は、各フローの最初の組段の譜表ラベルにおいて完全な形で、以降の組段の譜表ラベルにおいては省略された形で表示するのが通例となっています。省略されたインストゥルメント名を使用すると水平方向のスペースが節約され、各組段により多くの楽譜を書き込めます。



フローの最初の組段の譜表ラベルの例

Dorico Pro では、譜表ラベルには「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで各インストゥルメントごとに設定されたインストゥルメント名が使用されます。ダイアログでは、各インストゥルメント名の単数形と複数形、および省略形の単数形と複数形をそれぞれ指定できます。

## ヒント

譜表ラベルのインストゥルメントの数を手動で指定する必要はありません。Dorico Pro は、同じタイプのインストゥルメントを演奏する同じタイプのプレーヤーが複数いる場合、自動的にその数を特定します。

パートレイアウトは初期設定では譜表ラベルを表示しません。ほとんどのパートに譜表は1つしか含まれず、それが何のための楽譜であるかはレイアウト名と状況から明らかだからです。初期設定のパートレイアウトでは、レイアウト名は1ページめの左上に表示されます。

## 補足

レイアウト名は、譜表ラベルに使用されるインストゥルメント名とは異なります。

複数のインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーに対し、譜表ラベルはプレーヤーが現在演奏しているインストゥルメントを表示します。プレーヤーが組段の途中でインストゥルメントを変更する場合、新しいインストゥルメント名は最初の音符の位置で譜表の上に表示され、譜表ラベルは次の組段の開始位置から更新されます。

#### 補足

譜表ラベルは、最初の組段の譜表ラベルなどで、プレーヤーに割り当てられるインストゥルメントをすべて表示することはありません。そのためスコアの冒頭には、楽器の持ち替えをすべて示す完全なインストゥルメントのリストを掲載する必要があります。

Dorico Pro は、移調楽器の譜表ラベルにインストゥルメントの移調、またはインストゥルメントのピッチを初期設定で表示します。移調楽器とは、記譜上のピッチと発音上のピッチが異なるインストゥルメントです。

インストゥルメントの移調、またはインストゥルメントのピッチを譜表ラベルに表示する条件は変更できます。また、譜表ラベルにおいてインストゥルメントの移調をインストゥルメント名の前後いずれに表示するかも変更できます。

### MusicXML ファイルから読み込まれた譜表ラベル

MusicXML ファイルを Cubase から書き出して Dorico Pro に読み込む場合、ファイルの書き出しの前に Cubase の **スコアエディター** でインストゥルメント名を変更し、Dorico Pro が使用する英語のインストゥルメント名と同じにしておくことで、インストゥルメント自動選択の精度を上げられます。

#### 関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(99 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(106 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(100 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(103 ページ\)](#)

## 譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名

譜表ラベルは各インストゥルメントのインストゥルメント名セットを使用し、同じインストゥルメント名を持つインストゥルメントには自動的に番号が振られます。譜表ラベルにはインストゥルメントの完全な名称か略称を表示できます。

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページでは、譜表ラベルに完全な名称または略称によるインストゥルメント名を表示するか、または非表示にするか、レイアウトごとに個別に選択できます。

- 「**完全 (Full)**」を選択した譜表ラベルは、インストゥルメントの完全な名称を使用します。
- 「**省略 (Abbreviated)**」を選択した譜表ラベルは、インストゥルメントの略称を使用します。
- 「**なし (None)**」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。

各インストゥルメントの完全な名称と略称の切り替えは、設定モードの「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで行なえます。

#### 補足

インストゥルメント名を変更しても、各パートレイアウトの上部に表示される名前は変化しません。これにはレイアウト名が使用されているためです。レイアウト名は設定モードで変更できます。

複数のプレーヤーに同じタイプのインストゥルメントが割り当てられている場合、通常はインストゥルメントに番号が振られます。たとえば、オーケストラに 4 人のホルン奏者がいる場合、彼らは通常「Horn 1」、「Horn 2」、「Horn 3」、「Horn 4」と呼ばれます。

Dorico Pro では、インストゥルメントには自動的に番号が振られます。これは複数のインストゥルメントが割り当てられるプレーヤーにも当てはまります。たとえば、2 人のフルート奏者とピッコロ奏者からなるアンサンブルで、2 番フルートにはピッコロも割り当てられる場合、インストゥルメントには以下のように番号が振られます。

- Flute 1
- Flute 2 & Piccolo 1

- Piccolo 2

それぞれのプレーヤーに割り当てられるインストゥルメントの番号を変更する場合は、個々のインストゥルメントを別のプレーヤーに移動できます。たとえば、2 番フルートの持ち替え楽器を 1 番ピッコロではなく 2 番ピッコロにする場合、プレーヤー間でピッコロのインストゥルメントを交換できます。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(99 ページ\)](#)

[プロジェクト全体での譜表ラベルの長さの変更 \(909 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(100 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(106 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(103 ページ\)](#)

[レイアウト名の変更 \(103 ページ\)](#)

[プレーヤー間のインストゥルメントの移動 \(109 ページ\)](#)

## 譜表ラベルのパラグラフスタイル

譜表ラベルはサイズ、スペーシング、配置、その他形式設定オプションなど、フォントの形式設定にパラグラフスタイルを使用します。インストゥルメント名とインストゥルメントの番号の垂直位置が異なる場合など、譜表ラベルが複数の分かれた部分で構成されている場合は、それぞれの部分の形式を個別に設定できます。

Dorico Pro には、譜表ラベルに関する以下のデフォルトのパラグラフスタイルがあります。

- **譜表ラベル (Staff Labels)**

インストゥルメント名とインストゥルメントの番号が隣り合って整列している場合にデフォルトで使用されるスタイルです。ディヴィジ譜表上のグループラベル、または複数ある同一のインストゥルメントの間に配置されたインストゥルメント名にも使用されます。

- **譜表ラベル (内) (Staff Labels (Inner))**

ディヴィジグループの個別の譜表、またはインストゥルメント名が複数ある同一のインストゥルメントの間に配置されている場合のインストゥルメントの番号に使用されます。

- **譜表ラベル (打楽器グリッド) (Staff Labels (Percussion Grid))**

グリッドを使用した打楽器キットのレイアウトで使用されます。

それぞれのパラグラフスタイルは「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで個別に編集できます。たとえば、外側の譜表ラベルは左揃え、内側の譜表ラベルは右揃え、という具合に設定できます。

### ヒント

ディヴィジ譜表の譜表ラベルの外観や配置のより詳細な変更は、個別のディヴィジ作成で行なえます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベルを個別に編集する \(947 ページ\)](#)

## 浄書オプションで譜表ラベルの設定をプロジェクト全体に適用する

プロジェクト全体の譜表ラベルの外観と配置のオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**譜表ラベル (Staff Labels)**」ページにあります。

たとえば、譜表ラベルと組段の小節線との距離や、インストゥルメント番号の数字にアラビア数字とローマ数字のいずれを使用するかなどを変更できます。また、隣接する同一のソロインストゥルメントのインストゥルメント名について、グループ化して全体の譜表間に 1 つ中央揃えで表示するか、それとも譜表ごとに 1 つずつ表示するかや、声楽の譜表ラベルを全大文字と頭文字大文字のいずれで表示のかも指定できます。オッシアの譜表ラベル専用のオプションもあります。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

#### ヒント

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」にある「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページで、組段に表示される譜表ラベルの長さを各レイアウトごとに個別に変更できます。

#### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[譜表ラベルの番号スタイルの変更 \(909 ページ\)](#)

[声楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する \(909 ページ\)](#)

## 隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する

複数の隣接するソロプレーヤーが同じインストゥルメントに割り当てられている場合、それらをグループ化して全体にはインストゥルメント名を1つだけ表示させ、個々の譜表の横にはインストゥルメント番号を表示するようにできます。

初期設定では、すべての譜表には該当するインストゥルメント名を含む譜表ラベルが個別に表示されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**同種のソロ楽器が隣接する場合の譜表ラベル (Staff labels for identical adjacent solo instruments)**」に対し、「**譜表をグループ化する (Group between staves)**」を選択します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、すべての隣接する同一のソロインストゥルメントに対し、1つのインストゥルメント名が中央揃えで表示されます。

#### 例



## 譜表ラベルの番号スタイルの変更

ソロプレーヤーおよびセクションプレーヤーの譜表ラベルの番号スタイルは個別に変更できます。たとえば、ソロプレーヤーには“2”のようなアラビア数字を、セクションプレーヤーには“II”のようなローマ数字をそれぞれ設定できます。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**ソロプレーヤーの番号スタイル (Numbering style for solo players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **アラビア数字 (Arabic numerals)**
  - **ローマ数字 (Roman numerals)**
4. 「**セクションプレーヤーの番号スタイル (Numbering style for section players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **アラビア数字 (Arabic numerals)**
  - **ローマ数字 (Roman numerals)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

ソロプレーヤーおよびセクションプレーヤーに関連付けられた楽器は、プロジェクト全体で選択された番号スタイルを使用します。

## 声楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する

声楽の譜表ラベルを全大文字または頭文字大文字で表示できます。ヨーロッパの多くの出版社は、声楽の譜表に全大文字の譜表ラベルを使用することを好みますが、これはすべての出版社に共通するわけではありません。

---

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**声楽の譜表のラベル (Labels for vocal staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **全大文字 (Shown in uppercase)**
  - **頭文字大文字 (Shown in title case)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

### 結果

プロジェクト全体の声楽の譜表に使用される譜表ラベルが、全大文字または頭文字大文字のいずれかになります。

## プロジェクト全体での譜表ラベルの長さの変更

各レイアウトで個別に、プロジェクト全体の譜表ラベルのインストゥルメント名を場所によって完全、省略、なしのいずれかで表示できます。

初期設定では、フルスコアレイアウトでは各フローの最初の組段には完全な譜表ラベルが表示され、以降の組段には省略された譜表ラベルが表示されます。パートレイアウトでは、譜表ラベルはどの組段にも表示されません。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表ラベルのインストゥルメント名の長さを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**最初の組段の譜表ラベル (Staff labels on first system)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 完全 (Full)
  - 省略 (Abbreviated)
  - なし (None)
5. 「**次の組段の譜表ラベル (Staff labels on subsequent systems)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 完全 (Full)
  - 省略 (Abbreviated)
  - なし (None)
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトで譜表ラベルが変更され、プロジェクト全体に適用されます。

#### ヒント

- 完全なインストゥルメント名と略称は、ともに「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで編集できます。
- 譜表ラベルに関するレイアウトごとの設定はフローごとに適用され、プロジェクト全体には適用されません。たとえば、プロジェクトの最初のフローの最初の組段には完全な譜表ラベルを表示しつつ、以降のフローの最初の組段には完全な譜表ラベルを表示しない場合は、2つめ以降のフローそれぞれの開始位置の譜表ラベルを個別に変更する必要があります。

#### 関連リンク

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名 \(906 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(103 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(100 ページ\)](#)

[特定の位置の譜表ラベルの長さの変更 \(911 ページ\)](#)

## 譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更する

譜表ラベルの付いた組段すべての最小インデントのデフォルトに関するプロジェクト全体の設定を変更して、水平方向のスペースを最適化できます。最小インデントはレイアウトごとに個別に変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
  4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**譜表ラベルの付いた組段の最小インデント (Minimum indent for systems with staff labels)**」の値を変更します。
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトで、譜表ラベルの付いた組段すべての最小インデントが変更されて、プロジェクト全体に適用されます。

#### 関連リンク

- [組段のインデント \(937 ページ\)](#)
- [最初の組段のインデントの変更 \(938 ページ\)](#)
- [組段の開始位置/終了位置の変更 \(394 ページ\)](#)

## 特定の位置の譜表ラベルの長さの変更

特定の位置の譜表ラベルについて、レイアウトごとの設定より優先される形で、インストゥルメント名の表示を完全、省略、なしのいずれかに切り替えられます。これはたとえば、最初のフローの開始位置には完全な譜表ラベルを表示しつつ、後続のフローの開始位置では省略された譜表ラベルを表示する場合や、合唱の楽譜において、複雑なパート、ソロライン、またはディヴィジラインを含む組段にのみ譜表ラベルを表示する場合などに使用します。

#### 前提

- 譜表ラベルのインストゥルメント名の長さを変更する位置に、組段区切りまたはフレーム区切りを挿入しておきます。
  - 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。
- 

#### 手順

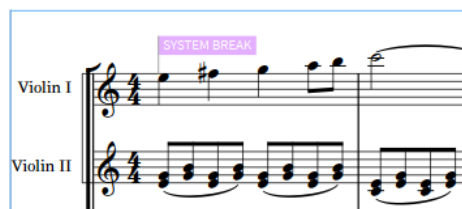
1. 浄書モードで、譜表ラベルを変更する位置の組段/フレーム区切りのガイドを選択します。
  2. プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループで、「**譜表ラベル (Staff labels)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **完全 (Full)**
    - **省略 (Abbreviated)**
    - **なし (None)**
- 

#### 結果

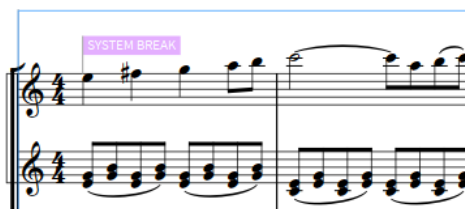
譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名の長さが変更されます。これは組段区切りまたはフレーム区切りの位置の組段にのみ影響を与えます。組段が楽譜フレームいっぱいに広がるように、水平方向のスペーシングが自動的に調整されます。

プロパティをオフにすると、選択した組段区切りがプロジェクトレイアウトの設定に従う状態に戻ります。

例



完全な譜表ラベルが表示された状態



譜表ラベルが表示されない状態

関連リンク

[プロジェクト全体での譜表ラベルの長さの変更 \(909 ページ\)](#)[組段区切りの挿入 \(362 ページ\)](#)[フレーム区切りの挿入 \(360 ページ\)](#)[組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え \(364 ページ\)](#)[フレーム区切りガイドの表示/非表示 \(362 ページ\)](#)

## フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする

各レイアウトの各フローの開始位置で個別にインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にできます。これらのラベルは、譜表ラベルが通常は表示されないパートレイアウトで、複数の楽器を持つプレイヤーに必要な楽器を明示するのに役立ちます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレイヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**フローの開始位置にインストゥルメントの変更ラベルを表示 (Show instrument change label at start of flow)**」をオン/オフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**フローの開始位置にインストゥルメントの変更ラベルを表示 (Show instrument change label at start of flow)**」がオンの場合は選択したレイアウトの各フローの最初の小節にインストゥルメントの変更ラベルが表示され、オフの場合は非表示になります。



## 譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調

インストゥルメントの移調は、音符に従いインストゥルメントが演奏する音と実音とのピッチ差を示します。FホルンやB♭クラリネットなどの移調楽器には、通常インストゥルメント名やレイアウト名の一部として移調が表示され、これは“インストゥルメントの音程”とも呼ばれます。

各移調楽器の「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログの「**移調を表示 (Show transposition)**」オプションの設定によっては、レイアウトで譜表ラベルの移調を非表示に設定していたとしても、譜表ラベルに移調が表示される場合があります。

Dorico Pro では、B♭クラリネットやB♭トランペットのような一般的な移調楽器については、譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の表示/非表示はレイアウト設定に従うように設定されています。

混乱を避けるため、AクラリネットやEトランペットなど一般的ではない移調楽器については、レイアウトでインストゥルメントの移調を非表示に設定したとしても、常に譜表ラベルに移調を表示するように設定されています。

各インストゥルメントについて、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログの「**移調を表示 (Show transposition)**」オプションを「**レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options)**」に設定するかどうか変更できます。

関連リンク

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(100 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(103 ページ\)](#)

[移調楽器 \(106 ページ\)](#)

## 譜表ラベルのインストゥルメントの移調の表示/非表示

譜表ラベルにおいてインストゥルメントの移調を表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。たとえば、フルスコアレイアウトではインストゥルメントの移調を非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションの「**インストゥルメントの音程または移調 (Instrument pitch or transposition)**」について、以下のオプションをオンまたはオフにします。
  - **完全な譜表ラベルに表示 (Show in full staff labels)**
  - **省略された譜表ラベルに表示 (Show in abbreviated staff labels)**
5. 必要に応じて、他のレイアウトにも手順 2 から 4 を繰り返します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

対応するチェックボックスをオンにすると、選択したレイアウトの対応する長さの譜表ラベルにプロジェクト全体でインストゥルメントの移調が表示され、対応するチェックボックスをオフにすると非表示になります。

#### 補足

各移調楽器の「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログの「**移調を表示 (Show transposition)**」オプションの設定によっては、レイアウトで譜表ラベルの移調を非表示に設定していたとしても、譜表ラベルに移調が表示される場合があります。

#### 関連リンク

[インストゥルメント名の変更 \(103 ページ\)](#)

## 完全な譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の位置の変更

譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の位置を変更できます。インストゥルメントの移調は、それぞれのレイアウトにおいて他のレイアウトから独立した形で、インストゥルメント名の前後いずれかに表示できます。

#### 手順


1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. インストゥルメントの移調の位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**譜表ラベルを完全表示した際のインストゥルメントの音程の位置 (Position of instrument pitch in full staff labels)**」の以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **先頭 (Start)**
  - **末尾 (End)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトで、譜表ラベルのインストゥルメント名に対するインストゥルメントの移調の位置が変更され、プロジェクト全体に適用されます。

## 打楽器キットの譜表ラベル

打楽器キットの譜表に表示される譜表ラベルは、プロジェクトにおけるキットの表示方法によって異なります。キットは5線譜、グリッド、または1線譜を使用するインストゥルメントとして表示できます。

打楽器キットの表示タイプ	譜表ラベル	例
5線譜	打楽器キットのインストゥルメント名を使用する1つのインストゥルメント名	Percussion 

打楽器キットの表示タイプ	譜表ラベル	例
グリッド	複数のインストゥルメント名: キットの構成インストゥルメント1つにつき1つのラベルが、対応するインストゥルメントの譜表の位置に配置されます。  グリッドの譜表ラベルは小さめのフォントと、標準のインストゥルメント用譜表ラベルとは異なるパラグラフスタイルを使用します。	
1線譜を使用するインストゥルメント	複数のインストゥルメント名: キットの構成インストゥルメント1つにつき1つのラベルが、対応する1線譜の横に配置されます。  1線譜を使用するインストゥルメントの譜表ラベルは、標準のインストゥルメント用譜表ラベルと同じフォントとパラグラフスタイルを使用します。	

打楽器キットのプレーヤー名、レイアウト名、およびインストゥルメント名は、他のプレーヤーやインストゥルメントと同様に変更できます。ただし、打楽器キットの譜表ラベルを変更する際は、打楽器キットの表示タイプによってそれぞれ異なる方法で、キットのインストゥルメント名を変更する必要があります。

- 5線譜: キットの名前を変更するには、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開くか、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの「**名前 (Name)**」フィールドを使用します。
- グリッド/1線譜を使用するインストゥルメント: 個別のインストゥルメント名を変更するには、設定モードの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの中から「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。

キットのインストゥルメントで使用できるインストゥルメント名のフィールドとオプションは、標準の有音程楽器と同じです。

#### 補足

グリッド表示の各ラインの小さい譜表ラベルは、「**譜表ラベル (打楽器グリッド) (Staff Labels (Percussion Grid))**」のパラグラフスタイルを使用します。このパラグラフスタイルは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できます。

#### 関連リンク

- 「[インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)](#)」ダイアログ (100 ページ)
- プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 (99 ページ)
- 「[打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)](#)」ダイアログ (110 ページ)
- [無音程打楽器](#) (1028 ページ)
- [打楽器キットの表示タイプの変更](#) (1035 ページ)
- 「[パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)](#)」ダイアログ (370 ページ)

# 譜表

譜表とは、1本の線または複数の線が集まったもので、その上に記譜された音符により音楽のピッチとリズムを示すものです。有音程楽器は伝統的な5線譜を使用し、無音程楽器は多くの場合1線譜を使用します。

音符は5線譜の線上および間上に配置され、譜表の上下に加線を使用することで、譜表に収まらないピッチも表現できます。



5線譜上のフレーズ



1線譜上の同じフレーズ

5線譜上の音符のピッチおよび音域は音部記号によって決定され、これにオクターブ線を組み合わせても演奏者が演奏するピッチを示すことができます。

無音程打楽器の5線譜においては、譜表上の1つ1つの位置はそれぞれ異なる打楽器に対応します。



たとえばフルスコアレイアウトではパートレイアウトより小さい譜表を使用するなど、レイアウトのタイプに従って異なる譜表サイズを使用する必要があることも多いため、Dorico Proでは、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」において譜表に関するさまざまな設定を変更できます。

関連リンク

[音部記号 \(587 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(593 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(355 ページ\)](#)

## レイアウトごとの譜表のオプション

レイアウトごとに個別に、プロジェクト全体の譜表に影響を与える設定を変更できます。

各レイアウトの譜表サイズは、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページの「**線間の高さ (Space Size)**」セクションで変更できます。

譜表に関するその他の設定は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで変更できます。たとえば、組段に表示する譜表ラベルの変更、各フローの最初の組段のインデント、各組段に含まれる小節数の固定などを行なえます。また、それぞれのインストールメントファミリーに従い、どの組段の上に組段オブジェクトを表示するか選択できます。

#### 補足

- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。
- 組段オブジェクトは、プロジェクト内の大括弧または中括弧で括られたグループの上だけに表示されます。大括弧または中括弧が存在しない場合、組段オブジェクトは組段の一番上だけに表示されます。

組段に一定数以上のプレーヤーが存在するとき、組段の間に分割記号を表示できます。組段の分割記号の外観も変更できます。

#### 関連リンク

- [レイアウト中の譜表サイズの変更 \(918 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)
- [空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(355 ページ\)](#)
- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)
- [大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)

## 譜表サイズ

譜表サイズとは、譜表の一番上の線から一番下の線までの距離を意味し、ポイントまたはミリメートルで表現されます。個々の譜表については、レイアウトのデフォルトの譜表サイズに対する倍率によるサイズを使用できます。最適な譜表サイズはレイアウトの用途により異なります。

たとえば、個々のパートレイアウトは演奏者が読みやすいように音符を十分大きく表示しなければなりません。非常に密度の高いフルオーケストラのスコアでは譜表サイズを小さくする必要があります。密度の高いスコアで譜表サイズが大きすぎる場合、譜表が重なり合って楽譜が読めないものになってしまいます。

Dorico Pro では、譜表サイズの設定には、5 線のサイズと線間の高さのうち、選択中のレイアウトに適切な方を使用できます。

- 5 線のサイズとは、譜表の一番下の線から一番上の線までの全体のサイズです。
- 線間の高さとは、譜表線 2 本間の距離です。

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で各レイアウトの譜表サイズを変更するとき、プリセットの 5 線のサイズからいずれか 1 つを使用することをおすすめします。これらは伝統的で一般的とされ、楽譜の浄書において広く使用されている譜表サイズに基づいているからです。

#### 補足

譜表のサイズは組段オブジェクトのサイズにも影響を与える場合があります。

#### 関連リンク

- [組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

## レイアウト中の譜表サイズの変更

プロジェクトの各レイアウトで、譜表サイズに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは譜表サイズを小さくしつつ、パートレイアウトでは譜表サイズを大きくするということができます。

### 補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表サイズを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**線間の高さ (Space Size)**」セクションで、「**5 線のサイズ (Rastral size)**」メニューから任意の譜表サイズを選択します。

### 補足

「**カスタム (Custom)**」を選択した場合、カスタム値は「**線間の高さ (Space size)**」フィールドに、ミリメートルの数値で設定できます。

「**5 線のサイズ (Rastral size)**」が選択されている場合でも、数値を変更することによって「**カスタム (Custom)**」の値を設定できます。

5. 必要に応じて、他のレイアウトにも手順 2 から 4 を繰り返します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウトの譜表サイズがプロジェクト全体で変更されます。

### ヒント

譜表サイズの変更は、レイアウトの特定のポイントからでも、個々の譜表においても行なえます。

### 関連リンク

- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)
- [大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)
- [個々の譜表のサイズの変更 \(920 ページ\)](#)

## 特定のポイントからの譜表サイズの変更

レイアウトの特定のポイントから、すべての譜表の譜表サイズを変更できます。たとえば、譜表が多いページだけ小さな譜表を使用し、他の譜表が少ないページでは大きな譜表を使用するなどできます。

### 補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

### 前提

- 譜表サイズの変更を開始する位置に、組段/フレーム区切りを挿入しておきます。
- 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。

### 手順

1. 浄書モードで、譜表サイズの変更を開始する位置の組段/フレーム区切りのガイドを選択します。
2. プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループで、「**線間の高さ (Space size)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

### 結果

「**線間の高さ (Space size)**」を大きくすると、レイアウトのすべての譜表の譜表サイズが大きくなります。値を小さくすると、譜表サイズが小さくなります。これにより、次の譜表サイズ変更がある位置がフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、譜表サイズが変更されます。

初期設定では、プロジェクトの次のフローでは現在のレイアウトにおけるプロジェクト全体の譜表サイズが使用されます。

### 関連リンク

[譜表サイズ \(917 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(362 ページ\)](#)

[フレーム区切りの挿入 \(360 ページ\)](#)

[組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え \(364 ページ\)](#)

[フレーム区切りガイドの表示/非表示 \(362 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

## 個々の譜表のサイズの変更

個々の譜表のサイズは、他の譜表やレイアウトの設定から独立した形で変更できます。たとえばピアノの伴奏パートには、ピアノが伴奏を行なうインストゥルメントのソロラインが小さな譜表で表示されることがよくあります。



ピアノパートの上に小さくヴィオラの譜表が付いた例

個々の譜表のサイズは、レイアウトの標準の譜表サイズに対する割合で表現される一定の縮尺サイズ、またはカスタム尺度に変更できます。

### ヒント

パッセージの代替バージョンを表現するために譜表サイズを変更する場合は、この機能のかわりに、特定の領域に表示できるオssia譜表を追加します。

### 手順

1. サイズを変更する譜表からアイテムを1つ選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

譜表のサイズは一度に1つずつしか変更できません。

2. 「編集 (Edit)」 > 「譜表サイズ (Staff Size)」 > [譜表サイズ] を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」を選択した場合、それに応じて開く「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログを使用して譜表サイズを設定する必要があります。

### 結果

選択した譜表のサイズが変更されます。これは、レイアウト内すべての譜表サイズ変更や、特定のポイントからの譜表サイズ変更など、他の譜表サイズ変更の方法と組み合わせても使用できます。

### 補足

- 個々の譜表の譜表サイズを変更すると、そのプレーヤーに含まれるすべてのインストゥルメントの譜表サイズが変更されます。
- 個々の譜表の譜表サイズを変更すると、フロー全体にわたるサイズが変更されます。
- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「譜表との相対値 (Staff-relative)」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「絶対値 (Absolute)」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。



関連リンク

[レイアウト中の譜表サイズの変更 \(918 ページ\)](#)

[特定のポイントからの譜表サイズの変更 \(919 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

[オssia譜表の追加 \(928 ページ\)](#)

## 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログ

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログでは、個々の譜表のサイズをカスタムの倍率で変更できます。

- 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログを開くには、楽譜領域でアイテムを 1 つ選択して「編集 (Edit)」>「譜表サイズ (Staff Size)」>「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」を選択します。

Default staff size: 4.96pt staff = 7.0mm staff

Rastral size: Custom

Scale factor: 72 %

New staff size: 3.57pt staff = 5.0mm staff

Cancel OK

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログ

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログには以下のオプションがあります。

### デフォルトの譜表サイズ (Default staff size)

現在のレイアウトの譜表のデフォルトのサイズを表示します。このサイズは、「設定 (Setup)」>「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定されます。

デフォルトの譜表サイズは、ポイントとミリメートルの両方で表現されます。

### 5 線のサイズ (Rastral size)

カスタムの譜表サイズの基礎となる 5 線のサイズを選択できます。

### 倍率 (Scale factor)

選択した 5 線のサイズに対する割合でカスタムの譜表サイズを設定します。

### 新規の譜表サイズ (New staff size)

ダイアログで行なった変更の結果として得られた、選択した譜表の新規の譜表サイズを表示します。

新規の譜表サイズは、ポイントとミリメートルの両方で表現されます。

関連リンク

[個々の譜表のサイズの変更 \(920 ページ\)](#)

## 譜表線の太さの変更

譜表線の太さに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**譜表線 (Staff Lines)**」セクションで、「**譜表線の太さ (Staff line thickness)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

譜表線の太さに関するプロジェクト全体の設定が変更されます。「**譜表の線の太さ (Staff line thickness)**」の値を大きくすると譜表の線が太くなり、小さくすると細くなります。

## 譜表の削除

譜表は、追加の譜表やオツシア譜表も含めて削除できます。これによりその譜表は、それが属するインストゥルメントを表示するすべてのレイアウトに表示されなくなります。ただし、譜表に残っている音符はこれにより自動的に削除されず、譜表が表示されなくても再生は行なわれます。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のどれでも選択します。
  - 削除する譜表の、削除を開始する位置のアイテム
  - 削除する追加の譜表のガイド

### 補足

一度に削除できる譜表は1つだけです。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**譜表 (Staff)**」 > 「**譜表を削除 (Remove Staff)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した位置から選択した譜表が削除され、譜表の変更を示すガイドが表示されます。この譜表に対する次の譜表変更のガイドがある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、譜表が削除されます。

### 補足

- 記譜された音符を削除しないまま追加の譜表を削除した場合、音符は表示されませんがそのまま存在し、再生に反映されます。あとから同じ位置に追加の譜表を作成すると、音符は再度表示されます。
- インストゥルメントから譜表をすべて削除することはできません。最低1つは常に表示されている必要があります。あるレイアウトで特定のインストゥルメントの譜表を一切表示しない場合、かわりにそのレイアウトで空白の譜表を非表示にする設定を利用できます。

例



譜表が3つのピアノの楽譜の2小節めで一番下の譜表が削除された例

関連リンク

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(355 ページ\)](#)

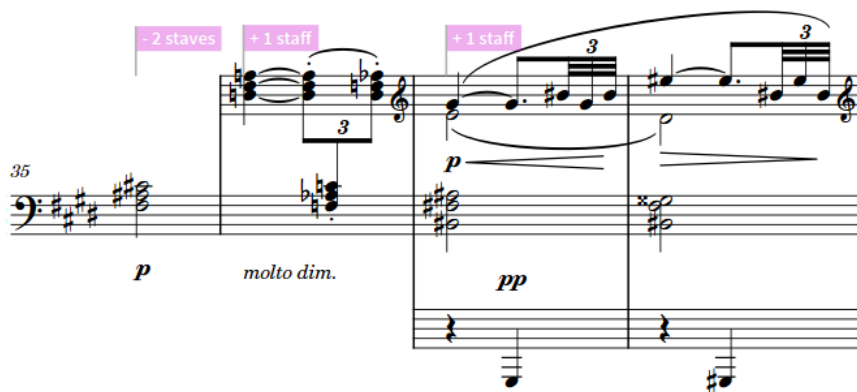
## 追加の譜表

Dorico Pro では、どのインストゥルメントにでも追加の譜表を追加できます。たとえば、あるインストゥルメントの楽譜を通常より多くの譜表に広げることで、複雑な対位法による楽譜を読みやすくできます。

ドビュッシーのピアノ前奏曲「枯葉」からの抜粋で、3つの譜表が使用される例

追加の譜表を追加すると、これはフロー全体にわたって存在するものとなります。しかし、追加の譜表が必要とされるのは短い一部である場合が多いため、表示箇所を制御できます。追加の譜表はすぐに終了させることもできます。このあとには、組段の終端まで空白のスペースを入れることも、音符が含まれない場合でも空白の小節で埋めることもできます。

追加の譜表を追加または削除すると自動的にガイドが表示され、その位置で追加または削除された譜表の数を示します。同じ位置で複数の譜表の変更が行われた場合、それらはすべて同じガイドに表示されます。



ドビュッシーのピアノ前奏曲「枯葉」からの抜粋で、譜表変更のガイドが3つ使用される例

このガイドは、追加の譜表の開始位置および終了位置の変更に使用でき、これによりたとえば追加の譜表が表示される領域の長さを変更できます。ガイドは追加の譜表の削除にも使用できます。

また Dorico Pro は、譜表の用途によるタイプごとに専用の機能を用いて譜表の数を変更できます。

- 追加の譜表は、ソロプレーヤーに属する標準サイズの譜表です。
- オッシア譜表は、プレーヤーのタイプを問わず追加できる小さいサイズの譜表です。
- ディヴィジ譜表は、セクションプレーヤーに属する標準サイズの譜表です。

関連リンク

[追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(926 ページ\)](#)

[オッシア譜表 \(927 ページ\)](#)

## 追加の譜表の追加

ソロプレーヤーに属するインストゥルメントには、譜表の上下いずれにも追加の譜表を追加できます。これは限定された範囲にも、フロー全体にわたっても表示できます。たとえば、一部の複雑なピアノの楽譜においては、楽譜を分かりやすく表示するために2つではなく3つの譜表が必要とされます。

### 補足

- ディヴィジのパスセージや代替の演奏を記譜するために追加の譜表が必要な場合は、この機能ではなく専用のディヴィジ譜表およびオッシア譜表の機能を使用します。
- インストゥルメントの上下にはいくつでも譜表を追加できますが、1度に追加できるのは1つだけです。また、追加の譜表を追加するには、以前に追加した追加の譜表ではなく、インストゥルメントの元の譜表の1つでアイテムを選択する必要があります。
- 追加の譜表を追加できるのは、ソロプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントのみです。セクションプレーヤーまたは打楽器キットに属するインストゥルメントには、追加の譜表を追加できません。

### 手順

1. 記譜モードで、インストゥルメントの元の譜表の1つの、追加の譜表を追加する位置にあるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって追加の譜表を追加します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「上に譜表を追加 (Add Staff Above)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「下に譜表を追加 (Add Staff Below)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

- 必要に応じて、手順 1 と 2 を何度でも繰り返します。

#### 結果

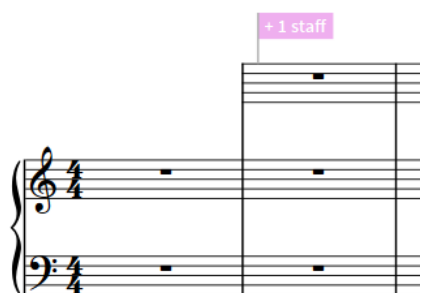
標準サイズの譜表が選択した譜表の上または下に追加されます。これは選択した中の一番前の位置から開始し、フローの終端まで続きます。開始位置には追加された譜表の数を示すガイドが表示されます。

#### ヒント

初期設定では、追加の譜表は組段の始端または終端まで伸ばされません。つまり組段の途中で開始または終了します。

追加の譜表がその実際の開始位置または終了位置に関わらず、組段の始端または終端まで自動的に伸びるようにする場合、組段全体にわたって追加の譜表を表示するよう組段ごとに個別に設定できます。

#### 例



2 小節めで上の譜表の上に追加の譜表を追加したピアノの楽譜

#### 関連リンク

[オッサア譜表 \(927 ページ\)](#)

[オッサア譜表の追加 \(928 ページ\)](#)

[追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(926 ページ\)](#)

## 追加の譜表の開始位置/終了位置を移動する

追加の譜表の開始位置および終了位置は、追加した後に移動できます。追加の譜表は開始位置および終了位置を移動できるため、長さも変更できます。

#### 手順

- 記譜モードで、開始位置/終了位置の変更を行なう追加の譜表の始端/終端にある、譜表変更のガイドを選択します。

#### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表変更のガイドは 1 つだけです。

- 以下のいずれかの操作を行なって、現在設定されているリズムグリッドに従い、選択した譜表変更のガイドを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - 譜表変更のガイドをクリックして左右にドラッグします。
- 必要に応じて、追加の譜表のもう一方のガイドにも手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

選択した追加の譜表の開始位置/終了位置が変更されます。

#### 補足

譜表変更のガイドはそれぞれの位置に1つしか存在できません。譜表変更のガイドを移動する際に他の譜表変更のガイドの上を通過した場合、そこにあったガイドは削除され、移動したものに置き換えられます。たとえば、追加の譜表の開始位置のガイドを動かして、それ自体の終了位置のガイドの上を通過させた場合、追加の譜表は譜表上の次の譜表変更の位置、またはフローの終了位置の、いずれか先に到達したところまで継続されるようになります。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除された譜表変更のガイドについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

## 追加の譜表を組段全体にわたって表示する

初期設定では、追加の譜表はその開始位置から終了位置までの範囲のみに表示されます。この設定は、追加の譜表がどの組段でも幅いっぱいに表示されるように、レイアウトごとに個別に変更できます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 追加の譜表を組段の幅いっぱいに表示させるレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションで、「**追加の譜表の開始位置または終了位置では、追加の譜表を組段全体にわたり表示する (Show extra staves across full system when starting or stopping)**」をオンにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトの追加譜表は、どの組段においても常に幅いっぱいに表示されるようになります。プロパティをオフにしたレイアウトでは、追加の譜表がそれぞれのガイドの位置で指定されるデュレーション範囲のみに表示されるようになります。

#### 例



組段の幅いっぱいには表示されていない追加の譜表

組段の幅いっぱいに表示された追加の譜表

関連リンク  
[追加の譜表 \(923 ページ\)](#)

## オッサア譜表

オッサア譜表は、インストゥルメントのメイン譜表の上下に小さめに表示される譜表です。これはオリジナルのフレーズに代わって演奏できる代替フレーズを表示するものです。たとえば装飾音符に対する提案や、別ソースに由来する記譜、または簡易化されたバージョンなどがあります。

ピアノの左手の譜表の下に簡易化された代替フレーズを表示するオッサア譜表

Dorico Pro ではオッサア譜表をインストゥルメントの譜表の上下に追加できますが、これは指定されたデュレーションに対してのみであり、形式設定は自動で処理されます。オッサア譜表周辺の垂直方向のスペーシングは自動的に調整されます。

オッサア譜表を追加または削除すると自動的にガイドが表示され、その位置で追加または削除された譜表の数を示します。同じ位置で複数の譜表の変更が行なわれた場合、それらはすべて同じガイドに表示されます。

ガイドを表示しているオッサア譜表

初期設定では、オッサア譜表は標準の譜表の3分の2の縮尺になっています。これは固定された譜表サイズではなく倍率であるため、レイアウトごと、セクションごと、そしてプレーヤーごとに設定できる譜表サイズに応じて、オッサア譜表のサイズは自動的に調整されます。

### 補足

オッサア譜表の記譜内容は再生されません。

関連リンク  
[追加の譜表 \(923 ページ\)](#)  
[オッサア譜表のサイズを変更する \(929 ページ\)](#)  
[オッサアの譜表ラベル \(933 ページ\)](#)

- [譜表冒頭部のオssia譜表を表示/非表示にする \(930 ページ\)](#)  
[オssia譜表を表示/非表示にする \(931 ページ\)](#)  
[オssia譜表に対する組段オブジェクトの配置の変更 \(937 ページ\)](#)

## オssia譜表の追加

オssia譜表はソロプレーヤーおよびセクションプレーヤーの既存の譜表の上下いずれにも追加できます。大譜表のインストゥルメントについては、譜表が2つのオssiaも追加できます。

### 補足

- 打楽器キットのインストゥルメントにはオssia譜表は追加できません。
- インストゥルメントは譜表の上下にオssiaを表示できますが、片側につき1つのオssiaしか同時に存在できません。

### 手順

1. 記譜モードで、上か下にオssia譜表を追加する範囲を選択します。

### 補足

譜表が2つのオssiaを追加する場合、大譜表の上下両方の譜表を選択する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なってオssia譜表を追加します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「オssiaを上を作成 (Create Ossia Above)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「オssiaを下を作成 (Create Ossia Below)」を選択します。

### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した譜表の選択した範囲の上か下にオssiaが追加されます。オssiaのパッセージの開始位置に1つ、終了位置にもう1つのガイドが表示されます。

### ヒント

これらのガイドを選択して移動することにより、オssia譜表の開始位置と終了位置を変更できます。

## オssia譜表の開始位置/終了位置を移動する

オssia譜表の開始位置および終了位置は、追加した後に移動できます。オssia譜表は開始位置および終了位置を移動できるため、長さも変更できます。

### 手順

1. 記譜モードで、開始位置/終了位置または長さの変更を行なうオssia譜表の始端/終端にある、譜表変更のガイドを選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表変更のガイドは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在設定されているリズムグリッドに従い、選択した譜表変更のガイドを移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。



- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - オッシアのガイドをクリックして左右にドラッグします。
3. 必要に応じて、オッシア譜表のもう一方のガイドにも手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

選択したオッシア譜表の開始位置/終了位置が変更されます。

#### 補足

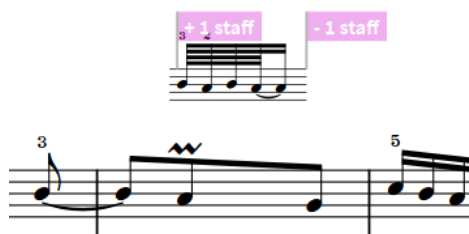
オッシアのガイドはそれぞれの位置に 1 つしか存在できません。オッシアのガイドを移動する際に他のオッシアのガイドの上を通過した場合、そこにあったガイドは削除され、移動したものに置き換えられます。たとえば、オッシア譜表の開始位置のガイドを動かして、それ自体の終了位置のガイドの上を通過させた場合、オッシア譜表は譜表上の次のオッシアの位置、またはフローの終了位置の、いずれか先に到達したところまで継続されるようになります。

この動作は元に戻せませんが、移動中に削除されたオッシアのガイドについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

#### 例



ガイドを表示しているオッシア譜表



同じオッシア譜表の始端のガイドを右に、終端のガイドを左に移動したもの

## オッシア譜表のサイズを変更する

初期設定では、オッシア譜表は標準の譜表の 3 分の 2 の縮尺になっています。プロジェクト全体に対し、すべてのオッシア譜表の倍率を変更できます。

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E] を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**オッシア (Ossias)**」セクションで、「**オッシアの倍率 (Ossia scale factor)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、それが属する譜表のサイズに対するオッシア譜表の倍率を変更されます。

#### 関連リンク

[譜表サイズ \(917 ページ\)](#)

## 小節の途中で開始/終了するオssiaの余白を変更する

小節の途中で開始/終了するオssia譜表の左右に延長される譜表線の長さを変更できます。オssia譜表に余白を与えることで、音符、臨時記号、付点その他のアイテムが、譜表線からはみ出すことがないようにします。

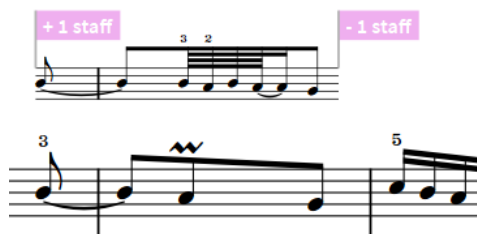
### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E] を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**オssia (Ossias)**」セクションで、「**オssia開始位置の譜表線の延長 (Extend staff lines at start of ossia)**」と「**オssia終了位置の譜表線の延長 (Extend staff lines at end of ossia)**」のいずれかまたは両方の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

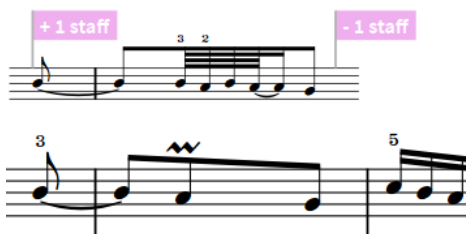
### 結果

小節の途中で開始/終了するオssia譜表の前後の余白がプロジェクト全体で変更されます。

### 例



余白なしのオssia譜表



開始位置と終了位置の両方の余白を 3 に設定したオssia譜表

## 譜表冒頭部のオssia譜表を表示/非表示にする

オssiaがシステム区切りまたはフレーム区切りをまたぐとき、譜表冒頭部にオssia譜表を含めるか除外するか、レイアウトごとに個別に設定できます。

固定された譜表冒頭部にオssia譜表を表示するという事は、各組段の開始位置で、その音部記号と拍子記号がその他すべての標準の譜表と並んで表示されるということです。これはオssia譜表が追加のインストゥルメントであるかのように見える場合があるため、固定された譜表冒頭部からはオssia譜表を除外するのが通例となっています。

### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L] を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表冒頭部のオssia譜表を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションの「**組段をまたぐオssia (Ossias crossing a system break)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **譜表冒頭部の記号を含める (Include in preamble)**

- 譜表冒頭部の記号を除外する (Exclude from preamble)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「譜表冒頭部の記号を除外する (Exclude from preamble)」を選択すると、選択したレイアウトのメインの譜表冒頭部においてオssia譜表の譜表冒頭部の記号が非表示になり、「譜表冒頭部の記号を含める (Include in preamble)」を選択すると表示されます。

例



譜表冒頭部にオssiaを含めた例



譜表冒頭部からオssiaを除外した例

## オssia譜表を表示/非表示にする

初期設定では、オssia譜表はすべてのレイアウトに表示されます。オssia譜表を表示するレイアウトは変更できます。これによりたとえば、オssia譜表をパートレイアウトには表示させつつ、フルスコアには表示させないことができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、オssia譜表を表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)」セクションで、「オssiaを表示 (Show ossias)」をオンまたはオフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「オssiaを表示 (Show ossias)」がオンのときは選択したレイアウトにオssiaが表示され、オフのときは非表示になります。

## オッサア譜表の削除

オッサア譜表を削除してどのレイアウトにも表示されないようにできます。これは自動的にその内容まで削除するものではありません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 削除するオッサア譜表の開始位置/終了位置のガイド
  - 削除するオッサア譜表上のアイテム
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオッサア譜表を削除します。
  - オッサアのガイドを選択している場合、[Backspace] か [Delete] を押すか、「編集 (Edit)」 > 「削除 (Delete)」を選択します。
  - オッサア譜表上のアイテムを選択している場合、「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「譜表を削除 (Remove Staff)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択したオッサア譜表が削除され、そのプレーヤーを表示するすべてのレイアウトに表示されなくなります。

### 補足

記譜された音符を削除しないままオッサア譜表を削除した場合、音符は表示されませんがそのまま存在します。あとから同じ位置にオッサアを作成すると、音符は再度表示されます。

### 関連リンク

[オッサア譜表を表示/非表示にする \(931 ページ\)](#)

## オッサア譜表の小節線

オッサア譜表をそれが属する譜表に小節線で接続するかどうか、接続するのであればどのタイプの小節線を使用するかについては、異なる表記規則が存在します。

オッサアの開始と終了がいずれも小節線の位置である場合、出版社により異なる以下の一般的な表記規則が存在します。

- 開始位置と終了位置の両方で、小節線がオッサアとメイン譜表を結合する
- 終了位置でのみ、小節線がオッサアとメイン譜表を結合する
- オッサアはメイン譜表に一切結合されない

オッサアをメイン譜表に結合するとき、他の譜表と同じ種類の縦線による小節線を使用する出版社と、破線による小節線を使用する出版社があります。

Dorico Pro では、これらすべての表記規則をカバーするオプションが「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節線 (Barlines)」ページの「オッサア (Ossias)」セクションにあります。

### 補足

オッサアが、たとえばピアノの右手の譜表の下など、インストゥルメントのメイン譜表の間に挟まれて表示される場合、「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節線 (Barlines)」ページで選択した設定に関わらず、メイン譜表と同じ小節線で結合されます。

### 関連リンク

[小節線 \(515 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する \(517 ページ\)](#)

## オssiaの譜表ラベル

オssiaは通常の譜表と同様に譜表ラベルを表示できますが、唯一異なる点として、オssiaの譜表ラベルは組段の途中であっても、通常は組段内に表示され、最初の小節線の前ではなくオssiaの開始位置の左側に表示されます。

オssiaの譜表ラベルは「**オssiaの譜表ラベル (Ossia Staff Label)**」のフォントスタイルを使用します。これは「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。



初期設定の譜表ラベルが付いたオssia譜表

オssiaの譜表ラベルは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**譜表 (Staves)**」ページの「**オssia (Ossias)**」セクションで設定された距離に従い配置されます。1つのオssiaと、中括弧で括られた譜表が2つのオssiaには、オプションが個別に用意されています。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

## オssia譜表の譜表ラベルを表示/非表示にする

オssia譜表の譜表ラベルはレイアウトごとに個別に表示と非表示を切り替えられます。また初期設定の譜表ラベルを表示するか、カスタムのオssiaラベルを入力するか選択できます。

オssia譜表の初期設定の譜表ラベルは“ossia”です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、オssia譜表の譜表ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションで、「**オssiaの前にラベルを表示 (Show label before ossia)**」をオンまたはオフにします。
5. また「**オssiaの前にラベルを表示 (Show label before ossia)**」をオンにした場合、譜表ラベルを以下のオプションから選択します。
  - デフォルト (Default)
  - カスタム (Custom)

- さらに「カスタム (Custom)」を選択した場合、任意の譜表ラベルを「カスタムのオssiaラベル (Custom ossia label)」フィールドに入力します。
- 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトで譜表ラベルが表示または非表示になります。

#### 関連リンク

[オssiaの譜表ラベル \(933 ページ\)](#)

## 組段の分割記号

組段の分割記号は、同じページに表示される異なる組段の区切りを明確にするために使用されます。通常、最初の小節線の左側に配置された 2 本の太い斜めの平行線として表示されます。

Dorico Pro では、組段の分割記号の外側の端は楽曲フレームの対応する端に揃えられます。



弦楽四重奏のスコアにおける 2 つの組段の間の分割記号

組段の分割記号を異なる状況で表示でき、レイアウトごとに個別に外観を変更できます。「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「組段の分割記号 (System Dividers)」ページですべてのレイアウトにおけるデフォルトの挿入幅をプロジェクト全体で変更することもできます。

## 組段の分割記号の表示

表示に必要なプレーヤーの最小数など、組段の分割記号が表示される状況を、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、異なる数の譜表を持つ組段の間にのみ組段の分割記号を表示できます。

#### 手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
- 「レイアウト (Layouts)」リストから、組段の分割記号を表示させるレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
- ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
- 「組段の分割記号 (System Dividers)」セクションの「組段の分割記号を表示 (Show system dividers)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 譜表の数が異なる場合 (When number of staves differs)
  - プレーヤーの最小数が存在する場合 (When minimum number of players present)

5. また「**プレイヤーの最小数が存在する場合 (When minimum number of players present)**」を選択した場合は、必要に応じて「**プレイヤーの最小数 (Minimum number of players)**」の値を変更します。
  6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

設定した最小数以上のプレイヤーが存在するか譜表の数が異なる、選択したレイアウトのすべてのフローの組段の間に分割記号が表示されます。

#### 関連リンク

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(355 ページ\)](#)

## 組段の分割記号の長さを変更する

組段の分割記号の長さをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、譜表ラベルを省略せずに表示するレイアウトでは長い組段の分割記号を表示するといったことができます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、組段の分割記号を表示させるレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
  4. 「**組段の分割記号 (System Dividers)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **デフォルト (Default)**
    - **長 (Long)**
    - **最長 (Extra long)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

## 組段オブジェクト

組段オブジェクトとは、組段中のすべての譜表に適用されますが、必ずしもすべての譜表に表示はされないアイテムです。たとえば、テンポ記号やリハーサルマークはすべてのプレイヤーに見えることが大事ですが、オーケストラのフルスコアにおいてすべての譜表に表示された場合、非常に取り散らかって読みづらい状態になります。

Dorico Pro では、以下のアイテムが組段オブジェクトと見なされます。

- リハーサルマーク
- リピート括弧
- リピートマーカ
- 組段テキスト
- テンポ記号
- 譜表の上に表示された拍子記号

組段オブジェクトは、複数のインストゥルメントファミリーの上に表示することにより、各組段の複数の位置に表示できます。たとえば、木管楽器、金管楽器、打楽器、および弦楽器ファミリーの上に表示

させるなどです。オーケストラのフルスコアでは、これによって組段オブジェクトがページ全体に均等に分散し、これらの重要な記号からどの譜表もそれほど離れていない状態になります。

#### 補足

- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。括弧によるグループ分けは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)**」ページで変更できます。
- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

#### 関連リンク

[アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(565 ページ\)](#)  
[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(564 ページ\)](#)  
[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)  
[大括弧と中括弧 \(561 ページ\)](#)  
[リハーサルマーク \(813 ページ\)](#)  
[テンポ記号 \(960 ページ\)](#)  
[リピート括弧 \(832 ページ\)](#)  
[大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)  
[テキストの入力 \(268 ページ\)](#)

## 組段オブジェクトの位置の変更

組段オブジェクトの位置は、それを上に表示するインストゥルメントファミリーを変更することによって、レイアウトごとに個別に変更できます。リハーサルマーク、テンポ記号、リピートマーカ、リピート括弧など、多数のアイテムが組段オブジェクトに分類されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 組段オブジェクトをその上に表示させるインストゥルメントファミリーを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**組段オブジェクト (System Objects)**」セクションで、組段オブジェクトをその上に表示させるインストゥルメントファミリーのチェックボックスをオンにします。
5. 必要に応じて、「**1 番下の譜表の下に追加でリピート括弧を表示 (Additionally show repeat endings below bottom staff)**」をオンにします。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

選択したレイアウトにそのインストゥルメントファミリーの大括弧または中括弧で括られたグループが含まれる場合、選択した括弧それぞれの一番上の譜表の上に組段オブジェクトが表示されます。「**1 番下の譜表の下に追加でリピート括弧を表示 (Additionally show repeat endings below bottom staff)**」をオンにした場合、リピート括弧が 1 番下の譜表の下に追加で表示されます。



## 補足

組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。括弧によるグループ分けは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)**」ページで変更できます。

## 関連リンク

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(565 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートのカテゴリーによって異なる括弧 \(60 ページ\)](#)

## オssia譜表に対する組段オブジェクトの配置の変更

組段オブジェクトをメイン譜表とオssia譜表の間に配置するか、またはオssia譜表の上に配置するかをレイアウトごとに個別に変更できます。

## 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押し、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、オssia譜表に対する組段オブジェクトの配置を変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションの「**譜表の上のオssiaに対する組段オブジェクトの位置 (Position of system objects relative to ossia above staff)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **オssiaの内側 (Inside ossia)**
  - **オssiaの外側 (Outside ossia)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 組段のインデント

組段のインデントは、楽譜の左側のページ余白と組段の開始位置の間の距離を制御します。伝統的には、パートレイアウトの最初の組段はインデントされますが、現代的な用法においてこれは必ずしも必須ではありません。

Andante mosso

The image shows two staves of music. The first staff is titled 'Andante mosso' and starts with a whole note (marked '1'), followed by a triplet of eighth notes (marked '3'), a quarter note, and a half note (marked '4'). The second staff starts with a quarter note (marked '6'), followed by a triplet of eighth notes (marked '4'), a quarter note, a quarter note, a quarter note, a quarter note, a quarter note, a quarter note, a quarter note, a quarter note, a quarter note, and a half note (marked 'A'). The first system is indented.

最初の組段がインデントされたバイオリンパート

Dorico Pro では、組段のインデントは譜表ラベルを収めるために自動的に調整されます。たとえば、組段のインデントの最小値より大幅に長い譜表ラベルが組段に存在する場合、Dorico Pro はその組段のイ

ンデントを大きくして、譜表ラベルの読みやすさを維持しつつ、左端で切れたり楽譜に衝突したりしないようにします。

譜表ラベルの付いた組段の最小インデントと最初の組段のインデントは、どちらもレイアウトごとに個別に変更できます。個々の組段の開始位置および終了位置のインデントは、どちらもレイアウトごとの設定から独立した形で調整できます。

関連リンク

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更する \(910 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(394 ページ\)](#)

## 最初の組段のインデントの変更

Dorico Pro の初期設定では、パートレイアウトの最初の組段はインデントされます。レイアウトの最初の組段のインデントは、レイアウトごとに個別に変更できます。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、最初の組段のインデントを変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**フローの最初の組段のインデント (Indent first system of flow by)**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

選択したレイアウトで最初の組段のインデントが変更され、プロジェクト全体に適用されます。これはすべてのフローに適用されます。

関連リンク

[組段のインデント \(937 ページ\)](#)

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更する \(910 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(394 ページ\)](#)

# ディヴィジ

ディヴィジとは、1つの譜表を共有するプレーヤーが、通常は短いパッセージの間複数のラインに分かれ (“divide”)、そののち一緒 (“トゥッティ”)に戻るものです。ディヴィジのパッセージは、すべてのラインを1つの譜表に記譜する場合も、複数の譜表にわたって記譜する場合があります。

ディヴィジは、最も一般的にはオーケストラの弦楽器の記譜において使用される技法です。通常、弦楽器セクションには、譜表の数に対して数多くのプレーヤーが参加しているためです。たとえば、通常大規模なオーケストラには第1バイオリンが12人いて、大抵は全員が同じパートを演奏しています。これらのプレーヤーを複数のパートに分割することにより、作曲者はより複雑な対位法による楽曲を作成できます。

The image shows a musical score for Violin I. It consists of three staves. The top staff is labeled 'Solo' and contains a single note with a long, sweeping slur above it, marked 'p dolce'. The middle staff is labeled '1' and contains a series of eighth notes, marked 'p'. The bottom staff is labeled '2' and contains a series of eighth notes, also marked 'p'. A bracket groups the middle and bottom staves, indicating they are part of the same section. A sharp sign (#) is placed above the middle staff towards the end of the section.

Violin I パートを2つのセクションと1つのソロラインに分割するディヴィジ作成の例

分割方法が比較的単純であれば、すべてのパートを同じ譜表に記譜してセクションにラベルを付けることができます。この場合は必要に応じて、各ラインに必要なプレーヤー数を指示できます。

一方、分割したラインの内容が大きく異なり、単一の譜表にわかりやすく記譜できない場合は、複数の譜表に分割する必要があります。Dorico Pro では、特定の領域にディヴィジ作成を設定できます。これによりセクションを分割してパートや譜表をいくつでも用いることができるだけでなく、必要に応じてソロラインとグループ譜表に分けることもできます。ディヴィジ作成は、セクションプレーヤーに属するものであれば、どの譜表にでも入力できます。

## 補足

ディヴィジ作成は、ソロプレーヤーに属する譜表には入力できません。ソロプレーヤーに複数の譜表にわたる楽譜を記譜する場合、追加の譜表をかわりに使用します。

ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合、Dorico Pro は自動的に譜表を追加して組段の始端と終端まで延長します。それから、ユニゾン範囲を使用して、セクションがトゥッティになっている領域をその譜表に自動的に複製します。

ディヴィジ作成はフルスコアレイアウトとパートレイアウトのいずれにも適用されます。

関連リンク

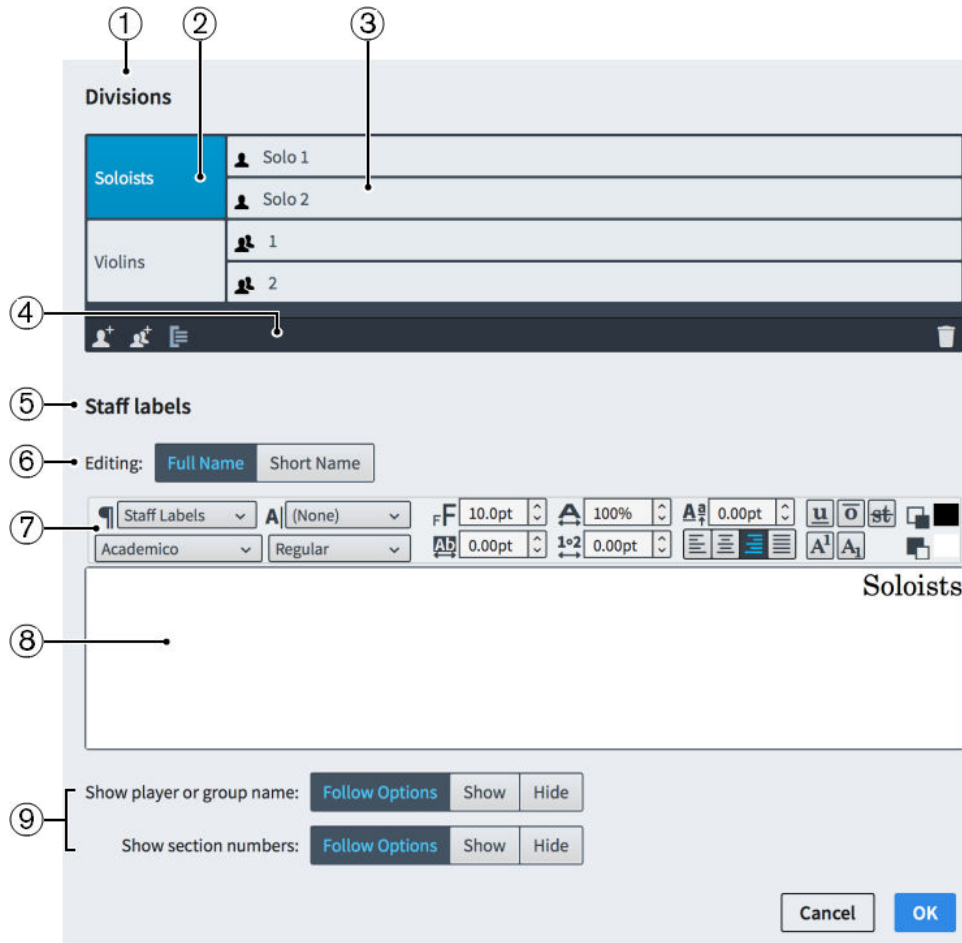
[ユニゾン範囲](#) (944 ページ)

## 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」 ダイアログ

「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログでは、セクションプレーヤーの分割方法を変更するとともに、譜表ラベルの外観とグループ分けを変更できます。

- 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログを開くには、セクションプレーヤーの譜表上のアイテムを選択して「編集 (Edit)」>「譜表 (Staff)」>「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」を選択します。

「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。



- ディヴィジョン (Divisions)セクション**  
選択したセクションプレーヤーの選択した位置における現在のディヴィジョンとグループを表示します。
- グループ**  
作成したディヴィジョンのグループをすべて表示します。セクションをグループ化してまとめると、譜表のラベルをより柔軟に設定できます。
- ディヴィジョン**  
現在ある個々のディヴィジョンを表示します。各ディヴィジョンは個別の譜表に対応します。
- アクションバー**  
ディヴィジョンの数と編成を変更できるオプションが収められます。
  - ソロのディヴィジョンを追加 (Add Solo Division)**



セクションにソロの譜表を追加します。Dorico Pro は自動的にソロ譜表をセクション譜表の上に追加します。

- **セクションのディヴィジョンを追加 (Add Section Division)**



セクションにセクションのディヴィジョンを追加します。Dorico Pro は自動的にセクションのディヴィジョンを既存セクションの下に追加します。

- **グループを追加 (Add Group)**



選択したソロまたはセクションのディヴィジョンをグループ化します。

- **ディヴィジョンまたはグループを削除 (Delete Division or Group)**



選択したセクションのディヴィジョンまたはグループを削除します。

#### 補足

ディヴィジ上の楽譜を削除せずにディヴィジを削除した場合、楽譜は表示されなくなりますがそのまま存在しています。あとから同じ位置に同じタイプのディヴィジョンを作成すると、楽譜は再度表示されます。

## 5 「譜表ラベル (Staff labels)」 セクション

選択したディヴィジョンまたはグループの現在の譜表ラベルを表示し、譜表ラベルのデフォルトのパラグラフスタイル設定とは別に譜表ラベルを編集できます。

## 6 編集 (Editing)

グループのみで有効です。選択したグループの「正式名称 (Full Name)」と「略称 (Short Name)」の編集を切り替えられます。

「正式名称 (Full Name)」は「完全 (Full)」の譜表ラベルに、「略称 (Short Name)」は「省略 (Abbreviated)」の譜表ラベルに使用されます。

## 7 テキストエディターのオプション

選択したディヴィジまたはグループの譜表ラベルのフォント、サイズおよび形式設定をカスタマイズできます。

## 8 テキスト編集領域

選択したディヴィジまたはグループの現在の譜表ラベルを表示します。譜表ラベルは、どの部分でも自由に選択して他の部分とは別個に編集できます。たとえば、数字にインストゥルメント名とは異なるフォントを使用できます。

ディヴィジの譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

## 9 譜表ラベルの表示タイプのオプション

レイアウトごとの設定とは別個に、ディヴィジの譜表ラベルの部分ごとの表示をカスタマイズできます。

### 関連リンク

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(907 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(947 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成を入力する \(942 ページ\)](#)

## ディヴィジ作成を入力する

ディヴィジ作成は、セクションプレーヤーの譜表であればどれでも入力できます。ディヴィジ作成は、継続するデュレーションにも含める譜表数にも制限はありません。

### 補足

- ディヴィジ作成は、ソロプレーヤーに属する譜表には入力できません。ソロプレーヤーに複数の譜表にわたる楽譜を記譜する場合、追加の譜表をかわりに使用します。
- ディヴィジ作成はフルスコアレイアウトとパートレイアウトのいずれにも自動的に表示されません。

### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
  - 音符の入力を開始します。
  - 分割させる譜表上の、ディヴィジの適用を開始する位置のアイテムを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」を選択して、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログで、任意のディヴィジを作成します。  
たとえば、プレーヤーを2つのセクションに分割する場合は、「セクションのディヴィジョンを追加 (Add Section Division)」をクリックします。
4. 必要に応じて、譜表ラベルを編集します。
5. 「OK」をクリックします。

### 結果

選択した譜表が、音符入力中はキャレットの位置、音符入力外では選択されたアイテムの位置から、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログで指定された数と種類の譜表に分割されます。ディヴィジ作成の位置にガイドが表示されます。

ディヴィジ作成は、選択したアイテムから次にあるディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。これはフルスコアレイアウトとパートレイアウトのいずれにも表示されます。

ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合、追加の譜表はすべて自動的に組段全体にわたって表示されます。ここにはユニゾン範囲が自動的に作成され、ディヴィジ作成で追加されたすべての譜表にトゥッティの音符や記譜記号すべてが複製されます。

### 補足

組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。組段にディヴィジがすでに存在するところにさらにディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

### 手順終了後の項目

ディヴィジ作成のさらなる追加、またはディヴィジのパッセージの終了は、どの位置でも行なえます。

### 関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(940 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(947 ページ\)](#)

[ディヴィジのパッセージを終了させる \(944 ページ\)](#)

## 既存のディヴィジ作成を編集する

ディヴィジ作成は入力後に編集できます。たとえば、既存のセクションのディヴィジョンに追加する形でソロラインを設定できます。

---

### 手順

1. 編集を行なう既存のディヴィジ作成のガイドをダブルクリックして、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログを開きます。この操作は設定、記譜、および浄書モードで行なえます。
2. 「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログでディヴィジ作成を編集します。
3. 必要に応じて、譜表ラベルを編集します。
4. 「**OK**」をクリックします。

---

### 結果

選択したディヴィジ作成が更新されます。

ディヴィジ作成に追加のディヴィジョンを設定した場合、ディヴィジ作成が適用される領域にこれらの譜表が追加されます。

ディヴィジ作成からディヴィジョンを削除した場合、これらの譜表はディヴィジ作成が適用される領域から削除されます。

---

### 補足

ディヴィジのセクションを削除しても、それ以前に譜表にあった楽譜が自動的に削除されるわけではありません。削除された譜表は表示されなくなりますが、そこに残された音符はすべて再生されます。あとから譜表を復元すると、音符も同時に復元されます。

削除したディヴィジ譜表の音符を再生したくない場合は、先に譜表からすべての音符を削除することをおすすめします。

---

### 関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(940 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(947 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(276 ページ\)](#)

## ディヴィジ作成を移動する

ディヴィジ作成は入力後に位置を移動できます。ディヴィジのパスセージは、開始位置と終了位置にそれぞれガイドが表示されて別個に移動できるため、長さも変更できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、移動するディヴィジ作成のガイドを選択します。

---

### 補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるディヴィジ作成のガイドは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従いディヴィジ作成を移動します。
    - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
    - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
    - ディヴィジ作成のガイドをクリックして左右にドラッグします。
  3. 必要に応じて、ディヴィジのパスセージのもう一方のガイドにも手順1と2を繰り返します。
-

#### 結果

選択したディヴィジ作成のガイドが異なる位置に移動します。移動によりディヴィジのパスセージの範囲から外れたディヴィジ譜表上の楽譜は自動的に非表示になり、パスセージの前後のユニゾン範囲は、パスセージの新しい開始位置と終了位置に従い自動的に更新されます。

#### 補足

ディヴィジ作成のガイドはそれぞれの位置に1つしか存在できません。ディヴィジ作成のガイドを移動する際に他のディヴィジ作成のガイドの上を通過した場合、そこにあったガイドは削除され、移動したガイドに置き換えられます。たとえば、ディヴィジ作成の開始位置のガイドを動かして、それ自体のトゥットィの復元の上を通過させた場合、ディヴィジのパスセージは譜表上の次のディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置の、いずれか先に到達したところまで継続されるようになります。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除されたディヴィジ作成のガイドについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

## ディヴィジのパスセージを終了させる

ディヴィジのパスセージは、組段の途中を含む任意の位置で終了させて1つの譜表のユニゾンセクションに戻せます。

#### 手順

1. 記譜モードで、ディヴィジのパスセージを終了させる位置にあるディヴィジ譜表上のアイテムを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ユニゾンに戻る (Restore Unison)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した位置に1つのユニゾンセクションを持つデフォルトのディヴィジ作成が入力され、ここまでのディヴィジのパスセージを終了させます。ユニゾンの復元位置にガイドが表示されます。

ユニゾンの復元は、選択したアイテムから次にあるディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。これはフルスコアレイアウトとパートレイアウトのいずれにも表示されます。

ユニゾンの復元が組段の途中で行なわれた場合、この前のディヴィジ作成で指定されているすべての譜表は、組段の終端まで自動的に継続されます。ここにはユニゾン範囲が自動的に作成され、ディヴィジ作成から継続されるすべての譜表にユニゾンの音符や記譜記号すべてが複製されます。

#### 補足

組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。組段にディヴィジがすでに存在するところにさらにディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

#### 関連リンク

[ユニゾン範囲 \(944 ページ\)](#)

## ユニゾン範囲

ユニゾン範囲とは、ディヴィジのパスセージが組段の途中で開始/終了するとき、その前/後ろのすべての譜表に自動的に複製されるトゥットィのパスセージです。これにより、どの時点でもプレーヤーが演奏すべき内容があいまいになることはありません。

楽譜の複製の際、Dorico Pro はセクションの一番上の譜表を複製元に使用し、その譜表のすべての音符と記譜記号をセクションのすべての譜表に複製します。



ユニゾン範囲の各譜表の音符は個別に編集できません。ユニゾン範囲の譜表の音符やアイテムを選択すると、セクションのすべての譜表上で同じ音符やアイテムが選択されます。従って、ユニゾン範囲の音符やアイテムを編集することは、セクションのすべての譜表の音符やアイテムを同時に編集することになります。同様に、ユニゾン範囲の譜表に音符を入力すると、Dorico Pro はセクションのすべての譜表にもその音符を入力します。



ユニゾン範囲 (色で表示) のすべての譜表で同時に選択されている音符とスラー

#### 補足

1つの譜表からセクションの他の譜表への複製は複雑な処理であるため、Dorico Pro が自動で行なえる処理には限界があります。これには特にディヴィジ作成より前から始まる、またはディヴィジ作成より後ろで終わる音符や記譜記号が該当します。たとえば、ディヴィジ作成の前から始まってディヴィジ作成の内側につながるスラーは、ユニゾン範囲には複製されません。このような場合、ディヴィジ作成をスラーの前または後ろに移動し、必要に応じて前後のユニゾンの音符や記譜記号を手動で複製することをおすすめします。

ディヴィジョンの譜表がトゥッティに復元する位置でメインの譜表とは異なる音部記号を使用している場合、Dorico Pro は自動的に適切な音部記号を入力します。

#### 補足

このときディヴィジョンの終了位置における音部変更記号のデフォルトのスペーシングが狭く、直前の音符とすれすれに配置される場合があります。このような場合、その位置の音符のスペーシングを調整することをおすすめします。

#### 関連リンク

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

## ユニゾン範囲のカラー表示

ユニゾン範囲の表示カラーを変更して、パッセージをより識別しやすくなります。

#### 手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note and Rest Colors)」 > 「ディヴィジのユニゾン範囲 (Divisi Unison Ranges)」を選択します。

#### 結果

メニュー内の「ディヴィジのユニゾン範囲 (Divisi Unison Ranges)」の横にチェックマークがあるときはユニゾン範囲がカラー表示され、チェックマークがないときはカラー表示されません。

ユニゾン範囲がカラー表示されている場合、ユニゾン範囲の音符はグレーで表示されます。Dorico Pro はトゥッティのセクションの複製元の音符を、初期設定ではセクションの一番上の譜表に記譜するため、一番上の譜表の音符は黒いままになります。

例



ユニゾン範囲のカラーが表示されていないトゥッティのパスセージ



同じユニゾン範囲のカラーが表示されているトゥッティのパスセージ

関連リンク

[ユニゾン範囲](#) (944 ページ)

## 声楽の譜表のディヴィジ

声楽の譜表が分かれて異なるラインが個別の譜表に記されるとき、組段の終わりに矢印を表示して譜表の分割を強調し、ディヴィジョンの終端にも再度矢印を表示して譜表の結合を示すことが一般的です。



ons ses faits glo - ri -



ne - lle, soit é - ter -



ne - lle, soit é - ter -

譜表が次の組段で2つに分割されることを示す分割の矢印

2つの譜表が次の組段で結合して1つに戻ることを示す分割の矢印

声楽の譜表のディヴィジのパスセージで開始位置と終了位置に表示される矢印は、Dorico Pro では分割の矢印と呼ばれます。Dorico Pro は初期設定ではこの矢印を声楽の譜表に表示しますが、これはプロジェクト全体のすべての譜表で非表示にもできます。

## 声楽の譜表の分割の矢印を表示/非表示にする

声楽の譜表の分割の矢印を、プロジェクト全体で表示または非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**ディヴィジ (Divisi)**」をクリックします。
3. 「**声楽の譜表の組段終端にあるディヴィジの指示 (Indicate divisi at end of system on vocal staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **分割矢印を表示 (Show divide arrows)**
  - **分割矢印を非表示 (Do not show divide arrows)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[声楽の譜表のディヴィジ \(946 ページ\)](#)

## ディヴィジの譜表ラベル

ディヴィジ譜表の譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより詳細な記載が必要なこともよくありますそのため Dorico Pro では、ディヴィジ譜表の譜表ラベルの外観と形式設定については、追加の制御項目が用意されています。

初期設定では、ディヴィジ譜表の譜表ラベルは、テキストの形式設定に通常の譜表と同じパラグラフスタイルを使用し、譜表ラベルのオプションはディヴィジ譜表にも適用されます。一方、ディヴィジ作成における個々の譜表については、フォント、スタイル、配置などについて、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログの設定より優先される形で編集も行なえます。

ディヴィジ作成で譜表のカスタムグループを作成すると、各譜表とは個別にグループの譜表ラベルを編集できます。グループの譜表ラベルは正式名称と略称のどちらも編集できます。

加えて、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログで、そのディヴィジ作成に属する譜表のプレーヤー名/グループ名とセクション番号の表示と非表示を切り替えられ、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページの設定より優先される形で適用できます。

### 補足

個々のディヴィジの譜表ラベルを編集すると、パラグラフスタイルの設定が上書きされます。このあと譜表ラベルのパラグラフスタイルを変更しても、編集されたディヴィジの譜表ラベルは更新されません。

プロジェクト全体のディヴィジ譜表の上に、レイアウトごとに個別に追加のディヴィジ作成のラベルを表示できます。初期設定では、ディヴィジ作成のラベルはディヴィジの譜表ラベルと同じ情報を表示し、各譜表の上にディヴィジ作成の位置に整列して配置されます。このようなラベルは、組段の途中でディヴィジ作成を行ない、セクションの分割の正確な位置があいまいになってしまう場合に特に有用です。

関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(940 ページ\)](#)

[譜表ラベル \(905 ページ\)](#)

[譜表ラベルのパラグラフスタイル \(907 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベルを個別に編集する \(947 ページ\)](#)

[ディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストを変更する \(949 ページ\)](#)

## ディヴィジの譜表ラベルを個別に編集する

それぞれのディヴィジ作成に表示される譜表ラベルは個別に編集できます。たとえば、プロジェクト中のある1つのディヴィジョンが他とは大きく異なり、より詳細な説明が必要な場合に使用できます。ディヴィジの譜表ラベルを個別に編集する際は、各ラベルのフォントもカスタマイズできます

### 補足

「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログで譜表ラベルに行なった変更は、すべてのレイアウトに適用されます。これは、譜表の上の対応するディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストにも影響します。これらのラベルに表示されるテキストを変更している場合でも同様です。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログを開きます。

- 既存のディヴィジ作成のガイドのうち譜表ラベルを変更するものをダブルクリックします。
  - 新規にディヴィジ作成を入力します。
2. 「ディヴィジョン (Divisions)」セクションで、譜表ラベルを編集するグループまたはセクションを選択します。
  3. またグループを選択している場合、必要に応じて以下のいずれかのうち編集する譜表ラベルを選択します。
    - 正式名称 (Full Name)
    - 略称 (Short Name)
  4. 「譜表ラベル (Staff labels)」セクションで、選択した譜表ラベルを編集します。
  5. 「プレイヤー名またはグループ名を表示 (Show player or group name)」および「セクション番号を表示 (Show section numbers)」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - オプションに従う (Follow Options)
    - 表示 (Show)
    - 非表示 (Hide)
  6. 必要に応じて、ディヴィジ作成の他のセクションまたはグループに対しても、手順 2 から 5 を繰り返します。
  7. 「OK」をクリックします。
- 

#### 結果

ディヴィジ作成の譜表ラベルの外観、長さおよび挙動が、該当するすべてのレイアウトで変更されません。

#### 関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(940 ページ\)](#)

[既存のディヴィジ作成を編集する \(943 ページ\)](#)

## ディヴィジの譜表ラベルを表示/非表示にする

各組段の最初の小節線の前に表示されるセクションの譜表ラベルは、レイアウトごとに個別に表示または非表示にできます。たとえば、パートレイアウトの譜表ラベルにはセクション名を表示しつつ、フルスコアレイアウトでは非表示にするといったことができます。これは、ディヴィジ譜表ではない譜表ラベルのレイアウトごとの表示設定より優先される形で適用されます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ディヴィジの譜表ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、以下のオプションをオンまたはオフにします。
  - **最初の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)**
  - **次以降の組段にセクション名を表示 (Show section names on subsequent systems)**
5. 必要に応じて、以下のオプションを使用して譜表ラベルの長さを変更します。
  - **最初の組段の譜表ラベル (Staff labels on first system)**

- 次の組段の譜表ラベル (Staff labels on subsequent systems)

#### 補足

このオプションは、ディヴィジの譜表だけではなく、選択したレイアウトのすべての譜表のインストゥルメント名およびディヴィジのグループ名の長さに影響します。

6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「最初の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)」をオンにすると、それぞれのディヴィジのパッセージの最初の組段において最初の小節線の前にセクション名が表示され、オフにすると非表示になります。

「次以降の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)」をオンにすると、ディヴィジのパッセージの後続の組段すべてにおいて最初の小節線の前にセクション名が表示され、オフにすると非表示になります。

#### 補足

これは複数の同一のインストゥルメント間に中央配置されているグループ名やインストゥルメント名とは個別に扱われます。

#### 例

The image shows two side-by-side musical score examples for Violin I (Vln I), Violin II (Vln II), and Viola (Vla). Each instrument has two staves. The left example shows the first system with section names and staff labels (1, 2) displayed. The right example shows the first system with section names but no staff labels displayed.

ヴィオラのディヴィジの譜表に、セクション名とともに省略された譜表ラベルを表示する例

ヴィオラのディヴィジにセクション名は表示しつつ譜表ラベルを表示しない例

#### 関連リンク

[ディヴィジの譜表ラベル \(947 ページ\)](#)

[譜表上のディヴィジ作成のラベルを表示/非表示にする \(950 ページ\)](#)

[プロジェクト全体での譜表ラベルの長さの変更 \(909 ページ\)](#)

## ディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストを変更する

譜表の上に表示される個々のディヴィジの作成ラベルには、カスタムテキストを表示できます。これはディヴィジ譜表の譜表ラベルの内容には影響しません。

#### 手順

1. 浄書モードで、テキストを変更するディヴィジ作成のラベルを選択します。

2. プロパティパネルの「ディヴィジ (Divisi)」グループで、「カスタムテキスト (Custom text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. [Return] を押します。

#### 結果

選択したディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストが変更されます。

## 譜表の上のディヴィジ作成のラベルを表示/非表示にする

ディヴィジセクションの譜表の上のセクション名は、プロジェクト全体でレイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。これによりたとえば、ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合にどの譜表がディヴィジのどのセクションに対応するのかわかりやすくしたり、譜表間の重み付けの違いを示したりできます。

#### 手順

1. [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L] を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、譜表の上のディヴィジの作成ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、[Shift] を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、[Ctrl]/[command] を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「譜表の上にディヴィジの作成ラベルを表示 (Show divisi change labels above staves)」をオンまたはオフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

#### 結果

「譜表の上にディヴィジの作成ラベルを表示 (Show divisi change labels above staves)」がオンのときは、ディヴィジョンの譜表の上にセクション名が表示され、オフのときは非表示になります。

#### 補足

これは、各組段の最初の小節線の前の譜表ラベルに、ディヴィジのセクション名が表示されるかどうかには影響しません。

#### 例



各譜表の上のディヴィジのセクション名を表示



各譜表の上のディヴィジのセクション名を非表示

#### 関連リンク

[ディヴィジの譜表ラベル \(947 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベルを表示/非表示にする \(948 ページ\)](#)

## 再生時のディヴィジ

ディヴィジ譜表の音符はすべて、譜表の数に関係なく再生されます。ただし、ディヴィジは1つのセクションプレーヤーに属するため、すべての譜表は同じチャンネルを使用して再生されます。

つまり、ディヴィジのセクション間で付けられる変化の幅には制限があるということです。現在のところ、1つのセクションプレーヤーを分割したセクションを複数のチャンネルに割り当てることはできませんが、これは将来のバージョンにおいて予定されています。

関連リンク

[再生モード \(404 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(452 ページ\)](#)

# 符尾

符尾とは、2分音符かそれ以下のデュレーションの音符の符頭から延びる垂直の線です。符頭のデザインとの組み合わせにより、それぞれの音符のデュレーションが明確に識別できます。

たとえば、4分音符と8分音符はどちらも黒丸符頭と符尾を持ちますが、8分音符の場合は符尾に符鉤も付きます。16分音符には2つ、32分音符には3つというように符鉤が付いていきます。符尾の長さは Dorico Pro のデフォルトにより決定され、符鉤の増減に合わせて自動的に調整されます。



2分音符 (左) から 128分音符 (右) までの、符尾の付いた音符

音符と和音の符尾は、楽譜の浄書における表記規則と楽譜中の位置に従い、上向きまたは下向きになります。たとえば譜表が2つの合唱の楽譜においては、ソプラノとテナーのラインでは符尾は上向き、アルトとバスのラインでは符尾は下向きになります。

関連リンク

[符尾の長さ \(957 ページ\)](#)

[譜表の第3線上にある音符の符尾の方向に関するデフォルト設定の変更 \(955 ページ\)](#)

## 浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで、符尾の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**音符 (Notes)**」ページのオプションを使用すると、符尾のデザイン、衝突回避、長さ、および線の太さを変更できます。また、符尾が上向きまたは下向きになる状況の設定や、符尾が短くなる状況の設定、符頭が譜表の第3線上にあるときのデフォルトの符尾の方向の変更が行なえます。



デフォルトの符鉤のデザイン



まっすぐな符鉤のデザイン

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

### 補足

トレモロストロークが付いた符尾には、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで確認できる特定のオプションがあります。たとえば、符尾の端や異なる符尾の符鉤とトレモロストロークとのデフォルト距離の変更などが行なえます。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)



## 符尾の方向

Dorico Pro では、音符および和音の符尾の方向は、楽譜の浄書における表記規則に基づくルールに従います。

符尾の方向は自動的に決定されますが、音符、和音、または声部全体について、手動で個別に符尾の方向を変更できます。適用されるルールは以下の条件に従います。

- 譜表で有効な声部の数。
- 適用先が音符、和音、または音符の連桁グループのいずれであるか。
- 同じ和音または同じ連桁グループに属する音符が、譜表間で分割されているかどうか。

### 単一の声部の単一の音符

有効な声部が 1 つだけの 5 線譜においては、単一の音符のデフォルトの符尾の向きは、その譜表上の位置により決定されます。

- 音符が第 3 線より上にある場合、符尾は下向きになります。
- 音符が第 3 線より下にある場合、符尾は上向きになります。
- 音符が譜表の第 3 線上にある場合、譜表の方向は隣接する音符、連桁グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、音符の符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連桁グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、または隣接する音符、連桁グループ、または和音がない場合、音符はデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第 3 線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

#### ヒント

譜表の第 3 線上の音符および連桁グループ、および譜表の第 3 線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。



4 番目の音符の符尾が上向きであるため、第 3 線上の音符の符尾は上向きになります。



4 番目の音符の符尾が下向きであるため、第 3 線上の音符の符尾は下向きになります。

Dorico Pro の初期設定では、最初に入力された一連の音符は、符尾が上向きの声部として設定されます。これらの音符は他の声部が入力されるまで譜表の唯一の声部として扱われます。

### 複声部の単一の音符

譜表に複数の声部があり、すべての声部に音符が含まれる場合、符尾の向きは声部の符尾の向きによって決定されます。符尾が上向きの声部に含まれる音符の符尾は上を、符尾が下向きの声部に含まれる音符の符尾は下を向きます。通常であれば譜表の位置に基づいて逆の方向に符尾が向く場合でも、声部の符尾の方向が音符に適用されます。

#### 補足

符尾が上向きの異なる声部または符尾が下向きの異なる声部に含まれる音符の表示順は、それぞれのピッチと「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**声部 (Voices)**」ページの設定によって変わります。音符の声部ごとに列の並び順を個別に変更することもできます。

音符が1つの声部にしか含まれない状態が1小節以上続くときは、Dorico Proは自動的に符尾の方向をピッチに基づくデフォルトの方向に変更します。たとえば、譜表に符尾が上向きの声部が1つと符尾が下向きの声部が1つあり、符尾が下向きの声部にのみ音符や休符が含まれている場合、符尾が下向きの声部に含まれる音符の符尾は、譜表上の音符の位置によっては上向きになることがあります。ただし、空白の声部で休符や暗黙の休符を表示した場合、音符の符尾の方向は声部の符尾の方向に従います。



上向きの声部を表わすブルーの音符      下向きの声部を表わす紫色の音符      上向き、下向き声部が同じ小節内  
他の声部がないため、下向き      にある場合、符尾の方向は自動的に  
声部に含まれる音符の符尾が上向き      変わる

## 単一の声部の和音

単一の声部の和音の符尾の方向は、譜表の第3線の上下にある音符のバランスにより決定されます。

- 第3線から一番遠い音符が第3線より高い位置にある場合、和音の符尾は下向きになります。
- 第3線から一番遠い音符が第3線より低い位置にある場合、和音の符尾は上向きになります。
- 譜表の第3線の上下で和音のバランスが均等に取れている場合、譜表の方向は隣接する音符、連符グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、和音の符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連符グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、均等なバランスの和音はデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

### ヒント

譜表の第3線上の音符および連符グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。

## 単一の声部の連符グループ

連符グループの符尾の方向は、連符グループに属する音符が譜表の第3線の上下に分布するバランスにより決定されます。

- 連符グループに属する音符の過半数が第3線より上であれば、連符グループの符尾の方向は下向きになります。
- 連符グループに属する音符の過半数が第3線より下であれば、連符グループの符尾の方向は上向きになります。
- 連符グループに属する音符の数が譜表の第3線の上下で均等な場合、譜表の方向は隣接する音符、連符グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、連符グループの符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連符グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、均等なバランスの連符グループはデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

### ヒント

譜表の第3線上の音符および連符グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音**

「**符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。

関連リンク

[浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する \(952 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1049 ページ\)](#)

[声部列の並び順 \(1051 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(871 ページ\)](#)

[複声部の音符位置 \(1048 ページ\)](#)

[声部のデフォルトの符尾の方向を変更する \(956 ページ\)](#)

[符尾の方向の変更を解除 \(957 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

## 譜表の第3線上にある音符の符尾の方向に関するデフォルト設定の変更

譜表の第3線上にある音符の符尾は、上下いずれの方向にもできます。そのような符尾のデフォルトの方向を変更して、符尾の方向が隣接する音符、連符グループ、または和音に影響を受けるか、それとも常にデフォルトの方向に従うか選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
3. 「**符尾 (Stems)**」セクションの「**符尾の方向 (Stem Directions)**」サブセクションで、「**譜表の第3線上にある音符の符尾の向き (Stem direction for notes on the middle line of the staff)**」の以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **前後の音符に合わせる (Determine by context)**
  - **デフォルトの向きを使用 (Use default direction)**
4. 必要に応じて、「**第3線上の音符のデフォルトの向き (Default stem direction for notes on the middle line of the staff)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Up)**
  - **下 (Down)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

## 音符の符尾の方向を個別に変更する

音符の符尾の方向は手動で変更できます。

手順

1. 符尾の方向を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって符尾の方向を変更します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾を強制的に上向き (Force Stem Up)**」を選択します。
  - 「**編集 (Edit)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾を強制的に下向き (Force Stem Down)**」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した音符の符尾の方向が変更されます。選択した音符はここで指定した符尾の方向に従います。音符のピッチを後から変更し、異なる符尾の方向が通常使用されるピッチにしても符尾の方向は変わりません。

#### 補足

これによって音符が属する声部は変更されません。

#### 例



同じ方向を向くが、異なる声部に属する符尾



同じ方向を向き、同じ声部に属する符尾

#### 関連リンク

[既存の音符の声部を変更する \(290 ページ\)](#)

## 声部のデフォルトの符尾の方向を変更する

声部のデフォルトの符尾の方向は、スラッシュ符頭の声部も含めて、入力したあとでも変更できます。

#### 補足

これは声部における暗黙の符尾の方向を変更しますが、単一の声部におけるすべての音符の符尾の方向を変更するわけではありません。Dorico Pro では、音符が含まれる声部が1つだけのときは、符尾の方向が自動的に変更されます。

#### 手順

1. 符尾の方向を変更する声部の音符または和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した声部のデフォルトの符尾の方向を変更します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「符尾をデフォルトで下向きにする (Default Stems Down)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「符尾をデフォルトで上向きにする (Default Stems Up)」を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 関連リンク

[符尾の方向 \(953 ページ\)](#)

## 符尾の方向の変更を解除

符尾の方向に加えた変更を解除して、デフォルトの方向に復元できます。

### 手順

1. 符尾の方向の変更を解除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾の強制を削除 (Remove Forced Stem)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符におけるすべて符尾の方向の変更が解除されます。選択した音符の符尾がデフォルトの方向に復元されます。

### 補足

または、符尾の方向を逆方向に変更もできます。ただし、符尾の方向が強制された音符は、たとえば後からピッチを変更しても、符尾の方向が自動的に変更されません。

### 関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)

## 符尾の長さ

Dorico Pro の初期設定での符尾の長さは、音符の譜表上の位置による符尾の外観に関する一般的な表記規則に従い決定されます。

すべての符尾の長さに関するプロジェクト全体のデフォルト設定は変更でき、また浄書モードでは個々の符尾の長さを変更できます。

### 関連リンク

[浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する \(952 ページ\)](#)

## 符尾の長さを個別に変更する

音符の符尾の長さを、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、長さを変更する符尾を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、符尾の長さを変更します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して符尾を伸ばします。
  - **[Alt]+[↓]** を押して符尾を縮めます。

### 補足

符尾の長さを変更する幅を大きくする場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]**)。

- 符尾の終端の四角いハンドルをクリックして、上下にドラッグします。

### 結果

選択した符尾の長さが、符尾の方向に関わらず変更されます。たとえば、符尾が下向きの音符を選択して **[Alt]+[↑]** を押すと、符尾の終端が下に移動して符頭から離れることによって長さが伸びます。

#### ヒント

- 符尾の長さを変更すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループの「**符尾の調節 (Stem adj.)**」がオンになります。  
このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、符尾の長さを変更できます。ただし、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループは、符尾ではなく符頭が選択されているときしか利用できません。  
プロパティをオフにすると、選択した符尾がデフォルトの長さにリセットされます。
- 符尾のデフォルトの長さをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで設定を行ないます。異なる状況の符尾には、それぞれ異なるオプションがあります。

## 符尾の非表示

どの符頭デザインにおいても、音符の符尾を非表示にできます。

Dorico Pro では、符尾なしの符頭のデザインを使用するのではなく、符尾を非表示にできるようにしています。これにより、どの符頭のデザインにおいても符尾を非表示にできます。

#### 手順

1. 浄書モードで、符尾を非表示にする音符を選択します。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**符尾を非表示 (Hide stem)**」をオンにします。

#### 結果

選択した音符の符尾と付属する符鉤が非表示になります。あとから音符のピッチを変更しても、符尾は完全に非表示のままになります。

選択した音符が連桁のグループに属する場合、連桁は通常通りに表示され続けます。ただし連桁グループのすべての音符の符尾を非表示にした場合は、連桁も非表示になります。

#### 関連リンク

[符尾の長さを個別に変更する \(957 ページ\)](#)

## オルタードユニゾンの分割された符尾

分割された符尾は、オルタードユニゾンを含む和音で使用されます。このような和音では、和音の本体は通常通り表示されますが、本体の符尾から枝分かれした符尾がオルタードユニゾンの符頭を和音につなぎます。



符尾が分割された和音

これは、Dorico Pro におけるオルタードユニゾンのデフォルトの表示です。

オルタードユニゾン分割された符尾で表示するか、1本の符尾で表示するかは、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページで各フローごとに個別に選択できます。

#### 補足

コードに含まれる音符の音程が2度で、それらの音符のいずれかにオルタードユニゾンがある場合、設定に関わらず、コードは常に符尾が分割されて表示されます。これによって、クラスターコードが分かりやすくなります。

---

#### 関連リンク

[オルタードユニゾン \(497 ページ\)](#)

[オルタードユニゾンの外観を変更する \(498 ページ\)](#)

# テンポ記号

テンポ記号は楽譜を演奏する速さを示し、多くの場合テキストによる指示とメトロノームマークの組み合わせで表示されます。これはまた“テンポ変更”や“テンポ指示”などとも呼ばれます。

テンポ記号はテキストによる指示、メトロノームマーク、または両者の組み合わせで表示されます。

The image shows three examples of musical notation in 3/4 time. The first example is a single staff with a whole rest, preceded by the text "Assez animé" and a quarter note followed by "= 144". The second example is a single staff with a series of eighth notes, preceded by the text "Assez animé" and a quarter note followed by "= 144". The third example is a two-staff system with eighth notes, preceded by the text "pp très rythmé, léger".

フランス語によるテキスト指示とメトロノームマークからなるテンポ記号

テキストによる指示は伝統的に、*largo*や*allegretto*などのイタリア語で表現されますが、英語、フランス語、ドイツ語など他の言語の使用も広く受け入れられるようになっています。テキストによる指示は単に楽曲を演奏する速さを表現するだけの場合もありますが、その性質を表わす場合もあります。たとえば、*grave*は遅さとともに重々しさや悲しさの表現を意味し、*vivo*は速さとともに陽気さや快活さの表現を意味します。

メトロノームマークは楽曲を演奏する速さを表わし、1分あたりの拍数、または“bpm”で表示されます。メトロノームマークは固定のbpmを表示する場合と、可能または許容される値の範囲を示す場合があります。

段階的テンポ変更は、指定された時間範囲で行なわれるテンポ変更を示します。たとえば、延長線が付くものや付かないもの、テキストが音節で分かれてデュレーションにわたって広がるものなど、さまざまな形で表現されます。

テンポ記号はポイントサイズの大きい太字フォントを使用するため、ページ上ではっきりと目立ちます。通常、テンポ記号に斜体フォントは使用されません。

Dorico Proでは、テンポ記号は組段オブジェクトに分類されます。従って、テンポ記号は組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従い、これは「設定 (Setup)」>「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページで変更できます。

プロジェクトに一切のテンポ記号を入力しなかった場合、デフォルトの再生テンポは120 bpmになります。

関連リンク

- [メトロノームマーク \(969 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更 \(972 ページ\)](#)
- [テンポ記号の要素 \(968 ページ\)](#)
- [テンポ記号の入力方法 \(199 ページ\)](#)
- [テンポ記号の位置 \(963 ページ\)](#)



[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)  
[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

## テンポ記号のタイプ

Dorico Pro は、その機能と楽曲に与える影響に従い、テンポ記号を複数のタイプにグループ分けしています。

記譜モードのテンポパネルでは以下のテンポ変更が利用できますが、テンポのポップオーバーを使用しても、すべてのタイプのテンポ変更を入力できます。

### 固定テンポ変更 (Absolute Tempo Change)

明確なテンポ変更を示し、多くの場合メトロノームマークを伴って表示されます。

### 段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)

*rallentando* (テンポを落とす) や *accelerando* (テンポを上げる) など、指定した時間範囲におけるテンポの変更を示します。

### 相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)

*mosso* (変動) など、前のテンポに対する相対的なテンポの変更を示します。

相対テンポ変更には、*poco meno mosso* (今までより少し遅く) のように、変化の度合いを表わす修飾語句が付く場合もあり、これにはメトロノームマークによる指定はありません。ただし、前のメトロノームマークに対する割合の形で、メトロノームマークの相対的な変化を設定できます。

### テンポをリセット (Reset Tempo)

*A tempo* のようにテンポを前のテンポに戻したり、*Tempo primo* (楽曲の最初のテンポに戻る) のように、あらかじめ指定されたテンポに戻したりします。

### テンポの等式

メトロノームマークが基本とする拍の単位の変更を示します。たとえば、拍子記号が 3/4 から 6/8 に変更された場合、♩♩ というテンポの等式により、3/4 拍子では 4 分音符の拍の単位に使用されていたメトロノームマークの値が、6/8 拍子では付点 4 分音符の拍の単位に使用されることが示されます。

### 関連リンク

[テンポパネル \(201 ページ\)](#)  
[段階的テンポ変更 \(972 ページ\)](#)  
[テンポ記号の入力方法 \(199 ページ\)](#)  
[テンポのポップオーバー \(199 ページ\)](#)

## テンポ記号のテキスト

テンポ記号はどのタイプでもテキストを使用しますが、段階的テンポ変更のみ、固定テンポ、相対テンポ、およびテンポのリセットとは異なるフォントスタイルを使用します。テンポ記号には完全テキストと省略テキストのどちらも使用でき、レイアウトごとに最適な方を表示できます。

これにより、同じテンポ記号であっても、プロジェクト中のさまざまなタイプのレイアウトに対し、必要に応じたカスタマイズが施せます。たとえば、あるパートレイアウトにおいてテンポ記号がページの外側まで伸びてしまう場合、このテンポ記号を省略テキストで表示しつつ、フルスコアレイアウトのテンポ記号の長さはそのままにできます。

Dorico Pro では、テキストオブジェクトやテキストフレームではなくてもテキストを使用するアイテムに使用されるフォントの外観は、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで変更できます。

テンポ記号には以下のフォントが使用されています。

- **段階的テンポテキスト用フォント (Gradual Tempo Text Font):** *rallentando* などの段階的テンポ変更で使用されます。
- **即時テンポテキスト用フォント (Immediate Tempo Text Font):** “Adagio” などの固定テンポ変更で使用されます。
- **メトロノーム音楽テキスト用フォント (Metronome Music Text Font):** ♩ など、メトロノームマークの音価のグリフで使用されます。
- **メトロノームテキスト用フォント (Metronome Text Font):** “=76” など、メトロノームマークの等式と数字で使用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

## テンポのテキストの変更

既存のテンポマークのテキストは個別に変更できます。

手順

1. テンポのテキストを変更するテンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**テキスト (Text)**」フィールドに任意のテンポのテキストを入力します。
3. **[Return]** を押します。

結果

選択したテンポ記号のテンポのテキストが変更されます。

ヒント

テンポのポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、テンポのテキストを変更できます。

関連リンク

[テンポのポップオーバー \(199 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(282 ページ\)](#)

## テンポの省略テキストの表示

個別のテンポ記号はカスタムの省略テキストを使用して表示できます。たとえば、長いテンポ記号が一部のパートレイアウトのページ範囲からはみ出してしまう場合に、省略形を使用して範囲内に収めることができます。

手順

1. 楽譜領域で、テンポの省略テキストを表示するレイアウトを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 省略テキストで表示するテンポ記号を選択します。
3. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**略語 (Abbreviation)**」をオンにします。
4. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
5. 「**テンポ (Tempo)**」グループの「**省略 (Abbreviate)**」をオンにします。
6. 対応するチェックボックスをオンにします。

#### 結果

選択したテンポ記号が省略テキストで表示されます。Dorico Pro のプロパティはレイアウト固有のため、テンポのテキスト全体を表示しているレイアウトにある同じテンポ記号の外観には、この設定は影響しません。

「略語 (Abbreviation)」がオンで「省略 (Abbreviate)」がオフのとき、または「略語 (Abbreviation)」と、「省略 (Abbreviate)」および対応するチェックボックスの両方がオンになっているとき、テンポの省略テキストが表示されます。これにより、「略語 (Abbreviation)」フィールドに入力した省略テキストが削除されないまま、レイアウトごとに省略テキストと完全テキストを切り替えられます。

#### 関連リンク

[テンポ記号の要素](#) (968 ページ)

## 段階的テンポ変更に *poco a poco* のテキストを個別に追加する

段階的テンポ変更の直後に *poco a poco* のテキストを追加できます。

#### 補足

また、テンポのポップオーバーに *poco a poco* を直接入力もできます。ただし、この入力は段階的テンポ変更ではなくテンポ記号として扱われ、使用できるプロパティも異なってきます。

#### 手順

1. *poco a poco* のテキストを追加する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「Poco a poco」をオンにします。

#### 結果

選択した段階的テンポ変更のテキストの直後に *poco a poco* のテキストが表示されます。

「Poco a poco (少しずつ)」をオフにすると、選択した段階的テンポ変更から *poco a poco* のテキストが取り除かれます。

#### 例



Rallentando に *poco a poco* のテキストが付いた例

## テンポ記号の位置

テンポ記号は通常すべての譜表に適用されるため、譜表の上の他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。可読性を確保するため、スラー、タイ、オクターブ線などの記譜記号の上に配置され、多くの場合リハーサルマークと整列します。

テンポ記号は拍子記号、またはテンポが適用されるリズム上の位置にある符頭か休符に整列します。たとえば、テンポ記号の位置に臨時記号の付いた符頭がある場合、テンポ記号は臨時記号に整列するのが表記規則となっています。

組段の途中に反復記号が置かれ、これが小節線として扱われない場合、テンポ記号はこの反復記号に整列します。

テンポ記号がテキストとメトロノームマークの両方を表示するとき、先にテキストが表示され、そのあとにメトロノームマークが表示されます。水平方向のスペースが詰まっているとき、メトロノームマークはテンポ記号テキストの下に配置できます。

テンポ記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

テンポ記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

テンポ記号のデフォルト位置および外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できます。

Dorico Pro では、テンポマークは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のテンポ記号を表示させることなどができます。

関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (968 ページ)

[組段オブジェクト](#) (935 ページ)

[組段オブジェクトの位置の変更](#) (936 ページ)

## テンポ記号のリズム上の位置の変更

テンポ記号の位置は入力後に移動できます。

---

手順

1. 記譜モードで、移動するテンポ記号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できるテンポ記号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従いテンポ記号を移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
  - テンポ記号をクリックして任意の水平位置にドラッグします。

---

結果

選択したテンポ記号が、現在のリズムグリッド値に従い移動します。

補足

テンポ記号はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したテンポ記号を移動させる際に他のテンポ記号の上を通過した場合、そこにあったテンポ記号は削除されます。

この動作は元に戻せませんが、移動中に削除されたテンポ記号については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

---

関連リンク

[段階的テンポ変更の長さの変更](#) (966 ページ)

## テンポ記号の表示位置の変更

テンポ記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。段階的テンポ変更の開始位置と終了位置はそれぞれ個別に移動できるため、個々の段階的テンポ変更の表示上の長さを変更できます。

### 補足

段階的テンポ変更の角度は変更できません。

### 手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
  - テンポ記号
  - 段階的テンポ変更の開始位置または終了位置の個々のハンドル

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ記号またはハンドルを移動させます。
  - **[Alt]+[→]** を押して、テンポ記号またはハンドルを右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して、テンポ記号またはハンドルを左へ移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して、テンポ記号または段階的テンポ変更全体を上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して、テンポ記号または段階的テンポ変更全体を下へ移動します。

### 補足

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

### 結果

選択したテンポ記号、段階的テンポ変更またはハンドルの移動により、表示位置が更新されます。

### ヒント

テンポ記号の位置を移動すると、プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」: テンポ記号および段階的テンポ変更の開始位置を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了 X (End X)**」は段階的テンポ変更の終了位置を水平に移動させます。

たとえば、段階的テンポ変更全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでも、テンポ記号の移動および段階的テンポ変更の表示の長さの変更が行なえます。ただし、これらのプロパティを使用しているときは、固定テンポ記号と段階的テンポ変更の表示位置を同時に変更はできません。

プロパティをオフにすると、選択したテンポ記号および段階的テンポ変更がデフォルト位置にリセットされます。

### 関連リンク

[段階的テンポ変更の長さの変更 \(966 ページ\)](#)

## 小節線に対する段階的テンポ変更の線の終了位置を変更する

小節の終了位置に対する段階的テンポ変更の線の右端の位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

### 補足

これはテキストのみのスタイルを使用する段階的なテンポ変更記号の外観に影響しません。

### 手順

1. 浄書モードで、終了位置の小節線に対する位置を変更する段階的テンポ変更を選択します。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「小節線との交差 (Barline interaction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 手前で停止 (Stop before)
  - 継続 (Continue)

### 結果

選択した段階的テンポ変更の終了位置が変更されます。

### 補足

段階的テンポ変更のデフォルトの終了位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページにある「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで設定を行ないます。

### 関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(968 ページ\)](#)  
[段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(972 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更の長さの変更

段階的テンポ変更は、入力後に長さを変更できます。

### 手順

1. 記譜モードで、長さを変更する段階的テンポ変更を選択します。

### 補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できる段階的テンポ変更は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、段階的テンポ変更の長さを変更します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ伸ばすには、[Shift]+[Alt]+[→] を押します。
  - 現在のリズムグリッドの値ずつ縮めるには、[Shift]+[Alt]+[←] を押します。

### 補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

### 結果

選択した段階的テンポ変更の長さが、現在のリズムグリッド値に従い変更されます。

#### ヒント

段階的テンポ変更の表示位置は、浄書モードで調整できます。

---

#### 関連リンク

[テンポ記号の表示位置の変更](#) (965 ページ)

## テンポ記号の表示/非表示

再生速度を変えずに、個々のテンポ記号の各構成要素を表示/非表示にできます。これはすべてのレイアウトにおける外観に影響します。

---

#### 手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
    - 非表示にするテンポ記号
    - 表示するテンポ記号のガイド
  2. プロパティパネルにある「**テンポ (Tempo)**」グループで、次のプロパティのオンオフを切り替えます。
    - **テキストを表示 (Text shown)**
    - **メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)**
- 

#### 結果

少なくとも 1 つのプロパティがオンになると、選択したテンポ記号が表示されます。オンのプロパティに応じて、構成要素が表示されます。

どちらのプロパティもオフの場合、選択したテンポ記号は非表示になります。ガイドは再生速度に影響を与えるため、表示されます。

#### 関連リンク

[テンポ記号の要素](#) (968 ページ)

[固定テンポ変更のタイプと外観の変更](#) (969 ページ)

## テンポ記号の削除

テンポ記号を削除して、再生のテンポを 1 つ前のテンポ記号がある場合はそのテンポに、ない場合はデフォルトのテンポにリセットできます。

---

#### 手順

1. 記譜モードで、削除するテンポ記号またはテンポ記号のガイドを選択します。
  2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。
- 

#### 結果

選択したテンポ記号が削除され、楽譜領域または再生モードのタイムトラックに表示されなくなります。再生におけるテンポは、1 つ前のテンポ記号がある場合はそのテンポに、ない場合はデフォルトのテンポである 120bpm に従います。

段階的テンポ変更のラインを打ち切っているテンポ記号を削除した場合、段階的テンポ変更のラインは自動的に本来の全長か、次の既存のテンポ記号の位置まで延長されます。

## 浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページで、テンポ記号の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「テンポ (Tempo)」のページのオプションでは、テンポ記号の外観や、譜表、拍子の変更記号、その他のアイテムに対する位置を変更できます。また、段階的テンポ変更の延長線の外観、太さ、および小節線に対する位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## テンポ記号の要素

テンポ記号の要素にはテキスト、メトロノームマーク、括弧、そして近似値の指示などがあります。テンポ記号は、プロジェクトごとに好みや必要に従い、さまざまな要素のさまざまな組み合わせで表示できます。

テンポ記号のどのタイプにどの要素を表示するか、プロジェクト全体の設定を変更できるとともに、個々のテンポ記号においても表示する要素を変更できます。

プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、それぞれの要素に対応するプロパティをオンにできます。個々の固定テンポ変更に対しては、以下のテンポ記号のプロパティをいくつでも自由な組み合わせでオンにできます。

### テキストを表示 (Text shown)

オンにするとテキストを表示し、オフにするとテキストを非表示にします。

### メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)

オンにするとメトロノームマークを表示し、オフにするとメトロノームマークを非表示にします。

### 括弧つき (Parenthesized)

オンにするとメトロノームマークを括弧つきで表示し、オフにすると括弧なしで表示します。これは近似値によるメトロノームマークにも適用されます。

### 近似 (Is approximate)

オンにするとメトロノームマークを近似値で表示し、オフにすると固定値で表示します。

### 近似値の外観 (Approximate appearance)

近似値によるメトロノームマークの外観を、「c.」や「circa」などから選択できます。

#### 補足

このプロパティは近似値によるテンポ記号に適用され、「近似 (Is approximate)」がオンのときだけ利用できます。

### 等号を表示 (Show equals sign)

このプロパティと対応するチェックボックスの両方をオンにすると、等号が表示されます。チェックボックスをオフにすると、等号は非表示になります。

#### 補足

このプロパティは近似値によるテンポ記号に適用され、「近似 (Is approximate)」がオンのときだけ利用できます。



## 段階的テンポ変更の要素

以下の要素は、*rallentando*などの段階的テンポ変更に応用されます。

### Poco a poco

このプロパティの横のチェックボックスをオンにすると、段階的テンポ変更の直後に *poco a poco* のテキストが表示されます。

関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(968 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更で poco a poco のテキストを個別に追加する \(963 ページ\)](#)

## 固定テンポ変更のタイプと外観の変更

個々の固定テンポ変更に表示する要素と、その外観を変更できます。

---

手順

1. 要素を変更する固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
  - **テキストを表示 (Text shown)**
  - **メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)**
  - **括弧つき (Parenthesized)**
  - **近似 (Is approximate)**
  - **「近似値の外観 (Approximate appearance)」** (「近似 (Is approximate)」がオンである場合のみ利用可能)
  - **「等号を表示 (Show equals sign)」** (「近似 (Is approximate)」がオンである場合のみ利用可能)

---

結果

選択したテンポ記号が対応する要素を表示するように変更されます。

補足

いずれのプロパティもオンにしなかった場合、楽譜にテンポ記号は表示されません。かわりに、テンポ記号の位置がガイドによって示されます。

---

関連リンク

[テンポ記号の要素 \(968 ページ\)](#)

## メトロノームマーク

テンポ記号には多くの場合メトロノームマークの値が表示されます。メトロノームマークは楽曲を演奏する速さを表わし、1分あたりの拍数、または“bpm”で表示されます。たとえば、60bpmは1秒間に1拍を意味します。1分あたりの拍数が増えるほど、演奏が速くなります。

♪ = 176–184

範囲で表示されるメトロノームマーク

メトロノームマークは ♩=176 といった単独の数値を指定したり、♩=152~176 のように許容可能な範囲を示したりできます。これは括弧付きで表示することもでき、メトロノームマークが固定テンポではなくガイドとしての意味合いで使用される場合などに有効です。

メトロノームマークに使用されている拍の単位は、通常は拍子に関連しています。たとえば 4/4 におけるメトロノームマークの拍の単位は 4 分音符ですが、6/8 においては付点 4 分音符になります。

Dorico Pro では、メトロノームマークは単独の数値または範囲として表示できます。メトロノームマークのタイプと外観によって、bpm の値は固定テンポを示す場合も、近似値を示す場合もあります。

関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(199 ページ\)](#)

[固定テンポ変更のタイプと外観の変更 \(969 ページ\)](#)

## メトロノームマークの値の変更

個々の固定テンポ記号におけるメトロノームマークの値や拍の単位は、入力後でも変更できます。

### 補足

この手順は、段階的テンポ変更やテンポのリセット記号、相対テンポ記号には当てはまりません。

### 手順

1. メトロノームマークの値を変更する固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」の値を変更します。
3. **[Return]** を押します。
4. 「拍の単位 (Beat unit)」に対し、適切な音符のデュレーションと、該当する場合は付点を選択します。

### 結果

選択した固定テンポ記号のメトロノームマークの値と拍の単位が変更されます。これは、テンポ記号にメトロノームマークの要素が表示されていない場合であっても、再生時のテンポに影響を与えます。

### 補足

- 小数点以下を入力した場合、Dorico Pro は自動的に最も近い整数への繰り上げ/繰り下げを行なって、メトロノームマークの表示に使用します。ただし、再生時のテンポは指定値を正確に反映します。
- テンポのポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、メトロノームマークの値を変更できません。

関連リンク

[テンポのポップオーバー \(199 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(282 ページ\)](#)

## メトロノームマークの値の範囲表示

個々の固定テンポ記号におけるメトロノームマークの値を範囲で表示できます。たとえばこれを使用すると、指定の範囲内のテンポであれば、その楽曲に対し適切であることを指示できます。

### 補足

この手順は、段階的テンポ変更やテンポのリセット記号、相対テンポ記号には当てはまりません。

#### 手順

1. メトロノームマークの値を範囲で表示させる固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「テンポ範囲 (bpm) (Tempo range (bpm))」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

選択したテンポ記号で、1分あたりの拍数で表現されるテンポ範囲が変更されます。初期設定では、メトロノームマークの範囲の区切り文字にはダッシュ記号が使用されます。

#### 補足

- 「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」と「テンポ範囲 (bpm) (Tempo range (bpm))」は、どちらがテンポ範囲の最小値でどちらが最大値であるかは決まっていません。Dorico Pro は、メトロノームマークの範囲の1つめの数値に小さい方の値を自動的に使用します。ただし再生の際には、それがテンポ範囲の上限か下限に関わらず、常に「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」の値が使用されます。
  - メトロノームマークの範囲に使用されるデフォルトの区切り文字は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページにある「固定値による変更 (Absolute Changes)」セクションで変更できます。
- 

#### 関連リンク

[メトロノームマークの値の変更 \(970 ページ\)](#)

## 相対テンポ記号の値の変更

先のテンポ記号に対する割合で表現される相対テンポ記号について、テンポを個別に変更できます。

#### 手順

1. 値を変更する相対テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「相対 % (Relative %)」の値を変更します。
  3. **[Return]** を押します。
- 

#### 結果

相対テンポ記号のテンポが変更されます。たとえば、先のテンポが 100 bpm で、相対テンポ記号を 90 に変更した場合、新しいテンポは 100 bpm の 90 %、つまり 90 bpm になります。

## 段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポの変更

段階的テンポ変更の開始位置のテンポに対する割合の形で、段階的テンポ変更が再生時のテンポに与える影響の大きさを変更できます。

#### 手順

1. 最終的なテンポを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「最終的なテンポ % (Final tempo %)」の値を変更します。
  3. **[Return]** を押します。
-

#### 結果

選択した段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポが変更されます。

たとえば、100 bpm で開始する段階的テンポ変更において値を 20 に変更した場合、最終的なテンポは 100 bpm の 20% となるため、20 bpm になります。100 bpm で開始する段階的テンポ変更において値を 120 に変更した場合、最終的なテンポは 100 bpm の 120% となるため、120 bpm になります。

## 段階的テンポ変更

段階的テンポ変更は、指定した時間範囲にわたるテンポの変更を示し、テンポを落としていくことを指示する *rallentando*、テンポを上げていくことを指示する *accelerando* などがあります。

### **rallentando**.....

破線付きの *rallentando*

Dorico Pro では、段階的テンポ変更は一種のテンポ記号と見なされます。そのためテンポ記号と同じように扱うことができます。

段階的テンポ変更は開始位置と終了位置とで異なるメトロノームマークの値を持つため、個々の段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポを変更できます。

Dorico Pro では、段階的テンポ変更をいくつかの異なるスタイルで表示できます。

- **rit.**: 段階的テンポ変更をテキストのみで表示します。
- **rit...**: 段階的テンポ変更をテキストと延長線で表示します。
- **rit-e-nu-to**: 段階的テンポ変更をハイフン付きで音節に分割して表示します。

また、段階的テンポ変更はいくつかの異なる線のスタイルで表示できます。

すべての段階的テンポ変更のスタイルおよび線のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更でき、個々の段階的テンポ変更のスタイルおよび線のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(199 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の線のスタイルを個別に変更する \(973 ページ\)](#)

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(968 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポの変更 \(971 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、段階的テンポ変更のスタイルを変更できます。段階的なテンポ変更記号の外観は、線のないテキストのみ、線付きのテキスト、またはデュレーション全体に表示されるテキストのいずれかで表示されます。

---

#### 手順

1. スタイルを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**段階的速度記号 (Gradual style)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **rit.**
    - **rit...**
    - **rit-e-nu-to**
-

#### 結果

選択した段階的テンポ変更のスタイルが変更されます。

#### ヒント

すべての段階的テンポ変更のスタイルに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(968 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更の線のスタイルを個別に変更する

延長線を使用する段階的テンポ変更の線のスタイルを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 補足

これはテキストのみのスタイルを使用する段階的なテンポ変更記号の外観に影響しません。

---

#### 手順

1. 線のスタイルを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**線のスタイル (Line style)**」をオンにします。
  3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **実線 (Solid)**
    - **点線 (Dotted)**
    - **破線 (Dashed)**
- 

#### 結果

選択した段階的テンポ変更の線のスタイルが変更されます。

#### ヒント

段階的テンポ変更のデフォルトの線のスタイルをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで設定を行ないます。

---

## 段階的テンポ変更の破線と間隔の長さを個別に変更する

個々の段階的テンポ変更の破線における線と間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

#### 補足

これは、破線付きの段階的テンポ変更のみに適用されます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、破線付きの段階的テンポ変更のうち、破線の長さを変更するものを選択します。
2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。

- 破線の線の長さ (Line dash length)
  - 破線の線の間隔 (Line dash gap)
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

「破線の線の長さ (Line dash length)」を大きくすると段階的テンポ変更の破線の線が長くなり、小さくすると線が短くなります。

「破線の線の間隔 (Line dash gap)」を大きくすると段階的テンポ変更の線の間隔が大きくなり、小さくすると間隔が小さくなります。

#### ヒント

すべての破線付きの段階的テンポ変更のデフォルトの破線の長さは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページの「**段階的な変更 (Gradual Changes)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして設定し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、テキストのあとに続く破線とハイフン付きテキストの間の破線、それぞれのデフォルトの線の長さは個別に変更できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(968 ページ\)](#)

## 段階的テンポ変更の線の太さを個別に変更する

段階的テンポ変更の延長線の破線および実線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、太さを変更する段階的テンポ変更を選択します。
2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**線の太さ (Line thickness)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

値を大きくすると破線および実線が太くなり、値を小さくすると破線および実線が細くなります。

#### ヒント

すべての段階的テンポ変更の破線および実線の太さに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できません。

## テンポの等式

テンポの等式は、メトロノームマークが基本とする拍の単位の変更を示します。多くの場合、複数の異なる拍子の間で拍動を一定に維持するために使用されます。

たとえば、拍子記号が 6/8 から 3/4 に変更された場合、♪=♪というテンポの等式により、6/8 拍子では付点 4 分音符の拍の単位に使用されていたメトロノームマークの値が、3/4 拍子では 4 分音符の拍の単位に使用されることが示されます。



関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(199 ページ\)](#)

# タイ

タイとは、同じピッチの2つの音符をつなぐ曲線です。複数の隣接する音符が一連のタイで連結される時、これをタイのつながりと呼びます。

一連のタイのつながりは、それを構成するのが2つの音符であろうと10個の音符であろうと、タイで連結されたすべての音符を合計したデュレーションの1音を意味します。演奏者はこの音符を1音として演奏し、タイのつながりのデュレーションの途中で一切の打ち直し、吹き直し、弾き直しは行いません。



ピアノ譜の下段の複数小節にわたるタイのつながり

Dorico Pro では、ほとんどのタイは自動的に作成されます。リズムの記譜は、通常拍子記号により設定される一般的な拍グループに従います。そのため、単一のデュレーションで表記できない音符は自動的にタイでつながれた音符に分かれて記譜されます。

## 関連リンク

- [タイのつながり \(978 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(153 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの強制 \(162 ページ\)](#)
- [タイの入力 \(169 ページ\)](#)
- [タイのつながりの分割 \(982 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(991 ページ\)](#)
- [拍子記号の入力方法 \(194 ページ\)](#)
- [拍子記号に従う連桁 \(545 ページ\)](#)

## タイの一般的な配置規則

タイは2つの符頭を連結するため、タイの両端はそれがつなぐ符頭の近くに配置されます。

タイは曲線であり、カーブ方向は通常、音符の符尾の方向に従います。音符の符尾が上向きならタイのカーブは下向きに、音符の符尾が下向きならタイのカーブは上向きになります。

### 補足

譜表に複数の声部が存在する場合、符尾が上向きの声部に属するタイはすべてカーブが上向きに、符尾が下向きの声部に属するタイはすべてカーブが下向きになります。

タイの終端の符頭に対する配置には、主要な表記規則が2つあります。1つは、タイの終端を符頭の外側、つまり上か下に配置し、水平方向をなるべく符頭に中央揃えとすることです。もう1つは、タイの終端を符頭の間配置する場合、垂直方向をなるべく符頭に中央揃えとすることです。





符頭の外側のタイ



符頭間のタイ

いずれの表記規則においても、Dorico Pro は自動的にタイの終端とそれがつながる音符を、他の記譜記号と衝突しない範囲でできるだけ近づけて配置します。

また Dorico Pro はタイの垂直位置も自動的に調整して、タイの終端やカーブの頂点が譜表線の高さで開始または終了しないようにします。もし譜表線とタイの上下が重なった場合、タイの形状が歪んで見え、譜面が読みづらくなります。

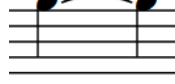
これを防止するため、Dorico Pro はタイの垂直位置をわずかに変更したり、タイのカーブに小さな変化を与えたりします。これらの変更は小さなものですが、譜表線に対する音符の位置に従いタイの配置が微妙に変化します。



符頭の外側のタイ



音符を半音下に移調すると、タイの頂点が譜表線に接してしまうのを防止するために、タイのカーブが急になります。



この符頭間のタイは、その両端または頂点が譜表線に近づきすぎないように、両端が符頭の垂直方向の中心よりもわずかに上に配置されています。

上に移調して譜表線とタイが衝突しなくなると、タイの両端は符頭の垂直方向の中心に配置されるようになります。

音部変更記号は、できるだけタイのつながりの途中には配置しないようにします。音部の変更はタイでつながれた音符の譜表上の位置を変えてしまうため、演奏者がタイをスラーと読み違えて異なる 2 音を演奏してしまうことが容易に起こり得ます。

タイが極めて短いときはタイが歪んで見え、見落とされてしまう場合があります。1 段に収まるタイの長さの最小値は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページで変更できます。

#### 補足

スラーをタイと混同しないよう注意してください。見た目は似ていますが、タイは同じピッチの音符を一息で演奏することを示します。そういった意味でタイはリズム記号として、スラーはアーティキュレーションとして捉えることができます。

#### 関連リンク

[タイとスラー \(978 ページ\)](#)

[タイの入力 \(169 ページ\)](#)

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(978 ページ\)](#)

[音部記号の一般的な配置規則 \(588 ページ\)](#)

## 浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページでは、タイの外観、位置と配置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「タイ (Ties)」ページのオプションでは、タイのデフォルトのカーブ方向、形状および外観とともに、符頭やタイのつながりでの他のタイに対する位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## タイのつながり

音符がその位置に適用される拍子記号の1小節のデュレーションよりも長い場合、タイは複数の小節にわたって延びる場合があります。Dorico Pro では、そのようなタイをタイのつながりと呼びます。

たとえば、4/4 の拍子記号で全音符より長い音符を入力した場合、それは複数の小節にわたってタイのつながりで連結された2つかそれ以上の音符になります。

記譜モードでは、タイのつながりの全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。記譜モードでタイのつながりに加えた変更は、そのつながりの最初のタイのみに影響します。

### 補足

Dorico Pro は以下の状況において、タイでつながれた音符を自動的に調整します。

- タイでつながれた音符のピッチを変更した場合、臨時記号の追加や削除も含めて、変化はタイでつながれたすべての音符に適用されます。
- アーティキュレーションを追加または削除した場合、アーティキュレーションはその種類に応じてタイのつながりの始まりまたは終わりだけに追加されます。たとえば、デュレーションのアーティキュレーションは最後の音符に付き、強弱のアーティキュレーションは最初の音符に付きま

## タイのつながりに対するアーティキュレーションの位置

タイのつながりに対するアーティキュレーションの位置は、アーティキュレーションのタイプによって異なります。タイのつながりに対するアーティキュレーションの位置は、プロジェクト全体でも、個々のタイのつながりにおいても変更できます。

関連リンク

[アーティキュレーションの位置 \(505 ページ\)](#)

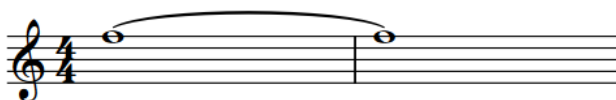
[タイでつながれた音符のアーティキュレーションの位置を変更する \(506 ページ\)](#)

## タイとスラー

タイとスラーは一見すると似ていますが、意味は異なります。

タイは音符を打音しなおしてはならないことを示します。これは同じピッチの音符をつなげるために使用されます。たとえば、タイは複数の小節にわたって音符を延ばす際に使用されます。1つのタイのつながりには複数の音符が含まれることがありますが、つながりの中の1つ1つのタイは、1の符頭を譜表上の次の符頭につなげるのみです。

タイはアーティキュレーションと同時に使用できますが、タイでつながれた音符のアーティキュレーションは、タイのつながりの始まりのアタックと、タイのつながりの終わりのリリースにのみ影響を及ぼします。



タイでつながれた2つの長い音符

スラーはボウイングや息継ぎなどのアーティキュレーションを示すものであり、通常は異なるピッチの音符をつないでグループ化します。スラーは2つの符頭の間にとだけピッチ差があってもそれらをつなぐことができます。多くの場合、これはフレーズの形成のしかたを示します。

スラーはまた、アーティキュレーションと同時に使用できます。タイとは異なり、スラーの中のアーティキュレーションはフレーズ全体のサウンドに影響します。たとえば、スラーの中で同じピッチで繰り返される音符に付くスタッカートは、弦楽器でボウイングを同じ方向に行ないつつ、1音ごとにボウイングを止めることを示します。



スラーでつないでグループ化されたフレーズ

## 非標準のタイ

通常タイは、同じ譜表の同じピッチにある2つの音符を連結します。しかしタイは、組段区切りやフレーム区切り、音部変更記号、または拍子記号をまたぐ場合もあります。Dorico Proでは、これらのタイプのタイはすべて自動的に配置されます。

またタイは、隣接しない音符、声部の異なる音符や、譜表の異なる音符も連結できます。Dorico Proでは、これらのタイプのタイは手動で入力する必要があります。

### 組段区切りおよびページ区切りをまたぐタイ

Dorico Proでは、組段区切りをまたぐタイの終端は自動的に配置されます。

その垂直位置は変わらず、両端それぞれが属する符頭に中央揃えで配置されます。その動作も変わらず、記譜モードで組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐタイのつながりのうち1つを選択すると、タイのつながりに属するすべての音符が選択されます。

区切りの後の組段/フレームの開始位置にある音符の左側に表示されるタイの一部について、適切なカーブを描くために十分な水平方向のスペースが得られない場合があります。この場合、浄書モードの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を使用して組段/フレームの開始位置の音符のスペースを個別に調整することで、タイのためのスペースを作れます。



組段区切りの前のタイのつながりの開始位置



組段区切りの後の同じタイのつながりの終了位置

### 組段区切りおよびページ区切りをまたぐタイでつながれた臨時記号付きの音符

組段区切りおよびページ区切りをまたぐ臨時記号付きの音符をつなぐタイの終端も、自動的に配置されます。

Dorico Proでは、タイでつながれた音符は、拍子記号の指定に合致するよう分かれて記譜されつつも1音として扱われるため、区切りの後の組段/フレームの開始位置の音符には、初期設定では親切臨時記号は表示されません。区切りの後の組段/フレームの開始位置の、タイのつながりに属する音符に臨時記号を表示する場合、臨時記号を収めるために音符の位置が変更されます。しかしこの自動配置では、タイの後半部分を適切なカーブで表示するための十分な広さが、音符の左側に得られない場合があります。



組段区切りの前のタイのつながりの  
開始位置



同じタイのつながりの終了位置の、  
親切臨時記号が付いたもの



同じタイのつながりの終了位置の、  
臨時記号の横のタイにスペースを与  
えるために音符のスペーシングを調  
整したもの

## 拍子記号をまたぐタイ

タイは拍子変更記号をまたぐ音符をつなぐ場合、自動的に配置されます。譜表の途中で拍子変更記号をまたぐ音符がタイでつながれる場合、拍子変更記号の上または下の一部がタイによって隠されてしまいます。もっともタイはカーブしているため、拍子記号が完全に読めなくなってしまうことは考えにくいことです。

## 音部変更記号をまたぐタイ

タイは音部変更記号をまたぐ音符をつなぐ場合、自動的に配置されます。音部が異なると同じピッチでも位置が変わるため、音部変更記号をまたぐタイは水平ではなくなります。

その結果、音部記号をまたぐタイはスラーと読み間違えられる場合があり、視覚的、音楽的に混乱を招きやすくなります。この場合、タイでつながれた音符より前か後ろに音部変更記号を移動することをおすすめします。

## 隣接しない音符の間のタイ

直接隣り合う位置になくともピッチが同じ音符間には、タイを入力できます。これは、和音の前の複数の音符にタイを入力する場合などに便利です。



和音につながる音符をすべてタイで  
つながれた和音で記譜したもの



和音につながる音符を隣接しない音  
符のタイで記譜したもの



和音の前の複数の装飾音符を隣接し  
ない音符のタイでつないだもの

## 異なる声部間のタイ

異なる声部のピッチが同じ音符間にタイを入力できます。

## 異なる譜表の音符間のタイ

異なる譜表のピッチが同じ音符間にタイを入力できます。

## レセヴィブレタイ

レセヴィブレタイとは、音符を鳴らし続け、止めてはいけないことを指示する短いタイです。これは音符から右側へ少しだけ延ばされますが、もう1つの音符につながることはありません。

レセヴィブレタイはあらゆる音符に追加できます。レセヴィブレタイは、浄書モードで他のタイと同様に編集できます。

関連リンク

[レセヴィブレタイの表示/非表示 \(981 ページ\)](#)

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(495 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(392 ページ\)](#)

## 隣接しない音符の間へのタイの入力

隣接しなくともピッチが同じ音符間には、手動でタイを入力できます。また、異なる声部や異なる譜表のピッチが同じ音符間にもタイを入力できます。

たとえば、経過音を記譜するために複声部にまたがるメロディを入力したとして、異なる声部に属する2音をタイでつなぐ必要があるとします。あるいは、和音の前に複数の音符によるフレーズを記譜したとして、そのすべてを延ばしてつなげることで、タイでつながれる音符の数を減らしたいとします。

### 手順

1. 記譜モードで、タイでつなぐ2音を選択します。

#### 補足

2番めの音符は最初の音符と同じピッチでなければなりません。2番めの音符が最初の音符と異なるピッチの場合、タイは入力されません。

2. [T] を押します。

### 結果

選択した2音間にタイが入力されます。

### 例



隣接する音符すべてをタイでつないだ分散和音



隣接しない音符をタイでつないだ分散和音

### 関連リンク

[タイの入力](#) (169 ページ)

## レセヴィブレタイの表示/非表示

レセヴィブレタイはあらゆる音符に追加できます。

### 手順

1. レセヴィブレタイを追加する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「レセヴィブレタイ (Laissez vibrer tie)」をオン/オフにします。

### 結果

プロパティをオンにすると選択した音符にレセヴィブレタイが追加され、プロパティをオフにすると削除されます。レセヴィブレタイは自動的に配置されます。

### ヒント

- レセヴィブレタイの長さや形状は、浄書モードで他のタイと同様に個々に編集できます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「レセヴィブレタイを切り替え (Toggle Laissez Vibrer Tie)」にキーコマンドを割り当てられます。

関連リンク

[タイの位置や形状を個別に変更する \(983 ページ\)](#)

## タイの削除

タイは、それが属する音符を削除せずに、それだけを削除できます。

### 補足

タイのつながりからタイを削除すると、タイのつながりに属するすべてのタイが削除されます。タイのつながりからタイを1つだけ削除するような場合には、タイのつながりを分割できます。

### 手順

1. 記譜モードで、すべてのタイを削除するタイのつながりを選択します。
2. **[U]** を押します。

### 結果

選択したタイのつながりのすべてのタイが削除されます。タイのつながりで連結されていた音符は、それぞれの位置に残ります。

関連リンク

[音符のデュレーションの変更 \(161 ページ\)](#)

## タイのつながりの分割

たとえばタイのつながりの途中でピッチを変更する場合や、つながりの中のタイを個別に削除する場合など、タイのつながりを特定の位置で分割できます。これによりタイのつながりの中の他のタイが削除されることはありません。

### 手順

1. 記譜モードで、分割するタイのつながりを選択します。
2. **[Shift]+[N]** または **[Return]** を押して音符の入力を有効にします。
3. タイのつながりを分割する位置にカーレットを移動します。
  - **[→]/[←]** を押して、現在のリズムグリッドの値に従いカーレットを左右に動かします。
  - **[Space]** を押して、現在選択中の音符の音価に従いカーレットを次の位置に進めます。
4. **[U]** を押してタイのつながりを分割します。
5. 同じタイのつながりを複数の個所で分割する場合、タイのつながりを分割する次の位置にカーレットを移動します。
6. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

### 結果

タイのつながりがカーレット位置で分割されます。

関連リンク

[手動でのカーレットの移動 \(152 ページ\)](#)

## タイの位置や形状を個別に変更する

それぞれのタイには5つの四角いハンドルがあり、個別に動かして個々のタイの外観や形状を変更できます。



浄書モードのタイ

### 補足

1つのハンドルを動かすと、他のハンドルの位置にも影響する場合があります。

たとえば、左側の終端のハンドルを動かすとタイの開始位置が移動しますが、他のハンドルはそれぞれの位置から動きません。しかし、左側の制御ポイントを動かすと、タイの高さのハンドルも同時に移動します。これにより、なめらかにカーブした状態を保持しながら、タイの形状を細かく制御できます。

### 手順

1. 浄書モードで以下のいずれかの操作を行なって、動かすタイのハンドルを選択します。
  - タイ全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。
  - 複数のタイの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

### 結果

タイのハンドルの位置が変更され、対応するタイの形状が変化します。

### ヒント

タイのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、タイの左側の終端を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

- 「終了オフセット (End offset)」は、タイの右側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「開始ハンドルオフセット (Start handle offset)」は、タイの左側の制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了ハンドルオフセット (End handle offset)」は、タイの右側の制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、個々のタイの形状を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したタイの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

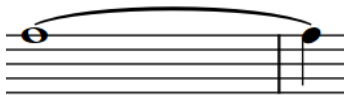
## タイの肩のオフセット

多くの場合、タイの両端はタイの弧より急な角度で符頭に近づくため、タイの肩はタイのカーブの角度に影響し、終端に向かってタイが符頭に近づくようにします。

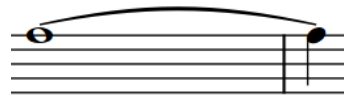
肩のオフセットを大きくするとカーブの始まりの角度がなだらかになり、肩のオフセットを小さくするとカーブの始まりの角度が急になります。

以下のオプションの値を変更すると、タイの肩のオフセットに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。これらのオプションは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページの「デザイン (Design)」セクションにある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックして表示できます。

- 短いタイの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short tie)
- 長いタイの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of long tie)



デフォルトの肩のオフセットが  $(1/10)$  の長いタイ



肩のオフセットを  $(7/8)$  に上げた長いタイ

また、浄書モードで制御ポイントのハンドルを動かすことにより、タイの肩のオフセットを個別に変更もできます。

関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(978 ページ\)](#)

## タイの肩のオフセットの変更

タイの肩のオフセットをプロジェクト全体の設定とは別に設定できます。たとえばプロジェクト中に非常に短いまたは非常に長いタイがいくつかある場合は、それらの形状を改善するために肩のオフセットを変更します。

手順

1. 浄書モードで、肩の調整を行なうタイの制御ポイントのハンドルの1つを以下のいずれかの操作を行なって選択します。
  - タイ全体を選択し、移動させるハンドルが選択されるまで、[Tab] を押して順番にフォーカスを切り替えます。
  - 移動させるハンドルをクリックします。
  - 複数のタイの個々のハンドルを、[Ctrl]/[command] を押しながらかlickします。



#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
- [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、肩の調整を行なうタイの他の制御ポイントのハンドルについても、手順 1 と 2 を繰り返します。

#### 結果

タイのオフセットのハンドルを互いに離すほど肩のオフセットは小さくなり、近づけるほど肩のオフセットは大きくなります。

#### ヒント

タイのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、タイの左側の制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」は、タイの右側の制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、個々のタイの肩のオフセットを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したタイの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

#### ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のタイのデフォルトの肩のオフセットを制御しているオプションがあります。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

#### 関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(978 ページ\)](#)

## タイの高さ

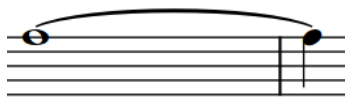
短いタイと長いタイすべての高さの値に関するプロジェクト全体の設定を変更できます。浄書モードでは、個々のタイの高さの変更も行なえます。

タイの高さのプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced**

Options)」をクリックすると現れるオプションで変更できます。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

高さを増すと、タイは譜表からより離れた位置まで延びようになります。これによりタイはより丸みを帯びた形状となり、垂直方向のスペースを大きく取るようになります。タイは同じピッチの音符をつなぐことから、ピッチ差のある音符の上に弧を描くスラーのように丸みを帯びる必要は概してありません。

垂直方向のスペースが限られる状況では、タイは丸みの度合いと譜表線に重ならないこととのバランスを取る必要があります。



デフォルトの高さの長いタイ



高さを増した長いタイ

## タイの高さの変更

垂直のスペースを節約するために、タイの高さをプロジェクト全体の設定とは別に設定できます。

### 手順

1. 浄書モードで、変更するタイの高さハンドル (中央) を選択します。

#### ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これによって、複数のアイテムの個々のハンドルをより簡単に選択できるようになります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
- [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑])。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

### 結果

選択したタイの高さが変更されます。

### 補足

- すっきりした見た目と釣り合いのとれた曲線を維持するためにタイの高さを手動で変更する場合、タイの高さハンドルを上下左右に少し移動する必要があります。
- タイの高さハンドルを水平方向に移動すると、タイ全体の形が影響を受けます。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のタイのデフォルトの高さを制御しているオプションがあります。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

### 関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(978 ページ\)](#)

## タイのスタイル

Dorico Pro では、それぞれ異なる意味合いを示す数種類のタイのスタイルが利用できます。

### 実線 (Solid)

これはタイのデフォルトのスタイルです。タイは先細りの実線で表示されます。先端は細くなり、中央は太くなります。



### 破線 (Dashed)

タイは先細りの破線で表示されます。たとえばボーカルの楽譜で、一部の歌詞が同じ箇所  
の他の歌詞より多くの音節を持つために多くの音符を必要とする場合など、オプションや  
提案のためのタイであることを示すために使用されます。



### 点線 (Dotted)

タイは点線で表示されます。点はタイの全長を通して同じサイズで等間隔に並びます。こ  
れもオプションまたは提案のタイであることを示すために使用されます。



### 前半部分が破線 (Half-dashed start)

タイの前半が破線として、後半が実線として表示されます。校訂版で、原典には不完全な  
タイが記譜されていたことを示すために使用されます。



### 後半部分が破線 (Half-dashed end)

タイの前半が実線として、後半が破線として表示されます。校訂版で、原典には不完全な  
タイが記譜されていたことを示すために使用されます。



### 編者注 (Editorial)

タイは黒い実線で表示されますが、そのちょうど中央に小さな縦線が交差しています。タ  
イが編集者により追加されたもので、原典には記載されていないことを示すために使用さ  
れます。



## タイのスタイルを変更する

個々のタイについてスタイルを変更できます。初期設定では、すべてのタイは実線で表示されます。

### 補足

記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。記譜モードでタイのつながりに加えた変更  
は、そのタイのつながりの最初のタイにのみ影響します。

### 手順

1. スタイルを変更するタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

- 記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。
- 記譜モードでタイのつながりに加えた変更は、そのチェーンの最初のタイのみに影響しません。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **実線 (Solid)**
  - **破線 (Dashed)**
  - **点線 (Dotted)**
  - **前半部分が破線 (Half-dashed start)**
  - **後半部分が破線 (Half-dashed end)**
  - **編者注 (Editorial)**

#### 結果

選択したタイのスタイルが変更されます。

#### ヒント

これらのオプションそれぞれの詳細なパラメーターに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページで変更できます。たとえば、「**編者注 (Editorial)**」のタイのストロークの長さや幅、点線の点の直径や破線の長さ、点線や破線の間隔の大きさなどを変更できます。

## タイの破線/点のサイズを個別に変更する

破線/点線のタイの線/点のサイズは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

#### 補足

これは破線/点線のタイにのみ適用されます。

#### 手順

1. 線/点のサイズを変更する破線/点線のタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

- 記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。
- 記譜モードでタイのつながりに加えた変更は、そのチェーンの最初のタイのみに影響しません。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**破線/点線 (Dash/dot)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

#### 結果

値を増やすと線/点が大きくなり、減らすと小さくなります。

#### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のタイの線/点のデフォルトの大きさを設定しているオプションがあります。

またこのページでは、すべてのタイのスタイルにおける線の太さも変更できます。ただし、タイの太さを個別に変更はできません。

---

#### 関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(978 ページ\)](#)

## 破線/点線のタイの間隔の大きさを変更する

破線/点線のタイの間隔の大きさは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 浄書モードで、間隔の大きさを変更する個々の破線/点線のタイを選択します。
  2. プロパティパネルの「タイ (Ties)」グループで、「間隔 (Gap)」をオンにします。
  3. 数値フィールドの値を変更します。
- 

#### 結果

値を大きくすると破線/点線の間隔が大きくなります。値を小さくすると破線/点線の間隔が小さくなります。

#### ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のタイの間隔のデフォルトの大きさを設定しているオプションがあります。

---

## タイのカーブ方向

カーブの方向は、タイの両端それぞれの音符または和音の符尾の方向、和音に含まれる音符の数、および譜表内の声部の数により決定されます。

### 単一の声部における単音のタイ

単一の声部のみ有効でタイが2つの単音を連結する場合、タイのカーブ方向はタイの両側の音符の符尾の方向により決定されます。

- 符尾の方向が一致する場合、タイのカーブは音符から離れる方を向き、符頭側に配置されます。
- 符尾の方向が食い違う場合、初期設定ではタイのカーブは上向きになります。

### 単一の声部における和音のタイ

タイが2つの和音を連結する場合、タイの方向は和音を構成するタイに結ばれた音符の数によって決定されます。

- 偶数の場合、タイはカーブが符頭側を向くものと符尾側を向くものに均等に分かれます。
- 奇数の場合、タイのカーブが符頭側を向くものが1本多くなります。

### 複声部における音符のタイ

タイは符尾側に配置され、カーブの方向は以下の条件に従います。

- 符尾が上向きの声部は、タイのカーブも上向きになります。

- 符尾が下向きの声部は、タイのカーブも下向きになります。
- 複声部でピッチが重なり合ったり入れ違いになったりする場合、単一の声部における和音のタイのルールが適用されます。すべての声部のすべての音符が単一の声部に属するかのよう扱われます。

#### ヒント

符尾の方向が食い違う音符間におけるデフォルトのタイのカーブ方向は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページで変更できます。

また、タイのカーブ方向は個別にも変更できます。

---

## タイのカーブ方向を変更する

タイのつながりの中のタイも含めた、タイのカーブ方向を個別に変更できます。

---

#### 手順

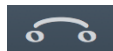
1. カーブ方向を変更するタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

- 記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別のタイを選択できます。
- 記譜モードでタイのつながりに加えた変更は、そのチェーンの最初のタイのみに影響します。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**方向 (Direction)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **上 (Up)**



- **下 (Down)**



#### 結果

選択したタイのカーブ方向が変更されます。

#### ヒント

タイのつながりおよびタイのつながりに属する個々のタイの詳細な形状は、浄書モードでそれぞれのタイの四角いハンドルを使用して調整できます。

---

#### 関連リンク

[タイの位置や形状を個別に変更する \(983 ページ\)](#)

# 拍子記号

拍子記号は楽譜の拍子を示し、それが記譜されてから次の拍子変更記号が出てくるまでは、すべての小節に適用されます。拍子は音楽のリズミ的な律動と、それがどのように拍と小節に分割されるかを示します。

拍子記号は2つの部分から構成され、分子を上、分母を下にという、分数と同じ数学的表現を使用して記述されます。

分子は、分母によって指定されるデュレーションを何倍にするかを指定します。拍のデュレーションが半分になると分母は倍になります。1は全音符、2は2分音符、4は4分音符という具合に続きます。拍子記号スタイルに関する設定に従い、分子と分母は異なる外観にできます。

たとえば4/4の拍子記号は、小節が4つの拍で構成され、それぞれの拍は4分音符の長さであることを示しています。4/2の拍子記号は各小節に4つの2分音符を持ち、4/8は各小節に4つの8分音符を持ちます。3/4と6/8はいずれも6つの8分音符を収められますが、3/4は1小節に4分音符の拍を3つ持つ一方で、6/8は付点4分音符の拍を2つ持つものと解釈されます。

小節とは拍子記号に従い分割されたリズムのグループであり、楽譜を追う作業を大幅に容易にします。さらに拍子が明確で分かりやすくなるように、拍子記号に応じて異なる形で音符が連桁で連結されます。

初期設定では、拍子記号はすべての譜表に適用されます。しかし、多拍子音楽のように、一部のパートがアンサンブル中の他パートとは別個に独自の拍子記号を持つ必要がある状況もあります。Dorico Proでは拍子記号を入力する際、すべての譜表に適用させることも、1つの譜表のみに適用させることもできます。

## 補足

拍の長さはプロジェクトを通して、拍子記号に関わらずすべての譜表で固定されています。たとえば、ある譜表には2/4の拍子記号、もう1つの譜表には6/8の拍子記号がある場合、2/4の拍子記号における4分音符1つは6/8の拍子記号における4分音符1つに等しく、つまりそれぞれの小節線は一致しないということになります。

## 関連リンク

[拍子記号のスタイル](#) (998 ページ)

[拍子記号の入力方法](#) (194 ページ)

[拍に従う連桁グループの表記規則](#) (559 ページ)

[拍子記号 \(拍子\) パネル](#) (196 ページ)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する](#) (560 ページ)

## 拍子記号の一般的な配置規則

拍子記号の配置や表現に関する表記規則は、その記譜内容が確実に伝わるよう、時代と共に発展してきました。Dorico Pro は自動的にこれらの表記規則に従います。

### 外観の表記規則

拍子記号は譜表の高さを埋める必要があります。これより小さい場合、拍子記号と認識されない恐れがあります。線の本数が5本より少ない譜表の拍子記号のサイズは、5線譜の拍子記号と同じ大きさである必要があります。



5線譜の拍子記号



1線譜の拍子記号

拍子記号には、譜表線に対して目立って即座に認識されるように、独特な重厚感のあるフォントを使用します。

一部の種類の音楽、特に映画音楽では、複数の譜表にわたって表示される大きな拍子記号を使用することが通例となっています。

### 配置の表記規則

拍子記号は楽曲の開始位置、および楽章に分かれる場合は各楽章の開始位置に、楽譜が拍子の変化なしに継続する場合でも表示されます。拍子記号は音部記号と調号の後に表示されます。

楽曲か楽章の途中で拍子変更記号を記入する場合、これは小節線の直後に配置されます。Dorico Pro は、既存の小節の途中で拍子変更記号を記入する場合、記号の前に小節線を自動的に挿入します。ただし、「挿入 (Insert)」モードをオンにしない限り、Dorico Pro は追加の拍の挿入による既存の楽譜の上書きは行いません。



「挿入 (Insert)」モードをオンにせず、5/8の拍子記号を中断する形で4/4の拍子記号を入力した例。5/8の2小節目には8分音符が3つしかありません。

拍子記号は次の拍子変更記号がある位置、楽章の終了位置、または楽曲の終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。

関連リンク

[挿入モードでの音符の挿入 \(156 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)

[拍子記号のサイズと位置を変更する \(998 ページ\)](#)

[拍子記号のフォントスタイル \(1006 ページ\)](#)

## 浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページでは、大きな拍子記号も含めた拍子記号の外観を設定してプロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、プロジェクト全体のすべての分子と分母の外観、拍子なしの拍子記号の外観、および入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字を変更できます。また、たとえば入れ替え可能な拍子の拍子記号同士やそれらの区切り文字との間隔など、拍子記号のデフォルトの間隔も変更できます。大きな拍子記号は、大括弧のグループごとに1つ表示される場合と、組段オブジェクトの位置に



表示される場合とで、それぞれ外観と位置を制御するためのセクションが別個に用意されています。これには、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号と同じ位置の他アイテムとの衝突回避の方法も含まれます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[拍子記号 \(991 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)

## プロジェクト全体における拍子記号の間隔のスペーシング

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページでは、拍子記号も含めたすべてのオブジェクトの最小間隔を変更できます。

以下の最小値が拍子記号に関連するものです。

- 小節線から音部記号、調号記号、または拍子記号の前までの間隔 (Gap after barline before clef, key or time signature)
- 調号の後の間隔 (Gap after key signature)
- 組段中の拍子記号の後の間隔 (Gap after mid-system time signature)

ほかの値も拍子記号の位置に影響を及ぼす場合がありますが、それらは他のオブジェクトにも影響するものです。

## 拍子記号のタイプ

拍子記号にはさまざまなタイプがあり、多岐にわたる複雑な拍子を表現できます。

### 補足

Dorico Pro ではアメリカ英語で一般的に使用される拍子の定義を使用しています。どの拍子が単純拍子や複合拍子であるかの定義は、他の言語で異なる場合があります。

### 単純拍子

単純拍子の拍子記号では、各拍が2で分割されて均等な音符のグループに分かれます。単純拍子の拍子記号には2/4などの単純2拍子、3/4などの単純3拍子、または4/4などの単純4拍子があります。



### 複合拍子

複合拍子の拍子記号では、各拍が3で分割されて均等な付点音符グループに分かれます。たとえば6/8は2つの付点4分音符から構成され、9/4は3つの付点2分音符から構成されます。



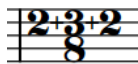
### 変拍子

5/4や7/8などの変拍子の拍子記号は、均等な拍のグループに分割できません。分子が奇数であるため、これらの拍子記号は不均一な拍のグループに分ける必要があります。たとえば、5/4は通常2分音符の拍と付点2分音符の拍からなります。



### 加算型拍子

加算的な拍子記号は小節がどのような拍のグループに分割されているかを示します。拍のグループを示す分子は、あらゆるタイプの拍子記号に使用できます。たとえば、7/8 のかわりに加算的な拍子記号 2+3+2/8 を使用できます。



### 交互拍子

交互拍子の拍子記号は、2つ以上の拍子記号が指定された順番の定期的なパターンで小節ごとに切り替わることを示します。たとえば、8分音符 12 個のフレーズで強調の形が 3+3+2+2+2 となるものは、交互拍子の拍子記号 6/8+3/4 を使用すると、2つの拍子がより分かりやすく解読できるようになります。



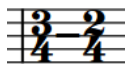
### 入れ替え可能な拍子

入れ替え可能な拍子の拍子記号は、3/4-2/4 のように、楽曲中で使用できる拍子記号のセットを楽曲の開始位置で表示するものです。交互拍子の拍子記号とは異なり、入れ替え可能な拍子の拍子記号では固定したパターンは必要ありません。楽曲中のすべての小節は、セットに含まれる拍子のいずれでも、拍子記号を再提示することなく使用できます。

#### 補足

交互拍子の拍子記号とは異なり、固定したパターンが存在しないため、必要に応じて適切な拍子記号を手動で入力する必要があります。入れ替え可能な拍子記号に指定されている拍子記号は、入力し次第すべて自動的に非表示になります。

Dorico Pro ではこれにさまざまなスタイルを使用でき、プロジェクト全体に設定することも個別の変更も行なえます。



### 結合拍子

結合拍子の拍子記号は 2/4+3/8+5/4 のように、2つ以上の拍子が同じ小節に含まれることを示します。Dorico Pro では、それぞれの拍子の境界を示すために、破線による小節線が自動的に入力されます。



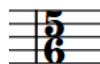
### 自由拍子

自由拍子記号では、拍子、連符、または拍への制約はありません。音符はいくつでも追加でき、自由に連符できます。Dorico Pro では、自由拍子記号を「X」か「N」で表示するか、一切表示しないこともできます。



### 2のべき乗ではない分母の拍子

2のべき乗ではない分母の拍子記号とは、5つの6連符で全音符となる 5/6 などです。このような拍子記号の例は、Adès の楽曲などに見られます。



Boulez など一部の作曲家は、分子に分数を使用する拍子記号を記譜しています。Dorico Pro は現在のところこれをサポートしていません。

関連リンク

[拍子記号のスタイル](#) (998 ページ)

[大きな拍子記号](#) (996 ページ)

[拍子記号の入力方法](#) (194 ページ)

[拍子記号のポップオーバー](#) (194 ページ)

## 弱起 (アウフタクト)

弱起 (アウフタクト) は、最初の完全な小節の前に音符を配置するものです。多くの場合、弱起は少数の拍からなり、主要な目的は楽曲を導入することです。

ショパンのマズルカ Op. 30 No.2 の冒頭の、1 拍の 4 分音符による弱起

弱起から始まる楽曲は、通常通り組段の開始位置に拍子記号が配置されます。ただし、拍子記号に従う最初の完全な 1 小節は、最初の小節線の前ではなく後ろになります。そのため、弱起小節は小節番号のカウントには加えられません。小節番号はフロー最初完全小節からカウントされます。

弱起小節は楽譜の音符/休符の数にリンクされているため、Dorico Pro では弱起小節は拍子記号にリンクされるので、拍子記号と一緒に入力する必要があります。ただし、楽譜に表示する必要のない拍子記号は非表示にできます。

関連リンク

[拍子記号の入力方法](#) (194 ページ)

[拍子記号の表示/非表示](#) (1005 ページ)

## アウフタクトまたは不規則小節として部分小節を定義する

拍子記号の開始位置にある明示的な不規則小節をアウフタクトとして定義するかどうかを変更できます。これは、小節内の音符がどのように連桁でつながれ、グループ化されるかに影響します。

アウフタクトとして定義された不規則小節の音符は小節の終わりから連桁/グループ化されますが、アウフタクトとして定義されていない不規則な小節の音符は小節の始まりから連桁/グループ化されません。

### 補足

明示的な不規則小節およびアウフタクトの小節は、拍子記号の一部として入力する必要があります。たとえば拍子記号のポップオーバーに 4/4,1.5 と入力して、4/4 の拍子記号と 4 分音符 1.5 個分の拍 (8 分音符 3 つ分の拍) のアウフタクトを入力します。

#### 手順

1. アウフタクトの定義を変更する明示的な不規則小節で始まる拍子記号または拍子記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「拍子記号 (Time Signatures)」グループの「1 小節目をアウフタクトとしてグループ化 (Group first bar as pick-up)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

#### 結果

「1 小節目をアウフタクトとしてグループ化 (Group first bar as pick-up)」とその対応するチェックボックスの両方がオンの場合は、選択した拍子記号の開始位置にある不規則小節がアウフタクトとして定義され、対応するチェックボックスがオフの場合は通常の不規則小節として定義されます。

このプロパティがオフの場合は、Dorico Pro は内部ヒューリスティクスを使用してアウフタクトか通常の不規則小節かを自動的に定義します。

#### 例



コモンタイムのアウフタクトとして定義された不規則小節



アウフタクトではなく通常の不規則小節として定義された不規則小節

## 大きな拍子記号

大きな拍子記号は、譜表に対するサイズが標準よりずっと大きい、スケールアップされた拍子記号です。これはオーケストラのスコアで役に立ちます。譜表サイズが小さいことから拍子記号も標準のままだと小さく、指揮者にとって読みづらくなるからです。

大きな拍子記号は、映画音楽のスコアでも非常によく使用されます。これは、指揮者が録音セッションまでのスコアの準備に多くの時間をかけられることがまれであるためです。大きな拍子記号を使用すると、ページ上で拍子の変更がはっきり見やすくなります。特に拍子が何度も変更される場合に有効です。

Dorico Pro では、大きな拍子記号を以下の配置で表示できます。

- 大括弧のグループごとに 1 つ
- 譜表の上の組段オブジェクトの位置

### 大括弧のグループごとに 1 つ表示される拍子記号

譜表ごとに譜表と同じ高さの拍子記号を表示するかわりに、譜表の大括弧によるグループごとに 1 つの大きな拍子記号を表示できます。大括弧のグループごとに 1 つ表示される場合、拍子記号は大括弧によるグループに属する譜表の数に応じて拡大されます。拍子記号のサイズは、大括弧のグループに 4 つ以上の譜表が含まれるとき最大になります。1 つの譜表に表示される場合、大きな拍子記号は譜表の上下に少しづつはみ出します。これは映画音楽の録音セッション用のパート譜で一般的に使用されるものです。



大括弧のグループごとに1つ表示される「ナローセリフ (Narrow, serif)」の拍子記号

大括弧のグループに属する譜表の数ごとの拍子記号のサイズは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページで変更できます。また、大きな拍子記号を表示するときに、金管楽器の大括弧と弦楽器の大括弧にあるすべての譜表 (打楽器、ハープ、ピアノが含まれる場合が多い) を1つの大括弧とみなして扱うか、個別に扱うかを選択できます。

大括弧のグループに表示される大きな拍子記号は、表示倍率が高く、標準の拍子記号のデザインを使用しているときは特に、水平方向のスペースを大きく占める場合があります。そのため、大括弧のグループに大きな拍子記号を表示するレイアウトにおいては、ナローデザインの拍子記号の使用をおすすめします。

### 組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号

大括弧のグループごとに大きな拍子記号を1つ表示するのと似た形で、譜表の上の組段オブジェクトの位置のみに拍子記号を表示することもできます。このとき組段ごとの拍子記号の表示位置は、リハーサルマークやテンポ記号など他の組段オブジェクトの位置を制御するのと同じオプションによって制御されます。



組段オブジェクトの位置に表示される「標準 (Normal)」の拍子記号

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号は水平方向のスペースを占めないため、これにナローフォントスタイルを使用する必要はそれほどありません。またこれは、拍子記号の前後の音符間の水平距離も減らします。音符のスペーシングに与える影響が少ないため、この拍子記号の配置法は20世紀以降の現代音楽においてよく使用されるようになりました。

組段オブジェクトの位置に表示する拍子記号に音符による分母のスタイルを使用している場合、音符は分子の下ではなく右に表示されます。

初期設定では、組段オブジェクトの位置の拍子記号は標準の拍子記号の2倍のサイズとなり、同じ位置の他のアイテムは強制的にその右に表示されます。この表示倍率と、同じ位置にある他アイテムのデフォルトの位置は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページで変更できます。また、小節線に対する整列方法も変更できます。

関連リンク

[拍子記号のフォントスタイル \(1006 ページ\)](#)

[拍子記号のデザインを個別に変更する \(1007 ページ\)](#)

[大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する \(1005 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)

[組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(535 ページ\)](#)

## 拍子記号のサイズと位置を変更する

拍子記号のサイズは、その垂直位置も含めて、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは大きな拍子記号を大括弧ごとに中央揃えで表示させつつ、パートレイアウトでは譜表ごとに標準サイズの拍子記号を表示させることなどができます。

### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、拍子記号のサイズを変更するレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
4. 「**拍子記号の位置とサイズ (Time signature position and size)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべての譜表に表示 (Show on every staff)**
  - **大括弧ごとに 1 つ表示 (Show once per bracket)**
  - **組段オブジェクトの位置に表示 (Show at system object positions)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したレイアウトの拍子記号のサイズと位置が変更されます。

組段オブジェクトの位置の譜表の上に大きな拍子記号を表示すると、譜表上の水平方向のスペースを一切使用しません。これ以外を選択すると、拍子記号によって水平方向のスペースが占められます。

### 手順終了後の項目

大きな拍子記号を、大括弧のグループに対し垂直方向に中央揃えとするか上揃えとするかは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。

### 関連リンク

[大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)

[拍子記号の位置 \(1002 ページ\)](#)

[組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(535 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

## 拍子記号のスタイル

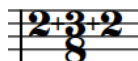
Dorico Pro では、拍子記号をさまざまなスタイルで表示できます。たとえば、分母を数字か音価のいずれかを選択して表示できます。

すべての拍子記号のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで、拍子記号のタイプに従い変更できます。また個々の拍子記号のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

分子は常に 1 つか複数の数字であり、小節の拍数の合計を示す場合と、小節のデュレーション合計の分割のされ方を示す場合があります。



数字 1 つで表示される 7/8 の拍子記号の分子



分割のされ方を表示する 7/8 の拍子記号の分子

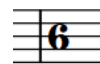
分母は数字かデュレーションに等しい音符として表示するか、まったく表示しないか選択できます。



数字で表示される分母



符頭 (拍の長さ) で表示される分母

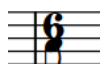


非表示の分母

符頭として表示される場合、分母は小節内の拍 1 つの長さを示す場合と、音符のデュレーションを示す場合があります。拍の長さを示す場合、分子も同時に変化する場合があります。下の例では、6/8 の拍子記号の分子が、6/8 の小節が 2 つの付点 4 分音符により構成されることを反映して、2 に変化します。



6/8 の拍子記号で拍の長さを表示する分母の符頭



6/8 の拍子記号で音符のデュレーションを表示する分母

#### 関連リンク

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

[拍子記号のデザインを個別に変更する \(1007 ページ\)](#)

[入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する \(1001 ページ\)](#)

[拍子記号の自由拍子のスタイルを個別に変更する \(1000 ページ\)](#)

## 拍子記号の分子スタイルを個別に変更する

個々の拍子記号の分子に各小節の拍の総数を表示するか、それとも各小節の分割のされ方を表示するか、プロジェクト全体の設定より優先される形で選択できます。

#### 手順

1. 分子スタイルを変更する拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「分子スタイル (Numerator style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 数字 (Number)
  - 拍グループ (Beat group)

#### 結果

選択した拍子記号の分子スタイルが変更されます。

#### ヒント

すべての拍子記号の分子スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページで変更できます。

#### 関連リンク

[拍子記号のスタイル \(998 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

## 拍子記号の分母スタイルを個別に変更する

拍子記号の分母スタイルを個別に変更できます。たとえば、分母の数字を音符に置き換えることができます。

### 手順

1. 分母スタイルを変更する拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「分母スタイル (Denominator style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 数字 (Number)
  - 音符 (Note)
  - なし (None)

### 結果

選択した拍子記号の分母スタイルが変更されます。

### ヒント

すべての拍子記号の分母スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページで変更できます。

### 関連リンク

[拍子記号のスタイル \(998 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

## 拍子記号の自由拍子のスタイルを個別に変更する

個々の拍子記号の自由拍子のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

### 手順

1. スタイルを変更する自由拍子の拍子記号を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

### 補足

自由拍子の拍子記号では、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループの「オープンスタイル (Open style)」が自動的にオンになります。

2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「オープンスタイル (Open style)」から以下のいずれかのオプションを選択します。

- 記号なし (No symbol)

NONE

- 「X」

X

- ペンデレツキの記号 (Penderecki's symbol)

~



#### 結果

選択した拍子記号の自由拍子のスタイルが変更されます。

#### ヒント

すべての自由拍子の拍子記号のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。

---

#### 関連リンク

[拍子記号のスタイル](#) (998 ページ)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (992 ページ)

## 入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する

入れ替え可能な拍子の拍子記号に表示される区切り文字は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

---

#### 手順

1. 区切り用文字を変更する入れ替え可能な拍子の拍子記号を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

入れ替え可能な拍子の拍子記号では、プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループの「**区切り用文字 (Separator)**」が自動的にオンになります。

---

2. 「**区切り用文字 (Separator)**」メニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **括弧 (Parentheses)**



- **角括弧 (Brackets)**



- **イコールサイン (Equals sign)**



- **斜線 (Slash)**



- **スペース (Space)**



- **ハイフン (Hyphen)**



#### 結果

選択した入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り用文字のスタイルが変更されます。

#### 補足

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで、プロジェクト全体の入れ替え可能な拍子記号のデフォルトの区切り文字を変更できます。
- 結合拍子の拍子記号は、入れ替え可能な拍子の拍子記号と外観が似ているかもしれませんが、これとは異なる動作をするものです。結合拍子の拍子記号は「+」記号で区切られるのに対し、入

れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字は6種類ありますが、ここに「+」記号は使用できません。

結合拍子の拍子記号では「**区切り用文字 (Separator)**」をオンにして利用できるオプションを選択できますが、このプロパティが効果を持つのは、入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り用文字の外観のみです。

---

関連リンク

[拍子記号のスタイル](#) (998 ページ)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (992 ページ)

## 拍子記号の位置

標準の拍子記号は、5線譜の第3線、または1線譜の譜表線がその中央を通過する形で配置されます。大きな拍子記号は、大括弧のグループごとに中央揃えまたは上揃えで配置するか、組段オブジェクトの位置の譜表の上に配置できます。

拍子記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。拍子記号は現在のリズムグリッド値に従い移動し、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

個々の拍子記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これによって記号のリズム上の位置が変更されることはありません。

プロジェクト全体のすべての拍子記号の水平方向および垂直方向のデフォルト位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」および「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。

拍子記号の位置はレイアウトごとに個別に変更もできます。たとえば、一部のレイアウトでは拍子記号を譜表の上の組段オブジェクトの位置に表示しつつ、他のレイアウトでは大括弧ごとに1つ表示することなどができます。

関連リンク

[組段オブジェクト](#) (935 ページ)

[組段オブジェクトの位置の変更](#) (936 ページ)

[拍子記号のサイズと位置を変更する](#) (998 ページ)

[テンポ記号の表示位置の変更](#) (965 ページ)

[組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を変更する](#) (1004 ページ)

[大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する](#) (1005 ページ)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (992 ページ)

[プロジェクト全体における拍子記号の間隔のスペーシング](#) (993 ページ)

## 拍子記号の位置の変更

拍子記号は入力後に位置を移動できます。

### 補足

- 拍子記号の移動にはキーボードしか使用できません。
  - 拍子記号は譜表に沿ってのみ移動できます。拍子記号を別の譜表に移動する場合は、拍子記号を削除してから新たな拍子記号を別の譜表に入力する必要があります。
  - 音符や小節線に対する拍子記号のデフォルト位置を調節する場合、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更する必要があります。
- 

### 手順

1. 記譜モードで、移動する拍子記号を選択します。

- 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従い拍子記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

#### 結果

拍子記号は移動された位置から、次の拍子記号がある位置かフローの終わりまで効力を持ちます。拍子記号の前後両側の、拍子記号が存在すればその位置、なければフローの開始位置および終了位置までの範囲で、小節線が自動的に更新されます。

#### 補足

各位置に拍子記号は1つしか存在できませんが、1つの譜表だけに適用される拍子記号は例外となります。移動の途中で拍子記号が他の拍子記号と同じ位置に移動した場合、既存の拍子記号が削除されます。

この動作は元に戻すことができ、移動中に削除された拍子記号はすべて復元されます。

## 拍子記号の表示位置の変更

個々の拍子記号の表示位置を、他のアイテムの位置に影響を与えず変更できます。

#### 補足

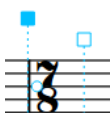
- この手順は、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号には当てはまりません。
- 組段の開始位置に表示される拍子記号は移動できません。移動できるのは、組段の途中か終了位置にある拍子変更記号のみです。

#### 手順

- 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。

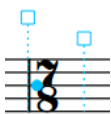


- 移動する拍子記号の位置にある、音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択します。



拍子記号の横に丸いハンドルが表示されます。

- [Tab] を押して丸いハンドルを選択します。



- 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。

#### 補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

#### 結果

拍子記号の表示位置が水平方向に移動されます。

#### ヒント

またプロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」の値を変更すると、拍子記号を水平に移動できます。ただしこれは、拍子記号周辺の全体的な音符のスペーシングに影響を与えます。

「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」の値は、音符のスペーシングの変更から独立していません。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング \(385 ページ\)](#)

## 組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を変更する

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置は、他の拍子記号の表示位置の変更とは異なる形で変更できます。

#### 補足

- この手順は、譜表上に表示される拍子記号には当てはまりません。
- 小節線に対する拍子記号の配置を変更する場合は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページの「組段オブジェクトの位置の拍子記号 (Time Signatures at System Object Positions)」セクションで、組段オブジェクトの位置に表示するすべての拍子記号のデフォルトの配置を変更できます。

#### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する組段オブジェクトの位置の拍子記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって拍子記号を移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

#### ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。

#### 結果

組段オブジェクトの位置に表示される選択した拍子記号が新しい表示位置に移動します。

#### ヒント

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を変更すると、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループにある「オフセット (Offset)」が自動的にオンになります。

- 「オフセット X (Offset X)」は、拍子記号を水平方向に移動させます。
- 「オフセット Y (Offset Y)」は、拍子記号を垂直方向に移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することでも、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した拍子記号がデフォルトの位置にリセットされます。

---

#### 関連リンク

- [拍子記号のサイズと位置を変更する \(998 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(535 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(935 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(936 ページ\)](#)
- [拍子記号の表示位置の変更 \(1003 ページ\)](#)
- [浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

## 大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する

初期設定では、大括弧ごとに1つ表示される拍子記号は、それぞれの大括弧のグループに対し中央揃えで配置されます。大括弧のグループに対する拍子記号の垂直位置はプロジェクト全体のすべてのレイアウトに対し変更できます。たとえば映画音楽のスコアでは、大きな拍子記号の上端をそれぞれの大括弧のグループの上端に揃えて表示するのが一般的です。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
  2. ページリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
  3. 「**大括弧を中央にして配置された拍子記号 (Time Signatures Centered on Brackets)**」セクションで、「**大括弧に対する垂直方向の整列 (Vertical alignment relative to bracket)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **上 (Top)**
    - **中央 (Middle)**
  4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、大括弧のグループに対する大きな拍子記号の垂直位置が変更されます。

#### 関連リンク

- [拍子記号の位置 \(1002 ページ\)](#)
- [大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)
- [拍子記号のサイズと位置を変更する \(998 ページ\)](#)

## 拍子記号の表示/非表示

拍子記号は、プロジェクトから削除することなく表示/非表示を切り替えられます。これにより、現在楽譜領域で開いているレイアウトだけでなく、すべてのレイアウトで表示/非表示が切り替わります。

---

#### 手順

1. 表示/非表示にする拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**拍子記号を非表示 (Hide time signature)**」をオンまたはオフにします。
- 

#### 結果

「**拍子記号を非表示 (Hide time signature)**」をオンにすると、選択した拍子記号がすべてのレイアウトで非表示になり、オフにすると表示されます。

それぞれの拍子記号の位置にはガイドが表示されるため、いつでも見つかります。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

#### 補足

- 非表示の拍子記号は水平方向のスペースを一切取らないため、拍子記号の表示/非表示は音符のスペーシングに影響します。
- 拍子記号のガイドの表示/非表示は「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**拍子記号 (Time Signatures)**」を選択して切り替えられます。メニュー内の「**拍子記号 (Time Signatures)**」の横にチェックマークがあるときは拍子記号のガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

印刷モードのウィンドウ右側にある印刷オプションパネルの「**注釈 (Annotations)**」セクションの「**オプションを表示 (View options)**」をオンにすると、拍子記号のガイドの印刷を選択できます。

- コード記号、演奏技法、および拍子記号に適用される、「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)**」にキーボードショートカットを設定できます。

#### 関連リンク

[音符のスペーシング](#) (385 ページ)

## 拍子記号の削除

音符の相対的なリズム上の位置に影響することなく、拍子記号を削除できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - 削除する拍子記号
  - 削除する非表示の拍子記号のガイド
2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択した拍子記号がスコアから削除されます。拍子記号が削除された位置以降の小節は、スコアのそれ以前にある拍子記号に従って、次の拍子記号かフローの終わりの位置まで振り直されます。

フロー中唯一の拍子記号を削除した場合、楽譜は自由拍子として表示されますが、すべての音価に変化はありません。

#### 関連リンク

[拍子記号のタイプ](#) (993 ページ)

## 拍子記号のフォントスタイル

異なる拍子記号のデザインにはそれぞれ異なるフォントスタイルが使用されます。「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログでは、拍子記号に使用されるフォントの形式設定を編集できます。

- 「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択すると開きます。

拍子記号には以下のフォントが使用されています。

- **拍子記号用フォント (Time Signature Font)**

「標準 (Normal)」、「ナローセリフ (Narrow, serif)」、または「ナローサンセリフ (Narrow, sans serif)」のデザインタイプを使用する、標準の拍子記号と大きな拍子記号に使用されません。SMuFL 準拠のフォントファミリーを使用する必要があります。

- **拍子記号用プレーンフォント (Time Signature Plain Font)**  
「プレーンフォント (Plain font)」のデザインタイプを使用する拍子記号に使用されます。どのフォントファミリーでも使用できますが、大きな拍子記号にはナローフォントを使用することをおすすめします。

#### 補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

---

#### 関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(996 ページ\)](#)

## 拍子記号のデザインを個別に変更する

使用するフォントスタイルなど、拍子記号のデザインはレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの拍子記号にはプレーンフォントを使用しつつ、パートレイアウトには標準の拍子記号用フォントを使用するなどができます。

---

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
  2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、拍子記号のデザインを変更するレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
  3. ページリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
  4. 「**拍子記号のデザイン (Time signature design)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **標準 (Normal)**
    - **ナローセリフ (Narrow, serif)**
    - **ナローサンセリフ (Narrow, sans serif)**
    - **標準 (Plain font)**
  5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
- 

#### 結果

選択したレイアウトの拍子記号のデザインが変更されます。「**プレーンフォント (Plain font)**」を選択した場合、それ以外のオプションを選んだ場合とは異なるフォントスタイルが拍子記号に使用されます

#### 関連リンク

[拍子記号のスタイル \(998 ページ\)](#)

# トレモロ

トレモロとは、1本の符尾をまたぐ、または複数の符尾の間に配置される太い斜めの線です。これは単音または複数の音符の連続で、音符を繰り返すことを示すために使用されます。

符頭を1つ1つ記譜せずにトレモロストロークを使用すると、水平方向のスペースが節約できるとともに早いパッセージの読解が容易になります。

トレモロストロークの数は、音符を繰り返す回数とその速さの両方を示します。たとえば音価が指定されたトレモロでは、4分音符の符尾に付く1本のトレモロストロークは2個の8分音符を演奏することを示し、4分音符の符尾に付く3本のトレモロストロークは8個の32分音符を演奏することを示します。



1ストロークの単音トレモロが付いた4分音符と、それを音符で記したものの



3ストロークの単音トレモロが付いた4分音符と、それを音符で記したものの

トレモロには以下の種類があります。

## 単音のトレモロ

1音が繰り返されます。



## 重音のトレモロ

複数の音符 (通常は2つ) が連続で演奏されます。これはトリルに似ていますが、トリルがGとAなど隣接する2つの音符を素早く交互に演奏することに対し、重音トレモロに使用する音符の制限はなく、ただ楽器の性能の限界が制約となります。



## 連符のトレモロ

連符中の複数の音符が記譜された並びで繰り返されます。



音楽的な状況によって、トレモロの音価は指定される場合と指定されない場合があります。音価が指定されるトレモロと指定されないトレモロに視覚的な違いはないため、作曲家または編曲者が、たとえばスコアの前付けにおける指示やスコア中の指示テキストなどの形で、トレモロの演奏方法を指定する場合も多く見られます。



#### 音価が指定されたトレモロ

トレモロストロークの数は、その位置に適用されるテンポと拍子による正確なリズムに対応します。

#### 音価が指定されないトレモロ

ストロークの数とリズムの間に関係性はありません。そのかわり、音価が指定されないトレモロはテンポに関わらずできるだけ速く演奏されます。

音価が指定されないトレモロは、多くの場合3本以上のトレモロストロークを使用し、“trem.”のテキスト指示を伴う場合もあります。

関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(256 ページ\)](#)

## タイのつながりの中のトレモロ

初期設定では、タイのつながりの音符に単音トレモロが追加された場合、タイのつながりに属するすべての音符にトレモロストロークが表示されます。タイでつながれた音符からトレモロストロークを削除すると、タイのつながりに属するすべての音符からトレモロストロークが削除されます。

Dorico Pro では、トレモロは初期設定では音価が指定されていると見なされるため、タイのつながりの後続の音符に表示されるトレモロストロークの数は、必要に応じて自動的に調整されます。たとえば、2本のトレモロストロークが付いた8分音符が4分音符にタイでつながれた場合、4分音符には3本のトレモロストロークが付きます。これはトレモロストロークの機能が連桁に類似するためであり、2本のトレモロストロークと8分音符の符鉤1つは、3本のトレモロストロークと等価になります。

もっとも、個々のトレモロのデュレーションに関わらず、すべての音符に同じ数のトレモロストロークを付けることが必要な状況もあるかもしれません。また、トレモロをタイのつながりの途中から始めたり、途中で終わらせる場合もあります。

個々の音符に表示されるトレモロストロークの数は、浄書モードで個別に変更できます。

## タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する

Dorico Pro はタイのつながりの後続の音符に付くトレモロストロークの数を、それぞれのデュレーションに応じて自動的に変更しますが、意図するリズムを表現するために、単音トレモロのストロークの数を音符ごとに手動で変更できます。

---

手順

1. 浄書モードで、トレモロストロークの数を変更する音符の符頭を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「単一符尾のトレモロ (Single stem tremolo)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
  - なし (None)
  - 1 ストローク (One stroke)
  - 2 ストローク (Two strokes)
  - 3 ストローク (Three strokes)
  - 4 ストローク (Four strokes)
  - バズロール (Buzz roll)

---

結果

選択した音符のトレモロストロークの表示数を変更されます。

例



タイのつながりで2つめの音符が1つめより長い場合のトレモロストロークのデフォルトの数



2つめの音符のトレモロストロークの数を1つめに合わせて変更したもの

---

関連リンク

[トレモロの速さの変更 \(1010 ページ\)](#)

## トレモロの一般的な配置規則

単音トレモロは音符の符尾に配置され、重音トレモロは2つ以上の音符の間に配置されます。重音トレモロが3つ以上の音符にまたがる場合、トレモロストロークはすべての音符の間に配置されます。

トレモロストロークの線は、ストロークの間隔が十分広くなりストロークの数が即座に読み取れるように、連桁よりもわずかに細くなっています。

トレモロストロークは加線や符鉤と重なり合ってははいけません。Dorico Pro は、そのような衝突を防止するために、トレモロストロークの位置を自動的に調整します。

譜表の内側のトレモロストロークは、符頭から少なくとも間1つ分の距離を置くとともに、譜表の線および間に対する正しい位置に配置されます。つまり、音符のピッチを変更してもトレモロストロークの位置が変わらない場合もあります。



前2つと後ろ2つの音符のトレモロストロークの位置は同じですが、ピッチはいずれも異なります。

Dorico Pro では、フレーズの方向に関わらず、単音トレモロのストロークの角度は常に同じです。重音トレモロのストロークの角度は、重音トレモロが適用される符尾それぞれの高さにより決定されます。重音トレモロのストロークの角度は、トレモロの始まりおよび終わりの符尾の長さを変更することによって変えられます。

すべてのトレモロストロークのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで変更できます。

関連リンク

[トレモロストロークの移動 \(1012 ページ\)](#)

[浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する \(1013 ページ\)](#)

## トレモロの速さの変更

トレモロの速さは、入力後でもストロークの数を変更することで変更できます。

---

手順

1. 記譜モードで、速さを変更するトレモロの付いた音符を選択します。  
反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」セクションでは、選択した音符に対応するトレモロストロークの数のボタンが強調表示されています。

#### 補足

単音トレモロと重音トレモロは別個に選択します。

2. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、新たに選択するトレモロストロークの数のボタンをクリックします。  
たとえば、ストロークが2本の単音トレモロを入力するには「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」をクリックし、ストロークが3本の重音トレモロを入力するには「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」をクリックします。



ストロークが2本の単音トレモロ



ストロークが3本の重音トレモロ

#### 結果

選択した音符のトレモロストロークの本数が変更され、トレモロの速さも変化します。

#### 関連リンク

[再生時のトレモロ \(1014 ページ\)](#)

[タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する \(1009 ページ\)](#)

## トレモロの削除

単音トレモロおよび重音トレモロは、適用される音符に影響することなく、それだけを音符から削除できます。

#### 手順

1. 記譜モードで、トレモロストロークを削除する音符を選択します。
2. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、選択したトレモロのタイプに対応するボタンをクリックします。

- **単音トレモロを削除 (Remove Single-note tremolo)**



- **重音トレモロを削除 (Remove Multi-note tremolo)**



#### 結果

対応するタイプのトレモロストロークが削除されます。

#### 例



単音トレモロと重音トレモロが付いた音符



重音トレモロが削除され単音トレモロが残っている音符



重音トレモロと単音トレモロの両方が削除された音符

## トレモロが付いた音符の位置

単音トレモロおよび重音トレモロが付いた音符は、通常の音符と同じ方法で異なる位置に移動できます。ただし、重音トレモロを小節線をまたいで移動させた場合、そのトレモロストロークは自動的に削除されます。

### 補足

トレモロを移動した直後であれば、移動を取り消して削除された重音トレモロのストロークを復元できます。

単音トレモロは、小節線を越えて異なる位置に移動しても、トレモロストロークに影響することはありません。音符の移動先の位置と拍子記号によっては、通常の音符と同様、必要に応じてタイのつながりに自動的に書き換えられる場合があります。

### 補足

単音トレモロが付いたタイのつながりを構成する音符がそれぞれ異なるデュレーションとなった場合、それぞれの音符に付くトレモロストロークの数も異なります。タイのつながりに含まれるそれぞれの音符のトレモロストロークの数は、個別に変更できます。

### 関連リンク

[音符の位置の移動 \(730 ページ\)](#)

[タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する \(1009 ページ\)](#)

## トレモロストロークの移動

トレモロストロークは表示位置を上下に動かさず。

### 補足

- トレモロストロークは左右には動かさません。
- トレモロストロークは特定の音符に付属するため、リズム上の位置は変更できませんが、トレモロの付いた音符は異なる位置に移動できます。単音トレモロの付いた音符は小節線を越えられますが、重音トレモロの付いた音符が小節線を越えると、自動的にストロークが削除されます。

### 手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するトレモロストロークを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、トレモロストロークを移動させます。
  - **[Alt]+[↑]** を押して上へ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して下へ移動します。

### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

### 結果

選択したトレモロストロークが上下に移動します。

### 補足

- 重音トレモロのストロークを移動すると、それが付属する符尾の長さも変更されます。

- トレモロストロークの表示位置を動かす際、最初は間違った方向に動いたり、予想より大きい幅で動いたりするように見える場合があります。これは、トレモロストロークを移動して位置が上書きされる際に、その位置が一旦リセットされるからです。
- 重音トレモロのストロークの開始位置/終了位置を移動すると、プロパティパネルの「**連桁 (Beaming)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - 「**開始 Y オフセット (Start Y offset)**」は、対応する符尾の先端を動かすことにより、重音トレモロのストロークの開始位置を垂直方向に移動させます。
  - 「**終了 Y オフセット (End Y offset)**」は、対応する符尾の先端を動かすことにより、重音トレモロのストロークの終了位置を垂直方向に移動させます。

単音トレモロのストロークを移動すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**トレモロ Y (Tremolo Y)**」が自動的にオンになります。これは単音トレモロのストロークを垂直に移動させます。

たとえば重音トレモロのストローク全体を上に移動させた場合、両方の符尾のハンドルが移動することにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもトレモロストロークを移動できます。ただし、プロパティパネルの関連するグループを表示させるには、トレモロストロークではなく符頭を選択する必要があります。

プロパティをオフにすると、選択した符尾のハンドル位置がリセットされ、それに従いトレモロストロークもデフォルト位置にリセットされます。

## 浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで、トレモロの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**トレモロ (Tremolos)**」ページのオプションでは、トレモロストロークの外観と、符尾の先端、符鉤、符頭および連桁に対するトレモロストロークの位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

[浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する \(952 ページ\)](#)

## 2 分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定を変更する

2 分音符の重音トレモロの記譜に関する慣習は複数あります。2 分音符の重音トレモロの記譜方法に関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**トレモロ (Tremolos)**」をクリックします。
3. 「**重音のトレモロ (Multi-note Tremolos)**」セクションで、「**2 分音符のトレモロの外観 (Appearance of half note (minim) tremolos)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **すべての線で符尾を結合 (All lines join stems)**
  - **最も外側にある線で符尾を結合 (Outermost line joins stems)**
  - **符尾を結合しない (No lines join stems)** (デフォルト)
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

#### 結果

環境設定に従い、すべての 2 分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定が変更されます。

## 再生時のトレモロ

トレモロが音価が指定されないトレモロとして解釈されるためのトレモロストロークの最小数を指定することで、音価が指定されないトレモロの再生を制御できます。これには、音符に使用されるトレモロストロークの数と連桁線の数の両方が反映されます。

これは「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページで行なえます。

たとえば、3 本のトレモロストロークが必要なようにオプションが設定されている場合、2 本のトレモロストロークが付いた 8 分音符は、8 分音符の連桁 1 本も計算に含まれるため、音価が指定されないトレモロとして演奏されます。

また、音価が指定されないトレモロのデフォルトの音符の長さも指定できます。音符のデュレーションは、「トレモロ (Tremolos)」セクションで、テンポ 120 の 4 分音符の長さに対する割合として入力します。

トレモロストロークの数は、繰り返される音符の音価を決定します。たとえば、1 本のストロークは 8 分音符を意味し、2 本のストロークは 16 分音符を意味するといった具合に続きます。

#### 関連リンク

[「再生オプション \(Playback Options\)」ダイアログ \(409 ページ\)](#)

## 再生時のトレモロのデュレーションの変更

再生時の音価が指定されないトレモロの各音符のデフォルトの長さ、再生時にトレモロの音価を指定しないことを示すために必要なトレモロストロークの最小数をどちらも変更できます。

たとえば、数値フィールドの数値を変更してデフォルトの長さを 0.5 秒にするには、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページの「トレモロ (Tremolos)」セクションにある「音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)」において、数値フィールドに「1」を入力します。

#### ヒント

「音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)」の数値フィールドの横のいずれかの矢印の上にマウスを合わせると、現在の割合を小数で示す小さなボックスが表示されます。

#### 手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
3. 必要に応じて、「トレモロ (Tremolos)」セクションで「音価が指定されないトレモロを再生するストロークの最少数 (Minimum number of strokes for playback of unmeasured tremolos)」の数値を変更します。
4. 「音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)」の数値を変更します。

たとえば、音価が指定されないトレモロの音符のデフォルトの長さを 0.5 秒に設定するには、数値を「1」に変更します。

#### ヒント

数値の横のいずれかの矢印の上にマウスを合わせると、現在の割合を小数で示す小さなボックスが表示されます。

---

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
- 

#### 結果

音価が指定されないトレモロの再生時に各音が発音されるデュレーションがプロジェクト全体で変更されます。

「音価が指定されないトレモロを再生するストロークの最少数 (Minimum number of strokes for playback of unmeasured tremolos)」の数値を変更すると、再生時にトレモロが音価が指定されないトレモロとして扱われるために必要なトレモロストロークの最少数を変更されます。

# 連符

連符は、現在の拍に応じた通常の分割とは異なる分割数の拍のことで、連符は、通常の分割パターンで拍内に入る音符よりも多いたまたは少ない音符を拍に収める場合に使用されます。



4/4 における 4 分音符での標準的な分割



4/4 の中を 4 分音符で 6 つに分割する



6/8 における 8 分音符での標準的な分割



6/8 の中を 8 分音符で 4 つに分割する

連符は、標準とは異なる形で分割されますが、通常の音符と同じリズムの記譜法を使用するため、デュレーションが異なることを明確に示すために印を付ける必要があります。

以下の例では、4 分音符の 3 連符が数字の 3 の付いた角括弧の下に表示されています。8 分音符の 2 連符は連符で括られるため角括弧は使用せず、連符の上に数字の 2 を表示します。

Dorico Pro では、連符は角括弧のみを表記、角括弧と連符の数や比率を示す数字を組み合わせることで表記、または角括弧、連符の数や比率を示す数字、連符の音値を示す音符を組み合わせることで表記できます。

関連リンク

[連符の入力 \(172 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字 \(1025 ページ\)](#)

## 連符の一般的な配置規則

連符の角括弧と数や比率を示す数字は、通常音符の符尾側に配置されます。連符が連符で表示される場合は、連符の角括弧は必ずしも必要ありませんが、連符の数や比率を示す数字と組み合わせることで表記することもできます。

声部の譜表における連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字は、表記規則に従って、音符と歌詞の間に入り込まないように常に譜表の上に配置されます。

連符の角括弧は、スラーやアーティキュレーションなどの記譜記号と重ならない範囲で、できるだけ音符に近い位置に配置されます。スラーは通常、連符の角括弧より短い場合は角括弧の内側に配置されます。スラーが連符の角括弧より長い場合は、スラーが角括弧の外側に配置される場合もあります。

連符の角括弧の水平位置は、どの音符が括弧に含まれるか一目で分かる位置にする必要があります。そのため、連符の隣の音符まで含まれるかのように見える位置まで括弧を拡張しないようにしてください。





連符の角括弧が2拍3連符であることを明確に示している



連符の角括弧を拡張しすぎるとリズムが不明瞭になる

## 浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページで連符、連符の角括弧、および連符の数や比率の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「連符 (Tuplets)」ページのオプションでは、譜表や符頭に対する連符の角括弧の外観と角度および連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字の位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 入れ子状の連符

連符がより大きな連符の中に入っているものは入れ子状の連符と呼ばれ、複雑なリズムを表現する際にしばしば用いられます。Dorico Pro では、入れ子状の連符の階層数に制限はありません。

例



入れ子状の連符

## 入れ子状の連符の入力

入れ子状の連符は、空白の譜表に新規に入力することも、既存の連符を選択してその中に入力することもできます。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. **[;]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
3. 必要に応じて、空白の譜表に入れ子状の連符を入力する場合は、ポップオーバーに外側の連符の比率を入力します (例:たとえば、3:2 と入力します)。
4. 必要に応じて、**[Return]** を押してポップオーバーを閉じ、外側の連符の入力を確定します。

補足

既存の連符に入れ子状の連符を入力する場合、手順3と4は飛ばします。

5. **[;]** を押して連符のポップオーバーを再度開きます。
6. 内側の連符の比率を入力します (例:たとえば、5:4 と入力します)。
7. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じ、内側の連符の入力を確定します。
8. 任意のピッチで入力または再生します。

- 以下のいずれかの操作を行なって、入れ子状の連符の入力を終了します。
    - [Shift]+[;] を 1 回押し、内側の連符の入力を終了して外側の連符の入力を続けます。
    - [Shift]+[;] を 2 回押し、両方の連符の入力を終了して標準の音符入力に戻ります。
    - [Esc] を押して、音符の入力を完全に停止します。
    - 矢印キーでカーレットを移動して、標準の音符入力に戻ります。
- 

#### 結果

入力または再生したピッチは、入れ子状の連符としてカーレット位置から入力されます。

内側の連符の倍数が外側の連符内にちょうど収まる場合は、連符を手動で停止するまで、指定された入れ子状の連符として音符入力が続けられます。

内側の連符の倍数が外側の連符内に収まらない場合、外側の連符内に収まる最後の音符を入力したところで内側の連符の入力が自動的に停止します。そのあとは手動で停止するまで、外側の連符の入力が続きます。

#### 補足

入れ子状の連符は、既存の連符にカーレットを合わせた状態で音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」をクリックして入力することもできます。ただしこの操作では、入れ子状の連符を一度に 1 つしか入力できません。

---

## 連符の音符上の記譜記号

連符には、臨時記号、アーティキュレーション、スラーなどの記譜記号を通常の音符と同様に追加できます。

アーティキュレーションは、符頭と連符の角括弧との間または符尾と連符の角括弧の間、つまり連符の角括弧または数や比率よりも音符の近くに配置されます。

#### 関連リンク

[臨時記号の入力 \(165 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)

[スラーの入力 \(267 ページ\)](#)

## 既存の音符を連符に変換する

既存の音符はどれでも連符に変換できます。これはたとえば、既存のデュレーション範囲内に追加の音符を入れ込む場合に使用できます。

---

#### 手順

- 記譜モードで、連符に変換する音符を選択します。
  - [;] を押して連符のポップオーバーを開きます。  
ポップオーバーには選択内容に基づき提案される比率が自動的に記入されます。
  - 必要に応じて、ポップオーバー内の比率を変更します。たとえば、3:2 と入力して 3 連符を入力します。
  - [Return] を押してポップオーバーを閉じます。
- 

#### 結果

選択した音符が、ポップオーバーの比率に従い連符に変換されます。たとえば、5 つの 8 分音符を選択してポップオーバーに 5:4 と入力すると、選択した音符が 8 分音符の 5 連符に変わります。

選択した音符が指定した比率の 1 つの連符に収まる場合、連符は 1 つだけ作成されます。選択した音符が 1 つの連符に収まらない場合、必要となる数の連符が自動的に作成されます。

---

関連リンク

[連符のポップオーバー \(173 ページ\)](#)

## 連符から標準の音符に変換する

既存の連符の音符はどれでも標準の音符に変換できます。たとえば、連符の 8 分音符から標準の 8 分音符に変換できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、標準の音符に変換する連符の角括弧または連符の数や比率のみを選択します。

#### 補足

連符の符頭は選択してはいけません。

2. 必要に応じて、選択した連符内のすべての音符を保持する場合は、**[I]** を押して挿入モードをオンにします。
3. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

---

### 結果

選択した連符内のすべての音符がアンスケールされ、記譜上は同じデュレーションの標準の音符として表示されます。たとえば、連符の 4 分音符は標準の 4 分音符に変わります。

挿入モードがオンになっている場合、連符内のすべての音符を保持することから必要となる追加のデュレーションを確保するために、後続の既存の音符はすべてリズム上の後ろの位置に押し出されます。挿入モードがオフになっている場合、選択している中で一番前の連符が展開され、後続の音符や連符に上書きされます。

## 連符の位置の移動

連符の位置は、あとから移動できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、移動する連符を選択します。

#### 補足

連符の状態を維持したままで音符を移動させるには、連符の数や比率を示す数字、角括弧のすべてを選択する必要があります。連符の数や比率を示す数字または角括弧で、選択されていないものがある場合、音符を連符の範囲の外側に移動すると、音符が標準の長さに変化します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した連符を移動します。
  - **[Alt]+[→]** を押して右へ移動します。
  - **[Alt]+[←]** を押して左へ移動します。

#### 補足

連符の位置をマウスで移動することはできません。

---

### 結果

選択された連符は現在のリズムグリッド値に従い、譜表に沿って左右に移動します。

音符と一緒に連符の数や比率を示す数字または角括弧も選択している場合、連符全体が譜表に沿って移動します。連符が小節線をまたぐ場合、連符は自動的に調整され補正されます。

#### 補足

- 選択した音符のいずれかが同じ声部、同じ譜表の同じ位置にある他の音符と重なる場合は、元からあった音符が削除されて選択した音符に置き換わります。  
音符を移動した直後であれば、移動を取り消して削除された音符を復元できます。
- 通常、連符は拍の分かれ目で分割されますが、小節の途中で自動調整されることはありません。小節の途中で拍の分かれ目を表示するには、2つの連符を手動で入力する必要があります。

#### 例



## 連符の削除

連符に含まれるすべての音符は連符ごと削除できます。また、対応する音符は残したまま、連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字を削除することもできます。

#### 手順

1. 記譜モードで、削除する連符を選択します。

#### ヒント

連符全体とその連符に含まれるすべての音符を削除するには、符頭とそれに付随する連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字をすべて選択します。

2. **[Backspace]** または **[Delete]** を押します。

#### 結果

選択した連符が削除されます。

- 音符だけを選択した場合、選択した音符のみが削除され、連符は削除されません。
- 連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字だけを選択した場合、連符のみが削除され、連符内の音符は記譜されているのと同じデュレーションで維持されます。たとえば、4分音符の3連符から角括弧を削除すると、連符内にあった音符のみが残り、3つの4分音符が表示されます。

#### 補足

これにより、連符の直後にある既存の音符が上書きされます。ただし、「挿入 (Insert)」モードがオンになっている場合、必要な追加のデュレーションに対応するため、あとに続く既存の音符がすべて後ろにずれます。

#### 関連リンク

[連符から標準の音符に変換する \(1019 ページ\)](#)

## 連符の連桁

連符の連桁は、連符ではない音符の連桁と同様に、連符の音符を連桁で連結したものです。連符の連桁には、他の種類の連桁と同様の変更を加えることができます。

#### 関連リンク

[連桁 \(543 ページ\)](#)

- [連符内の連符 \(555 ページ\)](#)
- [手動で音符に連符を付ける \(543 ページ\)](#)
- [音符の連符の解除 \(544 ページ\)](#)
- [連符グループの分割 \(546 ページ\)](#)
- [不完全連符の方向を変更する \(544 ページ\)](#)
- [連符の傾斜を個別に変更する \(548 ページ\)](#)

## 連符の角括弧

連符の角括弧は、連符内の音符を角括弧の中に収めることで3連符の4分音符のように連符で連結されない連符のデュレーションを示します。

連符の角括弧の位置と形は、浄書モードで個別に微調整できます。

連符の角括弧にはそれぞれ4つのハンドルがあり、ハンドルを移動することで位置や形を変更できます。



連符の角括弧の開始位置/終了位置を設定するには、上部の2つのハンドルを動かします。「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Tuplets)**」ページで連符の角度の設定が「**常に水平 (Always horizontal)**」に設定されている場合でも、ハンドルを個別に動かして連符の角括弧に角度を付けることができます。

連符の角括弧のフックの長さを設定するには、下部の2つのハンドルを動かします。片方のハンドルを動かすと、両方のフックの長さが変更されます。

関連リンク

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1023 ページ\)](#)

## 連符の数や比率を示す数字と角括弧の表示位置を移動する

連符の数や比率を示す数字と連符の角括弧は、対応する音符の位置の範囲内で移動できます。また連符の角括弧のハンドルの開始位置および終了位置も個別に移動でき、つまり連符の角括弧の表示の長さを変更できます。

---

手順

1. 浄書モードで、移動させる以下のいずれかのアイテムを選択します。
  - 連符の数や比率を示す数字
  - 連符の角括弧全体
  - 連符の角括弧にある個別のハンドル
2. 以下のいずれかの操作を行なって、連符の角括弧、連符の数や比率を示す数字、ハンドルを移動します。
  - ハンドルを右に移動するには、**[Alt]+[→]** を押します。
  - ハンドルを左に移動するには、**[Alt]+[←]** を押します。
  - ハンドル、角括弧全体、連符の数や比率を示す数字を上に移すには、**[Alt]+[↑]** を押します。
  - ハンドル、角括弧全体、連符の数や比率を示す数字を下に移すには、**[Alt]+[↓]** を押します。

#### ヒント

連符の角括弧、連符の数や比率を示す数字、ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt]+[←]**)。

- 連符の角括弧全体または連符の数や比率を示す数字をクリックして、上下にドラッグします。
- 連符の角括弧のハンドルをクリックして、任意の方向にドラッグします。

#### 結果

選択した連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字が、対応する音符の位置の範囲内で移動します。

#### ヒント

- 連符の角括弧を移動すると、プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
  - **開始オフセット (Start offset)**: 連符の角括弧の開始位置を移動します。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - **終了オフセット (End offset)**: 連符の角括弧の終了位置を移動します。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
  - **フックの長さ (Hook length)**: 連符の角括弧のフックの長さを変更します。

たとえば、連符の角括弧全体を移動すると、両方のハンドルも移動するため、「**開始オフセット (Start offset)**」と「**終了オフセット (End offset)**」の両方が有効になります。これらのプロパティを使用して、連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字の表示位置を変更することもできます。

連符の角括弧の開始位置と終了位置のプロパティ値を個別に変更できるため、連符の角括弧の角度を変更することもできます。



プロパティをオフにすると、連符の角括弧が初期設定の位置に戻ります。

- 連符の角括弧のデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Tuplets)**」ページにある「**水平位置 (Horizontal Position)**」セクションで設定を行ないます。

## 連符の大括弧の表示/非表示

連符の大括弧を個別に表示/非表示にできます。

#### 手順

1. 表示/非表示を切り替える連符の大括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「**連符 (Tuplets)**」グループにある「**大括弧 (ブラケット)**」を有効化します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 「**非表示 (Hidden)**」  

  - 「**表示 (Shown)**」  


## 連符の角括弧の角度を個別に変更する

連符の角括弧の角度は、連符の角括弧の四隅にある四角いハンドルの位置を移動することで個別に変更できます。

### 手順

1. 浄書モードで、角度を変更する連符の角括弧にある以下の角ハンドルのいずれかを選択しします。
  - 開始位置の角ハンドル
  - 終了位置の角ハンドル
2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
  - [Alt]+[→] を押して右へ移動します。
  - [Alt]+[←] を押して左へ移動します。
  - [Alt]+[↑] を押して上へ移動します。
  - [Alt]+[↓] を押して下へ移動します。

### ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、[Ctrl]/[command] を押しながらキーボードショートカットを押します (例: [Ctrl]/[command]+[Alt]+[←])。

- 選択対象をクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、もう一方のハンドルに対しても手順 1 と 2 を繰り返し、連符の角括弧の角度を変更します。

### 関連リンク

[連符の数や比率を示す数字と角括弧の表示位置を移動する \(1021 ページ\)](#)

[連符の角括弧を強制的に水平にする \(1024 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1021 ページ\)](#)

## 譜表に対する連符の角括弧の位置を個別に変更する

譜表に対する連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字の位置は、連符ごとに個別に変更できます。

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「位置 (Placement)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 上 (Above)



- 下 (Below)



- 上の譜表にまたがる (Cross-staff above)



- 下の譜表にまたがる (Cross-staff below)



#### 結果

選択した連符の角括弧の位置が変更されます。

#### ヒント

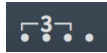
- 「位置 (Placement)」をオフにすると、選択した連符がデフォルトの位置に戻ります。
- 音楽の譜表に対する連符の角括弧の位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「位置 (Placement)」セクションで設定を行ないます。

## 連符の角括弧の終了位置の変更

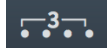
個々の音符に対する連符の角括弧の終了位置は、個別に変更できます。

#### 手順

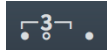
1. 終了位置を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「終了位置 (End position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 最後の音符の右側で終了 (End at right-hand side of final note)



- 次に続く音符の直前で終了 (End immediately before following note)



- 最後の連符のグループ位置で終了 (End at position of final tuplet division)



#### 結果

選択した連符の角括弧の終了位置が変更されます。

#### ヒント

- プロパティをオフにすると、選択した連符が初期設定に戻ります。
- すべての連符の数や比率を示す数字の水平位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1023 ページ\)](#)

[浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1017 ページ\)](#)

## 連符の角括弧を強制的に水平にする

個々の連符の角括弧の角度設定を水平に変更すると、その設定をプロジェクト全体の設定より優先させることができます。

#### 手順

1. 角度を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。



2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「連符を強制的に水平にする (Force horizontal)」をオンにします。

#### 結果

プロパティをオンにすると、選択した連符の角括弧が水平になります。プロパティをオフにすると、選択した連符の角括弧にプロジェクト全体の設定が再度適用されます。

#### ヒント

すべての連符の角括弧に角度を付けるか、常に水平に表示するかの設定をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「角括弧 (Brackets)」セクションで設定を行ないます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1017 ページ\)](#)

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1023 ページ\)](#)

## 連符の数や比率を示す数字

連符の数と比率は非常に似ています。3 連符の場合は 3 というように、ともに連符に含まれる長さの等しい音符の数を示します。しかし連符の比率はさらに、3 連符であれば 3:2 というように、連符のデュレーションに対応する標準の音符の数も表示します。

さらに、連符の比率はユニットの音価を示す音符を表示することもできます。



比率と音価を示した連符

連符の数や比率を示す数字は、記譜された音符の数をどのように現在のテンポおよび拍子に入れこむかを演奏者に分かりやすく示します。

Dorico Pro では、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「連符 (Tuplets)」ページで、プロジェクト全体の連符の数字と比率の外観 (使用されるフォントなど) を変更できます。この設定より優先される形で個別の連符の外観を変更することもできます。

#### 関連リンク

[浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1017 ページ\)](#)

[連符の数字や比率に使用するフォントの変更 \(1027 ページ\)](#)

## 連符の数字や比率のタイプを変更する

連符の数字や比率の外観は、プロジェクト全体の設定とは個別に変更できます。





#### 手順

1. 連符の数や比率を示す数字の表示タイプを変更する場合、対象となる連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

#### 補足

プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループは、連符の角括弧を選択した場合のみ表示されます。連符内の音符、または連符と連符の角括弧内の音符を選択した場合は表示されません。

2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「数字 (Number)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- なし (None)  

  - 数字 (Number)  

  - 比率 (Ratio)  

  - 比率 + 音符 (Ratio+note)  

- 

#### 結果

選択した連符の、数や比率を示す数字の表示が変更されます。

#### ヒント

- 「数字 (Number)」をオフにすると、選択した連符はデフォルトの設定に戻ります。
  - すべての連符の数や比率の表示タイプをプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページの「数字と比率 (Number and Ratio)」セクションで設定を行ないます。
- 

#### 関連リンク

[連符の数や比率を示す数字 \(1025 ページ\)](#)

[浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1017 ページ\)](#)

## 連符の数字や比率の位置を個別に変更する

連符の数字や比率の水平位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

---

#### 手順

1. 連符の数や比率を示す数字の位置を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「中央 (Center)」をオンにします。
  3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **ビジュアル (Visual)**  
連符の数や比率を示す数字の位置を、連符の連桁または連符の角括弧の視覚的な中央位置にします。
    - **リズム (Rhythmic)**  
連符の数や比率を示す数字の位置を、連符の連桁または連符の角括弧のリズムの中央位置にします (視覚的には中央にならない場合があります)。
- 

#### 結果

選択した連符の、数や比率を示す数字の位置が変更されます。

#### ヒント

- プロパティをオフにすると、連符はプロジェクト全体の設定に戻ります。
  - すべての連符の数や比率を示す数字の水平位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「数字と比率 (Number and Ratio)」セクションで設定を行ないます。
-

関連リンク

[連符の角括弧 \(1021 ページ\)](#)

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1023 ページ\)](#)

## 連符の数字や比率に使用するフォントの変更

初期設定では、連符の数字や比率はフィンガリングの外観に似た太字で斜体のアラビア数字フォントで描かれます。連符の数字や比率に使用されるフォントをプロジェクト全体で変更できます。これは、音価の指示の外観にも影響します。

---

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**連符 (Tuplets)**」をクリックします。
3. 「**数字と比率 (Number and Ratio)**」セクションの「**連符の数字のスタイル (Tuplet digit style)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **ボールド (Bold weight)**
  - **レギュラー (Regular weight)**
  - **プレーンフォント (Plain font)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

---

結果

プロジェクト全体の連符の数字や比率に使用されるフォントが変更されます。

- 「**ボールド (Bold weight)**」と「**レギュラー (Regular weight)**」はともに、SMuFL に準拠する必要がある「**連符用フォント (Tuplet Font)**」スタイルに基づきます。
- 「**プレーンフォント (Plain font)**」は、あらゆるテキストフォントを使用できる「**連符のプレーンフォント (Tuplet Plain Font)**」スタイルを使用します。

---

ヒント

「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで、「**連符のプレーンフォント (Tuplet Plain Font)**」スタイルのフォントサイズなどの各設定を編集できます。

---

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(368 ページ\)](#)

# 無音程打楽器

“無音程打楽器”とは、特定のピッチにチューニングされていないすべての打楽器を含む表現です。これにはバスドラム、ギロ、マラカス、シンバル、シェイカーなどが含まれます。

Dorico Pro は無音程打楽器に対する包括的なサポートを提供しています。複数のインストゥルメントの楽譜を打楽器キットにまとめ、レイアウトごとに異なる表示を行なうための柔軟なオプションを備えています。また、打楽器キットはドラムセットとしても定義でき、これにより音符のデフォルトの符尾方向が変更されます。

Dorico Pro のさまざまな打楽器キットの表示タイプはレイアウト固有であることから、レイアウトごとに異なる形で打楽器キットを表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは打楽器キットを5線譜で表示しながら、打楽器のパートレイアウトでは1線譜を使用するインストゥルメントとして表示できます。

また無音程打楽器の演奏技法固有の符頭をカスタマイズしたり、新規に作成したりもできます。これにより、打楽器キットのそれぞれのインストゥルメントで、演奏技法ごとに異なる符頭を使用して、音符の演奏方法を指示できます。

関連リンク

[打楽器キット \(1029 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

[打楽器キットをドラムセットとして定義 \(114 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(157 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法 \(1036 ページ\)](#)

## 打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント

打楽器キットでは、1人のプレーヤーに同時に割り当てられた複数の無音程打楽器をいくつかの方法で表示できます。キットに組み込まれていない複数の打楽器は、初期設定では現在演奏中のインストゥルメントのみ表示する1本の線上に表示されます。

打楽器キットの一般的なものとして、ドラムセットが挙げられます。ドラムセットは、フレームに取り付けられた複数の個別のインストゥルメントによって構成され、記譜は通常、標準の5線譜上に行なわれます。それぞれのインストゥルメントには譜表上の固有の位置や、場合によっては固有の符頭タイプが割り振られます。同様に、Dorico Pro ではボンゴのペアもデフォルトの打楽器キットです。これは2つのボンゴドラムから構成され、通常2線のグリッド上に記譜されます。小さい方が上の線、大きい方が下の線に表示されます。

プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントが1つか2つしかない場合は、個々の打楽器を個別に表示の方が適切な場合もあります。ただし、打楽器をキットに組み込むと楽譜表示の柔軟性が向上し、レイアウトごとに個別に変化させられます。また、キットではインストゥルメントのラベルもより強力に制御できます。

Dorico Pro では、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「プレーヤー (Players)」ページでインストゥルメントの変更がオンになっている場合、有音程楽器と同様にインストゥルメントからインストゥルメントへの切り替えを行なえます。

#### 補足

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルにあるプレーヤーカードのキットインストゥルメントは緑色で表示されますが、打楽器キットに属さない個々の打楽器インストゥルメントは、他のインストゥルメントと同様水色で表示されます。

## 打楽器キット

打楽器キットとは、1人のプレーヤーによって演奏される無音程打楽器の集まりです。ドラムセットは、ポップスやロック音楽で使用されることの多い、特殊なタイプの打楽器キットです。

Dorico Pro では打楽器キットを5線譜やグリッドなど異なる方法で表示できます。打楽器キットをドラムセットとして動作させる必要がある場合、それらをドラムセットとして定義できます。

打楽器キットは設定モードで作成できます。既存の無音程打楽器をキットに組み込んだり、空のキットをプレーヤーに追加してから無音程打楽器をそれに追加したりできます。また、あらかじめ書き出して保存したキットの読み込みも行なえます。

打楽器は、そのインストゥルメントにすでに追加された楽譜の内容に一切影響しない形でプレーヤー間を移動できます。

#### 補足

移動させるインストゥルメントが打楽器キットに組み込まれている場合は、他のプレーヤーに移動させる前にまずインストゥルメントをキットから取り除く必要があります。

個々の打楽器インストゥルメントは、他のインストゥルメントと同様に変更できます。しかし、無音程打楽器は無音程打楽器以外には変更できず、またキットに属する打楽器インストゥルメントは、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログ内でしか変更できません。

#### 関連リンク

[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)

[キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合 \(108 ページ\)](#)

[打楽器キットをドラムセットとして定義 \(114 ページ\)](#)

[打楽器キットへのインストゥルメントの追加 \(113 ページ\)](#)

[打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除 \(117 ページ\)](#)

[プレーヤー間のインストゥルメントの移動 \(109 ページ\)](#)

## 打楽器キットの書き出し

打楽器キットをライブラリーファイルとして書き出せます。これにより、キットを1から作り直す必要なく再利用できます。

#### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、打楽器キットの書き出しを行なうプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ下部の「**キットを書き出す (Export Kit)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。

## 5. 「保存 (Save)」を選択します。

---

### 結果

キットが書き出され、ライブラリーファイルとして保存されます。

### 補足

あとからライブラリーファイルを他のプロジェクトに読み込むと、打楽器キットを再利用できます。

---

## 打楽器キットの読み込み


打楽器キットを収めるライブラリーファイルを読み込むことで、キットを1から作り直す必要なく再利用できます。

### 前提

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルにソロプレーヤーを新規に追加しておきます。

---

### 手順

1. 設定モードで以下のいずれかの操作を行なって、空のソロプレーヤーでインストゥルメント選択ダイアログを開きます。
    - 空のプレーヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押します。
    - 空のプレーヤーのカードでプラス記号をクリックします。  

    - 空のプレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから「**インストゥルメントをプレーヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。
  2. インストゥルメント選択ダイアログの「**キットを読み込む (Import Kit)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
  3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、インポートする打楽器キットのライブラリーファイルを探して選択します。
  4. 「**開く (Open)**」をクリックします。
- 

### 結果

選択したライブラリーファイルが打楽器キットとして読み込まれます。これはインストゥルメント選択ダイアログを開いたカードのプレーヤーに割り当てられます。

## 浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで、打楽器のレジェンドおよびゴーストノートの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

### 関連リンク

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 無音程打楽器のフローごとの記譜オプション

打楽器キットの音符の記譜に関するフローごとに個別の設定は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで変更できます。

たとえば、打楽器キットのすべての音符を複声部ではなく単一の声部で記譜することを選択できます。

「**記譜オプション (Notation Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択するか、設定モードで「**設定 (Setup)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択します。
- 設定モードで、「**フロー (Flows)**」パネルにある「**記譜オプション (Notation Options)**」をクリックします。



そのあと、ページリストで「**打楽器 (Percussion)**」をクリックします。

## 打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する

打楽器キットの譜表上で、さまざまな演奏技法を表示するために演奏技法固有の符頭を使用する音符は、利用できる中から演奏技法固有の符頭を切り替えることで、入力後でも演奏技法を変更できます。

### 補足

これは演奏技法固有の符頭の変更にのみ適用されます。

### 前提

演奏技法を変更する打楽器キットのインストゥルメントに、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで演奏技法固有の符頭を2つ以上設定しておきます。

### 手順

1. 記譜モードで、演奏技法固有の符頭を変更する音符を選択します。

### 補足

音符を1つ選択すると、使用中の演奏技法がリズムグリッドの上に表示されます。これは複数の音符を選択した場合は表示されません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したインストゥルメントの演奏技法を利用できる中から切り替えます。
  - **[Shift]+[Alt]+[↑]** を押して上方向に移動します。
  - **[Shift]+[Alt]+[↓]** を押して下方向に移動します。

### 結果

選択した音符の演奏技法が変更されます。符頭のデザインや位置も変更される場合があります。

### 関連リンク

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1036 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(157 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(469 ページ\)](#)

[演奏技法 \(798 ページ\)](#)

## 打楽器の音符をゴーストノートとして表示する

打楽器の音符をゴーストノートとして表示できます。ゴーストノートは括弧付きで表示されます。

---

### 手順

1. ゴーストノートとして表示する無音程打楽器の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「ゴーストノート (Ghost note)」をオンにします。

---

### 結果

選択した音符の符頭が括弧付きで表示されます。

## 打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する

音符の入力後に、同じ打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動できます。ただし、1線譜を使用するインストゥルメントキットの表示タイプのレイアウトでは移動できません。

1線譜を使用するインストゥルメントキットの表示タイプのレイアウトでは、音符を他の譜表に伸ばして、譜表をまたぐ連桁を作成できます。

---

### 手順

1. 記譜モードで、打楽器キットの別のインストゥルメントに移動する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、別のインストゥルメントに音符を移動します。
  - **[Alt]+[↑]** を押して1つ上のインストゥルメントへ移動します。
  - **[Alt]+[↓]** を押して1つ下のインストゥルメントへ移動します。

---

### 結果

音符がキット内の別のインストゥルメントに移動します。

### 手順終了後の項目

キット内の各インストゥルメントの位置を変更できます。

### 関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)

[打楽器キット内のインストゥルメントの位置の変更 \(116 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプの変更 \(1035 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁の作成 \(550 ページ\)](#)

## 打楽器キットの音符の記譜記号

打楽器キットでは、通常の音符と同様に音符に記譜記号を追加してさまざまなリズムを使用できますが、その作用は異なる場合があります。

### アーティキュレーション

打楽器インストゥルメントでは、キットの表示タイプにかかわらず、他のインストゥルメントと同じ方法でアーティキュレーションを追加できます。

ただし、グリッドおよび5線譜の表示では、追加したアーティキュレーションはいずれも、同じ声部の同じ位置にあるすべてのインストゥルメントに適用されます。たとえば、スネアドラムとトムトムの音



符がリズム上の同じ位置にあるとして、これにアクセントを追加した場合、これらは初期設定ではいずれも下向きの符尾の声部で表示されるため、アクセントは両方のインストゥルメントに追加されます。

1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプに切り替えると、音符それぞれに適用されるアクセントが確認できます。

## 連符

グリッドおよび 5 線譜のキット表示タイプに記譜する場合、連符は同じ声部のすべてのインストゥルメントに追加されます。

インストゥルメントごとに個別にクロスリズムを入力する場合は、1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプに切り替えます。グリッドまたは 5 線譜のキット表示タイプに戻すと、Dorico Pro はリズム上の矛盾を解消しようとします。

- 競合する連符: 連符のうち 1 つがデュレーションの競合を解消するために追加の声部に移動されます。
- あるインストゥルメントの連符の音符と、もう 1 つのインストゥルメントの連符ではない音符が、リズム上の同じ位置で開始する場合: 連符ではない音符が連符の一部であるかのように表示されます。これは、この音符の開始位置の位置が連符の開始位置と一致するため、元の記譜内容と発音は同じになるからです。
- あるインストゥルメントの連符の音符ともう 1 つのインストゥルメントの連符ではない音符がリズム上の同じ位置で開始しない場合、または他の連符ではない音符が連符の途中で開始する場合: 連符ではない音符がデュレーションの競合を解消するために追加の声部に移動されます。

### 補足

グリッドおよび 5 線譜のキット表示タイプにおいて連符を削除すると、音符が同じ声部に属するすべてのインストゥルメントから連符が削除されます。

---

## 演奏技法

たとえばクローズのハイハットに +、オープンハイハットに o などのように、演奏技法を入力できます。これは他のインストゥルメントと同様、ステップ入力中に行なうことも、既存の音符にあとから追加することもできます。入力には記譜モードで演奏技法のポップオーバーを使用するか、演奏技法パネル内の演奏技法をクリックします。

演奏技法は、そこに同じ声部の他のインストゥルメントがある場合でも、選択した音符が属するインストゥルメントのみに追加されます。

## 打楽器のスティッキング

Dorico Pro には現在、打楽器のスティッキングに関する専用の機能は実装されていません。ただし、キットのすべての表示タイプにおいて、打楽器のスティッキングを表現するために歌詞機能を使用できます。

- グリッド/5 線譜の表示タイプ: スティックングを表示するインストゥルメントの音符を選択します。
- 1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプ: スティックングを表示するインストゥルメントに直接歌詞を入力します。

### 関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(186 ページ\)](#)

[連符の入力 \(172 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(177 ページ\)](#)

[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

[歌詞の入力 \(248 ページ\)](#)

## 打楽器キットにおける強弱記号

強弱記号は他のアイテムとは異なり、グリッドや5線譜の表示タイプと1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとの間では共有されません。1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプにおいて追加された強弱記号は、グリッドや5線譜の表示に切り替えると表示されなくなります。

1線譜を使用するインストゥルメントの表示においては、大量の異なる強弱記号がリズム上の同じ位置にあることが許容されますが、グリッドおよび5線譜の表示では1か所に集約する必要があり、これが困難であるためです。そのため、グリッドおよび5線譜の表示タイプにおいては、1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとは別個に強弱記号を追加できます。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(210 ページ\)](#)

## 打楽器キットの表示タイプ

打楽器キットは3つの異なる表示タイプで表示でき、プロジェクトのレイアウトごとに個別に設定できます。

### 補足

グリッドや5線譜の表示タイプと1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとの間では、強弱記号は共有されません。1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプにおいて追加された強弱記号は、グリッドや5線譜の表示に切り替えると表示されなくなります。

各表示タイプの外観/構造は「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで個別に編集できます。たとえば、5線譜表示でインストゥルメントの並び順を変更しても、これは同じ打楽器キットのグリッド表示のインストゥルメントの並び順に影響しません。

### 5線譜

キットのインストゥルメントは5線譜上に表示されます。譜表のそれぞれの線および間へのインストゥルメントが表示されるか指定できます。キットの名前を示す1つの譜表ラベルが表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの編集エリアの左側に並ぶ数字は、譜表位置に対応します。たとえば0の位置は5線譜の第3線、1の位置は第3間、-2の位置は第2線といった具合です。

太くて黒い線は5本の譜表線を示し、その上下の灰色の線は加線の位置を示します。各インストゥルメントはそれぞれの譜表位置に表示されます。

### グリッド

キットのインストゥルメントはグリッド上に表示され、それぞれのインストゥルメントに1本ずつの線が与えられます。各線間の間隔の大きさはカスタマイズできます。各インストゥルメントの譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより小さなフォントで表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの編集エリアの右側に並ぶ数字は、各楽器の線を隔てる譜表スペースの数に対応します。初期設定では、グリッドのすべてのインストゥルメントは2スペース離れています。

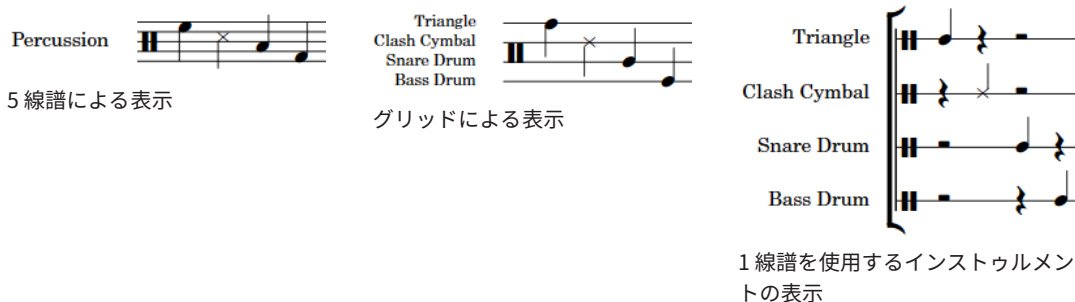
リスト上にインストゥルメントが並ぶ順番は、それらがスコア上に表示される順番に一致します。

初期設定では、グリッド内の各インストゥルメントにはそれぞれの譜表ラベルが付き、それぞれの線に垂直方向で揃えられますが、隣り合うインストゥルメント同士をグループ化すると、グループごとに1つのラベルを表示させられます。

### 1線譜を使用するインストゥルメント

キットのインストゥルメントは、それぞれの線上で個別のインストゥルメントとして表示されます。各インストゥルメントには標準サイズの譜表ラベルが表示されます。

「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログの編集領域にはすべてのインストゥルメントが、スコアに表示される順番でリスト表示されます。



同じプレーヤーに割り振られた複数のインストゥルメント間の垂直方向のスペーシングは、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」ページで定義された最適間隔に従います。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプの変更 \(1035 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1040 ページ\)](#)

[「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」ダイアログ \(1038 ページ\)](#)

## 打楽器キットの表示タイプの変更

各レイアウトの打楽器キットの表示タイプは、レイアウトごとに独立して、それぞれ個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは5線譜を使用しつつ打楽器のパートレイアウトではグリッドを使用したり、フルスコアレイアウトの中で同時に異なる表示タイプの打楽器キット2つを使用したりできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、打楽器キットの表示タイプを変更するレイアウトを選択します。  
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「プレーヤー (Players)」をクリックします。
4. 「打楽器 (Percussion)」セクションで、プロジェクト内の打楽器キットごとに以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 5線譜 (5-line Staff)
  - グリッド (Grid)
  - 1線譜を使用するインストゥルメント (Single-line Instruments)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウト内で選択した打楽器キットの表示タイプが変更されます。

関連リンク  
[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

## 無音程打楽器の演奏技法

無音程打楽器と打楽器キットにおいては、打楽器キットの音符に通常の演奏技法を使用することに加え、符頭のデザインおよび位置を使用して異なる演奏技法を表現できます。

無音程打楽器の演奏技法は、以下のいずれかの方法で表示できます。

- 演奏技法固有の符頭を使用する
- 音符が通常記譜される線の上下に隣接する間に音符を配置する
- アーティキュレーションまたは単音トレモロを追加する
- 有音程楽器と同じ方法で演奏技法を追加する

たとえば、ハイハットにオープンまたはクローズの演奏技法を追加するには、演奏技法ポップオーバーを使用するか、演奏技法パネルで追加する演奏技法をクリックします。

各打楽器インストゥルメントに定義された演奏技法固有の符頭のセットは、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで編集できます。

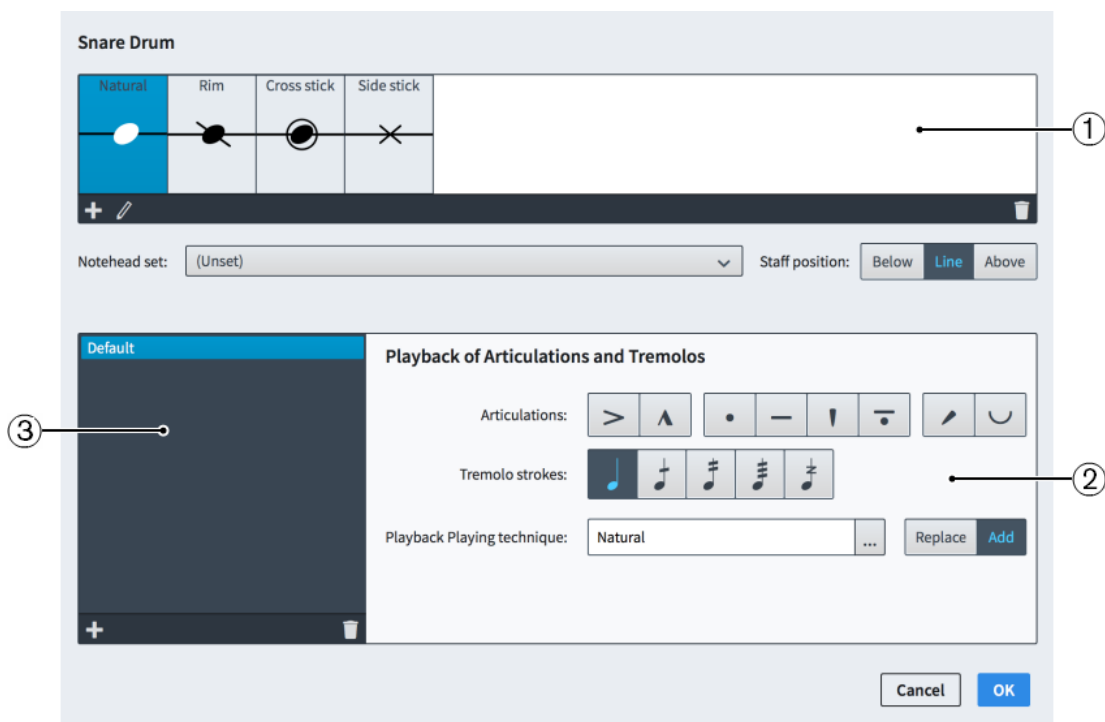
関連リンク  
[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)  
[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(469 ページ\)](#)  
[打楽器キットの書き出し \(1029 ページ\)](#)  
[打楽器キットの読み込み \(1030 ページ\)](#)  
[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

## 「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログ

「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログでは、打楽器ごとに定義された演奏技法固有の符頭セットを編集できます。

以下のいずれかの操作を行なって、設定モードで「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。

- 個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのカードを展開し、インストゥルメントラベルの矢印をクリックして、メニューから「**打楽器演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
- 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開き、メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。



「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログ

### 1 演奏技法固有の符頭のリスト

選択した打楽器インストゥルメントに現在定義されている主要な演奏技法固有の符頭を表示し、それぞれの演奏技法に対応する符頭セットと譜表位置を示します。

無音程打楽器には、新規に演奏技法固有の符頭を追加できます。通常、打楽器インストゥルメントには少なくとも「ナチュラル (Natural)」の演奏技法が定義され、これは通常デフォルトの符頭セットを使用して表示されます。

### 2 アーティキュレーションとトレモロが付いた場合の再生 (Playback of Articulations and Tremolos)

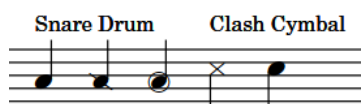
アーティキュレーションとトレモロストロークの組み合わせが、演奏技法の再生にどう影響または上書きするか定義できます。

たとえば、演奏技法固有の符頭にアクセントを追加した場合、まったく別の演奏技法を再生するよう定義できます。

### 3 アーティキュレーションおよびトレモロの上書きのリスト

定義されたアーティキュレーションおよびトレモロの上書きがあればここに表示されます。

例



スネアドラムの演奏技法固有の符頭 3 種類と、クラッシュシンバルの演奏技法固有の符頭 2 種類

これらすべての設定はプロジェクト内の打楽器インストゥルメントに保存され、書き出しおよび他プロジェクトへの読み込みが行なえます。

### 補足

アーティキュレーションとトレモロによる上書きは現在再生に反映されませんが、将来のバージョンにおいて予定されています。

関連リンク

[無音程打楽器の演奏技法固有の符頭を作成 \(1039 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1040 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(469 ページ\)](#)

[打楽器キットの書き出し \(1029 ページ\)](#)

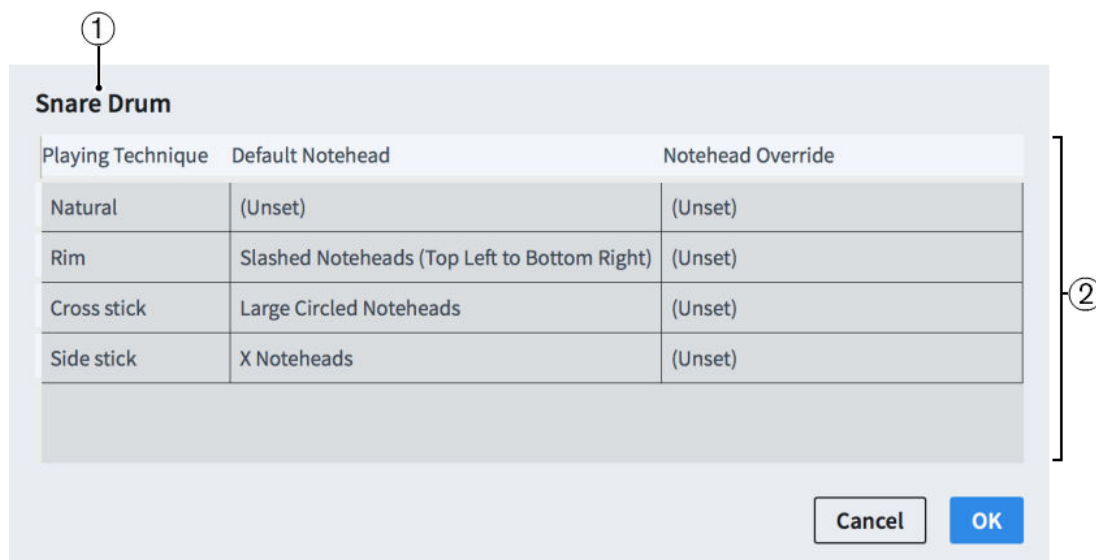
[打楽器キットの読み込み \(1030 ページ\)](#)

## 「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログ

「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログは、選択したインストゥルメントに対し「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログで定義された演奏技法固有の符頭をリスト表示し、それぞれの演奏技法にマッピングされた符頭タイプを表示します。ここで、5線譜キット表示においてのみ符頭を上書きできます。

たとえば異なるインストゥルメントにおいては、同じ符頭が異なる演奏技法を示す場合もあります。これらのインストゥルメントを同じ5線譜上に表示すると、混乱をきたす場合があります。そこで5線譜キット表示においてのみ、「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログを使用して、インストゥルメント間で音符の区別を付けられるようになります。

- 「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログを開くには、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログでインストゥルメントを選択して、「符頭を編集 (Edit Noteheads)」をクリックします。



スネアドラムの「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログ

「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログは以下で構成されます。

### 1 インストゥルメント名

ダイアログに符頭をリスト表示させている打楽器の名前を表示します。

### 2 演奏技法の表

選択した打楽器の符頭について、以下の項目別に表示します。

- **演奏技法 (Playing Technique)**  
表の対応する行の符頭に関連付けられた演奏技法を表示します。
- **デフォルトの符頭 (Default Notehead)**  
表の対応する行の演奏技法がデフォルトで使用する符頭を表示します。
- **符頭の上書き (Notehead Override)**  
表の対応する行の演奏技法が5線譜表示で使用する上書きの符頭を表示します。上書きの符頭は、クリックしてメニューから他の符頭を選択することで変更できます。

関連リンク

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1040 ページ\)](#)


[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)

## 無音程打楽器の演奏技法固有の符頭の作成

無音程打楽器インストゥルメントについて新規の演奏技法固有の符頭を個別に定義し、保存してプロジェクト内の同種の打楽器インストゥルメントで使用できます。また演奏技法固有の符頭はプロジェクトから書き出し、他のプロジェクトに読み込めます。

---

手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
  - 個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのカードを展開し、インストゥルメントラベルの矢印をクリックして、メニューから「**打楽器演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
  - 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開き、メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
2. 「**演奏技法を追加 (Add Playing Technique)**」をクリックします。  

3. 開いたダイアログで、作成する演奏技法を選択します。
4. 「**OK**」を押して、演奏技法固有の符頭のリストに選択した演奏技法を追加します。
5. 演奏技法に使用する符頭を「**符頭セット (Notehead set)**」メニューから選択します。

補足

「**符頭セット (Notehead set)**」を「**(未設定) ((Unset))**」のままにすると、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで定義されたデフォルトの符頭セットが使用されます。

- 
6. 「**譜表からの位置 (Staff position)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **下 (Below)**
    - **ライン (Line)**
    - **上 (Above)**

---

結果

選択した無音程打楽器インストゥルメントに演奏技法固有の符頭が新規に追加されます。

関連リンク

[演奏技法とペダル線の入力方法 \(241 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(469 ページ\)](#)

## 演奏技法固有の符頭の外観の上書き

5 線譜キット表示において、あるインストゥルメントと他のインストゥルメントが同じ譜表位置を共有する場合、それらを明確に区別できるように、演奏技法固有の符頭の外観の上書きが必要な場合があります。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、演奏技法固有の符頭を上書きするキットを割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログのメイン編集領域で、符頭を上書きするインストゥルメントを選択します。
4. 「**符頭を編集 (Edit Noteheads)**」をクリックして、「**打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)**」ダイアログを開きます。
5. 「**符頭の上書き (Notehead Override)**」の列で対象となる演奏技法をクリックし、メニューから新規の符頭タイプを選択して符頭を上書きします。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

### 結果

5 線譜キット表示において、選択したインストゥルメントの演奏技法固有の符頭が上書きされます。

### 補足

これはグリッドおよび 1 線譜を使用するインストゥルメントのキット表示タイプにおける演奏技法固有の符頭の外観には影響しません。

### 関連リンク

[「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」ダイアログ \(1038 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(469 ページ\)](#)

## 打楽器のレジェンド

打楽器のレジェンドは、5 線譜の表示タイプを使用するとき、譜表内で使用する打楽器のリストを表示するものです。打楽器のレジェンドは、譜表に現れるすべてのインストゥルメントを含めることも、設定範囲内で演奏されるインストゥルメントのみ表示して、特定の位置で演奏するインストゥルメントをプレーヤーに提示することもできます。

打楽器のレジェンドのデフォルト位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページにある「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」セクションで変更できます。

打楽器のレジェンドの位置および外観は、プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループのプロパティで個別に変更できます。

打楽器レジェンドのフォントサイズやスタイルなど、パラグラフスタイルに関するさまざまな設定は、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。

打楽器のレジェンドは、その位置で演奏されるインストゥルメントがないか、グリッドの表示タイプを使用するレイアウトである場合は、ガイドとして表示されます。1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプを使用するレイアウトにおいては、打楽器のレジェンドは一切表示されません。

### ヒント

打楽器のレジェンドのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」を選択して切り替えられます。メニューの「**打楽器のレジェン**



**ド (Percussion Legends)**」の横にチェックマークがあるときはガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

---

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(370 ページ\)](#)

[浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する \(1030 ページ\)](#)

[無音程打楽器のフローごとの記譜オプション \(1031 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

## 5 線譜キット表示への打楽器のレジェンドの追加

特定の位置に打楽器のレジェンドを追加して、キットに含まれるインストゥルメントを表示できます。打楽器のレジェンドはキット内のすべてのインストゥルメントを表示することも、特定の範囲内で演奏されているインストゥルメントのみ表示することもできます。

---

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
  - すべてのインストゥルメントの打楽器のレジェンドを追加する譜表上の位置にあるアイテム
  - 演奏されているインストゥルメントの打楽器のレジェンドを表示する範囲の音符またはアイテム
2. 以下のいずれかの操作を行なって打楽器レジェンドを追加します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「すべてのインストゥルメントのレジェンド (Legend for All Instruments)」を選択します。
  - 「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「演奏されているインストゥルメントのレジェンド (Legend for Sounding Instruments)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

---

結果

譜表の上に打楽器のレジェンドが追加されます。これはすべてのインストゥルメントか、選択範囲内の音符で使用されるインストゥルメントのみのいずれかによるリストを、5 線譜に表示される順番で上から下まで表示します。

## 演奏されている打楽器インストゥルメントのレジェンドの範囲の変更

演奏されている打楽器インストゥルメントのレジェンドは、その範囲に含まれる位置で演奏されるインストゥルメントのみ表示するため、範囲を変更してレジェンドに含まれるインストゥルメントの数を変更できます。

---

手順

1. 記譜モードで、範囲を変更する演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの値に従って範囲を変更します。
  - 範囲全体を右に進めるには、[Alt]+[→] を押します。
  - 範囲全体を左に進めるには、[Alt]+[←] を押します。
  - 範囲を延長するには、[Shift]+[Alt]+[→] を押します。
  - 範囲を縮小するには、[Shift]+[Alt]+[←] を押します。

#### 補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
- 

#### 結果

選択した演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドの範囲が、現在のリズムグリッドの値に従い変更されます。

打楽器のレジェンドに含まれるインストゥルメントは、範囲内で演奏されるインストゥルメントを反映する形で自動的に更新されます。

## 打楽器のレジェンドのタイプの変更

5 線譜表示では、打楽器のレジェンドのタイプを変更して、すべてのインストゥルメントを表示するか、演奏中のインストゥルメントだけ表示するか選択できます。

---

#### 手順

1. タイプを変更する打楽器のレジェンドを個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**レジェンドタイプ (Legend type)**」をオンにします。

#### 補足

演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドでは、このプロパティはすでにオンになっています。

---

3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
    - **レジェンド (Legend)**
    - **演奏中のインストゥルメント (Sounding Instruments)**
- 

#### 結果

選択したレジェンドのタイプが変更されます。

## 打楽器のレジェンドにインストゥルメントの略称を表示する

打楽器のレジェンドは初期設定ではインストゥルメントの正式名称を使用しますが、スペース節約のために略称も使用できます。

---

#### 手順

1. インストゥルメント名の長さを変更する打楽器のレジェンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
  2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**略称を使用 (Use short names)**」をオンにします。
- 

#### 結果

選択した打楽器のレジェンドにインストゥルメントの略称が表示されます。

「**略称を使用 Use short names**」をオフにすると、選択した打楽器レジェンドがインストゥルメントの名前全体を表示するよう戻ります。

#### 関連リンク

[打楽器キットの譜表ラベル \(914 ページ\)](#)

## 打楽器のレジェンドに表示されるテキストの変更

初期設定では、打楽器のレジェンドには5線譜表示で使用される打楽器のインストゥルメント名が縦に並べて表示されます。打楽器のレジェンドに表示されるテキストを変更して、カスタムテキストを表示できます。

---

### 手順

1. 浄書モードで、テキストを変更する打楽器のレジェンドを選択します。
2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

---

### 結果

選択した打楽器のレジェンドに表示されるテキストが変更されます。

## 譜表に対する打楽器のレジェンドの位置の変更

打楽器のレジェンドは初期設定では譜表の上に表示されますが、位置を変更して譜表の下にも表示できます。

---

### 手順

1. 譜表に対する位置を変更する打楽器のレジェンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**位置 (Placement)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **上 (Above)**
  - **下 (Below)**

---

### 結果

選択した打楽器のレジェンドが譜表の上または下に表示されます。

---

### ヒント

- 「**位置 (Placement)**」をオフにすると、選択した打楽器のレジェンドが譜表に対するデフォルトの位置に戻ります。
- すべての打楽器のレジェンドと他のアイテムのデフォルトの距離に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページにある「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」セクションで変更できます。

---

### 関連リンク

[浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する \(1030 ページ\)](#)

[無音程打楽器のフローごとの記譜オプション \(1031 ページ\)](#)

## 打楽器キットにおける声部

Dorico Pro は、複数の打楽器が 5 線譜またはグリッドとして表示される場合、それぞれが異なるリズムを持つ場合でも、楽譜をより少数の声部に自動的にまとめます。初期設定では、楽譜は上向きの声部 1 つと下向き声部 1 つにまとめられます。

または、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「打楽器 (Percussion)」ページでキットがドラムセットと定義されている場合は、打楽器キットのすべての音符を 1 つの声部として記譜することも選択できます。これはオーケストラの打楽器で稀に使用される慣習です。

またこのオプションは個々の打楽器キットについて、および打楽器キット内の個々の音符について、個別に上書きできます。

同じ声部の音符は異なるデュレーションでは記譜できず、初期設定ではかわりにタイを使用して記譜されます。タイを使用しないようにするには、長い方の音符を切り詰めてそれぞれの音符の開始位置のみ表示することを「記譜オプション (Notation Options)」の「打楽器 (Percussion)」ページで選択します。

打楽器キットのインストゥルメントのうちいずれかが連符を使用する場合、他のインストゥルメントの音符が同じ連符の構造を持つか、開始位置が連符の開始位置と同じ単音であるなど競合しない場合は、声部を共有できます。この場合連符ではない単音は、連符の 1 音めと同じデュレーションの音符として記譜されます。

同じ声部に属する異なるインストゥルメントの音符が競合する場合、Dorico Pro は競合がなくなるまで動的に声部を追加し、そこに残りの音符を記譜します。

関連リンク

[打楽器キットの音符の記譜記号 \(1032 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[打楽器キットをドラムセットとして定義 \(114 ページ\)](#)

[打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する \(1054 ページ\)](#)

## 打楽器キットの個々の音符の声部を変更する

ドラムセットを含めた打楽器キットにおいて、個々の音符のデフォルトの声部を上書きできます。

手順

1. 声部を上書きする音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > [声部] を選択します。  
たとえば、音符を符尾が下向きの 2 番め声部に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > 「符尾が下向きの声部 2 (Down-stem Voice 2)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

インストゥルメントのデフォルトの声部およびドラムセットの声部の設定より優先される形で、選択した音符の声部が変更されます。

ヒント

個別の音符の声部をリセットするには、元に戻す音符を選択し、「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > 「音符の記譜先の声部のリセット (Reset Note Destination Voice)」をクリックします。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

## 打楽器キット内のインストゥルメントの符尾の方向/声部を指定する

個々の打楽器キット内の各インストゥルメントの符尾の方向を指定できます。またそれぞれがどの声部に属するか設定でき、打楽器キット内でどのインストゥルメントが声部を共有するか制御できます。

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、符尾方向および声部を指定するインストゥルメントが属するキットを割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ内で、符尾方向および声部を指定するインストゥルメントを選択します。
4. 「**符尾の向きと声部 (Stem direction and voice)**」に対し、以下のいずれかの符尾の方向を選択します。

- **上向きの符尾**



- **下向きの符尾**



5. 「**符尾の向きと声部 (Stem direction and voice)**」の値を変更して声部を指定します。

### 補足

符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部を切り替えるだけの場合、声部番号はそれぞれ両方の符尾方向に対応するため、声部番号を変更する必要はありません。

6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

### 結果

選択したインストゥルメントのデフォルトの符尾方向および声部が変更されます。

## 再生モードにおける無音程打楽器

無音程打楽器インストゥルメントは、再生モードでは有音程インストゥルメントと異なる形で扱われます。通常のピアノロールを表示するかわりに、ドラムエディターに各打楽器の各音符の開始位置が表示されます。

トラックヘッダーの左端でキットの各インストゥルメントを展開すると、特定のインストゥルメントを他の再生エンドポイントに割り当てることができます。たとえば、インストゥルメントを同じ VST インストゥルメントや MIDI の出力デバイスの別のチャンネルか、または異なるデバイスに割り当てることができます。

### 補足

エンドポイントには適切なパーカッションマップが選択されている必要があります。

再生モードでは、音符を任意の位置にドラッグすることで移動できます。ただし、他のインストゥルメントと同様、音符は打楽器間で移動できません。これは同じ打楽器キット内であっても同様です。

### 補足

再生モードでは、無音程打楽器の音符のデュレーションは変更できません。これは将来のバージョンにおいて予定されています。

関連リンク

[パーカッションマップ \(464 ページ\)](#)

[ドラムエディター \(413 ページ\)](#)

[イベントディスプレイでの音符の入力 \(413 ページ\)](#)

[イベントディスプレイでの音符の移動 \(414 ページ\)](#)

## MIDI ファイルから読み込まれた無音程打楽器

MIDI ファイルを読み込むとき、「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログで「10 チャンネルは General MIDI パーカッションとして読み込み (Interpret channel 10 as General MIDI percussion)」がオンになっている場合、Dorico Pro は 10 チャンネルを使用するよう設定されたトラックの楽譜をドラムセットとして解釈します。

### 補足

Dorico Pro で MIDI ファイルを開くと、「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログが自動的に開きます。

これは、Dorico Pro が MIDI ファイルに含まれる楽譜を打楽器として解釈する唯一の条件です。

## MusicXML ファイルから読み込まれた無音程打楽器

MusicXML では、無音程打楽器の楽譜はさまざまな方法で表現されます。どのデータを書き出すか、およびどのようにエンコードするかについて、楽譜作成アプリケーションによってそれぞれ方法が異なります。そのため、Dorico Pro に MusicXML を読み込んだときの結果にもかなりの差が生じます。

Dorico Pro はキットに含まれる各インストゥルメントを明確に識別し、動的に 5 線譜に組み込みます。他の楽譜作成アプリケーションとその MusicXML は、無音程打楽器の楽譜を異なる方法で表現します。たとえば、ドラムセットは実際にはピッチを持つ音符として 5 線譜上に記譜され、それぞれの譜表位置にどのインストゥルメントが対応するか識別するための注釈情報が追加されます。

このような方法の違いから、MusicXML による表現から Dorico Pro による表現に情報を移し替えることはときに困難であるため、Dorico Pro は読み込み結果の品質向上のためにヒューリスティクスを用います。

通常 Dorico Pro では、Sibelius および Finale から書き出された MusicXML ファイルのドラムセットのインストゥルメントは非常にきれいに読み込まれます。

たとえばスネアドラムは常に符尾が下向きの声部に記譜するなど、ドラムセットの声部の振り分けに一貫性がある場合は特に良い結果が出やすく、正しく読み込まれる見込みが高くなります。声部の振り分けが小節ごとに変わる場合、一部の音符が正しく識別されるか、まったく読み込まれていないかのいずれかである場合があります。

5 線譜に記される他の種類の打楽器は、さらに多様な結果をもたらします。ほとんどの場合、Finale はどの打楽器がどの譜表位置にマッピングされるかの情報を含めますが、Sibelius はこれを行いません。その結果、Dorico Pro が思ったとおりのインストゥルメントを選択しない場合もありますが、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを使用するとインストゥルメントを変更できます。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)

[打楽器キット内のインストゥルメントの変更 \(113 ページ\)](#)

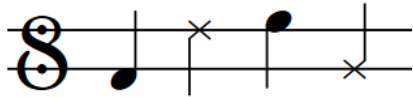
[打楽器キットへのインストゥルメントの追加 \(113 ページ\)](#)

## ユニバーサルインド太鼓記譜法

Dorico Pro は、Keda Music Ltd. が開発したユニバーサルインド太鼓記譜法をサポートしています。

ユニバーサルインド太鼓記譜法は主にタブラのために作成されましたが、ナガラ、ドール、ドーク、ムリダンガム、パカワジなど、2つの面を持つその他のインド太鼓にも適用できます。

プレイヤーのインストゥルメントにタブラを追加すると、譜表にインド太鼓記号が自動的に追加されま



音部記号パネルの「**その他の音部記号 (Uncommon Clefs)**」にある「**インド太鼓記号 (Indian drum clef)**」をクリックすると、インド太鼓記号を入力できます。

関連リンク

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(107 ページ\)](#)

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(222 ページ\)](#)

# 声部

フルートやトロンボーンなど多くのインストゥルメントでは通常、それぞれの譜表には単一の声部による単一の旋律のみが含まれ、音符は譜表に沿って左から右に読まれます。1つの譜表に複数の独立した旋律を表示する場合、各旋律はそれぞれ別個の声部に割り当てることができます。

1つの譜表に複数の声部を表示する一般的な例として、ボーカルの譜面があります。ボーカルの譜面では、ソプラノとアルトの旋律が1つの譜表を共有し、テナーとバスの旋律がもう1つの譜表を共有します。各ボーカル旋律をそれぞれの声部で表示して旋律を区別できるようにすると、譜面が読みやすくなり、それぞれのメロディーラインが明瞭になります。

Dorico Pro では、各譜表にいくつでも声部を作成できます。声部にはそれぞれカラーが割り当てられ、各カラーを表示できます。これにより、複数の旋律が重なり合うようなプロジェクトでも、どの音符がどの声部に属するか常に把握できます。

Dorico Pro では、声部は符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部に分けられます。符尾が上向きの声部に含まれる音符は符尾が上向きになり、符尾が下向きの声部に含まれる音符は符尾が下向きになります。ただし、音符を含む声部が1つしかない小節では、符尾の方向は譜表に声部が1つしかない場合の方向に自動的に変更されます。初期設定では、譜表の最初の声部は符尾が上向きです。

一般的な表記規則に従って、小節内に音符があるすべての声部には、小節内にそれぞれ休符が表示されます。2つ以上の声部が同じ位置に同じデュレーションの休符を持つ場合、この休符は統合され、2つの個別の休符ではなく1つの休符のみが表示されます。

関連リンク

[複数の声部への音符の入力 \(163 ページ\)](#)

[声部カラーの表示 \(1050 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1049 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(872 ページ\)](#)

[既存の音符の上/下に音符を追加 \(175 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(953 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(871 ページ\)](#)

[休符を垂直に移動する \(876 ページ\)](#)

## 複声部の音符位置

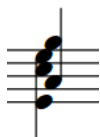
通常、音符はそれぞれ共通の水平位置に上下に連なって配置され、どの音符と一緒に演奏されるか一目で分かるようになっています。しかし、音符の水平位置は複声部では異なる場合があります。

1つの譜表に声部が3つ以上ある場合、声部ごとの音符の区分を明らかにするために一部の音符をわずかに一方にずらして配置し、声部ごとの列を作る必要があります。

異なる声部の音符を組み合わせる方法には、以下の2種類があります。

1. 符頭と符頭 (Notehead to notehead): 符頭の水平位置を部分的に重ね合わせます。この並べ方では、音符を寄せる分、符尾と符尾を合わせた音符の配置よりも水平方向に占めるスペースが少なくなります。





2. 符尾と符尾 (Stem to stem): 符頭は重ね合わせないで、符尾の垂直位置を重ね合わせます。この並べ方では、異なる声部の音符 (符頭) が別々の方向を向きます。



異なる声部の音符の組み合わせ方法を選択してプロジェクト全体に適用するには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「声部 (Voices)」ページで設定を行ないます。

Dorico Pro の初期設定では「符頭と符頭 (Notehead to notehead)」が選択されています。これにより、リズムを明確にしたまま、水平方向に占めるスペースを最小化できます。

また、異なる声部それぞれの音符の並びと配置も自動的に調整されるため、各音符が水平方向に占めるスペースを最小化しながら音符の明確性と可読性を維持できます。声部が追加されるにつれて声部列が変更される場合があります。これは Dorico Pro がピッチの幅が広い声部を左側に、ピッチの幅が狭い声部を右側に寄せるためです。そうすることでバランスのとれた見た目となり、これは特に臨時記号が複数ある場合に役立ちます。



関連リンク

[複声部におけるスラッシュ](#) (861 ページ)

[符尾の方向](#) (953 ページ)

[複声部における暗黙の休符](#) (871 ページ)

## 声部のフローごとの記譜オプション

フローごとに個別に複声部の音符の配置を制御するオプションは、「記譜オプション (Notation Options)」の「ボイス (Voices)」ページにあります。

このページのオプションを選択すると、複声部の状況に応じて音符の位置および並び方を変更し、異なる声部の符頭を重ねる場合を設定できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

「記譜オプション (Notation Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択するか、設定モードで「設定 (Setup)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。
- 設定モードで、「フロー (Flows)」パネルにある「記譜オプション (Notation Options)」をクリックします。



そのあと、ページリストで「声部 (Voices)」をクリックします。

## 声部カラーの表示

音符を声部に応じて色づけして、どの音符がどの声部に含まれるか確認できます。

### 手順

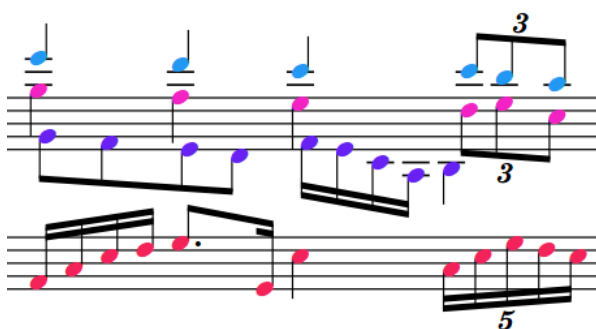
- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note and Rest Colors)」 > 「声部カラー (Voice Colors)」を選択します。

### 結果

メニュー内の「声部カラー (Voice Colors)」の横にチェックマークがあるときは声部カラーが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

声部カラーが表示されているときは、符頭は声部に応じた色で表示されます。カラーはランダムに割り当てられるため、カラーは特定の声部を示していません。

### 例



### 声部カラー

### 手順終了後の項目

声部カラーを表示することで、音符が間違った声部に含まれているかどうかを確認し、修正できます。

### 関連リンク

[既存の音符の声部を変更する \(290 ページ\)](#)

[声部の内容の入れ替え \(291 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(953 ページ\)](#)

## 未使用の声部

未使用の声部とは、プロジェクトのどこにも音符が存在しない声部のことです。使用されていない声部はプロジェクトを閉じるときに自動的にすべて削除されますが、一度作成した声部を手動で削除することはできません。各譜表には任意の数の声部を作成できます。

### 補足

声部内の音符をすべて削除しても、すぐに声部が削除されるわけではありません。

プロジェクトを終了してから自動的に削除された声部の音符をあとから入力する場合は、どの位置にでも新しい声部を作成できます。

### 関連リンク

[複数の声部への音符の入力 \(163 ページ\)](#)

## 声部の順番の入れ替え

Dorico Pro では、自動的に符頭と符頭を重ねることで、水平方向に占めるスペースを最小化しながらリズムの明確性を維持しています。対となる声部同士の水平方向の配置の順番は、手動で入れ替えることができます。

### 手順

1. 順番を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部の順番を入れ替え (Swap Voice Order)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

### 結果

選択した音符の声部の順番が変更されます。

### 補足

選択した音符を現在のフローのデフォルトの声部の順番に戻す場合は、プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで「声部列の並び順 (Voice column index)」をオフにすることをおすすめします。このプロパティは浄書モードで使用でき、声部の順番を入れ替えると自動的にオンになります。音符の順番をそのまま再度入れ替えると、予想外の位置に音符が配置される場合があります。

### 例



符頭と符頭 (声部反転)



符尾と符尾 (声部反転)

### 関連リンク

[声部のフローごとの記譜オプション \(1049 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(953 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(871 ページ\)](#)

## 声部列の並び順

声部列の並び順は音符の位置を決定するために複数列が必要な場合に使用します。たとえば、音符が複声部にあり、それぞれを垂直位置に配置せずに部分的に重なるように配置する場合などに役立ちます。

手動で声部の順番を変更すると、プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループにある「声部列の並び順 (Voice column index)」プロパティが自動的にオンになります。

### 補足

このプロパティは浄書モードのみで使用できます。

このプロパティをオンにすると、個別に選択した音符のインデックス番号、つまり水平方向の並び順を変更できます。このプロパティをオフにすると、選択した音符はデフォルトの位置に戻ります。

### ヒント

- 複声部の音符の順番をプロジェクト全体で変更するには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「声部 (Voices)」ページで設定を行ないます。

- また、異なる声部の音符同士の最小間隔を変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**声部 (Voices)**」セクションで設定を行ないます。

音符の表示位置は浄書モードで変更できます。音符は、同じ位置にある他のアイテムとは個別に動かすことも、同じ位置にあるすべてのアイテムと同時に動かすこともできます。

関連リンク

[声部のフローごとの記譜オプション \(1049 ページ\)](#)

[「記譜オプション \(Notation Options\)」ダイアログ \(143 ページ\)](#)

[「浄書オプション \(Engraving Options\)」ダイアログ \(302 ページ\)](#)

## 他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符

既に他の音符がある譜表に音符を伸ばすことで譜表をまたぐ連桁を作成すると、既存の音符の符尾の方向が変わる場合があります。これは Dorico Pro が同じ位置にある複声部を同じように扱うためです。

たとえば、ピアノパートに符尾が上向きの声部の音符が2つの譜表に含まれる場合、上側の譜表の音符が下側の譜表の音符まで伸びると、両方の声部の音符の符尾の方向が変更されます。この場合では、2つの譜表の音符は結合されるのではなく、符尾が上向きの複声部の音符として扱われます。



ピアノ譜 (2 段譜) にそれぞれ 1 声部ずつ記譜される



上段の声部が下段の声部と交差しているとき、下段の声部の符尾は上向きに変わる

下段に元からあった音符の符尾の方向を変更するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 下段に元からあった音符を選択して、符尾が下向きの声部など、別の声部に変更します。
- 下段に元からあった音符を選択して、符尾の方向を変更します。

または、上段の音符を恒久的に下段に移動させることもできます。

関連リンク

[音符を別の譜表に移動する \(288 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(290 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁の作成 \(550 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(955 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(953 ページ\)](#)

## スラッシュ符頭の声部

スラッシュ符頭の声部では、スラッシュ符頭で特定のリズムを記譜できます。手で音符とリズムを入力する点において通常の声部と動作は似ていますが、スラッシュ符頭の声部における音符は、入力したピッチにかかわらず、デフォルトではすべて譜表の第3線に配置されます。

あとから拍子記号を、たとえば 3/4 から 6/8 に変更した場合、Dorico Pro では他の音符と同様、拍子に合うようその音符のグループ化が変更されるだけです。スラッシュ符頭の声部においては、スラッシュ領域のようにリズムの表示が変更されることはありません。

#### 補足

- スラッシュ符頭の声部の音符は標準の声部に変更することも、その逆も行なえるため、入力したピッチは保持されます。
- スラッシュ符頭の声部の音符は再生されません。

スラッシュ符頭の声部は同じ位置に複数表示できます。複声部においてすべてのスラッシュ符頭の声部を調整するために、Dorico Pro はそれぞれの譜表上の位置を自動的に変更します。もっとも、スラッシュ符頭の譜表上の位置は手動でも変更できます。

スラッシュ領域およびスラッシュ付き声部は、同じプロジェクトの同じ位置に使用できます。たとえば、リズムを特定したくない場所にスラッシュ領域を入力し、そのあとに正確なリズムを指定したい1小節のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

#### 関連リンク

- [スラッシュ符頭 \(859 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(859 ページ\)](#)
- [複声部におけるスラッシュ \(861 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(290 ページ\)](#)
- [声部のデフォルトの符尾の方向を変更する \(956 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する \(862 ページ\)](#)
- [複数の声部に音符をコピーアンドペーストする \(287 ページ\)](#)

## スラッシュ符頭の声部のタイプを変更する

スラッシュ符頭の声部のタイプは変更できます。たとえば、スラッシュ符頭の声部を符尾ありから符尾なしに変更できます。また、標準の音符にもタイプ変更できます。このときは入力時に指定したピッチが復元されます。同じく標準の音符からスラッシュ符頭への変更も行なえます。

#### 補足

これは同じ声部に属するすべての音符に影響を与えます。一部の音符についてスラッシュ符頭の声部のタイプを変更するだけの場合は、かわりにそれらの音符の声部を変更する必要があります。

#### 手順

1. スラッシュのタイプを変更する声部の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」 > [声部のタイプ] を選択します。  
たとえば、標準の声部全体を符尾なしのスラッシュ符頭の声部に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」 > 「符尾なしのスラッシュ (Slashes without Stems)」 を選択します。

#### ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

#### 結果

選択した音符と同じフローの同じ声部に属するスラッシュ符頭の声部のタイプが変更されます。

標準の音符をスラッシュ符頭の声部に変更した場合、これはすべて自動的に1本の譜表線上に配置されます。単声部における初期設定では、これは譜表の第3線になります。

スラッシュ符頭を標準の音符に変更した場合、それらの元のピッチが復元され、その譜表上の位置がピッチを反映するようになります。

関連リンク  
[既存の音符の声部を変更する \(290 ページ\)](#)

## 打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する



打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加できます。たとえば、演奏するインストゥルメントは指定せずに、パッセージに求められるリズムのみ表示できます。同じキットには複数のスラッシュ符頭の声部を追加できます。これには符尾ありおよび符尾なしいずれのスラッシュ符頭の声部も使用できます。

### 補足

打楽器キットのスラッシュ符頭は、5 線譜による表示を使用する場合のみ表示されます。グリッドまたは 1 線譜によるインストゥルメントの表示においては、これは表示されません。

---

### 手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、スラッシュ符頭の声部を追加する打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
  2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
  3. 5 線譜エディターの下アクションバーで、追加するスラッシュ符頭の声部のタイプに対応するボタンをクリックします。
    - 符尾ありのスラッシュ (Slashes with stems)  

    - 符尾なしのスラッシュ (Slashes without stems)  

  4. 必要に応じて、追加するスラッシュ符頭の声部の数に応じて手順 3 を繰り返します。
- 

### 結果

キットにスラッシュ符頭の声部が追加されます。これは初期設定では譜表の第 3 線に配置されます。音符の入力においては、キットの他のインストゥルメントと同様に、キャレットをスラッシュ符頭の声部に移動することも、スラッシュ符頭の声部に音符を入力することもできます。

### 手順終了後の項目

キットに追加したスラッシュ符頭の声部は、譜表上の位置を変更できます。

### 関連リンク

[打楽器キット \(1029 ページ\)](#)  
[打楽器キットの表示タイプ \(1034 ページ\)](#)  
[打楽器キットにおける声部 \(1044 ページ\)](#)  
[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(110 ページ\)](#)  
[打楽器キットの音符の入力 \(157 ページ\)](#)  
[打楽器キット内のインストゥルメントの位置の変更 \(116 ページ\)](#)

# 用語

## 暗黙の休符

入力した音符の周りに自動的に表示される休符です。休符の記譜されるデュレーションは、拍子記号と小節内の位置に従って自動的に調整されます。暗黙の休符は、特定の声部の音符間に抑制することができ、その場合は非表示になります。[明示的な休符](#)も参照してください。

## 異名同音

G#とAbのように、異なる音度と臨時記号を使用して表記されながら、演奏されるピッチは同じとなる音符のことです。

## 移調音

移調音は、実際に鳴るピッチではなく、楽器が演奏するピッチを記譜するものです。プレーヤーが記譜されている音符をそのまま演奏できるように、パート譜は常に移調音で記譜されます。このことは移調楽器では特に重要です。[実音](#)、[インストゥルメントの移調](#)も参照してください。

## 印刷プレビュー領域

印刷モードのウィンドウの大部分を占める領域です。印刷する、または画像として書き出す内容のプレビューを確認できます。[印刷モード](#)も参照してください。

## 印刷モード

プリンターで印刷したり、PDFやその他の画像ファイル形式に書き出すためのワークスペースです。[モード](#)も参照してください。

## 音符の入力

譜表に音符を続けて追加する標準的な方法で、キャレットが有効時に使用できます。それぞれの音符が入力されると、キャレットが自動的に次のリズム上の位置に進みます。音符の入力中は、キャレットの位置に他のアイテムを入力することもできます。[キャレット](#)、[和音の入力](#)、[挿入モード](#)も参照してください。

## 歌詞

1人または複数の歌手によって歌われる(または語られる)ためのテキストです。歌詞は完全な単語としても、または多音節語の一部である個々の音節としても記譜できます。歌詞は、新しい言葉や音節が始まるそれぞれのリズム上の位置に配置されます。通常、歌詞は譜表の下に配置されますが、たとえば短いスコアなどにおいては、譜表の上に配置される場合もあります。

## 楽譜領域

設定モード、記譜モードおよび浄書モードにおいてウィンドウの中央大部分を占める部分で、ここで楽譜の入力と編集を行ないます。

## 記譜オプション

楽譜の記譜法、特に音符や休符を拍子に合わせてグループ化する方法、臨時記号の範囲のルール、移調オプションなどに関する設定を行なうオプションです。このオプションは「[記譜オプション \(Notation Options\)](#)」ダイアログで、フローごとに個別に設定できます。

## 記譜モード

楽譜やその他の記譜記号を入力するためのワークスペースです。[モード](#)も参照してください。

## 形式設定

組段あたりの小節数、ページあたりの組段数、および譜表間や組段間の距離を設定します。

### 弦のシフト指示

弦楽器プレーヤーが指を変えずに前の音符より高い音符または低い音符を演奏するために、指板の上でポジションをシフトさせる際の移動方向を指示する斜めの線です。

### 五線のサイズ (ラストラルサイズ)

第1線から第5線までの幅で表わされる5線譜のサイズです。「ラストラルサイズ」の呼称は、かつて白紙に5線譜を描くのに使用された道具、ラストラムに由来します。ラストラムは形の固定された器具であるため、人々はその決められたサイズに慣れるようになりました。Dorico Proはこの伝統を引き継ぎ、ラストラムによる譜表サイズを選択できるようにしています。

### 再生ヘッド

再生および録音中に楽曲に沿って動いていく垂直の線で、現在のリズム上の位置を表わします。

### 再生モード

VST インストゥルメントの割り当て、ミキシングの調節、オートメーションの適用、およびノートデータの微調整を実行するためのワークスペースです。[モード](#)も参照してください。

### 実音

すべての音符が聞こえる音のとおり記譜されます。フルスコアは通常実音で記譜され、これにより和声と旋律が判別しやすくなります。[移調音](#)、[インストゥルメントの移調](#)も参照してください。

### 小節

拍子記号で定められた一定の拍数を含む楽譜の区分のことで、その境界は小節線によって区切られています。

### 衝突回避

同じ位置にある複数のアイテムが重なり合わずはっきり読み取れるように、Dorico Pro が行なう自動調整です。これにはスラーのようにアイテムの形状が変化するものと、和音の臨時記号のようにアイテムの垂直位置や水平位置が変化するものがあります。

### 浄書オプション

記譜記号の外観を設定するオプションです。記号、線の太さ、間隔などを選択できます。これらのオプションはすべてのフローとレイアウトを含むプロジェクト全体に適用され、設定は「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」ダイアログで行なえます。

### 浄書モード

グラフィック表示を微調節でき、ページレイアウトや組段の書式を調整できる Dorico Pro のワークスペースです。[モード](#)も参照してください。

### 親切臨時記号

先の音符に付いた臨時記号を再度表示し、あいまいさを排除するものです。たとえば臨時記号の付いた音符がタイによって次のページに続く場合などに表示されます。

### 声部

Dorico Pro では、通常同一のインストゥルメントにより演奏されて1つの旋律を形作る、連続した音符、和音、休符、その他の記譜記号を指します。演奏されているピッチ音符やアイテムを異なる声部に割り当てることで、同じ譜表を共有する複数の旋律がより明確に見分けられるようになります。たとえばボーカル譜において、ソプラノのラインには符尾が上向きの声部を、アルトのラインには符尾が下向きの声部を使用するなどです。Dorico Pro では、1つの譜表に使用できる声部の数に制限はありません。また声部の配置および間隔の調整は自動的に行なわれます。

### 設定モード

プレーヤーの追加、プレーヤーへのインストゥルメントの割り当て、フローの作成、およびレイアウトへのプレーヤーとフローの割り当てを実行できるワークスペースです。[モード](#)も参照してください。

### 組段オブジェクト

組段のすべての譜表に適用されますが、必ずしもすべての譜表に表示されるわけではないアイテムです。たとえばテンポ記号やリハーサルマークなどがあります。Dorico Pro では、組段オブジェクトを表示するインストゥルメントファミリーを複数選択することにより、組段ごとの複数の位置に組段オブジェクトを表示できます。



### 組段のスペーシングのハンドル

浄書モードで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」が有効なとき、各組段の左上角に表示される四角いハンドルです。組段のスペーシングのハンドルは、組段の一番上の譜表の垂直位置を変更し、それに合わせて組段のすべての譜表も移動します。[譜表のスペーシングのハンドル](#)も参照してください。

### 組段の形式設定

組段に対する小節の振り分け、およびフレームに対する組段の振り分けです。レイアウト間でパートの形式設定をコピーした場合、Dorico Pro は組段区切りの位置、フレーム区切りの位置、そして音符のスペーシングの変更を組段の形式設定と見なします。

### 組段区切り

特定の位置 (通常は小節線) で組段を強制的に終了します。Dorico Pro ではガイドで表示されます。

### 組段密度表示

**音符のスペーシング (Note Spacing)**が有効なとき、ページの右余白に表示されるハイライトがかかった領域です。組段の密度は色 (緑、紫、赤) とパーセンテージの組み合わせで表示されます。

### 挿入モード

音符の入力方法を変更するオプションです。挿入モードがオンの場合は、入力する新しい音符が既存の音符を上書きするのではなく、キャレットの後ろにある既存のすべての音符を入力したデュレーションに合わせて後ろに押し下げます。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。

### 装飾音符

装飾音の表示に使用されることが多い、小さな音符です。これは小節内の拍数に含めては数えられず、前後の音符のデュレーションに食い込む形で発音されます。一般的に、装飾音符の符尾に斜線が引かれているものが短前打音で、後に続く音符やコードの位置かその直前でできるだけ短く演奏されます。装飾音符の符尾に斜線が引かれていないものが長前打音で、後に続く音符やコードを演奏する前に、その音価の半分の長さ (デュレーション) で演奏されます。

### 多拍子

楽曲に同時に複数の拍子が存在することです。たとえばアンサンブル中のあるインストゥルメントは 6/8 を演奏し、もう 1 つは 7/4 を演奏するなどです。

### 打ち消しのナチュラル記号

譜表上の調号の変更または単音の直前に配置されるナチュラル記号です。直前の臨時記号がこれ以降に適用しないことを示し、直後に別の臨時記号を入力できます。二重臨時記号のあとに来る単一臨時記号の前に表示される打ち消しのナチュラル記号は、“古式の臨時記号打ち消し”と呼ばれます。調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号が小節線の後ろに配置される場合は“伝統式”と呼ばれ、小節線の前に配置される場合は“ロシア式”と呼ばれます。

### 長休符

複数の隣接する空白小節を小さくまとめるもので、通常は 1 小節が使用され、譜表上部に休む小節の総数が記されます。長休符は通常、太い水平線の両端に垂直線が付いた H 型の記号 (タレットバー) で表示されます。過去に出版されたスコアの中には、二全休符と全休符を組み合わせ、最大 9 小節の長休符を示した例があります。

### 通し演奏

楽曲のはじめから終わりまで 1 回演奏することです。リピート括弧やコーダのある楽譜など、複数のエンディングが存在する楽譜については、複数回の通し演奏が必要となります。

### 展開矢印マーク

Dorico Pro のメインウィンドウの四方の端に表示される小さな矢印です。これにより、ツールバーやパネルの表示/非表示を個別に切り替えられます。

### 配置設定

楽譜のページレイアウトを整えることです。ページごとの組段数や組段ごとの小節数を定義することが該当します。

### 半小節

均等な 4 つの拍に分割できる拍子記号が設定されているとき、小節を均等に 2 分割するリズム上の位置です。Dorico Pro では、特定の連桁のグループ化と音符のグループ化に関する設定が、半小節の存在する小節に適用されます。半小節を持つ拍子記号には、4/4 や 12/8 があります。

## 表記方法

特定のピッチの音符を、アルファベットによる音名と臨時記号を組み合わせることで指定する方法です。たとえば標準の 12-EDO ピッチシステムの場合、MIDI ノート 61 は C $\sharp$ 、D $\flat$  または B\* と表記できます。通常、同じピッチの音は調性に基づく一定の方法で表記されます。たとえば、MIDI ノート 61 は通常 D メジャーにおいては C $\sharp$  と表記されますが、A $\flat$  メジャーにおいては D $\flat$  と表記されます。EDO、MIDI も参照してください。

## 符尾の分割

オルタードユニゾンの臨時記号を、それぞれが属する符頭のすぐ横に表示するための表記法です。

## 譜表に対する位置

アイテムの譜表に対する垂直位置であり、上と下のいずれかです。

## 譜表のスペーシングのハンドル

浄書モードで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」が有効なとき、各譜表の左下角に表示される四角いハンドルです。譜表のスペーシングのハンドルで変更できるのは、1 つの譜表の垂直位置のみです。[組段のスペーシングのハンドル](#) も参照してください。

## 譜表冒頭部

通常は楽譜の各組段の最初の音符または休符より前に表示される記譜記号です。通常、譜表冒頭部には音部記号、調号および拍子記号が含まれます。Dorico Pro では、譜表冒頭部は自動的に書き込まれるため、そこに含まれるアイテムはいずれも選択できません。

## 部位

記譜アイテムの一部です。たとえば音符の部位としては符頭、付点、臨時記号、符尾の先端、連桁などがあります。記譜モードでは、アイテムのどの部分を選択してもそのすべての部位が同時に選択され、加えられた変更はアイテム全体に影響します。浄書モードでは、各部位を個々に選択して、それぞれの位置や外観を微調節できます。[アイテム](#) も参照してください。

## 明示的な休符

手動で入力された休符、あるいは MusicXML ファイルからインポートされた休符のことです。特定の声部の音符間に明示的な休符を抑制することはできません。[暗黙の休符](#) も参照してください。

## 余白

テキストとその囲み線など、2 アイテム間の最小距離または最小間隔です。余白の値は、最小高さや最小幅などの他の設定値とは独立である場合があります。

## 余白を埋める休符

小節の途中で開始/終了するキューの前後の余分なスペースを埋める休符のことです。この休符は、キューのリズムが現在の拍子にどう当てはまるか、またプレーヤーの既存の楽譜とどのような関係になるかを明確に表示します。

## 両端揃え

楽譜のコンテンツをフレームの両端に合わせて、水平および垂直方向に調整します。[フレーム](#)、[両端揃え \(水平方向\)](#)、[両端揃え \(垂直方向\)](#) も参照してください。

## 両端揃え (垂直方向)

譜表や組段をフレームの全高に合わせて、できる限り均等に配置します。フレームに収められた楽譜の高さがフレームの垂直のスペースをすべて必要としない場合、余ったスペースは組段間に均等に分配され、さらに組段内の譜表間にも均等に分配されます。[フレーム](#)、[両端揃え](#) も参照してください。

## 両端揃え (水平方向)

楽譜のコンテンツをフレームの左右の両端に揃えます。組段上の譜表がすべて同じ幅を占めるように、音符のスペーシングを行なったあとに余ったスペースは、組段上のすべての列に均等に分配されます。場合によっては、フロー最後の組段には完全な両端揃えを行わず、フレーム幅の途中で終わらせることもできます。[フレーム](#)、[両端揃え](#) も参照してください。

## 列

組段のすべての譜表にわたっての同じ水平位置を表わす垂直の線です。楽譜の正確なスペーシングを目的として、音符と和音の位置決定に使用されます。複数の声部を配置する場合に、リズム上の同じ位置に列を複数使用できます。このとき、一部の声部の音符や和音は、他の声部の音符や和音から水平方向にずらして表示されます。

## 連符

記譜上の標準のデュレーションに対する分数のデュレーションによって演奏されるリズムです。たとえば 3 連符は、所定の音価で通常は 2 つの音符を演奏する時間において、その音価の音符を 3 つ演奏するものです。

## 和音

リズム上の同じ位置から開始し 1 つの符尾を共有する、デュレーションが同じ 2 つ以上の音符の重なりです。

## 和音の入力

入力した音符が直前の音符に続いて後ろに入力されるのではなく、各音符の上に入力されることで和音を作成する音符入力の方式です。音符はキャレットの位置に入力され、キャレットは自動的に進みません。[キャレット](#)、[音符の入力](#) も参照してください。

## E

### EDO

「Equal Division of the Octave」の略語です。1 オクターブがどのように均等に分割されるかを表わす単位で、多くの場合は微分音のスケールや調性システムの定義に使用されます。伝統的な西洋音楽では 12-EDO が使用されます。これはそれぞれのオクターブが 12 個の均等な半音に分割されるものです。均等な 1/4 音を使用する音楽では、24 EDO が使用されます。

## F

### fps

単位の 1 つで、“frames per second”の略です。1 秒ごとに発生するビデオフレームの数を示します。

## M

### MIDI

「Musical Instrument Digital Interface」の略語で、電子楽器、コンピューター、バーチャルインストゥルメント間で相互に接続および通信する方法を規定した規格です。Dorico Pro では、MIDI データは 16 のチャンネルのいずれかに送信されます。特定のインストゥルメント、または特定のインストゥルメントの特定のパッチがそれを受信し、応答が返されます。[チャンネル](#)、[パッチ](#) も参照してください。

### MusicXML

記譜データの相互変換および保管を、オープンかつ非独占的な形式で行なえるように設計されたファイル形式です。異なる音楽アプリケーション間で楽譜データのやり取りをする場合に役立ちます。

## S

### SMuFL

“Standard Music Font Layout”の略称です。これは記譜に必要とされるすべての異なる記号を標準レイアウトにマッピングするフォントの仕様です。Dorico Pro では、音部記号や強弱記号のグリフなど、プログラムの特定の領域で正しい記号を判別するために、SMuFL 準拠のフォントが必要です。SMuFL 準拠フォントには Bravura、Petaluma、November 2.0 などがあります。

### SVG

SVG は「Scalable Vector Graphics」の略で、XML に基づきグラフィックを表示および変更するための方法です。そのコーディング方法により、他の形式と比較して非常に柔軟なグラフィック変更が行なえます。

## V

### VST インストゥルメント

VST は“Virtual Studio Technology”の略であり、MIDI データをオーディオ出力に変換するデジタルプラグインです。これは既存のスタジオ機材のエミュレーションである場合も、まったく新しく作られたものである場合もあります。

## あ

### アーティキュレーション

(1) 記譜において、音符をどのように演奏するかを表わす記号です。通常は音の立ち上がり (アタック)、音の終わり (リリース)、または音の長さ (デュレーション) に影響を与えます。(2) サンプルライブラリーにおいては、これは演奏技法全般を指す用語となります。

### アイテム

Dorico Pro において、音符、休符、和音、記譜記号、その他スコア上に表示されるすべての選択可能なオブジェクトの総称です。[部位](#) も参照してください。

### アフタクト

楽曲最初の完全小節の前に演奏される音符です。多くの場合、弱起は 1~2 拍からなり、楽曲を導入することがその主要な目的となります。

### アクション

ピアノ内部のメカニズムで、プレーヤーが鍵を押し下げる強さに応じて、ハンマーが対応する弦を叩く力をさまざまに変化させられます。これによりピアノは大きなダイナミックレンジが利用できるようになり、その正式名称“ピアノフォルテ”もこれに由来しています。

### アタッチメント

楽譜の中の、アイテムが配置される、またはアイテムが適用されるリズム上の位置です。Dorico Pro の浄書モードでは、選択されているアイテムとそのリズム上の位置を結ぶ連結線が表示されます。

### アンサンブル

あらかじめ定義されたプレーヤーの集合で、一緒に使用されることが多いインストゥルメントが各プレーヤーに割り当てられます。たとえば弦楽四重奏、木管五重奏、金管五重奏、弦楽合奏、木管二重奏などがあります。

## い

### インストゥルメント

それが発するサウンドまたは楽曲を表現するために最低 1 つの譜表を必要とするものすべてを指します。一般的なインストゥルメントにはバイオリン、フルート、チューバ、バスドラムなどがあります。一方、人間の声、コンピューターにより再生されるサンプリングやテープ録音もインストゥルメントになります。

### インストゥルメントの移調

インストゥルメントが演奏するピッチと、それより発せられる音のピッチの間隔差です。多くの場合、インストゥルメント名の一部に含まれます。たとえば、B $\flat$  クラリネットが C を演奏すると、発せられる音は実音の B $\flat$  になります。[実音](#)、[移調音](#) も参照してください。

## え

### エキスプロード

元となる楽譜をより多くのインストゥルメントに割り当てる処理です。楽譜のエキスプロードは、楽曲のアレンジやオーケストレーションにおける重要な手順となる場合も多く、たとえばピアノの曲を弦楽四重奏にアレンジするときなどに使用されます。[リデュース](#) も参照してください。

### エンドポイント

入力と出力の一意の組み合わせを表わし、これによって各インストゥルメントに正しい音が再生されません。

## か

### カーソル

テキストの入力または編集時に表示される点滅する垂直線です。[キャレット](#) も参照してください。

## き

### キーボードショートカット

一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。

### ギャレービュー

楽譜を 1 本の、無限の幅に広がる組段として表示する表示オプションです。

### キャレット

キャレットは入力中に表示される、譜表の上下に伸びる垂直の線で、アイテムが入力されるリズム上の位置を示します。Dorico Pro においては、キャレット、カーソル、ポインターはそれぞれ関連しつつも目的は異なります。[リズムグリッド](#)、[音符の入力](#)も参照してください。

## く

### クオンタイズ

音楽においては、指定した拍の最も近いものに揃うように、音符の位置とデュレーションを調整することを指します。この処理は、生演奏により自然に生じるリズムとデュレーションの小さな変動を除去します。楽譜上の記譜がより端正になるため、MIDI データの読み込み/書き出しを行なう際に役に立つ場合があります。

### グループ

メインアンサンブルのサブセット (たとえばオーケストラ内の同属楽器のグループ)、または個別のグループ (たとえばオフステージの吹奏楽団やセカンドオーケストラ) で構成されるプレーヤーの集合です。フルスコアにおいては、プレーヤーの各グループは個別にラベルが与えられ、インストゥルメントの順番にまとめてグループ化および番号付けされます。[プレーヤー](#)も参照してください。

## こ

### コンテキストメニュー

マウスの右クリック、またはタッチパッドのダブルタップで呼び出せるメニューです。メニュー内容は呼び出すときのマウスポインターの位置によって変化しますが、ほとんどの場合は「**編集 (Edit)**」メニューからも呼び出せるものです。

## す

### スコア

[フルスコア](#)、[パート譜](#)、[プロジェクト](#)を参照してください。

### ストローク

編者注のスラーやタイを二分する短い線です。

### スペーシング

楽譜の書式を整えるために、連続する列の間の水平距離を設定することです。Dorico Pro における水平方向のスペーシングには、音符やその他のアイテム (付点や臨時記号など) のグラフィカルな形状やサイズと、音符のスペーシングの設定値が反映されます。横幅いっぱいの組段には、水平方向の両端揃えが自動的に適用されます。

### スペース

楽譜の浄書における単位で、隣接する 2 本の譜表線の中心同士の距離に基づきます。ほぼすべての記譜アイテムが、スペースに比例したサイズとなります。たとえば、符頭は通常 1 スペース分の高さです。

## せ

### セクションプレーヤー

全員が同じ楽器を演奏し、同じパートレイアウトの楽譜を読む複数のミュージシャンです。たとえば、第 1 バイオリンセクションのプレーヤーは、それ以外の楽器は演奏できませんが、分かれて別々の音を演奏することはできます。[プレーヤー](#)も参照してください。

## そ

### ソロプレーヤー

1つまたは複数のインストゥルメントを演奏する(フルート奏者がピッコロに持ち替えるなど)、1人のミュージシャンのことです。[プレーヤー](#)も参照してください。

## た

### タッチパッド

触覚センサーを備えたフラットなデバイスで、従来のマウスのかわりとして機能するものです。ラップトップコンピューターに内蔵されることが多いですが、ワイヤレスまたは有線で接続される別個の器具の場合もあります。

## ち

### チャンネル

MIDIでは、音符、コントローラーその他のデータをどのデバイスのどのサウンドで演奏するかは、チャンネルによって決定されます。Dorico Proでは、各チャンネルに割り当てられたパッチにより提供される演奏技法に応じて、1つの譜表上の音符が別々のチャンネルで演奏されることもあります。[MIDI](#)、[パッチ](#)も参照してください。

## て

### ディヴィジ

ディヴィジは“分割する”または“分割される”を意味するイタリア語で、プレーヤーが分かれて複数の旋律を演奏するときに使用します。多くは、あるセクション(第1バイオリンなど)で一部のパッセージを分割し、2つの譜表を使用するような場合です。複数の譜表を使うほか、必要に応じて複声部を使用し、同じ譜表にディヴィジのパッセージを記譜することもできます。[トゥッティ](#)も参照してください。

### デュレーションをロック

既存の音符に対し、リズムを保ったままピッチのみ変更できる機能です。

### テンポトラック

MIDIデータに含まれるタイミングに関する情報で、テンポ、SMPTEオフセット、拍子記号、タイムコード、およびマーカーに影響を与えるものです。MIDIファイルのそれ以外のデータとは別個に読み込むこともできます。

## と

### トゥッティ

“全員”を意味するイタリア語です。あるパッセージについて、そのパートまたは譜表を読むすべてのプレーヤーが演奏することを指示します。通常はディヴィジのパッセージの終わりに、あるいは譜表が時にソロを指示し、時にトゥッティのパッセージを指示するような場合に使用されます。[ディヴィジ](#)も参照してください。

### トークン

テキスト文字列内で使用されるコードで、プロジェクト内の何らかの情報(現在のフローのタイトル、プレーヤー名、ページ番号など)に自動で置き換えられるものです。

### トランスポート

再生と録音に関するすべてのオプションを網羅します。

## は

### パッチ

MIDIデバイスまたはバーチャルインストゥルメントの個別のサウンドを示す古い用語です。[チャンネル](#)、[MIDI](#)も参照してください。

## パネル

メインウィンドウの左右および下部に表示されるツールパレットです。すべてのモードで使用できますが、パレットに表示されるツールはモードごとに異なります。

## ハンドル

選択可能なアイテムで、線の終端、フレームの角、またはペダル線のリテイクやスラーの制御ポイントなどといった、移動できるポジションを示します。記譜モードではハンドルは丸い形で、それぞれがアイテムのリズム上の位置を示します。浄書モードではハンドルは四角い形で、それぞれがアイテムの表示上の位置を示します。

## パート譜

1人以上のプレーヤーが演奏するインストゥルメント用の楽譜です。フルスコアではなく個別に表示されます。アンサンブル全体の楽譜を見る必要のない演奏者は、自分の演奏する楽譜だけが読めれば良いため、パート譜を見て演奏します。[フルスコア](#)も参照してください。

## ふ

### ファミリー

木管楽器、金管楽器、打楽器、弦楽器など、通常スコア上では大括弧で括られて表示される同属のインストゥルメントを意味します。

### フェルマータ

その位置にあるすべての音符を、表記上の長さよりも長く保持することを指示する音楽記号です。ほとんどの場合は曲線とその下の点の形で描かれますが、曲線のかわりに山形や四角が描かれるものもあります。

### フック

他の線から (ほとんどの場合は直角に) 延びる短い線で、線の終端を分かりやすくします。Dorico Pro では、フックはペダル線、オクターブ線、リピー括弧、および連符の角括弧の終端に使用できます。

### プラグイン

他のソフトウェアプログラム内で動作するソフトウェアプログラムです。Dorico Pro は VST インストゥルメントおよびエフェクト、それから Lua で記述されるスクリプトプラグインをサポートしています。

### フルスコア

スコアの一種で、すべてのプレーヤーとそのインストゥルメントの楽譜が含まれ、通常は決められた順番で配置されます。この順番は楽曲の楽器編成によって異なります。オーケストラのフルスコアの場合は、一般的にはページの一番上に最高音の木管楽器 (たとえばピッコロ) が配置され、ページの一番下に最低音の弦楽器 (たとえばコントラバス) が配置されます。その間に金管楽器、鍵盤楽器、ボーカル、打楽器が配置されます。

### フレーム

楽譜、テキスト、またはグラフィックを収めてページ上に配置するための、長方形のコンテナを指します。

### プレーヤー

1つ以上のインストゥルメントを演奏するミュージシャンのことです。プレーヤーは、ソロプレーヤーまたはセクションプレーヤーのいずれかに定義され、フローとレイアウトに割り当てられます。[ソロプレーヤー](#)、[セクションプレーヤー](#)、[フロー](#)、[レイアウト](#)も参照してください。

### フロー

交響曲の1楽章、アルバム内の1歌曲、ミュージカルの1曲、もしくは音楽理論の練習問題にある練習曲など、独立している楽譜の範囲のことです。フローは、プロジェクト内の他のフローと同じプレーヤーを、または特定のフローだけの別のプレーヤーを含むことができます。[プレーヤー](#)も参照してください。

### プロジェクト

複数のフローおよびレイアウトを格納する Dorico Pro 形式のファイルです。[フロー](#) および [レイアウト](#)も参照してください。

## プロパティ

プロパティパネルから編集できる、プロジェクト内の個々のアイテムおよびアイテムの部位の特性です。プロパティの多くはレイアウト固有のもので、あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。

## へ

### ヘアピン

一点から広がるまたは一点に合流する、一對の斜線で描かれる強弱記号で、音を徐々に大きくまたは小さくすること、つまりクレッシェンドとディミヌエンドを表わします。

### ペダルの強さの変更指示

ピアノのサスティンペダルを 1 (完全に踏み込んだ状態) から 0 (踏み込んでいない状態) の間でどこまで踏み込むかを指定する変更指示です。ペダル線の高さが変化する形で記譜されます。

### ページビュー

印刷時と同様の、一定の幅と高さのページレイアウトで楽譜を表示する表示オプションです。[ギャラリービュー](#) も参照してください。

### ページ区切り

特定の位置 (通常は小節線) で、楽譜のページを強制的に終了します。多くの場合は、パート譜でページをめくる際の利便性を確保するために使用されます。Dorico Pro では、フレーム区切りを使用するとページ区切りの効果が得られます。これはガイドによって表示されます。

## ほ

### ポインター

コンピューター画面上で、マウスまたはタッチパッドのユーザー操作による動きに追従する記号です。最も一般的な形状は、画面の左上方向を指す矢印です。

### ポップオーバー

キーボードショートカットを使用して表示できる一時的な数値フィールドです。テキストエントリを入力することでアイテムを挿入できます。ポップオーバーは記譜モードでの音符入力時または楽譜領域でアイテムを選択時に開くことができます。異なるタイプのアイテムごとに専用のポップオーバーが用意されています。

## ま

### マイナーキー

メジャースケールとは異なる音程パターンを持つ、マイナースケールに基づく調号です。[マイナースケール](#) も参照してください。

### マイナースケール

マイナーキーの音程を含む音符の並びです。マイナースケールには 3 つのタイプがあります。ナチュラル、ハーモニック、そしてメロディックです。ナチュラルマイナースケールはエオリアンモードの音程パターンに従います。キーボードでいえば A から A までのすべての白鍵の音符です。ハーモニックマイナースケールもエオリアンモードの音程パターンに従いますが、A ハーモニックマイナーにおける G# のように、スケールの 7 度にシャープが付きます。メロディックマイナースケールは、上昇時と下降時で異なる音程パターンに従います。上昇時は (エオリアンモードに対し) 6 度と 7 度にシャープが付きますが、下降時はいずれもナチュラルです。[マイナーキー](#) も参照してください。

## も

### モード

プロジェクトウィンドウで選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。



## り

### リズムグリッド

デュレーションの単位であり、入力および編集の特定の性質、たとえばアイテムの移動量などに影響を与えます。その現在値はステータスバーに音価で示されるとともに、キャレットがアクティブな譜表の上の、拍および拍の分割を表わすルーラーの目盛りによっても示されます。[キャレット](#) も参照してください。

### リデュース

複数のインストゥルメントの楽譜を、それより少ない数のインストゥルメントに割り当てる処理のことです。たとえば合唱用の楽譜を、キーボード用の楽譜に再編成するなどです。リデュースにより作成された楽曲は“リダクション”と呼ばれます。[エキスプロード](#) も参照してください。

## れ

### レイアウト

すべてのプレーヤーを含むフルスコアや1人のプレーヤーのみを含むインストゥルメントパートなど、1つまたは複数のフローの1人または複数のプレーヤーの楽譜を、ページ上にどのように配置するかを示したものです。[フロー](#)、[プレーヤー](#) も参照してください。

### レイアウトオプション

ページや譜表サイズなど、個々のレイアウトを設定するためのオプションです。これらのオプションは「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログで、レイアウトごとに個別に設定できます。[レイアウト](#) も参照してください。

# 索引

## 数字

- 1 ステップのトリル [743, 748](#)
  - 位置 [747](#)
  - 外観 [746](#)
  - 非表示 [740, 744](#)
  - 表示 [740, 744](#)
- 16 分音符 [138](#)
- 2 分音符 [138](#)
  - テンポの等式 [974](#)
- 2 ページを 1 ページに集約の配置 [485](#)
- 2 連符 [1016](#)
- 3 連符 [1016](#)
  - スウィング再生 [442, 443](#)
  - 入力 [136, 172, 173](#)
- 4 分音符 [138](#)
  - スウィング再生 [442, 443](#)
  - テンポの等式 [974](#)
- 5 連符 [1016](#)
- 6 連符 [1016](#)
- 7 連符 [1016](#)
- 8 分音符 [138](#)
  - スウィング再生 [442, 443](#)
  - テンポの等式 [974](#)
- 8 連符 [1016](#)
- 9 連符 [1016](#)

## A

- Academico フォント [369](#)
- accelerando [972](#)
  - トリル [748](#)
  - 入力 [199, 203](#)
- adagio [960](#)
  - 入力 [199, 201, 203](#)
- Aikin 符頭 [721](#)
- allegretto [960](#)

## B

- Boston コード記号 [572](#)
- bpm [969](#)
  - スウィング再生 [446](#)
- Brandt-Roemer コード記号 [572](#)
- Bravura 音楽フォント [369](#)
- Britten フェルマータ [671](#)

## C

- CC64
  - ペダル線 [71, 185](#)
- Cubase
  - インストゥルメント名 [906](#)
  - 譜表ラベル [906](#)

## D

- dpi [490](#)

## E

- EDO [681](#)
- EQ [449](#)

## F

- fine
  - d.c. al [840](#)
  - tacet al [876](#)
  - サイズ [841](#)
  - セクション [840](#)
  - 入力 [262, 263](#)
  - フォント [841](#)
- fps [133](#)
- Funk 符頭 [721](#)
- FX チャンネル [449](#)

## G

- General MIDI [71](#)
- gli altri [939](#)

## H

- HALion Sonic SE
  - 再生テンプレート [441](#)
- HALion Symphonic Orchestra
  - 再生テンプレート [441](#)
- Henze [671](#)
  - 入力 [227, 229, 230](#)
- Hub [58](#)
  - プロジェクトを開く [61, 62](#)

## I

- Indiana コード記号 [572](#)

## J

Jazz Standards コード記号 572  
JPEG ファイル  
グラフィックフレーム 343

## L

l.v. タイ 980, 981  
largo 960  
入力 199, 201, 203  
lento 960  
入力 199, 201, 203  
loco 224  
入力 226, 227

## M

macOS  
印刷 480  
messa di voce 631  
移動 637  
MIDI  
thru 179  
インストゥルメント 407, 419  
(「MIDI インストゥルメント」も参照)  
インストゥルメントのロード 408  
エクスプレッションマップ 456, 457, 462  
エンドポイント 452, 454  
オートメーション 422, 424  
音符の入力 149, 167, 168  
音量 645  
書き換え 168  
書き出し 77  
クオンタイズ 72  
コマンド 55  
コントローラー (「MIDI コントローラー」を参照)  
再生 419, 452, 464  
削除 425  
ショートカット 51  
スラー 904  
操作 55  
ダイアログ 71-73  
タイムトラック 426  
チャンネル 448, 452  
デバイス (「MIDI デバイス」を参照)  
テンポ 426, 439  
テンポトラック 74-77  
入力 424  
ノート範囲 105  
パーカッションマップ 455, 464, 465, 467  
パン 448  
範囲 105  
ピアノロールエディター 412  
ファイル (「MIDI ファイル」を参照)  
フェーダー 448  
編集 424  
ポート 452  
マーカー 432  
臨時記号の表記 167  
レーン 422  
録音 (「MIDI 録音」を参照)  
MIDI thru 179

MIDI インストゥルメント 407  
ロード 408  
「MIDI インポートオプション」ダイアログ 71  
「MIDI クオンタイズオプション」ダイアログ 72  
MIDI コントローラー 645  
オートメーション 422, 424  
強弱記号 645  
ペダル線 796  
MIDI デバイス 185  
エクスプレッションマップ 456, 462  
音符の表記 145  
コード記号 145, 215, 220, 221, 430  
再生テンプレート 441  
設定 145  
打楽器キット 159  
ナビゲーション 145  
パーカッションマップ 464, 467  
ポリコード 221  
無効化 185  
有効化 185  
「MIDI 入力デバイス」ダイアログ 185  
MIDI ファイル 70  
書き出し 73  
クオンタイズ 70, 72  
再クオンタイズ 182  
再生の上書き 471  
サステインペダルコントローラー 185  
ダイアログ 71, 73  
開く 61  
ペダル線 185  
無音程打楽器 1046  
読み込み 70, 71, 1046  
リピート 440  
MIDI 録音 179, 180  
オーディオバッファサイズ 183, 184  
開始 180  
カウントイン 183  
クオンタイズ 72, 180  
クリック設定 182  
再クオンタイズ 182  
最適化 183  
サステインペダルコントローラー 185  
設定 183  
ダイアログ 72  
停止 180  
デバイス 185  
(「MIDI デバイス」も参照)  
テンポモード 439  
トランスポートウィンドウ 450  
ピッチ 152  
ピッチの入力 152  
拍子記号 180  
非録音時の MIDI 入力データを記録 181  
ペダル線 185  
リピート 182  
レイテンシー 184  
「MIDI を書き出し」ダイアログ 73  
moderato 960  
入力 199, 201, 203  
molto  
強弱記号 210, 212  
テンポ記号 199, 201

MP3 ファイル  
書き出し 78  
MusicXML  
書き出し 68  
コード記号 586  
ダイアログ 68  
打楽器 1046  
開く 61  
譜表ラベル 906  
ペダル線 797  
読み込み 67  
リピート括弧 839  
連桁のリセット 546  
「MusicXML を書き出し」ダイアログ 68

## N

Nashville  
コード記号 216, 572  
番号 216  
New York コード記号 572  
NotePerformer  
トリル 749  
微分音の再生 690  
November 音楽フォント 369

## P

PDF ファイル 489  
書き出し 480  
カラー 483  
フォント 484  
レイアウト番号 127  
Petaluma 音楽フォント 369  
PNG ファイル 489  
解像度 490  
書き出し 480  
カラー 483  
グラフィックフレーム 343  
レイアウト番号 127  
poco a poco  
強弱記号 210, 212, 637  
テンポ記号 963  
possibile  
強弱記号 212  
presto 960  
入力 199, 201, 203

## R

rallentando 972  
入力 199, 201, 203  
ritardando 972  
入力 199, 203  
ritenuto 972  
入力 199, 201, 203  
Ross コード記号 572

## S

Salzedo ブレス記号 673

Silence  
再生テンプレート 441, 442  
simile  
強弱記号 210, 212, 630  
SMuFL 369  
強弱記号のグリフ 643  
Steinberg Hub 58  
プロジェクトを開く 61, 62  
subito  
強弱記号 210, 212  
SVG ファイル 489  
書き出し 480  
カラー 483  
グラフィックフレーム 343  
フォント 484  
レイアウト番号 127

## T

tacet al fine 872, 876  
「Technique Combinations」ダイアログ 461  
thru  
MIDI 179  
TIFF ファイル 489  
解像度 490  
書き出し 480  
カラー 483  
レイアウト番号 127

## V

vivace 960  
入力 199, 201, 203  
VST インストゥルメント 407  
VST 2 プラグインをホワイトリストに設定する 409  
エンドポイント 452  
再生 452, 456, 464  
再生テンプレート 441  
パーカッションマップ 455  
微分音の再生 690  
ポート 452  
ロード 408  
VST および MIDI インストゥルメントパネル 404, 406

## W

Walker 符頭 721  
WAV ファイル  
書き出し 78

## X

X 形の符頭 718

## あ

アーティキュレーション 503  
位置 505-509  
移動 507  
演奏技法固有の符頭 469  
音符 506  
重ね合わせ 508

- アーティキュレーション (続き)  
 間隔 509  
 キーボードショートカット 186  
 記号 382  
 キット 1032  
 キュー 612  
 形式設定 382  
 コピー 504  
 再生 469, 509  
 削除 504  
 ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照)  
 順番 506  
 浄書オプション 505  
 衝突回避 508  
 垂直位置 509  
 スペーシング 507  
 スラー 506  
 スラーの終端 882  
 タイ 506, 978  
 タイプ 503  
 打楽器 469, 1032, 1036  
 デフォルト設定 505  
 デュレーション 503, 509  
 トレモロ 469  
 入力 186  
 パネル 138  
 反転 508, 509  
 符尾 506  
 変更 504  
 連符 1018
- アイテム 146, 275  
 コピー 286  
 選択 42, 146, 275, 276  
 変更 282  
 編集 139  
 リセット 283, 284
- 青い選択範囲 640, 887
- アクセント 503  
 入力 186
- 上げ  
 ペダル線 (「ペダルのリテイク」を参照)
- 上げ弓ブレス記号 673
- 値  
 タイムコード 129, 829  
 フレームレート 129  
 メトロノームマーク 282, 970  
 リズムグリッド 41, 148  
 レイテンシーの補正 184
- アタック  
 アーティキュレーション 503  
 強弱記号 620  
 再生 456
- アタッチメントポイント  
 演奏技法 806  
 コード記号の構成要素 576  
 符頭 722, 726  
 符尾 726  
 臨時記号の構成要素 685
- アチャカトゥーラ 664  
 入力 170
- 圧縮された MusicXML 68
- アポジャトゥーラ 664  
 入力 170
- アラビア数字  
 フィンガリング 657  
 譜表ラベル 909  
 ページ番号 315, 775
- アルコ 798  
 入力 241, 245  
 非表示 803
- アルトの省略  
 ホルンのフィンガリング 653
- アルペジオ記号 751  
 位置 753, 754, 756  
 移動 755  
 外観 751, 752, 756  
 記号 382  
 形式設定 382, 752  
 再生 757, 758  
 再生時にミュート 439  
 削除 286  
 終端 752  
 浄書オプション 756  
 スペーシング 754  
 スラッシュ符頭 756  
 装飾音符 756  
 タイプ 233, 752  
 デフォルト設定 756  
 デュレーション 757, 758  
 長さ 236, 237, 753  
 入力 232, 233, 236, 237  
 配置 754  
 拍相対再生 757  
 パネル 237  
 ハンドル 753, 755  
 フィルター 280  
 変更 282  
 方向 751  
 ポップオーバー 233, 236
- アンサンブル 85, 104  
 グループ 118, 119  
 大括弧 60, 564, 565  
 追加 87, 105, 119  
 ディヴィジ 939, 940  
 テンプレート 59  
 譜表のグループ化 60, 564
- 暗黙の休符 869, 870  
 カラー 872  
 削除 873  
 声部 871  
 非表示 871, 873  
 表示 873  
 明示的な休符 871
- い
- イオニアンコード記号 218, 585
- 位置  
 アーティキュレーション 506-509  
 アイテム 284  
 新しいアイテム 146  
 アルペジオ記号 754, 756  
 演奏技法 799, 800  
 オクターブ線 598, 601  
 音部記号 588  
 歌詞 697, 702

## 位置 (続き)

キュー 602, 604  
 休止 673  
 休符 869  
 強弱記号 621  
 グリッサンドライン 760  
 ジャズアーティキュレーション 769  
 順番 600  
 垂直の順番 600  
 スタッカート 507  
 スラー 879, 882  
 声部 1048  
 装飾音 737  
 装飾音符 665  
 タイ 976  
 打楽器キット内のインストゥルメント 116  
 タッキングインデックス 600, 601  
 段階的強弱記号 638  
 中間休止記号 674  
 調号 691  
 テンポ記号 963  
 トリルの音程 747  
 トレモロ 1010  
 入力 146  
 ビデオ 131  
 拍子記号 992  
 フィンガリング 646  
 フェルマータ 674  
 複声部の音符 1048  
 ブレス記号 674  
 ヘアピン 638  
 ペダル線 785, 787  
 変更 283  
 リセット 284  
 リハーサルマーク 813  
 連符 1016  
 1 番括弧と 2 番括弧 (「リPEAT括弧」を参照)  
 移調 178  
 インストゥルメント (「移調楽器」を参照)  
 エクスプレッションマップ 456  
 オクターブ 177  
 音符 175, 177-179, 416  
 音部記号 592, 616  
 キュー 609, 616  
 コード記号 126, 580  
 選択範囲 179  
 ダイアログ 178  
 調号 179, 691, 694  
 ピッチ (「移調音」を参照)  
 譜表ラベル 913  
 ポップオーバー 175  
 レイアウト 123, 126  
 移調音 127  
 インストゥルメントの移調 913  
 音部記号 591, 592  
 音符の入力 152  
 コード記号 126, 585  
 ステータス表示 41  
 パートレイアウト 123, 126  
 表示 126  
 譜表ラベル 905, 913  
 レイアウト 126

移調楽器 106, 126, 592, 905  
 インストゥルメントの移調 913, 914  
 音部記号 591, 592  
 キュー 605  
 キューの音域 605  
 コード記号 585  
 調号 127, 143, 679, 691, 695  
 譜表ラベル 905, 913, 914  
 「移調」ダイアログ 178, 179, 694  
 移調レイアウト  
 ピッチの入力 152  
 1 線  
 打楽器キット 1034, 1035  
 譜表 916  
 一般的な臨時記号の有効範囲ルール 501  
 移動  
 MIDI データ 424  
 アーティキュレーション 507  
 アルペジオ記号 755  
 打ち消しのナチュラル記号 693  
 演奏技法 799, 800  
 オートメーションイベント 424  
 オクターブ線 596, 597  
 オシリア譜表 928  
 音符 288, 385, 392, 393, 414, 550, 730, 1032  
 音部記号 588, 589  
 歌詞 704  
 歌詞の延長線 706  
 歌詞のハイフン 706  
 キャレット 152, 172  
 キュー 604, 606  
 休止 675, 676  
 休符 385, 876  
 キューラベル 611  
 強弱記号 623-625, 637  
 組段 400, 401  
 グリッサンドライン 763  
 コード記号 583  
 再生ヘッド 435  
 ジャズアーティキュレーション 768, 769  
 小節休符 876  
 小節線 519, 520  
 小節番号 533-535  
 小節リPEAT記号 851  
 小節リPEAT記号のカウント 856  
 スラー 883, 885, 891, 892  
 スラッシュ符頭 862  
 スラッシュ領域 864  
 スラッシュ領域のカウント 867  
 装飾音 737, 738  
 装飾音符 730  
 装飾音符のスラッシュ 668  
 タブ 48  
 調号 693  
 追加の譜表 925  
 デイヴィジ 943  
 テキスト 378  
 テンポ記号 428, 964, 965  
 トリル 738  
 トレモロ 1012  
 ビュー 42  
 拍子記号 1002-1004  
 フィンガリング 649

## 移動 (続き)

付点 733  
譜表 400  
フレーム 326  
プレイヤー間のインストゥルメント 109  
フロー見出し 350, 400  
ページ番号 774  
ペダル線 786  
マーカー 825  
リハーサルマーク 817, 818  
リピート括弧 835, 836  
リピートマーカー 845, 846  
連符 1019

## イベント

オートメーション 422, 424  
音符 413  
テンポ変更 426, 427  
マーカー 432

## イベントディスプレイ 411

インストゥルメントトラック 419  
演奏技法レーン 421  
オートメーションレーン 422  
音符の入力 413  
コードトラック 430  
ズーム 417  
タイムトラック 426  
ビデオトラック 433  
プレーヤートラック 418  
マーカートラック 432

## 異名同音の表記

MIDI 70, 179  
音符 166, 167  
書き換え 166  
コード記号 585  
調号 695  
モード 585  
臨時記号 166, 167

## イメージ

ビデオ 128  
フレーム 343

## 入れ替え

音符 289  
音符の順番 1051  
声部 291  
譜表 289  
ページ 320

## 入れ替え可能な拍子の拍子記号 993

個々の小節ごとの指定 993

## 入れ子

スラー 884, 885  
連符 1017

## 入れ子状のスラー

終端 882

## インサート 449

## 印刷 473, 477

macOS オプション 480  
オプション 475  
ガイド 490  
冊子印刷 486  
時間 490  
縮尺サイズ 477  
ジョブタイプ 485  
透かし 490

## 印刷 (続き)

縦 485, 488  
注釈 490  
トンボ 490  
配置 485  
範囲 477, 479  
日付 490  
部数 477  
プレビュー 38  
ページサイズ 488  
見開き 485  
向き 488  
用紙サイズ 488  
横 485, 488  
両面 477, 487  
レイアウト 477  
枠線 490

## 印刷オプションパネル 473, 475

## 印刷プレビュー領域 38

ナビゲーション 38

## 印刷モード 16, 473

切り替え 473  
縦向き 485  
ツールボックス 473  
パネル 39, 473-475  
プリンター 484  
ページ設定 488  
横向き 485

## インストゥルメント 29, 105

MIDI 407, 408  
MIDI 録音 179  
VST 407, 408  
アンサンブル 104  
移調 106, 126, 127, 592, 691, 695, 914  
エクスペッションマップ 452  
エンドポイント 452, 454  
エンドポイントへの割り当て 454  
音部記号 591  
音符の入力 153  
既存のものの変更 109, 113  
キットから削除 117  
キットへの結合 108  
キューのポップオーバー 271  
強弱記号 644  
空白の譜表 355  
グループ 30, 118  
検索 87  
コード記号 584  
再生 452, 456, 464  
再生モード 418, 419  
削除 110  
サスティン 644  
自動ナンバリング 106  
順番 104, 118  
ソロ 438  
大括弧 60, 564, 565  
打楽器 464, 1034  
打楽器キット内の順番 116  
打楽器キットへの追加 113  
打楽器のレジェンド 1040, 1041  
調号 679, 680, 695  
追加 87, 105, 107  
ディヴィジ 939, 940, 942

- インストゥルメント (続き)  
 テンプレート 59  
 トラック 417, 419  
 名前 (「インストゥルメント名」を参照)  
 パーカッションマップ 452  
 パートから削除 121, 124  
 パートに追加 124  
 パートレイアウト (「パートレイアウト」を参照)  
 配置ツール 285  
 番号 106  
 非サスティン 644  
 非表示 121, 124  
 表示 121, 124  
 譜表 49, 922, 924, 926, 1034  
 譜表サイズ 920  
 譜表のグループ化 60, 564  
 譜表の削除 922  
 譜表の追加 924  
 譜表の表示 49  
 譜表ラベル 100, 906-908, 914  
 プレーヤー 97  
 プレーヤー間の移動 109  
 プレーヤーパネル 85  
 フローに追加 121  
 ミュート 438  
 持ち替え 49, 107  
 ロード 408
- インストゥルメントグループ 114  
 削除 116  
 打楽器キット 114  
 名前を付ける 115
- インストゥルメントトラック 419  
 演奏技法 422  
 オートメーション 422-425  
 折りたたみ 418  
 カラー領域 418  
 コントロール 419  
 ピアノロールエディター 412  
 ヘッダー 419
- インストゥルメントの移調 913  
 キューラベル 609  
 非表示 913  
 表示 913  
 譜表ラベル 100, 914
- インストゥルメントの音程 (「インストゥルメントの移調」を参照)  
 インストゥルメントのグループ 114  
 削除 116  
 打楽器キット 114  
 名前を付ける 115
- インストゥルメントの変更ラベル 912  
 非表示 912  
 表示 912
- インストゥルメントの持ち替え 97  
 追加 107
- インストゥルメントピッカー 87  
 インストゥルメント名 99, 905  
 キュー 609  
 デフォルトとして保存 100  
 ナンバリング 906  
 配置 100  
 番号 106
- インストゥルメント名 (続き)  
 譜表ラベル 100, 906  
 変更 103  
 「インストゥルメント名を編集」ダイアログ 100  
 インストゥルメントラベル  
 打楽器キット 115  
 インターフェース 32  
 インタラクティブキーボードショートカットマップ 53  
 インチ  
 基準単位 57  
 譜表のスペーシング 396  
 インデント 937  
 組段 394  
 最初の組段 938  
 譜表ラベル 910  
 変更 938  
 インド太鼓の記譜 1047
- ## う
- ウィンドウ  
 再生 48  
 タブ 47  
 タブの移動 48  
 トランスポート 450  
 ビデオ 132  
 開く 19, 48  
 複数 45, 47, 48  
 フローディング 33  
 プロジェクト 32  
 分割 47  
 ミキサー 448, 450  
 ワークスペース 44
- 上の音符  
 トリル 750
- 打ち消し  
 調号 680, 693  
 ナチュラル 693  
 二重臨時記号 500  
 臨時記号 500, 501
- ウナコルダペダル 779  
 MIDI コントローラー 796
- 上書き  
 音符のデュレーション 471  
 コード記号 573, 579  
 再生テンプレート 441, 442  
 削除 471  
 テキスト 335, 377  
 パラグラフスタイル 377  
 フロー見出し 321  
 マスターページ 335
- ## え
- 映画 (「ビデオ」を参照)  
 エオリアンコード記号 218, 585  
 エクスプレッションマップ 456  
 MIDI 645  
 演奏技法 803, 812  
 演奏技法の組み合わせ 461, 463  
 演奏技法を非表示 803  
 エンドポイント 452, 455  
 音量 645



- エクスプレッションマップ (続き)  
   書き出し 464  
   作成 462  
   ダイアログ 457, 461  
   トリル 748  
   読み込み 463  
 「エクスプレッションマップ」ダイアログ 457  
 エクスプロード 289  
 エスプレッシーヴォ 620  
 エディター  
   テキスト 269, 376  
   ドラム 413  
   ピアノロール 412  
   フロー見出し 321  
   マスターページ 309  
 エフェクトチャンネル 449  
   ミキサー 448  
 演奏音  
   ピッチ (「実音」を参照)  
   ピッチの入力 152  
   レイアウト 126  
 演奏回数  
   変更 848  
 演奏技法 798  
   アタッチメントポイント 806  
   位置 798, 799  
   移動 799, 800  
   エクスプレッションマップ 456, 812  
   延長スタイル 798  
   ガイド 803  
   カスタム 803, 804, 811  
   キュー 612  
   組み合わせ 461, 463, 469  
   再生 456, 809, 812  
   削除 286  
   作成 1039  
   浄書オプション 798  
   水平オフセット 798  
   選択 276  
   ダイアログ 806, 809  
   タイプ 241, 798  
   打楽器 465, 469, 1033, 1036, 1038  
   ディヴィジ 939  
   テキストの追加 801  
   デザイン 804, 806  
   デフォルト設定 798  
   トラック (「演奏技法レーン」を参照)  
   入力 241, 245  
   背景 802  
   背景の塗りつぶし 802  
   パネル 244, 245  
   非表示 803  
   表示 803  
   フィルター 280  
   符頭 469, 1036, 1038-1040  
   譜表に対する位置 800  
   変更 282, 1031  
   編集 806  
   ポップオーバー 241, 245  
   ミュート 439  
   余白 802  
   レーン (「演奏技法レーン」を参照)  
   演奏技法固有の符頭 1036, 1038  
   アーティキュレーション 469  
   外観 1040  
   再生 469  
   作成 1039  
   「演奏技法の外観を編集」ダイアログ 806  
   演奏技法の組み合わせ  
     作成 463  
   「演奏技法の再生効果を編集」ダイアログ 809  
   演奏技法パネル 245, 247  
   演奏技法レーン 421  
     非表示 422  
     表示 422  
   「演奏技法を編集」ダイアログ 804  
   演奏されるデュレーション 470  
     上書き 471  
     記譜されたデュレーション 470  
     変更 471  
   演奏上の指示 660  
   延長 (「休止」を参照)  
   延長記号 794  
     括弧 794  
     テキスト 795  
   延長記号と休止記号パネル 230  
   延長線  
     オクターブ線 594  
     角度 780  
     歌詞 251, 701, 705  
     強弱記号 620, 631  
     区切りをまたぐスラー 903  
     テンポ記号 966, 972, 973  
     トリル 740-742  
     太さ 793, 974  
     ペダル線 779, 780, 789, 792, 793  
   エンドポイント 452  
   インストゥルメント 454  
   エクスプレッションマップ 452, 455  
   設定 452  
   パーカッションマップ 452, 455  
   変更 454, 455  
   「エンドポイントの設定」ダイアログ 452  
 お  
   扇形連桁 557  
     角度 558  
     作成 558  
     方向 557, 558  
   大きい  
     選択範囲 276  
     拍子記号 (「大きな拍子記号」を参照)  
     符頭 720  
   大きな拍子記号 996, 998  
     小節番号 535  
     垂直位置 1005  
   オーギュメント  
     コード記号 217  
   オーケストラ  
     順番 104, 118, 127  
     テンプレート 59, 60  
     譜表のグループ化 60, 564  
   オーケストレーション (「配置」を参照)

- オーディオ
  - 書き出し 78
  - ダイアログ 78
  - デバイスの設定 50
  - バッファサイズ 183, 184
  - ビデオ 133
  - ボリューム 133, 448
  - ミキサー 448
  - ミキサーへの出力 452
  - リピート 440
- 「オーディオを書き出し」ダイアログ 78
- オートメーションレーン 422
  - イベントの移動 424
  - イベントの入力 424
  - イベントの削除 425
  - テンポ 426, 427
  - 非表示 423
  - 表示 423
  - 編集 424
- オープン
  - スタイル 1000
  - 調号 680
  - 拍子 1000
  - 拍子記号 194, 993
- 大文字
  - 譜表ラベル 909
  - フロー番号 337
  - リピートマーカのテキスト 841
  - ローマ数字 337
- 置き換え
  - フロー見出し 323
  - マスターページ 307
- オクターブ線 593
  - 位置 594, 596, 598, 600
  - 移動 596, 597
  - 外観 594
  - 角度 595, 596
  - 記号 382
  - 形式設定 382
  - 削除 599
  - 浄書オプション 594
  - 浄書モード 599
  - スタックの順番 601
  - 選択 276
  - タイプ 224, 593
  - タッキングインデックス 600
  - デフォルト設定 594
  - 長さ 594, 597
  - 入力 222, 224, 226, 227
  - 配置 598
  - パネル 227
  - ハンドル 594, 597, 599, 600
  - フィルター 280
  - フック 600
  - 譜表に対する位置 599
  - ポップオーバー 222, 224, 226
- オクターブの移調 177
  - オクターブ線 224, 593
  - 音部記号 222, 587
  - キュー 603, 605, 606
- オクターブの均等な分割 681
- オクターブの分割 681
  - EDO 681
  - カスタム 684
  - 再生 690
  - 調性システム 682, 684
- オクタトニックコード記号 218
- オッサ譜表 927
  - 移動 928
  - ガイド 927
  - 組段オブジェクト 937
  - サイズ 929
  - 再生 927
  - 削除 932
  - 小節線 932
  - 垂直方向のスペーシング 395, 397
  - 追加 928
  - 非表示 931
  - 表示 931
  - 譜表のスペーシング 397
  - 譜表冒頭部 930
  - 譜表ラベル 933
  - 余白 930
- オプション
  - 音符の入力 145
  - 環境設定 50
  - 記譜 143
  - 再生 409
  - 浄書 302
  - ズーム 41, 44
  - ツールバー 33
  - テキストの形式設定 269, 376
  - トランスポート 33, 34
  - ページサイズ 488
  - レイアウト 93
  - ワークスペース 33, 34
- オプションダイアログ 28
- オプションを表示 42
  - ウィンドウ 48
  - 音符 1050
  - ガイド 285
  - 楽譜の移動 42
  - 楽譜領域 37, 43, 49
  - ギャラリービュー 42, 49
  - キュー 618, 619
  - 休符 872
  - 組段区切りガイド 364
  - コード記号のガイド 581
  - 再生ヘッド 435, 451
  - システムトラック 278
  - 小節番号 532
  - 小節リピート記号 852
  - ズーム 44, 417
  - スラッシュ領域 860
  - 声部 1048, 1050
  - 全画面表示モード 49
  - タイプ 42
  - タイムコード 451
  - 打楽器のレジェンド 1040
  - タブ 36, 45
  - ディヴィジ 945
  - トラック 417, 434
  - トランスポート 451
  - パートレイアウト 45

- オプションを表示 (続き)
  - パネル 17, 39
  - 「ビデオ」ウィンドウ 132
  - 拍子記号のガイド 1005
  - フレーム区切りガイド 362
  - ページ配置 41, 43, 49
  - ページビュー 42, 49
  - 変更 41
  - ミキサー 450
  - ユニゾン範囲 945
  - レイアウト 36, 45
- オフセット
  - 演奏技法 798
  - 声部列 1051
  - タイムコード 129, 829
  - ビデオ 129
  - リセット 284
- オブティカルスペーシング
  - 譜表をまたぐ連桁 552
- オミット
  - コード記号 217
- 重いスウィング 443
- 親指
  - フィンガリング 188
- 折りたたみ (「展開」を参照)
- 折りたたみ式ドラッグ 401
- オルタードユニゾン 497
  - 外観 498
  - 形式設定 498
  - 符尾の分割 958
- オルタレーション
  - コード記号 217, 571
  - ジャズの装飾音 234
- 音域
  - 移調 177, 592
  - オクターブ線 226, 227, 593
  - 音部記号 225, 587, 592
  - 音符の入力 154
  - キュー 605, 609
  - プラグイン 409
  - 変更 177, 178
- 音価 (「音符のデュレーション」を参照)
- 音価が指定されたトレモロ 1008
- 音価が指定されないトレモロ 1008
  - 再生 1014
- 音楽記号 382
  - ダイアログ 382
  - 編集 382
- 音楽フォントダイアログ 369
- オンコード 217, 221, 571
  - 入力 217, 221
- 音節
  - 位置 702
  - タイプ 701
- 音程
  - 移調 175
  - オクターブの分割 681
  - 音程追加のポップオーバー 175
  - コード記号 217, 571
  - 自動保存 81
  - 装飾音 736
  - トリル 233, 743-745, 747
- 音程追加のポップオーバー 175
  - 音符の移調 177
  - 音符の追加 175
- 音度
  - 符頭 716, 721
- 音符 715
  - アーティキュレーション 138, 504, 506
  - アルペジオ記号 754
  - アンスケール 1019
  - 移調 175, 177, 179, 416, 694
  - 移動 288, 289, 385, 392, 393, 414, 550, 730, 1019, 1032
  - 異名同音の表記 166
  - 入れ替え 289
  - 上書き 471
  - 演奏されるデュレーション 470, 471
  - 音域 154, 177, 178
  - 音程追加のポップオーバー 175
  - 音符のスペーシング 387, 389, 392, 393
  - 外観 139, 715
  - 歌詞を整列 705
  - カスタム尺度のサイズ 729
  - 加線 731
  - 加線の非表示 731
  - 括弧 1032
  - カラー 1050
  - 記号 382
  - 既存の音符への追加 175
  - 記譜されたデュレーション 470
  - キュー 602, 614
  - 休符 870
  - 強弱記号の整列 622, 623
  - 金管楽器のフィンガリング 656
  - グループ化 559
  - 形式設定 382
  - 弦のフィンガリング 658, 733
  - ゴースト 1032
  - コピー 286-288, 504
  - 再クオンタイズ 182
  - サイズ 729
  - 再生 456
  - 再生モード 413
  - 削除 286, 416, 1011
  - 試聴 281
  - ジャズアーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照)
  - 縮尺サイズ 729
  - 順番 1051
  - 浄書オプション 715
  - 水平方向のスペーシング 386
  - ステムレット 556
  - スペーシング 385
  - スラー 138, 882
  - スラッシュ 859, 1052
  - スラッシュ符頭 1053
  - スラッシュ領域 862
  - 声部 163, 290, 291
  - 声部への貼り付け 287
  - 選択 42, 275, 276
  - 装飾音符 170, 664
  - 挿入モード 156
  - タイ 169, 506, 980, 981
  - 第3線 955

## 音符 (続き)

第2連桁 554  
 タイプ 138  
 打楽器キット 157, 1045  
 デフォルト設定 715  
 デュレーション 138, 160, 161, 415, 470  
 デュレーションの固定 162  
 デュレーションをロック 178  
 点線 156, 559  
 ドラムエディター 414  
 トリル 740  
 トリルの音程 744, 745  
 トレモロ 1009, 1011-1013  
 長さ 161, 415  
 入力 23, 149, 153, 156, 157, 162, 171, 413  
 配置 623  
 ピアノロールエディター 412-416  
 ピッチ 177, 178  
 ピッチ依存の符頭のデザイン 721  
 ピッチの変更 178  
 非表示 862  
 表記 166, 168  
 表示 862  
 拍子記号 1000  
 フィルター 280  
 フォント 369  
 複声部の状況 1052  
 符鉤 382  
 符点 559  
 付点 156, 732, 733  
 符頭セット 717  
 符頭のデザイン 717, 722, 726  
 符尾 958  
 符尾の長さ 957  
 符尾の非表示 958  
 符尾の方向 290, 953, 955, 956, 1045  
 符尾の方向の変更を解除 957  
 譜表のスペーシング 397  
 プロパティ 140  
 別のインストゥルメントへの移動 1032  
 変更 178  
 編集 136, 139, 301  
 他の譜表まで伸ばす 288, 550  
 補助 746  
 ホルンの支管の指示記号 656  
 ミュート 439  
 リズムグリッド 148  
 臨時記号 138, 165, 167  
 連桁 543  
 連桁の解除 544  
 連符 1016, 1018  
 和音 171

## 音部記号

587  
 位置 588, 591  
 移調楽器 591, 592  
 移動 588, 589  
 音部記号の変更におけるサイズ 590  
 ガイド 284  
 間隔のスペーシング 588  
 記号 382  
 キュー 602, 616, 617  
 形式設定 382  
 削除 590

## 音部記号 (続き)

装飾音符 591  
 タイ 980  
 タイのつながり 588  
 タイプ 222  
 調号 691  
 入力 222, 224, 225  
 パネル 225  
 非表示 225  
 フィルター 280  
 ポップオーバー 222, 225  
 音部記号パネル 224, 225  
 音符ツールボックス 136  
 はさみ 982  
 音符入力  
 オプション 28  
 「音符入力オプション」ダイアログ 145  
 音符のグループ化 559  
 弱起 (アウフタクト) 995  
 タイ 169  
 拍子 559, 560  
 ヘミオラ 162  
 変更 162  
 音符の再クオンタイズ 182  
 音符のスペーシング 294, 385, 388  
 ガイド 284, 385  
 歌詞 697  
 ギャレービュー 42  
 組段 387  
 小節線 520  
 装飾音符 665, 666  
 ダイアログ 390  
 デフォルト 387  
 ハンドル 386  
 フィルター 280  
 復元 395  
 別のレイアウトへコピー 366  
 変更 385, 389, 392  
 変更の削除 392  
 密度 387  
 有効化 294  
 リセット 391, 392  
 両端揃え 387  
 レイアウトオプション 93, 388  
 音符のスペーシングのハンドル  
 選択 393  
 「音符のスペーシングの変更」ダイアログ 390  
 音符のデュレーション 138, 470, 471  
 強制 162  
 クオンタイズ 72  
 選択 160  
 テンポの等式 200  
 非表示 138  
 表示 138  
 符点の統合 732  
 変更 161  
 音符の入力 149, 153, 413  
 MIDI 179-181, 183  
 音域の選択 154  
 音符の再生 281  
 音符の追加 175  
 音符のピッチ変更 178  
 開始 152

音符の入力 (続き)  
    キャレット 149, 152  
    休符 870  
    声部 163  
    装飾音符 170  
    挿入モード 149  
    タイ 169  
    打楽器キット 157, 159, 160  
    デュレーションをロック 178  
    入力と編集 146  
    ピッチ 152  
    ピッチの入力 152  
    非録音時の MIDI 入力データを記録 181  
    符尾の方向 160  
    マウス入力 155  
    リズムグリッド 148  
    連符 172  
    和音 171  
    和音の入力 149  
    音符をミュートする 281  
音符のピッチ変更 178  
音符の表記  
    書き換えの無効化 145  
音符パネル 135, 138  
    音符のデュレーションをさらに表示 138  
音量  
    MIDI 645  
    強弱記号 620, 644  
    再生 644  
    メトロノームクリック 182

## か

カード  
    タイムコード 91  
    展開矢印マーク 40  
    プレーヤー 85  
    フロー 91  
    レイアウト 89  
カーニング 497  
カーブ方向  
    スラー 879, 880, 883, 897, 898  
    装飾音符 880  
    タイ 976, 978, 989, 990  
カーリユフェルマータ 671  
外観  
    デフォルト設定 93, 143, 302  
    リセット 283  
開始 152  
    Hub 58  
    MIDI 録音 180  
    音符の入力 152, 153  
    再生 436  
    タイムコードの値 829  
    プレーヤー 36  
    プロジェクト 20, 36, 59  
    領域 36  
    ワークスペース 44  
開始位置  
    ビデオ 131

開始記号  
    外観 790  
    テキスト 795  
    ペダル線 789, 794, 795  
開始ページ  
    左側のページ 347  
    ページ番号 347, 776  
開始領域 36  
解像度  
    画像 490  
回転  
    スラー 892  
    ヘアピン 633  
ガイド 284  
    印刷 490  
    演奏技法 803  
    オッサア譜表 927, 928  
    音符のスペーシングの変更 385  
    書き出し 490  
    キュー 613, 618, 619  
    強弱記号 631  
    組段区切り 362, 364  
    コード記号 581  
    小節 513  
    小節線 513, 566  
    大括弧と小節線の変更 566  
    打楽器のレジェンド 1040  
    調号 690  
    追加の譜表 923  
    テンポ記号 967, 969  
    非表示 285  
    表示 285  
    拍子記号 1005  
    譜表 925  
    譜表の変更 923  
    フレーム区切り 362  
ガイド小節番号 532  
回復  
    バックアップ 82  
    ファイル 80, 82  
カウント  
    tacet al fine 876  
    位置 868  
    移動 856, 867  
    休符 876  
    弱起 (アウフタクト) 995  
    小節 876  
    小節番号 539-541, 995  
    小節リピート記号 852-855  
    スラッシュ符頭 865-867  
    タイムコード 828  
    長休符 876  
    譜表に対する位置 868  
    フレーム 828  
    ページ番号 337  
    リピート括弧 832  
    リピートセクション 539  
カウントイン  
    デュレーション 183  
    メトロノームクリック 183  
替え指のフィンガリング 647  
    位置 647  
    ハンドル 647

- 書き換え
  - 音符 166, 168
  - キューに含まれる音符 608
  - コード記号 585
  - 臨時記号 166
- 書き出し
  - MIDI 73
  - MIDI ファイル 73
  - MP3 ファイル 78
  - MusicXML ファイル 68, 839
  - PDF 480
  - PNG 480
  - SVG 480
  - TIFF 480
  - WAV ファイル 78
  - エクスペリションマップ 464
  - オーディオ 78
  - ガイド 490
  - 書き出し形式 480
  - カスタムの演奏技法 811
  - カラーのグラフィック 483
  - 時間 490
  - 白黒のグラフィック 483
  - 透かし 490
  - 打楽器キット 1029
  - 注釈 490
  - テンポトラック 76, 77
  - トンボ 490
  - パーカッションマップ 469
  - 配置 485
  - パス 481
  - 日付 490
  - ファイル名 482
  - 符尾 78
  - フロー 64, 65
  - ページ範囲 479, 485
  - リピート 440
  - レイアウト 480
  - 枠線 490
- 「書き出し用ファイル名」ダイアログ 482
- 描く
  - オートメーション 424
  - 音符 413
  - テンポ 426
- 角括弧
  - ガイド 567
  - カスタムのグループ化 566, 567
  - グループ化 296, 565, 566
  - 形式設定 296
  - 削除 569
  - 小副括弧 563
  - 長さ 568
  - 入力 567
  - 拍子記号 996, 998, 1005
  - 副括弧 296
  - リセット 569
- 楽章 30, 120
  - 書き出し 64, 65
  - タレット 355
  - 追加 21, 121
  - フロー見出し 321
  - 分割 291
- 楽章 (続き)
  - ページ上に複数 348
  - 読み込み 63, 64
- 拡大 276
  - 選択範囲 276
- 角度
  - 扇形連桁 557, 558
  - オクターブ線 595, 596
  - グリッサンドライン 760, 764, 765
  - 弦のシフト指示 658
  - スラー 892
  - トレモロ 1010
  - ヘアピン 633
  - 連桁 548, 557, 558
  - 連符の角括弧 1023
- 確認の臨時記号
  - 非表示 501
  - 表示 501
- 楽譜
  - 記号 (「音楽記号」を参照)
  - 組段に固定 363
  - 配置 285
  - フレームに固定 361
  - フレームに割り当て 332
  - 編集 146
- 楽譜領域 14, 37
  - イベントディスプレイ (「イベントディスプレイ」を参照)
  - 楽譜の移動 42
  - ズームオプション 44
  - 選択範囲の作成 276
  - パネル 17
  - ビューの選択 49
  - 複数のウィンドウ 48
  - フロー見出しエディター 321
  - ページ配置 43
  - マスターページエディター 309
  - レイアウトを開く 36, 45
- 囲み線
  - 小節番号 528, 529
  - 線の太さ 529, 815
  - テキスト 380, 381
  - フィンガリング 651
  - 余白の値 529, 815
  - リハーサルマーク 813–815
- 重ね合わせ
  - アーティキュレーション 508
  - 角括弧 567, 568
  - キュー 614
  - 小節線 523
  - スラー 902
  - スラッシュ領域 861
  - タイ 976
  - 中括弧 567, 568
  - テキスト 379
  - 臨時記号 496
- 加算的な拍子記号 993
- 歌詞 697
  - 位置 697, 698, 702
  - 移動 704
  - 延長線 251, 701, 705, 706
  - 音節のタイプ 251, 701
  - 音符のスペーシング 697

## 歌詞 (続き)

外観 698  
 歌詞番号 712, 713  
 キュー 612  
 コーラス 249, 699, 700, 709  
 サイズ 711  
 削除 708  
 斜体 712  
 浄書オプション 698  
 スペーシング 704, 705  
 選択 276, 699  
 タイプ 249, 699, 701  
 デフォルト設定 698  
 日本語の歌詞でのスラー 714  
 入力 248, 251  
 配置 697, 705  
 ハイフン 251, 701, 705, 706  
 ハンドル 705, 706  
 フィルター 280, 698, 699  
 フォントスタイル 711  
 譜表に対する位置 710, 711  
 変更 700, 702, 709  
 ポップオーバー 248, 249, 251  
 メリスマ様式 248, 251, 702, 705  
 訳詞 249, 699, 700, 709  
 ライン 249, 697, 699, 708  
 ライン番号 708-710

## 歌詞の延長線 701, 705

移動 706  
 ハンドル 705, 706

## 歌詞のハイフン 701, 705

移動 706  
 ハンドル 705, 706

## 歌詞のライン

位置 703  
 数 708  
 削除 708  
 変更 709, 710

## 歌詞番号 712

非表示 713  
 表記法 713  
 表示 713

## 頭文字大文字

譜表ラベル 909  
 リpeatマーカーのテキスト 841

## 数

歌詞 712, 713  
 小節 525, 536  
 小節リpeat記号 852, 853  
 スラーのセグメント 889  
 スラッシュ符頭 866  
 スラッシュ領域のカウント 865  
 バックアップ 82  
 拍子記号 999  
 フィンガリング 657  
 譜表ラベル 909  
 ページ 773, 775  
 連桁線 554  
 連符 1025

## カスタム

演奏技法 (「カスタムの演奏技法」を参照)  
 オクターブの分割 684  
 音符サイズ 729

## カスタム (続き)

記号 382  
 小節線の結合 521-523  
 スコアレイアウト (「カスタムスコアレイアウト」を参照)  
 大括弧のグループ化 566  
 中括弧のグループ化 566  
 調号 688, 689  
 調性システム (「カスタムの調性システム」を参照)  
 トリルの速さ 749  
 符頭 (「カスタムの符頭セット」を参照)  
 譜表サイズ 921  
 譜表のグループ化 566  
 フロー見出し 323  
 ページサイズ 488  
 マーカー 823  
 マスターページ 307  
 用紙サイズ 488  
 リズミックフィール 445, 446  
 リpeat括弧 837  
 リpeatマーカー 843  
 臨時記号 684  
 レイアウト 96

## カスタムスコアレイアウト 30, 123

印刷 477  
 空白の譜表 355  
 作成 124  
 番号の付け直し 127  
 ページ上のフロー 348  
 マスターページ 304  
 向き 346  
 余白 346, 352

## カスタムの演奏技法 803

書き出し 811  
 再生 812  
 デザイン 806  
 デフォルトとして保存 811  
 編集 806

## カスタムの調性システム 682

オクターブの分割 684  
 再生 690  
 作成 682  
 調号 688  
 編集 682  
 臨時記号 684

## カスタムの符頭セット 722

外観 726  
 デザイン 722, 726  
 編集 722, 726

## 「カスタムの譜表サイズ」ダイアログ 921

## 下線

フィンガリング 651

## 加線 715, 731

幅 731  
 非表示 731  
 臨時記号 496

## 画像

書き出し 480  
 入力 343  
 ビデオ 128  
 フレーム 343

## 画像解像度 490

- 肩のオフセット
    - スラー 896
    - タイ 984
  - 楽器の持ち替え
    - 譜表の表示 49
    - ラベル 912
  - 楽器編成リスト 335, 660
    - 追加 662
  - 楽曲フレーム 328
    - 順番 333
    - セレクター 331
    - 選択 327
    - 入力 325
    - フレームチェーン 330, 332
    - プレーヤー 334
    - フロー 333
    - マスターページ 329
    - 優先 328
    - 余白 352
    - レイアウト 329
  - 楽曲フレームチェーン 330
    - セレクター 331
    - パート形式のコピー 364, 366
    - フレームに割り当て 332
    - フレームのリンクの解除 332
    - プレーヤー 334
    - フロー 333
    - マスターページ 329, 330
    - レイアウト 329, 330
  - 括弧
    - オクターブ線の数字 593
    - 強弱記号 626
    - 弦のシフト指示 733
    - ゴーストノート 1032
    - 小節リピート記号のカウント 855
    - スラッシュ領域のカウント 867
    - 打楽器の音符 1032
    - 追加 260, 261
    - テンポ記号 968, 969
    - トリル 735
    - 反復 259, 261
    - 拍子記号 194, 197, 1001
    - フィンガリング 187, 188, 655
    - ペダル延長記号 794
    - メトロノームマーク 968, 969
    - リピート回数 832
    - 臨時記号 495, 501
  - 合唱
    - 演奏技法 244
    - 歌詞 697
    - 歌詞番号 712
    - 分割の矢印 946
  - 合唱のテンプレート 59
    - 譜表のグループ化 60, 564
  - カットコモンタイム 678, 993
    - 入力 194
  - カテゴリ
    - テンプレート 59, 60, 564
  - カラー
    - キュー 618, 619
    - 休符 872
    - グラフィック 483
    - 小節リピート記号 852
  - カラー (続き)
    - 白黒 483
    - スラッシュ領域 860
    - 声部 1048, 1050
    - ユニゾン範囲 945
  - カラー領域 418
  - 軽いスウィング 443
  - 間隔
    - アーティキュレーション 509
    - オssia譜表 397
    - ギャレービュー 399
    - クオンタイズ 72
    - 組段 840
    - 組段のインデント 937
    - コーダ 845
    - 小節線 381, 626, 802
    - スラー 901
    - タイ 989
    - タレット 358
    - 調号 692
    - テキストの衝突回避 379
    - テンポ記号 973
    - 拍子記号 992, 993
    - 譜表 395, 397, 840
    - フロー見出し 318, 350
    - リズムグリッド 41
  - 環境設定
    - MIDI 185
    - キーボードショートカット 51, 55
    - サスティンペダルコントローラー 185
    - ペダル線 185
    - マウス入力 147
  - 「環境設定」ダイアログ 50
- ## き
- キークリック 798
    - 入力 241, 245
  - キースイッチ
    - エクスプレッションマップ 456, 457
    - パーカッションマップ 465
  - キーボード
    - MIDI 145
    - 音符の入力 149
    - キーボードショートカットマップ 53
    - コード記号の入力 145
    - レイアウト 56
  - キーボードショートカット 11, 51
    - MIDI 55
    - アーティキュレーション 186
    - キーボードレイアウト 56
    - ギャレービュー 49
    - 言語 56
    - 検索 53, 54
    - 再生 436
    - 削除 56
    - ソロ 438
    - 定義 50
    - ページビュー 49
    - マップ 53
    - ミュート 438
    - リセット 56
    - 割り当て 55



## 記号

印刷 490  
 演奏技法 798  
 楽譜 382  
 キャレット 149  
 コーダ 842  
 小節休符 876  
 小節リピート記号 849, 857  
 セーニョ 842  
 装飾音 735  
 ダイアログ 382  
 注釈 490  
 調号（「調号」を参照）  
 ペダル線 789  
 編集 382  
 和音 571

## 奇数ページのレイアウト

印刷 477, 486  
 冊子印刷 486

## キット（「打楽器キット」を参照）

## 機能

キーボードショートカット 54  
 キーボードショートカットの削除 56

## 記譜オプション 28, 143

休符 872  
 小節線 517  
 声部 1049  
 ダイアログ 143  
 打楽器キット 1031  
 デフォルトとして保存 143  
 変更 144  
 連桁 545

## 「記譜オプション」ダイアログ 143

## 記譜記号

位置 301, 302  
 外観 139, 301, 302  
 キュー 602, 612  
 コピー 286-288  
 ズームオプション 44  
 スタックの順番 600  
 設定 93, 95, 143, 302  
 選択 42, 276  
 打楽器キット 1032  
 タッキングインデックス 600  
 入力 186  
 プロパティ 139, 140  
 変更 282  
 編集 301

## 記譜されたデュレーション 470, 471

演奏されるデュレーション 470  
 再クオンタイズ 182

## 記譜ツールボックス 140

## 記譜に関するリファレンス 493

## 記譜パネル 135, 142

## 記譜モード 16, 135

「移調」ダイアログ 178  
 音符入力オプション 145  
 音符の入力 149  
 ガイド 284  
 記譜オプション 143  
 記譜記号の入力 186  
 キャレット 152  
 切り替え 135

## 記譜モード（続き）

システムトラック 277  
 ツールボックス 40, 135, 136, 140  
 テキストエディター 269  
 入力と編集 146  
 パネル 39, 135, 138, 139, 142

## ギャラリービュー 42, 49

小節番号 42  
 譜表のスペーシング 397, 399  
 譜表ラベル 42  
 フロー 291  
 への変更 49

## キャレット 149

移動 148, 152, 1017  
 スラッシュ 164  
 スラッシュ付き声部 149  
 声部の指示 149, 163, 628  
 前進 152  
 装飾音符 149, 170  
 挿入モード 149, 156  
 タイプ 149  
 打楽器キット 157  
 デュレーションをロック 149  
 入力と編集 146  
 無効化 152  
 有効化 152  
 リズムグリッド 148  
 和音 26, 149, 171

## キュー 602

アーティキュレーション 612  
 位置 602, 604, 608  
 移調 609  
 移動 604, 606, 611  
 インストゥルメント 271  
 インストゥルメントの移調 609  
 インストゥルメント名 609  
 演奏技法 612  
 音域 605  
 音部記号 602, 616, 617  
 音符の書き換え 608  
 外観 608  
 ガイド 284, 613, 618, 619  
 重ね合わせ 614  
 歌詞 612  
 休符 143, 602, 615  
 強弱記号 612  
 強調表示 618, 619  
 サイズ 602  
 削除 608  
 浄書オプション 608  
 小節休符 143, 616  
 垂直位置 603, 604  
 声部 614  
 装飾音 612  
 タイ 615  
 提案 272  
 テキスト 612  
 デフォルト設定 608  
 内容 608  
 長さ 607  
 入力 271, 272, 274  
 パネル 272, 274  
 非表示 613

## キュー (続き)

- 表示 613
- 表示オプション 618, 619
- 表示される記譜記号 602, 612
- フィルター 280
- 複数 614
- 符尾の方向 614
- 譜表上の位置 604
- ポップオーバー 271
- 無音程楽器 603
- ラベル (「キューラベル」を参照)
- リズム (「リズムによるキュー」を参照)
- リズムによるキューに変換 603

急激な増大を示すヘアピン (「広がり付きのヘアピン」を参照)

## 休止 671

- 位置 673
- 移動 675, 676
- 同じ位置に複数 674
- 外観 282
- 記号 382
- 形式設定 382
- 再生 671
- 削除 286
- 浄書オプション 673
- 小節線 677
- 選択 276
- タイプ 227, 671
- 中間休止記号 (「中間休止記号」を参照)
- デフォルト設定 673
- デュレーション 282
- 入力 227, 229, 230
- パネル 230
- 1つの譜表 675
- フィルター 280
- フェルマータ 671, 677
- 譜表に対する位置 673, 676
- ブレス記号 (「ブレス記号」を参照)
- 変更 675
- ポップオーバー 227, 230
- リンク 675

## 旧バージョン 62

## キューパネル 272

## 休符 869

- tacet al fine 876
- 暗黙 869-871
- 位置 869
- 移動 385, 876
- カラー 872
- 記号 382
- 記譜オプション 872
- キュー 602, 615, 616
- 空白の小節 874
- グループ化 559
- 形式設定 382
- 削除 873
- 浄書オプション 872
- 小節休符 (「小節休符」を参照)
- ステムレット (「ステムレット」を参照)
- 声部 869, 871, 876
- タイプの変更 871
- 打楽器キット 143
- 長休符 872, 874-876

## 休符 (続き)

- デフォルト設定 872
- デュレーション 160
- デュレーションの強制 162
- 統合 143, 871, 874, 875
- 入力 136, 162, 168, 169
- 配置 869
- 非表示 863, 873-875
- 表示 873-875
- 復元 873
- 符点 143
- 明示的 869-871
- 余白 615, 863

休符のグループ化 (「音符のグループ化」を参照)

## キューラベル 609

- 移動 611
- オクターブの移調 603, 606
- テキスト 609
- 内容 609
- 譜表に対する位置 610
- 変更 610

## 強弱

- アーティキュレーション 503
- 強弱記号 620

## 強弱記号 620

- poco a poco 637
- 位置 621, 622
- 移動 623, 624
- 延長線 620, 631
- 外観 621
- ガイド 284, 631
- 括弧 626
- 記号 382
- キュー 612
- 強弱 620
- 強弱のカーブ 644
- 局部的 620
- グループ化 638-640
- グループ化の解除 640
- クレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照)
- 形式設定 382
- 結合 621
- コピー 627
- 再生 440
- 再生オプション 644
- 再生時にミュート 439
- 削除 628
- サスティン楽器 644
- 終端の位置 625
- 浄書オプション 621
- 小節線 625
- 小節リピート記号 850
- スペーシング 637
- 声部固有 213, 214, 628
- 整列 625
- 選択 276
- タイプ 210, 620
- 打楽器キット 1034
- 段階的 (「段階的強弱記号」を参照)
- ディミヌエンド (「段階的強弱記号」を参照)
- デフォルト設定 621
- 長さ 624, 632
- ニエンテのヘアピン 629

## 強弱記号 (続き)

- 入力 210, 212–214
- 背景 626
- 背景の塗りつぶし 626, 627
- 配置 622, 623, 625, 638–640
- パネル 214
- ハンドル 624, 631–634
- 非サスティン楽器 644
- 非表示 631
- ヒューマナイズ 644
- 表記規則 621
- 表現テキスト 210, 212, 630
- 広がり付きのヘアピン 635, 636
- フィルター 280, 627
- フォントスタイル 642, 643
- 譜表に対する位置 622
- ヘアピン (「ヘアピン」を参照)
- 変更 282
- ポップオーバー 210, 213
- 余白 627
- リピート 440
- リンク 282, 640–642
- リンクの解除 282, 642
- 強弱記号のグリフ 620
- フォントスタイル 643
- 強弱記号の修飾語句 620
- フォントスタイル 642, 643
- 強弱記号パネル 212, 214
- 強弱のカーブ 644
- 強調記号 503
- 入力 186
- 強調表示
- キュー 618, 619
- 小節リピート記号 849, 852
- スラッシュ領域 859, 860
- 局部的強弱記号 (「強弱記号」を参照)
- 距離
- キュー 604
- 組段のインデント 938
- 小節番号 534
- 大括弧 562, 563
- テキストの枠線 341, 381
- 符頭 552
- 符尾 552
- 譜表ラベル 907
- リハーサルマークの囲み線 815
- 切り替え
- 音符のスペーシングのハンドル 393
- タブ 47
- ハンドル 301
- 譜表のスペーシングのハンドル 400
- フレームハンドル 327
- モード 16
- レイアウト 13, 33, 45
- 切り取り
- スラッシュ領域 863
- タイのつながり 982
- 金管楽器
- 演奏技法 244
- スライドポジション 657
- フィンガリング 646, 653, 656
- ホルンの支管の指示記号 653, 656

## &lt;

- 空白の小節
- キュー 615
- 休符 874
- 削除 511
- 長休符 874
- 入力 207
- 幅 512
- 空白の声部 1050
- 空白の譜表
- タチエット 355
- 非表示 355, 397
- 表示 355, 397
- 空白ページ 311
- 削除 312, 313
- 挿入 313
- 譜表のスペーシングの変更 396
- 空白領域 (「塗りつぶされた背景」を参照)
- グルード
- リピートマーカー 841
- クオリティー
- コード記号 217, 221, 571, 581
- クオンタイズ
- MIDI の読み込み 70
- MIDI 録音 180
- 再クオンタイズ 182
- ダイアログ 72
- 変更 182
- 連符 72
- 区切り
- 組段 362
- タイのつながり 982
- 長休符 874
- フレーム 360
- ページ 360
- 区切り用文字
- 組段 (「組段の分割記号」を参照)
- コード記号 580
- タイムコード 828
- 拍子記号 992, 1001
- フィンガリング 656
- くさび形符頭 719
- 組段
- 移動 400, 401
- インデント 394, 910, 916, 937, 938
- インデントの変更 938
- 開始位置 394
- 間隔 840
- 区切り (「組段区切り」を参照)
- 組段に変換 363
- 形式設定 295
- コードの間隔 845
- 終了位置 394
- 小節線 518
- 小節の固定 359
- 小節番号 526
- 垂直位置 (「組段のスペーシング」を参照)
- スペーシング (「組段のスペーシング」を参照)
- セクション 840
- 選択 276
- タイムコード 831
- ディヴィジ 939, 942

## 組段 (続き)

テキスト (「組段テキスト」を参照)  
 トラック (「システムトラック」を参照)  
 配置設定 359  
 幅 353, 394  
 譜表サイズ 919  
 譜表冒頭部 930  
 譜表ラベル 938  
 分割 840  
 分割記号 (「組段の分割記号」を参照)  
 ページあたりの数を固定 359  
 密度 (「組段密度表示」を参照)  
 リpeat小節線 517

## 組段オブジェクト 935

位置 936, 937  
 サイズ 916, 918-920  
 テキスト 268  
 テンポ記号 960, 963  
 拍子記号 997, 1004  
 リハーサルマーク 813, 817  
 リpeat括弧 832, 835  
 リpeatマーカー 845

## 組段区切り 295, 345, 362

ガイド 284, 362, 364  
 強弱記号 634  
 組段に変換 363  
 削除 364  
 自動的 359  
 小節リpeat記号 359, 362  
 スラー 903  
 挿入 362  
 タイ 979  
 ディヴィジ 939  
 フィルター 280  
 譜表サイズ 919  
 譜表のスペーシング 397  
 譜表ラベル 911  
 ヘアピン 634  
 別のレイアウトへコピー 364-366

## 組段テキスト 935

移動 378  
 入力 268  
 塗りつぶされた背景 381  
 背景 381  
 複数の位置 936  
 譜表からの位置 935  
 譜表に対する位置 379  
 余白 381  
 枠線 380

## 組段の形式設定 364

別のレイアウトへコピー 366

## 組段の小節線 518

## 組段のスペーシング 294, 395, 397

デフォルト設定 395, 397  
 ハンドル 386, 396, 400  
 変更 397, 400  
 両端揃え 353, 395, 397

## 組段の途中の間隔

コーダ 840, 845

## 組段の分割記号 934

記号 382  
 形式設定 382  
 幅 935

## 組段の分割記号 (続き)

非表示 934  
 表示 934

## 組段密度表示 387

## グラフィック

演奏技法 806  
 コード記号 576  
 ファイル (「グラフィックファイル」を参照)  
 符頭 722, 726  
 臨時記号 685

## グラフィックファイル 480, 489

書き出し 480, 481  
 画像解像度 490  
 カラー 483  
 形式 343, 489  
 白黒 483  
 ファイル名 482  
 フォント 484

## グラフィックフレーム 343

イメージの読み込み 343  
 選択 327  
 入力 325

## ファイル形式 343

## クリック 182, 450

MIDI 録音 180  
 カウントイン 183  
 再生 182  
 設定 182  
 ミキサー 448

## グリッサンドライン 760

位置 760  
 移動 763  
 外観 761  
 角度 764, 765  
 形式設定 761  
 削除 286  
 浄書オプション 761  
 スタイル 761  
 線のスタイル 761  
 タイプ 233  
 テキスト 762, 763  
 デフォルト設定 761

## 長さ 763

入力 232, 233, 238, 239, 761

## パネル 239

## ハンドル 763, 765

## 非表示 763

## 表示 763

## フィルター 280

## 太さ 761

## 変更 282

## 方向 733

## ポップオーバー 233, 238

## グリッド

インストゥルメントグループ 114

## 間隔 117

## グループ名の変更 115

## 打楽器キット 1034, 1035

## 譜表 914, 1034

## リズム 148

## グリフ

演奏技法 806

音楽記号 382

## グリフ (続き)

強弱記号 643  
 形式設定 382  
 コード記号 576  
 トリル 735, 737  
 フォント 369, 643  
 符頭 722, 726  
 ペダル線 789  
 臨時記号 166, 685

## グループ

インストゥルメント (「インストゥルメントのグループ」を参照)  
 音符 559  
 角括弧 561, 566  
 休符 559  
 強弱記号 638–640  
 小節リピート記号 857  
 タブ 47, 48  
 中括弧 561, 566  
 譜表 520, 522, 523, 566–569  
 譜表のスペーシング 397  
 譜表ラベル 907, 908  
 プレーヤー (「プレーヤーのグループ」を参照)  
 連桁 545, 559, 560

## クレッシェンド 620, 631

組段区切り 634  
 終端の広がり 635, 636  
 入力 210, 213, 214

## 黒玉符頭 717

## け

## 警告

異なるバージョンの Dorico 62

## 形式 (「ファイル形式」を参照)

## 形式設定

アルペジオ記号 752  
 演奏技法 803, 806  
 オルタードユニゾン 498  
 音楽記号 382  
 角括弧 296, 564  
 記号 382  
 強弱記号のフォント 643  
 組段 295, 364  
 グリッサンドライン 761  
 コード記号 573, 575, 576  
 小節線 296, 518  
 小節番号 525, 527  
 小節リピート記号 855  
 スラー 891, 893, 900, 901  
 スラッシュ符頭 860  
 タイ 983, 987–989  
 タイムコード 824  
 タレット 355, 357  
 中括弧 296  
 ディヴィジ作成 943  
 ディヴィジの譜表ラベル 947, 948, 950  
 テキスト 269, 270, 367, 370, 372, 373, 375, 376  
 テンポ記号 972–974  
 トレモロ 1013  
 ハンドル 301  
 拍子記号 1006  
 ファイル名 482

## 形式設定 (続き)

符頭 722, 726, 729  
 譜表ラベル 907  
 フレーム 295, 297, 364  
 フレーム制限 344  
 フロー見出し 321  
 ページ 345, 364–366, 660  
 ページレイアウト 305, 311, 359  
 ペダル線 790, 792, 793  
 マーカー 823, 824  
 前付け 660  
 マスターページ 304, 309, 310, 322  
 リピートマーカー 841  
 レイアウト 306, 364–366  
 連符 1019, 1025

## 形式設定パネル 293, 295

## 傾斜

オクターブ線 595, 596  
 ペダル線のフック 790  
 連桁 547, 669

## 形状

小節番号の囲み線 528, 529  
 スラー 888–893, 896  
 タイ 983  
 複数セグメントによるスラー 890  
 符頭 717, 721, 722  
 フレーム 327  
 リハーサルマークの囲み線 814, 815  
 連桁 549, 554, 557  
 連符の角括弧 1021, 1023, 1024

## 結合

オシリア譜表 932  
 小節線 517, 520, 522, 523, 564, 569, 932  
 小節線を表示した譜表 521  
 声部 289

## 結合式強弱記号 (「強弱記号」を参照)

## 結合拍子の拍子記号 993

## 弦楽器

演奏技法 241, 244, 245, 798  
 替え指のフィンガリング 647  
 弦の指定 733  
 フィンガリングのシフト 658

## 言語

キーボードショートカット 53, 56

## 検索

アンサンブル 87  
 インストゥルメント 87  
 キーボードショートカット 53, 54

## 献呈 660, 661

テキストトークン 335

## 弦のシフト指示 658

角度 658  
 太さ 658  
 方向 658, 733

## こ

## 交互拍子の拍子記号 993

## 格子状配列

臨時記号 496

## 構成要素 482

アーティキュレーション 505  
 演奏技法 806

## 構成要素 (続き)

コード記号 216, 571, 576  
テンポ記号 968  
符頭 722, 726  
臨時記号 685

## 候補メニュー

演奏技法のポップオーバー 241  
キューのポップオーバー 271  
テンポのポップオーバー 199

## ゴーストノート 1032

浄書オプション 1030

## コーダ 840

外観 841  
組段の途中の間隔 840, 845  
サイズ 841, 842  
小節線 517, 844  
セクション 840  
入力 262, 263  
フォント 841  
複数 841, 842

## コーデック 129

## コード 335

タイム 828  
トラック 430

## コード記号 571

MIDI での操作 55, 145  
MIDI 入力 215, 220  
MusicXML の読み込み 586  
位置 582  
移調 126, 580  
移調楽器 126, 585  
移動 583  
異名同音の表記 145, 585  
オミット 217  
オルタレーション 571  
オンコード 221  
音程 217  
外観 571-573, 575, 576  
外観をリセット 579  
ガイド 284  
クオリティ 221, 581  
区切り用文字 580  
構成要素 (「コード記号の構成要素」を参照)  
再生 430, 431  
削除 286  
サスペンション 217  
浄書オプション 571  
ダイアログ 573, 575, 576  
タイプ 216, 571, 572  
デフォルト設定 145, 571  
デフォルトとして保存 579  
トラック 430  
入力 215, 216, 219-221  
入力中のナビゲーション 219  
入力の設定 145  
配置 582  
ピッチ 126  
非表示 581, 584  
表示 581, 584  
フィルター 280  
フォント 580  
付加音 217  
譜表 584

## コード記号 (続き)

変更 282  
ポップオーバー 145, 216  
ポリコード 218, 221  
モーダル 218, 585  
臨時記号 571  
ルート 216, 221, 581  
和音なし 218

「コード記号の外観を編集」ダイアログ 575

## コード記号の構成要素 571

アタッチメントポイント 576  
タイプ 571  
入力 216  
ハンドル 573, 575, 576  
ポップオーバー 216

「コード記号要素の編集」ダイアログ 576

## コードトラック 430

## コーナー

オクターブ線 595, 596

## コーラスの歌詞 699

ポップオーバー 249  
ラインを変更 709

## 五重奏のテンプレート 59

譜表のグループ化 60, 564

## 5 線のサイズ 917

## 5 線譜 916

打楽器キット 1034, 1035  
打楽器のレジェンド 1041  
符頭 1038, 1040

## 固定

音符のデュレーション 162, 169  
組段 363  
組段あたりの小節数 359  
フレーム 361  
ページあたりの組段数 359

## 固定テンポ変更 961

構成要素 968

## 固定テンポモード 439

## 古典派

装飾音 234  
トリル 748, 750

## コピー 285-288

アーティキュレーション 504  
エクスプロード 289  
音符 504  
強弱記号 282  
スラー 282  
声部への音符の貼り付け 287  
ディヴィジ 944  
パート形式 364, 366  
譜表 944  
譜表のスペーシング 402  
フレーム 310, 328  
プレーヤー 98  
プロパティ 367  
ページレイアウト 310, 365  
マスターページ 310  
リデュース 289

## コマンド

MIDI 55

## 小文字

- フロータイトル 337
- リピートマーカのテキスト 841
- ローマ数字 337
- コモンタイム 678, 993
  - 入力 194
- コルレーニョ 798
  - 入力 245
- コンソルディーノ 798
  - 入力 241, 245
  - 非表示 803
- コントローラー
  - MIDI 422
  - エクスペッションマップ 456
  - オートメーション 422
- コントロールチェンジ
  - エクスペッションマップ 457
- コンマブレス記号 673

## さ

- 最近使用したプロジェクト 62
- 最終的なテンポ 971
  - 段階的テンポ変更 971
- 最初の組段
  - インデント 938
- 最初のページ
  - 形式設定 348
  - ページ番号 776
  - マスターページ 307, 348
- 最初のマスターページ
  - 置き換え 307
- サイズ
  - オーディオバッファ 183, 184
  - オシニア譜表 929
  - 音符 729
  - 音部変更記号 590
  - 歌詞 711
  - 間隔 117, 901, 989
  - 基準単位 57
  - キュー 602
  - 組段オブジェクト 918-920
  - コード記号 842
  - 小節番号 527
  - セーニョ記号 842
  - 装飾音符 664, 667, 729
  - テンポ記号 961
  - トラック 417, 434
  - 「ビデオ」ウィンドウ 132
  - 拍子記号 996, 998
  - 広がり付きのヘアピン 636
  - フィンガリング 651, 654
  - 符頭 717
  - 譜表 93, 918-920
  - 譜表ラベル 907
  - フレーム 327
  - ページ 93, 346, 488
  - メトロノームマーク 961
  - 用紙 488
  - リハーサルマーク 821
  - リピートマーカ 841

## 再生 436, 812

- Silence 再生テンプレート 441
- アーティキュレーション 509
- アルペジオ記号 757, 758
- インストゥルメント 456, 464
  - 上書き 471
- エクスペッションマップ 456, 457
- 演奏回数 848
- 演奏技法 461, 463, 809, 812
- エンドポイント 452, 454, 455
- オーディオの書き出し 78
- オーディオバッファサイズ 183, 184
- オーディオを書き出し 78
- オシニア譜表 927
- オプション 409
- 音符 281
- 音符のデュレーション 470
- 音符の非表示 862
- 音符の録音 181
- 開始 436
- カスタムの調性システム 690
- 環境設定 50
- 休止 671
- 強弱のカーブ 644
- クリック 450
- コード記号 430, 431
- 固定テンポ 439
- 再生ヘッド 435
- ジャズアーティキュレーション 766
- 小節リピート記号 850
- スウィング 442, 444-446
- スラー 904
- スラッシュ領域 862
- 選択範囲 436
- ソロ 437, 438
- 打楽器 455, 464, 465, 1036, 1038
- チャンネルストリップ 449
- チューニング 440
- 追従テンポ 439
- ディヴィジ 951
- デフォルト設定 442
- デフォルトのテンポ 960, 967
- テンプレート 407, 442, 452
- テンポ 450, 970, 971
- テンポの等式 974
- トリル 748, 749
- トレモロ 1014
- パッチ 452
- 早送り 435
- 非表示の譜表 922
- 微分音 690
- フェーダー 448
- 複数のウィンドウ 48
- プラグイン 448
- プリロール 440
- ペダル線 796
- ボリューム 439, 448
- ボリュームのリセット 439
- 巻き戻し 435
- ミキサー 448, 449
- ミュート 437-439
- メトロノーム 450
- ライン 435

- 再生 (続き)  
リズムフィール 445, 446  
リピート 440, 847, 848  
リピート回数 848  
臨時記号 690  
和音 281
- 再生オプション 28, 409  
強弱記号 644  
スウィング再生 444  
スラー 904  
ダイアログ 409  
タイミング 509, 757  
デフォルトとして保存 409  
トリル 748  
トレモロ 1014  
ペダル線 796  
リピート 440
- 「再生オプション」ダイアログ 409  
再生ツールボックス 405  
再生テンプレート 441  
上書き保存 441  
変更 442  
メトロノームクリック 182  
リセット 442
- 再生ヘッド 435  
位置 436  
移動 435  
再生 436  
ズーム 417  
トランスポート 450, 451  
早送り 435  
巻き戻し 435  
リピート 440
- 再生モード 16, 404  
VST 2 プラグインをホワイトリストに設定する 409  
イベントディスプレイ 411  
インストゥルメントのロード 408  
ウィンドウの要素 404  
上書き 471  
エクスプレッションマップ 456, 461  
エクスプレッションマップの書き出し 464  
「エンドポイントの設定」ダイアログ 452  
音符の移動 414  
音符の削除 416  
音符のデュレーション 415, 470, 471  
音符の入力 413  
切り替え 404  
再生 409, 436  
再生ヘッド 435  
ズーム 417  
チャンネルストリップ 449  
ツールボックス 404, 405  
トラック 417, 434  
ドラムエディター 413  
トランスポート 34, 450  
パーカッションマップ 464  
パネル 39, 404, 406  
ピアノロールエディター 412  
ミキサー 448, 449  
無音程打楽器 1045
- 再表示  
トリルの音程 735  
臨時記号 502
- 再読み込み  
ビデオファイル 130  
サウンド (「再生」を参照)  
サウンドトラック  
オーディオ 133  
ボリューム 133  
サウンドライブラリー (「サンプルライブラリー」を参照)  
作詞者 92  
テキストトークン 335  
デフォルトのマスターページ 660
- 削除 286, 293  
アーティキュレーション 504  
アルペジオ記号 286  
インストゥルメント 110  
演奏技法 286  
オートメーション 425  
オクターブ線 599  
オッサ譜表 932  
音符 286, 416  
音部記号 590  
音符のスペーシングの変更 392, 395  
音符の複製 289  
角括弧 569  
歌詞 708  
キーボードショートカット 56  
キットからインストゥルメント 117  
キュー 608  
休止 286  
休符 873  
強弱記号 628  
組段区切り 364  
グリッサンドライン 286  
ジャズアーティキュレーション 771  
小節 205, 510-512  
小節線 519  
小節線の結合 523  
小節番号の変更 537  
小節リピート記号 286  
ステムレット 557  
スラー 286  
スラッシュ符頭 286  
声部 1050  
装飾音 286  
装飾音符 286  
タイ 982  
打楽器キットのグループ 116  
中央配置の連符 550  
中括弧 569  
中間休止記号 286  
調号 690  
テンポ記号 967  
テンポ変更 429  
トリル 286  
トレモロ 1011  
拍 205, 510  
パラグラフスタイル 373  
ビデオ 132  
拍子記号 1006  
フィンガリング 653  
フェルマータ 286  
符尾の方向の変更 957  
譜表 922  
譜表のスペーシングの変更 401



## 削除 (続き)

フレーム区切り 362  
 プレーヤー 104  
 プレーヤーグループ 119  
 プレス記号 286  
 フロー 123  
 フローからプレーヤーを 121  
 フロー見出し 324  
 フロー見出しの変更 320  
 プロジェクトの自動保存 80  
 ページ 312, 313  
 ページ番号の変更 316  
 ペダル線 286  
 マーカー 286  
 マスターページ 309  
 マスターページのセット 306  
 マスターページの変更 317  
 ユニゾンの音符 289  
 リズミックフィールの変更 445  
 リデュース 289  
 リハーサルマーク 818  
 リピート括弧 286  
 リピートマーカー 286  
 臨時記号 494  
 レイアウト 128  
 レイアウトからプレーヤーを 124  
 レイアウトからフローを 125  
 連桁 544  
 連符 1019, 1020  
 作成 (「入力」を参照)  
 サスティン楽器 645  
 サスティンペダル 779  
   MIDI コントローラー 185, 796  
   MusicXML の読み込み 797  
   延長線 792  
   浄書モード 780  
   入力 243, 246, 247  
   ハンドル 780  
   ポップオーバー 243, 246  
   リテイク 247, 248, 780, 782  
   リテイク/強さの変更指示の削除 784  
   レベルの変更指示 247, 248, 780  
 サスペンション  
   コード記号 217  
 作曲者 92  
   テキストトークン 335  
   デフォルトのマスターページ 660  
 冊子印刷 486  
   印刷 485, 486  
   両面印刷 487  
 サブ小節番号 538  
   外観 539  
   追加 538  
 サブページ番号 315  
   数字スタイル 314, 315  
 三角形符頭 719  
 三重小節線 206, 515  
   入力 209  
 三重付点音符 156  
 三重臨時記号  
   書き換え 166  
 讚美歌スタイルのリピート小節線 517

サンプリングされたトリル 748, 749  
   無効化 749  
   有効化 749  
 サンプルライブラリー 464  
   再生 456, 464  
   トリル 748  
   パーカッションマップ 467

## し

シーケンス  
   サブ 538  
   小節番号 536-538  
   タイプ 819  
   ページ番号 314, 315, 347  
   リハーサルマーク 819  
 シェイク 767  
   入力 233, 235, 236  
 四角の符頭 721  
 時間  
   トランスポートウィンドウ 450  
   ビデオ 131  
   レイテンシー 179, 183, 184  
 ジグザグ配列  
   臨時記号 496  
 指示  
   親指 188  
   キャレット 628  
   弦のフィンガリング 658, 733  
   声部 628  
   フィンガリング 188, 656  
   ホルンの支管 656  
 指示記号  
   トリルの音程 743, 747  
 四重奏のテンプレート 59  
   譜表のグループ化 60, 564  
 システム  
   調性 680  
   トリル記号 740  
 システムトラック 277  
   楽譜の削除 511  
   楽譜の選択 279  
   小節の入力 208  
   拍の入力 208  
   非表示 278  
 下の音符  
   トリル 750  
 下パネル 39  
 舌を鳴らす 798  
   入力 241, 245  
 試聴  
   MIDI デバイス 179  
   音符 179, 281  
   和音 281  
 実音 127  
   インストゥルメントの移調 913  
   音部記号 591, 592, 616  
   キュー 616  
   ステータス表示 41  
   打楽器のレジェンドの範囲 1040, 1041  
   デュレーション 1014  
   ピッチの入力 152  
   表示 126

- 実音 (続き)  
 譜表ラベル 905, 913  
 レイアウト 123, 126
- 実線  
 スラー 899  
 タイ 987  
 テンポ記号 973
- 自動保存 80  
 音程 81  
 場所 81  
 プロジェクトの削除 80  
 無効化 82  
 「自動保存したプロジェクトを回復」ダイアログ 80
- シャープ 494  
 書き換え 166  
 括弧 495  
 入力 165  
 非表示 495  
 表示 495  
 フィルター 280  
 1/4 音 498
- ジャズ  
 アーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照)  
 音楽フォント 369  
 グリフ 369  
 コード記号 572  
 バンドのテンプレート 59, 60  
 譜表のグループ化 60, 564
- ジャズアーティキュレーション 766, 767  
 位置 768, 769  
 移動 768, 769  
 外観 768, 770  
 再生 766  
 削除 771  
 浄書オプション 768  
 スムーズ 766  
 線のスタイル 770  
 装飾音 (「ジャズの装飾音」を参照)  
 タイプ 234, 766, 770  
 デフォルト設定 768  
 デュレーション 770  
 長さ 768, 770  
 入力 232, 234, 240  
 パネル 240  
 ハンドル 768  
 変更 770  
 ベンド 766  
 ポップオーバー 234, 240
- ジャズの装飾音 767  
 タイプ 233  
 入力 233, 235, 236  
 ポップオーバー 233
- 斜線  
 臨時記号のスタック 496
- 斜体  
 歌詞 712  
 強弱記号 620  
 フィンガリング 653, 655
- 弱起 (アウフタクト) 993, 995  
 小節の変換 995  
 入力 194, 197, 198  
 拍の削除 205, 510, 511
- ジャンプ  
 再生 847  
 入力 262, 263  
 反復 840
- ジャンプ記号 (「リピートマーカー」を参照)  
 重音のトレモロ 1008  
 移動 1012  
 外観 1013  
 削除 1011  
 タイプ 257  
 入力 264, 265  
 速さ 1010  
 ポップオーバー 257
- 終止線 206, 515, 517  
 演奏回数 848  
 入力 209
- 修飾キー  
 キーボードショートカット 53  
 検索 53
- 修飾語句  
 強弱記号 210, 212
- 終端の位置  
 アルペジオ記号 753  
 オクターブ線 598  
 強弱記号 625  
 スラー 879, 881, 882, 889-891  
 タイ 976  
 トリル 739  
 譜表線 881  
 ペダル線 787  
 リピート括弧 837  
 連符の括弧 1024
- 周波数  
 スラッシュ領域のカウント 866  
 タイムコード 831
- 重要なマーカー 254, 826  
 終了位置の小節線 517
- 縮尺サイズ  
 印刷 477, 488  
 オツシア譜表 929  
 音符 729  
 音符のスペーシング 388, 389  
 音部変更記号 590  
 キュー 388  
 コード記号の構成要素 573, 575, 576  
 小節線 515  
 装飾音符 388, 664, 667  
 フィンガリング 651  
 譜表 917, 920, 921
- 出力  
 オーディオ 50  
 プラグイン 452  
 ミキサー 452
- 出力先  
 インストゥルメント 602  
 ファイルの書き出し 481
- 出力チャンネル  
 ミキサー 448
- 取得 (「復元」を参照)  
 (「非録音時の MIDI 入力データを記録」も参照)
- 順番  
 アーティキュレーション 506  
 インストゥルメントのナンバリング 106

## 順番 (続き)

オーケストラ 118  
音符 1051  
スコア 104  
声部 143, 1051  
打楽器キット内のインストゥルメント 116  
タブ 47  
調号 678  
フレームチェーン 330, 332, 333  
プレーヤー 104  
リハーサルマーク 819  
リピートマーク 842  
臨時記号 496, 678  
レイアウト 127

## 詳細設定

非表示 40  
表示 40

## 浄書オプション 28, 302, 303

アーティキュレーション 505  
アルペジオ記号 756  
演奏技法 798  
延長 673  
オクターブ線 594  
オッサ譜表 932, 933  
音楽フォント 369  
音符 715, 952  
歌詞 698  
加線 715  
キュー 608  
休止 673  
休符 872  
強弱記号 621  
グリッサンドライン 761  
コード記号 571  
ジャズアーティキュレーション 768  
詳細設定 40  
小節線 517, 932  
小節番号 526  
小節リピート記号 850  
スラー 883  
スラッシュ符頭 860  
装飾音 735  
タイ 978  
ダイアログ 302  
タイムコード 830  
打楽器 1030  
中間休止記号 673  
調号 680  
テキスト 268  
デフォルトとして保存 302  
テンポ記号 968  
トリル 735  
トレモロ 1013  
拍子記号 992  
フィンガリング 647  
フェルマータ 673  
符尾 715, 952  
譜表ラベル 907  
ブレス記号 673  
ペダル線 789  
変更 303  
マーク 822, 830  
リハーサルマーク 814

## 浄書オプション (続き)

リピート括弧 833  
リピートマーク 841  
臨時記号 496  
連符 1017

## 「浄書オプション」ダイアログ 302

## 浄書モード 16, 293

アイテムの選択 294  
音符のスペーシング 385  
ガイド 284  
楽曲フレーム 328  
切り替え 293  
組段区切り 362  
組段に変換 363  
グラフィックフレーム 343  
「浄書オプション」ダイアログ 302  
ツールボックス 294  
テキストエディター 376  
テキストの移動 378  
テキストフレーム 335  
配置設定 359  
パネル 39, 293, 295, 298, 301  
譜表のスペーシング 395  
フレーム 325  
フレーム区切り 360  
フレームチェーン 330  
フレームに変換 361  
ページ区切り 360  
ページレイアウト 345

## 小節 510

カウントイン 183  
数 526  
組段あたりの数を固定 359  
グリッサンドライン 761  
グループ化 857  
結合 514  
コンテンツの削除 512  
削除 205, 510, 511  
弱起 (アウフタクト) 995  
小節休符 169, 874, 876  
選択 279  
タイムコード 831  
長休符 874, 875  
ディスプレイ 450, 451  
デュレーション 512  
入力 204-208  
パネル 206, 207  
幅 512  
分割 513  
ポップオーバー 204, 205, 207  
リピート記号 849

## 小節休符 874

移動 876  
キュー 143, 615, 616  
長休符 875  
入力 169, 205  
非表示 874  
表示 874

## 小節線 515

移動 519, 520  
オッサ譜表 932  
外観 517  
ガイド 284

## 小節線 (続き)

- カスタムの結合 569
  - 間隔 381, 626, 802
  - 記号 382
  - 記譜オプション 517
  - 強弱記号 625
  - 組段 518
  - 形式設定 296, 382
  - 結合 296, 520, 564, 569
  - 結合のカスタマイズ (「小節線の結合」を参照)
  - コード 517
  - 最終 515
  - 削除 519
  - 三重 206
  - 讚美歌スタイル 517
  - 終了位置の小節線 517
  - 縮尺サイズ 515
  - 浄書オプション 517
  - スペーシング 519
  - 装飾音符 666
  - タイプ 206, 515
  - 単一 515
  - 段階的テンポ変更 966
  - 中間休止記号 231
  - 調号 691
  - 調号の変更 518
  - ティック 515
  - デフォルト設定 517
  - 二重 515, 844
  - 入力 204, 206, 209, 513
  - 破線 515
  - パネル 206, 209
  - 反復 515, 517, 848
  - 非表示 381, 626, 802
  - 拍子記号 521, 1004
  - フェルマータ 677
  - 太さ 515, 517
  - 譜表 520, 521
  - 譜表のグループ化 296, 521, 564, 566
  - 譜表をまたぐ 296, 520, 521
  - ポップオーバー 204, 206, 209
  - 短い 515
  - リセット 569
- 小節線の結合 520, 521, 566
- 削除 523
  - 長さ 523
  - 入力 522
  - 分割 523
- 小節線 (太線) 206, 515
- 入力 209
- 小節と小節線パネル 206, 207, 209
- 小節の時間 (「リピート括弧」を参照)
- 小節番号 525
- 位置 533, 534
  - 移動 533-535
  - 外観 525, 539, 541
  - ガイド 284, 532
  - 囲み線 525, 528, 529
  - ギャラリービュー 42
  - サイズ 527
  - 削除 537
  - サブ 538, 539
  - シーケンスの変更 536

## 小節番号 (続き)

- 弱起 (アウトタクト) 995
  - 浄書オプション 526
  - 先頭 541
  - 代替 539
  - デフォルト設定 525, 526
  - パートレイアウト 531
  - パラグラフスタイル 527, 528
  - 範囲 532
  - 非表示 532, 535
  - 表示 532
  - 拍子記号 535
  - 頻度 526
  - フォント 525, 527, 528, 539
  - 譜表に対する位置 534
  - プライマリーシーケンスに戻す 539
  - 変更 537
  - 末尾 541
  - リピートセクション 539
  - リピートの算入 540
  - リピートの除外 540
  - リピートの2回め以降 539, 541
  - レイアウトオプション 525
- 小節番号のプライマリーシーケンス
- 変更 537
  - 戻す 539
- 小節リピート記号 849
- 移動 851
  - カウント 852, 853
  - カウントの移動 856
  - カウントの非表示 855
  - 数の変更 853
  - 括弧 855
  - 記号 382, 857
  - 強弱記号 850
  - 強調表示 849, 852
  - 組段区切り 362
  - グループ化 857
  - 形式設定 382
  - 再生 282, 850
  - 削除 286
  - 浄書オプション 850
  - 小節番号 532
  - タイプ 258
  - 長休止符 875
  - デフォルト設定 850
  - 統合 875
  - 長さ 851
  - 入力 258, 267
  - 配置設定 359
  - パネル 258
  - ハンドル 851
  - 表示オプション 852
  - 頻度 854
  - フィルター 280
  - フォントスタイル 852, 855
  - フレーズの長さ 282, 850
  - フレーム区切り 360
  - 変更 282, 850
  - ポップオーバー 258
  - 領域 849

## 衝突回避

アーティキュレーション 508  
 ギャレービュー 399  
 スラー 884, 902, 903  
 タイ 976  
 テキスト 379

## 小副括弧 563

ガイド 567  
 カスタムのグループ化 566, 567  
 形式設定 296  
 削除 569  
 長さ 568  
 入力 567  
 リセット 569

## ショートカット

MIDI 51  
 キーボードショートカット 51, 55

## 除外

小節番号からのリピート回数 540  
 フローからプレーヤーを 96, 121  
 レイアウトからプレーヤーを 96, 124  
 レイアウトからフローを 96, 125

## ジョブタイプ 475, 485

印刷 485  
 選択 485  
 ページ範囲 479

## 白黒のグラフィック 483

## 白玉符頭 717

## 新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール 502

## 新規プロジェクト

開始 59  
 テンプレート 58, 59

## シンコペーション

ステムレット 556

## 親切フィンガリング 655

括弧 655  
 非表示 655  
 表示 655

## 親切臨時記号 501

括弧 501  
 タイのつながり 495  
 非表示 495, 501  
 表示 495, 501

## す

## 図

書き出し 480  
 フレーム 343

## 垂直位置

アーティキュレーション 505-509  
 アイテムの反転 283  
 インストゥルメント 104  
 演奏技法 799, 800  
 歌詞 697, 699, 702  
 キュー 603, 604  
 休止 673  
 休符 869  
 強弱記号 621  
 組段 353, 395, 397  
 組段オブジェクト 936, 937  
 組段テキスト 936, 937  
 コード記号 582

## 垂直位置 (続き)

小節番号 534  
 スタックの順番 (「垂直スタックの順番」を参照)  
 スラー 879  
 スラッシュ符頭 862  
 装飾音 737  
 タイ 976  
 タイムコード 822, 829  
 タチエット 358  
 中間休止記号 674  
 テキスト 341, 379, 935  
 テンポ記号 935-937, 963  
 トリル 737  
 トレモロ 1010  
 拍子記号 935, 996, 998, 1002, 1005  
 フィンガリング 646  
 フェルマータ 674  
 譜表 353, 395, 397, 400  
 プレーヤー 104  
 プレス記号 674  
 フロー見出し 321, 350, 351  
 ペダル線 785  
 変更 283  
 マーカー 822, 823, 829  
 リハーサルマーク 813, 817, 935-937  
 リピート括弧 835, 935-937  
 リピートマーカー 845, 846, 936, 937  
 レイアウト 127  
 連符 1016

## 垂直スタックの順番 600

変更 601  
 臨時記号 496

## 垂直方向のスペーシング

アーティキュレーション 505, 507  
 オシリア譜表 927  
 組段 (「組段のスペーシング」を参照)  
 打楽器キット 117  
 タチエット 358  
 譜表 (「譜表のスペーシング」を参照)

## 垂直方向の配置

テキスト 341

## 水平位置

アーティキュレーション 507  
 アルペジオ記号 754  
 演奏技法 798  
 音符 385, 1048, 1051  
 歌詞 697  
 休符 869  
 強弱記号 621, 622  
 組段 394  
 コード記号 582  
 小節番号 533  
 スタッカート 507  
 装飾音 737  
 タイ 976  
 テンポ記号 963  
 トリル 737  
 拍子記号 992  
 付点 733  
 譜表 926  
 リハーサルマーク 813  
 連符 1016

- 水平位置 (続き)
  - 連符の数字 1026
  - 連符の比率 1026
- 水平方向の配置
  - 強弱記号 625
  - 装飾音 737
  - テキスト 342, 373
- スウィング再生 442
  - 3 連符 443
  - カスタムリズムフィールド 445
  - テンポ 446
  - 比率 443
  - 編集 446
  - ポップオーバー 200
  - 無効化 445
  - 有効化 200, 444
  - リズムフィールド 445, 446
- ズーム 41
  - イベントディスプレイ 417
  - オプション 41, 44
  - キュー 618, 619
  - 小節リピート記号 852
  - スラッシュ領域 860
  - ドラムエディター 417
  - ピアノロールエディター 417
  - 変更 44
- 透かし 490
- スクイーズ 767
  - 入力 234-236
- スクープ 766
  - 入力 234, 240
- スケール 680
  - EDO 680, 681
  - オクターブの分割 680, 681
  - 調号 678, 679
  - 度 571, 716, 721
  - マイナー 679
  - メジャー 679
- スケールディグリー
  - Nashville 番号 216
  - コード記号 216
- スコア (「フルスコアレイアウト」を参照)
- スタイル
  - 外観 283
  - グリッサンドライン 760, 761
  - ジャズアーティキュレーション 770
  - スラー 899, 900
  - タイ 987
  - 中間休止記号 673
  - テキスト 370, 373
  - テンポ記号 961, 972
  - ニエンテのヘアピン 629
  - 番号 909
  - 拍子記号 998, 1000
  - フェルマータ 671
  - フォント 368
  - プレス記号 673
  - ページ番号 774
  - 余白 345
  - リセット 283
- スタックカート 503
  - 位置 507
  - 入力 186
- スタックの順番 600
  - 変更 601
  - 臨時記号 496
- スティッキング 1033
- ステータスバー 16, 41
  - 選択ツール 41
  - ビュータイプ 42
- ステータス表示 41
- ステップ入力 (「音符の入力」を参照)
- ステムレット 556
  - 削除 557
  - 表示 556
- ストレート再生 442, 443
- ストローク
  - スラー 899
  - タイ 987
  - トレモロ 1008-1010, 1012
- スペーシング
  - アーティキュレーション 507
  - アルペジオ記号 754
  - 音符 385, 387-389, 392
  - 音部記号 588
  - 歌詞 702, 704, 705
  - ギャレービュー 42
  - 組段密度 387
  - 小節線 519
  - 声部列 1051
  - 打楽器キット 117
  - タチェット 358
  - 段階的強弱記号 637
  - 中間休止記号 231
  - 調号 692
  - テキスト 370, 373
  - 拍子記号 993
  - 譜表 395, 397
  - 譜表をまたぐ連桁 552
  - リハーサルマーク 813
  - 臨時記号 497
  - レイアウトオプション 93
- スマリア 767
  - 入力 233, 235, 236
- スムーズ
  - ジャズアーティキュレーション 766
- スラー 878, 978
  - アーティキュレーション 506, 882
  - 位置 600, 879-881, 883, 898
  - 移動 885, 891, 892
  - 入れ子 882
  - 入れ子状のスラー 884, 885
  - 大きなピッチ差 893
  - カーブ 879, 880, 883, 897, 898, 901
  - 回転 892
  - 角度 892
  - 重ね合わせ 902, 903
  - 肩のオフセット 896
  - 間隔の大きさ 901
  - キュー 612
  - 組段区切り 903
  - 形式設定 891, 893, 900, 901
  - 形状 888-893, 896
  - 再生 904
  - 削除 286
  - 終端 882, 889, 891

- スラー (続き)  
 浄書オプション 883  
 浄書モード 889  
 衝突回避 884, 902, 903  
 スタイル 899, 900  
 スラー内 884, 885  
 制御ポイント 889  
 声部をまたぐ 883  
 セグメント (「スラーのセグメント」を参照)  
 選択 276  
 装飾音 739  
 装飾音符 665, 879, 880  
 タイ 879, 880, 882, 883  
 タイとスラー 978  
 高さ 894, 895  
 タッキングインデックス 600  
 デフォルト設定 883  
 デュレーション 904  
 点線 899-901  
 長さ 886  
 日本語のエリジョン 714  
 入力 267, 883-885  
 破線 899-901  
 パネル 138  
 範囲 893  
 反転 879, 880, 898  
 ハンドル 888-890, 893  
 フィルター 280  
 フィンガリング 650  
 複数セグメント 890  
 太さ 883, 893  
 譜表線 881  
 譜表をまたぐ 883, 902  
 フレーム区切り 903  
 平坦なスラー 901  
 编者注 899  
 短い 893  
 ミュート 439  
 リンク 282, 887  
 リンクの解除 282, 888  
 臨時記号 902  
 スラーのセグメント 888, 890  
 数 889  
 スラッシュ 664, 859  
 音符 (「トレモロストローク」を参照)  
 声部 (「スラッシュ符頭の声部」を参照)  
 装飾音符 664, 665, 667, 668  
 トレモロ (「トレモロストローク」を参照)  
 長さ 668  
 拍子記号 1001  
 符頭 717  
 符尾 (「トレモロストローク」を参照)  
 符尾なし 1053  
 領域 (「スラッシュ領域」を参照)  
 スラッシュ記号 859  
 スラッシュ付き声部  
 キャレット 149, 164  
 打楽器キット 110, 157  
 入力 164  
 ポップオーバー 258  
 領域 258  
 スラッシュ符頭 664, 859, 1052  
 アルペジオ記号 756  
 位置 868  
 移動 862, 864  
 音符の貼り付け 287  
 外観 860, 861  
 カウント 865-867  
 カウントの移動 867  
 カウントの非表示 867  
 数の変更 866  
 括弧 867  
 キャレット 149, 164  
 休符 863  
 休符の非表示 863  
 強調表示 860  
 削除 286  
 周波数 866  
 浄書オプション 860  
 垂直位置 862  
 声部 164, 290, 861, 1052, 1053  
 タイプ 1053  
 打楽器キット 110, 116, 157, 1054  
 デザイン 860  
 デフォルト設定 860  
 入力 164, 258, 266  
 パネル 258  
 表示オプション 860  
 フィルター 280  
 フォントスタイル 852, 855, 865  
 付点 860  
 符尾 865  
 符尾の方向 861, 956  
 譜表上の位置 116, 862  
 譜表に対する位置 868  
 分割 863  
 ポップオーバー 258, 266  
 領域 859, 865  
 スラッシュ符頭の声部 1052  
 移動 862  
 浄書オプション 860  
 垂直位置 862  
 打楽器キット 1054  
 デフォルト設定 860  
 複声部の状況 861  
 符尾の非表示 958  
 符尾の方向 956  
 譜表上の位置 862  
 領域 859  
 スラッシュ領域 859  
 位置 868  
 移動 862, 864  
 カウント 865, 867  
 カウントの移動 867  
 重ね合わせ 861  
 括弧 867  
 休符 863  
 休符の非表示 863  
 強調表示 859, 860  
 削除 286  
 浄書オプション 860  
 垂直位置 862  
 声部 861, 1052  
 デフォルト設定 860

## スラッシュ領域 (続き)

- 長さ 864
  - 入力 266
  - ハンドル 864
  - 表示オプション 860
  - フィルター 280
  - フォントスタイル 852, 855
  - 複数 861
  - 符尾 865
  - 符尾の方向 861
  - 譜表上の位置 862
  - 譜表に対する位置 868
  - 他の音符の非表示 862
  - 他の音符の表示 862
  - ポップオーバー 258
- スルタスト 798
- 入力 241, 245
- スルポンティチェット 798
- 入力 241, 245

## せ

## 声楽の譜表

- 頭文字大文字 909
- 全大文字 909
- 譜表のグループ化 60, 564
- 譜表ラベル 907, 909
- 分割の矢印 946

## 制御ポイント

- スラー 889, 890
- タイ 983, 984
- ハンドル 893, 896, 984

## 制限

- 定義 344
- フレーム 344
- フロー見出し 321

## 静寂

- アイテムのミュート 439
- ヘアピン 629

## 生成されたトリル 748, 749

- 再生 749

## 生成用文字列 482

## 声部 1048

- MIDI 録音 182
- アーティキュレーション 505
- 位置 1048
- 音符の移動 288
- 音符の貼り付け 287
- 加線 731
- カラー 1048, 1050
- 記譜オプション 1049
- キャレット 149, 163
- キュー 614
- 休符 869, 871, 876
- 強弱記号 213, 214, 628
- 切り替え 163
- 結合 289
- コピー 287
- 削除 1050
- 順番 143, 1051
- 順番の入れ替え 1051
- 小節休符 169
- 新規作成 163

## 声部 (続き)

- スラー 883
  - スラッシュ 164, 290, 861, 1052, 1053
  - スラッシュ符頭 164, 861
  - スラッシュ領域 862
  - 選択 276
  - 装飾音符 665
  - タイ 980, 981, 989
  - 打楽器キット 1044, 1045
  - 追加 163
  - ドラムセット 114
  - 内容の入れ替え 291
  - 入力 163
  - 配置 1048
  - 非表示 862
  - 表示 862
  - フィルター 280
  - フェルマータ 673, 677
  - 付点 732
  - 符尾の方向 953, 956, 1044, 1045, 1048, 1052
  - 分割の矢印 946
  - 変更 287, 290, 291, 1053
  - 方向 861
  - 臨時記号のスタックの順番 496
  - 列の並び順 1051
  - 連桁 954
- 声部列の並び順 1048, 1051
- 加線 731
  - 順番の入れ替え 1051
  - デフォルト設定 143
- 声部をまたぐスラー 883
- 移動 883, 885
  - 長さ 883, 886
  - 入力 883
- 声部をまたぐタイ 980, 981
- セーニョ 840
- サイズ 841
  - セクション 840
  - 入力 262, 263
  - フォント 841
  - 複数 841, 842
- セクション
- fine 840
  - コーダ 840
  - 反復 840
  - 非表示 40
  - 表示 40
- セクションプレーヤー 97
- オシリア譜表 927, 928
  - 空白の譜表 355
  - 追加 97
  - ディヴィジ 939, 940, 942
  - ディヴィジ作成の編集 943
  - 譜表ラベル 905
  - ユニゾン範囲 944, 945
- セグメント
- 最終 837
  - スラー 888, 889
  - リピート回数 833
  - リピート括弧 833, 834, 837
- 設定 28
- MIDI 入力 71
  - MIDI 録音 183



## 設定 (続き)

ウィンドウ 44  
オーディオ 50  
オーディオデバイス 50, 183, 184  
音符の入力 145  
環境設定 50  
キーボードショートカット 55  
打楽器キットの音符の入力 159  
デフォルト 302, 303  
ビデオ 129  
フロー固有 143  
プロジェクト全体 302, 303  
プロパティのコピー 367  
マウス入力 147  
両面印刷 477  
レイアウト固有 93, 95  
ワークスペース 44

## 設定モード 16, 84

アンサンブル 104  
インストゥルメント 105  
ガイド 284  
切り替え 84  
打楽器 110  
パネル 39, 84, 85, 89, 91  
プレーヤー 96-98  
プレーヤーグループ 118  
プレーヤーの追加 105  
フロー 96, 120, 121  
レイアウト 96, 123, 124

## セット

ドラムセット 110, 114, 1029  
マスターページ 305

## セレクター

楽曲フレーム 331

## 線

テキスト 380  
太さ 302

## 全音符 138

## 全画面表示モード 49

## 線間の高さ 917

## 前進

歌詞のポップオーバー 251  
キャレット 152  
コード記号のポップオーバー 219

## 選択 41, 275, 276

アイテム 146, 275, 276, 294  
青 640, 887  
移調のための選択 694  
音符 41, 42, 275, 281  
音符のスペーシングのハンドル 393  
歌詞 699  
記譜記号 41, 42  
組段のスペーシングのハンドル 400  
システムトラック 277  
小節 279  
ステータス表示 41  
すべて 42, 276, 279  
選択の延長 276  
選択範囲の移調 179  
ツール 41  
拍 279  
範囲選択 41, 42  
ハンドル 301

## 選択 (続き)

フィルター 280  
譜表 276  
譜表のスペーシングのハンドル 400  
フレームハンドル 327  
フロー 276  
より多く 276  
より広く 276  
和音 281  
選択解除 275  
範囲選択ツール 41  
使用 42  
センチメートル  
基準単位 57  
譜表のスペーシング 396  
センド 449  
ミキサー 448  
先頭  
強弱記号 630  
小節番号 541  
フィンガリング 656  
リハーサルマーク 820

## そ

## 操作

リズムグリッド 148

## 装飾

装飾音 735

## 装飾音 735

アチャカトウーラ 664  
アポジャトウーラ 664  
位置 735, 737  
移動 737, 738  
音程 736  
記号 382  
キュー 612  
形式設定 382  
削除 286  
ジャズ 767  
(「ジャズアーティキュレーション」も参照)  
浄書オプション 735  
スラー 739  
選択 276  
タイプ 232  
デフォルト設定 735  
トリル (「トリル」を参照)  
長さ 738, 742  
入力 232, 235, 236  
配置 737  
パネル 234, 236  
ハンドル 738  
フィルター 280  
譜表に対する位置 739  
変更 282  
ポップオーバー 232, 235  
臨時記号 736, 747  
装飾音パネル 236, 237, 239  
装飾音符 664  
アルペジオ記号 756  
位置 665, 666  
移調 179  
移動 730

## 装飾音符 (続き)

- 音域 177
  - 音部記号 591
  - 音符のスペーシング 666
  - 外観 669
  - キャレット 149, 170
  - サイズ 667, 729
  - 再生 440
  - 削除 286
  - 小節線 666
  - スラー 665, 879, 880
  - スラッシュ 665, 667, 668
  - 声部 665
  - タイプ 667
  - デフォルト設定 665, 666
  - トリル 748
  - 入力 136, 170
  - 反転 665
  - ピッチ 177
  - 符尾 665, 667, 669
  - ペダル線 787
  - 連符 669
- 相対テンポ変更 961
- 値 971
- 挿入ポイント 149
- 挿入モード 136, 156
- 音符の入力 156
  - キャレット 149, 156
  - 拍子記号 513, 992
  - 有効化 136
  - 連符 1020
- ソート
- レイアウト 127
- システムノートペダル 779
- MIDI コントローラー 796
- ソルディーノ 798
- 入力 245
  - 非表示 803
- ソルフェージュコード記号 216
- ソロ 448
- インストゥルメント 438
  - トラック 437
  - 無効化 438, 448
- ソロプレイヤー 97
- オssia譜表 927, 928
  - 空白の譜表 355
  - 追加 21, 97
  - 追加の譜表 923, 924
  - 譜表サイズ 920
  - 譜表の追加 924
  - 譜表ラベル 905, 907

## た

- ターン 735
- 音程 736
  - ジャズ 233, 235, 236, 767
- タイ 976, 978, 979
- アーティキュレーション 506, 978
  - 位置 880, 976, 978, 983
  - 音部記号 588
  - 音符のグループ化 162
  - 音部変更記号 980

## タイ (続き)

- カーブ方向 978, 989, 990
  - 外観 987
  - 肩のオフセット 984
  - 間隔の大きさ 989
  - キュー 615
  - 強制 162
  - 区切り 982
  - 組段区切り 979
  - 形式設定 983, 987-989
  - 形状 983
  - 削除 982
  - 実線 987
  - 浄書オプション 978
  - 衝突回避 976
  - 親切臨時記号 495
  - スタイル 987
  - スラー 879, 880, 882
  - スラーとタイ 978
  - 声部 976, 989
  - 声部をまたぐ 980, 981
  - タイのつながり (「タイのつながり」を参照)
  - 高さ 985, 986
  - つながり (「タイのつながり」を参照)
  - デフォルト設定 978
  - 点線 987-989
  - トレモロ 1009
  - 入力 136, 169, 981
  - 破線 987-989
  - 反転 990
  - ハンドル 983-986
  - 半分が破線 987
  - 非標準タイプ 979
  - 拍子変更記号 980
  - 譜表線 976
  - 譜表をまたぐ 980, 981
  - フレーム区切り 979
  - 分割 162, 982
  - 编者注 987
  - 臨時記号 979
  - 隣接しない音符 980, 981
  - レセヴィブレ 980, 981
  - 和音 989
- 第2声部
- 小節休符 169
  - 追加 163
- ダイアログ 28
- 第1連符 554
- 大括弧 561
- アンサンブルタイプ 60, 564
  - 外観 564
  - ガイド 284
  - 記号 382
  - 形式設定 382
  - 終端 564
  - 小節線 520
  - 第2括弧 562
  - テンプレート 60
  - 羽根 564
  - 副括弧 562
  - 譜表のスペーシング 397
  - プレイヤーのグループ 521

- 大括弧 (続き)
  - プロジェクトテンプレート 60
  - 連符 1022
- 第3線
  - 符尾の方向 953, 955
- タイトル
  - 楽章 321
  - 追加 92
  - テキストトークン 335
  - デフォルトのマスターページ 660
  - テンプレート 321
  - 非表示 349, 351
  - 表示 349, 351
  - フロー 122, 321
  - フロー見出し 351
  - プロジェクト 122
  - 変更 92, 123
  - 欄外見出し 351
- タイトルページ
  - テキストトークン 335
- 第2括弧 562
  - 小副括弧 563
  - 中括弧 562
  - 副括弧 562
- 第2連桁 554
  - 変更 554
  - ライン 554
  - リセット 555
- タイのつながり 976, 978
  - アーティキュレーション 506, 978
  - 音部記号 588
  - 削除 982
  - スラー 879, 880, 883
  - 選択 978
  - トレモロ 1009
  - 分割 982
- タイプ
  - アーティキュレーション 767
  - アルペジオ記号 233
  - 演奏技法 241, 798
  - 延長 227, 671
  - オクターブ線 224, 593
  - 音節 701
  - 音符 138
  - 音部記号 222
  - 外観 283
  - 囲み線 528, 529, 814, 815
  - 歌詞 249, 699, 700
  - キャレット 149
  - 休止 227, 671
  - 強弱記号 210, 620
  - グリッサンドライン 233
  - コード記号 216, 571, 572
  - ジャズアーティキュレーション 233, 234, 766, 767, 770
  - 小節線 515
  - 小節リピート記号 258
  - スラッシュ符頭 1053
  - 装飾音 232, 767
  - 装飾音符 667
  - タイ 987
  - 打楽器のレジェンド 1042
  - 中間休止記号 227, 673
- タイプ (続き)
  - 調号 190
  - テキスト 375
  - テンプレート 60
  - テンポ記号 199, 201, 961
  - トラック 417
  - トレモロ 257, 1008
  - 拍子記号 194, 993, 1001
  - フィンガリング 188, 656
  - フェルマータ 227, 671
  - 符頭 717, 721, 722
  - 符頭セット 717
  - プレス記号 227, 673
  - ペダル線 243, 779
  - マスターページ 307
  - リセット 283
  - リハーサルマーク 819
  - リピート括弧 256
  - リピートマーカー 257
  - 連符 173, 1016
- 大譜表のインストゥルメント
  - 長休符 874
- 大譜表を使用するインストゥルメント
  - 強弱記号 621
  - コード記号 584
  - 譜表をまたぐスラー 883
  - 譜表をまたぐ連桁 550
- 大譜表を用いる楽器
  - MIDI 録音 180
  - キューのポップオーバー 271
  - 大括弧 60
  - 中央配置の連桁 549
  - 譜表のグループ化 60
  - 譜表の非表示 355, 397
  - 両端揃え (垂直方向) 397
- タイム
  - 記号 (「拍子記号」を参照)
  - ディスプレイ 450, 451
  - トラック (「タイムトラック」を参照)
  - トランスポートウィンドウ 451
  - マーカー 822
- タイムコード 828
  - オフセット 829
  - 開始位置の値 829
  - 周波数 831
  - ダイアログ 129
  - テンポ 254
  - トランスポートウィンドウ 450, 451
  - ドロップフレーム 828
  - 入力 252
  - ノンドロップフレーム 828
  - パネル 253
  - 非表示 830
  - 表示 830
  - フォントスタイル 824
  - 譜表 829
  - 譜表のスペーシング 397
  - フロー 91
  - 変更 129, 825, 829
  - マーカー 253, 254, 830
- タイムトラック 426
  - 折りたたみ 434
  - 展開 434

- タイムトラック (続き)
  - テンポの変更 429
  - テンポ変更の移動 428
  - テンポ変更の削除 429
  - テンポ変更の入力 427
- ダウンロード
  - アクセス 58
- ダカーポ
  - アルコーダ 840
  - アルセーニョ 840
  - アルフィーネ 840
  - サイズ 841
  - 入力 262, 263
  - フォント 841
  - ワードラップ 844
- 高さ
  - 囲み線 529, 815
  - 組段 353, 395, 397
  - スラー 894, 895
  - タイ 984–986
  - トラック 434
  - ハンドル 889, 890, 895
  - 拍子記号 992
  - 広がり付きのヘアピン 636
  - 譜表 353, 395, 397
  - フレーム 327
- 打楽器 1028
  - 演奏技法 469
  - 音符の入力 413
  - キット (「打楽器キット」を参照)
  - 浄書オプション 1030
  - デフォルト設定 1030
  - ドラムセット 1029
  - トレモロ 469
  - 符頭 1036
  - レジェンド 1040, 1041
- 打楽器キット 1028, 1029
  - 1 線譜を使用するインストゥルメント 1034
  - インストゥルメントの削除 117
  - インストゥルメントの順番 116
  - インストゥルメントの追加 113
  - インストゥルメントの変更 113
  - 演奏技法 1031
  - 音符の移動 1032
  - 音符の入力 160, 413
  - 書き出し 1029
  - 間隔の大きさ 117
  - 記譜オプション 1031
  - 記譜記号 1032
  - キャレット 157
  - 休符 143
  - 強弱記号 1034
  - グリッド 114–117, 1034
  - グループ 114–116
  - 5 線譜 916, 1034
  - 個別のインストゥルメントとキット 1028
  - 作成 108, 113
  - スティッキング 1033
  - スペーシング 117
  - スラッシュ符頭 1054
  - 声部 143, 1044
  - ドラムセット 110, 114, 1029, 1044
  - 名前を付ける 110, 115
- 打楽器キット (続き)
  - 表示タイプ 110, 1028, 1034, 1035
  - 符尾の方向 110, 143, 160, 1044, 1045
  - 譜表 110, 1028, 1034, 1035
  - 譜表に対するレジェンドの位置 1043
  - 譜表ラベル 110, 914, 1034
  - 編集領域 110, 1034
  - 読み込み 1030
  - レジェンド 1040
  - 「打楽器キットを編集」ダイアログ 110
  - 「打楽器の演奏技法」ダイアログ 1036
  - 打楽器のスティッキング 1033
  - 「打楽器の符頭の上書き」ダイアログ 1038
  - 打楽器のレジェンド 1040
    - 位置 1030
    - インストゥルメント名 1042
    - 演奏中のインストゥルメント 1041
    - ガイド 284, 1040
    - タイプ 1040, 1042
    - 追加 1041
    - テキスト 1043
    - 長さ 1041, 1042
    - 範囲 1040, 1041
    - ハンドル 1041
    - 譜表に対する位置 1043
    - 変更 1042
- 多重録音
  - MIDI 録音 182
- タチエット 30, 355
  - 形式設定 355
  - テキスト 357
  - パラグラフスタイル 355
  - 非表示 357
  - 表示 357
  - フローからプレーヤーを削除 121
  - 余白 358
- タチエットバーの休符 874
  - 幅 874
- 多調
  - 調号 192, 193
- タッキングインデックス 600
  - 変更 601
- タップテンポ入力 201
- 縦線 515
- 縦向き 488
- 多拍子
  - 拍子記号 197, 198
- タブ
  - 移動 48
  - オプションを表示 45
  - 切り替え 47
  - グループ 47, 48
  - 順番 47
  - 閉じる 46
  - バー 36
  - 非表示 34
  - 表示 34
  - 開く 18, 45
  - 複数表示 47
  - レイアウト 45
  - タブラの記譜 1047
  - タブを閉じる 46
  - ダルセーニョ 840

## 単位

クオンタイズ 72  
時間 129, 450  
システムトラック 277  
スウィング再生 443  
テンポ 201, 254  
長さ 57  
拍 129, 201, 254, 282, 969, 970  
ビデオ 129  
メトロノームマーク 282, 970  
リズムグリッド 148

連符 173

## 単一の声部の状況 1048

アーティキュレーション 505  
装飾音符 665  
タイのカーブ方向 989  
符尾の方向 665, 953

## 単音のトレモロ 1008

移動 1012  
再生 469  
削除 1011  
タイプ 257  
入力 264, 265  
速さ 1010  
ポップオーバー 257

## 段階的強弱記号 620, 631

poco a poco 637  
位置 638  
移動 637  
開始位置 637  
切り詰め 638  
終了位置 625, 637  
小節線 625  
スペーシング 637  
長さ 632  
配置 625  
ハンドル 632  
広がり付きのヘアピン 635, 636

## 段階的テンポ変更 961, 972

位置 966  
延長線 972, 973  
間隔 973  
形式設定 972-974  
構成要素 969  
最終的なテンポ 971  
小節線 966  
スタイル 972, 974  
長さ 965, 966  
破線 973  
太さ 974

## 単純拍子 993

## 短線

小節線 206, 209

## ダンピング 798

入力 245

## ち

## チェーン

フレーム 330

## チャンネル 448

MIDI 448  
インストゥルメント 454

## チャンネル (続き)

エクスペリションマップ 452, 455  
エンドポイント 452  
コントロール 448, 449  
再生 452  
ストリップ 449  
設定 452  
パーカッションマップ 452, 455  
プラグイン 452  
変更 454  
ミキサー 448, 449  
メーター 448

## 中央配置の連桁 549

削除 550  
作成 550

## 中括弧 561

外観 564  
ガイド 284, 567  
カスタムのグループ化 566, 567  
記号 382  
グループ化 566  
形式設定 296, 382  
削除 569  
第2括弧 562  
長さ 568  
入力 567  
譜表のスペーシング 353, 397  
リセット 569

## 中間休止記号 671, 673

位置 231, 674  
移動 675, 676  
同じ位置に複数 674  
外観 282  
削除 286  
タイプ 282, 673  
入力 227, 229-231

## 注釈 490

## チューニング

再生 440

## チューニングシステム (「調性システム」を参照)

## 調

記号 (「調号」を参照)  
マイナー 679  
メジャー 679

## 長休止符 874, 875

tacet al fine 876  
外観 872, 876  
記号 382  
形式設定 382  
小節番号 532  
タチエット 355, 357  
番号 382  
非表示 875  
表示 875  
フローの終端 876

## 調号 678, 991

位置 691  
移調 179, 694  
移調楽器 127, 143, 695  
移動 693  
異名同音 695  
打ち消しのスタイル 680  
オープン 680

## 調号 (続き)

- オクターブの分割 681, 684
- 音部記号 691
- 外観 680
- ガイド 284, 690
- カスタム 682, 684, 688, 689
- 間隔 692
- 再生 690
- 削除 690
- 浄書オプション 680
- 小節線 518, 691
- スケール 679
- スペーシング 692
- ダイアログ 682, 685, 689
- タイプ 190, 679
- 多調 192, 193
- 調性システム 680-682
- デフォルト設定 680
- 入力 25, 189, 191-193
- パネル 191, 193
- 非表示 690
- 表示なし 680
- フィルター 280
- 複数 691
- 変更 282, 518, 678, 691
- ポップオーバー 190, 192
- マイナー 679
- 無調 680
- メジャー 679
- 持たないインストゥルメント 690, 695
- 予告 696
- 臨時記号 678, 684, 685
- 調号、調性システム、臨時記号パネル 191, 193
- 調性システム 680
- オクターブの分割 681, 684
- カスタム 682
- 再生 690
- 調号 688
- パネル 193
- 変更 681
- 臨時記号 684
- 「調性システムを編集」ダイアログ 682
- 長方形
  - 小節番号の囲み線 528, 529
  - テキストの囲み線 380
  - 符頭 721
  - リハーサルマークの囲み線 814, 815
- 直線
  - グリッサンドライン 760
  - ジャズアーティキュレーション 770
- 散りばめ
  - 臨時記号 496

## つ

## 追加

- 括弧 260, 261, 832
- 声部 163, 1048

## 追加の譜表 923

- 移動 925
- オッサア譜表 (「オッサア譜表」を参照)
- ガイド 923
- 削除 922

## 追加の譜表 (続き)

- 追加 924
- ディヴィジ (「ディヴィジ」を参照)
- 幅 926
- 追従テンポモード 439
- ツール
  - 選択 41
  - タイムコード 828
  - 配置 285
- ツールバー 13, 33
  - トランスポートオプション 33, 34
  - 非表示 33
  - ワークスペースオプション 33, 34
- ツールボックス 14, 40
  - 音符 135, 136
  - 記譜記号 135, 140
  - 再生 404, 405
  - 浄書 294
- つながり
  - タイ 978
- 強さ
  - 入れ子状の連符 1017

## て

## 提案

- キュー 272
- ディヴィジ 939
  - 移動 943
  - 延長 943
  - 音符の入力 944
  - カラー 945
  - 再生 951
  - 終了 944
  - 音楽の譜表 946
  - ダイアログ 940
  - 短縮 943
  - テキスト 949
  - トゥッティ 944
  - 入力 940, 942
  - フォント 947
  - 譜表のスペーシング 353
  - 譜表ラベル 940, 947, 948, 950
  - 変更 940
  - 変更ラベル 947, 949, 950
  - 編集 943
  - 矢印 946
  - ユニゾン範囲 944, 945
- 「ディヴィジを作成」ダイアログ 940
- 停止 (「開始」を参照)
- ティック
  - 小節線 206, 209, 515
  - プレス記号 673
- ディミニッシュ
  - コード記号 217
- ディミヌエンド 620, 631
  - 組段区切り 634
  - 終端の広がり 635, 636
  - 入力 210, 213, 214
- テキスト
  - 移動 378
  - エディター (「テキストエディター」を参照)
  - 演奏技法 798, 801

- テキスト (続き)
- 音楽フォント 369
  - 重ね合わせ 379
  - 歌詞 701, 702
  - キュー 612
  - キューラベル 609
  - 強弱記号 630
  - 組段テキスト 268, 935
  - グリッサンドライン 762, 763
  - 形式設定 269, 367, 376
  - 献呈 661
  - 浄書オプション 268
  - 衝突回避 379
  - 垂直方向の配置 341
  - 水平方向の配置 342
  - 全大文字の譜表ラベル 909
  - タイプ 375
  - 打楽器のレジェンド 1043
  - タチェット 357
  - ディヴィジ作成のラベル 947, 949
  - ディヴィジの譜表ラベル 947
  - デフォルト位置 379
  - デフォルト設定 268
  - テンポ記号 282, 962
  - テンポの省略テキスト 962
  - トークン (「トークン」を参照)
  - 入力 268
  - 塗りつぶされた背景 381
  - 背景 381
  - 配置 269, 342, 373, 376
  - パラグラフスタイル 370, 372, 377
  - 表現 620, 630
  - フィルター 280
  - フィンガリング 655
  - 「フォントスタイルを編集」ダイアログ 368
  - 複数の位置 935, 936
  - 譜表に対する位置 379
  - 譜表ラベル 907
  - フレーム (「テキストフレーム」を参照)
  - フロータイトル 123
  - ペダル線 794-796
  - 編集 270, 340
  - マーカー 253, 822, 823
  - 文字スタイル 373, 375
  - 余白 341, 381
  - リセット 377
  - リハーサルマーク 813
  - リピート括弧 837
  - リピートマーカー 841, 843, 844
  - ワードラップ 844
  - 枠線 340, 341, 380
- テキストエディター 269, 270
- 記譜モード 269
  - 浄書モード 376
- テキストオブジェクト 375
- 識別 375
  - 編集 270
- テキストのワードラップ
- リピートマーカー 844
- テキストフレーム 335
- 上書き 335
  - 識別 375
  - 垂直方向の配置 341
- テキストフレーム (続き)
- 水平方向の配置 342
  - 選択 327
  - テキストの入力 340
  - テキストの変更 340
  - 入力 325
  - パラグラフスタイル 377
  - フロー見出し 351
  - 余白 341
  - 欄外見出し 351
  - 枠線 340
- デクレーション (「ディミヌエンド」を参照)
- デザイン
- 演奏技法 804, 806
  - 音楽記号 382
  - スラー 899, 901
  - スラッシュ符頭 860
  - 装飾音符のスラッシュ 667
  - 拍子記号 1006, 1007
  - フィンガリング 382, 651
  - 符頭 715, 717, 721, 722, 726, 729
  - 符尾の符鉤 382, 952
- でっぱり
- トンボ 490
  - 臨時記号の切り抜き 685
  - 連桁 554
- テヌート 503
- 入力 186
- デバイス
- オーディオ 50
- デフォルト設定 303
- 音符入力オプション 145
  - 音符のグループ化 143
  - 音符のスペーシング 385, 387
  - 重なり合う音符 143
  - キーボードショートカット 11, 51, 55
  - 強弱記号 282
  - 再生 409
  - 再生テンプレート 442
  - ジャズアーティキュレーション 768
  - 小節線 517
  - スウィング再生 446
  - スラー 282
  - 声部の順番 143
  - ダイアログ 28
  - テキスト 373
  - テキストの衝突回避 379
  - 譜表のグループ化 564
  - 譜表のスペーシング 395, 397
  - フロー見出し 321
  - 変更 303
  - 臨時記号 496
  - レイアウト 128
  - 連桁のグループ化 143, 546
- 「デフォルト」のフロー見出し 305, 321
- 置き換え 323
- デフォルトのマスターページ
- 作詞者 660
  - 作曲者 660
  - タイトル 660
  - トークン 660
- デフォルトマスターページ 305, 307
- 置き換え 307

- デュレーション
  - MIDI 録音のカウントイン 183
  - アーティキュレーション 503, 509
  - アルペジオ記号 757, 758
  - 演奏される 470
  - 音符 138, 160, 161, 415, 470
  - 記譜された 470
  - 休符 160
  - 強制 162
  - ジャズアーティキュレーション 770
  - 小節 512
  - スラー 904
  - トレモロ 1014
  - フェルマータ 282
  - プリロール 440
  - フロー 337
  - ペダル線 796
  - 臨時記号 499, 500
  - ロック 178
- デュレーションを強制 136, 162
  - 音符の入力 162
  - 休符の入力 162
  - 有効化 136
- デュレーションをロック 136, 178
  - 有効化 136
- 展開 434
  - オプション 40
  - トラック 434
  - メニュー 40
- 展開矢印マーク 40
  - トラック 418
  - プロパティパネル 41
- 点線
  - オクターブ線 593
  - 音符（「付点音符」を参照）
  - 強弱記号 620
  - スラー 899-901
  - タイ 987-989
  - テンポ記号 973
  - 拍の単位 201
  - 符頭 721
- テンプレート 59, 60
  - アンサンプル 87, 104
  - カテゴリ 59, 60
  - 再生 407, 441, 442, 452
  - 新規プロジェクト 58
  - 大括弧 60
  - タイトル 321
  - 開く 12
  - 譜表 60, 564
  - 譜表のグループ化 60, 564
  - プレーヤー 87, 104
  - フロー見出し 321
  - ページ 304, 309
  - マスターページ 304, 309
- テンポ 960
  - bpm 969
  - MIDI 録音 439
  - 描く 426
  - クリック設定 182
  - 検出 254, 826
  - 固定テンポ 439, 450
  - 再生モード 426
- テンポ（続き）
  - スウィング再生 446
  - 追従テンポ 439, 450
  - デフォルト 960, 967
  - トラック（「テンポトラック」を参照）
  - 入力 427
  - 範囲 970
  - 変更 429
  - 変更の削除 429
  - 編集 426
  - メトロノームマーク 969
  - 録音 439
- テンポ記号 960
  - poco a poco 963
  - 位置 963, 968
  - 移動 428, 964, 965
  - 延長線 960, 972, 973
  - 外観 968, 969
  - ガイド 284, 967, 969
  - 括弧 968, 969
  - 間隔 973
  - 記号 382
  - 形式設定 382, 972-974
  - 検出 254, 826
  - 構成要素 968, 969
  - 固定テンポ変更 201, 961
  - サイズ 961
  - 再生 440, 960, 967, 970, 971
  - 削除 967
  - 浄書オプション 968
  - 小節線 966
  - 省略 962
  - 垂直位置 935
  - スタイル 972, 974
  - 選択 276
  - 相対テンポ変更 201, 961, 971
  - タイプ 199, 201, 961
  - 段階的テンポ変更 201, 961, 971, 972
  - テキスト 282, 961, 962
  - デフォルト設定 968
  - テンポをリセット 201, 961
  - 等式（「テンポの等式」を参照）
  - 長さ 965, 966
  - 入力 199, 201, 203
  - 配置 963
  - 拍の単位 282, 970
  - 破線 973
  - パネル 201
  - ハンドル 965, 966
  - 非表示 967
  - 表示 967
  - フィルター 280
  - フォント 961
  - 複数の位置 935, 936, 963
  - 変更 282, 962, 969, 970
  - ポップオーバー 199
  - メトロノームマーク 282, 960, 969, 970
  - リピート 440
- テンポトラック 74, 426
  - 書き出し 76
  - ダイアログ 75, 77
  - 読み込み 74, 75
  - 「テンポトラックの読み込み」ダイアログ 75



「テンポトラックを書き出し」ダイアログ 77

テンポの省略テキスト 962

テンポの等式 974

入力 200, 201

パネル 201

ポップオーバー 200

テンポパネル 201

「テンポを検出」ダイアログ 254

重要なマーカー 826

## と

ドイツ 766

入力 234, 240

同期

楽譜にビデオを 131

統合 514

休符 143, 871, 874, 875

小節 514

小節リピート記号 875

付点 732

譜表ラベル 907, 908

動作内容

エクスプレッションマップ 457

等式

テンポ記号 201, 974

トゥッティ 939, 944

復元 944

トークン 335, 375

時刻 338

タイトル 122

日付 338

ファイル名 (「構成要素」を参照)

フロー 122, 336, 337

フロー見出し 321

プロジェクト情報 92, 122, 336

ページ番号 337

マスターページ 307, 660

ローマ数字 337

「特別な調号を編集」ダイアログ 689

トラック 417

インストゥルメント (「インストゥルメントトラック」を参照)

演奏技法 421

オートメーション 422

折りたたみ 434

組段 277

コード (「コードトラック」を参照)

ソロ 437

タイプ 417

タイム (「タイムトラック」を参照)

高さ 434

展開 434

テンポ 74, 426

ピアノロールエディター 412

ビデオ 433

非表示 434

プレーヤー (「プレーヤートラック」を参照)

マーカー 432

ミュート 437

トラック名

MIDI 入力 71

ドラムエディター 413, 1045

イベントディスプレイ (「イベントディスプレイ」を参照)

音符の移動 414

音符の削除 416

音符の入力 413

ズーム 417

トラック 417

ドラムキット (「打楽器キット」を参照)

ドラムセット 110, 1028, 1029

書き出し 1029

キットを定義 114

声部 1044

名前を付ける 110

読み込み 1030

トランスポート 450

ウィンドウ 32, 450

基本オプション 33, 34

再生ヘッド 435

再生ヘッドの位置 450, 451

リピート 440

トランブルマン 735

ドリアンコード記号 218, 585

トリル 735, 740

NotePerformer 749

位置 737, 739

移動 737

延長線 (「トリル線」を参照)

音程 233, 743, 744, 746, 747

外観 746

開始位置 739

開始音 750

括弧 735

記号の非表示 740

再生 748, 749

削除 286

サンプリング 749

生成 749

装飾音符 748

長さ 738, 742

入力 233, 235

配置 739

速さ 741, 748, 749

ハリウッドスタイル 746

ハンドル 738, 742

ピッチ 750

フィルター 280

譜表に対する位置 739

補助音符 746

ポップオーバー 233

ライン (「トリル線」を参照)

臨時記号 746, 747

トリル線 741, 742

長さ 742

速さ 741

非表示 742

表示 742

トリルの音程 743, 744, 747

位置 747

外観 735, 746

再表示 735

指示記号 743

ハリウッドスタイル 746

## トリルの音程 (続き)

非表示 744  
 微分音 744  
 表示 744  
 変更 744, 745  
 補助音符 746  
 臨時記号 746

## トリルの開始音 748

## トルコ音楽

オクターブの分割 681

## トレコルデ 779

## トレモロ 1008

アーティキュレーション 469  
 位置 1010, 1012, 1013  
 音価が指定された 1008  
 音価が指定されない 1008  
 外観 1013  
 角度 1010  
 記号 382  
 形式設定 382, 1013  
 再生 469, 1014  
 削除 1011  
 重音 1008, 1013  
 浄書オプション 1013  
 ストローク (「トレモロストローク」を参照)  
 ストロークの移動 1012  
 ストロークの数 1009  
 タイのつながり 1009  
 タイプ 257, 1008  
 単音 (「単音のトレモロ」を参照)  
 デフォルト設定 1013  
 デュレーション 1014  
 入力 257, 258, 264, 265  
 パネル 258, 265  
 速さ 1010  
 ポップオーバー 257, 264  
 連符 1008  
 トレモロストローク 1008, 1010  
 移動 1012  
 数の変更 1009, 1010  
 記号 382  
 形式設定 382  
 ドロップ 766  
 入力 234, 240  
 ドロップフレームのタイムコード 828  
 トンボ 490

## な

## 内容

キュー 608  
 キューラベル 609  
 小節 512  
 テーブル 660  
 前付け 660

## 長さ

アルペジオ記号 236, 237, 753  
 オクターブ線 594, 597  
 音符 161, 415, 470, 471  
 音符の演奏されるデュレーション 470, 471  
 音符の記譜されたデュレーション 470  
 角括弧 568  
 歌詞の延長線 706

## 長さ (続き)

歌詞のハイフン 706  
 キュー 607  
 強弱記号 624, 632  
 組段の分割記号 935  
 グリッサンドライン 763  
 ジャズアーティキュレーション 768, 770  
 小節線 523  
 小節リピート記号 851  
 小節リピート記号のフレーズ 282, 850  
 スラー 883, 886  
 スラッシュ領域 864  
 装飾音符のスラッシュ 668  
 打楽器のレジェンドの名前 1042  
 打楽器のレジェンドの範囲 1041  
 単位 57  
 中括弧 568  
 デイヴィジのパッセージ 943  
 テンポ記号 965, 966, 973  
 トリル 738, 742  
 フック 791, 838  
 符尾 952, 957  
 譜表ラベル 909, 947, 948  
 ペダル線 786, 788, 791, 793  
 リピート括弧 834, 836, 838  
 連符の角括弧 1021

## なぞる 798

入力 245

## ナチュラル 798

括弧 495  
 入力 165, 241, 245  
 非表示 495, 803  
 表示 495

## ナビゲーション

印刷プレビュー領域 38  
 音符の入力 153, 154  
 歌詞のポップオーバー 251  
 キャレット 152  
 コード記号のポップオーバー 219  
 ハンドル 301, 327, 393, 400  
 フィンガリングのポップオーバー 187  
 フレーム 327

## 名前

インストゥルメント 99, 100, 103  
 打楽器キット 110  
 ドラムセット 110  
 符頭 716  
 譜表ラベル 99, 103  
 プレーヤー 99, 102  
 プレーヤーグループ 118, 119  
 フロー 122  
 フロー見出し 324  
 マスターページ 308  
 マスターページのセット 306  
 レイアウト 99, 103, 126

## 名前の変更

インストゥルメント 103  
 打楽器キット 110  
 ドラムセット 110  
 プレーヤー 102  
 プレーヤーグループ 119  
 フロー 122  
 フロー見出し 324

## 名前の変更 (続き)

マスターページ 308  
 マスターページのセット 306  
 レイアウト 126  
 レイアウト名 103

## 波線 760

グリッサンドライン 760, 761  
 ジャズアーティキュレーション 770  
 トリル 741, 742

## に

## ニエンテのヘアピン 629

スタイル 629  
 テキスト 629  
 入力 210, 213, 214  
 変更 629  
 丸 629

## 二重

小節線 515, 517, 844  
 全音符 138  
 付点音符 156  
 臨時記号 166, 500

## 日時

注釈 490  
 トークン 338

## 2のべき乗ではない拍子記号 993

## に変換

組段 295, 363  
 フレーム 295, 361

## 日本語

コード 841  
 コード記号 572  
 セーニョ 841

## 日本語の歌詞でのスラー 714

非表示 714  
 表示 714

## 入力 146, 194

MIDI 179, 180, 185, 424  
 アーティキュレーション 186  
 アルペジオ記号 232, 233, 236  
 アンサンブル 87, 105  
 位置 146  
 入れ子状のスラー 884, 885  
 入れ子状の連符 1017  
 インストゥルメント 87, 97, 107  
 演奏技法 241, 245  
 扇形連符 558  
 オートメーション 424  
 オクターブ線 222, 224, 226, 227  
 オッサア譜表 928  
 音域の選択 154  
 オンコードのコード記号 221  
 音符 149, 153, 156, 162, 180, 413  
 音部記号 222, 224, 225  
 角括弧 567  
 歌詞 248, 251  
 キャレット 149, 152  
 キュー 271, 272, 274  
 休止 227, 229, 230  
 休符 136, 162, 168  
 強弱記号 210, 212-214  
 空白ページ 313

## 入力 (続き)

組段区切り 362  
 グリッサンドライン 232, 233, 238, 239, 761  
 コード記号 145, 215, 216, 219, 220  
 ジャズアーティキュレーション 232, 234, 240  
 ジャズの装飾音 233, 235, 236  
 弱起 (アフタクト) 194, 197, 198  
 小節 204-208  
 小節休符 169, 205  
 小節線 204, 206, 209, 522  
 小節線の結合 522  
 小節番号の変更 537  
 小節リピート記号 258, 267  
 小副括弧 567  
 スラー 267, 883-885  
 スラッシュ付き声部 164  
 スラッシュ符頭 258, 266  
 スラッシュ符頭の声部 1054  
 スラッシュ領域 258, 266  
 声部 163, 164  
 装飾音 232, 235, 236  
 装飾音符 170  
 挿入モード 156  
 タイ 136, 169, 981  
 タイムコード 252  
 打楽器キット 108  
 打楽器キット内のインストゥルメント 113  
 打楽器キットにおける音符 157, 159  
 中央配置の連符 550  
 中括弧 567  
 中間休止記号 227, 229, 230  
 調号 189, 191-193  
 追加のリピート括弧 260, 261  
 ディヴィジ 942, 944  
 ディヴィジ譜表の音符 944  
 テキスト 268, 340  
 テンポ記号 199, 201, 203, 427  
 テンポの等式 199  
 トリル 233, 235  
 トレモロ 257, 258, 264, 265  
 入力と編集 146  
 拍 205, 207, 208  
 パラグラフスタイル 372  
 ビデオ 130  
 微分音の臨時記号 499  
 表現テキスト 210  
 拍子記号 194, 197, 198  
 フィンガリング 187  
 フェルマータ 227, 229, 230  
 副括弧 567  
 複数の声部への音符の入力 163  
 付点 153, 156  
 符尾の方向 160  
 譜表 924  
 フレーム 325  
 フレーム区切り 360  
 プレーヤー 97  
 プレーヤーリスト 662  
 プレス記号 227, 229, 230  
 フロー見出し 323  
 フロー見出しの変更 318  
 ページ 313  
 ページ番号の変更 314

## 入力 (続き)

ペダル線 241, 243, 246, 247  
 マーカー 252, 253, 432  
 マウス入力 147, 155  
 マスターページ 307  
 マスターページのセット 305  
 マスターページの変更 317  
 無音程打楽器 413  
 メトロノームマーク 199, 203  
 リズミックフィール 445  
 リズミックフィールの変更 199, 444  
 リズムグリッド 148  
 リハーサルマーク 251  
 リピート括弧 256, 258–261  
 リピートマーカー 257, 258, 262, 263  
 臨時記号 165  
 連符 172, 1017, 1018  
 和音 136, 171

## ぬ

塗りつぶされた背景 381  
 テキスト 381  
 余白 381  
 塗りつぶした符頭 717

## の

ノートベロシティ  
 MIDI 入力 71  
 ノッチ  
 オクターブ線 595  
 ノンドロップフレームのタイムコード 828

## は

パーカッションマップ 464  
 エンドポイント 452, 455  
 書き出し 469  
 カスタム 467  
 作成 467  
 ダイアログ 465  
 読み込み 468  
 リンク 455  
 「パーカッションマップ」ダイアログ 465  
 バージョン  
 ファイル 62  
 パート (「パートレイアウト」を参照)  
 パート形式 364–366  
 組段の形式設定 364  
 「パート形式をコピーする」ダイアログ 365  
 パート名 99  
 変更 103  
 パートレイアウト 30, 89, 123  
 tacet al fine 876  
 移調 126, 127  
 異名同音の表記 166  
 印刷 477  
 インストゥルメントの変更ラベル 912  
 インデント 937, 938  
 オッサアの譜表ラベル 933  
 オッサア譜表の非表示 931

## パートレイアウト (続き)

音部記号 591  
 音符のスペーシング 387  
 書き出し 480  
 楽曲フレーム 328  
 強弱記号 625  
 切り替え 45  
 組段の形式設定 364  
 組段のスペーシング 395, 397  
 組段の分割記号 934  
 組段の両端揃え 353  
 形式設定 364, 366  
 形式設定のコピー 364–366  
 削除 128  
 作成 124  
 実音 127  
 小節番号 525, 527, 528, 531, 532, 541  
 タレット 355, 357, 358  
 長休符 532, 875, 876  
 ディヴィジ 939, 940  
 ディヴィジの譜表ラベル 948, 950  
 テキストの衝突回避 379  
 名前 99  
 番号の付け直し 127  
 左ページ 347  
 拍子記号 1007  
 開く 45  
 ファイル名 482  
 復元 128  
 譜表サイズ 918  
 譜表のスペーシング 353, 379, 395, 397  
 譜表ラベル 909, 948, 950  
 フレーム 328  
 フレームチェーン 330, 333, 334  
 フレームのコピー 328  
 プレーヤー 124, 334  
 プレーヤーの追加 124  
 プレーヤーリスト 662  
 フロー 125, 333, 348  
 フローの削除 125  
 フローの追加 125  
 フロー見出し 321, 349  
 プロパティのコピー 367  
 ページ上のフロー 348  
 マーカー 826  
 マスターページ 304, 307, 348  
 マスターページのセット 306  
 向き 346  
 余白 346, 352  
 リピート回数 541  
 リピートマーカーのテキスト 844  
 両端揃え 353, 395, 397  
 臨時記号 166  
 レイアウトのコピー 364, 366  
 レイアウトパネル 89  
 ハーモニクス  
 符頭 729  
 背景  
 演奏技法 802  
 強弱記号 626  
 消去 381  
 テキスト 381  
 塗りつぶし 626, 802

- 背景の塗りつぶし
  - 演奏技法 802
  - 強弱記号 626
  - 余白 627, 802
- 倍全音符 138
- 排他グループ
  - エクスプレッションマップ 457
- 配置 285, 286
  - アルペジオ記号 754
  - インストゥルメントの変更 109
  - インストゥルメント名 100
  - エクスプロード 289
  - オクターブ線の数字 598
  - 楽章 120
  - 歌詞 697, 705
  - 休符 869
  - 強弱記号 622, 623, 625, 638-640
  - コード記号 582
  - コピー 286-288
  - 声部 287, 290, 291, 1048, 1051
  - 装飾音 737
  - 段階的強弱記号 625
  - 調号の臨時記号 678
  - テキスト 269, 341, 342, 370, 373, 376
  - テンポ記号 963
  - トリル 739
  - 貼り付け 288
  - 拍子記号 1004
  - 譜表 352
  - 譜表の入れ替え 289
  - 譜表ラベル 100, 907
  - フロー 120
  - ページ番号 774
  - ペダル線 785
  - リデュース 289
  - リピート括弧 835
  - リピートマーカー 841
- 配置設定 359
  - 組段あたりの小節数 359
  - フレームあたりの組段数 359
  - 別のレイアウトへコピー 364, 366
- ハイフン
  - 歌詞 251, 701, 705, 706
  - 拍子記号 1001
- 拍
  - 1分あたり 969
  - 削除 205, 510
  - 選択 279
  - 相対位置 284
  - ディスプレイ 450, 451
  - 入力 205, 207, 208
  - ポップオーバー 205
  - 録音レイテンシー 183, 184
- 拍グループ
  - 指定 194
  - タイ 976
  - 拍子記号 998, 999
  - 分子 998
- 拍の単位 969
  - 設定 201
  - メトロノームマーク 282, 970
  - 連符 173
- 拍の変調
  - 連符 1019
- はさみ 136
  - スラッシュ 863
  - タイ 982
  - 有効化 136
- 場所
  - バックアップフォルダー 82
  - フォルダーの自動保存 81
- 波数
  - トリル 741
- 破線
  - オクターブ線 593
  - ジャズアーティキュレーション 770
  - 小節線 206, 209, 515, 932
  - スラー 899-901
  - タイ 987-989
  - テンポ記号 973
  - ペダル延長線 793
- バックアップ 82
  - 数 82
  - 自動保存（「自動保存」を参照）
  - 場所 82
- パッチ
  - エンドポイント 452
  - 再生 452, 456, 464
- バッファ
  - オーディオ 183, 184
- 羽根付き大括弧 564
- 羽根つき連桁（「扇形連桁」を参照）
- パネル 15, 39
  - MIDI インストゥルメント 407
  - VST インストゥルメント 407
  - VST および MIDI インストゥルメント 406
  - アルペジオ記号 237
  - 印刷オプション 475
  - 印刷モード 473
  - 演奏技法 244, 245, 247
  - 延長 230
  - オクターブ線 227
  - 音符 138
  - 音部記号 224, 225, 227
  - 記譜記号 142
  - 記譜モード 135, 138, 139, 142
  - キュー 272, 274
  - 休止 230
  - 強弱記号 212, 214
  - グリッサンドライン 239
  - 形式設定 295
  - 再生モード 404
  - ジャズアーティキュレーション 240
  - 浄書モード 293
  - 小節 206, 207
  - 小節線 206, 209
  - 小節リピート記号 258
  - スラッシュ符頭 258
  - 設定モード 84
  - 装飾音 234, 236, 237, 239, 240
  - 調号 191, 193
  - 調性システム 193
  - テンポ 201, 203
  - トレモロ 258, 265
  - 非表示 17, 34, 40

- パネル (続き)  
 表示 17, 34, 40  
 拍子記号 196, 198  
 プレーヤー 84, 85  
 フロー 84, 91  
 プロパティ 139, 301  
 ページ 298  
 ペダル線 244, 247  
 リピート括弧 258  
 リピートマーカー 258  
 臨時記号 193  
 レアウト 84, 89, 474
- 幅  
 オッサア譜表 930  
 音符のデュレーション 470  
 大括弧 562  
 角括弧 563  
 囲み線 529, 815  
 加線 496, 731  
 空白の小節 512  
 組段 353, 394  
 組段の分割記号 935  
 グラフィック 576, 685  
 小節線 515  
 タレットバーの休符 874  
 中括弧 562  
 追加の譜表 926  
 テキストの枠線 341, 380  
 広がり付きのヘアピン 636  
 符頭 720  
 フレーム 327, 344  
 ヘアピンの開きの幅 634  
 臨時記号 497
- 早送り 435
- 速さ  
 bpm 969  
 アルペジオ記号 757, 758  
 テンポ記号 960, 970-972  
 トリル 741, 748, 749  
 トレモロ 1010  
 ビデオ 133  
 フレームレート 133  
 変更 429, 970, 971
- パラグラフスタイル 367, 370, 525  
 上書き 377  
 削除 373  
 作成 372  
 小節番号 525, 527, 528, 531, 539  
 ダイアログ 370  
 タレット 355  
 ディヴィジの譜表ラベル 947  
 テキストの入力 268  
 テキストフレーム 377  
 デフォルトとして保存 370  
 譜表ラベル 907  
 ページ番号 774  
 リセット 377  
 リピートマーカー 841
- 「パラグラフスタイル」ダイアログ 370
- ハリウッドスタイルのトリル 746  
 位置 747  
 音程 747  
 表示 746
- 貼り付け (「コピー」を参照)
- バルブ  
 フィンガリング 656
- バレ 798  
 入力 245
- バレエ  
 入力 241
- バロック  
 アポジャトゥーラ 664  
 装飾音 234, 735  
 チューニング 440  
 トリル 748, 750
- パン 448
- 範囲  
 アルペジオ記号 754  
 入れ替え 289  
 インストゥルメント 105  
 音符のコピー 288  
 キュー 602  
 グリッサンドライン 764  
 再生時の強弱記号 644  
 小節番号 532  
 スラー 893  
 選択 276  
 打楽器のレジェンド 1041  
 フロー見出しの変更 318  
 ページ 477, 479  
 ページサイズ 488  
 ページ番号の変更 315  
 マスターページの変更 317  
 メトロノームマーク 969, 970  
 ユニゾン 944, 945  
 用紙サイズ 488
- 半音階のグリッサンド 760
- 半月形符頭 721
- 番号  
 インストゥルメント 106  
 ページ 315  
 レアウト 127
- 番号の付け直し  
 レアウト 127
- 半ステップのトリル 743, 748  
 位置 747  
 外観 746  
 非表示 740, 744  
 表示 740, 744
- 反転 283, 898  
 アーティキュレーション 508, 509  
 スラー 879, 880, 898  
 装飾音符の符尾 665  
 タイ 990  
 入力 235, 236  
 フィンガリング 650  
 連符 547  
 連符 1023
- バンド  
 テンプレート 59, 60  
 譜表のグループ化 60, 564
- ハンドツール 41  
 ビューを動かす 42
- ハンドル 769  
 アルペジオ記号 753, 755  
 オクターブ線 594, 597, 599, 600

## ハンドル (続き)

- 音符のスペーシング 386
  - 歌詞 705, 706
  - 強弱記号 624, 631–634
  - 組段のスペーシング 396, 400
  - グリッサンドライン 763, 765
  - コード記号の構成要素 573, 575, 576
  - ジャズアーティキュレーション 768
  - 小節リピート記号 851
  - スラー 888–890, 893
  - スラッシュ領域 864
  - 選択 301, 393
  - タイ 983–986
  - 打楽器のレジェンド 1041
  - テンポ記号 965, 966
  - トリル 738, 742
  - フィンガリング 647
  - 符尾 957, 1012
  - 譜表のスペーシング 396, 400
  - フレーム 327, 331, 335, 344
  - ヘアピン 624, 634
  - ペダル線 780, 786, 791
  - リピート括弧 834, 836, 837
  - 連桁 548
  - 連符の角括弧 1021, 1023
- 反復開始線 206, 515
- 入力 209
- 反復記号パネル 258
- 反復終了線 206, 515
- 入力 209
  - リピート回数 848

## ひ

## 非圧縮の MusicXML 68

## ピアノ

- 替え指のフィンガリング 647
- 強弱記号 210, 213, 214, 620
- 再生 796
- ペダル線 779, 780
- リテイク 780, 784
- レベルの変更指示 780, 784

## ピアノロールエディター 412

- イベントディスプレイ (「イベントディスプレイ」を参照)
- インストゥルメントトラック 419
- 演奏されるデュレーションと記譜されたデュレーション 470
- 音符の移調 416
- 音符の移動 414
- 音符の削除 416
- 音符のデュレーションの変更 471
- 音符の長さ 415
- 音符の入力 413
- ズーム 417
- スラーの音符 904
- トラック 417

## 非移調レイアウト 126

## ビープ (「クリック」を参照)

## 非サスティン楽器 645

## 菱形の符頭 718, 720

## 左パネル 39

## 左ページ

から開始 347

## ピチカート 798

- 入力 241, 245
- 非表示 803

## ピッチ

- 移調音 127
- オクターブ線 226, 227, 593
- 音程追加のポップオーバー 175
- 音符 177
- 音部記号 225, 587
- 音符の入力 154
- キュー 609
- 再生 440
- 実音 127
- ジャズアーティキュレーション 766
- 調号 678
- トリル 744–746, 748, 750
- 入力 152
- 微分音 498, 680
- 符頭 716, 717, 721
- 変更 177, 178
- 臨時記号 167, 494

## ピッチの入力

変更 152

## ビデオ 128

- ウィンドウ 132
- オーディオ 133, 448
- 開始位置 131
- 形式 129
- サイズ 132
- 再読み込み 130
- 探す 130
- 削除 132
- ダイアログ 129
- タイムコード 828, 829
- 追加 130
- 同期 131
- トラック 433
- パネル 253
- 非表示 132
- フレームレート 133, 134
- フロー 91
- ボリューム 133
- マーカー 432, 822
- ミキサー 448

## 「ビデオのプロパティ」ダイアログ 129

## 非表示 34

- 入れ替え可能な拍子の拍子記号 993
- インストゥルメントの移調 913
- インストゥルメントの変更ラベル 912
- 演奏技法 803
- 演奏技法レーン 422
- オートメーションレーン 423
- オssia譜表 931
- 音符 862
- 音部記号 225
- 開始ページ番号 776
- ガイド 285, 362, 364
- 歌詞番号 713
- 加線 731
- キュー 613
- 休符 873–875

## 非表示 (続き)

キューラベルのオクターブ 移調 606  
強弱記号 631  
空白の譜表 355  
組段の小節線 518  
組段の分割記号 934  
グリッサンドラインのテキスト 763  
コード記号 581, 584  
コード記号のクオリティー 581  
コード記号のルート 581  
システムトラック 278  
小節休符 616, 874  
小節線 381, 517, 518, 626, 802  
小節番号 532, 535  
小節リピート記号のカウント 855  
スラッシュ領域のカウント 867  
タイムコード 830  
打楽器のレジェンドのガイド 1040  
タレット 357  
タブ 34  
長休符 875  
調号 690  
ツールバー 33  
ディヴィジ作成のラベル 950  
テキストの枠線 380  
テンポ記号 967  
トラック 434  
トランスポートウィンドウ 450  
トリル記号 740  
トリルの延長線 741, 742  
トリルの音程 744  
トリルマーク 735  
日本語の歌詞でのスラー 714  
背景 381, 626, 802  
パネル 17, 34, 40, 41  
「ビデオ」ウィンドウ 132  
拍子記号 1005  
広がり付きのヘアピン 635  
フィンガリング 652, 655  
符尾 865, 958  
譜表 96, 121, 124, 125, 355, 922  
譜表冒頭部のオシリア譜表 930  
譜表ラベル 909, 911, 947, 948, 950  
プレーヤー 121, 124  
プレーヤーパネル 85  
フロー 125, 355  
フロータイトル 351  
フローパネル 91  
フローページ番号 351  
フロー見出し 349  
分割の矢印 946  
ページ番号 351, 776, 777  
マーカー 826  
ミキサー 450  
ミキサーへのオーディオ出力 452  
余白休符 615  
余白を埋める休符 863  
欄外見出し 351  
臨時記号 495, 501, 744  
レイアウトパネル 89  
レセヴィブレタイ 981  
連符 1022, 1025  
枠線 380

ビブラート 798  
入力 241, 245  
微分音 498, 682  
EDO 681  
移調 175  
オクターブの分割 684  
カスタムの調性システム 682  
再生 690  
調号 688  
トリル 744  
入力 499  
臨時記号 684  
ヒューマナイズ  
強弱記号 644  
表記  
音符 166, 167  
臨時記号 166, 167  
表記規則  
アルペジオ記号 754  
演奏技法 799  
歌詞 697  
キュー 602  
休止 673  
休符 869  
強弱記号 621  
グリッサンドライン 760  
声部 1048  
装飾音 737  
装飾音符 665  
タイ 976  
中間休止記号 674  
調号 678, 691  
テンポ記号 963  
トリル 737  
トレモロ 1010  
拍子記号 992  
フィンガリング 646  
フェルマータ 674  
ブレス記号 674  
ペダル線 785  
リハーサルマーク 813  
連符 1016  
表記法  
歌詞番号 713  
タイムコード 828  
表現テキスト 620, 630  
poco a poco 637  
入力 210, 212, 630  
拍子 991  
オープン 993, 1000  
音符のグループ化 559  
休符のグループ化 559  
トレモロ 1008  
拍子記号 993  
拍子なしの拍子記号 992  
変更 282  
変拍子 512, 513  
連符のグループ化 545, 559, 560  
連符 1016  
表示  
組段密度 387



- 表示オプション 32, 42
    - 印刷プレビュー 38
    - 楽譜領域 37, 43
    - 画像解像度 490
    - タイム 34
    - タブ 45
    - ドラムエディター 413
    - トランスポート 34
    - パネル 17, 39
    - ピアノロールエディター 412
    - フレーム 309, 321, 330, 345
    - プロジェクトウィンドウ 36
    - ページ 345
    - レイアウト 36
  - 拍子記号 991, 995
    - MIDI 録音 180
    - 位置 992, 998, 1002, 1005
    - 移動 1002-1005
    - 入れ替え可能な拍子 993
    - 大きい 996
    - オープン 993, 1000
    - 音符のグループ化 559
    - 外観 992, 1007
    - ガイド 284, 1005
    - 加算型拍子 993
    - カスタム 993
    - 括弧 194, 197, 1001
    - 間隔のスペーシング 993
    - 記号 382
    - 休符のグループ化 559
    - 区切り用文字 992, 1001
    - 組段オブジェクト 997
    - クリック 180
    - 形式設定 382
    - 結合拍子 993
    - 交互拍子 993
    - サイズ 998
    - 削除 1006
    - 弱起 (アウフタクト) 194, 197, 198, 993, 995
    - 浄書オプション 992
    - 小節線 521, 1004
    - 小節番号 535
    - 垂直位置 935, 936, 996, 998, 1005
    - スタイル 998, 1001
    - スラッシュ符頭 860
    - 挿入モード 513
    - タイ 980
    - 大括弧のグループ 996
    - タイプ 194, 993
    - 高さ 992
    - 多拍子 197, 198
    - 単純拍子 993
    - デザイン 1006, 1007
    - デフォルト設定 992
    - 2 のべき乗ではない分母の拍子 993
    - 入力 24, 194, 197, 198, 513
    - 配置 1004
    - 拍グループ 143, 999
    - パネル 196
    - 非表示 1005
    - 表示 1005
    - フィルター 280
    - フォント 992
  - 拍子記号 (続き)
    - フォントスタイル 1006, 1007
    - 複合拍子 993
    - 複数の位置 935, 936
    - 符頭 1000
    - 譜表の上 997
    - 分子 992, 999
    - 分母 992, 1000
    - 変更 282, 513
    - 変拍子 993
    - ポップオーバー 194
    - 連桁のグループ化 143, 545, 559, 560
  - 拍子記号 (拍子) パネル 196
  - 表示タイプ 110
    - 強弱記号 1034
    - 打楽器キット 1028, 1034
    - 変更 1035
    - 編集領域 110, 1034
  - 開きの幅
    - ヘアピン 634
  - 開く
    - MIDI ファイル 61
    - MusicXML ファイル 61
    - ウィンドウ 19, 48
    - 自動保存ファイル 80
    - タブ 18, 45
    - テンプレート 12, 59
    - 「ビデオ」ウィンドウ 132
    - ファイル 61, 80
    - フロー見出しエディター 322
    - プロジェクト 59, 61, 62, 80
    - マスターページエディター 310
    - ミキサー 450
    - レイアウト 18, 45
  - 比率
    - 音符のスペーシング 388, 390
    - スウィング再生 443
    - 装飾音符 667
    - 連符 1025
  - 広がり付きのヘアピン 635
    - サイズ 636
  - 非録音時の MIDI 入力データを記録 181, 450
  - 頻度
    - 自動保存 81
    - 小節番号 526
    - 小節リピート記号のカウント 854
    - 再生時のピッチ 440
- ## ふ
- ファーストステップ
    - 新規プロジェクトの開始 59
  - ファイル 63
    - 書き出し 63, 480, 481
    - 異なるバージョンの Dorico 62
    - ビデオ 130
    - 開く 61
    - フレームへの読み込み 343
    - 読み込み 63
  - ファイル形式 489
    - MIDI 70
    - MusicXML 67
    - オーディオ 78

- ファイル形式 (続き)
  - グラフィックファイル 489
  - バックアップ 82
  - ビデオ 129
  - フレーム 343
- ファイル名 482
  - 構成要素 482
  - 生成用文字列 482
  - 設定 482
- フィルター 280
  - アンサンブル 87
  - インストゥルメント 87
  - 音符 280
  - 歌詞 280, 698, 699
  - 強弱記号 280, 627
  - 声部 280
  - テンポ記号 280
  - 符尾の方向 280
  - フレームチェーン 333, 334
  - プレーヤー 334
  - フロー 333
  - 臨時記号 280
- フィンガリング 646
  - MusicXML の読み込み 659
  - 位置 646, 647
  - 移動 649
  - 外観 647, 651, 655
  - 替え指 647
  - 囲み線 651
  - 下線 651
  - 括弧 187, 188, 655
  - 記号 382
  - 区切り用文字 656
  - 形式設定 382
  - 弦のシフト指示 658
  - サイズ 651, 654
  - 削除 653
  - 斜体 655
  - 浄書オプション 647
  - 数字スタイル 657
  - スラー 650
  - スライドポジション 657
  - タイプ 188, 656
  - デザイン 651
  - デフォルト設定 647
  - 入力 187, 188
  - バルブ式金管楽器 656
  - 反転 650
  - ハンドル 647
  - 非表示 652, 655
  - 表示 652, 655
  - フォント 654
  - フォントスタイル 653, 655
  - 譜表に対する位置 650
  - 変更 648
  - ポップオーバー 187, 188
  - ホルンの支管の指示記号 656
  - 予告 655
  - リセット 649
- フェーダー 448
- フェルマータ 671
  - 位置 674
  - 移動 675, 676
- フェルマータ (続き)
  - 同じ位置に複数 674
  - 外観 282
  - 削除 286
  - 小節線 677
  - 声部 677
  - タイプ 282, 671, 675
  - デュレーション 282
  - 入力 227, 229, 230
  - 1つの譜表 675
  - 譜表ごとの数 677
  - 譜表に対する位置 676
  - 変更 675
- フォーラム
  - アクセス 58
- フォルム 766
  - 入力 234, 240
- フォルダー
  - 書き出しパス 481
  - 自動保存 81
  - バックアップ 82
- フォルテ 620
  - 入力 210, 213, 214
- フォントスタイル 367, 368
  - PDF ファイル 484
  - SVG ファイル 484
  - 演奏技法 799
  - オッサアの譜表ラベル 933
  - 音符 369
  - 楽譜 369
  - 歌詞 699, 711, 712
  - 記譜記号 369
  - 強弱記号 642, 643
  - グリフ 369, 643
  - 献呈 661
  - コード記号 580
  - 小節番号 (「パラグラフスタイル」を参照)
  - 小節リピート記号 852, 855
  - スラッシュ符頭 855, 865, 867
  - ダイアログ 368
  - タイムコード 824
  - ディヴィジの譜表ラベル 947
  - テンポ記号 961
  - パラグラフスタイル 370
  - 拍子記号 992, 1006, 1007
  - フィンガリング 653-655
  - 譜表ラベル 907
  - ページ番号 774
  - 変更 368
  - マーカー 824
  - 文字スタイル 373
  - リハーサルマーク 821
  - リピートマーカー 841
  - 連符 1027
  - 「フォントスタイルを編集」ダイアログ 368
- 付加音
  - コード記号 217
- 深さ
  - 入れ子状の連符 1017
- 不完全連符 544
- 副括弧 562
  - ガイド 567
  - カスタムのグループ化 566, 567

- 副括弧 (続き)
  - 形式設定 296
  - 削除 569
  - 長さ 568
  - 入力 567
  - リセット 569
- 復元 181
  - 音符 181
- 復元テキスト 796
- 複合拍子の拍子記号 993
  - スラッシュ符頭 860
- 複縦線
  - 小節線 206, 209
- 複数
  - 楽章 120
  - キュー 614
  - コーダ 841, 842
  - セーニョ 841, 842
  - ページ上のフロー 348
- 複数セグメントによるスラー 888-890
- 複数の譜表を使用するインストゥルメント 923
  - キューのポップオーバー 271
  - 幅 926
  - 譜表の削除 922
  - 譜表の追加 924
  - 譜表の非表示 355, 397
  - 譜表をまたぐスラー 883
  - 譜表をまたぐ連符 550
- 複数貼り付け 287, 288
- 複製
  - アイテム 286-288
  - エクスペッションマップ 462
  - エクスプロード 289
  - 音符 287, 288
  - パーカッションマップ 467
  - パラグラフスタイル 372
  - プレーヤー 98
  - 文字スタイル 375
- 複声部の状況 1048
  - アーティキュレーション 505
  - 音符 1052
  - 音符位置 1048
  - 音符の入力 163
  - キュー 614
  - 休符 869, 871
  - 強弱記号 628
  - スラー 880
  - スラッシュ 861, 862
  - 声部列の並び順 1051
  - 装飾音 737, 739
  - 装飾音符 665, 880
  - タイ 989
  - フェルマータ 673, 677
  - 符点の統合 732
  - 符尾の方向 665, 953, 1052
- 符鉤
  - 記号 382
  - 形式設定 382
- 符鉤のデザイン 952
- 部数
  - 複数印刷 477
- フック
  - オクターブ線 599, 600
  - 長さ 838, 1021
  - ペダル線 780, 784, 789-791
  - リピート括弧 838
  - 連符 1021
- 符点
  - 休符 136, 143
- 付点 156
  - 移動 733
  - 数 156
  - スラッシュ符頭 860
  - 声部 732
  - 統合 732
  - 入力 153, 156
  - 複合拍子の拍子記号 860
- 付点音符 559
  - 音符のグループ化 559
  - 強制 162
  - 三重 156
  - スウィング再生 442, 443
  - テンポの等式 974
  - 統合 732
  - 二重 156
  - 入力 136, 156
  - 付点の移動 733
- 符頭 717
  - Aikin 721
  - Funk 721
  - Walker 721
  - X形 718
  - アーティキュレーション 508, 509
  - アタッチメントポイント 722, 726
  - 円形 717
  - 演奏技法 1036, 1038
  - 演奏技法固有 1036, 1039
  - 大きい 720
  - カスタム 722, 726
  - 加線 731
  - くさび形 719
  - 形状 716, 717, 721, 722, 726
  - 5線譜 1038
  - 三角 719
  - 四角 721
  - スタッカーの位置 507
  - スラッシュ 859, 1052
  - セット (「符頭セット」を参照)
  - ダイアログ 722, 726
  - タイプ 717
  - 打楽器 1036, 1038, 1040
  - 長方形 721
  - デザイン 717, 721, 722, 726, 729 (「符頭セット」も参照)
  - デフォルトのデザイン 715
  - 点線 721
  - ノート名 716
  - 半月 721
  - 菱形 718, 720
  - ピッチ依存 721
  - 拍子記号 1000
  - 符尾なし 958
  - 変更 715, 716, 729
  - 編集 726

## 符頭 (続き)

ミュート 720  
無音程打楽器 1036, 1038  
矢印 719

## 符頭セット 717

音度 721  
カスタム 722  
加線 731  
ダイアログ 722  
タイプ 717  
デザイン 717, 721  
ピッチ依存 721

「符頭セットを編集」ダイアログ 722

「符頭を編集」ダイアログ 726

## 太さ

グリッサンドライン 761  
弦のシフト指示 658  
小節線 517  
小節番号の囲み線 529  
スラー 883, 893, 900  
線 302  
装飾音符のスラッシュ 667  
タイ 978, 988  
段階的テンポ変更 974  
テキストの枠線 341, 380  
符尾 952  
譜表線 922  
ペダル線 793  
リハーサルマークの囲み線 815  
連符の数や比率を示す数字 1027  
枠線 341, 380

## 符尾 952

アーティキュレーション 508, 509  
アタッチメントポイント 726  
オーディオ 78  
オルタードユニゾン 958  
音符 952  
カスタムの符頭 726  
記号 382  
キュー 614  
形式設定 382  
重音のトレモロ 1013  
浄書オプション 952  
スタッカート の位置 507  
ステムレット (「ステムレット」を参照)  
スラーの終端 882  
スラッシュ符頭 861, 865, 1053  
声部 953, 956  
装飾音符 667, 669  
第3線での方向 955  
デフォルト設定 952  
トレモロ 1009, 1012  
トレモロの削除 1011  
長さ 669, 952, 957  
ハンドル 957, 1012  
非表示 958  
符鉤 382  
符鉤のデザイン 952  
符頭 726  
太さ 952  
符尾 952  
符尾の分割 497, 958  
方向 (「符尾の方向」を参照)

## 符尾 (続き)

方向の変更の解除 957  
連桁 544  
連桁の位置 552  
連符の位置 1016

## 符尾が上向きの声部 1048

追加 163  
符尾の方向 953

## 符尾が下向きの声部 1048

追加 163  
符尾の方向 953

## 符尾なし

スラッシュ符頭 1053  
符頭 958

## 符尾の分割 497, 958

## 符尾の方向 953

キュー 614  
スラーのカーブ 878, 879  
スラッシュ符頭 861, 956  
声部 290, 953, 956, 1048  
装飾音符 665, 669  
第3線 953, 955  
タイのカーブ 976  
打楽器キット 110, 143, 160, 1044, 1045  
単一の声部の状況 953, 956  
中央配置の連桁 550  
デフォルト設定 955  
フィルター 280  
複声部の状況 953  
譜表に対する位置 547  
譜表の第3線にある音符 953, 955  
変更 290, 614, 861, 955, 956  
他の譜表まで伸びた音符 550, 1052  
リセット 547, 957  
連桁グループ 954  
連桁の位置 547, 552  
和音 954

## 譜表 916

アイテムのコピー 286, 287  
移調楽器の音部記号 592  
1線 823, 829, 831, 914, 916, 1034  
移動 400  
インストゥルメントの変更ラベル 912  
インデント 910, 916, 937, 938  
エクспロード 289  
大きな拍子記号 998  
オッサアの追加 928  
オッサア譜表 927, 932  
音符 288  
音符を伸ばす 550  
角括弧 567, 568  
間隔 840  
ギャレービュー 49  
キュー 603, 604  
休止 673  
強弱記号 622  
強弱記号のリンク 282, 640  
組段オブジェクト 935-937  
組段区切り 362  
組段の分割記号 934  
グリッド 914, 1034  
グループ 521, 564  
コード記号 126, 582, 584

## 譜表 (続き)

5 線譜 914, 916, 1034  
 コピー 944  
 サイズ (「譜表サイズ」を参照)  
 再生 436  
 削除 922  
 小節休符 874  
 小節線 296, 520, 521, 932  
 小節線の結合のリセット 569  
 小節番号 532, 533  
 垂直方向のスペーシング (「譜表のスペーシング」を参照)  
 スペーシング (「譜表のスペーシング」を参照)  
 スラー 883, 887  
 スラーのリンク 282  
 声楽 946  
 声部 163  
 全大文字の譜表ラベル 909  
 選択 276  
 線の太さ 922  
 タイ 976, 980, 981  
 ダイアログ 921  
 大括弧 60, 564, 565  
 大括弧/中括弧のグループ化のリセット 569  
 タイムコード 823, 829, 831  
 打楽器 1034, 1035  
 タレット 355  
 中括弧 567, 568  
 追加 923, 924  
 ディヴィジ 939, 940, 942, 944, 947, 951  
 ディヴィジ作成の編集 943  
 ディヴィジのラベル 950  
 ディヴィジを終了 944  
 テキスト 268, 935  
 テンポ記号 935  
 内容の入れ替え 289  
 配置ツール 285  
 幅 353, 926  
 非表示 96, 121, 124, 125, 355, 922  
 表示 49, 121, 124, 355  
 拍子記号 935, 997, 998, 1004, 1005  
 フェルマータ 677  
 複数の声部 163  
 符尾の長さ 957  
 譜表冒頭部 930  
 分割記号 (「組段の分割記号」を参照)  
 分割の矢印 946  
 ページビュー 49  
 マーカー 823, 829  
 ユニゾン範囲 944, 945  
 リデュース 289  
 リハーサルマーク 935  
 リピート括弧 935  
 リピートマーカー 846  
 レイアウトオプション 916  
 連桁 550, 552  
 譜表サイズ 917  
 MusicXML ファイル 67  
 オシリア譜表 929  
 カスタム 921  
 個々の譜表 920  
 5 線のサイズ 917  
 線間の高さ 917

## 譜表サイズ (続き)

ダイアログ 921  
 変更 918-921  
 レイアウト 916  
 譜表上の位置  
 キュー 603, 604  
 打楽器キット 116  
 譜表線  
 オシリア譜表 930  
 スラー 881  
 タイ 976  
 太さ 922  
 譜表に対する位置  
 アーティキュレーション 508, 509  
 演奏技法 800  
 オクターブ線 599  
 歌詞 710, 711  
 キューラベル 610  
 強弱記号 621, 622  
 小節番号 534  
 スラー 898  
 スラッシュ領域のカウント 868  
 装飾音 739  
 打楽器のレジェンド 1043  
 テキスト 379  
 トリル 739  
 フィンガリング 650  
 フェルマータ 676  
 ペダル線 785  
 変更 283  
 リセット 284  
 リハーサルマーク 813  
 リピートマーカー 846  
 連桁 547  
 連符の角括弧 1023  
 譜表のグループ化 564, 566  
 アンサンブルタイプ 564, 565  
 角括弧 566-568  
 カスタム 566  
 小節線の結合 520, 522, 523, 566  
 中括弧 566-568  
 デフォルト設定 60, 564, 565  
 変更 565  
 リセット 569  
 譜表のスペーシング 294, 395  
 ギャレービュー 397, 399  
 組段の移動 401  
 コピー 402  
 ディヴィジ 353  
 テキストの衝突回避 379  
 デフォルト設定 395, 397  
 ハンドル 396, 400  
 復元 401  
 変更 395, 397, 400  
 有効化 294  
 リハーサルマーク 813  
 両端揃え 353, 395, 397  
 レイアウトオプション 93  
 「譜表のスペーシングをコピー」ダイアログ 402  
 譜表冒頭部 660  
 オシリア譜表 930  
 小節線 518

- 譜表ラベル 905
  - Cubase 906
  - MusicXML の読み込み 906
  - 移調楽器 905, 913, 914
  - インストゥルメントの変更ラベル 912
  - インストゥルメント名 99, 100, 103, 906
  - インデント 910
  - オッサア譜表 933
  - ギャラリービュー 42
  - グループ化 908
  - 形式設定 907
  - 最初の組段のインデントの変更 938
  - サイズ 907
  - 浄書オプション 907
  - 全大文字 909
  - 打楽器キット 110, 914, 1034
  - 打楽器のレジェンド 1042
  - ディヴィジ 940, 947, 948, 950
  - デフォルト設定 907
  - 長さ 909, 911
  - ナンバリング 906
  - 配置 100
  - パラグラフスタイル 370, 907
  - 番号 106
  - 番号スタイル 909
  - 非表示 909, 911
  - 表示 909, 911
  - フォント 907
- 譜表をまたぐスラー 883
  - 移動 883, 885
  - 衝突回避 902
  - 長さ 883, 886
  - 入力 883
- 譜表をまたぐタイ 980, 981
- 譜表をまたぐ連桁 550
  - 位置 552
  - スペーシング 552
- 部分的な非表示
  - 小節線 381
  - 塗りつぶされた背景 381
- 部分非表示
  - 小節線 626, 802
  - 背景の塗りつぶし 626, 802
- プラグイン
  - エクスペッションマップ 457
  - 再生 448
  - ホワイトリストに設定する 409
  - ミキサー 452
- プラグインをホワイトリストに設定する 409
- フラット 494
  - 書き換え 166
  - 括弧 495
  - 入力 165
  - 非表示 495
  - 表示 495
  - フィルター 280
  - 1/4 音 498
- フリジアンコード記号 218, 585
- フリップ 767
  - 入力 233
- プリロール 440
  - デュレーション 440
- 振り分け
  - 組段あたりの小節数 359
  - フレームあたりの組段数 359
  - フレームあたりの譜表数 353
- プリンター 484
  - 選択 477
- フルスコアレイアウト 30, 89, 123
  - 移調 127
  - 異名同音の表記 166
  - 印刷 477
  - インストゥルメントの順番 118
  - 大きな拍子記号 996, 998
  - オーケストラの順番 104
  - オッサアの譜表ラベル 933
  - オッサア譜表の非表示 931
  - 音部記号 591
  - 音符のスペーシング 387
  - 書き出し 480
  - 楽曲フレーム 328
  - 空白の譜表 355
  - 組段オブジェクトの位置 936, 937
  - 組段の形式設定 364
  - 組段のスペーシング 395, 397
  - 組段の分割記号 934
  - 組段の両端揃え 353
  - 形式設定のコピー 365, 366
  - 削除 128
  - 作成 124
  - 実音 127
  - 小節番号 525, 527, 528, 541
  - 長休止符 875
  - ディヴィジ 939, 940
  - ディヴィジの譜表ラベル 948, 950
  - テキストの衝突回避 379
  - 番号の付け直し 127
  - 左ページ 347
  - 拍子記号 996, 998, 1007
  - ファイル名 482
  - 譜表サイズ 918
  - 譜表のスペーシング 353, 379, 395, 397
  - 譜表ラベル 909, 948, 950
  - フレーム 328
  - フレームチェーン 330, 333, 334
  - フレームのコピー 328
  - プレーヤー 124, 334
  - プレーヤーの削除 124
  - プレーヤーの追加 124
  - プレーヤーリスト 662
  - フロー 125, 333
  - フローの削除 125
  - フローの追加 125
  - フロー見出し 349
  - プロパティのコピー 367
  - ページ上のフロー 348
  - マーカー 826
  - 前付け 660
  - マスターページ 304, 307, 348
  - マスターページのセット 306
  - 向き 346
  - 余白 346, 352
  - リピート回数 541
  - リピートマーカーのテキスト 844
  - 両端揃え 353, 395, 397

- フルスコアレイアウト (続き)
  - 臨時記号 166
  - 「レイアウト」パネル 89
- フレーズ
  - 小節リピート記号 282, 850
- フレーム 325
  - 移動 326
  - 楽譜 328, 352
  - 区切り 345, 360
  - 組段 359
  - グラフィック 343
  - 形式設定 297
  - 形状 327
  - コピー 310, 322, 328
  - サイズ 327
  - 順番 333
  - 制限 344
  - 選択 294
  - 選択部分から作成 361
  - テキスト 335, 375
  - テキストの配置 342
  - トークン 335
  - 入力 325
  - 破線 321
  - ハンドル 327, 335
  - フロー見出し 321, 350, 351
  - フロー見出しエディター 321
  - 編集 294, 311
  - マスターページエディター 309
  - 余白 341, 345, 352
  - 欄外見出し 351
  - リセット 312
  - 枠線 340
- フレーム区切り 295, 345, 360
  - ガイド 284, 362
  - 削除 362
  - 小節リピート記号 360
  - スラー 903
  - 挿入 360
  - タイ 979
  - ディヴィジ 939
  - フィルター 280
  - 譜表サイズ 919
  - 譜表のスペーシング 397
  - 譜表ラベル 911
  - 別のレイアウトへコピー 364-366
- フレームチェーン
  - 音符のスペーシング 389, 391
  - 音符のスペーシングのリセット 391
  - 楽譜 330
  - 順番 333
  - フレーム 332
  - プレーヤー 334
  - フロー 333
  - マスターページ 330
  - リンク 332
  - リンクの解除 332
  - レイアウト 330
- フレームレート 133
  - ダイアログ 129
  - トランスポートウィンドウ 450, 451
  - ドロップフレームのタイムコード 828
- フレームレート (続き)
  - ノンドロップフレームのタイムコード 828
  - 変更 129, 134
- プレーヤー 29, 96, 97
  - アンサンプル 85, 104
  - インストゥルメント 29, 49, 105, 107, 109
  - インストゥルメントのナンバリング 106
  - インストゥルメントの変更ラベル 912
  - インストゥルメント名 103
  - オシリア譜表 927
  - オシリア譜表の追加 928
  - 音部記号 591
  - カード 85
  - 間のインストゥルメントの移動 109
  - 空白の譜表 355
  - グループ 30, 84, 85, 118, 119
  - グループから削除 120
  - グループ間の移動 120
  - コピー 98
  - 削除 104, 110, 119
  - スウィング再生 444, 445
  - スコア上の位置 104
  - セクションプレーヤー 85, 97
  - ソロ 438
  - ソロプレーヤー 85, 97
  - 打楽器キット 108
  - 追加 21, 105, 107, 119
  - 追加の譜表 923
  - ディヴィジ 939, 940, 942
  - ディヴィジ作成の編集 943
  - テキストトークン 335
  - 名前を付ける 99, 102, 103
  - パートレイアウト 123
  - パネル 84, 85
  - 非表示 121, 124
  - 表示 121, 124
  - フィルター 334
  - 複数のインストゥルメント 49, 107
  - 複製 98
  - 譜表 922, 924
  - 譜表サイズ 920
  - 譜表の削除 922
  - 譜表の追加 924
  - 譜表ラベル 906
  - フレームチェーン 331, 334
  - プレーヤー名 102
  - フロー 96, 121
  - フローから削除 121
  - フローに追加 121
  - マージ 63, 64, 67, 70
  - ミュート 438
  - ユニゾン範囲 944, 945
  - 読み込み 63, 64
  - リスト 335, 662
  - レイアウト 96, 124
  - レイアウト名 103
- プレーヤーカード 85
  - 展開矢印マーク 40
- プレーヤーグループ 30, 85, 118
  - 削除 119
  - 作成 118
  - 名前を付ける 119
  - プレーヤーの移動 120

- プレイヤーグループ (続き)
  - プレイヤーの削除 120
  - プレイヤーの追加 119
- プレイヤートラック 418
  - カラー領域 418
- プレイヤーのグループ 30, 85, 118
  - 作成 118
  - 大括弧によるグループ化 521
  - プレイヤーの移動 120
  - プレイヤーの削除 120
  - プレイヤーの追加 119
- プレイヤーパネル 84, 85
  - 非表示 85
  - 表示 85
- プレイヤー名 99
  - 再生モード 418
  - テキストトークン 335
  - プレイヤートラック 418
  - 変更 102
- プレス記号 671, 673
  - 位置 674
  - 移動 675, 676
  - 同じ位置に複数 674
  - 外観 282
  - 削除 286
  - タイプ 282, 673
  - 入力 227, 229, 230
- フロー 30, 96, 120
  - MusicXML ファイル 68
  - インストゥルメントの変更ラベル 912
  - オーディオ 78
  - カード 91
  - 書き出し 64, 65
  - 記譜オプション 144
  - 空白の小節の削除 511
  - 組段 353
  - 再生 440
  - 削除 123
  - 終了位置の小節線 517
  - 選択 276
  - タイトル 122, 123, 351
  - タイムコード 91
  - タッチレット 355, 357
  - 追加 21, 121
  - デフォルト設定 143
  - デュレーション 337
  - トークン 336, 337
  - トリミング 205, 511
  - 名前を付ける 122
  - パネル 91
  - 番号 337
  - ビデオ 91, 128, 130, 131
  - 非表示 125
  - 表示 125
  - プリロール 440
  - フレームチェン 331, 333
  - プレイヤー 96, 121
  - プレイヤーの削除 121
  - プレイヤーの追加 121
  - 分割 291
  - ページ上に複数 348
  - ページ番号 337, 351
  - マスターページ 348
- フロー (続き)
  - 読み込み 63, 64, 67, 70
  - 両端揃え 353
  - 臨時記号の有効範囲ルール 499, 500
  - レイアウト 96
  - レイアウトから削除 125
  - レイアウトに追加 125
- フローティングウィンドウ 33
- フローのトリミング 204, 205, 511
- 「フローの読み込みオプション」ダイアログ 64
- フローパネル 84, 91
  - 非表示 91
  - 表示 91
- フロー見出し 305, 321
  - 移動 350, 400
  - 削除 324
  - 新規追加 323
  - 制限 321
  - 挿入 318
  - タイトル 351
  - テキストの配置 341, 342
  - デフォルト 321, 323
  - 名前を付ける 324
  - 配置 322
  - パネル 298
  - 非表示 349
  - 表示 349
  - フレーム 321
  - フロータイトル 351
  - ページ番号 351, 776
  - 変更 318, 322
  - 変更の解除 320
  - 編集 321, 322
  - マスターページ 348
  - 優先の解除 312
  - 余白 350
- フロー見出しエディター 321
  - 開く 322
- 「フロー見出しの変更を挿入」ダイアログ 318
- 「フローを書き出し」ダイアログ 65
- プログラムチェンジ
  - エクスペッションマップ 456, 457
- プロジェクト 28, 63
  - MIDI ファイル 73
  - MusicXML ファイル 68
  - Steinberg Hub 58
  - イメージの追加 343
  - ウィンドウ 32
  - 開始 20, 59
  - 開始領域 36
  - 回復 80
  - 書き出し 68, 73, 76
  - 楽章 120
  - 異なるバージョンの Dorico 62
  - 最近 62
  - 自動保存 80
  - 自動保存の場所 81
  - 設定 302, 303
  - 全画面表示モード 49
  - タイトル 123
  - タブ 47
  - テンプレート 58-60
  - トークン 336



- プロジェクト (続き)
  - バックアップ 82
  - バックアップの場所 82
  - ビデオ 128, 130
  - 開く 48, 61, 62, 80
  - 複数のウィンドウ 19, 48
  - フレームレート 134
  - フロー 63-65, 120, 121, 123, 291
  - フローの書き出し 64, 65
  - フローの分割 291
  - フローの読み込み 63, 64, 67
  - レイアウト 123
  - ワークスペース 44
- プロジェクトウィンドウ 32
  - 印刷モード 473
  - 記譜モード 135
  - 再生モード 404
  - 浄書モード 293
  - 設定モード 84
  - 複数開く 48
  - 分割 47
- プロジェクト情報 92
  - テキストトークン 92
  - トークン 122, 336
  - マスターページ 660
- 「プロジェクト情報」ダイアログ 92
  - フロータイトル 122
- 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観」ダイアログ 573
- プロップ 766
  - 入力 234, 240
- プロパティ 139, 301
  - 音符 140, 301
  - 記譜記号 140, 301
  - 選択したアイテム 139
  - ビデオ 129
  - 別のレイアウトへコピー 367
- プロパティパネル 39, 139
  - 記譜モード 135
  - 浄書モード 293, 301
  - 展開矢印マーク 41
  - 非表示 41
  - 表示 41
- 分割
  - 小節 513
  - 小節線の結合 523
  - スラッシュ領域 863
  - タイ 982
  - 長休符 874
  - フロー 291
  - プロジェクトウィンドウ 47
  - リピーターマークのテキスト 844
  - 連桁 143, 546
- 分割記号 (「組段の分割記号」を参照)
- 分割の矢印 946
- 分割ポイント
  - MIDI 入力 71
- 分子
  - スタイル 998, 999
  - 拍子記号 991, 992
- 文頭の 1 文字目のみ大文字
  - リピーターマークのテキスト 841
- 分母
  - スタイル 998, 1000
  - 拍子記号 991, 992
- へ
- ヘアピン 620, 625, 631
  - poco a poco 637
  - 位置 638
  - 移動 637
  - 開始位置 637
  - 回転 633
  - 角度 633
  - 切り詰め 638
  - 終了位置 625, 637
  - 小節線 625
  - 長さ 632
  - ニエンテ 629
  - 入力 210, 213
  - 配置 625
  - 幅 634
  - ハンドル 624, 632, 634
  - 開きの幅 634
  - 広がり付き 635, 636
- 平坦なスラー 901
- ページ
  - 入れ替え 320
  - 印刷 485, 488
  - オプションを表示 41
  - 書き出し 485
  - 数 (「ページ番号」を参照)
  - 形式設定 660
  - サイズ (「ページサイズ」を参照)
  - 削除 312, 313
  - 順番 333
  - 設定 488
  - 選択部分から作成 361
  - 総数 337
  - 追加 313
  - テキストトークン 335
  - テンプレート 304, 309, 321
  - 配置 43
  - パネル 298
  - 範囲 485
  - ビューの変更 49
  - 複数のフロー 348
  - 譜表のスペーシング 402
  - フレーム 325, 326, 333, 344
  - フロー見出し 321
  - フロー見出しの割り当て 318
  - 編集 311, 312
  - マスターページ 304, 309, 317, 345
  - マスターページの割り当て 317
  - 向き 346
  - 余白 345, 346, 352
  - レイアウト 304, 309, 345, 359
- ページ区切り (「フレーム区切り」を参照)
- ページサイズ 488
  - MusicXML ファイル 67
  - 変更 346
  - レイアウトオプション 93
- ページの優先
  - ページの削除 313

- ページ配置 42, 43
- ページパネル 293, 298
- ページ範囲
  - 印刷 479
  - 書き出し 479
  - 選択 485
- ページ番号 315, 773
  - 移動 774
  - 外観 774
  - 開始 347, 776
  - カウント 337
  - 合計 337
  - サイズ 774
  - シーケンスの変更 314, 315
  - 水平方向の配置 774
  - 数字スタイル 315, 775
  - トークン 337
  - パラグラフスタイル 774
  - 非表示 351, 776, 777
  - 表示 351, 777
  - フォントスタイル 774
  - フロー 337
  - フロー見出し 351, 776
  - ページ内の位置 774
  - 変更 314, 315
  - 変更の解除 316
- 「ページ番号の変更」ダイアログ 315
- ページビュー 42
  - 配置 43
  - フロー 291
  - への変更 49
- ページめくり 360
  - 左に最初のページ 347
- ページ余白 345
  - 変更 346, 352
- ページレイアウト 345
  - 空白の譜表 355
  - 組段 359, 394
  - 組段あたりの小節数 359
  - 組段に変換 363
  - 組段の移動 401
  - 組段のスペーシング 397
  - 形式設定 305, 311
  - 献呈 661
  - 固定 359, 361
  - コピー 402
  - タレット 357
  - ディヴィジ 939, 940
  - テキストの衝突回避 379
  - 配置設定 359
  - 左ページ 347
  - 複数のフロー 348
  - 譜表のスペーシング 379, 395, 397, 402
  - フレーム制限 344
  - フレームに変換 361
  - フロー見出しの変更 320
  - ページサイズ 346
  - マスターページのセット 305, 306
  - マスターページの変更 317
- 「ページを挿入」ダイアログ 313
- ベース音
  - オルタード 221
- ペダル線 779
  - MIDI インポート 185
  - MIDI 入力 71
  - MIDI 録音 185
  - MusicXML の読み込み 797
  - 上げ 780
  - 位置 785, 787, 789
  - 移動 786
  - 延長線 779, 789, 792, 793
  - 外観 789, 790, 792, 795, 796
  - 開始記号 789, 790, 794
  - ガイド 284
  - 括弧 794
  - 間隔 793
  - 記号 382
  - 形式設定 382, 790, 792, 793
  - 再生 796
  - 再生時にミュート 439
  - 削除 286
  - 順番 785
  - 浄書オプション 789
  - 浄書モード 780
  - 装飾音符 787
  - タイプ 243, 779
  - 打楽器 798
  - 強さ (「ペダルの強さの変更指示」を参照)
  - テキスト 794-796
  - デフォルト設定 789
  - デュレーション 796
  - 長さ 786, 788
  - 入力 241, 243, 246, 247
  - 配置 785
  - 破線 793
  - パネル 244, 247
  - ハンドル 780, 786, 791
  - フィルター 280
  - フック 789-791
  - 太さ 793
  - 譜表に対する位置 785
  - 変更 282
  - ポップオーバー 243, 246
  - リテイク (「ペダルのリテイク」を参照)
  - リテイクの削除 784
  - リリース 789
- ペダル線のペダルの強さを変える 780, 782-784
  - ハンドル 780
- ペダルの強さの変更指示 780
  - 開始レベル 782
  - 削除 784
  - 終了レベル 784
  - 追加 243, 246-248
  - 変更 782-784
- ペダルのリテイク 780
  - 削除 784
  - タイプ 782
  - 追加 243, 246-248
  - ハンドル 780
  - ペダルの強さ 783
- ヘッダー
  - インストゥルメントトラック 419
  - コードトラック 430
  - 欄外見出し 663

- ヘミオラ
  - 音符のデュレーションの強制 162
- ベロシティー
  - MIDI 入力 71
  - エクスペッションマップ 457
- 変換
  - PDF 480
  - 音符から連符 1018
  - レイアウトをグラフィックファイルに 480
  - 連符から標準の音符 1019
- 編者注
  - スラー 899
  - タイ 987
- 編集 146, 282
  - アイテム 140, 282, 301
  - 音符 136
  - ツール 275
  - 入力と編集 146
  - ハンドル 301
  - フロー見出し 322
  - 方法 275
  - マウス入力 147
  - マスターページ 310
  - 領域 110, 1034
- ベンド 766, 767
  - 入力 233, 235, 236, 240
- 変拍子
  - アフタクトとしての小節 995
  - 拍子記号 993
- ほ**
- ポイント
  - 基準単位 57
  - 譜表のスペーシング 396
- 方向
  - アルペジオ記号 751, 752
  - 扇形連符 557, 558
  - グリッサンドライン 733
  - 弦のシフト指示 658, 733
  - スラーのカーブ 879, 897, 898
  - スラッシュ符頭 861
  - 第3線にある音符 955
  - タイのカーブ 976, 989, 990
  - 段階的強弱記号 631
  - 不完全連符 544
  - 符尾 953, 955-957
  - ヘアピン 631
  - 用紙の向き 488
- ボーイング 798
  - 入力 241, 245
- ポート 419, 426, 430, 452
  - インストゥルメント 454
  - インストゥルメントトラック 419
  - エクスペッションマップ 452, 455
  - コードトラック 430
  - 設定 452
  - タイムトラック 426
  - パーカッションマップ 452, 455
  - 変更 454
  - ミキサー 448
- ホールトーンコード記号 218
- 補助音符 746
  - 位置 747
  - 表示 746
  - 符頭のデザイン 729
- 保存 58, 80
  - MIDI ファイル 73
  - MusicXML ファイル 68
  - インストゥルメント名をデフォルトとして 100
  - エクスペッションマップ 464
  - 演奏した音符 181
  - オーディオ 73, 78
  - 音符入力オプションをデフォルトとして 145
  - 記譜オプションをデフォルトとして 143
  - グラフィックファイル 480, 481
  - コード記号をデフォルトにする 579
  - 自動保存（「自動保存」を参照）
  - 浄書オプションをデフォルトとして 302
  - 打楽器キット 1029
  - デフォルトの再生オプション 409
  - パーカッションマップ 469
  - バックアップ 82
  - パラグラフスタイルをデフォルトとして 370
  - フォルダーの場所 81, 82
  - 文字スタイルをデフォルトとして 373
  - レイアウトオプションをデフォルトとして保存 93
- ボックス
  - テキスト 380
- ホットキー（「キーボードショートカット」を参照）
- ポップオーバー
  - アイテムの変更 282
  - アルペジオ記号 233, 236
  - インストゥルメント（「インストゥルメントピッカー」を参照）
  - 演奏技法 241, 245, 246
  - 延長 227, 230
  - オクターブ線 222, 224, 226
  - 音程追加 175, 177
  - 音部記号 222, 225
  - 歌詞 248, 249, 251
  - キュー 271
  - 休止 227, 230
  - 強弱記号 210, 213
  - グリッサンドライン 233, 238
  - コード記号 145, 216, 219
  - ジャズアーティキュレーション 234, 240
  - 小節 204, 205, 207
  - 小節線 204, 206, 207, 209
  - 小節リピート記号 258, 267
  - スラッシュ符頭 258
  - 装飾音 232, 235, 236, 238, 240
  - 調号 190, 192
  - テンポ 199, 203
  - トリル 233, 745
  - トレモロ 257, 264
  - 拍 205
  - 拍子記号 194, 197
  - フィンガリング 187, 188
  - ペダル線 243, 246
  - メトロノームマーク 199
  - リピート 256, 264, 267
  - リピート括弧 256
  - リピートマーカー 257
  - 連符 172, 173

ポリコード記号 218  
  入力 221  
ボリューム  
  Silence 再生テンプレート 441  
  再生 457  
  チャンネルメーター 448  
  ビデオオーディオ 133  
  ベロシティ 457  
  ミキサー 448  
  リセット 439  
ポルタ線 (「リピート括弧」を参照)  
ポルタメント 760  
ホルン  
  支管の指示記号 653, 656  
  フィンガリング 653, 656

## ま

マーカー 822  
  位置 822  
  移動 825  
  外観 822  
  削除 286  
  重要 254, 826  
  浄書オプション 822  
  垂直位置 397, 822, 823, 829  
  ダイアログ 253  
  タイムコード 253, 825, 830  
  テキスト 253, 823  
  デフォルト設定 822  
  トラック 432  
  入力 252, 253, 432  
  パネル 253  
  非表示 826  
  表示 826  
  フィルター 280  
  フォントスタイル 824  
  譜表 823  
  譜表のスペーシング 397  
  リピート 256, 257, 840  
マーク  
  テンポ (「テンポ記号」を参照)  
  トリル 735, 737, 740  
  リハーサル (「リハーサルマーク」を参照)  
マージ  
  プレーヤー 63, 64, 67, 70  
マイナー  
  コード記号 217  
  スケール 679  
  調 679  
マウス入力 146  
  設定 147  
  無効化 136, 155  
  有効化 136, 155  
前付け 660  
  献呈 661  
  プレーヤーリスト 335  
  プロジェクト情報 660  
  欄外見出し 663  
巻き戻し 435  
マスター出力ボリューム 448  
マスターページ 304, 307  
  楽曲フレーム 328, 329  
  献呈 661  
  削除 309  
  新規追加 307  
  セット 305  
  タイプ 307  
  テキストの配置 341, 342  
  名前を付ける 308  
  パネル 298  
  フレーム 325-327  
  フレーム制限 344  
  フレームチェーン 330, 332  
  フロー見出し 321  
  フロー見出しの変更の解除 320  
  ページの優先 311, 312  
  ページ番号 773, 774  
  ページへの割り当て 317, 348  
  変更の解除 317  
  編集 309, 310  
  欄外見出し 663  
  レイアウトのコピー 310  
マスターページエディター 309  
  開く 310  
マスターページのセット 305  
  削除 306  
  作成 305  
  適用 306  
  名前を付ける 306  
  フロー見出し 305, 321, 323  
末尾  
  強弱記号 630  
  小節番号 541  
  タイムコード 828  
  リハーサルマーク 820  
マップ  
  エクスペッション 456  
  キーボードショートカット 53  
  打楽器 464  
丸  
  小節番号の囲み線 528, 529  
  符頭 717  
  リハーサルマークの囲み線 814, 815  
マルカート 503  
  入力 186

## み

ミキサー 448  
  ウィンドウ 32  
  オーディオ出力の非表示 452  
  サウンドトラック 133  
  ソロ状態 438, 448  
  チャンネルストリップ 449  
  トラックのミュート 437  
  トラックをソロにする 437  
  ビデオ 133  
  非表示 450  
  表示 450  
  ポート 448  
  ボリューム 439  
  ミュート状態 438, 448  
  リセット 439

右パネル 39  
ミクソリディアンコード記号 218, 585  
短い

小節線 515  
ステムレット 556

見出し  
フロー 321

密集和音 496  
臨時記号のスタック 496

ミディアムスウィング 443  
ミニトランスポート 33, 34

見開きページの配置 43, 485  
ミュート 798

アイテム 439  
インストゥルメント 438  
演奏技法 241  
音符 281, 439  
トラック 437, 448  
入力 245  
非表示 803  
無効化 438, 448

ミュートの符頭 720

ミリメートル  
基準単位 57  
譜表のスペーシング 396

## む

無音程打楽器 1028

MIDI ファイル 1046  
MusicXML ファイル 1046  
アーティキュレーション 469, 1032  
インストゥルメントの順番 116  
インド太鼓の記譜 1047  
演奏技法 469, 798, 1031, 1033, 1036, 1038  
音符の移動 1032  
音符の入力 157, 159, 160, 413  
括弧 1032  
キット 108, 110, 1028, 1029  
キットにおける強弱記号 1034  
キットにおける声部 1044  
キットの書き出し 1029  
キットの読み込み 1030  
記譜オプション 1031  
記譜記号 1032  
キュー 603  
グリッドキットの表示 114-117  
グループ 114  
グループ名の変更 115  
ゴーストノート 1032  
個別のインストゥルメント 1028  
再生 455, 464, 465, 469, 1036  
再生モード 413, 1045  
浄書オプション 1030  
スティッキング 1033  
スラッシュ符頭 110, 1054  
デフォルト設定 1030  
ドラムセット 114, 1029  
トレモロ 469  
なぞる 798  
パーカッションマップ 455, 464, 465  
表示タイプ 110, 1028, 1034, 1035  
符頭 1036, 1039

無音程打楽器 (続き)  
符尾の方向 110, 160, 1044, 1045  
譜表 110, 1034, 1035  
譜表ラベル 914  
レジェンド 1040, 1041, 1043  
連符 1033

向き  
印刷 477, 488  
書き出し 488  
縦 488  
変更 346  
横 488

無効化  
MIDI デバイス 185  
音符の書き換え 168  
音符の入力 153  
キャレット 152  
強弱記号のリンク 282  
再生時のサンプリングされたトリル 749  
自動保存 82  
スウィング再生 445  
スラーの衝突回避 903  
スラーのリンク 282  
挿入モード 156  
ソロ状態 438  
ソロにされたトラック 448  
テキストの衝突回避 379  
マウス入力 155  
ミュートされたトラック 448  
ミュート状態 438  
和音の入力 171  
無調の調号 680

## め

明示的な休符 869, 870  
暗黙の休符 871  
カラー 872  
削除 873  
非表示 873  
表示 873

命名規則  
ファイル名 482

メーター  
チャンネルレベル 448

メジャー  
コード記号 217  
スケール 679  
調 679

メトロノームマーク 969  
値 282, 970  
外観 968, 969  
括弧 968  
クリック 182  
構成要素 968, 969  
サイズ 961  
再生 182, 450, 970  
垂直位置 935  
選択 276  
等式 201, 974  
入力 199, 203  
拍の単位 282, 970  
範囲 970

## メトロノームマーク (続き)

非表示 967  
表示 967  
フォント 961  
複数の位置 935  
変更 282, 970  
ポップオーバー 199

メリスマ様式の歌詞 251, 702, 705

## も

モーター 241, 798

入力 245

モーダルコード記号 218, 585

モード 16, 28

印刷 473

機能 16

記譜 135

切り替え 16

再生 404

浄書 293

設定 84

全画面表示 49

挿入 149, 156

ツールバー 13

テンポ 439

和音 149, 585

文字スタイル 367, 373

削除 375

作成 375

ダイアログ 373

デフォルトとして保存 373

「文字スタイル」ダイアログ 373

モジュレーションホイールダイナミクス 645

モダニストの臨時記号の有効範囲ルール 502

木管楽器

演奏技法 244

モックアップ

書き出し 78

元スタイル

パラグラフスタイル 370, 372

元のインストゥルメント 602

キューラベル 609

モルデント 735

音程 736

## や

訳詞 699

ポップオーバー 249

ラインを変更 709

矢印

声楽の譜表 946

展開 40

符頭 719

分割記号 946

## ゆ

有効化

MIDI デバイス 185

音符のスペーシング 294, 392

有効化 (続き)

音符の入力 152, 153

キャレット 152

休符の入力 136

グラフィックの編集 294

コード記号の再生 431

再生時のサンプリングされたトリル 749

スウィング再生 444

スラーの衝突回避 903

装飾音符の入力 136

挿入モード 136, 156

テキストの衝突回避 379

デュレーションを強制 136

デュレーションをロック 136

はさみ 136

付点音符 136

譜表のスペーシング 294, 400

フレーム 294

マウス入力 136, 155

連符の入力 136

和音の再生 430

和音の入力 136, 171

ユーザーインターフェース 13, 32

ウィンドウ 32

楽譜領域 14

ステータスバー 16

ツールバー 13

ツールボックス 14

トランスポートオプション 34

パネル 15

優先

入れ替え 320

解除 342

楽曲フレーム 328

フロー見出し 312

マスターページ 311, 312

ユニゾン 939

オルタード 958

削除 289

ディヴィジ 944

配置 289

復元 944

ユニゾン範囲 944

カラー 945

ユニバーサルインド太鼓記譜法 1047

## よ

用紙

サイズ 346, 488

向き 488

両面印刷 487

洋式の調性

オクターブの分割 681

調号 678

用紙サイズに合わせる 488

横向き 488

余白

MusicXML ファイル 67

演奏技法 802

オッサ譜表 930

囲み線 529, 815

楽曲フレーム 352

## 余白 (続き)

休符 (「余白を埋める休符」を参照)

強弱記号 627  
 小節番号 529  
 タレット 358  
 テキスト 341, 381  
 フレーム 341, 345  
 フロー見出し 318, 350  
 ページ 345, 346  
 変更 346  
 リハーサルマーク 815

## 余白休符 615

キュー 615  
 非表示 615

## 余白を埋める休符 869

スラッシュ領域 863  
 非表示 863

## 余分な譜表

非表示 355  
 表示 355

## 読み込み

MIDI ファイル 70, 71, 1046  
 MusicXML ファイル 67, 839, 1046  
 エクスプレッションマップ 463  
 打楽器キット 1030  
 テンポトラック 74, 75  
 パーカッションマップ 468  
 ビデオファイル 130  
 フロー 63, 64  
 無音程打楽器 1046

## 1/4 音 498, 682

移調 175  
 オクターブの分割 684  
 調号 688  
 臨時記号 498, 684

## ら

## ライン

アルペジオ記号 751  
 オクターブ線 593  
 描く 427  
 囲み線 529, 815  
 歌詞 697, 708  
 歌詞の延長 705, 706  
 加線 731  
 組段の分割記号 (「組段の分割記号」を参照)  
 グリッサンド 760, 761, 764  
 弦のシフト指示 658  
 再生 435  
 ジャズアーティキュレーション 766, 770  
 小節線 515  
 スラー 900  
 装飾音符のスラッシュ 667  
 タイ 987, 988  
 第2連桁 554  
 段階的テンポ変更 974  
 テンポ記号 426, 973  
 トリル 741, 742  
 波線 741, 751  
 フィンガリング 658  
 譜表 916, 922  
 分割の矢印 946

## ライン (続き)

ペダル 779  
 リpeatマーカーのテキスト 844

## ライン番号 708

変更 709, 710

## ラベル

インストゥルメント 100, 905, 906, 912  
 オシニア譜表 933  
 キュー 609, 610  
 打楽器キット 914, 1034  
 ディヴィジ 947, 949, 950  
 譜表 905, 950  
 マーカー 822

## 欄外見出し 663

非表示 351  
 フロー見出し 351

## り

## リードシート

組段の小節線 518

## リスト

プレーヤー 335, 662

## リズムフィールド

ガイド 284, 444, 445  
 デフォルト設定 443  
 変更 444  
 変更の削除 445  
 ポップオーバー 200

## 「リズムフィールド」ダイアログ 446

## リズム

再クオンタイズ 182  
 ロック 178

## リズム記号 859

## リズムグリッド 41, 148

値 148  
 楽譜の選択 279  
 間隔 41  
 キーボードショートカット 51, 55  
 変更 148

## リズムセクション

コード記号 584  
 大括弧 564  
 譜表のグループ化 564

## リズムによるキュー 603

位置 604  
 移動 604  
 キューを変換 603  
 譜表上の位置 604

## リセット

アイテム 283, 284  
 位置 284  
 エクスプレッションマップ 457  
 オクターブ線の角度 596  
 音符のスペーシング 391, 392, 395  
 外観 283  
 角括弧 569  
 キーボードショートカット 56  
 コード記号 579  
 再生テンプレート 442  
 小節線 569  
 小節番号 537  
 第2連桁 555

- リセット (続き)
  - 中括弧 569
  - テキスト 377
  - テンポ 961
  - パーカッションマップ 465
  - パートレイアウト 128
  - フィンガリング 649
  - 譜表のグループ化 569
  - 譜表のスペーシング 401
  - ページ番号 316
  - ボリューム 439
  - レイアウト 128
  - 連桁 546, 547, 550, 555
- リップ 766
  - 入力 234, 240
- リディアンコード記号 218, 585
- リテイク (「ペダルのリテイク」を参照)
- リデュース 289
- リハーサルマーク 813
  - 位置 813, 817
  - 移動 817, 818
  - 囲み線 814, 815
  - キュー 272
  - サイズ 821
  - 削除 818
  - シーケンス 819
  - 順番 819
  - 浄書オプション 814
  - 垂直位置 935
  - 先頭 820
  - タイプ 819
  - デフォルト設定 814
  - 入力 251
  - フィルター 280
  - フォントスタイル 821
  - 複数の位置 817, 935, 936
  - 譜表に対する位置 813
  - 末尾 820
  - 余白の値 815
- リバーブチャンネル 449
  - ミキサー 448
- リピート
  - カウント 852
  - カウントの移動 856
  - 括弧 (「リピート括弧」を参照)
  - グループ化 857
  - 再生 847
  - 浄書オプション 850
  - 小節 849
  - 小節線 (「リピート小節線」を参照)
  - 長さ 282, 850
  - 頻度 854
  - フォントスタイル 855
  - マーカー (「リピートマーカー」を参照)
- リピート回数 832
  - MIDI 録音 182
  - 小節番号 539-541
  - 総数 832
  - 分割 833
  - 変更 848
  - リピート 847
  - リピート括弧 833
  - リピート小節線 848
- リピート括弧 832
  - MIDI 録音 182
  - MusicXML ファイル 839
  - 位置 833, 835
  - 移動 835, 836
  - 外観 833, 837
  - 書き出し 440
  - 最終セグメント 837
  - 再生 440
  - 削除 286
  - 浄書オプション 833
  - 浄書モード 837
  - 小節番号 539-541
  - 垂直位置 935
  - セグメント 832, 835
  - タイプ 256
  - 追加の括弧 260, 261
  - テキスト 837
  - デフォルト設定 833
  - 長さ 834, 836
  - 入力 256, 258-261
  - 配置 835
  - パネル 258, 261
  - ハンドル 834, 836, 837
  - 複数の位置 835, 935, 936
  - フック 838
  - ポップオーバー 256, 259, 260
  - リピート回数 832, 833
- リピート小節線 515
  - MIDI 録音 182
  - 演奏回数 848
  - 外観 517
  - 書き出し 440
  - 組段の開始位置 517
  - 再生 440
  - 入力 206, 209
  - ポップオーバー 206, 209
  - リピート回数 848
- リピートセクション (「リピートマーカー」を参照)
- リピートの 2 回め以降
  - 小節番号 539, 541
- リピートのポップオーバー 256
- リピートマーカー 840
  - MIDI 録音 182
  - 位置 841, 845
  - 移動 845, 846
  - インデックス 842
  - 演奏回数 848
  - 大文字 841
  - 外観 841
  - 書き出し 440
  - 小文字 841
  - サイズ 841, 842
  - 再生 440, 847
  - 削除 286
  - 順番 842
  - 浄書オプション 841
  - 小節線 517, 844
  - 小節番号 539-541
  - 垂直位置 935
  - タイプ 257
  - テキスト 843
  - デフォルト設定 841



- リピートマーカー (続き)
    - 入力 257, 258, 262, 263
    - パネル 258, 263
    - パラグラフスタイル 841
    - フォント 841
    - 複数 842
    - 複数の位置 845, 935, 936
    - 譜表に対する位置 846
    - 変更 282
    - ポップオーバー 257, 262
    - ライン 844
    - ワードラップ 844
  - リフト
    - ジャズアーティキュレーション 234, 240, 766
  - リムショット 798
    - 入力 245
  - 領域
    - 印刷プレビュー 38
    - カウント 865
    - 楽譜 37
    - 再生モード (「カラー領域」を参照)
    - 浄書オプション 850
    - 小節リピート記号 849
    - スラッシュ 859, 863
    - プロジェクト開始領域 36
    - 編集 110, 1034
  - 両端揃え (垂直方向)
    - 組段 353, 395, 397
    - 譜表 353, 395, 397
  - 両端揃え
    - 組段 353, 394, 395, 397
    - 垂直 353, 395, 397
    - 譜表 353, 395, 397, 926
  - 両面印刷 477, 487
    - 冊子印刷 486
  - リンク
    - VST/MIDI へのパーカッションマップのリンク 455
    - 楽曲をフレームに 332
    - 強弱記号 282, 640-642
    - 強弱記号のグループ 638
    - スラー 282, 887, 888
    - フロータイトル 122
    - フロー名 122
  - リンクの解除
    - 楽曲フレーム 332
    - 強弱記号 642
    - スラー 888
  - 臨時記号 494
    - MIDI 入力 167
    - 位置 496
    - 異名同音 166
    - 打ち消し 500, 501
    - オクターブの分割 681
    - オルタードユニゾン (「オルタードユニゾン」を参照)
    - カーニング 497
    - 外観 495
    - ガイド 284
    - 書き換え 166, 168
    - カスタム 684, 685
    - カスタムの調性システム 684
    - 加線 496
    - 括弧 495, 501
    - 区切りをまたぐタイ 495, 979
  - 臨時記号 (続き)
    - コード記号 571, 585
    - 再表示 502
    - 削除 494
    - 順番 496
    - 浄書オプション 496
    - 衝突回避 496
    - 親切 501
    - スタックの順番 496
    - スペーシング 497
    - スラー 902
    - 装飾音 736, 747
    - 調号 678, 695
    - 調性システム 682
    - デフォルト設定 496
    - トリル 743, 744, 746, 747
    - 入力 165, 499
    - パネル 138, 193
    - 非表示 495, 501, 744
    - 微分音 498, 499
    - 表示 495, 501, 744
    - フィルター 280
    - 変更 167
    - ホルンの支管の指示記号 653
    - 有効範囲ルール (「臨時記号の有効範囲ルール」を参照)
    - 和音 496
  - 臨時記号の構成要素 685
    - アタッチメントポイント 685
  - 臨時記号の表記 167
    - 書き換えの無効化 145, 168
    - 変更 166
  - 臨時記号の有効範囲ルール 499
    - 一般的な慣習 501
    - 新ウィーン楽派 502
    - 変更 500
    - モダニスト 502
  - 「臨時記号を編集」ダイアログ 685
- ## る
- ルート
    - コード記号 216, 221, 571, 581
  - ルーラー
    - 再生モード 411
    - リズムグリッド 148
- ## れ
- レイアウト 30, 96, 123
    - MusicXML ファイル 68
    - 移調 106, 123, 126, 127
    - 異名同音の表記 166
    - 印刷 477, 485, 488
    - 印刷モードのパネル 474
    - インデント 937, 938
    - オッサアの譜表ラベル 933
    - オッサア譜表の非表示 931
    - 音部記号 591
    - 音符のスペーシング 385, 387
    - カード 89
    - 書き出し 480, 485
    - 数 (「レイアウト番号」を参照)

## レイアウト (続き)

楽曲フレーム 328, 329  
キーボード 53, 56  
切り替え 45  
空白の譜表 355  
空白ページ 313  
組段オブジェクト 936, 937  
組段の形式設定 364  
組段のスペーシング 395, 397  
組段の分割記号 934  
組段の両端揃え 353  
グラフィックファイル 480, 489  
形式設定のコピー 364–366  
コード記号 584  
削除 128  
作成 22, 124  
実音 127  
縮尺サイズ 488  
順番 127  
小節番号 532, 541  
設定 93  
設定モードのパネル 89, 123  
選択 34  
ソート 127  
大括弧 566  
タイムコード 829, 831  
打楽器キットの表示 1035  
タブ 36, 45  
中括弧 566  
長休止符 875  
ディヴィジの譜表ラベル 948, 950  
名前を付ける 126  
パート 123  
配置設定 359  
番号の付け直し 127  
比較 47  
ビュータイプ 42  
拍子記号 998, 1007  
開く 18, 36, 45  
ファイル名 482  
復元 128  
複数のウィンドウ 19, 48  
複数開く 45, 47  
部数 477  
譜表サイズ 918  
譜表のグループ化 566  
譜表のスペーシング 395, 397  
譜表ラベル 909, 948  
フルスコア 123  
フレーム 328  
フレームチェーン 330, 333, 334  
フレームのコピー 328  
フレームの順番 333  
プレーヤー 96, 124, 334  
プレーヤーの削除 124  
プレーヤーの追加 124  
プレーヤーリスト 662  
フロー 96, 125, 333, 348  
フローの削除 125  
フローの追加 125  
フロー見出し 321, 351  
プロパティのコピー 367  
ページサイズ 488

## レイアウト (続き)

ページの削除 313  
ページの追加 313  
ページの優先の解除 312  
ページ範囲 477, 485  
ページ番号 773  
ヘッダー 663  
編集 311  
マーカー 823, 826  
マスターページ 304, 309, 317  
マスターページのセット 305, 306  
向き 346, 488  
用紙サイズ 488  
用紙サイズに合わせる 488  
余白 346, 352  
欄外見出し 351, 663  
リピート回数 541  
リピートマーカーのテキスト 844  
両端揃え 353, 395, 397  
両端揃え (垂直方向) 353  
臨時記号 166  
レイアウトオプション 28, 93  
小節番号 525  
ダイアログ 93  
デフォルトとして保存 93  
別のレイアウトへコピー 364, 366  
変更 95  
「レイアウトオプション」ダイアログ 93  
レイアウトカード 89  
展開矢印マーク 40  
レイアウトセクター 34  
レイアウトの切り替え 45  
レイアウトの順番 127  
「レイアウト」パネル 39  
設定モード 84  
レイアウトパネル  
印刷モード 473, 474  
設定モード 89  
非表示 89  
表示 89  
レイアウト番号 89  
順番 127  
番号の付け直し 127  
レイアウトフレームチェーン 330  
レイアウト名 99  
テキストトークン 335  
変更 103  
レイテンシー  
MIDI 録音 179, 183  
値の変更 184  
レート  
フレーム 133  
レーン  
演奏技法 421, 422  
オートメーション 422, 423  
レジェンド  
打楽器 1040, 1043  
レセヴィブレタイ 980, 981  
レター用紙サイズ 488  
列  
強弱記号 625  
声部 1048, 1051  
臨時記号 496

## レベル

チャンネル 448

## 連結線

強弱記号 638  
中間休止記号 231

## 連桁 543, 545, 557

扇形 557, 558  
大きなピッチ差 669  
音符 543  
記譜オプション 545  
グループ化 543, 545, 559  
傾斜 547, 548, 669  
ステムレット (「ステムレット」を参照)  
スペーシング 552  
装飾音符 669  
タイ 169  
第1連桁 554  
第2連桁 554, 555  
中央配置の連桁 549, 550  
でっぱり 554  
デフォルト設定 545  
反転 547  
ハンドル 548  
非表示 958  
拍子 560  
拍子記号 545, 560  
不完全 544  
複数の譜表 552  
符尾の方向 547, 552  
譜表間のオブティカルスペーシング 552  
譜表に対する位置 547  
譜表をまたぐ 550, 552  
分割 143, 546  
方向 544, 548, 558  
リセット 546, 547, 550  
臨時記号 502  
臨時記号の再表示 502  
連桁の解除 544  
連符 555

## 連桁グループ 545

記譜オプション 545  
作成 543  
弱起 (アウフタクト) 995  
デフォルト設定 143, 545  
符尾の方向 954  
リセット 546

## 連桁線

数 554

## 連桁の傾斜 547

装飾音符 669  
変更 548

## 連桁のでっぱり 554

## 連符 1016

アーティキュレーション 506, 1018  
アンスケール 1019  
位置 600, 1016, 1017  
移動 1019, 1021, 1026  
入れ子状の連符 1017  
音符 1018  
音符の変換 1018  
外観 1017, 1022, 1025  
ガイド 284  
角括弧 (「連符の括弧」を参照)

## 連符 (続き)

数 1025, 1026  
記号 382  
クオンタイズ 72  
形式設定 382, 1025  
削除 1019, 1020  
終了位置 1024  
浄書オプション 1017  
水平括弧 1024  
スウィング再生 442, 443  
スラー 1018  
タイプ 173, 1016  
打楽器キット 1033  
タッキングインデックス 600  
デフォルト設定 1017  
トレモロ 1008  
入力 172, 1017, 1018  
拍の単位 173  
反転 1023  
ハンドル 1021, 1023  
非表示 1025  
表示 1025  
標準の音符に変換 1019  
比率 1025, 1026  
フィルター 280  
フック 1021  
譜表に対する位置 1023  
ポップオーバー 172, 173  
臨時記号 1018  
連桁 555, 1020  
連符のアンスケール 1019  
連符の角括弧  
移動 1021  
角度 1023  
長さ 1021  
ハンドル 1021, 1023  
フック 1021  
連符の数 1025  
外観 1027  
フォント 1027  
連符の括弧 1021  
位置 1016  
終了位置 1024  
水平 1024  
連符の数字 1025  
外観 1025  
水平位置 1026  
非表示 1025  
連符の大括弧  
非表示 1022  
表示 1022  
連符の比率 (「連符の数」を参照)

## ろ

## ローマ数字

トークン 337  
フィンガリング 657  
譜表ラベル 909  
フロー番号 337  
ページ番号 315, 775

## 録音

- MIDI [179](#), [180](#), [183](#), [439](#), [450](#)
- カウントイン [183](#)
- クリック設定 [182](#)
- テンポ [439](#)
- ピッチの入力 [152](#)
- 非録音時の MIDI 入力データを記録 [181](#), [450](#)

ロクリアンコード記号 [218](#), [585](#)

## ロック

- 組段 [295](#)
- デュレーション (「デュレーションをロック」を参照)
- フレーム [295](#)

## ロマンチック

- トリル [748](#)

## わ

ワークスペース [28](#)

- オプション [33](#), [34](#)
- 環境設定 [50](#)
- キーボードショートカット [11](#), [55](#)
- 設定 [44](#)

ワイルドカード [335](#)

## 和音

- アルペジオ記号 [754](#)
- 音域の選択 [155](#)
- キャレット [26](#), [149](#), [152](#), [171](#)
- 試聴 [281](#)
- 衝突回避 [496](#)
- タイ [989](#)
- 入力 [26](#), [136](#), [171](#)
- 符尾の方向 [954](#)
- 密集 [496](#)
- 臨時記号 [496](#)
- 臨時記号のスタック [496](#)

和音なしの記号 [218](#)

## 和音の入力

- アルペジオ記号 [236](#)
- 音域の選択 [155](#)
- キャレット [149](#)
- 有効化 [136](#), [171](#)

## 枠線

- 枠線 [490](#)
- テキスト [340](#), [380](#)
- 太さ [341](#), [380](#)
- 余白 [381](#)

## 割り当て

- MIDI コマンド [55](#)
- エンドポイントへのインストゥルメントの割り当て [454](#)
- エンドポイントへのエクスペリションマップの割り当て [455](#)
- エンドポイントへのパーカッションマップの割り当て [455](#)
- キーボードショートカット [55](#)
- フローにプレーヤーを [96](#), [121](#)
- レイアウトにプレーヤーを [96](#), [124](#)
- レイアウトにフローを [96](#), [125](#)